

沖縄語辞典

著者	国立国語研究所
ページ	1-854
発行年	2001-03-30
シリーズ	国立国語研究所資料集 ; 5
URL	http://doi.org/10.15084/00002266

国立国語研究所資料集 5

沖繩語辞典

財務省印刷局

第9刷の刊行に当たって

この『沖縄語辞典』は昭和38年3月に初版が刊行されている。これは、島袋盛敏氏が収集された首里地方の方言資料を基盤とし、国立国語研究所の地方言語研究室をはじめとする多くの人々が、10年に及ぶ歳月をかけて完成させたものであり、方言使用者の記述と研究者の科学的考察がうまく連携した学術的価値の高い辞典である。

初版の刊行後は、方言研究の資料として、また沖縄方言の数少ない辞典として、高い評価を得て、何度か版を重ねてきた。3年前には、沖縄県の人々や方言研究者などからの要望に応じて第8刷を刊行したが、それも短期間で完売となり、さらなる増刷を求める声が続いている。この辞典をロングセラーとして支えてくださっている各方面の方々に厚く御礼申し上げるところである。

一方、初版発行から時間の経った書物、特に辞典類にあっては、刊行当初には意識されなかった語が、種々の観点から後に、場合によってはその使用が好ましくないとみなされることがある。今回、要望に応じて増刷を行うに当たって慎重に検討した結果、無用な誤解を避けるために、沖縄方言へ接近するための「索引篇（標準語引き）」については、そのうちの一部の語を削除することとした。

なお、「本文篇（沖縄首里方言辞典）」は当時の方言とその使用意識を反映した研究資料の中核であり、この学術的・歴史的資料としての価値を尊重し、現在の価値観から手を加えることはせず、そのまま掲載することにした。そのことが、近年はげしい変化の渦中にある沖縄語の研究資料として欠くことのできない条件だと考えたからである。

今後も、この『沖縄語辞典』を学術的資料として御利用いただければ幸いです。

平成13年3月

国立国語研究所長 甲斐睦朗

刊行のことば

この辞典は、沖縄の首里地方の語を集めたものである。沖縄のことばは、いうまでもなく、日本語に属するものであって、日本語の一方言と見るべきものである。沖縄のことばについては、すでに各種の研究があり、語を集めたものとしては、八重山地方に関する八重山語彙（宮良当壮氏）などすぐれたものがある。本辞典で取り上げた首里地方のことばは、沖縄ことばの標準と仰がれて来た言語であるばかりでなく、文献として残っている沖縄ことばと深い繋がりを持つものである。

国立国語研究所がこの「沖縄語辞典」の編集を計画したのは、研究所創設当初であった。その当時、研究所には、外部の人に調査研究を委託する委託研究費があり、評議員の柳田國男氏から、島袋盛敏氏の首里語研究を推薦された。こうして、島袋氏の手によって辞典の稿本が作られたが、研究所では、さらに地方言語研究室でこれを言語学的に検討することとし、全面的に書き改めて、解説・索引等を加えた。

本辞典は、実際に首里語を使用した人が内省によって記述したものを基とし、それに研究者が客観的な学問的考察を加えたものである。使用者と研究者との協力によって作られた辞典というところに大きな特色があると思う。

なお、この研究を行なう間に、首里出身者として、島袋盛敏氏のほかに、その夫人、ならびに比嘉春潮氏などに協力していただいた。また、当研究所の評議員の東大教授服部四郎博士に、言語学上の指導を仰いだ。ここに心からのお礼を申し述べたい。ただ、この辞典が成立するも

とを開かれた柳田国男氏の生前にこの辞典を完成できなかったことは、
まことに心残りである。

本書の編集に関して、この十年、絶えず尽力して来たのは第一研究部
の方言言語研究室であり、中でも上村幸雄が主たる担当者として力を傾
けたことを記しておく。

昭和38年3月

国立国語研究所長 岩淵悦太郎

目 次

刊行のことば

編集経過の概要	1 ~ 7
解 説 篇	9 ~ 86
本 文 篇 (沖繩首里方言辞典).....	87 ~ 607
索 引 篇 (標準語引き).....	609 ~ 816
付 録 (地名一覧など)	817 ~ 854

編集経過の概要

この辞典は、初め島袋盛敏氏が収集した資料をもとにしている。

本書の標題で沖縄語と呼んだものは、琉球方言の中心的位置にある首里方言（琉球方言の中の沖縄南部方言に属する）をさす。

1 島袋盛敏氏の資料収集と研究

島袋盛敏氏は、首里出身の琉球研究家で、特に琉球文学、琉球芸能の研究が専門である。氏は1890年に首里の西之平等久場川に生まれ、幼少年時代を同じく首里の南風之平等当蔵で過ごし、青年時代の初めは、同じく南風之平等大中で過ごした。両親とも首里出身の生粋の首里人である。首里の沖縄師範学校を卒業後、沖縄本島の国頭、中頭、那覇などで小学校教員を勤め、中等教員の資格を取得したのち1931年東京に居を移し、成城学園女学校で漢文を教えるかわら、郷土琉球の文学・芸能を研究した。1952年に成城学園を退職したのちは、琉球文学、琉球芸能の研究に専念し、現在なお、横浜で研究を続けている。著書には「遺老説伝」(1935)、「琉球の民謡と舞踊」(琉球芸能全集の1, 1956)その他がある。

氏は、故柳田国男、故伊波普猷、また、琉球史家の比嘉春潮氏らの勧めもあって、自身の言語である首里方言の辞典を編集することを思い立ち、たまたま1947年に文部省の科学研究費(共同研究題目「日本民族に近接せる諸民族の言語及び文化等の研究」、代表者島村孝三郎、島袋氏担当題目「琉球首里語」)を受けたのを機に、その仕事にとりかかった。

首里方言は琉球方言の標準語ともいえる位置にあった方言で、国語学・方言学その他の観点から見てきわめて価値のある方言であるが、その本格的な辞典というものはいまだにまったくなかった。氏は自身の語彙をはじめ、夫人とし氏(1892年生まれ、首里出身)の語彙、当時まだ健在であった夫人の母堂国頭ツル氏(1863年～1947年)そのほかの人びとの語彙を収集した。首里方言は、廃藩による身分制の撤廃、普通教育による標準語の普及、近隣の那覇市の発展、第二次大戦による戦禍などの著しい社会変動のため、明治の中ごろまでの比較的純粋な形は今日ではほとん

ど聞くことができないと言われる。したがって、もし島袋氏の仕事がなかったならば、明治以降の大きな変動を受ける以前の首里方言の語彙のかかなりの部分がおそらく永久に記録されないまま失われたであろう。また、氏が当時の教養ある階級である首里の士族の家庭に生まれ、育ったこと、氏の育った家庭が廃藩当時の社会改革に際して首里王府を支持する保守派に属したため、氏が進歩派士族や平民の場合よりもいっそう首里の旧来の習俗に親しみつつ育ったこと、氏が1931年以後東京に移り住んだためにかえて近年の首里方言の変化をこらむらずにすんだこと、両親、夫人とも首里出身であったことなどは、氏の首里方言の純粋さを保つ上で有利であったといえよう。

たまたま国立国語研究所が1948年に創設された際、評議員の柳田国男が研究所の委託研究の対象として島袋氏の研究を推薦し、研究所は、昭和23年度・24年度の両年度にわたって島袋盛敏氏に研究を委託した。島袋氏は、昭和25年度には研究所に非常勤職員として勤務して、昭和26年(1951年)3月に見出し語1万2千以上、原稿用紙(400字)で1856枚に及ぶ稿本を完成した。

2 国立国語研究所が行なった研究と作業

国立国語研究所地方言語研究室は昭和28年度(1953年)にこの稿本に国語学上の検討と補正を加え始め、以後、昭和37年(1962年)秋までに、氏の稿本を新しく出版のための原稿の形に書き改めるとともに、およそ次の研究と作業を行なった。

(1) 首里方言の音声・アクセントの観察と、表記の音韻表記化、配列順の変更

島袋氏の稿本の首里方言は、氏自身が工夫した片仮名式表記法(48~49ページおよび93~98ページ参照)によって書かれ、また、アクセントは記入されていなかった。そこで、表記を音韻表記に改め、かつ見出し語にアクセントを記入するために、首里方言の音声とアクセントの観察と、その音韻表記確立のための研究とを行なった。この観察と研究は、当時国立国語研究所評議員であった服部四郎東大教授の指導と協力を得て行なった。被調査者は、主として島袋氏および比嘉春潮氏であったが、そのほか東京に在住の故伊江朝助(1881年生まれ、旧貴族。もと貴族院議員)、譜久山朝憲(1932年生まれ、旧貴族)、仲田秋一(1931年生まれ、旧士族)の三氏の発音も観察した。三氏とも両親・本人とも首里生まれ、首里育ちであり、あとの二氏の発音の観察は、若い世代の発音を知るために行なっ

たものである。

比嘉春潮氏は1883年首里士族の家庭に生まれた。両親とも首里出身であるが、尊父(首里の真和志之平等山川生まれ)が首里近郊の西原で役職にあったために、自身は17歳まで西原で育った。1906年に首里の沖縄師範学校を卒業してから、那覇その他で小学校教員、校長などを勤め、1933年以後は東京で出版業その他に従事するかたわら、琉球の歴史の研究に没頭した。1961年4月以来ハワイ大学東西センターに客員教授として招かれ、現在(1962年)もホノルルで研究中である。著書「沖縄の歴史」(1959)のほか、論文多数がある。

氏からは、音声・アクセントの観察ばかりでなく、島袋氏の健康上の理由により、以下述べる(2)、(3)、(5)、(6)の仕事についても被調査者として協力をいただいた。氏は氏自身の研究の時間をさいて被調査者としてたびたび国立国語研究所や東大言語学研究室に出向き、また数十回に及ぶ国立国語研究所員の訪問を受けた。氏が西原で育った点で、首里方言の被調査者としての条件は完全といにくいのが、氏の首里方言は、島袋氏のそれときわめて多くの点で一致するものであった。また、島袋氏は夫人の母堂その他女性の語彙も収集したため、島袋氏の稿本には女性の使っていた語がよく集められているが、これに対し比嘉氏は、島袋氏より7歳年長でもあり、また尊父と暮らした期間が長かったためか、士族男性の使う語をよく記憶されていた点でも好都合であった。いつも客観的な態度で自身の言語を内省し、主観的な解釈をまじえた報告をしない点で、氏はわれわれにとって首里方言のこの上ない被調査者であった。

以上の調査に基づいて、島袋氏の稿本の見出し語と例文のすべてを音韻表記に改め、また、見出し語のすべてにアクセント記号を付した。そしてその結果をいちいちの見出し語について一部は島袋氏について、他は比嘉氏について誤りがなにかどうか確かめた。

また、島袋氏の稿本では、見出し語が片仮名表記によって五十音順に配列されていたが、書き改めた原稿では、ローマ字による音韻表記としたので、当然見出し語はアルファベット順の配列となった。

(2) 意味の説明の精密化と用例の補充、動詞の活用の種類の記入

島袋氏の稿本には、首里の習俗・芸能などに関する説明が豊富に入れられていたが、一方説明が簡単に過ぎる項目や、記述が意味の説明なのか、対応語なのか、

または首里方言の漢字表記なのかがはっきりしない項目もかなり見いだされた。これらについては、はじめ島袋氏に、のちに比嘉氏に一つ一つ尋ねて疑問を解き、説明を書き改めた。また、これらについてはできるだけ用例を加えて、その語の用法がわかるようにした。一方、見出し語の意味や用法に関係のない長い説明は、縮めたり、割愛したり、他の適当な見出し語のところに移したりした。

このような疑問項目の処理や用例の補充のために、島袋氏および比嘉氏と会見を重ねることが数十回(おそらく百回以上)に及んだが、その時間のうちに質問して処理し得た項目の数は限られたものであり、全見出し語に及ぶことはできなかった。したがって、不本意ながら、すべての見出し語に用例を付けることはできなかったし、また、意味の説明も、単に標準語の類義語・同義語を、もとの稿本のままいくつかあげるとどまった項目が相当数残った。

また、島袋氏の稿本では、動詞の見出し語に活用の記入がなかったが、あらたに、比嘉氏についてすべての動詞の見出し語についてその活用の種類を調査し、これを見出し語ごとに記入した。

(3) 見出し語の整理と補充

まず、見出し語としてあげるものの規準を一定にした。すなわち、島袋氏の稿本で、同一と思われる語で語義の異なるごとに別の見出し語となっていたもの、熟語(イディオム)を作るごとに別の見出し語となっていたものは、それぞれ一つの見出し語にまとめた。一方、複合語で、見出し語としてあげてないが用例としてあげてあるものは、あらたに見出し語として出した。また、少数の複合語の成分として用いられるが単語ではないものが単語として見出し語となっていた場合は、見出し語から除き、その複合語を見出し語とした。また、多くの複合語に含まれている接頭辞や接尾辞などで見出し語にないものは、(接頭)、(接尾)などの注記を付けて見出し語に出した。そして島袋氏の稿本にあった見出し語が単語(複合語を含む)であるか、接頭的な、または接尾的な成分であるか、あるいは二単語以上からなるイディオムであるかを調べ、その区別を明らかにした。

つぎに、島袋氏の稿本では、一部の見出し語を除き、組踊り・琉歌などに用いられる文語、日常用いられる口語、明治以降の新語、ほとんど用いられなくなった古語などの区別に関する注記がなかったが、できるかぎりこのような注記を施すようにした。

また、(2)に述べた疑問項目の処理などの調査を比嘉氏について行なった過程で、鳥袋氏の稿本に収録されていない単語をかなり見いだしたので、それらも必要と思われるものは見出し語に加えることとした。その結果、見出し語の数は2～3千程度増加したものと思われる。どのようなものを見出し語として加えたかは大体次の規準による。

- (i) 鳥袋氏、比嘉氏の幼年時代から青年時代にかけて首里で使われていたと思われる単語はできるだけ収録する。当時、一部の老人しか使わないなど、まれにしか聞かれなくなっていたと思われる単語も、鳥袋氏または比嘉氏の記憶にあるものは収録する。
- (ii) 口語では用いられないが、組踊り・琉歌などで用いられ、当時の人々が知っていたと思われる単語は、鳥袋氏の稿本にもすでに相当数含まれているので、例文の中などで用いられているものは収録する。
- (iii) 明治以降、現代までに標準語からの借用によって生じたことが明らかな新語は、収録すると際限がないし、鳥袋氏の稿本にもないので、収録しない。標準語の大部分の単語は、新語としてなら首里方言の会話の中に混入させて使うことができるからである。ただし、明治または大正時代に一時的に新造され、あるいは借用された新語で、その後は用いられなくなった単語は、文化的にも興味があるので、収録する。たとえば、cincoo^①(県庁)とか、鳥袋氏の稿本にもあった ?agihwiigurumaa^①(陸の火車の意。おか蒸気。汽車のこと)、kaagaaudui^①(影踊りの意。映画のこと)などのような語は収録するが、これに対し、kincoo(県庁)、kisja(汽車)、'eiga(映画)などのような語は収録しない。

また、明治以降標準語から借用された新語であるか、在来から首里方言で用いられていた語であるかが、鳥袋氏、比嘉氏の記憶によっても不確かなものは、収録する。

- (iv) 地名は鳥袋氏の稿本にほとんどなかったが、付録の地名要覧を参照するという形式で、その主要なものを本文にも首里方言の発音に従って収録する。
- (4) 標準語引き索引の作成

辞典(本文篇)の利用価値を大きくするために、標準語引きによる索引(索引篇)を作成した。索引は五十音順による小項目式にした。大項目式や意味分類式で

は、索引にまた索引をつける必要があり、また本文の原稿からそれを作るのには困難が伴ったからである。

(5) 解説篇の執筆

琉球方言の概観、首里方言の輪郭、首里方言の音韻と表記法、首里方言の文法について、解説を新たに作って解説篇とし、本文編利用のための参考に供した。ただし、文法については当初もっと全般的な解説にする予定であったが、そのための詳しい調査をする時間がなかったため、活用する語(動詞・形容詞・連詞)についての解説にとどめた。また、いわゆる「助詞」については、当初、見出し語から除いて、ほかに用例集を付ける予定で調査をあとに延ばしていたが、それを果たさなかったため、簡単な説明のみで本文編の中で扱う結果となった。

(6) 地名一覧(付録)の作成

琉球列島の地名は漢字で書かれると読みにくいものが非常に多く、また最近では標準語式の読みかたに変わりつつあって、元来の発音が失なわれつつある。そこで、沖縄本島の地名を中心とし、他の島々、本土、外国までも含めた、首里方言による地名一覧を作成し、付録とした。そして、首里方言の発音(比嘉氏による)と漢字の標準語読みとの両方から検索できるようにし、ほかに地図数枚を作成して添えた。

なお、以上の研究と作業のうち、(2)と(3)については、国立国語研究所年報8(昭和31年度)にも述べた。そこには島袋氏の稿本と書き改めた原稿とを対比した例を示してある(ただし、そこにあげた書き改めた原稿の例の中には、その後さらに修正した箇所がある)。

3 協力者と担当者

(1) 島袋盛敏

前述のとおり本文篇に当たるもとの資料を集め、国立国語研究所の委託研究(昭和23・24年度)として、また、国立国語研究所の非常勤職員(1951年1月から3月まで)として、本文篇のもとの稿本を完成した。

以後、国立国語研究所の研究のうち、前述の(1)の大部分と、(2)と(3)の一部分について、研究所の求めに応じて被調査者となった。出版の運びになってからは、本文篇の校正刷りを通読して、研究所が行なった研究と作業の間に生じ

た記述の誤りを直し、比嘉氏について調べたことと島袋氏自身の言語と相違する点について指摘した。

(2) 比嘉春潮

島袋氏および国立国語研究所の求めに応じて、島袋氏の稿本を通読し、稿本に加筆を行ない、また、研究所に対し、加筆または修正すべき箇所について意見を述べた。また、国立国語研究所の求めに応じて、研究所の行なった前述の研究のうち、(1)の一部分、(2)、(3)、(5)の大部分、(6)の全部について被調査者となった。

(3) 他の首里出身者

故伊江朝助、譜久山朝憲、仲田秋一の三氏は国立国語研究所の 前述の研究の(1)の一小部分について、見里朝慶氏は(5)の調査の一小部分について、研究所の求めに応じて被調査者となった。

(4) 服部四郎

1953年春から数か月の間、東京大学文学部言語学研究室において島袋氏、比嘉氏の音声とアクセントの観察を行ない、首里方言の音素・アクセントの体系を明らかにして、研究所の行なった前述の(1)の研究を指導した。また、前述の(2)以下の仕事についても研究所に対し、方法上の助言を行なった。

(5) 国立国語研究所地方言語研究室の室員

前述の本文篇を原稿に書き改めること、および、(1)から(6)までの研究と作業は、第6研究室(のちの第一研究部地方言語研究室)が行なった。室員上村幸雄が担当したが、ほかに、次の者が主として次のように協力した。室長柴田武は音声とアクセントの観察を上村と共同で行なった。また、上村が書き改めた本文篇原稿の大部分と、解説篇の原稿とを通読し、上村に助言を行ない、また、索引篇の校正を行なった。室員徳川宗賢は本文篇の校正刷りと索引篇の校正刷りとを通読して上村に助言した。同室の研究補助員白沢宏枝は柴田、上村、徳川とともに校正を担当したほか、補助的な作業で上村を助けた。

解 説 篇

I 琉球方言概説……………11	7 文語の伝統的表記法……………50
1 名称と分布地域……………11	8 アクセント……………53
2 本土方言との関係……………11	IV 首里方言の文法……………58
3 琉球方言の下位区分……………14	1 動詞……………58
II 首里方言の輪郭……………18	(1) 動詞の活用……………58
付・例文……………22	(2) 動詞の形態論的構造
III 首里方言の音韻と表記法……………27	(その1)……………66
1 母音音素……………27	(3) 動詞の形態論的構造
2 半母音音素……………29	(その2)……………79
3 子音音素……………29	2 形容詞……………81
4 その他の音素……………44	(1) 形容詞の活用……………81
5 例外的な発音……………47	(2) 形容詞の形態論的構造……………82
6 モーラ(短音節)の種類……………47	3 連詞……………84

I 琉球方言概説

1 名称と分布地域

琉球方言¹⁾とは、奄美・沖縄・宮古・八重山の四群島に分布する諸方言の総称であり、琉球語、沖縄語、南島方言などとも呼ばれる。

その分布地域は、琉球と薩摩の間で行なわれた慶長戦争(1609)以前に琉球王朝が支配していた地域と一致する。奄美群島は慶長戦争以後、琉球王朝の支配を離れて、薩摩が直接支配するようになったが、現在の奄美群島の諸方言はやはり琉球方言に属する。奄美群島の北、土噶喇列島の方言については資料が乏しいが、語彙の断片的な資料²⁾から、九州方言に属するものと推定される。種子島、屋久島、口永良部島などの方言は明らかに九州方言に属する。

2 本土方言との関係

琉球方言は、話し手の数こそおよそ100万人に過ぎないが、北海道から九州までをおおる本土方言と対立し、話し手約9千万人の本土方言とともに日本語を二分する方言³⁾である。日本語が、方言学上まず本土方言と琉球方言の二つに分かれることは、今日ではすでに定説になったものといえる。両方言が祖語を同じくすることは、B. H. Chamberlain(1850～1935)、E. Polivanov(1884?～1937)、伊波普猷⁴⁾(1876～1947)などの先学、服部四郎博士その他の人々の研究によって証明済みであり、疑い余地がない。両方言の間には、音韻法則に支持された、整然たる単語の対応が見られる。

しかし、両方言の差異はきわめて大きく、琉球方言に属するどの方言も、本土のどの方言ともまったく通じないほどである。琉球方言の分布する最北端は奄美大島本島の北端であるが、その北の海には大きな言語の谷が走っていると言えるのである。

琉球方言固有の特徴といえるもの、つまり琉球方言のすべてに共通し、本土方言には見られない事実を列挙するのは、研究の現状からしてむずかしいが、つぎに、琉球方言の多くに共通し、本土方言にはないと思われるいくつかの事実を、音韻・文法・語彙のそれぞれについてあげてみよう。

まず音韻についてであるが、母音では、本土方言の短いeに対応する母音がi(琉球方言の大部分)、またはĩ(奄美大島本島、徳之島など)であること、本土方言の短いoに対応する母音がuであることがあげられる。子音の面では、先島(ただし与那国島を除く)以外の地域のほとんどの方言で喉頭化をめぐる音韻的対立(母音、半母音、鼻音に先立つ声門破裂音の有無による対立と破裂音・摩擦音における喉頭化無気、有気の対立)が見出されることがまず注目される。たとえば首里方言では、母音、半母音(j, w)、音節主音的鼻音(N)の前でʔ(声門破裂音)と'(声門破裂音のないこと)の音韻的対立があり、奄美大島本島の名瀬方言では、母音、半母音(j, w)、鼻音(m, n)の前で同じようにʔと'の音韻的対立があるほか、ɾ [t'] : t [tʰ], * [k'] : k [kʰ], ɽ [tʃ] ~ [tʃ] : c [ts] ~ [tʃ] という喉頭化無気音と有気音の対立がある。つぎに、かなり多くの方言で標準語の語頭ハ行の子音に対応する音が[p]または[Φ]であること、かなり多くの方言で標準語の語頭カ行の子音に対応する音が多数の語で[h]であり、そのことが[p]→[h]という音韻変化を妨げる要因として働いていることが注目される。

文法の面では、活用する語の「終止形」⁶⁾と「連体形」の区別、「已然形」と「仮定形(すなわち未然形)」⁷⁾との区別が保存されていること、mに終わる「終止形」が相当多くの方言に存在していること、またはその痕跡をとどめていることが注目される。終止形の、このmという語尾はいわゆる陳述的機能をもつ(または、もった)もののように、標準語文語の「助動詞」の「む」との関係が想定されるものである。本土諸方言にはこのような語尾をもつ「終止形」は見いだされない。

語彙の面では、日常的な基本語の中で、琉球各地の方言に見いだされ、かつその対応形がいまのところ本土方言に見当たらないものの代表的な例をあげれば、次のようなものがある。なお、例として出すのはすべて首里方言の形である。

tiida①[てだ](<*teda)太陽 kuuga①(<*koga)卵
 'wiki-(<*beke)男の('wikiga①[ゑけが]男。'wikii①[ゑけり]妹または姉から
 見た兄または弟) qkwa①(<*koraʔ子等ʔ)子 ʔwaa①豚
 gušiku①城

Morris Swadesh が言語年代学のために設けた基礎語彙表の200項によって首里・名瀬・鹿児島・東京の四方言間の一致率を調べると、次の表となる。⁹⁾

	東京方言	鹿児島方言	名瀬方言
首里方言	70.9	72.2	84.7
名瀬方言	71.0	72.2	
鹿児島方言	85.1		

この結果に基づくと、第一に名瀬と鹿児島とはいずれも東京と首里の中間に位置するものではないこと、つまり東京と鹿児島、首里と名瀬とがそれぞれ一群（すなわち本土方言と琉球方言と）をなすものであること、第二に名瀬と首里との差が東京と鹿児島との差に匹敵するほど大きく、したがって、あとで述べるように、琉球方言内部の差も本土方言内部の差に匹敵するほど大きいものであることがわかる。

両方言が、いつ、どこで、どのように分岐して別々の方言となったかは明らかでないが、分岐は少なくとも8世紀以前に起こったろうと判断される¹⁰⁾。その理由は、8世紀の奈良の日本語よりも古いと思われる特徴が現在の琉球方言の一部に保存されているからである。今日の宮古・八重山諸方言のbは本土方言のwに、また、与那国島方言のdは、本土方言のj（ヤ行の子音）にそれぞれ対応するが、このbとdとはそれぞれwとjよりも古い時代の音価を伝えているものと思われる。

bの例(八重山石垣市)

「わた(腸)」「bada」, 「ゑひ(酔)」「[bi:]」, 「ゐる(坐る)」「[biruN]」, 「を(芋)」「[bu:]」

dの例(与那国島祖納)

「や(屋)」「[da:]」, 「やむ(病む)」「[damuN]」, 「ゆ(湯)」「[du:]」, 「説む」「[dumuN]」

また、語頭のハ行の子音は、8世紀の奈良ではすでに両唇摩擦音[Φ]になっていたとされているが、喜界島の大部分、奄美大島本島北端の佐仁、与論島、沖縄本島北部の多く、宮古・八重山の多くなど、多くの琉球方言が語頭のハ行子音に両唇破裂音[p]を保存している。また、服部四郎博士によると、奄美大島本島の諸方言では、上代特殊仮名遣いにおけるオ列の甲乙二類に対応する区別が一部不完全ながら保持されている¹¹⁾。

こうして本土方言と琉球方言の分岐は8世紀以前だと判断されるが、かと言って分岐が紀元前数千年以前にさかのぼるとはまず考えられない。両方言を比較してみると、細部に至るまでよく似ており、本土に弥生式文化が広まるはるか以前に分岐した言語がこれほどよく似ているとは考えにくいのである。両方言の分岐はおそら

く紀元後あるいは紀元前の浅い世紀に起こったのであろう。¹³⁾しかし、両方言の分岐と成立の歴史の解明は、まだ、今後の研究にまつところが大きいことはいうまでもない。

琉球方言と本土方言とが日本語の相対する二大方言であることに変わりないが、現代の本土方言の中では九州方言がもっとも琉球方言に近いもののように見受けられる。琉球諸方言における諸種のアクセントの型の統合のしかたは、九州方言におけるそれとよく似ている。¹⁴⁾文法ではたとえば主格の助詞「が」(首里 -ga, 熊本 -ga)と「の」(首里 -nu, 熊本 -no)の使い分けかた、形容詞語幹に「さ」の付いた名詞の用法[感嘆文の文末に述語のようにして用いる用法や、「おとろしさを(こわがる, 熊本)」、?uturusja@ sjun@ (こわがる, 首里)などの、「する」とともに用いる用法]などがあげられる。語彙の類似は相当多数にのぼるものと思われるが、基本語の中では、たとえば唇または舌を意味する「ツバ」「スバ」(首里 şiba@), 耕地を意味する「ハル」(首里 haru@)などがあげられよう。

琉球方言と九州諸方言とのこのような類似が、両方言がそれぞれ琉球列島と九州とに定着して以後の、一方から他方への借用による類似によってのみ起こったとは考えられない。両方言の類似はもっと根の深いもののように見える。あるいは琉球方言と本土方言との分岐後、前者が少なくとも九州で用いられ、現在の九州諸方言の基層 (substratum) の形成にあずかったというようなことが考えられなくはない。

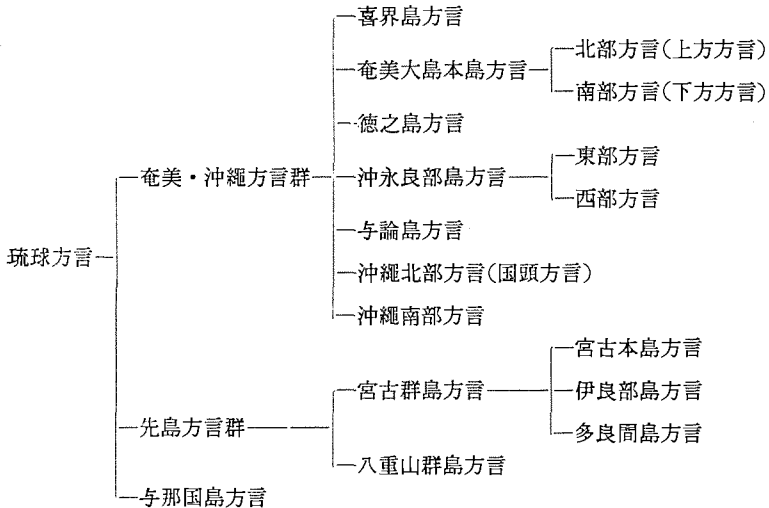
一方、琉球方言の基層の形成に日本語以外の何らかの言語、たとえば南方系の言語があずかったかどうかについても、本土方言の場合と同様に確実なことは何一つわかっていない。そのような基層が見いだされないだろうという保証もむろん無い。¹⁵⁾台湾のアミ語の tsidaɾ(太陽), sima(舌)などは琉球方言の tiida@¹⁶⁾(太陽), şiba@ (舌, 唇)とよく似ているが、これをまったくの偶然の結果であるとか、偶然の結果でないとか断言するまでには研究が進んでいないのである。

3 琉球方言の下位区分

琉球方言の下位方言相互の差異の大きいことも、また注目に価する。たとえば、奄美大島本島の名瀬方言、沖縄本島の首里方言、宮古島の平良方言、八重山群島与那国島の祖納方言の四者は、相互にまったく通じないほど相違している。大体、大きな島ごとにかなり大きな差異が見いだされるが、同じ島内でも、たとえば沖縄本島

北部と南部のようになりにかなり大きい差異が見られる場合がある。また、同じ島の中では部落ごとにさまざまな小さな差異が見られるのが通例である。交通の不便さと、それによる政治・経済などの発達の違いがこのような大きな差異を生み、保存させた原因であろう。琉球方言内部の差異の大きさは、本土方言内部のその大きさに比べてまさるとも劣るものではない。

琉球方言の下位区分に関しては定説がないが、最近の諸研究の結果を総合すると、¹⁷⁾ 次のようになるかと考えられる。



この分類は音韻上の観点(アクセントを含む)を主とし、それに文法・語彙の観点を加えて行なったものである。主要な点を述べれば、まず、奄美・沖縄方言群は、語頭のワ行の子音に **b** が対応しない点、および動詞の「終止形」が「連用形」と「居り」に対応する動詞との複合によって形成される点で先島方言群から区別される。与那国島方言は語頭のヤ行の子音に **d** が対応する点で他の方言から区別される。奄美・沖縄方言群の内部では、奄美大島本島方言と徳之島方言とが本土方言の短い母音 **e** に対応する **i** を有する点で他の方言からまず区別され、次に、残りの方言中、喜界島方言、沖永良部島方言、与論島方言、沖縄北部方言が、「木」「毛」「風」などの一群の語の語頭のカ行の子音に **h** が対応する(その条件不明)点、語頭のハ行の子音の唇音的性質 (**[p]** **[Φ]**) が比較的良好に保たれている点で沖縄南部方言からも区別され、

奄美大島本島方言および徳之島方言からも区別される。

沖縄北部方言と沖縄南部方言との境界は旧国頭郡(山原地方)と旧中頭郡との境界に等しいとされる。¹⁸⁾伊平屋・伊是名両島の方言と伊江島の方言とは北部方言に、久米島の方言は南部方言に属するものよりである。また、久高島の方言は方言の島をなしているという。¹⁹⁾

首里方言と那覇方言とはともに沖縄南部方言に属するが、アクセントを異にする。沖縄南部方言には首里系のアクセントを持つ方言と那覇系のアクセントを持つ方言とが見いだされる。

注

- 1) ある同系の言語(方言)を「……方言」と呼ぶかあるいは「……語」と呼ぶかについては言語学上のはっきりした規準はなく、むしろ民族上の問題である。この観点からすれば、現在の琉球諸方言を、その本土方言との差異の大きさにもかかわらず琉球方言と呼ぶことは不適切ではないと考えられる。また、「沖縄」という名称はしばしば沖縄本島または沖縄群島だけをさすから、ここでは沖縄方言という名称をとらずに琉球方言とした。
- 2) 敷根利治「宝島方言集」(雑誌「方言」第2巻第1号)など。
- 3) 東条操「方言と方言学」(1938)
- 4) Basil Hall Chamberlain: An. Essay in Aid of a Grammar and Dictionary of the Luchuan Language(1895)
Evgenij Polivanov Dmitrievich 吉町義雄訳「日琉語比較音韻論」(「方言」第4巻第10号)
伊波普猷:「南島方言史考」(1934)所収の琉球方言関係諸論文その他。
服部四郎:「日本語の系統」(1959),「言語学の方法」(1960)所収の琉球方言関係諸論文,「琉球語」(「世界言語概説」下巻1955)その他。
- 5) 仲宗根政善「琉球方言概説」(方言学講座第4巻1951),服部四郎・上村幸雄・徳川宗賢「奄美諸島の諸方言」(九学会連合奄美大島共同調査報告書「奄美」1959)その他を参照。なお、短い母音が、例外的な語を除いて、i, a, uの3個となるのは琉球方言全部に共通する事実ではなく、沖縄群島、喜界島の大部分、沖永良部島、与論島、与那国島その他に見られる事実である。
- 6) 動詞の「終止形」が「連用形」と「居り」に対応する動詞との複合によって形成されるのは、主として奄美群島と沖縄群島の諸方言に見られる現象で、琉球方言全体に及ぶ現象ではない。また、「おもろ」では、「連用形」と「居り」に対応する動詞との複合は、本土の西日本諸方言と同様に、一般に現在の進行を表わしているようである。外間守善「中世文献にあらわれた琉球方言の動詞」(「国語学」41号)を参照。
- 7) 服部四郎「奄美大島諸鈍方言の動詞・形容詞終止形の意義素」(「言語学の方法」1960)その他を参照。

- 8) 音韻の章の注 6)(57 ページ)を参照。
- 9) 服部四郎・上村幸雄・徳川宗賢「奄美諸島諸方言の言語年代学的調査」(九学会連合奄美大島共同調査報告書「奄美」1959)による。
- 10) もちろん、「分岐」後も琉球方言は本土方言の連続的または断続的な影響を受けたであろうと察せられる。
- 11) 服部四郎「日本語の系統(1)―研究の方法―」(「日本語の系統」1959)
- 12) 宮古群島諸方言では、本土方言の「四段活用」動詞に対応する動詞の「連用形」「終止形」「連体形」の三者が同形であり、本土方言の「連用形」の形に対応するように見受けられる。仲宗根政善「琉球方言概説」(方言学講座第4巻)を参照。また、琉球方言動詞の活用には、単独で用いる「未然形」、「m語尾の終止形」、Chamberlain のいわゆる「短縮形 (apocopated form)」など、きわめて興味深い形が多くあり、これらの形の由来、およびそれと標準語文語の各活用形との関係を説明するには、文献以前の日本語の状態を想定して見た方が説明しやすいように思われる。
- 13) 服部四郎博士は言語年代学の方法を援用しつつ、首里方言と京都方言の分岐の年代を約 1450 年前ないし 1700 余年前 (すなわち 3 世紀半ばから 6 世紀はじめまでの間) と測定した(『言語年代学』すなわち『語彙統計学』の方法について「日本祖語の年代」言語研究 26・27 号)。また服部博士は琉球方言の本土方言からの分岐を弥生式文化の南漸とともに起きたのではないかと想定している(「日本語の系統」古事記大成言語文字篇所収, 1957)。
- 14) 上村幸雄「琉球諸方言における『1・2 音節名詞』のアクセント概観」(国立国語研究所論集 1「ことばの研究」1959) 参照。ただし、この論文の調査資料の中には、一二の方言に誤った観察による記述があることがあとで見いだされた。
- 15) アミ語の例は服部四郎「日本語の系統(3)」(「日本語の系統」1959)に引用されている「原語による台湾高砂語族伝説集」巻末語彙表からの例から。
- 16) tiidaⓄ(太陽)の語源に関しては、インドネシア系となす説、「照る」と同根とする説、「天道」にさかのぼるとする説の三つがあるようである。上村孝二氏は「九州琉球方言の語彙 2 南九州」(方言学講座第4巻)で土噶喇列島方言に太陽を意味する「天道」系の語が存在することから、「天道」説をとっている。
- 17) この分類中、奄美群島に関しては九学会連合奄美共同調査の成果によった。沖縄本島に関しては、仲宗根政善「琉球方言概説」(方言学講座第4巻)に、宮古群島に関しては仲宗根政善の同書およびサムエル・H・北村「宮古方言音韻論の一考察」(「国語学」41号)による。八重山群島方言はさらに多くの方言に分かれるが、どのように分かれるか不明。波照間島方言は同方言中の他の方言から際立って異なるという。また、奄美大島本島北端の佐仁方言と、喜界島北端の小野津方言とは、ともに周田の方言に対して著しい方言の島をなしている。奄美大島本島属島の加計呂麻島、与路島、諸島の方言はいずれも奄美大島本島南部方言に属する。
- 18) 仲宗根政善「琉球方言概説」(方言学講座第4巻)による。
- 19) 同島で調査された服部四郎博士の談話による。

Ⅱ 首里方言の輪郭 (村. 例文)

首里はかつての琉球王国の首都であり、琉球列島における政治・文化の中心であった。伝説では天孫氏が首里を開いたとされているが、そのあたり一帯、すなわちもとの中山地方の中心地は首里の北西にある浦添であり、首里がいつ開け、中心地がいつ首里に移ったかははっきりしていない。

沖縄は、14世紀まで、「按司」「世の主」などと称せられた群雄の割拠する時代が続き、14世紀から15世紀の初めにかけて北山、中山、南山のいわゆる三山対立時代となった。それぞれの勢力範囲は、北山が大体いまの国頭地方、中山が首里と中頭地方(上方)、それに島尻の東海岸地方(東方)、南山が島尻のいわゆる下方地方であった。1406年に中山に属する佐敷の按司であった尚巴志が首里に攻め入って中山を乗とり、さらに1416年に北山を、1429年に南山を滅ぼして全島を統一した。以後は奄美・先島などもすべて中山に入貢するようになったので、首里は琉球列島全体の政治と文化の中心地となった。のち、尚真王の時代(1477~1526)に中央集権制が敷かれ、地方の按司およびその家臣たちが首里に集められ、また、奄美、先島との関係も朝貢関係から統治関係に変わったので、首里は名実ともに琉球王国の首都となった。

17世紀にいたり、島津の琉球入り(1609)によって奄美は薩摩に奪われ、首里王府自体も島津の厳重な監督下に置かれて、琉球は事実上島津の属国となった。明治維新により、1879年に沖縄県が設けられ、那覇にまず置かれた内務省出張所が県庁となるにいたって、首里の門戸として交通・経済などの面で発展して来た那覇が、政治の上でも首里にとってかわることとなった。第二次大戦で首里は手痛い破壊を受け、現在では発展した那覇市に合併されて、那覇市の一部になってしまった。¹⁾

こうして首里方言は、明治の廃藩まで、琉球方言中もっとも有力な位置を占め、奄美を除く琉球列島全体の共通語²⁾であり、また琉球列島全域を通じての文化語であった。廃藩以後、学校教育によって本土方言の標準語が次第に普及し、現在の琉球列島の共通語はもちろん標準日本語であるが、一方、首里方言が琉球方言を代表する方言として考えられていることは今日でも変わりがない。また、那覇方言は、アクセントと音韻・語彙などの一部の点を除いて首里方言によく似ており、首里方言に準じて通

用した。また、首里・那覇の両方言を含め沖縄南部の諸方言は相互によく似ており、相互によく通ずる。現在では、那覇市の方言が近隣の諸方言に対し強い影響力をもっているものと思われる。また、廃藩以後、標準日本語が、特に語彙などの面で琉球各地の方言に多数借用され、それらの方言に大きな影響を与えていることはいうまでもない。

首里方言の著しい特色として、階級による言語差の大きいことと、敬語が発達して階級・性・年齢などに応じて嚴重に使い分けられることがあげられる。尚真王時代に敷かれた中央集権制によって首里には三つの階級が生じた。王家を頂点として、地方から集められた按司とその家族などは deemjooⓄ (大名) と呼ばれる貴族階級を形成した。その下にその家臣たちが中心をなす samureeⓄ (侍) または 'jukaqcuⓄ (「よい人」の意か) とよばれる士族階級が形成され、その下に hjakusjooⓄ (百姓) と呼ばれる平民階級があった。首里では hjakusjooⓄ とは平民の意味で、農民の意味ではない。この階級の区別は嚴重で、生活上のさまざまな面に差別が設けられていた。言語も階級により違いがあり、ことに士族と平民との間には目立った差異があった。士族の男子は、後に述べるように、成年に達すると平民とは一部異なる音素体系をもつようになる。また、士族と平民とでは、たとえば親族呼称 (名称としても用いられる) が次のようにすっかり異なる。

	おじいさん	おばあさん	おとうさん	おかあさん	にいさん	ねえさん
士族	tanmeeⓄ	ʔNmeeⓄ	taariiⓄ	ʔajaaⓄ	'jaqciⓄ	ʔNmiiⓄ
平民	ʔusjumeeⓄ	haameeⓄ	sjuuⓄ	ʔaNmaaⓄ	ʔahwiiⓄ	ʔangwaaⓄ

士族と平民の言語のこのような差は、士族をしてみずからの士族としての誇りを維持させるのに役立った。また、階級、性別、年齢の差異に従って嚴重に敬語が使い分けられ、敬語表現が非常に発達している。階級・男女の差とともに、年齢の差が敬語を使い分ける際の大きな因子として働いていることも注目される。たとえば、同年輩の身分の同じ男が会った場合、まず年齢を尋ね合い、もし年齢が同じであれば、生まれた月によって、どっちが敬語を使うかを決めたといわれる。神、王、按司など非常な目上に対する場合や、特別に乱暴な場合などを除いて、日常用いる敬語には大体三種の段階がある。第一は目上や客人に対するもの、第二は目下の年長に対するもの、第三は目下および親しい同等に対するもので、第一を ʔuuhuuⓄ、第二を ʔoohooⓄ [ʔōhōhō], 第三を ʔiihiiⓄ [ʔi̥i̥e̥i̥i̥] という。たとえば話し相手を主語として用いた場

合, ʔmenʂeen④(いらっしゃる)は第一の, meen④(おられる, 行かれる, 来られる)は第二の, 'uN④(いる), ʔicun④(行く), cuN④(来る)は第三の段階となる。また, 二人称代名詞では ʔunzu④(あなた。さらに目上に対しては nunzu④, mjunzu④などともいう)は第一の, naa④(おまえさん)は第二の, ʔjaa④(おまえ)は第三の段階となる。また, 応答に関する感動詞は次のように整然とした体系をなして三段階に分かれており, ʔuuhuu④, ʔoohoo④, ʔiihii④ という名もこれに由来している。

	はい, ええ (イ) (肯定, 承諾の意を表わすとき)	はい (呼ば (ロ) れて返事を するとき)	いいえ (否 (イ) 定, 拒否の 意を表わす とき)	さあ (呼び (ニ) 掛け, 誘う とき)
(1) ʔuuhuu の段階	ʔuu④	huu④	'uuu'u④	'uuhuu④
(2) ʔoohoo の段階	ʔoo④	hoo④	'ooo'o④	'oohoo④
(3) ʔiihii の段階	ʔii④	hii④	'iii'i④	'iihii④

注. (イ)では ʔuu④ よりもさらに高い段階に ʔjuu④ という語もある。(2)と(3)の段階の8語はすべて, ふつらは[ʔō'ō], [ʔi'i'i], [hōō]などのように鼻音化して発音され, 鼻音化しないと, ぞんざいな, ふっきらぼうな感じとなる。また, 第三の段階に準ずるものとして, 親しい場合には (イ)ʔNN④ (ロ)hNN④ (ハ)'NNN'N④がある。

廃落後, 社会構造の変化や, 標準語の普及などによって, 階級による言語差や敬語の厳重な使い分けは次第に失われつつあるが, それでもなお今日一部の老人には, このような区別がよく保存されている。

また, 首里方言は文語をもつ方言である。すなわち, 琉球方言の文語は, 大体首里方言を基礎にして成立している。琉球方言の歴史的資料は, 本土方言のそれに比してずっと新しく, 16世紀初頭までしかさかのぼらないとされる。古い部分では, 金石文, 王家の辞令などの文書などもあるが, その中心は「おもろさうし」であろう。「おもろさうし」は奄美の一部を含み, 沖縄各地に伝わり歌われていた宗教歌「おもろ」を王府が集めて編集したもので, 全22巻, 「おもろ」の総数1553首, 重複を除いた実数1144首である。1532年に第1巻, 1613年に第2巻, 1623年に第3巻以下が編集されたという。しかし, 編集の年代よりずっと古い時代の作品と思われるものが多く, また, そこに用いられている言語は首里だけのものではなく, 各地の方言が反映している。その表記は, わずかに漢字を含むが, 変体仮名を含む平仮名文である。「おもろさうし」の言語は沖縄の人々にとってもほとんど意味のわからないほど難解

なもので、「おもろ」の作られた時代から現代に至るまでの言語の変遷の大きさを物語っている。「おもろ」の研究は故伊波普猷によって始められ、仲原善忠氏、外周守善氏らによって受け継がれ広げられているが、いまだに不明の部分がきわめて大きい。

島津の琉球入り(1609)以後は、多くの文書が漢文または和文で書かれた関係で、以後の琉球方言資料の大部分は文学関係、主として組踊りの脚本と琉歌である。組踊りは中国の冊封使を歓迎するために、1719年以來冊封使の渡来ごとに国劇として演ぜられたもので、本土の能の影響が強く見られるが、組踊り本は冊封のたびに王府によって編集され、組踊りの数は最初の玉城朝薫の組踊り五番以下50余編を数える。その主要なものは伊波普猷編「琉球戯曲集」(1929)に収められている。琉歌は八入・八六の30文字よりなる定型短詩である。あたかも本土の王朝時代の和歌のように人々の生活や娯楽の中に深く入りこみ、その多くが遊楽に際して節をつけて琴・三味線と和して歌われ、また踊りを伴った。例として、宴席の最初に歌われる御前風(guzinhuu)の一つを次にあげる。

今日のほこらしやや なをにぎやなたてる つぼでをる花の 露きやたごと
kijunu hukurasjaja naunizana tatiru çibudi 'uru hananu çiju cata
gutu.

(きょうの嬉しさは何にたとえられよう、花のつぼみが露に会ったようだ。)

組踊り、琉歌の表記は漢字平仮名まじり文であるが、「おもろ」のそれよりも整備されている。また、その言語は語彙・文法などに今日の首里方言とはかなり違い面もあるが、共通する点の方が多く、今日の首里方言とさほどかけ離れた感じはしない。なお、琉歌に関しては、島袋盛敏氏が古琉歌から明治時代までの琉歌を集大成して評釈、索引などを付した「琉歌大観」の稿本を完成している。ほかに特に重要な資料としては1711年編纂の辞書「混効験集」があり、伊波普猷「古琉球」(1916)に収められている。外国人の資料には、中国人、朝鮮人、イギリス人のものがあり、その主要なものは東条操編「南島方言資料」(1930)に抄録されている。

琉球王朝が中国から冊封を受け、また貿易を行っていたため、また那覇の久米村には中国からの帰化人の子孫が住み、中国へ留学する制度などがあったために、首里方言の語彙には、本土を通して持ち込まれた多数の漢語のほか、中国から直接借用された語が見られる。しかし、その数はさして多くない。正確な数はわからないが、

今日まで残っているものの数はせいぜい百内外のものと思われる。たとえば次のようなもので、中でも食品、衣料関係の語、その他文化的な語が多く、基本語はほとんど⁵⁾ない。

nunkuu⑩ 暖鍋(料理名)	suuḡee① 秀才(久米村の中国帰化人
saakuu⑩ 沙鍋(土鍋)	子孫の青年)
poopoo⑩ 饅餚(料理名)	haiḡee① 海賊
sjanpin⑩ 香片(茶の名)	ciisinbjuu⑩ 啓聖廟
sjunsii⑩ 笥子(ほしたけのこ)	hweeree① 憊懶(強盜)
ringan⑩ 龍眼(植物名)	suucuumaa⑩ 數籌碼(絵文字の
ritoopen⑩ 李桃餅(菓子名)	一種)
taawan⑩ 大碗(碗の一種)	'janzin⑩ 洋銀(ニッケル)
tunhwan⑩ 豚飯(料理名)	cinḡunsin① 進貢船
ḡeejanpuu⑩ 西洋布(紡績による	ceḡkunsin① 接貢船
綿布)	kwanhwaa⑩ 官話(北京語)
maakwaa⑩ 馬褂(着物の名)	hwikin① 北京(中国地名)
tingaacuu⑩ 天鵝絨(びろうど)	hucan⑩ 福建(シ)
tunbjan⑩ 桐板(布地の名)	kwantun① 広東(シ)
taahwaakuu⑩ 打花鼓(久米村の	
楽劇)	

次に首里方言の見本とその訳(直訳調)をかかげる。⁶⁾この例文は1953年5月に島袋盛敏氏が朗読したものを録音し、それをのちに文字化したものである。全体は物語り調の口語で語られており、中の「月や昔から…」の箇所だけは琉歌なので文語である。この時の島袋氏の発音には、ほんの一部にいくらか平民的発音がまじったが、ここにあげた表記では、すべてこの辞典に採用した土族的発音による表記に改めた。

例 文⁷⁾

(夫のために鼻を切った女の話)

gusuujoo⑩, kurikara⑩ ꞑucinaanu⑩ 'nkasiba'nasi⑩ ꞑucinaaguci'ḡsi⑩
 皆さま, これから 沖縄の 昔話を 沖縄弁で

ꞑuhanasi⑩ see① 'jaan'di① ꞑumutooibi'in⑩.
 お話 しては と 思っております。

'Nkasi① sjuinakai① ʔataru① hanasi① 'jaibiisi'ga①, ʔiqpee①
むかし 首里に あった 話 ですが、 大そり

curawinagu① tuzi① sjooru① ʔcunu① 'uibiita'N①. tuzinu① duku①
美しい女を 妻に している 人が いました。 妻が あまり

curasanu①, 'utoo① kunu① tuzinu① musika① 'jusuni① hwikasariiru①
きれいなので、 夫は この 妻が もしか よそに 引かれる

kutoo① neeŋga① 'jaandi'ci① ʔasan① banu⁸⁾① caa① siwabikeei①
ことが ないか しらと 朝も 晩も いつも 心配ばかり

sjoobiita'N①.
していました。

duku① siwa① sjaru① 'juiga① 'jaibiita'ra①, kunu① 'utoo① cuubjooei①
あまり 心配 した せい でしょうが、 この 夫は 重い病気に

kakati① sideejooi① ʔsi①, naaja① cuui① ʔacain'di① ʔjuru① sjaku①
かかって 次第に弱って もはや きょうか あすかと いう ほど

takiçikijabitaku'tu①, tuzinkai① 'Nkati①, naa① 'wannee① ʔukaasjadu①
危なくなりましたので、 妻に 向かって、「もう わたしは とても危

ʔuhusaru①. ʔjaaaja① 'waaga① maasidun① ʃee①, mata① 'utu①
ない。 おまえは わたしが 死んでしまえば また 夫を

mucura① 'jaan'di① ʔjabitan①. sjakutu① kunu① tuzinu① ʔiibunnu①,
持つだろらな。」と 言いました。 すると この 妻が 言うには、

'wannee① kumaŋkai① caru① ʔizooja① kumadu① sinidukuru①,
「わたしは ここ(夫のところ)に 来た 以上は ここそが 死にどころ(です),

kumajaka① sutoo① maanŋkai① ʔicabiran①. ʔunzoo① 'juuçiran①
ここより ほかは どこにも 行きません。 あなたは つまら

neeN① siwa① simisjooraN① gutu①, hweeku① hasiqtu① naimiʃeeru①
ない 心配を なさらない で、 早く 丈夫に おなりになる

gutu① simiʃeebi'reen'di① ʔjabitan①.
よう なさいませ。」と 言いました。

'jaibiisi'ga①, kunu① 'utoo①, tuzinu① ʔan① ʔicanteema'N①, duunu①
ですが、 この 夫は、「妻が そり 言ったところで、 自分が

sinee① caaga① nati① ʔicura① 'wakaran①. ʔaa① ʔanŋni①, sizin①
死ねば どう なって 行くか わからない。 ああ 残念、 死んでも

sinaraNN'di① Yici① nadaNdeen① Tutusjuru① 'jooši① 'jaibiita'N①.
死にきれない。」と 言って 涙なども 落とす ようす でした。

ʔansjakutu①, kunu① tuzee①, ʔunzuga① ʔurihudu① siwa①
すると, この 妻は, あなたが それほど 心配

simišeera'a① 'waa'kakugu① ʔumikakijabi'ran'di① Yici①,
なざるなら わたしの覚悟を お目にかけましょう。」と 言って,

simukara① hoocaa① muqci① qci① duunu① hana① ʔusiciqci①
台所から 包丁を 持って 来て 自分の 鼻を 切って

misijabita'N①. kunu① tuzee① kaagisiḡa'tan① qcumasai①
見せました。 この 妻は 容姿も 人にまさり

tacimasati① curasaibiitaši'ga①, cimukukuruN① mata① duqtu①
たちまさって 美しかったのですが, 心も また 大変

migutuni① muqcooru① 'winagu① 'jaibiita'N①. 'utoo① kunu①
りっぱに もっている 女 でした。 夫は この

ʔarisama① 'NNci① kukuruN① sukukara① ʔutageenu① haritaku'tu①,
ありさまを 見て 心の 底から 疑いが 晴れたので,

ʔurikaraa① kukuru① 'juruci① hwiija① kuutuguutu① bjooocin①
それからは 安心 して 日 増しに 病気も

masi① nati①, ʔicimeeʔici'mee① kabj① hazišitiiNne'e① cuucan①
よく なって, 一枚一枚 紙を はぎ捨てるように たちまち

hasiqtu① nati①, kweeciʔuiweende'e① sjuru① gutu① naibita'N①.
元気に なって, 快気祝いなどを する ように になりました。

ʔansi① mutunu① karata① nati① 'NNcaku①, hana① ʔusiciqcaru①
そうして 元の 体に なって 見たところ, 鼻を 切った

tuzinu① kaaginu① mutunu① šiḡatatu① kurabiti① tamitoo① 'Nndaran①
妻の 顔立ちが 元の 姿と 比べて 二目とは 見られなく

najabita'N①. nuci① sukuti① kwitaru① 'unzinu① ʔaru① tuzi①
なりました。 命を 救って くれた 恩義の ある 妻

'jaibiiši'ga①, ʔurikaraa① susoonkaro'on① qsi① ʔatunu① ʔunzuminee①,
ですが, それからは 粗末にし軽んじて あげくの はてには,

ʔjaaçiraa① 'Nndaran①. ʔnziti① ʔiki①. nama① ʔnziti① ʔiki①.
おまえの顔は 見られない。 出て 行け。 いま 出て 行け。

tadeema① ?Nziti① ?ikiN`di① ?ici① ?unu① tuzi① ?wiihooti①, mata①
たったいま 出て 行け。」と 言って その 妻を 追い払って、 また

biçikara① miituzi① tumeeibita`N①. ?ataimeenu① `utuduN① `jaree①,
ほかから 新しい妻を めとりました。 普通の 夫で あるならば、

duunu① tamini① hana① ?usiciqcaru① tuzi① caqsa① kaagigawa`i①
自分の ために 鼻を 切った 妻を いくら 面変わり

natiN① `jukuN① ?umuriwadu① `jaibişi`ga①, kunu① hakuzoonu① `utoo①
しても かえって 思ふべき なのですが、 この 薄情な 夫は

makutuni① ?umaaran① `wikiga① `jaibiita`N①.
まったく 考えられない(ような) 男 でした。

?urikara① gurukuniNtiga`roo① taqci① zuuguja① `jatee`igisa`ibişi`ga①,
それから 五、六年とか 経って 十五夜 だったのだそうですが、

kunu① hakuzoonu① `utunu① ?atutuzitu① ?usiçiriti① çicinagami①
この 薄情な 夫が 後妻と 連れだって 月見を

sjuşi①, hana① ?usiciqcaru① sacituzinu① ?uri① `NNei①, çicija①
するのを、 鼻を 切った 先妻が それを 見て、 「月は

`Nkasikara① kawaru① kutu① nesa`mi①, kawati① ?iku① munuja①
昔から 変わる ことが ない。 変わって 行く ものは

hwitunu① kukuruN`di①⁹⁾ ?juru① ?uta① `junabita`N①.
人の 心」と いう 歌を 詠みました。

sjakutu①, hwirumasii① mun①, namamadi① sajaka① titi① `utaru①
すると、 不思議な ことに、 いままで さやかに 照って いた

çicinu① tadeema① kacikumuti①, hudiikan`nai① naikuziriti①, ?unu①
月が にわかにかき曇って、 雷が 鳴りひびいて その

hakuzoonu① miitundanu① ?wiiNkai① kaNnainu① dateeNna① ?utu①
薄情な 夫婦の 上に 雷が 大きな 音を

tatiti① ?utitan`di`ru① hanasi① `jaibiN①. duuúu① miçirasii① hanasee①
立てて 落ちたという 話 です。 たいへん 珍しい 話では

?aibira`ni①.
ありませんか。

注

- 1) 沖縄の歴史に関しては、比嘉春潮「沖縄の歴史」(1959)を参考にした。

- 2) 共通語といっても今日言うような共通語とは意味が違う。首里方言は、沖縄本島南部以外の地域では、首里・那覇の人と交渉をもつような一部の人々にとっての共通語であったというに過ぎない。すなわち、本土における鹿藩以前の江戸や上方のことばと同様である。
- 3) 仲原善忠「おもろ新釈」(1957)の数字による。
- 4) 「おもろさうし」は伊波普猷によって「校訂おもろさうし」(1925)として刊行されたが、その後、仲原、外間両氏によって諸本の校合が行なわれ、それをもとにした「おもろさうし」の辞典と総索引が両氏によって完成しつつあると聞いている。
- 5) ただし、「おとうさん」を意味する土族語 *taarii* に関して「大人」の借用語であるとする説、「大令」の借用語であるとする説があるようである。
- 6) 長い例文としてはほかに、本文篇の *ʔugwan*Ⓞ (祈願) の項に、「屋敷の祈願」の祈禱の文句が収められている。この祈禱の文句は、島袋氏の母堂(島袋カメ氏 1868~1936) が記憶していたものを島袋氏が母堂の生前に記録したものに基づく。
- 7) 例文は音韻表記であるが、イントネーション、プロミネンスなどは記されていない。例文に記したアクセントは、実際の発音に際しては、イントネーションおよびプロミネンスによる修正を蒙る。たとえば *'waa'kakugu*Ⓞ [*wa:'kakugu*] (わたしの覚悟) は、例文中では *kakugu*Ⓞ にプロミネンスが置かれるため、音声的に表記すれば [*wa:'kakugu*] と記載すべきものである。また、文法的な結び付きの度合の強い二つのアクセント単位(「文節」)の間では、そのうちの後ろにある形式のアクセントが消失したり、前の形式に影響されたりすることがしばしばあるが、このような現象についてはここで表記されていない。(アクセントがⓄの形式ではしばしばその下降が消失する。また、アクセントがⓄの形式では、逆にその初めの部分が前の形式の影響で高くなり、ためにⓄの形式のような下降が生じる。たとえば、*siwa*Ⓞ *sjaru*Ⓞ <心配した> の *sjaru*Ⓞ は *siwa*Ⓞ との文法的結び付きが強い(しかし依然として二単語)ため、アクセントが消失してⓄのように平板に聞こえ、また *hwikasariiru*Ⓞ *kutoo*Ⓞ <引かれることは> の *kutoo*Ⓞ も *hwikasariiru*Ⓞ との結び付きが強い(しかしやはり二単語)、しばしば [*kuto'o*] のように発音される。)
- 8) *ʔasa*nⓄ *banu*nⓄ (朝も晩も) と、*ʔizoo*Ⓞ (以上) とはあるいは標準語の影響による新しい形か。
- 9) 琉歌の部分は、実際は二度くりかえして朗読された。また、琉歌の中の *karu*waruⓄ, *kawati*Ⓞ, *ʔiku*Ⓞ, *kukuru*Ⓞ が本文篇見出し語の *kawaju*nⓄ, *ʔicu*nⓄ, *kukuru*Ⓞ とアクセントが相違しているのは、文語朗読調のためと見られる。

Ⅲ 首里方言の音韻と表記法¹⁾

1 母音音素

母音音素は次の5個である。

i, e, a, o, u

発音のしかたは大体標準語²⁾のそれに近いが、uは円唇母音であり、oは標準語のそれと同じ、ないし、わずかに広めである。

うち、eとoとはきわめてわずかな例外を除き、いつも、長い母音として、またはN(はねる音)かQ(つまる音)に先立って用いられる。すなわち、短いe、oはeN、eQ、oN、oQとなる場合のほかには、ほとんど用いられない。俗に首里方言が3母音であると言われるのはこのことである。

短いeとoのきわめてわずかな例としては次のものがある。

短いe……haberu①(蝶), sanbeku①(三百。ただし sanbjaku①ともいう), ruqpeku①(六百。ただし ruqpjaku①ともいう), ?ane①(あれ。ほら。感動詞), ?une①(それ。ほら。感動詞), menumenuu①(めえ。山羊を呼ぶ声。擬声語), 'eisaa①(七月踊りの際のはやしの文句。またそのはやしの入る歌や踊り), sicigwaçieisaa①(七月踊り。前項との複合語), hei①(おい。感動詞)

短いo……?oho?oho①(ごほんごほん。咳の声。擬声語), boronboron①(つづみの音。擬声語), horohoro①(衣ずれの音。擬声語)

このように例外の多くは感動詞か擬声語であり、それ以外で、しかも変わり語形のないものはhaberu①(蝶)の一語のみである。このhaberu①は文語にはhabiru①という形もある。

eQ, oQの例もきわめて少ない。

eQの例……gweqtai①(ぬかるみ), ceqkunsin①(接貢船。中国への進貢船を迎えに行く船)

oQの例……coQcongwa①(笹鳴きするうぐいす)

eN, oNの例はかなりあるが、擬声語や中国語からの借用語に多い。

ただし、組踊り、琉歌などの文語には、'Nzo①[無蔵](恋人), subedu①[そばいど](裏戸)などのように、短いe, oを含む語が少数見いだされる。また、口語で長い ee, oo が文語では韻律の関係で短められる場合がある。しかし、これらの場合も節をつけて歌われるときには長められる。

〔標準語との対応〕 標準語の五つの母音は、短母音の場合、首里方言と次のように対応する。

標準語	i e	a	o u
首里方言	i	a	u

すなわち、標準語の短いeとoとは、首里方言でそれぞれiとuになるため、標準語におけるiとe, oとuとは首里方言では区別されなくなる。

標準語		首里方言	
a	{	「田 (ta ^ˀ)」	taa①
		「花 (hana ^ˀ)」	hana①
		「高さ (ta ^ˀ kasa)」	takasa①
} a			
i	{	「血 (ci)」	cii①
		「息 (#i ^ˀ ki)」	ʔiici①
		「道 (mici)」	mici①
} i			
e	{	「毛 (ke)」	kii①
		「手 (te ^ˀ)」	tii①
		「雨 (#a ^ˀ me)」	ʔami①
} e			
o	{	「帆 (ho)」	huu①
		「音 (#oto ^ˀ)」	ʔutu①
		「雲 (ku ^ˀ mo)」	kumu①
} o			
u	{	「湯 (ju ^ˀ)」	ʔjuu①
		「牛 (#usi)」	ʔusi①
		「奥 (#o ^ˀ ku)」	ʔuuku①
} u			

ただし、標準語の「ス(su)」「ッ(cu)」「ズ(ず, づ)(zu)」は原則としてそれぞれ首里方言の si(土族男子は ši), ci(土族男子は çì), zi(土族男子は zì)に対応する。

標準語	首里方言(かっこ内は土族男子)
su { 「煤 (su'su)」 「白 (#u'su)」	siisiⓄ (šiīšiⓄ) } si(çi) ʔuusiⓄ (ʔuušiⓄ)
cu { 「綱 (cuna')」 「何時 (#i'cu)」	cinaⓄ (çinaⓄ) } ci(çi) ʔiciⓄ (ʔiçiⓄ)
zu { 「数 (ka'zu)」 「水 (mizu)」	kaziⓄ (kaçiⓄ) } zi(zi) miziⓄ (miçiⓄ)

なお、母音の対応については、子音音素 ' , ʔ , s , c , z などの項、音素 N の項、アクセントの項などを参照。

2 半母音音素

半母音音素は次の2個である。

j, w

うち、j は母音音素 a , u , o に先立ち、子音音素 h , ʔ , ' , p , b , m , n に先立たれる。また、土族男子の場合は s にも先立たれる。w は母音音素 i , e , a に先立ち、子音音素 h , ʔ , ' , k , g に先立たれる。

なお、語頭の ʔee および 'ee はいつも ʔeeⓄ (藍) [ʔe:]³⁾, 'eemaⓄ (八重山。地名) [ie'ma] などのように入りわりに軽い口蓋化が認められるが、ほかに [ʔe:] [e:] など口蓋化のない音で始まる語が首里方言にはないから、これらは ʔjee, 'jee とせず、ʔee, 'ee とするのが適当である。

[標準語との対応] 子音音素 ʔ , ' の項を参照。

3 子音音素

子音音素は次の15個である。

h, ʔ, ', k, g, p, b, m, s, c, z, n, r, t, d

土族男子の場合はさらに次の3個が加わる。

ʃ, ç, ʒ

(1) ʔ, '

首里方言では、母音および半母音の前に声門破裂音 [ʔ]⁴⁾があるかないかによって単語の意味が違って来る。すなわち、声門破裂音の有無による音韻的対立

をもつ。そこでその声門破裂音が伴う場合を子音音素ʔがあるとし、声門破裂音が伴わない場合を子音音素'があるとする。たとえば次の四対の語は声門破裂音の有無によってのみ互いに区別されるものである。

{ʔin① [ʔin] (犬)	{ʔutu① [ʔu'tu] (音)
{in① [in] (縁)	{'utu① [u'tu] (夫)
{ʔjaN① [ʔja'N] (言わない)	{ʔwiqcu① [ʔwittʃu] (老人)
{jaN① [ja'N] (だ。である)	{'wiqcu① [wittʃu] (酔った人)

標準語の場合は、語頭の「ア(#a)」「イ(#i)」「ウ(#u)」「エ(#e)」「オ(#o)」はふつう声門破裂音に先立たれている。たとえば「犬(#inu)」は[ʔi'nuw]、「音(#oto)」は[ʔo'to]のようにふつう発音される。しかし、これを声門破裂音なしに[i'nuw],[o'to]のように発音してもさしつかえないし、おかしいとも感じられない。また、標準語の「ヤ(ja)」「ヨ(jo)」「ユ(ju)」「ワ(wa)」はふつう声門破裂音を伴わずに発音され、「矢(jaʔ)」は[ja]、「輪(waʔ)」は[wa]のように発音される。これらが[ʔja][ʔwa]と発音されることはあまりないが、たとえあっても、やはり「矢」「輪」の意味になる。また、標準語で「犬」「音」は語頭ではふつう声門破裂音があっても、「山犬」「物音」のように複合語の途中に来ると[ja'mainuw][mo'noo'to]のように声門破裂音は消失する。したがって、標準語の話し手は声門破裂音の有無に関して無関心なのである。他のすべての本土方言の話し手もやはり無関心である。

首里方言の場合は声門破裂音の有無によって別の単語になってしまうので、声門破裂音の有無はいつもはっきりしており、同じ単語が両様に発音されることはない。この辞典の見出し語にʔがある場合は声門破裂音を際立たせ、'がある場合は反対に声門破裂音がないことを際立たせて発音しなければならない。

首里方言で母音音素、半母音音素がʔに先立たれる場合の発音では声門の破裂とほぼ同時に声帯が正常に振動して声の状態になるが、母音音素、半母音音素が'に先立たれる時、すなわち声門破裂音を伴わない時の発音では、声帯は初め、閉じておらず、ゆるやかに振動し始めて、声の状態に漸強的に移行する。したがって、声の高さがʔに先立たれる場合より低く始まり、そのモーラ(短音節)自体としてもʔで始まるモーラよりもやや低目に発音される。また、ʔで始まるモーラの発音よりも息の流出が大きいために、'iや'uの場合にはしばしば弱い摩擦音[j][w]

が聞かれ、ために 'i, 'u の音声はそれぞれ [ji], [wu] のように表記されることもある。

'in④ (縁) [in]~[jin]

'un④ (居る) [un]~[wun]

ただし、子音音素 ' は語頭の場合、母音音素 a に先立つことがない。つまり首里方言には ?a で始まる語はあるが、'a で始まる語はない。

また、? と ' とは次のように音素 N (いわゆるはねる音「ン」) にも先立つことができる。

{ ?Nni④ [ʔɲni] (稲)

{ 'Nni④ [ɲni] (胸)

{ ?Nmi④ [ʔm̃mi] (梅)

{ 'Nmi④ [m̃mi] (嶺井。地名)

また、ただ一語であるが、首里方言には [ʔ] が [m] に先立った [ʔme`nse:N] (いらっしゃる) という語がある。これを ?menʂeen④ と表記することにする。この語は平民の場合には menʂeen④ [meNʂe:N] とも発音されるし、ほかに [ʔ] が [m] や他の子音と結合する例は首里方言にはないので、?m は首里方言の音韻体系の中では例外的な結合といえる。⁵⁾

つぎに、? と ' が語中に用いられる場合について述べる。まず、いわゆる「長母音」「二重母音」の第二成分、および母音音素とはねる音 (N) との結合した場合の N は声門破裂音に先立たれないので当然次のように ' をもつものと考えられる。

{ ta'a④ [ta:]~[taa] (田)

{ me'e④ [me:]~[mee] (前)

{ hu'u④ [ʔu:]~[ʔu'u] (帆)

{ tu'i④ [tui] (鳥)

{ ma'a'i④ [ma:i]~[maai] (まり)

{ ha'u④ [ha'u] (ああん。口を開くこと。擬声音)

{ ?i'N④ [ʔiN] (犬)

{ 'i'N④ [iN]~[jin] (縁)

{ sju'N④ [ʃu'N] (する)

しかし、いちいち ' を記すのは繁雑なので、本書では、' は自立語の語頭以外は一切省略することにし、上記の語もそれぞれ、taa④, mee④, huu④, tui④, maai④, hau④, ?iN④, 'iN④, sjuN④ のように表記する。

?で始まる語が複合語の第二成分となる場合には、複合語の両方の成分が意味上または形態上の独立性が比較的強いと、多くの場合、声門の閉鎖が不完全となつて声門破裂音が弱まったりするが、なお喉頭の弱い緊張が認められるので、たとえば次のように?が保持されていると認める。

?ami⑩ (雨) → guma?ami⑩ (小雨)

?uja⑩ (親) → 'winagu?uja⑩ (女親)

?iibi⑩ (指) → qcusasi?iibi⑩ (人差指)

しかし、成分の意味上または形態上の独立性が弱まると、?は消失する。すなわち、次のように'がある(ただし表記されない)と認められる。

ciiru⑩ (黄色。「黄色」に対応) tuiee⑩ (交際。「取り合い」に対応)

その中間として、次のように両様の形が認められる場合もある。

mizi?iru⑩ ~ miziiiru⑩ (青。「水色」に対応。)

munu?ii⑩ ~ munii⑩ (言い方。「物言い」に対応)

'で始まる語が複合語の第二成分となる場合には、複合語の両方の成分が意味上または形態上の独立性が強ければ、ていねいな発音では、両成分の切れ目を際立たせるために語頭の'の特徴、すなわちゆるやかで漸強的な声立てという特徴が保持される。

'uNeuu⑩ (おじさん) → ?uhuuNeuu⑩ (上のおじさん)

'uN⑩ (恩) → guuN⑩ (御恩)

'uu⑩ (緒) → kutubanuuiu⑩ (ことばのあや)

一方、いわゆる「長母音」「二重母音」などで、その中間に意味の切れ目のない場合には、このようなゆるやかで漸強的な声立てはふつう起こらない。たとえば kutubanuuiu⑩ の最後の三個の u のところで、一番目と二番目の間には意味の切れ目があるので、語頭の'の特徴が見られるが、二番目と三番目の間には意味の切れ目がないからそのような特徴はあまり目立たない。しかし、いわゆる「長母音」「二重母音」も首里方言では正確には「長母音」「二重母音」と言えないもので、各モーラ(短音節)に独立性があり、たとえば taa⑩ (田), tui⑩ (鳥), kau⑩ (顔。文語)もていねいな発音では、それぞれ [taa], [tuji], [kawu] のように発音される傾向がある。母音音素にNが続く場合も同様で、?in⑩ (犬)はていねいに発音すると [ʔiN] である。

[標準語との対応] 標準語のア行の語頭の「ア(#a)」「イ(#i)」「ウ(#u)」「オ(#o)」で、標準語文語でもア行に属するものは、首里方言ではʔに先立たれる。

	標準語	首里方言
「ア(#a)」	「雨(#ame)」	ʔamiⓄ
	「泡(#awa)」	ʔaaⓄ
	「赤い(#akai)」	ʔakasanⓄ
	「扇(#oogi) <あふぎ>	ʔooziⓄ
	「青い(#ao'i)」	ʔoosanⓄ
	「相手(#aite)」	ʔeetiⓄ
「イ(#i)」	「犬(#inu)」	ʔinⓄ
	「胃(#i)」	ʔiiⓄ
	「行く(#iku)」	ʔicuNⓄ
	「言う(juu) <いふ>	ʔjuNⓄ
	「稲(#i'ne)」	ʔnniⓄ
「ウ(#u)」	「牛(#usi)」	ʔusiⓄ
	「歌(#uta)」	ʔutaⓄ
	「上(#ue)」	ʔwiiⓄ
	「植える(#ueru)」	ʔwiijuNⓄ
	「梅(#ume)」	ʔnmiⓄ
	「うわべ(#uwabe)」	ʔwaabiⓄ
「オ(#o)」	「音(#oto)」	ʔutuⓄ
	「帯(#o'bi)」	ʔuubiⓄ
	「大風(#ooka'ze)」	ʔuukaziⓄ
	「老いる(#oi'ru)」	ʔwiijuNⓄ
	「追われる(#owareru)」	ʔwaarijuNⓄ

標準語語頭の「ヤ(ja)」「ユ(ju)」「ヨ(jo)」「ワ(wa)」および、標準語文語で「え」「ゑ」であった「エ(#e)」, 同じく「ゐ」であった「イ(#i)」, 同じく「を」であった「オ(#o)」は、首里方言で'に先立たれる。

	標準語	首里方言
「ヤ(ja)」	「山(jama)」	'jama①
	「屋(ja-)」	'jaa①
	「八重(ja'e)」	'ee-(e'daki① 八重岳。地名)
	「様子(joosu) < やらす」	'joosi①
「ユ(ju)」	「床(juka)」	'juka①
	「湯(ju)」	'juu①
	「夕(juube)」	'juubi①
	「ゆい(勞力交換)(jui)」	'ii①
「ヨ(jo)」	「夜(jo)」	'juu①
	「嫁(jome)」	'jumi①
	「弱い(jowa'i)」	'joosaN①
	「用意(jo'oi)」	'juui①
「ワ(wa)」	「腹(わた) (-wata)」	'wata①
	「割る(waru)」	'wajuN①
	「若い(waka'i)」	'wakasaN①
	「王(#o'o) < わう」	'oo①
「エ(#e)」 < え	「縁(#e'n)」	'in①
	「枝(#eda)」	'ida① ~ 'juda①
	「江戸(地名)(#edo)」	'idu①
	「得る(#e'ru)」	'iijuN①
	「襟(#eri)」	'wiiri①
「エ(#e)」 < え	「柄(#e)」	'wii①
	「絵(#e')	'ii①
	「遠方(#enpoo)」	'inpoo①
	「酔う(jo'u) < ゑふ」	'wiijuN①
「イ(#i)」 < ゐ	「えぐる(#egu'ru)」	'wiigujuN①
	「蘭(#i)」	'ii①
	「亥(#i)」	'ii①
	「居る(坐る)(#iru)」	'ijun①

	標準語	首里方言
「オ(#o)」 <を	「踊り(#odori)」	'uui④
	「居る(<をり)(#o'ru)」	'uN④
	「桶(#o'ke)」	'uuki④
	「甥(#oi)」	'wli④

「夢」は ?imi④, 「指」は ?iibi④ で、それぞれ「いめ」「いび」に対応している。また、上の例で明らかなように、「エ(<え)」「エ(<ゑ)」は首里方言で 'i~'ii となる例と, 'wi~'wii となる例とがある。また、上にも例があるが、標準語の ai と ae は首里方言で ee に、標準語の ao および「開音」に対応する oo は首里方言で oo に、また「合音」に対応する標準語の oo は首里方言で uu に、標準語の awa は首里方言で aa にそれぞれ対応するのが普通である。

	標準語	首里方言
ai	「藍(#a'i)」	?ee④
	「貝(ka'i)」	kee④
	「灰(hai)」	hwee④
ae	「前(ma'e)」	mee④
	「蠅(hae)」	hwee④
ao	「青い(#ao'i)」	?oosaN④
	「竽(sao')」	soo④
	「倒れる(taore'ru)」	toorijun④
oo <「開音」	「唐(to'o)」	too④
	「王(#o'o)」	'oo④
oo <「合音」	「通り(toori')」	tuui④
	「胴(do'o)」	duu④
awa	「川(kawa')」	kaa④(井戸)
	「繩(nawa')」	naa④

なお、ここまでにあげた例でも明らかなとおり、首里方言には1モーラ(仮名一字で表わされる音の単位)の自立語はなく、たとえば次のように標準語の1モーラの自立語はすべて首里方言では2モーラとなる。

「目(me')」 mii④ 「田(ta')」 taa④ 「帆(ho)」 huu④

(2) h

u および w の前で [Φ], i および j の前で [ç], その他の場合に [h] である。
 [標準語との対応] 標準語の語頭のハ行のうち、「ヒ(hi)」「ヘ(he)」と「フ(hu)」「ホ(ho)」は首里方言で唇音性を保って、それぞれ hwi([Φi]), hu([Φu]) に対応し、「ハ(ha)」は単語によって hwa([Φa]) または ha([ha]) に、ただし「ハイ(hai)」「ハエ(hae)」と「ホー(hoo) <開音> はそれぞれ hwee([Φe:]) と hoo([ho:]) に対応する。「拗音」(「ヒャ」「ヒュ」「ヒョ」) は首里方言でも唇音性をもたない。

	標準語	首里方言
「ヒ(hi)」	{「火(hi ^ʼ)」	hwiiⓄ
	{「引く(hiku)」	hwicunⓄ
「ヘ(he)」	{「屁(he ^ʼ)」	hwiiⓄ
	{「下手(heta ^ʼ)」	hwitaⓄ
「フ(hu)」	{「筆(hude)」	hudiⓄ
	{「舟(hu ^ʼ ne)」	huniⓄ
「ホ(ho)」	{「帆(ho)」	huuⓄ
	{「骨(hone ^ʼ)」	huniⓄ
「ハ(ha)」	{「葉(ha)」	hwaaⓄ
	{「破風(hahu)」	hwaahuuⓄ
	{「灰(hai)」	hweeⓄ
	{「蠅(hae)」	hweeⓄ
	{「齒(ha ^ʼ)」	haaⓄ
	{「鼻(hana)」	hanaⓄ
	{「花(hana ^ʼ)」	hanaⓄ
	{「方(ho ^ʼ o)<はう>」	hooⓄ
「拗音」	{「百(hjaku ^ʼ)」	hjakuⓄ~hjaakuⓄ
	{「拍子(hjoosi ^ʼ)」	hjoosiⓄ

「ハ」に対応するものには、haqkaⓄ~hwaqkaⓄ(薄荷), haniⓄ~hwaniⓄ(羽)のように両様の形のあるものもあり、また、若い世代には「ハ」の場合はもちろん「ヒ」「ヘ」の場合にも唇音性を失う傾向が見られるようである。

語中の場合には、ʔuhusan①(多い), kuhwasan①(堅い。「こわい」に対応する)など、無声の唇音の保たれる語が少数見いだされる点が注目される。また、pの項参照。

(3) k, g

kは[k], gは語頭・語中ともに[g]で鼻音化しない。また、首里方言にはkj, gj という結合はない。

〔標準語との対応〕 標準語の「カ(ka)」「ケ(ke)」「ク(ku)」「コ(ko)」の子音はkに、「ガ(ga)」「ゲ(ge)」「グ(gu)」「ゴ(go)」の子音はgに対応するのが普通である。

標 準 語		首 里 方 言
「カ(ka)」	「皮(kawa ^ん)」	kaa①
「カ(ka)<くわ」	「火事(ka ^ん zi)」	kwazi①
「ケ(ke)」	「毛(ke)」	kii①
「ク(ku)」	「草(kusa ^ん)」	kusa①
「コ(ko)」	「粉(ko ^ん)」	kuu①
	「声(ko ^ん e)」	kwii①
「ガ(ga)」	「がん丈(gaNzjoo)」	gaNzuu①
「ガ(ga)<くわ」	「頑固(ga ^ん nko)」	gwanku①
	「外戚(gaiseiki)」	gweesici①
「ゲ(ge)」	「影(ka ^ん ge)」	kaagi① (ただしkazi①という形もある。)
「グ(gu)」	「道具(doogu ^ん)」	doogu①
「ゴ(go)」	「ごみ(gomi ^ん)」	gumi①

ただし、次の語では標準語の語頭のカ行の子音に首里方言でgが対応している。

標 準 語	首 里 方 言	標 準 語	首 里 方 言
「蟹」	gani①	「串」 「こまい(西日本方言)」 「軽い」	guusi①
「烏」	garaşi①		gumasan①
「鯨」	guzira①		gaqsan①

(ただし、kaqsan①「お産などが軽い」という語もある。)

標準語の「キ(ki)」の子音kとカ行の「拗音」のkj, および「ギ(gi)」の子音gとガ行の「拗音」のgjは、首里方言では口蓋化現象によってそれぞれc

([tʃ]), z ([dʒ]) に対応する。

標準語	首里方言	標準語	首里方言
「肝(kimo ⁷)」	cimuⓄ	「義理(giri ⁷)」	ziriⓄ
「客(kjaku)」	cakuⓄ	「人形(ningjoo)」	niNzooⓄ
「給仕(kju ⁷ uzi)」	cuuziⓄ		

ただし、「木」のみは例外で kiiⓄ となり、k を保っている。また、標準語の「ケ」「ゲ」でそれぞれ ci, zi に対応する例もかなりある。

	標準語	首里方言
「ケ」	「糸図(keezu)」	ciiziⓄ
	「見物(kenbucu)」	cinbuçiⓄ
「ゲ」	「下駄(geta)」	zitaⓄ
	「芸能(geenoo)」	ziinuuⓄ

また、標準語で「カ」「ケ」「ガ」「ゲ」の子音が i に先立たれている場合には、首里方言ではしばしば口蓋化が起こって、これに c, z が対応する例が見られる。

標準語	首里方言
「如何(#ika-)(文語)」	caaⓄ(文語では ?icaⓄ)
「烏賊(#ika)」	?icaⓄ~?ikaⓄ
「近い(cika ⁷ i)」	cicasa ^N Ⓞ~cिकास ^N Ⓞ
「池(#ike ⁷)」	?iciⓄ
「にがい(niga ⁷ i)」	'Nzasa ^N Ⓞ
「*ひが-(higa-)(東)」	hwizaⓄ(比嘉, 比謝。地名・人名)
「機嫌(kigen)」	cizi ^N Ⓞ
「ひげ(hige)」	hwiziⓄ

また、標準語の「クラ(kura)」「クレ(kure)」および「グラ(gura)」「グレ(gure)」は、首里方言でしばしば次のような形に対応する。

	標準語	首里方言
「クラ」	「枕(makura)」	maqkwaⓄ
	「盲(mekura)」	miqkwaⓄ
	「食らう(kurau)」	kwaju ^N Ⓞ

「グラ」 「めぐらす(megurasu)」 miŋwasjuN④

また Qkwa④(子) は「子ら」との対応が考えられる。

「クレ」 { 「ふくれる(hukureru)」 huQkwijun④
「呉れる(kureru)」 kwijun④

「グレ」 「夕間暮れ(juuma'gure)」 'jumangwi④

(4) p, b, m

p は [p], b は [b], m は [m]。

〔標準語との対応〕 標準語のp行, b行, m行の子音は, それぞれ首里方言でも p, b, m に対応するのが普通である。p は, 標準語同様語頭のハ行が p 音を保存していないので, 語頭に立つ例はわずかである。首里方言の si, ši のあとでは, 語中のハ行が p を保っている例がまれに見られる。この場合, si, ši の母音は無声化する。(なお, ši の例は本文篇参照)

標準語	首里方言
「四百(sihjaku')」	sipjaaku④(銭400文)
「塩からい(sio kara'i)」	sipukarasaN④
「しほたる(古語)」	siputajun④(しめる)

なお, m に関しては n, N の項を, b に関しては N の項を参照。

(5) s, c, z; ʃ, ɕ, ʒ

s は a, o, u の前で [s] であり, i, e の前および貴族・士族男子の sj の場合に [ʃ] である。c はいつも [tʃ] である。z は [dʒ] であるが, 母音間では弱まった破擦音 [dʒ] または摩擦音 [ʒ] となる。c と z はそれ自身口蓋化した音素であるから, j とは結合しない。

貴族・士族の成年男子は, s, c, z のほかに, 平民および女子供のもたない子音音素 ʃ, ɕ, ʒ, および平民のもたない音素結合 sj をもつ。s は i と e の前にのみ用いられ, [s] ~ [ʃ] である。ɕ は [ts] ~ [tʃ], z は [dz] ~ [dʒ] (ただし母音間では弱まった破擦音 [dʒ] ~ [dʒ], または摩擦音 [ʒ] ~ [ʒ]) である。貴族・士族の男子は和文, 漢文などの学習と年長者による厳しいことばづかいのしつけによって, ʃ, ɕ, ʒ, sj を獲得し, ʃ, sj を s から, ɕ を c から, ʒ を z から区別して発音できるようになる。そして, 平民や女子供の発音とみずからの発音とを区別する。

〔標準語との対応〕 標準語のサ行の子音は, 平民風発音ではすべて s に対応す

るのがふつうである。貴族・士族の成年男子の場合は、標準語の「サ(sa)」「シ(si)」「ソ(so)」の子音は s に、標準語の「ス(su)」の子音は s̥ に、標準語のサ行の「拗音」の sj は sj に対応するのがふつうである。「セ(se)」の子音は、人または語によつて s, s̥ の両方の場合がある。

標準語	首里方言
「サ」 { 「猿(sa`ru)」 「幸(saiwai)」	saaruⓄ (士)seeweeⓄ, (平)seeweeⓄ
「シ」 { 「椎(si`i)」 「島(sima`)」	siiⓄ simaⓄ
「ス」 { 「砂(suna)」 「煤(su`su)」	(士)šinaⓄ, (平)sinaⓄ (士)šiisiⓄ, (平)siisiⓄ
「セ」 { 「世間(se`ken)」 「世話(sewa`)」	sikinⓄ siwaⓄ(心配)
「ソ」 { 「側(so`ba)」 「添える(soeru)」	subaⓄ (士)šiijunⓄ, (平)siijunⓄ
「拗音」 { 「尺(sjaku`)」 「書物(sjo`mocu)」	(士)sjakuⓄ, (平)sakuⓄ (士)sjumuçiⓄ, (平)sumuciⓄ

標準語の「チ(ci)」「ツ(cu)」の子音、およびタ行の「拗音」の cj は、平民風発音では c に対応し、貴族・士族の成年男子の場合は「ツ」の子音のみが ç に、他は c に対応するのが普通である。

標準語	首里方言
「チ」 「血(ci)」	ciiⓄ
「ツ」 { 「面(cura`)」 「対(cui)」	(士)çiraⓄ, (平)ciraⓄ (士)çiiⓄ, (平)ciiⓄ
「拗音」 { 「茶(cja)」 「中風(cjuubuu)」 「ちょうど(cjoodo)」	caaⓄ cuuhuuⓄ cooduⓄ

標準語のザ行の子音および「ヂ(=ジ)」, およびザ行・ダ行の「拗音」の zj は平民風の発音では z に対応し、貴族・士族の成年男子の場合は「ザ(za)」「ズ=ヅ(zu)」「ゾ(zo)」の z は z̥ に、他は z に対応するのが普通である。ただし、貴族・士族

の成年男子の場合も zi と zi の区別は s と s̺, c と c̺ の場合ほどは厳重に守られていないようである。

標準語	首里方言	
「ザ」 「座(za)」	(士)z̺aaⓄ, (平)z̺aaⓄ	
「ジ」 「字(zi)」	ziiⓄ	
「ズ」 「水(mizu)」	(士)miziⓄ, (平)miziⓄ	
「ゼ」 「銭(ze'ni)」	ziNⓄ	
「ゾ」 「溝(mizo)」	(士)NzuⓄ, (平)NzuⓄ	
「拗音」	「蛇(zja)」	z̺aaⓄ
	「重箱(zjuubako)」	z̺uubakuⓄ
	「上等(zjootoo)」	z̺ootuuⓄ

なお、首里方言でも標準語同様、「じ」と「ぢ」、「ず」と「づ」の区別は保存されていない。

標準語の「ス」「ッ」「ズ(ず, づ)」はそれぞれ原則として、貴族・士族の成年男子の場合は si, ci, zi に、平民風発音においては si, ci, zi に対応するが(母音音素の項参照), 前後の母音に同化されて, 前者の場合に su, cu, zu, 後者の場合に su, cu, zu となることがある。

標準語	首里方言
「ス」 「裾(suso)」	(士)susuⓄ (平)susuⓄ
「ッ」 「作(cuku'ru)」	(士)c̺ukujunⓄ (平)cukujunⓄ
「ヅ」 「埋める(#uzumeru)」	(士)?uzununⓄ (平)?uzununⓄ

以上述べた貴族・士族の成年男子と平民や女子供との発音の差異は、中年以下の層では失われていて、平民風の発音となっている。ただし、標準語の普及により、若い層では標準語の sj に対応することが明らかな語については sj の発音もされる。この辞典の本文は、とくに断わらない限り、貴族・士族の成年男子式の発音に基づいて表記されている。しかし、s̺, c̺, z̺ についてはそのセディーラ(,)を除いて読み、sj については j を除いて読めば平民式発音が得られる。

(6) n

a, e, u, o の前で [n], i の前および nj の場合に [ɲ]。

〔標準語との対応〕 標準語のナ行の子音は、首里方言で n に対応するのが普

通である。また、標準語の mj, mij, mi は首里方言でしばしば次のように n に対応する。

「脈(mjaku^ː)」 naaku[Ⓞ]~mjaku[Ⓞ]

「苗字(mjo^ːozi)」 noozi[Ⓞ]~mjoozi[Ⓞ]

nuuN[Ⓞ] (機織り用語。「三読み(mijomi)」に対応する)

nuNçikee[Ⓞ]~mjNçikee[Ⓞ] (御案内。「みおみ(miomi-)」+「使い(-cukai)」に対応)

nuuN[Ⓞ] (見る。mii[Ⓞ]「見(mi)」と 'uN[Ⓞ]「居る」の複合)

nunun[Ⓞ] (飲む。numi[Ⓞ]「飲み(no^ːmi)」と 'uN[Ⓞ]「居る」の複合)

また、naa[Ⓞ](もう)は「今(#i^ːma)」に、naada[Ⓞ]は「いまだ(#i^ːmada)」に対応する形かと思われる。

(7) r

発音は標準語の r とほぼ同じ。また、rj という結合はない。

〔標準語との対応〕 標準語の語頭のラ行の子音は、那覇方言では r に対応するが、首里方言では通常 d に対応する。首里方言で語頭を r に発音するのは教養ある貴族・士族の成年男子の発音、文語的な発音、または新しい発音である。

標 準 語	{	「楽	「利	「蠟	「琉球	「両方
	{	(raku ^ː)	(ri ^ː)	(ro ^ː o)	(rjuukju ^ː u)	(rjoohoo)
首里	{	daku [Ⓞ]	dii [Ⓞ]	doo [Ⓞ]	duucuu [Ⓞ]	doohoo [Ⓞ]
方言	{	raku [Ⓞ]	rii [Ⓞ]	roo [Ⓞ]	ruucuu [Ⓞ]	roohoo [Ⓞ]

標準語の語中の「ラ(ra)」「レ(re)」「ル(ru)」「ロ(ro)」の子音は首里方言でも r に対応するのが普通である。

標準語	首里方言	標準語	首里方言
「ラ」	{	「猿	saaru [Ⓞ]
	{	「汁(si ^ː ru)」	siru [Ⓞ]
「レ」	{	「泥(doro ^ː)」	duru [Ⓞ]
	{	「古い(huru ^ː i)」	hurusaN [Ⓞ]

標準語の語中の「り (ri)」は首里方言で r が脱落して i に、標準語のラ行の「拗音」の rj も、r が脱落して j に対応するのが普通である。

標 準 語	{	「針	「まり	「ふたり	「鳥	「森	「瓜
	{	(ha ^ː ri)	(mari ^ː)	(hutari ^ː)	(tori)	(mori)	(#u ^ː ri)

首里方言 haai① maai① tai① tui① mui①(丘) ?ui①

標準語 「取る(to`ru)」 「取り合わせる(toriawase`ru)」
 首里方言 tujuN① (tui①+'uN①) tujaasjuN①

ただし、「リ」が標準語で e または i に続く場合は、首里方言でも r が保持される例が多い。

標準語 {「霧(kiri)」
 「桐(kiri)」
 「塵(ciri)」} 「襟(#eri) < あり」 「縁(heri)」 「滅り(heri)」
 首里方言 ciri① 'wiiri① hwiri① hwiri①

ただし動詞連用形「入り」「切り」などについては文法の項参照。

なお, k, g の項, N の項を参照。

(8) t, d

t は [t], d は [d] である。ともに j とは結び付かない。

〔標準語との対応〕 標準語の「タ(ta)」「テ(te)」「ト(to)」の子音は首里方言で t に、標準語の「ダ(da)」「デ(de)」「ド(do)」の子音は首里方言で d にそれぞれ対応するのが普通である。

	標準語	首里方言	標準語	首里方言	
t	「田(ta`)	taa①	d	「抱く(daku)」	dacuN①
	「手(te`)	tii①		「出来る(deki`ru)」	dikijuN①
	「鳥(tori)」	tui①		「泥(doro`)	duru①

ただし、「竹(take)」は首里方言で daki① となる。

しかし「タ」「テ」「ト」、「ダ」「デ」「ド」の子音が標準語で i に先立られている場合には、首里方言では口蓋化によって次のように, c, z に対応することがある。

	標準語	首里方言
「タ」	「板(#i`ta)」	?ica①~?ita①
	「痛い(#ita`i)」	?icasaN① (惜しい)
	「下(sita)」	sica①
「テ」	「御手(mi+te`)	'nci①
	「居て(#ite) < みて」	'ici①
	「見て(mi`te)」	'Nnci①
	「書いて(ka`ite) < 書きて」	kaci①

「ト」	{ 「いとなし(古語)」 「人(hito)」 「ひとり(hito`ri)」	ʔicunasasNⓐ (忙しい)
		Qcuⓐ
		cuiⓐ
「ダ」	{ 「左(hidari)」 「乱れ(midare`ri)」	hwizaiⓐ
		'Nzariⓐ
「デ」	「出てくいでて」	ʔNzitiⓐ
「ド」	「おみ(#omi-)」+「胴(do`o)」に対応	ʔunzuⓐ (あなた)

4 その他の音素

母音音素, 半母音音素, 子音音素のほかに, 次の2個の音素がある。

N, Q

Nはいわゆるはねる音(ン)であり, Qはいわゆるつまる音(ッ)である。Nはʔ, ' , h のいずれかとともにモーラをなし, Qはそれだけでモーラをなす。

(1) N

標準語の「ン(N)」とほぼ同様に発音されるが, 標準語の「ン」よりはいっそう成節的である⁸⁾。また, 次のように語頭のモーラとなることができる。

ʔNmaⓐ (馬) 'Nniⓐ (胸)

また, N を含むモーラが二つ以上重なる場合もある。

ʔNNDiiⓐ (蕪), ʔNNⓐ (うん。親しい同等・目下への肯定・承諾の返事)・
 'NNZunⓐ (見る), 'NNN`Nⓐ (うらん。親しい同等・目下への否定・拒絶
 の返事)

④ ʔN

ʔN または ʔNN に続くことのできる音素は閉鎖を伴う有声の子音音素に限られる。すなわち m, n, b, d, z, g の6個である。

[標準語との対応] 標準語で「マ・ナ・バ・ダ・ガ」の各行に先立つ語頭の「イ(#i)」「ウ(#u)」は首里方言で ʔN に対応することが多い。

マ行の前	{ 標準語 「いも(#imo)`」「馬(#u`ma)`」「臍(#umi)`」「梅(#ume)」 首里方言 ʔNmuⓐ ʔNmaⓐ ʔNmiⓐ ʔNmiⓐ
ナ行の前	{ 標準語 「稲(#i`ne)」 「うなぎ(#unagi)」 「うなじ(#unazi)」 首里方言 ʔNniⓐ ʔNnaziⓐ ʔNnaziⓐⓐ

バ行の前	標準語	「産湯(#ubuju)」「奪う(#uba`u)」
	首里方言	?Nbujuu① ?NbaJUN①(文語。口語はbooJUN①)
ダ行の前	標準語	「いでて(文語)(#idete)」
	首里方言	?Nziti①
ガ行の前	標準語	「動く(#ugo`ku)」「(またはその方言 #igoku)」
	首里方言	?NzucuN①

ただし、?NbiijUN①(「おびえる(#obie`ru)」に対応)、?Nbusan①(「重い(#o-moi)」に対応)の二語では ?N が「オ」に対応している。

④ 'N

?N の場合と異なり、どの子音音素の前にも立ちうる。

[標準語との対応] 標準語の漢字音に含まれる「ン」は 'N (ただし'は語中では表記しない) に対応する。

「天(te`N)」 tin①, 「三年(sa`Nnen)」 sa`Nnin①

標準語で母音、半母音以外の音に先立つ語頭の「ミ(mi)」「ム(mu)」は、次のモーラに母音 i, u を含まないとき、首里方言では多く 'N に対応する。

	標準語	首里方言
「ミ」	「御衣(みそ)(古語)」	'Nsu①
	「味噌(mi`so)」	'Nsu①
	「皆(mina`?)」	'Nna①
	「見て(mi`te)」	'Nnci①
	「御(mi-) + 鼻(hana)」	'Npana①
	「編笠(#amiga`sa)」	?anzasa①
「ム」	「胸(mune`?)」	'Nni①
	「空(muna-)」	'Nna-
	「向かう(mukau)」	'NkajUN①
	「むかで(mukade)」	'Nkazi①
	「昔(mukasi)」	'Nkasi①

ただし、「婿(mu`ko)」 muuku①, 「村(mura`?)」 mura① など例外もある。標準語で次のモーラに母音 i, u を含む場合には、首里方言でもそのまま mi, mu に対応することが多い。

「ミ」 { 標準語 「道(mici)」 「耳(mimi)」 「水(mizu)」
 首里方言 mici① mimi① miʒi①

「ム」 { 標準語 「虫(musi)」 「麦(mu'gi)」 「むつかしい(mucukasi'i)」
 首里方言 musı① muzı① muçikasjaN①

標準語の語末の「ミ」は、2モーラの場合、首里方言でも mi となることが多く、3モーラ以上だと 'N (N と書く) となる場合が多いようである。

「ミ」 { 標準語 (「蚤」 「耳」 「墨」 「波」 「海」 「神」
 (nomi' mimi' sumi' nami' #u'mi ka'mi
 首里方言 numi① mimi① şimi① nami① ?umi① kami①

「ミ」 { 標準語 (「鏡」 「しらみ」 「暗隅(九州方言)」 「御」+「神」
 (kagami' sirami kurasumi mi-ka'mi
 首里方言 kagaN① siraN① kurasiN① 'NcaN①

(ただし「君(kimi)」は ciN①~cimi① となる。)

標準語の「ニ(ni)」 「ヌ(nu)」 もときに 'N に対応することがある。

	標準語	首里方言
「ニ」	「にかい(niga'i)」	'NzasaN①
「ヌ」	「衣(ki'nu)」	ciN①
	「犬(#inu)」	?iN①

標準語の「ラ・レ・ロ・ル」に先立つ「ビ(bi)」 「ブ(bu)」 「グ(gu)」 「ズ(ず、づ)(zu)」などは次のように首里方言で 'N に対応することがある。

「くびる(kubiru 九州方言)」 kunzuN①, 「油(#abura)」 ?anda①, 「かぶる(kabu'ru)」 kanzuN①, 「めぐらす(megura'su)」 miŋwasjuN①, 「夕間暮れ(juma'gure)」 'jumangwi①, 「かずら(kazura) <かづら」 kanda①, 「はずれる(hazure'ru) <はづれる」 handijun①

② hN

hN という結びつきは感動詞の hNN① (りん), hNN① (ふん) の二語しかなく、例外的なものである。

(2) Q

標準語のつまる音(ッ)とはほぼ同じに発音されるが、いっそう成節的である。語末に立つことはなく、また、Q に続くことのできる音素は k, p, s, ʃ, c, ç, t のみで、標準語同様、有声音は続くことができない。

ʔaQkan① (歩かない), ʔaQpi① (あれだけ), 'waqsan① (悪い), ʔiQʃin① (1寸), ʔaQcuN① (歩く), kaQçikanun① (ひつつかむ), 'uQtii① (おととい)
 また、次のように語頭にも立つことができる。

Qkwa①(子。「子等」に対応⁶⁾), Qcu①(人。「人(hito)」に対応), Qsa①(しより),
 Qsi①(しろ, せよ), Qsi①(して。「して(site)」に対応), Qci①(来て。「来て(kite)」に対応)

ただし語頭に Q の立つ例は以上で全部である。3 モーラ以上の例は上の語を成分とする複合語 (QcubaQpee①「人違い」など), 上の語に助詞の付いた形 (Qeoo①「人は」など) のほかに例がない。

〔標準語との対応〕 標準語の漢字音に含まれる「つまる音(っ)」はふつう Q に対応する。

「一杯(#iQpai)」ʔiQpee①(非常に), 「鉄砲(teQpoo)」tiQpuu①
 他の場合は繁雑なので省略。なお k の項参照。

5 例外的な発音

音素体系の例外をなすものとしては、これまでに述べた ʔm, hN のほかに、次のような応答, 呼び掛けの感動詞に限って現われる鼻音化現象がある。

はい(肯定・承諾) はい(呼ばれたときの返事) いいえ(否定・拒絶) さあ(呼び掛け)

目下の年長へ ʔoo①[ʔō'ō] hoo①[hōō] 'ooo'o①[ōōō'ō] 'oohoo①[ōōhōō]
 目下・親しい同等へ ʔii①[ʔī'ī] hii①[hī'ī] 'iii'i①[ī'ī'ī'ī] 'iihii①[ī'īçī'ī]

これらの8語はいずれも普通は鼻音化して発音され, もし鼻音化しないと, ぶっきらぼうな, または乱暴な印象を与える。

6 モーラ(短音節)の種類

以上に述べた各音素の組み合わせによってできる首里方言のすべてのモーラ(短音節)を一覧表にすれば, 次のページの表となる。[]で示したものはそのモーラが語頭に用いられた場合の国際音声表記である。その下の仮名は島袋盛敏氏が稿本で用いた仮名表記である。

hi	he	ha	ho	hu	hja	hjo	hju
[çi]	[he]	[ha]	[ho]	[Φu]	[ça]	[ço]	[çu]
ヒ	ヘ	ハ	ホ	フ	ヒャ	ヒョ	ヒュ

hwi	hwe	hwa	hN
[Φi]	[Φe]	[Φa]	[nŋ] ~ [Nŋ]
フイ	フエ	フワ	

ʔi	ʔe	ʔa	ʔo	ʔu	ʔja	ʔjo	ʔju
[ʔi]	[ʔe]	[ʔa]	[ʔo]	[ʔu]	[ʔja]	[ʔjo]	[ʔju]
イ	イエ	ア	オ	ウ	イヤ	イョ	イユ

ʔwi	ʔwe	ʔwa	ʔN	ʔme
[ʔwi]	[ʔwe]	[ʔwa]	[ʔm] ~ [ʔŋ] ~ [ʔŋ]	[ʔme]
ウキ	ウエ	ウワ	ム	メ

'i	'e	'a	'o	'u	'ja	'jo	'ju
[ji]~[i]	[je]	[a]	[o]	[wu]~[u]	[ja]	[jo]	[ju]
キ	エ	ア	オ	ウ	ヤ	ヨ	ユ
(キ)	(エ)	(ア)	(オ)	(ウ)			
イ							

'wi	'we	'wa	'N
[wi]	[we]	[wa]	[m]~[ŋ]~[ŋ]
エイ	エ	ワ	ン ~ [N]
(エイ)	(エ)		(ン)
ウイ	ウエ		

ki	ke	ka	ko	ku
[ki]	[ke]	[ka]	[ko]	[ku]
キ	ケ	カ	コ	ク

kwi	kwe	kwa
[kwi]	[kwe]	[kwa]
クキ	クエ	クワ

gi	ge	ga	go	gu
[gi]	[ge]	[ga]	[go]	[gu]
ギ	ゲ	ガ	ゴ	グ

gwi	gwe	gwa
[gwi]	[gwe]	[gwa]
グキ	グエ	グワ

pi	pe	pa	po	pu	(pja)	(pju)
[pi]	[pe]	[pa]	[po]	[pu]	[pja]	[pju]
ピ	ペ	パ	ポ	プ	ピャ	ピュ

bi	be	ba	bo	bu	(bjā)	(bjō)	(bjū)
[bi]	[be]	[ba]	[bo]	[bu]	[bjā]	[bjō]	[bjū]
ビ	ベ	バ	ボ	ブ	ビャ	ビョ	ビュ

mi	me	ma	mo	mu	mja	mjo	mju
[mi]	[me]	[ma]	[mo]	[mu]	[mja]	[mjo]	[mju]
ミ	メ	マ	モ	ム	ミャ	ミョ	ミュ

si	se	sa	so	su	sja	sjo	sju
[ʃi]	[ʃe]	[sa]	[so]	[su]	[ʃa]	[ʃo]	[ʃu]
シ	シェ	サ	ソ	ス	シャ	ショ	シュ

ʃi	ʃe
[si]~[ʃi]	[se]
スイ	セ

ci	ce	ca	co	cu
[tʃi]	[tʃe]	[tʃa]	[tʃo]	[tʃu]
チ	チェ	チャ	チョ	チュ

çi	(çe)	(ça)	ço	çu
[tʃi]~[t,ʃi]	[tʃe]	[tʃa]	[tʃo]	[tʃu]
ツイ				ツ

zi	ze	za	zo	zu
[dʒi]	[dʒe]	[dʒa]	[dʒo]	[dʒu]
ジ	ジェ	ジャ	ジョ	ジュ
ヂ	ヂェ	ヂャ	ヂョ	ヂュ

zi	ze	za	zo	zu
[dʒi]~[dʒi]	[dʒe]	[dʒa]	[dʒo]	[dʒu]
ツイ	ゼ	ザ	ゾ	ズ・ヅ

ni	ne	na	no	nu	nja	nju
[ni]	[ne]	[na]	[no]	[nu]	[na]	[nu]
ニ	ネ	ナ	ノ	ヌ	ニャ	ニュ

ri	re	ra	ro	ru
[ri]	[re]	[ra]	[ro]	[ru]
リ	レ	ラ	ロ	ル

ti	te	ta	to	tu
[ti]	[te]	[ta]	[to]	[tu]
ティ	テ	タ	ト	トゥ

di	de	da	do	du
[di]	[de]	[da]	[do]	[du]
ディ	デ	ダ	ド	ドゥ

Q
[ʃ][tʃ][k]
ッシ (qsi), < ヲ (qkwa), ちュ (qcu)

前のページのうち、太い線で囲んだ部分は貴族・士族の成年男子のみが用いるものである。また、音素表記を()でくくったものは、そのモーラが語頭に用いられる例が見いだされないことを示す。また、島袋氏の仮名表記には、語頭と語頭以外で違った表記がなされている場合があるが、その場合は語頭以外の場合を()に入れて示してある。()の中に二種以上の表記のあるものは、そのモーラが語頭以外で二種以上の表記がなされていたことを示す。島袋氏の仮名表記は、'の系列やzとgの系列などにわずかな不統一があるほかは、不便な仮名によって各モーラをたくみに表記し分けたものである。島袋氏の稿本にそのモーラを含む語がなかった場合には、島袋氏の表記の欄が空欄になっている。

なお、これらのモーラを含む語例については、本文篇凡例、本文篇を参照。

7 文語の伝統的表記法

組踊り、琉歌などは沖縄独特の漢字仮名まじり文で表記されている。その表記法はそれを読む場合の発音と大きく食い違っており、ためにこれら沖縄文学は本土の人々に読みにくいものとなってしまっている。この辞典にも、その表記によって組踊り、琉歌などを引用しているので、その表記法についてもここで簡単に触れておきたい。

先にも述べたように、「おもろさうし」は変体仮名を含む平仮名で書かれ、漢字はほんの少ししか用いられていない。これは島津の琉球入り以前から成立していた表記法で、当時の発音と表記との関係はまだ充分明らかにはされていない。組踊りや琉歌の表記も、「おもろさうし」式の表記を大体受け継いでいるが、「おもろさうし」のそれに比べると、標準語文語の知識に支えられている点がいっそう多く、漢字もかなり多く用いられているし、仮名の使い方も、発音との関係がはっきりしている。そして組踊り、琉歌を通じて大体固定化しており、今日でも琉歌を表記する場合などにしばしば用いられている。仮名は、一定の慣用的規則によって方言音を表わして使い分けられている。伊波普猷氏が「琉球戯曲集」の序文に、組踊りの仮名の使い方を実際の発音と対照させた一覧表を掲げているので、ここではその発音の表記をこの辞典に使用した音素表記に改めて、さきにあげたモーラの一覧表に準じて配列したものを次に掲げることとする。

hi ひへ	hee はいへ	ha は	hoo ほう	hu ふほ	hja ひや	hjoo ひやう	hju ひゆよ	hwi ひへ	hwee はいへ	hwa は
ʔi いえ	ʔee あいえ	ʔa あ	ʔoo あうお	ʔu うお	ʔja いや	ʔjoo いやう	ʔju いゆいふ	ʔwi ういへいおへ	ʔwee おや	ʔwa うはうわおあ
ʔiri ゐるゑ	ʔee やい		ʔoo わり	ʔu を	ʔja や	ʔjoo やう	ʔju ゆよ	ʔwi ゐるゑ	ʔwee わい	ʔwa わ
ki きけ	kee かいかえ	ka か	koo かふう	ku くこ				kwi くゐいひゑ	kwee くわい	kwa くわ
gi ぎげ	gee がいがえ	ga が	goo がう	gu ぐこ				gwi ぐゐいひゑ	gwee ぐわい	gwa ぐわ
pi ぴへ	pee ぱい	pa ぱ	poo ぱう	pu ぷほ	pja ぴや	pjoo ぴやう	pju ぴゆべう			
bi びへ	bee ばいへ	ba ば	boo ばう	bu ぶほ	bja びや	bjoo びやう	bju びゆべう			
mi みめ	mee まいへ	ma ま	moo まう	mu むも	mja みやめ	mjoo みやう	mju みゆみお			
si しせ	see しやい	sa さ	soo さう	su すそ	sja しや	sjoo しやう	sju しゆしよ			
ʔi す	ʔee あいは									
ci ちぎ	cee ちやい	ca ちや	coo ちやう	cu ちゆちゆよ						

çi つ	çee つあい	ça つあ	çoo つあう	çu つ			
zi じ ぢ ぎ	zee じやい ぢやい ぎやい	za じや ぢや ぎや	zoo じやう ぢやう ぎやう	zu じゆよ ぢゆよ ぎゆよ			
zi ず	zee ざい	za ざ	zoo ざう	zu ぞ			
ni に (nyi) ね (ni)	nee にやい (nyê) ない (nê)	na な	noo なう	nu ぬ の	nja にや	njoo にやう	nju にゆ によ
ri れり	ree らい	ra ら	roo らう	ru る ろ	rja りや	rjoo りやう	rju りゆ りよ
ti て	tee たい	ta た	too たう	tu と			
di で	dee だい	da だ	doo だう	du ど			

ただし、このもとの表がどの程度精密な調査によったものかは明らかでない。また、この表には「はねる音(?Nと'N)」と「つまる音(Q)」がないが、?Nは「い」または「う」、'Nは「ん」「ぬ」「む」「も」、Qは「つ」のように表記されるのが普通のものである。また、表中の rja, rjoo, rju は口語にはないものである。伊波普猷はまた、このもとの表で本土方言の「ニ(ni)」に対応する「に」をnyi, 本土方言の「ネ(ne)」に対応する「ね」をni, また「にやい」をnyê, 「ない」をnêのように表記し分けているが、現代の首里方言には、文語を読む場合にもこのような区別はなく、「ね」「に」はともに ni⁹⁾, 「にやい」「ない」はともに nee である。

漢字は、本土方言の場合と同様に用いられるほか、沖縄独自の語を表わすために、表音的または表意的な慣用字として組踊り・琉歌などの中に限らず、和文の文書などの中にも多く用いられる。

〔親雲上〕 peeciŋ①(位階名)

〔按 司〕 ?azi①~?anzi①

〔宮童・美童〕 mijarabi①(おとめ。「女童」に対応。)

[加那志] -ganasi(敬愛の意を表わす接尾辞)

[小] -gwaa(東北諸方言の「こ」に似た接尾辞。<Qkwa㊦子)

[美] mi-~'N-(敬語の接頭辞。「御(み)」に対応。) [城] guʃiku㊦(城)

[無蔵] 'Nzo㊦(愛人。男から女をいう。文語)

慣用字のもっとも多いものは地名¹⁰⁾と人名(ことに姓)であり、これらの大部分は本土方言の人には読むことができない。たとえば次のようなものである。

[喜屋武]caN㊦ [宜野湾]zinoon㊦ [仲村渠]nakanɔakari㊦

[保栄茂]bin㊦ [国頭]kunzan㊦ [今帰仁]nacizin㊦

8 アクセント

首里方言のアクセントは平板型と下降型の二つに分かれる。音韻表記の末尾に平板型を㊦で、下降型を㊧で示す。アクセントは単語ごとに定まっているが、アクセントの単位をなすものはいわゆる「文節」である。

平板型のアクセントを持つ単語は、はじめ中程度のあるいはやや低い高さで始まり、終わりまで大体同じ高さが続く。

ʔaa㊦[ʔa:](泡), ʔami㊦[ʔami](雨), sjumuɕi㊦[ʃumutsi](本), sutumiti㊦[ʃutumiti](朝)

下降型のアクセントを持つ単語は平板型の単語よりも高く始まり、かつ第1モーラは第2モーラ以下と比べてやや強く発音される。そして2モーラの単語の場合には第1モーラだけが高く、第2モーラは低い。

kaa㊧[kaː'](井戸。「川」に対応), hana㊧[haː'na](鼻)

3モーラ以上の下降型の単語では、通常第2モーラまでが高く、以下のモーラは低く終わりまで平らに続く。

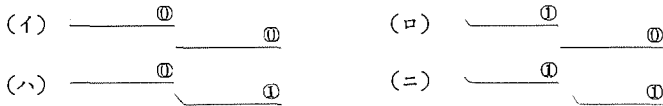
tubun㊧[tubuː'N](飛ぶ), nacigwii㊧[natʃiː'gwi:](泣き声), ʔNmaridusi㊧[ʔm̩maːriɕuːʃi](十二支の上の生まれた年)

しかし、第2モーラが'と母音音素からなる場合、および第2モーラが'Nである場合には第2モーラも低くなる傾向があり、とくに第1・第2モーラがいわゆる「長母音」となる場合にはその傾向が著しい。

taaci㊧[taː'rtsi](二つ), naasati㊧[naː'sati](翌々日)

首里方言のアクセントには、不完全ながら文節の切れ目を認知させるための機能

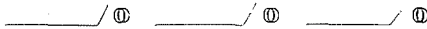
も認められる。すなわち、文中にあって後の文節は前の文節よりも全体として低く発音される傾向がある。すなわち、二つの文節が続く場合、それらが平板型であるか下降型であるかによって四通りの組み合わせができるが、比嘉春潮氏の発音によってそれぞれを図式的に示すと次のようになる。¹¹⁾



首里方言では平板型の単語の方が下降型の単語に比してずっと多いので、この四つのうち(イ)の組み合わせが一番多い。平板型の文節が続く場合には、文節はつぎのように段階的に下降する。



また、平板型の文節は末尾のモーラがやや上昇する場合があるが、その場合、平板型の連続は下のようになり、やはり文節の認知に役立つ。



首里方言ではすべての文節が平板型、下降型のいずれかに属するが、一部の複合語および、種々の助詞や接尾形式のついたもののうちには、次のように二次的な下降をもつものがある。その下降を´によって示す。

ʔuukuba`a①(奥歯) ʔjumaŋta`N①(読まなかった)
 muujaba`aja①(家の中央部の柱) ʔwaacimiʃe`eN①(お歩きになる)
 tuimudusju`N①(取り戻す) kagusimama`di①(鹿兒島まで)

しかし、下降型の単語の場合には、初めの下降が著しいために二次的な下降はあまり目立たず気付きにくい。また、長い単語の場合、二次的な下降が二つ認められる場合があるが、その場合も一方がさして目立たず気付きにくい。

ʔjudoote`era`a①(読んでいたのなら)
 ʔjudeeta`nte`eN①(読んであったところで)

また、平板型の二つの形式が結合して複合語となる場合、その複合語も多くは平板型となるが、二つの結合度が弱い場合に、たとえば次のように二次的な下降がその継ぎ目に現われることがある。

taruu①(太郎)+sjumuçi①(本) taruu`sjumuçi①(太郎の本)

その場合、前の形式が2モーラであると、その複合語は○○`○○○…のような

形となり、下降型アクセントを持つ形式と型がほぼ同じになる。しかし、前の形式がいわゆる長母音の場合でも二次的下降は第2モーラのあとで起こる場合があるので、その場合は、いわゆる長母音で始まる下降型の単語とは下降の場所が異なる。

nuu`sigutuⓄ(何の仕事), 'ii`kaŋgeeⓄ(いい考え)

この辞典の見出し語にアクセントを記入した時にはこの事実気付かなかつたので、このような場合の本文見出し語のアクセントの記入には、一部ではあるが、不十分な箇所があるように思われる。しかし一般に、首里方言の複合語のアクセントは、その第1成分が平板型である場合にはいつも平板型となるから、本文見出し語に、第1成分(2モーラ)が自立語として用いられた場合に平板型であるのにその複合語が下降型と記されているものがあれば、それはこの種の二次的下降をもつ平板型と見なすことができる。

〔標準語との対応〕 琉球諸方言のアクセントの型の統合のしかたは、全体として九州諸方言のそれに似ている。うち、首里方言のそれは、九州西南部の二型アクセントのそれと似かよった面がある。金田一春彦博士の類別法に従って「一音節」および「二音節」の名詞について示せば次のようになる。()の中は東京方言のアクセントによる標準語。

下降型	「一音節名詞」	1類 「血(cɪ)jciɪⓄ, 「帆(ho)jhuuⓄなど。
		2類 「名(na)jnaaⓄ, 「葉(ha)jhwaɑⓄなど。
	「二音節名詞」	1類 「鼻(hana)jhanaⓄ, 「風(kaze)jkaziⓄなど。
		2類 「音(#oto)jʔutuⓄ, 「橋(hasi)jhasiⓄなど。
平板型	「一音節名詞」	3類 「木(ki)jkiiⓄ, 「田(ta)jtaaⓄなど。
		3類 「花(hana)jhanaⓄ, 「耳(mimi)jmimiⓄなど。
		4類 「息(#i'ki)jʔiiciⓄ, 「今日(kjo'o)jcuuⓄなど。
	「二音節名詞」	5類 「桶(#o'ke)j'uukiⓄ, 「声(ko'e)kwiiⓄなど。

注目すべき現象として「二音節」名詞の4類・5類に属する単語のうち一群のものが、その「第一音節」が長くなることがあげられる。

4類 「息(#i'ki)jʔiiciⓄ, 「糸(#i'to)jʔiicuⓄ(絹)~jʔiicuuⓄ(糸), 「奥(#o'ku)jʔuukuⓄ, 「帯(#o'bi)jʔuubiⓄ, 「空(so'ra)に対応?」suuraⓄ(先. 梢), 「中(na'ka)jnaakaⓄ, 「箸(ha'si)jhaasiⓄ, 「臼(#u'su)jʔuuʂiⓄ, 「松(ma'cu)jmaaʂiⓄ など。

5類 「影(ka'ge)」kaagiⓄ (ただし kaziⓄ という形もある), 「猿(sa'ru)」saaruⓄ, 「婿(mu'ko)」muukuⓄ, 「桶(#o'ke)」'uukiⓄ, 「蛇(he'bi)に対応?」hwiibuⓄ(蛇) など。

しかし, 同じ4類・5類であっても, 次のように長音化しない語もある。

4類 「跡(#a'to)」?atuⓄ, 「粟(#a'wa)」?awaⓄ, 「稲(#i'ne)」?nniⓄ, 「海(#u'mi)」?umiⓄ, 「笠(ka'sa)」kasaⓄ, 「槽(ka'su)」kašiⓄ, 「今日(kjo'o)」cuuⓄ, 「汁(si'ru)」siruⓄ, 「下駄(geta)」zitaⓄ(足駄), 「筋(su'zi)」šiziⓄ, 「綾(ze'ni)」ziNⓄ, 「種(ta'ne)」taniⓄ(男根), 「苗(na'e)」neeⓄ など。

5類 「汗(#a'se)」?asiⓄ, 「雨(#a'me)」?amiⓄ, 「蔭(ka'ge)」kaziⓄ (ただし kaagiⓄ という形もある), 「琴(ko'to)」kutuuⓄ, 「露(cu'ju)」çijuⓄ, 「春(ha'ru)」hwaruⓄ (ただし文語), 「鶴(cu'ru)」çiruⓄ, 「秋(#a'ki)」?aciⓄ (ただし文語)など。

注

- 1) 「編集経過の概要」に記したように, 首里方言の音素体系を研究するに際しては, 服部四郎博士の指導を受けた。したがって, ここに述べるものも, 博士の「琉球語」(「世界言語概説」下巻1955)の記述を基礎にしている。
 - 2) 以下単に「標準語」という場合には, 東京方言の話し手によって発音された場合のそれをいう。なお, 対応形としてあげる標準語は「」に入れて示し, さらに()に入れて標準語の音素表記とアクセント(の下がり核)を示す。(本土の他の方言や文語を対応語としてあげる場合はアクセントを示さない。)標準語の音素表記中, #は語頭のゼロ子音音素を示す。また, 標準語の音素表記と首里方言のそれとでは, e, s, z の場合に違う音声を表わす場合があることに注意。すなわち, 標準語の「ツ(cu)」 「チャ(eja)」 「チュ(cju)」 「チョ(ejo)」 「セ(se)」 「ズ(zu)」 「ジャ(zja)」 「ジュ(zju)」 「ジョ(zjo)」 と近似の音をもつ首里方言のモーラは, それぞれ, çu, ca, cu, co, şe, zu, za, zu, zo のように記される(子音音素 c, s, z; ç, ş, z の項参照)。
- また, 標準語の動詞・形容詞の「終止形」を対応語としてあげてある場合, その語尾の部分はふつうそのまま首里方言に対応しない(文法の項参照)。しかし, とくに必要な場合を除き, いちいちそのことを断わらない。
- 3) [] でくっつてあるローマ字母による表記は音声表記。その他のローマ字母表記はすべて音素表記である。
 - 4) 声門破裂音 [ʔ] とは, 喉頭にある声門を一たん閉じておいてから急激に開く時に発する音である。咳のはじめの音や, 便所でいきむ時の音は強い声門破裂音である。また, 口を大きくあけておいたまま息を止めることができるのは, 声門が閉ざされるからである。

- 5) ただし、琉球方言の中には、名瀬方言などの奄美大島北部方言のように、[ʔma](馬), [ʔpi](稲)のような語があって、鼻音が声門破裂音をもつかどうかによって別の子音素となる方言もある。このような方言では

$\mu([\ʔm]) : m([m])$

$\nu([\ʔn] \sim [\ʔp]) : n([n] \sim [ɲ])$

のような音韻的対立があると考えられる。

- 6) 村山七郎氏が「日本語の比較研究から」(「国語学」47号)でこの語に関して述べられた箇所を上村の言として「日本語のoに対応する琉球語のuの後ろに立つrが消滅する確実な例は1つもない」と記されているが、これは村山氏と上村とが電話で話をしたため、話を通じなかったものであり、「本土方言のkor-に琉球方言でkw-が対応する確実な例を上村は知らない」の意であった。したがって、首里方言のQkwa①(宮古島東仲宗根方言では[ffa], 奄美大島諸鈍方言では[k'wa¹], 喜界島阿伝方言では[k'a]となる)と本土方言のkoraとの対応の可能性は充分考えられるが、まだ証明されたとは言えない。なお、語中のrに関しては、子音素rの項の説明にある通りである。
- 7) 島袋盛敏氏の発音ではsの場合が多く、比嘉春潮氏の発音ではʃの場合が多いようである。
- 8) すなわち、標準語と同様、後続の音によって調音位置が異なる。ʔnmi①(梅)[m̥mi], 'Nna①(皆)[ɲna], 'Nkasi①(昔)[ŋkaʃi]など。ただし、服部博士は、このNはふつり同時に[N]の調音も伴うようだと言っている(琉球語「世界言語概説」下巻1955)。
- 9) 首里方言では、標準語の「ネ」「ニ」に対応する音はともにni([ni], ただしnの口蓋化の程度は標準語のそれに比してやや少ないように思われる)であり、両者は区別されない。しかし、たとえば喜界島阿伝方言では「ネ」は[ni], 「ニ」は[ɲi]であり、両者の区別が保たれている。首里方言でも一時代前までこれと同じような仕方でも両者の区別がなされたのかもしれない。
- 10) 付録の地名一覧を参照。
- 11) ただし、前の「文節」があとの「文節」に直接統合される場合など、二つの「文節」が文論上近い関係にある場合に限る。長い文の中で二つの文節の間に大きな文論上の切れ目がある場合はこの限りでなく、またそのことが長い文の中で文節と文節との関係を示すのに役立つ。

IV 首里方言の文法¹⁾

以下に文法として述べることは、辞典を利用するために必要な限りの動詞・形容詞・連詞の形態論的な構造にとどめる。

1 動詞

(1) 動詞の活用

① 規則動詞

動詞の活用形の例として、たとえば動作性の意志動詞の中から 'junuN①「読む」について「…する(肯定普通態現在の「終止形」)」という形と、「…しない(否定普通態現在の「終止形」)」および「…して(普通態の「分詞」)」という形とをあげると、次のようになる。

'junuN① (読む), 'jumaN① (読まない), 'judi① (読んで)

首里方言の動詞の諸種の活用形や派生形式は、不規則動詞を除き、この三つの形を知ればそれから類推することができる。したがって、本文の規則動詞の見出し語にはこの三つの形だけを示した。たとえば、

'ju=nuN① (他 =maN, =di)

とあるのは、この三つの形が 'junuN①, 'jumaN①, 'judi① であることを示す。

この三つの形に含まれている 'jun-, 'jum-, 'jud- を語幹と呼ぶことにし、服部四郎博士に従って 'jun- を連用語幹, 'jum- を基本語幹, 'jud- を音便語幹と呼ぶことにする。²⁾ この三つの語幹は末尾の子音が n, m, d のように交替している。

つぎに、'junuN①にならって首里方言の規則動詞のすべての型について「…する」「…しない」「…して」の三つの形と、ほかに「…し(いわゆる「連用形」)」とをあげると次のようになり、首里方言には次の14種類の規則動詞が認められることになる。語幹末の交替する部分をゴチックで示す。

	「…する(肯定普通態現在の「終止形」)」	「…し(肯定普通態の「連用形」)」	「…しない(否定普通態現在の「終止形」)」	「…して(肯定普通態の「分詞」)」
(i) イ.	tujun① (取る)	tui① (取り)	turan① (取らない)	tuti① (取って)
ロ.	?ukijun① (起きる)	?ukii① (起き)	?ukiran① (起きない)	?ukiti① (起きて)
ハ.	?ukijun① (受ける)	?ukii① (受け)	?ukiran① (受けない)	?ukiti① (受けて)
ニ.	koojun① (買う)	kooi① (買い)	kooran① (買わない)	kooti① (買って)
(ii)	'warajun① (笑う)	'waree~'warai①(笑い)	'wara?'an① (笑わない)	'warati① (笑って)
(iii)	kaNzun① (かぶる)	kanzi① (かぶり)	kandan① (かぶらない)	kanti① (かぶって)
(iv)	kacun① (書く)	kaci① (書き)	kakan① (書かない)	kaci① (書いて)
(v)	nasjun① (産む)	nasi① (産み)	nasan① (産まない)	naci① (産んで)
(vi)	kunzun① (くびる)	kunzi① (くびり)	kundan① (くびらない)	kuNei① (くびって)
(vii)	cijun① (着る)	cii① (着)	ciran① (着ない)	cici① (着て)
(viii)	tubun① (飛ぶ)	tubi① (飛び)	tuban① (飛ばない)	tudi① (飛んで)
(ix)	'junun① (読む)	'jumi① (読み)	'juman① (読まない)	'judi① (読んで)
(x)	?wiizun① (泳ぐ)	?wiizi① (泳ぎ)	?wiigan① (泳がない)	?wiizi① (泳いで)
(xi)	?irijun① (入れる)	?irii① (入れ)	?iriran① (入れない)	?iqti① (入れて)
(xii)	'jumarijun① (読める)	'jumarii① (読め)	'jumarana① (読めない)	'jumaqti① (読めて)
(xiii)	tacun① (立つ)	taci① (立ち)	tatan① (立たない)	taqci① (立って)
(xiv) イ.	cijun① (切る)	cii① (切り)	ciran① (切らない)	ciqci① (切って)
ロ.	?ijun① (射る)	?ii① (射)	?iran① (射ない)	?iqci① (射て)

それぞれの種類の、標準語文語との対応およびその種類に属する動詞の例をあげれば次のようである。

(i) イ. ラ行四段の大部分。?atajun①(「当る」), keejun①(「返る」) など。

ロ. 上二段の大部分。?wiijun①(「老ゆ」), ?izijun①(「過ぐ」) など。

ハ. 下二段の大部分。meejun①(「燃ゆ」), tatijun①(「立つ」), 'iijun①

(もらう。「得」に対応) など。

ニ、ハ行四段のうち、語幹末に a を有するものの一部。moojun①(「舞ふ」), hoojun①(「這ふ」), ʔoojun①(「戦う」。「合ふ」に対応), noojun①(「縫う」。「絢ふ」に対応?), boojun①(「奪ふ」) など。音便語幹からの類推によって生じた種類である。

(ii) ハ行四段のうち、語幹末に a を有するものの一部。narajun①(「習ふ」), çikajun①(「使ふ」) など。ただし、この種類に属する語は、人によって「…しない」の形が nararan①(「習わない」) などのように(i)の型となる場合がある。

(iii) ラ行四段のうち、語幹末に bu などをも有するもの。ʔanzun①(「炙る」), 'janzun①(「そこなる」。「破る」に対応), ninzun①(「眠る」) など。

(iv) カ行四段。ʔaqeun①(「歩く」), eicun①(「聞く」), hwicun①(「引く」) など。

(v) サ行四段。ʔnzasjun①(「出す」), noosjun①(「直す」), toosjun①(「倒す」) など。

(vi) ラ行四段のうち、語幹末に bi などをも有するもの。不規則動詞 'nnzun①(「見る」) もこれに近い。

(vii) 上一段の大部分。nijun①(「似る」), nijun①(「煮る」), 'ijun①(「坐(ゐ)る」) など。

(viii) バ行四段。'jubun①(「呼ぶ」), ʔaʃibun①(「遊ぶ」), kurubun①(「転ぶ」) など。

(ix) マ行四段。nunun①(「飲む」), 'uganun①(「拝む」), 'janun①(「病む」) など。

(x) ガ行四段。kuuzun①(「漕ぐ」), ʔisuzun①(「急ぐ」), çizun①(「繕ぐ」) など。

(xi) ほかに、hwirijun①(「拾う」)。また受身動詞。たとえば 'jumarijun①(「読まれる」), ʔutarijun①(「打たれる」), 'jubarijun①(「呼ばれる」) など。

(xii) 規則的に作られる可能動詞。たとえば tatarijun①(「立たる」), kakarijun①(「書かる」), 'waraarijun①(「笑はる」) など。

(xiii) タ行四段。ʔucun①(「打つ」), macun①(「待つ」), mucun①(「持つ」) など。

(xiv)イ. 標準語で2モーラのラ行四段で、その語幹に i を有するもの。ʔijun①(「入る」自動詞), ʔijun①(「要る」), sijun①(「知る」) など。

ロ. 上一段の一部。ほかに hwijun①(「干る」), 下一段の kijun①(「蹴る」)。ただしこの kijun① は(i)ロの種類を活用もする。

なお、これらのうち「…する」の形が ijun で終わっているもの、すなわち、(i)ロ, (i)ハ, (ii), (vii), (xi), (xiv)イ, (xiv)ロの各種は、「…する」の形を iin で終わることもできる。すなわち, ʔukiin①(「起く」), ʔukiin①(「受く」), ciin①(「着る」), ʔiriiin①(「入る」他動詞), ʔjumariin①(「読まる」), ciin①(「切る」), ʔiin①(「射る」) などのようにもいう。また、(ix)の「…する」の形は首里周辺には nun で終わるかわりに ʔjumun①(「読む」) のように mun で終わることもあり、首里では、古風な形としては ʔjumjun①ということもある。

② 動詞のいろいろな形

次に ʔjunun① を例として、各語幹と「連用形」から作られるいろいろな形とを一覧表にして示す。なお、その中には ʔun①(いる)との複合によるものがあるが、その ʔun①の語幹までが含まれている形を融合語幹と呼ぶことにする。

一覧表のうちゴチックで示してあるものは、その形がさらにいろいろに活用することを示す。矢印によって、その形について解説してある章節の番号を示してある。普通の活字で示してあるものは、ʔjunun①の肯定普通態現在に属する形(→(2)①)である。肯定普通態現在のいろいろな形を代表するものは、その「終止形」(ʔjunun①ならば ʔjunun① がそれ)である。なお、アクセントはこの場合すべて①なのでいちいち記さない。

この ʔjunun① の一覧表から、他の規則動詞についても類推によって同様な形を作ることができる。

基本語幹から	ʔjum-	{ <ul style="list-style-type: none"> -an(読まない)→(2)⑦⑧ -arijun³(読まれる)→(3)⑥ -arijun³(読める)→(3)⑥ 	ʔjum-	{ <ul style="list-style-type: none"> -asjun³(読ませる)→(3)⑦ -a (読もう) -aʔii(読もうよ) -ana(読みたいな)
--------	-------	--	-------	---

- 'jum- { -ajumaa(読もう読もうと)
- aa(-awa)(読んだら)
- ee(読めば)
- ee 'jaa①(読もうかな)
- iwadu(読めばこそ)
- i(読め)
- ee(読めよ)
- uganaasi③(読めるだけ)
- una④(読みな。'jumaN⑩の命令の形→②⑦⑧)
- una'kee(読みなよ)
- uka(読むほど)

「連用形」から

- 'jumi- { -busjaN(読みたい)→③④
- gisaN(読むそうだ)→③①
- juusju'N(読むことができる)→③⑤
- mišeeN~NšeeN(お読みになる)→③③

ほかに -hansjuN(読みそこなり), -eijuN(読みきる), -hazimijuN(読み始める) その他の語彙論的な複合語が作られる。

'jumi⑩(読み=「中止形」)

- 'jumi⑩ { -du(読みこそ)
- 'duN(読みこそも)
- ga(読みに)
- N(読みも)

'jumiini(読む時に)~'jumiinee⑤(読むと)

'jume⑩(<'jumi+-ja)(読みは)

連用語幹から

- 'jun- { (-abiin(読みます)→②⑨)
- agijun(読みつつある)→③②
- agacii(読みながら)

融合語幹から

(基本語幹的)

- 'junur- { -a(読むどころか)
- aa(読むのなら)
- ee(読むならば)

(「連用形」的)

'junui⑩(読んでおり=「中止形」)

- 'junui- -gi'saN(読んでいるそうだ)→③①

- 'junui⑩ { -'duN(読むのででも, 'junui'duN⑩ see①「読むのででもあれば」すなわち, 'junuree⑩を強調した形)

- 'junuir-⑥ { -a(読んでいるどころか)
- aa(読んでいるのだったら)
- ee(読んでいるのなら)

(短縮形語幹)⁷⁾

- junu- { -ga(読むか)
- kutu(読むので)
- mi(読むか)
- N(読む。「終止形」)
- ru(読む。「連体形」)
- 'ruN(読むものだから)
- sa(読むよ)
- ši(読むの。「準体形」)
- šiga(読むが)

(音便語幹的)

'junut- { -aN(読んでいた)→(2)⑤
 -eeN(読んでいたのだ)→(2)⑥
 -ii(読んでいたか。'junutan
 ⑩ の質問の形→(2)⑤)

音便語幹から

'jud- { -aN(読んだ)→(2)⑤⑨
 -eeN(読んでもある)→(2)③⑤⑥
 ⑨
 -eeN(読んだのだ)→(2)⑥)

'jud- { -oo'cuN(読んでおく)→(2)④
 ⑤⑥⑨
 -oon(読んでいる)→(2)②⑤
 ⑥⑨
 -ai(読んだり)
 -i(読んで)
 -idu(読んでこそ)
 'judee('judi+-ja)(読んでは)
 'jud- { -ii(読んだか。'judan⑩ の質
 問の形→(2)⑤)
 -iN(読んで)

この表の普通の活字で示した形式のうち、融合語幹から作られる形は「連用形」と「居り」に対応する 'uN① との複合によって生じたものである。⁸⁾

なお、'junuga⑩、'junumi⑩、'junun⑩、'junuru⑩、'junu'ruN⑩、'junusa⑩、'junuši⑩、'jnnuşıga⑩ は、「読むか」「読むか」「読む」…など標準語の動作性動詞の現在の形がもつ意味のほかに、「読んでいるか」「読んでいるか」「読んでいる」…など現在の動作の進行・反覆など、現在の状態をも意味しうる。たとえば、nuu⑩ sjuja① は「何をするか」のほかに「何をしているか」も意味しうる。

③ 不規則動詞

①に述べた14種のどれにも属さない動詞を不規則動詞と呼べば、不規則動詞には次のようなものがある。

(イ) ?aN①(ある)、'uN①(いる)、meen①～moojuN①(「いる」「行く」「来る」の目下の年長に対する敬語)、mişeen①(なさる。「する」の敬語)、?menşeen①(いらっしやる。「いる」「行く」「来る」の敬語)、そのほか -mişeen、-Nşeen で終わる敬語動詞、たとえば 'jumimişe'en①(お読みになる)、?utabimişe'en①(賜わる)、?ukumuimişe'en①(おかくれあそばす)など多数。neen①～neeran①(無い)など。

(ロ) sinuN①(死ぬ)、?umujuN①(思う)、nuuN①～'NNZuN①(見る)、?juN①(言う)、?icuN①(行く)、sjuN①(する)、maasjuN①(死ぬ)、

-juusjuN(…できる), euuN(来る)など。

(イ)は一般の動詞と異なって 'uNとの複合が起こっていないため、あるいは他の動詞と同様には起こっていないために不規則となったもの(ただし neeN～neeraN は他の点でも非常に不規則)である。(ロ)は 'uNとの複合は起こしているが、その他の点で不規則なものである。以下にこれらの不規則動詞について各語幹および「連用形」と、それらから作られる不規則な形の主なものを記す。ただし語幹だけが不規則なものは語幹だけしか記さない。

ʔaN(ある)

基本語幹 ʔar-, ただし、否定は neeN～neeraN となる。ʔaraN は 'jaN(だ, である)の否定である。「連用形」ʔai, 連用語幹 ʔaj-, 短縮形語幹 ʔa-, 音便語幹 ʔat-。

なお, ʔaN(ある), 'jaN(だ, である。連詞の項参照), および形容詞(ʔaNとの複合によって作られる。例: takasa + ʔaN > takasaN 高い)について、現在の肯定と否定とを「終止形」であげて対比すると、次のようになる。

肯定	ʔaN(ある)	'jaN(だ, である)	takasaN(高い)
否定	neeN～neeraN (ない)	ʔaraN(ではない)	takakoo neeN～(高く takakoo neeraN ない)

'uN(いる)

基本語幹 'ur-, 「連用形」'ui, 連用語幹 'uj-, 短縮形語幹 'u-, 音便語幹 ut-。

meeN～moojuN(「いる」「行く」「来る」の目下の年長に対する敬語)

基本語幹 moor-, 「連用形」meei～mooi, 連用語幹 meej～mooj-, 短縮形語幹 mee～mooju-, 音便語幹 mooc-。

mišeeN(なざる。mis- の部分は「召す」との対応が考えられる)など

基本語幹 misjoor-, 「連用形」mišeei, 連用語幹 mišeej-, 短縮形語幹 misee-, 音便語幹 misjooc-。

ʔmeNšeeN(いらっしゃる), 'jumimiše'en(お読みになる)その他、-mišeeN, -NšeeN で終わる敬語動詞はみなこれに準ずる。

neeN～neeraN(ない)

ʔaŋ(ある)の否定の形。一般の動詞の否定の形に準じて活用する。ʔjumaŋ⑩の項参照。ただし、連用語幹を neejabiʔraŋ⑩(ありません)の場合に用いる。

基本語幹 neendar-, 「連用形」 neen⑩, 連用語幹 neej-, 短縮形語幹に相当すべき語幹 neen-。ただし、「終止形」と「連体形」も neen⑩~neeraŋ⑩, 音便語幹 neent-。

neen⑩~neeraŋ⑩ は元来, nee-, neera- の部分も N の部分も否定辞であるから, 形の上では否定が二つ重なっていることになる。この丁寧体は neejabiʔraŋ⑩ (ありません), 尊敬の敬語は neemisjooaʔŋ⑩ (おありにならない) で, やはり否定辞が重なる。「連用形」 neen⑩ は neen⑩ najuŋ⑩ (なくなる), neenoo ʔaraŋ⑩ (なくはない) などのようにも用いる。

sinuŋ⑩ (死ぬ)

基本語幹 sin-, 「連用形」 sini⑩, 連用語幹 sin-, 短縮形語幹 sinu-, 音便語幹 siz-。

この語幹をもつものが sinuŋ⑩ 1語なので, 不規則とした。「ナ変」の特徴は保持していない。

ʔumujuŋ⑩ (思う)

基本語幹 ʔumur-, ただし, 否定の形に ʔumaan⑩ (思わない), 可能の形に ʔumaarijuŋ⑩ (思える) など古い形が共存している。「連用形」 ʔumui⑩ ~ʔumii⑩, 連用語幹 ʔumuj-, 短縮形語幹 ʔumuju-, 音便語幹 ʔumut-。

nuuŋ⑩~ʔNNzuŋ⑩ (見る)

基本語幹 mir-~ʔNnd-, 「連用形」 mii⑩~ʔNNzi⑩, 連用語幹 mij- など (nijabira⑩~mjaabira⑩~naabira⑩ 見ましょ, など), 短縮形語幹 nuu-~ʔNNzu-, 音便語幹 ʔNnc-。

mii⑩(見), nuuŋ⑩(見る), ʔNNci⑩(見て) など規則的な音韻変化によって生じた形と, ʔNNzi⑩(見), ʔNNzuŋ⑩(見る) など類推によって生じた形とが共存しているため不規則となった。

ʔjuŋ⑩ (言う)

基本語幹 ʔj-, ʔjarijuŋ⑩(言われる), ʔjaa⑩~ʔjawa⑩(言ったら) など。ただし, ʔija⑩(言おう), ʔee⑩(言えば), ʔiwadu⑩(言えばこそ), ʔii⑩(言え), ʔee⑩(言えよ)。「連用形」 ʔii⑩, 連用語幹 ʔj-, 短縮形語幹 ʔju-, 音

便語幹 ?ic-

語頭の ?i が母音に続く際に生じた音韻変化のため不規則となった。

?icuN① (行く)

基本語幹 ?ik-, 「連用形」?ici①, 連用語幹 ?ic-, 短縮形語幹 ?icu-, 音便語幹 ?Nz-。

音便語幹から作られる形のみが「往ぬ」に対応するため不規則となった。たとえば, ?Nzi①(行って)は「往にて」に対応する。

sjun① (する) など

基本語幹から作られる形式にあたるものは **san**①(しない), **sarijun**①(される), **simijun**①(させる), **Qsa**①(しよう), **saa**①~**sawa**①(したら), **see**①(すれば), **Qsiwadu**①(すればこそ), **Qsi**①(しろ), **see**①(しろよ), **sjuna**①(するな), **sjuka**①(するほど) など。「連用形」**sii**①, 連用語幹 **sj-**, 短縮形語幹 **sju-**。音便語幹から作られる形にあたるもの **sjan**①(した), **seeN**①(してある, したのだ), **sjoon**①(している), **sjai**①(したり), **Qsi**①(して) など。

やや特殊な音韻変化および類推による変化によって不規則となった。 **maasjun**①(死ぬ) と **-juusjun**(…できる) は **sjun**① に準じて活用する。

cuuN① (来る)

基本語幹から作られる形にあたるものは **kuuN**①(来ない), **kuurarijun**①(来られる), **kuu**①(来よう), **kuuwa**①~**kwa**①(来たら), **kuuree**①(来れば), **kuuriwadu**①(来ればこそ), **kuu**①(来い), **kuuwa**①~**kwa**①(来いよ), **kuunna**①(来るな) など。「連用形」**cii**①, 連用語幹から作られる形にあたるものは **cabiin**①(来ます) など。短縮形語幹 **cuu-**, 音便語幹 **c-**, ただし **Qci**①(来て)。カ行変格の特色を保持しているため不規則となっている。

(2) 動詞の形態論的構造(その1)

① 肯定普通態現在 'junuN①(付 'junui①, 'junuir① など)

肯定普通態現在に属する形は前節の②(61~63 ページ)の一覧表で普通の活字で示したものである。ここでは、それぞれの形の用法および相互の関係について簡単に述べる。

(イ) ふつう, 述語となって文を終えるのに用いられる形

'junuN① (読む, 読んでいる)

動詞のいわゆる「終止形」。「読み居り」に対応するといわれるが、末尾の部分は直接「居り(wori)」の終止形「居り(wori)」に対応するのではなく(もしそうならば 'junui となるはず)、末尾の N は、古くは話し手の主観的な判断を表わしたと思われる *m にさかのぼるもので、客観的な叙述を表わしたと思われる語尾 *ri (「有り」「居り」の「り」と対立したものであろう。'junun①(読む), 'un①(いる)の質問の形が 'junumi①(読むか), 'umi①(いるか)であり、かつ質問の意を表わす接尾辞が -i であること、および、奄美群島の多くの方言に m 系の「終止形」と ri 系の「終止形」とが共存していることによってこのことが推定される。なおこの *m は標準語文語の「助動詞」の「む」「らむ」「けむ」, 「助詞」の「なむ(希望の場合)」などの m と関係あるものであろう。

'junusa①(読むよ、読んでいよ、読むさ、読んでいさ)

'junun① よりも柔らかい表現であると同時に、客観的叙述であることを示す「確言」のニュアンス(「さ」)をもつようである。

'jumi①(読め), 'jume①(読めよ)

前者はいわゆる「命令形」に対応する。後者は前者の柔らかい表現。

'juma①(読もう)

いわゆる「未然形」に対応する。意志動詞の場合は近い将来に行なおうとする意志、または仲間への誘いかけを表わし、無意志動詞の場合は近い将来に起ころうとしている動作・変化への推測を表わす。なお、'junura① の項参照。

'jumana①(読もうよ、読みたいな) 'juma① の柔らかい表現。

'juma'ii①(読もうね) 仲間へ親しく誘いかけて同意を求める表現。

なお、'juma① を反覆形にした 'jumajumaa①(読もう読もう)という形があり、'jumajumaa① sjun①(読もう読もうとする), ?utira?utira① sjoon①(まさに落ちそうにしている) などのように用いる。

'jume① 'jaa①(読もうかな、読んだらなあ)

'jume①(読めば)に助詞 'jaa① を付けたもの。

'junura①(読むだろうか)

疑わしいと思ふ気持ちを表わす。文末に用いるほか、連用形の「中止法」のようにも用いる。sjumuçiga① 'junura①.(本を読むのだろうか。)読むこと

自身が疑わしい場合には 'jumiga⑤ sjura①(読むのだろうか)となる。

'junura⑤ hazi①(読むだろう) 'junuru⑤ hazi① ともいう。

'juma⑤(読もう)と 'junura⑤(読むだろうか)との対立は肯定普通態現在のみに認められるようで、たとえば肯定持続態現在の 'judoora⑤は「読んでいよう」「読んでいるだろうか」の両方を意味し、肯定普通態過去には 'judara⑤「読んだだろうか」のみがある、また、ʔaŋ⑤の場合には ʔara⑤「あるだろうか」しかなく、'uŋ⑤の場合には 'ura⑤は「いよう」「いるだろうか」の両方を意味する。

'junumi⑤(読むか)、'junuga⑤(読むか)

前者は「はい」「いいえ」で答えられる質問文に、後者は疑問詞を伴う質問文に用いる。ʔjaaja① 'junumi⑤. おまえは読むか。taaga① 'junuga⑤. 誰が読むか。

(ロ) おもに文中に用いられて文末の述語に統合される形

'jumi⑤(読み)

口語では、中止的に用いることは少ない。助詞 -du, -duŋ, -N, -ja, -ga などがついて、次のように用いられる。

'jumiɔu⑤ sjuru⑤(読みこそする、読むのだ。'junuŋ⑤を -duによって強調したもの)、'jumi'duŋ⑤ ʃee①(読みでもすれば。'jume⑤「読めば」を強調したもの)、'jumi'duŋ⑤ saa①(読みでもしたら。'jumaa⑤「読んだら」を強調したもの)、'jumi'duŋ⑤ siinee①(読みでもした時には。'jumiinee⑤「読んだ時には」を強調したもの)、'jumiŋ⑤ saŋ①(読みもしない。'jumaŋ⑤「読まない」を -Nによって強調したもの)、'jume⑤ saŋ①(読みはしない。'jumaŋ⑤を -jaによって強調したもの)、'jumiga⑤ sjura①(読むのだろうか。'junura⑤「読むだろうか」の疑わしい気持ちを -gaによって強調したもの)など。また、目的を表わす -ga(に)が付いて、移動を表わす動詞に先立って用いられる。ʔiju⑤ tuiga⑤ ʔicuŋ⑤. 魚を取りに行く。

'judi⑤(読んで)

標準語の「…して」と同様に文中に用いられるほか、文末にも 'judan⑤(読んだ)に近い意味で用いられることがある。また、'judikara⑤(読んでから)、

'judin⑩ (読んで)もある。また、単独で、または -du, -N, -ja などの助詞がついて他の動詞(「補助動詞」)に先立ち、その動詞とともに一つの述語として用いる。それには次のようなものがある。'judi⑩ ʔaqcuN⑩ (読んでばかりいる), 'judi⑩ neen⑩ (読んでしまった), 'judi⑩ ʔicuN⑩ (読んでいく), 'juai⑩ cuuN⑩ (読んでくる), 'judi⑩ tuujun⑩ (読破する), 'judi⑩ 'uN⑩ (読んでいるんだ。'judoon⑩ のぶっきらぼうな言い方), 'judi⑩ ʔaN⑩ (読んであるんだ。'judeeN⑩ のぶっきらぼうな言い方), 'judi⑩ 'NNZUN⑩ (読んでみる), 'judi⑩ misijun⑩ (読んでみせる), 'judi⑩ turasjun⑩ (読んでやる), 'judi⑩ kwijun⑩ (読んでくれる), 'judi⑩ taboori⑩ (読んでください), 'judiɔu⑩ 'uru⑩ (読んでいるのだ。'judoon⑩ 「読んでいる」を -du によって強調したもの), 'judidu⑩ ʔaru⑩ (読んでいるのだ。'judeeN⑩ を -du によって強調したもの), 'jucee⑩ 'uran⑩ (読んでいない。'judoon⑩ 「読んでいる」の否定), 'jucee⑩ neen⑩ (読んでない。'judeeN⑩ 「読んである」の否定), 'judin⑩ 'uran⑩ (読んででもない。'judee⑩ 'uran⑩ 「読んでいない」を -N によって強調したもの)など。

'jumaa⑩ ~'jumawa⑩ (読んだら)

標準語文語の「未然形」+「ば」に対応する。後者の発音もあるが前者が多い。
ʔariga① 'jumaa⑩ ʔjaan① 'jumee⑩. もし彼が読んだらおまえも読め。

'junuraa⑩ (読むんだったら、読むのなら)

'junuraa⑩ 'jumee⑩. 読むんだったら読め。

'jumee⑩ (読めば⁹⁾)

標準語文語の「已然形」+「ば」に対応する。'jumee⑩ 'wakajun⑩. 読めばわかる。ʔutuʃee⑩ 'warijun⑩. 落とせば割れる。

'jumiwaɔu⑩ (読めばこそ)

'jumee⑩ (読めば) を -du によって強調した形である。主として次のように用いる。'jumiwaɔu⑩ 'jaru① (ぜひ読まなくては), 'jumiwaɔu⑩ najuru⑩ (読まなければならない。'jumaŋɔa'ree⑩ naran⑩ ともいう)。

junuree⑩ (読むならば)

'junurec⑩ 'wakajusa⑩. 読むならば(その時には)わかるよ。

'jumaa⑩ (読んだら)と 'jumee⑩ (読めば)との区別、すなわち、「未然

形]+「ば」と「已然形」+「ば」の区別は、肯定普通態現在以外の場合にもいつもあって、両者の意味の違いははっきりしており、前者は仮定のことを、後者は既定の、または必然のことを表わす。肯定普通態単純過去の場合を例とすると、両者は次のように違う。

'utucaraa④ 'waritan④. もし落としたら割れた(だろう)。…過去の反事実

'utucaree④ 'waritan④. 落としたら割れた。…過去の事実

しかし、'jumaa④ と 'junuraa④ との区別、および 'jumee④ と 'junuree④ との区別は、普通態現在の場合に限られるようである。

その他

その他、普通、文の途中に用いられて文末の述語に統合される形として、'jumiini④(読むときに、読んだ場合)～'jumiinee④(読むときには、読んだ場合には、読むと)、'junukutu④(読むので)、'junu`run④(読むものだから)、'junuşıga④(読むが)などがあり、さらに、これらとやや文論的機能が異なるものとして 'junagacii④(読みながら)、'judai④(読んだり)、'jumigataa④(読みそう)、'jumuka④(読むほど)など、また、このほか「連体形」を用いた 'junuruma`di④(読むまで)、'junuruu④ 'weeča④(読むまでの間)、'junuru④ gutu④(読むように、読むほど)、'junuru④ mun④(読むのに)など、「終止形」を用いた 'jununnee④(読むように。比喩に用いる)もあげられる。

(ハ) その他の形

'junuru④(読む。「連体形」)

首里方言の活用する語は、否定の場合を除いて、いつも「終止形」と「連体形」とを区別する。

sjumuçi④ 'junun④. 本を読む。

sjumuçi④ 'junuru④ qcu④. 本を読む人。

また、首里方言の「連体形」は、助詞 -du のあとで文を結ぶという、いわゆる係り結びの用法をもつ。

'waaga④ 'junun④. (わたしが読む。)→'waagadu④ 'junuru④. (わたしが読むのだ。)

'junuN①. (読む) → 'jumidu① sjuru①. (読むのだ。sjuru①はsjun①(する)の「連体形」)

'junuʃi① (読むの。「準体形」)

体言に準ずる機能をもつ。sjumuçi① 'junuʃee① (本を読むのは)。また-ʃeeに終わる形(-ʃiに助詞-jaの付いたもの)は「…のだよ」の意で、文末にも用いられる。'waaga① 'juma'ndi① sjootaru① mun①, ʔunu① qcuni① 'jumaqti① neeNʃe'e①. わたしが読もうとしていたのに、その人に読まれてしまったのだよ。

(付) 'junui①, および 'junuira① (読んでいるだろう) など。⁶⁾

首里方言動詞の普通態の現在と過去とを対比すると、現在の 'junuN① (読む, 読んでいる) に対して、過去には 'judan① (読んだ), 'junutan① (読んでいた) の二つがあることが注目される。前者を単純過去, 後者を継続過去と呼ぶことにする。後者は過去の一定時において継続または反覆していた動作や, 過去の習慣などを表わす(状態動詞 ʔan①「ある」, 'un①「いる」は継続過去を欠く)。一方現在は、元来は継続的現在(「読んでいる」)を表わしたと見られる 'junuN① が単純な現在(「読む」)をも表わすようになったため、過去におけるような「単純」と「継続」との形式上の区別を失ってしまったものである。ところが、継続的現在のみを表わす次のようないくつかの形式も首里方言でまれに用いられる。

'junui① (読んでおり), 'junuira① (読んでいるのだろう。読んでいるだろうか), 'junuiraa① (読んでいるのなら), 'junuiree① (読んでいるならば), 'junuigi'san① (読んでいるそうだ)。

'junui①, 'junuira① に例をとれば、たとえば次のように用いる。

ʔaree① sjumuçi① 'junui①, 'wannee① zii① kacun①. 彼は本を読んでおり、わたしは字を書いている。

kuneeja① 'waaga① karacaru① sjumuçee①, ʔaree① namaa① 'junuira①. この間わたしが貸した本は、彼はいま読んでいるだろう。

② 肯定持続態現在 'judoon① (読んでいる)

この形は、'judee① (読んでは <'judi+-ja) と 'un① (いる) との複合したもので、動作・変化がすでに完了して現在にいたっていることと、動作・変

化が継続または反覆されて現在も続いていることの二通りを意味する。前の場合は「…している・…してしまっている・…してしまった・…した」などと訳され、後の場合は「…している・しつづける」などと訳される。

naçi④ natoon④. 夏になった(もう夏になっている)。

namaa④ sjumuçi④ 'judoon④. 今は本を読んでいる。

?aŋ④ (ある)は持続態を欠くが、'uŋ④ (いる)は持続態 'utoon④ (いる、ずっといる)をもつ。

'waaga④ cuuruma'di④ ?Nmanakai④ 'utoori④. ?NN④, 'utoosa④, わたしが来るまでそこに(ずっと)いろ。うん、(ずっと)いる。

持続態に属するいろいろな形の作りかたは次のようである。¹⁰⁾

<p>基本語幹から</p> <p>'judoor- {</p> <ul style="list-style-type: none"> -a (読んでいよう、読んでい るだろうか) -a'a (読んでいたら) -e'e (読んでいれば) -i (読んでいろ) -ee (読んでいろよ) <p>'judoonna (読んでいるな。'judee④ 'uran④ の命令)</p> <p>「連用形」から</p> <p>'judooi- {</p> <ul style="list-style-type: none"> -bu'sjan (読んでいたい) -gi'san (読んでいるそうだ) -mişe'eŋ (読んでいらっしゃ る) -juusju'N (読んでいること ができる) <p>'judooi④ (読んでおり)</p> <p>{</p> <ul style="list-style-type: none"> -'duŋ ('judooi'duŋ④ še④. 読んでいでもすれば、など) -ni (読んでいる時に) ~-nee (読んでいると) <p>連用語幹から</p>	<p>'judoo'j- -abiin (読んでいます)</p> <p>'judooj- -agi'in (読んでいつつある)</p> <p>短縮形語幹から</p> <p>{</p> <ul style="list-style-type: none"> -ga (読んでいるか) -ku'tu (読んでいるので) -N (読んでいる。「終止形」) -ru (読んでいる。「連体形」) <p>'judoo- {</p> <ul style="list-style-type: none"> -'ruŋ (読んでいるものだから) -sa (読んでいるよ、読んで いるさ) -şi (読んでいるの。「準体 形」) -şi'ga (読んでいるが) <p>音便語幹から</p> <p>{</p> <ul style="list-style-type: none"> -a'N (読んでいた) -e'eŋ (読んでいたのだ) -ai (読んでいたり) <p>'judoot- {</p> <ul style="list-style-type: none"> -i (読んでいて) -i'i (読んでいたか) -i'N (読んでいても)
--	---

これらの形の相互関係や、それぞれの用法は肯定普通態現在の場合に準ずる。

③ 肯定結果態現在 'judeeN⑩ (読んである)

'judeeN⑩ (読んである) は <'judi+-ja) と ?aN⑩ (ある) の複合したもので、動作が完了してその結果が現在残存していることを示す。'judeeN⑩ は同時に確言単純過去(読んだのだ)も意味するが、それは過去の項で述べる。?aN⑩ (ある) および他の無意志動詞 (たとえば miijun⑩ 生える), および 'uN⑩ (いる) は結果態を欠く。

結果態に属するいろいろな形の作り方は次のとおりである。¹⁰⁾

<p>基本語幹から</p> <p>'judeer- { -a (読んであるだろう) -a'a (読んであったら) -e'e (読んであれば)</p> <p>「連用形」から</p> <p>'judeei- { -gi'saN (読んであるそらだ) -miſe'eN (読んでおありに なる)</p> <p>'judeei⑩ (読んであり) -duN ('judeei'duN⑩ see⑩)</p>	<p>よんでありでもすれば, など) -ni(読んである時に)~-nee (読んである場合には)</p> <p>連用語幹から</p> <p>'judee'j- -abiin (読んであります)</p> <p>短縮形語幹から</p> <p>'judee- ('judoon⑩の短縮形語幹'judoo- の場合と同じ)</p> <p>音便語幹から</p> <p>'judeet- ('judoon⑩の音便語幹 'judoot- の場合と同じ)</p>
---	---

④ 肯定保存態現在 'judoo'cuN⑩ (読んでおく)

'judeeN⑩(読んである)とは <'judi+-ja) と ?ucun⑩(置く)の複合したもので、動作の結果を保存しておこうとする意を表わす。保存態に属するいろいろな形の作り方は、持続態の場合にほぼ準ずる。

基本語幹 'jucook-, 連用形 'judooei⑩, 連用語幹 'judooe-, 短縮形語幹 'judooeu-, 音便語幹 'judooe-.

⑤ 肯定過去(①~④の過去)

①, ②, ③, ④ とその過去とを「終止形」で対比して示せば次のようになる。

	現	在	過	去
普通態	'junuN①(読む・読んでいる)		単純	'judaN①(読んだ)
			継続	'junutaN①(読んでいた)
持続態	'judooN①(読んでいる)		'judootaN①(読んでいた)	
結果態	'judeeN①(読んである)		'judeetaN①(読んであった)	
保存態	'judoo'eun①(読んでおく)		'judoo'can①(読んでおいた)	

過去に属するいろいろな形の作り方は、次のようである。¹⁰⁾

基本語幹から

短縮形語幹から

'judar-
'junutar-
'judootar-
'judeetar-
'judoocar-
「連用形から」¹¹⁾(元来は①に属したもの)
'judeei-
'junuteei-
'judooteei-
'judeetei-
'judoocei-
'judeei①, 'junuteei①, 'judooteei①,
'judeetei①, 'judoocei①(読ん(同上)ので
あり)

-ga(読ん(だ・でいた・でいた・であった・であった・でいた・でいた)か)
-ku'tu(読ん(同上)ので)
-^oN(読ん(同上)「終止形」)
-Nte'eN~Nte'eMAN
(読ん(同上)ところで)
'juda-
'junuta-
'judoota-
'judeeta-
'judooa-
-ru(読ん(同上)「連体形」)
-^ruN(読ん(同上)ものだ
から)
-sa(読ん(同上)よ、読ん
(同上)さ)
-ši(読ん(同上)の。「準体
形」)
-ši'ga(読ん(同上)が)

なお、疑問詞を伴わない場合の質問の形は、それぞれの現在の音便語幹を用いて次のように作られる。「…して」の形(分詞)に質問の接尾辞 -i を付したものである。

'judii①, 'junutii①, 'judooti'i①, 'judeeti'i①, 'judoocei① (読ん(だ・でいた・でいた・であった・であった・でいた)か)

¹¹⁾
⑥ 肯定確言過去

過去のことを根拠のある確かなこととして表わすもので、⑤と対比すると、次のようになる。なお、普通態確言単純過去は結果態現在と同形である。

	過 去	確 言 過 去
普通態 単純	'judaN①(読んだ)	'judeeN①(読んだのだ)
普通態 継続	'junuta`N①(読んでいた)	'junute`eN①(読んでいたのだ)
持続態	'judoota`N①(読んでいた)	'judoote`eN①(読んでいたのだ)
結果態	'judeeta`N①(読んであった)	'judeete`eN①(読んであったのだ)
保存態	'judoo`caN①(読んでおいた)	'judooce`eN①(読んでおいたのだ)

たとえば、次のように用いる。

namaa① hagimoo① 'jašiga① 'Nkasee① kusanu① miitoote`eN①.

いまははげ野だが、昔は草が生えていたのだ。

確言過去に属するいろいろな形の作り方は過去の場合に準ずる。ただし、次のように音便語幹にさらに -eeN を付けて回想的な確言過去にすることもできる。

'judeete`eN①(読んだのだったのだ。ただし、結果態確言過去と同形), 'junute`ete`eN①(読んでいたのだったのだ), 'judoote`ete`eN①(読んでいたのだったのだ), 'judeete`ete`eN①(読んであったのだったのだ)など。

⑦ 否定現在(①～④の否定)

現在の肯定と否定とを対比して「終止形」で示せば、次のとおりとなる。否定は普通態のほかは二語に分けて表わされる。

	肯 定	否 定
普通態	'junuN①(読む, 読んでいる)	'jumaN①(読まない)
持続態	'judooN①(読んでいる)	'judee① 'uraN①(読んでいない)
結果態	'judeeN①(読んでいる)	'judee① neeN①(読んでない)
保存態	'judoo`cuN①(読んでおく)	'judee① ?ukan①(読んでおかない)

'jumaN①に属するいろいろな形の作り方はつぎのとおりである。¹⁰⁾'uraN①, neeN①, ?ukan①も 'jumaN①に準ずる。なお、neeN①については不規

則動詞の項参照。

基本語幹から

'jumaNda'r- { -aa(読まなかったら)
-ee(読まなければ)

「連用形」に相当すべき形から

'jumaN①(読まずに, 読まないで)
-duN ('jumaN'duN① ʔaree
① 読まないのでもあれば,
など)

'jumanoo①(<'jumaN+-ja)(読まないでは)

'jumaNdainee (読まないで, 読まなかった場合には)

連用語幹から

'jumaN- -gi'saN(読まないそうだ)

短縮形語幹に相当すべき語幹から

'jumaN- -ga(読まないか)

'jumaN- { -ku'tu(読まないの)
-si (読まない。「連体形」)
-ʃiga(読まないが)

'jumaN①(読まない。「終止形」)

'jumaN①(読まない。「連体形」)

'jumani①(読まないか。疑問詞を伴わない質問の形)

音便語幹から

'jumaNt- { -a'n(読まなかった)
-e'eN(読まなかったのだ)
-ai(読まなかったり)
-ii(読まなかったか。'jumaNta'N①の疑問詞を伴わない質問の形)

なお, 'junura①(読むだろう)の否定は 'jumaN① ʔara①(読まないだろう)のように, 'jumaN①の命令は肯定の基本語幹から 'jumuna①(読むな), 'jumuna'kee①(読むなよ)のように作られる。「連用形」に -ja の付いた 'jumanoo①は, たとえば 'jumanoo① sjooti①(読まないで。'jumaN① sjooti①ともいう)などのように用いる。

⑧ 否定過去(⑦の過去)

否定の現在と過去とを「終止形」で対比すれば, 次のようになる。

	現	在	過	去
普通態	'jumaN①(読まない)		'jumaNta'n①(読まなかった)	
持続態	'judee① ʔuraN①(読んでいない)		'judee① ʔuranta'n①(読んでいなかった)	
結果態	'judee① neeN①(読んでない)		'judee① neenta'n①(読んでなかった)	
保存態	'judee① ʔukaN①(読んでおかない)		'judee① ʔukanta'n①(読んでおかなかった)	

否定の過去に属するいろいろな形式の作り方は、肯定の過去の場合にほぼ準ずる。なお、否定の確言過去も、否定の過去と同様に 'jumante`eN①(読まなかったのだ), 'judee① 'urante`eN①(読んでいなかったのだ)のように作られる。また否定には単純過去と継続過去の区別がない。

⑨ 丁寧体

①から⑧までの形を常体と呼べば、それに対して丁寧体が区別される。現在と過去の肯定および否定のそれぞれの終止形について丁寧体をあげれば、次のようになる。

(イ) 肯定

	現 在	過 去
普通態	'junabiin① (読みます)	単純 'junabita`N①(読みました)
		継続 'junabiita`N①(読んでいました)
持続態	'judoo`jabiiN①(読んでいます)	'judoo`jabiita`N①(読んでいました)
結果態	'judee`jabiiN①(読んであります)	'judee`jabiita`N①(読んでありました)
保存態	'judoo`cabiin① ~ 'judi① ?ucabiin①(読んでおきます)	'judoo`cabita`N① ~ 'judi① ?ucabitan①(読んでおきました)

(ロ) 否定

	現 在	過 去
普通態	'junabi ^(?) ran① (読みません)	'junabiranta`N①(読みませんでした)
持続態	'judee① 'ujabi`ran①(読んでいません)	'judee① 'ujabiranta`N①(読んでいませんでした)
結果態	'judee① neejabi`ran①(読んでありません)	'judee① neejabiranta`N①(読んでありませんでした)
保存態	'judee① ?ucabi`ran①(読んでおきません)	'judee① ?ucabiranta`N①(読んでおきませんでした)

-abiin は「はべる」に対応するものであろう。なお、上の表のうち、末尾が jabiin となるのはやや古風な発音で、ふつうは ibiin ということが多い。また、持続態および結果態の過去肯定は -jabiita`N となり、継続過去の場合と同じであるが、これは 'un① (いる)および ?an① (ある)の丁寧体過去肯定が

それぞれ 'ujabiita`N① (いました), ʔajabiita`N② (ありました) のように
 継続過去の形をとり、かつ単純過去と継続過去の区別をもたないことと関連し
 ている。

丁寧体に属するいろいろな形の作り方は普通態の場合、次のようである。

基本語幹から 'junabi ¹ r- <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="font-size: 3em;">{</td> <td>-aN(読みません)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-a(読みましょう)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-a`a(読みましたら)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-e`e(読みますれば)</td> </tr> </table>	{	-aN(読みません)		-a(読みましょう)		-a`a(読みましたら)		-e`e(読みますれば)	'junabii- <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="font-size: 3em;">{</td> <td>-N(読みます。「終止形」)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-ru(読みます。「連体形」)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-`run(読むものですから)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-ʔi(読みますの。「準体形」)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-ʔi`ga(読みますか)</td> </tr> </table>	{	-N(読みます。「終止形」)		-ru(読みます。「連体形」)		-`run(読むものですから)		-ʔi(読みますの。「準体形」)		-ʔi`ga(読みますか)
{	-aN(読みません)																		
	-a(読みましょう)																		
	-a`a(読みましたら)																		
	-e`e(読みますれば)																		
{	-N(読みます。「終止形」)																		
	-ru(読みます。「連体形」)																		
	-`run(読むものですから)																		
	-ʔi(読みますの。「準体形」)																		
	-ʔi`ga(読みますか)																		
「連用形」 'junabiii③ (読みまして)	(音便語幹的) 'junabiit- <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="font-size: 3em;">{</td> <td>-a`N(読んでいました)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-e`eN(読んでいたのです)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-i`i(読んでいましたか)</td> </tr> </table>	{	-a`N(読んでいました)		-e`eN(読んでいたのです)		-i`i(読んでいましたか)												
{	-a`N(読んでいました)																		
	-e`eN(読んでいたのです)																		
	-i`i(読んでいましたか)																		
融合語幹から (基本語幹的) 'junabiir- <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="font-size: 3em;">{</td> <td>-a(読むでしょう, 読んで いるでしょう)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-a`a(読みますのなら)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-e`e(読みますならば)</td> </tr> </table>	{	-a(読むでしょう, 読んで いるでしょう)		-a`a(読みますのなら)		-e`e(読みますならば)	音便語幹から 'junabit- <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="font-size: 3em;">{</td> <td>-a`N(読みました)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-eeN(読んだのです)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-i(読みまして)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-i`N(読みましても)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-i`i(読みましたか)</td> </tr> </table>	{	-a`N(読みました)		-eeN(読んだのです)		-i(読みまして)		-i`N(読みましても)		-i`i(読みましたか)		
{	-a(読むでしょう, 読んで いるでしょう)																		
	-a`a(読みますのなら)																		
	-e`e(読みますならば)																		
{	-a`N(読みました)																		
	-eeN(読んだのです)																		
	-i(読みまして)																		
	-i`N(読みましても)																		
	-i`i(読みましたか)																		
(短縮形語幹) 'junabit- <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="font-size: 3em;">{</td> <td>-ga(読みますか)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-ku`tu(読みますので)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>-mi(読みますか)</td> </tr> </table>	{	-ga(読みますか)		-ku`tu(読みますので)		-mi(読みますか)													
{	-ga(読みますか)																		
	-ku`tu(読みますので)																		
	-mi(読みますか)																		

普通態以外の丁寧体 に属する形の作り方、およびこれらの形式のうち、さらに
 いろいろに活用する形の作り方については、これまでに述べたことから大体
 類推しうるので省略する。

なお、丁寧体の「命令形」は尊敬の敬語動詞の場合にのみ、たとえば次のよう
 に用いられる。

'junuN④(読む) → 'jumimiʔeebi`iN④(お読みになります) →
 { 'jumimiʔeebi`ri④(お読みなさいませ)
 'jumimiʔeebi`ree④(お読みなさいませよ)
 'jumaN④(読まない) → 'jumimiʔeejabi`raN④(お読みになりませぬ) →
 'jumimiʔeebiNna④(お読みなさいませぬ)

(3) 動詞の形態論的構造(その2)

動詞は普通、さらに次に述べるような派生の形をもち、そのそれぞれはあたかも一つの動詞のようにふるまう。すなわち、これら派生動詞は「動詞の形態論的構造(1)」と類似の構造をもつ。ただし、①と④とは形容詞と類似の構造をもち、あとに続く形に対しては形容詞的にふるまう。

- | | |
|------------|----------------------------|
| ① 推定・伝聞 | 'jumigisaN①(読むそらだ)など |
| ② 進行 | 'junagijUN①(読みつがある)など |
| ③ 尊敬 | 'jumimişeen①(お読みになる)など |
| ④ 希望 | 'jumibusjaN①(読みたい)など |
| ⑤ 可能 | 'jumijuusju`N①(読むことができる)など |
| ⑥ 受身・可能・尊敬 | 'jumarijUN①(読まれる, 読める)など |
| ⑦ 使役 | 'jumasjuN①(読ませる)など |

これら七種の派生形式は、たとえば 'jumimişeejagi`jUN①(お読みになりつつある。②と③), 'jumasarijUN①(読まされる。⑥と⑦)などのようにさらに組み合わせた形を作ることができるものである。①~⑦は、そのように組み合わせる場合にあとに置かれるものから順に並べてある。

① 推定と伝聞 (-gisana)

'jumigisaN①(読むそらだ), 'junagiigi`saN①(読みつがあるそらだ)など。「(する)そらだ」「…らしい」「…ということだ」などの意。-gi`saN は形容詞に準じて活用するが、-gisaa (…そら, …そらに)という形もある。'jumigisaa①'jaN①(読むそらである)。形容詞の項参照。

② 進 行 (-agijUN~agiiN)

'junagijUN①(読みつがある), 'jumimişeejagi`iN①(お読みになりつつある)など。-agijUN は「上げる」に対応する。普通はその時から未来へ向けての動作の進行を表わすが、ʔaN①(ある)に付くと多くの存在を表わすようである。

'jaanu① ʔuhooku① ʔajagiita`N①. 家がたくさん(かたまつて、または続いて)あった。

規則動詞の(i)に準じて活用する。ただし、意味が状態的であるためか、過去の場合に単純過去の形を用いないなどの点が特異である。'junagiita`N①(読みつあった)。

「命令」「意志」の形は用いる。'junagiri④ (読みつつあれ), 'junagira④ (読みつつあろう)。

③ 尊 敬 (-mišeEN, -NšeEN)

'jumimise'EN④ (お読みになる), 'jumijuusimise'EN④ (読むことがおできになる)など。

'ujuminaasi④ mišeEN④, 'ujuminaasi④ namise'EN④, 'ujumimisjoorari'jun④ (いずれも「お読みあそばされる」), 'ujuminsjo'oci④ 'utabimise'EN④ (お読みになってくださる)などは、たとえば女中が按司に向かって言う場合など、非常に尊敬の度合の高いもので、あまり用いられない。また 'uʂoozimise'EN④ (お考えあそばす), 'ukumuimise'EN④ (おかくれあそばす)などは、主として王などについて用いるものであり、現在では用いられない。

'ujumins'e'EN④, 'ujumimise'EN④, 'jumimiseEN④ (いずれも「お読みになる」)は、目上または親しくない対等に対する敬語で、'ujumins'e'EN④ がもっとも尊敬の度が高く、以下この順となる。'jumins'e'EN④ (読まれる)は目下の年長などに対するやや軽い敬語。

活用のしかたは不規則動詞の項を参照。¹²⁾ただし、丁寧体は 'jumimiseebi'in④ などのように ja~i が脱落することが多い。なお、'judoo'imiseEN④ (読んでいっしょ)と 'jumimisjooco'on④ (お読みになっている)はともに使うようであるが、同義。

④ 希 望 (-busjan)

'jumibusjan④ (読みたい), 'jumijuusibu'sjan④ (読めるようになりたい)など。-busja < husja (「欲しさ」に対応)。形容詞に準じて活用する。

⑤ 可 能 (-juusjun)

'jumijuusju'n④ (読むことができる), 'jumasijuusju'n④ (読ませることができる)など。

動作の主体にその能力があることを示す。sjun④ に準じて活用する。ただし、意味が状態的であるために過去の場合に単純過去の形を用いない点などが特異である。'jumijuusjuta'n④ (読むことができた)。「命令」「意志」の形も用いる。

'jumijuuq'si④ (読めるようになれ), 'jumijuuq'sa④ (読めるようになろう)。

⑥ 受身・可能・尊敬 (-arijun³)

'jumarijun④(読まれる・読める), 'jumasarijun④(読まされる)など。

受身の場合と可能の場合とでは活用のしかたが異なる。規則動詞の項参照。また、受身の形は軽い尊敬の意にも用いうる。'jumariri④(読まれよ。受身または軽い尊敬)。無意志動詞(たとえば miijun④ 生える)は普通、受身の形がないようである。また、この可能は、主としてその時の状況が動作を可能にしているということを表わし、⑤の可能(主体の能力を表わす)とやや異なる。「命令」「意志」などの形は用いられない。

⑦ 使役 (-asjun, -imijun³)

'jumasjun④(読ませる)など。

活用は規則動詞の(v)に準ずる。ただし、sjun④(する)の使役は simijun④(させる)となり、また規則動詞の(v)(サ行四段に対応するもの)の使役は、nasimijun④(産ませる), toosimijun④(倒させる)などとなる。

2 形容詞

(1) 形容詞の活用

takasan④(高い), ?uturusjan④(恐ろしい)の二語を例にとって、その標準語の「連用形」に対応する形と、「終止形(現在肯定)」とを次にあげる。

(1) takaku④(高く) takasan④(高い)

(2) ?uturusiku④(恐ろしく) ?uturusjan④(恐ろしい)

この「終止形」(現在肯定)はそれぞれ、「高さ」に対応する形と動詞 ?an④(ある)との複合、「恐ろしさ」に対応する形と ?an④(ある)との複合である。

首里方言のすべての形容詞は、このように、kuに終わる「連用形」(これをku連用形と呼ぶことにする)と、「形容詞語幹+さ」に対応する形と ?an④との複合形(これをサアリ形と呼ぶことにする)の二つをもち、サアリ形は ?an④(ある)に準じて活用する。また、一部の形容詞(主として「シク活用」)に対応するものが多いが、その範囲未調査)には、このほか、?uturusii④(恐ろしい), mizirasii④(珍らしい)などの連体形がある(これをイ連体形と呼ぶことにする)。そして、(1)

takasan⑩ などのように、「ク活用」形容詞に対応するものはゴチックで示した部分が ku~san と交替するのに対して、(2)ʔuturusjan⑩ のように、「シク活用」形容詞に対応するものはゴチックの部分が普通 siku~sjan のように交替する。首里方言の形容詞の種類は、大きく分けるとこの二種類となる。この二種類をやはり「ク活用」「シク活用」と呼ぶことにする。

しかし、「シク活用」に属するものの中でも ʔajaqsan⑩ (あぶない。「あやしい」に対応), sabiqsan⑩ (さびしい), cibiqsan⑩ (きびしい) など, sjan に終わらないものもあり, これらは、「ク活用」に属する 'waqsan⑩ (悪い), 'jaqsan⑩ (安い), ʔaqsan⑩ (浅い), ʔasasan⑩ ともいう) などとサアリ形では区別できない。しかし, ku 連用形には次のように両者の区別がある。

「シク活用」 ʔajasiku⑩, sabisiku⑩, cibusiku⑩

「ク活用」 'waruku⑩ 'jaşiku⑩, ʔasaku⑩

また, 平民風の発音では sjan はすべて san となるから, すべての形容詞はサアリ形では区別できない。

また, 「シク活用」に属しながら, kanasjan⑩ (かわいい) と kabasjan⑩ (香りがいい) は, ku 連用形がそれぞれ kanaku⑩, kabaku⑩ となる。

(2) 形容詞の形態論的構造

主として takasan⑩ (高い) を例として述べる。

① ku 連用形 takaku⑩ (高く)

中止的にも, 副詞的にも用いる。

tatanoo⑩ miiku⑩, tuzee⑩ huruku⑩. 畳は新しく妻は古く。munoo⑩ maaku⑩ kamee⑩. 食べ物はおいしく食べろ。takaku⑩ najun⑩. 高くなる。

助詞 -N (も), -ja (は) が続きうる。

takaku⑩ neen⑩ (高くもない), takakoo⑩ neen⑩ (高くはない, 高くない。takasan⑩ の否定)。

② サアリ形 takasan⑩

サアリ形は ʔan⑩ (ある) に準じて活用する。ʔan⑩ と同様, 持続態・結果態・保存態などをもたず, また, 総続過去をもたない。また現在には, 「命令」「意志」などの形がない。したがって, 形容詞のサアリ形に属する形は, 一般

の動詞に比べるとずっと少なく、その形態論的構造も簡単である。

サアリの形に属するいろいろな形の作り方は次のようである。¹³⁾ 動詞の場合と同様、ゴチックで示したものは、さらにその形が一定の活用をするものである(活用のしかたは動詞の場合に準ずる)。

<p>基本語幹から</p> <p>takasar- { -a (高いだろう) -aa~awa (高かったら) -ee (高ければ) -iwaïu (高ければこそ)</p> <p>「連用形」から</p> <p>takasai- ¹⁴⁾ -gi'saN (高いそうだ) -miše'eN (高くていらっしゃる)</p> <p>takasaiⓐ (高く)</p> <p>-'dun (高くでも。takasai'- dunⓐ šeⓐ, 高くでもあれば、など)</p> <p>連用語幹から</p> <p>takasaj- -abi'iN (高いです。takasa- ibi'iNⓐ ともなる)</p> <p>短縮形語幹から</p>	<p>takasa- { -ga (高いか) -kutu (高いので) -mi (高いか) -N (高い。「終止形」) -ru (高い。「連体形」) -'ruN (高いものだから) -ši (高いの。「準体形」) -šiga (高いが)</p> <p>音便語幹から</p> <p>takasat- { -a'N (高かった) -e'eN (高かったのだ) -ai (高かったり) -i (高くて) -i'i (高かったか。takasata'- Nⓐ の質問形) -iN (高くても)</p>
---	--

常体・丁寧体の現在と過去、肯定と否定とを「終止形」によって次に示す。

		肯	定	否	定
常 体	現在	takasaNⓐ (高い)		takakooⓐ neeNⓐ (高くない)	
	過去	takasata'Nⓐ (高かった)		takakooⓐ neeNta'Nⓐ (高くなかった)	
¹⁵⁾ 丁 寧 体	現在	takasajabi'iNⓐ (高いです)		takakooⓐ neejabi'raNⓐ (高くありません)	
	過去	takasajabiita'Nⓐ (高かったです)		takakooⓐ neejabiraNta'Nⓐ (高くありませんでした)	

③ イ連体形 *tuturusii*ⓐ (恐ろしい)¹⁶⁾

tuturusiiⓐ *ninzi*ⓐ (恐ろしい人間), *mižirasii*ⓐ *hanasi*ⓐ (珍しい話), *hwirumasii*ⓐ *kutu*ⓐ (ふしぎなこと)など。

サアリ形の「連体形」と異なり、過去・否定などの形はなく、また係り結びの結びに用いられることもない。もっぱら体言を「修飾」するのに用いられる。

④ takasa①(高さ)および takasanu①(高くて、高いので)

この -sa, -sja に終わる形は、名詞的にも、たとえば

'wannee① ʔukaasjadu① ʔuhusaru①. わたし(の病状)は危険が多い
(ʔukaasjan①. あぶない。 -du ʔuhusaru① は係り結び)。

などのように用いられるが、文の終わりに次のように述語のようにして用いることが多い。その場合、文は感嘆文のような意味をもつ。

ʔanu① muinu① takasa①. あの山の高いことよ。

また、主体の感情を表わす形容詞のこの形は、次のように sjun①(する)と結びついて「…したがる」の意を表わす。

ʔuturusja① sjun①(こわがる), ʔuqsja① sjun①(うれしがる), kanasja① sjun①(かわいがる), ʔjumibusja① sjun①(読みたがる)など。

takasanu①(高くて、高いので)は、-sa に終わる形に助詞 -nu(が)が付いてできた形であろう。後に続く部分の理由・根拠などを示して用いられる。

3 連詞

ʔjan①, deebiru①, ʔwaanʃeen①~ʔwenʃeen①など、および gutoon①を連詞と呼ぶことにする。

① ʔjan①(だ、である)

kuree① sjumuçi① ʔjan①. これは本だ。

返答の文、問い返し文では、単独でも文となりうる。

ʔjan①. そうだ。 ʔjami①. そうか。

ʔan①(ある)に準じて活用するので、ʔjan①に属するいろいろな形も ʔan①に準じて作られる。ただし、否定の形は ʔaran①となる。否定の形は普通、助詞 -ja(は)とともに用いられる。肯定の場合と同様に単独でも用いられる。

kuree① sjumuçee① ʔaran①. これは本ではない (sjumuçee① < sjumuçi① + -ja). ʔaran①. そうではない。 ʔarani①. そうでないのか。

常体と丁寧体の現在と過去、肯定と否定とを「終止形」によって次に示す。

		肯	定	否	定
常 体	現在	'jaN① (だ, である)		ʔaraN① (ではない)	
	過去	'jatan① (だった, であった)		ʔaranta`N① (ではなかった)	
15) 丁寧 体	現在	'jajabi`iN① (です)		ʔajabi`ran① (ではありません)	
	過去	'jajabiita`N① (でした)		ʔajabiranta`N① (ではありませ ませんでした)	

② deebiru① (であります, でございます)

cuuja① 'ii`tiNci① deebiru①. きょうはいいお天気でございます。

-du 'jajabi`iru① または du-ʔajabi`iru① の縮まったものか。平民は da-
jibiru① ともいう。defective な連詞で、ほかに、dcebiimi①, deebiiga①
など、肯定現在の短縮形語幹に属する形を用いる。

③ ʔwaanʂeen①~ʔweNʂeen① (でおありになる, でいらっしやる)

'jaN①(だ, である)から規則的に作られる尊敬の形 ʔujainʂe`eN①~ʔu-
janʂe`eN① と同じ。ʔuNZoo① maa① ʔwaanʂeebiiga①. あなたはどなた
でいらっしやいますか。

④ gutooN① (ようだ, ようである)

'junuru① gutooN①. 読むようだ。sjumuçinu① gutooN①. 本のようだ。

gutoo① (<gutu①+ja. gutu① は「如(ごと)」に対応)と ʔaN①(ある)の
複合したものであろう。様態を推量する意にも、また比喩にも用いる。「連体形」
のあと、または名詞 + -nu (の)のあとに用いる。¹⁷⁾ ʔaN① に準じて活用する。

注

1) 首里方言の文法のまとまった研究には次の二つがある。

B. H. Chamberlain: *Essay in Aid of a Grammar and Dictionary of the Luchuan Language* (1895) の文法の部分。

服部四郎「琉球語」(「世界言語概説」下巻 1955) の文法の部分。

この章を書くにあたっては、この二つを大いに参考とした。形態論的な分析の方法に関してはとくに後者の方法に準拠したところが大きい。そのいちいちの箇所についてその旨を断わりきれないので、ここにこのように記すにとどめる。また、次の論文からは、形態論的構造に関して少なからぬ示唆を受けた。

鈴木重幸「首里方言の動詞のいいまりの形」(国語学 41 号)

この章にあげた首里方言の形はその大部分が比嘉春潮氏の言語を上村が観察した結果である。ただし、本書の出版間際には同氏はハワイ大学の東西センターで研究中であったため、二三の疑問の点については島袋盛敏氏、および同

- じく首里出身の見里朝慶氏に当たって補った。
- 2) ただし、これらの名称は通時的見地にもとづく便宜的なものに過ぎない。「融合語幹」(61 ページ)という名称についても同様である。
 - 3) 本文の見出しには便宜上それぞれ、-rijun, -rijun -sjun(-simijun), -ganaasi の形で出している。
 - 4) 基本語幹末に r をもつ動詞は、この形がたとえば tunna①(取るな), ?ukinna①(起きるな), misjoonna①(なさるな) などのようになる。
 - 5) -ni~-nee は、連用形末尾のモーラが 'i (ただし単に i と書かれる) よりなるものには直接付き、末尾のモーラが他の子音音素と i よりなるものには、それにさらに 'i (i と書く) を重ねた形に付く。たとえば tui-(取り), ?ukii-(起き)は tuinee①, ?ukiinee① となり, kanzi-(かぶり), kaci-(書き), は kanziinee①, kaciinee① となる。
 - 6) この 'junuir- という語幹は, 'junui- にさらに「居り」が複合したものか。ただし島袋氏はこの語幹から作られる形を用いないようである。
 - 7) B. H. Chamberlain が 'junuga① (読むか), 'junukutu① (読むので) などの 'junu- を apocopated form (短縮形) と呼んでいるので、この語幹を便宜的に短縮形語幹と呼ぶことにする。ただし、この語幹が「短縮」によって生じたとは思われない。
 - 8) 66~67 ページを参照。
 - 9) 島袋氏は ?aqcun① を補助動詞としては用いない。
 - 10) 'judoon① (読んでいる)の語幹はすべて 'un① (いる)と融合した語幹であるから、元来は融合語幹の基本語幹、融合語幹の連用語幹などと呼ぶべきものであるが、わずらわしいので、普通態の語幹と同じ呼び方をした。'judeen① (読んでいる)および過去の場合も同様なことがいえる。また否定の形の語幹も肯定普通態の語幹に準じて呼んだ。
 - 11) 島袋氏は確言過去の形(過去の項に記したものを除く)を用いないという。
 - 12) たとえば, 'jumimisjoora'a①, 'jumimišeera'a① はそれぞれ, 'jumaa①, 'junuraa① の尊敬の形。
 - 13) 語幹の名称については注 10) と同様のことがいえる。
 - 14) -gisan は一部の形容詞の「語根」に付く場合があるが、意味が異なる。
 (šidagisan①(涼しそうだ) (ʔuturugisan①(恐ろしそうだ)
 (šidasagisan①(涼しいそうだ) (ʔuturusjaigisan①(恐ろしいそうだ)
 - 15) 末尾の jabiin は ibiin ともなる。71 ページ参照。
 - 16) 琉球大学の比嘉亀盛氏の国語学会研究発表会(1962年11月)でのお話によれば、「イ連体形」と「サアリ」系の連体形には、ニュアンスの差があり、前者にはやや換情的、強調的なニュアンスがあるという。
 - 17) ただし, 'waa-(わたしの<'wan①), ʔjaa①(おまえ), taa①(だれ)など、および人名には 'waaguto'on① のように直接つき, ʔari①(彼), ʔunzu①(あなた)などは、-ga(が)が付いて ʔariga① gutoon① のようになる。

本文篇

凡 例.....89~98

本 文..... 99~607

配 列 順

ʔa(-a)	b	c, ç	d	ʔe	'e
99	130	140	173	183	185
g	h	ʔi	'i(-i)	ʔj	'j(-j)
186	197	244	264	269	270
k	ʔm	m	n	ʔN	'N(-N)
297	352	353	399	430	434
ʔo	'o	p	q	r	s, ş
439	441	442	444	447	451
t	ʔu	'u(-u)	ʔw	'w(-w)	z, ź
501	536	576	581	587	597

()の中は接尾的な成分や助詞などが見出し語となる場合

凡 例

(1) 見出し語の形

単語(最小自由形式)を見出し語とすることを原則とした。したがって、複合語も独立の見出し語として扱われている。慣用句の中でしか用いられない形は、(句)としてその慣用句を見出し語の中に加えた。また、単語より小さい接頭辞、接尾辞などの付属形式は、接頭的なものはその末尾に-(ハイフン)を付け、接尾的なものはその初めに-(ハイフン)を付けて見出し語の中に加えた。ただし、同じ形が単語としても、また付属形式として接頭的あるいは接尾的にも用いられる場合には、単語として見出し語に出し、その接頭的あるいは接尾的な用法は、意味分類の中で示した。その場合、見出し語に付けたアクセント記号は、その形が単語として用いられた場合のものである。

また、助詞は種々の品詞に付く文末の助詞と、間投的な助詞とは-(ハイフン)を付けないで、その他の助詞は初めに-(ハイフン)を付けて、見出し語としてある。

変わり語形や、活用する語の活用形・派生形については、次のように扱った。

- ① 貴族・士族の成年男子の発音である *ɕ*, *ʃ*, *ʒ*, *ʂj* は、その他の人びとの発音では、それぞれ規則的に *e*, *s*, *z*, *s* となるが(解説篇参照)、前者の場合のみを見出し語としてかけ、後者の場合を見出し語としない。
- ② *ijun*で終わる動詞(たとえば *ʔukijun*①「起きる」、*ʔijun*①「入る」)はすべて、*iin* (たとえば *ʔukiiin*①「起きる」、*ʔiin*①「入る」)ともいうが(解説篇参照)、これらの動詞はいつも、*ijun* で終わる形だけを見出し語としてかける。
- ③ *nun*で終わる動詞(たとえば *ʔjunun*①「読む」、*nunun*①「飲む」)は、*sinun*①(死ぬ) 1語を除き、すべて、*mun*で終わる(たとえば *ʔjumun*①「読む」、*numun*①「飲む」)こともあり、また、古風な発音では *mjun*で終わる(たとえば *ʔjumjun*①「読む」、*numjun*①「飲む」)こともあるが(解説篇参照)、これらの動詞はいつも、*nun*で終わる形だけを見出し語としてかける。
- ④ 活用する語(動詞・形容詞・連詞)は、その肯定現在(動詞の場合はその普通態)のいわゆる「終止形」(解説篇参照)のみを見出し語とする。ただし、肯定普通態現在の「終止形」を欠く動詞(たとえば *teewa*①「お食べ」)のように命令形しかない動詞はこの限りでない。

- ⑤ 標準語の「形容詞語幹+サ」に対応する形(たとえば takasa①「高さ」, ?uturu-sja①「恐ろしさ」など。その用法は解説篇参照)は見出し語としない。形容詞の肯定現在の「終止形」(たとえば takasaN①「高い」, ?uturusjaN①「恐ろしい」)の末尾の N を除くと、この形が規則的に得られるからである。
- ⑥ 口語では長く発音されて2モーラに数えられるものが、組踊り(kumiuaui①)・琉歌(ruuka①)などの文語で韻律の関係から短く1モーラに数えられることがあるが、そのような場合の文語の形は見出し語としない。たとえば 'waa-(わたしの)は、文語では韻律の関係で 'wa?ujaga`nasi①(わが親御)のようにしばしば短く 'wa-(わが)となるが、この 'wa- は見出し語に入れない。
- ⑦ 以上のような規則的に得られる変わり語形を除き、一語一語の個別的な変わり語形は可能な限り見出し語に加えた。たとえば「似合い」に対応する語は nee①とも niee①とも niiee①ともいうが、いずれも見出し語として出している。

(2) 見出し語のアクセントの表記

アクセント(詳細は解説篇参照)は見出し語の音韻表記のすぐ次に、平板型の単語は①、下降型の単語は②を付けて示す。また、二次的な下降は、見出し語の音韻表記中の、その下降が起こる位置に直接'を付けて示した。ただし自立語以外の形(前から後ろにハイフンを付けた形)にはアクセント(二次的下降を除く)を付けない。

(3) 見出し語の配列

見出し語の配列はアルファベット順であるが、ローマ字のアルファベットにない字母(? , ' , g , z の5個)とスモールキャピタル(N, Q の2個)は次のように扱った。なお、見出し語のローマ字は貴族・士族の成年男子の発音にもとづく音韻表記(詳細は解説篇を参照)である。この「凡例」の末尾にかかげた「字母およびモーラ(短音節)一覧表」を参照されたい。

- ① ? と ' —— これらは存在を無視して扱う。すなわち、この二つは a, e, i, j, m, N, o, u, w の9種の字母の前で用いられるので、この9種の字母の来るべき位置に置く。たとえば, ?a は a の来るべき位置、つまり冒頭に置き、?e は e の来るべき位置、つまり d のあと g の前(fはない)に置く。ただし, ? はいつも ' の前に置く。たとえば, ?e は 'e の前に、また ?w は 'w の前に置く。また、語中の ' は省略して表記しない(解説篇参照)ので、たとえば語中の ?e は e (本来は 'e と書くべきもの)の前に置かれている。

- ② c, s, z — これらは、セディーラを無視して、それぞれ、c, s, z と同一のものとして扱い、c, s, z の来るべき位置に置く。このような扱いをしたのは女・子供や平民、また最近の一般の発音では c と c̣, s と ṣ, z と ẓ は相互に区別されない(解説篇参照)ので、この方が見出し語を検索するのに便利かと考えたからである。ただし、セディーラの有無によってのみ二つの見出し語が区別される場合には、セディーラのない方の語をさきに置く。たとえば zaaⓐ(座)は zaaⓐ(蛇)のすぐあとに置き、sinaⓐ(砂)は sinaⓐ(品)のすぐあとに置く。
- ③ N——これは ?N, 'N, hN の三種の結合としてしかあらわれない。まず、?N と 'N とは n のあと、?o の前に置いて、…n, ?N, 'N, ?o… の順に並べる。なお、'N は語中では ' を省略して単に N と書いてある。また hN は h の項の中に hj のあと、ho の前に置く。もっとも hN を含む語は全部で 2 語しかない。
- ④ Q——これは p のあと、r の前(q はない)に置く。

(4) 品詞名などの注記

見出し語の単語にはすべて、その属する品詞名を次のように示してある。

- (名) 名詞 (いわゆる代名詞、および、いわゆる形容動詞の語幹を含む)
- (自) 自動詞
- (他) 他動詞
- (形) 形容詞
- (連詞) 連詞 ('janⓐ「だ、である」、gutoonⓐ「ようだ」など)
- (副) 副詞
- (連体) 連体詞
- (接続) 接続詞
- (感動) 感動詞
- (助) 助詞

しかし、首里方言の文法のくわしい研究があまり進んでいないので、これらの注記は便宜的なものに過ぎない。動詞を自動詞と他動詞に分けて記したのも同様である。また、助詞と記したものがすべて単語(この場合、付属語)であるとはいえないが、標準語の文法で普通「助詞」とされているものの大部分はここでも便宜的に助詞と記した。ただし、いわゆる「接続助詞」に相当するものはその大部分を(接尾)に入

れた。また、通常「助動詞」とされるものは、一部は連詞に、一部は動詞・形容詞・連詞などに含まれた成分として、(接尾)に入れた。

単語以外のものの注記は次のようにした。

(句) 二単語またはそれ以上から成る慣用句で、それを構成する単語のどれかが、その慣用句以外では用いられないもの。

(接頭) 接頭辞および接頭的な諸種の付属形式

(接尾) 接尾辞および接尾的な諸種の付属形式

(5) 活用の注記

規則動詞はその「…しない(否定普通態現在の「終止形」)」の形と、「…して(普通態の分詞)」の形とを、たとえば次のように記してある。

'ju=nuN④(他 =maN, =di)…「読む」

これは 'junuN④(読む。肯定普通態現在の「終止形」)の「…しない」の形が 'ju-maN④(読まない)、「…して」の形が 'judi④(読んで)であることを示す。

不規則動詞と連詞(全部不規則)はたとえば次のように、「不規則」と記されている。

sjuN④(他・不規則)…「する」

なお活用の細部(および形容詞の活用)については解説篇参照。

(6) 見出し語における文語・古語・新語などの注記

[]で示した注記の意味は次のとおりである。

[文] ふつう文語としてのみ用いられる語。その大部分は組踊り(kumiudui④)、琉歌(ruuka④)などの韻文中に用いられるものである。

[古] 明治の中ごろから末期ごろにはすでにあまり用いられなくなっていたと思われる語。

[新] 明治以降使われるようになった語。標準語からの借用語を含む。

[新?] 明治以降使われるようになった新語(標準語からの借用語を含む)かもしれないと思われる語。

(7) 見出し語および例文における文語の表記

[]に入れて示した漢字および平仮名は、文語の伝統的な表記である(解説篇参照)。このうち、組踊りから採った例文の表記は、伊波普猷編「琉球戯曲集」(1929)のそれにほぼ従った。他のもの(琉歌を含む)の表記は、島袋氏または比嘉氏の表記

に従った。また、組踊りから採った例文は[]の末尾にその組踊りの題を記してある。琉歌は8・8・8・6の定型をもっているのので、例文に琉歌を採った場合、それが琉歌であることをいちいちわかっていない。

なお、地名の漢字表記は[]で囲まなかった。

(8) 意味の記し方

見出し語の意味が多義にわたる場合には、適宜 ⊖, ⊕, ⊗, …などのように分けて記した。大体、⊖に基本的な意味を、⊕以下に派生的な意味を記したことが多い。まれに、⊖, ⊕, ⊗, …などのさらに下位の分類として イ、ロ、ハ、…を用いた。なお、地名が見出し語となっている場合に、意味の説明のところに「《地》参照。」と記されているのは付録の「地名一覧」を参照されたいという意味である。

(9) 例 文

例文も見出し語と同じく音韻表記によって記した。また、その例文が文語である場合には、さらに[]の中に漢字平仮名の伝統的な表記を記した。見出し語を例文の中でそのまま単語として用いる場合には、省略符号 ~ を用いて示した。ただし、活用、助詞の融合その他の理由で例文の中の形が見出し語と違っている場合は ~ を用いなかった。また、見出し語の形が複合語の成分として例文の中に用いられた場合にも ~ を用いなかった。

例文にはすべて直訳調の訳文を付したが、見出し語に sjuN①(する)を付けただけの例文に限り、訳文がなくても意味が明らかな場合には訳文を付けなかった。

(10) 字母およびモーラ(短音節)一覧表

字母 (配列順 による)	その字母を 含むモーラ (配列順 による)	その音 声表記	鳥袋氏 の稿本 の表記	語 例	その音声 表 記	鳥袋氏の 表 記	意 味
ʔa	ʔa	[ʔa]	ア	ʔami①	[ʔami]	アミ	(雨)
b	ba	[ba]	バ	baa①	[ba:]	バー	(場合)
	be	[be]	ベ	bee①	[be:]	ベー	(倍)
	bi	[bi]	ビ	biN①	[biN]	ピン	(紅)
	bja	[bja]	ビャ	saNbjaku①	[sambjaku]	サンビャク	(三百)
	bjo	[bjo]	ビョ	bjooci①	[bjo:tʃi]	ビョーチ	(病気)
	bju	[bju]	ビュ	bjuu①	[bju:]	ビュー	(廟)
	bo	[bo]	ボ	boohujaa①	[bo:Φuja:]	ポーフヤー	(ほうふら)

字母 (配列順 による)	その字母を 含むモーラ (配列順 による)	その音 声表記	島袋氏 の稿本記 の表記	語 例	その音声 表 記	島袋氏の 表 記	意 味
	bu	[bu]	ブ	bura①	[buˈra]	ブラ	(ほら貝)
c, ç	ca	[tʃa]	チャ	caa①	[tʃa:]	チャー	(茶)
	○ça	[tʃa]	ツァ	maçaa①	[matʃa:]	マツァー	(松… 平民 の人名, 卓 称)
	ce	[tʃe]	チュ	micee①	[mitʃeː]	ミチュー	(道は)
	○çe	[tʃe]	ツェ	sjumuçee①	[ʃumutʃe:]	シュムツェー	(本は)
	ci	[tʃi]	チ	cimu①	[tʃimu]	チム	(心, 肝)
	○çi	[tʃi]	ツイ	çiburu①	[tʃiburu]	ツイブル	(頭)
	co	[tʃo]	チョ	coociN①	[tʃo:tʃiN]	チョーチン	(提燈)
	○ço	[tʃo]	ツォ	çoonˈçoon① [tʃo:nˈtʃo:n]		ツォーン ツォーン	(早作田節 に入るはや しの文句)
	cu	[tʃu]	チュ	cuu①	[tʃu:]	チュー	(きょう)
	çu	[tʃu]	ツ	çukujuN①	[tʃukujuN]	ツクユン	(作る)
d	da	[da]	ダ	daki①	[daˈki]	ダキ	(竹)
	de	[de]	デ	dee①	[de:]	デー	(台)
	○di	[di]	ディ	dikijuN①	[dikijuN]	ディキユン	(できる)
	do	[do]	ド	doo①	[do:]	ドー	(ろうそく)
	○du	[du]	ドゥ	duku①	[duku]	ドゥク	(毒)
ʔe	○ʔe	[ʔe]	イェ	ʔeesaçi①	[ʔeːsatsi]	イェー サツィ	(あいさつ)
'e	○'e	[ʔe]	エ	'eema①	[ʔeˈma]	エーマ	(八重山)
g	ga	[ga]	ガ	gaanaa①	[gaːna:]	ガーナー	(鶯鳥)
	ge	[ge]	ゲ	teegee①	[teːge:]	テーゲー	(大概)
	gi	[gi]	ギ	ʔagi①	[ʔaˈgi]	アギ	(陸)
	go	[go]	ゴ	googuci①	[goːgutʃi]	ゴーグチ	(不平)
	gu	[gu]	グ	gumi①	[gumi]	グミ	(ごみ)
	○gwa	[gwa]	グワ	gwaNziçi①	[gwaNziçi]	グワNジツィ	(元日)
	○gwe	[gwe]	グェ	gweQtai①	[gweQtai]	グェツタイ	(ぬかるみ)
	○gwi	[gwi]	グヰ	gumagwii①	[gumagwi:]	グマグヰー	(小声)
h	ha	[ha]	ハ	haa①	[ha:]	ハー	(齒)

	he	[he]	へ	hei①	[he'i]	へイ(おい…感動詞)
	hi	[çi]	ヒ	hija①	[çi'ja]	ヒヤ(えい…感動詞)
	hja	[ça]	ヒャ	hjaaku①	[ça:ku]	ヒャーク (百)
	hjo	[ço]	ヒョ	hjoosi①	[ço:ji]	ヒョーシ (拍子)
	hju	[çu]	ヒュ	hjuusi①	[çu:ji]	ヒューシ(ひよどり)
	OhN	[N̥N]	フッ	hNN①	[N̥N:]	フッー(ふん…感動詞)
	ho	[ho]	ホ	hootu①	[ho:tu]	ホートウ (鳩)
	hu	[Φu]	フ	husi①	[Φu'fi]	フシ (星)
	Ohwa	[Φa]	フッ	hwaa①	[Φa':]	フッー (葉)
	Ohwe	[Φe]	フヱ	hwee①	[Φe':]	フヱー (蠅)
	Ohwi	[Φi]	フイ	hwii①	[Φi:]	フイー (火)
ʔi	ʔi	[ʔi]	イ	ʔiN①	[ʔiN]	イン (犬)
'i	○'i	[ji]	ヰ	'iN①	[jin]	キン (縁)
ʔj	○ʔja	[ʔja]	イヤ	ʔjaa①	[ʔja':]	イヤー (おまえ)
	○ʔjo	[ʔjo]	イョ	ʔjooii①	[ʔjoi:i]	イョーイー(おさな子)
	○ʔju	[ʔju]	イユ	ʔjuN①	[ʔju'N]	イユン (言う)
'j	'ja	[ja]	ヤ	'jaa①	[ja:]	ヤー (家)
	'jo	[jo]	ヨ	'joosaN①	[jo:san]	ヨーサン (弱い)
	'ju	[ju]	ユ	'juu①	[ju:]	ユー (湯)
k	ka	[ka]	カ	kaa①	[ka:]	カー (皮)
	ke	[ke]	ケ	keesjuN①	[ke:juN]	ケーシュン(返す)
	ki	[ki]	キ	kii①	[ki:]	キー (木)
	ko	[ko]	コ	koojuN①	[ko':juN]	コーユン (買う)
	ku	[ku]	ク	kuu①	[ku:]	クー (粉)
	Okwa	[kwa]	クッ	kwaa①	[kwa:]	クッー (桑)
	Okwe	[kwe]	クヱ	kweejuN①	[kwe:juN]	クヱーユン(肥える)
	Okwi	[kwi]	クヰ	kwii①	[kwi:]	クヰー (声)
ʔm	○ʔme	[ʔme]	め	ʔmeNʃeeN①	[ʔme'Nse:N]	めンセー(いらっ しゃる)
m	ma	[ma]	マ	maaci①	[ma:tsi]	マーツイ (松)
	me	[me]	メ	mee①	[me:]	メー (前)

字母 (配列順による)	その字母を 含むモーラ (配列順による)	その音 声表記	島袋氏 の表記	語 例	その音声 表 記	島袋氏の 表 記	意 味
	mi	[mi]	ミ	mimi①	[mimi]	ミミ	(耳)
	mja	[mja]	ミヤ	mjaku①	[mjaku]	ミヤク	(脈)
	mjo	[mjo]	ミョ	mjoozi①	[mjo:ʒi]	ミョージ	(苗字)
	mju	[mju]	ミュ	mjuu①	[mjuː]	ミュー	(妙)
	mo	[mo]	モ	moo①	[mo:]	モー	(野原)
	mu	[mu]	ム	mucun①	[mutʃuN]	ムチュン	(持つ)
n	na	[na]	ナ	naa①	[naː]	ナー	(名)
	ne	[ne]	ネ	neeN①	[ne:N]	ネーン	(無い)
	ni	[ni]	ニ	nii①	[ni:]	ニー	(荷)
	nja	[nja]	ニヤ	njaa①	[njaː]	ニヤー	(もう)
	nju	[nju]	ニュ	njuNzu①	[njuːNɔ̃ʒu]	ニュンジュ	(あなたさま)
	no	[no]	ノ	noojuN①	[no:juN]	ノーユン	(直る)
	nu	[nu]	ヌ	nuu①	[nu:]	ヌー	(何)
?N	○?N		ㄱ	?Nma①	[?m̩ma]	ㄱマ	(馬)
'N	'N		ン	'Nna①	[n̩ˈna]	ンナ	(皆)
?o	?o	[?o]	オ	?ooee①	[?o:e:]	オーエー	(けんか)
'o	○o	[o]	ヲ	'oo①	[o:]	ラー	(王)
p	pa	[pa]	パ	paasuNkoo①	[pa:suŋko:]	パース ンクー	(菓子名)
	pe	[pe]	ペ	peeciN①	[pe:tʃiN]	ペーチン	(位階名)
	pi	[pi]	ピ	piipii①	[pi:pi:]	ピーピー	(ねずみの 小児語)
	pja	[pja]	ピヤ	ruqpjaku①	[ruppjaku]	ルッピーク	(六百)
	pju	[pju]	ピュ	?iQpjuu①	[?ippju:]	イッピーュー	(一俵)
Q	Q			Qcu①	[tʰtʃu]	チュ	(人)
r	ra	[ra]	ラ	kura①	[kura]	クラ	(倉)
	re	[re]	レ	kuree①	[kureː]	クレー	(位階)
	ri	[ri]	リ	kuri①	[kuˈri]	クリ	(これ)
	ro	[ro]	ロ	?i-roo①	[?iro:]	イロー	(色は)
	ru	[ru]	ル	?iru①	[?iru]	イル	(色)

s, ʃ	sa	[sa]	サ	saataa①	[sa:ta:]	サーター	(砂糖)
	○se	[je]	シェ	seeki①	[je:ki]	シェーキ	(開墾)
	ʃe	[se]	セ	ʃee①	[se:]	セー	(ばった)
	si	[ji]	シ	sii①	[ji:]	シー	(椎)
	○ʃi	[si]	スイ	ʃii①	[ʃi:]	スイー	(菓)
	sja	[ja]	シャ	sjaakaganasi①	[ja:kaganafi]	シャーカー ガナシ	(おしゃか さま)
	sjo	[jo]	ジョ	sjoogwaçi①	[jo:gwatsi]	ジョー グワツィ	(正月)
	sju	[ju]	シュ	sjuu①	[ju:]	シュー	(潮)
	so	[so]	ソ	soo①	[so:]	ソー	(竿)
	su	[su]	ス	suujun①	[suːjun]	スーユン	(吸う)
t	ta	[ta]	タ	taa①	[ta:]	ター	(田)
	te	[te]	テ	teegee①	[te:ge:]	テーゲー	(大概)
	○ti	[ti]	ティ	tii①	[ti:]	ティー	(手)
	to	[to]	ト	too①	[to:]	トー	(中国)
	○tu	[tu]	トゥ	tui①	[tui]	トゥイ	(鳥)
ʔu	ʔu	[ʔu]	ウ	ʔumi①	[ʔumi]	ウミ	(海)
ʔu	○ʔu	[wu]	ヲウ	ʔuN①	[wuˈN]	ヲウン	(居る)
ʔw	○ʔwa	[ʔwa]	ウワ	ʔwaa①	[ʔwa:]	ウワー	(豚)
	○ʔwe	[ʔwe]	ウエ	ʔweeka①	[ʔwe:ka]	ウエーカ	(親戚)
	○ʔwi	[ʔwi]	ウキ	ʔwii①	[ʔwiː]	ウキー	(上)
ʔw	ʔwa	[wa]	ワ	ʔwan①	[wan]	ワン	(わたし)
	○ʔwe	[we]	エ	ʃeewee①	[ʃeːwe:]	セーエー	(さいわい)
	○ʔwi	[wi]	エイ	ʔwinagu①	[winagu]	エイナグ	(女)
z, ʒ	za	[dʒa]	ジャ, ヂャ	zama①	[dʒaˈma]	ジャマ	(邪魔)
	ʒa	[dza]	ザ	ʒaa①	[dza:]	ザー	(座)
	○ze	[dʒe]	ジエ, ヂェ	kazee①	[kaʒeː]	カジェー	(風は)
	ʒe	[dze]	ゼ	ʒeeɡi①	[dze:gi]	ゼーギ	(銘木)
	zi	[dʒi]	ジ,ヂ	zii①	[dʒi:]	ジー	(字)
	○ʒi	[dzi]	ヅィ	mizi①	[miˈzi]	ミヅィ	(水)

字母 (配列順) による	その字母を 含む (配列順) による	その音 声表記	鳥袋氏 の 表記	語 例	その音 声表記	鳥袋氏 の 表記	意 味
	zo	[dʒo]	ジ ^ョ ヂ ^ョ	zoo⑩	[dʒo:]	ジョー	(門)
	zo	[dzo]	ゾ	zooi⑩	[dzoːi]	ゾーイ	(とても)
	zu	[dʒu]	ジ ^ユ ヂ ^ユ	zuubaku⑩	[dʒu:baku]	ジューバク	(重箱)
	zu	[dzu]	ズ,ヅ	zuri⑩	[dʒuri]	ヅリ	(女郎)

○印は標準語に近似的な音のないもの。くわしくは解説篇参照。

(11) 本文篇中に付した*(星印)について

鳥袋・比嘉両氏の話す首里方言、および首里方言についての両氏の記憶にはわずかながら異なる点がある(「編集経過の概要」参照)。*(星印)はそのような食い違った箇所を示すもので、鳥袋氏が本文篇の校正刷りを通読した際に行なった指摘に基づいて研究所が付けたものである。すなわち、見出し語の右肩に*のあるものはその見出し語が、⊖、⊕……などの意味分類の番号の右肩に*のあるものはその見出し語のその部分の意味が、意味を記した文・例文・訳文の文末の右肩に*のあるものは、その意味・その例文・その訳文が、それぞれ鳥袋氏の知らないもの、または鳥袋氏の首里方言の記憶と違っているものである。

ʔa, - a

ʔaa① (感) ああ。物事に深く感じた時発する声。

ʔaa② (名) 泡。ʔaabuku ともいう。～nu tacuN. 泡が立つ。

ʔaa③ (名) 安和。《地》参照。

ʔaaʔaa④ (感・副) ああああ。ため息をつくさま。～sjun. ああああと嘆息する。

ʔaabaasaabaa⑤ (副) ぺちゃくちゃ。とりとめもなくしゃべるさま。～munu ʔjunuN. ぺちゃくちゃしゃべる。

ʔaabuku⑥ (名) 泡。あぶく。

ʔaaci⑦ (助詞的に用いられる) 同時に。
 <ʔaasjun (合わせる)。ʔieusitu ～. 行くのと同時に。ʔjuʔitu ～. 言うのと同時に。

ʔaacirahja ʔacira⑧ (副) ぺちゃくちゃ。べらべら。とりとめもなくしゃべるさま。～munu ʔjunuN. ぺちゃくちゃしゃべる。

ʔaaguuru⑨ (名) かくれんぼ (kwaqkwindooree) で、隠れた者を捜し出せずに鬼が降参すること。また、その降参する時に言うことば。鬼が ʔaaguuru と叫ぶと、隠れた子供たちが現われ、鬼にお辞儀をさせてから、やり直す。

ʔaahjangaree⑩ (感) 短気を起こした時などに発する声。ちくしょう。

ʔaa=jun⑪ (自 =ran, =ti) 合う。計算が合う・時計が合うなどの意では、新しくは ʔatajun を多く用いるようになった。ʔunu hujaa ʔaahwisjatu ʔaajumi. その靴はおまえの足に合うか。sanminoo ʔaatoomi. 計算は合っているか。

ʔaaka=sjun⑫ (他 =san, =ci) 割る。裂く。離す。また、割れ目を入れる。

ʔaakeezuu⑬ (名) とんぼ。

ʔaaki⑭ (名) 裂け目。割れ目。ひび。すき間。hasirunu ～kara suumi sjun. 雨

戸のすき間からのぞき見する。hwiiraaja haajanu ～nakain ʔun. ごきぶりは柱の割れ目にもいる。

ʔaakii⑮ (名) 組踊り用語。愁嘆場。親子兄弟の別離・再会などで、感情が高まる場面。ʔaki ʔicaga najura. (ああ、どうなることか), ʔaki ʔimiga ʔajura. (ああ夢ではないか)などの ʔaki を、地謡が長く引き延ばして歌うのでこういう。

ʔaaki=jun⑯ (自 =ran, =ti) ⊖割れる。裂けて離れる。また、ひびが入る。裂け目ができる。ʔicanu kariti ～. 板が枯れて割れる。murazinmi sjaʔiga, ʔikuçinunkai ʔaakitani. 村の協議をしたが、意見がいくつにも割れた。⊖言行が食い違う。つじつまが合わない。矛盾する。taiga ʔjuru kutubanu ʔaakitooN. ふたりの言うことばは矛盾している。ʔariga ʔjuru kutoo ʔatutu sacitu caa ～. 彼の言うことは前とあとといつも食い違う。

ʔaamui⑰ (名) 泡盛。普通は単に saki という。

ʔaaqca⑱ (名) ʔaqca (歩くことの小児語) と同じ。

ʔaarancee⑲ (名) 麻布の一種。さらしてない無地の麻布。bingata [紅型] や ʔee-gata [藍型] などに加工する前の布。

ʔaarankaa⑳ (名) 飾り気のない人。ありのまま遠慮のない人。ʔaree ～ ʔakutu, maqtoobandi ʔicee maqtooba ʔjan. 彼はありのままの人だから、正直といえは正直だ。

ʔaasa㉑ (名) ⊖海草の名。背のりの一種。あおさ。わかめのようにして汁の実などにする。mooʔaasa と区別して ʔumiʔaasa

ʔaasaʔirici

ともいう。⊖ mooʔaasa (きのこの一種) と同じ。

ʔaasaʔiriciⓂ (名) 料理名。mooʔaasa の油いため。

ʔaasiⓂ (名) 泡瀬。中頭郡東海岸にある港。

ʔaasikaganⓂ (名) 合わせ鏡。後ろ姿を見るために、前後から鏡を合わせて見ること。
～ sjUN.

ʔaasimunⓂ (名) 裕。裏付きの着物。

ʔaasiziNⓂ (名) ʔaasimun と同じ。ʔaasimun を多く用いる。

ʔaa=sjUNⓂ (他 =saN, =ci) ⊖ 合わせる。適合させる。規準などに合わせる。⊖ 調合する。kusui ~. 薬を調合する。⊖ 牛などを戦わせる。ʔusi ~. 牛を戦わせる。

ʔaa=sjUNⓂ (他 =saN, =ci) 粉に水などを加え、練りかえす。こね合わせる。nui ~. のりをこね合わせる。

ʔaata¹baiⓂ (名) またぐらの痛い時など、またを横に広げるようにして歩くこと。その滑稽な歩き方を嘲笑して言う語。ʔaata- は ʔataku, ʔatabici (ともに蛙の種類の名) の ʔata- と関係ある形か。ʔaatabai は蛙のよちよち歩く歩き方と似ている。
～ sjUN. 足を広げてよちよち歩く。

ʔaataⓂ **najuN**Ⓜ (句) 疲れてくたくたになる。疲れてぐにゃぐにゃになる。のびる。

ʔaatootuⓂ (感) 神仏を拜む時に発する声。あなとうと。女は ʔuutootu とも言う。

ʔabaaⓂ (名) 姉。ねえさん。農村で用いる語。首里では、士族については ʔNmii, 平民については ʔangwaa という。

ʔabacino¹oriⓂ (副) もて余すさま。身動きのとれないよなさま。～ sjUN.

ʔabacisigutuⓂ (名) 手に余る仕事。もて余す仕事。

ʔaba=cuNⓂ (自 =kaN, =ci) たくさんの着物・大きすぎる着物などを着てもて余す。

また、仕事などをもて余す。sigutu ʔuhookoo ʔiiçikiraçti ʔabacoosa. 仕事をたくさん言い付けられてもて余しているよ。

ʔabaraaⓂ (名) 大食い。大食漢

ʔabarajaⓂ (名) [文] あばらや。

ʔabasiⓂ (名) おてんば。おしゃべりな女。

ʔabasiⓂ (名) 魚の名。おこぜの類。暖海に産し、刺がたくさんある。

ʔabasjaaⓂ (名) ʔabasi (おてんば) と同じ。

ʔabiigwiiⓂ (名) 叫び声。kaamakara ~nu cikariin. 遠くから叫び声が聞こえる。

ʔabiihoo=ju¹NⓂ (自 =raN, =ti) わめき散らす。どなり散らす。

ʔabiiʔuduruka=sju¹NⓂ (他 =saN, =ci) 大声でどなって驚かす。

ʔabijaaⓂ (名) ⊖ 叫ぶ者。わめく者。泣きわめく者。鳴くもの。⊖ 鳴くせみ。鳴かないせみは çiiçaa という。

ʔabijaatii¹jaaⓂ (副) わめき散らすさま。また、大勢がわいわい騒ぐさま。喧喧ごうごう。～ sjUN.

ʔabi=jUNⓂ (自 =raN, =ti) ⊖ 叫ぶ。大声で呼ぶ。また、わめく。どなる。ʔabiti¹Ndee. 大声で呼んでみる。⊖ 大声で泣く。泣き叫ぶ。⊖ ほえる。犬・猫・豚などが鳴く。

-abi=jUN (接尾 =raN, =ti, 一部不規則) ます。…します。話し相手に対する丁寧の敬語。-abiin ということが多い。ʔUN (いる)と複合した動詞 (すなわち一般の動詞) に付く時には、その「終止形」から UN を除いた形につく。kacUN (書く)→kacabiin (書きます), tujUN (取る)→tujabiin (取ります)など。ʔUN (いる), ʔAN (ある), ʔjan (だ)などに付く時には末尾の N を除いた形に付き、ʔujabiin, ʔuibiiin (います), ʔajabiin, ʔaibiin (あります), ʔajabiin, ʔjaibiin (です)のように、-jabiin もしくは -ibiin となる。形容詞の場

合も同じく tuusaN (遠い)→tuusaja-biin, tuusaibiiN (遠いです) のようになる。'junabira. 読みましょう。'jumi-mišeējabiimi. お読みになりますか。

YaɓuⓄ (名) 安部。《地》参照。

Yaɓu=cuNⓄ (自 =kaN, =ci) 飯などが吹きこぼれる。沸騰して吹き出る。

Yaɓu=cuNⓄ (自 =kaN, =ci) 暑くて蒸し蒸しする。蒸すように暑い。

YaɓuiⓄ (名) あぶみ。

YaɓuikuuⓄ (名) 魚や餅などを焼く金網。

Yaɓu=junⓄ (他 =raN, =ti) あぶる。食物などを焼く。また、火にかざし暖める。muci ~. 餅を焼く。tiinusaci ~. 手の先をあぶる。

YaɓunasjanⓄ (形) [文・新] 危い。元来は ʔukaasjan という。Yaɓunee tukuru. 危い所。

YaɓusiⓄ (名) あぜ。田のあぜ。

YaɓusibareeⓄ (名) あぜ祓いの意。旧暦4月に行なう田の祭り。仕事を休み、ごちそろを作って一日を遊び暮らす。また、海人草 (nacoora) を煎じて飲み、海人草の雑炊を食べる。海人草は回虫を除くにのに効くとされる。

Yaɓusimaku`raⓄ (名) [文] 稲の穂がみのり、Yaɓusi (あぜ) を枕にすること。豊作を形容している語。

YaɓusimiciⓄ (名) あぜ道。

YaɓaⓄ (名) あした。あす。

Yaɓa ʔasaⓄ (名) あしたの朝。

YaɓagaiⓄ (名) 時期が終わること。

Yaɓaga=junⓄ (自 =raN, =ti) ⊖時期が去る。時期はずれとなる。Yaɓacineenu ~. 商売の時期が終わる。⊖飽きが来る。仕事・人などに対する熱がさめる。tageeni ʔiqpee kanasja sjootaru mun, kunee-danšee Yaɓagatooru gutoosa. 互にとっても愛し合っていたのに、このごろは熱がさめたようだ。

Yaɓa`juruⓄ (名) あしたの夜。

Yaɓa`jusaNdiⓄ (名) あしたの晩。

Yaɓa`sutumitiⓄ (名) あしたの朝。

YaɓaciⓄ (名) ⊖[文] 秋。秋という季節感がないので、口語ではほとんど使わない。

⊖[古] 収穫の時期。刈り入れ時。

YaɓiɓeeⓄ (名) 熱灰。まだ火気のある灰。~Nkai hwisja ʔiqtannee. 熱い灰に足を入れたように。非常にあわてるさま。

YaɓiɓiiⓄ (名) 柔らかい御飯。おかゆと御飯との中間ぐらいの、子供・病人などに食べさせる御飯。

YaɓiɓiiraciⓄ (名) はれものなどが熱をもって痛むこと。また、やけどが痛むこと。

YaɓiɓuniⓄ (名) 暑い地方。熱帯地方。hwiguni の対。

YaɓihaisigutuⓄ (名) 飽きてしまうような仕事。きりのないやいやいやながらの仕事。~nu ʔasihaisigutu. いやいやながらの仕事は、よけい汗の出る仕事となる。

YaɓihaisiiⓄ (名) いやいやながらすること。~sjun.

YaɓihatibeesanⓄ (形) 飽きが早い。飽きっぽい。

Yaɓihati=junⓄ (自 =raN, =ti) 飽きる。

Yaɓijaahuu`jaaⓄ (副) 暑くて、ふうふういうさま。盛んに暑がるさま。~sjun.

Yaɓika=junⓄ (他 =aN, =raN, =ti) ⊖扱う。取り扱う。使いこなす。ʔeeeku ~. 權をあやつる。⊖こき使う。酷使する。Yaɓikaariin. こき使われる。

YaɓiɓeeɓurisjanⓄ (形) 人・道具などが扱いにくい。使いにくい。

YaɓikiⓄ (名) ゆげ。また、蒸気。ʔusjoo-rooja ~du ʔusjagajuru. 御精霊は湯気を召しあがる。お供えものは熱いうちに、または、ふたを取って供えろの意。

YaɓikookooⓄ (副) ほやほや。煮えたばか

ʔaçimajuN

りのさま。また、料理の熱いうちに。～sjooini kamee. ほやほやのうちに食べる。ʔubun ~ kanun. 御飯を熱いうちに食べる。

ʔaçima=juN① (自 =raN, =ti) [新] 集まる。元来は surijun という。

ʔaçimi=juN① (自 =raN, =ti) [新] 集める。元来は surirasjuN という。

ʔacinee① (名) 商売。あきない。～sjun.

ʔacineeguhwasan① (形) 商売がうまく行かない。

ʔacineemuN① (名) 商品。

ʔacineeNcu① (名) 商人。

ʔacineesjaa① (名) 商人。

ʔacineezoozi① (名) あきない上手。商売上手。

ʔacinuʔiju① (名) まぐろ。ʔakaʔaci と siruʔaci とある。

ʔaciraka① (名) 明らか。公明。正しいこと。～na qcu. 公明な人。

ʔaçirasikeesaa① (名) 何度も暖め直した食物。

ʔaçira=sjuN① (他 =san, =ci) 熱くする。食物などを暖める。

ʔaçiree① (名) あつらえ。注文して作らせること。ʔjamatusoobeetooʔaçiree. その項参照。

ʔaçiree=juN① (他 =raN, =ti) あつらえる。注文して作らせる。

ʔaçireemuN① (名) あつらえ物。注文して作らせたもの。

ʔaçiri=juN① (自 =raN, =ti) 熱くなる。暖まる。食物などについて多くいう。

ʔaçisakamarasaa① (名) 暑さ嫌い。暑さを苦にする者。

ʔaçisan① (形) ㊦暑い。hwiisan (寒い) の対。㊦熱い。hwizurusana (冷たい) の対。

ʔaçisan① (形) 厚い。hwiqsan (薄い) の対。

ʔaçisaʔumii① (名) 暑がり。暑がる者。

ʔacizaran① (自) (否定形のみがある) ㊦飽き足りない。不満である。～mun. 飽き足らぬ者。不満を感じさせる者。～munuʔiikata. 不満を感じさせる言い方。㊦なごり惜しい。～ʔwakari. なごり惜しい別れ。ʔacizaranoo ʔaçiga mata ʔjaa. なごり惜しいけど、また会おうね。

ʔaçizii① (名) 寝た時の足もと。maqkwagwan (枕元) の対。

ʔacoodaa① (名) 商人。卑称。

ʔacoodu① (名) 商人。多く仲買い人をいう。

ʔacooduguci① (名) 仲買い人のことば。上手だが信用できない話しぶりをいう。「仲人口」に似た語。

ʔa=cun① (自 =kan, =ci) ㊦明く。開く。hasirunu ~. 戸があく。ʔananu ʔacoon. 穴があいている。㊦空く。ʔjaanu ʔacoon. 家があいている。

ʔacuu① (名) 熱いものの小児語。

ʔada① (名) 安田。《地》参照。

ʔada① (名) あだ。徒労。～natan. 徒労になった。

ʔada① (名) かたき。あだ。～ʔucun. かたきをうつ。

ʔadaa=sjuN① (他 =san, =ci) 声高に叱りつける。どなりつける。ʔwarabi ~. 子供をどなりつける。

ʔadaki① (名) あの高さ。あんなに高く。あれだけの高さ。～ʔagatoon. あの高さに上がっている。

ʔadanasi① (名) ʔadani (阿旦) の気根。また、その繊維で作った縄。

ʔadani① (名) 阿旦。たこのき科の亜熱帯性常緑灌木。気根を生じ、葉は細長く、とがり、刺がある。葉からござ・帽子などを作り、気根の繊維は縄などにする。ʔadanともいう。

ʔadan① (名) ʔadani (阿旦) と同じ。

ʔadanbaa① (名) ʔadani (阿旦) の葉。
 ʔadanbaamusiru① (名) ʔadanbaa で作ったむしろ。
 ʔadanbaasaba① (名) ʔadanbaa で作ったぞり。
 ʔadanna① (名) 安谷屋。《地》参照。
 ʔadasi① (連体) [文] はかない。はかなき。～'jununakani nagaraiti 'ututi. [あだし世の中に ながらへて居とて(忠臣身替)] はかない世の中に長らえていて。
 ʔadati=jun① (他 =ran, =ti) 捜す。捜し求める。尋ね求める。求めてあちこち聞いて回る。「あだて」と関係ある語か。namaa ʔadatitin, 'jaaja tumeegurisjan. 今は捜しても、家は見つけにくい。
 ʔadu① (名) かかと。
 ʔaduʃiriʃiri① (名) 足ずり。子供などが足を地にすりつけて、だだをこねることをいう。～ sjun.
 ʔaduzisi① (名) ㊦かかとの裏。㊦かかとの裏にできる、うおのめのようなはれもの。はれて堅くなり、痛む。焼き針を立てたり、焼き瓦を当てたりして治療した。
 ʔaee① (名) あり合わせ。ʔaiee ともいう。～nu munsaani siinasjun. あり合わせのものでうまくやる。
 ʔagacaa① (名) 労働者。筋肉労働者。
 ʔagacihai① (副) 忙しそうに働くさま。精出すさま。-hai<hajun (走る)。～ sjun.
 ʔagacihata'raci① (名) 一生懸命働くこと。精出すこと。
 ʔaga=cun① (自 =kan, =ci) ㊦働く。肉体労働をする。また、よく働く。精出す。㊦仕事などが、はかどる。はかが行く。sigutunu muru ʔagakan. 仕事が全然はかどらない。cuhwirujaka ʔwiini ʔagacaaN. (機織りが) 一尋以上はかどった。㊦家畜が成長する。
 ʔagai① (名) 地面の高いところ。かみ。sagai の対。

ʔagaihana① (名) 日の上りはじめ。
 ʔagaitiida① (名) 上る日。朝日。～du 'uganuru, sagaitiidaa 'ugamaN. 上る日は拝むが、落ちる日は拝まない。権勢のよい者につく意。
 ʔaga=jun① (自 =ran, =ti) ㊦上がる。昇る。空間を上がる。また、物価などが上がる。tiidanu ～. 日が昇る。maainu ～. まりが上がる。niinu ～. 値が上がる。nubujun の項参照。㊦上達する。tiinu ～. 腕が上がる。ziinu ～. 字が上達する。ʔuta ʔagarasjun. 歌を上達させる。㊦できあがる。また、終わる。macinu ～. 市が終わる。㊦かえって悪い。よくあるべきものがいっそう悪い。Qkwajaka ～. 子供より悪い。nusudujaka ～. どれぼり以上だ。
 ʔagami=jun① (他 =ran, =ti) あがめる。敬う。
 ʔagane① (名) 儉約。節約。経済。～nu 'jutasjan. 節約がうまい。
 ʔagane=jun① (他 =tan, =ti) 節約する。儉約して大事に使う。mookirazijaka ʔaganeeri. もうけるよりも儉約せよ。(ことわざ。mookirazi は形は否定だが、意味は肯定。mookijuʃijaka ともいえる。)
 ʔagari① (名) 東。ʔiri (西) の対。
 ʔagarii① (名) 東江。《地》参照。
 ʔagarikata① (名) 東の方。東の地方。
 ʔagarime'e① (名) 東江前。《地》参照。
 ʔagarinuʔumi① (名) 太平洋。東の海の意。
 ʔagariNkee① (名) 東向き。
 ʔagariʔuma'ai① (名) 東方めぐり。行事の名。穀物をはじめて作られたといわれるところ(知念村の ʔukinʔuhainʔu, 与那原村の ʔweegaa など数箇所)を女が巡拝する。
 ʔagariʔwi'i① (名) 東江上。《地》参照。
 ʔagata① (名) あっちの方。あちら側。ʔu-

ʔagatoo

Nnadaki ~ satuga ʔNmarizima, muiN ʔusinukiti kugata nasana. [恩納岳あがた 里が生れ島 森も押しかけて こが たなさな] 恩納岳のあちら側は恋しい男の生まれ故郷, その山も押しかけてこちら側にしたい。

ʔagatooⓐ (名) あの遠さ。あんなに遠く。
~kara cii. あんなに遠くから来たか。na-madiikara ~nu ʔiqtaamadi keejun naa. こんなに遅くあんな遠くの君の家まで帰るのか。

ʔagiⓐ (名) 陸。おか。~nu hurimUN. 女が女郎にうつつをぬかす男などを嘲笑している語。おかの気のふれたもの。

ʔagiⓐ (名) 上げ。歌・三味線などの高い音の部分。また, 三味線の二上がり (nii-ʔagi)。

ʔagibusiⓐ (名) saNsIN (三味線) の二上りの調子の歌。

ʔagidaⓐ (名) 安慶田。《地》参照。

ʔagidoohuⓐ (名) 揚げ豆腐。

ʔagihwiigurumaaⓐ (名) [新] おか蒸気。汽車。明治の初め汽車ができたという話を聞いてできた語。hwiigurumaa は蒸気船。ʔagi は陸。沖縄に軽便鉄道ができてからは kisja というようになった。

-**agiinaa** (接尾) …しながら。…しつつ。同時に動作を進行させる意を表わす。<-agijun. -gacii ともいう。ʔaqcagiinaa (歩きながら), ʔjunagiinaa (読みながら), sjagiinaa (しながら), ʔumujagiinaa (思いながら) など。ʔaqcagiinaa 'uuzi kanuN. 歩きながら砂糖きびを食う。ʔaqcagiinaa(nu kutu) 'jatan. 歩きながら(のこと)だった。

ʔagi=junⓐ (他 =raN, =ti) ⊖上げる。ta-ku ~. たこを揚げる。tii ~. 手を上げる。naa ~. 名を上げる。nii ~. 値を上げる。⊖楽器や声の調子を高くする。kwii ~. 声の調子を高くする。声を出す意で

は, tucinukwii ~, (ときの声をあげる)のほかにはあまり用いないようである。⊖油で揚げる。ʔagimUN ~. 揚げ物を揚げる。ⓐ献上する。進上する。さし上げる。ʔu-sjagijun よりも格式ばった, ていねいな語。nuu ʔagiiga. 何を進上しようか。ⓐもどす。吐く。あげる。saki numinee caa ʔagijuru kusinu ʔaN. 酒を飲むと いつも吐く癖がある。

-**agijun** (接尾・不規則) …しつつある。…している。進行の意を表わす。-agiin といふことが多い。ふつう動詞の「終止形」から uN を除いた形に付く。ʔjunUN (読む) → ʔjunagiin (読みつつある) など。

ʔagimaa=sjunⓐ (他 =saN, =ci) せきたてる。dii ʔikaʔika qsi ʔagimaacaʔiga, ʔjuujuutu sjootaN. さあ行こう行こうとせきたてたが, のんびりしていた。

ʔagimUNⓐ (名) 揚げ物。油揚げにしたもの。てんぷらなど。

ʔaginaⓐ (名) 安慶名。《地》参照。

ʔagisagiⓐ (名) 上げ下げ。上げたり下げたりすること。

ʔagiziⓐ (名) 習字の清書。習字で, けいこを終えて清書すること。

ʔagu=junⓐ (自 =raN, =ti) よじ登る。繩などをたぐって登る。まれな語。ʔanu kiinkai čina kačimiti ʔagura. あの木に繩をたぐって登ろう。

ʔagunaaⓐ (名) 粟国島 (ʔaguni) の者。卑称。粟国島は下男下女の出身地として知られていた。

ʔaguniⓐ (名) 粟国島。那覇の西北方にある島の名。

-**ʔagu=nuN** (接尾 =maN, =di) あぐむ。できずにもて余す。ʔaqciʔagunuN (歩きあぐむ), siiʔagunuN (しあぐむ) など。kačiriNnu simaja kajuibusja ʔaʔiga, ʔwanamazonu ʔusjunu kijaiʔagudi. [勝連の島や 通ひぼしやあすが 和仁屋

真門の潮の 蹴やいあぐで] 勝連の村に通いたくはあっても、その途中の和仁屋真門の潮を渡りあぐんでいる。

Yahaai①② (感) やあい。人を嘲り笑う語。

Yahahaa① (感) 大いに笑うさま。あっはっは。

Yahjaa① (名) ㊦家畜などの親。母体となるもの。人については言わない。㊦親豚。
Yahjaa?waaの略。㊦酢・酒・塩辛・漬け物などのもととなるもの。酵母など。生じふやすもと。siinu ~。酢を作る際、もととなる酢や水など。sakinu ~。酒を作る際、小量入れる酒など。

Yahjaa?waa① (名) 親豚。

YahjaNgaree① (感) [文] やけくそになった時に発する声。どうともなれ。口語は **?aqpangaree**。

Yahusu① (名) 安富祖。《地》参照。

Yahwa① (名) 安波。《地》参照。

Yahwaca① (名) 安波茶。《地》参照。

Yahwagee=juN① (自 =raN, =ti) **?ahwageerijuN** と同じ。

Yahwageeri=juN① (自 =raN, =ti) ㊦味が薄くなる。味が足りなくなる。㊦不まじめになる。ちゃかして馬鹿らしいことばかり言う。不まじめにおどける。**?ariga ?ju-see ?ahwageeriti cicin naran**。あいつの言うことは馬鹿らしくて聞く気にならない。

YahwageerimuN① (名) 不まじめな者。ちゃかしてばかりいる者。まじめに話をしない者。

Yahwaguci① (名) 薄味。また塩加減の少ない味。また、薄味を好む者。

YahwaguN① (名) 阿波根。《地》参照。

Yahwakee① (名) **?ahwakuu** と同じ。

Yahwakuu① (名) 二枚貝。はまぐりなど、二枚貝の総称。また、二枚貝の貝がら。
?ahwakee ともいう。

Yahwana=cuN① (自 =kaN, =ci) 寝やが

る。「寝る」の卑語。**?ahwanakee**。寝やがれ。**?ahwanaci kwatoon**。寝てやがる。ひっくりかえっていやがる。

?ahwari① (名) 阿波連。《地》参照。

?ahwasan① (形) 味が薄い。甘味・塩味などが少ない。

?ahwee=juN① (自 =raN, =ti) 酒・酢などが、水っぽくなり、味が落ちる。気がぬける。

?ahwi① (名) あれだけ。あれくらいの量・大きさ。~du ?aru。あれだけしかない。

?ahwigwaa① (名) **?aqpigwaa** と同じ。

?ahwii① (名) ㊦兄。にいさん。平民にっいていう語。農村では **?aqpii** というところもある。士族については **?jaqci** という。㊦にいさん。平民の若者をいう語。

?ahwiigwaa① (名) 一番下の兄。すぐ上のにいさん。平民についていう。

?ahwina① (連体) あれほどの。あれほどの量の。また、あんなに大きな。あんなに尊い。~ **?azisuinu misjaru kutu cikana**。[あへな按司そひの めしやる事聞かな(二童敵討)] あんなに尊い按司様のおっしやることを聞かないで。

?ahwiraa① (名) あひる。**?ahwiru** ともいう。

?ahwiraa?uu① (名) 子供のぼんのくぼのところ少し長く伸ばした髪。あひるのしっぽに似ているのでいう。**?uu** はしっぽ。そこを刈るとその子の **?unci** (運氣) が弱るといって、そこだけ少し伸ばしておく習慣であった。

?ahwiru① (名) **?ahwiraa** と同じ。

?ai① (感) 珍しいものに接した時、また、何か間違った時などに発する声。あら。おっと。人の足を踏んだ時には、~ **ma-cigee**。(おっと、ごめん。)と語る。

?ai① (名) 蟻。**?aikoo** ともいう。

?aibicaa① (名) **?eebicaa** と同じ。

?aiee① (名) **?aee** と同じ。

ʔaigwaamee

ʔaigwaamee① (名) お嬢さま。士族の未婚の娘の敬称。使用人や平民が多く言う。那覇では ʔutugamaa という。古語に ʔweguNsori という語もある。

ʔaikoo① (名) 蟻の小兒語。～, dusi ʔjudi kuu, ganikunu kusinzi gani ʔjaci kwira. (童謡) 蟻よ, 蟻よ。友達を呼んで来い。我如古の後ろで蟹を焼いてやろう。ganiku [我如古] は宜野湾間切の村の名。gani と頭韻をふんだもの。

ʔaimee① (名) [古] 貴族の嫁がしゅうとめを敬って言う語。他からは、普通、ʔaqttoomee, ʔuhuʔaqttoomee などという。

ʔainuiguruma① (名) [新] 相乗りの人力車。

ʔainuit① (名) [新] 人力車の相乗り。また、ʔainuiguruma の略。

ʔaizoo① (名) ʔajazoo と同じ。

ʔaizooʔuhumici① (名) [綾門大路] ʔajazoo と同じ。

ʔaizooʔuu`Nna① (名) [綾門大繩] ʔaizooʔuhumici [綾門大路] で行なわれた、首里の東西対抗の綱引き。cinahwici の項参照。

ʔaizu① (名) ありか。あり場所。

ʔaja① (名) 縞。着物などの縞をいう。ただし、kutubanu ～。[文] ことばのあや。～ mamizuN. 布を織る時、縞糸の数を間違える。mamizuN の項参照。

ʔajaa① (名) 母。おかあさん。士族についていう語。平民については ʔaNmaa という。

ʔajaaʔansi`rari① (名) [古] cuma (王の妾で身分の低い者)を敬っていう語。

ʔajaamee① (名) ⊖ ʔajaaʔansirari と同じ。⊖ 奥様。既婚の士族の婦人に対して平民のいう語。士族同志ではいわない。

ʔajaameegwaa① (名) 若奥様。士族の若奥様に対して平民のいう語。ʔuhuʔajaa-mee (大奥様) と区別していったもの。

ʔajaameeuidi① (名) 踊りの一種。士族の女の服装とする踊り。首里の士族は単に ʔwinaguuidi (女踊り) という。

ʔajaaari① (名) 父母。おとうさんおかあさん。士族についていう。ciriti musiritin ～。着物はぼろぼろでも、ʔajaa, taarii を使う。貧乏士族が身分に執着するのを笑ったことば。～ ʔuNcu ʔugadi kwiri ʔjoo. 御両親によろしく言ってくれ。

ʔajaaʔuuja① (名) 母親のあとばかりを追いかける子。いくじなしの子。士族についていう。平民についてならば ʔaNmaaʔuuja という。

ʔajabuni① (名) [文] 船の美称。中国への進貢船などをいう。

ʔajabuniʔike`e① (名) [文] 進貢船で中国へ行く使者。

ʔajagacikoogaci① (副) まだらによごれたさま。顔・手足などが、ところどころよごれたさま。～ sjoon, まだらによごれている。

ʔajagu① (名) 宮古島に伝わる歌謡の一種。micinu curasaja kaijanu mee, ～nu curasaja mjaakunu ～。[道のきよらさや仮屋の前 あやごのきよらさや宮古のあやご] 道の美しいのは在番役所の前で、あやごの美しいのは宮古のあやご。

ʔajagwaa① (名) 細かい柄。着物の模様についていう。

ʔajagwaazin① (名) 柄(模様)の細かい着物。

ʔajahaberu① (名) [文] 蝶の美称。美しい蝶。

ʔajahaberuN`su① (名) [文] 晴れ着の美称。蝶のように美しい御衣(みそ)。

ʔajahuni① (名) [文] ʔajabuni と同じ。

ʔajakaa=jun① (自 =ran, =ti) あやかる。

ʔajamaci① (名) あやまち。道徳的な間違え。

ʔajamai① (名) あやまち。過失。失敗。

- caaru ~nu ʔati, ʔnzasaʔtaga 'jaa.
 どんな過失があって離縁になったのかねえ。
- ʔajamaigutuⓄ (名) あやまち。過失。
- ʔajama=juNⓄ (他 =raN, =ti) あやまちを犯す。誤る。謝罪する意はない。
- ʔajamamiziⓄ (名) 布を織る時、縞糸の数を間違えること。
- ʔajamariⓄ (名) [文] ʔajamai の文語。
- ʔajameeⓄ (名) [古] 貴族の嫁がしゅうとめを敬って言う語。ʔaimee ともいう。
- ʔajameekusa'meeⓄ (名) 邪魔。仕事の邪魔。~nu ʔuhusan. 邪魔が多い。'warabinu ~ qsi sigutunu naraN. 子供が邪魔して仕事ができない。
- ʔajamuNⓄ (名) 縞物。縞模様の着物・布地。tuq̄ciri (かすり), kataçiki(型付)などに対する。
- ʔajannaakaaⓄ (名) 縞の間にかすり模様のある布地・着物。かすり模様だけのものは muruduq̄ciri という。
- ʔajaqsanⓄ (形) 危い。ʔukaasjan ともいう。
- ʔajazooⓄ (名) [綾門] 首里の守礼門と中山門との間の大通りをいう。ʔaizoo ともいう。また、俗に ʔaizooʔuhumici という。
- ʔaju=nuNⓄ (自 =maN, =di) [文] 歩む。ʔajudi ʔajumaraN, namadu çicaru. 歩いてても歩いてても着かなかったが、いまやっと着いた。
- ʔakaⓄ (名) 頭髪・衣服などについたよごれ。皮膚の垢は hwiŋgu, ふけは ʔirici という。~N nugaN. 仕事はかどらない。効果が目に見えない。すき櫛がよくない時、髪によごれがなかなかとれないことからいう。ciNnu ~ ʔutusjuN. 着物のよごれを落とす。
- ʔakaⓄ (名) 阿嘉。(地) 参照。
- ʔakaⓄ (名) 阿嘉島。慶良間列島 (kirama) の島の名。

- ʔakaⓄ (名) 赤。色の名。~nu taniN.
 [新?] 赤の他人。
- ʔakaʔaciⓄ (名) まぐろ。ʔacinuʔiju 参照。
- ʔakaʔakaatuⓄ (副) あかあかと。denki çikiʔakagaraci, 'jaanuʔuci ~ sjoon. 電気をつけて家の中があかあかとしている。ranpujaka denkee ~ sjooe san. ランプより電気は明るいのではないか。
- ʔakaaⓄ (名) 赤いもの。
- ʔakabanaaⓄ (名) ぶっそうげ(仏桑華)。亜熱帯植物で高さ3メートル余りに達し、深紅の花が咲く。霊前に供える。
- ʔakabanaaⓄ (名) 鼻の赤い者。赤鼻。
- ʔakabusjaaⓄ (名) ʔakabusjaa warabaa と同じ。
- ʔakabusjaawarabaaⓄ (名) 赤ちゃけた髪を振り乱している子供(卑称)。
- ʔakaçeciⓄ (名) あかつき。夜明け。明け方。
- ʔakaçebusiⓄ (名) 明けがたの星。まばらで少ないものたえとなる。
- ʔakaçegurasiNⓄ (名) あかつきやみ。月のない夜の明けがた。
- ʔakaçimuduiⓄ (名) 遊郭(那覇にあった)から、明け方に帰ること。遊郭の朝帰り。
- ʔakaçeciʔukiⓄ (名) 夜明けに起きること。
- ʔakaçezicuuⓄ (名) 有明けの月。明けがたの月。
- ʔakagaaraⓄ (名) 赤瓦。
- ʔakagaiⓄ (名) ☉あかり。燈火。☉明るい所。明るみ。kurasin の対。
- ʔakagaiçiki=juNⓄ (自 =raN, =ti) すっかり明るくなる。
- ʔakagantaaⓄ (名) 赤い髪のおかっぱ頭をした者。kizimuN (魔物の一種), kaagarimoo (河童) などのようす。また、赤ちゃけた髪をおかっぱにしている子供などをいう。-gantaa < kantu (髪) の卑語)。
- ʔakagiⓄ (名) 植物名。赤木。亜熱帯性の

ʔakagii

喬木。木肌が赤い。その実は、熟すれば食べられる。

ʔakagii① (名) 赤毛。赤ちゃけた髪をした者。

ʔakaginumũqkuu① (名) ʔakagi (赤木) の実。

ʔakagucaamee① (名) [文] hwinukan (火の神) の異称。赤い口をした尊いお方の意。kweena (旅歌) にある語。

ʔakaguu① (名) さつまいもの一種。肉が黄色で、黄色の粉をふき、美味。金時という種類に似ている。

ʔakahacimaci① (名) [古] かんむりの名。hacimaci の項参照。

ʔakahadaka① (名) 赤裸。丸裸。

ʔakaha=nuN① (自 =maN, =di) よごれがたまる。よごれる。垢じみる。karazinu ʔakahadoon. 髪の毛がよごれている。ciNnu ʔakahadoon. 着物がよごれきっている。

ʔakahazi① (名) 赤恥。大勢の前でかく恥。

ʔakahuda① (名) [新] zuri (女郎) が伝染病によって営業を禁止されること。

ʔakahudaa① (名) [新] 伝染病により、検診に不合格になって営業を禁止された zuri (女郎)。

ʔakahwira① (名) 赤平。《地》参照。

ʔakahwizaa① (名) 赤いひげをしている者の卑称。赤ひげ。

ʔakahwizi① (名) 赤ひげ。赤いひげ。

ʔakaʔijuu① (名) 金魚。

ʔakaʔiru① (名) 赤い色。

ʔakai① (名) 障子。あかり障子。

ʔakaisanbasiri① (名) [文] 障子。明るい棧のある引き戸の意か。～ ʔiciʔakiti miriba, niwanu siracikunu sacaru curasa. [あかりさんはしり つきあけて見れば 庭の白菊の 咲きやるときらさ] 障子をさっとあけて見ると、庭の白菊が美しく咲いている。

ʔakaisanbasiru① (名) [文] ʔakaisanbasiri と同じ。

ʔakajukusi① (名) 真赤なるそ。

ʔakakabi① (名) ⊖赤い紙。⊖正月などに、祭壇と火の神の前に供える赤い紙。白・赤・黄の三枚の紙 (ʔakazaikabi) を重ねて供える。表裏とも赤く、紙質は百田紙 (hjakudasi)。お祝いの時、聯を書く赤い紙は sjugami という。

ʔakakoozi① (名) 米で作る赤い麴。ciNbeeru ~. あかんべえ。

ʔakakooziʔubun① (名) ʔakakoozi で赤く染めて炊いた御飯。

ʔakamaamii① (名) あずき。

ʔakamaamiiʔubun① (名) あずき入りの赤飯。ʔakaʔubun の項参照。

ʔakamataa① (名) 蛇の一種。有毒であるが、はぶほどはこわがられていない。錦色で、美男に化けるといわれる。

ʔakamigeei① (副) 赤くなったさま。泣きはらした目・できものなどについていう。miinu (kasanu) ~ sjoon. 目が(できものが)赤くなっている。

ʔakamii① (名) 卵の黄身。

ʔakamiibaju① (名) 魚名。あかめばる。miibaju (めばる) の一種。色は赤で、時に毒を有する。

ʔakamuutii① (名) 赤元結び。赤い色の元結び。muutii の項参照。

ʔakana① (名) 植物名。紫蘇。

ʔakanaa① (名) 童謡などにある語。月の中にいる者の意に用いる。月の薄黒い部分を、水桶をかついで立っている者と見立てたものらしい。ʔakanaajaanu ʔakitan doo, nacuru ʔwarabee mizi kumaʔee, nakan ʔwarabee kani ʔutaʔee. (童謡) アカナーの家が焼けたぞ。泣く子は水を汲ませろ、泣かない子は鉦を打たせろ。(泣く子を泣きやませるために歌う歌。)

ʔaka=nuN① (自 =maN, =di) 赤くなる。赤

ばむ。giranu ~. 顔が赤くなる。kuni-bunu ~. みかんが赤くなる。

ʔakaNca① (名) 赤土の土地。赤土の土質。

ʔakaNca① (名) 赤土。

ʔakaNgwa① (名) 赤ん坊。

ʔakaNgwaa① (名) 赤ん坊 (単称)。

ʔakaNgwaaʔiju① (名) 人魚。顔が人に似て、前肢のようなひれのある哺乳類。南海に産する。じゅごん。zaNnuʔiju ともいう。

ʔakaNmi① (名) 赤嶺。《地》参照。

ʔakaraaʔwaa① (名) ʔakariʔwaa と同じ。

ʔakaragweei① (名) 人が血色がよくて太っていること。sirugweei, kurugweei などの語もある。

ʔakarahwiru① (名) 真昼。白昼。

ʔakarakwaaara① (副) 派手なさま。けんらんたるさま。豪華なさま。着物の模様・部屋の装飾などについていう。~ sjooru cin. 派手な着物。

ʔakari=juN (自 =raN, =ti) ⊖ 離れる。器物などがこわれて、離れる。また、はがれる。⊖ 乳離れる。主として家畜についていう。

ʔakariʔwaa① (名) 乳離れした豚。主として親豚をいうが、子豚の方をさすこともある。

ʔakariʔwaagwaa① (名) 乳離れした子豚。

ʔakasabi① (名) 赤錆。鉄に生ずる錆。

ʔakasakurasa① (名) 明暗。明るいことと暗いこと。~N 'wakaran. 明るいか暗いかもわからない(ほど熱中する)。無我夢中である。

ʔakasaN① (形) 赤い。明るい意では用いない。ただし、ʔakasakurasa (明暗) という複合語はある。明るい意では、ʔaka-ʔakaatu sjoon, ʔakagatoon などという。

ʔakaʂee① (名) 遊戯の名。言い当てる遊び。

ʔakasi① (名) 松の幹を薄くそいだたきつけ。tubusi ともいう。<ʔakasjuN (引き離す)。ʔanbaaraaga ʔiqcon doo, ~N tamunun keNsjoorani. (童謡) 山原船 (ʔanbaraabuni) がはいてるぞ。たきつけやまきも買いませんか。

ʔakasimaa① (名) 織物の名。白地に茶褐色のかすりのあるもの。多くは八重山地方の産。sima (縞) は織物の模様をいう。sima 参照。

ʔakasimuN① (名) 考えもの。謎。

ʔaka=sjuN (他 =saN, =ci) ⊖ 引き離す。大きいものから小さいものを引き離す。また、ひっぱがす。はがす。tubusi ~. 松のたきつけを幹からはぐ。kiikara kaa ~. 木から皮をはがす。ʔakasiwadu najuru sjakunu hwingu. はがなければならぬほどのたいへんな垢。kasabuta ~. かさぶたをはぐ。⊖ 乳離れさせる。主として家畜についていう。

ʔaka=sjuN (他 =saN, =ci) 明かす。夜を明かす。ʔjuu ʔakasikantii. 夜を明かしかねて。

ʔaka=sjuN (他 =saN, =ci) 明かす。なぞなどの答えを明かす。言い当てる。

ʔakata① (名) 赤田。《地》参照。

ʔakataʔuzoo① (名) 首里城の門の名。ʔugusiku の項参照。

ʔakatiida① (名) 赤い太陽。夕日をいう。

ʔakaʔubun① (名) ʔakakoozi や食紅などで赤く色をつけて炊いた御飯。赤飯。あずきを入れた赤飯には ʔakamaamiiʔubun という。

ʔakaʔusi① (名) 赤牛。茶色い牛。

ʔakauu① (名) 織物の名。赤味を帯びた上等の芭蕉布。tanasi (その項参照) などを作る。

ʔakauziN① (名) ʔakauu で織った着物。地は赤味を帯び、派手なかすりなどの模様がある。tanasi など、女物の上等な着物。

Yakazakura?iru

Yakazakura?iru④ (名) 赤味を帯びた桜色。人の血色が赤く美しいことにいう。

Yakazinaa④ (名) ⊖銅の一厘銭。主として寛永通宝。kurukanii に対する。⊖のちの、5厘・1銭・2銭などの銅貨。

Yakaziraa④ (名) 赤い顔。赤ら顔。また、赤面。～ najun. 赤面する。

Yakazumii④ (名) 茶褐色に染めた布。主として芭蕉布で、その染料は tikaci という木の皮や根から取る。

Yakee=jun④ (自 =ran, =ti) 明るくなる。朝焼け・夕焼けなどで、また、にわか雨の前後などに、あたりが異常に明るくなることをいう。

Yakezubani⁷su④ (名) [文] 夏の晴れ着の美称。秋津羽のような御衣 (みそ)。とんぼの羽のように美しい着物。

Yaki④ (感) あら。女が驚き・悲しみなどを表わして言う語。～ caa sjuga. あら、どうしよう。

Yakigata④ (名) [文] 明け方。夜明け方。普通は Yakaçici。

Yakigumu④ (名) [文] 明け方にたなびく雲。tamasakanu kujui tuija ?utarutun, sibasi ~ni nasaki ?arana. [たまさかの今宵 鳥や歌るとも しばし明雲に情あらな] たまに会う今夜だから、鶉は時を告げても、しばらくの間、夜明けの雲に情があって夜が明けないようにしてほしいものだ。

Yakihana=sjun④ (他 =san, =ci) あげ放す。開放する。障子などすっかり開ける。

Yakihataki=jun④ (他 =ran, =ti) (胸などを) はだける。

Yakihwirugi=jun④ (他 =ran, =ti) あげ広げる。開放する。

Yakijo④ (感) [文] ああ。あわれ。～ ziju naran kutuju mata 'jarawa, niwijacon sudini ?uçuci tabori. [あけよ自由ならぬ ことよまたやらば 匂やちよも袖

に 移ちたばうれ] ああ自由にならないことであるのなら、匂いだけでも袖に移して下さい。

Yakijoo④ (感) あら。驚いた時などに女が発する語。

Yaki=jun④ (他 =ran, =ti) 開ける。?akai ~. 障子をあける。?akitai micitai. あけたりしめたり。

Yaki=jun④ (自 =ran, =ti) 明ける。'juunu ~. 夜が明ける。

Yakikuri④ (名) [文] 明け暮れ。日夜。

Yakikwii④ (名) あけたて。開閉。hasirunu ~. 雨戸のあけたて。-kwii <kuujun.

Yakimadusi④ (名) 明けた年の美称。新年。

YakimiQkwa④ (名) あき盲。目はあいているが、目が見えないこと。また、その者。また、文盲。

Yakisamijoo④ (感) あれえっ。きゃあっ。助けてくれ。非常に驚いた時、悲しい時、苦痛にたえない時、救いを求める時などに発する声。

Yakisamijoo④ (副) 悲鳴の声をあげるさま。助けてくれと叫ぶさま。～ sjun. 悲鳴をあげる。～ sjutakutu ?nzi 'NNcaN. 悲鳴があったので行って見た。

Yakitoonaa④ (感) おやまあ。あらまあ。驚いた時、失敗した時などに女のいう語。

Yakookuroo④ (名) 夕暮れ。薄暮。たそがれ時。夕方の暗くなりかけ。'jumangwi (夕間暮れ) という語とともに、夕方の一種の不安な感じを伴う語。'jusan di (夕さり), 'juu?irigata (夕方) などにはこのような語感はない。

Yaku④ (名) 悪事。～ takunun. 悪事をたくらむ。

Yaku④ (名) あく (灰汁)。洗濯の時、または芭蕉布を煮て柔らかにする時などに用いる。

ʔakubi① (名) あくび。
 ʔakugami① (名) [赤頭] 平民の初階の位階。
 ʔakugani① (名) 銅。あかがね。
 ʔakuganijaqkwan① (名) 銅のやかん。
 ʔakuin① (名) [文] 悪縁。くされ縁。前世からの罪悪によりつながれた男女の悪縁。
 ʔakuma① (名) [悪魔] 根性の悪い者。意地の悪い者。
 ʔakumahukuʔrugi① (名) 意地悪く邪魔する者。恋の邪魔などをする者。hukurugiはとげのある植物の名。
 ʔakuni① (名) 悪人。奸悪な人。
 ʔakuta① (名) あくた。ごみ。
 ʔakutabii① (名) ごみを燃やす火。火力弱く、すぐ消える。
 ʔakutadamun① (名) ごみを集めて燃料としたもの。落葉・ごみ・木ぎれなど掻き集めて煮焚きなどする場合にいう。
 ʔakutoo① (名) [新?] 恐ろしい人。こわい人。
 ʔakutooraasjan① (形) [新?] 恐ろしい。こわい。叱りつけそうな、また、恐ろしいことをしそうな人についていう。
 ʔakuu① (名) 人を叱ってばかりいる人。小言ばかり言う人。ʔaʔku (叱責) をする人の意。
 ʔama① (名) 阿真。(地) 参照。
 ʔama① (名) ⊖あそこ。あっち。あちら。kuma (ここ), ʔuma (そこ), maa (どこ) に対する。~kara can. あそこから来た。⊖あのかた。ʔari (彼。彼女), ʔanuqcu (あの人) などの敬語。ʔamaa maa ʔujanʂeebiiga. あのかたはどなたでいらっしゃいますか。歌では、男から女をさしては ʔari, 女から男をさしては ʔama と使いわけることがある。tukeja hwizamitin tiru ʔicija hwituʔi, ʔarin nagamijura kijunu suraja. [渡海や隔めても 照る月や一つ あれも眺めよら

今宵の空や] 海を隔ても照る月は一つ、彼女もながめているだろう今宵の空を。この歌を女が歌うときには、ʔaman naga-mijura (あのかたもながめているだろう) と変える。

ʔamabiri=jun① (自 =ran, =ti) 甘くなり過ぎる。糖分が多すぎて、料理が甘ったるくなる。

ʔamagaka① (名) ʔamagaku と同じ。

ʔamagaku① (名) ⊖虫の名。雨の降る前に蛙に似た声で鳴く。けらのことか。⊖あまのじゃく。何でもわざと人に反対する者。次のような伝説がある。あまのじゃくの子を心配した親が、墓を山に作ってもらいたいと思い、墓は河原に作れと遺言して死んだ。しかし、子は遺言だけは守り、雨が降りそうになると、大水を心配して泣いた。そこであまのじゃくを ʔamagaku といふ。

ʔamagasa① (名) ⊖雨傘。雨天用の傘。⊖月がさ。雨の前などにかかる、月のかさ。

ʔamagasi① (名) 甘酒の一種。端午の節供に作る。大麦を煮つめ、少量の麴を入れて一日ぐらい水にひたして発酵させて作る。菖蒲の葉を切ったものを箸の代わりに用いる。

ʔamaguci① (名) 甘言。ʔamakuci ともいう。~ taratara sjun. 甘言をたらたら言う。

ʔamagui① (名) 雨乞い。首里の崎山町に ʔamaguibanta という高台があり、旱魃の時には女ばかりが集まって、ʔamitabori (雨を給われ) の歌を歌って祈った。

ʔamahaikuma ʔhai① (副) あちこちかけずり回るさま。東奔西走。-hai < hajun (走る)。~ sjun.

ʔamaʔiikuma ʔii① (副) 話し方が整然としないさま。あっちを言い、こっちを言い。しどろもどろ。~ sjun.

ʔamai① (名) 余り。余分。ʔNkasiNcunu

ʔamaimuN

kutubanee ʔamaee neen. 昔の人のことばには無駄がない。

ʔamaimuN① (名) 余りもの。余ったもの。

ʔamaimuN② (名) あばれ者。乱暴者。

ʔamajaa① (名) 乱暴者。あばれん坊。

ʔamajumikuma`jumi ① (副) あちこちを飛び飛びに読むさま。～ sjuN.

ʔama=juN① (自 =raN, =ti) ①余る。残りが出る。②越す。以上になる。sicizuu ʔamati kunu ʔawari sjuN. 七十歳を越してこんな苦勞をする。rukuzuu ʔamaree ʔamutuŋu sica. 六十歳を越せば土手の下に捨てる。六十歳以上は世間の邪魔。

ʔama=juN② (自 =raN, =ti) あばれる。いたずらなどをして騒ぐ。主として子供・犬猫などについている。ʔamannakee. あばれるなよ。

ʔamajuu① (名) [文] 豊年。nigajuu (凶年) の対。

ʔamakaauui① (名) [天川踊] 踊りの名。男女で踊るもの。

ʔamakuci① (名) ʔamaguci と同じ。

ʔamakuma① (名) あちこち。あちらこちら。

ʔamakutaraku① (副) 甘言で人をつるさま。うまうまと。<ʔamasan (甘い)。

ʔamami① (名) 甘味。ʔamamee caaga. 甘味はどうか。

ʔamamicuu`siniricuu① (名) [あまみきよしねりきよ] 琉球列島を創造したといわれる神の名。男女二柱の神か、あるいは単なる対語か。また、ʔamami- は奄美と関係ある形と思われる。

ʔamamiikuma`mii① (副) あちこち見回すさま。きょろきょろ。～ sjuN.

ʔamamijasirinirija① (名) [文] [あまみやしねりや] ʔamamicuusiniricuu (琉球創造の神) の故国。東方にあり、そこから五穀が渡来したといわれる。

ʔamamiku`siniriku① (名) [文] [あまみ

こしねりこ] ʔamamicuusiniricuu と同じ。

ʔamamizi① (名) 真水。淡水。sjuumizi (塩水) の対。

ʔamamuN① (名) 甘いもの。菓子など、甘い食べ物。

ʔamamuti① (名) あちら側。あっちの方。

ʔamaN① (名) やどかり。節足動物の名。

ʔamaNju① (名) [文] 昔の世。昔の時代。zitudee sjusitarimee ʔutuicizi sjabira, ~nu sinugu ʔujurusimisjooiri. [地頭代主したり前 お取次しやべら あまん世のしのぐ お許しめしよろれ (恩納節)] 地頭代様申し上げます。昔の世のしのぐ踊り(sinugu)をお許し下さい。

ʔamari① (名) [文] ʔamaʔuri, ʔamori, ʔamooi, ʔamoori と同じ。天降り。

ʔamarikaa① (名) ʔarikaa と同じ。

ʔamasaaikuma`saai (副) 珍しがって方方をなで回すさま。～ sjuN.

ʔamasan① (形) 甘い。甘味がある。味が薄い意では ʔahwasan という。

ʔamasitamun① (名) 品行の悪い者。乱暴者。もて余し者。

ʔamasjoogaa① (名) 菓子の名。甘しょうが。しょうがを砂糖で煮つめたもの。

ʔama=sjuN① (他 =san, =ci) 余す。余りを残す。

ʔamaʔuri① (名) [文] 天女が天からくだること。天降り。ʔamari, ʔamori, ʔamoori, ʔamooi などともいう。

ʔamazaahja`azaa① (副) あれやこれやと思ひ悩むさま。～ qsi nindaranTan. 心配の余り眠れなかった。

ʔamazaki① (名) 酢。ʃii, hweei とともいう。昔は甘酒をいったものか。

ʔamazarahja`azara① (副) ʔamazaahja-azaa と同じ。

ʔamazicikaa① (副) ①ゆらゆら。ぐらぐら。しきりに揺らぐさま。②うろたえるさ

- ま。また、ためらうさま。mii ~ sjun.
(狼狽して)目をうろろうろさせる。
- Yamazi=cuN**Ⓞ (自 =kaN, =ci) ⊖揺らぐ。動揺する。動揺が起こる。mii ~。(狼狽して)目をうろろうろさせる。⊖ためらう。躊躇する。cimunu Yamazun. と同じ。
- Yama=zuN**Ⓞ (自 =gaN, =zi) 揺らぐ。揺れる。動揺する。kiikusanu ~. 草木が揺れる。cimunu ~. 心が動揺する。ためらう。hwiinu ~. ほのおが揺れる。Yamagasjun. ゆする。動揺させる。
- Yamazuu**Ⓞ (名) 甘塩。薄味の塩漬け。
- Yamee=juN**Ⓞ (自 =raN, =ti) 増長する。つけあがる。kuneedansee Yameetoon. このころは増長している。
- YameeYuzoo**Ⓞ (名) 首里城の門の名。Yugusiku の項参照。
- Yami**Ⓞ (名) 雨。~nu hujun. 雨が降る。~nu harijun. 雨がやむ。雨があがる。(~nu 'janun. とは元来はいわない。)
- Yami**Ⓞ (名) 網。魚網など。
- Yami**Ⓞ (名) 飴。
- Yamiçiju**Ⓞ (名) [文] 雨と露。'jutakanaru mijunu sirusi Yarawariti, ~nu migumi tucin tagan. [豊なる御代のしるしあらはれて 雨露の恵み 時もたがぬ] 豊かな御代のしるしがあらわれて、順調に雨と露が恵まれる。
- Yamidai**Ⓞ (名) ⊖軒。⊖軒下。~nakaitaqoon. 軒下に立っている。
- Yamidaimizi**Ⓞ (名) 雨だれ。軒から落ちる雨だれ。
- Yamigasa**Ⓞ (名) [文] 編み笠。Yanzasamou.
- Yamigumu**Ⓞ (名) 雨雲。
- Yamigwaa**Ⓞ (名) 小雨。gumaYami という。霧雨には、さらに gumaYamigwaa という。
- Yamihui**Ⓞ (名) 雨降り。雨天。
- Yamihuiçizici**Ⓞ (名) 雨降り続き。雨天続き。
- き。
- Yamihuigisan**Ⓞ (形) 雨が降りそうである。Yamihuigisaa 'jatakutu. 雨が降りそうだったので。
- Yamihuigumai**Ⓞ (名) 雨ごもり。雨降りて家に引きこもること。
- Yamihuinu?atu**Ⓞ (名) 雨降りのあと。雨後。
- Yamihuizitaku**Ⓞ (名) 雨天に外出する時のしたく。雨具を用意すること。
- Yami=juN**Ⓞ (自 =raN, =ti) 水浴する。水浴びをする。行水する。単に、体に水を浴びるには mizi kanzun (水をかぶる), mizi kakijun (水をかける) などと言い、また、受動的に水を浴びるには mizi kakirarijun などという。'warabi Yamirasjun. 子供を行水させる。
- Yamikazi**Ⓞ (名) 雨風。
- Yamikoo=juN**Ⓞ (自 =raN, =ti) 味噌を作る過程で、nuci (大豆・えんどうなどを煮てつぶしたもの) と麴とを混ぜたものが発酵する。
- Yamiku**Ⓞ (名) 天久。《地》参照。
- Yamimujuusi**Ⓞ (名) 雨模様。雨の降りそりな気配。
- Yaminaa**Ⓞ (名) おたまじゃくし。蛙の子。
- Yaminunii**Ⓞ (名) 雨のもと。雨の根。雨を降らす黒雲・遠雷などをいう。~nu ciriraN. 雨の根が切れない。まだ、雨が降りそうである。
- Yamirika**Ⓞ (名) アメリカ。米国。
- Yamirikaa**Ⓞ (名) アメリカ人。卑称。
- Yamisuku**Ⓞ (名) 天底。《地》参照。
- Yamizi**Ⓞ (名) みみずに似た小動物。みみずより小さく、悪臭があり、色・形などはみみずに似ている。つぶすと螢光を発する。
- Yamooçi**Ⓞ (名) Yamuci, Yamutu と同じ。
- Yamooi**Ⓞ (名) Yamoori と同じ。
- Yamoori**Ⓞ (名) 天降り。天人が地上に降

ʔamoorigaa

りること。ʔamaʔuri, ʔamari, ʔamori, ʔamooi などともいう。

ʔamoorigaa①(名) 天人が降って水浴びしたという井戸。羽衣伝説とともに、方方にこの名の井戸がある。

ʔamooriŋwa①(名) 天人と人間との間に生まれた子。年とってからできた一人子などをそういうことがある。

ʔamori①(名) [文] 天人の天降り。ʔamari, ʔamaʔuri, ʔamoori, ʔamooi などともいう。

ʔamuci①(名) ʔamutu と同じ。

ʔamuru①(名) 安室。《地》参照。

ʔamusirare①(名) [古] [あもしられ] ʔansitari (首里三平等にいる、女の神官) と同じ。

ʔamutu①(名) 土手。堤。耕地と山野の境目に築いた土手をいう。ʔamuci, ʔamoo-ci ともいう。rukuzuu ʔamaree ~nu sica. 六十歳を越せば土手の下に捨てる。昔は六十歳を越すと土手の下に捨てた、という伝説がある。

ʔana①(名) 穴。くぼんだ穴。貫通した穴・欠損・欠点などはmiiという。~ hujuN. 穴を掘る。~nu ʔacoon. 穴があいている。

ʔanaa①(名) 上流家庭の女子の世話役をする女。男の世話話は男がして、それにはʔjakaa という。

ʔanagacisaN①(形) 昔が思い出され、再会したいと思う。また、再会してうれしい。なつかしい。ʔanagacisa sjuN. なつかしがる。ʔanagacikoo neeraN. なつかしくない。ʔanagacisanu cuusaN. とてもなつかしい。

ʔanagi①(名) あの長さ。あれだけの長さ。あんなに長く。距離についていう。

ʔanaguiʔNza=sjuʔN①(他 =saN, =ci) 細かなもの、細かなことをほじくり出す。

ʔanaguizuusaN①(形) 詮索し過ぎる。ʔa-

naguizuusainee ʔooee najuN. あまり詮索するとけんかになる。

ʔanagu=juN①(他 =raN, =ti) 細かいものをほじくる。また、(余計な)詮索をする。

ʔanagujuru munoo ʔaraN. あまり詮索するものではない。

ʔanaja①(名) 掘立小屋。穴を掘って柱を立てた、そまつな小屋。

ʔanami=juN①(他 =raN, =ti) [古]物のありかを捜し求める。人を捜すのには言わない。

ʔanarawaN①*(副) [文] ʔanerawaN と同じ。

ʔane①(感) ①ほら。それ。遠方の物をさし示して注意をうながす語。~, ʔaman-kai ʔasee. ほら、あそこにあるよ。②珍しい時、意外な時に発する語。おや。あれ。あら。

ʔaneʔane①(感) (ʔane を強めて言った語) ①ほらほら。②あれまあ。おやまあ。

ʔaneeru①(連体) ʔanneeru と同じ。

ʔanerawaN①(副) [文] ①それでも。そうではあっても。口語では ʔanneerawaN という。②どうであっても。どうあろうとも。口語では caa narawaN といい。nakaŋkari subedu maʔidaiwa sagiti, ~tumiba sinudi ʔimori. [仲村柄そばいと ますだれは下げて あにあらはんと まば 忍でいまれ (仲村柄節)] 仲村柄の美しい娘の住む家の裏の戸はいつもすだれを下げてあるが、どうなってもよいと思うならば、忍んでいらっしゃい。

ʔaneru①(連体) [文] そんな。そのような。口語では ʔanneeru という。~ ʔumudujaja cicarawaN ʔjutasja. [あにあるよも鳥や 聞きやらはもよたしや] そんな鳥どもが聞いたとしてもかまわない。

ʔanijjaa①(名) あいつ。あの野郎。ʔanuhjaa とともいう。

ʔanu① (連体) あ。ʔunu (その), kunu (この) に対する。～ 'jaa. あの家。～ sjumuçi. あの木。
 ʔanuca① (名) あの年齢。あのとし。あの老境。-ca < 'juca。
 ʔanugutooru① (連体) あんな。あのような。
 ʔanugutooruu① (名) あんなもの。あのようなもの。また、あれと同じようなもの。
 ʔanugutu① (副) あのように。あんなに。
 ʔanuhjaa①* (名) あいつ。あの野郎。ʔanijjaa ともしら。
 ʔanuhwin① (名) あの辺。あのあたり。
 ʔanujoo① (名) あのよう。やや文語的な語。～na. あのような。～ni. あのように。～'jami. あのようか。ʔanugutooru, ʔanugutu などというのが普通。
 ʔanujuca① (名) ʔanuca と同じ。
 ʔanujuu① (名) あの世。来世。後生。kunujuu の対。
 ʔanukuru① (名) あのころ。過去についていう。
 ʔanumama① (名) あのまま。
 ʔanuqeu① (名) あの人。ʔari (彼) というよりも丁寧。妻が他人に対して夫をいう場合にも用いる。
 ʔanusjaku① (名) あのぐらい。あれくらい。あれほどの量・程度。
 ʔanutuci① (名) あの時。
 ʔanuukunnu① (副) しどろもどろ。整然とものが言えないさま。～ sjun. しどろもどろになる。
 ʔan① (名) 餡。菓子・餅などの中に包みこむもの。握り飯の中に入れるものなどをまします。
 ʔan② (副) ⊖そう。～ 'jaibiin. そうです。ʔanee ʔajabiran. そうではありません。～du 'jaru. そうだ。しかり。～dun 'jaree. そうであるならば。それな

ら。～ 'jaigaciinaa. そうでありながら。それにもかかわらず。～ 'jakutu. そうだから。だから。～ 'jasa. そろき。～ 'jatin. それでも。けれども。～ 'jaraa. そうなら。それなら。～ 'jara hazi. そうであろう。そうだろう。～ 'jaru hazi ともしら。～ 'jara 'jaa. そうだろうねえ。～ 'jarawan. そうだろうが。～ 'jarugutoon. そうらしい。ʔanee ʔan mun. そうは言うべきでない。そうは言わないもの。ʔanee san. そうはしない。また、そうしてはいけない。よしなさい。⊖ああ。あんなに。あのように。ʔizunu kija 'jukati ~ curasa sacui, 'wamin ʔizu 'jatuti masira sakana. [伊集の木やよかてあんきよらさ咲ちゆい 我身も伊集やとて真白咲かな] 伊集の木は栄えて、あのように真白に咲いているが、わたしも伊集となって真白に咲きたい。～ ʔicai kan ʔicai sjun. ああ言ったりこう言ったりする。言を左右する。～ ʔumutai kan ʔumutai. ああ思ったりこう思ったり。～ga 'jara, kanga 'jara. ああだろうが、こうだろうか。

ʔan② (自・不規則) ⊖ある。有る。在る。否定は neen または neeran. ʔaran は 'jan の否定として用いる。ziNnu ~. 金がある。'jaanu ~. 家がある。gaqkonu ~. 学校(授業)がある。kiganiNnu ~. 被害者がある。(子供がある・妻があるなどにはふつう ʔan は用いず, 'un を用いる。) ʔami, neeni. あるか、ないか。ʔaiga sjura. あるかしら。ʔunzoo tabakunu ʔamiiseebiimi. あなたはたばこがおありになりますか。⊖補助動詞として、…してある。'judidu ʔaru. 読んであるとも。'judeen (読んである) の強調形。hukurasjadu ʔajuru. [文][ほころしやどあゆる] とてもうれしい。

ʔanbee① (名) 按配。加減。調子。ぐあい。

ʔanbin

味・気分・病状などについていう。天気についてはいわない。敬語は ʔwaanbee。
 ~ ja caaga. ぐあいはどうか。~ sjun.
 按配する。加減する。調節する。

ʔanbin① (名) 水差し。やかんの形をした大きな陶器。

ʔanceen① (名) そのくらい。それっぽかり。それっぽっち。ʔanteen ともいう。
 ~ nu kutunin kusamicumi. それっぽかりのことに怒るのか。

ʔanceengwaa① (名) それっぽかり。それっぽっち。~ ʔjamaN. それっぽっち痛くない。

ʔancoo① (名) 重曹。ʔandaagii を作る時、ふくらますために使う。

ʔanda① (名) 油。脂。~ mudusjun. 揚げ物をする場合、においを消し温度を調節するために、あらかじめ何か別なものを揚げる。

ʔanda① (名) [安駄] kagu (駕籠) の敬語。普通は、さらにその上の敬語 ʔunaanda を用いる。kagu の項参照。

ʔandaagii① (名) 菓子的一种。揚げ菓子。麦粉を水でこね、油で揚げたもの。kuban-ʔagii ともいう。砂糖のはいったものは saataaʔandaagii という。

ʔandabutubutu① ⊖ (副) 脂っこいさま。
 ~ qsi kamaraN. 脂っこくて食べられない。⊖ (名) 豚などの脂身。

ʔandaçaa① (名) とかげ。

ʔandaçibu① (名) 油つぼ。頭髮用の油を入れるつぼ。

ʔandaduqkui① (名) 油用のとっくり。

ʔandagaaki① (名) 久しく肉食をしないこと。-gaaki <kaakijun.

ʔandagaami① (名) 油がめ。食用油を入れるかめ。髪油は ʔandaçibu に入れる。

ʔandaguci① (名) お世辞のうまいこと。油を塗ったようななめらかな甘言。油口。~ taratara sjun. おべんちゃらをたらたら

言う。

ʔandajaa① (名) 油屋。

ʔandakaçi① (名) 豚の脂をしぼって取ったかす。食用となる。

ʔandamaa=sjun① (自 =raN, =ti) 脂ぎる。人・食べ物などに、脂が多く行き渡る。

ʔandamuci① (名) 祭祀用の菓子の名。麦粉を薄くのべ、油でこねたもの。hjaagaa という菓子といっしょに供える。食用とはしない。

ʔandamucihjaa`gaa① (名) ʔandamuci と hjaagaa. とともに祭祀用の菓子で、法事などにいっしょに供える。

ʔandanaabi① (名) 揚げものをするために、油を煮えたぎらせてある鍋。

ʔandansu① (名) 味噌を油いためしたもの。味噌の中には肉などを入れる。茶うけにしたり、握り飯の中に入れてたりする。また、湯にとけば、そのまま味噌汁になるので、旅行用の味噌として用いる。

ʔanda=sjun① (他 =saN, =ci) 溢れさせる。

ʔandazuusaN① (形) 脂っこい。

ʔandee① (感) あれ。おや。ほら。~ taka taka takusinu kusikara mijun doo. あれ、鷹が沢岬村の後の方に見えるぞ(童謡の文句)。~ kunihjaa. おやこいつ。

ʔandi=sjun① (自 =raN, =ti) 溢れる。

ʔangutooru① (連体) あのような。あんな。

ʔangutooruu① (名) あのようなもの。

ʔangutu① (副) あのように。あんなに。

ʔangwaa① (名) ⊖姉。ねえさん。平民についていう。⊖ねえさん。娘さん。娘。平民の若い娘をいう。

ʔangwaamooi① (名) 踊りの一種。平民の女の服装とする踊り。浜千鳥節はその一つ。ʔwinaguudui に対する。

ʔangwee① (名) 案外。~na. 案外な。

ʔangweedui① (名) ʔangweeii と同じ。

ʔangweeii① (名) あぐら。あぐらをかいてすわること。~ sjun. あぐらをかく。

- hwiraku 'ijun ともいう。
- ʔaŋʔiikanʔii④ (副) ああ言いこり言い。
言を左右するさま。～ sjun. 言を左右する。
- ʔaŋkanboozii④ (名) 髪を剃った頭。坊主頭。
- ʔaŋkoomajaa④ (名) 目を光らした、すごい猫。怪猫。
- ʔaŋma④ (名) [新] 元来は duumimizi などという。按摩。また按摩を業とする者。
- ʔaŋmaa④ (名) ①母。おかあさん。おっかさん。平民についていう。士族の母は ʔa-jaa. ②娼家の場合は、抱え主である女 (zuriʔaŋmaa) をいう。やりてばば。
- ʔaŋmaaʔuujaa④ (名) 母親のあとばかりを追いかける子。いくじなしの子。平民についていう。士族については、ʔajaaʔuu-jaa という。
- ʔaŋmadi④ (副) あんまり。ʔaŋmari ともいう。ʔaŋmadee ʔarani. あんまり(ひどい)ではないか。～ nanzee ʔaran. さまで苦勞ではない。
- ʔaŋmagaikanʔmagai④ (副) ああ曲がったりこり曲がったり。曲がりくねったさま。～ sjoon. 曲がりくねっている。
- ʔaŋmajoo④ (感) あれまあ。あれっ。びっくりした時、つまづいた時などに、女・子供などが発する語。「おかあさん」の意か。
- ʔaŋmaku④ (名) ①腕白。きかん坊。乱暴者。maku の項参照。②やどかりの大きいもの。
- ʔaŋmari④ (副) ʔaŋmadi のやや文語的発音。
- ʔaŋmasimun④ (名) 頭をなやます事。頭痛の種、やっかいなこと。おっくうな、やりたくない事。tooinu naasaa ʔatunu ～. 当座に安易にしておくこととあとがめんどろなことになる。ʔicandagwaqeci ʔatunu ～. ただでごちそうになると、あとがやっかい。
- ʔaŋmasjabuciʔgee④ (名) 気分が悪いこと。気分がすぐれないこと。
- ʔaŋmasjan④ (形) ①気分が悪い。頭が重い。ʔaŋmasja sjun. 気分が悪くなる。また、卒倒する。気絶する。気を失う。②頭をなやます。やっかいである。面倒である。ʔaŋmasii kutu. 面倒なこと。
- ʔaŋmatui④ (名) [新] 按摩とり。按摩を業とする者。
- ʔaŋmee④ (名) 乳母。母に代わって幼児に乳を飲ませる女。ciiʔaŋmee または、ciiʔaŋ ともいう。
- ʔaŋmisi④ (名) 中に ʔaŋ を入れた握り飯。ʔaŋ には ʔaŋdaŋsu (その項参照) などを用いる。
- ʔaŋmuci④ (名) 餡餅。中に餡を入れた餅。
- ʔaŋna④ (名) 安仁屋。(地)参照。
- ʔaŋna④ (連体) あんな。～ sjumuʔi. あんな本。
- ʔaŋnagee④ (名) あの長さの時間。また、あんなに長い間。時間についていう。～ mataci. あんなに長く待たして。～ nukurusimi. あんなに長い間の苦しみ。
- ʔaŋnaikaʔnnai④ (副) ああなったりこりなったり。ああやったりこりやったり。決まったことをしないさま。～ sjun.
- ʔaŋnee④ (名) 案内。～ sjun.
- ʔaŋneenasiku④ (副) 何のあいさつもなく。断わりもなく。ʔaŋneenasini ともいう。～ qcunu ʔjaan kai ʔiqei cuun. 断わりもなく人の家にはいって来る。
- ʔaŋneenasini④ (副) ʔaŋneenasiku と同じ。
- ʔaŋneerawaŋ④ (副) ʔanerawaŋ の口語的発音。
- ʔaŋneeru④ (連体) そんな。そのような。多く悪い意味に用いる。ʔaŋneetaru ともいう。～ mun ʔitiri. そんなもの捨てろ。
- ʔaŋneetaʔru④ (連体) そんな。そのような。悪い意味に用いる。～ ninzin. そんな

ʔaNumii

な(悪い)人間。

ʔaNumii① (名) あじろの目の荒いもの。
垣根・茅ぶき小屋の壁などに用いる。目の
つまったものは cinibu という。

ʔaNraku① (名) 安楽。～na kurasi. 安楽
な暮らし。

ʔaNsawankan⁷sawan① (副) ああかこう
か。何とか。～ Qsi ⁷NNZUSA. 何とかして
みるよ。

ʔaNsii① ⊖ (副) そんなに。それほど。ま
た、微妙な感動の意を表わして用いる。なん
と。あとを連体形で結ぶのが普通であ
る。～ curasaru. なんてきれいだろう。
～ hwirumasjaru. なんて不思議だろう。
～ duujaqsaga ⁷jaa. そんなにやさしい
のか。⊖ (接続) そうして。そして。それ
から。～ caa sjuga. そしてどうするか。

ʔaNsii① (名) おかみさん。平民の主婦に対
する軽い敬称。ʔee～. もし、おかみさん。
ʔaNsiiikan⁷sii① (副) ああしたりこうした
り。～ sjun.

ʔaNsiiimee① (名) おかみさん。平民の主婦
に対する敬称。kumanu～ja ʔuzimuzu-
rasanu… このおかみさんはお慮み深
くて… (sicigwaçieisaa の時の歌の文
句)。

ʔaNsikan⁷siN① (副) ああしてもこうして
も。どうしたところで。

ʔaNsirari① (名) [古] [あもしられ] ⊖ʔa-
Nsitari と同じ。⊖ʔaNsitaree と同じ。

ʔaNsitaku⁷tu① (名) そうしたこと。そん
なこと。

ʔaNsitan⁷mee① (名) 土族の妾(平民)が
老女となったときの称。土族の妾と遊女と
は、身分は平民と決められていた。

ʔaNsitaree① (名) ⊖ [文] やや身分のよい
平民の主婦に対する敬称。口語は ʔaNsii。
⊖ʔuðun [御殿]などに使われている、や
や身分のある平民の主婦の敬称。おかみさ
ん。

ʔaNsitari① (名) 首里三平等 (sjuimihwi-
ra) に一人ずつ、計三人いる、神に仕える
女。cihwizIN (きこえ大君)に属し、この
三人が実際は全国の nuuru (のろ)を支
配した。

ʔaNsjuka① (副) それほど。さほど。さし
て。あとへ否定的表現が続く。～ cura-
koo neen. それほど美しくはない。

ʔaNsjukawaaki① (副) それほどまで。あ
とへ否定的表現が続く。～ ʔjantin ši-
mee sani. それほどまで言わなくてもいい
ではないか。

ʔaNsju⁷N① (自・不規則) (ʔaN sjun のつ
まった形) そうする。“ʔuhuqcu naraa
ʔurandakai ʔicun.” “hweeku ʔanʔee.”
「おとなになったら西洋へ行く。」「早くそ
うしろ。」ʔaNsimiʔeebiree. そうなさいま
せ。ʔaNQsi. そして。それから。ʔanʔee.
そうしたら。“ziNnu neen natan.” “ʔa-
Nʔee caa sjuga.” 「金がなくなった。」「
それじゃどうするか。」ʔanʔee naran.
そうしてはいけない。ʔaNsii najuru mu-
nui. そんなことをしてできるものか。ʔa-
Nʔee ʔaran. そうするものではない。そ
んな法はない。ʔaNsjuraa. それなら。そ
したら。ʔaNsjuraa ʔanʔee. そんならそ
うしろ。ʔaNsjuru munnu. それなのに。
そうなのに。“saki numiinee çiburunu
ʔjanun.” “ʔaNsjuru munnu nunumi.”
「酒を飲むと頭が痛い。」「それなのに飲む
のか。」ʔaNsjookee. そうしとけ。ʔa-
nsjooru ʔucini. そうしているうちに。そ
のうちに。ʔaNsjukutu. それだから。だ
から。“ʔaca ʔicumi.” “ʔaNsawan sju-
sa.” 「あした行くか。」「そうするかもし
れない。」ʔaNsjan⁷teeman. そうしても。
それでも。“hana mimige.” “ʔaNsjan⁷-
teeman ʔukiran.” 「鼻をつまめ。」「それ
でも起きない。」ʔaNsjan⁷teen. ʔaNsja-
Nteeman と同じ。ʔaNsii. そうして。

ʔAnsi kwiri. そうしてくれ。
 ʔAnteenⓄ (名) ʔAnceen と同じ。
 ʔAntikutuⓄ (名) そういうこと。～nu ʔami. そういうことがあるか。～nu munu-ʔiijoonu ʔami. そんな口のきき方があるか。
 ʔAnʔumiikaNʔʔumiiⓄ (副) ああ思いこり思い。思い迷うさま。～ sjuN.
 ʔAnzasaⓄ (名) 編み笠。農民の用いるもの・乗馬用のもの・踊りの時のものなどがある。
 ʔAnziⓄ (名) [按司] ʔazi と同じ。
 ʔAnzikabiⓄ (名) 彼岸その他の祭祀の時、祖先を祭るために燃やす、銭型を打った紙。紙銭。この紙を燃やす彼岸の行事は 'ncabi, kabiʔanzii などという。
 ʔAn=zuNⓄ (他 =daN, =ti) あぶる。火にかざす。また、焼く。ʔabujuN ともいう。tii ～. 手をあぶる。kabi ～. 紙を焼く。
 ʔaQcaⓄ (名) 歩行の小児語。あんよ。naa ～ sjuumi. もうあんよするか。
 -ʔaQcaa (接尾) 歩く人・旅行する人などの意。ʔjanbaruʔaQcaa (よく山原へ行く人), ʔjamatuʔaQcaa (よく日本本土へ旅行する人)。
 ʔaQcaaⓄ (感) ʔaQkaa と同じ。
 ʔaQcameeⓄ (名) kacaasii (三味線・歌の急調子の曲)に合わせて舞う、急調子の即興的な踊り。農村の若者たちが mooʔašibii (その項参照)で好んで踊るもので、一定の法式も型もない。ʔaQcameegwaa ともいう。
 ʔaQcameegwaaⓄ (名) ʔaQcamee と同じ。
 ʔaQciⓄ (名) ⊖歩くこと。⊖旅行。
 ʔaQcihazimiⓄ (名) 幼児などの歩きはじめ。
 ʔaQcihwi'ciⓄ (名) 出歩くこと。しばしば外出すること。kuneedaNsee ～ qsi, ʔjaanee kakarantaN. 近ごろは外出ばかりして家にはいなかった。
 ʔaQcinareeⓄ (名) 歩く練習。病後などの足ならし。

ʔaQ=cuNⓄ (自 =kaN, =ci) ⊖歩く。歩行する。ʔaQkaraN ʔaQci. いやいやながら、または無理に歩くこと。ʔaQcagacii. 歩きながら。みちみち。mici ～. 道を歩く。micibikeei ～. 働かずに、ふらふら出歩いてばかりいる。ɕira muqcee ʔaQkaraN. 世間に顔出しができない(顔を持っては歩けないの意)。ʔjama ～. 山仕事をする。haru ～. 畑仕事をする。百姓をする。⊖行く。進む。移動して行く。動いて行く。tuciinu ʔjanditi ʔaQkaN natoon. 時計がこわれて動かなくなった。huninu ～. *船が進む。ʔumi ～. 海に行く。航海する。また、漁師をする。⊖*…して暮らす。…ばかりしている。いつも…する。また、…の状態が続く。Qkwanucaaga mookiti ʔaQcukutu, ʔwannee sjumuɕibikeei ʔjudi ～. 子供たちがずっと働いてくれるから、わたしは本ばかり読んで暮らしている。ʔwaaJanaguci ʔici ʔaQcuru gutoon. わたしの悪口を言い続けているようだ。hataraci ～. ずっと仕事がある。kunu hatakee caa hwibariti ～. この畑はいつも干割れてばかりいる。Ⓞ元気である。達者である。ʔaQcumi. 元気か。目下に対するあいさつのことば。目上へは ʔwaacimišeebiimi という。ʔaQcutii. 元気だったか。目下に対するしばらくぶりのあいさつのことば。歩いている人に対して言うわけではない。しかし、平民・いなかの者は、立っている人へ taQoomi. (立っているか), 坐っている人へは 'icoomi. (坐っているか)などというあいさつもする。
 ʔaQcuuⓄ (名) ʔacuu と同じ。
 ʔaQkaaⓄ (感) 痛い時に発する語。あいた。
 ʔaQkijooⓄ (感) ⊖ああ。失望した時などに女の発する語。⊖死者を悲しんで女が泣く声。中国人が哀号と泣くのと似ている。
 ʔaQkuⓄ (名) 叱りつけること。叱責。～

ʔaɔkukata

sjUN.

ʔaɔkukataⓄ (名) 行く先。～ ʔuujUN.
行く先先をつけまわす。

ʔaɔkumuʔkuⓄ (名) 散散に叱りつけること。～ sjUN.

ʔaɔpajamasisiⓄ (名) [文] 伏山敵討(組踊りの名)に登場するいのしし。大いのししの意か。ʔaɔpa- は ʔahjaaʔwaa (母豚)などの ʔahjaa と関係ある形か。

ʔaɔpaŋareeⓄ (副) やけを起こすさま。～ ʔsi sakibikeei nudoon. やけを起こし酒ばかり飲んでる。

ʔaɔpeeruⓄ (連体) あれぐらいの。あれだけ。あれほどの。量・大きさなどについていう。～ ʔisi. あの大きさの石。

ʔaɔpiⓄ (名) あれだけ。あのくらい。あれほど。量・大きさなどについていう。

ʔaɔpigwaaⓄ (名) あれっぽち。あれっぽち。

ʔaɔpiiⓄ (名) ⊖兄。にいさん。若者。農村で用いる語。首里・那覇では、士族については ʔaɔcii, 平民については ʔahwii という。⊖いなかの若者。あんちゃん。

ʔaɔsaⓄ (名) あれだけ。あれぐらいの数量。あれほど。

ʔaɔsaNⓄ (形) ʔasasan と同じ。

ʔaɔtaⓄ (名) 熟田。《地》参照。

ʔaɔta-(接頭)にわか・不意・突然の意を表わす接頭辞。ʔaɔtaʔweekiŋcu(にわか分限), ʔaɔtabui(にわか雨)など。

ʔaɔtaaⓄ (名) あの人たち。彼ら。

ʔaɔtabazooⓄ (名) ちょっと見。また, ちょっと見た目にはよく見えるもの。

ʔaɔtabuiⓄ (名) にわか雨。

ʔaɔtagutuⓄ (名) 不意なこと。突然なできごと。～ ʔjati caa see ʔjutasjaga ʔwakarantaN. 突然のことでどうしたらよいかわからなかった。

ʔaɔtakangeeⓄ (名) にわか考え。不意の思いつき。

ʔaɔtamiⓄ (名) 精肉。butaʔaɔtami(豚肉), ɕinuʔaɔtami(牛肉), ʔjamaʔaɔtami(猪の肉)など。

ʔaɔtaniⓄ (副) にわか。不意に。いきなり。突然。～ kusikara munu ʔjaɔtaN. だしぬけに後ろから呼びかけられた。

ʔaɔtaraⓄ (副) あたら。借しくも。

ʔaɔtaruⓄ(連体) 借しい。手離せない。～ ʔuhuʔiju hwingaci ʔicasataN. 借しい大きな魚を逃がして残念だった。

ʔaɔtaʔuduruciⓄ (名) 急に驚くこと。俄然色を失うこと。

ʔaɔtaʔumitaciⓄ (名) にわか思い立ち。

ʔaɔtaʔuzumiⓄ (名) 偶然の機会。ひょんなきっかけ。

ʔaɔtaʔweekiŋcuⓄ (名) にわか分限。成金。

ʔaɔtooganasimeeⓄ (名) ⊖降嫁してʔazi [按司]の妻となった王女の敬称。奥方様。⊖ʔaɔtoomeeの敬称。奥方様。その使用人などがいう語。

ʔaɔtoomeeⓄ (名) ʔazi [按司]の妻。ʔu-mee [御前]の妻。奥方。

ʔaraⓄ (名) あら。搦いた穀物の中にまじっている, もみその他の雑物。

ʔara-(接頭)新しいこと, はじめてのことを示す。ʔaratabi(新旅), ʔaranubui(新上り), ʔarakujai(新下り)など。

ʔara-(接頭)荒い・粗雑な・乱暴などの意を表わす。ʔarasikuci(荒仕事), ʔara-baakii(目のあらいぎる)など。

ʔaraʔaraⓄ (名) 大体。ざっと。～ nu hanasi. 大体の話。～ hanasee cicoon. ざっと話は聞いている。

ʔaraaⓄ (名) 粒の大きいもの。粒の大きいもの。

ʔarabacaaⓄ (名) 葉のあらい茶。粗茶。

ʔarabaakiiⓄ (名) 目のあらいぎる。いもなどを入れる。ʔjunabaakiiの対。

ʔarabiⓄ (名) たたり。また, たたりの前

兆。たたりが起きるといふ警告。凶兆。
ʔarubi ともいう。nuugananu ʔarabee
ʔarani. 何かのたたりの警告ではないか。
harunu ~. 墓のたたり。

ʔaraci① (名) 荒荒しいこと。乱暴。~na
muN. 乱暴な者。~ni sjuna. 荒荒しく
するな。

ʔaradati=jun① (他 =raN, =ti) 荒立てる。
騒ぎを大きくする。

ʔaradumeei① (名) 初婚。男について
いる。初めて妻をめとること。dumeei <
tumeejun. 女の初婚は ʔaraniibici また
は ʔaramuci という。

ʔaragaa① (名) ㊦競争。ʔNma ~ sjun.
馬の競争をする。㊦口論。議論。~ sjun.

ʔaragaee① (名) 競い合うこと。競争。

ʔaragaa① (名) ʔaragaa と同じ。

ʔaragaa=jun① (他 =raN, =ti) ㊦競う。競
争する。あらがう。㊦口論する。議論する。

ʔaragee=jun① (自 =raN, =ti) ㊦大きくなる。
野菜・穀物などが普通より大きくなる
ことをいう。大きくなり過ぎる。ʔara-
geetooru maaminaa maakoo neeN. 大
きくなりすぎたもやしはおいしくない。㊦
身体が大きくなる。多く、子供・女などが
普通より大きく、たくましくなることに
いう。

ʔaraguʂiku① (名) 新城島。八重山群島の
島の名。また、新城。《地》参照。

ʔaraʒicenu① ʔjuru① (句) [文] 初めて会
う夜。初夜。satume ʔuturusjaja ~ju,
ʔaNma ʔuturusjaja ʔasan ʔjusan. [里
前おとろしやや あら行逢の夜よ あんま
おとろしやや 朝もよさも] 男のかたが恐
ろしいのは初めての夜だが、かかえ親は年
中恐ろしい。女郎のよんだ歌とみえる。

ʔaraigee① (名) 洗濯する場合の代わりの
衣類。

ʔarajaci① (名) 素焼き。zoojaci の対。

ʔarajacijaqkwan① (名) 素焼きのやかん。

ʔarajacimakai① (名) 素焼きのどんぶり。
ʔara=jun① (他 =aN, =ti) 洗う。また、洗
濯する。siNtaku の項参照。karazi ~.
髪を洗う。

ʔarakaci①① (名) 新垣。《地》参照。

ʔarakudai① (名) 初めて都から地方へ下
ること。初下り。

ʔaramakai① (名) 大きい粗末などんぶり
(makai)。農村などで飯をもるのに用い
る。

ʔaramakajaa① (名) ʔaramakai と同じ。

ʔaramooki① (名) 荒かせぎによるもうけ。
大もうけ。ほろもうけ。

ʔaramuci① (名) 初婚。女が初めて結婚す
ること。ʔaraniibici ともいう。

ʔaranami① (名) 荒波。

ʔaraniibici① (名) 初婚。女についている。
初めてとつぐこと。ʔaramuci ともいう。
男の初婚は ʔaradumeei という。

ʔaranubui① (名) 初めて地方から都へ上
ること。初上り。

ʔarasaN① (形) ㊦乱暴である。荒っぽい。
saki numiinee ʔaraku najun. 酒を
飲むと乱暴になる。㊦荒い。荒っぽい。
ʔjahwarasan, kumasan などの対。kutu-
banu ~. ことばが荒い。ziNzikeenu ~.
金使いが荒い。㊦荒い。siʒika ʔjan の対。
kazinu ~. 風が荒い。naminu ~. 波が
荒い。㊦太い。糸などが太い。また、目や
粒などが粗い。ʔuroosan の対。ʔajanu
~. 縞が粗い。miinu ~. 目が粗い。

ʔarasi① (名) 嵐。おとなの使う語。最も普
通の語は ʔuukazi. teehuu (台風) は文
語的な語。~ hucun. 嵐が吹く。ʔzoga
nizasicini ~ hucikumaba, kugarijuru
ʔwaminu ʔinintumuri. [むぞが寝座敷
に 嵐吹きこまば 焦れよる我身の 遺念
とまれ] 恋しい君の寝室に嵐が吹き込んだ
ならば、恋しているわたしの恨みの念と思
え。

ʔarasigutu

- ʔarasigutu① (名) ʔarasikuci と同じ。
- ʔarasigwii ① (名) [文] 不幸な知らせ。
死んだという知らせなど。ʔarasigwinu
ʔaraba 'wamija ca sjuga. [あらし声の
あらば わみやきやしゆが(忠臣身替)] 不
幸な知らせがあったら、わたしはどうしよ
るか。
- ʔarašii① (名) 競争。ʔaragaai, sjuubu
ともいう。
- ʔarasikuci① (名) 荒仕事。体力のいる仕
事。
- ʔara=sjun① (他 =san, =ci) 石臼などの目
を立てる。ʔuusi ʔarasjabira. 白の目を
立てましょ。白の目立てを業とするもの
が呼び歩く文句。
- ʔara=sjun① (他 =san, =ci) 荒らす。ka-
zinu muzukui ~. 風が作物を荒らす。
- ʔarasuu=jun① (他 =ran, =ti) 競争する。
勝敗などを争う。
- ʔaratabi① (名) 初旅。
- ʔaratama=jun① (自 =ran, =ti) 改まる。
- ʔaratami① (名) 検査。調査。調べ。niŋzu-
ʔaratami は人員調査。戸口調査。
- ʔaratami=jun① (他 =ran, =ti) ①改める。
simuci ~. 性質を改める。②調べる。検
査する。
- ʔarawari=jun① (自 =ran, =ti) 現われる。
あらわになる。露見する。また、明らか
になる。kakuci kakusarimi njamata
ʔarawarira. [隠ち隠されめ にや又あら
はれら(手水之縁)] 隠しても隠せるもの
ではないから、では名前をあかしましょう。
ʔjutakanaru mijunu sirusi ʔarawariti
…[豊かなる御世の しるしあらはれて…]
豊かな御世のしるしがあらわれて…。
- ʔarawa=sjun① (他 =san, =ci) 現わす。あら
わにする。あばく。姿を現わすなどの意で
はあまり用いないようである。また、書物を
著わす意では kacun(書く)という。hada
~. 肌を現わす。zici ~. 事実をあばく。

- ʔarazaraNku'tu① (名) 根も葉もないこと。
ありもしないこと。sanzan ~ ʔjun. 散
散根も葉もないことをいう。
- ʔarazukui① (名) 下ごしらえ。大体を作る
こと。
- ʔarazukui① (名) 新たに作ること。新造。
- ʔarazuutee① (名) 所帯持ちが悪いこと。
またそのような世帯。
- ʔareegami① (名) 洗い髪。洗ったあとの
結ってない髪。
- ʔareegeei① (名) ʔaraigeei と同じ。
- ʔareekarazi① (名) ʔareegami と同じ。
- ʔareemuN① (名) 洗い物。洗濯物。
- ʔareesikuci① (名) 洗濯。洗濯仕事。
- ʔareeziN① (名) 洗濯した着物。
- ʔari① (名) ʔuri(それ), kuri(これ)に対
する。①あれ。あの物。あの事。~jaka
kuree masi. あれよりこれはよい。②あ
れ。あの者。彼。彼女。ʔama(あのか
た), ʔanuqeu(あの人)よりはぞんざい
な形。また、ʔamaの項参照。③(感)ほ
ら。人に指摘する場合などに発する。目上
に対しては、男は ʔarisai, 女は ʔaritai
と言い、目下などをさげすんでいう時には
ʔariqsa, ʔarihjaa などという。
- ʔariʔarii① (感・副) あれよあれよ。~
sjarinagaraa ʔutitaN. あれよあれよと
言われながら落ちた。
- ʔarici① (名) 荒地。
- ʔarigateeku'tu① (名) ありがたいこと。感
謝すべきこと。ʔarigatasan という形は
用いないようである。
- ʔarihati=jun① (自 =ran, =ti) 荒れ果て
る。荒廃する。
- ʔarihjaa① (感) ほら。ほら、こいつ。目下
に対してさげすんで、また、喧嘩などで、
注意をうながすために発する語。
- ʔarijaakuri'jaa① (副) あれやこれや。あ
れこれ。
- ʔari=jun① (自 =ran, =ti) ①荒れる。ʔu-

minu ~. 海が荒れる。kazinu ~. 風が荒れる。hadanu ~. 肌が荒れる。⊖大きくなる。大きくなり過ぎる。たくましくなる。ʔarageejun と同じように用いる。keenanu ~. 腕がたくましくなる。

ʔarika@ (名) あの辺。

ʔarikaakuri'kaa@ (名) あちこち。あちらこちら。

ʔarikuru@ (副) 彼自身で。

ʔarimasaraakuri'masaraa@ (副) あっちがいいだろう、こっちがいいだろう。絶えず気が変わるさま。

ʔariQsa@ (感) ほら。ほら、こいつ。目下に対してさげすんで、また、喧嘩などで、注意をうながすために発する語。

ʔarisaaikuri'saai@ (副) 珍しがって、あれこれとさわるさま。~ sjun.

ʔarisai@ (感) ほら。男が目上に対して、注意をうながす時などに発する語。

ʔarisama@ (名) [文] 有様。様子。ʔicaru ~ni najai ʔimega. [いきやる有様になやいいまいが(花売之縁)] どんな様子になっていらっしゃるか。

ʔaritai@ (感) ほら。女が目上に対して注意をうながす時などに発する語。

ʔariʔumiikuri'ʔumii@ (副) あれこれ思いなやむさま。~ sjun.

ʔaru@ (連体) 或る。文語的な語。~ tira. 或る寺。普通は nuuganaNdiru tira. とか maaganaNdiru tira. などという。

ʔarukasi'ruka@ (名) あるもの全部。一切合切。ことごとく。~nu mun. 一切合切のもの。~ muru ʔnzacan. 一切合切全部出した。

ʔarumi@ (名) 有銘。《地》参照。

ʔarumuN'neenmuN@ (名) あるもの無いもの。あるもの全部。一切合切。~ ʔnzaci ʔutuimuci sjun. 一切合切出しておもてなしする。

ʔaruʔuQpi@ (名) あるだけ。あるかぎり

(の量)。

ʔaruʔuQpii@ (名) あるだけですます人。また、あるだけ何でもさらけ出す人。隠しだてのない人 (nuukakusinu neen Q-cu)。

ʔaruʔuQsa@ (名) あるだけ。あるかぎり。全部(の数量)。

ʔasa@ (名) 朝。単独にはあまり使わない。ʔasaʔakeei (朝焼け), ʔasajusa (朝夕) などの複合語に現われる。普通は sutumiti. また、sutumiti の方が ʔasa よりも早い時間をさす感じがある。

ʔasa@ (名) 阿佐。《地》参照。

ʔasa@ (名) 麻。

ʔasaʔakeei@ (名) 朝焼け。

ʔasaban@ (名) [朝飯] 昼飯。正午ごろ食う食事。朝飯は sutumitimun という。一般人は sutumitimun, ~, 'juuban の三食。労働者は sutumitimun, ~ (昼ごろ食う), hwirumamuN (午後3時ごろ食う), 'juuban の四食が普通であった。昔は、二食の風があったらしく、上流婦人は長く ~, 'juuban の二食しかとらなかつた。~ mucun. 昼飯(の弁当)を持って行く。

ʔasaban@ (名) 朝晩。明け暮れ。

ʔasabaNsugai@ (名) 昼飯の支度。

ʔasabaNuui@ (名) 昼飯時分。正午ごろ。

ʔasaʔiju@ (名) 朝露。

ʔasadaci@ (名) 朝早く出発すること。朝立ち。

ʔasaduri@ (名) 朝なぎ。'juuduri (夕なぎ) の対。~ 'juuduri. 朝なぎ夕なぎ。

ʔasageera=sjun@ (他 =san, =ci) ものを捜して、ひっかけ回してとりちらかす。

ʔasagi@ (名) 立棲。着物の襟下。

ʔasagu=jun@ (他 =ran, =ti) かき回して捜す。あさって捜す。ʔasajun ともいう。

ʔasagumui@ (名) 朝曇り。

ʔasaju@ (名) [文] 朝夕。明け暮れ。

ʔasajuN

ʔasa=juN① (他 =raN, =ti) あさる。ほじくって捜す。ʔasagujun はその意味を強めた語。

ʔasajusa① (名) [文] 朝夕。明け暮れ。

ʔasakaagi① (名) 朝の日陰。また、朝の日陰のある時刻。日中は暑いので、～, ʔjuukaagi に出歩くように心掛ける。

ʔasakii① (名) あんなにたくさん。あんなに多く。～nu qcu. あんなに多くの人。

ʔasamajuma① (名) [文] [朝同夕間] 朝夕。

ʔasamasjan① (形) あさましい。ʔasamasii ninzin. あさましい人間。

ʔasamiiguci① (名) 朝の口あけ。商人は朝の口あけを縁起のよいものとして喜び、ʔiibun (おまけ) を付けたりする。

ʔasanaa① (名) 朝寝坊。朝寝 (ʔasani) する者の卑称。

ʔasani① (名) 朝寝。

ʔasanihwinai① (名) 朝寝昼寝。怠けて寝てばかりいること。

ʔasanunu① (名) 麻ぬの。

ʔasannaara① (副) 朝っぱらから。朝早くからあまりよくないことがあるときいう。～zin ʔimijun. 朝っぱらから金を催促する。

ʔasasaa① (名) せみの一種。羽が白い。sirubanii ともいう。また鳴き声から sansanaa ともいう。

ʔasasan① (形) ʔaqsan ともいう。⊖浅い。ʔasasaru ʔici. 浅い池。cimunu ～。心が浅い。⊖色が薄い。ʔirunu ～。色が薄い。

ʔasatabi① (名) [古] 政務を司る役。三人いたので sansikwan [三司官] ともいう。國務卿の意。ʔasitabi ともいう。sansikwan の項参照。

ʔasati① (名) あさって。明後日。

ʔasatiNaaca① (名) しあさって。あさっての次の日。明明後日。

ʔasatu①① (名) 安里。《地》参照。

ʔasaʔubun① (名) 昼御飯。ʔasaban (昼飯) の丁寧語。

ʔasaʔuki① (名) 朝早く起きること。早起き。hweeʔuki ともいう。

ʔasaziki① (名) 軽く塩に漬けた漬けもの。浅漬け。ただし大根には限らない。

ʔasaziN① (名) 麻の着物。あさぎぬ。

ʔasi① (感) そうさ。けんか・口論の時、怒った時などに相手を侮蔑して肯定の返事をする語。ʔasiqsa, ʔasihjaa などともいう。

ʔasi① (名) ⊖食用にする場合などの、豚などの肢。⊖足。足の意味では普通 hwisja といい、ʔasi は慣用句以外には用いられない。～nu ʔnkajuru mama. 足の向くまま。ʔuhwee ～hajamiri. 少し足を早めろ。少し急げ。また、複合語としては、ʔasitu (足音), ʔasiza (下駄) など。

ʔasi① (名) 汗。～hajun. 汗が出る。汗が流れる。

ʔasibaa① (名) ʔasibjaa と同じ。

ʔasibi① (名) ⊖歌・三味線・踊りなどを楽しむこと。また、村芝居・祭りなど、仕事を休んで行なう演芸・娯楽。類義語に kuniri, sinugu などの古語がある。kijuja ʔwice ʔugadi ʔiruʔirunu ～, ʔacaja ʔumukazinu tacuratumba. [今日は御行合拜で 色色の遊び 明日や面影の 立ちゆらとめば] きょうはお会いしていろいろの遊びを楽しもう。あすはおもかげが立つと思えば。～nkai nin ʔijun. 歌・踊りなどの遊びに夢になる。⊖子供などのする遊び。

ʔasibiburi① (名) 遊ぶことに心を奪われること。子供などが遊びほうけること。

ʔasibidusi① (名) 遊び友達。遊び仲間。

ʔasibiguni① (名) 踊り・村芝居などの盛んな村。また、男女の交際の自由な村。kuni は村里の意。同義語に hanaguni (その項

- 参照)。
- ʔaʃibiʔicunasa① (名) 遊ぶために忙しいこと。
- ʔaʃibinaa① (名) ʔaʃibi (その項参照) を催す場所。村芝居をする所。naa は庭のほか、広場という意味がある。
- ʔaʃibingwee① (名) 徒食。遊食。
- ʔaʃibisigutu① (名) ʔaʃibisikuci と同じ。
- ʔaʃibisikuci① (名) 遊び仕事。遊びながらでもできる、簡単な仕事。
- ʔaʃibizɔrasana① (形) 歌・三味線・踊り・芝居などが上手である。踊り・芝居などが美しい。ʔanu muraa ~. あの村は演芸がうまい。
- ʔaʃibjaa① (名) 遊び人。遊蕩人。
- ʔasibu① (名) あせも。
- ʔaʃi=buN① (自 =baN, =ɔi) ⊖遊ぶ。子供などが遊ぶ。ʔaʃibumi. 遊ぶか。子供にいうあいさつ。⊖遊ぶ。仕事をしないでいる。namaa ʔaʃidoon. 今は仕事をしていない。今は失業している。⊖歌・三味線・踊りなどに興ずる。娯楽を楽しむ。
- ʔasidooni① (名) 足の力。脚力。~nu neen. 足の力がない。足が弱い。
- ʔasigacaa① (名) せっかち。性急な者。
- ʔasigaci① (名) 気をもむこと。やきもきすること。あせり。~sjun. あせる。やきもきする。
- ʔasigacinoori① (名) あせること。気をもむこと。やきもき。いらいら。~sjan-teeman, najuru gutuɔu najuru. やきもきしたところで、なるようにしかならない。
- ʔasiga=cuN① (自 =kaN, =ci) あせる。いらだつ。いらいらする。
- ʔasigu=nuN① (自 =maN, =di) 汗ばむ。
- ʔasiguruma① (名) 足枷。~ʔirijuN. 足枷をはめる。
- ʔasihaimizi'hai① (副) 汗水流して。~hataracun. 汗水流して働く。
- ʔasihajaa① (名) 汗かき。よく汗をかく者。
- ʔasihjaa① (感) そうさ。そうさ、この野郎。ʔasi の項参照。
- ʔasihwisja① (名) 足の卑語。ʔasi, hwisja ともに足の意。~ʔirinna. 家に足を入れるな。出入りするな。
- ʔaʃii① (名) 昼飯 (ʔasaban)。農村で使う語。
- ʔaʃii① (名) 安勢理。《地》参照。
- ʔasijoo① (名) 足弱。足の弱いこと。足の弱い者。
- ʔasijooaba① (名) ʔasijoo と同じ。
- ʔasikusi① (名) 足腰。~N tatan. 足腰も立たない。
- ʔasimarubi① (名) 足を滑らして転ぶこと。また、あわてふためいて走ること。~Qsi can. あわてて (走って) 来た。
- ʔasimarubitiimarubi① (名) あわてふためいて走ること。~Qsi haee nati can. あわてふためいて走って来た。
- ʔasiNmi① (名) 安次嶺。《地》参照。
- ʔasiQsa① (感) そうさ。そうさ、この野郎。ʔasi の項参照。
- ʔasiree=juN① (他 =raN, =ti) ⊖あしらう。いい加減にもてなす。軽く扱う。ʃimanu cuubaankai kakati ʔnzaʃiga, ʔasireeraqtan. すまの強い者にかかって行ったが、軽くあしらわれた。⊖[新?]配合する。とりあわせる。
- ʔaʃitabi① (名) [古] ʔasatabi と同じ。
- ʔasitibiciei① (名) 料理名。豚の足の料理。高級な料理とされている。
- ʔasitu① (名) 足音。ʔasiʔutu ともいう。~nu kaazi. 足音のするたび。
- ʔasiʔutu① (名) 足音。hwisjaʔutu ともいう。
- ʔasiza① (名) 下駄。駒下駄。表つきの下駄には zita, 日本本土の歯を入れた足駄には tacibaaʔasiza という。~nu 'uu. 下駄の緒。

ʔasizamaciʔa

ʔasizamaciʔaⓄ (名) はきもの店。下駄屋。

ʔasiziraamooⓄ (名) 芝 (ʔasiziri) が一面に生えた所。芝生。

ʔasiziriⓄ (名) 足の裏に生ずる、あかぎれに似た裂け目。はだして歩く労働者に多くできる。寒さのためとは限らない。ʔjunziri, ʔasizirijunziri ともいう。

ʔasiziriⓄ (名) 芝。芝草。

ʔasiziriʔjunziriⓄ (名) ʔasiziri (芝草) の卑称。Ⓞ ʔjunziri (足の裏が切れること) の卑称。ʔasi- には足の意のほか、悪いという語感もある。

ʔasjagiⓄ (名) 農村の比較的裕福な家の前庭にある離れ屋。もと、祖神を祭った建物で、母屋よりも美しくしてあり、客間にしたり、倉にしたり、機を置いたり、いろいろな用に用いている。足上げの意か。mee-nujaa (前の屋) ともいう。

ʔasjuraⓄ (名) [文] ゆくえ不明。tamakuganicuigwa ʔnzaru sangwaçini ~ sici ʔuran. [玉黄金一人子 去ぢやる三月に あしゆらしち居らぬ(女物狂)] 大事な一人子が去る三月にゆくえ不明になって、いない。

ʔatabicaaⓄ (名) ʔatabici と同じ。

ʔatabiciⓄ (名) Ⓞ 蛙。蛙の総称。Ⓞ 蛙の一種。土色の小さいもの。

ʔatagahuuⓄ (名) [文] 思いがけない幸福。突然の果報。ʔata-<ʔaqt(a) (にわか)。haa kwahun çicuşigadu çicin çicizurasa. ʔatagahuu çicaru. kwahuna ʔwamija. [はあ 果報も付きゆすがど 付きも付き清らさ あた果報ど付きやる 果報な我身や (大川敵討)] ああ、幸運も付いてはいるが見事に付いたものよ。幸運なわたしは、不意の幸運にめぐまれた。

ʔataiⓄ (名) Ⓞ 王室内の庶務係。身分の高い、若い者になる。Ⓞ (接尾) 係。-tai ともなる。koosakuʔatai (農事係), ʔjamatai (山林係), hanatai (王室の接待係

の少年), kuratai (王室の倉庫係) など。

ʔataiⓄ (名) 屋敷内にあり、野菜などを作る畑。菜園。複合語に hanaʔatai (花畑), ʔuuʔatai (芭蕉畑) など。

ʔataiⓄ (名) くらい。ほど。ʔunu ~ nukutuni kusamikuna. それくらいのこと怒るな。

ʔataimeeⓄ (名) Ⓞ 当然そうあるべきこと。義務。ʔujanu kutoo qkwanu ~. 親の世話は子の義務。Ⓞ あたりまえ。普通。尋常。ʔaree ~ ja ʔaraN. 彼は普通ではない。異常がある。

ʔataipeeciNⓄ (名) [当親雲上] 士族の位階の名。

ʔata=juNⓄ (自 =raN, =ti) Ⓞ 当たる。的中する。相当する。また、合う。また、出来事に会合。事に当たる。saNminoo ʔatatoomi. 計算は合っているか。cimunu ~. 気が合う。心を通ずる。miitunda ʔjatin cimunu ʔataran kutunu ʔaN. 夫婦でも心の通わないことがある。ʔatatu siju. 実際に経験して、はじめてわかる。ʔatataru husju. 悪いことに会ったのが運のつき。当たったのが運が悪い。Ⓞ 食物に当たる。食中毒する。Ⓞ 悪いこと・やましいことが、思い当たる。痛いところを突かれる。ʔatajuru gutu ʔjun. 痛いところを突くように言う。自分が攻撃されているのでない時、自分自身のやましい点を思い当たった場合は duuʔatai sjun という。

ʔatakuⓄ (名) 蛙の一種。青蛙。芭蕉の葉によくいるので、ʔuuʔataku ともいう。~ natoon. 青蛙のように坐りこんで動かない。坐りこんで働かないさま、だだをこねて動かないさまなどをいう。

ʔatamaⓄ (名) Ⓞ 頭領。かしら。(身体名の「頭」は çiburu) Ⓞ 慣用語として、はじめ。あたま。~kara qcudu ʔušetooru. あたまから人を見くびってかかって

いる。～ni. 最初から。

ʔatamawaiⓄ (名) [新] 頭割り。人数割り。普通は ʔiziwai または ʔiburuwai という。

ʔataraⓄ (副) あたら。口語は ʔaqtara。～ niŋziŋni ʔnmarijai 'uʃiga. [あたら人間に 生れやい居すが] あたら人間に生まれてはいるが。

ʔatarasimuⓄ (名) 大事なもの。手離せないもの。

ʔatarasjanⓄ (形) 大事である。手離せない。ʔatarasii nasimuŋnuqkwa. 大事な生みの子。ʔatarasja sjun. 大事がる。手離したらない。

ʔatiⓄ (名) ㊦当て。目あて。心あて。目標。㊦心覚え。心当たり。～nu neen. 心当たりがない。覚えがない。熟睡中に起こったことなどについている。㊦思慮。分別。munnu ʔatee neen. 分別がない。危険を知らない。㊦音さた。たより。nuuʔatin neen. 何の音さたもない。naguja 'janbaruŋni ʔicihatiga 'jajura, namadi nagubuninu ~ja neraŋ. [名護や山原の行き果てがやゆら なまで名護船のあてやないらぬ] 名護は山原のはてであろうか、いまだに名護からの船のたよりもない。

ʔatiga=junⓄ (他 =aŋ, =ti) 目星をつける。擬する。ʔatigaarijun. 目星をつけられる。容疑者とされる。'waŋnee nuun saŋʃiga ʔatigaaqti kusamikariisaa. わたしは何もしないのに目星をつけられて、しゃくにさわるよ。taaga ʔjaa ʔatigajuga, duuʔatai qsi. だれが君だというものか、自分でひがんで。

ʔatigeehuuⓄ (名) あてずっぽう。当て推量。

ʔati=junⓄ (他 =raŋ, =ti) ㊦当てる。的中させる。接着させる。あてはめる。相当させる。また、合わせる。haajaŋkai kii ~. 柱に木を当てる。tucii ~. 時計を合わせ

る。㊦なぐる。人の体を打つ。那覇などではなぐることを、多く kurusun, taqkurusun, tataqkurusun などというが、首里ではやわからに ʔatijun と多くいった。

ʔatikawa=junⓄ (自 =raŋ, =ti) 当てがはずれる。

ʔatinasiⓄ (名) 無邪気な者。あどけない者。女・子供など思慮分別のない者。timizitiʃi siran ~ju demunu, 'juruci tabori. [手水です知らぬ あてなしよだいもの許ちたばうれ(手水之縁)] 手水ということを知らない、いとけない者ですから、お許し下さい。

ʔatiqteenⓄ (副) 女・子供などの、あどけないさま。無邪気なさま。～ sjoon. あどけないさまをしている。

ʔatisjooⓄ (名) 思慮。～nu neen. 思慮がない。

ʔatitipuuⓄ (名) ʔatitiqpuu と同じ。

ʔatitiqpuuⓄ (名) あてずっぽう。

ʔatuⓄ (名) (後方の意には多く kusi という。また、跡の意では、複合語を除き、多く sirusi という。) ㊦のち。後刻。将来。また、死後。～ kuuwa. あとでこいよ。～nu kutu. あとのこと。また、死後のこと。～nu ʔuzumi. あげくのとは。結局。～nu ʔuzumee karamiraqtaŋ. あげくのとはは、つかまえられる。㊦次。ʔunu ~. その次。㊦子孫。また、後継者。～ teejun. あとが絶える。

ʔatuʔatuⓄ (名) あとあと。のちのち。将来。

ʔatubaraⓄ (名) 後妻の子。

ʔatubisjaⓄ (名) 動物のあとあし。

ʔatuʃiziⓄ (名) あと継ぎ。相続人。嗣子。

ʔatudumeeiⓄ (名) ʔatudumi と同じ。

ʔatudumiⓄ (名) 後妻。sacidumi (先妻) の対。

ʔatukataⓄ (名) あとかた。痕跡。～N

ʔatukataʔiki

neeN. あとかたもない。

ʔatukataʔiki①(名)あとかたづけ。あと始末。

ʔatumasa ʔigahuu①(名)あとになってうまく行くこと。あとの方がかえってよくなること。

ʔatumi①(名)跡目。あと継ぎ。後継者。

ʔatumudui①(名)あと戻り。また、退歩。

ʔatunainai①(副)meenainaiの対。㊦だんだん後へさがるさま。㊦しりごみするさま。人の後になろうとするさま。～bikeeN Qsi. しりごみばかりして。

ʔatunaisaci¹nai①(副)㊦あとになったり、先になったり。㊦相前後して。～ʔjamatuNkai caN. 相前後して日本に来た。

ʔatusaci①(名)あとさき。前後。

ʔatusizicaa①(名)ʔatusiziciと同じ。～sjun.

ʔatusizici①(名)あとずさり。後退。また、しりごみ。～sjun.

ʔatuʔusii①(名)[新]車のあと押しを業とする者。立ちん坊。首里の坂の下などに、人力車のあと押しを業とする者がいた。

ʔatuʔwii①(名)あとをつけて行くこと。尾行。-ʔwii<ʔuujuN.

ʔawa①(名)粟。

ʔawaawaa①(名)あばばば。口を手でたたきながら声を出す幼児の芸。

ʔawaçizi①(名)粟粒。

ʔawari①㊦(感)[文]あわれ。ああ。～kunu taija ʔicaga najura. [あはれこの二人や いきやがなゆら]あわれ、このふたりはどうなることか。㊦(名)あわれ。つらいこと。みじめさ。苦勞。～sjun. みじめになる。苦勞する。～çikusjun. あわれをきわめる。ʔjanbaruni ʔikiba ~çuja siguku, miru kataja neran ʔumitu ʔjamatu. [山原に行けば あはれどや至極 見る方やないらぬ 海と山と]山原に行けばどんなにつらいことか、海と

山ばかりで、ながめるものとてない。

ʔawatiihjaatii①(副)大急ぎでするさま。大あわてでするさま。zikaNnu ʔakutu ~ Qsi ʔNzan. 時刻が決まっているので、大急ぎで行った。

ʔawati=jun①(自 =raN, =ti)㊦急ぐ。ʔawatiti ʔee. 急いでしろ。㊦あわてる。

ʔawatinoori①(副)㊦大急ぎでするさま。ʔunu basjoo ~ sjootaN. その時は大急ぎだった。㊦あわてふためくさま。

ʔaweesjukwee①(副)あわてふためくさま。大あわて。taðeemanu kutu nati, ~ simiraqtoon. 突然のことで大あわてさせられている。

ʔaza①(名)安謝。《地》参照。

ʔaza①(名)ほくろ。あざは sumi という。

ʔazagwaa①(名)小さいほくろ。

ʔazakee①(名)[文]しゃこ貝。口語は ʔazikee. その貝がらは魔よけとして用いられる。tusija nagukaradu ʔjujuñdici cicuru, nagutu sjuizakeni ʔazake ʔwirana. [年や名護からど 寄ゆんでいち聞きゆる 名護と首里境に あざ貝植あらな]年(砥石)は名護から寄って来るという話だが、名護と首里との間にしゃこ貝を植えて年が来ないようにしよう。名護は砥石(tusi)の産地であった。

ʔazama①(名)安座間。《地》参照。

ʔazamuciwaree①(名)あざ笑い。嘲笑。ʔazawaree ともない。

ʔazamu=cun①(他 =kaN, =ci)あざける。軽蔑してかかる。あざむくは nuzun という。Qcu ~. 人をあざける。

ʔazana①(名)[古]首里城内にあった、旗を立てて時刻を示した台。首里城内に二箇所あった。

ʔazanaa①(名)あだな。綽名。～nu çicoon. あだなが付いている。

ʔazannatu①(名)安謝港。首里の西北方、旧真和志間切にある港。

ʔazawareeⓐ (名) あざ笑い。嘲笑。ʔazamuciwaree ともいう。～ sjuN. あざ笑う。嘲笑する。

ʔaziⓐ (名) [按司] ʔaNZi ともいう。位階の名。大名。'oozi [王子] の次, ʔweekata [親方] の上に位する。もとは地方に一城をかまえて割拠したが, 尚真王時代(1477~1526)に首里に中央集権が敷かれた際, 首里に集められ, 一間切を領する身分となった。ʔazi が首里に作った邸宅は ʔuduN [御殿] とよばれ, また, ʔazi は人びとから ʔumee [御前] と呼ばれるようになった。ʔazizituu の項参照。

ʔaziⓐ (名) 機織りの器具の名。経糸を上下に分けるもの。meegusa (その項参照) に穴をあけ, ひもで結び付ける。<ʔazijun.

ʔaziⓐ (名) ㊦味。食物の味。ʔazee caaga. 味はどうか。㊦味見。味加減を見ること。～ sjuN. 味見をする。

ʔaziⓐ (名) えら(鰐)。

ʔazibiⓐ (名) [按司部] ʔazi [按司] の身分の人びと。諸侯。また按司に対する敬称。按司様。ʔazibiʔumingwanu gutoosa. 按司様のお子様ようだ。上品で美しい子供を形容している。

ʔaziganasiiⓐ (名) 按司様。ʔazi [按司] に対する敬称。-ganasii は敬意を表わす接尾辞。

ʔaziganasiimeeⓐ (名) 御按司様。ʔazi [按司] に対する敬称。

ʔaziimeeⓐ (名) ʔazi [按司] の子が父親に対していう呼び掛けの語。

ʔazi=junⓐ (他 =raN, =ti) 交叉する。十字に交わる。

ʔazika=junⓐ (他 =raN, =ti) 預かる。

ʔazikeeⓐ (名) シャこ貝。ʔazi-<ʔazijun. 貝がらがかみ合うのでいう。つるしておく

と邪気が通らないとして邪気をはらうまじないとされる。

ʔaziki=junⓐ (他 =raN, =ti) 預ける。

ʔazikuutaaⓐ (名) 味のよいもの。深い味わいのあるもの。こくのあるもの。

ʔazimaaⓐ (名) 交叉したものの。交叉したところ。sanazinu ~. ふんどしの結び目。またその結び目の当たる腰の部分。micinu ~. 四つ角。十字路。

ʔazimaamusubiⓐ (名) 十字に結ぶこと。荷造りなどで, 縦横のひもの交叉したところを結ぶこと。

ʔazimeeⓐ (名) 按司様。ʔazi [按司] の敬称。普通は ʔumee という。

ʔazimukuⓐ (名) ʔazi [按司] の婿の意か。夜, 掃除をすることは忌むが, どうしてもしなければならぬ時に, この語を唱えながらする。

ʔazinⓐ (名) 杵。手杵。太い一本の棒で, 中央の握る所を細くしてあるもの。つき杵は kakizici という。

ʔazisuiⓐ (名) [文] 按司様。ʔazi [按司] の敬称。-sui は mundašii [百浦添], ʔurašii [浦添] などの -šii と同じく, もと治める意かと思われる。

ʔazitakaⓐ (名) 鷹の上等な美しいもの。ʔazi [按司] が飼う鷹の意か。

ʔaziweeⓐ (名) 味わい。おとなの使う語。～ nu ʔaN. 味わいがある。

ʔazizituuⓐ (名) [按司地頭] suuzituu [総地頭]・'wacizituu [脇地頭] の上。地方に一間切の領地をもつ領主。その位階は ʔazi [按司], その邸宅は ʔuduN [御殿] と呼ばれる。ʔazizituu と suuzituu とは二重に一間切を領する。両者を併称して roosuuzituu [両総地頭] という。

b

- baa**ⓐ (名) ㊦場合。折。時。ʔunu ~ja caa sjuga. その時はどうするか。㊦わけ。理由。caaru ~ga. どういうわけか。
- baa**ⓐ (名) 叔母。叔母さん。父母の妹。士族についている。平民については baacii という。伯母(士族)は ʔuhuʔajaa という。叔母が三人いるとすれば、ʔuhubaa (大きい叔母さん), baa, baagwaa (小さい叔母さん) などと呼び分ける。
- baabaa**ⓐ (副) 火の燃えるさま。ぼろぼろ。~ meejuN. ぼろぼろ燃える。
- baacii**ⓐ (名) ㊦叔母。叔母さん。父母の妹。平民についている語。士族については baa という。㊦下女をさしている語。小母さん。
- baacira**ⓐ (名) 下品な女。あばずれ女。
- baagwaa**ⓐ (名) 小さい叔母さん。一番下の叔母。
- baahabakai**ⓐ (名) 場所ふさぎ。広い場所を占有して、邪魔になること。
- baakee**ⓐ (名) 奪い合い。
- baakeekara'kee**ⓐ (副) 奪い合うさま。~ sjun.
- baaki**ⓐ (名) ざる。かご。底が四角で、底を中心に丸く竹で編みあげたざるをいう。殺物・いもなどを入れる。目は密なもの粗なものといろいろある。sookiの項参照。
- baaN**ⓐ (名) 番。番すること。また、番人。守衛。順番の意の「番」は baN という。
- baaNjaa**ⓐ (名) 番小屋。baNtiともいう。
- babaqkwaa=sjun**ⓐ (他 =saN, =ci) ごまかす。まぎらわしくしてごまかす。mamaq-kwaasjun, mamiqkwaasjunともいう。
- baci**ⓐ (名) ばち。悪行に対する神仏などからの報い。~ kaNzun. ばちが当たる。ばちを受ける。~ kwajun. [新] 凶に当たる。すばらしい目にある。すごい。うまい。ʔiitiNci nati ~ kwatoon. [新] いい天気になってうまいぞ。
- baci**ⓐ (名) ㊦撥。太鼓・どらなどを打つ棒。㊦撥。こまを打って回すもの。竹ぎれなどの先に布やひもを結びつけたもの。
- baçi**ⓐ (名) 罰。siNsiini ~ sarijun. 先生に罰される。
- baçikanZaa**ⓐ (名) 罰当たり。ばちが当たった者。
- bagu**ⓐ (名) 馬具。bagudooguともいう。
- bagudoogu**ⓐ (名) baguと同じ。
- baki=juN**ⓐ (自 =raN, =ti) [新] 化ける。また、変装する。
- bakuca**ⓐ (名) bakuci (ばくち)の卑語。~ ʔucun. ばくちを打つ。
- bakuci**ⓐ (名) ばくち。bakucaともいう。
- bakujoo**ⓐ (名) ㊦ばくろろ。馬の売買を業とする者。ʔNmabakujooともいう。転じて、馬以外の家畜を売買する者をも ʔusi-bakujoo (牛の売買をする者), ʔwaabakujoo (豚の売買をする者)のように入ります。㊦仲買人。ブローカー。周旋屋。卑しめていう場合が多い。ʔuribakujoo (女郎周旋屋)など。㊦商売上の利益を目的とした交換。~ sjun. もうけのための交換をする。
- bama**ⓐ (名) 浜。《地》参照。
- bani**ⓐ (名) ばね。発条。
- baN**ⓐ (名) ㊦番。順番。~ tujun. 順番を決める。~ ʔatajun. 番が当たる。waa-banui. わたしの番か。門番などの「番」は baNという。㊦(接尾)番。ʔicibaN (一番)など。
- baN**ⓐ (副) ばん。強く打つさま。また、その小兒語。~ sarijun doo. ばんとぶたれるぞ。

baNbaaraaⓐ (副) がらんどろ。広い家などに何もありません。ʔuubanbaaraa ともいう。

banbataaⓐ (名) 玩具の名。竹の柄の付いた円形の金属板(または針金の輪の中を紙で張ったもの)の両端にひもを付け、そのひもの先に小さい金属球をとりつけたもの。柄を回して、カランカランと鳴らす。

bandukuruⓐ (名) [文] banzu [番所] の文語。韻文で用いる。makutu nani taturu sjujanu ~, nakajamaja kusjati 'Nnatu me naci. [まことに名に立ちゆる塩屋の番所 中山やくしやて 港前なち(花売の縁)] まことに名高い塩屋の番所だ。中山を背にし港を前にして。

bankuⓐ (名) 野外で芝居をする時の舞台。普通の舞台は butee.

banmika=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) ばんとくらわす。やっつける。

banniNⓐ (名) 番人。

banSiruuⓐ (名) ばんじろう。蕃石榴。南国特有の果樹の名。

banTiⓐ (名) [文] ⊖番人。haa kuinu maši ~ sjuru munuja ʔaran, dezi-sarami 'wamija ʔisuzi nugira. [はあ恋のませ番手 しゆるものやあらぬ 大事さらめ我身や 急ぎぬげら(手水之縁)] やあ恋のませ垣の番をするものではない。大変なことだ。わたしは急いで逃げよう。⊖番小屋。

banziⓐ (名) まっ最中。たけなわ。まっ盛り。ʔikusanu ~. いくさのまっ最中。mumunu ~. やまもものまっ盛り。~nu niisee. 若盛りの青年。

banzooganiⓐ (名) [番匠金] かね尺。直角に曲がったものさし。

banzuⓐ (名) [番所] maziri [間切] の役場。

baQcinⓐ (名) [罰金] 罰金。過料。kwasin [科銭] ともいう。~ kakirarijun. 罰金

をかけられる。

baQpeeⓐ (名) 間違い。誤り。また、あやまち。~ sjuN. 間違いをする。~ ʔjakutu kuneeti kwiri. あやまちだからこらえてくれ。複合語に, micibaqpee (道を間違えること), sanminbaqpee (計算間違い), qcubaqpee (人違い) など。

baQpee=junⓐ (他 =raN, =ti) 間違える。間違ろ。sanmin ~. 計算を間違える。“caasi ʔansi baqpeetaga.” “nuutun-ganaasi baqpeeti neen mun.” 「どうしてああ間違えたか。」「何となしに間違えてしまったんだもの。」

-bara (接尾) 名詞は hara. …の方。…の側。…の身内。…の一族。nisibara [西原] (地名。首里の北側の意), hweehara [南風原] (地名。首里の南側の意), caqcibara (長男の一族), zinanbara (次男の一族), hwizabara (比嘉一族) など。

baranⓐ (名) 尾花。すすきの花。すすきは gusici という。

basikaaⓐ (名) ⊖basikee と同じ。⊖basikaaʔiju と同じ。

basikaaʔijuⓐ (名) 太刀魚。

basikeeⓐ (名) 芭蕉の葉柄の裏皮。ひもなどに用いられる。表側からは繊維をとり、芭蕉布とする。

basjaaⓐ (名) 芭蕉布。芭蕉は 'uu, または basjuu.

basjaanunuⓐ (名) 芭蕉の布。basjaa と同じ。

basjaazinⓐ (名) 芭蕉布で作った着物。夏の男女用。

basjanaiⓐ (名) 芭蕉の実。バナナ。

basjazinⓐ (名) 芭蕉布の喪服。染めてない無地の芭蕉布で作り、葬式にのみ用いる。男は袖を通して着るが、女は袖を通さずに頭からかぶる。

basjuⓐ (名) ⊖場合。折。時。ʔunu kutoo ʔariga caru ~ ʔataga ʔjaa. その

basjuu

ことは彼が来た時だったかね。?ariga cuuru basjoo 'wannee 'urandi 'yee. 彼が来た場合にはわたしはいないと言え。~nu ~ 'jati 'juujuutu hanasin narrantan. 場合が場合で、ゆっくり話もできなかった。⊖緊急な事のある場合。不幸の折・もうけ時・チャンス・機会など。~nu ?acinee. もうけ時の商売。⊖場所。buciriina ~. きたない場所。⊖わけ。理由。caaru ~ga, ?jaaga ?an sjuŕee. どういうわけだ、おまえがそりしたのは。⊖(接尾)不幸の折。taruubasjuni cootaru qcu. (太郎の不幸の時に来ていた人)

basjuu⊖(名) 芭蕉。'uu ともいう。

basjuukabi⊖(名) 紙の一種。芭蕉紙。芭蕉の繊維で作る。品質は落ちるが、丈夫で、下級の役所などで用い、また、三味線の胴にも張る。basjuusi ともいう。

basjuusi⊖(名) basjuukabi と同じ。

batin⊖(名) 馬天。島尻郡旧佐敷間切にある港。

bazoo⊖(名) 見かけ。外見。また、見かけがよいこと。見かけがよいもの。~nu ?an. 見かけがよい。~nu neen. 見かけが悪い。?aqtabazoo (ちょっと見がよいこと。ちょっと見がよいもの), 'jamatubazoo (日本品のちょっと見のよさ)などの語もある。

bee⊖(感) いやだ。拒絶する場合の卑語。beeru ともいう。相手を軽蔑・罵倒して言う。けんかの時には、さらに卑語 hjaa をつけて、beehjaa, beeruhjaa などと言う。

bee⊖(名) 倍。二倍。~ ?an. 二倍ある。~kanun. 二倍食う。⊖(接頭)倍の。beenanzi (二倍の難儀), beesikuci (二倍の仕事)など。⊖(接尾)倍数を示す。sanbee (三倍), sa i : (i) (三倍) など。

beebec⊖(名) 山羊 (hwiizaa) の小児語。鳴き声によったもの。

beebec⊖(名) 算 (hwiizaa) の小児語。

beenanzi⊖(名) 倍の難儀。

beeru⊖(感) いやだ。拒絶する場合の卑語。bee と同じ。

beesikuci⊖(名) 倍の仕事。

-bi (接尾) [部] …の階層の者。…の階層の人たち。また敬称ともなる。様。?azibi [按司部], ?weekatabi [親方部], Yuminai [思姉部] など。

-bicee (接尾) 相当。…に相当する・…に匹敵する・…に代わりうるの意を表わす。<hwicajun. zuuninbicee (十人力), 'juubanbicee (夕飯代わりとなるもの) など。

biçi⊖(名) 別。~nu. 別の。hukanu ともいう。

biçidan⊖(名) 別段。格別。~na kutu. 格別のこと。~nuun ?aran. 別段何でもない。

-bicii (接尾) べき。文語的な接尾辞。kacibicii kutu (書くべきこと), ?iribicii 'jan. (入れるべきである) など。

bideetin⊖(名) 弁才天。七福神の一つ。

bideetingumui⊖(名) 弁才天を祭った池。弁天池。首里にある。

biibii⊖(名) 吹いて鳴らす類の玩具。また、笛の小児語。

biicaa⊖(名) ねずみの一種。普通のねずみより小さく、臭気がある。これが鳴くと喧嘩口論が起こるといふ俗信があり、'iikutu katari (いいことを語れ) というまじないを唱える。

biiguda'tan⊖(名) 備後表の畳。biiguii (備後藪) で作った畳。

biiguii⊖(名) 備後藪。勝連村・与名城村・具志川村などで栽培されていた。biigumusiru (備後表) を織る。?ootuuzin, tuuzinii ともいい、その藪は燈心にする。

biigumusiru④ (名) 備後表。biiguii (備後瀨) で織ったむしろ。一般に琉球表と称しているものは七島瀨で作るもので、それは *sacii* という。

biima④ (名) かすり模様。Tijabiima (矢がすり), marubiima (丸模様のかすり) など。

biiraa④ (名) 弱虫。弱い者を罵倒している語。<biiru。

biirakwa'ara④ (副) へなへな。ぐにゃぐにゃ。柔らかく力のないさま。~ *sjoon*. へなへなしている。

biiru④ (名) ①みる (海松)。海草の名。②ぐにゃぐにゃして弱体の者。足腰の立たない者。

biisii④ (名) 備瀬。《地》参照。

-bika'an (助) ばかり。ばかし。saataa~ namijun. 砂糖ばかりなめる。bikeei, bikeen ともいう。

-bike'ei (助) ばかり。-bikaan, -bikeen ともいう。また、文語では -bikei となる。Tukwaasi~ kadi. お菓子ばかり食べて。kadi~ 'uinee 'wata 'janzun doo. 食べてばかりいると腹をこわすぞ。

-bike'en (助) -bikaan, -bikeen と同じ。'warabi~ çikajun. 子どもばかりを使う。

binasahaganasa④ (名) 不便だったり不足したりすること。

binasan④ (形) ①ふつつかである。不調法である。普通のレベルに達せず、用をなさないことをいう。nuu simitiin binasai-biikutu. 何をさせてもふつつかですから。②ひよわである。病弱である。duunu ~. 体がひよわである。

binasawaqsa④ (名) 不行きとどき。不調法で行きとどかないこと。

binuci④ (名) 辺野喜。《地》参照。

bin④ (名) 便。手紙。たより。binoo ?ami. たよりはるか。

bin④ (名) 紅。染料の紅, 食紅, 口紅など。

また、紅色。

bin④ (名) 瓶。

bin④ (名) 保栄茂。《地》参照。

binbinja'ajaa④ (名) 赤い模様のある着物の小児語。赤いおべべ。bin は紅の意。

binboo④ (名) [新] 口ぐせのように貧乏なことをこぼす者。貧乏なことは *hwinsuu* という。

bindearee④ (名) 金だらい。

binduku④ (名) 便毒。横根。多く花柳病に起因するもの。

bingata④ (名) ①染め物の柄の名。布の上型紙を置き、その上から紅の染料を塗って、花鳥山水などの模様を染めつけたもの。②bingatawatazin と同じ。

bingatawatazin④ (名) bingata の watazin (冬の礼服)。首里の上流婦人が着用したもの。

bingi④ (名) えのき(梗)。

binkuu④ (名) [弁口] 能弁。口が達者な者と。

binkuumu④ (名) 能弁な者。口の達者な者。

binnutaki④ (名) 弁が岳。弁の御岳。首里の東側にある山。

binri④ (名) 便利。~na mun. 便利なもの。

binroo④ (名) 植物名。檳榔。のやし。kuba (びろう) と似ているが別種。

binsibui④ (名) 紅のしぼり染め。女の子の着物の模様の名。

binsiil④ (名) [瓶水] 酒を入れる錫製の器。背が高く、上部の口の部分が細くすぼまっている。一對あって、Tugwan (願)・婚礼などに用いる。口に木の栓をして、その上を赤紙・黄紙を重ねて折り曲げたものでおおう。

binsja④ (名) [弁者] 能弁な者。雄弁な者。

binta④ (名) 鬢。耳の前に垂れた髪。また、

biŋtoō

顔のその部分。

biŋtoō① (名) 弁当。

biŋtūi① (名) [瓶取] 結婚式で三三九度の杯を取り交わす時、そばで **biŋšii** [瓶水] を持って酒をつぐこと。またその役。十四、五歳の処女が行なり。花嫁は花婿の家族とも杯を取りかわす風がある。⊖酌婦。料理屋の売春婦。

biŋziki① (名) [鬘附] 頭髪用のねばり強い固形の油。ポマードのようなもの。

biŋzuru① [賓頭盧] **bižuru** と同じ。

biqceen① (副) ちょっと。ちよっぴり。ほんの少し。 **biqceengwaa** ともいう。 **saa-taa** ~。砂糖ほんの少し。~ **'jaree ʔan**。ほんの少しならばある。~ **dukiti kwiree**。ちよっとどいてくれ。

biqceengwaa① (副) ほんのちよっと。ちよっぴり。ほんの少し。~ **du ʔaru**。ほんの少ししかない。~ **dukiti kwiree**。ほんのちよっとどけてくれ。

biqcin① (名) [別珍] 紙入れ。財布。

biqsee① (名) いたずら。ふざけること。~ **sjun**。

biqseekarakee① (名) いたずらしたりからかったりすること。~ **sjun**。

biqsuu① (名) (口をゆがめて) 軽蔑の情を表わすこと。また、羨望して、やきもちをやくこと。岡焼き。いまましそりにすること。~ **sjun**。いまましそりにする。

biqsuuguci① (名) 軽蔑して、またはいまましげに、ゆがめた口。

biqteen① (副) げんなり。しょんぼり。力なくしおれたさま。 **'watanu** ~ **natoon**。おなががすいてぺしゃんこになっている。

bira① (名) ねぎ (葱)。 **ziibira** ともいう。

biragaramaci① (名) 料理の名。ゆでたねぎで魚肉を巻き、味噌煮にして酢味噌をかけたもの。

-**biree** (接尾) 付き合い。また、仕えること。 <**hwiree**。 **dušibiree** (友だち付き合い)、

tunaibiree (隣との付き合い)、 **situbiree** (姑への仕方)、 **'utubiree** (夫への仕方) など。

bitabita① (副) のりのついていない、柔らかい布の感触。 **ʔiicu** ~ **kaiki horohoro**。絹はビタビタと柔らかい肌ざわりで、甲斐絹はホロホロと衣ずれの音を立てる。

bitaraasjan① (形) めめしい。優柔不断である。いくじがない。

bitataikaatai① (副) しなびたさま。病人の皮膚などが弾力がなく、しわがよったさま。~ **sjoon**。しなびている。

bitataimuN① (名) いくじなし。

bitataizin① (名) よれよれの着物。のりの付いていない着物。

bitata=jun① (自 =**raN**, =**ti**) しなびる。生氣が衰えてしぼむ。植物・人間などという。

biwa① (名) びわ (枇杷)。

bižuru① (名) [賓頭盧] 神を祭ったところにある円形の石。仏像の形はしていない。 **biŋzuru** ともいう。 **ʔugwan** (祈願) をしてそれが聞き入れられれば、軽く持ち上げられ、聞き入れられなければ重くなって持ち上げにくいという。その場合は、供物を丁重にしたり、物知りに教えを乞うたりして、軽く持ち上げられるよう手を尽す。

bjoobu① (名) 屏風。普通は **noobu** という。しかし金屏風は **cinbjoobu**。

bjooci① (名) 病気。 **'janmee** よりも上品な語。

bjooniN① (名) 病人。 **'janmeemun** は病弱な者、病気がちの者の意。

bjuu① (名) 廟。王の祖先を祭ったところなど。また、那覇久米村には **kuusibjuu** (孔子廟) がある。

bonbon① (副) たぶたぶ。水などが満ちあふれているさま。 **"kaanu mizee caaga."** **"~ sjoon."** 「井戸の水はどんなか。」 「いっぱいある。」

- boo**① (名) 棒。荷物をかつぐ棒, 武術用の棒など。buiの項参照。
- boo**① (名) はかりごと。たくらんで, だますこと。~ sjuN. はかる。だます。~ saqtaN. はかられた。だまされた。
- boofa'gai**① (名) 増長。つけ上がること。
- booboo**① (名) 坊や (小児語)。
- boocaku**① (名) [文] 忘却。'unzi ~ nasaki ciri 'jakara. [恩義忘却 情け切れやから (大川敵討)] 恩義を忘れ情愛のなくなったやつ。
- booci'raa**① (名) わがまま者。強情者。boocirimuNともいう。
- boocirimuN**① (名) わがまま者。強情者。
- booduisii'dui**① (名) ①乱暴を働くこと。②勝手に他人の物を持ち去ること。
- booduru**① (名) 練乳。外来語か。
- boogai**① (名) 目上に対して乱暴を働くこと。
- boohujaa**① (名) ぼうふら。棒を振る者の意。那覇では?aminuqkwa (雨の子)といる。
- boo=juN**① (他 =raN, =ti) 奪う。ふんだくる。?NbajuN は文語。
- booNtaa**① (名) 丸い球。球形のもの。橋のらんかんの擬宝珠 (ぎぼし) などをいう。
- booNtuu**① (名) booNtaaと同じ。
- boosi**① (名) [新] 帽子。
- boosicinaa**① (名) 自由労働者。棒だけを持ち, それを尻に敷いて雇い人の来るのを待つ, 最下層の労働者。立ちん坊。
- boosjuu**① (名) 芒種。二十四節の一つ。小満 (sjuumaN) とともに沖繩で最も雨の多い季節。
- boozaa**① (名) 坊や。小さい男の子の愛称。その敬語は boozuu (ぼっちゃん)。
- boozii**① (名) ①坊主。僧侶。②坊主頭。また, 幼児などの頭。
- boozimaa**① (名) 棒縞の着物。白地に黒の太い縞が縦にあるもので, 青少年の夏の着物。
- boozinadii**① (名) 産剃り。小児が生まれて七日目に初めて産毛を剃る式。boozii (頭) を剃るということばを避けて nadi (撫で) といったもの。
- boozii'ri**① (名) 棒切れ。buNziriともいう。
- boozii'si**① (名) 豚の背中肉。豚肉中最も上等。豚ロース。
- boozuu**① (名) 目上の家の小さい男の子の愛称。ぼっちゃん。平民が用いる。
- boronboron**① (副) つづみの音。旧暦3月3日には平民の娘たちがつづみを打ち, 歌を歌って遊ぶ習慣があった。
- bu** (接尾) 分 (ぶ)。10分の1の分量を表わす単位。?icibu (1分), gubu (5分) など。
- buci**① (名) 鞭。竹などの細長い棒。
- buçi**① (名) 仏。~nu ?usii. 仏の教え。
- bucidan**① (名) 仏壇。先祖代々の位牌をまつてある壇。仏像はないのが普通。たんすの形のものもあるが, 多くは家に戸棚のように作りつけてある。
- bucigee**① (名) 気分が悪いこと。また, 貧血。卒倒。目まい。bucikuNよりも程度が軽い。~ najuN. 気分が悪くなる。貧血を起こす。卒倒する。?anmasja sjuNともいう。
- buciiN**① (名) [文] [物縁] (物との) 縁。?aa 'Nzoosaja ~nu neejabiraN, muzukuituN husaaraN... [ああ無蔵さや 物縁の無いやべらぬ 物作りともふさあらぬ... (花兎之縁)] ああ, かわいそなことに物との縁がありません。作物を作ってもうまくいかず…。
- bucikuN**① (名) ①卒倒。気絶。qcunu ~ natooN. 人が卒倒している。②気分が悪いこと。元気がないこと。~ 'jatan. 気分が悪かった。
- bucirii**① (名) 不潔。きたないこと。cirii

bucuu

(きれい・清潔の意)の対。～na tii Qsi.
きたない手をして。

bucuuⓂ(名) 発育が悪いこと。発育不良。
-cuui<cuujun. ～na 'warabi. 発育が
悪い子供。

buʔeesaʒiⓂ(名) いやいやながらの挨拶。
不快そうな挨拶。また人に挨拶を返さない
こと。無愛想。～na mun. 無愛想者(ʔee-
soomuciの対)。

buʔeesooⓂ(名) 無愛想。～na. 無愛想な。

buhjoosiⓂ(名) 折が悪いこと。あいにく
なこと。'iihjoosi(好機会)の対。～'ja-
teesa 'jaa. あいにくだったねえ。

buiⓂ(名) 棒切れ。短い棒。長い棒は boo,
竹などの細い棒は buci という。～ muq-
ci ʔuujun. 棒切れを持って追いかける。
～saani sugujun. 棒切れでなくる。

buiⓂ(名) 胴あげ。罰として行なう。bui-
doo ともいう。～ ʒicuN. 胴あげにしてこ
らしめる。

-bui(接尾)ぶり。-huunaa ともいう。ʔu-
huqɛbui(おとなぶること)など。

buidooⓂ(名) 胴あげ。<bui doo(bui だ
ぞ)。罰として行なった。buiと同じ。

bukaqkooⓂ(名) 不格好。～na. 不格好
な。

bukariiⓂ(名) 不吉。縁起の悪いこと。
karii(嘉例)の対。～na kutu. 不吉なこ
と。

bukiⓂ(名) 桃色。うす赤い色。淡紅色。
bukiʔiru ともいう。

bukiʔiruⓂ(名) bukiと同じ。

bukubukuuⓂ(名) bukubukuzaa と同
じ。

bukubukuzaaⓂ(名) 茶を泡立てたもの。
茶せんで茶を泡立てて、椀に盛り上げ、そ
の上に南京豆などを置く。夏の清涼食品と
して、女・子供などに好まれる。bukubu-
kuu ともいう。

bukukuciⓂ(名) ⊖不愉快。～na miin-

kai ʔiqei. 不愉快な目に会って。⊖病気な
どで、気分が悪いこと。～'jataʒiga ʔi-
hwi ʔjuktakutu nootaN. 気分が悪かつ
たが少し休んだので直った。

bukutooⓂ(名) でぶ。ぶくぶく太った人。

bukuuⓂ(名) 不器用。～na mun. 不器用
な者。

buNⓂ(名) ⊖身分。～nu ʔaru qcu. 身
分の高い人。⊖身分にそなわる品位。品
格。名分。～ ʔutusjun. 品位を落とす。
徳をなくす。～ tacuN. (事が明らかとな
って)名分が立つ。samureenu ～ mu-
cuN. 士族としての身分と品位を保つ。

ʒiizanu ～ mucijuusaN. 兄としての貫
祿を保てない。⊖分。分け前。取り分。ま
た、分量。～nu ʔuhusaN. 分量が多い。

buNⓂ(名) 盆。盂蘭盆会。ʔusjooroo と
もいう。

buNⓂ(名) 盆。食器などを載せて運ぶ道具。

buNʒagaiⓂ(名) 身分が上であること。

buNciNⓂ(名) 文鏡。

buNʔi'rimiⓂ(名) 盆の費用。

bunKakuⓂ(名) 身分と家柄。～nu ʔaru
qcu. 身分や家柄のよい人。caaru ～nu
munGa. どんな身分・家柄の者か。

buNkuuⓂ(名) 文庫。書類を入れる箱。本
箱。

buNma'ciⓂ(名) 盆の市。盆のために開か
れる市。盆に用いる器具・食品・玩具など
が売られる。

buNme'eⓂ(名) 盆の前。年の暮れととも
に最も忙しい時。

buNmucaaⓂ(名) 気取り屋。貫祿を示した
がる者。品格・体面を保ちたがる者。

buNniNⓂ(名) [凡人]位のない普通の士
族。

buNnooⓂ(名) 煩惱。心を煩わして、悩む
こと。ʔuja ～ qkwa cikusjoo. 親は子
のために心配するが、子は親を思わず畜生
同然。

buNsan① (名) 庭池の中にある石。
buNsee① (名) 文才。～nu ʔaN. 文才がある。
buNtuku① (副) 髪が乱れているさま。ぼうぼう。karaziN ~ natoosa. 髪がぼうぼうになっているよ。
buNzee① (名) 分際。身のほど。
buNzi'kee (名) 盆の時に使う金銭や品物。
buNzi'ri① (名) 盆を期限とする半年の決算。盆限りの意か。
buNziri① (名) 棒切れ。いったん工作した棒切れをいう。そうでないものは kiiziri (木切れ)。
-buQkwa (接尾) ふくれたところ, かたまっていたところなどの意を表わす。ciibuqkwa (乳房, おっぱい), hanabuqkwa (鼻のふくれ, 鼻), taabuqkwa (たんぼ, 田がかたまってあるところ) など。
buQpoo① (名) 仏法。学問ある人の使う語。
buQtakwa'qta① (副) べたべた。粘りつくさま。
buQtarakoo① (名) でぶ。でぶちん。丸丸と太った者。子供などについていう。buQtarakuu ともいう。
buQtarakuu① (名) buQtarakoo と同じ。
buQtee① (名) でぶ。太った者。buQtarakoo ともいう。
buQtii① (名) 捨てることの小児語。～sjun. 捨てる。パイする。
buQtuu① (名) 丸くふくれ上がったもの。いぼ・こぶなど。
buQtuuhwi'qtuu① (名) いぼいぼ。丸くふくれたものがいくつもあること。また, そのさま。また, いくつもあるいぼ。
bura① (名) 法螺(ほら)。ほら貝の笛。綱引き・村芝居など, にぎやかな行事に吹き鳴らす。
buraa① (名) gakubura (楽器の名) を奏する楽人。
-buraari① (接尾) 不足。tiiburaarii (手

不足), kamiburaari (栄養不良), kun-ciburaari (根気不足) など。

buraa=rijuN① (自 =riraN, =qti) 足りなくなる。不足する。hanmeenu buraaqtoon. 食糧が不足している。

burabura① (副) ㊦よろよろ。ふらふら。よろめいて歩くさま。'wiiti ~ 酔ってふらふら。㊦よちよち。幼児が歩くさま。～ʔaqcuN. よちよち歩く。

buraburaaʔaqei① (名) よちよち歩き。

buragee① (名) ㊦法螺貝。笛としては bura という。㊦体が大きいのに何の役にも立たぬ者。うどの大木。

buraii① (名) 色気違い。色情狂。buraʔii かもしれない。男についていう。女については kuiburi などという。

buraisarai① (副) 老人・病人などがひょこひょこ歩くさま。

burasan① (形) 力量・修養などが足りない。また, 頼りない。安心して任せられない。'wakasanu ~. 若いので頼りない。

huri- (接頭) むらがる意を表わす接頭辞。buribusi (群星), huriʔnma (その項参照) など。

buribusi① (名) 群星。たくさん星。tin-nu ~ja 'jumiba 'jumarijuN, ʔujuanu 'jusigutuja 'jumin naraN. [天の群星や読めば読まれゆん 親の寄せ言や 読みもならぬ] 天の群星は数えれば数えられる。親の教訓は数えることもできない。

burigiidaci① (名) 身の毛がよだつこと。ぞつとすること。～sjun.

burigiida=cuN① (自 =tan, =qci) burigiidaci sjun と同じ。

burii① (名) 無礼。失礼。敬語は guburii。～na muN. 無礼な者。kunee:aa ~ qsi. 先だっては失礼した。

burijasici① (名) ひとところに密集している家。多くは貧民窟。

buriki① (名) [新] ブリキ。もとは sicita-

burikižeeku

Ngani といった。

burikižeekuⓂ (名) [新] ブリキ屋。

buriniNzuⓂ (名) 人が大勢集まること。～
'jaN. たいへんな人出た。

burifNmaⓂ (名) 群れ馬の意。競馬が終わ
ったあとなど、たくさんの馬が入り乱れて
駆けること。～ sjuN. たくさんの馬を走
らす。

busahuuⓂ (名) 無作法。ぶしつけ。～na.
無作法な。

busataⓂ (名) [新] 無沙汰。元来は sataN
neen. という。

bušecweeⓂ (名) ふしあわせ。不幸。～na
qcu. 不幸な人。

busiⓂ (名) 達人。武芸・唐手などのすぐれ
た者、大力のある者などをいう。武士の転
意。

bušiciⓂ (名) 好きでないこと。きらい。食
べ物についていう。その反対は zoogu.
'wannee sakee ~ 'jaqsa. わたしは酒
は好きじゃないよ。～na saki siiraqti.
きらいな酒を強いられて。

busizooⓂ (名) [不修行] 不粋。やぼ。世
間知らず。busizooniiseegwaa. 世間知ら
ずの青二才。～na muniikata. 不粋なも
のの言い方。

-**busjan** (接尾) たい。…したい。動詞の「連
用形」について希望の意を表わす。ʔicibu-
sjan (行きたい), miibusjan (見たい)
など。'u'ui miibusjatakutu ʔnzan.
踊りを見たかったので行った。'u'uiinu
miibusjan. 踊りが見たい。'u'ui miibu-
sja sjooru qcu. 踊りを見たがっている
人。

busjooⓂ (名) 物覚えが悪いこと。～ na-
toesa. 物覚えが悪くなったよ。子供など
については sjoonu neen. という。

buta-, **-buta** (接頭・接尾) 豚は ʔwaa と
いうが、複合語には butaʔanda (豚の
油), butaju (豚の油), sjuubuta (豚肉

の塩づけ) などの語がある。

butaʔandaⓂ (名) 豚の油。ラード。buta-
ju ともいう。

butaʔaqtamiⓂ (名) 豚肉。

butaaⓂ (名) でぶ。太っちょ。

butaakuⓂ (副) 太く。厚く。butaku と同
じ。butaku < butasan

butajuⓂ (名) butaʔanda と同じ。

butaNⓂ (名) 牡丹。観賞用に庭に栽培す
る。

butaNkooⓂ (名) 菓子の名。米の粉をおも
な材料にして、牡丹の花の形に作って彩色
したもの。祭祀用。

butasanⓂ (形) 太っている。肥満してい
る。butaku najun. 太る。

buteeⓂ (名) 舞台。

butee=junⓂ (自 =ran, =ti) muteejun と
同じ。

butibutiituⓂ (副) でっぶり。太っている
さま。～ sjoon. でっぶりしている。

butubutuⓂ (名) ⊖豚の白い脂肉。⊖脂
肪ばかりのもの。⊖ぬかるみ。泥濘。～
kuuzun. ぬかるみを漕ぐようにして行
く。泥濘ひさを没する。

butuuⓂ (名) 太った者。でぶ。kweetuu
ともいう。

buuⓂ (名) 水・湯の小児語。buubuu とも
いう。

buuⓂ (名) 人夫。人足。

buubuuⓂ (名) 水・湯の小児語。buu と同
じ。

buubuuⓂ (名) 吸血療法 (buubuunuzi)
に用いる竹筒。

buubuuⓂ (副) 激しく風が吹くさま。ま
た、虫などが群がって飛ぶさま。びゅう
びゅう。ぶんぶん。

buubuudakuⓂ (名) 凧の一種。四角い大
きなたこで、紙ひもがついており、それ
が buubuu と鳴る。

buubuunuziⓂ (名) 民間で行なわれている

吸血療法。嚙血した所を少し傷つけ、短い竹筒（これを buubuu という）に泡盛を入れて火をつけ、竹筒の中の空気を稀薄にして傷口に押し当てて、吸血を行なうもの。

buubuutuubee① (名) ぶんぶん群がること。虫などが乱れ飛ぶこと。また、子供などが群がること。～ sjuN. ぶんぶんと群がる。

buusaa① (名) じゃんけん的一种。虫けん。日本本土の虫けんとは逆で、親指は人さし指に、人さし指は小指に、小指は親指に勝つ。子供は一本勝負、おとなは二本勝

負で事を決する場合が多い。酒宴などで興を増すために行ない、負けた者が酒を飲まされたりする。buusaaganasii (菩薩) が、親指・人さし指・小指の三本を出しているの

で、それに由来する語だという説がある。

buusaaganasii① (名) 菩薩様。

buusagwa'asa① (副) がやがや。大勢が願ぐさま。～ sjuN.

buuwaža① (名) 人足労働。いやしい下等の労働。

buzi① (名) 無事。変事・過失などが無いこと。～ jataN. 無事だった。～ ni čica-ga 'jaa. 無事に着いたかね。

C, Ç

caa⑩ (名) 茶。

caa⑩ ⊖ (副) いつも。常に。～ʔanu mici tuujun. いつもあの道を通る。～ja ʔanee ʔaran. ふだんはそうではない。
⊖ (接頭) いつも…し通し。…し続けの意を表わす。caaʔazikai (預かり通し), caaʔici (行きっぱなし, 行ったっきり), caahwɪŋgi (逃げ通し), caahaaee (走り続け) など。

caa④ (副) どう。～ga. どうか。どうだ。～ga sai. いかがですか。目上に対して男がいう。女は～ga tai. という。～deebiruga. いかがですか。～ga ʔara. どうなのだろう。～ʔatee ʃinuga. どうしたらよいかしら。多く女が言う。～Qsi. どうして。なぜ。～Qsi ʔan ʔjuga. どうしてそう言うのか。～sjuga. どうするか。どうしようか。～N naran. どうにもならない。～N neen. どうもない。何ともない。大丈夫だ。

-caa (接尾) たち。ら。複数の人を表わす。ʔwarabincaa (子供たち), ʔujanucaa (親たち), dusinucaa (友人たち) など。複数の人を表わす接尾辞には -taa という形もある。

caadin④ (副) 何とも。caadunɔin ともいう。

caadunɔin④ (副) 何とも。～ʔjaraN. 何とも言えない。nuudunɔin ʔjaraN. ともいう。

caagana④ (副) どうにか。なんとか。～narani. なんとかならないか。～Qsi. どうにかして。ʔurandankai ~ Qsi ʔikarija saŋga ʔjaa. 西洋に何とかして行けないかなあ。

caagi④ (名) いぬまき。楨の一種。木材は

固く淡黄白色で、沖縄産の最上の用材となる。

caagibaaja④ (名) caagi の柱。

caahwiihwii⑩* (副) ごたまぜ。まぜこぜ。区別なし。平等。帳消し。caahwiitoo ともいう。ʔiicun ʔjanaɔcun ~. 善人も悪人も一緒くた。ʔweekincun hwinsuumunun ~. 金持ちも貧乏者も平等。ʔiratai ʔiraacai caqsaga natoora ʔwaka-ranʃiga, naa ~ ʔjaa. 貸したり借りたりいくらになっっているかわからないが、もう帳消しだね。

caahwiitoo⑩ (副) caahwiihwii と同じ。

-caai (接尾) ⊖切断したもの(木の枝・砂糖きび・布など)を数える接尾辞。30センチ内外の長さのものを多くいう。cucaai (一切れ), tacaai (二切れ), cucaainakara (一切れ半) など。⊖田畑の小区画を数える接尾辞。cuciri (一枚) 中のわずかな面積をいう。

caa=jun④ (自 =ran, =ti) 消える。火について多くいう。姿が消えることは miiran najun. (見えなくなる) などという。caatai ɕikatai. 消えたりついたり。

caajutijaa④ (名) 湯こぼし。飲み残しの茶をあけておく器。-jutijaa < ʔjutijun.

caakabi④ (名) 紙の一種。わら製で、黄色がかった。茶・菓子などの包装や、張り子などを張るのに用いる。

caakaʃi④ (名) 茶かす。茶がら。

caaki④ (副) すぐ。じき。ʃigu の方が上品な語。hwinbinoo ~ ~. 返済はすぐにするもの。

caanuguri④ (名) 茶のおり。guri は、かす・沈澱物。

caanusin④ (名) 茶柱。俗に吉兆とする。

caanⓄ (名) ちゃぼ(矮鶏)。
caanKaanⓄ **naran**Ⓞ (句) どうもこうもならない。どうしようもない。
caaraaⓄ (名) 油いため。油でいためたもの。
caaracaaraⓄ (副) 油で揚げる時の音。
caaruⓄ (連体) どんな。～'wakiga. どんなわけか。～'Yanbeega. どんな按配か。
caasiⓄ (副) どうして。～'Yansjuga. どうしてそうするか。
caasiNⓄ (副) どうしても。～'Yicun. どうしても行く。
caasiNkaasiNⓄ (副) どうでもこうでも。何としても。
caasizimⓄ (名) 消し炭。
caasjukaⓄ* (副) どれほど。どんなに。～'YuQsjaga 'jaa. どんなに嬉しいだろう。
caa=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) 消す。火についている。
cabunⓄ (名) 茶盆。
cadakiⓄ (名) どのくらいの丈。どのくらいの高さ・長さ・へだたり。～'Yaga. どのくらいの丈があるか。
cadeeⓄ (名) 茶托。
cadooguⓄ (名) 茶道具。茶器。cabun(茶盆), cuukaa(急須), cawan(茶碗)の類。cawandooguともいう。
cagatooⓄ (名) どのくらいの遠さ。どんな遠方。どんなに速く。～'jatin 'Yicun. どんなに速くても行く。
cagwasiⓄ (名) 茶菓子。
cahanⓄ (名) 脚絆。cahwanともいう。
cahwanⓄ (名) cahanと同じ。
cahiⓄ (名) caqpiと同じ。
cakuⓄ (名) ㊦客。㊦娼妓の客。
cakucakuⓄ (名) 軽はずみな者。そそっかしい者。そこつ者。caqkujaaともいう。
cakumagaⓄ (名) 嫡孫。嫡子の嫡子。cakusi?Nmagaともいう。

cakusiⓄ (名) 嫡子。家をつぐ長男。caqci [嫡系]ともいう。
cakusi?NmagaⓄ (名) cakumagaと同じ。
camisiⓄ (名) どれほど。いかほど。～nukutu. どれほどのこと。～najuga. どれほどのことができるか。大したことはできまい。
camisikaⓄ (名) どれほど。いかほど。大したことはないの意で多く用いる。camisikaa 'Yaran. 大したことはない。～nunuNga. いかほどの者か。大した者ではない。
canagiⓄ (名) どのくらいの長さ。どれほどの長さ。～'Yaga. どのくらいの長さあるか。～'Yatin. どんなに長くても。
canuⓄ (連体) どの。～'Qcu. どの人。
canubaaⓄ (名) どの場合。
canugutoonⓄ (<canu + gutoon) どんなである。どんなふうである。(ただしこの形ではいわない) canugutooru. どんな。どのようなか。canugutooga. どんなか。どんなふうか。
canugutooruuⓄ (名) どんなもの。どんなふうのもの。～ga. どんなふうのものか。
canugutuⓄ (副) どのように。どんなふうに。どんなに。～'Qsi sjuga. どういうふうにしてするか。～'YuQsjaga 'jaa. どんなに嬉しいことか。
canujooⓄ (名) どのよう。やや文語的な語。～na. どのような。～ni. どのように。caaru, canugutooru, canugutuなどというのが普通。
canuQcuⓄ (名) どの人。その場にい合わせない人をさしている。面前ではzinuQcuという。
canusjakuⓄⓄ (名) どれほど。どのくらい。分量・程度などについている。～nukutoo 'Yaran. 大したことはない。
canusjukaⓄ (副) caasjukaと同じ。
canutuciⓄ (名) いつ。なんどき。

caN① (名) 喜屋部。《地》参照。

caN① (名) 喜屋武。《地》参照。

caNcaN²Nma³gwaa① (名) おもちゃの小馬。動かすとチャンチャンと鳴る仕掛けがあるののでいう。

caNdakasi① (名) とうごま。笹鹿(ひま)。ひまし油を取る植物。果実は金米糖状で、美しいので zurigwaamuqkuu ともいう。

caNkuruu① (名) 子供のする賭けごとの名。ceNkuruu ともいう。拳で勝った者が皆から集めた一厘銭を手にとり、石臼の上に軽く投げ、裏返ったものを取る。皆が順次残った銭で同じことをする。明治の中ごろまで旧正月に行なわれていた。

caNmisi① (名) 喜屋武崎。沖縄本島南端の岬。

caNna① (連体) どんな。caaru を多く用いる。

caNnagee① (名) どんなに長い間。どのくらいの時間。～ maqcootaga. どんなに長く待っていたか(疑問および反語)。

caNnagi=ju²N① (他 =raN, =ti) うっちゃる。投げ捨てる。捨ててしまう。ʔuqcaN-gijun ともいう。ʔa²neeru ʔuucirisa-bagwaa nuu sjuga. caNnagiree. ʔo-sjoki ʔoosjoki ʔuri siti²na ʔoo…そんな緒の切れたぞりりなど何になる。捨てちまえ。まてまて、それを捨てるなよ…(廃物利用の歌)。

caNneeru① (連体) どのような。どんな。～ kutuga. なんかことか。

caNpuruu① (名) 料理名。豆腐・野菜などの油いため。中国からの借用語らしい。

caNtu① (副) ちゃんと。きちんと。予想した通り。karaziN cinun ~ qsi ʔikee. 髪も着物もきちんとして行け。

caQci① (名) [嫡系] 嫡子。あととり。ca-kusi ともいう。

caQciʔusikumi① (名) 嫡子をないがしろにして 次男などを立てること。廃嫡。

caqkujaa① (名) おっちょこちょい。そこつ者。

caqpeeru① (連体) どのくらいの。どれほどの。～ mun ʔjaga. どれくらいのものなのか。

caqpi① (名) どれほど。どのくらい。どれだけ。量・大きさ・程度などについていう。～ ʔaga. どれほどあるか。

caQsa① (名) どれくらい(の数量・程度)。どれほど。いくら(の値段)。ʔunu ʔijoo ~ga. その魚はいくらか。～ ʔuqsjagajaa. どれほど嬉しいだろうか。

caQsaN① (副) いくらでも。無制限に。どれほどでも。～ koojun. いくらでもたくさん買う。

caQsaNkaQsaN① (副) いくらでも。無制限に。やたらに。～ kooinee mucijuusaN. いくらでもやたらに買うと持ちきれない。

-cara (接尾) 按司(ʔazi)の意。ʔwakacara (若按司), ʔunazara (按司の妻) など。

casakii① (名) どんなに多く。どんなにたくさん。どれほどの量。～ nu qcunu cootaga. 人がどんなに多く来ていたか。

catan① (名) 北谷。《地》参照。

catoo① (名) [茶湯] 霊前に供える茶。普通は ʔucatao という。

cawaki① (名) 茶請け。普通 ʔucawaki を多く用いる。

cawan① ⊖(名) 茶碗。茶を飲む器。⊖(接尾) 飯などを数える語。一杯。cucawan (一杯), tacawan (二杯) など。上層の人は飯を ʔubuNʔucawan (misizawan) に盛るのでこら数えるが、下層の人は ʔaramakai に盛るので cumakai, tamakai のように数える。

cawandoogu① (名) 茶器。cadoogu と同じ。

cee① (感) おや。おお。まあ。珍しく思った時、感心した時などに発する語。男女とも

使う。～ hwirumasii muN. おや、珍しい。～ curasaN. おお、美しい。

ceNkuruu⑩* (名) caNkuruu と同じ。

ceqkuNsin⑩ (名) [接貢船] 進貢船 (ciNkunsin) を迎える名目で、翌年中国へ行く船。貿易を行なうのが目的で、名前は口実のために付けたもの。

-çi (接尾) 一つ、二つ…の「つ」に当たる。ものの数・年齢などを示す。tiiçi (一つ) から kukunuçi (九つ) まで、および ʔi-kuçi (いくつ) に付いている。

çibaci⑩ (名) つばき(椿)。

ciba=juN⑩ (自 =raN, =ti) がんばる。精出して働く。cibajumi. 働いているか。目下の働いている者へのあいさつ。目上の働いている人へは、ʔucibaimişeebiimi. という。ʔjaa ʔajameeju, ʔjagati cina-muraja tajuizima demunu, ʔucibaimisjoori ʔutumusjabira. [やあや前よ やがて喜名村や たより島だいの御気張よめしやられ 御供しやべら (大川敵討)] ねえおかあさん、やがて着く喜名村は縁故のある村ですから、がんばって下さい。お供しましょう。

çibana⑩ (名) あざみ。とげがあるので、ʔNziçicaa (とげの付いたものの意) ともいう。

cibana⑩ (名) 知花。《地》参照。

cibanajaci⑩ (名) 知花焼き。中頭郡美里間切知花村に産する焼きもの。土と焼き方に特色があり、珍重された。

çibi⑩ (名) ㊦尻。～ çiciisijun. 尻餅をつく。～nu kaqsaN. (女が) 尻が軽い。浮気である。(çibigaqsaN とは異なる) ㊦器物などの下部・底・末端。㊦末尾。結末。しまつ。～nu neeN. あとしまつをしない。～N ciriraN. 煮えきらない。あいまいではっきりしない。cibiN ciriraN (気味も切れないの意か) ともいう。㊦びり。

çibigaqsaN⑩ (形) 気軽に動く。

çibihugibaaki⑩ (名) ㊦底抜けのざる。㊦転じて、しまりのない者。助力のしがいのない者。

çibikuci⑩ (名) 尻と口の意。つじつま。次の句で用いる。～nu ʔataran. つじつまが合わない。尻と口とが合わない意。～nu ʔaaran ともいう。

çibikukui⑩ (名) しめくくり。結末。結着。

çibikusu⑩ (名) びり。また、最下等のもの。

çibikusuu⑩ (名) ㊦尻ぬぐいをしないこと。また、その者。㊦仕事のしめくくりをしないこと。また、その者。㊦びり。びりの者。

çibinizirii⑩ (名) いざり。膝行。また、いざる者。幼児の膝行は çibisuncaa という。

çibinugujaa⑩ (名) 人の失敗などのあとしまつ。尻ぬぐい。また、尻ぬぐいをする者。

çibinuguqsui⑩ (名) 尾軀骨。

çibinumaai⑩ (名) 直腸(の粘膜や筋層)。～ nugasjun. 脱肛する。

çibinumii⑩ (名) 肛門。

çibiʔnbusan⑩ (形) 無精である。骨惜しみをして働かない。尻が重い意。

cibiqsaN⑩ (形) きびしい。厳格である。

cibiraasjan⑩ (形) きびきびして気持よい。てきぱきしている。かいがいい。

çibisagui⑩ (名) ようすをこっそりさぐること。

çibisaziraa⑩ (名) 尻がやせてとがった者。

çibisuNcaa⑩ (名) ㊦いざり。膝行。幼児などがすわったままで進むこと。また、その者。㊦仕事などのしめくくりをしないこと。また、その者。

çibitai⑩ (名) 尻べた。尻たぶ。尻の肉の垂れ下がった部分。

çibitaiʔuubi⑩ (名) 尻の方にさがった帯。

çibitanda

またそのような、男のだらしない格好。

çibitanda① (名) 尻べた。尻たぶ。尻の肉の多い部分。

çibitaçeuu① (名) 尻のとがった者。尻の突き出た者。

çibitaçtuu① (名) うつぶせになり、尻を高く持ち上げること。

çibitugajaa① (名) 寝てばかりいる無精者。ものぐさ。尻がとがっているため坐れないかのように、寝ている者という意味。

cibjoo① (名) 仮病。うその病気。çukui-jaNmee ともいう。

cibjoo① (名) 気のやまい。気やみ。心配から起こる病気。神経衰弱。cijami ともいう。

çibu① (名) ①壺。ʔaNaçibu(油壺)など。②酒杯。

çibu① (名) つぼ。灸をすえる場所。灸点。

çibu① (名・接尾) 坪。土地の面積の単位。口語では畝・段などは使わず、すべて坪という。cuçibu(一坪), taçibu(二坪)など。

çibudukuru① (名) ①つぼどころ。灸点。灸穴。②急所。nuciçukuru ともいう。

çibui① (名) 壺折り。着物の裾を折りからげること。尻からげ。裾全体を折りまげて帯にはさむ。日本流に後ろの裾だけをからげることには 'jamatuçibui という。

çibuçajaci① (名) 壺屋焼き。çibuja(那覇の近くの地名)で焼く陶器。

çibujamaci① (名) 陶器市。瀬戸物市。~nu gutoosa。足の踏み場もない。

çibumi① (名) 蕾。多くは muçkuu という。

çibu=nuN① (自 =maN, =di) 蕾む。蕾となる。çibudi 'uru hana。[つぼでをる花] 蕾んでいる花。

çiburu① (名) ①頭。つぶり。~nu 'januN。頭が痛い。~nu ʔnzukiwadu çuun ʔnzucuru。(諺) 頭(かしら)が動いて始め

て尾(手下)も動く。②ふくべ。ひょうたん。実は若いうちは食用にし、熟したのちは中をくり抜いて容器とする。また、その容器。形が頭に似ているのでいう。杓子型のものをいい、ひょうたん型に中央がくぼんだ形のもののは hjootançiburu という。

çiburugaçpai① (名) 鉢合わせ。二人が頭をぶっつけ合うこと。

çiburuguu① (名) 頭。多くは単称として用いる。~ 'warariN doo。頭を割られるぞ。頭をたたき割ってやるぞ。

çiburujaN① (名) 頭痛。

çiburuʔnbuu① (名) 頭が重いこと。頭が重く気分がすぐれないこと。

çiburusaace① (名) 子供(の)競技の名。帽子とりに似て、相手の頭に触れたら勝つ団体競技。-saace はさわり合い。

çiburusjookaN① (名) [頭傷寒] 脳脊髄膜炎。脳膜炎。

çiburuwaae① (名) ごった返しの混雑。狭い場所で大勢がひしめき合うこと。頭の割り合いの意。

çiburuwai① (名) 頭割り。人数割り。çiziwai ともいう。

çicaga=jun① (他 =raN, =ti) つけ上がる。増長する。

çicagi=jun① (他 =raN, =ti) 押し上げる。背負っている子がずり落ちそうな時に押し上げる場合などにいう。

çicagimoosjagi① (名) 告げ口。陰口。

cicaramuucii① (名) cikaramuucii と同じ。

cicarukakita① (名) (貧乏で、または旅先などで) 着替えのないこと。着たきり雀。~ çsi ʔaçeuN。着替えのない生活をす

る。

cicasaN① (形) 近い。cikasaN ともいう。

cicaʔunpadaan① (名) 御近親。近い御親

戚。ʔunpadaan は親戚の敬語。

çici① (名) ①(天体の)月。②(暦の)月。

çiçİŷaki=jUN① (他 =raN, =ti) さっと開ける。荒唐しく開ける。

çiçİŷatai① (名) 突き当たり。行きどまり。

çiçİŷata=jUN① (自 =raN, =ti) ①突き当たる。衝突する。②行きづまる。

ciciburi① (名) 聞き惚れること。

çiçibusuku① (名) 早産。月不足の意。

cicicakuN① **neenN**① (句) 聞きたくもない。聞き苦しい。聞くにたえない。

çiçicidui① (名) 鬪鶏 (taucii) で、けんかをけしかけるため、一羽を捕え、他の一羽をつつかせること。また、その鶏。çiçicidujaa ともいう。

çiçicidujaa① (名) ①çiçicidui と同じ。②転じて、相手にけんかをけしかける者。

çiçicİN=cuN① (他 =kaN, =ci) 咳きこむ。盛んに咳をする。

çiçi=cuN① (他 =kaN, =ci) ①(人・ものを) つつく。また、こづく。こづきまわす。②ついはむ。(鳥が) つついて食う。

çiçi=cuN① (他 =kaN, =ci) 咳きこむ。続けさまに咳をする。saqkwii ~. 咳きこむ。

çiçigani① (名) つり鐘。つき鐘。

ciciguN① (名) 聞いただけで返事をしないこと。相手にだけ言わせ自分は黙っていること。

cicigurisjaN① (形) 聞きにくい。よく聞かえない。

cicigutu① (名) 聞きもの。音楽など聞いて楽しいもの。

çiçihanaşee① (名) 突き放し合いの意。遊戯の名。相対して一方の手で縄を引き合い、他方の手で突き合ひ遊び。

çiçihana=sjuN① (他 =saN, =ci) 突き放す。突っぱなす。

çiçihuga=sjuN① (他 =saN, =ci) 突いて穴をあける。

cicihuri=jUN① (自 =raN, =ti) 聞き惚れる。聞いてらっとりする。

çiçihwi① (名) 月日。

çiçijunhwijun① (副) 月を数え、日を数えて待つさま。待ちに待って。指折り数えて。

çiçikami=jUN① (他 =raN, =ti) (頭上のものを) 頭で突き上げる。

çiçikansi=jUN① (他 =raN, =ti) おっかぶせる。次から次へとおっかぶせる。sigutu ~. 仕事を次から次へとおっかぶせる。cii ~. 乳が出過ぎて、小児がのどをつまらせる。

çiçikazi① (名) 月影。

cicikeesige'esi① (副) 何度も聞き返して。

cicikee=sjuN① (他 =saN, =ci) 聞き返す。

çiçikuci① (名) 付け根。mumunu ~. ももの付け根。

çiçikuci① (名) 終点。行き着く所。

çiçikuzi=jUN① (他 =raN, =ti) 突きさす。突いてくじる。

cicimaa=jUN① (他 =raN, =ti) 聞き回る。秘密などを、あちこちから聞き出す。

cicimacigee① (名) 聞き間違い。

çiçimi① (名) 月見。

çiçimi① (名) 包み。çiçİN と同じ。

çiçimuee① (名) 毎月一回開く組織のmuee (無尽講)。

çiçinagami① (名) 月見。

cicinaga=sjuN① (他 =saN, =ci) 聞き流す。聞き捨てにする。

çiçini① (名) 狐。沖繩にはいない。人をだます動物として話に出る。

çiçinii① (名) 戊(つちのえ)。十干の一つ。

cicinikusaN① (形) 聞いて腹が立つ。聞いただけでも憎い。

çiçinuŷantagasa① (名) 月暈(つきがさ)。

çiçinujuu① (名) 月夜。

çiçinukaazi① (名) 月ごと。毎月。

çiçinumun① (名) 月のもの。月経。zuumunici ともいう。

çiçi=nuN① (他 =maN, =di) 包む。

çiçinutu① (名) 己(つちのと)。十干の一つ。

çiçİN① (名) 包み。包んだ物。çiçimi と

いう。YucukwiizicIN. (ふろしき包み)
ciciNtaaⓄ (名) ciciNtaa と同じ。
çicişiiⓄ (名) 月末。つきずえ。
çicisimiⓄ (名) ⊖言行をつつしむこと。つ
 つしみ。⊖物忌み。
çicisi=nuNⓄ (他 =maN, =di) ⊖つつしむ。
 札をつくし、気を付ける。ひかえ目にす
 る。⊖物忌みをする。
çicisiruⓄ (名) [文] [月代] 尚巴志王が守
 護神として祭った神の名。~nu mamui
 şidakasanu mamun mikazi tiriwatati
 kunija marumu. [月代の守り 勢高さの
 真物 美影照り渡り 国やまるむ] 月代の
 神の守りであり気高い偉人である尚巴志
 王の御威光が輝いて国はよく治まる。尚巴志
 王の三山統一をたたえた歌。
cicisjuuraasjanⓄ (形) 聞いて味が
 ある。聞いて心をひかれる。聞きがいがある。
cici?ubiⓄ (名) 聞き覚え。前に聞いて覚え
 ていること。
cici?ujaⓄ (名) [文] 父親。
cici?utu=sjunⓄ (他 =saN, =ci) 聞き落と
 す。聞きもらす。
çici?uuşiⓄ (名) 搦き臼。şiri?uuşi (搦り
 臼) に対していう。
çiciwaiⓄ (名) 月割り。月の数に割りふる
 こと。
ciciwakiⓄ (名) 聞き分け。了解し得心する
 こと。~nu neeraN. 聞き分けがない。
 わからず屋である。
ciciwaki=junⓄ (他 =raN, =ti) 聞き分け
 る。聞いて納得する。?iikakiraa cici-
 wakiti turaşee. 筋を立てて話した場合
 には、聞き分けておくれ。
çicizimuⓄ (名) 近付いて来る人の心。次の
 句で用いる。~du kanasja. 近づいて来
 る者はかわいい。
cicizooziⓄ (名) 聞きじょうず。
ci=cuNⓄ (他 =kaN, =ci) 聞く。音・話を
 耳にする。また、尋ねる。また、承諾する。

kiqsa cican. さっき聞いた。cikasjun.
 聞かせる。また、話して聞かせる。cika-
 rijun イ. 聞かれる(受身)。ロ. 聞こ
 える。(cikwiijun は有名になるの意。)
cikaa ciku tukuruni şitiri. (諺) 人の
 非難・悪口などは、聞いた所で聞き捨
 てにせよ。人に伝えるとやっかいが起
 きる。cikan minkuziraa huunu ?aN.
 (諺) 聞かないつんぼはしあわせである。
 聞けば腹を立ててやっかいになるだろ
 う。cicuru muNnu ?ireejumi. 聞いて
 いる者が答えるものか。聞こえなが
 ら知らぬ振りをして返事をしない者
 を皮肉に言ったことば。cicooti ?uq-
 sja sjoosiga. 聞いて喜んではいる
 が。おめでたのあった人に会い、
 まだお祝いにっていない場合にいう
 あいさつ。cicori 'joo. おぼえて
 ろよ。cici?uoori. [文] おぼえてや
 がれ。cikaNdaraa cikan kwanNa.
 聞かないなら聞かないでいやが
 れ。
ci=cuNⓄ (自 =kaN, =ci) 利く。効果
 がある。kusuinu ~. 薬が利く。kazi ~.
 利く。ききめがある。効果がある。
 (kazi は意味不明。単独では用いない)
 kazi cicuru kusui. ききめのある薬。
 caqsa ?icin kaze cikan. いくら言
 ってもききめはない。
çi=cuNⓄ (自 =kaN, =ci) ⊖付く。
 durunu ~. 泥が付く。qcunu ~. 人
 が付く。人氣が集まる。hwiinu ~.
 火がつく。⊖着く。舟・荷・人など
 が着く。?içi sjuinkai çicaga. 一
 つ首里に着いたか。
çi=cuNⓄ (他 =kaN, =ci) ⊖突く。槍
 などで突く。⊖撞く。鐘をつく。
çicuuⓄ (名) 月夜。
cidaiⓄ (名) 落胆。がっかりすること。
 気落ち。cirudai ともいう。~ sjun.
cidatiⓄ (名) 気立て。性質。心だて。
 ~nu ?jutasjan. 気立てがいい。
cideekuniⓄ (名) 人參。黄大根の意。

- çigaaï**① (名) 交替。
- çigaa=jun**① (自 =raN, =ti) 交替する。交替制で仕事をする場合などにいう。
- çigaaru**① (名) 交替。交替ですること。～*çsi katamira*。交替でかつごう。
- çigakai**① (名) 気がかり。～*na*。気がかりな。心配な。
- çigaki**① (名) 心がけ。～*nu 'jutasjan*。心がけがよい。
- çigaki=jun**① (他 =raN, =ti) 精出す。(仕事などに) 励む。
- çigari=jun**① (自 =raN, =ti) けがれる。(宗教的な意味で) 不浄になる。
- çigee**① (名) 気分。～*nu 'jutasjan*。気分がよい。～*sjun*。くつろぐ。
- çigee**① (名) 関節。つがい目。～*darusan*。関節がだるい。～*nu handijun*。関節がはずれる。
- çigeehandaa**① (名) 関節がはずれた人。
- çigeemi**① (名) 差異。また、間違い。*çigu wakajuru ?atainu*。すぐ分かるほどの差異。*sanmiNnakai ~nu ?ateeigisan*。計算に間違いがあったらしい。
- çigi**① (名) [文] 告げ。告知。
- çigi=jun**① (他 =raN, =ti) 告げる。知らせる。
- çigoo**① (名) 都合。
- çigu**① (名) しゅろ(棕櫚)。
- çiguci**① (名) [津口] 商売によい場所。人の多く集まるような所。さかり場。もとは港の意。
- çigucijukumi**① (名) [古] [津口横目] 港湾管理官。
- çigucizeebaN**① (名) [古] [津口在番] 役所の名。港湾出入管理所。
- çigu=nuN**① (他 =maN, =di) (口を) つぐむ。黙る。
- çigutu**① (名) 不吉を予告する怪しい音。夜中に棺桶を作る音・夜中の大勢の泣き声など。
- çigwan**① (名) 祈願。
- çigwanZu**① (名) 祈願所。神に祈願する所一般をいう。
- çigweemun**① (名) なま意気な者。横柄な者。*çiigweemun* ともいう。
- çigwee=jun**① (自 =raN, =ti) なま意気になる。横柄になる。
- çihwa**① (名) 津波。(地) 参照。
- çihwa**① (名) 津覇。(地) 参照。
- çihwahwa**① (名) つわぶき(植物名)。
- çihwanahwa**① (名) 津花波。(地) 参照。
- çihwanuku**① (名) 津波古。(地) 参照。
- çihwan**① (名) 帰帆。中国・日本本土などから船で帰ること。帰国。
- çihwee**① (名) [気早] 意気込みがよいこと。～*nu ?a*N。意気込みがよい。～*namun*。意気込みのよい者。
- çihwiziN**① (名) [聞得大君] きこえ大君。国王の祖先を祭る神官。斎宮に相当する神職で、国家の宗教的元首である。代代、王の娘、または王妃、王の未亡人があたり、全国の *nuuru* (のろ) をも統御した。
- çihwiziNnganasii**① (名) *çihwiziN* の敬称。
- çihwiziN?udun**① (名) [聞得大君御殿] *çihwiziN* の住む御殿。また、*çihwiziN* の敬称ともなる。
- çii**① (名) ①乳。乳汁。～*ja ?ami*。お乳は出るか。～*?ucun*。離乳する。乳を措く意。～*nu ?eejun*。乳が出る。②乳。乳房。
- çii**① (名) 慶伊瀬島。沖縄本島と慶良間列島 (*kirama*) の中間にある小群島。
- çii**① (名) 血。血液。～*nu hajun*。血が流れる。～*hwicun*。イ。血を引く。血統を引く。ロ。(薬などが) 気がぬける。
- çii**① (名) 気。「気」に対応するがあまり用いず、*cimu* (心。「肝」に対応する語)の方を多く用いる。～*ni kanajun*。気に入る。心にかなる。～*ni çicun*。気がつく。気にとまる。

cii① (名) 易。卦。～tati^{juN}。卦を立てる。

cii- (接頭) 動詞の前につき、…してしまふ、思い切つて…する、軽…するなどの意を表わす。kee-と同じ意味。ciikee^{juN} (替えてしまふ)、ciihacu^N (首にかけてしまふ) など。

cii② ⊖ (名) 対。二つ相對して一組となっているもの。⊖ (接尾) 対のものを数える接尾辞。ʔiqcii (一対) など。

cii③ (名) つるべ。井戸の水を汲んで釣り上げる桶。農村には檳榔の葉で作ったものも見られた。

ciiyakari④ (名) 乳離れ。離乳。～sjun.

ciiyān⑤ (名) 乳母。ciiyānmeeの略。

ciiyānmee⑥ (名) 乳母。単にciiyānまたはYānmeeともいう。

ciiba⑦ (名) ⊖牙。⊖犬齒。糸切り齒。

ciibeesan⑧ (形) 気が早い。

ciibuqkwa⑨ (名) 乳房。盛りあがった乳。おっぱい。上品な語ではない。

ciicaa⑩ (名) 犬の小兒語。わんわん。

ciicaaciicaa⑪ (感) 犬を呼ぶ声。

ciici⑫ (名) ⊖景色。風景。'iiciici 'jan 'jaa。いい景色だなあ。文語では cisici。⊖〔新?〕景氣。

ciicigeei⑬ (名) 脱臼。

ciicigee=ju^N⑭ (自 =raN, =ti) 脱臼する。

ciicii⑮ (名) 乳の小兒語。おっぱい。

ciiciikaakaa⑯ (副) 食べものが胸につかえるさま。食べものがのどにつかえるさま。karamunoo ~ Qsi kamaraN。おかしくないとのどにつかえて食べられない。

ciiciNtaa⑰ (名) 屋久貝 (さざえに似て大型の貝) の蓋。文鎮などにする。ciiciNtoo, ciciNtaaともいう。

ciiciNtoo⑱ (名) ciiciNtaaと同じ。

ciicoodee⑲ (名) 乳兄弟。乳姉妹。

ciidakamuN⑳ (名) 生意気な者。高ぶった者。

ciidakasan㉑ (形) 生意気である。高ぶっている。

ciidaki㉒ (名) 着たけ。身長に合う着物のたけ。

ciidarakaa㉓ (副) 血だらけ。血まみれ。ciidarukaaともいう。tooriti ~sjoota^N。倒れて血まみれになっていた。

ciidarukaa㉔ (副) ciidarakaaと同じ。

ciidi㉕ (名) ついで。よいつごろ。～nu Yaini muqci kuuwa。ついでがある時に持って来いよ。

ciidoori㉖ (名) 着倒れ。着物にぜいたくして産を傾けること。sjuiNcoo ~, naahwancoo kweedoori, tumaiNcoo, siidoori。首里の人は着倒れ、那覇の人は食い倒れ、泊の人は働き倒れ。

ciidumigusa㉗ (名) 血止め草。さんしちそう。せり科の多年生草木。葉の汁が止血・消毒になる。

ciiga㉘ (名) 三味線 (sansin) の胴。方形で角に丸みがある。両面に大蛇の皮を張ったものは zahwibai (蛇皮張) といい、上等である。ほかに、紙張りで芭蕉の渋を塗った sibubai がある。

ciiga㉙ (名) 枡。また、枡目。枡で測った量。～nu tara^N。枡目が足りない。

ciigaa㉚ (名) ⊖おし。ciiguu の単称。⊖鳴かないせみ。雌のせみ。

ciigaa㉛ (名) つるべ井戸。滑車のないものをいう。滑車のあるものは kurumagaa といい。

ciigasa㉜ (名) 乳房にできる悪性の腫物。乳腺炎。

ciigaziraa㉝ (名) 乳不足の者。母にも子にもいう。

ciigaziri㉞ (名) 乳不足。乳が十分出ないこと。また、乳不足のため、乳児がやせおとろえること。gaziri < gazirijun (やせ細る)。

ciigukuei㉟ (名) 着心地。

ciiguu④ (名) おし。啞者。<ciɡunuN (つぐむ)。
ciigwaa④ (名) 小さい乳。少女の乳。
ciigweemuN④ (名) cigweemuN と同じ。
ciiha=cuN④ (他 =kaN, =ci) 首にかけてしまふ。首にはいてしまふ。
ciihai④ (名) こり。うっ血。katanu ~ sjoon. 肩がこっている。
ciihainihai④ (名) こり。うっ血。ciihai を強めていう語。~nu cuusan. こりがひどい。
ciihuruma=sjuN④ (他 =saN, =ci) 着古す。
ciihwaku④ (名) [輕薄] 傲慢。~na niN-zin. 傲慢な人間。
ciihwicikabi④ (名) 野紙。野引き紙の意。
ciizicu`N④* (自・不規則, 活用は ?icuN と同じ) 行ってしまふ。思いきって行く。行っちゃる。
ciiziri④ (名) 気に入った物。お気に入り。
ciiziru④ (名) 血色。~ ?Nzitoon. 血色がよい。
ciikaki ④ (名) 着始めの着物。一二度着ただけの新しい着物。
ciikasagui④ (名) 血痰。
ciikee=ju`N④ (他 =raN, =ti) 替えてしまふ。替えちゃる。
ciikee=juN④ (他 =raN, =ti) 着替える。
ciiku④ (名) 共謀。ぐる。示し合わせてたくらむこと。?uqtaaja ~ sjooteesa. 彼らは示し合わせていたのだ。
ciiku④ (名) 稽古。~ sjuN.
ciikumun④ (名) 稽古して習うもの。学問・技能・工芸などをいう。'winagunu ~. 女が稽古するもの。裁縫など。
ciikwaanii`kwaa④ (副) つっけんどんなさま。~ sjuN.
ciikweebaa④ (名) 乳齒。
ciimun④ (名) 冬の単衣。裏のない一重の冬着。男女用。
ciini④ (副) めったに。~ neen kutu.

めったにないこと。
ciiniisan④ (形) 気が長い。悠長である。のんびりしている。
ciinukubi④ (名) 乳首。
ciinumingwa④ (名) ちのみご。乳兒。
ciinuuu④ (名) つるべ繩。つるべの綱。
ciinuwaʒa④ (名) ⊖血がさせる業。悪いと知りながらやめられぬ悪事。血統がさせる業。やめられぬ喧嘩・放蕩など。⊖悪血がもたらす病氣。
ciin④ (名) 織機の篋(おさ)の種類の名。経糸 880 本を通すもの。また、それで織った布。huduci の項参照。
ciiru④ (名) 黄色。
ciiruhacimaci④ (名) [黄冠] 黄色の冠。peeciN のかぶるもの。
ciirukabi④ (名) 正月などに祭壇と火の神の前に供える黄色の紙。白・赤・黄の三枚を重ねて供える。
ciirukarasju④ (名) うにの塩辛。黄色い塩辛の意。
ciiruNkoo④ (名) kusiciiʒukwaasi (祭祀用の菓子) の一種。ciisuNkoo と同じ。
ciiruu④ (名) 黄色いもの。
ciisaʒi④ (名) [新] 警察。明治のはじめごろ一時使われた語。
ciisii④ (名) 機織りの器具の名。重い木や石に、木・竹の柄を立てたもの。経糸を巻いた macica (巻板) を立てかけたり、あるいは糸を練る時 kana (かせ糸) を掛けたり、種々の用をする。
ciisinbjun④ (名) [啓聖廟] siibjuu (聖廟) と同じ。
ciisiqta=ju`N④ (自 =raN, =ti) ぐったりする。元気がなくなる。
ciisizi④ (名) 血筋。血統。
ciisuNkoo④ (名) kusiciiʒukwaasi (祭祀用の菓子) の名。その項参照) の一種。落花生入りで黄色に赤白の模様のあるもの。paasunKoo などとともに中国伝来の名と

思われる。

çitaci⑤ (名) ついたち。月の第一の日。

çititijaa⑤ (名) 易者。cii (卦) を立てる者の意。sanziŋsoo (三世相) ともいう。

çiitee① -sɪn çiitee の頂参照。

ciiʔuja⑤ (名) 乳母。ciiʔanmee (乳母) は雇われて来る者をいうが、ciiʔuja はその限りでない。

çiizi① (名) 系図。

çiizi⑤ (名) [辻] 那覇にあった遊郭の名。本土人・中国人・首里那覇の上流人を相手とした高級な遊郭であった。那覇には、çiizi, nakasima [中島], 'watanzi [渡地] の三つの遊郭があり、çiizi が高級で、nakasima は首里・那覇相手、'watanzi はいなか相手と、それぞれ、客の層が異なっていた。

çiizitu①⑤ (副) [文] 心が苦しく責めつけられるさま。消え消えとの意か。'wazimu ~ naruga siŋci. 苦しくてわが心が消え入りそうな心地。

çiizini⑤ (名) 春秋に上から羽織る単衣の礼服。男女用。貴族は絹、士族は木綿で作った。husatuga 'wataziŋ ʔucihaziti çizingukuruni ʔucikusiti. [富里がわた衣 うちはちて 単衣ごころに うちくして(越来より節)] 富里 (男の名) が晴れ着をぬいで、çiizini のつもりで女に打ち着せて。

çiiaçijaabui⑤ (名) 雨がばらばら降ること。小雨。

çijai⑤ (名) 木遣り。重い材木を多人数で歌を歌いながら運搬すること。またその時に歌う歌。kunzansabakui はその歌の名。

çijami① (名) 気の病。神経衰弱。çibjoo ともいう。

çijoo① (名) 気の保養。精神的な保養。

çiju⑤ (名) 露。文語ではわずかなもの・はかないものたとえとする。sinjuru 'wa-

ga ʔinuci ~ huɔun ʔuman. [死にゆるわが命 つゆ程も思まぬ] 死ぬわが命は露ほども惜しいと思わぬ。~nu ʔinuci. [露の命] はかない命。

çijumi=jun⑤ (他 =raN, =ti) 清める。宗教的ながれをなくす。

çi=jun⑤ (他 =raN, =Qci) 切る。斬る。刃物などで切断する。

çi=jun① (他 =raN, =ci) 着る。ciN ~. 着物を着る。

çi=jun① (自 =raN, =ti) ⊖ひきつける。小児が高熱でけいれんを起こす。⊖手足の筋などがつる。

çi=jun① (他 =raN, =ti) 釣る。ʔiju ~. 魚を釣る。

çika⑤ (名) ⊖束 (たば)。⊖つか。柄。刀剣・鎌などの手に握るところ。

cikahwina⑤ (名) 東辺名。《地》参照。

cikaʔinaka⑤ (名) 都 (首里) に近いなか。中頭・島尻の一部などをいう。

çikaja① (名) [塚屋] 墓のそばに建て、死後49日間寝泊まりする小屋。近親の者が寝泊まりして霊をとむらったが、後には代わりに番人を雇うようになり、その風もいつかすたれた。

cikaju=jun⑤ (自 =raN, =ti) 近寄る。

çika=jun⑤ (自 =raN, =ti) (火が) つく。(燈火が) ともる。hwiinu ~. 火がつく。

çika=jun① (他 =aŋ, =raN, =ti) ⊖(人・物などを) 使う。使用する。hoocaa ~. 包丁を使う。ziN ~. 金を使う。tii ~. 唐手を使う。⊖使いにやる。遣わす。çikee çikajusa. 使いを遣るよ。çikataru ʔujanu ʔjaankai ʔiki. 遣わした親の家へ行けの意。燈火に寄って来た虫を殺さずに放してやる時に言うまじない。

çika=jun① (自 =raN, =ti) ⊖(水中に) つかる。ひたる。⊖(漬け物が) 漬かる。

cikamagara⑤ (名) [近周柄] 近親。近い親戚。tuumagara に対する。

cikamiⓐ (名) 近眼。
cikamiciⓐ (名) 近道。
çikana=junⓐ (他 =an, =ran, =ti) ⊖(家畜類を) 飼う。⊖(下男などを) 養う。'Nza ~. 下僕を養う。農村では家族を養う場合にもいうことがある。
çikaneemuNⓐ (名) 家畜。
çikaneengwaⓐ (名) 養子。養い子。
çika=nuNⓐ (他 =man, =di) つかむ。普通は kaçimijun を用いる。
-çikaN (接尾) つかみ。cuçikaN (一つかみ), taçikaN (二つかみ) など。
cikaraⓐ (名) 力。
cikaraaⓐ (名) 力のある者。力持ち。
cikaradamisiⓐ (名) 力だめし。
cikaranuuciⓐ (名) 力持ち。力のある者。
cikaramuuciiⓐ (名) 力餅。旧暦12月8日鬼餅 (muucii) の日に作って子供に与える餅の名。その餅は kuba の葉, sannin (月桃) の葉, 甘蔗の葉などで包むが, kuba の葉で包んだ大きいものを特別に作り, 男の子に与える。それをいう。cicara-muucii ともいう。
çikari=junⓐ (自 =ran, =ti) 疲れる。疲労する。多く精神的に疲れることにいう。肉体的に疲れる意では kutandijun, 'utajun などという。sindoobikeei qsi çikaritoon. 心配ばかりして疲れている。
cikasanⓐ (形) 近い。cicasan ともいう。tuusaru ʔweekajaka cikasaru tanin. 遠い親戚より近い他人。
çikasiⓐ (名) つっぱり。支え。支柱。つかい棒。
cikataⓐ (名) 地所。
eikaʔweekaⓐ (名) 近親。近い間柄の親戚。cikamagara ともいう。
çikazaNⓐ (名) 津嘉山。《地》参照。
cikaçi=cuNⓐ (自 =kaN, =ci) 近付く。
cikaziçi=junⓐ (他 =ran, =ti) 近付ける。
çikazuⓐ (名) [塚所] 墓地のこと。上品な

語。

çikeeⓐ (名) さしつかえ。さしさわり。~ja neen. さしつかえない。
çikeeⓐ (名) ⊖使い。使者の意。用事の意はない。⊖招き。招待。
çikeebinaiⓐ (名) 使い減り。使ったために起きる減りや痛み。-binai <hwinajuN (減る)。~N san. 使ってもへりも痛みもしない。
çikeehwikeeⓐ (副) つっかえつつかえ。本をすらすら読めないさまなど。
çikee=junⓐ (自 =an, =ti) つかえる。とどこおる。支障が起きる。
çikeekataⓐⓐ (名) (人・物の) 使い方。使用法。
çikeemiciⓐ (名) ⊖(物・金銭・人などの) 使い道。用途。使途。⊖仕途。仕官の道。
çikeemiziⓐ (名) 用水。せんたくなどで使う, 飲料にならない水。
çikeemuNⓐ (名) 使用人。
çikiʔagiⓐ (名) 料理の名。魚肉をつぶし, にんじん・ごぼうの類を切つてまぜ, 油で揚げたもの。付け揚げの意。
çikiʔakagara=sju'Nⓐ (他 =san, =ci) あかあかにつける。あかりをつけて, 明るくする。ranpu ~. ランプをあかあかにつける。
çikibiⓐ (名) つけ火。放火。hwiiçikee ともいう。
çikidakiⓐ (名) つけ木。苦竹 (にがたけ) の皮で作ったので, çikidaki (つけ竹) という。
çikidakigwaaⓐ (名) マッチ。
çikigusuiⓐ (名) つけ薬。外用薬。
çiki=junⓐ (他 =ran, =ti) ⊖付ける。duru ~. 泥を付ける。⊖着ける。huni ~. 船を着ける。(着物には言わない) ⊖(燈火などを) つける。hwii ~. イ. 燈火をつける。火をとます。ロ. 火をつける。roo ~. ろうそくをつける。tee ~. たいまつ

çikijun

- をとす。㊦種付けをする。交尾させる。
ʔwaa ~。豚を交尾させる。
- çiki=jun① (他 =ran, =ti) 漬ける。ひたす。また、漬け物を漬ける。mizinkai cin ~。水に着物を漬ける。
- çikimun① (名) 漬け物。香の物。koorumuN ともいう。
- çikina① (名) 漬け菜。漬け物用の菜。
- çikin① (名) 津堅島。沖縄本島勝連岬 (ka-qcinnumisaci) の南方にある島。また、津堅。《地》参照。
- çikituduki① (名) ㊦最後のしまつ。あとしまつ。㊦老後の寄るべ。㊦お返し。お礼に物品を返すこと。
- ciku① (名) 菊。
- cikudun① (名) [筑登之] 位階の名。最下位の位階で、王子から数えて九番目、里之子 (satunusi) の次。
- cikudunpeeciN① (名) [筑登之親雲上] 位階の名。王子から数えて六番目で、cikudun が昇進してなる。
- cikudunşizimi① (名) [筑登之筋目] cikudun [筑登之] になる士族の家柄。satunusişizimi とともに、譜代の士族の家柄である。
- çikuku① (名) ふくろう。みみずくは ma-jaazikuku という。
- çikunaamuku'naa① (副) くしゃくしゃ。もみくちゃ。<çikunaasjun。
- çikunaa=sjun① (他 =san, =ci) ㊦(紙などを)しわくちゃにする。cikunaasaqtoon。しわくちゃである。㊦丸める。たたますに、一つにまとめる。
- cikun① (名) [気根] 元気。~nu çicoon。元気がある。
- ciknNbucikun① (名) 元気のある時とない時。
- çikura① (名) 魚名。ほら。
- çikuri① (名) 極致。kutubanu ~。ことばの極致。ことばで言い表わせることの最

上。kutubanu çikuree 'eezinu kamizuu, hakarigutunu çikuree murabarunu hjaatuzi。ことばの極致は八重瀬の亀千代、計略の極致は村原の比屋の妻。いずれも組踊りの登場人物を言ったもので、その組踊りの名はそれぞれ、忠臣身替と大川敵討。

- çikuri① (名) 費用。出費。ついで。ʔikiranu çikuree ʔaran。少々の費用ではない。nuunu ~ga。何でそんなに金がかかっているのか。
- çikuri=jun① (自 =ran, =ti) 費用がかかる。金がついえる。kunu 'jaa çukuindi ziibun çikuritoon doo。この家を建てるのにずいぶんかかっているぞ。
- cikusazi① (名) [筑佐事] 廃藩前の警官。警吏。捕縛吏。その長は ʔuhuciku [大筑]。
- cikusjoo① (名) 畜生。また、畜生のような者。
- cikusjoogiinaa① (副) 畜生のようなさま。無慈悲なさま。~ sjun。むごいことをする。~, ʔunna kutunu najumi。畜生のように、そんなひどいことができるか。
- cikusjoomun① (名) 不人情な者。残酷な者。saasa, 'junagatasanagata 'wan tatitii, ~。サーサ (拍子), 一晚中わたしを立てしておくのか、ひどい人。(遊女が客を恨んだことば)
- çiku=sjun① (他 =san, =ci) 尽くす。koo ~。孝を尽くす。
- cikuʔuzaki① (名) [菊御酒] 旧暦9月9日の重陽の節供の酒。菊の葉を入れて霊前に供え、一家の無事息災を祈って飲む。
- çikuʔziku① (副) つくづく。よくよく。
- cikwii① (名) 聞こえ。評判。また、外聞。~nu takasan。評判が高い。
- cikwii=jun① (自 =ran, =ti) ㊦世に聞こえる。評判が高くなる。有名になる。㊦合点が行く。うなずける。cikwiiran kutu

ʔjun. 合点の行かないことを言う。
çikwiitamun① (名) 世に聞こえた者。有名な人。
çimagu① (名) ひづめ(蹄)。
çimai① (名) 詰まること。窮すること。困窮。
çima=jun① (自 =ran, =ti) ①詰まる。金銭・ことばなどに窮する。çimaiciqcoon. 窮しきっている。②詰まる。(穴などが) 塞がる。③詰まる。小さくなる。(洗濯した布などが) 縮まる。
cimakasi① (名) わがまま。勝手。放縦。~na mun. わがままな者。ʔjaa ʔisikawa, ʔwaga zicini sumuku ~nu ʔjakara, ʔisuzi hwicitatiti sunçi ʔiki. [やあ石川 わが下知に背く 気まかせのやから 急ぎ引立てて そんな行け (大川敵討)] それ石川 (家来の名), そいつはわが下知にそむく勝手なやつ, 早く引立ててひきずって行け。
çimakurubi① (名) つまづいて転ぶこと。ʔasimarubi ʔiruna ~ ʔiruna [足まろびするな つまころびするな (銘菊子)] つまづいて転ぶな。
cimama① (名) 気まま。ほしいまま。~na kurasi. 気ままな暮らし。
çimaN=cun① (他 =kan, =ci). (洗濯した布・衣類を) しわを無くするために, しめして引き伸ばす。
çimaruu① (名) 背たけが低く小さい者。体が詰まっいて小作りな者。ちび。
cimi① (名) ①首里や地方の王家筋の宗教をつかさどる神女。cihwizin [聞得大君] に直属し, 各間切 (maziri) の nuuru (のろ) よりも位が高い。② [文] 君。主君。ʔjaa hwahwaʔujaju, tintu zinu nakani çimiʔujanu ticija tumuni tin kamiti, zija humantijari. [やあ母親よ 天と地の中に 君親の敵や 供に天かめて 地やふまぬてやり (忠臣身替)] やあ母よ,

天と地の間に君や親のかたきは俱に天を戴いて地をふまぬといわれています。
çimi① (名) 詰め。勤務。ある場所に詰めて勤務すること。複合語に, ʔeemazimi (八重山勤務), ʔjuzimi (夜の当番。宿直) などがある。
çimi① (名) ①爪。②紡錘。つむ。糸をつむぐ機についた鉄錐。ʔjaamanu ~. 糸車の紡錘。
çimibuukuu① (名) 詰めきりの奉公。昼夜詰め切って奉公すること。
çimidima① (名) 積み賃。舟の運賃。
çimigukuru① (名) (女郎を) 独占したい心。(女郎を) 独占したく思うほどの親密さ。
cimihukui① (名) 首里城の建物の名。ʔuguşiku の項参照。
cimihukuiʔuzoo① (名) 首里城の門の名。ʔuguşiku の項参照。
çimi=jun① (自・他 =ran, =ti) ①詰める。任地に詰めて勤務する。banzunakai ~. 役場に詰める。②詰める。切って短くする。danpaçi ~. 髪を切る。çimi ~. 爪を切る。③(女郎を) 買い切って他の客をとらせないようにする。çuri ~. 女郎を独占する。④ [文] 思い詰める。思いがつのる。sjuimedei ʔimaci muduru micişigara, ʔunnadaki miriba sirakumunu kakaru, kuisisaja çimiti mibusjabikei. [首里めだいすまち 戻る道すがら 恩納岳見れば 白雲のかかる 恋しさやつめて 見欲しやばかり] 首里での御奉公をすまして帰る道すがら, 恩納岳を見れば白雲がかかっいて, 恋しさはつりの会いたくてたまらない。
çimikata① (名) 爪跡。爪でつけたかた。爪による傷跡。
çimikusu① (名) ①爪の垢。②爪の垢ほどの小量。
çimimaajaa① (名) 爪のところにできる腫物。

çimini

çimini① (名) 積み荷。

çimituga① (名) つみとが。罪科。文語的な語。

çimizuri① (名) ある客が一定期間独占して買った女郎 (zuri)。çimi- < çimijun (詰める)。

çimjuu① (名) 奇妙。不思議。~na kutu. 奇妙なこと。

çimu① (名) ⊖肝。肝臓。食物としての、豚などの肝臓。⊕心。心情。情。kukuru (心) よりもはるかに多く使う。~ ?uraakijun. 自分の心を慰める。心を水に浸す意。?utaNdee 'judi ~ ?uraakira. 歌でもよんで心を慰めよう。~ kwijun. 情をかける。心をくれるの意。makutu sinziçinu 'wazimuduN kwiraba murabaruğa kutun ?ijana ?ucumi. [誠真実の我肝ども異らば 村原が事も いやな置きゆめ(大川敵討)] わたしが本当に情をかけてやるならば、女も村原のことを言わずには置かないだろう。~ tagaajun. 心が合わない。意志が疎通しない。誤解する。~ dacun. 悲しみでいっぱいになる。憂い悩む。~ dakarijun. 憂いや悲しみにとざされる。~ ciikeerasjun. 心を動転させる。また、突然狂い出す。~ tumeejun. 心を取り直す。乱れた心を静める。~ tumeejasjun. 慰めて心を落ち着かせる。~ tujaasjun. 心を整える。心配事などを処理して、心を安んずる。~ tujaasaran. 心が乱れ、考えがまとまらない。~ tujun. 機嫌をとる。~ tun teetun kanaan. 何事もままならない。buçiiNnu neejabiran, muzukuitun husaaran, mata sjuu takiba ?aminu huiçizicai, katagata ~tun teetun kanaaran 'jooşi 'jajabiitan. [物縁の無いやべらぬ 物作ともふさあらぬ 又塩焚けば雨の降続ぎやり 勞々肝ともたいとも叶らん様子ややべいたん(花壳之縁)] 縁がないのか、作物

もうまくいかず、また塩を焚けば雨が降り続くし、全くどうにもしようがなく、途方に暮れた様子でありました。~nu kuihwici. 心の底から悔いなやむこと。心からつらく思うこと。~nu sacinin kakiran. 全く気にしない。少しも厭念しない。~nu sibasan. 心が狭い。kukurunu sibasan. ともいう。~nu sinubaran. 心にしのびない。(見るに・聞くに)しのびない。~nu suku. 心の底。kukurunu suku ともいう。~nu tuukiran. 心が解けない。釈然としない。kukurunu tuukiran. ともいう。~nu tukurun neen. 心の居所がない。心配などで、心が落ち着かない。~nu nuriran. 気乗りがしない。心が進まない。~nu neen. また、~N neen. 熱意がない。する気がない。また、冷淡である。心ない。~N neen sikata. 心のこもらぬやりかた。また、心ないしかた。~nu 'jucajun. 心が合う。また、意志が通ずる。納得がいく。~noosjun. 心をとり直す。機嫌を直す。また、心をなだめ柔らげる。~noojun. 機嫌が直る。怒りがおさまる。~huzun. 満足する。十分と思う。~N hugan. 満足しない。~N huganDaraa 'joosjookee. 意に満たないならばよして置け。~ 'janun. 心を痛める。また、後悔する。nanminnu kezozja sjuinu kezotumuti, satu ?ukuci 'jaraci 'wazimu 'janusa. [波上の開静や 首里の開静ともて 里起ちやらち 我肝病ぬさ] 波上の護国寺のあかつきの鐘を首里の円覚寺のそれと思い違いして、恋しい君を帰してしまい、後悔で心が痛む。~N saazaatu najun. 気もせいせいする。心もさっぱりとする。~N taQkuzirariiu gutoon. 悩みごとで、心も突き破られる思いである。~N ciiziitu najun. 心が責めつけられて、心も消え消えになる。~N ~ naran. 心も心ならず。とうていし

のびない。とうてい落ち着いていられない。
kurimadijutumiba ~N ~ naraN, ʔi-
ca sigana biçini hakareeja nerani. [これ迄よと思は 肝も肝ならぬ いきやしが
な別に 計ひやないらね (忠臣身替)] これまで(で別れるか)と思うと、とうてい
しのびない。何とかして別の計らい方はないものか。~N teen ʔaran. 悲しみ・
憂いで心も体もどうにもならない。~N
moodoo najun. 心が乱れ、どうしてよいか
わからなくなる。~ 'wajun. 胸襟を開く。
心を開く。

cimuʔamaziⓐ (名) 心の動揺。~ sjoon.
心が動揺している。

cimuʔasasaNⓐ (形) 浮気である。貞操観念
が乏しい。mjaakuwinaguja cimufas-
sasanu, ʔiramazaci haimiguriba, 'u-
tu muta 'utu mutajuu. (歌) 宮古の女
は浮気なので、夫の船がイラマ崎をめぐっ
て出て行くと、もう、夫がほしい、夫がほ
しいという。

cimuʔasigaciⓐ (名) 心がいらだつこと。
~ sjun.

cimuʔatigeeⓐ (名) あて推量。臆測。

cimubeesaNⓐ (形) 目覚めやすい。睡眠中、
ちょっとの物音で目をさます。kukuru-
beesaN ともいう。

cimubirusaNⓐ (形) 心が広い。度量があ
る。

cimubutumiciⓐ (名) (希望などで)胸をと
きめかすこと。~ sjun.

cimucaaganasaNⓐ (形) らら悲しい。寂
しく、慰めるものがない。

cimudakudakuⓐ (副) 胸さわぎするさま。
胸がどきどきするさま。

cimudakumiciⓐ (名) 胸さわぎ。不安・
恐怖などで胸がどきどきすること。~ sju-
N.

cimuduuiⓐ (名) 思い通り。考えの通り。
~ nataN. 思い通りになった。

cimueeⓐ (名) 意味。わけ。理由。kunu
kutubanu ~nu 'wakaran. このことは
の意味がわからない。caaru ~ga. どう
いうわけか。~ja neen. 無意味である。
理由がない。

cimugakaiⓐ (名) 心掛かり。気掛かり。

cimugakiⓐ (名) 心掛け。kukurugaki と
もいう。

cimugaki=junⓐ (他 =raN, =ti) 心掛ける。
kukurugakijun ともいう。

cimuganasjanⓐ (形) 心からかわいい。義
理で愛するのではなく、心からかわいらし
い。

cimugasiiⓐ (名) 心の加勢の意。精神的な
援助。慰めたり励ましたりすること。~
sjun.

cimugawaiimuNⓐ (名) cimugawaimun
と同じ。

cimugawaimunⓐ (名) 凡人とは違った心
の者。心掛けが違う者。多くは、いい意味
に使う。

cimugaciⓐ (名) 胸元。みぞおち。'Nnigu-
ci ともいう。

cimugurasaNⓐ (形) 薄暗い。ほの暗い。燈
火などが暗く、心まで暗い感じがする意。

cimugurigiinaaⓐ (副) cimugurigiinaa
と同じ。

cimugurisjanⓐ (形) 不憫である。気の毒
である。かわいそうである。ʔaree Qkwa
sinaci duqtu ~. 彼は子を死なせて、とて
も不憫だ。cimugurisi mun. かわいそ
うな者。不憫な者。

cimugurigiinaaⓐ (副) かわいそうに。気
の毒に。不憫なさま。cimugurigiinaa と
もいう。~, ʔikindi ʔjariimi. かわいそ
うに、「行け」と言えるか。

cimuguumunⓐ (名) 小心者。内気者。恥
ずかしがり。

cimuguusaNⓐ (形) 小心である。気が小さ
い。また、内気である。

cimuhukui

- cimuhukui**①(名) [文] 歓喜。心の喜び。
ʔicaru kutu ʔatuti ~ sjujuga. [いきやる事あとして 肝ほこりしゆゆが(孝行之巻)] どんな事があって喜んでいいのか。
- cimuhwicagi**①(名) 気掛かり。心配。不安。
- cimuʔicasa**N①(形) 心が痛む。かわいそうに思う。気の毒に思う。
- cimuʔicunas**aN①(名) せわしい。心が忙しい。気ぜわしい。
- cimuʔiri**①(名) 好意。親切。心をこめること。kukuruʔiri ともいう。~nu nin-nukwaa. 好意が過ぎて迷惑となること。ありがた迷惑となること。
- cimui**①(名) ⊖積もること。積み重なること。⊕見積もり。⊕心積もり。あて。
- cimujoosa**N①(形) 気が弱い。
- cimu=ju**N①(自 =raN, =ti) 積もる。積み重なる。sigutunu ~. 仕事が積もる。
- cimu=ju**N①(他 =raN, =ti) あらかじめ見積もる。心積もりをする。あてにする。çimuraran. あてにできない。
- cimukukuru**①(名) 心。心を強めていう語。cimu も kukuru も心の意。~ ʔucaasjuN. 心を合わせる。一致協力する。~nu ʔutasjaN. 心が立派である。
- cimumajui**①(名) 心の迷い。
- cimumuci**①(名) 心の持ち方。心掛け。~nu ʔutasjaN. 心掛けがよい。
- cimumucimu**N①(名) 温い心の持ち主。人情のある人。
- cimunagasa**N①(形) 気が長い。のんびりしている。
- cimunigee**①(名) 心願。たえず心で願っていること。
- cimunuʔamai**①(名) 心の余裕。心のゆとり。
- cimunuhwima**①(名) 心の余裕。心のいとま。心配事などがなくすること。
- cimunukasii**①(名) cimugasii と同じ。

- cimununubi**①(名) 心のゆとり。寛大で、むやみに立腹しないこと。寛容。
- cimunurus**aN①(形) 熱意がたりない。不熱心である。nurusaN はのろい。
- cimunuʔumii**①(名) 気のせい。~ga ʔa-tara, dateeN nati miijutaN. 気のせいとか大きく見えていた。
- cimuri**①(名) [文] 煙。ʔjuin ʔakaçicin narisi ʔumukazinu tatan hwija nesa-mi sjujanu ~. [宵も暁も 馴れし佛の立たぬ日や無いさめ 塩屋の煙(花売之縁)] 宵もあかつきも馴れたおまかげが塩たく家の煙のように立たない日は無い。
- cimusawazi**①(名) 胸騒ぎ。不安・心配などで心が穏やかでないこと。~ sjuN.
- cimusikaraasa**N①(形) 心さびしい。うらさびしい。心の底から寂しい。
- cimusipusa**N①(形) 片意地である。偏屈である。
- cimusipuu**①(名) 片意地者。偏屈者。
- cimutaturuci**①(名) 心が迷うこと。心が定まらないこと。心の迷い。
- cimutiçiçii**①(名) 心を一つにすること。同じ心・意見をもつこと。~ nati sjuN. 心を一つにしてやる。協力してする。
- cimuʔubi**①(名) 心おぼえ。心に記憶しておくこと。kukuruʔubi ともいう。
- cimnuʔuci**①(名) 内心。
- cimuʔwii**①(名) 心強いこと。頼もしい子を持つ親の気持ちなどをいう。Qkwano suguriti ~ ʔjaN. 子供がすぐれているので心強い。
- cimuwasa**mici①(名) 胸さわぎ。心が落ち着かないこと。楽しいことのために心が浮き立つ場合にいう。
- cimuwasa**wasa①(副) 胸さわぎするさま。心が浮き浮きするさま。
- cimuzawai**①(名) 気にさわること。しゃくにさわること。~ sjuN. しゃくにさわる。
- çimuzi**①(名) 袖。久米島で産した。

cimuzuraNcu① (名) 心がやさしい人。恵み深い人。

cimuzurasan① (形) 心がやさしい。恵み深い。

cimuzurii① (名) 心を合わせること。協力。～ sjun. 協力する。

cimuzuusan① (形) 心強い。安心できる。

cina① (名) 知名。《地》参照。

çina① (名) 綱。繩。naa (繩) と意味は変わらないが、çina の方を多く用いる。強調して çinanaa ともいう。～ noojun. 繩をなう。

cinaa① (名) 喜名。《地》参照。

çinahwici① (名) 綱引き。沖繩の年中行事の一つ。首里・那覇を始め、各村で夏の収穫が終わりに、粟ができるころに行なわれた。村で東西が対抗して行なう。首里では、各村が独立して別個に行なうものと、首里全体が東西に分かれて行なう ?aizoo-?uunna [綾門大綱] とがあった。後者は首里城正門前にある綾門大通りで行ない、最も盛大であった。çinahwici に用いる綱は、その頭部が輪になり、雌綱 (miinna) の輪は大きく、雄綱 ('uunna) の輪は小さい。雄綱の輪を雌綱の輪に入れ、雄綱の輪に棒 (kanici という) を通し、雌綱の輪と組み合わせる。雌綱、雄綱ともに太くて引きにくいので、さらにそれに細い綱 (tiinna という) をたくさん付けて、人人はその細い綱を引く。三本勝負で、二勝すれば勝ち。

çinanaa① 綱。繩。çina の意味を強めた語。-naa は繩。'janamun çiriree ~ kakajun. 悪者といっしょにいると縄目にかかる。

çinazaara① (名) 短い綱を折り曲げて作ったたわし。saara はたわし。

çina=zun① (他 =gan, =zi) (糸・紐などを) つなぐ。

çinazuu① (名) 布を織り上げて、最後に巻

き板に巻いた残りの経糸。つなぎ緒の意。つなぎ合わせて用いるのでいう。

cinec① (名) ①家庭。家族。②(接尾) 家族。cucinee (一家族, 一家), tacinee (二家族) など。

cincegusi① (名) 一家全部が引っ越すこと。家族全体の転居。

cinecta'zi① (名) 家ごと。戸ごと。～ ?aq-cun. 家ごとに訪問する。

cinecinzu① (名) 家族。家族全体。また、家族の人数。

cineczun① (名) 家族中。一家全体。

çini① (名) ①常。平素。sizika narisumiri ~ni miga kukuru, nami tatan mižidu kazija ?uçiru. [静なれそめれ常に心が 波立たん水ど 影やうつる] 常に心を静かに持て。波立たぬ水にこそ影が映るのだ。②あたりまえ。並み。普通。③転じて、平気。～du 'jaru. 平気だ。

cinibu① (名) あじろの目の細かいもの。竹を密に編んだもの。垣や壁などにする。

cinibugaci① (名) cinibu の垣根。

cinii① (名) きのえ(甲)。十千の第一。

cinin① (名) 知念。《地》参照。

cininza'ci① (名) 知念岬。島尻郡の東端の岬。

çinu① (名) つの(角)。

çinu?aqtami① (名) [古] 牛肉。角のあるものの肉の意。

cinucici① (名) 気が利くこと。～nu ?an. 気が利く。～nu neeran 'warabi. 気の利かない子供。

cinuduku① (名) ①[文・古] 残念。tama-muranu 'waka?azi tuinugaci 'uran, niburu min niran ~du 'jataru. [玉村の若按司 取逃ちをらん ねぶる目もねらん 気の毒どやたる (忠臣身替)] 玉村の若按司を取り逃がしてしまつて、寝ようにも安心して寝られない。残念である。②[新] 気の毒。

cinuku

cinuku① (名) きのこ。傘と柄のはっきりしている、いわゆるきのこの形をしたものをいう。したがって、mooʔaasa, mimi-gui などは cinuku といわない。食用のものも、有毒のものもさすが、主として食用のものをいうようである。simizi (しめじ) など。

cinumata① (名) つのまた。海草の名。食用となり、また、糊を作る。

cinumiijaa① (名) 角の生えたもの。牛・鬼など、角の生えて恐ろしいもの。

ci=nuN① (他 =man, =ji) [文] つねる。口語は çinçikijun. 'wagami çidi 'ncidu 'jusunu ʔwija sijuru, muri şiruna ʔuciju nasakibakari. [わが身つで見ちど 他所の上や知ゆる。無理するな浮世なさげばかり] わが身をつねって他人の身の上を知る。無理をするな。浮世は情だけもつのだ。

ci=nuN① (=man, =ii) ⊖(他) 積む。tanuN ~. たきぎを積む。⊖(自) 積もる。ʔararinu ~. あられが積もる。

ci=nuN① (他 =man, =ji) (草花・桑の葉などを) 摘む。

ci=nuN① (他 =man, =ji) 詰める。詰めて入れる。ʔuzuu ~. 重箱に詰める。

cinutatii① (名) [角立] 男の子が三歳になった時、頭のまわりを剃り、さらに頭の頂上から前額の方に細く溝形に剃る古い行事。男性を象徴しており、女の子の saratatii (その項参照) に対する。

cinutu① (名) きのと(乙)。十千の第二。

cinuu① (名) きのう。昨日。

cinuucu'u① (名) きのうきょう。昨今。

cinuunujuru① (名) おとといの晩。一昨晩。一昨夜。昨晩は 'juubi. 'uqtiinujuru はやはり一昨晩の意になるが、あまり用いない。

cinuʔeeeku① (名) 角細工。角類で器具を作ること。また、それを作る人。

cin① (名) cimi (王家筋の宗教をつかさどる神女)と同じ。

cin① (名) 着物。衣服。その敬語は 'nsu. 着物の種類をあげれば、夏物には、男子用に ʔirunucin, 女子用に tanasi, ʔeeʔuburuu など、男女用に basjaazin, sudiciraa などがある。冬物には、男子用に duubuku, ʔirunucin など、男女用に各種の 'watazin, また、ʔaasimun, ciimun, 'wataʔiri, hwiitaa, riŋkwaan などがある。春秋には男女用に ciizin がある。それぞれその項参照。

cin① (名) 金武。《地》参照。

cin① (名) 金。~ ʔukijun. 金の粉で漆器などに字や絵を浮かせる。時き絵にする。

-cin (接尾) 斤。重量の単位 (160 匁)。ʔiq-cin (一斤), hanzin (半斤) など。

-cin (接尾) 間(けん)。長さの単位。ʔiq-cin (一間), nicin (二間) など。

cinbaa① (名) [新] 金歯。

cinbaai① (名) 金針の意。鍼。鍼術師が医療に使う針。金で造る。

cinbeeru① ʔakakoozi① (句) あかんべえ。べっかんこ。下まぶたを指で引き、赤い裏を見せ、侮辱の意をこめて拒絶の意を表わすこと。beeru は侮辱的な拒絶の意を表わす語。ʔakakoozi は食紅用の麴。

cinbin① (名) [巻餅] 菓子の名。麦粉を水でこね、黒砂糖と卵を混ぜて、油を引いた鍋で焼いて巻いたもの。

cinbjoobu① (名) 金屏風。cinnoobu ともいう。

cinbooraa① (名) 海産の小さい巻き貝の名。ほら貝型のきわめて小さい貝。にしの一類。

cinbuçi① (名) 見物。~ sjun.

cinbuçini① (名) 見物人。

cinbuku① (名) 釣り竿。

cinbuN① (名) 検分。立ち合って取り調べること。

ciNBUN① (名) 見聞。

ciNBurugeei① (名) でんぐり返し。頭を下にしてひっくりかえること。ciNBuru-<ciBuru (頭)。

ciNcaan① (副) ぎょろり。目を大きく開いて光らせるさま。mii ~ natoon。目をぎょろりと光らせている。

ciNcihwada① (名) [衣着肌] 衣類。着物。衣裳。肌に着けるもの。~nu ʔariwadu maakain ʔikariiru。着る物があるこそ、どこにでも行ける。

ciNciida nari① (名) 着物の着こなし。-cii-<cijun (着る), -danari<tanari (ありさま, 体裁)。

ciNciiki=ju`N① (他 =raN, =ti) つねる。指先などで強くねじる。

ciNcinaa① (名) ひばり。ciNcin と鳴き声から名づけたもの。

ciNciN① (副) ピーチク。ひばり (ciNcinaa) の鳴き声。

ciNciNbisja`gwaan① (名) 足の細い者。悪口として使い、ひばり (ciNcinaa) の足の細いのにぞらえていったもの。

ciNciNʔnma`gwaan① (名) おもちゃの馬。足に車が付いていて、動くとき ciNcin と鳴るのでいう。caNcaNʔnmagwaan ともいう。

ciNciruka`a① (名) 衣類。着るもの。衣・着る皮の意。cirukaa ともいう。~N neeN。着る着物もない。

ciNcco① (名) [新] 県庁。廃藩当初一時用いられた語。のち、kincoo というようになった。

ciNdami① (名) つましらべ。音縮め。琴・三味線などの音調をととのえること。

ciNdan① (名) ciNraN と同じ。

ciNdee① (名) 見台。書物を載せて読む台。

ciNhabu① (名) はぶの一種。金色で小さく、毒が強い。

ciNjaku① (名) 儉約。政府が行なり場合には敬語にして guciNjaku という。

ciNkan① (名) 金柑。

ciNki=juN① (自 =raN, =ti) つねる。ciN-cikijun と同じ。

ciNku① (名) [金鼓] 綱引きの時、鉦と太鼓を打ち合わせる一種の合奏。首里・那覇の綱引きでは、リーダー格の青年が鉦を打ち、白鉢巻の四、五十人の青年がそろって太鼓を打ち鳴らす。

ciNkuni`Nzu① (名) 綱引きの時に、鉦太鼓をたたく一団。

ciNkuNsian① (名) [進貢船] 進貢船。中国へ貢物を持って行く船。それを迎えに翌年は ceqkunsian [接貢船] が中国へ行った。

ciNkwaa① (名) かぼちゃ。nankwaa ともいう。

ciNmaasaa① (名) 土や石を積みめぐらせて円形に盛り上げたところ。上に赤木やガジマルを植えてある。一里塚のように里程標としたものと思われる。

ciNmaga=ju`N① (自 =raN, =ti) ひん曲がる。

ciNmagaruu① (名) ⊖ひん曲がること。⊖寒さなどで、縮こまること。

ciNmamun① (名) [君真物] cihwizian (きこえ大君) のかしづく神。すなわち、cihwizian に憑く神。神のうちで最高。

ciNmi① (名) 斤目。目方。量目。秤で計る物の重さ。

ciNmii① (名) ciNmiidaka と同じ。

ciNmiidaka① (名) 金色の目をした鷹。鷹のうちで最も上等とされ、高価なので、貴族の子弟が買ってもらうことが多かった。士族の子弟は値の安い kaʔizeemii (灰色の目の鷹) を買ってもらった。

ciNnan① (名) かたつむり。

ciNnoobu① (名) ciNbjooobu と同じ。

ciNnooibaai① (名) 縫い針。裁縫針。普通は単に haai という。

ciNnoojaabaai① (名) ciNnooibaai と同じ。

çiNnuku

çiNnuku①(名) [鶴の子] 芋の一種。やつがしら。

çiNnukubi①(名) 着物の襟。きぬのくびの意。

çiNnukuu①(名) 着物のつくろい。kuu(綱)の項参照。

çiNnuN①(名) 唾を飲むこと。かたずを飲むこと。気をつけて事のなりゆきを見守る時などにいう。～ sjuN. かたずを飲む。

çiNnubaa①(名) 着物の前すそ。子供がふうしき代わりにして物を運んだりする。

çiNnuuu①(名) 着物のつけひも。子供などの着物に帯代わりにつけるひも。衣の緒の意。

çiNpce①(名) 唾。つばき。～ tuhweemikasjuN. 唾をぺっとはく。唾は魔よけとなるので、怪しいものを見ればその方向に唾をはく。落とし物をすれば唾を手のひらにのせ、kizimunaa kizimunaa 'waa-muN tumeeraci kwiri. (きじものよ、きじものよ、わたしの物を捜させてくれ。kizimunaa は木の精) と言い、その唾を指で打ち、唾の飛んだ方向を捜す。塵物なども、唾をつけると痛みなどが早くひくとされる。

çiNpiN①(名) 近辺。近く。

çiNpoo①(名) 近傍。近辺。また、あたり。辺。kwazee maanu ~ga. 火事はどのあたりか。

çiNpuki=juN①(他 =raN, =ti) 突き抜ける。くぐり抜ける。

çiNraN①(名) 金糶。çiNdaN ともいう。

çiNsa①(名) [新] 検査。satoociNsa (砂糖の等級を決める検査) などがある。

çiNsiN①(名) 貸銭。料金。

çiNsiNgai①(名) 貸借り。料金を出して借りること。

çiNsjaa①(名) [文] [検者] 廃藩前の役名。間切番所に首里からおもむく監督役。

çiNsukoo①(名) 菓子の名。米の粉と砂糖

をまぜ、油を入れて練り、型に入れて作るもの。油を入れないものは koogwaasi, 大きく牡丹の花の形に作って彩色したものは butaŋkoo という。各項を参照。

çiNtaa①(名) 次の句で用いる。～ keejuN. (上が重くて) ひっくり返る。～ keeri-juN. ともいう。

çiNtaakeei①(名) (上が重くて) ひっくり返ること。

çiNtee=ju'N①(自 =raN, =ti) まるまると太る。幼児などについていう。

çiNtu①(副) ぴったり。きっちり。ちょうど。～ ʔatatoN. ぴったり合っている。

çiNtuNteN① ⊖(副) 三味線の音。⊖(名) 五本の指を屈伸する小児の芸。にぎにぎ。三味線に合わせて踊る気持ちをあらわしたものの。

çiNzaci①(名) 金武崎。沖繩本島東海岸にある岬。

çiNzi①(名) 禁止。文語はcizi。

çiNzu①(名) 隣の家。隣家。

çiNzubaree①(名) 近所払い。近隣からの追放。廃藩前の一種の私刑。のちには村八分をもいうようになった。

çiNzubiree①(名) 近所づきあい。隣近所との交際。

çiN=zuN①(他 =gaN, =zi) 紡ぐ。綿・繭などをつむにかけて糸にする。また、糸によりをかける。

çiNzuzurii①(名) 近所の集まり。近隣の寄り合い。

çiQcuu①(名) 吉兆。縁起のよいしるし。

çiQkuu①(名) ⊖結構。立派。⊖堅固。～na 'jaa. 堅固な家。

çiQpaku①(名) 潔白。～na. 潔白な。

çiQpeN①(名) [橋餅] 菓子の名。kunibuの砂糖漬。kuuri ~ ʔamasjoogaa. 米砂糖に橋餅に甘しょうが。

çiqtu①(副) ⊖きつく。強く。しっかりと。sasinaa muqci cikaku 'jutikarani,

- matan kakusjuraba ~ kunsimiri. [差繩持つち 近く寄てからに 又も隠しゆらば きつとくんしめれ(大川敵討)] 捕繩を持って近く寄って、またも白状しないならばきつく縛れ。⊖きつと。必ず。～'jami. 必ずそうか。間違いないか。
- çira① (名) 顔。文語や複合語には kau という形もある。～ ?arajuN. 顔を洗う。～ hurakaraN. 会わせる顔がない。穴があれば入りたい。hurakaraN は開けられないの意。～ taka?ucagi. 顔を高く上げること。高慢にそりかえること。また、足もとに気をつけないこと。
- çira?ahwasan① (形) おもはゆい。恥ずかしくて見られない。見る方が恥ずかしくなる。
- çirabui① (名) 顔をそむけること。そっぽを向くこと。負けたり面目を失ったりした場合のそれにいう。
- çiraçiikun① (名) 顔をつつ込むこと。乳児が母の胸に、また、水泳で水中に顔をつつ込むことなど。
- ciracira① (副) きらきら。光のきらめくさま。
- çiradamasi① (名) かしこい顔つき。～nu ?aN. 聡明な顔つきをしている。tamasi-kweekaagi ともいう。
- çiragaku① (名) 顔の輪郭。顔のかたち。
- çiragamaci① (名) つら。çira (顔) の卑語。kamaci は頭の卑語。～ 'wararin doo. つらを割られるぞ。けんかの時のことば。
- çiragataka① (名) 次の句で用いる。'innu ~. 縁が顔をかばう。縁のある者は、ひいき目で顔もきれいに見える。-kataka はかばうものの意。
- çiragwaa① (名) 次の句で用いる。～ na-jun. 恥ずかしくて顔を向けられない。顔が小さくなる心地がするの意。
- çirahazikasjan① (形) おもはゆい。顔を見られるのが恥ずかしい。
- çirahuQkwaa① (名) 不平不満などで、ふくれつつらをした者。
- çirahuraa① (名) 馬鹿づら。人を罵倒している語。-huraa < hurijun.
- çirahwaahwaa① (名) 顔がほてること。微熱のある時、恥ずかしい時などにこうなる。
- çirajoo① (名) 泣きそりな顔。べそ。悲しそりな顔。
- çirajugusi① (名) [新] つらよごし。
- cira=juN① (他 =aN, =ti) 嫌う。
- çirakaagi① (名) 顔だち。容貌。
- ciraka=sjuN① (他 =saN, =ci) 散らかす。とり散らす。
- çiramiikuci① (名) 顔色。顔のよす。-mikuci は一見することの意。
- çiramiQkwasaN① (形) 顔が憎らしい。
- çiramiQkwee① (名) かわいらしい者。とてもかわいい者。わざわざ反対に「顔が憎い者」といった語。
- çiramukumi① (名) 顔つき。面相。つらがまえ。mukumi は木目。
- çirani① (名) ⊖長歌。琉歌の長歌。⊖連歌。琉歌をふたり以上でよみつらねること。また、よみつらねた歌。
- çiranikusaN① (形) 顔が憎らしい。
- çiranuhazi① (名) 顔に現われる恥。恥ずかしさが顔の色に現われること。～nu ?ariwadu ninzin 'jaru. 恥じる色があつてこそ人間だ。
- çiranukaa?açii① (名) つらの皮が厚い者。厚顔。あつかましい者。
- çirasicimaci① (名) 顔(面目)を抵当にすること。証文を入れずに面目によって金などを借りること。
- cirasigusui① (名) 散らし薬。
- cira=sjuN① (他 =saN, =ci) (品物を) 切らす。sakee namaa ciracoosa. 酒はいま切れているよ。
- cira=sjuN① (他 =saN, =ci) (腫れものなど

を) 散らす。cirasigusui çikiti kasa ~。
散らし薬をつけてできものを散らす。

çirataacaa①(名) 二枚舌。内股膏薬。顔が
二つある者の意。

çiratamajaa①(名) 額と顎が高く、中央が
くぼんだ醜い顔。

çiratiçi①(名) 生き写し。瓜二つ。顔が
そっくりなこと。那覇では hainuzi とい
う。

çiraZuciki①(名) 顔つき。

çirawaa①(名) 顔の広さ。また、大きい顔。
また、度胸のある、人前で恥じない顔。反
対には、çiragwaa najun。(恥じて顔が
小さくなる) という。

çirawaidoogu①(名) 顔がつぶれること。
面目を失うこと。

çiraziraatu①(副) 面とむかって。~ ?ii-
cijun。面とむかってのしる。

ciree①(名) してはいけないこと。禁止す
べきこと。「嫌い」に対応する。

cireemu①(名) してはならぬもの。経験
的あるいは迷信的理由から禁止されている
こと。タブー。妊婦の家に表門から入っ
て、裏門から出ること(必ず入った所から
出なければいけない)など。また、腹をこ
わした時に ?andamun(揚げもの)を食
うことなど。

ciri①(名) ㊦きれ。布。㊦きれ。切れ端。

ciri①(名) 塵。ごみ。~N 'jama najun。
塵も積もれば山となる。

ciri①(名) 桐。

ciri①(名) 霧。

-ciri(接尾) ㊦田畑を数える時の接尾辞。

枚。cuciri(一枚), taciri(二枚)など。

㊦切れ。魚・菓子などの切ったものを数え
る時の接尾辞。(-caai)の項参照)

çiri①(名) 連れ。同伴者。仲間。

ciriZakuta①(名) 塵芥(ちりあくた)。

ciriban①(名) [切板] たばこを刻むための
切りばん。

ciribanboocaa①(名) たばこを切る包丁。
普通の包丁よりもずっと大きい。

ciribira①(名) なら。

ciriçimi①(名) 家計を切りつめて、余裕を
与えないこと。切りつめの意。夫が妻に金
を出し惜しむ場合など悪い意味に使う。

ciricirii①(名) 料理名。牛肉を醬油などで
炒りつけたもの。ciriciri と音を立てると
ころから名づけたもの。

çiridec①(名) [連台] 長方形の大きな盆。重
箱や食器類を載せて運ぶのに用いるもの。

ciriec①(名) 打ち合わせ。下相談。

cirihasi①(名) 切れはし。重箱につめた残
りの食べものの切れはし、材木の切れはし
など。

cirihukui①(名) 塵埃。ちりとほこり。

cirihwa①(名) 物事・言行のけじめ、また
は、きり。~nu 'jutasjan。きりがいい。
~nu 'waqsan。きりが悪い。

cirihwizi①(名) [文] 塵と泥。hubana
saciziriba ~N çikan, siracanija nabi-
ci ?abusimakura。[穂花咲き出れば 塵
ひぢもつかぬ 白種子やなびち あぶしま
くら] 稲の穂花が咲き出ると塵も泥もつか
ずに、稲はあぜを枕にする豊作(でありま
すように)。

cirii①(名) きれい。清潔。bucirii(不潔)
の対。ciriiNともいう。~na。きれいな。

ciriiN①(名) きれい。清潔。~na。きれい
な。~ni sjun。きれいにする。

ciri=jun①(自 =ran, =ti) ㊦(刀物が) 切れ
る。hasan(鋏), hoocaa(包丁), šiigu
(小刀)などが、切れる。刀・かみそりな
ど、刃の切れ味を特に導ぶものが切れるこ
とには tacun という。㊦切れる。切断さ
れる。(糸などが、また関係などが) 切
れる。'innu ~。縁が切れる。'in ~。愛想
がつかぬ。すっきりいやになる。

ciri=jun①(自 =ran, =ti) ㊦散る。腫れも
のの腫れが引く。㊦(花が) 散る。㊦にじ
む。色が染まって散る。şiminu ~。墨

- がにじむ。
- çiri=juN**① (他 =raN, =ti) 連れる。同伴する。ʔusiçirijun ともいう。
- çirikizi**① (名) 切り傷。刃物で切った傷。
- çirikuci**① (名) 切り口。
- çirikuru=sjuʔN**① (他 =saN, =ci) 切り殺す。
- çirikuzaN**① (名) 切り刻むこと。
- çirimi**① (名) 切れ目。切れた所。ʔjašeenu ~。野菜の切り口。
- çirimi**① (名) 同じ年ごろ。結婚の相手としてところあいな同年輩。ʔinuçirimi ともいう。satimu sati ʔanmaa, ~ naru ʔwikiga…(泊阿嘉) 何とまあ、ばあや、同じ年ごろの男が…。
- çirimusiri**① (名) 古くなった衣類などが、切れたり破れたりしてみすぼらしいこと。
- ciritin musiritin ʔajaataarii.** (切れても破れてもアヤー・ターリーを使う。貧乏士族が身分に執着するのをあざけたことば) などともいう。ʔajaa はおかあさん、taarii はおとうさん、ともに士族の使う語。
- çirimuzi**① (名) うどん。
- çirinaataranaa**① (副) 切らしたり、足りなくなったりするさま。金銭・店頭の商品などが順調にそろわないさま。
- çirinaaganagaa**① (副) 列をなして長くつらなるさま。延延と。
- çirinasaN**① (形) つれない。情ない。çirinasaja ʔjuminu jununakani ʔututi ʔasaju zirinu ʔwini ʔumuikutaci. [つれなさや夢の世の中に居とて 朝夕義理の上に 思いくたち] 情ないことに短い一生のうちで、いつも義理の上に思い悩んで。çirinasii sikata. つれない次第。情ないでいたらく。
- çiriniNzu**① (名) 連れの人たち。同行の人たち。
- çiriN**① (名) 麒麟。中国の想像上の動物。
- ciriNtoo**① (名) 植物名。緋桐(ひぎり)。
- cirišiti**① (名) ごみだめ。ごみ捨て場。
- cirišiti=juʔN**① (他 =raN, =ti) 切り捨てる。切って捨てる。
- ciritaikaatai**① (副) ずたずた。ぼろぼろ。着物などが切れて垂れ下がり、みすぼらしいさま。
- ciritami**① (名) たばこ入れ。刻みたばこを入れる木製の小箱。切り溜めの意。
- ciritoo=sjuʔN**① (他 =saN, =ci) (立木などを) 切り倒す。
- ciritui**① (名) 塵取り。掃除道具の名。
- ciriʔuri**① (名) 霧が降りること。霧・かすみがちこめること。
- ciriziri**① (副) 散り散り。別れ別れ。離散したさま。
- cirizirini**① (副) [文] 散散(さんざん)。~ ʔjaçiri kunu naiju ʔjariba. [散々にやつれ 此のなりよやれば(花売の縁)さんざんにやつれ、こんなさまであるから。]
- çirjuu**① (名) [新] 寄留。本籍地を離れて、他郷に住むこと。cizuu [居住]と同じ。
- çiroo**① (名) [器量] 才能。才器。çiroo は人にそなわった才能をいい、個個、折り折りの才智は多く see という。
- çirooniN**① (名) 器量人。手腕のすぐれた人。才能のある人。才子。
- çiru**① (名) ⊖つる。琴・三味線・弓などの弦。⊖筋。筋肉のすじ。nuudiiziru (のどの筋), ʔudiziru (腕の筋), ʔaauziru (アキレス腱) など。
- çiru**① (名) 鶴。çiruNtui ともいう。sin-çiru mankami. 鶴は千年、亀は万年。
- çiru=buN**① (自 =baN, =di) つるむ。交尾する。
- çiruçiru**① (副) よたよた。よちよち。歩きはじめの幼児などの走りまわるさま。
- çirudai**① (名) 失望。落胆。がっかりして体中の筋がだれる意。~ sjun.
- çiruga=juN**① (自 =raN, =ti) ⊖連なる。

çirugi

つながる。続く。tiŋtu ziitu çiruga-toon. 天と地と連なっている。⊖(つながって…まで) 達する。…に及ぶ。mižinu kubimadi çirugatoon. 水が首まで達している。ʔuhooku kadi nuudiimadi çirugatoon. たくさん食べて(食物が)のどまで達している。⊖(水などに) つかる。(水などにつかって、水が)…まで達する。kubidaki mižin'kai ~. 首の高さまで水につかる。Ⓣ(接尾)…し続ける。ʔimi miičirugajuN. 夢を長く見続ける。munu ʔjuNçirugajuN. はてしなくおしゃべりを続ける。

çirugi① (名) ⊖つながっているもの。連なるもの。⊖(接尾) nitaŋçirugi (二反続きの反物), niNmeeçiruginu musin (二枚続きの毛布) など。

çirugi=juN① (他 =raN, =ti) 連ねる。連続させる。

cirukaa① (名) 着る皮の意。着物のこと。ciNcirukaa ともいう。

cirumuN① (名) 着る物。衣類。着物。ciNehwada ともいう。

çiruNtui① (名) çiru (鶴) と同じ。

çiruzi① (名) けづめ。鳥類の攻撃用の爪。

çiru=zun① (他 =gaN, =zi) つなぐ。連結させる。

cisana① (名) ちしゃ。野菜の名。葉を食用とする。

cisanabaa① (名) cisana と同じ。また、cisana の葉。

cisi① (名) 喜瀬。《地》参照。

cisi① (名) [文] 岸。海岸。口語は ʔumi-bata.

cisici① (名) [文] 景色。口語は ciici. ʔjumuŋu ~nu ʔumusiruja. よもの景色の面白や。

cisi=juN① (自 =raN, =ti) 秘結する。便秘する。

cisimutu① (名) 岸本。《地》参照。

cisiri① (名) きせる(煙管)。

cisirizoo① (名) ラオ(羅字)。きせるに用いる竹の管。-ʔoo<soo(竿)。

cisjaba① (名) 喜舎場。《地》参照。

cisuku① (名) [新?] 規則。kata ともいう。

çita① (名) つた。かずら。

çita=juN① (他 =raN, =ti) [文] 伝える。ʔNkasimunugatai mumu çitai cicuN. [昔物語 百伝え聞きゆん(手水之縁)] 昔物語をいくたびも伝え聞いている。

citanasaN① (形) きたない。不潔である。sitanasan と同じ。hagoosan ともいう。

çitawa=juN① (自 =raN, =ti) 伝わる。

çitee① (名) 伝え。言い伝え。伝説。ʔaŋ ʔjuru ~nu ʔaŋ. そういふ言い伝えがある。

çiteebanasi① (名) 伝え話。伝説。

çitee=juN① (他 =raN, =ti) 伝える。

çiti① (名) つて。手づる。

citoo① (名) 祈禱。

citoogai① (名) 祈禱の代わりとなるもの。祈禱に代わりうる効能。家を新築した場合などに、立派な三味線で歌の上手な人に歌ってもらえば、その家は祈禱したほどの効能があるなど。

çitu① (名) みやげ。みやげもの。「つと」に対応する。

çituda=cuN① (他 =taN, =qci) 乗り気になる。思い立つ。気が進む。

çitumi① (名) 勤め。勤務。

çitumi=juN① (他 =raN, =ti) ⊖勤める。勤務する。⊖努める。また、辛抱する。我慢する。çitumiti maqcooree. 辛抱して待ってろよ。

ciwa① (名) きわ。とき。際。tacitoorini ʔujubu ~. [文] 立ち倒れに及ぶ際の意。危急存亡の時。

ciwama=juN① (自 =raN, =ti) 決まる。定まる。決定する。taruuga ʔicuŋdici ~.

太郎が行くことに決まる。

ciwami=junⓄ (他 =raN, =ti) 決める。定める。決定する。taaNkai ciwamiiga. だれに決めるか。

ciwasjanⓄ (形) きつい。きびしい。人の性格についている。

ciweekutuⓄ (名) cuweekutu と同じ。

ciweemuNⓄ (名) cuweemuN と同じ。

çizaahazaaⓄ (名) 継ぎはぎ。継ぎ合わせてつくりうること。~ sjuN.

çizaasihazaasiⓄ (名) çizaahazaa と同じ。

çizaa=sjunⓄ (他 =saN, =ci) 継ぎ合わせる。つなぎ合わせる。

cizakuⓄ (名) 真鍮。

cizakuzii⁷hwaaⓄ (名) 真鍮のかんざし。平民の用いるもの。

çizamideekuniⓄ (名) 切り干し大根。

çizamikuubuⓄ (名) 刻み昆布。細かく切り刻んだ昆布。

çizamitabakuⓄ (名) 刻みたばこ。

çiza=nuNⓄ (他 =maN, =di) ⊖刻む。細かく切る。⊖彫刻で、刻んで物の形を作る。

ciziⓄ (名) 悪いこと。劣ること。比較して悪い場合にいう。ŷuqtujakan ~. 弟よりも悪い。'jaNmeenu ~ natoon. 病気が悪化している。

çiziⓄ (名) 粒。複合語に ŷubunçizi (御飯粒), kumiçizi (米粒), ŷawaçizi (粟粒) など。

çiziⓄ (名) ⊖頭上。~ni kamijun. 頭上に戴く。奉戴する。⊖頂上。山・坂などのてっぺん。hwiranu ~. 坂の上。

çizi=cuNⓄ (自 =kaN, =ci) 続く。nagaŷa-minu ~. 長雨が続く。

çiziguciⓄ (名) 継ぎ目。

cizi=junⓄ (他 =raN, =ti) 人の行為を、さえぎる。止める。また、禁止する。Qcunu ŷaqcuŷi ~. 人の歩くのを止める。通行を止める。sigutu sjuŷi ~. 仕事をする

のをさえぎってとめる。また、仕事するのを禁止する。

çizikiⓄ (名) つぎ木(接木)。

cizimaga=junⓄ (自 =raN, =ti) 縮みあがる。すっかり縮む。また、寒さ・恐怖などで、縮みあがる。

cizimiⓄ (名) 織物の名。縮み織り。

cizimi=junⓄ (自 =raN, =ti) (縮ませて) しわをよせる。

cizinuhweeⓄ (名) [文] 禁札。ŷunna maçisitani cizinuhwenu tacuŷi, kui sinubumadinu cizija nesami. [恩納松下に禁止の牌の立ちゆす 恋忍ぶまでの 禁やないさめ] 恩納番所の松の下に禁札が立っているが、恋をすることまで禁止することはあるまい。

çizinnuNⓄ (名) 飯・粥など、米粒の形をしたもの。米粒の入っていない重湯に対する。病人の食事の場合などにいう。

cizi=nuNⓄ (自 =maN, =di) (縮んで) しわが寄る。単に縮む意では ŷincaku najun. などという。

ciziⓄ (名) 機嫌。'iiciziNnu tucini ŷjun. 機嫌のいい時に言う。

çiziⓄ (名) つづみ(鼓)。

çizinduurnuⓄ (名) 綱引き (çinahwici, その項参照)の時に、旗頭 (hatagasira, その項参照)の上につける燈籠。その形が鼓に似ているので名付けたもの。

cizinkaaⓄ (副) 寒さ・恐怖などで、縮みあがったさま。~ sjuon. 縮みあがっている。

ciziriⓄ (名) ⊖契り。固い約束。⊖契り。宿世の縁。

çizisuuⓄ (名) 先祖から受け継いだ、先祖と同じような運命。çizi-<çizun. suu は運命。~ kamijun. 先祖から受け継いだ、先祖と同じような運命を受ける。

ciziŷuriⓄ (名) 神の託宣。

çiziŷuriⓄ (名) 継ぎ降りの意。苦勞して死

んだ者が先祖にあり、その先祖の祭りを怠った場合、子孫にも同様な苦勞が続くこと。

giziwaiⓐ (名) 頭割り。人数割り。費用など人数に応じて割り当てること。gibu:uwai ともいう。

cizooⓐ (名) 知行。領地。また、領地を支配し、年貢などを得ること。

cizuiⓐ (名) 千鳥。海浜に群れて鳴き飛ぶ小鳥。cizujaa ともいう。文語は hama-ciduri。

cizujaaⓐ (名) 千鳥。cizui と同じ。

cizujaaⓐ (名) 縮れ毛の者。

cizukaⓐ (名) 喜如何。《地》参照。

çi=zunⓐ (他 =gaN, =zi) ⊖ 継ぐ。(切れた糸などを) つなぐ。また、(割れた茶碗などを) 継ぎ合わせる。接合する。⊖ 継ぐ。相統する。gwansu ~。先祖のあとを継ぎ、祭祀を営む。

çi=zunⓐ (他 =gaN, =zi) つぐ。器に注ぎ入れる。saki ~。酒をつぐ。

cizuuⓐ (名) 縮れ毛。縮れた髪。また、縮れ毛の人。

cizuuⓐ (名) [居住] 寄留。本籍地を離れて、他郷に住まうこと。

cizuuniⓐ (名) 寄留人。

coNeonⓐ (副) ぼたぼた。ぼたりぼたり。水滴の落ちる音のさま。

coNdaraaⓐ (名) [京太郎] かいらい師。人形使い。万歳行者。manzai, janzajaa ともいう。首里郊外の特種部落にいた賤民で、年の初めには家々の門に立ち、祝言を唱え、人形を舞わせ、また葬式の時は念仏鉦をたたき、念仏を唱えるなどして銭を得た者。

cooⓐ (名) 疔。悪性の腫れもの。の。名。

coobanⓐ (名) [京判] 一升拵。

coocikutooⓐ (名) 夾竹桃。観賞用となるが、有毒である。迷信家は庭に植えるのを喜ばない。

coocinⓐ (名) 提燈。

coocinmuciⓐ (名) 提燈持ち。結婚の時に提燈を持つ役。新郎の方から新婦を迎えるため、かごかきと共に男の子が二人その役になって行く。新婦の方からも二人の子供が出るので、新婦を迎えて新郎の家に来る時には、大きな提燈が四つ揃って行列の先頭に立つこととなる。提燈を持つ手は取り換えないものとされているので、新婦の家が遠い時には、提燈持ちにも少し大きな者が当たる。

coodaŋsiⓐ (名) [新] 京軍筒。明治以後本土から渡来した家具。

coodeeⓐ (名) 兄弟。兄弟姉妹。農村では ?utuzanda ともいう。

coodeeguhwasaNⓐ (形) 兄弟の仲が悪い。

cooduⓐ (副) ちょうど。折よく。端数なく。さながら。~ 'jutasjan. ちょうどよい。kunu hujaa ~ 'jan. この靴はぴったりだ。~ 'jamatuncunu gutooN. まるで日本人(本土の人)のようだ。

coodumiⓐ (名) 帳面に書きとめること。記帳。会計事務、集会の場合の人名などを記入することなど。

cooginaaⓐ (名) おどけ者。

cooginⓐ (名) ⊖ 狂言。芝居。演劇。能狂言ではなく芝居一般。中には ?uja?an-maacoogin [おやあんま狂言] のような悲劇もある。切狂言は šiicoogin という。⊖ こっけいなこと。~ 'jasa. こっけいなことだ。

coogweeⓐ (名) しも肥え。

coohacimaciⓐ (名) [朝帕] 衣冠束帯に相当する礼装。coozin と hacimaci の意。coo?isjoo ともいう。

coo?isjooⓐ (名) [朝衣裳] coohacimaci と同じ。

coomiiⓐ (名) 長命。長生き。tanmii の対。~na. 長命な。~ sjun. 長生きする。

coomiNⓐ (名) 帳面。

coomuN④ (名) 経文。お経。～ 'junuN.
読経する。

coonaN① (名) 長男。cakusi ともいう。

coonu?unjuhwee④ (名) 朝賀。朝拝。正月元旦、国王が中国に向かって行なう遙拜式。君臣そろって七回行なう。?unjuhweeの項参照。

-co'oN (助) すら。さえ。-ja (は) のあとに用いるようである。?icimusee ~ ?uja ?umujuN. けだものですら親を思う。kaneru mumukwahuja ?imijacon 'N-dan. [かにやる百果報や 夢やちやうも見だぬ (孝行之巻)] こんな幸福は夢にさえ見ない。

cooroo④ (名) 禅宗で一山の長老。また、住持。また、僧侶。沖繩の寺は多くが禅宗なので、住持は皆 cooroo といい、さらに、普通の僧侶をもいうようになった。敬って cooroomce というのが普通。

cooroomce④ (名) 住持さま。お坊さま。

coosii④ (名) 一食。一度分の食糧。～ N neeraN. 一食分もない。

coosjuN④ (名) 長春花。ばら。

cootu④ (名) 京都。

coozanu④ **?uhusjuu**④ (句) [長者之大主] 踊りの名。村芝居で最初に出る踊りで、福祿寿の三徳を兼備した人間最高の理想の人物を表わしたもの。また、その人物。

coozi④ (名) 丁子。植物名。また、それから取る香料。

coozibukuru④ (名) 丁子袋。丁子を入れる袋。着物の中などにははさんでおく、いい香りがする。

cooziburu④ (名) 丁子風炉。丁子を狭く香炉。

coozika④ (名) ⊖経塚。経巻を筒に納め、土中に埋めて築いた塚。⊖地震の時の呪文の文句。首里の郊外にある経塚は金剛経が埋めてあり、地震の時にもそこだけは揺れないというので、地震の時には“～～”

(「経塚経塚」と唱える。

cooziN④ (名) [朝衣] 三司官以下の礼服。芭蕉布で作り、参内のとき着用する。黒色のものを kurucoo, 白色のものを sirucoo という。明治以後、白朝衣は葬礼にのみ用い、黒朝衣は結婚に際して、花嫁が頭からかぶる時にのみ用いるようになった。

coozoo④ (名) 重畳。この上なく満足なこと。hacizuumadi ?icicooree tookaci saNtin ~ 'jasa. 八十まで生きていれば、米寿の祝いはしなくても十分満足だ。

coQoNgwaa④ (名) ささ鳴きするところのうぐいす。ささ鳴きの声から名付けたもの。kacinumiinu ~, ?asani suna 'joo ~ 'jagati 'jacimeeni sasarin doo. (童謡) やぶの中のうぐいすよ、朝寝するなよ、うぐいすよ。あやうくぼっちゃんに刺されるぞ。

cu- (接頭) 一・ひとつ・同一の意を表わす。cui (ひとり), cukaki (ひとかげら), cukatana (一刀), cutusi (同じ年) など。

cubaci④ (名) 一撃。一回の打撃。baci は撥。～ nakai nuci cirasjuN. 一撃で殺してしまふ。cirasjuN は切らせる。

cucaai④ (名) ⊖切断したもの(木の枝・砂糖きび・布など)一切れ。30センチ内外のものを多くいう。⊖田畑の一小区画。

cucawan④ (名) 一杯。飯・茶など、茶碗に一杯。

cuçibu④ (名) 一坪。

cuçici④ (名) 一月(ひとつき)。

cuçicigusi④ (名) 一月おき。隔月。

ençika④ (名) 一つか。一束。

ençikaN④ (名) 一つかみ。

cucinee④ (名) 一家族。一家。

cuciri④ (名) ⊖田畑の一枚。田畑を数える単位。⊖一切れ。

cuda④ (名) 許田。《地》参照。

cudaci④ (名) 一かかえ。-daci < dacuN (抱く)。

cuhaku④ (名) 一箱。çikidakigwaa ~.

cuhari

マッチ一箱。

cuhariⓂ (名) ちょっとの晴れ間。変わりやすい天候の際の晴れ間。

cuhudiⓂ (名) 一筆。～ kaci kwiri. 一筆書いてくれ。

cuhusiⓂ (名) ①音楽の一曲。②竹などの一ふし。

cuhwaaⓂ (名) [一葉] 布を織る時の、経糸二本。

cuhwaaaraⓂ (名) ①腹一杯。満腹。～ kadan. 腹一杯食べた。②十分。～ nintan. 十分寝た。③飽き飽き。こりこり。hunatabee ～. 船旅はもう飽き飽きした。

cuhwaniⓂ (名) 一羽。鳥の一羽。

cuhwiruⓂ (名) 一尋。

cuhwisjaⓂ (名) ひと足。一步。～ sacinajun. ひと足先になる。qcuun ～ ?aqciini duuja tahwisja ?aqcuun. 人が一步歩く間に自分は二歩歩く。

cuiiiciⓂ (名) 一息。～ ni numee. 一息に飲め。

cuiⓂ (名) ひとり。一人。

cuiçigaarunⓂ (名) ひとりずつ交替すること。ひとり交替。十人ずつ交替すれば zuuninçigaaruu となる。

cuidaciⓂ (名) ひとり立ち。独立。

cui gurasiⓂ (名) ひとり暮らし。独身生活。duucui gurasi ともいう。

cuijuziijuzi'i Ⓜ (副) 互いに譲り合うさま。

cui naa Ⓜ (名) ひとりずつ。ひとりひとり。

cui naa kaaruuⓂ (名) ひとりずつ交替すること。cuiçigaruu と同じ。

cui ngwaⓂ (名) ひとり子。～ nu hwirugai. ひとり子から子孫がひろがって栄えること。

cuisi'ziiⓂ (副) 互いに助け合うさま。sikinoo ～ qsidu kurasjuru. 世の中は互いに助け合って暮らすのだ。

cui'tareedareeⓂ (副) 互いに補い助け合うさま。

cui'zuşeezuşeeⓂ (副) 互いに軽蔑し合うさま。

cui'zuusi'zuusiⓂ (副) 互いに押し付け合うさま。互いに(相手ひとりに)負わせようとするさま。

cuiwikiga ngwaⓂ (名) ひとりむすこ。

cuiwinagu ngwa Ⓜ (名) ひとり娘。

cui ziniⓂ (名) [古] [一人衣] 貴族の長男が七歳になった年の5月5日に行なり、芭蕉布の着物を一日で作る行事。芭蕉の繊維をつなぎ、つむぎ、経糸・緯糸を作るのを一日でするので、容易なことではなく、貴族にして初めてできる行事であった。親類の者が大勢集まり、ごちそうを作って行なり。一反の布で一人前の着物を作る、すなわちおとなになることを祝う行事で、織り始めのところまでするのが普通であった。

cujaaⓂ (名) 一軒。①同じ家。同じ一軒の家。②一家。一軒に住む者全部。

cujaani nzuⓂ (名) 一家族。また、家族中。一家中。

cujumiⓂ (名) 織機の篋(おさ)の粗密を表わす単位。一よみ。'jumi, huduci の項参照。

cujuruⓂ (名) 一晚。一夜。また、一晚中。

cukakiⓂ (名) 一かけら。食べものなどの、一切れ。

cukasabiⓂ (名) 一重ね。

cukataⓂ (名) ①一方。片一方。片端。～ kara katazikijun. 片一方からかたづけられる。～ naadii keerasjun. 片っぱしからひっくりかえす。②専心。専念。一事に専念すること。～ nati hataracun. 一事に専念して働く。

cukataaⓂ (名) 一事にこる者。こり性。

cukatamiⓂ (名) 一荷。ひとかつぎの荷。-katami < katamijun.

cukatanaⓂ (名) ひと太刀。一刀。～ ni ci-

- rikuruci turasa. 一刀で切り殺してやるぞ。
- cukeen**Ⓜ (名) 一回。-keen は回数を表わす接尾辞。
- cukeetunai**Ⓜ (名) 隣近所。keetunai ともいう。
- cukuci**Ⓜ (名) ①一口。一度に口に入れること。また、その分量。②一口。一口の持ち分。～ ?ijun. (無尽などに) 一口はいる。
- cukuibana**Ⓜ (名) 造花。
- cukuibanasi**Ⓜ (名) 作り話。
- cukuigutu**Ⓜ (名) 作りごと。無いことをあるように見せかけること。
- cukuigwii**Ⓜ (名) 作り声。作った声。
- cukuihwirumi=jun**Ⓜ (他 =ran, =ti) 作ってひろげる。(家などを)増築する。
- cukuijanmee**Ⓜ (名) 仮病。cibjoo ともいう。
- cukuijanzi**Ⓜ (名) 作りそこない。できそこない。
- cukuijan=zu`N**Ⓜ (他 =dan, =ti) 作りそこなう。
- cukuikata**Ⓜ (名) 作り方。製造法。
- cukuika`a`i**Ⓜ (名) 装飾。飾り付け。
- cukuikee**Ⓜ (名) 作りかえ。改造。
- cukui`munii**Ⓜ (名) cukuimunu?ii と同じ。
- cukuimunu?ii**Ⓜ (名) 作りごと。無いことをあるように言うこと。
- cukuimun**Ⓜ (名) ①作物。農作物。～nu dikiran. 作物ができない。②加工品。
- cukuimuzu`kui**Ⓜ (名) 農作物。季節季節の作物。
- cukuiwaakii**Ⓜ (名) 作物の折半。分作り。一方が土地・資金・種子・苗などを出し、一方が耕作して利益を折半すること。
- cukuiwaree**Ⓜ (名) 作り笑い。
- cukujaa**Ⓜ (名) ①作者。製作者。②農夫。農民。?Nmuçukujaa (芋作りの意)ともいう。③おしゃれ。
- cuku=jun**Ⓜ (他 =ran, =ti) ①作る。製作する。製造する。こしらえる。'jaa ~. 家を建てる。②(農作物を)作る。?Nmu ~. さつまいもを作る。また、農業をする。百姓をやる。③化粧する。めかす。(顔を)作る。
- cukumui**Ⓜ (名) 錢百文。2厘のこと。hjaaku ともいう。zin の項参照。
- cukuni**Ⓜ (名) ①一國。②國中。
- cukurii=jun**Ⓜ (他 =ran, =ti) cukurijun と同じ。
- cukuriikuntii**Ⓜ (名) つくろい整えること。'wazikana munsaani ~ qsi miikwaa-sjun. わずかな物でつくろい整えて間に合わせる。～ sjan-teeman sudacee 'wakajun. どんなにつくろっても育ちはわかる。
- cukuri=jun**Ⓜ (他 =ran, =ti) ①つくろう。補修する。修繕する。②小細工をする。ごまかす。とりつくろう。③つくろい整える。野菜の悪い葉を除くとか、果物のへたを取るなど。また、化粧する。
- cukusai**Ⓜ (名) ①一揃い。一式。お供えもの・道具などの一式。～nu miic̣i. 一揃いのものが三つ。三組。②一緒。～ najun. 一緒になる。
- cukutu**Ⓜ (名) 一事。一事件。
- cukutuba**Ⓜ (名) ①一言。②片言。
- cukwii**Ⓜ (名) 一声。
- çuma**Ⓜ (名) [妻]「妻」に対応する。王の妾。王の妻妾(hwii, huzin, çuma)の中で最も身分が低く、身分に関係なく王に拾われた妾をいう。平民の場合はその家族は士族になる。出身地の名をかぶせて、何何?ajaa と呼ばれた。?ajaa?ansirare ともいう。
- cumaai**Ⓜ (名) ①一回り。帯などの、一巻き。②一かかえ。大木などの、両手をひろげて抱くほどの大きさ。
- cumaarasi**Ⓜ (名) 年が十二歳違ふこと。

cumakai

年齢が十二支で一回り違うこと。～nu siiza. 十二歳の年長。

cumakai①(名) 飯椀の一杯。上流では *cucawan* という。makai の項参照。

cumazin①(名) 一束。一積み。積み上げた一つ。稲について多くいる。

cumi①(名) 一目。ちょっと見ること。mi-guşikuni nubuti tisazi mucagiriba, haihuninu nareja ~du mijuru. [三重城に登って 手拭持上げれば 走舟のなれや 一目と見ゆる] 三重城に登って手ぬぐいを上げて合図すると、速い舟のことなので一目しか見えない。

cumici①(名) 一つの道。同じ道。同じ方針で進むこと。協力してすること。'inu-mici は「前に来たのと同じ道・だれかの進んだのと同じ方針」などの意。miituNdaa ~. 夫婦は協力すべきもの。

cumigui①(名) 一めぐり。一巡。一周。

cumura①(名) ①一村。②全村。村中。

cumutu①(名) 一もと。一本。生えている植物を数えるのにいう。

cunaagi①(名) ひと長さ。一定の長さ。ある距離の全体。～ni kii ?wiijuN. 一定の距離にわたって木を植える。

cuNnaa①(名) 喜友名。《地》参照。

cuNzii①(名) [象棋] 中国式の将棋。日本式のものとは異なる。

cuNzuN①(名) 仲順。《地》参照。

cuQpuziQpu①(名) 時時。時折。間隔をおいて折折。çiburunu ~ 'januN. 頭がある間隔をおいて) 時時痛む。

cura-(接頭) 美しい・盛大な・立派ななどの意を表わす。curazin (美しい着物), curawinagu (美女), curayudabi (盛大な葬式) など。

curaa①(名) 美しいもの。また、美人。nakaguşikucuraa といえは、ミス中城の意。

curaaku①(副) ①きれいに。清潔に。～

susuree. きれいに拭け。②きれいに。残らず。～ ?ucikadi neeN. きれいにたいらげてしまった。③見事に。立派に。

curagasa①(名) 天然痘。疱瘡。忌み恐れて、逆に美しい (cura-) かさ (-gasa) といったもの。

curakaagi①(名) 美貌。

curakaagii①(名) 美人。美女。

curaNcaagi①(名) 美しいお顔 (の方)。curakaagii (美人) の敬語。

curasaN①(形) 美しい。きれいである。また、清潔である。curaku nasjuN. イ。美しくする。きれいにする。ロ。洗骨する。

curasugai①(名) 美しく装うこと。盛装。～ sjuN.

curayudabi①(名) ①盛大な御葬式。会葬者が大勢の盛大な葬式。②平民の葬式を盛大にするために頼まれて参列する士族の婦人。婦人は親戚縁者の葬式にのみ参列する習わしであるが、ときに何の縁もない平民の家から頼まれて、その家の名誉のために会葬参列することがある。参列の最後に連なり、白朝衣 (sirucoo) をかぶって顔は見えないが、一見して士族の婦人であることがわかる。その数の多少が名誉の大小にもなった。

cura?uNcoobi①(名) ①美しいおぐし (?uNcoobi)。②女の髪を結い方の名。?usiru (えりあし) の項参照。

curayutuui①(名) ?ugwan (祈願) の筋が立派に通じ、神仏に聞き入れられること。～ sjoosa. お願いの筋が立派に通ったよ。

curayuhuu①(名) 立派なことば使い。よそゆきの敬語。

cura?wiisuga'i①(名) 美しいお装い。御盛装。

curawinagu①(名) きれいな女。美女。別嬪。

curazin①(名) 美しい着物。晴れ着。

cusakazici①(名) さかづきの一杯。～

- cusina**Ⓞ (名) 一品。
- cutaagu**Ⓞ (名) taagu (水桶) の一杯。
- cutabai**Ⓞ (名) 一束。一たばね。
- cutai**Ⓞ (名) 一しずく。一滴。
- cutaruka**Ⓞ (名) cutaruki と同じ。
- cutaruki**Ⓞ (名) 一族。一門。まれな語。
cuta:uka ともいう。
- cuti**Ⓞ (名) ⊖ひと手。一隊。一グループ。
kasiinu ~ ʔiqcooN. 加勢が一隊はいつている。⊖経糸八本。すなわち cuhwaa (その項参照)を四つ。
- cutiNdukuru**Ⓞ (名) 一つのとりえ。一つの長所。tuNnukusuuniN cutiNdukuroo ʔaN. 鶏のふんにも一つのとりえはある。
- cutu**Ⓞ (名) 一年。ひととせ。
- cutugnsi**Ⓞ (名) 一年おき。隔年。
- cutukuma**Ⓞ (名) 一ところ。一箇所。cutukuru を多く用いる。
- cutukuru**Ⓞ (名) ⊖一ところ。一箇所。~ nakai nagee 'uN. 一ところに長くいる。⊖おひとり。人数を数える時の敬語。ʔu-siiNnu ~ ʔmeNʃeeN. お客がおひとりいらっしやる。
- cutusi**Ⓞ (名) 同じ歳。同年齢。ʔinutusi ともいう。
- cutusiNcu**Ⓞ (名) 同じ歳の人。同年齢の人。
- cutu'tatu**Ⓞ (名) 一, 二年。
- cutuui**Ⓞ (名) 一通り。
- cuu**Ⓞ (名) ⊖きょう。今日。~nu kunija maakaiga. きょうこんなに遅くどこへ行くか。~nu 'jukaru hwii ~nu masaru hwii. きょうのよき日まさる日。女が神に ʔugwaN (願) をする時に言うことば。⊖こんにちは(目下へのあいさつ)。目上へは ~ 'uganabira. という。
- cuubaa**Ⓞ (名) 強い者。力の強い者。また、体の丈夫な者。ʔjoobaa の対。
- cuubjoo**Ⓞ (名) ⊖急病。⊖重病。
- cuucan**Ⓞ (副) たちまち。急に。俄然。
- kusui nudakutu** ~ masi natoon. 薬を飲んだらたちまちよくなった。
- cuucuu**Ⓞ (名) ちんちん。陰茎の小児語。
- cuugoo**Ⓞ (名) ⊖協議。⊖しめし合わせる。こと。ʔaʔtaaja ~ sjooteesa. 彼らはしめし合わせていたのだ。
- cuuhuu**Ⓞ (名) 中風。
- cuui**Ⓞ (名) 発育。成育。また、体力の回復。<cuujuN. ~nu niisan. 発育が遅い。回復が遅い。
- cuuibeesan**Ⓞ (形) 発育が早い。また、体の回復が早い。
- cuuiniisan**Ⓞ (形) 発育が遅い。また、体の回復が遅い。
- cuu=juN**Ⓞ (自 =raN, =ti) ⊖強くなる。丈夫になる。健康になる。病人・産婦などの体が、回復する。腕力などが強くなることには cuuku najuN, cuumajuN などという。⊖子供が、発育する。育つ。
- cuunjuru**Ⓞ (名) 今夜。
- cuukaa**Ⓞ (名) 急須(きゅうず)。
- cuuku**Ⓞ (副) 強く。はげしく。うんと。~ ʔucun. 強く打つ。
- cuukuu**Ⓞ (名) 共有。一つの物(子供なら玩具など)をふたり以上で共有すること。那覇では kaataa という。~ sjuN. 共有する。~ ʔsi ʔaʃibee. なかまにして遊べよ。
- cuuma=juN**Ⓞ (自 =raN, =ti) 強まる。強くなる。
- cuumi=juN**Ⓞ (他 =raN, =ti) 強める。強くする。çiru ~. 琴・三味線の弦を締めて音を高くする。
- cuumiNhu'u**Ⓞ (名) [古] [朱明府] 那覇の久米村(kuninda)の古称。
- cuumuN**Ⓞ (名) 中門。中庭を仕切った垣(kaaraʔisigaci が多い)に設けられた門。
- cuumuN**Ⓞ (名) [新?] 注文。元来は ʔa-çiree を多く用いる。

cuunici

cuunici① (名) (彼岸の) 中日。'Ncabi (彼岸祭り) を行なう日。

cuunuhwi'i① (名) きょうの日。cuu の強意。cuuqsicuu ともいう。~ni ?uqtaati ?aminu huti. きょうに限って雨が降って。

cuuN① (自・不規則) 来る。話し手が話し相手の方へ向かって行く場合にもいう。?Nmanu ~. 馬が来る。?amakara cuuru curazurigwaa. あっちから来るきれいなお女屋さん。'wanNin ?iqtaankai cuusa. わたしも君の家へ行くよ。caabira. ごめん下さい。訪問した時のあいさつ。さらに、丁寧には、男は caabira sai. 女は caabira tai. のようにいう。貴人への伺候の場合や、奴婢が言う場合には 'jusirijabira. という。caabitan. (来ました) は室内に入ってからあいさつ。cami. (来たか。cii. ともいう) は目下の来訪を受けた時のあいさつ。coon. 来ている。kuuwa. 来い(kwaa. ともいう)。

cuu'qsicuu① (名) きょうというきょう。大事なきょう。きょうに限って。cuu の強意。~ ?aminu hujuN. きょうに限って雨が降る。

cuusaN① (形) ①強い。力・体などが強い。'joosaN (弱い) の対。cuuku najuN. (力が) 強くなる。?uncinu ~. 運が強い。cuusaru huunaa sjuN. 強いふりをする。強がる。②病気が、重い。③ことばなどが激しい。

cuusici① (名) [古] [休式] 食事。'jašimi ともいう。~ ?usjagijuN. 食事をさしあげる。

cuusiçi① (名) 忠節。

cuusiN① (名) [文] ①注進。②結婚などの仲介・両家の連絡・催促などを行なうこと。また、その者。

cuusiN① (名) 忠臣。

cuuzara① (名) 中皿。中くらいの大きさの皿。suurii ともいう。

cuuzi① (名) ちょうず(手水)。お手洗い。便所を上品にいう語。cuuzee maaga. お手洗いはどころ。

cuuzi① (名) 給仕。また、給仕する者。?u-cuuzi sjuN. お給仕する。

çuuzi① (名) 通じ。便通。

cuuzibaaci① (名) ちょうず鉢。

cuuzidaree① (名) 洗面用のたらい。ちょうずだらい。小さな桶で脚がある。

cuuzinakuu① (名) 洗い粉。

cuuzuuku① (副) たいそう強く。きつく。~ musubuN. たいそう強く結ぶ。

cuwakasi① (名) [一済・一沸] 酒一升。

cuwakasjaa① (名) 一升徳利。一升瓶。

cuweekutu① (名) 大変な事。えらい事。大ごと。一大事。

cuweemuN① (名) 大変なもの。えらいもの。

cuzaa① (名) 一座。一座の人々。

cuzii① (名) 一字。

daa① (感) ⊖物を尋ねる時用いる。おい。ねえ。～ *hudee*. 筆はどこか、筆はどうした。⊖物を請求する意を表わす。おい。ねえ。～ *ziN*. 金をくれ。～ *misiree*. どちら、見せろ。手を出して *daa* というだけでも事がたりる。⊖失敗した時にもいう。しまった。

daagu① (名) だんご。米の粉をこね、小さく丸めて蒸したもの。

daamaa① (名) *daami* の者。

daami① (名) 黒目が白いものにおおわれた、視力のない目。龍眼の実に似ているので *dinganmii* ともいう。

daa'naa① (感) しまった。女が失敗した時に発する語。～ *caa sjuga*. しまった、どうしようか。

dabi① (名) [茶毘] 葬式。沖縄ではもと火葬はなかったはずで、茶毘(だび)をそのまま葬式の意にいったものと思われる。 *cura-ʔudabi*. その項参照。

daci① (名) らち。～ *N ʔakaN*. らちがあかない。

-**daci** (接尾) 世帯を立てる意の接尾辞。 *'winagudaci* (女世帯), *taNkaadaci* (親がいなくて、若い夫婦が主となっている世帯。子供がいてもいう。多く次男・三男の分家したものをいう) など。

dacibin① (名) 水筒のようなもの。乗馬の時に酒を入れ、着物の下から脇腹に掛けるもの。陶製で、胴に密着するように扁平にできており、水筒のようにひもで肩から下げる。

dacigu=nuN① (他 =*maN*, =*di*) 抱きこむ。

da=cuN① (他 =*kaN*, =*ci*) ⊖抱く。腕の中にかかえこむ。 *qkwa* ～. 子供を抱く。⊖奉持する。 *ʔiihwee* ～. 位牌を奉持する。

⊖隠し持つ。 *ʔuhuziN dacoon*. 大金を隠して持っている。

daimui① (副) 体がだるく、元気のないさま。女が妊娠した時の気分など。

daimuN① (名) 手足の力がなく、何の仕事もできない者。役立たず。また、だるそりにしている者。元気の無い者。

dajaa① (名) *daimuN* と同じ。

dajabiru① (連詞) です。であります。でございます。他の活用形はあまり用いない。平民が用いる語。士族の *deebiru* というのと同じ。 *cuuja 'iitin'ci* ～. きょうはいいい天気でございます。

da=juN① (自 =*raN*, =*ti*) だれる。疲れて力がなくなる。

daki① (名) 竹。種類としては、 *maataku* (だいさんちく。りょくちく。竿・建築用材などにする), *kusaN* (ほてい竹), *'Nzatak* (蓬来竹。ざるなどを作る), *'janbarudaki* (琉球竹。篠竹。 *cinibu*, 屋根などに用いる), *deemjoo* (寒山竹), *karak* (またけ。公儀用として王室で用い、また、鹿児島に移出する) などがあげられる。

dakibooci① (名) 竹箒。

dakibuci① (名) 竹ぶき (の屋根)。 *'janbarudaki* の小枝でふいた屋根。 *kajabuci* (茅ぶき) よりもずっと上等で、耐久力が強い。

dakidun① (名) 竹富島。八重山群島の島の名。また、そこの部落の名。武富。《地》参照。

dakigaci① (名) 竹垣。竹のいけがきの場合もある。

dakigaku① (名) 竹の囲い。屋敷などの周囲を竹で囲った垣根。

dakijuka

dakijuka① (名) 竹で作ったゆか。竹床。

dakikuzi① (名) 竹の釘。

dakinukaa① (名) 竹の皮。

dakinukaasaba① (名) 竹の皮で張ったぞり。貴族用・士族女子用とされた。

dakinuqkwa① (名) 竹の子。

dakinuzii① (名) 竹の幹の中空の部分。ziiは髓。

dakinçiibuu① (名) 竹のつぼ。竹筒。竹を切って器としたもの。

dakiʔubi① (名) (桶などの) 竹製のたが。

dakiziihwaa① (名) 竹のかんざし。喪中に女が用いる。tumiともいう。

dakucaku① (名) rakucakuと同じ。

dakudaku① (副) 心臓が鼓動するさま。どきどき。ʼNni～。胸がどきどき。

dakumi=cuN① (自 =kaN, =ci) どきんとする。動悸をうつ。「だくめく」に対応する。

dakuzaku① (名) 大工廻。《地》参照。

dama=juN① (自 =raN, =ti) 黙る。沈黙する。damaiciqcooN。黙りきっている。

damasiʔuci① (名) だまし討ち。

dama=sjuN① (他 =saN, =ci) だます。あざむく。

dami=juN① (他 =raN, =ti) (「彩む(だむ)」に対応する) ⊖筆で上から、なぞる。⊖陶器に、らわぐすりを施す。漆器の上塗りをする。⊖俳優などが、顔にくまどりをする。

dana① (名) 田名。《地》参照。

dani① (副) [文] まことに。本当に。ʔurikurin ʔicin ~ ʃiran ʔariba, ʔucini ʼwakaʔazi kakurijai ʔimen. ʼugadi ʼwaga kutuba makututumurariri. [おれこれも言ちも だにすらぬあれば 内に若按司 隠れやりいまいん 挿でわが言葉まことと思られれ (忠臣身替)] いろいろ言っても本当にしないのであれば、中に若君がいらっしやるから、お目にかかってわ

たしのことを本当と思われよ。

daniju① (副) [文] まことに。げに。また、しっかりと。もちろん。miminu niju ʔasati ~ cicitumiri. [耳の根よあさてだによ聞きとめれ(執心鐘入)] 耳の穴をほじってしっかりと聞け。nasiʔujaja ~ hwiciharoozimadin ʔunu sudati mişeru…[なし親やだによ 引はらうち迄もおの素止めしやいる…(孝行之巻)] 生みの親はもちろんのこと、親戚までもその養育をして下さるといふ…。

danuN① **naraN**① (句) 段違いである。比べものにならない。想像もできない。~ qcu. 段違いの人。~ ʼwaza. 言語に絶するわざ。

dan① (名) ⊖段。壇。階段。⊖段。等級。

danuu① (名) ⊖金魚の一種。らんちゅう(蘭錦)。体は短くて太い。⊖小びと。侏儒。一寸法師。

dandan① (名) 大層。仰山 ~nu ʔututumuci. 大層なおもてなし。~nu kutu ʼjasa ʼjaa. ご大層なことだねえ。

dangasa① (名) [蘭傘]、洋傘。こうもりがさ。rangasa, kaabujaagasaともいう。

dangawai① (名) 段違い。けた違い。

dango① (名) [文] 談合。話し合い。相談。~ju sjabira. [談合よしやべら(忠臣身替)] 相談をしましょう。

dankan① (名) 欄干。てすり。rankanともいう。

danna① (名) だんな。主人。廃藩後の調査・役人などは danna と呼ばれた。ʔutumuzurasadu danNazurasa. お供が立派だとだんなも立派に見える。

danpaçi① (名) [新?] 断髪。誤って ranpaçi ともいった。

danpu① (名) ランプ。ranpuともいう。

danzama=juN① (自 =raN, =ti) 黙りこむ。黙る。ʔiqpooni hwicinati danzamati ʼuşin çiitee. [一方に引きなて だんぎや

まで居すんついてや (大川敵討) 一方に引きさがっておし黙っているのでは。

danZamuNza① (副) ぶつぶつ。ぐずぐず。不平不満をもらすさま。

danZu① (副) なるほど。いかにも。げにこそ。～ *tujumariru nagunu bandukuru*, *maçitu gazimarunu muteisakei*. [だんじゆとよまれる 名護の番所 松とがずまるの もたえさかえ] なるほど名護の番所は評判されるだけのことはある。松とガジマルが美しく茂っている。～ *karijusija ʔiradi sasimişeru*, *ʔuninu çina turiba kazija matumu*. [だんじゆかれよしや いらでさしみせる お船の綱取れば 風やまとも] いかにもめでたい吉日を選んでなさることだ。お船の綱を取れば、風は順風である。ʔisjatuu ʔisjatuu *ziramiigaa*, ʔjubinu *nukuee nuu kwatagaa*. ʔakamaamiidu *kwataru*. ~ga *kusu hwiçcaru*. かまきり、かまきり、いほじろう、ゆうべの御飯の残りは何を食べたか。あずきを食べた。なるほどそれで、下痢をしたのだ。(童謡)

daQcoo① (名) らっきょう。

daraa① (名) だらしない者。だらけ者。

daraakwar'aa① (副) だらだら。のらくら。だらしないさま。

daradara① (副) だらだら。液体が続いて垂れるさま。ʔasinu ~ *nagarijun*. 汗がだらだら流れる。

dari=juN① (自 =raN, =ti) *dajun* と同じ。

darumi① (名) 関節。～nu ʔjootoon. 関節が弱っている。

darusaN① (形) だるい。だるい箇所によって、*kubidarusaN* (首がだるい), *tiidarusaN* (手がだるい), *hwisjadarusaN*. (足がだるい)などと言い分けることが多い。

daruu① (名) だらしない者。だらけ者。また、いくじなし。daraa ともいう。

daruukwaruu① (副) だらだら。だらしのないさま。なまけるさま。～ *Qsi hazirinu neeraN*. だらだらしていて、きびきびしたところがない。

dasi① (名) だし。煮出し。味を付けるために煮出した汁。

dasica① (名) 灌木の名。木質が緻密で堅く、杖にする。

dasicaaguu'sjan① (名) *dasica* の木で作った杖。guusjan は杖。

dateemaa① (名) 大きなもの。kuuteemaa (小さなもの) の対。

dateeN① (名・副) 大きく。大いに。うんと。kuuteeN (小さく) の対。～ ʔabiree. 大きくさけべ。ʔwarabinu ~ *najun*. 子供が大きくなる。～na *mun*. 大きなもの。～ *tideejun*. うんとごちそりする。

dazaku① (名) 懦弱。怠惰。～na *mun*. 怠け者。

dee① (名) 題。詩歌文章などの題目。

dee① (名) 台。物を載せて置く台。

dee① ⊖(名) 代。世代。～ *hwijun*. 代を経る。⊖(接尾) ʔicidee (一代), *nidee* (二代) など。

dee① (名) 代。代価。

deebiru① (連詞・不規則) です。でございませす。他の活用形はあまり用いない。ʔiitiŋci ~. よい天気でございます。

deeciree① (名) 大禁物。大変忌むべきこと。祝賀の席で不幸の話をする事など。ciree はしてはならぬこと。

deedakaa① (名) 高価な物。代金の高い物。deedakamun ともいう。

deedakamun① (名) 代価の高い物。

deedee① (名) 橙。ʔinkunibuu ともいう。

deedee① (名) 代代。～ *sugurimuNnu ʔNzitoon*. 代代すぐれた者が出ている。

deedeekunibu① (名) 橙。deedee と同じ。

dechwirimajaa① (名) 代を経た猫。年数

deehwirimuN

を経た化け猫のような猫。<dee hwijun (代を経る)。

deehwirimuN① (名) 代を経た者。

deeʔici① (名) 第一。何よりも大切なこと。最初にすべき事。

deejasii① (名) 代価の安い物。安物。

deeka① (名) 代価。代金。

deekaN① (名) 大寒。二十四節の一つ。

deeku① (名) 大工の棟梁。普通の大工には ʂeeku という。首里には deeku は指折り数えるほどしかおらず、地方の大工は皆 ʂeeku といった。

deeku① (名) 植物名。だんちく(暖竹)。よしたけ。海岸などに生える。いけがきなどにする。

deekugaci① (名) だんちくの垣根。

deekuni① (名) 大根。ʔuhuni ともいう。

deekunigaNsaa① (名) 大根の根と葉との間の堅くて食べられない部分。転じて、がんこ者。単に gaNsaa ともいう。

deekuniʂirii① (名) 大根をおろすおろしがね。ʂeegana ともいう。

deekuniʂiriʂirii① (名) 大根おろし。大根をすりおろしたのもの。

deemjoo① (名) [大名] ⊖貴族。samuree (士族), hjakusjoo (平民) に対する。昔地方で一城の主であった按司(ʔazi) たちが、中央集権によって首里に集められ、ʔuduN [御殿], tuNci [殿内] の主となつて、deemjoo と呼ばれるようになった。⊖竹の一種。寒山竹。

deeni① (名) 代価。値段。deenee caaga. 値段はいくらか。hananukookara kakiti ʔumisjooree, deenee ʔiransa. [花の香から かけて売みしようれ だいねや言らんさ(茶売節)] 花の香(茶の名)をはかりにかけて売って下さい。値段はかまいません。ʔiran (言わぬ) は那覇語。

deenna① (連体) 大変な。大した。~ kan-gee. 大変な考え。~ kutu ʔaqsaa. 大

したことだよ。

deeri① (名) 代理。他人に代わって事を行なう者。名代。

deeʔu① (名) 大雨。

deezi① (名) 大変。大ごと。~na. 大変な。~ najun doo. 大ごとになるぞ。

deezu① (名) 台所。simu ともいう。

-de`munu (助) [文] …であるから。…なので。dijoori の項の例文参照。

-de`nʂi (助) [文] さえ。すら。だに。ʔumu-kazinu~ tatana ʔuci kwiriba, ʔaʂirijuru hwiman ʔajura ʔaʂiga. [面影のだいんす 立たな置き呉れば 忘れゆる暇も あゆらやすが] 面影さえ浮かばないでくれたら、忘れる暇もあろうのに。ʔadanigaci~ sudi kakiti hwicui, danzu mutubireja ti tuti hwicusa. [あだに垣だいんす 袖かけて引ちゆい だんじゆ元びらいや 手取て引ちゆさ] 縁のないあだにの垣さえ袖をひっかけて引く。それでもいかに昔なじみの人は手を取って引くのだ。

dii① (感) いざ。さあ。目下に対し誘いかける語。目上には ~ sai などという。~ ʔika. さあ行こう。~ sai ʔicabira. さあ行きましょう。

dii① (名) rii (利・利子) と同じ。

diidii① (感) ⊖さあさあ。人を強く誘う語。⊖「じょう談はよしてくれ」と人のじょう談に軽く抗議するときの語。目上には dii sai の dii を強く引いていう。

diigu① (名) 梯栝。旧暦4月ごろ、蝶形の、大きい、深紅の花を開く。沖縄の国花とされた。木材ではいろいろの器具を作る。

diisnbaaja① (名) [新] 電信柱。

diizin① (名) riizin (霊前, 位牌) と同じ。

dijooaru① munuja① (句) [文] [出様来る者や] 出て来た者は。まかりいでたる者は。組踊りの用語。

dijoori① (白) [文] いでよ。出会え。敵を

呼び出す語。'jaa 'eezi, miminu niju
 ʔakiti miʂiku ciciugami, tamamuranu
 ʔazinu mijuçizinu ʔumigwa, ʔugaga
 'jumukubija ʔunuzumiju demunu, ʔi-
 suzi kubi susuti ~ ~. [やあ八重瀬 耳
 の根よあげて みすく聞拜め 玉村の按司
 の 御代継の思子 おががよも首や お望
 みよだいのもの 急ぎ首そそて でやられで
 やられ (忠臣身替)] やあ八重瀬, 耳をほ
 じってよくよく聞け。玉村の按司の代継ぎ
 の若様が, おまえの首を御所望だから, 急
 いで首を洗って出会え出会え。

dijukuⓄ (名) rijuku (利欲) と同じ。

dikadikaⓄ (感) [文] さあさあ。いざい
 ざ。~ mijarabi ʔaʂibikai. [でかでかみ
 やらべ 遊びかえ] さあさあ娘たち遊びに
 行こう。

dikajoⓄ (感) [文] いざ。さあ。口語は
 diqkaa。~ ʔusiçiriti nagamijai ʔaʂi-
 ba. [でかよおし連れて 眺めやり遊ば]
 さあ連れだつて眺めて遊ぼう。

dikasiⓄ (名) りまく行くこと。成功。利益
 を得ること, 幸福を得ることなど。~ 'jan.
 成功だ。

dika=sjunⓄ (自 =saN, =ci) でかす。りま
 く行く。成功する。利益・幸福などを得
 る。

dikiʔaga=ju`NⓄ (自 =raN, =ti) でき上
 がる。

dikijaaⓄ (名) できぶつ。秀才。

diki=junⓄ (自 =raN, =ti) ⊖ (学問など
 が) よくできる。⊖ (農作物が) よくでき
 る。⊕ りまく行く。よくできる。成功す
 る。また, 上等に仕上がる。ʔaʂibinu
 dikitooN. 遊び (演芸) がりまく行ってい
 る。dikita dikita. [文] でかしたでかした。
 あっばれあっばれ。

dikizaataaⓄ (名) よくできた砂糖。上等
 に仕上がった砂糖。

dinⓄ (名) 蓮。はす。riN ともいう。~nu

hwaa. はすの葉。

dincaaⓄ (名) riNcaa と同じ。

dinciⓄ (名) riNci と同じ。

dindeeⓄ (名) riNdee と同じ。

dindooⓄ (名) 伝道。《地》参照。

dinɡakuⓄ (名) [田楽] 料理の名。taa-
 ʔnmu (田芋。里芋のようなもの) を煮て,
 皮をむき, 砂糖やごまをまぶしたもの。首
 里・那覇では正月用の料理。

dinɡaNⓄ (名) riNɡaN と同じ。

dinɡaNmiiⓄ (名) 黒目が白いものにおお
 われた, 視力のない目。龍眼の実に似てい
 るのでいう。daami ともいう。

dinɡunⓄ (名) 伝言。ことづて。ʔijai と
 もいう。

dinkwaaⓄ (名) riNkwaa と同じ。

diqkaaⓄ (感) さあ。では。いざ。誘いか
 ける時発する語。'uuhuu, 'oohoo, 'iihii
 などともいう。それらの項参照。~ sai
 ʔicabira. さあまいりましょう。~ ʔika.
 さあ行こう。

diqpaⓄ (名) riqpa (立派) と同じ。

diqpukuⓄ (名) 立腹。腹を立てること。
 腹が立つこと。riqpuku ともいう。~
 sjun. 立腹する。kusamicun ともいう。

diqsinⓄ (名) ⊖ 立身。⊖ 嫁に行くこと。
 riqsin ともいう。~ sjun. とつぐ。

donⓄ (副) どん。太鼓の音など。

dondonⓄ (副) どんどん。太鼓の音のさ
 ま。

donmika=sjunⓄ (自 =saN, =ci) どんとい
 う音を立てる。

dooⓄ (感) どう。馬を制止する声。

dooⓄ (名) ろろそく。roo ともいう。

dooⓄ (助) ぞ。だぞ。nusudu ~。どろ
 ぼうだぞ。'jaqciini nuraarijun ~。に
 いさんに叱られるぞ。

doocuⓄ (名) [道中] 道中。また, 単に徒
 歩の旅の意。

doodinⓄ (副) どうぞ。なにとぞ。どうか。

doodoo

～ ʔaca Qci kwiri. どうぞあした来てくれ。

doodoo①(感) 結婚式の夜、花嫁が花婿の家に来た時、花婿の友だちが花婿を擁して、花嫁の部屋へ押しかける。その時の掛け声。三三九度の式に臨むのに際して、花婿を馬に乗せたつもりの声である。

doodoo①(感) どうどう。馬を制止する声。

doogu①(名) ㊦道具。㊦とくに、茶器。cawaⁿdoogu は食器一般。

dooguhjoogu①(名) あらゆる道具。道具一切。

dooguma'sai①(名) 道具がよいこと。ʂe-ekoo ~. 大工仕事は腕よりも道具。

dookusu①(名) ほくそ。ろうそくの燃えがら。rookusu ともいう。

dooma①(名) 老もろ。もうろく。rooma ともいう。～ sjoon. もうろくしている。

doona①(名) 童名。'warabinaa ともいう。元服して名乗り(nanui)をする前の名。taruu(太郎), ziruu(次郎), saⁿ-duu(三郎)など。naa(名)の項参照。

doori(名) 道理。すじみち。

doosa①(名) 明礬(みょうばん)。doosaa, roosaa ともいう。

doosaa①(名) doosa と同じ。

doosi①(名) 明礬石。roosi ともいう。

-du(助) ぞ。こそ。強意の助詞で、ふつうあとを連体形で結ぶが例文に見るようにそうでない例もある。-nu(が), -ga(が)のあとにも付きうる。'waⁿ~ 'jaru. わたしなのだ。'waaga~ 'waqsaru. わたしが悪いのだ。niizamun~ 'jaʂiga, maakumaaku kanagiisa. まずいものなのにおいしそりに食べてるよ。sirihwici-meehwici qsi ʔumuinu~ ʔaee sani. 身辺をうろろろして、気でもあるのだろろか。kumanakai~ 'urui. ここにいるのか。sii~ sjurui. するのか。

-du(接尾) 度。回数を表わす接尾辞。ʔici-du(一度), naⁿdu(何度)など。

du=cun①(自 =kaⁿ, =ci) のく。どく。立ちのく。その場から離れる。nucun ともいう。ʔiqtaa taeē dūkee. おまえたちふたりはどけ。

dugeeikuru'bi①(副) 盛んに転ぶさま。

dugee=juⁿ①(自 =raⁿ, =ti) 転ぶ。duu(胴・体)が keejuⁿ(返る)の意か。kurubun ともいう。

dugwai①(名) rugwai と同じ。

dukasiree①(感) こら。いたずらっ子などをおどす語。~, nama ʔnmai. こら、まだそこにいるか。

duki=juⁿ①(他 =raⁿ, =ti) のける。どける。

dukina=juⁿ①(自 =raⁿ, =ti) 避ける。わきへどく。

dukina=sjuⁿ①(他 =saⁿ, =ci) のける。どける。しりぞける。

duku①(名) ㊦毒。毒物。dukoo ~saani keesi. 毒は毒をもって制せよ。㊦毒。有害なこと。ʔjuru ʂijuni ʔutariisee ~ 'jantisa. 夜、露に打たれるのは毒だとさ。

duku①(名) ruku(六)と同じ。

duku①(副) あんまり。ひどく。過度に。nugaʂi ~ kaneru 'waga sumiru kanaja, sumiriwan ʔasazi ʔiruⁿ ʂikaⁿ. [のがすどくかねる わが染める罎や 染めればも浅地 色も着かぬ] どうしてこうまでもわたしの染める罎(恋人)は、染めても色がつかない(反応がない)のか。

dukugeesi①(名) 毒消し。毒気を解き消すこと。-geesi<keesjuⁿ. ~ sjuⁿ. 毒を消す。

dukugusui①(名) 毒薬。

dukugwaçi①(名) rukugwaçi と同じ。

dukunici①(名) rukunici と同じ。

dumaⁿgwa=sjuⁿ①(他 =saⁿ, =ci) うろたえさせる。あわてさせる。

dumaⁿgwicima'ngwi①(副) うろたえ騒

ぐさま。周章狼狽。

dumaNgwi=junⓄ (自 =raN, =ti) うろたえる。あわてる。狼狽する。

-**dumi** (接尾) 妻の意を表わす接尾辞。sacidumi?atudumi (前妻と後妻) など。

-**duN** (助) 強意の助詞。kuri~ 'wašInna. これを(しも)忘れるな。makutu~ 'jaraa. まことにしあらば。もしも本当なら。?ariga~ musika 'wasata~ sjuraba. [あれがどももしか 我沙汰どもしゆらば] もしも彼女がわたしの話をでもしたなら…。kaci~ šee. もし書けば。kakee (書けば)の強意。

duNbuinucašiiⓄ (名) どんぶり料理を持ち寄ってする宴会。

duNburiⓄ (名) どんぶり。

duNnamuNⓄ (名) 鈍な者。のろま。

duNnasanⓄ (形)のろい。鈍い。愚鈍である。

duNsiⓄ (名) どんす(緞子)。王族貴族用。

duNsuⓄ (名) duziN (胴衣)の美称。?ataiunu nakagu masiru hwicisaruci, tabini meru satuga dunsbakama. [あたい芋のなかご 真白ひき晒ち 旅にまいる里が どんしゆばかま] 後園に作った芭蕉のしんの糸を真白にさらして、旅に行く我が背子の胴着とはかまを作りましょ。

duqpekuⓄ (名) ruqpjaku と同じ。

duqpekugun'zuuⓄ (名) ruqpjakugun-zuu と同じ。

duqtuⓄ (副) duudu と同じ。

duragwiiⓄ (名) どら声。

duruⓄ (名) 泥。水をおびて柔らかくなった土。

durubisjaⓄ (名) 泥足。

durubuqtaaⓄ (名) 泥だらけ。泥まみれ。

duruduruⓄ (名) どろどろ。泥のように柔らかなさま。

durugwaqtaiⓄ (名) ぬかるみ。泥濘。

durumiciⓄ (名) 泥道。

durumiziⓄ (名) 泥水。

durumutaaNⓄ (名) 泥あそび。泥いじり。

duruwakasiiⓄ (名) 料理の名。田芋 (taa-?Nmu)・田芋のずいき (taamuzi)・こんにやく・揚げ豆腐などをどろどろに煮こんだもの。

dusadusaⓄ (副) ⊖どさどさ。どしんどしん。大勢の足音など。⊖どきどき。動悸を打つさま。'Nni ~. 胸がどきどき。

dusamika=sjunⓄ (他 =saN, =ci) ⊖どろかす。どしんと音を立てる。sikiN ~. 世間に大きな評判を立てる。⊖(胸を)どきんとさせる。

dusiⓄ (名) 友。友だち。仲間。

dusibireeⓄ (名) 友だち付き合い。-biree <hwiree。

dusikugeeⓄ (名) 友だち付き合い。交友。

dusimuçiriⓄ (名) 友人と親くなるあまり、他をかえり見ないこと。

dusiruⓄ (名) 身代金。人身売買の金。duuganee ともいう。sjuiwarabi nusudi, nahwawarabi nusudi, kunzaNni ?ujai, nakugamini ?ujai, takadusiru ?utidu, takadusiru tutidu. [首里童盗で 那覇童盗で 国頭に売やい 中頭に売やい 高どしろ売とど 高どしろ取とど (女物狂)] 首里の子供を盗み、那覇の子供を盗み、国頭に売って、中頭に売って、高い身代金で売って、高い身代金を取って…。~ ?irijun. 身代金を払う。

dusudiiⓄ (名) 着物の一種。そでの狭い、女の不断着。

dusudimeeⓄ (名) dusudii の服装。tana-si (夏の礼服) や 'wataziN (冬の礼服) のない婦人が、dusudii で間に合わせることなどをいう。

duuⓄ (名) [胴] ⊖体。~ teesici qsi 'joo. 体を大切にしろよ。~ mucitoosjun. 体をこわす。~ mucijanZUN. 身をもちくずす。品行悪く、墮落する。~ dacun.

duu

イ。(負傷などで)家に引きこもる。ロ。(衣類・夜具などが)体にぴったり合う。～N dakan. (着物が)だぶだぶである。⊖自分。自身。また、自分の体。～nu cikara. 自分の力。自力。～nu 'jaa. 自分の家。自宅。～nu kutoo kangeetidu, qcu-nu kutoo kangeejuru. 自分のことを考えてから、ひとのことは考える。～nu ?wii. 自分の身の上。qcuunu ?wiiindi ?umutootaşiga, ～nu ?wii natoon. ひとの身の上のことと思っていたが、わが身の上のことになった。～ja caaga. イ。体はどうか。ロ。自分自身はどうか。～mucigurisan. イ。体をもてあます。ロ。自分(の体)をもてあます(duumucigurisanとは別)。～'juhwijun. (自分を)身請けする。身代金を出して自由の身となる。～?icibuNnu kurasii. 自分ひとりの生活。

- duu**Ⓞ (名) ruu (籠)と同じ。
- duu?agaci**Ⓞ (名) 自活。自分で働いて暮らすこと。
- duu?agami**Ⓞ (名) 自己崇拜。自分を偉いものと思い、またそらふるまうこと。うぬぼれ。duu?ujamee ともいう。
- duu?akagai**Ⓞ (名) 自己暴露。自分のした事を自分であらわにすること。
- duu?atai**Ⓞ (名) 自分の心に当たること。人の言を聞き、自分の事を言われたように感じ、恥じたり恨んだり怒ったりすること。～sjun.
- duubanmee**Ⓞ (名) 自分で弁当(または食糧)を持って行くこと。弁当(食糧)持参。
- duubeeree**Ⓞ (名) 人に危害を加えようとして、かえって自分がけがすること。
- duubui**Ⓞ (名) 体を前後左右に振り動かすこと。～kuuzun. 盛んに体を振り動かす。
- duubuku**Ⓞ (名) 道服。羽織。男子用。
- duubumii**Ⓞ (名) 自分をほめること。自

- 談。ひとりよがり。
- duubuni**Ⓞ (名) 体の骨。～'janun. 骨が痛い。疲れた場合にいう。
- duubuninoosi**Ⓞ (名) 骨休め。慰労のため酒を一杯やることなど。
- duucu'i**Ⓞ (名) 自分ひとり。
- duucui?aqci**Ⓞ (名) ひとり歩き。
- duucuigurasi**Ⓞ (名) ひとり暮らし。
- duucuikurubi**Ⓞ (名) ひとり寝。
- duucuiimunii**Ⓞ (名) ひとりごと。独語。
- duueuimuN**Ⓞ (名) ひとり者。独身者。また、孤独な者。ひとり暮らしの者。
- duucuiwaree**Ⓞ (名) ひとり笑い。
- duucuu**Ⓞ (名) ruucuu と同じ。
- duudu**Ⓞ (副) はなはだ。非常に。とても。ずっと。比較してずっとよい場合に多く用いる。duqtu ともいう。悪い場合・劣る場合には **zooi** という。～mişirasii muN. 非常に珍しいもの。～curasan. ぐっと美しい。
- duugana**Ⓞ (名) 次の句で用いる。～kanajuN. 体がかなう。体が丈夫でよく働ける。duugara kanajuN. ともいう。
- duuganee**Ⓞ (名) 身代金。dusiru の方を多く用いる。
- duugaQsan**Ⓞ (形) 身軽である。身が軽くよく働く意に用いる。
- duugaQti**Ⓞ (名) 自分勝手。身勝手。
- duugara**Ⓞ (名) duugana と同じ。
- duugumaşii**Ⓞ (名) 海外で死んだ、遺骨のない者の霊をとむらうために、海辺の小石を拾って祭る行事。龍宮祭り。
- duugurisan**Ⓞ (形) ⊖(人に面倒や迷惑をかけた時などに)心苦しい。duugurisaşjun. 心苦しく思う。恐縮する。⊖むずかしい。困難である。
- duuhara**Ⓞ (名) 自分の腹。次の句で用いる。～'janun. ほぞをかむ。くやしく思っ苦しむ。
- duuhwi**Ⓞ (名) ruuhwi と同じ。

duuhwizujaa① (名) 冷え性の者。

dunjahwarasaN① (形) 体が弱い。

duujaNzi① (名) 自分のやりそこない。自分の失敗。

duujaQsaN① (形) ①たやすい。容易である。②(気分・生活などが) 楽である。安らかである。duujaşiku 'iree. 楽に坐れ。duujaQsa sjoon. 暮らしが楽である。

duujaşii① (名) ぞうさないもの。たやすくできるもの。

duujaşimuN① (名) 容易なこと。やさしいもの。

duujaşi'qtecN① (副) やすやすと。たやすく。容易に。'jaşiqteen, 'jaşijaşitu などともいう。

duujoo① ①(名) 同様。～na kutoo manin ʔaN. 同様なことはどこにもある。②(接尾) 同様。'wikigaduujoo (男同様), ʔujaduujoo ʔumujun. (親同様に思う) など。

duuju'i① (名) 自分ゆえのこと。自業自得なこと。

duu=jun① (他 =raN, =ti) 同意する。賛成する。suujooNkai duuri. 皆に同意しろ。'NnaNkai ~. 皆のいうことに従う。

duujuu① (名) 土用。一年に四回あるが、普通は夏の土用をいう。

duukaNgee① (名) 自分だけの考え。独断。

duukuru① (副) 自分で。自分自身で。-kuru は「自身で」の意を表わす接尾辞。

duukurubi① (名) ①(人に転ばされるのではなく) 自分で転ぶこと。②老人・子供などが、世話する者もなくひとりほりりっぱなしにされていること。

duukurujuui① (名) 自分で髪を結うこと。

duukuruzukui① (名) 自製。手製。

duukweegutu① (名) 自滅的行為。自縄自縛のこと。

duumakanee① (名) 自弁。(食費などを) 自分で負担すること。

duumee① (名) 自分のすべき仕事。自分の持ち前。～ habaki. 自分のすべきことを早くかたづけよ。

duumişi'gara① (名) 自分の身一つ。母親が子供を連れずに単身で遠くへ行く場合などにいう。単に mişi'gara ともいう。

duumuci① (名) 自分持ち。自弁。

duumucigurisaN① (形) 居づらい。折り合いが悪いなどのために、生活がしにくい。duu mucigurisaN (自分をもてあます) とは別。

duu'mucinai① (名) 身のこなし。立居ふるまい。ものごし。～nu 'jutasjan. 身のこなしがよい。

duumucizuku① (名) 身のふりかた。暮らしかた。なりわい。

duumui① (名) 子供がお守りなしでひとりで遊んでいること。自分で自分の守りをする意。

duumura① (名) [同村] maziri[間切]の名と同じ名の mura (村)。たとえば具志頭間切 (gusicaNmaziri) には具志頭、金武間切 (cinmaziri) には金武のように、各間切には、間切名と同じ村、すなわち duumura があつた。

duunaa① (名) ①自分たち。その人たち自身。また、銘銘。～ja ʔaşidooti qcu çukajuN. 自分たちは遊んでいて人を働かせる。②自分たち。われわれ。やや格式ばっていう語。多くの場合、話し相手を含まない。～ja hugaqtin 'jaibiiN. われわれは納得できません。

duunaakuru① (副) 自分たちで。また、銘銘で。自分自分で。～ qsi. 自分たちでしろ。

duunaamunugatai① (名) 銘銘が勝手に話をすること。

duunii① (名) うめくこと。うんうんうんすること。～ sjun.

duuniikama'ni① (副) うめき声で苦痛を

duuʔNbusan

まぎらわすさま。小さくうめき声を発するさま。

duuʔNbusanⓐ (形) (病気で) 体が重たい。自分の体を重く感じる。

duuooganasiⓐ (名) ruuooganasi と同じ。

duusibuiⓐ (名) 肌着。hadasibui ともいう。

duuʔigariⓐ (名) 自分に頼ること。自己算段して用をたすこと。

-duusjaaⓐ (接尾) 同志の意を表わす接尾辞。ʔujaduusjaa (親同志), qkwaduusjaa (子同志) など。

duutakabiⓐ (名) 高ぶること。尊大にかまえること。

duutaNⓐ (名) とたん。亜鉛鉄板。

duuteeⓐ (名) 胴体。

duuʔuiⓐ (名) 身売り。身代金に代えてわが身を売ること。

duuʔujameeⓐ (名) 自尊。自分を偉いもののように思い、またそうふるまうこと。うぬぼれ。duuʔagami ともいう。

duuwacareeⓐ (名) 面倒な仕事を人に頼まずに自分ですること。

duuziiraⓐ (名) 体をいためること。ʔijuN (入る) とともに用いる。siira の項参照。～ ʔijuN. 体をいためる。病気になる。

duuzi=juNⓐ (自 =raN, =ti) 動ずる。臆する。肯定の形ではあまり用いない。duuzi-raN. 動じない。臆しない。maan duuzi-raN. どこも恐れない。

duuzoosiciⓐ (名) 自炊。zoosici は炊事。

duziNⓐ (名) [胴衣] 肌着の上に着る、たけの短い下着。じゅばんに似たもの。もとは下着ではなかったが、のちにはその上にʔwaabooi を付けたので下着となった。kakaN と合わせて着る。

duziNkakanⓐ (名) duziN と kakan。

Teē① (感) おい。もし。目下の者へ呼び掛ける語。目上へは、男は ~ sai, 女は ~ tai と呼ぶ。非常に丁寧には、男は ~ sari, 女は ~ tari という。目下の長老へは ~ naa という。~ ?ansii。もし、おかみさん。

Teē② (名) ㊦うち。taruutu ziruuga ~ taagana kuuwa。太郎と次郎のうちだれかが来い。?jaaja taaçinu ~ ziru tui-ga。おまえは二つのうちどれを取るか。?usakiinu qçunu ~nee nusudunu 'uiga sjura 'wakaraN。それだけ多くの人のうちには泥棒がいるかもしれない。㊦間(ま)。しばらくの時間。~nu ?aN。間がある。~N neen cuusa。間もなく来るよ。niibici qsi ~N neendidu ?umuisiga, ?iina boozaa ?Nmaritaru basjui。結婚して間もないとばかり思っていたのに、もう男の子が生まれたのか。

Teē③ (名) 藍。藍色染料の原料となる植物。

Teebicaa④ (名) 魚の名。刺身などにする、長さ20センチほどの藍色の魚。

Teeci⑤ (名) [文] [相気] 互いに気が合うこと。?zakamuimijuja ?amici ~ natuti, tuci taganu ?amiga huriba 'jugahu。[おぎやかもゑ御代や 天地相気なとて 時たがぬ雨が 降ればよがほ] 尚真王の御代は天地も気をそろえて、時節にたがわぬ雨が降れば豊年となる。

Teēgi'bu⑥ (名) 藍壺。藍汁を貯えておく甕。

Teedi'iru⑦ (名) 藍の葉で作った染料を入れておく竹のかご。tiiru はかご。

TeēTeē⑧ (感・副) おおい おおい。遠くから呼びかける語。~ sjun。(遠くから)おおいと呼びかける。

TeēTeē⑨ (感・副) おいおい。もしもし。~ sjun。おいおいと呼びかける。もしもしと呼びかける。

Teegamiga'sa⑩ (名) 藍色に染めた紙を張った傘。貴婦人用の傘で、一般の婦人は白い紙に油を塗っただけの傘を用いた。

Teegasa⑪ (名) 藍色の紙で張ったから傘。

Teegata⑫ (名) Teē?uburuu と同じ。

Teē?iju⑬ (名) 魚名。小さい魚で薬用になる。

Teē?iru⑭⑮ (名) 藍色。

Teē?iruu⑯ (名) 藍色のもの。

Teē=jun⑰ (他 =raN, =ti) あえる。あえものにする。

Teē=jun⑱ (自 =raN, =ti) 乳・膿などが、出る。したたり出る。ciinu ~。乳が出る。

Teeku⑲ (名) 胎児がものに感応して、何かの動物に似て畸形などに生まれること。?usazinu ~。三つ口。兎唇。saarunu ~。口のとがった子など。takunu ~ sjoon。たこの申し子として生まれている。骨無しのかたわである。

Teeku⑳ (名) 櫂。舟を漕ぐもの。?weeku ともいう。

Teekwee㉑ (名) [古] 言い合い。言い争い。~N neeN。言い争いもない。円満である。平和である。

Teenec㉒ (副) あるいは。~ ?anga 'jara 'wakaraN。あるいはそうかもしれない。

Teenuhana㉓ (名) 藍汁に生じる泡。表面に美しく花のように浮かぶのでいう。

Teenuzumi㉔ (名) 相惚れ。相愛。互いに結婚を望むこと。

Teeraasjan㉕ (形) 愛らしい。(子供などが)かわいらしい。

Teeroo㉖ (名) 藍蠟。染料の名。薄水色に

Yeesaçi

染めるもの。

Yeesaçi① (名) あいさつ。出会った人へのあいさつにも, *cuu 'uganabira*. (こんにちは。目上へ), *cuu*. (こんにちは。目下へ), *'ii?waaçici deebiru*. (いいお天気です。目上へ), *'jana?waaçici 'jaibiin 'jaa*. (悪い天気ですねえ。目上へ), *?ukutañdin saaibirani*. (お疲れもありませんか。目上の老人へ), *cibajumi* (働いているか。働いている目下の若者へ), *?aşıbumi*. (遊んでいるか。遊ぶ子供に), *taqcoomi*. (立っているか。立っている目下へ), *'icoomi*. (すわっているか。すわっている目下へ), *maakaiga*. (どこへ。どこかへ行く目下へ) などさまざまある。

Yeesibui① (名) 染物の名。藍色のしぼりぞめ。

Yeesjoo① (名) 相性。陰陽家のいう男女の相性。 *?anu taija 'ii?eesjoo 'jan*. あのふたりはよく性が合っている。

Yeesjooguhwasan① (形) 性が合わない。

Yee=sjun① (他 =saN, =ci) (乳・膿などを) 出す。したたらす。「あやす(零す)」に対応する。 *cii* ~. 乳を出す。

Yeesoo① (名) 愛想。 *~nu ?aru qcu*. 愛想のある人。 *~nu 'jutasjan*. 愛想がよい。

Yeesoomuci① (名) 愛想のいい者。

Yeesumijaa① (名) 藍染屋。単に *sumija* ともいう。

Yeeti① (名) ⊖相手。 *~ najun*. 相手になる。 *~ sjun*. 相手をする。⊖同等の力量。甲乙なし。 *~ sjun*. 甲乙なし。

Yeetu① (名) 同等の力量の者。甲乙のない者。いい相手。 *~ 'jan*. いい相手だ。

Yee?uburuu① (名) 藍で染めた模様。型付けで染めるので *?eegata* ともいう。また、その模様の着物。女の夏物にする。

Yeeza① (名) 間。物と物との間。また、あい間。すき間。 *hasirutu hasirunu ~ni ?iibi hasamaqtaN*. 雨戸と雨戸の間に指をはさまれた。

Yeezagaci① (名) 行間の注記。

Yeezi① (名) 呼ぶこと。呼んで誘うこと。 *~ sjun*. 呼ぶ。

Yeezumii① (名) 藍染め。藍で染めたもの。

Yeezuu① (名) [相中] 同僚。仲間。

'e

'ee① (感) へえ。ほう。まあ。軽く感じた時、軽くあいづちを打つ時などに発する。
～ ʔandu 'jarui. へえ、そうかね。まあ、そうなの。

'eecoodee① (名) 婚姻関係による、義兄弟姉妹。

'eedaki① (名) 八重岳。国頭地方、本部半島にある山の名。

'eeʔiqcaa① (感) あらまあ。珍しいことに接した時などに、女が発する語。

'eeʔkicamee① (感) よいしょ。力を入れる時などに、主として男が発する語。

'eema① (名) 八重山群島。

'eemaa① (名) 八重山('eema)の者。卑称。

'eemakaabujaa① (名) 八重山蝙蝠。

'een① (名) 織機の箴(おさ)の種類の名。八よみ。経糸640本を通すもの。またそれで織った布。huduciの項参照。

'eesazii① (名) やせがた。ほっそりした体つきの者。-sazii < sazirijun (そげる)。

'eesugiiともいう。

'eesugii① (名) やせがた。ことに、顔の細い感じの者をいう。'eesaziiともいう。

'eezidaki① (名) 八重洲岳。島尻郡にある山の名。

'eisaa① (名) sicigwaɕeisaaと同じ。その時歌う歌に'eisaaというはやしが入る。

-ga (助) ⊖が。人名・人代名詞などに付いて主格を示す。他の名詞の主格はふつう **-nu** (が) で表わされる。ただし、人を表わす名詞の場合、**-si** に終わる形の場合(逆接の **-šiga** とは別)、その他の場合にも **-ga** の付く例がある。また、**-ga** のあとには **-ja** (は)、**-N** (も)、**-du** (こそ) などの助詞が付いて **-gaa**、**-gaN**、**-gadu** などとなることがある。なお **'waN** (わたし) に付く時は **'waaga** (わたしが) となる。**ʔari~ caN**. 彼が来た。**'waa~ kacaru tigami**. わたしの書いた手紙。**siN-sii~ ʔmensoocoON**. 先生がいっちゃっている。この場合は **siNsiiNu** とも言える。しかし、たとえば **ʔama** (あのかた) の場合は **ʔamanu** と言い、**ʔamaga** とはふつう言わない。**'NndaNši~ masi**. 見ない方がよい。**nuu ʔjatiN kanuši~ ʔami**. 何か食べるものがあるか。**ʔarigaa ʔicusa**. 彼なら行くよ。**'waagaa naraNšiga**, **ʔjaa~ najumi**. わたしにはできないがおまえにできるか。**'jamatuncugaa ʔanee saN**. 日本人ならそうはしない。**'wanjaka hukanee taa~N siran**. わたしよりほかには誰も知らない。**kuree 'waa~N najun**. これはわたしにでもできる。**ʔari~duN musika 'wasataduN sjuraba**. [あれがどももしか 我沙汰どもしゆらば] 彼女がもしもわたしの話でもしたら。⊖の。が。属格を示す。**-nu** の項参照。**ʔari~ sjumuçi**. 彼の本。**sibai 'Nnda-zijaka ʔuqsa~ sisi kamee maa haiga**. 芝居を見るよりはその分の肉を食べた方がどれだけいいかわからない。⊖に。…するために。…しに。動詞の「連用形」に付く。**ʔiju tui~ ʔicun**. 魚を取りに行く。

⊖疑わしさを表わす文に用いて、文の疑わしい部分に付く。あとを推量の形 (**a** で終わる) で結ぶ。述語となる動詞につく場合には「連用形」に付き、あとを **sjura** (するだろうか。ただし否定の場合は **ʔara** あるだろうか) などで結ぶ。**ʔaree tigami~ kacura sjumuçi~ ʔjunura 'wakan**. 彼は手紙を書いているのか本を読んでいるのかわからない。**ʔai~ sjura**. あるだろうか。**tui~ sjabiira**. 取りましようか。**naa kakiʔooraN~ ʔajabiira**. もう間に合わないでしょうか。**ʔaN~ ʔjara**. そうだろうか。**kuree 'waaga ʔjara**. これはわたしでしょうか。**cuu 'ugamu kutuja ʔjumi~ ʔajabiira**. [今日拝むことや 夢がややべいら (花売之縁)] きょうこうしてお会いするのは夢でしょうか。⊕か。疑問を表わし、疑問を表わす語に先行されて、質問文・反語文などの文末に用いる。活用する語に付く場合にはその「短縮形」(apocopated form) につく。ただしそのあとに助詞 **'jaa** (ねえ) が続く時は、疑問を表わす語に先立たれなくてもよい。**'jaa** の項参照。**taamun~**. だれの物か。**taa~**. だれか。**caa sju~**. どうするか。**ʔaamuee nuusaani çukutee~**. 泡盛は何で作ってあるか。

gaa⊕ (名) 我。~ **hajun**. 我を張る。~ **'uurijun**. (我が折れる) 我を折って他に従う。

gaaburaci⊕ (名) 口を大きく開くこと。**-buraci**<**huracun**. ~ **sjun**. 口をバクリとあく。

gaadaga'mi⊕ (名) むだ食い。

gaadagwe'e⊕ (名) むだ食い。**gaadagami** と同じ。

gaee① (名) 綱引き (çinahwici) の時のもみ合い。綱引きの威勢をつけるため、大勢が拳を頭上に交叉して上げ、背中をむけ合ってもみあり。拳を上上げるのは、喧嘩をさけるため。 <gaajun.

gaagaa① (副) (からすなどが) 騒がしく鳴くさま。があがあ。

-gaai (接尾) 相当・匹敵の意を表わす接尾辞。zuuningaai (十人に匹敵すること), 'wikigagaa (男に匹敵すること。男まさり)など。

gaaimun① (名) 威張り散らす者。威勢をふりまわす者。 <gaajun.

gaa=jun① (自 =ran, =ti) ① おごり高ぶる。威勢をふり回す。② 綱引き (çinahwici) の時、東西の若者が踊り狂って、威勢をつける。

gaama① (名) 無茶。無茶な行為。 ~ kakajun. 無茶をする。 kakaran ~ kakajun. ひどい無茶をする。

gaanaa① (名) こぶ。打ちつけてできるこぶ。

gaanaa① (名) 鷺鳥。

gaaradama① (名) 曲玉。nuuru (のろ) などが首に掛けたもの。

gaarahwiçii① (副) がたびし。物がすれ合ったり倒れたりして出る音のさま。

gaatui① (名) [古] 鴨。

gaaza① (名) 我謝。《地》参照。

gaaza① (名) 我喜屋。《地》参照。

gaazuu① (名) 我の強い者。強情者。意地っぱり。

gaazuusa① (形) 我が強い。強情である。

gabu① (名) 我部。《地》参照。

gabusuka① (名) 我部祖河。《地》参照。

gaci① (名) 食いしんぼろ。食をむさぼる者。餓鬼のような者。

gacicaa① (名) ろに。那覇で maasjukwee, 農村で Yunaa というようである。ciirukarasju (黄色い塩辛) にする。

gacigisa① (形) 餓鬼のようである。食い意地が張っている。gaciraasjan ともいう。

-gacii (接尾) ながら。つつ。がてら。?aq-cagacii 'junun. 歩きながら読む。

gacikee=ju`N① (自 =ran, =ti) 食い意地が張る。がつがつする。

gacimajaa① (名) 餓鬼のような猫。泥棒猫。

gaciraasjan① (形) gacigisan と同じ。

gaçun① (名) 鱒。

gahwagahwa① (副) かくしゃくと。老人の頑健なさま。

gahwamika=sjun① (他 =san, =ci) (げんこつで) こつんと打つ。koosaa ~. げんこつの先でこつんと食らわせる。

gahwara① (名) 不潔にした頭の皮膚にたまる黒い垢。

gahwasaa① (名) 強情者。頑固者。

gahwasi① (名) 強情。頑固。?aree ~ 'jasa. 彼は頑固だよ。

gakizaa① (名) gakizuu (釣) の卑語。

gakizuu① (名) 釣。つるし釣。物を下げるために天井などからつるす、先の曲がった釣。

gaku① (名) gakubura (管楽器の名) の略。

gakubura① (名) gakubura (管楽器の名) による音楽。

gakubura① (名) [古] 楽器の名。ruzigaku [路次楽] など、王の行列の時に吹奏した管楽器。明笛の一種であろう。略して gaku ともいう。これを吹き鳴らす者を buraa という。piiraruura と鳴る。

gakuburi① (名) 学問気違い。学問に熱中して世事をかえりみない者。

gakugaku① (副) べらべら。へらず口をたたくさま。

gakumu① (名) 学問。šimi ともいう。

gakurici① (名) 学力。

gakusja

gakusja① (名) 学者。以前は漢学者のみを言った。

gakusjoo① (名) [学生] 学生。生徒。

gama① (名) 洞窟。ほら穴。その多くは鐘乳洞である。普天間と金武に有名なものがある。

gamaku① (名) 腰回りの細くくびれている部分。ウエスト。～ *kuNsimiru miNsa kwirana*。[がまこくんしめる めんざ呉らな (かなよ節)] 腰をぎゅっとしめるメッサ帯をやるるか。

gamakubuni① (名) 腰骨。

-gana (接尾) か。疑問を表わす語に付き、不定の意を示す。 *nuugana* (何か), *taa-gana* (だれか), *maagana* (どこか) など。

-gana (接尾) [文] 限り。可能な限り。できるだけ。口語は *ganaasi*。 *tiNnu ŷutu-gaminu migurugana miguti*。[天の御咎目の めぐるがなめぐて (忠臣身替)] 天のおとがめがめぐるだけめぐって。

-ganaa (接尾) ながら。 *ŷicaganaa*。行きながら。 *cii numaganaa niNtaN*。乳を飲みながら寝た。

-ganaasi (接尾) …できるだけ。 *maçuganaasi maçeiN kuUN*。待てるだけ待っても来ない。 *ŷagaruganaasi ŷagati sagaruganaasi sagajuN*。上がれるだけ上がって、下がれるだけ下がる。

ganahwa① (名) 我那覇。《地》参照。

ganaraasjan① (形) かいがいしい。けなげである。よく立ち働くさまなどをいう。

ganaragisaN① (形) *ganaraasjan* と同じ。

ganaramuN① (名) *ganarimuN* と同じ。

ganarimuN① (名) 働き者。

-ganasi (接尾) [文] *-ganasii* の文語。

-ganasii (接尾) [加那志] 様。尊敬の意を表わす接尾辞。 *ŷaziganasii* (按司様), *ŷusjunganasii* (国王様), *'waŷujaganasi* (わが親御様) など。また人以外の語につく

場合もある。 *ŷweesinganasii misjoori*。(お休み遊ばしませ。非常な目上に対する寝る時のあいさつ) など。 *kanasjan* の転じたものと思われる。

-ganasiimee (接尾) [加那志前] 様。尊敬を表わす接尾辞。 *-mee* も尊敬の接尾辞で *-ganasii* にさらに敬意を加えたもの。 *ŷusjunganasiimee* (国王様) など。

gani① (名) 蟹。

-gani (接尾) [金] 男の名前の下につく、敬愛の意を表す接尾辞。貴族などの男の名の美称となる。 *maçiganii* [松金], *taruganii* [樽金] など。

ganiku① (名) 我如古。《地》参照。

gan① (名) 籠(がん)。葬式の時、死者の棺を入れて墓地まで運ぶためのもの。四人でかつぎ、さらに二、三人補助する者がつく。

gancaaa① (名) 悪知恵のある者。 *gançikweemuN* ともいう。

gançei① (名) 悪知恵。～ *kwatoon*。悪知恵をもっている。～ *na muN*。悪知恵のある者。

gançikwee'muN① (名) 悪知恵のある者。 *gancaaa* ともいう。

gancoo① (名) 眼鏡。めがね。 *miikagan* ともいう。

gandu=juN① (自 =*raN*, =*ti*) 元気をなくして、しょんぼりとする。がっかりする。

ganjaa① (名) 籠 (*gan*) を納めておく小屋。

ganmari① (名) いたずら。また、ふざけること。 *tiinu* ～。手でするいたずら。

gansaa① (名) *deekuniganansaa* と同じ。

gansina① (名) 女が荷物を頭にのせて運ぶ時、荷物の下に敷く丸い輪。荷の坐りをよくし、頭の痛くなるのを防ぐもので、たいていは薬で編んだもの。転じて、西瓜などの下に敷くものをもいう。

gansinagwahjoocaku① (名) うず巻き花火。ねずみ花火。

gaNzimi① (名) 釘抜き。
 gaNzuu① (名) 頑丈。強健。丈夫。ʔugaN-zuu ʔjamiʃeeibiitii. 御壮健でいらっしやいましたか。
 gaNzuugisaN① (形) 強健らしい。丈夫そのうである。
 gaNzuumuN① (名) 頑丈者。強健な者。
 gaQkoo① (名) 学校。gaQkoozi ともいう。首里には、各村に muragaQkoo, 平等 (hwira) ごとに hwiragaQkoo, さらにその上に kukugaku [国学] があった。
 gaQkoozi① (名) [学校所] gaQkoo と同じ。
 gaQpai① (名) おでこ。ひたい (hwicee, mukoo) の卑語。また、飛び出しているひたい。
 gaQpaicburu① (名) おでこの頭。ひたいの出た頭。
 gaQpajaa① (名) おでこの者。
 gaQsaN① (形) 軽い。目方が、軽い。また、軽薄である。kaQsaN とは意味が異なる。
 gaQtin① (名) 合点。承知。承諾。gaQtinui. 承知するか。～ naran kutu. 承知できないこと。～ sjuN.
 gara① ⊖(名) 殻 (から)。中身のない外皮。また、中身をぬいたから。～ natoon. からになっている。⊖(接尾) sibuigara (しぼりかす), ʔuuzigara (さとうきびのしぼりがら) など。
 gara① (名) 人畜の骨 (卑語)。くずになった骨 (の全体), 捨てられた骨などをいう。～ najuru madin. くたばって死ぬまでも (悪口)。
 -gara (接尾) 柄。品位・様子などの意。cineegara (家柄), tukurugara (土地柄) など。着物の柄は ʔaja という。
 garagaraa① (名) 玩具の一種。金属製の円盤に多くの小鈴をつけたもの。ふりまわすとガラガラ鳴る。がらがら。
 garagwaakoojaa① (名) 動物の骨を買い集

め、くたいて肥料にする業者。賤業とされる。
 garagwaamagii① (名) 図体ばかり大きい者。うどの大木。gara (骨) で売って初めて値になるような者。
 garami=cuN① (他 =kaN, =ci) [文] 奉仕する。勤める。まれな語。ʔutumuu ~. お供申し上げる。「がらめき 勤め営む 事也 (混効験集)」
 garasi① (名) 植物名。肉桂(につけい)。樹皮は薬用にも子供の好物にもなる。
 garaʃi① (名) からす。凶鳥とされ、夕方家の上を鳴いて飛ぶのを見ると, ʔiikutu katar. (よいことを語れ) と呪文をとこなえる。
 garaʃihwiibaa① (名) からすへび。山かがしの一類。全身が暗灰色をした蛇。
 garaʃimagai① (名) 手足の指などの筋肉がひきつって痛むこと。からすまがり (こむらがえり) には kundaʔagajaa という。
 garumuN① (名) 軽い物。
 garunii① (名) 軽い荷。
 gasaa① (名) がさつな者。教養の低い潤いのない人間。
 gasagasa① (副) ⊖ごとごと。がさがさ。物のふれ合う音, ねずみが物を引く時の音など。⊖口ざわりの悪いさま。食物に砂がはいった時などにいう。じゃりじゃり。nirigasagasa ともいう。
 gasi① (名) 飢饉。餓死の転意。餓死は ʔjaasazini という。
 gasidusi① (名) 飢饉の年。凶年。古語で nigajuu ともいう。
 gasuʔitu① (名) [新] 瓦斯糸。
 gata① (名) [新] 次の句で用いる。～ maa-jun. [俗語] (破局が) やがて来ようとしている。たとえば, 陶器にひびが入ってやがて割れようとしている時, やがて捕われそうな状態である時などにいう。gata <-gataa (…しそう)。

gata

gata① (名) 埋立地。

-**gata** (接尾) …しそり。ふつう -**gataa** を多く用いる。まさにそのことが起ころうとしていること。sinigata (死にそり) など。
-**gataa** (接尾) …しそり。まさにそのことが起ころうとしているさま。maajun の項参照。ʔamihuigataa (雨が降りそり), sini-gataa (死にそり), ʔutiigataa natoon. (落ちそりである), nacigataa maatoon. (泣きそりである) など。

gatagata① (副) ㊦がたがた。恐れ・寒さなどで体がふるえるさま。㊦がたがた。安定が悪く音が出るさま。hasirunu ~ sjoon. 雨戸ががたがたしている。

-**gatanasan** (接尾) …し兼ねる。…し難い。(気を使うために) …しにくい。ʔicigatanasan (行きにくい), 'wakarigatanasa (別れがたいこと) など。

gawecgawee① (副) 豚の鳴き声。ふうふう。騒がしく鳴き立てる時の声をいう。

gazami① (名) 蟹の一種。海に産し、体が大きく、美味。

gazan① (名) 蚊。

gazan① (名) 蚊。gazan ともいう。

gazimaru① (名) 榕樹。ガジマル。沖繩至る所にある亜熱帯植物。老樹になると枝から気根が出て地中に入る。果実はいちじく に似て小さい。

gaziri=jun① (自 =ran, =ti) やせ細る。

gazirimun① (名) やせ細った者。

gee① (名) ㊦害。わざわい。さまたげ。㊦反抗。敵対。~ sjun. 反抗する。はむかう。敵対する。'wanninkai ~i. わたしに反抗するか。

geeci① (名) [咳気] 風邪。風邪がみ。咳の有無にかかわらずいう。

geei① (名) ㊦還俗。出家して僧となったものが俗にかえること。㊦いったん, saNsii (賛成。明治政府支持派で、断髪した者) になった者が、のちに髪をたくわえ、もとの

husansii (不賛成。明治政府に服従せず、清に頼ろうとした派で、結髪していた) に帰ること。

gee=jun① (自 =ran, =ti) ㊦(勝負事に負けるなどで) 面目を失う。萎縮する。㊦還俗する。

geen① (名) お祓いに用いる串。すすきを数本束ね、葉の先を折り曲げて結んで作ったものが多い。mabuigumi (その項参照) の際などに用いる。

geesjaa① (名) 反抗する者。はむかう者。

gicigici① (副) ぎしぎし。きしむ音。niikeebasinu ~ sjun. 二階への階段がぎしぎしする。

giitaa① (名) 片足とび。子供の遊戯の名。

giitaamundoo① (名) 子供の遊戯の名。片足とびをしながらか手を倒す遊び。

gikizi① (名) 灌木の名。月橋。いけがきにする。材は黄色で堅く、印材・版木・櫛・かんざしなどに用いる。

gikizigaci① (名) gikizi のいけがき。

giqirigiqiri① (副) 人を乗せたかこの音。ʔukagu ~ toojamakai, tooja maajaga toojaamaa. おかごぎっちりぎっちりトヤマへ。唐はどこなの、蛹さん。(童謡)

giqoo① (名) 遊戯の名。ʔiqpaa と同じ。

giqoo① (名) hwizajaa (左きき) の那覇語。

giraika'nai① (名) [文] [儀来河内] 海のあなたにいと信じられている常世。あの世。niraikanai ともいう。口語は gireekanee, nireekanee.

giree'zaku'gan① (名) [古] [家来赤頭] 王府の下級の役職の名。

giree=jun① (他 =ran, =ti) [古] 家屋・墓などを、普請する。造営する。混効験集には「げらいて」とある。

gireeka'nee① (名) giraikanai の口語。nireekanee ともいう。

giruma① (名) 慶留間島。慶良間列島 (ki-

rama) の鳥の名。また、慶留間。《地》参照。

-gisAN (接尾) …そらだ。…らしい。şida-gisaruru nikee (涼しそうな二階), ʔaŋ ʔaigisaŋ (そうらしい), nootoogisaŋ (直っているらしい), ʔuziraasigisaruru ʔwarabi (かわいらしい子供), ʔwiiriki-gisaŋ (おもしろそうである), naçikasi-gisa sjoon (悲しそうにしている), hui-gisaa ʔjan (降りそうである), ʔicigisaa (行きそう) など。

gişi① (名) 平侍。また、平役人。下級官吏。「げす(下司・下衆)」に対応する語か。按司(ʔazi) などの高官に対する。

gizaa① (名) 意地の悪い女。那覇から来た語か。

goŋoŋ① (副) 健脚のさま。～ ʔaŋcuŋ. どんどん歩く。

goo① (名) 輪。～ macuŋ. うずまく。～ kacuŋ. 輪を書く。～ çukuree. 輪になる。

-goo① (接尾) 合。一升の十分の一。また、一里の十分の一。ʔicigoo (一合), nigoo (二合), sangoo (三合), sigoo または siŋgoo (四合), gugoo または guŋgoo (五合) など。

googoo① (副) ごうごう。海鳴りの音。また、大雨の後の川の流る音など。

googucaa① (名) 苦情ばかり言う者。いつも不平をならす者。

googuci① (名) 苦情。不平をいうこと。muŋnu ～。食事の不平をいうこと。

googucihja ʔaguci① (副・名) さかんに苦情をいうさま。また不平の多いこと。不平不満。～ sjun.

goonii① (名) 足の彎曲した不具者。ちんば。goojaa と同じ。

goojaa① (名) ⊖つるれいし。にがりり。ʔatai (菜園) に栽培され、実は長楕円形。実が緑色で柔らかいうちは食用となり、そ

の皮はにがく、肉は甘い。⊖足の彎曲した不具者。ちんば。goonii ともいう。にがりりの実の曲がり方に似ているのでいう。

goojuku① (名) 強欲。食欲。

goojukuu① (名) 強欲者。食欲な者。

goomaaii① (名) 車座。大勢が輪になってすわること。

goomanaa① (名) [新] 傲慢者。

goomaŋ① (名) [新] 傲慢。

goori=jun① (自 =raŋ, =ti) (穴が) ぼっかりあく。(傷口などが) ぱっくりあく。

gooruu① (名) ゆるゆる。すき間があいて、ぴったりはまらないこと。また、そのようなもの。～ sjoon. ゆるゆるである。

gu- (接頭) 御。尊敬の意を表わす接頭辞。guʔun (御恩), gusuujoo (皆様), gurii (おじぎ); gubusata (御無沙汰) など。

gu- (接頭) 五。gunin (五人。ʔiçitai ともいう。また五年), gunan (五男) など。

guban① (名) 碁盤。

gubanʔaja① (名) 格子縞。着物の柄の名。

gubangoosi① (名) 碁盤格子。着物の柄の名。

gubanzu① (名) [御番所] 首里城内の建物の名。

gubu① (名) 五分。半分。zuubun (十分) の半分。

gububuu① (名) [五分扶] 半人前の賃金。女・子供などの賃金をいう。

guburii① (名) 御無礼。burii の敬語。失礼。～ sjabira. 御免下さい。失礼します。辞去する時、人前を通る時などのあいさつ。～ sjabitan. 失礼しました。陳謝する時のあいさつ。

gubusata① (名) 御無沙汰。

gubuzi① (名) 御無事。

gucahwa① (名) ぜにたむし。ぜにがさ。円形にひろがる田虫。

guci① (名) 茎。草・野菜などの茎。

guci① (名) 悪口。また、口答え。～ sjun.

悪口をいう。また、口答える。

-guci (接尾) **kuci** (口) の項を参照。

gucin^{aa}① (名) あだ名。あざけて呼ぶための名。たとえば、背の低い人を **maamii** (豆) と呼ぶなど。

gucin^{jaku}① (名) 御倭約の意。政府が行なう倭約政策などをいう。

gudama① (名) 碁石。

gudu^N① (名) 愚鈍。愚凶。～**na**。愚鈍な。

guga① (名) 呉我。《地》参照。

gugoodaci① (名) 五合だき(の鍋)。

gugwaçi① (名) 五月。gungwaçi ともしう。

guh^{jaaku}① (名) 錢 500 文。1 錢に当たる。**zi^N**(錢)の項参照。

guh^{jaakugun^zuu}① (名) 錢 550 文。1 錢 1 厘のこと。**zi^N**(錢)の項参照。

guh^{joozoozu}① (名) [古] [御評定所]hjoozoozu (その項参照) の敬称。

guh^{usi}① (名) 骨の丸くとがっているところ。くるぶしなど、手首・足首にあるもの。

guh^{uukuu}① (名) 御奉公。

guh^{weeroo}① (名) [古] 御拝領。王から物をいただくこと。

gu^{iN}① (名) 御縁。縁の敬語。'wakaritin tageni ~ ?atikaraja ?ituni nuku hananu ciriti nucumi。[別れても互に御縁あてからや 糸に貫く花の 散れて退きゆめ] 別れてもたがいに御縁があるからには、糸に貫いた花が散り去ることがありますよるか。

gu^{iN}①① (名) [五音] 中国の宮商角徵羽の五音から転じて、(声の調子のよいこと)。人の声の質・歌の音色 (などのよいこと)。～**nu** 'jutasjan。声の質がいい。

gu^{ja}① (名) 胡屋。《地》参照。

gu^{ja}① (名) 呉屋。《地》参照。

gu^{juu}① (名) 御用。公用。公務。

gu^{juuhwiçi}① (名) [古] [御右筆・御祐筆]

役職名。昔の書記官。

gukuku① (名) [文] 五穀。

guku^{nrii}① (名) 御婚礼。ku^{nrii} の敬語。

gukuraku① (名) 極楽。

-gukuru (接尾) …のようなこと。また、…のようなつもり。…のような気持。coo-deegukuru (兄弟のようにしていること)、tuzigukuru (妻のような仲) など。

guma^{?ami}① (名) 小雨。

guma^{?amigwaa}① (名) 霧雨。guma^{?ami} のさらにこまかいもの。

gumaa① (名) 小さいもの。magii (大きいもの) の対。

gumabui①① (名) 小降り。雨がすこし降ること。

gumagasagasa① (名) (仕事などを) ちょこちょこすること。～**sjun**。

gumagii① (名) 小さい木。灌木。

gumagwii① (名) 小声。

gumahaace① (名) 小走り。小股走り。

guma^{?isuzi}① (名) 小急ぎ。少し急ぐこと。

gumajaa① (名) 小さい家。

gumamunugatai① (名) ひそひそ語。私語。内緒話。

gumamu^N① (名) ⊕小さいもの。⊖小間物。

gumamu^{?acinee}① (名) 小間物商。

gumanusudu① (名) 小泥棒。こそどろ。

gumasa^N① (形) 小さい。小型・小粒である。kuusa^N の項参照。

gumazii① (名) 小さい字。細かい字。

gumazikee① (名) 小遣い。ちょっとした用に錢を使うこと。

gumazikeezi^N① (名) 小遣い錢。小遣い。

gumazi^N① (名) 小錢。わずかな金。

gumazi^N① (名) 小金。さして大きくない額の金。?uhuzi^N (大金) に対する。

gumi① (名) ごみ。塵芥。目にはいるほどの小さいものには言わない。hukui, hukucici, mi^{ncamu^N} などの項参照。

gumiʔuci① (名) はたき。ちりはらい。
gumu① (名) [新] ゴム。
gumuçi① (名) [御物] 公有物。公共物。公有の財産。公金など。はじめは王の所有物、国有物を言ったのであろうが、後に公共物の意となった。muragumuçi (村有の物)。
gumukunarabiee① (名) 五目並べ。連珠。gumukunarabii ともいう。
gumukunarabii① (名) gumukunarabiee と同じ。
gumumaai① (名) [新] ゴムまり。
gumuN① (名) 御紋。紋所 (muN) の敬語。
gumuQiuN① (名) ごもつとも。～ deebiru。ごもつともでございます。
gumuru① (名) 灌木の名。赤い小さな実がなる。庭木として植える。
guneezi① (名) 御内儀。奥様。人妻の敬称。
gunici① (名) いつか。月の第五の日。また、一日の五倍。
guniNzi① (名) 信仰。信心。神仏を尊び、祖先の祭祀を怠らない心がけ。
gunboo① (名) ㊦ごぼろ。㊦zurigunboo と同じ。
gunbookumii① (名) 料理名。ごぼろを小麦粉の衣でつつみ、油揚げしたもの。kabaguboo ともいう。
gunDaN① (名) 不平。～ sjuN。不平を言う。
gunGoonakamui① (名) 五合拵。
gunGwaçi① (名) 五月。年の第五番目の月。～'juqkanuhwii。旧暦 5 月 4 日。子供の日で、玩具市が立つ。また那覇ではハーリー船競争がある。'juqkanuhwii の項参照。
gunZiN① (名) 権現。hutimagunZiN (普天間権現)。
gunzoo① (名) [古] 言上。申し上げるこ

と。
gunzuu① (名) 銭 50 文。のちの 1 厘。ziN (銭) の項参照。
guqka① (名) guqkan と同じ。
guqkan① (名) 酷寒。極寒。ひどい寒さ。guqka ともいう。
guQtai① (副) ぐったり。くたくた。疲れて手足の力が抜けたさま。
guragura① (副) ぐらぐら。安定が悪く、揺れ動くさま。haanu ~ sjuN。歯がぐらぐらする。
-guree (接尾) ぐらい。saataaguree kwitin simee sani。砂糖ぐらいやったっていいじゃないか。saataanu ʔatai ともいう。
guri① (名) 沈澱物。かす。おり。茶・汁などを飲んだあと、容器の底に残るかすなど。caanuguri (茶のおり), sirunuguri (汁のかす) など。
guri① (名) 御辞儀。～ sjuN。
guriZiN① (名) ㊦祖先の位牌をおいて、祖先を祭る祭壇。buçidan ともいう。㊦御位牌。ʔuʔiihwee ともいう。
-gurisjan (接尾) …しにくい、…しがたいの意の接尾辞。ʔiigurisjan (言いにくい), waşirigurisjan (忘れがたい) など。
guru① (名) 殻 (から)。複合語としては、kuugaguru (卵の殻), şidiguru (ぬけ殻) など。
-guru (接尾) ごろ。nanziguru (何時ごろ), ʔikuçiguru (何歳のごろ) など。
guruguru① (副) ㊦ごろごろ。物の回転するさま。㊦きょろきょろ。眼をきょろつかせるさま。
gurui① (名) ぐりぐり。癩癧。首すじ・太ももなどのできるリンパ腺のはれたもの。
gurukuN① (名) 魚の名。たかべに似て、やや大きい。肉が豊かで柔らかく、美味。
gurumuN① (名) すばしこい者。敏捷な者。
gurusAN① (形) すばやい。すばしこい。動

guruŷugwan

作が敏捷である。guruku.すばしこく。
'jamatuguruku (日本人らしくすばしこく)という語もある。

guruŷugwanⓄ (名) 定期的に行なう ŷugwan (祈願) の意か。

guruuⓄ (名) すばしこい者。gurumuN と同じ。

gusaŋciiⓄ (名) 御参詣。国王が神仏へ参詣すること。正月, 五月, 九月に, 吉日をうらなって, 弁才天・弁岳・末吉社壇・観音堂・普天間・識名などに参詣した。

-gusi (接尾) 置き。hwiŋciigusi (一日置き), cuŋciigusi (ひと月置き), cutugusi (一年置き) など。

gusicaaⓄ (名) ㊦具志川。《地》参照。㊦具志川島。伊是名島 (ŷizina) の属島。

gusicaNⓄ (名) 具志頭。《地》参照。

gusiciⓄ (名) すすき。文語では ŷiŷici という。その花 (尾花) は baran という。

gusiciNⓄ (名) 具志堅。《地》参照。

guŷikuⓄ (名) [城] 城。とりで。防衛のため堅固に築いた建物。

guŷikuⓄ (名) 城。《地》参照。

guŷikumaⓄ (名) 城間。《地》参照。

guŷikuŋcuⓄ (名) [城人] 宮女。うねめ。首里城の御殿女中。中でも王の妾となったものは ŷuhusidubi という。

gusimjaaguŷikuⓄ (名) 牽宮城。《地》参照。

gusiŋdanⓄ (名) [古] [御神壇] 大名家 (ŷuduN) で祖先を祭ってある仏壇。一般の家のものは ŷubuŋidan (御仏壇) という。

gusjaakunakamuiⓄ (名) 五勺拵。nakamuigwaa ともいう。

gusjooⓄ (名) 後生。あの世。冥土。~ cikaku natoon. あの世(死)が近づいている。

gusjoomuduiⓄ (名) 死にそこない。あの世帰り。死に瀕してふたたび生き返った

者。または死んだという噂が立って生きていた者。sinihandaa ともいう。

gusjooŋiNⓄ (名) sjooŋiN (十二支の上での, 生まれ年) の敬語。御殿 (ŷuduN) の按司 (ŷazi) などの gusjooŋiN には, その一族の者が集まって, 組踊りなどを催したものである。

gusjoosugaiⓄ (名) 死に装束。

gusjuuiⓄ (名) [御書院] 首里城の建物の名。ŷuguŷiku の項参照。

gusjuuziⓄ (名) gusuuzi と同じ。

gusjuŷuŋsideeⓄ (名) お考えのまま。御所存次第。おこころざし。sjuŷuŋsidee の敬語。~ 'jutasjaibiin. おこころざしで結構でございます。

gusjogusuⓄ (副) ㊦せき込むさま。ごほんごほん。ぜいぜい。hwimici ~. 喘息であえぐさま。㊦物を切るさま。さくさく。ざくざく。hoocaasaani ~ cijun. ほろちようでさくさく切る。

gusumiciⓄ (名) 軟骨。

gusumika=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) さっと切る。すばりと切る。abiinee kubi gusumikasariin doo. 大声をあげたら首をすばりやられるぞ。

gusuntoonuciNⓄ (名) とうもろこし。toonuciN はもろこし。ルソン島渡来のとうきびの意。gusuntoozin, rusuntoozin ともいう。

gusuntoozinⓄ (名) gusuntoonuciN と同じ。

gusuujooⓄ (名) [御総様] 皆様。大勢にむかって話す時, はじめに言うことが多い。聴衆がすべて目下ならば suujoo (諸君) という。~ja caa deebiruga. 皆様はいかがでございませうか。

gusuuziⓄ (名) 御祝儀。お祝いの敬語。gusjuuzi ともいう。

gutagutaⓄ (副) ぐうぐう。こんこん。よく眠るさま。

gutaQtu① (副) ぐったり。疲れきって、元気がないさま。～ najun. ぐったりとなる。

gutee① (名) 手足。五体の意の転じたもの。

gutoon① (連詞・不規則) ようである。ごとし。-nu (の) のあと、「連体形」のあとなどに用いる。majaanu ～. 猫のようだ。tamanu gutoosa. 玉のようだ。?icigeejuru gutoosa. 生き返るようだ。'wikiganu gutooru 'winagu. 男のような女。?weeki sjaru ～. 金持ちになった気持だ。

gutu① (名) (前に来る語とともに副詞的に働く) ごと。ごとく。よう。ように。「連体形」のあと、-nu (の) のあとなどに用いる。hananu ～ curasanu. 花のように美しい。?ibudi 'uru hananu ?iju cata ～. [つぼでをる花の つゆきやたごと (御前風)] 花のつぼみが露に会ったよう。hatakee tuuran ～ mici tuuri. 畑は通らないで道を通れ。?aminu hujuru ～ ti?puudamanu ?utiti can. 雨が降るように鉄砲の玉が落ちて来た。?jaagutu curasaree masi 'jašiga. あんたぐらいきれいだったらいいんだけど。

gutuku① (名) (火鉢の) 五徳。

guu① (名) ①仲間。同僚。相棒。また、ぐる。'waqtaaguu. われらの仲間。～ najun. 仲間になる。ぐるになる。guunajuun とは別。②二つで組になった物。対の物。③密通の間柄。また、その相手。情婦。情夫。

gun① (名) 碁。～ ?ucun. 碁を打つ。

guu① (名) 五。普通、?i?i?i を使う。

guda① (名) ぐうたら。なまけ者。ぶしゅ者。だだをこねてすわりこんだ子供などをもう。

guuguu① (副) ぶらぶら。豚の鳴き声。鳴き叫ぶ時の声は gaweegawee という。

guuhaNdaa① (名) guuhaziraa と同じ。

guuhaziraa① (名) guu (一揃い。また、仲間) からはずれたもの。不揃いになった半端。仲間はずれの者。guuhanDaa ともいう。

guuhu① (名) こぶ(瘤)。

guuhwaa① (名) 瘤のある者。

guuhwaahwiihwa① (副) でこぼこ。

guujaa① (名) 豚の尻の骨と肉。～nu ?u-siru. 豚の尻の骨と肉を材料にした料理。

guujaasi'Nzi① (名) 豚の尻の骨を煎じたスープ。

guumaNcaa① (名) 不揃い(のもの)。ちぐはぐなもの。箸・はき物など対のもので、形・大きさなどが不揃いなものにいる。

guunaa① (名) ちんばの者。びっこの者。

guunaimuN① (名) 互いに密通している男女。

guunaiNwa① (名) 私生児。guu の項参照。

guuna=juN① (自 =ran, =ti) 私通する。密通する。

guuni① (名) ちんば。びっこ。～ kwen-kwen. びっこを引き引き。kwenkwenは、びっこを引くさま。

guuN① (名) 御恩。

guuNgeesi① (名) 御恩返し。

guuraahaQtai① (副) ぐらぐら。安定が悪く、揺れ動くさま。

guusi① (名) 串。竹串。

guusi① (名) 具志。《地》参照。

guusjan① (名) 杖。

guutumiiu① (名) 対の物。揃いの物。また、夫婦。

-**guutuu**① (接尾) ように。動詞の否定形につき否定の意志を表わす。?ikaNguutuu sjun. 行かないようにする。行くまいとする。kusuee 'Nzasanu numaNguutuu sjun. 薬は苦くて飲みたがらない。

guu?ucaa① (名) 碁打ち。碁士。

guzara① (名) ごけ。碁石を入れるうつ

guziNhuu

わ。

guziNhuu① (名) [御前風] 歌曲の名。御前風節。王の前で奏した次の五曲をいう。すなわち, kazadihuubusi [かぎやで風節], ?uNnabusi [恩納節], nakaguşikuhantaameebusi [中城はんた前節], kutibusi [こて節], naga?ihjabusi [長伊平屋節]。祝賀の席では, まずこの五曲を奏してから, 他の曲に移る。

guzira① (名) 鯨。

guziri① (名) 枯れ枝。枯れた枝ぎれ。

guzoo① (名) 御状。お手紙。tabinu ~ ?umaci sjabira: 旅のお手紙をお待ちしましょう。

guzumu=jun① (他 =ran, =ti) 蝸集する。密集する。

guzuu① (名) 五十。

-gwaa (接尾) [小] <qkwa(子)。⊖小さいことを表わし, またその愛称となる。tui-gwaa (小鳥), ?Nmagwaa (小馬), haku-gwaa (小箱), ?Nmiigwaa (一番下の姉) など。⊖子供の名について, 愛称となる。taruugwaa (太郎坊), ?irugwaa (つる子ちゃん) など。⊖小量であることを表わす。kuuteengwaa (ほんの少し), ?u-qpigwaa (それっぽっち) など。⊖軽蔑の意を表わす。?usjumeegwaa (じじい), haameegwaa (ばばあ) など。⊖分家の意を表わす。kunzangwaa [囡頭小], cin-gwaa [金武小] など。

gwaaNgwaaN① (副) グァーングァーン。銅羅鈺の音。綱引き (?inahwici) の時に打ち鳴らす。

-gwaasee (接尾) …ごっこ。まねごとをして遊ぶこと。-gwaa は小さい意, -see はしあうこと。?ikusagwaaasee (戦争ごっこ), miitun dagwaaasee (夫婦ごっこ)

など。

gwan① (名) 願。神仏に祈り願うこと。普通は ?ugwan という。韻文では単に gwan ということがある。

gwanGwan① (副) にぎやかなさま。祭り・綱引き・村芝居などで, 大勢の人が集まって, 鳴り物を鳴らすなどしてにぎやかなさま。

gwanjaku① (名) 丸薬。

gwanku① (名) 頑固。かたくな。固意地。~na. 頑固な。

gwankutoo① (名) [新] [頑固党] husan-sii ともいう。その項参照。

gwankuu① (名) [新] gwankutoo と同じ。

gwanSu① (名) ⊖元祖。祖先。家系の初代の人。⊖祖先。現存者以前の人で家廟にまつられているすべての人。

gwanTaN① (名) 元旦。

gwan?ici① (名) 元日。一月一日。

gwaQsjuku① (名) 月蝕。

gwasagwasa① (副) ⊖うようよ。うじゃうじゃ。虫などがたくさんいるさま。⊖がやがや。がさがさ。そうぞうしいさま。⊖ごちゃごちゃ。混乱のさま。

gwatagwata① (副) ぐつぐつ。ものの煮え立つ音。kwatakwata ともいう。

gweesici① (名) 外戚。姻戚。'winagunu kata ともいう。

gweNgweN① (副) どろどろ。ぬかるみのさま。micinu ~ sjoon. 道がどろどろである。

gweQtai① (名) ぬかるみ。ziQtai と同じ。

gweQtaimici① (名) ぬかるみの道。

gwiiku① (名) 越来。《地》参照。

gwiirigwiirii① (副) ぎいぎい。開き戸などをあけたる時のきしむ音。

h

- haa**① (感) ああ。おや。ほう。へえ。まあ。驚いた時・恐ろしい時・感心した時・あきれた時などに発する。ʔaa (ああ) よりも多く使われようである。～ deezina kutu. ああ大変だ。～, ʔuNgutooru kutunu ʔateesa ʔjaa. へえ、そんなことがあったのかね。
- haa**② (名) 歯。～ kuujun. (冷たさのために食物が) 歯にしみる。
- haa**③ (名) 刃。
- haaci**④ (名) 大皿。
- haacijuraa**⑤ (名) おもちゃのお面。旧暦5月4日のおもちゃ市に出て子供が喜ぶものの一つ。「はつぶり(半首)」と関係ある語か。
- haae**⑥ (名) かけ足。走ること。～ sjun. かけ足する。走る。～ najun ともいう。
- haaeesjuubu**⑦ (名) かけっこ。徒競走。
- haagisii**⑧ (名) 歯ぎしり。
- haai**⑨ (名) ⊖針。⊖鍼。
- haaibaku**⑩ (名) 針箱。裁縫箱。
- haaija**⑪ (感) 綱引きの時の掛け声。綱を引く時にまずこの声を発し、次にいろいろな鳴り物を buu (法螺貝), gwaaNgwaaN (鉦・太鼓・銅羅など) と鳴らす。çinahwici (綱引き) の項参照。
- haainumii**⑫ (名) 針の目。針の穴。針のめど。～kara hukijun. 針の目をくぐりぬける。病人が奇蹟的に直ったような時に言う。
- haainumimi**⑬ (名) 針の目のある部分。針の頭の部分。
- haaisasii**⑭ (名) 針刺し。針山。
- haaja**⑮ (名) 柱。また、(一家の) 支柱となるもの。
- haajami**⑯ (名) 歯痛。
- haajuu**⑰ (名) haajuui と同じ。
- haajuui**⑱ (名) 女の子の髪が短くてきちんと結えない場合の、髪を結い方。折り曲げて小さく結うもの。haajuu ともいう。男の子のそれには kanpuu という。
- haakata**⑲ (名) 歯がた。歯でかんだあと。～ ʔisijun(ʔirijun). 歯がたをつける(入れる)。
- haakusu**⑳ (名) 歯くそ。
- haamee**㉑ (名) おばあさん。平民の祖母または、平民の老女をいう。
- haameezira**㉒ (名) ばあさんづら。ばあさんの(ような)顔。とくに、ひげのない者(hwizimoo, ʔutugeenaNduruu) のことをいう。
- haamoo**㉓ (名) 歯の無い者。-moo はあるべきものが無いことを意味する接尾辞。
- haara**㉔ (名) 芭蕉糸をつむいで入れるのに用いる、竹で編んだ籠。
- haarii**㉕ (名) [爬龍船] 旧暦5月4日に、泊・那覇・久米が対抗して行なう船の競争。また、その船。ペーロン。泊港から奥武山までのコースを三隻で争う。綱引きに劣らぬにぎやかな行事であった。
- haariimuNdoo**㉖ (名) haarii (ペーロン) の時に起こるけんか。負けた二船が勝った一船を囲み、沖の無人島に漕ぎつけてけんかすることがしばしばあった。那覇と久米とは外来者の漁夫を臨時に選手にやるともあったが、泊は地元に限られていたもので、意気込みが違っていたらしい。泊が勝った時は、那覇と久米とが連合して泊とけんかし、時に死人を出すことさえあった。そこで、泊の haariiʔuta はもっとも悲壮で、戦場に行くかのようであった。
- haariiʔuta**㉗ (名) ペーロンの時の歌。ペーロンに出かける時、また勝って帰る時歌

haasi

り。

haasi① (名) 箸。hasi ともいう。また ?u-meesi ともいう。

haasidui① (名) 箸を取って、食べるまねだけすること。婚礼で 'jureenu ?ubun(新郎新婦が一つの膳に向かいあって、同じ飯をかわるがわる食べる式)の時、新郎は一口食べるが、新婦は haasidui だけする。

haatui① (名) 鶏の一種。karaaatui の略。その項参照。

haatujaa① (名) haatui と同じ。

haa?ucagee① (名) そっ歯。出っ歯。前歯がそって出ている者。

haba① (名) 幅。

haba=cuN① (自 =kaN, =ci) はかどる。仕事などが、進む。また、さばける。処理が進む。商品がたくさん売れる・食物をたくさん食べてなくなるなどをいう。muru habacii. みんなさばけたか。

habaka=jun① (自 =raN, =ti) はばかる。はだかる。広い場所をとってのさばる。恐れはばかるなどの「はばかる」の意はない。

haberu① (名) 蝶。宜湾朝保の琉語解釈に「はびる、蝶也。はびらともいふ。百首異見御かきもり云々といふ歌の註に、蝶の旧名はかはびらこと見えたり。かはびらこのかこと略したるなるべし」とある。

haberubaa① (名) 銀杏の葉。また、銀杏の木。

habiru① (名) [文] haberu(蝶)の文語。文語でも haberu ということもある。

habu① (名) はぶ。奄美・沖縄特産の毒蛇。形はまむしに似て、体長1メートル前後。淡い褐色をしていて猛毒を有し、人に恐れられる。血清注射液ができてからは命拾いも可能となった。忌んで nagamun ともいう。

habukakuzaa① (名) あご骨の張った者。意志強く、強情で闘争的だとされる。

habukakuzi① (名) はぶのように三角形に張ったあご。

hacaa① (名) 蜂。Yusjuu doo, ~. 蜂が来た時となえるまじない。「おれは王様だぞ、蜂め」の意。

hacaanusii① (名) 蜂の巣。

hacagumi① (名) 菓子の名。もちごめを蒸し、乾かして炒り、砂糖を入れて四角に固めたもの。おこし。

hacaihwiQcai① (名) 吐いたり下したりすること。~ sjun.

haci① (名) 入。入つ。普通は 'jaaçi という。

haçi-(接頭) 初。初めての意を表わす接頭辞。haçi?aqcii(産後の初歩き), haçimu-mu(その年の初めての楊梅)など。

haçi?aqcii① (名) 産婦の初めての外出。産児をつれてまず里方へ行き、次に親類回りをする。

hacicuun① (自・不規則) 来てしまふ。来ちゃる。来るの意味を軽くいう語。hacikuu. 来ちゃえ。?jaa miibusjanu hacicasa. おまえに会いたくて来ちゃったよ。nama kee?nzi hacikuuwa. いまちょっと行って来ちゃえ。

haçigannai① (名) 初雷。初雷がなると梅雨が上がるとか、また、初雷が大きければはぶの卵が şimuru(腐って孵化しない卵)になるなどいう。

haçigoosaa① (名) katakasira(その項参照)を初めて結った男を祝福して、その親戚・友人などが、頭に指拳(koosaa)を加える儀礼。いたずらに強く打つ場合もある。

hacigwaçi① (名) 八月。

haçiharu① (名) [文] 初春。旧暦の正月のこと。

haçika① (名) はつか。二十日 一日の二十倍。また、月の第二十番目の日。

haçikaju① (名) [文] 旧暦二十日の夜。月

の出が遅いため、宵闇の形容となる。～nu kurasa, ʔikusaciN miran. [廿日夜の暗さ 行先も見らぬ(執心鐘入)] 二十日の夜の暗さで、行く先も見えない。

haçikasjoogwaçi① (名) 二十日正月。旧暦の正月二十日。この日を正月の最後の祝日として、簡単なおちそりを作り、一日を遊び暮らした。またこの日に ʔuriʔNma [尾類馬] (その項参照) の行事が行なわれた。

haçikoo① (名) [初科] 初めて受ける koo [科] (文官試験)。koo [科] の項参照。

hacikoorasjan① (形) hacikoogisan と同じ。

haçikoorii① (連体) しまつにおえない。手におえない。～ niNziN. 手におえない人間。

haçikoosaN① (形) ㊦ごわごわしている。しなやかでない。肌ざわりが悪い。basjaa-nunoo ～. 芭蕉布はごわごわしている。㊦言行がなめらかでない。角がある。

haçikoogisan① (形) 何となく角がありそうである。人相の悪い者などをいう。

haciku=nuN① (自 =maN, =di) むくむ。水気ではれぼったくふくれる。çiranu ～. 顔がむくむ。nuudii ～. 悲しみのためにのどが(はれて) つまる。悲しみがこみ上げる。

hacimaci① (名) [帕] 男が礼装する時に用いた冠。位階によってその色が異なり、紫は ʔazi [按司], 薄黄色は ʔweekata [親方], 濃い黄色は peeciN [親雲上], 赤は ʔuhujakuu [大屋子], satunusi [里之子], cikuduN [筑登之] など、青は sju-maziriʔuqi [諸間切掟], 緑はこれら以下、などの区別があった。

haçimumu① (名) その年初めての楊梅。mumu は普通 ʔjamamumu (楊梅) をさす。

haçimuN① (名) 初もの。

haçinaçi① (名) [文] 初夏。旧暦四月をさ

す。ʔwakanaçi ともいう。

haçinai① (名) 初なり。初めてなった果実。nai は果実。

haçinanka① (名) 初七日。

hacinici① (名) 八日。よしか。一日の八倍、また月の第八の日。

hacinin① (名) 八人。ʔjaçtai ともいう。

hacinuku① (名) ʔusjuukoo (法要) の折に、お供物を入れる器。simimuN (にしめ) を入れることが多い。

haçiʔNмага① (名) 初孫。

haciʔNza=sjuʔN① (他 =saN, =ci) 吐き出す。

haciNmi① (名) 鉢嶺。《地》参照。

haçiʔucaku① (名) 遊女になって初めて接する客。

haçiʔukusi① (名) [初興] 正月三日にするはじめての仕事。仕事始め。

haçizuri① (名) 男が初めて買った女郎。

hacizuu① (名) 八十。

hacizuuhaci① (名) ㊦八十八。㊦米寿。tookaciʔujuwee の項参照。

ha=cuN① (他 =kaN, =ci) 吐く。

ha=cuN① (他 =kaN, =ci) ㊦佩く。(自分の) 首に掛ける。kubikara ～. 首に掛ける。tama ～. イ。(のろなどが) 首かざりの玉を首に掛ける。ロ。丸丸と太って、皮膚がくびれる。ʔanu ʔwarabee tama haci ʔeeraasjan. あの子供は、皮膚がくびれるように太ってかわいらしい。㊦弁償する。つぐなら。ʔwanameejuN は主として対等の物で弁償することに、hacun は主として金で弁償することに用いる。hakee. 弁償しろ。

hada① (名) 肌。

hadaʔaçisan① (形) 皮膚の体温が熱い。熱っぽい。肌がほてる。hwaahwaa sjuN ともいう。

hadahusja① (名) 人の肌を欲しいと思うこと。情欲を上品に言った語。～ qsi ʔju-

hadaka

ru baaja ʔaraN. 肌欲しと言うのではない。茶飲み相手として欲しいのだ。老後、結婚しようとする時などに言うことば。

hadakaⓐ (名) 裸。

hadakaamuucaaⓐ (名) hadakaamuucii の卑称。

hadakaamuucii ⓐ (名) 裸んぼろ。子供などについていう。

hadakaamuziⓐ (名) 裸麦。

hadakaʔNmaⓐ (名) 裸馬。鞍を置かない馬。

hadamiⓐ (名) [文] 肌身。

hadamuciⓐ (名) ⊖肌の感触。肌心地。⊖気候が肌に与える感触。また単に気候。kugwaçi natakututu ~nu ʔutasiku natoon. 九月になったので、気候がよくなった。

hadasibuiⓐ (名) ⊖肌着。つつそでの肌着。duusibui ともいう。⊖死人に着せる肌着。

hadoobiⓐ (名) ふんどし (sanazi) の上品な語。肌帯。

hagaaⓐ (名) はげ。hagii の卑称。

hagaciⓐ (名) 手紙。書状。nagunu ban-dukuru tadaimanu ~ ʔwanu mutaci tabori ʔwanzo mjagana. [名護の番所 ただいまのはがき わぬ持たちたばうれ 我無葭見やがな] 名護の役場への至急の手紙をわたしに持って行かせて下さい。わたしの恋人に会うついでに。

hagamaⓐ (名) 釜。はがま。周囲につばのある、飯炊き用の釜。

haganaaⓐ (名) haganimun と同じ。

haganasaNⓐ (形) 足りない。不足である。充分な量より少ない。ziNnu kuqsasaani haganasaee sani. 金がこれだけで足りなくはないか。caa kweemuNnu haganasataN. いつも食い物が足りなかった。

haganiⓐ (名) はがね。鋼鉄。

haganimuʔNⓐ (名) 頭のきれる者。きれ

者。賢い者。

haga=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) 剥がす。hazun (剥ぐ) ともいう。

hagiⓐ (名) やせ地。地味のやせた土地。

hagiçiburuⓐ (名) はげ頭。

hagiiⓐ (名) はげ。はげ頭(の人)。

hagi=juNⓐ (自 =raN, =ti) ⊖はげる。毛・木などが、はげる。また、皮がはげる。⊖皮膚がむけてただれる。kusinaganinu ~. 床ずれなどで、背中中の皮膚がむける。miinu ~. 目がただれる。

hagimooⓐ (名) 荒地地。荒れ野。畑の荒れ果てたところ、木のない山地など。

hagoogiⓐ (名) さるすべり(百日紅)。樹皮がすべすべして、さわると木全体がくすぐったそりに動くことからいう。<hagoosaN.

hagoogisaNⓐ (形) きたならしい。きたならしく見える。

hagoomuNⓐ (名) ⊖きたない物。⊖下品な者。いやらしい者。

hagooriiⓐ (連体) 大げさな。仰山な。普通でない。すごい。~ muniikata sjun. 仰山な言い方をする。ʔariga zinnu çi-keejooja ~ muN doo. 彼の金の使いかたはすごいぞ。~ sugai. すごい(普通でない) 服装。

hagoosaNⓐ (形) ⊖きたない。不潔である。⊖くすぐったい。また、むずむずする。気持ちが悪い。また、気味が悪い。hwisja ~. 足もとが気持ちが悪い。蛇が出そうな時などいう。tii ~. 手がむずむずする。また、人のすることを見て、じれったい。⊖下品である。わいせつである。けがらわしい。いやらしい。

hagooʔumiiⓐ (名) くすぐったがりや。

haibanⓐ (名) 廃藩。

haiçeeⓐ (名) [古] 海賊。

haidasiⓐ (名) 張り出し。haigami と同じ。

haigamiⓐ (名) 張り紙。広告・通知事項など紙に書いて往来に張り出したもの。hai-

dasi ともいう。

haihati=juNⓄ (自 =raN, =ti) 流れつくす。流れてなくなる。

haihuniⓄ (名) 船足の速い船。hai-<hajun. migušikuni nubuti tisazi muca-giriba, ~nu nareja cumidu mijuru. [三重城に登って 手巾持ちあげれば 走舟の習や 一目ど見ゆる (花風)] 見送りのために三重城に登って手ぬぐいを上げて振ると、早い舟のことで、ちょっとの間しか見えなくてなごり惜しい。

haiŷica=ju`NⓄ (自 =aN, =ti) 出会う。ひょくくり出会う。

haikawaⓄ (名) [文] 急流。hai-<hajun. sirāši ~ni nagarijuru sakura, sukuti ŷumisatuni nucai hakira. [白瀬走川に 流れゆるさくら すくておみ里に ぬきやいはけら] 白瀬川の早い流れに流れている桜の花を掬って糸に通し、君の首に掛けてあげたい。このさくらとは、実はつつじのことであろう。~nu gutuni tusina-mija tacui, kuimuduci mibusja mutunu `wakasa [走川のごとに 年波や立ちゆい 繰り戻ち見ほしや もとの若さ] 早い流れのように年波はたって行くが、もとの若さを取り戻して見たいもの。

haikwaa=sju`NⓄ (他 =saN, =ci) ⊖やり過ごす。あとから来た者を先へ行かせる。⊖通り過ぎてしまう。mura ~. 村を通り過ぎてしまう。hai-<hajun.

haikwaQkwi=juNⓄ (自 =raN, =ti) 走って隠れる。急いで隠れる。

haikwii=ju`NⓄ (他 =raN, =ti) 通り過ぎる。通過する。hai-<hajun.

haimaaⓄ (名) 杯。いなかの酒宴などで、一つの杯と徳利とを、飲んで次々に早く回すことからいう。

hainuziⓄ (名) 張り抜き。張り子の人形。型に紙を重ねて張りあわせ、あとで型を抜いて作る。

haiŷnmaⓄ (名) よく走る馬。駿馬。~nu kiŷcaki. または、~nu ŷimakurubi. 駿馬のつまずき。上手の手から水がもる、猿も木から落ちるの類。hai-<hajun.

haiŷnaⓄ (名) 縄を張ること。また、張った縄。また、縄を張ったところ。縄張り (勢力範囲) の意はない。

haiŷzuⓄ (名) 水はけをよくするための溝。

haiŷizi=juNⓄ (自 =raN, =ti) 才走る。小利口にすぎる。hai-<hajun.

haiŷiziraaⓄ (名) haiŷizirimun と同じ。

haiŷizirimu`NⓄ (名) 才走った者。小利口者。

hajaa=sjuNⓄ (自 =saN, =ci) 出くわす。予期しないで出会う。

hajaga=juNⓄ (自 =raN, =ti) 超過する。費用などが、予定より余計にかかる。ŷiriminu kusakii hajagatoon. 費用がこんなに超過した。

hajamaigutuⓄ (名) 早まった事。早計。

hajami=juNⓄ (自 =raN, =ti) 早める。時間・速度を早める。tucii ~. 時計を進める。sikuci ~. 仕事を早める。ŷuhwee ŷasi hajamiri. 少し急いで行け。

ha=juNⓄ (自 =raN, =ti) ⊖走る。動物・舟・急流などが走るのをいう。人が走ることには haaee sjun, haaee najun などという。ŷNmanu ~. 馬が走る。harasjun. 走らせる (人を走らせることは haaee simijun という)。huni harasjun. 舟を走らせる。⊖流れる。流れ出る。ciinu ~. 血が流れる。血が出る。ŷasinu ~. 汗が流れる。汗が出る。ŷasi harasjun. 汗を流す。汗をかく。

ha=juNⓄ (他 =raN, =ti) ⊖張る。ŷakai ~. 障子を張る。kasa ~. イ. 傘を張る。傘を作る。ロ. 傘をひろげる。⊖あらわにする。露出する。mee ~. 陰部を露出する。hazi ~ ともいう。

hajuuⓄ (名) 魚名。長さ 15 ~ 20 センチく

hajuuguci

らいで、口のとがった小魚。

hajuuguciⓐ (名) hajuu (魚名) のようにとがった口。

hakaⓐ (名) 墓。kaaminakuu, hwaahuu, huincibaka の三つの形式がある。

hakabaanⓐ (名) 墓番。墓所の番人。昔は特別に小屋を作って専らこれを業とするものがいたが、近年は墓の近くの農家が頼まれる。

hakabusinⓐ (名) 墓の普請。墓を作ること。

hakadu=juNⓐ (自 =raN, =ti) [新?] はかどる。仕事に着着と進行する。

hakaguciⓐ (名) ⊖ 畑仕事の端緒。鋏を入れはじめるところなど。昔はその方位について気を使った。⊖ 転じて、仕事などのしはじめ。端緒。～ ?akijun. 端緒を開く。

hakaiⓐ (名) 秤。

hakaibaNmeeⓐ (名) 食糧不足の時、食糧を余計に炊かないよう、量を計って炊き、一定量以上食べないようにすること。

hakainumiiⓐ (名) 秤目。

hakajaanusiⓐ (名) 尺取り虫。

haka=juNⓐ (他 =raN, =ti) 計る。計測する。

hakamaⓐ (名) ⊖ 女が下着として用いるはかま。首里・那覇など都会の女が多く着用した。下ばかま。首里のものは、男のさるまたに似ていて、ひも (hakamanuu) を通して結ぶ。那覇のものは足の口が狭く、帯のようなひもで上からしばった。⊖ 乗馬用のはかま (?Nmanuibakama)。男は乗馬用のもの以外に、はかまを付けることはなかった。

hakameeⓐ (名) 墓参り。

hakanuzooⓐ (名) 墓の、棺を出し入れする口。葬式の時以外は開けず、ふだんは墓石をはめてある。

hakaraasjanⓐ (形) はかばかしい。はかが行く。nuu hakaraasii kutu siijuusan. 何ひとつはかが行くようなことはできな

い。

hakara=juNⓐ (他 =raN, =ti) 計らう。企画する。あらかじめ考慮する。?juunusaci ~. 先の世の中のことを考えに入れる。

hakareeⓐ (名) 計らい。あらかじめの配慮・計画・処置。

hakarigutuⓐ (名) はかりごと。計略。

hakiⓐ (名) 刷毛。

haki=juNⓐ (他 =raN, =ti) ⊖ 佩く。首に掛ける。şışidama ~. じゅず玉を首に掛ける。⊖ 弁償させる。つぐなわせる。罰金などを課す。kwasiN ~. 罰金を課す。

hakuⓐ (名) ⊖ 箱。⊖ (接尾) 箱の数を数える時いう。cuhaku (一箱), tahaku (二箱) など。

hakuruuⓐ (名) 白露。二十四節の一つ。hwakuruu ともいう。

hakuzooⓐ (名) 薄情。~na 'utu. 薄情な夫。

hakuzooⓐ (名) 白状。~ sjuN.

hamaⓐ (名) 浜。海浜。

hamaⓐ (名) 浜 (地) 参照。

hamaciduriⓐ (名) [文] 浜千鳥。口語は cizujaa. tariju ?uramituti nacuga ~, ?awaN çirinasaja 'wamin tumuni. [誰よ恨めとて 鳴きゆが浜千鳥 会わぬつれなさや 我身も共に] 誰をうらんで鳴くのか浜千鳥よ。会わぬ悲しさはわたしも同じだ。子を失って悲しんだ歌。Qkwamu-caabusi [子持節] で歌う。

hamaciduribu'siⓐ (名) 浜千鳥節。その一節は, tabija hamajadui kusanu hwardu makura, nitin 'waşiraran 'wajanu ?usuba. [旅や浜やどり 草の葉ど枕 寝ても忘ららぬ 吾親の御傍] 旅は浜に宿って草の葉を枕に寝るが、寝ても、わが親のそばが忘れられない。あとに次のはやしが入る。cizujaa hamauti cuicuina. [千鳥や浜居て ちゆいちゆいな]

hamagaaⓐ (名) 浜川。《地》参照。

- hamahwiza**Ⓞ (名) 浜比嘉島。沖縄本島勝連岬 (kaqciNnumisaci) 東方にある島。
- hama=juN**Ⓞ (自 =raN, =ti) [新?] ⊖はまる。ほどよく入る。⊖(落ちて、溝などに)はまる。
- hama=juN**Ⓞ (自 =raN, =ti) はげむ。没頭する。ʔumihamajuN ともいう。
- hamamutu**Ⓞ (名) 浜元。《地》参照。
- hamaʔuri**Ⓞ (名) 行事の名。野鳥が屋内に入ると不吉であるとし、その厄をはらい清めるため、浜に降りて行って、一日を浜で遊び暮らした。その行事をいう。
- hami**Ⓞ (名) 牛・馬・豚などの家畜の飼料。
- hamuN**Ⓞ (名) 刃物。
- hamuN**Ⓞ (名) 端物。はんばもの。数量の揃わないもの。
- hamuNziN**Ⓞ (名) はした金。
- hana**Ⓞ (名) ⊖花。草木の花。⊖美しいこと。はなやかなこと。~nu 'warabi. 花のように美しい子ども。⊖遊女。ʔuri の美称。
- hana**Ⓞ (名) 植物名。草綿。植物名としての綿。なお、沖縄には木の綿はない。
- hana**Ⓞ (名) 鼻。~ hucun. いびきをかき。~ huracun. 得意げに鼻をうごめかす。huracun は「開く」。鼻の穴を開く意。~ hwijun. くしゃみをする。くしゃみをした場合には kusu kwee (「くそ食え」の意) というまじないを唱える。~ sipi-jun, 鼻をかむ。~ šišijun. 鼻をすする。また、鼻をすすって泣く。~nu ʔwiikara hoojun. 増長する。つけあがる。夫の寛大さに妻がつけあがる場合などという。鼻の上をはり意。hooraʒee ~nu ʔwiimadiN hoojun. どこまでもつけあがる。はわせれば鼻の上までもはりという意。~nu sicanu 'Nzugwaa. 鼻の下のみぞ。人中(にんちゅう)。
- hana**Ⓞ (名) ⊖端。はな。はずれ。kiinu ~. 木のこずえ。⊖(接尾)端。はな。taka-
- hana**(高く突き出たはし。がけのふちななど), suzibana (風の強く当たる高い所) など。
- hana** (接尾) はな。はじめ。ʔirihana (入れはじめ), niihana (煮えはじめ), ʔNzi hana (出はじめ。茶の出花), niNzihana (寝入りばな) など。
- hanaʔasi**Ⓞ (名) 鼻にかく汗。
- hanaʔatai**Ⓞ (名) 花園。花畑。
- hanaʔatai**Ⓞ (名) [文] hanatai [花当] の文語。
- hanabaaci**Ⓞ (名) 植木鉢。
- hanabana**Ⓞ (名) はしばし。hanasinu ~. 話のはしばし。
- hanabasjuu**Ⓞ (名) 植物名。花芭蕉。ひめばしょう。赤い花の咲く、丈の低い芭蕉で、観賞用。
- hanabi**Ⓞ (名) [新] 火花。
- hanabira**Ⓞ (名) 花がつか。かつおぶしなどの薄くけずったもの。
- hanabiraa**Ⓞ (名) 鼻のひしゃげた者。
- hanabooru**Ⓞ (名) 菓子の名。小麦粉に砂糖を入れ、めがねのように左右に大きく輪の形にして焼いたもの。祭祀用に作る。
- hanabuqkwa**Ⓞ (名) 鼻の盛り上がったところ。また、鼻の卑称。
- hanadai**Ⓞ (名) 鼻みず。
- hanadajaa**Ⓞ (名) 鼻みずを垂らしている者。はなたらし。
- hanagaci**Ⓞ (名) 植物名。むくげ。もくげ。夏から秋にかけ、白または紫の花をつける。
- hanagakii**Ⓞ (名) 端に腰かけること。ちょっと腰をかけること。
- hanagami**Ⓞ (名) [新?] 鼻紙。懐中用紙。
- hanagan**Ⓞ (名) [新?] hanagami と同じ。
- hanagasa**Ⓞ (名) 花笠。花の形に作った笠。舞踊・粗踊りに用いるもの。
- hanagi**Ⓞ (名) 花を観賞するために植える木。

hanagii

hanagii① (名) 鼻毛。

hanagi=juN① (他 =raN, =ti) ふんわりとさせる。押しつけずにふわりとさせておく。飯を軽くよそう場合などをいう。

hanagumi① (名) [花米] 神前に供えるための洗い清めた米。その敬語は 'Npanagumi。

hanaguni① (名) はなやかな村。遊芸の盛んな村。

hanagušiku① (名) 破名城。《地》参照。

hanaŋici① (名) 花瓶。花いけ。靈前に花を供える時に用いる。

hanaŋika① (名) 料理名。いかの肉を花型に切り、食紅で染めて、塩味を付けたもの。kašitira, kamabuku などとともに料理に色どりを添える。

hanakaa=sjuN① (自 =saN, =ci) かち合り。二つの事件が同時に起こる。

hanakakižaaru① (名) 鼻のかけた猿。次の句で用いる。～nu matazaaru 'wara-jun. 鼻のかけた猿が完全な猿を笑う。自分の欠点を知らずに、かえって他の完全なものを笑う意。

hanakatamajaa① (名) 鼻つまり。鼻がつまること。また、鼻のつまった者。

hanakusu① (名) 鼻くそ。

hanami① (名) 花見。

hanamoo① (名) 鼻のかけた者。鼻かけ。梅毒患者に見受けられる。

hanamunii① (名) hanamunuŋiiと同じ。

hanamunuŋii① (名) 鼻声。かぜを引いて、または甘えて鼻にかかった声で話すこと。

hanamusiru① (名) 花むしろ。花ごぞ。

hananusaci① (名) 鼻の先。きわめて近い所。miinumee (目の前)と同じ。

hananusima① (名) 遊里。花街。色里。

hanapiipii① (名・副) かぜを引いて鼻がつまりて音をたてること。また、そのさま。

hanari① (名) 離れ島。離島。ことに沖繩群島の本島以外の島、すなわち、久米・伊

平屋・伊是名その他の島をいう。

hanari=juN① (自 =raN, =ti) 離れる。

hanarizima① (名) 離れ島。離島。

hanasi① (名) 話(演説・談話・うわさ・物語など)。～sjun. 話をする。単にしゃべる意では 'jununを用いる。～ŋuciŋzasjun. 話を切り出す。hanasee hwa. 話は葉。話というものは葉ばかりで実がなく、信用できない。～hangaku. 話半学。人の話を聞けば半分学問した効果がある。～nu 'uu. 話の緒。余計な修飾。

hanasibuku① (名) 暗誦。書物をそらで復読(huku)すること。

hanasici① (名) 鼻かぜ。また、単にかぜ(風邪)。～kakajun. かぜを引く。

hanasikagii① (名) 鼻かぜ気味。かぜ気味。

hanasipiraa① (名) 鼻ぺしゃ。鼻が押しつぶされたようにひらたい者。

hana=sjuN① (他 =saN, =ci) 離す。放す。(付いているものを)放す。距離を離す意では hanarasjun という。cii～。乳を離す。また、離乳する。tii～。手を離す。また、手離す。tii hanasan gutu kašimitoori 'joo. 手を離さないようにつかんでろよ。ŋicunasanu tiinu hanasaraN. 忙しくて手が離せない。

hana=sjuN① (他 =saN, =ci) 話す。

hanatai① (名) [花当] 王室内の接待係をする少年。小姓。

hanaŋuci① (名) 綿打ち。綿を打ち直すこと。また、それを業とする者。'wataŋuciともいう。

hanaŋui① (名) 花織り。経糸と緯糸とを交互に浮かせて織った織物。

hanaŋui① (名) 花売り。花を売る人。また、花を売ること。

hanauu① (名) 下駄・草履の前緒。足指にかかる部分のことで、緒全体(いわゆる鼻

繕)には niriuu (皮のものは kaauu) という。

hanazakaiⓄ (名) ⊕花盛り。⊖転じて男女の20歳前後。青春。

hanaziiⓄ (名) 鼻血。

hanazumiti'isaaziⓄ (名) 花の模様を染めた手ぬぐい。

hance=cuNⓄ (自 =kaN, =ci) ⊖色つやが美しく出る。つやが出て美しくなる。芭蕉布などに酸類を入れてつやが出る場合などにいう。⊖花やかになる。⊖にぎやかになる。にぎわり。

haneeka=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) ⊖にぎやかにする。zaa ~. 座をにぎやかにする。⊖花やかに美しくする。

haneeki=junⓄ (他 =raN, =ti) haneeka-sjuN と同じ。

haniⓄ (名) 筆先ではねること。また、筆先ではねたところ。

haniⓄ (名) 羽。羽毛。また、つばさ。

hanigeaⓄ (名) 羽がい。両翼の付け根の骨の部分。また、転じて翼全体。

hani=junⓄ (他 =raN, =ti) ⊖はねる。水・どろなどを、はねる。mizi ~. 水をはねる。⊖筆先を、はねる。⊖計算を、御破算にする。⊖拒絶する。

haniN=cuNⓄ (他 =kaN, =ci) はねて入れる。はねとばして入れる。

hani'nciⓄ (名) 羽ばたき。

hani'zutuⓄ (名) 羽音。羽ばたきの音。

hani'weeziki=junⓄ (他 =raN, =ti) (仕事などを)押しつける。無責任に他にまかせる。sikuci ~. 仕事を押しつける。qkwa ~. 子(のもり)を押しつける。

haniziⓄ (名) 羽地。《地》参照。

hanⓄ (名) 判。印鑑。'in ともいう。~'ciCuN. 判をつく。判を押す。

han-(接頭)半。han'ri, han'mici (半里), han'bun (半分), han'nici (半日)など。
-han (接尾)半。'icirihan (一里半)など。

hanbiNⓄ (名) はんぺん。

hanbuNⓄ (名) 半分。なかば。

hanbuN'iciciⓄ (名) 半死半生。半分生きの意。

hanbuN'miciⓄ (名) 道のりの半分。半道。一里の半分は han'mici という。

hanbuN'utageeⓄ (名) 半信半疑。han'utagee ともいう。~ sjuN. 半信半疑である。

hanbuN'waakiiⓄ (名) 半分わけ。折半。

hanbuN'ziniⓄ (名) 半死半生。死にかけ。~ natoon. 死にかけている。

han'cigea=junⓄ (自 =raN, =ti) はねっかえる。はねて元の方へかえる。

han=cuNⓄ (他 =kaN, =ci) はじく。弾力によってとばす。

han'cuuⓄ (名) [新?] 半休。半分休む日。土曜日をいう。

han'cuujaamaⓄ (名) ばね仕掛けのねずみ取り。han'cuu < han'cuN. (はじく)。'jaama は機械。ねずみ取りは 'wencujaama ともいう。

handamaⓄ (名) 野菜の名。はるたま。水前寺菜。

handiⓄ (名) 布を織る場合の経糸の余り。経糸は計算が不正確な場合には余ったり足りなかったりする。その時余った糸をいう。handi < hand'ijun.

handi=junⓄ (自 =raN, =ti) はずれる。kuzikara ~. くじからはずれる。'uubinu ~. 帯がほどける。

handuuⓄ (名) [半胴] 水がめ。炊事用・飲料用の水を入れておく、口の広い大きいかめ。han'cuugaami の略。

handuugaamiⓄ (名) han'cuu と同じ。handuugami ともいう。

handuugamiⓄ (名) han'duu と同じ。

han'gwi=junⓄ (自 =raN, =ti) 解ける。ほどける。解けてはずれる。'uubinu ~. 帯が解ける。

haNgwimuN

- haNgwimuN① (名) 放蕩者。
- haNki① (名) 亀頭。<haNkijuN。～nu ʔugaN. 陽石を神体として祭ったところ。那覇の湧田にあり、中島遊郭の女たちが押んだという。
- haNki=juN① (自 =raN, =ti) 外側に剥ける。皮がむけて、中があらわれる。
- haNkwa① (名) ぜいたく。華美。派手。～ni sjuon. ぜいたくにしている。派手にしている。kwabitoon ともいう。～na mun. 派手な者。だて者。男について多くいう。
- haNmee① (名) 食糧。米に限らずいう。～nu ciritoon. 食糧が切れている。
- haNmici① (名) 半里。半道(一里の半分)。haNri と同じ。半行程の意では hanbunmici という。
- haNnagi=juN① (他 =raN, =ti) 投げ捨てる。放棄する。
- haNnici① (名) 半日。
- haNsana① (名) [半山] 支那茶の一種で、上質なもの。
- haNsi① (名) 一時的な処置。当面の処理・解決。間に合わせ。ʔicutanu ～. 応急措置。一時しのぎ。
- haNsii① (名) おばあさん。那覇で土族の祖母・老婆をいう語。
- haNsjo① (名) [半笛] 横笛。歌口のほかに穴が七つあるのが普通。中国の管楽器の簫は管が十六あり、横笛はその半分の八つあるので半簫の意か。
- haN=sjuN① (他 =saN, =ci) ①はずす。ʔuubi ～. 帯をはずす。帯を解く。②解決する。処理する。ziŋgutoo ʔwinagunoo hansijuusan. 経済は女では解決できない。③(接尾) …しそこなう。…しそびれる。…する機会を失する。…し損じる。ʔiceehansjuN (会いそこなう), tuihansjuN (取りそこなう), ʔiihansjuN (射損じる), ʔiihansjuN (言いそびれる) など。

- haNsu① (名) [文] さつまいも。甘藷。
- haNta① (名) 繁多。多忙。～ʔjan. 多忙である。～na baa. 多忙な時。
- haNta① (名) ①端。はしっこ。②崖のふち。また崖。
- hantagaki① (名) ①端に腰掛けること。②ものを何かの端に掛けること。③転じて、身のはいらぬやり方。あやふやなやり方。～qsi. いいかげんなやり方をして。
- hantasjan① (形) 危っかしい。あやふやである。hanta (崖のふち) にいるように、安定がなく危いことにいう。危いは普通 ʔukaasjan という。hantasii kutu. 危っかしい事。
- hantigutu① (名) 冒険。危険をおかしてすること。
- hantiwaza① (名) 危険な業。
- hanʔutagee① (名) hanbunʔutagee と同じ。
- hanza① (名) 波平。《地》参照。
- hanzaNsimee① (名) おばあさま。貴族の祖母・老女をいう語。
- hanzi① (名) 易者の判断。
- hanʔiʔuu① (名) 偏頭痛。半頭痛の意。kaʔaʔiburujan と同じ。
- hanziri① (名) たらい。桶の底の浅いもので、半切りの意。那覇その他では taaree という。
- hanzoo① (名) ①繁盛。②出産。また、生まれた子供。～sjun. 子を産む。～ja ʔikutaiga. 子供は何人か。
- haqcka=juN① (自 =raN, =ti) 出くわす。ぶつかる。ʔooenu miinkai ～. 喧嘩している所へ出くわす。
- haqcati=juN① (自 =raN, =ti) 盛り上がる。cii ～. 乳房が盛り上がる。
- haqci① (名) 八卦。綱引きの場合の hatagasira [旗頭] に付ける ʔizinduuruu [鼓燈籠] などに八卦を描いたものがある。
- haqci=juN① (他 =raN, =qci) はち切れそ

- りにする。
- haq̄ciri=juN**① (自 =raN, =ti) はち切れる。
haq̄ciriraNdi sjuru sjaku kweetoon.
はち切れるばかりに太っている。
- haq̄ciriracirira**① (副) 太って、はちきれ
そうなさま。~ sjoon. はち切れそうに
太っている。
- haq̄ka**① (名) hwaq̄ka と同じ。
- haq̄kaku**①① (名) 八角。
- haq̄kukuNkukuN**① (副) ほお張るさま。
~. qsi kanun. ほお張って食べる。
- haq̄pa=juN**① (他 =raN, =ti) 大きく開く。
穴などの表面を周囲に開く時にいう。mii
~. 目を見開く。
- haq̄san**① (名) 発散。熱が引くこと。hana-
sacinu basjoo kusui nudi ~ simijun.
かぜを引いたときは、薬をのんで熱を引か
せる。
- haq̄saNgusui**① (名) 体熱を発散させる薬。
熱さまし。
- haq̄siNzuubaku**① (名) 8寸四方の重箱。
重箱のうちでもっとも大きいもので、普通
の重箱は6寸四方。
- haqtu**① (名) [法度] 法度。禁止。禁制。
~ sjun. 禁止する。kumautee micikara
ʔuta sjuʂee ~ doo. ここでは道で歌を歌
うのは禁止だぞ。ʔwinagoo ~~, mudu-
ri muʂuri. [女は法度法度 戻れ戻れ(執
心鐘入)] 女人は禁制だ、帰れ帰れ。
- haqturugeejaa**①* (副) paqturugeejaa
と同じ。
- hara**① (名) 腹。普通はʔwata という。ha-
ra は単独ではほとんど使わないが ~ nu-
kutamijun (腹を暖める。ʔwata nuku-
tamijun とまいう) とはいう。複合語と
しては haragukuci (腹心地), haradaci
(腹立ち) など。
- hara**① (名) ①方。方面。側。ʔanu ~. あ
の方。あっちの方。maanu ~. どの方
面。どっちの側。nisinu ~. 北の方。北
- 側。②(接尾) -bara ともなる。…の方。
…の側。また、…の身内。…の親類。ʔiq-
taahara (おまえたちの側。また、おまえ
たちの親類) など。
- harabi**① (名) harubi (馬の腹帯) と同じ。
- haradaci**① (名) 腹を立てること。立腹。
tan̄ci ~ja kiganu mutu. 短気や立腹は
けがのもと。
- haragubu**① (名) 腹半分。
- haragukuci**① (名) 腹心地。腹ぐあい。ʔwa-
tagukuci とまいう。
- haraiʔutu=sjuN**① (他 =saN, =ci) 払い落
とす。ʔjaku ~. 厄を払い落とす。
- harajukuni**① (名) 瘡の名。横腹にできる
たちの悪い瘡で、命にかかわることがあ
る。
- hara=juN**① (他 =aN, =ti) ①払う。(代金
などを) 支払う。また、納めるべき物や金
を納める意にも、返済すべき物や金を返す
意にも用いる。②払う。cinnu hukui ~.
着物のほこりを払う。
- harami**① (名) 魚の卵。
- hara=sjuN**① (他 =saN, =ci) 晴らす。ʔami
~. 雨の晴れるまで待つ。ʔurami ~. 恨
みを晴らす。ʔamin harasaN, ʔNziti
ʔNzan. 雨のやむのも待たずに出て行っ
た。
- haratīci**① (名) ①はらから。同じ母の兄
弟。②同じ考えの者。共謀している者。
- haraʔuubi**① (名) 馬の腹帯。
- harawakai**① (名) 腹違い。父が同じで母を
異にする兄弟姉妹。
- haree**① (名) 払い。支払い。納め。~nu
ʔwaq̄saN. 払いが悪い。
- hareemuN**① (名) 払うべきもの。また、納
入・返済すべき金や物。
- harijaku**① (名) 厄が晴れること。ʔNma-
ridusi (生まれ年すなわち, 13・25・37・
49・61・73…) が過ぎること。また, ʔN-
maridusi の翌年。ʔNmaridusi は厄年と

harijun

れ、正月を盛大に祝い、その翌年は厄が晴れるので正月を小さく祝う。

hari=juNⓄ (自 =raN, =ti) 晴れる。天候の場合は、雨がやむことをいう。ʔaminu ~. 雨がやむ。ʔaminu 'januN とは元来はいわない。ʔutageenu ~. 疑いが晴れる。ʔjukunu ~. 欲がなくなる。haritooN. 雨があがっている。曇天および晴天をいう。ʔjakunu ~. 厄が晴れる。ことに厄年 (ʔNmaridusi) が明けることをいう。

hari=juNⓄ (自 =raN, =ti) (ふくれて) 張る。ciinu ~. 乳が張る。できものがはれるのは huqkwijun という。

harimaⓄ (名) [文] 晴れ間。

haruⓄ (名) ⊖畑。主として畑をさすが、畑よりも広義。耕地。田畑。~ ʔaqcuN. 農業をする。⊖墓。墓 (haka) を忌んでいう語。~kai ʔicuN. イ. 畑に行く。ロ*. 墓に行く。墓に参る。ハ. 死ぬ。忌んでいう語。~nu ʔarabi. 墓のたたり。墓の故障など。墓の故障は子孫に凶事があるとの警告とされる。

haruⓄ (名) [文] 春。hwaru と同発音される。春の季節感がないので、口語ではあまり用いない。

haruʔaqcaaⓄ (名) 農民。農夫。百姓。harusjaa ともいう。-ʔaqcaa <ʔaqcuN (歩く)。

harubiⓄ (名) 馬の腹帯。harabi ともいう。

harudunaiⓄ (名) 耕地が隣合わせになっている間柄。

harujaadiⓄ (名) 別荘。ʔjaadi ともいう。その項参照。

harumiciⓄ (名) 耕地の間の道。畑の中の道。

harumiguiⓄ (名) ⊖畑の見回り。⊖*墓の見回り。

harumi=juNⓄ (他 =raN, =ti) 釈明する。

弁明する。疑いを晴らそうと努める。

harusikuciⓄ (名) 畑仕事。農業。

harusjaaⓄ (名) 農民。百姓。haruʔaqcaa ともいう。

harusjuubuⓄ (名) 農業の成績を争う競争。増産のために二村対抗で行なわせたもの。

hasaⓄ (名) 襦 (まち)。はかまの内股・羽織のそでの付け根などに付け足す布。

hasa=nuNⓄ (他 =maN, =di) 挟む。

hasaNⓄ (名) 鉢。

hasiⓄ (名) haasi (箸) と同じ。

hasiⓄ (名) ⊖橋。~ ʔatajuN. 橋を渡る。⊖はしご。~ muqci kuu. はしごを持って来い。ʔjaanuʔwiiNkai ~ kakiti nubujuN. 屋根にはしごをかけて登る。

hasibasiⓄ (名) 端端。物のはしはし。すみすみ。

hasiqtuⓄ (副) しゃんと。しっかり。元気に。病後の人・老人などが元気なさま。~ najun. 元気になる。ʔaqcijoonu ~ sjoon. 歩きかたがしゃんとしている。naa ~ ʔjami. もう元気か。

hasiruⓄ (名) 雨戸。くり戸。

hasiruguciⓄ (名) 戸口。家の出入り口。

hasirunusanⓄ (名) 戸の上や下などにとりつけた、戸じまりの装置。

hasisiⓄ (名) 歯茎。はじし。~nu huqkwitooN. 歯茎がはれている。

hasjoohuuⓄ (名) 破傷風。

hasuNⓄ (名) [文・新] 破損。ふつう ʔjandi または ʔjaburi という。

hataⓄ (名) ⊖はた。ほとり。近く。そば。わき。ʔujanu ~. 親のそば。~ najun. そばになる。そばに近づく。~Nkai najun. かたわらによる。わきへどく。⊖(接尾) はた。ほとり。ʔumibata (海ばた), kumuibata (池のはた), macibata (市場のそば) など。

hataⓄ (名) 旗。

hataci① (名) はたち。二十歳。

hatagasira① (名) [旗頭] çinahwici (綱引き) の時、東西両陣營に立てる大きな旗。高さ5~6メートルくらいもあり、竿の上には çizinduuruu [鼓燈籠] というさまざまな形をした燈籠をのせ、のぼりを付ける。

hatagasiramuci① (名) 綱引き (çinahwici) の時、hatagasira を持つ者。力のすぐれた若者が二十人くらい選ばれてこの役に当たり、かわるがわる持つ。

hatahata① (副) 何かしようとしてあせるさま。zin mookirandı ~ sjoon. 金もうけしようとしてあせている。

hatajumi① (名) hateen と同じ。

hataka=jun① (自 =ran, =ti) ①はだかる。広い場所をとる。②立ちはだかる (taci-hatakajun)。

hataki① (名) 畑。haru は耕地一般。~ keesjun. 畑を耕す。

hatakiʔaasa① (名) mooʔaasa と同じ。

hataraci① (名) 働き。骨折り。また、仕事の能力。稼ぎ。

hatara=cun① (自 =kan, =ci) 働く。仕事する。労働する。骨折る。ʔagacun よりやや抽象的な意味の語。

hatazui① (名) 頭のまわりの部分だけを剃ること。小さい男の子がする。髪を結っている男の場合は、nakazui といって頭の真中を剃る。

hateen① (名) 機織り、箆 (おさ) の一種。二十よみ。経糸1600本を通すもので、最上の織物ができる。また、その織物もいい、宮古・八重山の上布などもこれに相当する。huduci の項参照。nanajumitu haten kasi kakiti ʔucoti, satuga ʔa-kizubaniNsuju şirani. [七櫛と二十櫛 かせかけておきよて 里があげづ羽 御衣よすらね] はたよみの糸をかせにかけておいて、恋しい男のあきつ羽のように美しい着物を作りたい。nanajumi はきわめて粗

い芭蕉布をいうが、ここではとりたてるほどの意味はない。

hati① (名) はて。終わり。~nu neeran. きりが無い。

hatii① (名) 命知らず。<hatijun.

hatijukuu① (名) すごい欲張り。はてしなく欲張る者。

hati=jun① (自 =ran, =ti) ①果てる。終わる。死ぬ意味では用いない。複合語としては, siihatijun (し終わる), ʔumihatijun (読み終わる, 数え終わる, シャベリ終わる) など。②果てる。限界を越える。命を捨ててかかる。また, すっかりずりずりしくなる。ʔwinagunu hatiree zaa najun. 女は果ては蛇のように恐ろしいものになる。hatitooN. すっかりずりずりしくなっている。命を捨ててかかっている。

hatimun① (名) 命知らず。hatii と同じ。

hatiruma① (名) 波照間島。八重山群島の島の名。

hatuma① (名) 鳩間島。八重山群島の島の名。

haʔui① (名) [新] 羽織。以前は duubuku (道服) といった。

haʔuta① (名) hwaʔuta と同じ。

hau① (感) ああん。子供に口を開かせる時発する語。また, 物を食う時などの大きく口をあいたさまをいう語。hau. ああんしなさい。

hauhau① (副) ばくばく。大きく口を開閉するさま。siisinu ~ sjoon. 獅子舞いの獅子が口をばくばくさせている。

haumika=sjun① (他 =san, =ci) ああんと口をあける。haumikaşee. ああんと口をあけなさい。

-hazaki=jun (接尾 =ran, =ti) 逸す。…しそこなり。…する機会を失う。-hazakijun ともいう。koihazakijun (買ひそこなり), ʔiihazakijun (もらひそこなり), ʔNNzihazakijun, miihazakijun

hazi

(ともに、見そこなり)など。

hazi① (名) ⊖恥。～nu ʔariwaɖu ninzi-n ʔjaru. 恥があってこそ人間である。～cirijuN. 恥知らずである。臆面もなく、ずらずらしい。恥が切れてなくなる意。⊙陰部。～ʔusujuN. 陰部をおおる。

hazi① (名) ⊖筈。当然そうあるべきこと。cuuru ~ ʔjaru qɕunu kuun. 来るはずの人が来ない。～kakijun. しきたり・約束を守る。慣行通りにする。義理を満たす。siqcooru ʔjaanakai ʔuriigutunu ʔatin ʔeesaɕi sanɖaree ~nu kakaran.* 知人の家に不幸があっても訪問しなければ義理を欠く。～N kakiranuu.* 義理を欠く人。⊙(主として、文末で)だろう。だろうこと。多分…だろうという推量の場合に用いる。cuuru ~. 来るだろう(来るはずだの意ではない)。

hazi① (名) [文] hazigi と同じ。

hazibaaja① (名) 家の罫罫、縁側など、端にある柱。muujabaaja (家の内部にある柱) に対する。-baaja < haaja。

hazici① (名) [針突] 入れ墨。女が結婚後、左右の手の甲および指の背にした入れ墨。明治の中ごろ禁止された。士族と平民の区別があり、また地方・島によっても違っていた。宮古・八重山地方では織物の模様もあったようだが、首里の女の入れ墨は、指には弓の矢、手の甲には星形や枡形、また、それらの組み合わせたものがあつた。大体、結婚したしるしとなったものである。

haziciraa① (名) 恥知らず。-ciraa は切れた者の意。hazicirimun ともいう。

hazicirimun① (名) haziciraa と同じ。

hazigi① (名) 植物名。櫛の一種。りゅうきゅうはぜのき。美しく紅葉する。

hazi=juN① (他 =raN, =ti) 脱ぐ。ciN ~. 着物を脱ぐ。ciN hazirasjuN. 着物を脱がせる。ʔuuɖu ~. ふとんを脱ぐ。

hazikasjan① (形) 恥ずかしい。hazika-

sja sjun. 恥ずかしがる。hazikasjagisa. 恥ずかしそう。

hazikasjaʔumii① (名) 恥ずかしがり。はにかみや。

hazikechazi'kec① (副) つまはじきするさま。また、子供などを叱る時、指をはじいて鳴らしながら言う語。～sarijuN. つまはじきされる。笑いものにされる。

-haziki=juN (接尾 =raN, =ti) -hazakijuN と同じ。

hazimai① (名) 始まり。発端。

hazima=juN① (自 =raN, =ti) 始まる。

hazimaki① (名) hazigi (はぜの木) にまけて皮膚病になること。

hazimi① (名) 始め。最初。

hazimi=juN① (他 =raN, =ti) 始める。

hazimiti① (名) ⊖初めて。～nu kutu. 初めてのこと。⊙初対面の目下に対してあいさつとしていう語。目上に対しては～deebiru. (初めまして) のようにいう。

haziri① (名) 歯切れ。また、言動がきびきびしていること。～nu ʔaN. 歯切れがよい。また、きびきびしている。nuu simitin ~nu ʔutasjaru qɕu ʔaN. 何をさせてもきびきびしている人だ。daruu-kwaruu qsi ~nu neeraN. だらだらしていきびきびしたところがない。

hazisi① (名) ⊖はずれ。はし。複合語としては、murahazisi (村はずれ) など。⊙末座。

haziuuki① (名) 桶の一種。大きく丸い桶で、さげる所のないもの。頭にのせて水を運ぶため、雨水をためるため、その他いろいろに用いる。

ha=zuN① (他 =gaN, =zi) 剥ぐ。kaa ~. イ。皮を剥ぐ。ロ。裸にする。ʔuudu ~. ふとんを剥ぐ。

ha=zuN① (他 =gaN, =zi) 配る。分ける。分配する。tiiɕinaa ʔnnaNkai hazi kwitanaN. 一つずつ皆に分けてやった。

ha=zuN① (他 =gaN, =zi) (船などを) 作る。huni ~. 船をつくる。

hei① (感) おい。目下へ呼びかける時いう語。taruu ~. おい, 太郎。目上に対しては heisai (もし) と, sai を付ける。

hii① (感) ⊖(母音が鼻音化する。[çĩĩ]) 目下に呼ばれて応答する語。ああ。はい。え。⊖(鼻音化しない) 目下に呼ばれてぞんざいに応答する語。ああ。何だ。

hiiʔii① (名) (鼻音化して発音されるのが普通。[çĩĩʔĩĩ]) ʔiihii と同じ。ʔiihii の方を多く用いる。

hija① (感) 威勢をつける時に発する語。えい。それ。

hijamika=sjuN① (自 =saN, =ci) hija (えい。それ) と言う。hijamikašee. hija と言って力を出せ。

hjaa① (名) [火矢・砲] ⊖大砲。⊖爆竹の一種。15センチ位の鉄筒に火薬をつめ、点火して大きな爆発音を出すもの。旧暦8月10日から15日までの間、悪魔を退散させるために打ち鳴らした。

hja① (名) 機織りの器具の名。綜紵。緯糸を入れるために、経糸を上下させる器具。

hja① (名・接尾・感・助) 野郎。やつ。人をのしる時いう。ʔanuhjaa (あの野郎), ʔjaahjaa (きさま), ʔeehjaa (おいこいつ。やい), ʔeehjaa maakaiga ~. (やい, どこに行きやがるか), nuuga ~. (何だ, やい) など。

-hja (接尾) [文] [比屋] 昔の, 按司の家来の役名。「往昔諸在郷の地頭村頭杯の称呼なり…今の山当 (山林監視官) を昔は山ノヒヤーと呼べりとかや (南島八重垣) 姓のあとへつけて, たとえば murabaru-nuhjaa [村原の比屋] (組踊り「大川敵討」の登場人物) のようにいう。-hja の上には ʔuhjaa [大親] という役名もあった。

hjaadaki① (名) hjaa (綜紵) と同じ。

hjaagaa① (名) 祭祀用の菓子の名。小麦粉を円形に薄くのぼし, 中をさらに焼き上げたもの。ʔandamuci といっしょに供える。食用にはあまりしない。

hjaagaa① (名) ⊖車輪。kurumanu ~. 車の輪。⊖転じて, 車輪の形をしたもの。菓子名の hjaagaa もその意か。

hjaagai① (名) 干上がったところ。水にぬれてない, 乾いたところ。

hjaaga=jun① (自 =raN, =ti) ⊖干上がる。水分が引いて乾き上がる。⊖雨が上がる。また, 雨が上がって, 日が現われる。hja-agatikara ʔikee. 雨が上がってから行け。

hjaaguN① (名) 比屋根。《地》参照。

hjaagwaa① (名) 爆竹。

hjaai① (名) 日照り。早魃。

hjaaiʔami① (名) 日照りの時の雨。旱天の慈雨。

hjaaidisi① (名) 早魃の年。

hjaaignai① (名) ⊖雨を伴わない雷。日照りなどの折の雷。音の大きいものの形容となる。⊖転じて, かんしゃく。また, かんしゃく持ち。

hjaaku① (名) ⊖百。hjaku ともいう。⊖2厘。ziN (銭) の項参照。

hjaakuguNzu`u① (名) 3厘。ziN (銭) の項参照。

hjaakumuci① (名) 同年の人が死んだ時, 2厘の菓子類を買って食った。その菓子という。2厘は hjaaku (百) というので, 百年も生きるようにとのまじないである。

hjaamii① (名) 狭間。城壁などにある, 射撃用の穴やくぼみ。

hjaaN① (名) 毛じらみ。

hjaazoo① (名) 比屋定。《地》参照。

hjaaku① (名) 百。hjaaku ともいう。

hjakudasi① (名) mumudakabi と同じ。

hjakuhataci① (名) [文] 百二十歳。~ najuru coozanu ʔuhusjuu. 農村の八月

hjakuʔicii

踊りに出る長者。

hjakuʔiciiⓄ (名) よくうそをつく人。百に一つの真しか言わない人の意。

hjakumaŋgwaʔNⓄ (名) 銭百万貫。2万円にあたる。ziN (銭) の項参照。百万貫の金ができると、百万長者の祝いをした。

hjakunaⓄ (名) 百名。《地》参照。

hjakunicizaqkwiiⓄ (名) [新?] 百日咳。saqkwii はせき。

hjakuniNⓄ (名) 百年。

hjakuniNⓄ (名) 百人。

hjakuseeⓄ (名) 百歳。~nu ʔatu. 死後。

hjakusjooⓄ (名) 平民。samuree (士族) に対する身分の名。農民は harusjaa. 平民は農業をしなくても hjakusjoo であり、士族は農業をしても hjakusjoo とはいわない。

hjaNnaⓄ (名) 平安名。《地》参照。

hjaNzaⓄ (名) 平安座島。沖縄本島の東側、浜比嘉島 (hamahwiza) の北にある島。また、平安座。《地》参照。

hjaNzanⓄ (名) 平安山。《地》参照。

hjaqkaniciⓄ (名) 百か日。死後百日目に(に) 営む法事。

hjaqkwanⓄ (名) 2円。ziN (銭) の項参照。

hjoobaNⓄ (名) 評判。~ sjun. 評判する。~ doo. 評判だぞ。~nu ʔwaqsan. 評判が悪い。

hjoobanmuNⓄ (名) 評判者。kaagigwaja murautooti hjoobanmunoo ʔwan ʔjašiga... 器量は村で評判者はわたしであるが…。

hjoocakuⓄ (名) 爆竹の一種。火薬を紙に包んだもの。爆発させて遊ぶ。旧暦8月の ʔookabii にはこれを鳴らして悪魔を退散させる。gaNsinagwaahjoocaku は、ねずみ花火のたぐい。

hjoorooⓄ (名) 兵糧。

hjoosiⓄ (名) 機会。はずみ。きっかけ。偶

然 (の機会)。ʔihjoosi ʔjasa. いい機会だ。ʔihjoosi の反対は buhjoosi (あいにく)。~na mun. まぐれあたりのもの。偶然なこと。

hjoosiⓄ (名) 音楽の拍子。楽曲進行の時間の小区分 (音楽家の術語)。また、歌の節をたすけて調子をとること。

hjoosiziⓄ (名) 拍子木。夜回りが打ち鳴らす角材。

hjootaŋçiburuⓄ (名) ひょうたん。çiburu の項参照。

hjoozoozuⓄ (名) [古] [評定所] 政府。内閣。saNsikwan [三司官] と zuuguniNsjuu [十五人衆] のいるところ。

-hjuu (接尾) 俵。-pjuu, -bjuu ともなる。ʔiqpjuu (一俵), nihjuu (二俵), saNbjuu (三俵) など。

hjuuguⓄ (名) 表具。表装。~ sjun. 表装する。

hjuuruciⓄ (名) ひよめき (乳児の脳天の、呼吸のたびに動く部分)。また、脳天。頭のてっぺん。naakunu ~Nkai ʔagajun. 脈が脳天まで上がる。非常に驚いた場合をいう。

hjuusiⓄ (名) ひよどり。

hnnⓄ (感) うん。ああ。目下や親しい者の呼びかけに対して応答する語。問いに対する肯定の場合には ʔNN。

hnnⓄ (感) ふん。軽く返事する声。また、鼻の先であしらう声。~ ʔanii. ふん、そうか。

hooⓄ (感) ⊖(母音が鼻音化する。[hōō]) 目下の年長に呼ばれて応答する語。はい。肯定や承諾の時には ʔoo という。⊖(鼻音化しない) 目下の年長に呼ばれてぞんざいに応答する語。ああ。

hooⓄ (名) 女の陰部。ほと。~ sjun. 交接する。

hooⓄ (名) 方。方向。maanun. どちらの方。

hoo① (名) 法, 方法。~nu neeN. 方法がない。

hoocaa① (名) 包丁。

hooci① (名) 箒。~ sjuN. 掃く。掃除する。

hoociʔuʔsi① (名) ほろき星。彗星。ʔirigaNbusi ともいう。

hoocikaʔci① (名) 掃除。箒で掃くこと。-kaci は反復する意の接尾辞。

hoociN=cuN① (他 =kan, =ci) ⊖掃き込む。ひとところに掃き集める。⊖(食物を)かきこむ。

hoociʔutu=sjuʔN① (他 =san, =ci) ⊖掃き落とす。⊖(病人をよく看護して, 病気を)掃き落とすように直らせる。

hoo=cuN① (他 =kan, =ci) 掃く。

hoocuu① (名) ⊖料理人。hoocaa を上手に使う人。板前。⊖料理。

hoogaku① (名) 方角。

hoohai① (感) 火事の時に叫ぶまじないの語。火事を見ればかならず二声叫ばなければならぬとされた。この声を聞けば男は火事場へかけつけ、女は火の神に水をあげる。hoo (女陰) は古来魔除けになっているので、hoo をあらわにして見せるという意と思われる。-hai< hajun. 火事が起こると hoohai の声がちまち四方に相呼応して、皆火事場へ赴いたものであった。

hoohaimuucii① (名) muucii と同じ。その項参照。

hoogazimaru① (名) 這って長く延びたガジマル (gazimaru) の木。

hoiʔNzi=juʔN① (自 =ran, =ti) 這い出る。

hoo=juN① (自 =ran, =ti) 這う。

hoo=juN① (他 =ran, =ti) (故意に, または誤って) こぼす。散らす。

hooka① (名) 曲芸。軽業・奇術・手品の類。放下。

hoomu=juN① (他 =ran, =ti) [文] 葬る。埋葬する。

hooʔoo① (名) (鼻音化して発音されるのが普通。[hōōʔōō])ʔoohoo と同じ。ʔoo-hoo の方を多く用いる。

hoori=juN① (自 =ran, =ti) こぼれる。散らかる。

hoorimuN① (名) 不品行な女。家に落ち着かずに出歩く女。あばずれ。

hootoo① (名) 放蕩。

hootoomuN① (名) 放蕩者。

hootooniN① (名) 放蕩人。

hootu① (名) はと。Qkwagwaa tiicee (子供を一人) といって鳴く。kutuukwiikwii Qkwagwaa tiicee ʔoonu ʔjama ʔNzi nasawa kwira ʔjaa. (童謡) クトウクィークィー (はとの鳴き声), 子供を一人喫武の山へ行って生んだらあげよう。

hootuNgwa① (名) 鳩の子。ʔjukaqcun-gwaa ~. 士族の子は鳩の子のように美しい。

hootuNni① (名) はと胸。

horohoro① (副) 布・着物などの乾いたさま。また、衣ずれのさま。ʔiieu bitabita kaiki ~. 絹は柔らかくびったりと肌合いい、甲斐絹はホロホロと音を立てて、ともに気持ちがいい。

hubasira① (名) 帆柱。

hubin① (名) 文通または交通が不便なこと。

hucaa=juN① (自 =ran, =ti) 茂る。繁茂する。こんもりと茂る。hucikunuN ともいう。

hucagi① (名) [吹上餅] 菓子の名。長円形の餅の回りにあずきを付けたもの。八月十五夜のお供えとする。次のような狂歌がある。cicija maNnakani husija ʔamaku-mani, tature ʔakama.minu cicaru gutosa. [月や真中に 星やあまこまに たとれ赤豆の つちやるとさ] 月はまん中に、星はあちこちに、たとえてみれば餅にあずきのついた hucagi のようなものさ。

hucan① (名) 福建。中国の地名。

huci

huci① (名) がけ。きりぎし。山腹のけわしいところ。古語の「ほき」に対応。

hucibanta① (名) 断崖。絶壁。

hucicaa=sju¹N① (他 =saN, =ci) 吹き消す。

huci¹goo① (名) 不都合。不届き。ふらち。～na muN. 不届きな者。

hucijuu① (名) 煮え湯。沸騰した湯。huci-<hucun.

hucika① (名) ふつか。二日。一日の二倍。また、月の二番目の日。

huciki① (名) 毛・繊維の切れくず。kara-zibuciki (髪の毛の散らばったもの), 'uu-huciki (芭蕉糸の切れくず) など。

hucikumi①* (名) 草や木の茂ったところ。茂み。hucikun ともいう。

huciku=nuN①* (自 =maN, =di) (雨・風が) 吹き込む。

huciku=nuN①* (自 =maN, =di) 茂る。繁茂する。hucaajuN ともいう。ʔanu 'jasi-
cee kiikusanu hucikudoon. あの屋敷は草木が茂っている。

hucikun①* (名) hucikumi と同じ。

huçima① (名) ふすま(襖)。貴族の屋敷などにはあった。普通の家には nakabasiru (家の中の板戸) が用いられていた。

huçima① (名) さかき(榊)。その枝葉を神に供える。

huçi=nuN① (自 =maN, =di) 腫れる。虫などに刺されたあとが少しふくれることにいう。

hucin=cuN① (自 =kaN, =ci) (雨・風が) 吹き込む。

hucituba=sju¹N① (他 =saN, =ci) 吹き飛ばす。

hucukuru① (名) ふところ。niwaja 'juçi hujui ʔnmija hana sacui, 'Nzoga ~-ja mahweü hucuru. [庭や雪降ゆい 梅や花咲きゆい 無葎が懐や 真南ど吹きゆる] 庭には雪が降り、梅は花が咲いてい

るが、愛人のふところは暖かい南風が吹いている。

hucukuruʔoozimee① (名) 人知れず喜ぶこと。また、表面苦しそうによそおいながら、内内は安楽に暮らしていることなど。ふところで扇を持って舞う意。～ sjuN.

hu=cuN① (自 =kaN, =ci) ⊖(風が) 吹く。kazinu ~. 風が吹く。⊖沸く。沸騰して蒸気が吹く。'wacuN ともいうが、首里では hucun を多く用いる。'juunu ~. お湯が沸く。

hu=cuN① (他 =kaN, =ci) 吹く。口で吹く。ʔiici ~. 息をつく。息を吹く。hanjsjo ~. 笛を吹く。tabaku ~. たばこを吹かす。hana ~. いびきをかく。

hu=cuN① (他 =kaN, =ci) (屋根を) 葺く。

huda① (名) 札。物事を記した小さい板または紙。

huda① (副) あやうく。すんでのこと。～ kaçimirariitaN. あやうくつかまえられるところであった。～ 'jatasaa. 危いところだったよ。

hudaganasi① (副) あやうく。すんでのこと。huda ともいう。～ sariiteesaa. あやうくやられるところだったよ。

hudagasi① (副) hudaganasi と同じ。

hudaʔiri① (名) 投票。選挙の投票。競売の入札は ʔirihuda。

hudami① (名) ためにならぬこと。のちのちよくないこと。文語では tamisizi という。caqci suba nasiinee, ~ najun. 嫡子を軽んずると、ためにならない。～na. ためにならないよな。

hudce① (名) [諧代] 諧代の士族。もとからの士族。sinʒan (新参の士族) に対する。

hudi① (名) 筆。

hudii① (名) ⊖稲光。いなずま。⊖はげ。頭の傷あとなどにできるはげをいう。kanpaci ともいう。～ kanpaci ʔuçicuu

ʔagaraci ʔjuuhan kwee. はげを、お月さまを上げて光らして、その光で晩飯を食べ。(はげをからから童謡の文句)

hudiki① (名) 不出来。出来がよくないこと。また、成績などが悪いこと。～na ʔwarabi. 出来の悪い子供。

huda① (名) せたけ。せい。身長。～nu hwikusAN. せいが低い。～ʔwiijuN. せいが伸びる。成長する。～ʔwiijuru guttoosa. せいが伸びるようだ。非常に嬉しい時にいう。天に昇るようだ。「天に昇る」とは忌んで言わない。～ʔwaasjuN. せたけを伸びさせる。成長させる。

huduci① (名) おさ(箒)。織機の付属具の名。経糸の位置をととのえ、緯糸を織り込むのに用いる。薄い竹片をつらねて楕円形にし、上下にわくを付けたもの。普通の布を織る時は経糸を二本ずつ通すが、ʔusjaamii という冬物を織る時は四本ずつ通す。箒の種類は nanajumi (七よみ) から hatajumi (二十よみ) まであり、一よみ (cujumi) に経糸80本を通す。そこで箒の種類と経糸の数とは次の通りとなる。nanajumi すなわち naneen (七よみ, 560本), ʔeen (八よみ, 640本), kukuniin (九よみ, 720本), tiin (十よみ, 800本), ciin (十一よみ, 880本), teen (十二よみ, 960本), nuun (十三よみ, 1040本), ʔiin (十四よみ, 1120本), ʔiciiin (十五よみ, 1200本), miin (十六よみ, 1280本), tuunanajumi (十七よみ, 1360本), tuujajumi (十八よみ, 1440本), tuukukunujumi (十九よみ, 1520本), hatajumi すなわち hateen (二十よみ, 1600本)。nanajumi が最も粗く、粗末な芭蕉布などで、hatajumi はきわめて細かい上等の織物となる。

huduguu① (名) 体の小さい者。ちび。

huduguusaN① (形) 体が小さい。hudumagisaN の対。

huduhudu① (名) 年頃。よい年頃。～ni narawa ʔingumi sjuN. 年頃になったら縁組をする。

hudumagii① (名) 体の大きい者。大柄な者。

hudumagisaN① (形) 体が大きい。大柄である。huduguusaN の対。

huduui① (名) 不同意。不承知。不賛成。また、反対すること。～ʔjan. 不賛成だ。～sjun. 反対する。

huduunukami① (名) [不動神] 廁の神。便所の神。

huduʔwiigurui① (名) 子供の股の付け根にできるぐりぐり。成長するためにできるとして名付けたもの。

hugaʔtiin① (名) 不承知。承諾しないこと。～ʔjan. 不承知だ。ʔwannee～ʔjaibiiN. わたしは不承知です。

huga=sjuN① (他 =saN, =ci) ⊖ (穴を) あける。ほがす(九州方言)。mii ～. 穴をあける。⊖人の金などを、使い込む。gumuʔi ～. 公金を使い込む。

hugi① (名) ⊖穴。⊖会計の欠損。hugeeneeni. 欠損はないか。

hugi=juN① (自 =raN, =ti) (穴が) あく。ほげる(九州方言)。miinu ～. 穴があく。

hugimuN① (名) 穴があいたもの。穴があいた鍋・釜など。

hugu① (名) ほご(反故)。書き損じた紙。または、字の書いてある不要となった紙。

hugui① (名) ふぐり。陰囊。～tjujuN. 去勢する。

hugukabi① (名) hugu と同じ。

huiʔasaban① (名) 農家で、その日の食糧、すなわちさつまいもをその日に掘ること。ʔasaban は昼食のこと。

huiiti① (名) 不得手。不得意。huiti ともいう。

huikée=sjuN① (自 =saN, =ci) (病気が) ぶり返す。(病気が) ふたたび悪化する。

huikina

hwiqceesjuN, ?uqceejunともいう。

huikinaⓄ (名) 振慶名。《地》参照。

huikumira=ri¹juNⓄ (自 =riraN, =qti)

(雨に)降り込められる。

huimaa=sju¹NⓄ (他 =saN, =ci) (雨が)降り残す。(夏のわか雨などが)回りに降って、そこに降らない。kunu muraa huimaacAN. この村は降り残した。

huimuNⓄ (名) 彫り物。彫刻。

hui?Nza=sju¹NⓄ (他 =saN, =ci) 掘り出す。地中から掘って出す。

huinciⓄ (名) huincibakaと同じ。

huinciba¹kaⓄ (名) 横穴式の墓。岩石に掘ったものや、niibi (赤土岩)に掘ったものもある。墓にはこの外、kaaminakuu (亀甲式), hwaahuu (破風式)がある。

huishi=junⓄ (他 =raN, =ti) 振り捨てる。振り離して捨てる。

huisudiⓄ (名) 振りそで。貴族の少年が'wakasju [若衆]として城中で王の給仕などをする時に着た衣裳。緋縮緬の長いそでをひるがえし、女の子のような姿をしていたと見える。廃藩後は'wakasjuudi [若衆躍],あるいは組踊り(kumiudui)の子役でその姿がしのばれた。その風俗がすたれてからは、日本風の振りそでをいうようになった。

huiitiⓄ (名) 不得手。不得意。huiitiともいう。?utaa ~ 'jaqsa. 歌は苦手だよ。

hujaⓄ (名) 靴。tiqpuu katamiti ~ kumaci, ?ujanu hukooja naranga 'jaa. 鉄砲かついで靴はかせ、親の不孝にならないかねえ。(明治の新制度による師範学校教育を皮肉った歌。「我は官軍」の節で歌われた。)

hujaⓄ (名) (ランプの)ほや。

hujagi=junⓄ (他 =raN, =ti) 振り上げる。miiN hujagiraN. mii (目)の項参照。

hujakariⓄ (名) [文] 振り別れの意。(親しい者同志の)別離。timatu ?abuzakenu

kanusicanu hamani, 'Nzotu ~nu munu kurisja. [汀間と安部境の河の下
の浜に 無蔵と振別れの 百の苦しや(汀
間節)] 汀間と安部の境の河の下(地名)の
浜で恋人と別れることの非常なつらさよ。

hujakari=junⓄⓄ (自 =raN, =ti) [文] (親しい者同志が)別れる。hujakariti 'utin sinasakija tageni kajuwacidu siçin macura 'jaşiga. [振別れて居ても仕清や互に通わちど節も 待ちゆらやすが] 別れていても情は互に通わせておけば再会の機会も待てるであろう。tumiti tumiraran ?awari hujakariti ?arasigwinu ?araba 'wamija ca sjuga. [とめてとめららぬ あわれふやかれて あらし声のあらば わ身やきやしゆが(忠臣身替)] 止めても止められない。ああ別れてしまってから不幸な知らせがあったらわたしはどうしよう。

hujawasiⓄ (名) [文] 振り合わせの意。めぐり合わせ。sudu ~du guinsarami. [袖の振合せど 御縁さらめ] そでを振り合わせた偶然のめぐり合わせが御縁でありましょう。

hujawa=sjuNⓄ (自 =saN, =ci) [文] 振り合わせ意。めぐり会う。tin¹tu zinu nasaki hujawasjuru ?uciju, 'Nzotu 'iN musudi tageni suwana. [天と地の情 振合しゆる浮世 無蔵と縁結で 互に添はな(銘別子)] 天と地の情をめぐり合わせる浮世のこと、あなたと縁を結んでいっしょになりましょう。

hujooⓄ (名) 散歩。保養の転意か。~sjun. 散歩する。

hujuⓄ (名) 冬。寒い季節。四季のうちでは naçi と huju のみが口語として用いられる。

hujumuNⓄ (名) 冬物。冬着類。

hu=junⓄ (他 =raN, =ti) ⊖掘る。?ana ~. 穴を掘る。zii ~. 地面を掘る。⊖影

- る。彫刻する。
- hu=juN**ⓐ (自 =raN, =ti) 降る。ʔaminu ~. 雨が降る。
- hu=juN**ⓑ (他 =raN, =ti) ⊖振る。⊖ (男女間で相手を) 振る。また、(男女間で相手を) 嫌う。不満に思う。'utu hutoon. 夫を嫌っている。ʔurinu caku hutoon. 女郎が客をいやがっている。⊖不承知である。もと首を振る意か。いやである。huti kooran. いやと言って買わない。
- hujuu**ⓐ (名) 物ぐさ。無精。~ sjuN. 無精する。~na qcu. 無精な人。
- hujuu**ⓑ (名) 芙蓉。観費用に栽培される。
- huka**ⓐ (名) ⊖そと。ʔuci の対。~Nkai ʔNziree. 外へ出る。⊖ほか。他。以外。~nu. ほかの。ʔunu ~nee neeni. そのほかにはないか。qkwajaka ~nee iakaraa neen. 子以外に宝はない。
- huka**ⓑ (名) 鱻(ふか)。'juubinuqkwa (昨晚の子の意) ともいう。
- hukadaci**ⓐ (名) 下痢。huka (外。便所は外にある) にしばしば立つ意と思われる。上品な語で、上品な家庭以外では kusu-hwirii という。~ sjuN.
- hukama**ⓐ (名) 外間。《地》参照。
- hukamaaruu**ⓐ (名) 外を遊び回ること。
- hukaqti**ⓐ (名) 不向き。不勝手。不便。手腕・道具・場所などについていう。~na basju. 不便な場所。
- hukasan**ⓐ (形) 深い。ʔasasan の対。cimunu ~. 心が深い。hukasii naaka. 深い仲。ʔuraʔuranu hukasa naguʔuranu hukasa, nagunu mijarabinu ʔumuibukasa. [浦浦の深さ 名護浦の深さ 名護のみやらべの 思深さ] 深く入り込んだ浦浦の中でも名護の浦はとくに深い。それにもまして名護のおとめは情が深い。
- huka=sjuN**ⓐ (他 =saN, =ci) 沸かす。沸騰させる。'wakasjuN ともいうが、首里では hukasjuN を多く用いる。'juu ~.
- 湯を沸かす。ʔusiru ~. おつゆを沸かす。
- hukatu**ⓐ (名) 淵。川・海などの深くくぼんだ所。
- huki**ⓐ (名) 首里では使わない。農村で「おかげ」の意。ʔujanu ~. 親のおかげ。
- huki**ⓑ (名) 湯気。~nu tacuN. 湯気が立つ。
- huki=juN**ⓐ (自 =raN, =ti) さえずる。(小鳥が) 美しい声で鳴く。
- huki=juN**ⓑ (自 =raN, =ti) [文] (夜が) 更ける。老いてふけるの意では用いない。tanumu 'juja hukiti... [頼む夜や更けて...] 頼みとする夜はふけて...
- huki=juN**ⓑ (他 =raN, =ti) くぐる。くぐり抜ける。kacinumiikara ~. やぶの中をくぐり抜ける。
- huki=juN**ⓑ (他 =raN, =ti) (野菜などを) 間引きする。
- hukoo**ⓐ (名) 不孝。kookoo (孝行) の対。~na. 不孝な。
- huku**ⓐ (名) 復習のための読書。復読。~sjuN. 復読する。
- huku**ⓑ (名) 肺。肺臓。主として動物のそれをいう。
- huku**ⓑ (名) 福。~nu ʔukami. 福の神様。
- hukucici**ⓐ (名) ごみ。ほこり。hukui (ほこり) よりも大きく、または量が多く、着物・部屋・庭などにたまったものをいう。ciNnu ~ harajuN. 着物のほこりを払う。
- hukucicikaa**ⓐ (副) ほこりだらけ。~sjoon. ほこりだらけである。
- hukucicikaza**ⓐ (名) ほこり臭いにおい。食物などにほこりのたまった時のにおい。
- hukucirgee=juN**ⓐ (自 =raN, =ti) 寒気で、鳥肌が立つ。
- hukugaa**ⓐ (名) ⊖鶉の一種。烏骨鶉。hukugii (ふくげ) のあるものの意。⊖寒さで、ふくげの立った鶉。~nu gutoon. (hukugaa のように) 鳥肌が立っている。
- hukugaadui**ⓐ (名) hukugaa と同じ。

hukugidacuN

hukugida=cuN① (自 =tan, =qci) 鳥肌が立つ。tuihukugidacuN とか hukuçiru-geejuN ともいう。

hukugii① (名) ㊦ふくげ。鶏のひなのうぶげ。㊦不揃いの小さい毛。人の髪が生え際などの短い薄い毛などをもいう。㊦(寒い時、恐ろしい時などの)鳥肌立った毛。

hukuhuku① (副) かおりのよいさま。馥郁と。juinu hanaa ~ Qsi kabasjan. ゆりの花は馥郁としてかおりがよい。

hukui① (名) ほこり(埃)。目に見えないような細かなごみ。~nu tubuN. ほこりが飛ぶ。miinu ~. 目に入ったごみ。

hukui?uzoo① (名) 首里城の門の名。?uguşiku の項参照。

huku=juN① (自 =ran, =ti) [文・古] 喜ぶ。

hukukuri①* (名) 不心得。~na. 不心得な。

hukumaami① (名) 心臓。動物などのそれをいう。肺臓(huku) についている豆形のもの意。maami は腎臓。

hukumiN① (名) てんぷら。tinpura ともいう。

hukuqtu① (副) 不服そりに。不満げに。~ sjoon. 不服そりにしている。

hukurasjan① (形) [文・古] 嬉しい。喜ばしい。kijunu hukurasjana naunizana tatiru, çibuçi 'uru hananu çiju cata gutu. [けふのほこらしやや なをにぎやなたてる つほでをる花の つゆきやたごと(御前風)]きょうの嬉しさは何にたとえられよう。花のつぼみが露に会ったようだ。namanu gutu 'jariba hukurasjan-ðu ?ajuru. [なまの如やれば ほこらしやどあゆる(忠臣身替)]今の通りであれば嬉しいことである。hukurasja sjuN. 喜ぶ。

hukuru① (名) 袋。

hukurugi① (名) きりんそう。多年生草本。葉は倒卵形で両側に刺がある。茎・葉を傷

つけると乳状の液が出て、その液は「ささを入れる(sasaの項参照)」のに用いる。

hukurusudi①(名) 袋そで。袖口を袋のように縫った、たもとのあるそで。çuubuku [道服] などのそで。tamutusudi ともいう。

hukutaa① (名) ほろ。つづれ。

hukutaamusi①(名) みの虫。

hukuzi① (名) 福木。亜熱帯喬木。葉は大判のような楕円形で厚く、子供がいろいろのおもちゃを作る。防風林・防火林にもなるので、琉球の至る所で、村・家の周囲に植えており、奥深い感じを与えている。樹皮からは黄色の染料をとる。hukugi ともいう。

hukuzi① (名) 福地。《地》参照。

hukuzigaci① (名) 福木のいけ垣。

humici① (名) 暑気。熱気。「ほめき」に対応する。

humicikaza① (名) 食物などが暑さで腐れかかったにおい。籠えたにおい。

humicimaki① (名) 夏負け。暑さ負け。

humi=cuN① (自 =kan, =ci) ㊦蒸し暑くなる。また、湿度が多く、なま暖かくなる。「ほめく」に対応する。㊦飽える。食べものが暑さなどで腐って水っぽくなる。㊦にぎわう。人が集まって暖かい感じがする。'jaa humikasjuN. 人が集まって家をにぎやかにする。

humigui① (名) (めぐりが悪いこと) ㊦経営などがうまく行かぬこと。不振。~ na-juN. 不振となる。㊦消化・血の循環などが悪いこと。çiinu ~. 血液の循環が悪いこと。体の調子がよくないこと。

humiiata^h kwa=sjuN① (他 =san, =ci) ほめはやす。やたらにほめる。大げさにほめる。

humiiatiju^h N① (他 =ran, =ti) humita-tijuN と同じ。

humi=juN① (他 =ran, =ti) ほめる。称赞

する。
humiku=nuN④ (自 =maN, =di) ⊖踏み込む。闖入する。⊕身を入れる。励む。また、とつぎ先・奉公先などで熱心に働く。gakumuNnakai humiku'ooN. 学問に身を入れてる。
humitati=ju'N④ (他 =raN, =ti) ほめ立てる。humiiatijuN ともいう。
huna'aratami④ (名) 船の検査。舟あらためめの意。
huna'asibi④ (名) 舟遊び。舟に乗って遊ぶこと。那覇では、nagaribunii (流れ舟) という。
hunabasi④ (名) 船橋。船を並べてつなぎ橋としたもの。'isaheijoo, çikinTu kudakatu ~ kakiti çikinNu mijarabi 'wataci mibusja, 'isaheijoo 'jaarasi kuikui. [...津堅と久高と 船橋かけて 津堅の女童 渡ち見ぼしや...]... (はやし)...津堅島と久高島の間に船橋をかけて、津堅の娘達を渡して見たい。... (はやし)...
hunabiN④ (名) 船便。
hunaciN④ (名) 船賃。備船料。また、乗船賃。
hunadeeku④ (名) 船大工。
hunagakai④ (名) 船がかり。船が途中の港で碇泊すること。
hunaka① (名) 不仲。仲が悪いこと。~ najuN. 不仲になる。~na miitunda. 仲の悪い夫婦。
hunaku④ (名) 船子。水夫。huninu tumuzina tukutukutu, ~ 'isamiti mahu hwikiba, kazija matumuni 'Nmahwiçizi. [船の縦 とくとくと 船子勇みて 真帆ひけば 風やまともに 午未 (上り口説)] 船のともづなをすばやく解いて、船子が勇んで真帆を引くと、風は午未 (南南西) の順風。
hunakusi④ (名) 富名腰。舟越とも書く。《地》参照。

hunamici④ (名) 船路。航路。
hunanui④ (名) 船乗り。船員。
hunaNkee④ (名) 船で来る者を出迎えること。また、船を出迎えること。島国の関係で旅人の出迎いはほとんどが hunaNkee となる。
hunatabi④ (名) 船旅。
hunatoo④ (名) 幹部船員。
huna'ukui④ (名) 船出を見送ること。旅に出る人の船を見送ること。旅行の見送りはほとんどが huna'ukui である。
hunawii④ (名) 船酔い。huneeci ともいう。
huneeci④ (名) 船酔い。~ sjuN. 船酔いする。上陸後感ずるものには ziibuneei という。
huni④ (名) ⊖骨。生きものの骨。Qcunu ~. 人骨。~ kweesjuN. 骨を肥やす意。何もしないでなまける。骨を借しむ。(尽力する意の「骨を折る」という表現は元来はない) ⊕(障子などの) 骨。器物の軸。'akainu ~. 障子の骨。⊕植物の茎。'warabinu ~. わらびの茎。
huni④ (名) 舟。船。~ nusijuN. 島流しにする。流罪にする。~ nusirarijuN. 島流しにされる。
hunigumi④ (名) 骨組み。骨格。また器物・家屋などの組み立て。
hunijan④ (名) 骨の痛み。過労・けがなどで骨が痛むこと。
huniN④ (名) 念を入れられないこと。不熱心。~na Qcu. 不熱心な人。
huniNzoo④ (名) 不人情。薄情。~na 'wikiga. 不人情な男。
huni'obu④ (名) 骨膜炎。単に 'oobu ともいう。
hunoo④ (名) 不納。税金・無尽の金など納めるべき金を納めないこと。~ sjuN. 納めない。
hunui④ (名) ふのり。海藻の名。洗髪・洗濯などに用いる。

-hun

-hun (接尾) 本。本数を数える接尾辞。
ʔiqun (一本), nihun (二本), sanbun (三本) など。

hunbiçi① (名) 分別。思慮。また、考え。計りごと。murabaruN tumuni ʔuciha-tasaNdinu ~wa ʔnzaci, ʔikutubawa kazati…[村原も共に 打果さむでの 分別は出ち い言葉は飾て…(大川敵討)] 村原もいっしょに打ち果たしてやろうと計って、ことばだけは飾って…。

hunbun① (名) 本分。なすべき務め。

huncoosi① (名) 本調子。琴・三味線の調子の名。sagi (下げ) ともいう。本調子のほかに、琴には二弦上げと四弦上げがあり、三味線には二上がりと三下がりがある。本調子にはたとえば saginakahuu [下仲風], sagisjuqkwee [下述懐] などの歌曲がある。

hundee① (名) ①わがまま。子供などが泣いたり甘えたりしてわがままにすることをいう。~ sjuN. わがままをする。②(接尾) 放題。siibusahundee (したい放題), tuiibusahundee (取りたい放題) など。

hunniN① (名) 本人。当人。zintii ともいう。

hunnu① ①(名) 本当。~ ʔjan. 本当だ。~nu kutu. 本当のこと。②(副) 本当に。~ curasaN. ほんとにきれいだ。mura-barutuzija miikuci ʔjahwajahwatu kuusjuuraasii kaagi, ~ ʔnca ʔnsjamun ʔjašin çittee…[村原妻や 口口やはやはと 小しほらしいかあげ ほんのむちやむしやものやすんついてや…(大川敵討)] 村原の妻は目もと口もとがやさしくかわいらしい容顔で、ほんとにまあ、申し分のないしっかり者なので…。

hunpan① (名) ①一膳。一椀。お代わりをしないこと。~ qsi ʔjutasaibiin. 一膳でよろしゅうございます。②一食。一回の食事の給付。

hunpanzikanee① (名) 一食のまかない。一食を給付すること。一食しか給付しないこと。

hunşi① (名) [風水] ①家屋・墓地などの位置のよしあしを占うこと。また、そのよしあし。家相。風水。ʔiihunşi. いい家相。いい風水。~nu ʔwaqsaN. 家相が悪い。風水が悪い。②墓の異名。

hunti① (名) 本手。正しいしかた。正道。琴・三味線・囲碁などでの術語。

huntoo① (名) [新?] 本当。ziçi を多く使う。~nu kutu. 本当のこと。

hunziruu① (名) [焚字炉] hugu (字を書いた, 不要になった紙) を燃すための炉。また, 地に落ちた頭髪なども拾い上げて hunziruu で燃した。字を書いた紙 (šimikabi) はすべて神聖視され, 不要になれば丁寧に hunziruu で燃す。道で誤って踏んだ場合には, おしいたいでから石垣の穴につめる。hunziruu は1メートルくらいの高さに石を積み上げた炉で, 各部落にかならず一つはあり, その他, ʔuāun [御殿], tunci [殿内] の屋敷の一隅, 学校の校庭のすみなどにも見受けられた。

hunzuri① (名) もと娼妓であった者。女郎あがり。zuriʔagai ともいう。huruzuri とは異なる。

hunzuruu① (名) hunziruu と同じ。

huqea① (名) 富着。《地》参照。

huqcaa① (名) 堀川。《地》参照。

huqcagisaN① (形) かわいい。かわいらしい。

huqcee=sjuN① (自 =saN, =ci) huicee-sjuN, hwiqceesjun と同じ。

huqkwi① (名) 腫れもの。皮膚がはれて盛り上がったもの。

huqkwi=juN① (自 =raN, =ti) ふくれる。腫れる。皮膚が腫れ上がる。また, 怒ってふくれる。çira ~. 怒って顔がふくれる。

huqkwisoori① (名) (むくみなどが) はれ

たりひいたりすること。

huraa① (名) 気違い。気のふれた者。また、馬鹿者。<hurijun。

hura=euN① (自 =kan, =ci) あく。(目・口・器物の口などが、また穴が) あく。ʔana huracoON. 穴があいている。kuci ~. 口があく。mii ~. 目があく。hana ~. 鼻の穴が大きくあく。転じて、傲慢になる。えらそうにする。得意がる。

huraki=juN① (他 =ran, =ti) あける。(袋・壺・目・口などを) あける。戸などは ʔa-kijuN という。kuci ~. 口をあける。また、腫物などに口をあけて、うみを出すなど。mii ~. イ。目をあける。ロ。啓発する。学問をさせる。

huraŋsi① (名) フランス。

huriburiitu① (副) ほんやりと。ぼかんと。呆然と。makutukaja ʒicika 'wazimu ~ nizami ʔuduru:cinu 'juminu kuku-ci. [誠かや実か わ肝ほればれと 寝覚め驚きの 夢の心地] (子を失ったのは) 本当のことなのか、わたしの心は呆然として、驚いて目がさめても夢心地のよう为本当とは思えない。

huridakuma① (名) 狂人の知恵。気違いの働かず知恵。気違いのくせに自分の得となることには知恵が働く場合などという語。

hurii① (名) お上からの通知。おふれ。布告。

hurii① (名) 体の震え。また、体の震える病気。フィラリヤの一種で、発熱し、悪寒がして体が震える。

huriagaci① (名) おふれ書き。

huriituu=sju^hN① (他 =san, =ci) あまねく知らせる。布告して行き渡らせる。

huri=juN① (自 =ran, =ti) 震える。人・動物が寒さ・恐怖などで震えることにいう。

huri=juN① (他 =ran, =ti) ふれる。布告する。一般に知らせる。ʔumaNcuni ~.

人びとに知らせる。

huri=juN① (自 =ran, =ti) ① 惚れる。恋におちる。'winagunkai ~. 女に惚れる。ʒuritu huriti. 女郎と惚れ合って。② 惚れる。すっかり気に入る。kunu 'jaa-Nkai ~. この家に惚れる。

huri=juN① (自 =ran, =ti) 気がふれる。気が狂う。気違いになる。hurijuru gu-toosa. (いらいらして) 気が狂いそうだ。

hurimakutu① (名) 馬鹿正直。お人よし。単に makutuna muN. といっても、その意味になる。

hurimunii① (名) hurimunuʔii と同じ。

hurimunuʔii① (名) ① 狂人めいたことば。理に合わぬことば。② たわごと。馬鹿げたことば。

hurimuN① (名) ① ならず者。不良・やくざなど。② 馬鹿。~ nasjun. 馬鹿にする。軽蔑・侮辱する。③ 気違い。狂人。ふれ者。sjooburimuN ともいう。ʔagin: hurimunoo 'wikiga. 陸上の気違いは男。男が女郎にうつつをぬかすことをいったことば。

hurizikara① (名) 馬鹿力。

huru① (名) 便所。在来のものは石畳で囲んだもので、中に豚を飼い、糞は豚の飼料となった。

huru=buN① (自 =ban, =di) ① [文] 滅びる。滅亡する。② 人に貸した金が取れなくなる。貸した金を踏み倒される。hurubasjun. 借金を踏み倒す。hurubasarijun. 貸した金を踏み倒される。

hurubuQkwi=juN① (自 =ran, =ti) 古ぼける。古くなってみすぼらしくなる。

huruci① (名) 古血。けがれた血液。とくに梅毒にかかった人の血。

hurucoo① (名) 古い帳面。古い文書。古文書。

hurudoogu① (名) 古道具。

hurudooguu

- hurudooguu**① (名) 古道具屋。
hurugin① (名) 古堅。《地》参照。
huruhugu① (名) 古い反故。古い不用の書きちらした紙など。
huruhwiiziri① (名) 焼け残りの木切れ。huruhwiiziree teeçikijaqsan. 焼け残りの木切れは焚きつけやすい。一度関係のあった男女はよりをもどしやすい意。
hurujaa① (名) 古い家。miijaa の対。
hurukizi① (名) ㊦古傷。㊦旧悪。
huruma=sjun① (他 =san, =ci) 古くする。古くまで大切に使う場合・長くおいてよくする場合にいう。hurumaceeru saki. 長くおいてある酒。kuusju (古酒) と同じ。
hurumici① (名) 旧道。miimici の対。
hurumi=jun① (他 =ran, =ti) hurumasjun と同じ。
hurumuN① (名) 古物。古くなった器物など。miimuN (新品) の対。
huru=nuN① (自 =man, =di) 古くなる。古びる。'jaanu hurudoon. 家が古びている。
huruqeu① (名) 梅毒にかかったことのある人。huruci の人。miiqeu の対。
hurusaN① (形) 古い。多くの年月を経ている。
hurushi① (名) ㊦古巢。soominanu ~. 目白の古巢。㊦旧居。
hurutuzi① (名) 元の妻。前妻。この反対は namanu tuzi (今の妻)。
huruwata① (名) 古綿。すでに使用した綿。
huruzi① (名) 古着。質流れの衣服を多くいう。
huruzi'aci'nee① (名) 古着商。もっぱら婦女子が営んだ。
huruzi'aco'odu① (名) 古着商人。huruzi'acinee をする者。
huruzima'ci① (名) 古着市。
huruzin① (名) 古くなった着物。古着。miizin の対。

- huruzuri**① (名) [古尾類] むかしなじみの女郎。zuri は女郎。
husa① (名) ふさ(房)。~ tarijun. ふさが垂れる。~nu sagatoon. ともいう。
husaa=jun① (自 =ran, =ti) 適する。ふさわしくなる。相応する。文語的な語。husajuN ともいう。husaaran muniikata. ふさわしくない言い方。
husa=jun① (自 =an, =ran, =ti) husajuN と同じ。文語的な語。husatoomi. 適しているか。
husakee=jun① (自 =ran, =ti) ふさふさと茂る。繁茂する。
husaku① (名) (農作物の) 不作。mansaku (豊作) の対。~'jan. 不作だ。
husaN① (名) 不参。来ないこと。
husansii① (名) [新] ㊦不賛成者。不賛成派。㊦明治の初め、廃藩置縣の時、明治政府に反対し、中国に属することを望んだ一派。kuruu, gwan'kuu ともいい、髪をたくわえていたが、日清戦争後すっかり衰えた。
husansii① (名) [新] 不賛成。~ sjun. 不賛成である。
husatu① (名) 富里。《地》参照。
husa=zun① (他 =gan, =zi) ふさぐ。閉じる。ふたをする。mii ~. 穴をふさぐ。qeu nu mii ja husagaraN. 人の目からは隠せない。
husi① (名) 節。㊦関節。~nu 'januN. 関節が痛む。㊦竹・葦・草の幹などの節。㊦柱・板などの節。㊦糸・ひもなどのこぶのようになっている部分。㊦音楽の曲節。メロディー。
husi① (名) ㊦星。名の付いた星はきわめて少ないが、例としては、nanaçibusu (北斗七星), miçibusu (オリオン座の三つ星), 'jookaabusu (明けの明星), 'juubanman'zaa(-busu) (よいの明星), qkwamucaabusu (子持ち星。そばに小さい星を従

えた星)など。～nu ?utijun. 星が落ちる。星が流れる。人はそれぞれ、天にその人に対応する星をもつと考えられたので、流れ星はどこかで人が死んだ印とされた。○転じて運命。運。～nu 'joosan. 運が弱い。

husi?anaⓐ (名) 節穴。husihugi ともいう。

husibari=juNⓐ (自 =ran, =ti) 晴れて星が輝く。星空が晴れわたる。

husibusiⓐ (名) 節節。あちこちの関節。～nu 'janun. 節節が痛む。

husihugiⓐ (名) 節穴。

husika'riⓐ (名) たきぎなどがよく乾いて枯れていること。～sjoomi. よく枯れているか。

husikooⓐ (名) [古] [星功] 役人の勤務評定。勤勉度や勤務内容の程度に応じて、表につける星印。

husimuNⓐ (名) 干し物。洗濯して干してあるもの。

husinujaa?uuçiiⓐ (名) 流れ星。星の屋移り(移転)の意。

husi=nuNⓐ (他 =man, =di) 欲する。欲しく思う。nooga(?weeki) husidoon. 名誉(富)を欲している。nuci husidi. 命を惜んで。nucin husiman. 命も惜しくない。

husinⓐ (名) 不審。不思議。?imani ~na ?anu kani. [いまに不審なあの鐘(執心鐘入)] いまだに不審なあの鐘。

husinⓐ (名) 普請。～sjun.

husin?amiⓐ (名) 不審紙。読書の際、不審な箇所につけておく赤紙。付箋。

husitakaraaⓐ (名) 節だらけ。甘蔗・竹の根などについていう。

husiziⓐ (名) 防ぐこと。防衛。

husiziⓐ (名) 不思議。～na. 不思議な。hwirumasii, cimjuuna などともいう。

husi=zuNⓐ (他 =gan, =zi) 防ぐ。防衛す

る。hwiisa ~. 寒さを防ぐ。

husjakanasjaⓐ (名) (子供などを)欲しく思い、かわいく思うこと。Qkwa ~ sjoon. 子供を欲しがり、かわいがっている。

husjanⓐ (形) 欲しい。Qkwa ~. 子供を欲しい。Qkwanu ~. 子供が欲しい。zin husja sjun. 金を欲しがる。'wikigan-gwa husja qsi 'juubee tumeejun. 男の子が欲しくて妾をもらう。

husjooⓐ (名) 不祥。よくないこと。めでたくないこと。?atataru ~. また ?icatartaru ~. 悪いことに当たった。運悪く災難に当たった時にいう。

husjooninⓐ (名) [新] 保証人。kunuu ともいう。

hu=sjunⓐ (他 =san, =ci) 干す。干して乾かす。cin ~. 着物を干す。

husoouNⓐ (名) 不相応。身分に過ぎることなど。～na cin cicoon. 不相応な着物を着ている。

husuⓐ (名) へそ。ほぞ。～çizun. へその緒を切る。切るという語を忌んで çizun (縫ぐ) という。

husuⓐ (名) 細上布。宮古・八重山地方産の麻織物の名。

husukaraziⓐ (名) へその緒と髪の毛。生まれた時に取っておき、死んだ時に棺に納めて埋葬する。

husukuⓐ (名) ①不足。足りないこと。②落度。あやまち。③神仏・祖先の祭祀を怠ること。

husumuNⓐ (名) 襟。kubi ともいう。

husu?uubiⓐ (名) 角帯。博多帯の一種。男子供用。?uhu?uubi の対。

hutaⓐ (名) 蓋。容器のふた。

hutaguⓐ (名) ふたこ糸。二すじより合わせた糸。またそれを経緯として織った普通平織りの綿織物。ふたこ織り。冬物にする。

hutagukuruⓐ (名) [文] 二心。異心。sjuzin tai tanudi ~ mucuru ?icisakasi

hutakacanu miju

'Nzanu ʔimasimini sjun. [主人二人たので ふたごころもちゆる 生族むぎのいましめにしゆん(忠臣身替)] 主人を二人持って二心を持っているなまいきなやつのでいましめにする。

hutakacanu① **miju**① (句) [文] 太平の御世の意か。古琉球(伊波普猷)には島津氏と中国の両国に属していた苦難の時代をいうとされているが、古歌に, mirukujuja minume hwicijusiti 'uŝiga, hutakacanu nunuja ʔutami 'warabi. [弥勒世や目の前 ひきよせて居すが ふたかちやの布や 織ためわらべ] (豊年は目前に迫っているが, フタカチャの布は織ったか, わらべよ。)とあるのを見ると, hutakaca は二つの蚊帳という意ではなく, 管弦の遊びをする時, 舞台に使う幕の類かとも思われる。

hutamakai① (名) 蓋のある makai. 蓋付きのどんぶり類。

hutanari① (名) 不似合い。不体裁。不適切。tanari の対。tanarinu neeraN ともいう。~na munuʔijoo. 不適切な言い方。

hutaqsja① (名) へた。違者(巧みの意)でないこと。ʔamatuguci ~. 日本語はうまくない。

hutarubi① (名) [文] 螢火。普通は ziinaabii という。

hutasika① (名) 不確か。不確実。~na. 不確かな。

hutaʔuja① (名) ふた親。両親。tainu ʔuja ともいう。

hutima① (名) 普天間。《地》参照。

hutinamee① (名) 普天間参り。普天間権現にお参りすること。普天間権現は航海の守護神として信仰され, 海外に旅する時, 観音堂とともに必ず参拝したところ。

hutu① (名) 臨時。不時。不図の転意か。~nu ʔikeehwa. 臨時の時の金。

hutucimusun① (名) ほどきむすびの意。

片結び。紐の一方を引けばすぐほどけるようにする結び方。お祝い物を包む時や結婚の際はこの結び方を避ける。

hutuciʔukoo① (名) 一本一本にほどいた線香。ʔumuçiriʔukoo (束のままの線香) に対する。

hutu=cun① (他 =kan, =ci) (結び目・縫い目などを) ほどく。また, (願を) 解く。gwaN ~. 願を解く。

hutuduci① (名) ⊖不行き届き。注意などが行き届かぬこと。不注意。ʔwaahutuçuci ʔjatan. わたしの不行き届きだった。⊖不届き。違法な非難すべきこと。~na muN. 不届き者。

hutihutu① (副) 欲しがって得ようとするさま。また, 一刻も早くしようとするさま。~ sjun. じれる。

hutihutuu① (副) ぶるぶる。がたがた。寒さ・恐怖などで身を震わせるさま。~ sjoon. ぶるぶる震えている。

hutihutuwgii① (名) 震え声。

hutuki① (名) ⊖仏。普通は, 三十三年忌をすませていない祖先の霊を hutuki という。三十三年忌以後の祖先の霊は神(kami)となる。⊖仏像。⊖お人好し。飾り物的人物。

hutukii① (名) 人形。

hutuNgwi① (名) ほころび。着物の縫い目のほどけ。

hutuNgwi=juN① (自 =raN, =ti) (結んだもの・縫ったものが) ほどける。ほころびる。

huu① (感) 目上に呼ばれた時の応答の語。はい。すなわち, 「はい, ここにおりますか」「はい, 何ですか」の意の「はい」。目上の問いへの肯定は ʔuu。

huu① (名) 果報。幸運。~nu ʔaN. 運がよい。~nu neen ʔcu. 運のない人。

huu① (名) 頬。huuʔira というのが普通。

huu① (名) 穂。

huu① (名) 風。風俗。風習。'jaanu (mu-ranu) ~. 家の(村の)習俗。maanu ~ga. どの風俗か。

huu① (名) 封。~ sjuN. (書状・箱などに)封をする。

huu① (名) 帆。布またはむしろで作る。

huubi① (名) ほろび。

huuci① (名) ふいご。

huuci① (名) 流行病。伝染して流行する病。風気。かぜなどのたぐい。~nu hwee-jun. 流行病がはやる。

huuci① (名) もぐさ。

huucibaa① (名) よもぎ。若葉は食用になり、餅にも入れる。老熟した葉はもぐさにする。

huuciee① (名) ふいご祭り。旧暦11月7日に鍛冶屋で行なう祭り。

huucigamarasjan① (形) 流行病の勢いが激しい。流行病が大いにはやる。

huucigeesi① (名) 流行病よけ。酒は流行病よけだといって、飲める人は飲み、飲めない女などは手・顔・首筋などを酒で拭く。

huucinu`ci① (名) 草餅。よもぎを入れた餅。

huucoopa`Ncoo① (副) ふいごの音。

huuga① (名) 風雅。~na qcu. 風雅な人。?amanu zooja ~ 'jaqsaa 'jaa. あそこの門は風雅だねえ。

huugawai① (名) 風変わり。風体・性癖などが人と変わっていること。~na. 風変わりな。

huuhuda① (名) 護符。神仏の霊がこもり、人を守護する札。紙に呪文を書いたもので、家の入口の柱にはりつける。

huuhudaga`ai① (名) 護符代わり。護符と同様に魔除けになるもの。恐ろしい顔の人間、醜女などが描かれているものが多い。

huuhui`coo① (副) huuhwiqcoo と同じ。

huuhuu① (名) 小児が痛がる箇所へ、痛く

ないようにするまじないとして、親などがフーフーと息を吹きかけてやること。~Qsi kwiree. 「フーフー」をしてくれ。

huuhuu① (副) 富み栄えるさま。富裕なさま。'jaanu ~ sjoon. 家が富み栄えている。

huuhudaamaa① (名) 花芭蕉の実。子供がこれを管の一方の口に置き、他方の口から吹き上げて遊ぶ。

huuhwi`Qcoo① (副) ほろほけきよ。うぐいすの鳴き声。

huu`jin① (名) 封印。

huui① (感) ㊦ふうっ。熱いものを吹きさます音。㊦落ちた食べ物を拾って食べる時にいうまじないの語。huui とわずに食らうと、男は hwizimoo (ひげ無し) になるといわれる。㊦夜、子供が水を飲む時、母親がその水を huui と吹いてから飲ませる。その時の声。水の中の魔物を吹き払うためのまじないとしてする。

huuihuui① (副) 口笛の音。ひゅうひゅう。

huu`?juu① (名) 非常な目上に対することば使い。呼ばれた時には huu と答え、肯定・承諾の時には ?juu と答える話し方。huu, ?juu などの項参照。?juuhuu という語はない。

huukasi① (名) ほら (を吹くこと)。誇張した言い方。~nu magisan. 大ほらを吹く。

huukasjaa① (名) ほら吹き。大きなことばかり言う者。

huuka=sjuN① (他 =saN, =ci) ほらを吹く。誇張して言う。

huukee=jun① (自 =raN, =ti) ふくれる。ふくらむ。(餅などが) ふくれ上がる。mucinu (hjaaganu) ~. 餅(ヒャーガー。菓子の名)がふくれる。huukeera-sjuN. ふくらます。

huukeeri=jun① (自 =raN, =ti) ふくれる。ふくらむ。膨脹する。

huukubuu

huukubuu① (名) 頬がくぼむこと。頬のくぼみ。また、頬のこけた人。

huukubuugwaa① (名) 頬の小さいくぼみ。また、えくぼ。～nu ?NzijuN. えくぼが出る。

huukuu① (名) 奉公。その敬語は guhuukuu. ～ sjuN.

huukuuni① (名) 奉公人。?uijuN [御殿], tuNci [殿内] などに奉公する者。

huumaasiN① (名) 帆前船。huusiN ともいう。中国へ渡る toosiN, 小さい ?janbaraabuni などがある。

huumi① (名) 風味。酒・上等な食べ物・たばこなどの味や香り。

huunaa① (名) 真似。ふり。nuunu ～ sjooga. 何のまねをしているのか。'Nndian ～. 見ないふり。siraN ～. 知らぬふり。複合語としては、?yuhuqcuhuunaa (おとなのまね), niNtahuunaa (寝たふり) など。

huuni① (名) 運のよい人。果報者。

huuoo① (名) 鳳凰。王の宮殿の天井などに描かれている。

huuriN① (名) 風鈴。

huuriNna① (名) ほうれん草。

huuroo① (名) 十六ささげ。ささげの一種。

huusiN① (名) 帆船。huumaasiN と同じ。

huusjuga'mi① (名) [奉書紙] 奉書紙。貴人の辞令などに用いる。

huusjuka'bi① (名) huusjugami と同じ。

huutai① (名) ①鶉のくちばしの下の垂れ下がった肉。②垂れ下がった頬。miminu ～. 耳たぶ (mimitai ともいう)。

huutajaa① (名) 頬の垂れ下がった者。

huutajaagwaa① (名) 頬の垂れ下がった子供。

huutoo① (名) ふともも (蒲桃)。びわに似た果実がなる。

huu?uu① (名) ?uuhuu と同じ。しかし、?uuhuu を多く用いる。また huu?uu sjuN とはいわない。

huuzi① (名) ①風儀。風習。風俗。しきたり。流儀。sjuinu ～. 首里の風俗。simabukunu ～. 鳥袋氏の流儀。②風采。なりふり。ようす。?iihuuzi. いいなりふり。～nu neeN. また、huuzee neeN. なりふりが悪い。みっともない。

huuzira① (名) ほった。頬。

huwa① (名) 不和。仲が悪いこと。団体間の不和をいう。個人間の不和は hunaka という。?anu muratoo ～ natoon. あの村とは不和になっている。?jaaniNzu ～. 家族が仲が悪い。

huzi① (名) [文] 不義。不正。zii ～N 'wakaran 'jakara. 正不正もわからぬやから。

huzi① (名) 不時。～nu ?irijuu. 不時の入用。

huzi① (名) 藤。

huzijuu① (名) 不自由。意のままにならぬこと。～na. 不自由な。

huziN① (名) [夫人] 王の妾。王の妻妾のうち、正妻である hwii (きさき) に次ぎ、guma (身分の低い妾) より上に位する。simamuci [鳥持] 程度の知行をもらう。

huzisarasa① (名) 菓子の名。山芋で作った蒸し菓子的一种。

huzoo① (名) [宝篋] 女持ちのたばこ入れ。宝珠のような形に縫った袋物である。

huzoomaki① (名) 不浄負けの意か。葬式など不浄なところへ行き、原因不明の皮膚病などにかかること。

hu=zuN① (他 =gaN, =zi) 単独では用いない。cimu huzuN (満足する) の項参照。

huzuubuN① (名) 不充分。～na. 不充分な。

hwaa① (名) 葉。

hwaahuu① (名) ①破風。建築様式の一つ。切妻。中央に棟があって両側面に傾斜した二枚屋根の建築。四面に傾斜した屋根 (寄棟) こま いわない。②破風式の墓。墓の縁

式の一つ。上部を家の屋根のように作った墓。

hwaahuzi① (名) 祖父母。

hwaahwaa① (名) 竹とんぼ。また、ブリキの円板に穴を二つあけ、糸を通し引いたりゆるめたりして円板を回して遊ぶもの。いずれもその発する音から名付けたもの。

hwaahwaa① (副) 熱気があたるさま。ほてるさま。かっかっ。また微熱などで、体がほてるさま。çira ~ sjoon. 顔がほてっている。

hwaas=sjun① (他=saN, =ci) 鍍金する。めっきをする。

hwahwa① (名) [文] 母。

hwahwakata① (名) 母方。母の里のかた。文語的な語。

hwahwaʔuja① (名) [文] 母親。'jaa ~ ju. [やあ母親よ(銘苺子)] ねえ、おかあさん。

hwakuruu① (名) 白露。二十四節の一つ。hakuruu ともいう。

hwani① (名) [古] hani (羽・翼) の古語。

-hwani (接尾) 鳥を数える接尾辞。一羽。cuhwani (一羽), tahwani (二羽), ʔikuhwani (何羽) など。

hwaNnai① (副) 熱が高いさま。火の熱・病熱などが盛んに出るさま。niçinu ~ sjoon. 熱がとても高い。

hwaNsaaN① (名) 支那茶の名。半山。haN-saaN ともいう。

hwaQka① (名) 薄荷。haQka ともいう。

hwaru① (名) [古] haru (春) の古語。

hwaʔuta① (名) 端歌。俗謡。流行歌。ʔuhubusi (いわば、古典音楽) に対する。

hwaudui① (名) [羽踊] hwaʔuta に合わせて踊る踊り。kumiudui [組踊], coogin [狂言] に対していう。

hwee① (名) ⊖南。⊖南から吹く季節風。hweekazi ともいう。

hwee① (名) [新] 肺。元来は huku と

いった。

hwee① (名) 灰。

hwee① (名) 蠅。

hweeban① (名) 早番。順番が早いこと。

hweebaru① (名) 南風原。《地》参照。

hweebeeiu① (副) 早々と。~ ʔmeNseebiri 'joo. 早々とおいで下さいませよ。

hweebucaa① (名) 南風の吹く季節。夏。

hweebuci① (名) hweekazi (南から吹く夏の季節風) と同じ。

hweebun① (名) 配分。配り分けること。

hweeciri① (名) (小児が) 這い回ること。~ sjun.

hweegaqtin① (名) 早合点。

hweegasa① (名) 頭にできる一種の湿疹。蠅がたかるので蠅瘡といったものか。

hweehuci① (名) 灰吹き。たばこの灰をたたき入れる竹筒。

hweehwee① (副) はあはあ。息を切らしてあえぐさま。ʔiqsaN natakutuu ʔiici ~ sjun. 一散に走ったので、はあはあ息が切れる。

hweeʔiru① (名) 灰色。

hweeʔiruu① (名) 灰色のもの。

hweei① (名) (衣服・病気・風俗などの) はやり。流行。kunu kanmuee namanu ~ 'jan. この帽子は今の流行だ。

hweei① (名) 酢。ʔamazaki ともいう。

hweeikutuba① (名) 流行語。たとえば、ʔisjadu 'jaru. (彼は医者だ。何でも上手な者をさしている), baci kwatooN. (うまいことをした場合にいう。こまを回すばかりがよく利いている意か) などがあった。

hweeiʔuta① (名) はやり歌。流行歌。民間にはやる小唄の類。明治の末ごろまでに流行した有名なものとしては、caaʔuibusi [茶売節], kabirabusi [川平節], sjuu-ntuuzii [主も妻], sjuikaracoosiga [首里から来やうすが], bakucajaabusu [ばくちやや節], gwiikuujuo [越來やう],

hweejun

kanaajoo [かなよ], hwicimunkuuci
[挽物口説], Turukusumijabusi [小祓
染屋節], minaTurisanſeebusi [皆おれ
賛成節] などがあった。

hwee=junⓐ (他 =raN, =ti) 張る。張り渡
す。「延ぶ」に対応する。hwiQpeejun と
もいう。Tucinaatu 'eema 'innu ?itu
hweeti, ?umukazinu tataba tageni
hwikana. [沖繩と八重山 緑の糸はへて
佛の立たば 互に引かな] 沖繩と八重山の
間に緑の糸を張り渡して、おもかげが浮か
んだら互いに引張ろう。

hwee=juNⓐ (自 =raN, =ti) はやる。流行
する。huucinu ~. 伝染病がはやる。

hweekaziⓐ (名) 夏に南から吹く季節風。
hwee, hweebuci ともいう。ただの南風
は hweenukazi。

hweekuⓐ (名) (時刻が)早く。また、以前。
昔。?asa ~. 朝早く。朝の早い時間。~
nu Qcu. 以前の人。昔の人。~tu nama-
too muru kawatoon. 以前と今とでは
すっかり変わっている。~kara. 以前か
ら。早くから。かねてから。つとに。~
kara dikijaa 'jataN. 以前からよくでき
る者だった。~karanu sikaa. 以前から
の臆病者。

hweemaaiⓐ (名) (冬などに) 風向きが南
に回ること。なま暖かい風が吹き、雨にな
りやすい。

hweemaasiⓐ (名) 早死に。年若くして死ぬ
こと。農村などでは hweezini ともいう。
-maasi < maasjun.

hweemuNⓐ (名) 早いもの。naa natoo-
tii, ~ 'jasa 'jaa. もうできていたか、
早いもんだねえ。

hweeniibiciⓐ (名) 早婚。niibici は結婚。

hweeniNziⓐ (名) 早寝。夜早く寝ること。

hweenuhwiraⓐ (名) 南風の平等。《地》参
照。

hweenukaziⓐ (名) 南風。hweekazi は夏

に南から吹く季節風。

hweenukusuuⓐ (名) そばかす(雀斑)。蠅
のくその意。

hweenusimaaⓐ (名) 踊りの名。頭に棕櫚
の皮をかぶり、棒を持って、南洋土人の風
をして踊るもの。南の島の者の意。

hweenu?uduNⓐ (名) 首里城の建物の名。
?uguſiku の項参照。

hwee?Nmariⓐ (名) 早生まれ。正月から 3
月ごろまでに生まれたもの。nibu?Nmari
(遅生まれ, 11~12月生まれ) の対。

hweeNkeeⓐ (名) 南向き。

hweeraNhuuziⓐ (名) はやらない風儀の
意。異常な服装, 常識はずれの流儀などを
いう。

hweereⓐ (名) 追いはぎ。「人をこなし気
任するを云唐音也惣懶と書(混効験集)」
~ ?icati. 追いはぎに会って。takooku-
rujama ~tin doo, cinaabanzuni tu-
marana 'jaa. 'winagutiramun baN-
zuni tumajumi, ?isuzi susisuzi 'jaču
kakara. (歌の文句) 多甲黒山は追いはぎ
が出るそらだ、喜納番所に泊まろうかな
あ。女とあろうものが番所に泊まれるもの
か、さあ大急ぎで家へ帰ろう。

hweeriN=cuNⓐ (自 =kaN, =ci) はいり込
む。

hweeriQsiNⓐ (名) ⊖早い出世。⊖(女の)
早婚。

hweerooⓐ (名) 勲功などにより、国王から
品物をいただくこと。拝領の意。guhwee-
roo はその敬語。~ najun. (国王から)
いただく。

hweesaNⓐ (形) 早い。速い。時刻・速度
がはやい。hweeku ?aQcuN. 早く歩く。
(時刻の「早く」は hweeku の項参照)

hweesiⓐ (名) ⊖はやし。はやしことば。
声を出して歌曲の詞を助けるもの。たとえ
ば saQsa, haija, hijaruga, 'Nzojo,
sjurajo など。~ ?irijun. はやしを入

れる。⊙kuducibeesi と同じ。
hweesidimaⓂ (名) (鏡などの) みがき賃。
 (刃物の) とぎ賃。
hweesitati=juⁿⓂ (他 =raN, =ti) はやし
 たてる。けしかけ、騒動する。また、おだ
 て上げる。
hwee=sjuNⓂ (他 =saN, =ci) ⊙囁す。多く
 は、hweesi ?irijun (はやしを入れる)、
 hweesitatijun (はやしたてる) を用いる。
 ⊙染物の色揚げをする。さらに染め上げ
 る。kana hweecakutu curaku natoon.
 かせ糸を染め上げたら美しくなった。⊙柴
 やす。みがく。みがいて光らせる。とぐ。
 kagan hweesabira. 鏡 (金属製) をみ
 がきましょう。hoocaa ~. 包丁をと
 ぐ。
hwee=sjuNⓂ (他 =saN, =ci) 切りきざむ。
 けずる。「はやす」に対応する。kaçuu ~.
 かつお節をけずる。deekuni ~. 大根を
 切りきざむ。
hwee?ukiⓂ (名) 早起き。
hweewazaⓂ (名) 早業。
hweeçeeⓂ (名) [配剤] 薬の調合。処方。
hweeçeegaciⓂ (名) 処方箋。
hweezimeeⓂ (名) 早く支度ができること。
 早仕舞の転意。
hweeçoomiNⓂ (名) [新] ひや素麺。
hweeçuraaⓂ (名) hweeçuri と同じ。
hweeçuriⓂ (名) 街娼。辻君。遊郭以外で
 売春する者。-çuriは女郎。hwee は禁止の
 意か。また、「昔は公娼は牌尾類として牌板
 に其名を書き列ね公示したりと。然るに今
 は牌尾類と云へば密娼のこととなれり」(真
 境名安興)。hweeçuraa ともいう。~
 sjuN. 街娼となって売春する。
hweeçuuiⓂ (名) 発育が早いこと。çuuiは
 発育。
hweNsaⓂ (名) はやぶさ。「はいんさ 鷹の
 惣名(混効験集)」
hwibaciⓂ (名) 火鉢。たばこ用の小さなも

のには ?uciritui, または hwiitui とい
 う。

hwibanaⓂ (名) 火花。火の子。
hwibariⓂ (名) ⊙干割れ。亀裂。ひび。~
 ?iqcooN. ひびが入っている。⊙皮膚にで
 きるひび。あかぎれ。
hwibari=juNⓂ (他 =raN, =ti) ひびが入る。
 干割れる。?adunu hwibaritooN. かか
 とが干割れている。
hwibiⓂ (名) [文] 日日。毎日。日常。口語
 は hwiibii, ~nu ?itunamini hwikasa-
 riti 'waminu 'ugamibusja ?atin ziju-
 ja naraN. [日日のいとなみに ひかさ
 れて我身の 痒みほしやあても 自由やなら
 ぬ] 毎日の暮らしに引きずられて、わたし
 はお会いしたくても自由にはなりません。
hwibiciⓂ (名) hwibiki (干割れ) と同じ。
hwibiciⓂ (名) [新?] 響。音響。
hwibi=cuNⓂ (自 =kaN, =ci) 響く。音が
 震動して伝わる。
hwibikiⓂ (名) hwibari と同じ。ただし、
 おとなの使う語。hwibici ともいう。
hwibiki=juNⓂ (自 =raN, =ti) hwibarijun
 と同じ。
hwibuⓂ (名) 日歩。
hwibusiⓂ (名) 日干し。日の当たる所で干
 すこと。kaagibusi (陰干し) の対。
hwicaasiⓂ (名) 神仏のお引き合わせ。神
 仏の助け。
hwicaa=sjuNⓂ (他 =saN, =ci) ⊙(戸・障
 子などを) 引いて閉める。両方から閉める
 場合、または、すき間なく閉める場合に
 いう。⊙(人を) 引き合わせる。また、対決
 させる。hwicaasarijun. イ. 引き合わ
 せられる。ロ. 神仏の力によって、よい運
 命に引き合わせられる。神仏の力で助けら
 れる。
hwicagi=juNⓂ (他 =raN, =ti) (後進など
 を) 引き上げる。うまく行くように、助け

hwicagijun

上げる。(具体的な動作を表わす場合は hwiciʔagijun という。その項参照) ʔu-jani hwicagiraqti riqsiN sjoon. 親の光で出世している。hwicagiraqtoon. 助かっている。幸運にめぐまれている。

hwicagi=jun① (他 =ran, =ti) 案ずる。心配する。心を引き上げるといふ意。Qkwanu hurimuN nati caa hwicagitiču ʔaqcuru. 子がやくざになって、いつも心配している。

hwicagiʔurnsi① (名) 心配したり安心したりして心をわずらわすこと。一喜一憂すること。-ʔurnsi < ʔurnsjun.

hwicai① (名) ①光。hwiinu ~. 日の光。②光沢。つや。

hwica=jun① (自 =ran, =ti) 光る。また、つやが出る。hagičiburunu ~. はげ頭が光る。

hwica=jun① (自 =an, =ti) ①引き合。商売して損をしない。商売として利がある。②相当する。匹敵する。

hwicarahwicara① (副) きらきら。ぴかぴか。日光・星・刃物などが光るさま。

hwicarasan① (形) (きらきら光って) まばゆい。まぶしい。hwicarusan ともいう。

hwicarusan① (形) hwicarasan と同じ。

hwicawasi① (名) [文] hwicaasi (神仏のお引き合わせ) の文語。tiNnu ʔutaşikika kaminu ~ka. 天のお助けか、神の引き合わせか。

hwicce① (名) ひたい。mukoo ともいう。

hwiccegutū① (名) 対決によって決する事。対決を要するようなこと。甲乙に対して丙が二枚舌を使ったため、甲乙が同席して丙に対してその実否をたずさような場合をいう。

hwicci① (名) (「引き」に対応する) ①つて。縁故。②親姻戚関係。縁を引いている者。縁者。遠い親戚までも含めていう。ʔjaaja maanu ~ga. おまえはどこ縁者か。

ʔamatu ~ ʔjan. あそこ親戚だ。③助け。援助。~ sjun. 援助する。助けを出す。

-hwicci (接尾) 匹。-pici, -bici ともなる。ʔiqpici (一匹), nihwicci (二匹), sanbici (三匹) など。

hwiciʔagi=jun① (他 =ran, =ti) ①引き上げる。引いて高く上げる。hwicagijun の項参照。②抜てき・登用する。③引き揚げる。ある場所から、すっかり退く。mookinu neenkutu hwiciʔagiti can. もうけがないので引き揚げて来た。

hwiciʔati① (名) 引きあて。照合。金額や目録に見合う物品などを照合すること。coomintu ~ sjun. 帳面と照合する。

hwiciciika'acii① (副) 着物・皮膚などがひきつたさま。ciNnu ciijoону neen, ~ qsi. 何という着物の着かただ、ひきつって。

hwiciciikaaciizii① (名) ひきつた着かた。~ sjoon. ひきつって着ている。

hwicičizi① (名) (事務などの) 引き継ぎ。

hwicici=zun① (他 =ran, =ti) 引き継ぐ。あとを引き受けて続ける。kawaiee qsi ~. 交替して引き継ぐ。

hwicicuuka'acuu① (副) hwiciciikaacii と同じ。

hwicidamisi① (名) 琴・三味線などを弾いて音をためすこと。

hwicidu① (名) あげ窓。引き窓。

hwicigee① (名) 現金引き替えて売買すること。

hwicihana=sjun① (他 =san, =ci) 引き離す。引き離して別れさせる。

hwiciharoozi① (名) [文] 親類縁者。遠い親戚までも含めた親族集団をいう。なお、-haroozi という形は単独では用いない。ʔinuci ʔusjagiraba, nasiʔujaja daniju ~mačičin, ʔunu sudati miseru ʔwiišigutu 'ugadi. [命おしやげらは なし親や

だによ 引はらうじ道も おの素立めしや
いる およす事拜で(孝行之巻) 命をさし
上げたならば、生みの親はもちろんのこ
と、その親類までも面倒を見て下さるとの
仰せを拜して。

hwicihwici① (副) ひき替えひき替え。何度
もひき替えるさま。seesiN ~ ʔirirasju-
N. お代わりを何度も入れさせて食べる。

hwicija=juN① (他 =raN, =ti) 引き破る。
びりっと破る。

hwicijaN=zuN① (他 =daN, =ti) 悪へ誘惑
する。誘惑して墮落させる。

hwicijusi=juN① (他 =raN, =ti) 引き寄せ
る。引いて自分の方へ寄せる。

hwicikee=sjuN① (自 =saN, =ci) 引き返
す。もと来た方へ帰る。

hwiciku=nuN① (他 =maN, =zi) 引き込む。
hwicinuN と同じ。

hwiciku=sjuN① (自 =saN, =ci) 引越す。

hwicimaa=sjuN① (他 =saN, =ci) 打とう
として構える。tii ~。打とうとして、手
を構える。ʔjuuci ~。斧を構える。

hwicimaga① (名) hwiciʔNmaga と同じ。

hwicimi① (名) 横目。流し目。

hwicimuN① (名) 差し押さえ。また差し押
さえられた物。~ sarijuN. 差し押さえ
られる。

hwicimuN① (名) 挽物。ろくろがんで
作ったもの。木の皿・椀・盆など。

hwicimuNzeeku① (名) 挽物師。

hwicina=juN① (自 =raN, =ti) 引き下が
る。身を引く。抜ける。ziNmigutukara
~。協議から身を引く。ʔnaa ʔwiiriki-
gisa ʔasidooru muNnu, auucui hwi-
cinati nuu ʔjaga. みんなは面白そうに遊
んでいるのに、自分ひとり抜けてどうした
か。

hwicina=sjuN① (他 =saN, =ci) 置いて置
く。(一部を) 残して置く。ʔuqsa muru
çikaan gutu, taaçimiçee hwicinaci ʔu-

kee. それだけ全部使わないように、ふた
つみつはとって置け。

hwicinoo=sjuN① (他 =raN, =ti) ①引き直
す。改めて引く。②改める。直す。ʔuubi-
nu ʔjugadookutu hwicinooçee. 帯が
曲がっているから直せ。

hwicinuba=sjuN① (他 =saN, =ci) 引き伸
ばす。

hwicinu=zuN①① (他 =gaN, =zi) 引き抜く。
引いて抜く。

hwiciʔNmaga① (名) 玄孫。やしご。ひ
まごの子。hwicimaga ともいう。

hwiciʔNzasii① (名) ひきだし(抽斗)。

hwiciʔNza=sjuN① (他 =saN, =ci) ①引き
出す。引いて外へ出す。②預金などを出
す。

hwicinu=cuN① (他 =kaN, =ci) 引き込む。
引っぱって入れる。hwicikunuN と同じ。
kaagarimooga ʔwarabi kaaraNkai ~。
かっぱが子供を川に引っぱり込む。

hwicisa=cuN① (他 =kaN, =ci) 引き裂く。

hwicisaga=juN① (自 =raN, =ti) 空腹で元
気がなくなる。

hwicisimi=juN① (他 =raN, =ti) 引き締め
る。儉約する。

hwicisju① (名) 引き潮。hwirisju ともい
う。

hwicinu=cuN① (自 =taN, =qci) 引き立つ。
目立ってすぐれる。kunu cinoo ~。この
着物は引き立つ。

hwicitati=juN① (他 =raN, =ti) 引き立
てる。抜てきする。

hwicitoo=sjuN① (他 =saN, =ci) 引き倒す。
引いて倒す。

hwicitu=juN① (他 =raN, =ti) 引き取る。
自分の方に受け取る。

hwicitunuga=sjuN① (他 =saN, =ci) 引き
ちぎる。強く引いてとばす。

hwiciʔuki=juN① (他 =raN, =ti) (仕事・
責任などを) 引き受ける。

hwiciʔutusjuN

hwiciʔutu=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) 引き落とす。

hwiciʔuuʂiⓄ (名) ひき臼。ひき臼にも石臼と木臼とがある。

hwiciwatasiⓄ (名) 引き渡し。

hwiciʂiⓄ (名) 十二支の未(ひつじ)。時間は午後2時。方向は西寄りの南。動物の羊は meenaahwiizaa という。

hwicizibuNⓄ (名) hwicizimuN と同じ。

hwicizimuNⓄ (名) ㊦*引き出物。祝宴などで客に配る物。㊦結婚の時、婿の家で姑が嫁に与えるもの。多くは反物を与える。

hwicoonuʼsiduiⓄ (名) [古] [日帳主取] 麿藩前の役名。書記官長にあたり、二人いた。saʂinusuba の下にあって、zuuguniNsjuu [十五人衆] 中に入っている。

hwicuiⓄⓄ (名) [文] ひとり。口語では cui という。tanumu ʔuja hukiti ʔutuzirija neran, ~ ʔjamanuhwanu ʂicini ʼNkati. [頼む夜や更けて 音づれやないらん 一人山の端の 月に向かって] 心待ちにしていた夜は更けて、おとずれはない。ひとり山の端の月に向かって待ちこがれているばかりだ。

hwi=cuNⓄ (=kan, =ci) ㊦(自)引く。後へさがる。また、減ずる。ʔusjunu ~. 潮が引く。huqkwinu ~. 腫れが引く。㊦(他)引く。kuruma ~. 車を引く。tii ~. (子供などの)手を引く。また、(仕事などから)手を引く。duu ~. 身を引く。ʂizi ~. 筋を引く。線を引く。guukarasan ~. 5から3を引く。nukuzirisanii kii ~. のこぎりで木をひく。kuzi ~. くじを引く。kaca ~. かやを吊る。

hwi=cuNⓄ (他 =kan, =ci) 弾く。saNsiN (kutuu) ~. 三味線(琴)を弾く。

hwicuru=junⓄ (自 =raN, =ti) hwicuruujun と同じ。

hwicuruu=junⓄ (自 =:aN, =ti) 長引く。のびのびになる。事がもつれ、解決などが

延引する場合にいう。hwicurujuN ともしいう。sigutunu ~. 仕事が長引く。

hwicuruumucuruuⓄ (副) 長引くさま。事がもつれ解決などが長引くさま。~sjun.

hwidamaⓄ (名) hwiidama と同じ。

hwidamageesiⓄ (名) hwiigeesi と同じ。

hwidata=junⓄ (自 =raN, =ti) (間柄が)へだたる。疎遠になる。距離については hwizamijuN という。ʔujatu qkwaʂu ʔaʂiga hwidatatoon. 親と子なのに疎遠になっている。

hwidatiⓄ (名) へだて。関係をさえぎるもの。疎遠にするもの。ʔiceewa cooʂee, nuu ~nu ʔaga. 出会ったら兄弟だ。何の隔てがあるものか。~ mucuN. 疎遠になる。疎遠な感傷をもつ。

hwidati=junⓄ (他 =raN, =ti) (間柄を)隔てる。疎遠にする。距離については hwizamijuN という。

hwidiriⓄ (名) 日照り。早魃。hjaai ともしいう。

hwiduⓄ (名) 辺土岬。沖縄本島北端の岬。また辺戸。《地》参照。

hwiduiⓄ (名) 日取り。移転・結婚・願かけ・普請・かまど作りなどについて吉日を選ぶこと。

hwiganⓄ (名) 彼岸。hwiŋgan ともしいう。彼岸に行なう祭り(ʼNcabi, kabiʔanzii)のこともしいう。

hwigaraⓄ (名) 日柄。日のよしあし。

hwigasaⓄ (名) 日傘。

hwigasiⓄ (名) 東。《地》参照。

hwigatakaⓄ (名) 日おおい。日よけ。日光をさえぎるためのもの。hwiigataka ともしいう。

hwiguⓄ (名) 植物名。へご(秘羅)。

hwigwasiⓄ (名) 千葉子。

hwihwaʂiⓄ (名) 華苳(ひはつ)。胡椒に似た植物の名。実は芳香辛味がある。naka

- minuſiimun (豚料理の一種) などに入れて食べる。
- hwihwanazi**① (名) 花火。多くは線香花火。
- hwii**① (名) 火。ほのお。また、燈火。また、火事。～ qikijun. 火を付ける。点火する。放火する。～ nu ?nzijun. 火事が出る。
- hwii**① (名) 非。非難されるべき悪いこと。qcunu ~ ?akagarasjun. 人の非をあばく。～ ?usujun. 悪事をかくす。～ kaçimijun. 非をとらえる。
- hwii**① (名) 胃腸。内臓。～ ?ucun. 胃腸を悪くする。～ nu joosan. 胃腸が弱い。hwiijoosan ともいう。
- hwii**① (名) 屁。～ hwijun. 屁をひる。
- hwii**① (名) ①日。太陽 (tiida)。また、日光。～ nu katancoon. 日が傾いている。～ nu niçi. 太陽の熱。～ nu 'jooku natoon. 日の光が弱くなった。②日。昼間。～ nu nagaku natoon. 日が長くなった。③日。こよみの上の日。～ tujun. 日を選んで定める。転居・かまど作り・結婚などに吉日を選ぶことを多くいう。
- hwii**① (名) 王妃。きさき。敬して ?uhwii ともいう。王の正妻で、deemjoo (大名、貴族) の身分の娘から選ばれ、佐敷 (sasiçi) 間切の知行を受ける。王の妻妾には、hwii, huzin, çuma の三種がある。
- hwii**① (名) 緋。緋色。
- hwii**baa① (名) 蛇の一種。山かがし。hwii-bu の卑称であるが、もっぱら山かがしをさす。
- hwii**baasi① (名) 火箸。
- hwii**ataraci① (名) ①火事場での働き。消火の仕事。②転じて、一生懸命な働き。
- hwii**biï① (副) 日に日に。～ hwiiiku najun. 日に日に寒くなる。
- hwii**bu① (名) 蛇。次の諺以外にはほとんど使わない。miçkwanu ~ N ?uziran. 盲蛇に怖じず。
- hwii**caabaace① (名) 引っ張りだこ。引っ張り合い、奪い合うこと。
- hwii**caasjaa① (名) 消防夫。-caasjaa < ca-asjun (消す)。
- hwii**cee① (名) 引っ張り合い。～ sjun.
- hwii**çi① (名) ひいき。偏愛。複合語としては、katabiçi (えこひいき), qkwabiçi (子どもひいき), tuzibiçi (妻ひいき) など。
- hwii**çiN① (名) [新?] 平均。普通は tunami また narasi という。
- hwii**çiN① (名) 布巾。ふいきん (九州方言)。
- hwii**dama① (名) 火の霊。球状をなして空を飛ぶあやしい火で、火事を起こす魔物だと信じられていた。また美女に化けるともいう。hwidama ともいう。
- hwii**dukuru① (名) 寒い所。寒冷地。
- hwii**gaci① (名) 板塀。
- hwii**gataka① (名) hwigataka と同じ。
- hwii**geesi① (名) 火事のあった時、村の入り口などで鐘・太鼓を鳴らして火の霊を入れないようにするまじない。hwidamageesi ともいう。
- hwii**guni① (名) 寒い地方。寒い国。?açi-guni の対。
- hwii**gurumaa① (名) [新] 蒸気船。蒸気船を見聞するようになったころの語。類語に ?agihwii gurumaa (おか蒸気)。
- hwii**huci① (名) 火吹き竹。
- hwii**hwaa① (名) あき俵。藁むしろで作った穀物用のあき俵。
- hwii**hwiiuu① (名) ①全く平等。②勝負なし。議論などでどちらが勝ったか結果がわからなくなったような場合にいう。③立ち消え。相談事などが立ち消えになってしまうような場合にいう。
- hwii**hwinan① (名) 非難されるべき欠点。
- hwii**hwiraa① (名) よく屁をひる者。
- hwii**hwirikuzi① (名) 空くじ。はずれたく

hwiiʔiru

じ。karakuzi ともいう。

hwiiʔiru① (名) 緋色。

hwiijoosaN① (形) 胃腸が弱い。

hwiikusasaN① (形) 尻のにおいがしてくさい。

hwiikusi① (名) 欠点。非難すべき点。ʔaraN ~ ʔikiti ʔwiiʔNZacaN. あらぬ難くせをつけて追い出した。~ kaçimijun. 他の非をにぎる。~nu ʔuhusaru mun. 難点の多い者。

hwiikusunaQ'tai① (名) 尻のようなもの。何も役に立たぬつまらぬもの。

hwiimaki① (名) 太陽の熱に負けて弱ること。日射病など。

hwiimeesaa① (名) 下働き。火を燃やす者の意。台所仕事ばかりする者の卑称。

hwiimiN① (名) [新] 平民。普通は hjaku-sjoo という。

hwiimusi① (名) 甘藷に食い入っている虫。

hwiimusjaa① (名) hwiimusi のついた甘藷。虫食いいも。ʔirimusjaa ともいう。

hwiimutaaN① (名) 火遊び。

hwiinaa① (名) 火縄。しゅろの毛で作られ、火持ちがよく、マッチの不自由な時代に農民がたばこの火のために多く用いた。

hwiinumutu① (名) 火の元。

hwiinunici① (名) 火熱。火の熱。hwiinunici は太陽の熱。

hwiira① (名) へら。農具の一つ。苗を植えたり草を取ったりするもの。

hwiiraa① (名) ㊦油虫。ごきぶり。家屋のじめじめしたところなどにいる平たい黒茶色の虫。平たいものの意。㊦南京虫。Qcukweebiiraa ともいう。

hwiira=cuN① (自 =kaN, =ci) 疼(ひひら)ぐ。(切り傷・やけどなどが) ひりひり痛む。

hwiiroo① (名) 肺結核。まれな語。「肺癆」に対応する。普通は taNjanmee という。

hwiiruu① (名) [焙炉] 手あぶり用の小さ

い火鉢。あんか。丸い土焼きで、上部にくつも丸い穴がある。老人が暖をとるのに多く使われる。

hwiisagatagata① (副) 寒さでがたがたするさま。~ sjun.

hwiisaguhwai① (名) 寒さにこごえること。

hwiisahusizi① (名) 寒さよけ。防寒。

hwiisakurisja① (名) 寒さに苦しむこと。~ sjun.

hwiisamagai① (名) 寒さでちぢこまること。

hwiisamaki① (名) 寒さに負けて体をそこなうこと。

hwiisanuu① (名) 悪寒。病的な寒さを感じ、体がぞくぞくすること。マラリヤの際の悪寒など。~ sjun. 悪寒がする。

hwiisan① (形) 寒い。冷たいは hwizuru-saN.

hwiisaʔumii① (名) 寒がり。寒がること。また、寒がる者。

hwiisicaa① (名) 十能。おき・炭火を取るための道具。

hwiitaa① (名) 羽織に似た、冬用の着物の名。そでは長く、すそは短い。男女用。裏に muNpa (裏地用の厚い綿布) を付けたものが普通であるが、綿を入れたものもある。

hwiitaQtaa① (名) 火ぶくれ。やけどで皮膚がふくれること。またその箇所。

hwiitatii① (名) ㊦のろし。舟などへの合図として用いられた。㊦煙突。

hwiitatimoo① (名) hwiitatimoo と同じ。

hwiitatimoo① (名) のろし台。のろしを上げる場所。

hwiiteeçikijaa① たきつけ。teeçikijun はたきつける。

hwiitu① (名) いるか。名護湾に大群をなして押し寄せることがあり、その時は名護全体が戦場のような騒ぎとなる。

- hwiitui**④ (名) 煙草盆に入れる火種用の小さい火鉢。首里では上品に ?uciritui ということが多い。
- hwii?uci**④ (名) 忌中。死後の四十九日間。
- hwiiza**④ (名) (袴などの) ひだ。
- hwiizaa**④ (名) やぎ。その小児語は beebec。
- hwiizaa**④ (名) [樋川] かけひ (笥)。その小児語はやぎのそれと同じく beebec。
- hwiizaa?aa**④ (名) 湧き水をかけひで引いて、水を汲めるようにしたところ。-gaa <kaa (井戸)。
- hwiizaa?uzoo**④ (名) 首里城の門の名。?ugusiku の項参照。
- hwiizii**④ (名) 平常。ふだん。
- hwiizi=jun**④ (自 =raN, =ti) 泣く。上流階級の用いた上品な語。hwiizimiseen. お泣きになる。nuun?ici ?unzoo hwiizimiseega. なぜあなたはお泣きになるのか。
- hwiizikee**④ (名) 放火。火付け。~ sjuN.
- hwiizimi**④ (名) 火攻め。焼き打ち。
- hwiiziNtoo**④ (名) 幼児の遊戯の名。左右の一方の手のひらに他方のひじをのせ、離し、それを左右交互にくりかえしながら歌を歌うもの。幼児に運動させるための遊戯である。siijaabuu ともいう。
- hwiiziri**④ (名) 火のついたたきぎの切れはし。燃えさし。
- hwii=zuN**④ (他 =gaN, =zi) ①ひしく。②押しつぶす。③いじめる。
- hwi=jun**④ (自 =raN, =qci) 干る。?usju-nu ~. 潮が干る。sirunu ~. 汁が干る。煮物の水分がなくなる。
- hwi=jun**④ (他 =raN, =qci) ひる。hana ~. くしゃみをする。hwii ~. 屁をひる。
- hwi=jun**④ (自 =raN, =ti) 減る。hwina-jun ともいう。?iinu ~. 負債が減る。hanmeenu ~. 食糧が減る。hwiti ?i-cun. 減っていく。
- hwi=jun**④ (他 =raN, =ti) 経る。経過する。?ee ~. 年代を経過する。世代を経る。
- hwiiju**④ (名) 平癒。病気の全快。nagawacarec sjootasiga ~ sjan. 長く寝ていたが、全快した。
- hwiiju**④ (名) 日傭とり。日雇い労働者。
- hwikari**④ (名) ①光。hwicai と同じ。②威光。また、名誉。ほまれ。その敬語は ?uhwikari. ?ujanu ~ najun. 親の名誉になる。~ tacun. 荣誉が高くなる。
- hwikasa=rijuN**④ (自 =riraN, =qti) 愛情に引かされる。また、誘惑される。
- hwika?i**④ (名) 日数。
- hwikee**④ (名) ①控え。写し。副本。②控え。そばに控える者。
- hwikee=jun**④ (他 =raN, =ti) ①控える。写しを取る。②控える。控えて待つ。③控え目にする。また、ためらう。
- hwikeepu**④ (名) ①控え所。官公庁などの待合室。②特に葬式の時、式が終わって葬列の発するまで待つ所。
- hwikin**④ (名) 北京。hwicin ともいう。
- hwikusan**④ (形) 低い。(空間的位置、また身分などが) 低い。
- hwima**④ (名) 暇。~ kwijuN. 暇をやる。休暇をやる。~ ?nzasjuN. 暇を出す。解雇する。
- hwimadaari**④ (名) 空しく暇をつぶすこと。空しく徒食すること。賃金をかせげないでいること。
- hwimasimun**④ (名) ひま人。
- hwimasini**④ [文] 日増しに。日に日に。口語は hwiibii.
- hwimicaa**④ (名) 喘息やみ。
- hwimici**④ (名) 喘息。~ gusugusu. 喘息で苦しむさま。
- hwimudui**④ (名) 日帰り。
- hwimun**④ (名) 碑文。金石文。

hwinaa

hwinaaⓄ(名)すね者。ひねくれ者。hwin-sjaa ともいう。

hwinagataⓄ(名)⊖雛型。実物の模型。

Ⓞ手本。様式。書式。

hwinajunⓄ(自 =raN, =ti) 減る。少なくなる。また、摩滅する。'watanu ~。腹が減る。hwinarasjun. 減らす。

hwinakaⓄ(名)半日。

hwinakasigutuⓄ(名)半日仕事。

hwinaziⓄ(名)辺名地。《地》参照。

hwiniiⓄ(名)ひのえ(丙)。十千の第三位。

hwinijunⓄ(他 =raN, =ti) ひねる。ねじる。繰る。koowiruu ~。こよりをよる。

hwinubiⓄ(名)日延べ。延期。

hwinuciⓄ(名)檜(ひのき)。

hwinukaNⓄ(名)火の神。かまどの神。

ʔumçimun ともいう。

hwinukuⓄ(名)辺野古。《地》参照。

hwinutuⓄ(名)ひとの(丁)。十千の第四位。

hwinⓄ(名)変。おかしいこと。また、すねること。反対。ʔaree kunuguru ~ doo. 彼はこのごろ変だぞ。~na mun. 変なもの。また、すね者。ひねくれ者。hwinaa, hwin-sjaa ともいう。~ sjun. すねる。ひねくれる。

hwinⓄ(名)辺。あたり。maanu ~ga. どの辺か。

hwin-(接頭)動詞につき、急に・はげしくなどの意を表わす。ひん。hwinmuidijun (強くつねる, ひんねじる), hwinmaga-jun (ひん曲がる), hwinutubi (ふっ飛ばすこと)など。

hwinbinⓄ(名)返弁。返済。hwinbinoo caaki caaki. 借りたものを返すのはできるだけ早く。

hwincaaiʔNmaⓄ(名)怒って人にかみついたりする馬。暴れやすい馬。

hwinçiⓄ(名)急に気が変わって反抗的なること。人・馬などが、急に不機嫌にな

ること。~ sjun. 急に気が変わって怒り出す。~na mun. 急に不機嫌になる者。

hwinGaaⓄ(名)(顔などに)垢がたまっている者。

hwinGaaamajaaⓄ(名)hwingaa と同じ。majaa は猫。猫はしょっちゅう顔を洗っているので、猫の顔はいつもよごれていると見たのであろう。

hwinGaNⓄ(名)hwiGaN と同じ。

hwinG=sjunⓄ(他 =saN, =çi) ⊖のがす。逃がす。Ⓞ(子どもなどを)死なす。平民が使う。'warabaa ~。子どもを死なす。sinasjun をさけて言ったもの。

hwinGi=junⓄ(自 =raN, =ti) 逃げる。

hwinGima`aiⓄ(名)逃げ回ること。仕事から逃げ回る場合などにもいう。~ sjun.

hwinGiʔNmaⓄ(名)放れ馬。逃げ出した馬。

hwinGuⓄ(名)垢。「へぐろ」(九州方言、鍋墨の意)に対応する語か。~ çiçun. 垢が付く。~nu tamati hwiirasaaiçiu ʔukusju-ru. 垢がたまってへらで起こすほどだ。

hwinGujoogaciⓄ(副)垢だらけ。垢がたまったさま。まだらによごれたさまは ʔa-jagacikoogaci という。

hwinkeeⓄ(名)口答え。目上への反抗的な返答。~ sjun.

hwinmaga=junⓄ(自 =raN, =ti) ひん曲がる。強く曲がる。

hwinmudi=junⓄ(他 =raN, =ti) 強くねじる。強くつねる。

hwinNaaⓄ(名)昼寝ばかりする者。

hwinNiⓄ(名)昼寝。~ sjun.

hwinNuga=sjunⓄ(他 =saN, =çi) すり抜けさせる。すり抜けられて逃がす。

hwinNugi=junⓄ(自 =raN, =ti) すり抜ける。すり抜けて逃げる。

hwinpunⓄ(名)家の前にある塀。門前から家の中を見透かされるのを防ぐためのもので、石を立てたものも cinibu (竹で編

- んだもの)を使ったものもある。
- hwiNrii**①(名)返礼。お返しを贈ること。
～ sjuN.
- hwiNsee**①(名)返済。借金を返すこと。～ sjuN.
- hwiNsjaa**①(名)ひねくれ者。すね者。
hwiinaa と同じ。
- hwiNsuu**①(名)貧乏。
- hwiNsuumurasi**①(名)貧乏暮らし。
- hwiNsuumun**①(名)貧乏者。?weekincu (金持ち)の対。～nu taka 'iitannee. 貧乏者が鷹をもらったよう。大変な喜び方の形容。鬼の首を取ったよう。鷹は富貴な人のものとされるのでこういう。
- hwiNtoo**①(名)返答。
- hwiNtu**①(名)つと。わらづと。持ち運ぶために、食物を藁・芭蕉の葉などで包んだもの。つとにした弁当。首里では bintco ということが多い。
- hwiNtubi**①(名)ふっ飛ぶこと。すっ飛ぶこと。～ sjuN. ふっ飛ぶ。すっ飛ぶ。
- hwiNtuna**①(名)辺土名。《地》参照。
- hwiNzi=jun**①(自 =raN, =ti) hwiNgijun と同じ。
- hwiNzimun**①(名)反逆者。また、不良。村の総意に従わないならず者など。
- hwiQcaa=sjuN**①(他 =saN, =ci) hwicaa-sjuN と同じ。
- hwiQcati=jun**①(他 =raN, =ti) ⊖ ひっさげるようにして持ち上げる。重い物を地面から持ち上げる場合などにいう。⊖(金などを)一時的に借りる。hjaqkwanbikkeen hwiQcatiraci kwiranna. 銭100貫ばかり一時貸してくれないか。
- hwiQcatiruu**①(名)⊖一時的に金を借りること。一時的に金を融通してもらうこと。⊖方で金を借り歩く者。
- hwiQcatiruuniibici**①(名)本人に相談なく不意に嫁がせる結婚。金銭などを受け取って出戻りの女を老人に嫁がせる場合などに多い。
- hwiQcee=jun**①(自 =raN, =ti) ひっくり返える。mii hwiQceerasjuN. 目を回す。気絶する。
- hwiQcee=sjuN**①(自 =saN, =ci) (病気が)ぶりかえす。huikeesjuN, huqceesjuNともいう。'janmeenu ~. 病気がぶりかえす。
- hwiQcii**①(名)一日。また、一日中。終日。月の第一日は ciitaci. ~ja kuutuguutu nukubaajuN. 日一日と 暖かくなる。
- hwiQciibarua**①(名)一日がかりの畑仕事。畑に出たまま、一日家に帰らずにする畑仕事。遠くに畑のある者が昼の弁当持参でそりする。
- hwiQciigusii**①(名)一日おき。隔日。
- hwiQciiju'qcii**①(名)一日中。朝から晩まで。ひねもす。多くは悪い意味の時いう。～ munu 'junuN. 朝から晩までおしゃべりする。
- hwiQciisikuci**①(名)一日仕事。朝から晩までかかる量の仕事。
- hwiQci=jun**①(他 =raN, =qci) ⊖ 引き切る。引きちぎる。qina hwiQciqcooN. 縄を引きちぎっている。⊖(金銭・品物などを)切らす。zin hwiQciqcooN. 金を切らしている。
- hwiQciki=jun**①(他 =raN, =ti) ひつつける。くつつける。
- hwiQciraka'acira**①(副)切らしがちなさま。(金銭・品物などが)不足がちなさま。～ sjuoN. 切らしがちである。
- hwiQcira=sjuN**①(他 =saN, =ci) (金銭・品物などを)切らす。
- hwiQciribiQeiri**①(副)⊖切れ切れ。いくつにも小さく切れたさま。⊖小きざみ。細かく切りきざむさま。また、(金などを)少しずつ支出するさま。
- hwiQciri=jun**①(自 =raN, =ti) (金銭や品物が)切れる。

hwiQcirizaNmiN

hwiQcirizaNmiNⓄ (名) こま切れの計算。

ばらばらの能率の悪い計算。

hwiQcirizuuteeⓄ (名) 生活費などが不足

がちの所帯。金を切らしがちな所帯。また、毎日金が小さきみに入るような所帯。

hwiQcooⓄ (名) 比較。比べること。ʔwee-kinNcutu hwiNsuumuNtu ~ja nara-

nSa. 金持ちと貧乏人と比較はできないよ。

hwiQkaki=junⓄ (他 =raN, =ti) ひっ掛ける。

鈎などに掛けて下げる。

hwiQkatan=cunⓄ (自 =kaN, =ci) ⊖没頭

する。熱中する。傾倒する。gakumunuNkai ~. 学問に没頭する。⊖一辺倒となる。

hwiQkumu=junⓄ (自 =raN, =ti) 引き

こもる。'jaanakai hwiQkumuti maanakaiN ʔNziraN. 家に引きこもってどこにも出ない。

hwiQku=nunⓄ (自 =maN, =ii) 引っこむ。

また、家などに引きこもる。miigaa ~. 疲勞してまぶたがくぼむ。

hwiQpaika'apaiⓄ (副) (着物・皮膚などが)

引きつったさま。ciNnu ~ sjoon. 引っ張られたような着物の着かたをしている。

hwiQpa=junⓄ (他 =raN, =ti) ⊖引っ張る。

⊖着物にのりをつけてピンとさせる。着物をきちんと、さっぱりと着る。sikutajunの対。⊖転じて、派手にする。羽振りよくする。威勢よくする。hwiQpati ʔaqcun. 羽振りよく暮らす。

hwiQpakuⓄ (名) 逼迫。貧乏で困窮すること。~ sjoon. 貧乏で生活に苦しんでいる。

hwiQsa=cunⓄ (他 =kaN, =ci) 引き裂く。

hwiQsagi=junⓄ (他 =raN, =ti) ひっさげる。さげて持つ。

hwiQsaNⓄ (名) [筆算] 読み書きそろばん。

hwiQsaNⓄ (形) 薄い。(厚み・濃度が) 薄い。kabinu ~. 紙が薄い。karazinu ~.

髪が薄い。ʔucanu ~. お茶が薄い。

hwiQsaNniNⓄ (名) 平民で学問のある人。

平民で読み書きそろばんなどのできる人。

hwiQsjaⓄ (名) [筆者] 役職名。王府の役所 (hjoozoozu など) の書記官。

hwiQsuiⓄ (副) びくん。ずきん。どきん。ぎくり。

hwiQsuihwiQsuiⓄ (副) びくんびくん。動

脈が動くさま。また、ずきんずきん。脈打つように痛むさま。また、どきんどきん。非難などが胸にこたえるさま。hjuurucinu ~. ひよめきがびくんびくん。haanu 'jardi ~ sjuN. 歯がずきんずきんと痛む。'Nninu ~ sjuN. 胸がどきんどきんする。胸がぎくりとする。

hwiQsuimika=sjuNⓄ (自 =saN, =ci) ぴくんとする。ずきんと痛む。どきんとする。ぎくりとする。

hwiQtaku=junⓄ (他 =raN, =ti) ひったくる。荒荒しく奪い取る。

hwiQtakumaQ'takuⓄ (副) べちゃくちゃ。おしゃべりするさま。~ sjuN.

hwiQtiN=neeNⓄ (句) (子供が一人で遊び) 世話が要らない。ʔanu 'warabee ~. あの子は世話がやけない。

hwiQtu=junⓄ (他 =raN, =ti) 強く取る。残らず取る。取ってしまふ。

hwiQtunuga=sjuNⓄ (自 =saN, =ci) けし飛ぶ。また、不意に行ってしまう。

hwiraⓄ (名) 坂。「猶迫ひて黄泉比良坂の坂本に到る時に (古事記上巻)」の「比良」と関係ある語かと思われ、「比良」もまた坂の意であったかと思われる。また、nuhwanu ʔisikubiri [伊野波の石くびり], minimakubiri [みにまくびり] などの語の語末の部分と関係あるか。なお、sakuhwira (急な坂) という語もある。

hwiraaⓄ (名) 平たいもの。

hwiracisjuuhuⓄ (名) 家屋などの解体修理。

hwira=cunⓄ (他 =kaN, =ci) 開く。haka

～。(葬式などで)墓を開く(haka ʔaki-juN ともいえる)。ʔuzuu ～。重箱(のごちそう)を開く(ʔuzuu ʔakijuN とはいわない)。

hwiragaqko①(名) [平等学校] sjuimi-hwira [首里三平等] に一つずつ計三つ置かれていた中等教育の学校。kukugaku [国学] (大学相当) の下, muragaqko [村学校] (小学校相当) の上。

hwiraguN①(名) [平組] ⊖平組み。より糸三本を平たく編んだもの。⊖清朝時代の中国男子の弁髪。tooja ～ ʔiamatoo kanpuu, saraba ʔucinanu katakasira. [唐や平組 大和やかんぷう さらば沖繩の欵髻] 唐は弁髪, 大和はちょんまげ, そして沖繩のかたかしら。⊖ [新] 女学生などが三つ編みに編んで下げた髪。

hwirahwa`gusa①(名) おおほこ(車前草)。薬草として, 煎じて飲んだり, 雑炊に入れて炊いたり, 根太の吸い出し膏薬にしたたり, 種々の病に効く。hwiruhwagusa ともいう。

hwirajacii①(名) 料理名。ʔnʌmukuzi-hwirajacii と同じ。

hwirajakuniN①(名) [平等役人] hwirazu [平等所] に務める役人。

hwira=juN①(他 =aN, =ti) つきあう。交際する。また, (目上に) 仕える。謙(へ)り合う意か。qcu ～。人とつきあう。ʔutu ～。夫に仕える。hwirajuru situN ʔuraN. 仕えるべき姑もいない。

hwirakaa①(名) 平川。《地》参照。

hwirakaamuzi①(名) 押し麦。

hwiraka=sjuN①(他 =sʌN, =ci) ⊖平らにする。押しつぶす。ぺちゃんこにする。⊖(喧嘩の相手を) やっつける。

hwiraki=juN①(自 =raN, =ti) ⊖平たくなる。ぺちゃんこになる。⊖疲れてすわり込んでしまう。

hwiraki=juN①(自 =raN, =ti) 開(ひら)け

る。開化する。

hwiraku=nuN①(自 =maN, =di) しびれる。hwisja ～。足がしびれる。

hwiramaaʒaa①(名) hwiramaaʒi と同じ。

hwiramaaʒi①(名) 平松。枝が低く平らに広がった松。ʔujamahwiramaʒinu ʔjudamucinu curasa, ʔujamamijarabinu tihuizurasa. [大山平松の 枝持ちの清らさ 大山みやらべの 手振清らさ] 大山の平松の枝ふりは美しく, 大山の乙女の踊る手振りは美しい。

hwirami=juN①(他 =raN, =ti) 平らにする。平たくする。mimi ～。耳をすます。耳を傾ける。また, (動物などが) 耳を立てる。

hwiramusiru①(名) おおたにわたり。暖国の陰地に産する水龍骨科貫衆(やぶそてつ) 属の植物。

hwiramusiruu①(名) hwiramusiru と同じ。

hwiranuci①(名) 箆(おさ)に経糸を二本ずつ通して織った普通の布。ʔusjaamii (四本ずつ通したもの) の対。

hwiranusuba①(名) [古] [平等の側] 鹿藩前の役名。法務長官にあたる。zuuguninsjuu [十五人衆] のひとり。

hwiraN①(名) hwiraNmee と同じ。

hwiraNmee①(名) 麦飯。大麦の押し麦だけをたいたものをいう。

hwiraqteen①(副) 平たく。平らに。ぺしゃんこに。ぺたんとは。

hwirasaN①(形) 平たい。平らである。また, 押しつぶされて, ペしゃんこである。hwiraku ʔijuN. あぐらをかく。hwiraku najabira. あぐらをかきましょ。

hwirata①(名) 平田。《地》参照。

hwirazu①(名) [平等所] 鹿藩前の役所の名。警察署・裁判所・刑務所を兼ねた役所。

hwirec①(名) 付き合い。交際。また, 目上

hwireegurii

へ仕えること。<hwirajuN。複合語は -biree の項参照。

hwireegurii⑩ (名) 付き合いにくい者。気むずかしい者。

hwireegurisaN⑩ (形) 付き合いにくい。気むずかしく、交際しにくい。

hwireejaQsaN⑩ (形) 付き合いやすい。心安い。心安い。

hwireeniNzu⑩ (名) 付き合い合っている人びと。日ごろ、交際している人びと。

hwiri⑩ (名) ㊦へり。ふち。㊦畳のへりの布。

hwiri① (名) 減り。減ること。kunu kumee ~nu neeraN。この米は(精米して)減りが少ない。

hwirihoo=ju`N⑩ (他 =raN, =ti) (屁などを) ひり散らす。やたらに屁をする。

hwirihwirii⑩ (副) 下痢するさま。<hwijun。~ sjuN。下痢する。

hwiriingami⑩ (名) つまみ食い。拾って食う意。

hwi=rijuN⑩ (他 =riraN, =qti) 拾う。hwirajuN とはあまり言わない。ziN ~。金を拾う。

hwirikuma=ju`N⑩ (自 =raN, =ti) (遊里などに) 入りびたる。流連する。zurinujaanakai ~。遊郭に入りびたる。

hwiriku=nuN⑩ (自 =maN, =ai) 入りびたる。qcunujaanakai ~。人の家に入りびたる。

hwirisju⑩ (名) 干潮。hwiisju, また hwiicisju ともいう。

hwiru⑩ (名) ㊦尋。長さの単位。昔は布の長さ、井戸の深さなどすべて尋で計った。kunu nunoo ~nu ?amatooN。この布は長さがたっぷりある。㊦(按尾) 尋。cu-hwiru (一尋), tahwiru (二尋) など。

hwiru① (名) 大蒜(にんにく)。

hwiru① (名) 昼。日中。

hwirugai① (名) ㊦広がり。㊦子孫がふえ

栄えること。cuiNghanu ~。一人っ子からたくさんの子孫ができ、栄えること。

hwiruga=juN⑩ (自 =raN, =ti) 広がる。広がる。また、蔓延・伝播・流布する。また、(子孫が) 広がる。繁殖する。

hwirugi=juN⑩ (他 =raN, =ti) 広げる。?ucukwii ~。ふろしきを広げる。

Qkwa?Nmaga ~。子孫を繁殖させる。

hwirugusarimuN⑩ (名) なま臭いもの。魚特有の悪臭を放つもの。

hwirugusasaN⑩ (形) なま臭い。魚特有のにおいがする。

hwiruhwa`gusa⑩ (名) hwirahwagusa と同じ。

hwiruma⑩ (名) ㊦午後。昼過ぎ。㊦hwirumamuN (午後の食事) の略。

hwiruma=juN⑩ (自 =raN, =ti) 広まる。普及する。あまねく伝わる。

hwirumamuN⑩ (名) 午後(3時ごろ) する食事。労働をする者などが sutumitimuN (朝飯), ?asabaN (昼飯) 'juubaN (夕飯) の三食のほか、午後にとる軽い食事。丁寧には hwiruma?ubun, mi-hwiruma?ubun という。

hwirumasjaN⑩ (形) 不思議である。怪しい。奇妙である。いぶかしい。珍しい事件などについていう。hwirumasii kutu。不思議なこと。珍しい、怪しい事。

hwiruma?ubun⑩ (名) hwirumamuN (午後にとる軽食) の敬語・丁寧語。

hwirumi=juN⑩ (他 =raN, =ti) 広める。拡張・宣伝・流布する。

hwirusaN⑩ (形) 広い。(空間・交際・知識・心などが) 広い。sibasaN (狭い) の対。

hwiruu⑩ (名) [披露] 訴訟。裁判に訴えること。~ sjuN。訴訟する。

hwiruubiruu① (副) 広広と。~ sjoon。広広としている。

hwiruzi⑩ (名) 広い場所。広場・広間など。

hwiru=zun⑩ (他 =gaN, =zi) 布の長さな

どを、尋で計る。nunu ~. 布の長さを尋で計る。caqsaga ʔara hwiruzi 'NNdee. 何尋あるか計って見ろ。

hwiruzuu④ (名) 昼中。終日。

hwisagi=jun④ (他 =raN, =ti) ひっさげる。手にさげる。hwisagirariiru ʔataii. 手にさげられるぐらいか。

hwisi④ (名) [干瀬] 満潮の時は隠れ、干潮になると現われる岩や洲。大隅風土記の「海中之洲者華人俗語云必至」の「必至(ひし)と比較される。~ni ʔuru tuija micisju ʔuramijui, ʔwamija ʔakaçicinu tuidu ʔuramijuru. [干瀬に居る鳥や 満潮恨みゆい 我身や暁の 鳥ど恨みゆる] 沖の石にいる鳥は満潮を恨むが、わたしは恋人との別れを知らせるあかつきの鳥が恨めしい。

hwisi④ (名) 栓。~ sjuN. 栓をする。

hwisibataa④ (名) うすっぱらな布地。

hwisica④ (名) 平敷屋。《地》参照。

hwisici④ (名) 平敷。《地》参照。

hwisihwisi④ (副) ⊖ずきずき。脈打つよりに痛むさま。haanu ~ ʔjanUN. 歯がずきずき痛む。⊖ひしひし。びしびし。(非難などが) 胸にこたえるさま。~ ʔatajun. ひしひしと胸にこたえる。~ nucihwici sjuN. びしびしと非を指摘する。

hwisii④ (名) 薄いもの。

hwisi=jun④ (自 =raN, =ti)(厚み・濃さが) 薄くなる。

hwisikaagaa④ (名) 薄物を通して見える物のかけ。~ miijun. 薄物を通して物のかけが見える。

hwisiN=cun④ (他 =kaN, =ci) 手荒くさしこむ。押しこむ。

hwisisaN④ (形) hwiqsaN と同じ。

hwisja④ (名) 足。足首より下をも足全体をもいう。「ひざ」に対応する語か。~ takudi ʔicooN. 足をたたんで坐っている。すなわち、無為徒食している。また、樂を

して何もしていないでいる。kumaja raku-rakutu ~ takudi ʔututi, murabarunuhjaaga hakarigutu tajuti... [こまや 樂々と ひしやたくで居とて 村原の比屋が 謀たよて...(大川敵討)] こちらは樂々とすわっていて、村原の比屋の謀りごとを利用して…。hwisjanu ʔNkajuru mama. 足の向くまま。どこに行くという目的もなく。これには ʔasinu ʔNkajuru mama. ともいう。hwisja hagoosaN. 足元が気味が悪い。藪などで蛇を恐れる時などにいう。

hwisjabuni④ (名) 足の骨。

hwisjadakaa④ (名) 背伸び。つま先立ち。~ sjuN. 背伸びする。

hwisjadarusaN④ (形) 足がだるい。

hwisjakata④ (名) 足跡。踏んだ足のかた。

hwisjakubi④ (名) 足首。

hwisjamaNci④ (名) 端坐。正坐。~ sjuN. 端坐する。

hwisjamoo④ (名) 足無し。足の無い者。

hwisjamookaa④ (名) 足の無い者。足無し。前項と次項の卑称。

hwisjamookuu④ (名) 足の無い者。足無し。hwisjamoo の卑称。

hwisjanaa④ (名) 足の甲。

hwisjanuwata④ (名) 足の裏。また、土ふまず。wata は腹。

hwisjaširiširi④ (名) 足ずり。子供が身をもがいて足をするのをいう。

hwisjazikara④ (名) 脚力。足の力。~ nu neeN. (病後などに)足の力がない。

hwisu④ (名) [新] 碓素。

hwita④ (名) 下手。~ ʔjan. 下手だ。~ nakutu sjuN. まずい事をする。

hwitani④ (副) ひたすら。~ni zinmookizukubikeei. ひたすら金もうけばかり。

hwitu④ (名) [文] 人。口語は qeu. ~nukukuru. 人の心。

hwituçi④ (名) [文] 一つ。口語は tiiçi。

hwitumagee

tukeja hwizamitin tiru cicija ~. [渡海や隔めても 照る月や一つ] 海はへだても照る月は一つ。

hwitumagee① (名) [文] 人違い。口語は Qcumagee, QcubaQpee. hwitumageja Yarani mizisirazi satume. [人まがひやあらに 見ず知らず里前(手水之縁)] 人違いではありませんか、見ず知らずのお方。

hwitumasai① (名) [文] 人にまさっていること。satuja hanazakai ~ 'jariba. [里や花盛り 人まさりやれば(手水之縁)] 恋しいあのかたは若い花盛りで、人よりもすぐれているから。

hwitunusudu① (名) [文] 人さらい。Qcunusudu の文語。

hwiza① (名) 比謝。《地》参照。

hwiza① (名) 比嘉。《地》参照。

hwizagaa① (名) 比謝川。川の名。中頭郡にあり西海岸に注ぐ。

hwizahoo① (名) 東の方。農村で多くいう語。首里では普通 ?agarikata という。

hwizai① (名) 左。

hwizaidiinagaa① (名) 泥棒の別名。左手が長い者の意。

hwizaigaqti① (名) 左きき。hwizajaa ともいう。

hwizaiguN① (名) 膳部の飯と汁を反対に置くこと。飯左、汁右が正しく、反対にすると作法に反する。左組みの意。

hwizaimacaa① (名) 左巻き。つむじが左巻きの者。また、一癖ある者。

hwizaimigui① (名) 左前。経営がうまく行かないこと。また、経営が下手なこと。~ Qsi muutumadi neeN nataN. 経営が左前になって元手まで無くなった。

hwizainuudii① (名) 音痴。声が調子はずれな者。hwizai (左) は不器用の意。

hwizai?ucaasi① (名) 着物を左前に着ること。古くは左前の風があったのか、農村の老女などに見掛けられる。教養の無いかつ

こうとされている。sjui nahwani nubuti, sudi hujuru sinSi, 'unazaraja namaN hwizai?ucasi. いなかから首里・那覇に上って袖を振って歩く田紳、奥方は今でも左前に着物を着る。廃藩後の田舎紳士を皮肉った歌。

hwizaizii① (名) 左文字。印鑑などのように、裏側から見た字。

hwizajaa① (名) 左きき。左ぎっちょ。hwizaigaqti ともいう。

hwizama=juN① (自 =raN, =ti) へだたる。間にはいってへだたる。また、距離が離れる。mura tiiçi hwizamatoon. 村一つはさんで離れている。

hwizami① (名) ⊖へだて。間をへだてるもの。~nu neeraN. 間をへだてる物がない。~ ?uqtuti zaa tiiçi nasjuN. へだてを取り払って一つの座敷にする。⊖(接尾)…をへだてるもの。…をへだてた隣。kubihwizami (壁をへだてること。壁一つへだてた隣) など。

hwizami=juN① (他 =raN, =ti) へだてる。間に入れてへだてる。また、距離をへだてる。離れる。?amatu kumatoo ?umi hwizamitooN. あそここことは海をへだてている。saNri hwizamitooN. 3里をへだてている。kaama hwizamitooN. 遠く離れている。

hwizarugisaN① (形) 不器用らしい。ぎこちない。また、(姿が)ぶかっこうである。おろかしく見える。

hwizaruu① (名) ⊖不器用。ぶかっこう。また、そのよりの者。⊖間が悪いこと。ぼつが悪いこと。~ najuN. ぼつが悪くなる。

hwiza?uNna① (名) 東恩納。《地》参照。

hwizi① (名) 返事。~ hwintoo. 返事返答。hwizi を強めたことば。

hwizi① (名) ⊖ひげ。複合語としては、?waahwizi (鼻ひげ), sicahwizi (あごひ

げ), hwizimoo (ひげなし), 'jamahwizaa (ひげだらけの人) など。⊖植物のひげ根。～ sasjuN. ひげ根が出る。ひげ根が伸びて行く。

hwizi① (名) 比地。《地》参照。

hwizici① (名) 杼(ひ)。機織りの器具の名。緯糸を巻いた管を入れるもの。舟型をしており、これを上下に開いた経糸の間に差し入れて、布を織る。高機のは小さく、地機のは大きい。

hwizigee① (名) hwizikee と同じ。

hwizigee magii① (名) 腕の太い者。腕っぶしの強い者。

hwizikee①* (名) 肘。また、肘を中心とした腕。腕っぶし。hwizigee ともいう。

hwizimoo① (名) ひげ無し。ひげの無い人。ʔutugeenaNduruu (おとがいますべすべ), haameezira (ばあさんづら) などともいう。

hwizui① (名) 冷え。冷えこむこと。また、冷気。～ ʔijuN. 冷気におかされる。冷えこんで病気になる。

hwizuicii① (名) 冷えこむと起きる病気。神経痛・リュウマチスの類。

hwizuikaa① (副) 食物などが冷えているさま。～ sjoon. 冷えている。

hwizuiʔooi① (副) 体・手足などが冷えこむさま。～ sjuN.

hwizu=juN ① (自 =raN, =ti) 冷える。冷たくなる。さめる。ʔubunnu ～. 御飯が冷える。dii, hwizuraN maadu kamee. さあ, さめないうちに食べろ。hwizura-

sjun. 冷やす。

hwi=zuN① (他 =gaN, =zi) そぐ。へぐ。薄く削り取る。

hwizuqteen① (副) ひやりと。冷え冷えと。冷たいさま。

hwizuruʔasi① (名) 病気などで気分の悪い時に出る汗。病気の時の寝汗など、冷たい感じのする汗。恥じたり気を使ったりする時のひや汗の意では用いない。

hwizurukaNzaa① (副) 冷え冷えとしたさま。寒寒としたさま。火の気・女気などのないさま。～ maatoon. 寒寒としている。

hwizurukaNzi①* (名) 冷え冷えとした感じ。寒寒とすること。～ sjuN.

hwizurukaN=zu¹N①* (自 =daN, =ti) 冷え冷えとする。寒寒とする。

hwizurukazi① (名) 冷たい風。ひやりとする風。

hwizurumizi① (名) 冷たい水。冷水。

hwizurumuN① (名) ⊖冷たい物。(食物などの) 冷えたもの。⊖よく切れる刃物。鋭い刃物。

hwizurusaN① (形) 冷たい。また、涼しい。精神的な冷淡さにはいわない。hwizuruku najun. 冷たくなる。涼しくなる。ʔunzuga tiija ～. あなたの手は冷たい。cimu hwizuruku najun. 危くて心がひやっとする。肝を冷やす。

hwizuruʔubuN① (名) ひや御飯。

hwizun① (名) 日中。昼間中。また、一日中。～ nuun santan. 一日中何もしなかった。

ʔi- (接頭) [文] 美称の接頭辞。名詞に付き、意味に特殊な価値を添える。ʔikataree (男女の語らい), ʔikutuba (故老のことば, 言い伝え), ʔihwanasi (説話) など。

ʔibadukuru ① (名) ʔibaidukuru と同じ。

ʔibaʔibaatu ① (副) 小じんまりと。部屋などが狭くてしっくりした感じを与えるさま。

ʔibai ① (名) 狭い所。窮屈な所。たくさんの人で、また家が建てこんで窮屈なところ。

ʔibaidukuru ① (名) ʔibai と同じ。

ʔibainumii ① (名) 狭苦しいところ。窮屈な中。

ʔibajaa ① (名) [新] いばっている者。

ʔibajaaŋiicee ① (副) 窮屈なさま。狭苦しいさま。人・建物・道具などがひしめいているさま。

ʔiba=juN ① (自 =raN, =ti) [新] いばる。

ʔibasano ① (形) 狭い。窮屈である。狭苦しい。いる人・ある物に対して、その場所が狭いのにいふ。sibasano の項参照。ʔusakii ʔeunu ʔaʔimaidun ʔee, caaru ʔasici ʔjatin ʔibasadu ʔaru. そんなに人が集まるならばどんな部屋だって狭いさ。ʔibasano naakaŋkai ʔwaikudi ʔicun. 窮屈な中に割り込んで行く。

ʔibi ① (名) えび (蝦)。

ʔibi ① (名) [威部] 神のいる場所。また, 神。sakamutunu ~ja danzu tujumariru, ʔujuzuraga cumutu kubanu mimutu. [坂本のいべや だんじよとよまれる よよぎよらが一本 こばの三本] 坂本の拝所はなるほどほめはやされる。くろつぐが一本, びろうが三本あって由緒ありげである。

ʔibiraa ① (名) けちんぼ。物惜しみする者。
ʔibiri=juN ① (他 =raN, =ti) けちけちする。物惜しみする。ʔibiritoon. けちである。

ʔibiriʔnza=sjuN ①* (他 =saN, =ci) [新?] (嫁などを) いじめて追い出す。

ʔibuikabui ① (副) ʔibuisiizii と同じ。

ʔibuisiizii ① (副) 盛んに値切るさま。ʔibuikabui ともいう。~ ʔjaŋimirasjuN. しきりに値切って安くさせる。

ʔibujaa ① (名) いつも値切る者。

ʔibu=juN ① (他 =raN, =ti) 値切る。

ʔibusuci ① (名) 指宿。鹿兒島の地名。

ʔica ① (名) 板。ʔita ともいう。

ʔica ① (名) いか (烏賊)。ʔika ともいう。

ʔica ① (副) [文] いかに。どう。口語は caa. ~ ʔuʔoozi miʔeega. どのように思召されますか。~ga najura. どうなるだろうか。

ʔicaa=juN ①* (自 =raN, =ti) ʔicajuN と同じ。

ʔicaasikaŋtii ① (名) 収支つぐなわないこと。やりくりしかねること。収支を合致しかねる意。ʔunu ʔatainu ziʔcuuʔee kurasee ~ja ʔarani. そのぐらいの月給では暮らしてやりくりがむずかしくないか。

ʔicaasikwaasii ① (副) やりくり算段するさま。ʔjarasiikwaasii, ʔjaracaiikwaacai などともいう。ʔanu ʔjaaja ~ ʔsidu, taqci ʔnzooee sani. あの家はやりくり算段で、やっと立って行っているのではなからうか。

ʔicaa=sjuN ① (他 =saN, =ci) ⊖(人と人とを)会わせる。⊖(ひもなどを) ちょうどよい長さに合わせる。⊖(支出と収入とを) 合わせる。収入に見合った支出をするよう

にする。

Ticabu① (名) きぬた。布を打ち柔らかげるための、厚い板で作った台。

Ticadatan① (名) 畳の大きさに作った板張りの敷物。部屋と部屋の間を通路として使う場合などに、畳のかわりに敷く。本土の板畳とは異なる。

Ticagarasju① (名) いかの塩辛。

TicaTicaatu① (副) 手ひどく。こっぴどく。きびしく。～ **Tiiciqci turasjuN**。こっぴどく言ってやる。

Ticaihancai① (名) 言ったり答えたりすること。ことばのかけひき。応酬。受け答え。

Tica=jun① (自 =aN, =ti) **TicaajuN** ともいう。⊖行き会う。出会う。会う。Ticatartu husjoo. 出会ったのが運のつき。Tatartu husjoo ともいう。⊖会う。面会する。Ticeega caN. 会いに来た。Tari Ticatan. 彼に会った。Ticeewa coodee, nuu hwidatinu Taga. いったん会えば兄弟と同じこと、何のへだてがあるか。⊖合う。達す。(ひもなどが) 届く。また、(収支が) 合う。⊕* 交接する。

Ticanukuri① (名) いかの墨。単に kuri ともいう。

Tica=nuN① (自 =maN, =di) いきむ。息を止め、腹に力を入れる。

TicaNda① (名) ただ。無料。代金を払わないですむこと。

TicaNdabuukuu① (名) ただ働き。

TicaNdamuN① (名) ただの物。無代の物。TicaNdamunoo niidakasan. ただの物は高くつく。もらった物はかえって返礼に金がかかる意。

TicaNdazikée① (名) むだ使い。浪費。

TicaNpai① (名) いきむこと。息を止め、腹に力を入れること。～ sjun.

Ticarazici① (名) 板良敷。《地》参照。

Ticaruu① (連体) [文] いかなる。口語はcaa-

ru. ～ kutu Tatuti tumeti cicaga. [いきやる事あとしてとめてちちやが] どんな事があって尋ねて来たか。

Ticasan① (形) ⊖惜しい。失うのが惜しい。愛惜の情を感じる。Tungutu suguringwa sinaci ~ 'jaa. それほどすぐれた子を死なせて惜しいねえ。'juuciraa neen muN kooti zinudu Ticasaru. 用のないものを買って金が惜しい。Ticasa sjun. 惜しむ。Ticasa saqtootidu Ticicootin sinnu Taru. 惜しまれてこそ生きていてもかいがある。⊖痛痛しい。また、苦しい。Ticasii kutu. 痛痛しいこと。かわいそりなこと。Qcunu Ticasaa siran. 人の苦痛はわからない。

Ticasigana① (副) [文] どうにかして。口語では caagana Qsi という。Tumuikugaritin ziju najumi 'jasiga, ~ Tasaju 'ugamibusjanu. [思ひ焦れても自由なゆめやすが いきやしな朝夕 拝みほしやの] 思いこがれても自由にはならないのだけれど、どうにかして朝夕お会いしたい。

Ticaziri① (名) 板きれ。

Ticee① (名) 会うこと。会見。会談。Tari-tu kuritunu ~ ja caa nataga. 彼とこの者との会見はどうなったか。

Ticeecizee① (名) 行き違い。

Ticeecodee① (名) 父を異にする兄弟姉妹。異父兄弟。Ticee < Ticajun.

Ticeegurii① (名) 会にくい人。なかなか会えない人。

Ticeehandi① (名) (ひもなどの) 長さが足りないこと。短くて届かないこと。Ticee- < Ticajun. handii < handijun. ~ 'jasa. (ひもなどの) 長さが足りなくて結べない。

Ticeehan=sjun① (自 =saN, =ci) 会いそこなる。会いそびれる。

Ticeekantii① (名) ⊖会いかねること。会

Ticeekazi

えないこと。⊖長さが足りないこと。届かないこと。達しないこと。kunu Tuubee tamaanee Tamajušiga, mimaanee ~ 'jan. この帯は二回りでは余るが、三回りには足りない。curabana 'jašiga ~ qsi mujuusan. きれいな花だが、手が届かないので、もげない。

Ticeekazi① (名) 魔風。死霊または悪霊のこもった風。その風に会いと普通の病気と違った病気になるといわれた。

Tici① (名) ⊖1。一。普通は *tiiči* という。⊖(接頭) *i*。数の一を示す。Ticimee (一枚), Tiqsju (一升) など。ロ。大変な・重大ななどの意を表わす。Ticigudun (大馬鹿), Ticihazi (大恥), Ticideezi (一大事) など。

Tici① (名) 庭池。觀賞用に人工を施した池。天然のものは *kumui* という。

Tici① (名) 伊計島。沖繩本島の東側にある島。また、伊計。《地》参照。

Tici① (名) 伊地。《地》参照。

Tici① (名) 行き。往路。mudui (戻り) の対。

Tici① ⊖(感)いつ。五つ。声を出して数える時にだけいう。⊖(接頭) *Tiçikeen* (五回), *Tiçitai* (五人), *Tiçihwani* (五羽) など。

Tici① (名) いつ(何時)。~madin. いつまでも。永遠に。~caga. いつ来たか。

Ticibana① (名) 生け花。

Ticiban① (名) 一番。

Ticibanđui① (名) 一番鶏。

Ticibaru① (名) 池原。《地》参照。

Ticibun① (名) ⊖面目。人ひとりの面目。一分。~nu tatan. 面目が立たない。⊖ひとりの意。đuu ~. 自分ひとり。

Tiçiči① (名) 五つ。5。また、5歳。時刻の場合は午前午後の8時。

Tici=cun① (自 =kan, =ci) 生きる。Ticicooru Tweeda. 生きている間。生涯。Tici-

cootaru Tweeda. 生きていた間。Ticicooru kaziri. 生きている限り。一生涯。Ticicooru sin. 生き甲斐。Ticikasjun. 生かす (Ticikijun ともいう)。Ticicibusjan. 生きたい。Ticikaran Tici. 苦しい生きかた。貧苦・病苦などで、生きるに生きられぬような生き方。

Ticidannakutu① (名) [文] 一大事。また、一段とよいこと。

Ticidantu① (副) [文] 一段と。~'jutasjan. 一段とよい。

Ticidee① (名) 一代。人の一生。~ni Ticideu. 一生に一度。

Ticideezi① (名) 一大事。大事件。

Ticidennakutu① [文] 一大事。大事件。

Ticidu① (名) 一度。cukeen (一回) とともいう。

Ticidui① (名) 生けどり。

Ticigatanasan① (形) 行きにくい。敷居が高い。

Ticigee=jan① (自 =ran, =ti) 生き返る。蘇生する。Ticigeerasjun. 生き返らす。蘇生させる。

Ticigoo① (名) 一合。一升 (Tiqsju) の10分の1。また一里 (Ticiri) の10分の1。

Ticigoónakamui① (名) 一合枿。単に *nakamui* ともいう。

Ticigu① (名) [文] 一生涯。生涯。一期 (いちご)。~mamatumuti Tikataren sjašiga, satuja cimu kawati 'jusuni nariti. [いちごまともて い語らひもしやすが さとや肝かはて 他所に馴れて] 生涯一緒になると思ってちぎりも交わしたが、君は心変わりしてよその人と親しくなってしまった。

Ticigudun① (名) 大変な愚鈍者。大馬鹿者。

Tiçiguru① (名) いつごろ。

Ticigwaçi① (名) 1月。正月。

Ticihati① (名) はて。行き着くもつとも遠い所。naguja 'janbarunu ~ga 'jaju-

ra, namadi nagubuninu ?atinu neran.
 [名護や山原の 行き果てがやゆら なまで
 名護舟の あてのないらぬ] 名護は山原の
 はてであろうか。いまだに名護からの舟の
 便がない。

Yicihazii① (名) 大恥。～ kacun. 大恥を
 かく。

Yicizici① (名) いちいち。ひとつびとつ。

YiciziiN① (名) 布の織る篋(おさ)の種類
 の名。十五よみ。糸経 1200 本を通すもの。ま
 た、それで織った布。huduci の項参照。

Yicijun① (他 =ran, =ti) (花を) いける。

Yicika① (名) いつか。～ maaganauti Yi-
 cataN 'jaa. いつかどこかで会ったねえ。
 sjudunmijarabinu 'jucinurunu hagu-
 ci, ～ 'junu kuriti mikuci suwana.
 [諸鈍めやらべの 雪のろの 歯ぐき いつ
 か夜の暮れて み口吸はな] 諸鈍の娘たち
 の美しい雪色の歯に、いつか日が暮れて口
 づけしたい。

Yicikawaiga'wai① (副) 変転するさま。
 kunuju ninzinu sakai?uturuija, na-
 citu hujugukuru ～. [この世人間の 盛
 衰や 夏と冬ごころ いき替り替り(花売
 之縁)] この世の人間の盛衰は夏と冬のよ
 りに変転きわまりない。

Yiciki=jun① (他) (他 =ran, =ti) 生かす。
 Yicikasjun (Yicicun の使役形) ともし
 う。

Yicikumui① (名) [古] 銭 500 文。1 銭に
 当たる。zin (銭) の項参照。

Yicikumuiigu`Nzuo① (名) 銭 550 文。1 銭
 1 厘に相当する。zin (銭) の項参照。

Yicikunweekutu① (名) 大変なこと。一大
 事。

Yicima① (名) 池間島。宮古群島の島の名。

Yicimabui① (名) 生きている人の靈魂。い
 きすだま。生霊。

Yiciman① (名) 1 万。

YicimaNgwa`N① (名) [古] 銭の 1 万貫。

200 円に当たる。zin の項参照。

Yicimee① (名) 一枚。

YicimeehwiQpai① (名) 一張羅を着こなす
 こと。一枚しかない着物を小ざっぱりと着
 ること。-hwiQpai は着物にのりを付け、
 折目正しく着る意。

Yicimeemaaminukaa① (名) 着たきりす
 ずめ。豆の皮のように着物が一枚しかない
 こと。

Yicimi① (名) 現世に生きていること。ま
 た、現世。この世。gusjoo (後世) の対。
 ～nu gutu ?aree. この世のようであら
 ば。

Yicimituumi① (名) 生きている限り。
 一生。一生涯。～nu kweekuci. 一生食べ
 られる食いぶち。

Yicimudui① (名) 行き帰り。往復。haru-
 nu ～ harunu 'juqaini…[はるの行き
 戻り はるの行きやひに…(銘苅子)] 畑を
 行き帰りする時に…。

YicimuN① (名) 生きもの。動物。

YicimuN① (名) 一門。一族。

YicimuNmi① (名) 一もんめ(奴)。

YicimuN?usimii① (名) 一門全体で行な
 う清明祭。

YicimuNzurii① (名) 一族のものが集まる
 こと。親族会議。

Yicimusi① (名) ⊖けだもの。禽獣。畜生。
 ～jakan cizi. 禽獣よりも悪い。⊖畜生。
 虫けら。人をののしっている語。

Yicinai① (名) [文] 成り行き。?uhuka-
 wanu nasigwa ?anmeetu hutai ?ica-
 ru ～ni najai 'ujuga. [大川のなし子
 あむまへと二人 いちやる行成に なやい
 居ゆが(大川敵討)] 大川の息子と乳母の
 ふたりはどんな成り行きになっているか。

Yicinanka① (名) 五七日。死後 35 日目に
 営む法事。

Yicinici① (名) 一日。hwiqci ともいう。
 月の初めの日(ついたち)は ciitaci とい

ZiciniN

う。

ZiciniNⓄ (名) 一人。ひとり。普通は cui という。

ZiciniNⓄ (名) 一年。cutu ともしう。

ZiciniNmceⓄ (名) (食物などの) 一人前。ひとり分。

ZicinuekeziⓄ (感) [文] 一回。口語は cukeen. Yisinagu (遊戯の名) の時の文句にある。

Zicinuuku=ju`NⓄ (自 =raN, =ti) 生き残る。

ZicINⓄ (名) [文] 意見すること。他人の非をいさめること。~ 'jusigutuja minu Ywiinu takara. 意見や教訓は身の上の宝。

ZicINkuduciⓄ (名) [意見口説] kuduci [口説] の名。

ZicIQcuⓄ (名) 生きている人。siniqcu (死んだ人) の対。

ZiciriⓄ (名) 一里。

ZiciriiⓄ (名) 一礼。~ sjun.

ZicirizikaⓄ (名) 一里塚。

ZicisakasiNzaⓄ (名) [文] 生意気なやつ。~nu ?juru kutunu nikusa. [いきさかしんぎの 言ふことの憎さ (忠臣身替)] なまいきなやつを言うことの憎さよ。

ZicisijuruⓄ (連体) [文] 行きずりの。行く道で袖をすって行くような。haruja nun 'jamaN 'juinu hanagakai, ~ sudinu niwinu sjurasa. [春や野も山も百合の花ざかり 行きすゆる袖の 匂のしほらしや (手水之縁)] 春は野も山もゆりの花ざかり、行きずりの袖に付くにおいのゆかしいことよ。

ZicisiniⓄ (名) 生き死に。生死。

ZicisiriⓄ (名) [文] 行きずり。satuja ~nu hanatu ?uminasjura, 'wamiya Yi-çimadin tanudi 'uşiga. [里や行きずりの 花と思なしゆら 我身やいつまでも 頼でをすが] あなたはわたしを行きずりの

花とみなしているのでしょうか。わたしはいつまでも頼っているのに。

ZicisiziⓄ (名) 行き過ぎ。

Zicisizi=juNⓄ (自 =raN, =ti) ⊖行き過ぎる。通り過ぎる。⊖行き過ぎる。行き過ぎた行為をする。

ZicitaiⓄ (名) 五人。guniN を多く用いる。

Zicita=juNⓄ (自 =raN, =ti) 行きとどく。ふつう、否定の形のみを用いる。Yicitaran kutoo cui tareedaree. 行きとどかぬことは、たがいに補い合い。

ZicizwaiⓄ (名) [文] いつわり。

ZicizakariⓄ (名) 生き別れ。生別。

ZicizamaⓄ (名) ⊖生霊。生きている人の怨霊。恨みのある人にとりついてわざわざをなす。⊖のろい。のろうこと。~ sjun. のろう。昔はのろう者は罰せられた。

ZicizimiⓄ (名) [文] 拷問。生き責めの意。cukatamani sicija çimi Yasasa ?amunu ruusjagumi sicoti ~ju sjoori. [一刀にしちや 罪浅さあもの 牢舎ごめしちよて 生き責めよしよろれ (忠臣身替)] 一刀で殺しては刑が軽いから、牢に入れておいて拷問にせよ。

ZicizimuⓄ (名) 心。心情。人間としての心。生きている人間本来の心。生き肝には namazimu という。~ muqcooti ?unna kutunu najumi. 人の心を持ちながらそんな(むごい)ことができるか。

ZicizirasanⓄ (形) ⊖息苦しい。呼吸が苦しい。⊖狭苦しい。窮屈である。また、(目上の人の前で、また世の中などが) 窮屈である。

Ziciziri=juNⓄ (自 =raN, =ti) 息切れがする。息が続かなくて苦しい。

ZicubiⓄ (名) いちご (莓)。

ZicuiⓄ (名) 勢い。勢力。権勢。~ muqpara. 権勢をふりまわすさま。

ZicukaziⓄ (名) 糸数。《地》参照。

ZicukuⓄ (名) いとこ (従兄弟姉妹)。

ʔicukuubamaa① (名) 父母の従姉妹。いとこおば(従姉妹小母)。

ʔicukuuzasaa① (名) 父母の従兄弟。いとこおじ(従兄弟小父)。

ʔicumana① (名) 糸満。《地》参照。

ʔicunasaN① (形) 忙しい。いとまがない。せわしい。ʔicunasa sjoon. 忙しくしている。

ʔicuN① (自・不規則) ①行く。ʔicabira. 目上への辞去のあいさつ。失礼いたします。ʔikarii. 目下への辞去のあいさつ。さよなら。~tee ʔikantee. 行くと言い、行かないと言い。行く行かないが決まらないさま。ʔNzi cuun. 行って来る。ʔNzai cai. 行ったり来たり。ʔNzaru saNgwaçi. 去る三月。ʔNzaN. 行った。去った。②行く。(事態が)進行する。…して行く。caaga. kuneedaNşee ʔjuu ʔNzoomi. どうだ。このごろはうまく行っているか。ʔjudi ~. 読んで行く。読み進む。

ʔicuta① (名) しばらくの間。ちょっとの時間。huNnu ~ maqcooru ʔweekanakai. ほんのちょっとと待っている間に。huNnu ~ ʔjaQsa. ほんのちょっとの時間だ。

ʔicutaa① (副) ちょっと。しばらく。呼び出す時、呼び止める時などにもいう。~matee. ちょっと待てよ。sjuikara cooşiga kama ~. (流行歌の文句) 首里から来たんだけど、カマさんちょっと。kama は zuri (女郎) の名。

ʔicutabukurasja① (名) 一時の喜び。また、一時は喜んでする(が、長続きしない)こと。

ʔicutanuha¹⁾ ʔnsi① (名) 一時しのぎ。一時の間に合わせ。応急措置。

ʔicuzi① (名) 糸洲。《地》参照。

ʔigaahai① (名) 口論。言い争い。

ʔignai① (名) ʔigaahai と同じ。

ʔigu① (名) 以後。これからあと。

ʔigumasi① (名) 意気込んでする企て・準備。

ʔiguma=sjun① (他 =saN, =ci) 意気込んで企てる。意気込んで用意する。

ʔigun① (名) 遺言。普通には ʔNzani という。

ʔihaciroʻohaci① (名) 手八丁口八丁。弁論・手腕ともすぐれているさま。

ʔihiiʻʔahaa① (副) 笑いさざめくさま。談笑するさま。~Qsi ʔwiirukigisaN ʔjaa. 笑いさざめいて楽しそうだねえ。

ʔihja① (名) ①伊平屋島。沖縄本島北方にある島の名。kusizii ともいう。②伊平屋・伊是名(ʔizina)の両島を含めていう。

ʔihuuna① (連体) 変な。異様な。異風な。~sikata. 変わったやりかた。~Qcu. 異風な人。

ʔihwa① (名) 伊波。《地》参照。

ʔihwa① (名) 伊覇。《地》参照。

ʔihwanasi① (名) 昔物語。伝説。また、教訓的な話。説話。

ʔihwee① (名) [文] 位牌。口語は ʔiihwee, ʔuʔiihwee。

ʔihwi① (名) 少し。わずか。少量。~ʔja-sa. 少しだよ。ʔihwee ʔwakajun. 少しはわかる。~jaka ʔwakaraN. 少ししかわからない。

ʔiii① (感) (普通、鼻音化して発音する。[ʔiĩ] 鼻音化しないとぞんざいに聞こえる) はい。そう。ああ。目下に対して、承諾・同意を表わし、肯定する語。目下に呼ばれて返事する場合は hii という。hii, ʔuu, ʔoo, ʔNN などの項参照。

ʔiii① (名) [新?] 胃。豚などの胃には ʔu-hugee という。

ʔiii① (名) 人畜の胆汁。

ʔiiiʔaa=sjun① (他 =saN, =ci) 相談する。談合する。話し合って決める。kuneeda ʔiiʔaacaru gutu ʔjaa. こないだ相談して決めたようにね。

ʔiiiʔati=jun① (他 =raN, =ti) 言い当てる。

ʔiibi

ʔiibi① (名) 指。～ hucun. 指笛を吹き鳴らす。人さし指を曲げて口の中に入れて鳴らす。いなかなどで事件があった時若者を呼び集めるためなどに鳴らす。

ʔiibiban① (名) 捺印。指先に朱肉や墨を塗って印鑑がわりに押すこと。

ʔiibiban-ci① (名) ㊦つまびき。琴・三味線の類を指先でひそかに弾くこと。㊦指先ではじくこと。

ʔiibiganii① (名) 指輪。ʔiibinagii というのが普通。

ʔiibinagii① (名) 指輪。

ʔiibinu-ci① (名) ㊦指さすこと。指さして指摘すること。～ sjuN. 指さす。㊦(指さして) 非難面責すること。～ sarijuN. 非難のまとなる。後ろ指をさされる。

ʔiibinumata① (名) 指のまた。指と指との間。

ʔiibingwaa① (名) 小指。

ʔiibiui① (名) 指折り数えること。～ sjooti macun. 指折り数えて待つ。～ qsi kazuujun. 指折り数える。

ʔiibizaci① (名) 指先。

ʔiibun① (名) 言い分。'waaʔiibunoo. わたしの言い分は。ʔariga ~ni. 彼が言うには。

ʔiibusjahun-dee① (名) 言いたい放題。ʔiibusjakaqtii ともいう。

ʔiibusjakaqtii① (名) 言いたい放題。ʔan-si ~ siinee kutoo matumajuru munoo ʔaran. そう言いたい放題のことを言っては事はまとまるものではない。

ʔiibun① (名) 魚名。とびはぜ。～saani taman qijun. えびで鯛を釣る。

ʔiibuuzi'raa① (名) かまきり。

ʔiici① (名) 息。呼吸。～ sjuN. 息をする。呼吸する。～ keejuN. 息を吹き返す。気絶から蘇生する。～ tuqcijuN. 息をつまらせる。むせる。nuudii tuqcijuN ともいう。～ hucun. 激しく呼吸する。(走っ

たあとなどに)あえぐ。～ hweehwee. あえぎあえぎ。

ʔiiciʔaku'bi① (名) 息とあくび。次のような句で用いる。～N naran. 息もあくびもできない。少しの余裕もない。～N simiran. 息もあくびもさせない。息つく暇も与えない。

ʔiicigeei① (名) ㊦息をつぐこと。息がえの意。～ sjundi ʔucagatan. 息をつぐために(水中から)浮きあがった。㊦息ぬき。一息入れて休息すること。ʔicunasanu ~N naran. 忙しくて息ぬきもできない。

ʔiicigun① (名) (水にもぐる時などに)しばらく息を止めておくこと。

ʔiici=jun① (他 =ran, =qci) ののしる。きめつける。極言する。極端に悪く言う。

ʔiiciiki① (名) 言い付け。命令。

ʔiici-kigata① (名) 指揮。指図。

ʔiici-juN① (他 =ran, =ti) 命令する。言い付ける。

ʔiicikunaa=sjuN① (他 =san, =ci) 言いきくる。言い負かす。

ʔiicimadii① (名) 窒息。madii は失う意の接尾辞。

ʔiicimii① (名) 空気孔。息をするための穴。虫を入れた箱にあける穴など。

ʔiicu① (名) 絹。ʔitu ともいう。～ bita-bita kaiki horohoro. 絹は柔らかくびたびたと肌に気持ちよく触れ、甲斐絹はほろほろと衣ずれの音を立てて気持ちがいい。

ʔiicuʔi'icuu① (名) 絹糸。

ʔiicu① (名) 糸。普通には木綿糸をさす。

ʔiicuzi'N① (名) 絹の着物。

ʔiidataasjan① (形) 言い方が仰々しい。言い方が大げさである。

ʔiidati① (名) 大げさな言いかた。誇張した表現。ʔuree ~'jaa. それは大げさだよ。

ʔiigwaasa① (名) 言い過ぎ。ひどい言い方。

ʔiihai① (名) 言い張ること。言い張って口

論すること。

ʔiiha=jun① (他 =raN, =ti) 言い張る。あくまで主張する。

ʔiihii① (名) ⊖(鼻音化する。[ʔiĩçĩĩ]) 目下または、きわめて親しい同年の者に対することば使い。肯定の時には ʔii ([ʔiĩ]) と言い、呼ばれた時には hii ([çĩĩ]) と答える話し方。親しい同年の間柄どうしでは tageeniʔiihii となる。ʔjukaqcoo hjaku-sjooNkaee muru ~ sjutaN. 土族は平民に対してあらゆる場合にイーヒーしたものだ。⊖(鼻音化しない) 軽蔑した物言い。高慢な話し方。ʔikani nuu ʔjatin ~ qsi. いくらなんでもそんな軽蔑した話し方をして。

ʔiijaa① (感) ののしって返事する語。けんか口論の時などに使う。~ ʔasihjaa. そらだ、このやろう。ʔasihjaa もけんか口論の時の応対の語。~ ʔasihjaa sjun. (けんか口論で) ののしる。

ʔiihoo=ju`N① (他 =raN, =ti) (入っているもの全部を) 勢いよくあげる。ぱっとあげる。ʔiikeerasjun ともいう。

ʔiihu① (名) 大雨などで濁水が運んで来た土。多くは肥えている。流出土。

ʔiikumaki① (名) ʔiihu (大雨などで濁水が運んで来た土) に皮膚が触れてかぶれること。かゆくなり皮膚にぶつぶつができる。

ʔiihwee① (名) 位牌。普通は ʔuʔiihwee という。また、guriizIN ともいう。文語では ʔihwee という。

ʔiihweedacaa① (名) 喪主。あとを継ぐ者がこれに当たる。葬式の時、位牌のあとに従って行く。位牌を抱く者の意。

ʔiihweezii① (名) 戒名。法名。位牌に書いてある字の意。

ʔiihwiraci① (名) 言い開き。申し開き。弁明。~ sjun.

ʔiihwirugi=jun① (他 =raN, =ti) 言いふらす。吹聴する。

ʔiiziri=jun① (自 =raN, =ti) 説得する。言って聞かせ、納得させる。

ʔiijan=zuN① (他 =daN, =ti) ⊖言いそこなう。へたな言い方をする。⊖人を中傷して悪く言う。けなす。

ʔiijoo① (名) 言いよう。言い方。~nu ʔaree cicijoon ʔaN. 言いようがあれば聞きようもある。よく言えばよく聞かれ、言いようによって聞きようも違ってくる。

ʔiijunumii① (名) 幼児の遊戯の名。「むすんでひらいて」のたぐい。魚の目を指さすつむりの文句があるのでいう。文句と動作は次のとおり。~ ~ (左手のひらに右の人さし指を二度当てる), miiminmee miiminmee (左右の耳を引っぱる), hwiizintoo hwiizintoo (左右のひじを交互に左右の手のひらに乗せる), siijaabuu siijaabuu (体を左右に揺り動かす)。

ʔiikaa① (名) 衣桁。着物を掛けておくもの。

ʔiikaki① (名) 言いかけ。話のなかば。

ʔiikaki=jun① (他 =raN, =ti) 言いかける。言いはじめる。

ʔiikeera=sju`N① (他 =saN, =ci) (容器内のものを) あげる。(容器を傾けて中味を全部) こぼす。ʔiihoojun ともいう。

ʔiikeeri=ju`N① (自 =raN, =ti) (容器が傾いて中味が全部) こぼれる。

ʔiikesigeesi① (副) 何度もくりかえして言うさま。くどくど。ʔinukutoo ~ qsi. 同じことを何度もくどくと言って。

ʔiikee=sjun① (他 =saN, =ci) (前言・約束・商談などを) 取り消す。

ʔiiku① (名) 植物名。もっこく。良材となり、また、樹皮から茶褐色の染料をとる。

ʔiikuba`aja① (名) ʔiiku (もっこく) の柱。良材として尊重される。

ʔiikuzi=jun① (他 =raN, =ti) 中傷する。けなす。

ʔiikwaaee① (名) 言い合い。口げんか。論

ʔiikwii

争。

ʔiikwii①(名)縁談。ʔiiは承諾の意または話しかける意, kwiiは、くれる(与える)意で、申し込まれて、与えるという意か。

ʔiimaara=sjuN①(他 =saN, =ci)言いまぎらす。言いぬける。ことば巧みにごまかす。

ʔiimacige①(名)言い間違い。言いそこない。

ʔiimagi=juN①(他 =raN, =ti) ⊖歪曲して言う。⊖相手をことばで押えつけて、ものを言わせないようにする。

ʔiimakasee①(名)論争。言い負かし合い。

ʔiimaka=sjuN①(他 =saN, =ci)言い負かす。論破する。

ʔiimaki=juN①(自 =raN, =ti)言い負ける。論破される。

ʔiimaNgwa=sjuN①(他 =saN, =ci)言いまぎらす。

ʔiimudu=sjuN①(他 =saN, =ci)破談にする。(婚約などを)解消する。

ʔiina(副)はや。もう。そんなに早く。～ ʔNzi cii. もう行って来たか。

ʔiinagasinaga'si①(副)口でばかり言って実行にうつさないさま。～ Qsi maada see neeN. 口でばかり言っていて、まだしてはない。

ʔiinanuhwee①(副)はや。もう。そんなに早く。ʔiinaと同じ。～ ʔukitoosa. もう起きてるよ。

ʔiinaraasi①(名)しつけ。ふだんの教育。～nu 'waQsaN. しつけが悪い。

ʔiinaraa=sjuN①(他 =saN, =ci)しつける。礼儀・作法などを教える。

ʔiinoo=sjuN①(他 =saN, =ci) ⊖言い直す。前言を訂正する。⊖ひとりが縁起の悪いことを言った時、他のひとりがいい意味に言い直す。

ʔiinuku=sjuN①(他 =saN, =ci)言い残す。

ʔiiʔNza=sjuN①(他 =saN, =ci)言い出す。

ʔiiʔNzasigurisjan. 言い出しにくい。

ʔiiQkwa①(名)言い過ぎ。失言。～ sjuN.

ʔiiraa①(名)くらげの一種。かつおのえほし。泳いでいる人を刺す。ʔiraaともいう。刺された場合には siikwaasjaa(橋)の汁をつける。

ʔiisagi=juN①(他 =raN, =ti) こきおろす。

ʔiisiqtaraki=juN①(他 =raN, =ti) ʔiisi-tarasjuNと同じ。

ʔiisitara=sjuN①(他 =saN, =ci) けなす。悪く言う。ʔiisiqtarakijunともいう。

ʔiisizi①(名) [文] 言い過ぎ。

ʔiisizi=juN①(他 =raN, =ti) 言い過ぎる。

ʔiitati=juN①(他 =raN, =ti) 言い立てる。言って騒ぐ。また、大げさに言う。誇張する。nuun ʔaraN kutu ~. 何も無いこと(根も葉もないこと)を言い立てる。'wazikana kutoo ʔiitatiti. わずかな事を大げさに言って。

ʔiitu(名)労働の時のかけ声のこと。また、労働歌。～N sjansee boozinu niNguru. かけ声もかけないのは僧侶の情婦。

ʔiizuci①(名)言い置き。るすの時言い残しておくこと。

ʔiizuu=cuN①(他 =kaN, =ci) 言い置く。言い残しておく。

ʔiiwaki①(名)言いわけ。弁解。また、陳謝。あやまること。～ sjuN.

ʔiiwaki=juN①(他 =raN, =ti) 弁解する。言い分けを言う。あやまる。また、わかるように筋を立てて言う。ʔiiwaki sjuNともいう。

ʔiiwata①(名)腸。

ʔiawatagwaa①(名)直腸。

ʔiiwatasi①(名) [文] 言い渡し。命令。布告。

ʔiizee①(名) [飯匙] しゃもじ。-zee < kee (さじ)。首里の上品な語で、いなかでは misigee という。

YizimaⓄ (名) 伊江島。沖繩本島本部崎西方にある島。

YizuⓄ (名) 伊祖。《地》参照。

YijaⓄ (感) [文] いや。やあ。～ *šisaNna kuzuu*。[いや推参な小僧] やあ、生意気な小僧。

YijaⓄ (名) えな。胎盤。あとざん。

YijaⓄ (名) 矢。Yi- は射の意か。

YijabiimaⓄ (名) 矢がすり。矢羽根の模様を織り出したかすり。

YijadinⓄ (副) きっと。言わでもの意。*'jakusuku 'jakutu ~ cuusa*。約束だからきっと来るよ。

YijaiⓄ (名) 伝言。ことづて。言い遣りの意。

YijaimunⓄ (名) ことづかりもの。頼まれもの。

YijanuQkwaⓄ (名) 機織りの器具の名。織った布の部分巻くもの。いのあし。いのつめ。きぬまき。

YijasjaaⓄ (名) けちんぼ。いやしんぼり。

YijawareeⓄ (名) Yija (あとざん) を家の裏に埋めて、隣近所の子供を集めてそこで大いに笑わせた昔の習俗。あとざんは家の裏に埋めたが、その上を虫がはると、その赤んぼりが虫をこわがるようになることされたので、それを防ぐまじないである。

YijuⓄ (名) 魚。さかな。生きものおよび食品としての魚。*sakana* は酒席の料理。～ *tuiga YicuN*。魚をとりに行く。

YijumaciⓄ (名) 魚市。魚市場。首里では与那原あたりから来る魚が多いので、夕方に立つのが普通であった。

YijunumiiⓄ (名) 魚の目。手のひら、足の裏などにできる小さい丸い皮膚のかたまり。

Yi=juNⓄ (他 =raN, =qci) 射る。弓で射る。鉄砲でうつ。*tiqpuusaani tui ~*。鉄砲で鳥をうつ。*tiqpuu ~*。鉄砲をうつ。*'jumi ~*。弓を射る。

Yi=juNⓄ (自 =raN, =qci) 入る。はいる。

Yi=juNⓄ (自 =raN, =qci) 要る。必要である。入用である。*Yijuraa muqci Yikee, YiraNdaraa muqcee Yikunakee*。要るなら持って行けよ。要らないなら持っては行くなよ。*YiraN 'jušigutu*。無用な忠告。*zinoo Yirani*。金は要らないか。

YijutiNpuraⓄ (名) 魚のてんぷら。

YijutujaaⓄ (名) 漁夫。りょうし。*YumiNcuu* (海の人) ともいう。

YijuYujaaⓄ (名) 魚売り。魚を売り歩く人。

YijuziiⓄ (名) 釣り針。

YijusisiⓄ (名) (食物としての) 魚と肉。

YikaⓄ (名) いか(烏賊)。Yica ともいう。

YikaiⓄ (名) 錨。

YikanaⓄ (連体) [文] いかなる。どのよう。Yicaru ともいう。口語は *caaru*。～ *tinzikunu Yunitacinu YuzoN kinu micu 'jariba Yacidu sjujuru*。[いかな天竺の 鬼立の御門も 恋の道やれば あきどしゆゆる (手水之縁)] どんな天竺の 鬼の立っている門も、恋の道ならば開きもしよう。

YikanasiNⓄ (副) [文] いかにしても。どうしても。どんなことがあっても。口語は *caasin*。～ *Yikan*。どうしても行かない。

Yika=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) 生かす。*kunu hjaa Yikacee Yukaran*。この野郎生かしておけない。

YikataⓄ (名) ⊖(金属を鑄造する時の) 鋳型。⊖転じて、型にはめて造るものの型。帽子の型、菓子型の型など。

YikatareeⓄ (名) [文] 男女の契り。男女の語らい。Yi- は接頭辞。

YikiraⓄ (名) わずか。少し。少々。～ *nu cikuree YaraN*。少々の費用ではない。～ *du Yaru*。少しある。*kunGutu ~ Qsi nuu najuga*。これっばかりで何になるか。

YikiraⓄ (副) どんなに。いかばかり。うれ

Yikiragwaa

しい時にいう。canugutu ともいう。～
ʔuqsjaga ʔjaa. どんなにうれしいだろう
ね。

Yikiragwaa⑩* (名)ほんの少し。ちょっぴり。

Yikiramun⑩ (名)少しのもの。少ししかないもの。～du nukujuru. 皆が遠慮するので、少ししかない珍しい食べ物がかえって最後まで残る。

Yikiraniŋzu⑩ (名)小人数。少数の人。

Yikirasaʔuhuʔsa⑩ (名)多い少ない。量の多少。

Yikirasən⑩ (形)少ない。僅かである。kuQ-saʔee Yikirasami. これだけでは少ないか。

Yiku-(接頭)幾(いく)。個数を尋ねる接頭辞。YikukʔeN(幾回), Yikuʔi(いくつ), Yikutai(何人)など。

Yikuʔi⑩ (名)いくつ。何個。また、何歳。～N miʔiN. いくつも。たくさん。(いくつも三つもの意)

Yikuhwiru⑩ (名)幾尋。何尋。

Yikujuru⑩ (名)幾夜。幾晩。

YikukeeN⑩ (名)幾回。何度。

Yikumaai⑩ (名)幾回り。何回り。

Yikumigui⑩ (名)幾めぐり。Yikumaa
ともいう。

Yikusa⑩ (名)いくさ。戦争。ʔwinagoo ~
nu sacibai. 女はいくさのさきがけ。女
はいざという時には強くなるの意。

Yikusabuni⑩ (名)[新?]いくさ船。軍艦。

Yikusaci⑩ (名)行く先。行く手。haʔika-
junu kurasa ~N miraN. [廿日夜のく
らさ 行先も見らん(執心鐘入)] 旧暦二十
日の夜は暗くて、行く手も見えない。

Yikusagwaʔee⑩ (名)戦争ごっこ。

Yikusajuu⑩ (名)戦乱の世。戦国時代。沖
繩では特に三山(北山, 中山, 南山)時代。

Yikutai⑩ (名)いくたり。幾人。何人。

Yikutainiŋzu⑩ (名)何人と指折り数えら

れる、すぐれた少数の人。Yirabiniŋzu
ともいう。

Yikutuba⑩ (名)ことば。言い伝え。昔の
人の言い残したことばなどをいう。Yi- は
接頭辞。ʔNkasiNcunu ~. 昔の人のこと
ば。ことわざ。格言。

Yikutukuru⑩ (名)Yikutai(何人)の敬
語。何人様。

Yimahuu⑩ (名)nakahuu[仲風]と同じ。

Yimamee⑩ (名)新参。いままいり。Yu-
NZOO ~nu ʔucakudu ʔjaru. あなたは
近ごろの新しいお客だ。

Yimani⑩ (副)[文]どうもの意か。また、
いまだにの意か。～husiNna ʔanu ka-
ni. [今に不審なあ鐘(執心鐘入)]いか
にも不審なあ鐘。

Yimasimi⑩ (名)いましめ。懲戒。sikiNnu
～. 世間のいましめ。

Yimee⑩ (名)おいでになること。いらっ
しゃること。来ること・居ること・行くこ
との敬語。～nu najumi. いらっしゃること
ができますか。YmeNsjoorarijumi. と
いうのと同じ。

Yimeenukaʔazi⑩ (感)[文]船を漕ぐ時の
かけ声。芝居用語。

YimeeN⑩ (自・不規則)おいでになる。い
らっしゃる。いる・行く・来るの敬語。同
等や目上に使う。さらに上の敬語は Yme-
NseeN, YimeNseeN, 目下の年長への敬語
は meeN. Yimoori. おいでなさい。Yu-
cini ʔwakaazi kakurijai YimeN. [内に
若按司 隠れやりいまいん(忠臣身替)]
中に若按司が隠れておいでになる。

YimeNʔeeN⑩ (自・不規則)おいでになら
れる。いらっしゃられる。いる・行く・来
るの敬語。YmeNʔeeN よりさらに丁寧な
形。

Yimi⑩ (名)夢。YimeeCOON ʔNNDAN. 夢
にさえない。少しも思わない。Yimee
ʔaraŋga ʔjaa. 夢ではないか。～ʔNca-

- ru gutooN. (楽しくて) 夢のようだった。
 ~ miigamarasjan. 悪い夢ばかり見る。
 夢見が悪い (不幸の前兆とされる)。~N
 miikeesigeesi. 深く思って夢にまで何度
 も見て。~ miiçirugajun. 夢を見続け
 る。毎晩夢ばかり見る。
- Yimi① (名) 量・体積がふえること。外米の
 ように、煮るとふえて、徳用になるという
 場合に多く用いる。~ sjuN. ふえる。ふ
 えて得である。
- Yimi① (名) 喪に服すること。忌み。~ni
 kakajun. 喪に服するよな近い関係に
 ある。
- Yimi① (名) [新] 意味。普通には cimuee
 という。
- YimiYaki① (名) 忌み明け。喪の期間が終
 わること。
- Yimigakai① (名) 喪に服すべき続き柄。
- Yimi=juN① (他 =raN, =ti) 催促する。
- Yimizigo^ozi① (副) 矢の催促をするさま。
 ~ qsi. 盛んに催促して。
- YimuN① (名) 鋤物。
- YimuNçiburu① (名) はげ頭。
- YimuNjaqkwan① (名) 鉄びん。鋤物業鑑
 の意。
- YimuNnaabi① (名) 鉄なべ。
- Yinahuku① (名) 稲福。《地》参照。
- Yinaka① (名) いなか。多くは首里・那覇
 に対して島尻・中頭をさす。国頭はふつう
 'janbaru (山原) というが、国頭をいう
 こともある。
- Yinakaa① (名) いなか者。特に、島尻・中
 頭の者。YinakaNcu の卑称。村の人の意
 では simanu qeu という。
- Yinakahuuzi① (名) いなか風。いなかの
 習俗。
- Yinakakutuba① (名) ①いなかことば。
 方言。②島尻や中頭の方言。国頭方言は
 'janbarukutuba という。
- Yinakamaai① (名) いなか回り。
- YinakaNcu① (名) いなかの人。特に、島
 尻・中頭の人。
- Yinakasudaci① (名) いなか育ち。
- Yinamuduci① (名) 料理名。猪の肉の代わ
 りに豚肉を白みそで料理したもの。いのし
 しもどきの意。
- Yinin① (名) [遺念] ①死者の遺念。死者が
 残した念。また、遺念のこもった死者の靈
 魂。いろいろな形となって現われるが、多く
 は夜 Yininbii となって現われる。②あと
 へ残した気持ち。あとへ残した恨みの念。
- Yininbii① (名) [遺念火] ひとだま。死者
 の遺念が火となって現われるとされるも
 の。旧暦8月の 'jookabii にはことに多
 く現われる。
- Yinuci① (名) [文] 命。口語は nuci。
- Yinuhwi① (名) 柴野比。《地》参照。
- Yinu=juN① (他 =raN, =ti) [新] 祈る。元
 来は 'uganuN という。
- Yin① (名) ①犬。~nu haanin numi. 犬
 の歯にも蚤。まぐれ当たりの意。犬の歯は
 不揃いだが、それでも蚤をかみ当てること
 があるという意。~tu majaatu. 犬と猫
 と。仲の悪いたとえ。犬猿というのと同
 じ。~nu tacinaci. 犬が夜、怪しい声で
 長泣きすること。魔物を見て泣くとされ
 る。②十二支の戌 (いぬ)。時刻は午後8
 時、方向は北寄りの西。
- Yin① (名) 印。han ともいう。
- Yincaa① (名) 短いもの。YincamuN とも
 いう。背の低い者には Yinceo という。
- Yincaanagaa① (名) 短いのも長いのも。長
 短不揃い。
- Yincaboo① (名) 短い棒。次の句で用いる。
 ~ muqi naga?uui sjuN. 短い棒を持っ
 て長追いする。充分な根拠や力がないの
 に、しつこく追及するのを非難めいて言
 う時に使う。
- YincaamuN① (名) 短いもの。Yincaa とも
 いう。

Yincasan

Yincasan[Ⓝ] (形) 短い。

Yincirii[Ⓝ] (名) 英国。Yinzirii ともいう。

Yincoo[Ⓝ] (名) 背の低い者。ちび。Yincaa は短いもの。

Yincu[Ⓝ] (名) 隠居。年寄って公役を免ぜられること。また、罰せられて役職を免ぜられること。また、楽隠居。

Yindaagii[Ⓝ] (名) ぶらんこ。

Yindumijamadumi[Ⓝ]* (名) [海留め山留め] 農村で稲の花が咲くころのある期間、稲を驚かさないうために、鳴り物や大きな音をさけること。また、その期間。単に munuʔutu ともいう。

Yinduu[Ⓝ] (名) Yinduumaami と同じ。

Yinduumaami[Ⓝ] (名) えんどう豆。

Yingwa[Ⓝ] (名) [文] 因果。多く不幸をなげいていう。'wanguatoru siguku ~nu munuja 'uraN. [我如る至極因果の者や居らぬ(花売之縁)] わたしのようなひどく因果な者はいない。

Yingwaa[Ⓝ] (名) 小犬。犬ころ。

Yingwaabooi[Ⓝ] (名) 四つんばい。犬のよりに四つんばいになってはうこと。

Yinkunibu[Ⓝ] (名) 橙。deede ともいう。

Yinmajaa[Ⓝ] (名) 犬猫。畜生。

Yinmaju[Ⓝ] (名) [文] 犬猫。畜生。ʔasamasija hwicui ʔumuikugarituti, micibanu ʔijutu tumuni cihatiti, ~nu 'iziki najuratumba. [浅間しや一人思焦れとて 道柴の露と 共に消え果てて 犬猫のゑじき なゆらと思は(花売之縁)] あさましいことよ、一人で思い焦がれながら路傍の露と消え果てて、犬猫の餌食になるだろうと思うと。

Yinteen[Ⓝ] (名) 少し。わずか。kuuteen と同じ。Yinteenoo ʔasa. 少しはある。~du 'jaru. 少しだ。

Yinteengwaa[Ⓝ] (名) ほんの少し。

Yintuku[Ⓝ] (名) 陰徳。人に知られない善行。~ tujuN. 人に知られない善行を行な

う。気の毒な人を助けた場合などにいう。

YinziNmaami[Ⓝ] (名) いんげん豆。

Yinzirii[Ⓝ] (名) 英国。Yincirii ともいう。

Yiqcaa[Ⓝ] (感) あら。まあ。女が、不思議なもの、きれいなものなどを見た場合に使う。

Yiqcaakuʔ'caa[Ⓝ] (感) おやまあ。あれまあ。女が使う。あきれた時などに指を鳴らしながらいう。

Yiqʔigahuu[Ⓝ] (名) Yiqʔigahwii と同じ。

Yiqʔigahwii[Ⓝ] (名) いつ見ても変わらないこと。また、そのようなもの。悪意にいう。変わりばえがしないもの、バツしないもの、いつもなまけているものなど。Yiqʔigahuu, Yiqʔinhwii, Yiqʔinhuu ともいう。ʔariga cinbikeenun ʔaran, kanuru munun ~ 'jasa. 彼の着物ばかりではない、彼の食うものもいつも同じだよ。

Yiqʔii[Ⓝ] (名) 一対。二つ相対して一組となるもの。

Yiqʔiibin[Ⓝ] (名) ʔizibin と同じ。ʔizibin はいつも一対で使うのでいう。

Yiqʔikutaʔ'ciku[Ⓝ] (名) 遊戯の名。「ずいずいずっころばし」のたぐい。数人が輪になって両こぶしを握って、握りこぶしの輪をつくる。ひとりが輪になったこぶしに指で順順にさわりながら文句をとなえ、その最後の文句 'jai が当たった者が芸をするとか、順番に当たるなどする。文句は、~ zuuniga hwiigaa cikumuku cinbooraagaa ʔudunnu kusiNzi huuruga 'jai. または、~ zooniga ciigaa cikumuku cinburu ciicintaagaa huuruga 'jai. など。文句には一貫した意味はなく、南洋語のまねのつもりである。hweenusimaa (南の島人。踊りの名) の文句に由来する。

Yiqʔin[Ⓝ] (名) 事件。一件。

Yiqʔin[Ⓝ] (名) 一斤。160匁。

Yiqʔin[Ⓝ] (副) 最も。一番。~ mee. 一番

前。～'waqsan. 一番悪い。

ʔiqçinhuu① (名) ʔiqçigahwii と同じ。

ʔiqçinhwii① (名) ʔiqçigahwii と同じ。

ʔiqa① (名) 何日。月の第何日かを聞く時にいう。日数を聞くには nannici という。

ʔiqkwa`guhjaaku① (名) 銭1貫500文。3銭に相当する。zin (銭) の項参照。

ʔiqkwan① (名) 銭1貫。2銭に相当する。zin (銭) の項参照。

ʔiqkwan`darumii① (名) 小魚の名。

ʔiqkwan`magi① (名) [古] 髪結い料金の名。料金2銭(1貫)で、赤元結いを用いたもの。katakasirajuuja (髪結い床) の項参照。

ʔiqpaa① (名) 子供の遊戯の名。また、その道具の名。大小二本の短棒の、大きい方で小さい方を打ち上げて遠くへ飛ばし、その距離を争う遊戯。giqcoo ともいう。

ʔiqpee① (副) たいそう。非常に。たいへん。～curasan. たいそう美しい。

ʔiqpeeku`pee① (名) 方方。あっちでもこっちでも。

ʔiqpici① (名) 一匹。

ʔiqpjuu① (名) 一俵。

ʔiqpoomuei① (名) [一方持] 扶持米のみをもらい、知行のない者。すなわち、名目だけの実在しない領地をもつ者。nihoomuci [二方持] の対。

ʔiqpoonkee① (名) 一方に偏すること。かたよること。偏向。

ʔiqpukuʔiqsjoo① (名) 一腹一生。同じ両親から生まれた間柄。はらから。両親を同じくする兄弟姉妹の関係。ʔanu `jaatu kunu `jaatu `nkasee ~ `jatan. あの家とこの家は昔は同じ親から生まれた間柄であった。

ʔiqpuN① (名) 一本。

ʔiqpuNmaaci① (名) 一本松。

ʔiqpuuhuu① (名) 一刻者。一徹者。がん

こ者。

ʔiqsai① (名) [新] 一切(いっさい)。ふつうは muru, muqtu などという。

ʔiqsan① (名) 一散に走ること。一生懸命走ること。一目散。～nati ʔikee. 一散に走って行け。

ʔiqsanbaace① (名) 一散に走ること。一目散に走ること。toosin doo ʔii sjantee-man, ~ naranšija…(俗謡) 唐船だぞと言ったところで、一目散に走らない者は…。

ʔiqsii① (名) 志。～tatijun. 志を立てる。

ʔiqšin① (名) 一寸。中指を折り曲げた中程の長さを基準にした。五寸は指をひろげた時の親指の先と中指の先との長さを基準にした。

ʔiqsiNguu① (名) 子供をあやす遊戯の名。子供をひざの上に立たせ、両手をとって前後に揺り動かす。動かしながら、ʔiqsiNguu sikuteesiku (意味は船の進む時の形容か) というはやしの入った童謡 ʔakasins tamunun kensoorani (たい松やたきぎは買いませんか) を歌うので、この名がある。たい松やたきぎは山原から船で運ばれて売られた。

ʔiqsjaku① (名) 一尺。

ʔiqsjaku① (名) 一勺。

ʔiqsjuu① (名) 一升。

ʔiqsjudaci① (名) 一升だきの鍋。

ʔiqsoociiaa① (名) 不断着。ʔwaazi (晴れ着) の対。

ʔiqsoonaadii① (副) ʔiqsooziicii と同じ。

ʔiqsooziicii① (副) 片はしから。残らず。すっかり。ʔiqsoonaadii ともいう。caaru sjumuçi `jatin ~ `judi tuujun. どんな本でも片はしから説破する。

ʔiqsuikaQ`sui① (副) いそいそ。うれしいことなどあって、急ぐさま。ʔuqsjagutunu ʔakutu ~ sjoosa. うれしいことがあるので、いそいそと急いでいるよ。

ʔiqsuu① (名) 一艘。

ʔiqtaa

- ʔiqtaa**① (名) ㊦おまえたち。きみたち。
ʔjaa の複数。㊦おまえの家。～utee. お
まえの家では。㊦おまえさん。ʔjaa (お
まえ) よりもやや丁寧な感じをもつ。㊦
(接頭) おまえたちの。きみたちの。おま
えの。ʔiqtaajaa (おまえの家。ʔjaajaa
とはあまり言わない)、ʔiqtaahara (おま
えの側、きみの方) など。
- ʔiqtaaha`ra**① (名) おまえのがわ。おまえ
たちの方。
- ʔiqtamun**① (名) 必要な物。重宝な物。便
利な物。
- ʔiqtan**① (名) 反物の一反。
- ʔiqtin**① (名) 一緒。ひとまとめ。合併。
kunu sigutoo ʔjaatu `wantu ~ni sa-
na. この仕事はきみとほくと一緒にやろう
か。ʔjaatacaa `jašiga muutujaankai
~ni najun. 分家であるが本家と合併す
る。kutaçicinu muntu kuñicinu mu-
ntu ~ni sanmin see. 先月分と今月分
とひとまとめに勘定しなさい。
- ʔiqtu**① (名) 一斗。
- ʔiqtuci**① (名) しばらくの時間。暫時。～
matee. しばらく待て。～du `jasa. しば
らくの間だよ。
- ʔiqtugajoo**① (名) おはじき。女兒の遊戯
の名。
- ʔiraa**① (名) すけべえ。好色な者。
- ʔiraa=sjun**① (他 =san, =ci) 貸す。立て替
えて貸す。(小額の金、少量の米・味噌など、
消費するものを) 一時立て替えて貸す。大
金・家などを貸すには karasjun という。
- ʔirabiniŋzu**① (名) 選ばれた人々。少数の
すぐれた人々。選手。ʔikutainiŋzu と
もいう。
- ʔirabinukusi**① (名) えりのこし。選び残
したもの。
- ʔirabiʔnza=sju`n**① (他 =san, =ci) 選
び出す。
- ʔirabišizi=jun**① (他 =ran, =ti) 選びすぎ

る。えり好みしすぎる。

- ʔirabu**① (名) ㊦伊良部島。宮古群島の島
の名。㊦沖永良部島。奄美群島の島の名。
- ʔira=buN**① (他 =ban, =di) 選ぶ。
- ʔirabuu**① (名) えらぶうなぎ。海蛇の一
種。沖永良部島付近に産するのでいう。滋
養分に富み、薬用となる。
- ʔirabuusi`nzi**① (名) えらぶうなぎを煎じ
た汁。
- ʔirahwa**① (名) 伊良波。《地》参照。
- ʔira=jun**① (他 =an, =ti) 借りる。立て替
え借りする。(小額の金、少量の米・味噌
などを、その時使用するために) 一時借
りる。同量をあとで返す場合に使う語で、
同一物を借りて返す場合、たとえば家など
には kajun という。
- ʔirana**① (名) 鎌。kama ともいう。
- ʔiranazika**① (名) 鎌の柄。軽いものた
とえとなる。tabee ~N nii najun. (諺)
旅は鎌の柄も荷になる。
- ʔiranmja**① (名) 伊良皆。ʔiranna と
もいう。《地》参照。
- ʔiranna**① (名) 伊良皆。ʔiranmja と
もいう。《地》参照。
- ʔiree**① (名) 応答。返事。答え。
- ʔireehwi`zi**① (名) 応答。返答。返事。
- ʔiree=jun**① (自 =ran, =ti) 答える。返事す
る。
- ʔireekai**① (名) 借りてばかりいること。貧
しい暮らしのさまをいう。ʔiree<ʔira-
jun, -kai<kajun。
- ʔireekute`e**① (名) 応答。返答。～N neen.
うんともすんとも言わない。
- ʔiri**① (名) 錐(きり)。
- ʔiri**① (名) 西。ʔagari (東) の対。[入]
または「西」と書かれた。nisi は北。
- ʔirica**① (名) 屋根のむね。いらか。かやぶ
き屋根の頂上のかまぼこ型になっていると
ころをいう。～ hucun. 屋根を葺く。
- ʔirici**① (名) ㊦うろこ。㊦頭のふけ。

ʔiricigaa=jUN① (自 =raN, =ti) 入れ代わる。交替する。

ʔiricii① (名) 油いため。油でいためた料理。toohuʔirici (炒り豆腐), kuubuʔirici (昆布その他をいためたもの), その他いろいろのものがある。

ʔirici=jUN① (他 =raN, =Qci) 射て(撃つて)しとめる。

ʔiricirii① (名) 住み込み。雇用人が住み込んで働くこと。

ʔiri=cUN① (他 =kaN, =ci) 炒る。また、油でいためる。

ʔiridaka① (名) 収入額。入って来る金高。ʔnziridaka (支出高)の対。

ʔiriee① (名) 夕暮れ。日暮れ。入相。'juu-ʔiriee ともいう。

ʔirigan① (名) 入れ髪。かもじ。婦人の髪に加える髪。

ʔiriganbusi① (名) 彗星。ほうき星。形がʔirigan に似ているのでいう。hoocibusi ともいう。

ʔirigaNhaajuu① 男子の4~5歳ころの髪を結い方。入れ髪してその端を折り曲げて結ったもの。

ʔirigasa① (名) はしか。麻疹。

ʔirigu① (名) 材料。

ʔirihana① (名) ①茶の出花。茶の入れてすぐのもの。②人が家などに入ってすぐ。入りはな。

ʔirihuda① (名) 入札(にゆうさつ)。huda-ʔiri は選挙の投票。

ʔirihuga=sju'N① (他 =saN, =ci) (錐などで穴を)あける。

ʔirihuga=sjuN① (他 =saN, =ci) (鉄砲で)撃ち抜く。

ʔirihui① (名) 不平。不満。着物・食物など物質上の不平不満にいう。他の場合には cimoo hugan (意に満たない)などという。cinnu ~ sjuN. 着物の不平を言う。munnu ~ sjuN. 食物の不平を言う。

ʔirihuni① (名) 入船。港に入る船。また、入港。

ʔirihuniʔuiwee① (名) 旅に出た人の船が港(那覇)に入った時の、出迎えの祝。入船ほっけ。

ʔirihwi① (名) (彼岸の)入りの日。王家・大名家などが彼岸祭り('Ncabi)を行なり日。

ʔirihwi① (名) 入り日。夕日。

ʔirii① (名) 伊礼。《地》参照。

ʔiri=jUN① (他 =raN, =ti) ①入れる。②食べ物を)つぐ。よそろ。munu ~. 飯をつぐ。ʔeesin ~. お代わりをつぐ。

ʔirijuu① (名) 入用。必要。

ʔirikee=jUN① (他 =raN, =ti) ①入れ替える。②お代わりをする。

ʔirikeesii① (名) 品物を掛け買いし、次の品物を買う時などに、先の勘定をする買い方。商取引の一種の慣習で、hwicigee (代金ひきかえの買い方)に対する。~ sjuN.、

ʔiriku① (名) 入れ子。大小の箱または道具が、大きな物の中に次々と納まるようにできたもの。

ʔirikumaqkwa① (名) 入れ子式の枕。ひのき板で箱のように作った、夫婦用の枕で、入れ子式に、一方の枕が他方に納まる。

ʔirimee① (名) 収入。

ʔirime'e① (名) 西江前。《地》参照。

ʔirimi① (名) 入り目。ものいり。出費。金がかかったり、物がいったりすること。

ʔirimii① (名) [新] 入り目。義眼。

ʔirimun① (名) 入れ物。容器。

ʔirimusi① (名) 甘藷が虫に食われること。虫食い。

ʔirimusjaa① (名) 虫食いいも。hwiimusjaa ともいう。

ʔirimuuku① (名) 入り婿。婿養子。~ tu-jun. 入り婿をとる。~ najun. 入り婿となる。

ʔirimuukuu① (名) ʔirimuuku (婿養子)の卑称。

ʔiriNkee

- ʔir.Nkee①(名) 西向き。
ʔiriʃii=jun①(他 =raN, =ti) 追加する。入
れて添える。
ʔiritakii①(名)(容器に物を)入れたまま。
～ muQci kuuwa. 入れたまま、持って
来い。
ʔirituba=sju`N①(他 =saN, =ci) すっかり
射る。撃ちまくる。
ʔiriʔumuti①(名) 西表島。八重山群島の
島の名。
ʔiriʔwi`i①(名) 西江上。《地》参照。
ʔiriwai①(名) 言い合い。口論。～ sjuN.
ʔiriwaikaawai①(副) 言い争うさま。～
sjun.
ʔiru①(名) 色。また、顔色。～ ʔNZijun.
色が出る。また、顔色がよくなる。血色が
よくなる。～ tubun. 色が飛ぶ。また、
色を失う。驚いて真青になる。～ nugi-
jun. 色が抜ける。色がなくなる。また、
血色がなくなり顔色が悪くなる。～ mii-
wakasjun. 差別する。人によって分けへ
だてする。～ 'wakasjun ともいう。ʔi-
roo hujuunu ～, hadaa 'ncitamagunu
～. 顔の色は芙蓉の色、肌はうで卵をむい
たような色。美人を形容していう。
ʔiruʃikimucigoo①(名) kusiciʔukwaa-
si(祭祀用の蒸し菓子)の一種。赤青黄の
三色で、波形模様がある。
ʔirudui①(名) 色どり。彩色。
ʔirudujaasi①(名) 色のとりあわせ。配色。
ʔiruʔiru①(名) いろいろ。さまざま。～
'jaQsaa. いろいろだよ。～nu. いろい
ろの。
ʔirujuku①(名) 色欲。
ʔiruka①(名) 色香。色と香り。
ʔirukazi①(副) 種種。種種雑多。いろい
ろ。hananu ～ saccojabiiN. 花がいろ
いろ咲いています。
ʔirukisa①(名) 顔色。血色。
ʔirumigaai①(名) ①(驚いて) 顔色が急変

すること。②変節。

- ʔirumiijaqsan①(形)(喜怒哀楽の情が)
顔色に現われやすい。現金である。
ʔirumiijasii①(名) 現金な人。
ʔirunoosi①(名) 染め直し。・色あげ。
ʔirunucin①(名) 芭蕉布に着色した士族男
子用の礼服。色の衣の意。夏用は水色無
地、冬用は茶色無地。
ʔirunugaa①(名) 血色の悪い者。また、
(驚いて) 青くなった者。-nugaa <nugi-
jun. ～ natoon. 顔色が悪い。
ʔiruNna①(連体) ①いろいろな。いろん
な。ʔaree ～ sjumuʃi ʔuhooku mu-
qcooN. 彼はいろいろな本をたくさん持っ
ている。②変な。妙な。異様な。kunugu-
runu sikinoo ～ kutunu ʔaQsaa. この
ごろの世の中は普通でないことがあるね
え。
ʔirusigamaasi①(名) あいにく。折あしく。
～ 'jaQsaa ʔjaa. あいにくでしたねえ。
ʔirusjumo`osju①(名) 次の句で用いる。
～ nugijun. 驚いて青くなる。色を失
う。
ʔirusoomo`osoo①(副) 驚いて顔色が青く
なるさま。
ʔiruwaki①(名) 色分け。色別。物事の区
別。
ʔiruwakiti①(副) 特に。とりわけ。特に
区別して。
ʔiruzici①(名) 色好み。好色。
ʔiruzurasan①(形)(人・花・器物などの)
色が美しい。
ʔisa①(名) 伊佐。《地》参照。
ʔisami=jun①(他 =raN, =ti) 励ます。慰
めて励ます。激励する。
ʔisamita=cun①(自 =taN, =Qci) 勇み立
つ。
ʔiʃee①(名) ①委細。くわしいこと。～ni
hanasawa cicimisjoori. くわしく話すか
ら、聞いて下さい。～na kutoo mata.

くわしいことはまたあとで。⊖たしかに。
はつきり。～ni 'Nncan. たしかに見た。
～ja natikara 'wakaisa. たしかなこと
(くわしいこと)はその場でわかるよ。

Yisi①(名)石。

Yisi'zana①(名)石切り場の石を切りとった
穴。

Yisibasi①(名)石橋。

Yisibee①(名)いしばい。石灰。貝がらな
などを焼いて粉末にしたもの。しっくい・肥
料などにする。

Yisibjaa①(名)昔の大砲。-bjaa<hjaa.

Yisibuku①(名)つぶて。投げるための小
石。

Yisibutuki①(名)石仏。

Yisicaa①(名)石川。《地》参照。

Yisici①(名)伊敷。《地》参照。

Yisiduuruu①(名)石燈籠。

Yisigaci①(名)石垣。台風の被害を防ぐた
めに、ほとんどの家は石垣に囲まれてい
る。

Yisigaci①(名)石垣島。八重山群島の島の
名。また、石垣。《地》参照。

Yisigaciguu①(名)ざる碁。へたな碁。石
垣を積むように、やたらに石を並べるので
いう。

Yisigakui①(名)石囲い。屋敷などを囲っ
た石の垣。

Yisigantoo①(名)[石敢当] T字形の道の
突き当たりの家にかかげる魔除け。家がT
字形の道の突き当たりには、石敢
当の三字を石垣や塀に彫るか、板に書く
かしておく。中国に石敢当という豪傑がお
り、向かう所敵なきありさまだったという
ので、この家には石敢当がいるぞと魔物
をおどかすためのものと伝えている。

Yisigee①(名)nisigeeと同じ。

Yisiguu①(名)さんご礁などを砕いた細か
い砂利。道路などに敷く。石粉の意。

Yisiguumici①(名)Yisiguuを敷きつめた

道。石灰岩の砂利道。

Yisiguu'Nmu①(名)甘藷の一種。堅くて
石のようで、蒸すと粉をふく。

Yisii①(名)⊖権勢。威勢。⊖意気盛んなこ
と。威勢がよいこと。

Yisikabuizoo①(名)左右に大きな石を積
み上げた門。

Yisikahwa①(名)石嘉波。《地》参照。

Yisikakaraamici①(名)石ころ道。

Yisikizai①(名)石段。石の階段。

Yisikubiri①(名)[文]石のある小坂。nu-
hwanu ~ 'Nzo qiriti nuburu, njahwi-
N ~ tusawa 'arana. [伊野波の石小坂
無葎つれてのぼる にやへも石こびり 遠
さはあらな]伊野波の石ころの坂道を恋す
る女をつれて登る。もっと石ころの坂道が
遠くまでであるといひ。

Yisimakuratoo①(名)[新]石枕党。日清
戦争時代の、首里の頑固な一派。清のひい
きをしたが、清が敗北したので、壊滅した。

Yisimici①(名)石を敷き並べた道。石の舗
道。首里の道路はほとんどが石を敷き並べ
た道であった。

Yisinaguu①(名)女の子の遊戯の名。いし
なご。小石を投げ上げ、手の表裏で受け
止めたりするもの。Yisinagunu Yisinu
Yuhusi narumadin Yukakibusemisjori
'waYusjuganasi. [いしなごの石の 大瀬
なるまでも おかけばさえ召しよれ 我御
主がなし]いしなごの石が大岩になるまで
も、お治め下さい国王様。沖縄の君が代
のような歌で、明治以後も保守派(kuruu)
は宴会の初めに歌った。

Yisimici①(名)石嶺。《地》参照。

Yisi'zuusi①(名)石臼。

Yisizeeku①(名)石工。石屋。Yisizeeku
ともいう。

Yisizeeku①(名)石工。石屋。

Yisizi①(名)⊖礎石。いしずえ。⊖くつぬ
ぎの石。

ʔisizoo

- ʔisizoo**① (名) 石造りの門。石垣の門。
ʔisja① (名) 医者。'jamatuʔisja (蘭方医) と ʔucinaaʔisja (漢方医) とがある。
ʔisjaakaa=jun①* (自 =raN, =ti) 喜びはしゃぐ。手足を振り動かして喜び騒ぐ。ʔisjakajun ともいう。
ʔisjaara① (名) 石原。《地》参照。
ʔisjadoo① (名) 伊舎堂。《地》参照。
ʔisjaka=jun① (自 =raN, =ti) ʔisjaakaa-jun と同じ。
ʔisjatuu① (名) かまきり。
ʔisjoo① (名) 衣裳。衣服。着物。
ʔisjoocihwada① (名) 衣類。衣裳着肌の意。cincihwada ともいう。
ʔisjoosja① (名) [文・古] うれしさ。楽しさ。うきうきすること。nagunu ʔuhuganiku ʔNma haraci ʔisjosja, huni haraci ʔisjosja 'waʔuraɔumai. [名護の大兼久 馬はらちいしやうしや 舟はらちいしやうしや 我浦泊] 名護の大兼久馬場は馬を走らせて楽しいが、舟を走らせて楽しいのはわが村の港。~ sjuN. 楽しむ。老女などが ʔwiirikisa sjuN の意で用いる。
ʔisju①* (名) 主旨。意趣。
ʔisuzi① (名) 急ぎ。至急。~nu ɕikee. 急ぎの使い。
ʔisu=zun① (自 =gaN, =zi) 急ぐ。ʔisugaa maari. 急がば回れ。
ʔita① (名) 板。多くは ʔica という。
ʔitabuɕkwi① (名) 不機嫌で顔がふくれること。~ sjuN.
ʔitabuɕkwi=jun① (自 =raN, =ti) (不機嫌で顔が) ふくれる。
ʔita=nuN① (自 =maN, =ii) (家・器具・食物などが) 痛む。破損したり、腐ったりして悪くなる。
ʔitari=jun① (自 =raN, =ti) 奥義をきわめる。奥義に達する。ʔitaritooN の形で多く用いる。buziini ʔitaritooN. 武芸をきわめている。

- ʔitazira**① (名) むだ。いたずら。~ni ʔu-Nna kutu qsi nuu najuga. むだにそんな事をして何になるか。'waaga kaN sju-see ʔitaziraa ʔaraN. わたしがこうするのはむだにしているのではない。
ʔitaziragutu① (名) むだな事。
ʔitu① (名) 絹。ʔiicu と同じ。ʔiicu を多く用いる。
ʔitujanazi① (名) [文] 糸柳。しだれ柳。zurigwamija ʔawari ʔitujanazigukuru, kazinu ʔusumamani nariti ʔiicusa. [尾類小身やあはれ 糸柳心 風の押すままに なれていきゆさ] 女郎の身はあわれ、糸柳のように、風の押すままに馴らされて行く。
ʔitu=jun① (他 =raN, =ti) いと。きらう。
ʔitumagwii① (名) いとまごい。ʔitumagwiijutumuti muɕcaru sakazicija namida ʔawamuraci numin naraN. [暇乞よともて 持つちやるさかづきや 涙あはもち 飲みもならぬ] いとまごいだと思って持ったさかづきは、涙がいっぱいたまって飲むこともできない。
ʔitumuN① (名) 絹物。
ʔitumusi① (名) 蚕。
ʔitunami① (名) [文] いとなみ。生業。hwibinu ~ni hwikasariti 'waminu 'ugamibusja ʔatin zijuja naraN. [日目のいとなみに 引かされて我身の 拜みほしやあても 自由やならぬ] 日目の生活にひかされて、わたしはお会いしたくても自由になりません。
ʔiwa① (名) [文] 岩。口語は sii, または ʔuhusi という。
ʔiwari① (名) いわれ。由来。
ʔiwee① (名) 祝い。'juuwee ともいう。
ʔizaa① (名) 大胆な者。勇者。意地のある者。
ʔizai① (名) いさり。火を使う、夜の漁。
ʔizaiiii① (名) いさり火。漁火。

YizaihooⓄ (名) [古] 貞操試験。久高島の習俗。若い女にいかかわしい風評が立った時、森の神前で眼かくしをして小橋の上を渡らせる。無事に渡れば貞節の証明となる。不品行を確実に知っている者が見物人の中から石を投げて、その非をあらわす。

YizasicaⓄ (名) 伊差川。《地》参照。

YiziⓄ (名) ⊖勇氣。意地。意気地。元気。～nu ʔan. 勇氣がある。～ʔNziree. 元気を出せ。～cijun. (子供が) しっかりしている。母親にすがったりなどしない。～N ciran mun. 意気地なしの子供。⊕怒り。怒気。ʔaree ～ʔNzitoon. 彼は怒っている。～nu šiiraran. 怒りを制しきれない。腹にすえかねる。～nu ʔNziraa tii hwiki, tiinu ʔNziraa～hwiki. 腹が立っても手(暴力)を出さぬ。手が出そうになったら自分の怒りを静めよ。

YizicirimuʼNⓄ (名) しっかり者。年少者についている。母親にすがったりしない子供など。ʔizin ciran mun. (いくじなし) はその反対。

YizinaⓄ (名) 伊是名島。沖縄本島北方、伊平屋島(ʔihja)の南にある島。伊平屋島(kusizii ともいう)に対して meezii [前地] ともいう。また、伊是名。《地》参照。

YiziNⓄ (名) しあわせ。気楽。親が子に、

しゅうとめが嫁に責任を譲って安楽になる場合などにいう。Qkwanu cuuree ʔujaa ～. 子供が大きくなれば親は楽だしあわせ。ʔjuminu cakutu sjutoo ～ sjoosa. よめが来たので、しゅうとめは気楽にしている。

YiziriⓄ (名) 意気。意気地。気力。～nu neen. 意気地がない。

YizirimuʼNⓄ (名) しっかり者。

YizizuuⓄ (名) 気丈者。意地のある者。Yizizuumun ともいう。

YizizuumunⓄ (名) ʔizizuu と同じ。

YizuⓄ (名) [文] [伊集] 植物名。口語は ʔNzu. さざんかの一種。椿に似た厚い葉で、白く美しい花が咲く。良材となる。～nu kija ʔjukati ʔan curasa sacui, ʼwamin～ʼjatuti masira sakana. [伊集の木やよかて あんきよらさ咲ちゆい 我身も伊集やとて 真白咲かな] 伊集の木はさかえて、あのように美しく咲いている。わたしも伊集の木のようになって真白に咲きたいものだ。

YizuⓄ (名) 伊集。ʔNzu ともいう。《地》参照。

YizumiⓄ (名) 伊豆味。《地》参照。

YizunⓄ (名) 泉。

YizunzaciⓄ (名) 泉崎。《地》参照。

- i (助) か。疑問の助詞。文の末尾に付けて質問文を作る。Qcui. 人か。taruui. 太郎か。Nに終わる語に付く時はそのNをnuに変える。ʔiN.(犬)→ʔinui.(犬か)ただし、活用する語の「終止形(現在肯定)」に付く場合にはNをmに変える。kacun.(書く)→kacumi.(書くか), 'wakasan.(若い)→'wakasami.(若いか)など。また否定の形に付く時にはNをnに変える。kakan.(書かない)→kakani.(書かないか), neen.(ない)→neeni.(ないか)など。また活用する語の過去の形に付く時には、過去の「終止形」には付かず、「音便形+て」の形に付く。ʔan 'jatan.(そうだった)→ʔan 'jatii.(そうだったか), kacan.(書いた)→kacii.(書いたか)など。また、ʔan(そう), kan(こう)などはʔanii.(そうか), kanii.(こうか)となる。なお -du を用いる係り結びの文にも用いる。'wandu 'jarui. わたしなのか。なお、疑問詞を用いた質問文は -i で結ばず、-ga で結ぶ。
- 'ici① (名) 益。利益。~nu neen kutu qsi. 無益なことをして。
- 'ici① (名) 易。易経を応用した占いの法。
- 'ida① (名) 枝。'juda ともいう。kiinu ~. 木の枝。
- 'idahwaa① (名) 枝葉。'judahwaa ともいう。
- 'idamuci① (名) 枝ぶり。'judamuci ともいう。
- 'idu① (名) 江戸。
- 'ii① (名) 藪(い)。燈心草。hiiguii, sacii の二種がある。
- 'ii① (名) 絵。kata ともいう。
- 'ii① (名) ゆい。労力交換による協同労働。

- 田植え・砂糖製造など一時に多数の労力が必要な時、順番に加勢し合って労働力の交換をすること。~kansijun. ひとの仕事をしてやって、他日自分の仕事をさせる権利をもつ。ゆいをかぶせる意。~kanzun. 自分の仕事をひとにしてもらい、労働の負債をもつ。ゆいをかぶる意。
- 'ii① (名) 支(い)。十二支の一つ。時間は午後10時、方向は西寄りの北。
- 'ii① (名) 椅子。腰掛けるもの。
- 'ii- (接頭) よい。いい。非常に多くの名詞に付く。'iiʔacinee (いい商売), 'iiʔimi (よい夢), 'iiqcu (よい人) など。'jana- (悪い) の対。
- ii (助) よ。ねえ。意志を表わす形(すなわち「未然形」の単独の形)に付く。対等・目下に対する親しみの気持ちを表わす。'juma~. 読もうねえ。ʔansa~. そうしようねえ。ʔikan ʔuka~. 行かないでおこうねえ。
- 'iiʔacinee① (名) いい商売。もうけの多い商売。大もうけ。cuuja hurimuN ʔi-cati ~ sicasa. hweku 'jaakai ʔiki-wadu 'jaru. [今日やふれ者行逢て 良い商ひしちやさ 早く家かい行きはどやる(茶売節)] きょうは馬鹿者に会っていい商売をした。早く家に帰らなくては。
- 'iiʔanbee① (名) いい按配。物事が順調に進んでいること。また、病人の状態がよいこと。
- 'iiʔbaa① (名) よい折。いい機会。'iibasju, 'iihjoosi と同じ。~'jaqsa. ちょうどよかった。
- 'iiʔbasju① (名) よい折。いい機会。'iibaa, 'iihjoosi と同じ。
- 'iiqibin① qikan① (句) 尻が落ち着かな

い。席の暖まる暇もない。すわった尻が付かない意。

'iici=cuN① (自 =kaN, =ci) ⊖居付く。住み付く。ひとところに落ち着いて暮らす。⊖(回っているこま, 上がっているたこなどが) 動揺せずに安定する。

'iicii① (名) 懐胎。妊娠。月経が止まって妊娠が確定すること。

'ii'cii① (名) ⊖いい気。思い上がった気持ち。～ nati. いい気になって。⊖いい気持ち。saki nudakutu ～ nataN. 酒を飲んだのでいい気持ちになった。

'ii'ciici① (名) いい景色。よい眺め。

'iiciri① (名) かすり(緋)。tuqiri ともいう。

'iidaki① (名) すわった高さ。座高。

'iidatan① (名) 琉球表の畳。備後表の畳は biigudatan という。

'ii'dusi① (名) いい友達。親友。

'iiee① (名) その場に居合わせること。ʔu-jacodee ～ nu ʔwii hanasjuN. 親兄弟が居合わせた上で話す。

'iigukuci① (名) 居ごち。すわりごち。住みごち。

'iihii① (感) ([ʔiʔiʔi]) のように鼻音化して発音される。鼻音化しないとぞんざいに聞こえる。) さあ。じゃあ。目下に対して誘いかける時発する語。diqkaa ともいう。目上に対しては 'uuhuu, 目下でも年長者に対しては 'oohoo という。～ ʔika. さあ行こう。

'ii'hjoosi① (名) よい折。よい機会。'iibaa, 'iibasju と同じ。

'iihudi① (名) 絵筆。

'ii'huuzi① (名) ⊖いい身なり。いい風采。また、よい習わし。よい流儀。

'ii'hwii① (名) いい日。吉日。

'ii'ʔimi① (名) いい夢。吉夢。

'iii'i① (感) ([ʔiʔiʔi]) 鼻音化して発音されるのが普通。鼻音化しないとぞんざいに聞こ

える。) いいえ。いや。目下に対して、否定または拒絶の意を表わす語。目上に対しては 'uuuu, 目下の年長者に対しては 'oouo という。

'iiimuN① (名) もらい物。もらった物。

'iiingwa① (名) もらい子。'iiringwa ともいう。

'iiizIN① (名) 'iirizIN と同じ。

'iijaa① (名) 婿の家を代表して、縁談の申し込みをする者。<'iijun. kuujaa ともいう。

'ii=juN① (他 =raN, =si) ⊖もてあそぶ。hutukii ～. 人形をもてあそぶ。⊖得意とする。(ʔiitooN の形で用いる) ʔarce zii 'iitooN. 彼は書が得意だ。

'ii=juN① (他 =raN =ti) もらう。zin ～. 金をもらう。'iiteeru zin. もらった金。

'iikaci① (名) 絵かき。画家。沖縄の画家としては、殷元良, 自了の二人がもっとも有名。

'ii'kaNgec① (名) いい考え。名案。妙案。

'ii'kukuci① (名) いい気持ち。よい気分。kusi tataci kwiree ʔiqpee ～ ʔjasa. あんまをしてくれたらとてもいい気持ちだ。

'iikuru① (名) ⊖大よそ。大かた。大体。たいてい。～ natoon. 大よそできている。～ nu qcu. たいていの人。naa ～ ʔjan. もら大体できている。⊖どこでも。たいていのところ。～ ʔasa. たいていのところにある。

'iikutu① (名) いい事。めでたい事。縁起のよいこと。吉事。～ katari. よい事を語れ。からすなど不吉な鳥が屋内や屋根の上で鳴いた時, biicaa (ねずみ的一种) が鳴いた時に言まじない。

'ii'kutu① (名) いいこと。よい事柄。よい事件。

'iimaaru① (名) 順番に労力交換 ('ii) を行なうこと。主として農家の畑仕事についていうが、転じて他の仕事についてもいう。

'iimUN

- 'ii'mUN① (名) いい物。
'iimusiru① (名) 琉球表。saciii でつくれたむしろ。
'ii'naaka① (名) いい仲。親しい仲。仲よし。
'ii'nee① (名) よく似合うこと。また、似合いの男女。
'iiniibui① (名) 居眠り。～kuuzUN。こっくりこっくりをする。
'iinoo=juN① (自 =raN, =ti) 「居直る」に対応する。辞去しようとして、また、しばらくとどまる。
'iinuu① (名) あいこ。引き分け。勝負なし。
'ii'ʔnmanukura① (名) いい馬の鞍の意。罪・責任を転嫁させるかっこうな相手。ʔariga 'waNnee ~Ndi ʔumutooru gu-toon. 彼がわたしをいい馬の鞍だと思っているらしい。
'iin① (名) 縁。縁側。廊下。
'iin① (名) 織機の箆(おさ)の種類の名。十四よみ。経糸1120本を通す。また、それで織った布。huduci の項参照。
'ii'qeu① (名) いい人。善人。
'ii'qkwa① (名) いい子。善良な子。'iqkwa とは異なり、子供についてのみいう。
'iira=rijuN① (自 =riraN, =qti) ①もらわれる。'iijuN (もらう) の受身。②信頼される。重宝がられる。気に入られる。ʔaree sikinkara 'iiraqtoon. 彼は世間から信頼されている。
'iirimUN① (名) ①おもちゃ。玩具。②趣味としているもの。得意とするもの。
'iiriNgwa① (名) 'iiriNgwa と同じ。
'iiriziN① (名) お年玉。新年に親類・近所などからもらう金。'iiriziN ともいう。
'iisaba① (名) 藪で作った草履。
'iisi① (名) 江洲《地》参照。
'iisikuci① (名) 座業。すわり仕事。'iizawa ともいう。
'ii'sirasi① (名) いい知らせ。吉報。

- 'ii'sjoogwaci① (名) ①いい正月。②新年おめでと。新年のあいさつ。目上には～deebiru という。
'ii'sjuubu① (名) いい勝負。接戦して勝ち負けのつきにくい勝負。
'ii'tacinaaka① (名) いい縁組。嫁いで行くのにちょうど似合いの相手。女の方からいう語。
'iiti① (名) 得手。得意とするもの。～sjun. 得意とする。
'ii'ʔwaaçici① (名) いい天気。晴天。
'ii'waza① (名) いい職業。いい仕事。
'iizawa① (名) 座業。すわり仕事。'iisikuci ともいう。
'i=juN① (自 =raN, =ci) ①すわる。'imi-seeN. おすわりになる。'imişeebiree. おすわり下さいませ。'iree. すわれ。'icoomi. すわっているか。すわっている目下へのあいさつ。②落ち着く。同じところにいる。kuma ～. ここに居るの意。(放蕩していた者などが) 家に落ち着いて、遊びに出歩かない。③沈没する。底に沈む。
'inu- (接頭) 同じ。同等・同量・同様の意にも、同一の意にも用いる。非常に多くの名詞に付く。'inutusi (同年), 'inunaa (同名), 'inuqeu (同一人) など。kuree kiqsa cootaşitu 'inumajaa. これはさっき来ていたのと同じ猫か。
'inuca① (名) 同年配。同じ年かっこう。'inujuca ともいう。ʔujan qkwan ~natoon. 親も子も同年配になっている。子が大きくなって親同様になった意。
'inuci① (名) 健康時のような元気。平常と同じ元気。'inucee neeN. 元気がない。まだ元気が回復しない。
'inucimu① (名) 同じ心。年長らしくない心。年長の者が幼い者と同じ気持ちになって争う場合にいう。
'inuçira① (名) ①同じ顔。似た顔。②同類。一味。仲間のひとりの行為が全体のつ

らよごしになる場合にいう。～ najun.
 同類のように見られる。
 'inuguⓄ (名) 絵の具。
 'inugutoonⓄ (<'inu+gutoon) 同様である。同じようである。
 'inugutooruuⓄ (名) 同様なもの。同じようなもの。
 'inugutuⓄ (副) 同じように。同様に。同じく。～ 'jan. 同じようにだ。
 'inuhwiiⓄ (名) 同日。同じ日。
 'inuhwisjaⓄ (副) その足で。同じ足で。休んだり泊ったり、いったん帰ったりせずに、そのまま行く場合にいう。～ keejuN. その足で帰る。
 'inuʔiihiiⓄ (名) 親しい同等・同年輩間の話し方。たがいに, ʔii [ʔiʔi] と答え, hii [çiʔi] と応ずる話し方。きみほくの会話。tageeniʔiihii ともいう。
 'inuiⓄ (名) ㊦同じ時節。一年の同じ季節。'inu + 'uui. ～gutuni ʔNbiʔNzasjuN. (一年の) 同じところに思い出す。㊦一周忌。
 'inujucaⓄ (名) 'inuca と同じ。
 'inukanⓄ (名) 同感。同じように考え思うこと。また、同じ考え。
 'inumiciⓄ (名) 同じ道。前に来たのと同じ道・別の人と同じ方針などの意で用いる。cumici の項参照。～ kunun. (前に来たのと) 同じ道に行く。(前人と) 同じ方針で行く。
 'inumunⓄ (名) 同じもの。同じこと。また、同一物。ʔansin kansin ～du 'jaru. ああしてもこうしても同じことだ。
 'inunaaⓄ (名) 同名。
 'inunagiⓄ (名) 同じ長さ。'innagi ともいう。
 'inuʔeuⓄ (名) 同じ人。同一人。また、同じ人間。ʔarin 'wannin ～du 'jaru. 彼もわたしも同じく人間だ。
 'inusaaⓄ (名) 同じ姓(さが)の意。十二支の年が同じであること。同年、1歳と13歳

と25歳など。

'inutakiⓄ (名) 同じたけ。同じ高さ。'in-taki ともいう。
 'inutiiçiⓄ (名) 同一。'inutiiçi. 同一か。
 'inutuciⓄ (名) 同じ時。同時。
 'inutusiⓄ (名) 同年。同じ歳。cutusi ともいう。
 'inuʔuqsaⓄ (名) 同量。同額。'insa ともいう。
 'inuʔuuuuⓄ (名) 互いに敬語を使って話す話し方。tageeniʔuuuuu ともいう。ʔuuuu の項参照。
 'inuuⓄ (名) 同じもの。同様なもの。
 'inⓄ (名) 縁。ゆかり。また、血縁・夫婦の縁など。～ musuhun. 縁を結ぶ。～ cirijun. イ。縁が切れる。ロ。愛想がつかぬ。いやになる。～nu çiragataka. 縁が顔をかばう意。縁のある者は、ひいき目で顔もきれいに見える。
 'in- (接頭) 'inu- と同じ。'innagi (同じ長さ), 'intaki (同じたけ) など。
 'inbiciⓄ (名) 縁故。縁引き。縁を引いている者。狭義には姻戚関係 (にある者)。
 'ingumiⓄ (名) 縁組。～ sjun. 縁組を結ぶ。
 'iniNⓄ (副) 期日が延び延びになるさま。延引したさま。～ natoosa. 延び延びになっているよ。～ qsi burii natoosa. 延び延びになって失礼したね。
 'inkirahwaaⓄ (名) 同じ状態。同じよろす。前よりよくなるべきもの(学問・病気など)が、前の状態と変わらないこと。進歩のないこと。kiramaa maakara 'Nncin ～.* 慶良間島はどこから見ても同じに見える。ʔanu qcoo ʔiçimadin ～.* あの人はいつまでたっても変わらない。
 'inmaooⓄ (名) 閻魔王。
 'innagiⓄ (名) 同じ長さ。'inunagi と同じ。
 'inpiⓄ (名) 同じ大きさ。'inpinaa 'waki-juN. 同じ大ききさずつ分ける。

'iNpoo

'iNpoo① (名) 遠方。遠くの方。kaama と
もいう。

'iNru①① (名) 遠慮。人に対してひかえ目
にすること。～ sjuN.

'iNsa① (名) 同量。同額。YinuYusqa の略。
'iNsanaa. 同量ずつ。同額ずつ。

'iNsju① (名) 火薬。'Nsju ともいう。

'iNtaki① (名) 同じたけ。同じ高さ。'inu-
taki ともいう。

'iQkwa① (名) ①いい子。かわいい子。②
親切な人。いい人。おとなや目上に対して
もいう。?anuQcoo ~ 'jaN. あの人は親
切な人だ。

'isici① (名) 尻。けつ。「居敷」に対応する
語か。

'isici① (名) ①屋敷内にある、店子 (naagu)
などの家の建っている土地。据える ('isi-

juN) 土地の意か。または、「居敷」に対応
する語か。

'isicigancee① (名) 店子 (naagu) などの
家の建っている土地の地代。

'isi=juN① (他 =raN, =ti) ①すえる。置く。
'jaQkwan ~. やかんを置く。cimu ~.
心を落ち着ける。②設ける。つくる。haaka-
ta ~. 歯型を付ける。kata ~. 規則を設
ける。③すわらせる。taqcooru qcu ~.
立っている人をすわらせる。④地位につけ
る。?ari muragasirankai 'isitaN. 彼
を村がしらにした。

'isika=juN① (自 =raN, =ti) 居やがる。
'ijun (すわる), 'un (居る) の卑語。す
わっている、仕事をしない、長居するなど
を悪くいうのにも使う。「居敷く」と関係あ
る語か。

ʔj

ʔjaa① (名) ㊦おまえ。きみ。目下に対する第二人称。目上は ʔunzu。複数は ʔiq-taa。㊦(接頭)おまえの。きみの。ʔjaasjumuçi。おまえの本。

ʔjaagutooru① (連体)おまえのような。おまえごとき。非難の意でいう。～ niNzin。おまえごとき人間。

ʔjaagutooruu① (名) おまえとそっくりの者。ʔamanakai maqtaci ~nu 'usa。あそこに全くおまえとそっくりの人がいるよ。

ʔjaakuru① (副) ʔjanKuru と同じ。

ʔjanui① (名) おまえひとり。cui はひとり。ʔjaa cui ともいう。

ʔjanKuru① (副) おまえ自身で。-kuru は自身の意。ʔjaakuru ともいう。～ qsi。自分でしろ。

ʔjooii① (名) (泣く子をあやす声から転じて)おさな子。赤ん坊。ʔunukuroo ʔjaa-

ja ~ʔu 'jateekutu。そのころはおまえはおさな子であったから。

ʔjooiiɁwaa① (名) 赤ちゃん。かわいい幼子。ʔeeraasjaru ~ deemun naa。かわいらしい赤ちゃんですね。

ʔjooiiʔjooii① (感) 泣く子をあやす声。子守歌のはじめによく用いられる語。

ʔjun① (他・不規則) 言う。ʔici kwiri。

言ってくれ。ʔiigurisjan。言いにくい。遠慮して言いにくい。また、表現や発音がしにくい。ʔimiʂeen。おっしゃる。言われる。ʔicaru magisa。(言った大きさの意) 大きいことをいう者を笑う時いう。

ʔjuu① (感) はい。はあ。非常に目上の人に対して、肯定・承諾の意を表わす語。一般の目上には ʔuu という。

ʔjuuniN ʔnjuban① (句) 言うに及ばぬ。言うまでもない。

'j, -j

'ja- (接頭) 八。'jahwani (八羽), 'jakeen (八回) など。

-ja (助) は, ii, ee, aa, oo, uu などに終わる語に付く時は -ja のままである。'waqtaaja (わたしたちは), cuuja (きょうは) など。しかし短い, i, a, u に終わる語に付く時は, それらの母音と融合し, ee, aa, oo となる。kuri (これ) → kuree (これは), kuma (ここ) → kumaa (ここは), ?iru (色) → ?iroo (色は) など。また N に終わる語に付く時は N を n に変えて noo となる。ziN (銭) → zinoo (銭は), siran (知らない, 知らないで) → siranoo (知らないでは) など。ただし 'wan (わたし) に付く時は 'wannee (わたしは) となる。主格を表わす -ga (が), -nu (が) に付くこともできる。'waagaa ?icuN. わたしなら行く。?amanoo ?me-n?eesa. あのかたならいらっしやるよ。また, 'jan (である), 形容詞 (たとえば 'wakasan=若い), 「…している」(たとえば 'judoon=読んでいる), 「…してある」(たとえば 'judeen=読んでいる) などの否定の形にはふつう -ja の付いた形を用いる。sjumucee ?aran. 本ではない。'wakakoo neen. 若く(は)ない。'judee 'uran. 読んで(は)いない。'judee neen. 読んで(は)ない。cuuja 'iitiNci deebiru. きょうはいい天気でございます。simee siranoo sjooti. 学問は知らないで(は)いて。?aee sani. ありはしないか。

'jaa① (感) ねえ。なあ。もし。やあ。呼びかける時, 同意を求めるとき発する語。~ hwahwa?ujaju. [やあ母親よ (銘 莉子)] もし, おかあさん。~ ?an 'jara

'jaa. ねえ, そうだろねえ。~ hunnu. ねえ, ほんとに(同情した時などに, 女が言う)。

'jaa① (感) や (八)。やっつ。声を出して激える時にのみいう。

'jaa② (名) ①家。家屋。家庭。~ humi-kasjun. (歌・三味線などで) 家をにぎやかにして祝い。~ ?ukujun. 家を建てる。~ tatijun. 分家させる。一戸をかまえさせる (~ 'wakasjun) ともいう。~ tacun. 分家する。一戸立てとなる (~ 'wakajun) ともいう。~ nee kakaran. 家にはない。外出ばかりする。②(接尾) 軒。cujaa (一軒), tajaa (二軒) など。

'jaa③ (助) ねえ。なあ。念を押したり, 同意を求めたりする場合に用いる。cuuga ~. 来るかねえ。?icuga ~. 行くかねえ。(疑問の助詞 -ga は通常疑問詞のある文に用いられるが, この 'jaa が続く時は疑問詞なしでも用いられる。) ?ika ~. 行こうねえ。?an 'jara ~. そうだろねえ。?ansana ~. そうしようねえ。?ikana ~. 行きたいねえ。'Nnean doo ~. 見たんだねえ。

'jaabuci④ (名) 屋根をふくこと。かやぶき屋根についている。瓦ぶきには kaara nusijun (瓦をのせる) という。

'jaaburu⑤ (名) 便所。屋根のある便所で, ここでは豚を飼わない。豚を飼う便所は huru。

'jaabusin⑥ (名) 家の普請。

'jaa?i⑦ (名) 八。やっつ。また, 8歳。時刻は午前午後の2時。

'jaa?ukui⑧ (名) 'jaa?ukui と同じ。

'jaacuu⑨ (名) 灸。やいと。~ 'jacun. 灸をすえる。

jaaduⓄ (名) 宿。宿屋。'jadu ともいう。
'jaaduiⓄ (名) ⊖都落ちした士族の部落。
 都に定職なく都落ちした士族は、平民の村落と離れた所に居を定め、農業を営むようになった。その部落をいう。⊖別荘。貴族の別荘には 'Yujaadui, 王家の別荘には 'YuduN という。那覇では別荘を harujaa (畑の中の家の意) という。
'jaaduguciⓄ (名) 戸口。
'jaaduuⓄ (名) やもり。
'jaagumaiⓄ (名) 家にこもること。籠居。
'jaagumajaaⓄ (名) 家にこもって出歩かない者。
'jaagwaaⓄ (名) 小さい家。小屋。
'jaa'izaaⓄ (名) うち弁慶。'izaa は勇気のある者。
'jaajaaⓄ (名) 着物の小児語。おべべ。
'jaajaaⓄ (感) [文] やあやあ。組踊りで人に呼び掛ける語。
'jaajaatuⓄ (副) 静かに。安らかに。騒ぎが静まったさま。また、ほっと。安堵するさま。~ najun. (騒ぎが) 静まる。また、ほっと安心する。
'jaajasiciⓄ (名) 家屋敷。家屋と敷地。
'jaakajaaⓄ (名) 借家人。家を借りる者。
'jaakaracijaaⓄ (名) 不漸着。家で着る着物。
'jaakazaiⓄ (名) 家および家財道具。財産。
'jaakaziⓄ (名) ⊖家の敷。戸敷。⊖家ごと(に)。戸ごと(に)。~ hata 'agijun. 家ごとに旗をあげる。
'jaakazihwirujaaⓄ (名) 移り気の奉公人。あちこち転々と渡り歩く奉公人。hwirujaa は捨り者の意。
'jaamaⓄ (名) ⊖糸車。糸搓り車。織機に付属する器具。右に車、左に紡錘があって、糸をより合わせる器具。⊖転じて、機械。'wencujaama (ねずみとり機) など。
'jaamadiiⓄ (名) 宿無し。住居を失うこと。-madii は失って迷うこと。~ sjoon.

宿無しになっている。
'jaamanuciⓄ (名) 糸搓り車 ('jaama) の管をさしこむ鉄錘。
'jaamucaaⓄ (名) 所帯持ちの上手な者。
'jaamuciⓄ (名) 所帯持ち。所帯の持ち方。~nu 'jutasjan. 所帯持ちがよい。
'jaamucidooguⓄ (名) 所帯道具。
'jaamucizukuⓄ (名) 所帯のきりもり。所帯を維持して行く手段。家政。
'jaanareeⓄ (名) 家での教育。しつけ。~du hukanaree. 家の中でのしつけが、よそに出た時の教育になる。
'jaaniNzuⓄ (名) ⊖家の人数。家族数。⊖家族。
'jaanubaanⓄ (名) るす番。
'jaanunuusiⓄ (名) 家主。貸家の主人。
'jaanu'uciⓄ (名) 家の中。屋内。
'jaanu'wiiⓄ (名) 屋根。~Nkai nubujun. 屋根に登る。
'jaanⓄ (名) 来年。
'jaanNaanⓄ (名) 家号。苗字。姓。'jagoo ともいう。家号と別に苗字がある時には、その苗字には mjoozi, noozi という。
'jaasakurisjaⓄ (名) 飢えの苦しさ。~sjun. 空腹で苦しむ。
'jaasanoosiⓄ (名) 虫おさえ。空腹を一時しのぐために少し食うこと。
'jaasanⓄ (形) ひもじい。空腹である。'jaasa. ひもじさ。飢え。空腹。
'jaasaoⓄ (名) すぐ腹のへる人。食ってもすぐひもじがる者。食いしんぼり。
'jaasawataⓄ (名) 空腹。ひもじい腹。
'jaasaziniⓄ (名) 餓死。飢え死に。gasi は飢饉の意。
'jaasiⓄ (名) 椰子。
'jaasigwaaⓄ (名) 椰子の実。実の外側からは酒をいれる器として珍重されている。
'jaatacaaⓄ (名) 分家した者。分家。
'jaatiiçiⓄ (名) 一つ家。一つの家に暮らす

'jaati sjun

こと。

'jaati① sjun① (句) 人の家にわが家のよ
うに出入りし、入りびたる。'jaatee sa-
ran. 入りびたるわけにはいかない。

'jaaʔuuçii① (名) 引っ越し。転宅。士族以
上の身分ある者の引っ越しは tuNciʔuuçii
という。

'jaawakajaa① (名) 分家した者。分家。
'jaatacaaともいう。

'jaazeeku① (名) 大工。家を作る大工。

'jaazi① (名) 屋宜。《地》参照。

'jaazi=cun① (自 =kaN, =ci) 家に居つく。
(犬猫などが) 家に住みつく。

'jaazina① (名) 家風。家の品格。

'jaazisii① (名) なれない家で寝た場合に、
眠れないこと。金武(cin) では 'jaagusi
という。-kusi は忌避する意。~ qsi ni-
ndaran. なれない家なので眠れない。

'jaazisiisjaa① (名) なれない家では眠れな
いくせのある人。

'jaazoo① (名) 棟門。瓦門。瓦屋根のある
門。もとは貴族の家に限られていた。

'jaazukui① (名) 家を建てること。家の建
築。'jaaçukui ともいう。

'jaban① (名) [新] 野蛮。

'jabiku① (名) 屋比久。《地》参照。

'jabiraa① (名) 衰弱した者。'jabirimun
ともいう。

'jabiri=jun① (自 =raN, =ti) 病み衰える。
衰弱する。体が弱る。

'jabirimun① (名) 衰弱した者。'jabiraa
ともいう。

'jabu① (名) 屋部。《地》参照。

'jaburi① (名) 'jandi と同じ。

'jabuu① (名) 鍼灸師。はり医者。

'jaçi① (名) たちの悪いこと。性悪。また、
たちの悪いことをたくらむこと。~ sjun.
悪だくみをする。また、(たちの悪い腫れ
もの・病気などが) こじれる。~na ni-
nzin. たちの悪い人間。

'jaçi① (名) やつ (時刻)。午前午後の2
時。

'jacibaai① (名) 焼き鍼。やいばり。外科
の発達しない時代の医術の名。

'jacidoohu① (名) 焼き豆腐。路傍で焼き、
道行く人に売っていた。kantoohu とも
いう。

'jaciʔN① (名) 焼き印。

'jaçimaga① (名) 'jaçiʔNmaga と同じ。

'jaçimee① (名) ①ぼっちゃん。士族以上の
男の子をいう。②貴族の男の子を、その下
の子や使用人がいう語。おぼっちゃん。
'jaçciimee ともいう。

'jaçimun① (名) 焼き物。磁器・陶器・素
焼きの類一切をいう。

'jaçiʔNmaga① (名) 子孫といったような
意。~ hwiciʔNmaga mataʔNmaganu
caa. 大勢の子孫たち。coozanu ʔuhu-
sju [長者の大主](その項参照) のことば。

'jacin① (名) 家賃。

'jaçiri=jun① (自 =raN, =ti) ①やつれる。
やせ衰える。憔悴する。②おちぶれて身な
りが悪くなる。おちぶれる。③ことさらに
姿を悪くする。身をやつす。また、仮装す
る。変装する。

'jaçiʔusi① (名) 色の黒い人。皮膚が真黒
にやけた人。くろんぼ。~nu gutoon.
くろんぼのようだ。

'ja=cun① (他 =kaN, =ci) 焼く。

'jadu① (名) ①宿。宿屋。'jaadu ともいう。
~ sjun. 宿をする。人を泊める。また、
人の家に泊まる。②[文] 家。'waga ~.
わが宿。

'jaducin① (名) 宿賃。宿泊料。

'jaduja① (名) 宿屋。旅館。

'jadu=jun① (自 =raN, =ti) 泊る。宿泊
する。また、元来の住みかでないところに
いる。宿る。

'jaga① (名) 屋我。《地》参照。

'jagaci① (名) 屋我地島。沖縄本島本部半

島の東に接してある島。

'jagamaa① (名) いなかで娘たちが夜集まって仕事する場所。娘宿。一種の女子集会所。'junabi ~ja tuNmiguti... cika-cika mijarabi ʔasibikai. [夜なべやがまや とん巡って… できやできやめやらべ遊びかい(越来節)]夜なべ仕事をする娘の集会所に立ち寄って…, さあさあ娘たち、遊びに行こう。

'jagamasjaN① (形) やかましい。騒がしい。

'jagati① (副) ㊦やがて。間もなく。sara-ba taciwakara 'jusumi neN ʔucini, ~ ʔakaçicinu tuin nacura. [さらば立ち別ら 与所目ないぬうちに やがて暁の鳥も鳴きゆら]では別れよう, 人目のないうちに。やがて暁の鳥も鳴くだろう。㊦もう少しで。あやうく。~ sinutaN. もう少しで死ぬところだった。~ 'jacimeeni sasariN doo. もう少しで, 坊ちゃんにもちで刺されるぞ。(童謡)

'jagoo① (各) 家号。姓のほかにある, 家による呼び名。'jaanna ともいう。

'jaguaguutu① (副) おとなしく。sjuru kutoo ʔsi ~ sjoon. やることはやって, のんびりしている。ʔanu 'warabee ʔamajaatiijaa sjootašiga ~ niNtoon. あの子ははしゃぎ回っていたが, おとなしく寝ている。ʔooeetiee sjootašiga ~ ʔsi niNtoon. 暴れ回っていたのが, おとなしく寝ている。

'jagumisa① (名) 恐れはばかること。恐縮。ʔija kuhwina ʔazisuinu ʔumeni 'juširijai, ~N siran munuʔi nikusa. [いや こへな按司そひの 御前によしれやり やぐめさも知らぬ 物言にくさ(忠臣身替)]いや, このような噂い城主様の御前に出て恐れはばかることも知らないものの言い方がにくい。narasu 'juçidakinu ʔutuni mazirijai, ʔujagumisa ʔa-

tiN ʔusuba 'jutaru. [鳴らす四つ竹の音にまぎれやり おやぐめさあても お側寄たる] 鳴らすカスタネットの音にまぎれて, (踊りながら) 恐れ多いけれども, おそばに寄って行った。~ sjuN. 恐れはばかる。恐縮する。~N neeraN. 恐れはばからぬ。

'jagusami① (名) やもめ。後家。未亡人。

'jagwii① (名) 労働の時のかけ声をいう。重い物を持ち上げる時に出す, hija という声など。

'jahusu① (名) 屋富祖。(地) 参照。

'jahwajahwatu① (副) [文] やわらかに。やんわりと。やさしく。mutubu nacizinaga 'jadu kaiga kurawa, kutuba ~ muduci 'jarasi. [本部今歸仁にやが 宿かりが来らば 言葉やはやはと 戻ちやらせ(本部汀間と節)] 本部や今歸仁の者が宿を借りに来たら, やんわりとしたことばで断わって帰してしまえ。

'jahnwan① (名) 夜半。夜中。'juhnwan ともいう。

'jahnwanmee① (名) 夜半にお参りすること。ことに, 夜半に女が男装して拜所に参り, 思ひ男に会いたいと祈ること。お冠船躍(ʔukwanSiNuçui)のあとに現われたことだという。それに出演した首里三平等(mihwira)の美男子をしたって, 女が決死の覚悟で夜半参りをしたのがはじまりだという。

'jahwaqteen① (副) やさしく。柔らかに。おだやかに。munuʔiijoou ~ sjoon. ことばつきがやわらかい。

'jahwaqteengwaa① (副) やさしく。柔らかに。tii ~ kaçimiti. やさしく手をとって。

'jahwaraa① (名) 病弱者。

'jahwara=cuN① (自 =kaN, =ci) ㊦柔らかくなる。㊦おだやかになる。柔らかく。また, 争わなくなる。㊦(体が) 弱る。衰弱

'jahwaragaNzuumuN

する。'jahwaracooN. 衰弱している。

'jahwaragaNzuumuN① (名) 病弱そうで健康な者。また、病弱ではあるが、重病をしない者。

'jahwarageera① (副) 病弱なさま。病気がかりするさま。caa ~ sjoon. いつも病気がかりしている。

'jahwarageeraa① (名) 病弱な者。病気がかりしている者。

'jahwaraki=juN① (他 =raN, =ti) ①柔らかくする。柔らげる。②和解させる。和合させる。

'jahwaramuN① (名) 病弱な者。体が弱い者。'jahwaraa, 'jahwataimuN, 'jahwatajaa などともいう。~nidu cirin ?akutan çicuru. 弱い者に塵も芥もつく。弱い者にはすぐ何の病気でもとりつく意。

'jahwarasan① (形) ①柔らかい。②体が弱い。病弱である。

'jahwarazuusii① (名) 雑炊。おじや。単に zuuŋii ともいう。

'jahwatagusa① (名) 植物名。むらさきかたばみ。かたばみに似て、紫色の美しい花の咲く雑草。はじめ、首里の平良殿内の主人が観賞用に中国から輸入したといわれるが、のち、田畑に繁殖し、農作物にひどい害を及ぼすようになった。

'jahwataikeetai① (副) 病弱なさま。病弱でぶらぶらしているさま。~ sjun.

'jahwataimuN① (名) 病弱な者。病弱でぶらぶらしている者。

'jahwatajaa① (名) 病弱な者。

'jai① (感) やい。おい。乱暴に呼びかける語。~ ?andu sjurui. やい、そんなことしていいか。~ mii?atitaN. やい、見つけた。

'jai① (名) 槍。

'jaiba① (名) [文] やいば。刀剣。口語では taci という。

'jaiho=juN① (他 =raN, =ti) 破り散らす。

(紙・着物などを) ずたずたに破る。

'jaiŋiti=juN① (他 =raN, =ti) 破り捨てる。

'ja=juN① (他 =raN, =ti) 破る。cin ~. 着物を破る。?akai ~. 障子を破る。

'jaka① (名) 屋嘉。《地》参照。

-ja^{ra}ka (助) 老人は -juka という。①より。比較の時使う。?ari ~ kuree masi.

あれよりこれはよい。tuzi ~ kanasjan. 妻よりかわいい。②より。より外に、以外にの意の場合に用いる。'wan ~ hukanee taagan siran. わたしより外には誰も知らない。'jamatu ?Nmariti kuncaaboozaa nara ~ ?ucinaa ?Nmariti karihaamee. 日本に生まれてざんぎり頭になるよりは 沖縄に生まれてくたばりばあになった方がまだよい。廃藩のころ日本本土の断髪をのしって言ったことば。

'jakaa① (名) 守り役。上流家庭の男の子の守り役。非常に身分の高い家柄の男の子には ?uhujakaa (輔導役) と 'jakaagwaa (遊び相手) の二人の守り役がつけられた。

'jakaagwaa① (名) 非常に身分の高い家の男の子の遊び相手にやとわれる守り役。お相手役。

'jakabi① (名) 屋嘉比。《地》参照。

'jakabu① (名) 屋嘉部。《地》参照。

'jakara① (名) ①やつ。やから。~, ?juru kutu cikani. このやろう、言うことを聞かないか。②'jakaramuNと同じ。

'jakaramuN① (名) 力持ち。力のある人。また、しっかり者。働きのある人。

'jakari- (接頭) ずうずうしいやつ、太いやつの意。?Nninu hun ?aran muzinu hun ?aran, 'jakarijumudujaga kakai-sigai. [稲の穂もあらぬ 麦の穂もあらぬ やかれよも鳥が かかりすがり] 稲の穂でも麦の穂でもないのに、うるさい鳥め(男たち)がつかまとう。

'jakeeN① (名) 八回。

'jakii① (名) 八重山にある風土病の名。高

熱が間歇的に出る。

'jaki=jun① (自 =raN, =ti) ㊦焼ける。燃焼する。㊦(食物が) 焼ける。㊦(皮膚などが日に) 焼ける。

'jakina① (名) 屋慶名。《地》参照。

'jakiziri① (名) 焼けた木切れ。燃えさし。

'jaku① (名) 厄。わざわい。災難。たとえば小鳥が家に入ることは厄だとして、その厄を祓い清めるために hamaʔuri(その項参照)を行なう。

'jaku①(名) ㊦役。～(ni) tacuN. 役に立つ。～nee tatan. 役には立たない。㊦役。公務。割り当てられた職務。

'jakudusi①(名) 厄年。その翌年は harijaku(晴れ厄)という。生まれた年の干支に当たる年は厄年とされる。

'jakugee① (名) 屋久貝。夜久貝。夜光貝。螺鈿(らでん)にする。

'jakumeeda① (名) 屋久前田。《地》参照。

'jakumii① (名) ㊦兄。兄さん。ただし、30～40台の壮年者である兄、またはその年配の者をそれより年の少ない者がいる。古くは役人の尊称で ʔuhujakumui [大やくもえ、親雲上] であったが、後に年長者にいうようになったものか。㊦壮年。中年。tusjui(年寄り), 'wakamuN(青年)に對している。

'jakumiitaa① (名) 壮年者たち。

'jakumui① (名) 1銭6厘。ziN(銭)の項参照。

'jakumuiguNzuu① (名) 銭850文。1銭7厘に相当する。ziN(銭)の項参照。

'jakumusi① (名) 虫の名。芋虫のように大きく、黒い。

'jaksja① (名) すもうの手の名。右手を相手の左肩の上から背に回して帯をつかみ、相手をひねり倒すわざ。

'jaksuku① (名) 約束。

'jakuta=cuN① (自 =taN, =qci) 役立つ。役に立つ。'jaku tacuN と同じ。

'jakuzoo① (名) 約定。契約。取引の約束。

'jama① (名) ㊦林。山野。山林。やま。樹木が多く茂っているところをいう。しかし平地の林はほとんどないので、'jama といえば山林である。山岳の意の山には mui という。～ ʔaʔcuN. 山仕事をする。㊦混乱。乱雑。ごたごた。～ najun. 乱雑になる。ごたごたする。～ cirijun. ごたごたする。混乱する。めちゃめちゃになる。ʔNzi 'Nncakutu ʔumiN 'juran kutunu ʔukuti, ~ ciqcootan. 行って見たら、思いも寄らない事が起こって、とんでもないことになっていた。～ cirakasjun. 散散にちらかす。混乱させる。

'jama- (接頭) 野性の意を表わす。'jama-ʔin(のら犬), 'jamamajaa(のら猫), jamakanda(野生のつる草の名)など。

'jamaʔaʔcaa① (名) 山仕事をする者。林業に従事する者。-ʔaʔcaa<ʔaʔcuN(歩く)。

'jamaʔaʔtami① (名) [古] いのししの肉。

'jamaʔatai① (名) [文] [山当] 営林の役人。森林係。口語は 'jamatai。

'jamabiku① (名) 山びこ。山にひびくこだま。'jamahibiku ともう。kuinu 'jama-ʔukuni tuuku humimajuti taninu ~nu ʔutugwibakari. [恋の山奥に 遠く踏み迷って 谷のやまびこの 音声ばかり] 恋の山奥に遠く踏み迷って、聞こえるものは谷のやまびこの声ばかり。

'jamabuzoo① (名) 山奉行。山林監督官。

'jamaci① (名) 山内。《地》参照。

'jamacirigutu① (名) 混乱。ごたごた。収拾のつかない困った事。

'jamacirimuN① (名) ごたごたを起こす者。秩序を乱す者。

'jamada① (名) 山田。《地》参照。

'jamadanaa① (名) 'jamadanii の卑称。

'jamadanii① (名) 私生児。ててなし子。'jamadanaa(卑称), 'jamadaningwa

'jamadaniNgwa

ともいう。ともに音が tani (陰莖)に通ずるのであまり用いられない。'jamansiNgwa ともいう。

'jamadaniNgwa④ (名) 'jamadanii と同じ。

'jamagaa④ (名) 山川。《地》参照。

'jamagaamii④ (名) 陸上にいる亀。'janbarugaami ともいう。ʔumigaamii (海がめ) に対する。

'jamagazaN④ (名) やぶ蚊。野生の蚊の意。普通の蚊より大きく荒々しい。

'jamagoo④ (名) 山川。鹿児島 の地名。

'jamagu④ (名) ずるいこと。狡猾。那覇語であるが、首里でもいうようになった。ʔanihjaa ~ 'jawai. あいつめ、狡猾だわい。'jawai は那覇語。

'jamaguci④ (名) 山口。《地》参照。

'jamaguruci④ (名) 植物名。山黒木 (やまくろき)。浜梅檀 (はませんだん)。その材は建築用、家具指物用などになる。

'jamagusiku④ (名) 山城。《地》参照。

'jamagwaa④ (名) やぶ。小さい荒地など。

'jamahibiku④ (名) 'jamabiku と同じ。

'jamahwizaa④ (名) ひげの多い者。ひげもじゃ。

'jamaʔicubi④ (名) takaʔicubi と同じ。

'jamaʔiN④ (名) 何の字かわからない、だれにも使用できるように作ってある三文判。

'jamaʔiN④ (名) のら犬。野犬。

'jamajuuna④ (名) 植物名。あかめかしわ。葉を煎じて胃腸病の薬にする。

'jamakaagaa④ (名) 人見知り。内気で人前に出るのを嫌うこと。また、その人。~ sjun. 人見知りする。

'jamakagu④ (名) 駕籠の一種。身分の低い者が乗る、囲いのない駕籠。病人を運んだりするのに用いる。

'jamakanda④ (名) 植物名。多年生で、朝顔に似た花が咲き、さつまいもに似た小

さい芋ができる。観賞用にもなる。ひるがおの一種か。野生のかずらの意。kanča はさつまいもの植物としての名。

'jamakanċaa④ (名) 'jamakanċa と同じ。

'jamaku④ (名) きこり。murikawaja tuuku 'janbaruni ʔuriti, ~ karikuri-nu hataraciju sjuntijari. [森川や遠く山原に下りて 山工彼是の 働きよしゆんでやり (花売之縁)] 森川は遠く山原に下って、きこりなどの仕事をしているということである。

'jamamajaa④ (名) のら猫。泥棒猫。

'jamamici④ (名) 山道。

'jamamumu④ (名) やまもも。楊梅。単にmumu ともいう。mumu の項参照。

'jamasaniNgwa④ (名) 私生児。ててなし子。

'jamanazi④ (名) なた。木を切る刀。山刀。

'jamanuċizi④ (名) 頂上。山頂。

'jamanuhwa④ (名) [文] 山の端(は)。tanumu 'juja hukiti ʔutuzirija neraN, hwicui ~nu ċicini 'Nkati. [頼む夜やふけて おとずれやないらぬ 一人山の端の 月に向かて] 頼みにしている夜はふけても、おとずれはない。ただひとり山の端の月に向かっているばかり。

'jamanuhwa④ (名) 山入端。《地》参照。

'jamanunaaka④ (名) 山の中。山林の中。

'jamanusudu④ (名) 山賊。~nu gutoo-sa. 山賊のようだ。ひげぼうぼうの者などをいう。

'jamaʔNmu④ (名) やまいも。自然薯。

'jamaNkazi④ (名) さそり。

'jamasisi④ (名) いのしし。㊦いのししの肉。

'jamasisituja④ (名) 猟師。

'jamasjuubu④ (名) 山仕事の競争。山村で二村を対抗させて行なう林業奨励の行

- 事。仕事の成績を争った。
- 'jamatai① (名) 営林の役人。森林係。文語は 'jamaʔatai。
- 'jamatu① (名) ⊖日本。沖縄に対して日本本土をいう。⊖薩摩。ʔuhujamatu (日本本土の全体) に対する。
- 'jamatuçibui① (名) 日本流のしりからげ。着物の後ろのすそだけをからげるからげかた。çibui の項参照。
- 'jamatuguci① (名) 日本語。
- 'jamatugujumi① (名) 新曆。太陽曆。
- 'jamatuguruku① (名) 日本人の機敏さ。日本人らしくきびきびと。日本人のようにすばやく。guruku < gurusaN. nuu 'jatin ~ doo. 何でも日本人なみにきびきびやれ。
- 'jamatuʔisja① (名) 蘭方医。漢方医 (ʔucinaaʔisja) に対していう。西洋医療は日本から伝わり、始めは日本本土から来た蘭方医を 'jamatuʔisja といったが、のち、沖縄人で蘭方医を開業する者が出ると、それをもういうようになった。
- 'jamatujukumi① (名) 中国貿易監視官。薩摩の役人が当たる。
- 'jamatujuu① (名) 明治12年廃藩置県以後、日本政府の統治下になった時代。日本政府時代。ʔucinaaʔuu に対する。
- 'jamatumuN① (名) 日本品。
- 'jamatumusuN① (名) じきに解けるように、または体裁よく結ぶ結びかた。花結び。蝶結び。
- 'jamatuNcu① (名) ⊖日本人。日本本土の人。⊖薩摩人。その場合、他の日本人は ʔuhujamatuNcu という。
- 'jamatusjoobee① (名) 日本製品が粗末にできていること。粗製濫造ぶりをこきおろした語。sjoobee は粗製品。tooʔaçiree (中国製品があつらえもののように上等であること) に対する。
- 'jamatusoobee① (名) 'jamatusjoobee と同じ。
- 'jamatutabi① (名) 日本本土への旅。tootabi (唐旅) の対。
- 'jamatuzihwee① (名) 日本人の気の早さ。沖縄人に比べて、日本本土の人が気早く勢いのよいことをいう。
- 'jamaʔuku① (名) 山奥。ʔukujama ともいう。
- 'jamazatu① (名) 山里。《地》参照。
- 'jami① (名) ⊖やみ。暗やみ。'unzi 'waşiririba ~ nu 'junu kumici, 'wadudu sukunajuru ʔajumigurisja. [恩義忘れれば 闇の夜の小路 我胴と損なゆる 歩みぐれしや] 恩義を忘れれば闇の夜の小道を歩くようなもの、自身をそこなうばかりで歩きにくい。⊖乱世。
- 'jami① (名) 病気。文語的な上品な語。普通は 'janmee, bjooci という。musika kunu ~ ni şititi saci naraba. [もしかの病に 棄てて先ならば] もしもこの病気であとに残る者を捨てて死んだならば。
- 'jamii① (名) 二日酔い。
- 'jami=jun① (他 =ran, =ti) やめる。廃する。行なわなくする。saki ~. 酒をやめる。
- 'jamiwacaree① (名) 病み患い。病気でわづらうこと。
- 'jamiwaNdee① (名) 看病。病人を介抱・世話すること。
- 'jana- (接頭) 悪い意を表わす。悪い・醜い・いやな・性悪の・不正な、など。'ii- (いい) に対する。'janasan は主として見た目の美醜などに関して用いるが、'jana- はそれだけでなく、'waqsan の意も含み、非常に多くの語につく。'janatiNci (悪い天気。天気が悪いという時には, tiNcinu 'waqsan. という), 'janakaagii (不美人), 'janakaza (悪臭), 'jananici (邪道) など。
- 'janaʔabii① (名) 悪い叫び声。いやな叫び声。

'janaa

'janaa① (名) 悪い物。また、悪人。民間語源説に「むかし鳩目銭を通融せし頃、寛永銭八貫文をヤナーといひしは、ト之部トナーの糸下にいへるが如し。その頃奴僕を雇ふに最もわろいものをヤナーの銭にて雇ひたるよしにて、わろい人をヤナモンといふより、ひづりて、何物因らず、わろい物にはヤナーといふとぞ (南島八重垣)」。

'janabu① (名) 植物名。てりはぼく。おとぎりそう科。木材は建築用など、種子は燈油になる。'jarabu ともいう。

'jana'burii① (名) 悪い狂い方。とてもなおりそうにない狂い方。ひどい気違い。-burii < hurijun。

'janaci① (名) 悪い血。病毒をふくんだ血。

'jana'dakuma① (名) 奸智。悪知恵。

'jana'dakumi① (名) 奸計。悪だくみ。

'janagamasjan① (形) (音などが) うるさく、不快である。(人などが) しつこく、不快である。'janagamasii mun. しつこい、いやなやつ。

'jana'gataa① (名) 悪い型の者。感じの悪い人間。いやな人間。

'janagucaa① (名) 口の悪い者。毒舌家。

'janaguci① (名) 悪口。また、悪い乱暴なことば。毒舌。

'jana'gukuru① (名) 悪い心。悪心。

'jana'gusi① (名) 悪い癖。悪い習慣。

'janagutu① (名) 悪事。'janakutu より意味が強い。

'jana'gwii① (名) 悪い声。いやな声。不快な感じを与える声。

'jana'huuzi① (名) 悪い風儀。悪い風習。悪習。

'janahwa① (名) 屋那覇島。伊是名島 ('izina) の属島。

'jana'zii① (名) 悪口。あしざまに言うこと。

'jana'zimi① (名) 悪い夢。悪夢。不吉な夢。

'jana'kaagi① (名) 醜い顔。不器量。

'janakaagii① (名) 器量の悪い者。女についていう。不美人。

'jana'kaza① (名) 悪いにおい。悪臭。

'janakazi① (名) 悪い靈気。悪靈。魔風。人に害を与える、風のような魔物。~ zicajuN. 悪い靈気に会う。

'jana'kutu① (名) 悪い事。

'jana'kutuba① (名) 卑語。卑しいことば。

'jana'mici① (名) 悪路。悪い道路。

'janamici① (名) 邪道。正しくない道。~ kunuN. 邪道に入り込む。

'jana'mii① (名) いやな目。いやな境遇。~ haqcajajuN. いやな目に会う。

'jana'miQkwasan① (形) 憎憎しい。非常に憎い。

'janamunii① (名) 'janamunu'zii と同じ。

'jana'munu'zii① (名) 悪いものの言い方。縁起の悪いことを言うこと。'janamunii と同じ。

'jananuN① (名) ⊖妖怪。魔物。悪靈。⊖悪者。悪人。⊖いやなやつ。tuin çikamin naran ~. 煮ても焼いても食えないやつ。取りもつかみもできない、いやなやつ の意。

'jana'munu① (名) 悪い物。'iimun の対。

'jana'muNdakuN① (名) 悪だくみ。奸計。

'jananaraasi① (名) 悪いことを教えこむこと。教唆。悪い教育 (naraasi)。

'jana'Qcu① (名) 悪い人。'akuniN (悪人) より軽い意。

'jana'rikuçi① (名) 悪がしこい才智。悪知恵。~ kwatoon. 悪がしこい才智がある。

'janasan① (形) 悪い。醜い。いやな感じがする。'waqsan が主として、そのものの正・不正、またそのものの質の良・不良に関して使われるのに対して、'janasan は主として見た感じの美醜などに関して使われる。また 'waqsan の方が多く用いられる。なお、'jana- の頃参照。kunu' ci-

- noo ~. この着物は(柄などが)悪い。
(kunu cinoo 'waqsan. この着物は、品質などが、悪い。) 'janaku najun. (容貌が)醜くなる。
- 'jana'sii① (名) 悪い仕方。たちの悪いやりかた。
- 'jana'simuci① (名) 悪い性質。根性が悪いこと。意地悪。
- 'jana'siqpa① (名) いやに強情なこと。ひどく腕白なこと。また、そのような者。
- 'janasiqparamun① (名) いやに強情な者。ひどい腕白者。
- 'jana'tiŋci① (名) 悪い天気。悪天候。'jana'waaçiçi ともいう。
- 'jana'waaçiçi① (名) 悪い天気。悪天候。'janatinçi ともいう。
- 'jana'wacaku① (名) 意地の悪いいたずら。悪意あるからかいかた。
- 'jana'warabi① (名) 悪い子供。いたずらっ子。にくまれっ子。
- 'jana'waza① (名) 卑しい職業。賤業。
- 'jana'zee① (名) 悪い才智(see)。悪知恵。
- 'janazi① (名) 柳。
- 'janaziguui① (名) 柳行李。
- 'jana'zimuu① (名) 悪心。悪い心。~nu 'yukurijun. 悪心が起こる。悪いこと、乱暴などをしようとする心が起こる。
- 'jana'ziŋ① (名) 悪い着物。質または柄などがよくない着物。
- 'jani① (名) 竹を細くけずること。また*骨組みを作ること。'janijun の項参照。kubaja cin kubani dakija 'ahusudaki, ~ja sirakacini haija 'unna. [こばや金武こばに 竹や安富祖竹 やねや瀬良垣に 張りや恩納] びろりの葉は金武で取り、竹は安富祖の竹で、けずるのは(組み立ては*)瀬良垣で、張るのは恩納。kubagasa (びろりの笠)を作る過程を歌った歌。
- 'jani① (名) やに。樹皮から出る粘液。また、きせるにたまるやに。
- 'jani=jun① (他 =ran, =ti) ⊖竹などを細くけずる。daki ~. 竹をけずる。⊖*骨組みを作る。竹などで、扇・笠・かご・かやぶき屋根などの骨組みを作る時にいう。kuu ~. 鳥かごを作る。
- 'ja=nun① (自 =man, =di) 病む。病気になる。患う。また、痛む。çiburunu ~. 頭が痛い。'jamasjun. 病氣させる。また、痛める。けがする。tii ciçi 'jamacan. 手を切って痛めた。tunzakunu 'waqsanu 'warabi 'jamaci. 世話が足りずに子供を病氣させた。cimu 'jamasjun. 後悔させる。惜しがらせる。
- 'ja=nun① (自 =man, =di) やむ。(続いていたものごとが)とどまる。ただし、雨がやむことは harijun という。
- 'jan① (連詞・不規則) だ。である。単独でも文になりうる。~. そうである。kan ~. ころである。'an 'jami. そうか。'jami, 'arani. そうなのかそれでないのか。taruuja bjooçi 'jaigisan. 太郎は病氣らしい。nuuga 'jara. 何だろうか。'an 'jakutu. そうだから。'an 'jaree. そうならば。~tee 'arantee. そうであると言ひ、そうでないと言ひ。甲論乙駁。'jaru tuui 'zee. ありのままを言え。'warabidu 'jaru mun. 子供なのに。子供でありながら。taruu 'jarawan 'jaraci kwiree. 太郎でもよこしてくれ。
- 'janba① (名) しおり。木の枝を折り、またそれを山道にさして、道しるべとしたもの。山の木の葉の意。sjuraga kusjuran-di ~ saci 'uceŋ, sudija tanigawanu sukuni whitaci. [しほらが越しゆらんで山葉さち置ちえん 袖や谷川の底にひたち] 恋人が越えて来るだろうと思って、しおりをさして置いてある。袖は谷川の底にひたしたように涙にぬれて。
- 'janbaraa① (名) ⊖山原('janbaru)の人間。山原者。⊖'janbaraabuni と同じ。

***janbaraabuni**

⊖ *janbaraadaki と同じ。

***janbaraabuni**① (名) 山原船。帆前船 (huumaasin) の小型なもの。もともとは山原通いの船の意。

***janbaraadaki**① (名) 山原竹。琉球竹。篠竹の一種。*janbarudaki ともいう。cini-bu, 屋根などにする。

***janbaru**① (名) [山原] 国頭地方。~ni ʔikiba ʔawariduja siguku miru kata-ja neraN ʔumitu ʔamatu。[山原に行けば 哀れどや至極 見る方やないらぬ 海と山と] 山原に行けば至極あわれである。海と山ばかりで見えるものもない。

***janbaruda'ki**① (名) *janbaraadaki と同じ。

***janbaruga'amii**① (名) 陸上にいる亀。ʔamagaamii と同じ。

***janbarugoo'raa**① (名) むこうずねにできる瘡の一種。なおりにくく、穴がふさがらず、赤くだされる。-gooraa < goorijun。

***janbaruku'tuba**① (名) 国頭方言。山原弁。沖縄北部方言。

***janbaruta'bi**① (名) *janbaru (国頭地方) への旅。

***janbatabi**① (名) [文] *janbarutabi と同じ。山原地方への旅。韻律の関係で短くなったもの。ʔunimucinu zibuN ~ ʔatati。[鬼餅の時分 やんば旅あたて] 鬼餅の時分 (12月8日) 山原へ旅することになった。

***jandi**① (名) 破損。こわれ。ʔaburi ともいう。

***jandi=jun**① (自 =ran, =ti) ⊖こわれる。破損する。⊖(話が) こわれる。破談になる。⊖うまく行かない。よくできない。できそこなり。失敗する。dikijun の対。

***jandiʔaataa**① (名) できそこないの砂糖。

***janmee**① (名) やまい。病気。ʔami, bjo-oci ともいう。

***janmeemun**① (名) 病気がちの者。病弱

な者。

***janmuci**① (名) 鳥もち。小鳥や昆虫をとらえるもち。ガジマルの木からとる粘液で作る。

***janTun**① (接続) そうであっても。けれども。しかし。

***janʔai**① (名) conDaraa と同じ。

***janʔajaa**① (名) *janʔai, conDaraa と同じ。

***janziN**① (名) 洋銀。ニッケル。銅・亜鉛の合金。

***jan=zun**① (他 =jan, =ti) ⊖こわす。tii-mutaan qsi, ʔwarabinu tucii ʔantaN いたずらして、子供が時計をこわした。⊖(接尾) …しそこなり。…し損ずる。kacijanZun (書きそこなり), siijanZun (しそこなり), ʔiijanZun (イ。言いそこなり ロ。けなす) など。

***jaqcii**① (名) 兄。にいさん。士族についていう。貴族は ʔjacimee, 平民は ʔahwii。兄が三人いれば、上から順に ʔuhujaqcii, ʔjaqcii, ʔjaqciigwaa と呼び分ける。

***jaqciigwaa**① (名) 一番下の兄。すぐ上の兄さん。士族についていう。

***jaqciimee**① (名) お坊っちゃん。貴族の男の子を、使用人などがいう語。

***jaqcuku**① (名) [新] ⊖薬を調合する人。薬剤師。⊖病院の薬局。

***jaqkee**① (名) 厄介。~na. 厄介な。qcu-nu ~ najun. 人の厄介 (世話) になる。

***jaqkeemun**① (名) 厄介者。ʔjaqkeemun-ʔaqiikee saqtan. 厄介者扱いされた。

***jaqkwa**① (名) tamagai (人だま。その項参照) を見るために、高い木の上に遠くを望めるように築いた望楼。旧暦8月10日から15日ごろまでの間に、方々に現われる人だまや、怪しい音などの、いろいろな奇怪を見聞するために作る。小は二、三人のすわれものから、大は十数人も入れるものまで作られた。那覇では ʔangwaa [屋小] と

- いう。
- 'jaqkwanaa④ (名) 大ぎんたま。象皮病で
罌丸がやかんのよう大きい者。
- 'jaqkwan④ (名) ⊖やかん。鉄瓶。湯をわ
かすのに用いるもの。⊖罌丸。きんたま。
形が似ているのでいう。
- 'jaqpa=juN④ (自 =raN, =ti) がんばる。
ふんばる。
- 'jaqsaN④ (形) (値段が) 安い。
- 'jaqtai④ (名) 八人。普通 haciniN とい
う。
- 'jaqtukaqtu④ (副) やっと。ようやく。か
ろろして。～ tuzimataN. やっと(話が)
まとまった。
- 'jara④ (名) 屋良。《地》参照。
- 'jarabu④ (名) 'janabu と同じ。
- 'jaracaikwaacai④ (名) やりくり算段。'ja-
rasiikwaasii, 'icaasikwaasii などとも
いう。～ sjun.
- 'jarasii④ (名) 旅の平安を祈る時の踊りの
名。日本本土、中国などに旅に出ている人
の家で、旅の平安を祈る歌を歌う際、疊を
上げ、大勢の女が輪を作り、床をふみとど
ろかせて回ること。親類中の女が集まって
行なった。
- 'jarasiikwaasii④ (名) やりくり算段。'i-
caasikwaasii, 'jaracaikwaacai などと
もいう。～ sjun.
- 'jara=sjuN④ (他 =saN, =ci) 遣る。つかわ
す。行かせる。'winagu?atinasija tici-
nu tini 'jaraci maçideenu cizuku mi-
nbukuja ca sjuga. [女あてなしや 敵
の手にやらち 末代の恥辱 面目や如何し
ゆが(大川敵討)] 女子供を敵の手にやっ
て、末代までの恥辱、面目をどうするか。
- 'jari④ (名) 破れ。破れたところ。ciNnu
～. 着物の破れ。
- 'jari?akai④ (名) 破れ障子。
- 'jarici'ri④ (名) (着物などの) 破れたり切
れたりしていること。
- 'jarigasa④ (名) 破れ傘。破れ笠。
- 'jari=juN④ (自 =raN, =ti) 破れる。破け
る。ciNnu ～. 着物が破れる。
- 'jarikwanKwan④ (副) びりびり。ずたず
た。ひどく破れたさま。ciNnu ～ sjuN.
着物がびりびりである。
- 'jarimii④ (名) 破れ目。破れたすきま。
- 'jarisaki④ (名) 着物などの破れや裂け。
- 'jarizin④ (名) 破れた着物。
- 'jašee④ (名) 野菜。
- 'jašee?ujaa④ (名) 野菜売り。やおや。
- 'jasici④ (名) 屋敷。家の敷地。
- 'jasicigancee④ (名) 屋敷の地代。また、屋
敷にかかる租税。
- 'jasicinu?ugwan④ (名) 家屋敷についての
祈願(?ugwan)。家族や家屋敷の無事息災
を祈願する祭りで、旧暦2月、8月に吉日を
選んで行なった。屋敷の四隅と huðuunu
?ukami (便所の神)には酒と御花米('npa-
nagumi)を供えて祭り、nakaziN (家の
中心)と門には重箱を供えて祭る。重箱に
は一つにはにぎりめし、他の一つには肉類
や揚げ物などをつめる。祈願(?ugwan)
には、その家の女主人が当たる。祈願の文
句は ?ugwan の項参照。
- 'jašiga④ (接続) だが。しかしながら。け
れども。
- 'jasigaruu④ (名) やせっぽち。やせぎす。
体がやせて細い者。
- 'jašigooi④ (名) 安く買うこと。
- 'jašii④ (名) やすり。
- 'jašijašitu④ (副) やすやすと。容易に。
'jašiqteen, duujašiqteen ともいう。
- 'jaši=juN④ (自 =raN, =ti) やせる。'joo-
garijuN ともいう。
- 'jasikuziN④ (名) 'jasjukuziN と同じ。
- 'jašima=juN④ (自 =raN, =ti) ⊖休まる。
休息できる。⊖我慢できる。'jašimaran.
我慢できない。立腹してこらえることがで
きない。

ʼjaʃimi

ʼjaʃimi① (名) ⊖〔新?〕休み。休暇。休業。
⊖〔古〕食事。cuusici ともいう。~ ʼu-
sjagijun. 食事をさしあげる。

ʼjaʃimi=juN① (他 =raN, =ti) 休める。duu
~. 体を休める。

ʼjaʃimi=juN① (他 =raN, =ti) 安くする。
(代価を) 低くする。また、(代価を) まける。

ʼjaʃimuN① (名) 安物。安価な物。

ʼjasina=juN① (他 =aN, =raN, =ti) 養う。

ʼjasineeNgwa① (名) 養い子。ʼjasineeʼu-
ja に対する語。その項参照。かりに自分
の子として、名を与えた子。

ʼjasineeʼuja① (名) 養い親。子供の体が弱
い時、親を変えると強健になるというの
で、養い親を別に定め、従来の名を変え、
養い親の名をもらってつける。上流では寺
院の僧侶に頼み、一般では親類中の強健な
人、福德円満な人に頼む。普通の養父母、
育て親の意とは異なる。

ʼjaʃi=nuN① (他 =maN, =di) (勤めなどを)
休む。休息の意では多くは ʼjukujun と
いう。cuuja ʼjaʃinum. きょうは休むの
か。

ʼjaʃi=nuN① (自 =maN, =di) (物の代価が)
安くなる。

ʼjasiN① (名) 野心。~ muqcoon. 野心が
ある。~na mun. 野心家。陰謀家。

ʼjasiNgutu① (名) 謀叛。野心のあるたくら
み。taNcaʼamajaaga ~ takudi. [谷茶
あまやが 野心ごとたくで (大川敵討)]
らんぼうな谷茶の殿様が謀叛をたくらん
で。

ʼjaʃiqteen① (副) やすやすと。容易に。た
やすく。ʼjaʃijaʃitu, duujaʃiqteen と
もいう。naminu ʼarasatin ~ ʼwiizun.
波が荒くてもやすやすと泳ぐ。

ʼjaʃirami① (名) 布の織りかたの名。たて
よこのしまが交互に出る織り。

ʼjaʃiʼui① (名) 安売り。

ʼjasjukuziN① (名) 足の短い膳。平常は用
いず、祝祭の時、客に出すのに使う。ʼja-
sikuziN ともいう。もと夜食膳の意か。

ʼjasuNzi① (名) あきらめ。安んずること。
ある程度で満足すること。~nu ʼjutasan.
あきらめがよい。

ʼjasuNzi=juN① (自 =raN, =ti) あきらめ
る。安んずる。ある程度で満足する。ʼunu
ciuminakai ~. その職で満足する。ʼja-
sunzijuusan. あきらめきれない。

ʼjatati① (名) 矢立て。旅行用の筆硯。

ʼjatu-(接頭) 特に大きい意を表わす。大(お
お)。巨大な。ʼjatumuci (大きな餅),
ʼjatuʼwaa (大豚), ʼjatumagii (巨大な
もの) など。

ʼjatugaciʼuhugaci① (名) 大変な食いしん
ぼう。人のものを奪って食うような食いし
んぼう。

ʼjatu=juN① (他 =raN, =ti) 雇う。hwijuu
~. 日雇いを雇う。

ʼjatumagii① (名) 巨大なもの。特に大きな
もの。

ʼjatumagisaN① (形) 巨大である。特に大
きい。

ʼjatumuci① (名) 大きな餅。特に大型に
作った餅。

ʼjatumuN① (名) 巨人。大男。ʼjatuu と
もいう。

ʼjatu① (名) 巨人。大男。ʼjatumuN と
もいう。

ʼjatuʼwaa① (名) 大豚。巨大な豚。

ʼjoo① (名) 癪(よう)。悪性のできものの名。

ʼjoo① (助) 呼びかける時、また、念を押す
時いう。よ。ねえ。なあ。taruu ~. 太
郎よ。ʼansi kwiri ~. そうしてくれよ。

ʼjoobaa① (名) 弱虫。弱い者。cuubaa の
対。

ʼjoogaa① (名) ゆがんだもの。形がゆがん
だり曲がったりした物。また首の曲がった
者。ʼjoogee ともいう。

- 'joogaahwi'igaa① (副) 曲がりくねったさま。くねくね。くにゃくにゃ。taanu ʔabusinu ~ sjoon. 田のあぜが曲がりくねっている。
- 'joogaahwiigaaʔaqci① (名) 千鳥足。まっすぐに歩かず、曲がりくねって歩くこと。'wiiti ~ sjuN. 酔って千鳥足で歩く。
- 'joogaahwiigaagaci① (名) ゆがんだ書体。行が曲がりくねった書き方。~ sjuN. ゆがんで不揃いに書く。
- 'joogaazici① (名) 聞き間違い。正しく聞かないこと。
- 'joogarihi'igari① (副) やせ細るさま。~ sjuN.
- 'joogari=jun① (自 =raN, =ti) やせる。'jašijun ともいう。
- 'joogce① (名) 'joogaa と同じ。
- 'joogeehwi'igee① (副) 'joogaahwiigaa と同じ。
- 'jooi① (名) 容易。たやすいこと。'jooee ʔaian. 容易ではない。~ naraN kutu 'jašiga. 容易ならぬ事だが。~na. 容易な。~ni cikaN. 容易に聞かない。
- 'jooimun① (名) 'jooimun と同じ。
- 'joojaku① (副) ようやく。やっと。~ natan. やっとできた。
- 'joo=jun① (自 =raN, =ti) 弱る。弱まる。(人・物品・ひもなどが) 弱くなる。
- 'jookaabusi① (名) 明けの明星。金星。
- 'jookabii① (名) 旧暦8月8日。また、その日から行なう行事。この日から11日まで厄日なので、厄を払ういろいろな行事が行なわれる。8日から hjoocaku (爆竹) を鳴らし、11日には盛んに爆竹を鳴らし、御馳走を作り、家をにぎやかにする。
- 'joomi① (名) 弱り目。弱い所。弱い時。~ ʔiqcoN. 弱いところができている。弱っている。
- 'joon① (副) 弱く。軽く。柔らかに。~ saajuN. 軽くさわる。~ ʔjuN. 柔らかに言う。
- 'joonci① (名) 容器に一杯ないこと。満たないこと。半分、あるいはそれ以下くらいしかない時に多くいう。弱満ちの意か。米・酒など量目に関するものについていう。mitan karakaranu 'jooncigukuru. 満たぬ酒瓶は、かえて大きな音がする。大言する者はかえて内容が乏しい意。
- 'joongwaa① (副) 軽く。きわめて弱く。~ ʔucun. 軽く打つ。
- 'joonnaa① ゆっくり。'joon は軽く、-naa は「ずつ」の意。~ ʔaqcun. ゆっくり歩く。
- 'joora① (名) わきばら。横ばら。まれな語。文語は 'juhwara。
- 'jooraakwa'araa① (副) 'jooruukwaaruu と同じ。
- 'joorimun① (名) 弱った者。弱った物。弱くなり役立たなくなったもの。'jooimun ともいう。
- 'jooruu① (副) ゆるゆる。ゆるんでいるさま。たるんでいるさま。ʔuubinu ~ natoon. 帯がゆるんでいる。kucinu ~ natoon. 口もとがしまっていない。
- 'jooruukwa'aruu① (副) ゆるゆる。大いにゆるんでいるさま。ʔuubinu ~ natoon. 帯がゆるゆるにゆるんでいる。
- 'joosaN① (形) 弱い。力が無い。病弱である。(ひもなどが) 切れやすい。(器物などが) こわれやすい。'jooku natoon. 弱っている。衰弱している。
- 'joosi① (名) 養子。~ najun. 養子になる。~ tujun. 養子にもらう。
- 'joosi① (名) ようす。また、(病人の)容態。tiçinu ~ sagujun. 敵のようすを探る。~ ʔici kusui tuti kuuwa. 容態を言って薬をとって来い。
- 'joosjoo=cun① (他 =kaN, =ci) ⊖やめておく。よしておく。しないでおく。'joosjooki. よせ。するな。'joosjokee šinuru munnu. そんなことをなさらなくても。

'joosjoojuN

人が進物など持って来た時に言い挨拶。やめておけばすむものをの意。⊖だまっておく。ほうっておく。見のがしておく。'joo-sjookaN. 容赦はしない。'joosjooki kuu njaa. だまっておれ、この野郎。

'joo-sjoo=juNⓄ (自 =raN, =ti) よしておく。だまっておく。かまわずにおく。ʔunu basjoo 'joosjooti, nama natakutu ʔaŋ ʔici. その時はだまっていて、今になってそう言って。

'jooteeⓄ (名) 容態。病状。

'jooʔusumasjaNⓄ (形) ⊖うす気味が悪い。うっかりできない。'jooʔusumasii ninziN. うっかりできない人間。⊖ものすごい。こわい。'jooʔusumasanu 'juin naraN. ものすごくて近寄れない。

'jooziⓄ (名) ⊖楊枝。つま楊枝。⊖結婚の時、葉子にそえて出す、桃の小枝で作った小さい楊枝。

'joozooⓄ (名) 治療。病気の手当。養生の転意。

'joozooŋwi'izooⓄ (副) ⊖治療するさま。⊖修繕するさま。

'joozooʔukuri (名) 手おくれ。病気の治療が手おくれになること。

'ju- (接頭) 四。'juhwani (四羽), 'jukeen (四回) など。

-ju (助) [文] を。韻文でのみ使う。口語では「を」に当たる助詞を用いない。taru~ ʔuramituti nacuga hamaciduri. [誰よ恨めとて 鳴きゆが浜千鳥] 誰を恨んで鳴くか浜千鳥。

'juʔakiⓄ (名) [文] 夜明け。~ sirakumu tu ʔiriti nubura. [夜明白雲と 連れて登ら] 夜明けの白雲とともに(首里に)のぼろう。

'jubiⓄ (名) 'jubita と同じ。

'jubi=cuNⓄ (自 =kaN, =ci) やせる。そげる。sisinu ~. 肉が落ちる。人にもいうが、家畜ことに馬などによくいう。

'jubijusi=juNⓄ (他 =raN, =ti) 呼び寄せ
る。

'jubimudu=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) 呼び戻す。呼び帰す。召還する。

'jubiiŋza=sjuNⓄ (他=saN, =ci) 呼び出す。

'jubisuraa=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) 呼び集める。召集する。

'jubitaⓄ (名) 泥田。'jubi ともいう。

'jubukuiⓄ (名) 首里城の建物の名。ʔugu-siku の項参照。

'ju=buNⓄ (他 =baN, =ii) ⊖呼ぶ。声を立てて呼ぶ。⊖呼ぶ。使役・手紙などで人を呼ぶ。称するの意では ʔjuN (言う) を用いる。⊖(女郎を)買う。'jubarijuN. (女郎が) 客に買われる。

'jucaⓄ (名) 年配の意。老人について、年がいもなくという意の場合に用いる。慣用語のほかは、単独では用いない。複合語では、'jucanumuN (年配者), ʔanujuca (あの年) など。'jucaa neen. 年がいもなく。

'jucaa=juNⓄ (自 =raN, =ti) (心が) 合う。また、(境遇などに) しっかり合う。cimu-nu ~. イ. 心が合う。気が合う。ロ. 心がなごむ。機嫌がよくなる。

'jucanumuNⓄ (名) 年とった者。年とって思慮あるはずの者。年配の人。~ ʔNzi-tooti. いい年をしながら。

'jucciⓄ (名) [雪] あられ。雪は降らないから、韻文などに雪とあるのもあられをさす。

'jucciⓄ (名) 時刻のよつ。午前午後の10時。

'jucciʔasiⓄ (名) 四つ足。四足獣。主として牛・馬・豚など家畜をいう。

'jucciʔazimaaⓄ (名) 四つ角。十字路。kazimajaa ともいう。

'juccidakiⓄ (名) 四つ竹。竹製のカスタネット。両手に竹片を各二枚ずつ持ち、手のひらを閉閉し打ち鳴らして踊る。ʔucinarasi narasi ~ja naraci, kijuja ʔu-

- za ʔNziti ʔaʃibu ʔurisja. [打ち鳴らし鳴らし 四つ竹や鳴らち 今日や御座出でて 遊ぶうれしや (港原節)]四つ竹を大いに打ち鳴らして、お座敷に出て踊るきよのうれしさよ。
- ʔjuçigun① (名) 祝いなどの時の正式のお膳・飯・汁・ʔutibici・酢のもの四種類が揃ったごちそう。四つ組の意。くわしくは ~nu ʔuhurumee という。ʔjuuçii ともいう。
- ʔjuçii① (名) 余分。余計。~na kutu. 余計なこと。~nu mun. 余分のもの。
- ʔjuçiihwa① (名) 余裕。金、消費する物などに余裕があること。gunzuunu ~N neeraN. 一厘の余裕もない。
- ʔjuçii=jun① (他 =raN, =ti) 儉約して余裕を出す。余裕を残す。coosii ~. 一食分の余裕を出す。
- ʔjuçiju① (名) 夜露。
- ʔjuçijuçiiitu①① (副) ゆらゆらと。余裕綽々と。ゆったりと。ʔjuçiqteen ともいう。
- ʔjuçiku① (名) 豊か。富裕。~na mun. 富裕な者。~ni. 豊かに。~ni sudatijun. 何不自由なく育てる。
- ʔjuçimi① (名) 余裕。(物質的な、また精神的な) ゆとり。~nu neeraN. 余裕がない。~ çikijun. ゆとりを持たせる。
- ʔjuçinuʔunjuhwee① (名) ʔunjuhwee の項参照。
- ʔjuçiqteen① (副) ゆったりと。ゆらゆらと。余裕綽々と。ʔjuçijuçiiitu ともいう。~ sjoon. ゆったりとしている。
- ʔjuçisan① (形) 余裕がある。ゆったりしている。ゆとりがある。たっぷりしている。心にも物質にもいう。kunu ʔuubee ~. この帯は長さがゆったりしている。kurasinu ʔjuçiku najun. 暮しにゆとりができる。
- ʔjuçisimu① (名) あられや冷雨。
- ʔjuçiwai① (名) ʔjuuçiwai と同じ。
- ʔjuda① (名) 枝。ʔida ともいう。
- ʔjudaci① (名) 末裔。傍系。分家筋。(枝系の意か) muutu に対する。
- ʔjudaçi① (名) 胸かけ。山原地方の婦人が、着物の上に首から掛けて胸をおおるもの。ʔwaga ~ haziti satuni ʔucikusiti, ʔumukazinu tataba ʔwannitumuri. [わがゆだつはづて 里に打着せて 佛の立たば 我胸ともれ] わたしの ʔjudaçi を脱いでわが恋人に着せておいて、わたしを思い出した時には、それをわたしの胸と 思って下さい。
- ʔjudahwaa① (名) 枝葉。ʔidahwaa ともいう。
- ʔjudai① (名) よだれ。~ daradara. よだれをたらたら。~ hwicun. 食物がくさって糸を引く。
- ʔjudaikuuzoo① (名) 子供がよだれをたらししてしゃべること。また、転じて、おとながいつまでもむだ口をきくこと。~ sjun.
- ʔjudamuci① (名) 枝ぶり。ʔidamuci ともいう。
- ʔjudan① (名) 油断。また、怠慢。kwaqçii saa ~ sjuna. (諺) 御馳走になったら油断するな。また、御馳走になったら働け。~ sjooti ʔinutimai. なまけていて同じ賃金をもらえるか。
- ʔjudantaʔari① (名) 怠慢。なまけること。
- ʔjudidaku① (名) ゆでだこ。
- ʔjudi=jun① (他 =raN, =ti) ゆでる。りでる。
- ʔjuditamagu① (名) [新] ゆで卵。
- ʔjudiziru① (名) ゆで汁。りで汁。
- ʔjudumaihwiduʔmai① (名) たびたび泊ること。夜泊り日泊りの意。~ sjun. たびたび泊る。~nu ʔuhusan. たびたび泊ることが多い。
- ʔjudumi=jun① (他 =raN, =ti) ⊖(水を) よどます。⊖とどまらず。引き止める。滞在させる。

'judunun

- 'judu=nun① (自 =maN, =di) ㊦よどむ。
(水が)とどこおる。㊦立ち止まる。また、
とどまる。一箇所に長逗留する。
- 'jugahuu① (名) [世界報] 豊年。ʔama-
juu, mirukujuu ともいう。
- 'jugahuudusi① (名) [世界報年] 'juga-
huu と同じ。
- 'jugakiti① (副) 夕暮れに。日が暮れて。夕
方に。～ kuuwa. 夕方になってから来い。
- 'jugami① (名) 'jugaN と同じ。
- 'jugami=jun① (他 =raN, =ti) ゆがめる。
歪曲させる。
- 'juga=nun① (自 =maN, =di) ゆがむ。曲
がる。歪曲する。よこしまになる。
- 'jugan① (名) ゆがみ。'jugami ともいう。
- 'jugawai① (名) 'juugawai と同じ。
- 'jugeene① kanaan① (句) ㊦力が弱い。
無力である。力が無い。～ muN. 力のな
い者。㊦力もないくせに。～ meenainai
qsi, hwiqkudoori. 力もないくせにで
しゃばって、引っこんでいろ。
- 'juguri① (名) よごれ。よごれたところ。
- 'juguri=jun① (自 =raN, =ti) よごれる。
きたなくなる。
- 'jugu=sjun① (他 =saN, =ci) よごす。き
たなくする。
- 'juhoobun① (名) [四方盆] さかずきをの
せる四角の台。さかずき台。
- 'juhudu① (名) 余程。大分。～ masi na-
toon. 大分よくなった。～ nu kutu. よほ
どのこと。
- 'juhuku① (名) 'juuhuku と同じ。
- 'juhwan① (名) 'jahwan (夜半) と同じ。
- 'juhwara① (名) [文] わきばら。口語は
'joora. rakubuqinu miʔubi ~ ʔusi-
mawaci, sjunzanasimedei di 'wane sa-
dara. [らくぶつの御帯 よわらおし廻ち
首里ぎやなしみやだい でわないさだら]
三司官の大帯を腰にしまって、首里王府の御
奉公に、さあわたしは先がけしよ。

- 'juhwi=jun① (自 =raN, =ti) [古] 身請け
する。普通は dusiru ʔirijun (身のしろ
金を払う) という。
- 'juhwina① (名) 饒平名。《地》参照。
- 'jui① (名) 'juju と同じ。
- 'jui① (名) ゆり(百合)。
- 'jui① (名) ゆえ。せい。taajuiga. だれの
せいにか。
- 'jui① (名) 脊。～N ʔakaqicin narisi ʔu-
mukazinu tatan hwija nesami sjuja-
nu cimuri. [脊も朧も 馴れし俵の 立
たぬ日やないさめ 塩屋の煙(花売の縁)]
脊も朧も思う人の面影が塩たく家の煙のよ
うに立たない日はない。
- 'jui① (名) ふるい。穀物のからをより分け
る道具。浅く広い円形をしている。
- 'juimuN① (名) 漂着物。流れついたもの。
- 'juinagasan① (形) 'jujunagasan と同
じ。
- 'juju① (名) 竹などの節と節との間。「よ」
(古語)と関係ある語。
- 'jujunagasan① (形) [文] (竹などの) 節
と節との間が長い。また、子供のすねの長
いことなどにもいう。ほっそりしている。
- 'ju=jun① (自 =raN, =ti) ㊦寄る。近づく。
一方へ寄る。片寄る。neenu ~. 地震が
起きる。㊦集まる。qcunu ~. 人が集ま
る。㊦立ち寄る。㊦(年が) 寄る。'jujuru
tusi. 寄る年。
- 'jujuzura① (名) [文] 植物名。maani(く
ろつぐ)の文語。節々が美しいものの意。
sakamutunu ʔibija danzu tujumari-
ru, ~ga cumutu kubanu mimutu. [坂
本のいべや だんじよとよまれる よよぎ
よらが一本 こぼの三本(坂本節)] 坂本
の拜所はほめはやされるのはもっともなこ
と。くろつぐが一本、びろろが三本あって
いかにも由緒ありげである。
- 'jujuzurasan① (形) [文] 節と節の間がす
んなりして美しい。なよなよと美しい。

'juka① (名) ゆか。床。家の中の板張りの、畳を敷けるようになっているところ。畳の敷いてない場合には、karajuka という。
-ju^oka (助) より。老人が言う。意味は -jaka と同じ。

'jukaaqcu① (感) ⊖御苦労さま。老女が目下の労苦を謝する場合にいう。⊖いい子ね。おりこうね。女が子供をほめる時にいう。

'jukagita① (名) 床を支えるためにさし渡す細い材木。

'jukai① (名) ⊖かなり。相当。主として量についていう。ziNnu ~ ʔasa. 金が相当あるよ。~nu diki. 相当の収穫。~namuN. 相当な者。⊖(接頭) かなりの。相当の。'jukaihataraci (相当な働き), 'jukaimuN (相当な者), 'jukaiʔuqsa(相当の量), ziN 'jukaidamii seen. (金を相当ためてある), 'jukaisuN 'jaqsaa. (大損だよ) など。

'jukaiʔNmu① (名) よくできたさつまいも。

'jukaiʔNni① (名) よくできた稲。

'jukaiʔuqsa① (名) 相当の量。かなりの量。

'juka=juN① (自 =raN, =ti) おい茂る。繁茂する。また、(作物が) よくできる。よくみえる。ʔNninu 'jukatoon. 稲がよくみえている。

'jukamuci① (名) 根木(ねだ)。床板を支えるためにある、床下の横木。

'jukaqcu① (名) 士族。samuree ともいう。

'jukaqcuNgwa① (名) 士族の子。'jukaqcuNgwaa hootuNgwa. 士族の子は鳩の子のように美しい。

'jukaru① (連体) [文] よき。縁起のよい。cuunu ~ hwini. [今日のよかる日に] きょうのよき日に。

'jukasja① (名) 床下。床板の下。

'jukeN① (名) 四回。四度。

'juku① (名) 欲。欲望。おもに悪い意味に

用いる。~ sjuN. 欲ばる。欲ばったことをする。不当に欲ばって他に被害がおよぶ場合にいう。ziN 'wakiini ~ qsi ʔuhoku tutan. 金を分けるのに、欲ばって多く取った。

'juku① (名) 横。tati(縦)の対。また、側方。「横になる(寝る)」には nagabooi sjuN (長長と寝る) などという。

'juku① (副) なお。さらに。もっと。一層。"ʔjaaja curasan." "ʔunzoo ~." 「おまえは美しい。」「あなたはもっと。」tucii noosanDi qsi, ~ 'jantan. 時計を直そうとして、かえってこわした。qkwa ʔiinaraasi qsi, ~ 'waruku nataN. 子供を教育してお悪くなった。

'jukubai① (名) ⊖横ばり。横に行くこと。わきへそれること。蛇口から水がわきへそれる場合などをいう。⊖まっすぐ家へ帰らずによからぬ所へ行くこと。よからぬわき道をする。~ sjuN.

'jukudui①(名) 横取り。~ sjuN.

'jukudusi① (名) 翌年。naajaan ともいう。

'jukugan① (名) 誤解。また、邪推。~ tujun. 誤解する。邪推する。

'jukugau① (名) 横顔。'jukugao curasan 'jaa. 横顔はきれいだねえ。

'jukui ① (名) 休憩。休息。いこい。

'jukui① (名) [文] ゆくえ。nasaki ʔatikaraja ʔumijamanu sukun, tazinirana ʔucumi ʔariga ~. [なさけあてからや 海山の底も 尋ねらなおきゆめ あれが行くゑ] 愛情があるからには、彼女のゆくえを海山の底までも尋ねないではおくものか。

'jukuidukuru① (名) 休み所。休憩所。

'jukuimaaru①(名) 休む番。休息の番。

'jukujai① (名) (着物などの) かぎざき。横破りの意。

'jukujuku① (名) [新?] よくよく。余程

*jukujun

- の。万やむをえない場合。～nu kutu. よくよくのこと。
- *juku=juN①(自 =raN, =ti) ⊖ 休む。休息する。いこう。⊖ 横になって休む。寝る。また、病臥する。
- *jukumi①(名) [横目] 役名。目付役。監視官。'jamatujukumi, 'uuzijukumi, 'igucijukumi などがある。
- *jukumi①(名) わき見。よそ見。
- *jukumici①(名) ⊖ 横道。わき道。支道。また、方向違いの道。⊖ わき道。邪道。
- *jukumizi①(名) 横に引いた水。田などで、水の流れから直角の方向に引いた水。
- *jukumui①(名) 錢 400 文。8 厘に当たる。ziN(錢)の項参照。
- *jukumunii①(名) 顧みて他を言うこと。相手の問にまっすぐ答えず、はぐらかすこと。～ sjun.
- *jukumunuʔii①(名) 'jukumunii と同じ。
- *jukunee①(名) 宵。晩。
- *jukuneegurasiN①(名) 宵やみ。月の出のおそい晩の暗いこと。
- *jukuneeiiibui①(名) 宵の口から眠たがること。～ sjun.
- *jukuneeiiibujaa①(名) 宵の口から眠たがる者。子供などについている。
- *jukuneezicuu①(名) 宵月夜。夕月夜。宵の間だけの月夜。上弦の月の夜。
- *jukunumata①(名) 欲の股の意。次の句でいう。～ sakijun. 欲ばりすぎて大損をする。
- *jukunuudii①(名) 横喉の意。飲食物を急いで食べた時にむせるところ。～ Nkai ʔiqooN. 食物が気管に入ってむせる。
- *jukun①(副) さらに。なお。もっと。一層。～ curasaN. 一層美しい。
- *jukusi①(名) うそ。いつわり。
- *jukusi①(名) [文] 行く末。
- *jukusimunii①(名) うそ。うそごと。うそをつくこと。～ ja zoonu ʔweemaN

- tuuran. うそは門の閤も通らない。うそは長続きしない。～ sjun. うそをつく。
- *jukusimuniisja'a①(名) うそつき。うそをつくる者。～ ja nusudunu ʔuja. うそつきは泥棒の親。うそつきは泥棒の始め。
- *juku=sjun①(他 =saN, =ci) ⊖ 讒言する。中傷する。⊖ 誘う。誘惑する。かどわかす。また、横取りする。'junu hukirumadin nugasi ʔumisatuja, 'jukusariga sica-ra ʔatin neraN. [よのふけるまでものがす思里や よこされがしちやら あてもないらぬ] 夜がふけるまでもどうしたとか、思ふ人は他に誘われたのかゆくえがわからない。⊖ あるべき方向から横にそらす。水の流れなどにもいう。
- *jukutee=juN①(他 =raN, =ti) ⊖ 横たえる。横向きに置く。⊖ (竿などを) 渡す。
- *jukuu①(名) 欲張り。'jukuu と同じ。
- *jukuujukuu①(副) よくよく。つくづく。～ NNzuN. よくよく見る。
- *jukwaa=sjun①(他 =saN, =ci) 休ませる。動物の働くのを休ませる場合にいう。
- *jumaNgwi①(名) 夕まぐれ。'jusaNdi などの語に比べ、一種の寂寥感のある語。
- *jumi①(名・接尾) 織機の筈(おさ, huduci)の粗密をあらわし、同時に経糸の密度(布の地合い)を示す語。織りの細かさ。おさ羽 40 枚を kujumi (一読み) とする。1 枚の間に経糸 2 本を通すので kujumi は経糸 80 本である。nanajumi (七読み) から hateen (二十読み) まである。huduci の項参照。～ ʔiqooN. 布の地合いが密である。織りが細かい。
- *jumi①(名) 弓。武器の名。～ N ʔijaN turaN. 弓も矢も取らない。少しも謀叛の心はない。謀叛の心のない者が疑われた場合にいう。
- *jumi①(名) 嫁。息子の妻。嫁した女。その敬語は ʔweejumi. ～ nasjun. 嫁にやる。～ tujun. 嫁をもらう。

'jumici① (名) 夜道。'juumiciともいう。
 'jumi'duimuku⁽¹⁾dui① (副) 嫁にやったり
 婿をもらったりするさま。ʔanu ʔaatu ~
 sjun. あの家と嫁をやったり婿をもらっ
 たりする。~ sjuru naaka. 嫁にやっ
 たり婿をもらったりする間柄。
 'jumihai① (名) 弓張りぢょうちん。
 'jumiʔibiraa①* (名) [新?] 嫁をいじめる
 者。嫁いびりするしゅりとめ。
 'jumija① (名) 弓矢。弓と矢。
 'juminuʔija① (名) 弓の矢。ʔija は矢。
 'jumu① (名) [文] よも。四方。~nu ci-
 cicinu ʔumusiruja. [四方の景色の面白
 や(四季口説)] 四方の景色のおもしろ
 や。
 'jumu- (接頭) 頭悪・嫌悪の意を表わす接
 頭辞。いやな。…め。'jumuwinagu (あま。
 女をののしっている語), 'jumudui (鳥
 め) など。'jun- の項参照。
 'jumudui① (名) 鳥め。鳥をののしって
 いう語。'jumudujaa ともいう。⊖[古] 雀。
 'jumuduiguci① (名) くちびるのわきが白
 く化膿すること。からすの灸。
 'jumudujaa① (名) 'jumudui と同じ。
 'jumukubi① (名) 首の卑語。首ったま。
 tamamuranu ʔazinu mijuçizinu ʔu-
 migwa ʔugaga ~ja ʔunuzumiju de-
 munu, ʔisuzi kubi susuti dijoori di-
 joori. [玉村の接司の 御代継の思子 お
 ががよも首や お望みよだいもの 急ぎ首
 そそて でやうれでやうれ(忠臣身替)] 玉
 村の接司の代つぎの御子がおまえの首をお
 望みだから、急いで首をふいて出てこい。
 'jumuwinagu① (名) あま。女め。女をの
 のしっている語。
 'jumuziramiQkwee① (名) たまらなくか
 わい顔。あまりかわいのでわざと「に
 くい顔め」のように言ったもの。
 'juna① (名) 与那。《地》参照。
 'juna- (接頭) ⊖米の。'junabaakii(米を入

れるざる) など。⊖砂の。砂利の。'juna-
 mici (砂の道) など。'junabaru [与那
 原], 'junaguni [与那国], 'junaguşiku
 [与那城] などの地名の 'juna- も砂の意
 と思われる。

'junabaakii① (名) 米などを入れる、密に
 編んだざる。
 'junabaru① (名) 与那原。《地》参照。
 'junabarumazikuN① (名) 魚名。鯛の一
 種。美味で第一等の魚である。
 'junagata① (名) 終夜。一晚中。夜通し。
 'junagatasanagata① (名) 一晚中。夜通
 し。saasa ~ 'wan tatiti, cikusjoomuN.
 [さあさ 夜ながたさながた 我身立てて畜
 生者(かまやしな節)] サーサ(はやし),
 一晚中わたしに立ちんぼをさせて待たせ
 て、ひどい人。遊女が客を恨んでいう文句。
 'junaguni① (名) 与那国島。八重山群島の
 島の名。琉球列島の西端の島。
 'junaguşiku① (名) 世名城。《地》参照。
 'junaguşiku① (名) 与那城。《地》参照。
 'junahwa① (名) 与那覇。《地》参照。
 'junahwadaki① (名) 与那覇岳。国頭地方
 にある山の名。
 'junahwadoo① (名) 与那覇堂。《地》参
 照。
 'junaka① (名) 夜中。夜半。深夜。
 'junakamudui① (名) ⊖夜中に帰ること。
 ⊖遊郭で夜を明かさずに、夜中に家に帰る
 こと。
 'junaN① (名) 四男。第四番目の男の子。
 'junaNka① (名) 四七日。死後28日目に嘗
 む法事。
 'junaNmi① (名) 与那嶺。《地》参照。
 'junazi① (名) 麻・芭蕉布などの洗濯に用
 いる液。米酢の意。重湯・かゆなどを腐ら
 せ、残飯あるいは米のとぎしるなどを加え
 て作る。その酸味により、麻・芭蕉布が光
 沢よく涼しく晒される。'junazi のかわり
 に şikwaasjaa (橘の一種) の汁を用いる

'juni

こともある。

'juni① (名) ①米。②砂。šina の雅語。

'juninuʔuiwee① (名) 'juninuʔujuwee と同じ。

'juninuʔujuwee① (名) 米寿の祝。tookaciʔujuwee と同じ。

'jununaka①① (名) 世の中。世間。

'jununusi① (名) [文] もと一国の元首の意だが、後に一城の主すなわち按司 (ʔazi) にいうようになった。dijooocarumunuja simazirinu ~ 'eezinu ʔazi [出様ちやる者や 鳥尻の世の主 八重瀬の按司 (忠臣身替)] まかり出た者は鳥尻の城主である八重瀬の按司。

'ju=nun① (他 =maN, =di) ①読む。sjumuçi ~. 本を読む。②数える。tinnu buribusija 'jumiwa 'jumarijui, ʔujanu 'jusigutuja 'jumin naraN. [天のぶり星や 読めば読まれゆい 親の寄せ言や 読みもならぬ] 天の群星は数えれば数えられるが、親の教訓は数えることもできない。③しゃべる。munu ~. しゃべる。④詠む。ʔuta ~. 歌を作る。

'juN- (接頭) 嫌悪の意を示す接頭辞。'juNgasimasjaN (やかましい), 'juNgusamici (立腹), 'juNhagoosaN (きたならしい), 'juNgusasaN (いやなにおいがする) など。名詞に付く場合には 'jumu- となることが多い。

'juNci① (名) [古] [奇満] 首里城の建物の名。

'juNcu① (名) [古] [与入] 麩藩前、先島・久米島にあった役名。

'juNgasimasjaN① (形) かしましい。やかましい。うるさい。

'juNgusamici① (名) 憤慨。立腹。腹立たしく思うこと。

'juNgusasaN① (形) いやなにおいがする。とてもくさい。

'juNhagoosaN① (形) きたない。きたなら

しい。

'juNkaNsi=ju'N① (自 =raN, =ti) シャベりまくる。シャベり立てる。'juN-<'ju-nuN。

'juNnu① (名) 与論島。奄美群島最南の島。

'juNnuʔirabu① (名) 与論島と沖永良部島。

'juNnuju'ta① (名) 死後49日目の夜、mabuiwakasi の祭りで、'juta (占いをする巫女) を呼んで行なう、死人の口寄せ。死んだのは運命であったとか、祖先の祭りを怠ったためであるとか、いろいろの報告がされる。また、それを行なう 'juta. sinmajuta ともいう。~ 'isijuN. 'juta が神がかりの状態になって、死人になりかわることをいう。

'juNtaa① (名) おしゃべり。饒舌家。

'juNtaahwi'Ntaa① (副) 'juntakuhwintaku と同じ。

'juNtaku① (名) おしゃべり。~ sjun.

'juNtakuha'Ntaku① (副) 'juntakuhwintaku と同じ。

'juNtakuhwi'Ntaku① (副) むやみにしゃべるさま。べらべら。

'juNtakuu① (名) おしゃべりの者。

'juNtaNza① (名) 読谷山。《地》参照。

'juNzici① (名) 閏月。ʔuruʔici ともいう。

'juNziri① (名) 足の寝にできる、あかぎれに似た裂け目。はだしで歩く労働者などに多くできる。寒さのためにできるとは限らない。ʔasiziri ともいう。

'juoogasima① (名) 硫黄島 (ゆおうじま)。薩摩半島の南にある三島の一つ。

'juQcai① (名) [文] 往復。行き帰り。harunu ~ni...[原の行きやひに... (銘苅子)] 畑の往復に...

'juQka① (名) よっか。月の第四の日。また、一日の四倍。

'juQkanuhwii① (名) 旧暦5月4日。gun-gwaçi ~ともいう、一年中で最大の厄日とあるので、子供に元気をつけ、喜ばすため、

各家庭で玩具を買って子供に与える。そのために玩具市が立つ。幼児には ?uqciriku-busi (起き上がり小法師), baNbatāa (振って鳴らす小さいつづみ) など、大きい男の子には taci (太刀), haaçiburāa (お面), caNcaN?Nmagwaa (チャンチャンとなる馬の玩具) など、女の子には ?umēntuu (紙人形) や ?umēntuubaku (紙人形箱) など、いろいろなものを与える。各家庭では cinbin, poopoo などのごちそうを作る。また、那覇ではこの日 haa-rii (ペーロン=爬龍船競争) が催される。

'juqkaziiru① (名) [四日地炉] 子供が生まれて四日目に行なう祝宴。その日は厄日とされるので、親類・知人・隣人などを招いてごちそうし、歌舞音曲、組踊りの朗読などしてにぎやかに徹夜した。ziiru はその項参照。

'juqkwa=sjuN① (他 =saN, =ci) (日を) 暮れさせる。道中や仕事なかばなどで日が暮れる場合にいう。qcuu 'jaauti 'juu 'juqkwacān. 人の家で、日が暮れてしまった。

'juqkwi① (名) 世富慶。《地》参照。

'juqkwi=jun① (自 =raN, =ti) (日が) 暮れる。'juu ~. 日が暮れる。「日 (hwii) が…」とはいわずに、「夜 ('juu) が暮れる」という。

'juqtai① (名) よったり。四人。

'juqtaikwa'qtai① (副) 桶・池・容器などの中で液体が揺れ動いて、音を発するさま。たぶたぶ。~ sjuN.

'juraa=jun① (自 =raN, =ti) 'jurajuN と同じ。

'juraa=sjuN① (他 =saN, =ci) ⊖ (人を) 集める。集合させる。⊖一食分を分けて食べさせる。母子が一つの椀から食べる場合、また、子供ふたりに一食を分けて食べさせる場合などをいう。

'jura=jun① (自 =aN, =ti) 一食分を分け

合って食う。また、分けてもらって、いっしょに食事する。bin-too tiici 'jurati kanun. 一つの弁当を分け合って食べる。

'jurarijaa① (名) なまけ者。遊び人。

'jurari=jun① (自 =raN, =ti) なまける。むだに時を過ごす。また、道草を食う。

'jurasihai① (副) なまけがち。

'jurasimun① (名) なまけ者。'jurasjaa ともいう。

'jurasjaa① (名) 'jurasimun と同じ。

'juratii① (名) 一つの器から食物を分け合って食うこと。~ sjuN. 分け合って食べる。~ simijun. 分け合って食べさせる。

'juree① (名) 無尽講。頼母子講。muee ともいう。寄り合い (集会) の意だが、単なる集会は普通, surii (揃いの意) という。

'jureeci① (名) 由来記。naciziN ~. [今帰仁由来記] 書名。

'juree=ju'N① (自 =raN, =ti) 寄り合う。集まる。集会する。

'jureenukuzi① (名) 無尽講の金を受けとるくじ。容易に当たらない例にされる。

'jureenu'zubuN① (名) 結婚式で新郎新婦が同一膳で同一の食器から分けて食う儀式。

'juresi'gutu① (名) 集まってする仕事。寄り合い仕事。

'juresi'idu① (名) 'juree (無尽講) の親。無尽講の発起人。

'jurii① (名) ⊖ 休暇。~ 'iijun. 休暇をもらう。~ ?nzasjun. 休暇を出す。~ tu-jun. 休暇をとる。⊖許可。免許。tiqpuunu ~ muqcooN. 鉄砲の免許もっている。~ tujun. 許可をとる。免許をとる。

'juru① (名) ⊖ 夜。'juu よりもいくらか文語的。⊖(接尾) 夜。晩。夜の数・宿泊の数などを数える時の接尾辞。cujuru (一夜、一晚), tajuru (二夜、二晩) など。

'juruhwiru① (名) 夜昼。日夜。夜も昼も。

'jurui① (名) 鎧。戦いに着るもの。

'juruitu

'juruitu① (副) ゆるりと。のんびりと。くつろぐさま。'juruqtu ともいう。～ natan. ほっとした。一安心だ。

'jurujunaka① (名) 夜よなか。真夜中。

'jurujuru① (副) ゆるりと。'juruitu と同じ。

'jurukubi① (名) よろこびごと。めでたい事。～nu ?an. よろこびごとがある。

'juruku=buN① (自 =baN, =di) ⊖[文] (めでたいことを) よろこぶ。ことほぎ祝う。⊖[新] 喜ぶ。?uqsja sjuN というのが普通。

'jurumi=juN① (他 =raN, =ti) ゆるめる。ゆるくする。?uubi ～。帯をゆるめる。

'jurumiqkwa① (名) 鳥目(とりめ)。夜盲症。また、鳥目の者。

'juruqtu① (副) 'juruitu と同じ。

'jurusan① (形) ⊖ゆるい。⊖手ぬるい。?ansi nuratin 'jurusadu ?aru. あれだけ叱っても手ぬるい。

'juru=sjuN① (他 =saN, =ci) 許す。

'juruzinamuN① (名) 間食に食ういろいろの物。菓子・果実など。よろずのものゝ意。

'jusajusa① (副) ごたごた。事が起こって落ち着かないさま。～ sjoon. ごたごたしている。

'jusaNdi① (名) 夕方。夕暮れ。日暮れ時。

'jusaNdi?akagai① (名) 'jusaNdi?akeei と同じ。

'jusaNdi?akee① (名) 'jusaNdi?akeei と同じ。

'jusaNdi?akeei① (名) 夕焼け。

'jusaNdbana① (名) 植物名。おしろいばな。夕化粧。紅・白・紫などの花が漏斗状に咲く。

'jusaNdimaci① (名) 宵市。夕方に立つ市。魚市は朝のところが多いが、首里は海がない関係で夕方立つ。?waagwaamac (豚

市), tuimaci (鶏市) など、多くが日暮れところに始まる。

'jusi?asi① (名) よしあし。善悪。可否。～N 'wakaran. よしあしもわからない。～nu hwizi hweeku qsi kwiri 'joo. 可否の返事を早くしてくれよ。

'jusibin① (名) 錫製の器の名。形はとっくり (tuqkui) に似て、とっくりよりやや口が大きい。祭祀や婚礼などの時には酒を入れる。

'jusidoohu① (名) おぼろ豆腐(料理名)。

'jusiga① (名) [文] よもすがら。終夜。一晚中。hujunu 'junu ～ tageni katajabira. [冬の夜のよすが 互に語やべら(執心鐘入)] 冬の夜の夜もすがら互いに語りましょう。

'jusigutu① (名) 教訓。忠告。tinnu buribusija 'jumiwa 'jumarijui, ?ujanu ～ja 'jumin naran. [天のぶり星や読めば読まれゆい 親の寄せ言や読みもならぬ] 天の群星は数えれば数えられるが、親の教訓は数えることもできない。

'jusi=juN① (他 =raN, =ti) ⊖寄せる。cina ～。(綱引きで双方が) 双方の綱を互いに近付け合う。cinahwici (綱引き) の項参照。⊖忠告する。?arinkai ～。彼に忠告する。?ujajusi qkwajusi. [親寄せ子寄せ] 親が教えたり、子が教えたり。

'jušimi① (名) 四隅。四方の隅。

'jušimi=juN① (他 =raN, =ti) ⊖止まらせる。立ち止まらせる。⊖引き止める。思いとどまらせる。

'jusi=nuN① (自 =maN, =di) ⊖止まる。立ち止まる。とどまる。?isugu mici 'jusidi miru huduN ?akan, ?uciganikujamanu hazinu mumizi. [急ぐ道よしで 見る程もあかぬ 内兼久山のはじの紅葉] 急ぐ道を立ち止まっていつまで見てもあきない内兼久山のはぜの紅葉。sadamataru kutunu nja 'jusimarimi. [定またる事

の にやよしまれめ(孝行之巻)定まった運命がもはやとどまることができようか。⊖さしひかえる。思いとどまる。しんぼりする。'jusidi 'jušimaran kuinu nareja. [文] おさえてもおさえられない恋のことだから。

'jusiri=jun④(自 =ran, =ti) 参る。参上する。訪問する。伺候する。身分の上の人の家へ伺う。'jusirijabira. ごめん下さい。貴人の邸宅で案内を請う時のあいさつ。

'jušizimi④(名) [文] 夜のしじま。夜の静けさ。~ga nariba ?a 'ici 'urariran, tamakuganiçikenu nja curatumiba. [よすずみがなれば あみち居られらぬ 玉黄金使の にや来ゆらとめば] 夜のしじまが訪れると、ああ、じっとしてられない、恋しい方からの招きがもうすぐ来ると思うと。

'juši=zun④(他 =gan, =zi) ゆすぐ。ゆり動かして洗う。

'jusu④(名) [与所] よそ。よその場所。また、よその人。他人。'wagami çidi 'Neidu ~nu ?wija sijuru, muri širuna ?uciju nasakibikei. [我身つで見ちど 与所の上や知ゆる 無理するな浮世 なさけばかり] わが身をつねって人の身の上を知る。無理をするな、浮世は情だけで結ばれている。

'jusuhwicinu ?uzoo④(名) [よそへちのおちやう・右掖門] 首里城の門の名。?ugušiku の項参照。

'jusumi④(名) よそ目。人目。他人に見られること。~ maduhakati sinudi ?imori. [与所目まどはかて 忍でい参れ] 人目のすきをうかがって忍んでいらっしゃい。

'juta④(名) 巫女。いちこ。うらないを業とし、神を祭り、生霊死霊の口寄せを行なう女。「いたこ」(奥羽地方の巫女)と関係ある語か。

'jutajuta④(副) ゆらゆら。ゆれ動くさま。

'jutaka④(名) 豊か。豊富。富裕。kurasigatanu ~ 'jan. 暮らしが豊かだ。~na kurasi. 豊かな暮らし。

'jutami=cun④(自 =kan, =ci) ゆらゆらと動揺する。揺れ動く。ゆらめく。cimunu ~. 心が動揺する。

'jutamunii④(名) 'juta (巫女)の言うような迷信的なことば。御幣かつぎ。

'jutamunu ?ii④(名) 'jutamunii と同じ。

'jutasjan④(形) ⊖よい。いい。よろしい。良好である。善良である。'jutasja 'wawsa. よしあし。⊖よい。よろしい。承知許可の意にも、辞退の意にも用いる。'jutasja 'jutasja. よしよし。'jutasjabin. よろしゅうございます。

'juti=jun④(他 =ran, =ti) こぼす。誤ってまたは故意に水などを容器からこぼす。

'jutikeera=sjun④(自 =san, =ci) どっと押し寄せる。夕立・大量の水などがどっと押し寄せる場合にいう。?uhu ?aminu ~. 大雨がどっと押し寄せる。

'jutiri=jun④(自 =ran, =ti) (容器から液体などが) こぼれる。

'jutu④(名) ⊖四年。よとせ。⊖一昨昨年。おととしの前の年。四年前の意。

'juu④(感) 四。よ。よっつ。声を出して数える時にだけいう。

'juu④(名) 湯。

'juu④(名) 夜。~ 'juqkwijun. 日が暮れる。~nu 'akijun. 夜が明ける。~ ?akasjun. 夜を明かす。徹夜する。

'juu④(名) 世。代。~nu ?aru kaziri. 世のある限り。~ çizun. 代を継ぐ。

'juu④(副) よく。良好に。また、しばしば。~ ?jun. よく言う。悪く言わずに、よく表現する。また、しばしば言う。munoo ~ ?juru mun. ものはよく言うべきもの。事実はこのばに従うので、よく言った方がよいという意。~ 'NNZUN. よく見る。また、しばしば見る。~ sjun. イ。

'juuʔakasikantii

よくする。よくやる。口。気をつける。ハ。しばしばする。ʔujanu kutu ~ sjuN. 親によく尽す。ʔjaaga ~ siijuusjuNDi ʔumutoomi. おまえが自分でよくできているのか。~ sjuuru ʔimu 'jaʕiga, siijanti. 気をつけていたつもりだが、しくじった。~ ʔei. 気をつける。~ sja-biisa. 気をつけます。~ sandaree. ひょっとしたら。悪くすると。~ sandaree nusudu doo. ひょっとしたら泥棒だぞ。~ siinee. もしかすると。ひょっとしたら。~ siinee ʔacaurumee ʔami huju-sa. もしかすると、あしたごろは雨が降るよ。

'juuʔakasikantiiⓄ (名) 夜を明かしかねること。夜の明けるのを待ちかねること。ʔunniinee ~ 'jatan. その時には夜が明けるのが待ち遠しかった。

'juuʔakeeiⓄ (名) 夕焼け。ふつうは 'jusandiʔakeei あるいは 'jusandiʔakagai という。

'juuʔakiduusiⓄ (名) 夜通し。徹夜。~ hanasi sjun. 夜通し話をする。~ nusigutu 'jatan. 徹夜の仕事だった。

'juuʔakiduusiiⓄ (副) 夜通し。徹夜で。~ sjumuʕi 'judan. 徹夜で本を読んだ。

'juuʔakiwarabiⓄ (名) 夜が明けるように発育の早い子供。

'juuʔamaiⓄ (名) 余り物。使い残し。不用品。

'juubaimiiⓄ (名) 石垣の下にある、小さい排水口。ゆばり目の意。

'juubanⓄ (名) 夕飯。夕食。

'juubanbiceeⓄ (名) 夕飯代わり。

'juubanmanzaaⓄ (名) 宵の明星。金星。夕飯を欲しそりに見る者の意。manzaa-busi ともいう。

'juubanugaiⓄ (名) 夕飯の支度。

'juubanuiⓄ (名) 夕飯時。晩飯時。

'juubeeⓄ (名) 妾 (めかけ)。suba ともい

う。貴人の妾は ʔusuba という。「よぼひ」の転化か。~ tumeejun. 妾をもらう。

'juubeeNgwaⓄ (名) 妾の子。庶子。'juubeeenu ʔkwa ともいう。

'juubiⓄ (名) ゆりべ。昨晚。昨夜。cinunu 'juru (きのりの夜) は一昨晚の意となる。

'juubinuʔkwaⓄ (名) ふか。さめ類の大形のもの。昨晚の子の意。

'juuciⓄ (名) 小型のおの。手おの。よき。

'juuʕiⓄ (名) 四。よっつ。また、四歳。

'juuʕiiⓄ (名) 'juʕigun と同じ。

'juuciraⓄ (名) 次の句で用いる。'juuciraaneen. 何の益もない。無益な。むだな。~N neen hanasi. 何の役にも立たない話。むだ話。

'juuʕiwaiⓄ (名) 四つ割り。四つに分けること。'juciwai ともいう。

'juucuuⓄ (名) 泡盛を水で割ってかんをすること。また、そのもの。

'juucuuʔukaaⓄ (名) 'juucuu を盛るうつわ。

'juuduⓄ (名) ㊦よど。よどみ。よどむこと。㊦立ち止まること。㊦滞在すること。長逗留すること。~ sjun. 長逗留する。

'juuduriⓄ (名) タなぎ。

'juugaraʕiⓄ (名) 夕方に出てくる鳥。夕方に鳴く鳥の声はとくに不吉とされており、屋根の上で鳴くのを聞くと 'iikutu kata-ri. (よい事を語れ) と言ってまじなる。

'juugawaiⓄ (名) 世の変遷。世の移り変わり。また、革命など。'jugawai ともいう。

'juugee=sjunⓄ (他 =saN, =ci) 熱湯でやけどする。

'juuhukuⓄ (名) 裕福。富裕なこと。'juuhuku ともいう。~na ʔcu. 裕福な人。

'juuhuruⓄ (名) ふろ。~ ʔijun. ふろに入る。

'juuhurucinⓄ (名) ふろ銭。入浴料。

'juuhurujaaⓄ (名) ふろ屋。

- 'juuhwizui⑩ (名) 夕方冷えること。夜になって涼しくなること。
- 'juu'iricee⑩ (名) 夕方。夕暮れ。
- 'juu'irigata⑩ (名) 夕方。夕暮れ。日暮れ。
- 'juui⑩ (名) ①用意。～sjun. 用意する。②常備。Yiçi 'jatIn ~nu sakinu ?an. いつでも用意の酒がある。～nu kanzimuN. 常備の夜具。
- 'juujiui⑩ (感) トートー。鶏を呼ぶ声。
- 'juu=juN⑩ (他=raN, =ti) ①結う。karazi ~. 髪を結う。②縛る。?juru kutu cikaNdaraa 'juurarijuN doo. 言うことを聞かないと縛られるぞ。
- 'juujuu⑩ (名) 鶏の小児語。
- 'juujuutu⑩① (副) ゆうゆうと。ゆっくり。のんびり。～simišeebiree. ごゆっくりなさいませ。
- 'juujuuturaasjan⑩ (形) のんびりしすぎる。のんきすぎる。気長である。
- 'junkaagi⑩ (名) 夕方、日が西に傾き、道路などに陰ができて涼しくなること。またその時刻。夕陰。日中は暑いので、?asa-kaagi か 'juukaagi に出歩くように心がける。
- 'juuki⑩ (名) ①夜遅くまで起きていること。夜ふかし。②出産の時や病人の看護の時に、親類の者が集まって徹夜すること。出産の時には、産後一週間は魔物が子の命をねらうので、親類の若い男女が交代して徹夜した。ごちそうや酒が出され、にぎやかに組踊りなどを朗読して夜を明かす。
- 'juukuu⑩ (名) 欲張り。'jukuu と同じ。
- 'juukuujuukuu⑩ (副) よくよく。じゅっくり。老女が多く用いる語。～'NNcakutu. よくよく見たら。～soodan qsi 'NNdee. よくよく相談してみれば。
- 'juumaai⑩ (名) 夜警。夜回り。夜、拍子木を打って回り、警戒すること。また、その者。
- 'juumici⑩ (名) 夜道。'jumici と同じ。
- 'juumiçi⑩ (名) 湯水。～çikajuNnee zIn çikajuN. 湯水を使うように銭を使う。
- 'juumuu⑩ (名) ①[古] 猿。普通には saaru という。その項参照。②猿のような者。口のとがった者への悪口としていう。
- 'juumuuguci⑩ (名) 猿のような口。とがった口の悪口としていう。
- 'juumuuzira⑩ (名) 猿のようなつら。口のとがった顔の悪口としていう。
- 'juuna⑩ (名) 植物名。はまぼろ。おおはまぼろ。しまはまぼろ。黄檗。あおい科の灌木。花は黄色、葉は円形で厚く、農村で食物をのせたり、ちりがみの代用にしたりする。
- 'juunaabi⑩ (名) 夜なべ。夜業。
- 'juunaabii⑩ (名) 夜なべする場所。夜業の作業場。
- 'juunaagaasja⑩ (名) 'juuna の葉。kaasja は広い葉。
- 'juunuku⑩ (名) 麦こがし。砂糖を入れ、粉のまま、または熱湯をそそいで練りかためて食べる。
- 'juunusaci⑩ (名) 世間の将来。世の先の意。～hakarataru qcuja 'uraN. 未来のことを察知した人はいない。
- 'juurii⑩ (名) 幽霊。死人の霊。着物はわかるが顔はわからず、厚みがないとされる。足は特に問題にされない。また、姿がなく声だけのものもある。
- 'juuriibanasi⑩ (名) 幽霊の話。怪談。
- 'juusibai⑩ (名) 寝小便。
- 'juusin⑩ (名) 用心。念のためにすること。～nu tamini naa Pihwee zIn muqei ?ikee. 用心のために、もう少しはお金を持って行けよ。
- 'juusi'ta⑩ (感) ざま見ろ。いい気味だ。～'jasa. ともいう。?ansitakutu qei ~. そんなことをしやがって、ざま見ろ。
- juusjuN (接尾・不規則) …することができる。…される。主体にその能力があること

'juusjuu

を示す。-rijun とは意味が異なる。その項参照。動詞の「連用形」または「連用形」から末尾の i を除いた形に付く。tujun (取る)→ tui- (取り)→ tuijuusjun, tuijuusjun (取ることができる) など。

'juusjuu① (名) [文] 幼少。～nu kuru. 幼少のころ。

'juusjuugwaa① (名) おさな子。幼少の子供。～nu 'uN. おさな子をかかえている。

'juutee① (名) 遊蕩人。遊び人。ごろつき。

'juutuzi① (名) ㊦夜伽。夜のつれづれを慰めること。㊦出産・看護・葬式の夜などに、家族・近親の者が集まって、世話・相手などをすること。

'juuʔubun① (名) 晩御飯。'juuban の丁寧語。

'juuwaa① (名) 硫黄。

'juuwaabii① (名) 硫黄が燃える時の青い火。動物を窒息させるため、蛇の穴などでたく。

'juuwee① (名) 祝い。ʔiwee ともいう。敬語は ʔujuwee, ʔuiwee。

'juuzi① (名) どてら。袖のある、厚い綿を

入れた広幅の夜具。

'juuzi① (名) 与儀。《地》参照。

'juuzikii① (名) 湯づけ。飯に湯をそそいだもの。

'juuzu① (名) 用事。しなければならないこと。

'juuzuci'rimuN① (名) 用のなくなった物。無用の物。

'juuzuka'ci① (名) 用事。用足し。-kaci は反復の意の接尾辞。

'juza① (名) 与座。《地》参照。

'juzadaki① (名) 与座岳。島尻郡にある山の名。

'juzee① (名) 余財。余裕のある財産。

'juzeemuci① (名) 財産家。金満家。金持ち。

'juzi=juN① (他 =raN, =ti) 譲る。譲渡する。また、譲歩する。また、(土地・財産などを) 売り渡す。

'juzimi① (名) 夜詰め。宿直。夜勤。

'juziri① (名) 親などから譲り受けたもの。遺産・遺業、遺伝した性質など。

'juzuu① (名) 夜中。夜っぴて。夜通し。

-ka (接尾) ほど。çiranu kusjaa naruka ʔaəku sjuN. 顔が向けられなくなるほど叱る。'watanu haqçiriiruka munu kadan. 腹がはち切れるほど食べた。ʔiicinu ciriruka haace najuN. 息が切れるほど走る。sinukanu ʔawari simira-qtan. 死ぬほどの苦勞をさせられた。miiranKa miiranKa sjoon. かすかに見えている。

kaa① (名) 皮。皮膚・皮革・樹皮など、ものの表面に張ったもの。

kaa① (名) 井戸。また、天然に湧いていて用水に使われるものをもさす。「川」に対応する。kurumagaa (車井戸), çigaa (桶を手でたぐり上げて汲む井戸), hwiizaa-gaa (湧き水を樋で引いたもの) などの種類がある。

-kaa (接尾) 程度のはなはだしさまをいう。siqtaikaa (びしょぬれ), kakikaa (欠けたところだらけ), ʔaNdikaa (こわれたところだらけ) など。

-kaa (接尾) 辺。あたり。ʔarikaa(あの辺), kurikaa (この辺), kumarikaa (この辺), maarikaa (どの辺) など。あるいは -rikaa を接尾辞とすべきものか。

kaabişii① (名) 皮の薄いもの。皮膚の薄い者。

kaabisuu① (名) kaabişii と同じ。

kaabucii① (名) 柑橘類の一種。実は皮が厚く、甘味が強い。

kaabui① (名) 醤油・味噌などに生ずる薄いかび。～ kuujun. (醤油・味噌などの表面に) かびが生える。～ sjun ともいう。

kaabui① (名) (否定・拒否の意を表わして) 顔を横に振る動作。かぶり。

kaabuikaabui① (名) かぶりかぶり。いやいや。顔を横に振る小児の芸。

kaabujaa① (名) こうもり(蝙蝠)。

kaabujaagasa① (名) [新] こうもり傘。洋傘。daŋgasa ともいう。

kaacii① (名) 夏至。二十四節の一つ。

kaaciibee① (名) 夏至のころ吹く南風。

kaagaa① (名) ㊦影。水・鏡などに映る影。㊦影。影法師。

kaagaauđui① (名) [新] 活動写真。影踊りの意。

kaagarimoo① (名) かっぱ。水に住む想像上の動物。ʔakagantaa (赤ちゃけた髪のおかっぱ頭) をして、恐れられる。那覇では kamuroo という。

kaagi① (名) ㊦姿。また、容貌。～nu 'waqsan. 器量が悪い。curakaagi. 美貌。㊦陰。日陰など。光の当たらない暗い所。kiinu ～. 木陰。

kaagibusi① (名) 陰干し。

kaagigawa'i① (名) おも変わり。老衰・病氣などで、容貌が変わること。

kaahai① (名) (ひからびて) 皮のように張り付くこと。また、その張り付いたもの。hanadainu ～. 鼻みずのひからびて張り付いたもの。

kaaha=jun① (自 =ran, =ti) ㊦皮が張る。皮が生じる。また、ひからびて皮のように張り付く。㊦転じて、いじきたなく…する。ぐずぐずと長居する、未練がましく長生きする、などの意に用いる。ʔjukunu kaahati. 欲の皮が張って。いじきたなく欲張って。

kaakaa① (名) 辛いものの小見語。

kaakan① (名) 川上。《地》参照。

kaakanZaa① (名) 目がかすむこと。また、

kaakasjaa

目がかすんでいる者。皮をかぶった者の意。

kaakasjaa①(名) 罨(taaʔiju)の燻製。

kaaka=sjuN①(他 =saN, =ci) 乾燥させる。

(火にあぶって) 乾かす。

kaakii①(名) ①賭け。②指切り。互いに小指をひっかけてする子供の約束。～sjun. 指切りする。

kaaki=jun①(自 =raN, =ti) ①(のどが) 渴く。②(水が) 涸れる。干上がる。(地面などが) 乾く。

kaama①(名) 遠方。遠く。'inpoo ともいう。～kara caN. 遠くから来た。

kaami①(名) 壘(かめ)。

kaamii①(名) 亀。水陸両棲の亀。海亀は ʔumigaamii という。

kaamiiku'u①(名) 亀の甲。～jaka tusinukuu. 亀の甲より年の功。

kaaminakuu①(名) ベッコウ。

kaaminakuuʔuhwa'ka①(名) 亀甲式の墓。墓の様式の一つで、屋根が亀の甲の形にできているもの。

kaaminakuuziihwa①(名) ベッコウのかんざし。平民の老女が儀式の時に差した。

kaaminuʕibiti'ici①(名) (夫婦の骨が) 死後一つの壘の中に収められること。死後一緒になること。

kaamiNkuubi①(名) 着物のえりが首の内側に曲がること。亀の首のように、愚物らしく見える。

kaamiNzari①(名) 壘・瓦などの破片。

kaanunuusi①(名) 菓子などを分ける時、皆に分け与えて自分の分け前が無くなってしまった分配者をこっけいにいう語。「皮の主」すなわち包みの皮の持主の意。

kaara①(名) 瓦。屋根に用いるほか、垣として積み、また城内・境内などの道路に敷く。～nusijun. 瓦で屋根をふく。

kaara①(名) 川。河。川原の転意。

kaarabaNta①(名) 川端。川べり。川岸。

kaarabu'ci①(名) 瓦ぶき(の家)。以前

は首里・那覇だけに多く、他では番所(banzu)だけが瓦ぶきであった。

kaarabuʔteeʔisi'buʔtee①(感) 女の子と遊んでいる男の子をからかって言うことば。

kaara=cun①(自 =kaN, =ci) 乾く。水分・湿気が去る。kaaracooru cin. 乾いた着物。

kaaraʔisigaci①(名) 瓦石垣。上半を瓦と土、下半を石で築いた垣。屋敷内の中門の左右に多く見受けられる。

kaaraja'a①(名) 瓦ぶきの家。

kaarajacaa①(名) 瓦屋。瓦焼きを業とする者。

kaarakaNzujaa①(名) かわせみ。kaaramaʔtaraa ともいう。

kaarakisaN①(形) (道などが) 乾いている。kaarakisaruru mici. 乾いた道。

kaaramaʔtaraa①(名) かわせみ。kaarakanzujaa ともいう。

kaasaba①(名) 革ぞり。雪駄。

kaasaci①(名) 川崎。《地》参照。

kaasarec①(名) 井戸さらえ。

kaasiNdaa①(名) 皮膚がただれている者。やけどなどで皮膚がむけている者。

kaasja①(名) 木の葉の広いもの。食物を盛ったり、包んだりする。多く用いるものは 'juunaagaasja, 'uugaasja, saNniNgaasja, kubagaasja など。

kaasjabintoo①(名) 芭蕉の葉に包んだ弁当。

kaasjanuhwaa①(名) kaasja と同じ。

kaasjanuhwaaʔiju①(名) 魚の名。平目。また、かれい。

kaasjanuhwaaʔizicIN①(名) kaasja (木の葉の広いもの) で包んだもの。

kaata①(名) 川田。《地》参照。

kaaʔurii①(名) 出産祝いの行事。昔、kaa(湧き水のある所)に降りて行って、みそぎをしたのでこの名がある。小さい蟹

を何匹もふぶ着の上にはわせる。～nu ʔuhurumee. 出産祝いのごちそう。平民は ʔnbagii ともいう。

kaauuⓐ (名) 下駄・ぞうりなどの皮の鼻緒。士族の娘および貴族が用いた。一般の士族は niriuu を用いた。なお, hanauu の項参照。

kaazeekuⓐ (名) 草細工。また, それを業とする者。

kaazeekuuⓐ (名) 草細工を業とする者の卑称。

kaaziⓐ (名) つど。度。たびに。ごと。ごとに。ʔicuru ～. 行くたびに。

kabaʔandaⓐ (名) 香油。丁子などを入れて香りを付けた髪油。

kabacideekuniⓐ (名) 料理名。にんじんを小麦粉で包み, 油で揚げたもの。

kabagubooⓐ (名) 料理名。ごぼろを小麦粉で包み, 油で揚げたもの。

kabajaciⓐ (名) かば焼き。

kabakazaⓐ (名) 芳香。よいにおい。

kabasjanⓐ (形) 香りがよい。かんばんしい。

kabiⓐ (名) 紙。caakabi, ʔwaradoosi, basjuusi, mumudakabi, sugiwara, huusjugami, minugami などの種類がある。おのおのその項参照。

kabiʔanziiⓐ (名) 春秋の彼岸の祭り。平民の用いる語。銭型を打った紙を焚いて祭るのでいう。紙あぶりの意。士族は ʔncabi という。

kabibaiⓐ (名) 紙張り。

kabigiⓐ (名) こうぞ。紙の原料の木。

kabiraⓐ (名) 川平。《地》参照。

kabiʂicaaⓐ (名) 紙漉きを業とする者。

kabiʔuciⓐ (名) 彼岸その他の祭祀用に, 紙に銭型を打ちつける鉄製の道具。これで銭型を打ちつけた紙は ʔucikabi, ʔanzikabi などという。

kabuⓐ (名) かんざしの端のしゃくし型の部分。

kabuiⓐ (名) 門・便所 (huru) などの上のおおい。

kabuimuNⓐ (名) かぶりもの。帽子など。

kabu=juNⓐ (自 =raN, =ti) 商売で損をする。kanzuN と同じ。ʔudukijun ともいう。

kabutuⓐ (名) かぶと。

kacaⓐ (名) 蚊帳。～ hwicun. 蚊帳を吊る。

kacaasiiⓐ (名) 三味線の曲の一種。ジャズのように急テンポで乱調子のも。ʔaQcamaegwaa という乱舞に合わせるもの。

kacaa=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) かき混ぜて一緒にする。「かき合わせる」に対応する。

kacagi=juNⓐ (他 =raN, =ti) (燈心などを) かき上げる。

kaca=nunⓐ (他 =maN, =di) ひっかく。爪でかきむしる。

kacaNkwa=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) 盛んにひっかく。かきむしる。

kaciⓐ (名) 徒歩。～kara ʔicun. 徒歩で行く。

kaciⓐ (名) 勝ち。

kaciⓐ (名) 垣根。単独では, 普通いけ垣をいう。垣根の種類は ʔisigaci (石垣), kaa-raʔisigaci (瓦と石の垣), hwiigaci (板塀), dakigaci (竹垣, また竹のいけ垣), deekugaci (deekuの垣), gikizigaci (つげの垣), hukuzigaci (福木の垣), cini-bugaci (竹を編んだ垣)など。

-**kaci** (接尾) 働くことに関係のある語の下につけ, 反復の意を表わす接尾辞。susui-kaci (ぞうきんがけ), hoocikaci (掃き掃除), ʔjuuzukaci (用足し) など。

kaciʂikiⓐ (名) 書き付け。また, 文書。

kaeihoo=juNⓐ (他 =raN, =ti) 掻き散らす。

kacihooriiⓐ (名) 散らかっていること。乱雑。

kaciʔikusaⓐ (名) 勝ちいくさ。

kaciʔiri=juNⓐ (他 =raN, =ti) 書き入れ

kacikunuN

る。書き込む。

kaciku=nuNⓉ (他 =maN, =di) (食物を) かき込む。

kacikuN=sju^hNⓉ (他 =saN, =ci) 突きくずす。搦いてくずす。

kacikuzi=ju^hNⓉ (他 =raN, =ti) ひっかき回す。ほじくり回す。

kacimakiⓉ (名) 勝ち負け。勝敗。

kaçimi=juNⓉ (他 =raN, =ti) ㊦つかむ。にぎる。ʔutiran gutu 'juda ~. 落ちないように枝につかまる。㊦つかまえる。捕える。nusudu ~. 泥棒をつかまえる。

kacimiŋwa=sju^hNⓉ (他 =saN, =ci) かき回して濁らす。また、かき乱す。かき回して紛糾させる。

kaçimiNsooreeⓉ (名) 鬼ごっこ。つかまえないの意。

kacimunⓉ (名) 書きもの。

kacinhanaⓉ (名) 垣花。《地》参照。

kacişigaişigaiⓉ (副) 抱きつき、すがりつくさま。~ sjuN.

kacişii=ju^hNⓉ (他 =raN, =ti) 書き添える。

ka=cuNⓉ (自 =taN, =qei) ㊦勝つ。㊦まさる。すぐれる。ziNbunoo neeNşiga, kaagee kaqcoon. 才能は無いが、容姿はすぐれている。

ka=cuNⓉ (他 =kaN, =ci) ㊦(かゆい所などを) かく。㊦(恥を) かく。ʔicihazı ~. 大恥をかく。

ka=cuNⓉ (他 =kaN, =ci) 書く。描く。

ka=cuNⓉ (他 =kaN, =ci) 組み立てる。「構く(かく)」に対応する。tana ~. 棚を作る。

kaçuuⓉ (名) かつお。かつおぶしの意もある。~ hweesjuN. かつおぶしをけずる。

kaçuuⓉ (名) 嘉津宇。《地》参照。

kaçuubusiⓉ (名) かつおぶし。

kaçuudakiⓉ (名) 嘉津宇岳。国頭郡本部半島にある山の名。

kaçuusi^hNziⓉ (名) かつおぶしのだし汁。

kadikaruⓉ (名) 嘉手苺。《地》参照。

kadinaaⓉ (名) 嘉手納。《地》参照。

kaduⓉ (名) 義理固さ。廉直な心。~nu ʔariwadu niNziN 'jaru. 義理があってこそ人周だ。

kaduⓉ (名) 角(かど)。

kaduda=cuNⓉ (自 =taN, =qei) 角が立つ。円滑にいかない。

kadunnaaasiⓉ (名) 軒を相接した隣。すぐ隣(の家)。

kagama=juNⓉ (自 =raN, =ti) かがむ。しゃがむ。うずくまる。

kagana=juNⓉ (自 =raN, =ti) 関係する。関与する。

kagana=sju^hNⓉ (他 =saN, =ci) 手を下す。手を加える。関与する。関係する。taagan naraN. ʔariga tii kaganasiwadu najusa. だれにもできない。彼が手を下してはじめてできる。

kaganⓉ (名) 鏡。~ hweesjuN. 鏡(金属製)をみがく。catan mosizanija mi-zinu ʔwinu ~, 'ugamarija sjuşiga zijuja naraN. [北谷まうしぎやねや 水の上の鏡 拜まれやしゆすが 自由やならぬ] 北谷まうし(女の歌手の名)は自分にとっては水鏡と同じこと、顔を見ることはできても、自由にはならない。

kaganhweesaaⓉ (名) 鏡(金属製)をみがくことを業とする者。kagan hweesabira (鏡をみがきましよう)と呼んで歩いた。

kageeⓉ (名) 支配・保護のもとにあるもの。領地。封土。支配圏。勢力圏。また、配下にある者。

kagee=juNⓉ (他 =raN, =ti) 支配する。また、保護する。sima ~. 部落を支配する。duku kageeşiziinee 'warabinu tamee ʔaraN. あまり保護しすぎると子供のためにならない。

kageeʔuciⓉ (名) 領内。支配圏内。

kagiⓉ (名) 欠け。欠けること。欠けたも

の。欠員・欠席者など。kaki とは別。

kagi=jun① (自 =raN, =ti) 欠ける。不足する。また、欠席して欠ける。欠番となる。kakijun とは別。

kagin① (名) 加減。kagino caaga. (味などの) 加減はどうか。geecikagin (かぜ気味)。

kagu① (名) 駕籠。貴族のみが普通に用いた。士族は、公用・婚礼・葬式などにのみ用いた。その敬語は ʔanda, ʔunaanda. 平民は病人などを運ぶとき、囲いのない ʔamakagu を用いた。

kaguçukujaa① (名) 駕籠作りを業とする者。

kaguduuru① (名) 竹で籠のように編んだ、あんどん式の燈籠。畳めないが、安価なので、一般に多く用いられた。

kaguisiʔuzoo① (名) 首里城の門の名。ʔuguşiku の項参照。

kagakaci① (名) 駕籠かき。

kagusami=jun① (他 =raN, =ti) ①監督する。監督して勉強などをさせる。②加護する。神仏の通力を加えて守る。tuidenşi mijama sigeru tani ʔiradi, ʔwagami kagusamiru kutunu sjurasja. [鳥だいにす深山 しげる谷選で わが身かぐさめる ことのしほらしや] 鳥でさえ深山のしげった谷を選んで自分を守ることの殊勝さよ。

kagusima① (名) 鹿児島。

kahuu① (名) 家風。

kahuusi① (名) ありがと。目下への感謝の語。目上へは nihwee deebiru という。～ siibicii kutoo ʔarani. 感謝すべきことではないか。～ ʔatasa. ありがと。

kai① (名) 仮。～nu hansî. 仮の間に合わせ。

-kaⁿⁱ (助) へ。に。目的地を示し場所を表わす語につく。gaçkoo～ ʔicuN. 学校へ行く。maa～ ʔicuga. どこへ行くか。

ziruutaa～ ʔicuN. 次郎の家へ行く。

kaigu① (名) 蚕。ʔitumusi ともいう。

kaija① (名) [仮屋] ①仮屋。仮小屋。綱引き(çinahwiçi)の時などに見物席として作る仮の棧敷。②在番奉行の役所。

kaikoo① (名) [開合・開口] 開合。開音と合音との区別。エ段、オ段の母音を [i], [u] と発音し、またキをチのように沖繩式に発音するのを合とし、それらを「けせて…」, 「こそと…」, 「き」のように書き、または、読書の場合などに日本本土式に発音するのを開とする。～ tadasjun. 開合を正す。

kaikun① (名) 開墾。～ sjun.

kaikwatoo① (名) [開化党] sansii と同じ。

kaimun① (名) 借りもの。

kaja① (名) 茅。屋根をふくのに用いる。

kajaa=sjun① (他 =saN, =ci) 持ち運ぶ。

とくに、何度も持ち運ぶ場合にいう。

kajabuci① (名) 茅ぶき。

kajabucijaa① (名) 茅ぶきの家。

kajajaa① (名) kajabucijaa と同じ。

kajoo① (名) 嘉陽。(地) 参照。

kajui① (名) ①通りこと。②渡り廊下。母屋と離れなどを結ぶ、板敷きの通路など。

kajuizi① (名) [文] 通い路。ʔwakasa hwi-tutucinu ~nu suraja ʔjaminu saku-hwiran kurumatoobaru. [若さ一時の通路の空や 關のさくひらも 車たうばる] 若い時代に女のもとに通う身には、暗やみの急な坂も砂糖車 (kuruma) を据えつけるような平原と同じである。

kaju=jun (自 =raN, =ti) [文] 通り。口語では多くは単に ʔicuN (行く) という。

ka=jun① (他 =raN, =ti) 借りる。ʔirajun の項参照。

ka=jun① (他 =raN, =ti) 刈る。

kakaidee① (名) ねばり強い力。一事に執心できる力。～nu ʔaN. 物事にねばり強い。

kakaimuN

kakaimuNⓐ (名) 憑きもの。もののけが憑くこと。生霊または死霊が何か頼みごとなどあって人に憑くこと。

kakaisa'araciⓐ (名) さしさわり。障害。
nuunu ~N neeN. 何のさしさわりもない。

kakaisi'gaiⓐ (副) りるさくつきまとうさま。まつわりつくさま。ʔNninu huN ʔaraN muzinu huN ʔaraN, 'jakara 'jumudujaga ~. [稲の穂もあらぬ 麦の穂もあらぬ やからよむ鳥が かかりすがり] 稲の穂でも麦の穂でもないわたしに、りるさい鳥(男)どもがつきまとして来る。

kaka=juNⓐ (自 =raN, =ti) ㊦掛かる。ひっかかる。また、掛かって下がる。ʔami-dainakai taciinee miʒinu ~. 軒下に立っていると水がかかる。㊦(費用が)掛かる。㊦たよる。厄介になる。ʒiiza ~. 兄にたよる。ʔjuʒidu kakajuru. 言う人に頼む。㊦徒泊する。㊦かかわる。…の対象となる。sikiNnu kuciʒibani ~. 世間のうわさに上る。㊦及第する。合格する。

kakanⓐ (名) [下裳] 女が腰から下に着ける着物。腰巻状で後ろに合わせる式のもの、労働用の前から股を通すふんどし式のもの、二種ある。duzin と一緒に着る。

kakawaiⓐ (名) 係わり。関係。掛かりあい。

kakawa=juNⓐ (自 =raN, =ti) 係わる。関係する。

kakaziⓐ (名) 賀敷。《地》参照。

kakaziⓐ (名) 嘉敷。《地》参照。

kakazi=juNⓐ (他 =raN, =ti) かじる。ʔujanu muN ~. 親のすねをかじる。

kakeehwiceeⓐ (副) いろいろなものが互いに関連し合うさま。~ ʔimi 'NNzUN. いろいろなものが結び合わさった夢を見る。

kakiⓐ (名) かけ値。売値より高いいう値。

kakiⓐ (名) かけら。茶碗などの欠けたは

し。

kakiʔaa=ju'Nⓐ (自 =raN, =ti) 間に合う。定められた期限に間に合う。

kakiʔaasimu'Nⓐ (名) 期限付きのもの。正月用・婚礼用に頼まれた物など。

kakiʔaa=sju'Nⓐ (他 =saN, =ci) 間に合わせる。期限に遅れないようにする。

kakibanasiⓐ (名) 横になって話をする。こと。

kakibukuⓐ (名) 掛保久。《地》参照。

kakiçi=zuNⓐ (他 =gaN, =zi) あとを継いで掛ける。掛け継ぐの意。無尽などの掛金を引き継いで、その掛金を取る権利を得る。

kakieeⓐ (名) 掛け合い。談判。

kakiguNzuuⓐ (名) びた一文。きわめてわずかな銭。欠けた一厘銭の意。

kaki=juNⓐ (他 =raN, =ti) ㊦掛ける。kanmui ~. 帽子を掛ける。hasi ~. 橋を掛ける。miʒi ~. 水を掛ける。ʔudi ~. 腕ずもりで、互いの腕を掛ける。sanazi ~. ふんどしをする。nasaki ~. 情をかける。㊦(費用・掛け金を)掛ける。また、賭ける。hjaqkwaN ~. 2円掛(賭)ける。㊦掛け値をいう。kakiti ʔicoon. 掛け値を言っている。㊦掛けもつ。tatukuru ~. 二箇所掛け持つ。㊦(はかりに)掛ける。hakai ~. はかりに掛ける。kakiree kitanudu 'uuriiru. 掛ければ、はかりの竿が折れる。甲乙ない。また、どっちもどっちだ。㊦傾する。支配する。統治する。sima ~. 領土を支配する。㊦(接尾)…し掛ける。…し始める。kamikakijun (食べ掛ける) など。

kaki=juNⓐ (自 =raN, =ti) 肘をつき、手で頭をささえて横になる。

kaki=juNⓐ (自 =raN, =ti) 欠ける。損じる。cawaNnu ~. 茶碗が欠ける。

kakikaaⓐ (副) 欠けたところだらけ。~ sjooru cawaN. 方々欠けた茶碗。

kakikutubaⓄ (名) 掛けことば。音が同じか類似していて、両様の意味を兼ね含ませたことば。たとえば *ʔicaga nati ʔicura hatija siranaminu*… [いきやがなて行きゆら 果や白波の…] どうなって行くか果ては白波の(知らないが)…。

kakimeeⓄ (名) 無尽などで、掛けておいてまだ受け取っていない出し前。のちに利子と共に受け取る権利のある掛け金。ʔu-kuimee (送り前)の対。

kakimuciⓄ (名) 掛け持ち。二つ以上の仕事を兼ね持つこと。

kakimunⓄ (名) 掛け軸。掛け物。

kakimunⓄ (名) 欠けたもの。欠けた茶碗など。

kakiniⓄ **ʔooran**Ⓞ (句) お話にならない。とてつもない。～ *magii ʔan*。とてつもなく大きいのだ。～ *ʔaqsan*。お話にならないほど安い。

kakirumaⓄ (名) 加計呂麻島。奄美群島の島の名。

kakisinⓄ (名) 掛け金。無尽などの掛け金。

kakiʔutaⓄ (名) 諷刺歌。物にたとえてよんだ歌。たとえば, *kamagwa ʔutugakuja kuhwinʔuku ʔaʂiga, ʔazinu miʔutugeja ʔanpamisaci*。(真壁按司の愛妾カマグワのあごは古辺底のように短い, 真壁按司のおあごは残波岬のように長く出ている。)のようなもの。

kakiziciⓄ (名) 丁字形をした杵。穀物・餅などを搗くもの。また、杭などを打つ槌として用いるもの。

kakooⓄ (名) 「かかふ」に対応する。⊖衣類のぼろ。⊖おしめ。おむつ。⊖ぼろをより合わせて作った火種。畑・山などに行く時, たばこの火種として持って行くもの。

kakoobikazaⓄ (名) きな臭いにおい。～ *sjun*。きな臭いにおいがする。

kakuⓄ (名) 病名。食道癌・胃癌・胃かいようななどをいう。酒が原因ならば *sakiga-*

ku という。

kakuⓄ (名) 水夫。舟子。「かこ」に対応する。

kakuⓄ (名) 四角。方形。

kakubiçiⓄ (名) とくに仲のよい間柄。ʔa-ritu ʔwantoo ~ ʔjan. 彼とわたしとは別懇の間柄だ。

kakuganiⓄ (名) 掛けがね。戸をかたくとぎすための用具。

kakuguⓄ (名) [格護] ⊖大切にしまひこむこと。秘蔵。～ *sjun*。秘蔵する。⊖守護。 *kamizuuga* ~ ʔjudan suruna。[亀千代が格護 油断するな (忠臣身替)] 亀千代を守護して油断するな。

kakuguⓄ (名) 落としぶた。箱の内側にはまりこむように作ったふた。また, 他の箱の内側のへりにはまりこむように作った箱。衣服を入れる *kee* に付いている。

kakuguⓄ (名) 覚悟。

kakuiⓄ (名) 囲い。屋敷などの周囲の垣。石で囲ったものは *ʔisigakui*, 竹のものは *dakigakui*。

kaku=junⓄ (他 =*ran*, =*ti*) ⊖囲う。かくまう。専有する。 *zuri* (女郎) の場合は *çimijun* という。⊖*cunzii* (中国式の将棋)で, 王を囲う。

kaku=nunⓄ (他 =*man*, =*di*) 囲む。

kakusiⓄ (名) 隠すこと。隠しだて。 *nuu-kakusinu neen ʔeu*。隠しだてのない人。

kakusigutuⓄ (名) 隠しごと。

kakusiimaaʔsiiⓄ (副) ひた隠しに隠して。大事に隠して。

kaku=sjunⓄ (他 =*san*, =*ci*) 秘密にする。他に知られないように隠す。ただ見えないように隠すことは *kwaqkwasjun* という。

kakuziⓄ (名) あご。下あご。両わきに出たあごの骨もふくめて下あご全体をいう。口の下のとがった部分は *ʔutugee* という。～ *ʔusujun*。あごをおさえる(がっ

kama

かりした場合の動作)。

kama① (名) 神谷。(地) 参照。

kama① (名) かまど。昔は石三つで作ったので *Tumiçimun* (かまどの神) という名がある。のち、土をこねて作るようになった。

kama① (名) 鎌。Yirana ともいう。

kamabuku① (名) かまぼこ。多く飛魚で作る。

kamaci① (名) ㊦かまち。農家の土間からの上がり口の上に渡した横木。㊦頭の卑語。～ 'wararin doo. 頭を割られるぞ (けんかの文句)。

kama=juN① (他 =aN, =ti) かまう。kamujuN と同じ。kamaaN. かまわない。ほらっておく。

kamanui① (名) かまど作り。こまかく刻んだわらを土とこね合わせて作る。かまどは宗教的に大事なものであるので、吉日を選んで行なう。

kamanuibii① (名) かまど作りの日。吉日が選ばれる。

kamaNta① (名) ㊦大なべのふた。農家でさつまいもを煮る大きななべのふたをいう。かや・わらなどを編んで作る。㊦魚名。あんこう。形がなべのふたに似ているのでいう。

kamaNta① (名) 情夫。かくし男。

kamarasjaa① (名) 気むずかしい者。

kamarasjan① (形) 気むずかしい。よく苦情をいう。きげんをとりにくい。kamarasii qcu. 気むずかしい人。

kamasaa① (名) 魚名。かます。

kama① **sikajuN**① (句) 男女・夫婦などが、仲よくしっくり行く。nootaru kamadu sikajuru. 相応の者が夫婦となる。kama sikati taija ?anujumadin. [文] 仲よくふたりはあの世までも。

kamazee① (名) こおろぎ。kama (かまど) のそばにいる see (ばった) の意。

kamazii① (名) かます。穀類を入れる四角い袋。

kamazisaa① (名) 愛想のない者。

kamazisi① (名) 無愛想。～ kuujuN. にか虫をかみつぶしたように、無愛想にしている。

kamee① (名) [かまい] 首里城の建物の名。

kamee① (名) 構え。こしらえ。作り。また、身の構え。zaagamee. (座敷のつくり)

kameeimuN① (名) 拾い物。拾った物。tumeeimun ともいう。

kamee=juN① (他 =raN, =ti) (tumeejun と同義であるが、やや下品な語) ㊦(落とし物などを)拾う。拾いものをする。㊦捜し求める。tuzi ~. 妻をめとる。

kami① (名) 神。天の神・地の神・屋敷の神・便所の神・かまどの神など、神は至る所に多い。死者の霊も三十三年忌を過ぎると神になる。

kami?acinee① (名) (女が) 商品を頭にのせて売り歩くこと。

kami?asjagi① (名) [神軒] 部落の神を祭っている建物。その前の広場で祭りなどを行なう。

kamiburaari① (名) 栄養不良。食うことが不足 (buraari 参照) している意。

kamiburi① (名) kamidaari と同じ。-buri <hurijun (狂う)。

kamici① (名) 胃けいれん。また、胃けいれんの持病があること。胃けいれんで苦しむことを kamirarijun という。

kamidaari① (名) 神がかり。神人 (kamiNcu) になる際の精神異常の状態。しきりに神事を口走る。kamiburi ともいう。

kamigudee① (名) 先史時代。大昔。上御代の意。

kamigurisjan① (形) 食べにくい。歯痛・遠慮などのために食べにくい。

kamihaN=sju^hNⓉ (他 =saN, =ci) 食べそこなる。食いはぐれる。また、失業する。

kamihutukiⓉ (名) 神仏。

kamiiⓉ (名) 係り。係りの役人。<kamu-jun。

kamijaaʔusiⓉ (名) よく人を突く牛。

kamijamaⓉ (名) 神山。《地》参照。

kami=junⓉ (他 =raN, =ti) ①頭の上ののせる。(女が運搬のために荷を) 頭にのせる。kamirasjun。(女の頭に荷を) のせてやる。ひとりで運べるが、ひとりでは頭にのせられない時、それを手助けする場合をいう。②いただく。長上からもらう意の敬語。頭上におしいただく意。③(牛が) 角で突き上げる。④上にのせる。

kamikuⓉ (名) 上の句。琉歌は上の句8・8, 下の句8・6, 全体で30字より成る。

kaminigeⓉ (名) 神への祈願。お祈り。

kaminiiⓉ (名) 頭にのせて運ぶ程度の荷物。kami-<kamijun。mucinii より重い。

kaminiNziⓉ (名) 神を信仰すること。神に祈ること。神頼み。

kaminukusiⓉ (名) 食べ残し。食べ残すこと。また、食べ残した余り物。

kamiNcuⓉ (名) 神に仕える人。神人。神の人の意。nuuru, nigami, ʔukudi およびそれらに仕える女たちの総称。その項参照。

kamirarijaaⓉ (名) 胃けいれんの持病のある者。

kamira=rijuNⓉ (自 =riran, =qti) 胃けいれんなどで苦しむ。棒で突き上げられるように痛む状態をいう。牛の角で突かれることを kamirarijun といい、そのように突き上げられるのでいう。kamijun の受身の形。

kamira=sjuNⓉ (他 =saN, =ci) 火の上ののせて暖める。<kamijun (上にのせる)。caa ~。お茶を暖める。ʔusirun kami-

racikara numi 'joo. おつゆも暖めてからお上がり。

kamisasiⓉ (名) 男用のかんざし。男が髪を結っていたころのもので、梅の花の形をした飾りが付いていた。貴族のものは金製、士族のものは銀製、平民のものは真鍮と決められていた。貴族のものは敬って mi-kamisasi または 'NcaNzasi という。

kamisasibanaⓉ (名) 植物名。さくららん。

kamisimuⓉ (名) 身分などの上下。上の者と下の者。

kamjaⓉ (名) 神谷。《地》参照。

kamuⓉ (名) 鴨。

kamu=junⓉ (他 =raN, =ti) かまう。関係する。干渉する。世話する。kamuNna. かまうな。干渉するな。nuun ʔaraN muNnu qeu kamuti. 何の関係もない人が人に干渉して。

kamurooⓉ (名) ①子供の髪の毛の結び方の一種。髪の毛の上部をまげて元結び糸でとめるもの。②kaagarimoo (かっぱ) の那覇語。

kamuroowarabiⓉ (名) 髪を kamuroo に結っている子供。

kanaⓉ (名) 膝 (かな)。かせにかける前の一束にした糸。kana を染色したのち、かせ (kasi) にかける。のち、seejangasi が輸入されてからは、kana を作るのは芭蕉布を織る時のみとなった。~ sikoojun. kana を作る。

kanaⓉ (名) かな。大工道具の一種。

kanaⓉ (名) 仮名。~ tadasjun. 発音を正しくする。逐字的に仮名で書いたとおりに正す意。平民式発音を士族式の発音に矯正する。すなわち、たとえば cici (月) を ʔici, mizi (水) を miʔi, suubu (勝負) を sjuubu のように改める。士族の子弟はこのような発音の矯正を受けて、士族式の音韻体系をもつようになる。

kanaahwica'aⓉ (副) やたらに噛むさま。また、よく噛むさま。~ sjuN.

kanaasjuN

kanaa=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) 噛む。咀嚼する。

kanaganaatuⓐ (副) 愛想よく。仲よく。
また、かわいがって。taee ~ sjoon 'jaa.
ふたりは仲よくしているねえ。

kanagi=juNⓐ (他 =raN, =ti) からげる。
まくり上げる。çibui ~. 尻をからげる。
tamasi ~. 心をひきしめる。

kanagu① (名) 金具。器具につける金物。

kanaguşikuⓐ (名) 金城。〔地〕参照。

kana=juNⓐ (自 =aN, =ti) ㊦違者である。
働ける。自由がきく。かなりの意。duu-
gara ~. 体が違者で働ける。tiinu ka-
naaN. 手の自由がきかない。kucinu ~.
口が違者である。口答えをよくする。㊦か
なり。望み通りとなる。nigeegutunu ~.
願いがかなう。㊦かなう。敵し得る。'wa-
agaa kanaaN. わたしではかなわない。
㊦気に入る。ciini ~. 気に入る。心が合
う。kukuruni kanajuru 'winagu. 心
にかなう女。気に入った女。

kanakudiiⓐ (名) かんなくず。

kanakusuⓐ (名) kanikusu と同じ。

kanami① (名) 交際上のかなめとなる点。
すなわち、挨拶。また、交際上のかんどこ
ろ。~ kakijuN. 挨拶すべき所には必ず
挨拶する。義理をかかさない。

kanamizooziⓐ (名) 挨拶上手。交際上手。

kanamuNⓐ (名) 金物。金属製品。

kanamuNjaaⓐ (名) 金物屋。金物を売る
店。

kanarazi① (副) 必ず。文語的な語。kaN-
nazi または kaNnaazi が普通。

kanasiNgwaⓐ (名) いとし子。愛兒。

kanasiru① (名) 金気のある汁。新しい鍋
釜で物を煮た場合などに出る汁。

kanasjaN① (形) かわいい。愛らしい。ka-
nasja sjun. かわいがる。愛する。

kanazicaaⓐ (名) kanazicaa と同じ。

kaneecⓐ (名) ㊦借地料。また、小作料。

㊦地租。また、租税一般。

kaneegakaiⓐ (名) 他人の土地を小作す
ること。

kaneegakiⓐ (名) 土地を他人に小作させ
ること。

kaneejusiⓐ (名) 小作料を集めること。小
作料を持った小作人たちが地主の家に集ま
り、地主はその日ふるまいをするのが例。

kaneemuNⓐ (名) 働き者。よくかせぐ者。

kani① (名) ㊦矩。かねじゃく。L字形の
ものさし。㊦生活上・社交上のわく。社会
的な規範。常識。また、常識があること。
頭がしっかりしていること。理性。理解力。
~nu neeN. 常識がない。理性がない。
~nu handitooN. 常識をはずれている。
頭がおかしい。~ kakijuN. (社交など
で) 常軌をはずさない。

kani① (名) 金。金属。金銭の意では zi-
Nkani という。

kani① (名) 鎚。また、鉦。

kanibutukiⓐ (名) 金仏。金属製の仏像。

kanibuubuuⓐ (名) こがね虫。かなぶん
ぶん。

kaniciⓐ (名) 綱引き (çinahwici) の時、
雄綱 ('uuNna) と雌綱 (miiNna) とのつ
なぎ目に通す木の棒。両方の綱の先端は輪
になっており、雌綱の輪に雄綱の輪を入れ
て、その雄綱の輪に丸木棒を通し、両方で
引き合う。kaniciboo ともいう。

kanicibooⓐ (名) kanici と同じ。

kaniciçizaaⓐ (名) 綱引き (çinahwici) の
時、雄綱と雌綱とが互いに kaniciguci に
寄せて来た時、kanici を両方の綱に貫き
通す役の者。大力の者が選ばれて当たる。

kaniciguciⓐ (名) 綱引き (çinahwici) の
時、雄綱と雌綱とが相接し、互いにつなぐ
場所。綱引き場の中央に当たる。

kanigaaⓐ (名) 鉦山。とくに銅山。沖縄で
は鉦山としては羽地に銅山があっただけで
あった。金 (kani) の井戸 (kaa) の意。

- kanigara**① (名) かなてこ。鉄槌。
- kanigušiku**① (名) 兼城。《地》参照。
- kanihan̄di=jun**① (自 =raN, =ti) 鼯跡する。ほける。老人以外にも、ほける・性格がルーズになることにいう。sjookaninu han̄dijun ともいう。kani はかね尺・常識などの意。
- kanihwiibasi**① (名) 金火箸。金属製の火箸。
- kanii**① (名) かのえ(庚)。十干の一つ。暦の上では吉日として、転宅・建築などの日に選ばれる。
- kani=jun**① (他 =raN, =ti) 兼ねる。口語では kakijun, taaçi sjun などという。
- kani=jun**① (他 =raN, =ti) さえぎる。miži ~. 水の流れをさえぎる。çinasaani kaniti qeu tuusan. 綱でさえぎって人を通さない。
- kanikadan**① (名) 兼筒段。《地》参照。
- kaniku**① (名) ①海岸地方の砂地。②馬場。③地名に多く、kaniku [兼久], ŷuhuganiku [大兼久], meeganiku [前兼久], ŷuciganiku [内兼久] などがある。
- kanikusu**① (名) かなくそ。鉄を焼いてきたえる時に落ちるかす。
- kanimaa=sju`N**① (他 =saN, =ci) ①包囲する。とり囲む。②かばう。擁護する。
- kanisi**① (名) 兼次。《地》参照。
- kanisjoo**① (名) 金性。木火土金水の五行の一つで、これを人の生年に配したもの。
- kaniti**① (名・副) かねて。以前。また、前もって。あらかじめ。~karanu nigee. かねてからの願い。宿願。
- kaniŷubi**① (名) 金属製のたが。桶類のたがで、鉄・銅などで作ったもの。
- kanizicaa**① (名) 金づち。kanazicaa ともいう。
- ka=nun**① (他 =maN, =di) 食う。食べる。敬語は ŷusjagajun. 動物について、また、卑しめていう場合は kwajun とい
- う。kamaran. 食べられない。kamara-Nkami. 食べられないのに、食べ(ようとす)ること。
- kanutu**① (名) かのと(辛)。十干の一つ。
- kan**① (名) 寒。寒さ。cuuja ~nu ŷaqsaa ŷjaa. きょうは寒いねえ。ŷamatunu kanoo ŷucinaatu kawajun doo. 日本本土の寒さは沖縄と違うぞ。
- kan**① (名) 勘。さとり。~ tujun. さとる。了解する。
- kan**① (名) 羹(かん)。羊羹の類をいう。kumigan (米の粉の羹), maamigan (小豆の羹)など。
- kan**① (副) こう。かく。かよりに。~ nataru ŷwiija sikataa neen. こうなった以上しかたがない。~ kuuwa. ちょっと来い。子供を呼ぶ時にいう。~ caandi. ちょっと来て見ろ。~ kuuwa. と同じ。
- kanbin**① (名) 勘弁。他人の過失を許すこと。
- kanbjoo**① (名) 看病。~ sjun.
- kançigee**① (名) 勘違い。
- kançiku**① (名) 寒菊。莖や葉を茶に入れて飲み、その風味を愛する。
- kan̄da**① (名) ①かずら。つる草の類。②甘藷。さつまいも。その植物としての名。また、そのつる。根は ŷNmu という。
- kan̄dabaa**① (名) さつまいもの葉。
- kan̄dabuni**① (名) さつまいもの莖。-buni <huni (骨)。
- kan̄duu**① (名) 鈍感。勘が鈍いこと。
- kan̄gee**① (名) 考え。思考。考案。
- kan̄gee=jun**① (他 =raN, =ti) ①考える。思索する。②世話する。面倒をみる。ŷariga kutu ~. あの人の世話をする。
- kan̄geemu**① (名) 考えごと。
- kan̄ka`N**① (副) こうこう。かくかく。~nakutunu ŷatan. かくかくのことがあった。
- kan̄mui**① (名) かんむり。頭にかぶるもの

kaNmusi

一般。帽子。

kaNmusi①(名)虫気。体質の弱い幼児のひき起こす癩。

kaNna①(名)[新]カンナ。だんどく。hanabasjuuと同じ。

kaNnaa①(名)漢那。《地》参照。

kaNnaazi①(副)必ず。kannazi, kana-raziともいう。

kaNnai①(名)かみなり。

kaNnazi①(副)kannaziと同じ。

kaNneeru①(連体)かよurna。こんな。kaneeruともいう。文語はkaneru。～mun。こんなもの。また、こんなつまらないもの。こんなやつ。

kaNniin①(名)堪忍。

kaNnuu①(名)肝要。～na mun。肝要なもの。かなめとなる大切なもの。

kaNpaci①(名)はげの一種。頭の傷跡などにできて、赤く光る。hudiiともいう。hudii～ʔuɕicu ʔagaraci ʔjuuban kwee。はげはげ、お月さまを上がらせ光らせて、夕飯を食え(はげをからかった童謡の文句)。

kaNpuu①(名)男の子の髪型。髪が短くて結えない場合に、折りまげて小さく結うもの。女の子のそれにはhaajuuiiという。また男の子が4～5歳ごろ入れ髪をして結うものはʔiriganhaajuuという。

kaNru①(名)寒露。二十四節の一つ。沖繩で鷹の渡る季節である。

kaNruu①(名)kanruと同じ。

kaNsaçi①(名)鑑札。営業免許証などを書いた札。

kaNsi①(副)かよurni。こんなに。<kan+qsi(して)。～nanzi ʔandee ʔumaantaN。こんなに難儀だとは思わなかった。

kaNsi=jun①(他=ran, =ti)かぶせる。かぶらせる。boosi～。帽子をかぶらせる。ʔunzi～。恩を着せる。

kaNsjuka①(副)これほど。かほど。hwin-

suuja～kurisjandisee namadu ʔwakajuru。貧乏はこれほど苦しいのだということが、今になってわかった。

kaNsjukawaaki①(副)これほどまで。～muɕikasii mun ʔandee ʔumaantaN。これほどまでにむずかしいものとは思わなかった。

kaNsjun①(自・不規則)kan(こう)とsjun(する)のつまった形。こうする。

kaNsui①(名)かみそり。

kaNsuikeee①(名)かみそりを使うこと。かみそりの使い方。

kaNtaa①(名)おかつぱ。少女の髪型。髪を結うまでにならない年ごろの、耳のあたりまで垂らして切った髪。また、おかつぱ頭をした平民の少女。また、おかつぱ頭の少女(士族)をその家族の者などが呼ぶ語。召使が呼ぶ場合には、敬語にしてkantuuuという。貴族の少女の場合はkantuumeeと呼ぶ。

-kantii(接尾)…しかねること。…できかねること。macikantii(待ちかねること)、ʔiikantii(言いかねること)、ʔiceekantii(会いかねること。届きかねること)など。

kaNtoohu①(名)焼き豆腐。路上で女たちが扇をはたはたさせて焼きながら売っていた。ʔacidoohuともいう。

kaNtu①(名)髪(karazi)の卑語。

kaNtukuumee①(名)髪のかみ合い。女のけんかをいう。

kaNtuu①(名)kanta(おかつぱ娘)の敬語。召使などが主人のおかつぱの娘を呼ぶ語。

kaNtuumee①(名)おかつぱ(kanta)にした貴族の娘を召使などが呼ぶ敬称。

kaNzaa①(名)鍛冶屋。鍛冶を業とする者。

kaNzaajaa①(名)鍛冶小屋。

kaNzatu①(名)神里。《地》参照。

kaNzeeku①(名)鍛冶屋。また、いかけ屋。

kanzaa ともいう。
kaNzeekuu④ (名) kaNzeeku と同じ。
kanzi④ (名) ①たてがみ。②とさか。
kanzimun④ (名) ①頭にかぶるもの。②夜、体をおおうもの。ふとん。夜具。
kanzin④ (名) [肝煎] 葬式の時、一切の世話をする世話役。隣近所の人が受け持つ。
kanzoo④ (名) 勘定。金銭の計算。sanmin ともいう。
kanzoo④ (名) 甘草 (かんぞう)。あまぎ。薬草で、産婦の乳が出るまでの間、煎じて産児に飲ませたりした。
kanzujaa④ (名) かわせみ。もと kanzui といった。
kan=zun④ (他 =dan, =ti) ①かぶる。boosi ~。帽子をかぶる。②(負債などを) 負う。損をする。sii ~。負債を負う。muutu ~。(商売で)元がとれずに、損をする。③(接尾) いっぱいに…する。こぼれるほど…する。sacikanzun (咲きこぼれる), 'wareekanzun (盛んに笑う。笑いこぼれる) など。
kaQcika=nuN④ (他 =maN, =di) つかむ。ひつつかむ。
kaQcin④ (名) 勝連。《地》参照。
kaQcinnumisaci④ (名) 勝連岬。沖縄本島東海岸にある岬。
kaQkoo④ (名) 格好。よろす。なりふり。
kaQkuikaQkui④ (名) 下駄 (の音) の小児語。
kaQpa④ (名) 合羽。
kaQpici④ (名) 親類。?weeka と同じ。
kaQsan④ (形) ①(お産・病気などが) 軽い。②(進物などが) 軽少である。目方が軽い意では gaQsan という。
kaQti④ (名) 勝手。都合のよいまま。きまま。'waakaQti. わたしの勝手。?ariga ~。彼の勝手。
kara④ (名) (豆などの) さや。maaminu

~。豆のさや。maamiguru ともいう。
kara④ (名) から。からっぽ。中身がないこと。'nna ともいう。
kara④ (名) 体格。また、体力。~ çicun. 体力がつく。
-kara (助) ①から。空間・時間の起点を示す。kuma~ ?amamadi. ここからあそこまで。cuu~ ?acamadi. きょうからあしたまで。sigutoo şimaci~ muduree. 仕事は済ませてから帰れ。②を。通行する場所を示す。?ariga mici~ ?aQcutan. 彼が道を歩いていた。③で。通行の手段を示す。kaci~ ?icun. 徒歩で行く。huni~ ?icun. 船で行く。④から。原料・根拠などを示す。sakee kumi~ çukujun. 酒は米から作る。?unu kutu~。そのことから。
-kara (接尾) 匹。頭。豚などの家畜を数える時の接尾辞。cukara (一頭), takara (二頭) など。
karabasi④ (名) 利口者。主に才智のある子供をいう。
karagaaki④ (名) 井戸・川などが、すっかり干上ること。
-karagi (接尾) 束。束ねたもの(糸・たきぎ・萱・牧草など)を数える接尾辞。cukaragi (一束。また、一束になるほどの分量), takaragi (二束) など。
karahaai④ (名) 羅針盤。kara (唐) 渡来の haai (針) の意。
karahaatui④ (名) 鶏の一種。大型で、闘鶏用にもされる。略して haatui ともいう。カラバ (ジャカルタの古称) から来た鳥の意か。
karahuni④ (名) 骸骨。がら。肉の付いていない骨。~nu gutoon. 骸骨のようにやせている。
karahwaahu④ (名) 唐破風。首里城正殿 (munDaşii) の屋根を特にさす。また、首里城正殿の俗称。

karahwee

karahweeⓐ (名) たきぎの灰。

karahwisjaⓐ (名) はだし。

karaʔibaiⓐ (名) [新] からいばり。

karajoosaNⓐ (形) 体が弱い。

karajukaⓐ (名) 板敷き。何も敷いてない板の間。

kara=juNⓐ (他 =aN, =ti) (家畜などを) 飼う。

karaka=juNⓐ (他 =raN, =ti) 長くかかる。手間どる。cusigutu nagee karakatooN. 一つの仕事に長くかかっている。

karakaniⓐ (名) 青銅。唐金。

karakaraaⓐ (名) 酒を入れる器の一種。いろいろの形があるが、丸くて扁平、中央に注入口、わきに注出口が付いた形のものが多い。倒れにくく、また倒れてもこぼれにくい。mitaN ~ 'joonciguhwiN. 少少足りない人間。満たない karakaraa や、いっぱいはない小瓶の意。振ればかえて大きい音がする。mitaN ~ 'joonciqukuru. ともいう。

karakasaⓐ (名) 唐傘。かぶる笠に対する、柄のあるさし傘。

karakuiⓐ (名) ①機械。②三味線 (saNsini) のねじ。mudi, ziihwaa ともいう。

karakuimaçi'bui ⓐ (副) からみつき、まつわりつくさま。~ sjuN.

karaku=juNⓐ (自 =raN, =ti) からみつく。まつわりつく。

karakuziⓐ (名) からくじ。はずれたくじ。hwiihwirikuzi (尻ひりくじの意) ともいう。

karamaaⓐ (名) 玩具の名。蝶型をしていて、ばねじかけで羽が閉じるようになっており、あげたこの糸に通して空中を上下させる。

karama=cuNⓐ (他 =kaN, =ci) 巻きつける。ʔiicuu ~. 糸を巻きつける。

karami=juNⓐ (他 =raN, =ti) からめる。捕えて縛る。

karamitu=juNⓐ (他 =taN, =ti) からめとる。karamijun と同じように使う。

karamuNⓐ (名) 辛いもの。刺激性の辛いものをいう。塩辛いものは sjuuzuumun.

karamuNⓐ (名) おかず (katimun) のない飯。飯だけ。

karanaⓐ (名) 唐名。貴族・士族のもっていた中国風の名前。たとえば羽地朝秀の唐名は向象賢 (sjoo sjooken)。

karaʔNmuⓐ (名) [新?] さつまいも。薩摩人が伝えた語か。普通は単に ʔNmu ともいう。

karanaNpaⓐ (名) 洗い清めてない 'npa-nagumi (その項参照)。

kararaⓐ (名) 金良。《地》参照。

karasaNⓐ (形) 辛い。刺激性の辛さ (唐辛子・わさびなど) をいう。塩味については sipukarasaN, 塩味が強いことは sjuuzusaaN という。

karasiⓐ (名) 軽石。

karasiⓐ (名) 辛子。

karasijaaⓐ (名) 貸家。

karasiniⓐ (名) むこうずね。「からずね」と対比される。

karasjuⓐ (名) 魚貝類を塩漬けにしたもの。塩辛。

kara=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) ①(草木などを) 枯らす。②(声を) 枯らす。

kara=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) 貸す。ʔiraa-sjuN 参照。

karataⓐ (名) 体。身体。体格。kara ともいう。

karatakiⓐ (名) [唐竹] まだけ。竹の一種。公儀用として王室のために用い、また鹿児島に移出した。

karawibaciⓐ (名) からえすき。吐き気をもよおしながら、何も吐けないこと。

karazaaⓐ (名) から茶。お茶うけなしのお茶。

karaziⓄ (名) 髪。頭髮。文語では *kasira* ともいう。敬語では *ʔuncoobi*, *nuncoobi*, 卑語では *kantu* という。～*tujaasjuN*. 髪の乱れをととのえる。～*'juujuN*. 髪を結う。～*nu kii*. 髪の毛。
karazibucikiⓄ (名) 抜け落ちた毛髪。抜け毛。
karazigiiⓄ (名) 髪の毛。頭髮。
karazijuujaaⓄ (名) 髪結い床。katakasira を結うことを業とする者。一般人相手の職業となったのは明治以降である。
karazikweeⓄ (名) かみきり虫。
karazusuiⓄ (名) 乾いたぞうきんで拭くこと。からぶき。
karazuusanⓄ (形) 体が強い。
kareewaakiiⓄ (名) 家畜を共同で飼育して、利益を折半すること。たとえば、豚を飼うのに甲が資金を出し、乙が飼育して、甲乙で利益を分け合うなど。
karibaaⓄ (名) 枯れ葉。
karigiiⓄ (名) *kariki* と同じ。
kariguniⓄ (名) 寒村。産物とくに農産物の豊かでない土地。枯れ国の意。
karihati=juNⓄ (自 =*raN*, =*ti*) 枯れ果てる。
kariʔicaⓄ (名) するめ。
kariiⓄ (名) 嘉例。吉例。めでたいこと。縁起のよいこと。*bukarii* の対。～*namuN*. 縁起物。成功した人のみやげなど。
kariidaⓄ (名) *karijuda* と同じ。
karijudaⓄ (名) 枯れ枝。
kari=juNⓄ (自 =*raN*, =*ti*) ⊕(草木が) 枯れる。⊖(声が) かれる。
karijusiⓄ (名) [嘉例吉] めでたいこと。縁起のよいこと。*danZu ~ja ʔiradi sasimiseru*, *ʔuninu cina turiba kazija matumu*. [だんじゆ嘉例吉や いらでさし召しやいる お船の綱取れば 風やまとも] まことにめでたい旅行は、日を選んでなさるので船の綱をほどくと風は順風。(旅人の無事を祈って一族が集まり、歌い

踊る時の歌)

karikiⓄ (名) 枯れ木。*karigii* ともいう。
karikuriⓄ (名) [文] あれこれ。～*nu sigutu*. あれやこれやの仕事。
karikusaⓄ (名) 枯れ草。
karugaruutuⓄ (副) 輕輕と。軽く。*ʔnbumuN ~ mucuN*. 重い物を輕輕と持つ。～*ʔiqtii kwiree*. (飯などを) 軽くよそってくれ。
karukuⓄ (名) 家祿。大名をはじめ *ʔweedainiN* (役人) の与えられた祿。
karukumuciⓄ (名) 家祿持ち。俸祿を与えられている家柄。
karu=nuNⓄ (自 =*maN*, =*di*) 分娩する。軽くなる意。
karuNzi=juNⓄ (他 =*raN*, =*ti*) 軽んずる。大事にしない。*ʔuja ~*. 親をそまつにする。*nuci ~*. 命を軽んずる。
karuwazaⓄ (名) 軽業。*hooka* ともいう。
kasaⓄ (名) 傘。笠。～*hajun*. 傘を張る。傘を作る。傘の種類は、*dangasa* (蘭傘) または *kaabujaagasa* (こうもりがさ, すなわち洋傘), *ʔeegamigasa* (藍紙傘, 貴婦人用), *toogasa* (唐傘) または *ʔoogasaa* (背傘) の男子用, *kubagasa* (びろりの笠, 農民用), *mintariigasa* (面垂笠, 編笠の一種で農民用), *munzurugasa* (麦藁笠, いなかの娘用), *ʔamigasa* (編笠, 芝居用), *hanagasa* (花笠, 芝居用) など。
kasaⓄ (名) 瘡。悪性の腫れものをいう。普通の腫れものは *niibutaa* という。
kasaba=juNⓄ (自 =*raN*, =*ti*) ⊖重なる。二重になる。⊕かさばる。
-kasabi (接尾) 重ね。*cukasabi* (一重ね), *takasabi* (二重ね) など。
kasabi=juNⓄ (他 =*raN*, =*ti*) 重ねる。
kasabutaⓄ (名) かさぶた。腫れものがつづられてから、上に生ずる厚い皮。*kasanta* ともいう。

kasagijun

kasagi=junⓄ (自 =raN, =ti) はらむ。みごもる。妊娠する。女は siduugahuu sjoon. (ありがたい頂載物をいただいて) などという。kasagirasjun. はらませる。妊娠させる。不義の場合などという。

kasagiNcuⓄ (名) 妊婦。

kasaguiⓄ (名) 杖。

kasahajaaⓄ (名) 傘張り。傘作りを業とする者。

kasakiⓄ (名) 瘡のできかかるとの気配・性質。

kasani gasaniⓄ (名・副) 重ね重ね。～nu kutu. 重ね重ねのこと。～ ?jun. 何度も言う。

kasa=nuNⓄ (自 =maN, =di) かさむ。かさばる。

kasantaⓄ (名) kasabuta と同じ。

kasazeekuⓄ (名) 傘作りを業とする者。傘屋。

kasiⓄ (名) ⊖ 袴糸 (かせいと)。綴 (かせ)。布を織る経糸。⊖ 袴 (かせ)。経糸を巻きつける器具。～ kakijun. かせにかける。一反分の糸を張りわたす。

kašiⓄ (名) かす。よいところを取った残り。酒・豆腐のかすなど。

kasi?ajaⓄ (名) 縦縞。

kasiciⓄ (名) 布の織り始めの部分。織り始めて1尺ぐらいまでをいう。～ ?ucun. 1尺ぐらい布を織った時、ひもを切って布を巻きつける。

kasiciiⓄ (名) もち米を蒸した飯。おこわ。強飯。旧暦8月10日に作って祝う。

kasigaaⓄ (名) 南京袋などに用いる粗布。木の繊維で作る。

kasigaabukuruⓄ (名) 南京袋。

kasiiⓄ (名) 加勢。手伝い。援助。応援。～ sjun.

kašikasi'iⓄ (副) さっさと。手早く。～ šee. さっさとしる。

kaši=junⓄ (自 =raN, =ti) 痛飲する。大酒

を飲む。kaširee ?arakacii, numee hwi-zaa. 大いに飲めよ、新垣、比嘉。(?aragacii, hwi-zaa は平民の人名。語末母音を短くすれば士族の人名となる。)

kasimasjanⓄ (形) かしましい。やかましい。うるさい。音に限らず用いる。

kasinuciⓄ (名) 経糸と緯糸。かせ糸とぬき糸。

kasinucisiragaⓄ (名) 経糸・緯糸ともに siraga (その項参照) の布。純絹。

kasinucituNbjanⓄ (名) 経糸・緯糸とも tuNbjan (その項参照) で織った布。最上の夏物となる。

kasiraⓄ (名) [文] 髪。?agari ?akagari-ba šimi narega ?icun, ~ ?juti tabori 'wa?ujaganasi. [あがりあかがれば 墨習れが行きゆん かしら結てたばうれ 我親がなし] 東の空が明るくなれば学問を習いに行きます。髪を結って下さい、おかあさま。

kasiraⓄ (名) かしら。長。

kasiradacunⓄ (自 =taN, =qci) かしら立つ。長として立つ。

kasiragiiⓄ (名) [文] 頭髮。髪の毛。kasi-raginu simuja ?ičinu mani hutaga, cimuja nama harunu sakari 'jašiga. [髪の毛の霜や いつの間に降たが 肝やなま春の 盛りやすが] 髪の毛の霜はいつの間に降ったか。心はまだ春の盛りなのに。

kasirajakuⓄ (名) [文] かしら役。組踊り用語から察すると、群雄割拠時代に城主按司の相談役・長官を兼ねていた役であったろうと思われる。

kašitiraⓄ (名) ⊖ カステラ。菓子名。⊖ 料理名。魚肉をすりつぶし、卵を入れて作る。材料も味も伊達巻きに似ている。

kašizeeⓄ (名) 泡盛のかす。酒かす。

kašizee?eeiⓄ (名) 酒かすの汁であえたあえ物。

kašizeemiiⓄ (名) 鷹の灰色をした目。また、

その鷹。比較的安価で士族の子供たちが買ってもらった。貴族の子供が買う *cinmii* (金色の目の鷹) に対する。

kataⓐ (名) 肩。～ *kurabijun*. 肩を並べる。比肩するの意。

kataⓑ (名) ㊦型。典型。㊦型どった絵。
?nmanu ～. 馬の絵。㊦跡かた。㊦規則。規定。規準。～ 'isijun. イ、規定を作る。規準を定める。ロ。かたをつける。爪あとなどをつける。㊦かた。抵当物。担保。

kata- (接頭) 片。片一方の。katahwisja (片足), katadii (片手) など。

-kata (接尾) ㊦方向。方面。方。?agarikata (東の方), simukata (鳥尻方面), sjui-gatanu samuree (首里の士族) など。㊦仲間。味方。taruukata (太郎の味方) など。

kata?agaiⓐ (名) 料理などが片側だけでき上がること。半煮え。蒸し物などが片側だけ煮えて、他の側が煮えない場合などをいう。

katabaiⓐ (名) 肩の盛り上がったところ。また、肩の張りぐあい。

katabaruⓐ (名) 渦。干渦。遠浅で、潮の干満によって現われたり隠れたりするところ。haru は平原。

katabiiciⓐⓑ (名) えこひいき。偏愛。

katabuiⓐ (名) かたしぐれ。片方は晴れていながら片方で降る夏の雨。naçinu ?amee ?nmanu naganin huiwakasjun. (夏の雨は馬の背も降りわけるといふ) という。

kataciⓐ (名) ㊦敵 (かたき)。㊦気の合わない者。

kataciⓑ (名) ㊦形。㊦姿。容貌やなりぶり。～nu 'jutasjan. 姿がいい。

kataçiburujanⓐ (名) 偏頭痛。hanziçuu ともいう。

kataçikiⓐ (名) 型付け。染め方的一种。型紙を布の上に張り、その上から染料を塗って模様をつけるもの。また、その染めた

布・着物。bingata, ?eegata などがある。

kataçikijaaⓐ (名) 型付け (bingata, ?eegata など) を業とする者。

kataçimiganigwaaⓐ (名) かにの一種。海産で、一方のはさみだけが大きい。

kataçinsiⓐ (名) 片ひざ。～ *tatijun*. 片ひざを立ててすわる。昔の男女の正座のしかたである。のちには、男は端座、女は横すわりが正座となった。

katadiiⓐ (名) 片手。片方の手。

kataduⓐ (名) 半身。体の右あるいは左の半分。

katagataⓐ (副) たまたま。あいにく。一時に両様のことがある場合にいう。?ikiwadu 'jataşiga, ～ ?icunasii basju 'jati, ?ikarantan. 行くべきだったが、ちょうど忙しくて行けなかった。

katageenaⓐ (名) 肩から二の腕にかけての部分を用いる。

kataguuⓐ (名) 片方。一対あるものの片方。

kataguumaNcaaⓐ (名) 片ちんば。ちぐはぐ。箸・下駄など、一対となるべきものが互いに不揃いなこと。

katahabaⓐ (名) 肩幅。

kataharaⓐ (名) かたわら。わき。'waree ～Nkai. かけらはわきへ。割れものを落として割った時、そばの者が先回りしてひやかすことば。

katahuⓐ (名) [文] 片帆。片方の帆。muruhu (諸帆の意) の対。～ mucagiriba kataminu nada ?utuci, muruhu mucagiriba muruminu nada ?utuci. [片帆もちやげれば 片目の涙落ち 諸帆もちやげれば 諸目の涙落ち (おやあんま狂言)] (別れを悲しんで) 片方の帆をあげれば片方の目の涙を落とし、両方の帆をあげれば両目の涙を落として。

katahwaⓐ (名) 片刃。muruhwa (両刃)

katahwa

の対。

katahwaⓐ (名) 片輪。不具。

katahwaaⓐ (名) 片輪者。

katahwamuNⓐ (名) 片輪者。katahwaa
ともいう。

katahwasiig⁷guⓐ (名) 片刃の小刀。

katahwiciⓐ (名) 畸形。

katahwicimuNⓐ (名) 畸形の者。

katahwisjaⓐ (名) 片足。

kataibiⓐ (名) [文] 語る人。「語り部」に
対応すると見られる。-bi の付く語にはほ
かに sirasibi (知らせる人) などがある。
kata=juNⓐ (他 =raN, =ti) [文] 語る。ka-
tajabira. 語りましょう。'iikutu katari.
[口語] からすが鳴いた時に言うまじな
い。いいことを語れの意。

katakaⓐ (名) ㊦遮蔽。さえぎるもの。ti-
dagataka (日よけ), kazigataka (風よ
け) など。㊦庇護。かばうこと。'innu ci-
ragataka. 縁が顔をかばう。縁のある者は
顔までいい顔に見える。~ sjun. さえぎ
る。よける。また、かばう。

katakakiⓐ (名) 片手落ち。不公平。cuunu
ciikazija kuniguniN tijura, ~N ne-
ranu tiNnu ʔuzimu. [けふの月影や
国々も照ゆら 片欠もないらぬ 天のお肝]
きょうの月影は国国を照らすだろう。不公
平もない天の御心。

katakaki=juNⓐ (他 =raN, =ti) 兼務する。
掛け持つ。片手間に他の仕事をする。くり
合わせて仕事する。ʔicunasaN katakaki-
ti. 忙しいのもくり合わせて。

katakakimaa⁷kakiⓐ (副) 方方の仕事を掛
け持ちするさま。

katakamieiⓐ (名) ひっこんだところにあ
る、人目につかない道。

katakasaaⓐ (名) katakasi と同じ。

katakasiⓐ (名) 魚名。赤味を帯びた黒い、
ありふれた魚で、干物にすることが多い。

katakasiraⓐ (名) [欵髻] 成人男子の髪

型。元は頭の右辺に結び、後には中央に結
ぶようになった。貴族は 15 歳で、一般は
10 歳内外で結った。

katakasirajuuiⓐ (名) [欵髻] 元服。男
子が 10 歳前後に達した時、はじめて ka-
takasira を結う儀式。親戚中の人格者・
成功者に結ってもらい、盛大に祝って、供
の者を従えて親類回りをして披露した。貴
族の場合は、15 歳で行ない、ziNbuku (元
服) という。

katakasirajunjaaⓐ (名) 髪結い床。ʔiq-
kwanmagi (一貫髻), nikwanmagi (二
貫髻) など、料金の別があった。

katakuciwareeⓐ (名) 微笑。ほほえみ。片
口笑いの意。

katakukuruⓐ (名) 片心の意。次の句でい
う。~ 'jurusjun. (すっかり安心するの
でなく) ひとます安心する。一息つく。

katakusinuziⓐ (名) 片袖を脱ぐこと。女
が働きやすくするためにする。

katakuziraⓐ (副) ㊦始終。ずっと。kuu-
sainikara ~. 小さい時からずっと。㊦…
をはじめとして。tuzikwa ~ nukurazi-
ni kuruci, mikatani kigaja ʔicininuN
'ujabiraN. [妻子かたくづら 残らずに
殺ち 味方に怪我や 一人も居やべらぬ
(忠臣身替)] 妻子をはじめ残らず殺し、
味方にけがはひとりもおりません。㊦早
早。ciija ~. 来るが早いか。

katamadocciⓐ (名) 一段落。仕事などが
一段落してちょっと暇になること。

katamaiⓐ (名) かたまり。

katama=juNⓐ (自 =raN, =ti) つまる。塞
がる。hananu ~. 鼻がつまる。'nʔunu
~. 溝がつまる。katamarasjun. つまら
せる。

katamiⓐ (名) 男女の契り。また、契りと
して取りかわすもの。

katamiⓐ (名) 形見。死者または長く別れ
る人の形見。

-katami (接尾) 荷。かつぎ上げる荷を数える接尾辞。cukatami (一かつぎ), takatami (二かつぎ) など。

katami?acineeⓄ (名) 行商。また、行人。荷をかついで商う男をいう。荷を頭にのせて行商する女は kamii?acinee。

katamieiⓄ (名) 片道。

katamidimaⓄ (名) かつぎ賃。かついで運ぶ手間賃。

katamiiⓄ (名) ⊖片目。一方の目。～ kuujuN。片目を閉じる。⊖片目。隻眼。また、片目の者。

katami=juNⓄ (他 =raN, =ti) かつぐ。荷を肩にのせる。tiqpuu ～。鉄砲をかつぐ。

katami=juNⓄ (他 =raN, =ti) ⊖濃くする。茶・色彩などについていう。⊖[新] 固くする。

katanaⓄ (名) 刀。

kataneeciriⓄ (名) 肩上げ。子供の着物のゆきを肩のところに縫い上げておくこと。

kataniiⓄ (名) 半分の荷。半荷。～ ?urusjuN。負担が軽くなる。

kataniiⓄ (名) 片方だけ煮えて、他の片方がよく煮えていないこと。半煮え。

kata?NnaziⓄ (名) 着物をゆがめて着ること。褌が合わないこと。?Nnazi は背縫いのこと、これが片方にゆがむ意。

kataNciⓄ (名) 傾き。傾斜。

kataNcibaiⓄ (名) 恥じてこそこそと急いで行くこと。傾き走りの意。

kataN=cuNⓄ (自 =kaN, =ci) ⊖傾く。hwiinu kataNcooN。日が傾いている。⊖傾倒する。熱中する。

kataNki=juNⓄ (他 =raN, =ti) 傾ける。

katara=juNⓄ (他 =aN, =ti) 仲間に入れる。味方に引き入れる。「語らう」に対応する語だが、-kata (方, 味方) との連想がある。

katarceⓄ (名) ⊖仲間となること。仲間入りを約束すること。⊖男女の一緒になる約

束。?ikataree ともいう。

katasaciⓄ (名) 一方の手を伸ばした、その先端から他方の肩先までの長さ。布の長さなどを計る基準。肩先の意。鯨尺3尺。

katasaNⓄ (形) ⊖固い。堅い。⊖濃い。那覇では kuusaN という。kunu ?usiroo 'Nsunu ～。このおつゆはみそが濃い。kunu ?aka naa ?ihwee katasaree 'jaa。この赤がもう少し濃ければねえ。⊖堅い。堅実である。義理強く、品行が正しい。katasii qcu。堅い人。

katasijuNⓄ (名) 髪油。女が髪につける油。

katašimiⓄ (名) 片隅。

katašiziⓄ (名) 布を織る時の、経糸一本。cuhwaa (経糸二本) に対して片すじの意。

katasudiⓄ (名) 片袖。

katasudinuziⓄ (名) katakusinuuzi と同じ。

katatimaⓄ (名) 片手間。

katatuciⓄ (名) [文] 片時。'wakaribija čimati ?acaga hwini nariba, ~N ?usuba hanarigurisja [別れ日やつまで明日が日になれば 片時もお側 はなれぐれしや] 別離の日が迫って、あすの日になると片時もお側を離れられない。

kata?udiⓄ (名) ⊖片腕。⊖最も頼みとなる、協力者。片腕。

kata?ujaⓄ (名) 片親。また、片親しかいないこと。

kata?umuiⓄ (名) 片思い。片恋。

katawakiⓄ (名) 不公平な配分。片寄った分け方。

katawakitiiⓄ (名) 勝負事で人数を二手に分けること。

katawariⓄ (名) 片割れ。割れた一片。

katazaaⓄ (名) 濃い茶。～ nudi miigu-hwai sjooN。濃い茶を飲んで眠れない。

kataziki=juNⓄ (他 =raN, =ti) 片付ける。

kateemunⓄ (名) 困った事。やっかいな

katijun

事。生活難・家庭の不和などをいう。

kati=junⓐ (他 =raN, =ti) おかずにする。

おかずにして飯といっしょに食う。首里では単に「加える・付加する」の意では用いない。

katimuⓐ (名) おかず。お菜。<katijun。

katooⓐ (名) 堅固。丈夫。'jaanu simaree ~ni Qsi 'joo. 戸じまりは堅固にしろ。~na haka. 堅固な墓。

kauⓐ (名) [文] 顔。口語は çira。

kawaⓐ (名) [文] 井戸。口語は kaa。

kawa=cunⓐ (自 =kaN, =ci) (のどが) 渴く。おとなの語。子供なら kaakijun という。

kawaiⓐ (名) 代わり。代理。代用。

kawaiçeⓐ (名) 交替。役目などの交替。~sjun。

kawaiikutuⓐ (名) 変わった事。珍しい事。

kawaiimuⓐ (名) ⊖変わったもの。珍しいもの。⊖殊勝な者。

kawa=junⓐ (自 =raN, =ti) ⊖変わる。変化する。また、異なる。tusinu ~. 年が改まる。nuusinu ~. 主が変わる。'Nka-situ kawaraN. 昔と変わらない。'uci-naatu ~. 沖縄と違っている。⊖代わる。入れ代わる。交替する。cigaajun ともいう。

kawaqtakutuⓐ (名) ⊖変わった事。珍しい事。nuun kawaqtakutoo neeni. 何も変わった事はないか。⊖とんでもない事。思いもよらない事。"taNmee sai hikookinkai numişeebiimi." "haa ~." 「おじいさん、飛行機にお乗りになりますか。」「おお、とんでもない。」

kawarumi'uzooⓐ (名) 首里城の門の名。'uğuşiku の項参照。

kawatiⓐ (副) とりわけ。格別。特に。ことに。cuuja ~ sikaraasjan. きょうは特別寂しい。

kaçaⓐ (名) におい。niwi ともいう。ni-

wi はおとなの使う上品な語。~sjun。

イ。においをかぐ。ロ。においがする。

hana ~ sjun. 花のにおいをかぐ。

kazadihuubusiⓐ (名) [かぎやで風節] 歌曲の名。祝宴の最初に歌りめでたい歌の節の名。guziNhuubusi [御前風節] に属する。「この名称、漠然と拠るところなけれども、或人の説に、カンヂヤーデフーなり、むかし国頭間切奥間村の鍛冶屋尚岡王を救ひ奉りたる御褒賞によりて、国頭間切総地頭を命ぜられ、按司の位に叙せられたる嬉しさをかたどりて作りたる歌曲にして、カンヂヤー首里に出るの風儀といふの意なりといふ。此の外多説あれども、此の説近きに似たり。斯く記して後人の参考を待つ。鍛冶屋の末世は今の馬氏国頭按司家也。(南島入重垣)」代表的な歌詞を二つあげておく。kijunu hukurasaja nau-nizana tatiru, çibudi 'uru hananu çiju cata gutu. [けふのほこらしややなをにぎやなたてる つぼでをる花の つゆきやたごと] きょうのうれしきは何にたえられようか。花の蕾が露に会ったようだ。'atagahunu çicaşı 'jumijacoN 'ndaN, 'waju 'jariba 'wadui 'ugadi şidira. [あた果報の着きやす 夢やちよも見らぬ 我胴やれば我胴い 挿ですでら] こんな幸運が来るとは夢にも見なかった。わが身がわが身であるとも思えない。ありがたういただきます。

kaçaiⓐ (名) 飾り。装飾。

kaça=junⓐ (他 =raN, =ti) 飾る。kaçai-tatijun. 飾り立てる。

kaziⓐ (名) 陰。光の当たらない場所。kii-nu ~. 木陰 (kiinu kaagi ともいう)。

kaziⓐ (名) 舵。

kaziⓐ (名) 風。

kaziⓐ (名) うなじ。えりくび。

kaziⓐ (名) 繊維。筋。

-kazi (接尾) ごと。たび。ごとに。たびに。
qcukazi (人ごとに), cineekazi (家ごと
に) など。'jaakazi hatanu taqcooN. 家
ごとに旗が立っている。

kazi① (名) 数。

kazibusi① (名) 陰干し。日陰で干すこと。

kazi① cicuN① (句) cicuN(利く)の項参
照。

kaziciri?abii① (名) 声を限りに叫ぶこと。
絶叫。

kazigaa① (名) kazi (うなじ) の卑語。首
のねっこ。-gaa < kaa (皮)。

kazigataka① (名) 風よけ。風を防ぐため
のもの。kataka は遮蔽物。

kazigwee① (名) 堆肥。

kazihuci① (名) 暴風。-huci < hucuN。

kazihuci?aakeezuu① (名) とんぼの一種。
暴風の吹きそらな時、その前触れのように
群れ飛ぶ赤とんぼ。

kazihucimaamina① (名) ひょろ長く、細
いもやし。

kazii① (名) ①ねばり強い者。容易に負け
ない者。②下品な者。下等なもの。

kazikaki=juN① (他 =raN, =ti) 念を押す。
だめを押す。また、約束する。

kazikazi① (名・副) たびたび。~nu ku-
tu 'jati. たびたびの事で。~ gumindoo
kakiti. たびたび御面倒かけて。

kazimaai① (名) 風が回ること。風向きが
変わること。

kazimaci① (名) 旋風。つむじ風。海上の
龍巻きは ruu (龍) という。

kazimajaa① (名) ①風車 (かざぐるま)。
風に舞うものの意か。hananu kazimaja-
ja kazi ciriti miguru, 'wamija dusi
tumeti ?asibibusjanu. [花の風車や
風つれてめぐる 我身やどしとまひて 遊
びほしやの (女物狂)] 花の風車は風と一
緒に回る、わたしは友だちを捜して一緒に
遊びたい。~nu ?uiwee. 九十九歳の祝
い。来客にみやげとして風車を贈る。②転

じて、十字形のもの。③十字路。四つ角。
④首里の尚家の角にある十字路。⑤植物
名。くちなし。その白い花が十字形をし
ているのでいう。kucinasi ともいう。

kazimihuka=sju`N① (他 =saN, =ci) 大事
にしまい込んで、どこにあるのかわからな
くなる。

kazimi=juN① (他 =raN, =ti) 秘蔵する。
大事にしまって置く。

kazimimuN① (名) 大事にしまって置いた
もの。とっておき。秘蔵品。

kazinaraNmu`N① (名) 数えるに足りない
者。自分の謙称として使う。不肖。

kaziraasjan① (形) 卑しい。さもしい。

kaziramaai① (名) 軒下の盛り土したとこ
ろ。家の周囲の軒下に石を並べ土を盛っ
て、地面よりやや高くして、水はけをよく
する。その盛り土した部分。

kaziri① (名) ①限り。きり。hamaa ?Nzi-
N ?NziN ~nu neeraN. 浜は行っても行
っても限りがない。②期限。~ sjun. 期
限を決める。kaziree sjootiN hwinbinoo
saN. 期限は決めておいても返しはしない。
③(接尾) 限り。ありったけ。nucikaziri
hataracuN. 命の続く限り働く。

kaziti① (副) きっと。かならず。~ cuun
'jaa. 必ず来るねえ。

kazitui① (名) 舵取り。操舵手。

kazi?waara①① (名) 風上。kaziwaara
ともいう。

kaziwaara①① (名) kazi?waara と同じ。
kazooidamuN① (名) 風で折れた木の枝
をたきぎとしたもの。

kazoirimuN① (名) 蕁麻疹。ほろせ。

kazoirimuN① (名) 風で折れた木の枝な
ど。

kazoosaN① (形) 風が強い。大風というほ
どではないが、室内で紙が飛んで障子をし
めなければならぬ程度の風。海上なら、
小さい漁船が警戒する程度の風をいう。

kazuujun

kazuu=juN① (自 =raN, =ti) (予定より) ふえる。増す。加増の意か。niNzunu ~。人数がふえる。ʔiriminu ~。入費がふえる。

kazuu=juN② (他 =raN, =ti) 数える。普通は 'junun という。

kee① (名) 櫃。ʔeeku, ʔweeku ともいう。

kee② (名) 貝。

kee③ (名) さじ(匙)。

kee④ (名) ひつ。衣裳箱。唐櫃に似た中国風の箱であるが、足はない。衣類を入れる。かぶせぶたがあり、さらに kakugu という中ぶたがあって、その下に衣類を入れる。婚礼の時、花嫁が着物をいっぱい入れて持参する。敬語は 'Ncee。

kee⑤ (名) 粥。ʔukee ともいう。

kee-(接頭) 動詞につき、ちょっと…する、軽く…する。また、思い切って…する、…しちゃうなどの意を表わす。接頭辞 cii-と似ている。keehoocon (ちょっと掃く), keenadijun (ちょっとなでる), keekoojun (買ってしまう, 思いきって買う) など。

-kee(接尾) 階。家の階数を数える接尾辞。niikee (二階), sankee (三階) など。

-ke'e(助) よ。「禁止形」に付く。< ʔukee (置けよ)。sjuna ~。するなよ。ʔikuna ~。行くなよ。

keehacieu'uN① (自・不規則) 来てしまう。keehacikuu。来ちゃえよ。

keeyicu'uN① (自・不規則) 行ってしまう。思い切って行く。

keei① (名) おつり。つり銭。keesimudusi ともいう。

keei② (名) 帰り。帰路。

keei③ (名) keeruu と同じ。

keemici① (名) 帰りみち。帰途。

keezin① (名) 着替え。着替えの着物。

kee=juN① (自 =raN, =ti) ⊖(自宅・もといた場所に) 帰る。⊖(もとの所有者・状態、

もとあった位置に) 返る。⊖(複合語として) ʔutikeejun (子供の状態に返る), 'warabi naikeejun (老衰して、子供に返る) など。

kee=juN② (他 =raN, =ti) 替える。変える。cin ~。着物を替える。zin ~。金をくずす。

keekoo=ju'uN① (他 =raN, =ti) 買ってしまふ。思い切って買う。

keena① (名) かいな。二の腕。肩から肘までをいう。

-keen(接尾) 回。回数を数える接尾辞。cukeen①(一回), takeen①(二回), mi-keen①(三回), 'jukeen①(四回), ʔi-keen①(五回), mukeen①(六回), nanakeen①(七回), 'jakeen①(八回), kunukeen①(九回), tukeen①(十回), ʔikukeen①(何回) など。

keerasikuru'basi① (副) ひっくり返したりころがしたり。物を粗末に扱うさまなどをいう。~ sjun.

keera=sjun① (他 =saN, =ci) ⊖keejun (帰る, 返る)の使役形。帰す。帰らせる。返らせる。⊖ひっくり返す。siisi ~。獅子舞を踊る。獅子をひっくり返すようにして踊るのでいう。

keeri=juN① (自 =raN, =ti) ひっくり返る。くつがえる。転覆する。

keeriku^orubi① (名) 抱腹絶倒。笑いころげること。

keerinkuru^obin① (副) ⊖ころげ回るさま。⊖(不精して) ごろごろしているさま。

keerirake'rira① (副) ひっくり返りそう。~ qsi, 'Nncin ʔaja@saN。ひっくり返りそうで、見ていてはらはらする。

keeruu① (名) 交換。取り替えっこ。keei ともいう。

-keesaa(接尾) 何度もくり返すこと。また、そうしたもの。ʔNburasikeesaa (何度も蒸し直した料理), ʔaʔirasikeesaa (何度も暖め直した食物), noosikeesaa sjun.

(何度も直す) など。

keesiⓄ (名) ⊖お返し。返礼。～ sjuN.
返礼をする。⊖し返し。返報。～ ꠘucun.
し返しをする。復讐する。⊖地震のゆり返
し。余震。大風の吹き返し。暴風が途中で
いったんやんでから、反対の方向から吹き
返すこと。～ ꠘucun. 吹き返しが起こる。

keesibaruⓄ (名) keesibataraci と同じ。

keesibataraciⓄ (名) 耕作の労働。田畑を
打ち返す労働。keesibaru ともいう。

keesimaaⓄ (名) 着物を裏返しに着ること。

keesimudusiⓄ (名) おつり。つり銭。keei
ともいう。～ ja namaja neejabiran.
šinabiisa. [返し戻しや 今や無いやべら
ぬ すみやべいさ(茶売節)] おつりは今は
ございません。結構です。

keesjooⓄ (名) 航海中。船が航海を続け海
上にあること。kagusimankainu ~ nu
basju ꠘuukazi nati. 鹿児島への航海中
に嵐になって。

kee=sjunⓄ (他 =saN, =ci) ⊖(もとの所有
者・状態、もとあった位置に)返す。⊖(人
を) 帰す。この意味では多く keerasjun
という。⊖耕す。(田畑を) 打ち返す。ta-
geesjun ともいう。hataki ~. 畑を打ち
返す。⊖(接尾)…し返す。tuikesjun(取
り返す) など。

keeteeⓄ (副) かえって。むしろ。keeti,
keetiNkai ともいう。～ ꠘuree masi. か
えってそれはよい。

keetiⓄ (副) かえって。むしろ。keetee,
keetiNkai ともいう。

keetiNkaiⓄ (副) かえって。むしろ。kee-
ti, keetee ともいう。

keetuihwici'tuiⓄ (副) 他人のものを取っ
たり、ごまかしたりするさま。

keetu=junⓄ (他 =raN, =ti) かっぱらう。
ちょろまかす。かすめとる。

keetu^unaiⓄ (名) 隣近所。cukeetunai と
もいう。

keezuciⓄ (名) 小皿。kuzara ともいう。
お茶請けなどを盛るもの。

keezooⓄ (名) [開静] 寺院で明けがたに鳴
らす鐘。「日出卯の楼鐘百八の声を云(混効
駱集)」 もともと禅林で晨朝板を鳴らすこ
とで、静眠を開覚する意。naNmiNnu ke-
zoja sjuinu kezotumuti satu ꠘukuci
'jaraci 'wazimu 'janusa. [波上の開静
や 首里の開静ともて 里起ちやらち 我
肝やぬさ] 波上護国寺の鐘を首里円覚寺の
鐘と思ひ違えて、愛する人を早く起こして
帰してしまい残念だ。辻遊郭の遊女のよ
んだ歌。護国寺の鐘は円覚寺の鐘より早く
鳴った。

keezooganiⓄ (名) [開静鐘] keezoo と同
じ。sikeja kurajamika ꠘuzumu cuja
'uraN, 'jagati kezoganiN najura 'jasi-
ga. [世界やくらやみか うずむ人や居ら
ぬ やがて開静鐘も 鳴ゆるやすか] 世の
中は暗やみなのか、目ざめる人はいない。
やがて夜明けの鐘も鳴るであろうのに。革
命の近いのを諷した歌。

keNkeNⓄ (副) 念仏宗のこじき (ninbu-
caa) のたたく鉦の音。

kibujaaturuuⓄ (名) よく燃えないで盛
んにくすぶること。

kibu=junⓄ (自 =raN, =ti) けふる。くす
ぶる。燃えずに煙ばかり出る。

kibusanⓄ (形) けむい。けむたい。

kibusiⓄ (名) 煙。cimuri ともいう。～
macaasjun. 煙がうずを巻く。

kibusikazaⓄ (名) 煙臭いにおい。

kiciⓄ (名) たるき。

kiduⓄ (名) ~ nucun (疎遠になる) とい
う句で用いる。間柄という意味らしい。

kigaⓄ (名) ⊖けが。負傷。⊖被害。損害。
nuun ~ nu neen. 何の被害もない。ta-
nci haradacija ~ nu mutu. (諺) 短気・
立腹は損害を受けるもと。

kiganinⓄ (名) ⊖けが人。負傷者。⊖被害

- 者。
- kii**Ⓞ (名) 木。樹木。木材。
- kii**① (名) 毛。毛髪・羽毛・獣毛など。hwi-zi は顔のひげのみをいう。
- kiibisjaa**Ⓞ (名) 竹馬。木の足の意。
- kiibutuki**Ⓞ (名) 木仏。木造の仏像。
- kiihagimootui**① (名) 毛のぬけたつぐみ。老衰した者のたとえとなる。おいほれ。
- kiihukugidaci**① (名) 鳥肌が立つこと。kii は毛、hukugi は細毛。
- kiiYiru**① (名) 毛色。獣類の毛の色。
- kiikaši**Ⓞ (名) おがくず。
- kiikusa**Ⓞ (名) 草木。kusaki ともいう。
- kiikuzi**Ⓞ (名) 木釘。
- kiimaa**① (名) 毛深い者。毛むくじゃら。
- kiimaQkwa**Ⓞ (名) 木枕。もと枕はすべて木製で、木の柱を四角に切ったものを用いたが、のちに四角の指物になり、黒い漆を塗った。
- kiimiikuci**① (名) 毛髪のはえぎわ。額・えりくびなどの髪のはえぎわ。
- kiimoo**① (名) あるべきところに毛の無いこと。また、その者。ひげの無い者は hwi-zimoo という。
- kiimumu**Ⓞ (名) 皮に細毛のある桃。毛桃の意。水蜜桃に似て小さい。単に mumu といえふつう楊梅をいう。
- kiimusi**① (名) 毛虫。
- kiinubui**Ⓞ (名) 木登り。
- kiinuhwaa**Ⓞ (名) 木の葉。
- kiinuhwaaYuzoo**Ⓞ (名) 緑門。木の葉の緑で飾ったアーチ。
- kiinuhwizi**Ⓞ (名) 植物の気根。
- kiinukaa**Ⓞ (名) 木の皮。樹皮。
- kiinukaagi**Ⓞ (名) 木陰。
- kiinumata**Ⓞ (名) 木のまた。木の枝の分かれる所。~kara Ynmaritan. 木のまたから生まれた。親不孝者の形容としていう。Yjaaja ~karadu Ynmaritii. おまえは木のまたから生まれたのか、この不孝者。
- kiinumuQkuu**Ⓞ (名) 木の実。小さい、食べられない実を多くいう。kiinunai はたいてい大きくて食べられるもの。
- kiinunai**Ⓞ (名) 木の実。果実。くだもの。
- kiinunii**Ⓞ (名) 木の根。
- kiinusin**Ⓞ (名) こずえ。木の(先端の)芯の意。
- kiisiru**① (名) 獣類の毛のぐあい。毛並・毛色・毛のつやなど。
- kiitu**Ⓞ (名) 毛糸。
- kiiYui**Ⓞ (名) きゅうり。
- kiiYuuši**Ⓞ (名) 木白。木製の白。つき白と石白型のひき白とがある。
- kiizeeku**Ⓞ (名) 大工。Yisizeeku (石工), kanzeeku (鍛冶屋) などに対する語。
- kiizicaa**Ⓞ (名) 木づち。seezicaa ともいう。
- kiizihwaa**Ⓞ (名) 木製のかんざし。平民の女がさすもの。
- kiiziri**Ⓞ (名) 木切れ。木片。
- kiizoo**Ⓞ (名) 木造の門。Yisizoo (石垣の門), 'jaazoo (屋根門) などに対する。
- kiju**Ⓞ (名) [文] cuu (きょう) の文語。
- ki=juN**Ⓞ (自 =raN, =ti) 抵触する。さしさわる。かち合って支障を生ずる。まれな語。nuutun kiran. 何ともかち合わない。二種の薬を飲んでも害がない場合、転居・祭祀などの日がさしさわりがない場合などにいう。
- ki=juN**Ⓞ (他 =raN, =qci) 蹴る。
- kikaci**Ⓞ (名) 木立。屋敷内の木立などをいう。
- kikaraa**Ⓞ (名) 木のかげら。木のけずりくず・切れはし・根の割ったかけらなど。
- kikarazi**① (名) 毛髪。
- kiNkiN**Ⓞ (名) 健堅。(地) 参照。
- kiNzii**① (名) [硯水] 酒・さかななどの贈りもの。親類の家の普請などの際に、大工などに贈る酒・さかななどをいう。
- kiQcaki**Ⓞ (名) つまづき。また、失敗。

- haiʔNmanu ~. 駿馬のつまずき。猿も木から落ちるの類。~ sjuN. つまずく。
ʔisiNkai ~ sjaN. 石につまずいた。
- kiqkiriikii**① (副) ちゃばの鳴き声。
- kiqsa**① (名) さっき。さきほど。~ caN. さっき来た。
- kiqtaakiririN**① (副) 綱引きの時の鉦鼓 (sjoogu) の音。
- kiqtu**① (名) [新] ケット。毛布。
- kirama**① (名) 慶良間列島。沖縄本島南部の西方にある列島。kiramaa miijušiga mačigee miiran. 慶良間は見えるがまつ毛は見えない。「燈台もと暗し」の意。
- kiramatama ziri**① (名) [慶良間二間切] 慶良間の二つの間切 (maziri), すなわち渡嘉敷 (tukasici) 間切と坐間味 (zamami) 間切。
- kirihoo=ju`N**① (他 =raN, =ti) 蹴散らす。
- kiriikeera=sju`N**① (他 =saN, =ci) 足にかけてひっくりかえす。蹴ってひっくりかえす。
- kirituba=sju`N**① (他 =saN, =ci) 蹴飛ばす。
- kirooku`noo**① (副) 散散小言を言うさま。がみがみ。~ sjuN. がみがみ言う。
- kisazi**① (名) 慶佐次。《地》参照。
- kita**① (名) 桁。屋根・床などにさし渡す細い材木など。屋根の桁は tinzoogita, 床に渡すものは 'jukagita という。kakiidun šee ~nudu 'uuriiru. はかりにかければ桁が折れるの意。優劣なし。また、どっちもどっち。
- kizaa=sjuN**① (他 =saN, =ci) かきまぜる。かき回す。
- kizai**① (名) 階段。きざはし。
- kizi**① (名) 傷。器物・人体の傷。また、容姿・行為などの欠点。
- kizihoorii**① (副) kizihui と同じ。
- kizihui**① (副) 食物を食い散らすさま。kizi-<kizun. ~ sjuN.
- kizimunaabii**① (名) 夜、山中などで見える、線香の火のような小さな火をいう。kizimun の火の意。
- kizimunaadusi**① (名) くされ縁の友達。kizimun は漁がうまく、その友達になれば漁にめぐまれるので縁を切りにくくなると言われる。そこで、くされ縁の悪友をこういう。
- kizimunaajaacuu**① (名) 皮膚にできる、原因不明のやけどのような傷。kizimun のしわざといわれる。
- kizimuN**① (名) 邪神の一種。木の精。背は小さく、ʔakaganTaa (あかちゃけたおかつ頭) をしているという。漁がうまく、魚の目玉だけを食い、また、人家に火をもらいに来るという。kizimun に関してはさまざまな民話がある。
- ki=zuN**① (他 =gaN, =zi) ㊦まぜる。攪拌する。㊦皮肉をいう。(人)を中傷する。
- konkon**① (副) こんこん。せきこむ音。
- koo**① (名) [科] 土族男子の受ける文官試験の第一次試験をいう。土族の中でも、自分によって受験資格が違っていた。合格はなかなかむずかしく、はじめての受験 (haçikoo) で合格する者はいたって少なかった。koo に合格すれば seekoo [再科] を受ける。
- koo**① (名) 次の句で用いる。~ sjuN. 告げ口する。(子供が母親などに) 言い付ける。koozin sjuN ともいう。
- koo**① (名) 線香。普通は ʔukoo という。
- koobeetamagu**① (名) 料理名。紅梅卵。うで卵を赤く染め、輪切りにしたもの。ぬたあえに添えて用いる場合が多い。
- koobusi**① (名) 植物名。浜すげ。またその塊状の地下茎。香付子。地下茎は漢方薬となる。
- kooci**① (名) 幸地(古くは川内)。《地》参照。
- kooci**① (名) 幸喜。《地》参照。

koocin

koocin① (名) [新] 鶏の一種。コーチン。
交趾鶏。

koodati① (名) kudee [供台] に飾りとして取りつけるもの。甲立て。また、踊りで、若衆 ('wakasju) が額の上につける飾り。

koogaakii① (名) ほおかむり。頭からほおへかけて手ぬぐいをかぶること。農民の習俗で、首里那覇では酒宴の席で、踊りの時する者があった。

koogu① (名) 次の句で用いる。～ maga-jun. (年寄って) 腰が曲がる。

kooguu① (名) ⊖(年寄って) 腰の曲がった者。⊖せむし。

koogwaasi① (名) 菓子の名。落雁。米の粉に砂糖を入れて作った菓子で、正月用。

koijuka'Qcu① (名) 士族の身分を金で買った者。16万貫の金を出せば平民から士族になることができた。

koimun① (名) ⊖買物。物を買うこと。また、買った物。～ siiga Yicun. 買物に行く。ʔusakiinu ～. たくさんの買物。

koimuNsjaaj① (名) 買物をする人。得意。

kooingwee① (名) 買い食い。

kooiʔuziraasjan① (形) 買物上手である。利口な買い方をする。'wikigadu 'jašiga ～. 男なのに買物がうまい。

koojaku① (名) 膏藥。šipuigoojaku (吸い出し膏藥), miijaaigoojaku (傷口に肉を生じさせる膏藥) など。

ko=jun① (他 =ran, =ti) 買う。

kojuree① (名) 講。近隣の相互扶助的な組織。gan を共同で持ち、ふだん金を出し合い、葬式の際の費用一切をまかなうなどする。

kookoo① (名) 孝行。～na mun. 孝行者。

kookorooko'o① (副) しゃも (taucii, ta-wacii) の鳴き声。

koomu=jun① (他 =ran, =ti) ころむる。「受ける」の謙讓の意に用いる。guun

～. 御恩を受ける。

koonusisi① (名) ⊖鹿。⊖鹿の肉。

kooree① (名) 朝鮮。

kooreegusju① (名) とらがらし。

kooreegusjukwee① (名) かなへび。とかげに似た爬虫類の動物。ʔwaatuʔoojaa ともいう。

kooreemuci① (名) kusiciʔukwaasi (祭祀用の蒸し菓子) の一種。黒砂糖入りで薄茶色。

koorigasi① (名) [新] 高利貸し。takadiimigui の新語。

koorumaa① (名) 輪回しの輪。また、その遊び。

koorumaaziri① (名) 輪切り。円筒形のものを横に切ること。

koorumun① (名) 番の物。おこうこ。çikimun (漬け物) ともいう。

kooruu① (名) おこうこ。漬け物の小児語。

koosaa① (名) 指を曲げ、指(中指・人差し指)の関節のところがたつところで、こつんと打つこと。子供を叱る時に、おでこなどを打つ。

koosaa① (名) 疥癬にかかった者。

koosaku① (名) [古] koosakuʔatai と同じ。

koosakuʔatai① (名) [古] [耕作当] 農村で、耕作に関する事をつかさどった役人。農事係。suugoosakuʔatai の項参照。

koosi① (名) 疥癬(かいせん)。ひぜん。

koosi① (名) 格子。

koosinumii① (名) ⊖格子の枠の間のすきま。⊖格子戸。

kootii① (名) 皇帝。中国の皇帝。

kootu① (名) 鳥獣の爪先。犬・猫・鳥などの爪または爪先。また、人の手・手先の卑語。～ taqpirakasarijun doo. 手をうちひしがれるぞ。～ neejun. (すりなどが) 手を出す。

koowiirun① (名) こより。

koozaaⓄ (名) 稲の品種の名。

koozaaⓄ (名) 霜降り。白と黒がまだらにまじっていること。また、そのもの。

kooziⓄ (名) ⊖こりじ。醸造用に穀物を蒸して作るこりじ。⊖かび。～ hucun. かびがはえる。

kooziNⓄ (名) [荒神] 告げ口。讒言。もとは火の神(かまどの神)が天帝に悪事を報告する意。～ sjun. 告げ口する。ʔujanu gusamaruja çinitugan neraN, kaçirinnu ʔazinu koozimi sjooçi… [親の護佐丸や 罪科も無らぬ 勝連の按司のからずみしやうち… (二童敵討)] 親の護佐丸は罪科もない。勝連の按司が讒言なされて…(koozimi は kooziN の文語)。

ku-(接頭) 九。kunici (九日), kuniN (九人または九年) など。

kubaⓄ (名) 久場。《地》参照。

kuba① (名) びろう(蒲葵)。しゅろ科の植物で、枝は無く、広い葉が長い柄につく。葉で、みの・笠・扇などを作る。霊地拜所に多い。binroo (檳榔)とは似ているが、別種。

kubaʔaagiiⓄ (名) kubanʔagi と同じ。

kubaçikasaⓄ (名) kuba (びろう) のおい茂っている聖地。那覇の辻遊郭にあって、zuriʔnma の行列の時、礼拝する。

kubagaaⓄ (名) 久場川。《地》参照。

kubagaasjaⓄ (名) びろう(kuba) の葉。

kubagasaⓄ (名) びろうで作った笠。クバ笠。主として農民用で、細くけずった竹で形を作り、その上を kuba の葉で張る。次の歌は kubagasa の工程を歌ったもの。kubaja cinkubani dakija ʔahusudaki, ʔanija sirakacini haija ʔunna. [蒲葵や金武蒲葵に 竹や安富祖竹 やねや瀬良垣に 張りや恩納] びろうは金武のびろうを、竹は安富祖の竹を使い、削るのは(また、骨組みは*) 瀬良垣でして、恩納で張って完成する。

kubagašiⓄ (名) 蜘蛛の巣。

kubaiʔati=junⓄ (他 =raN, =ti) [新] 割り当てる。配当する。

kubaimunⓄ (名) 配りもの。方方に配って分けるもの。

kuba=junⓄ (他 =raN, =ti) 配る。配布する。分配する。配置する。ʔaa ～. 席を割りふりする。

kubamaⓄ (名) 小浜島。八重山群島の島の名。また、小浜。《地》参照。

kubamee=sjunⓄ (他 =saN, =ci) 節約する。儉約する。ʔainidu kubameesjuru. ある時にこそ節約する。

kuban① (名) 小判。昔の金貨。

kubanʔagiⓄ (名) 菓子的一种。ʔandaagii と同じ。昔、金持ちが小判を油揚げして客に出したという伝説がある。

kubanʔagiiⓄ (名) kubanʔagi と同じ。

kubaʔooziⓄ (名) びろうの葉で作ったうちわ。次の歌は kubaʔoozi をほめたもの。kubanu hwaðu ʔaşıga mutinasinu ʔjutasja, ʔaçisa şidamasjuru tamanu ʔuciwa. [蒲葵の葉どやすが もてなしのよたしや 暑さすだましゆる 玉の団扇] びろうの葉であるが作り方がよい。暑さをさます玉のうちわ。

kubasiⓄ (名) [文] 小橋。小さな橋。口語は gumabasi, nakasimanu ～ wataigurisja. [中島の小橋 渡りぐれしや] 中島遊郭への小橋は渡りにくい。

kubiⓄ (名) ⊖首。頸。～ ʔurijun. 屈伏する。頭が上がりなくなる。⊖襟。着物のえりくび。husumuN ともいう。

kubiⓄ (名) 壁。板壁が多い。農村には竹で編んだ cinibu の壁もある。

kubidakiⓄ (名) 首までの高さ。首の丈。

kubidarusanⓄ (形) 首がだるい。長く上を見ていて首が疲れた時などにいう。

kubigaaⓄ (名) うなじ。首すじ。首の後部。

kubihwizamiⓄ (名) 壁をへだてた隣。

kubirijun

<kubi(壁) + hwižamijun(へだてる)。
 ~ 'jašiga ŋumui neN nakaja, nuja-
 ma hwižamitaru šimikagukuru. [壁
 へざめやすが 思ひないぬ中や 野山へざ
 めたる 住家ごころ] 壁一枚へだてて隣に
 いるが、思っていない仲は野山をへだてた
 住み家にいるのと同じだ。

kubiri=jun①(自 =raN, =ti) 首をくくる。
 首をつって死ぬ。

kubirizini①(名) 縊死。首つり。

kubu①(名) [文] 蜘蛛。mijamakubuden-
 ši kaši kakiti ŋucaí, 'wan 'winagu
 natuti 'judan sjabimi. [み山こぶだ
 いんす かせかけておちやい わ身女なとて
 油断しやべめ] 奥山にすむ蜘蛛ですらかせ
 をかけて布を織っている。わたしは女なの
 だから、うっかりなまけていられましょ
 うか。

kubun①(名) くぼみ。へこんだ所。くぼ
 地。

kubusii①(名) 子供の腹かけ。金時が腹に
 している形のもの。金太郎。

kubušimi①(名) いかの一種。こぶしめ。
 大型で胴が太く丸い。のぼせ・月経不順な
 どの薬となる。

kuca①(名) 古知屋。《地》参照。

kuca①(名) 若夫婦が寝室として使う部屋。
 上流家庭のものは 'Neuca という。

kuci①(名) こち。東風。春先に東から吹く
 風。

kuci①(名) ⊖口。~ kuujun. 口を閉じ
 る。だまる。~ suujun. 口を吸う。口づ
 ける。sjudunmijarabinu 'jucinuru-
 nu haguci, ŋičika 'junu kuriti miku-
 ei suwana. [諸鈍めやらべの 雪色の齒
 口 いつか夜のくれて み口吸はな] 諸鈍
 の乙女の雪色の齒をした口、早く日が暮れ
 てあの美しい口を吸いたい。~ tugara-
 sjun. 口をとがらす。不満そうな顔つき
 をする。~ tu tookaci. 口と斗搔きの意。

余裕のないぎりぎりの暮らし。斗搔きでか
 きならしたように、食うだけしかなく、少
 しも余らない。~ 'janzun. 口がおごつて
 しまふ。美食癖をつけてしまふ。~ 'juš-
 zun. 口をゆすぐ。うがする。⊕職。就
 職口。~ tumeejun. 職を捜す。⊕食。食
 物の分け前。~ hwikarijun. 食物を他
 の人の分として減らされる。~ hwicun.
 食物の分け前を減らす。ŋujanu ~ hwi-
 cun. (子が) 親の分まで食べてしまふ。⊕
 物を出し入れなどする口。binnu ~. 瓶の
 口。⊕口に出して言うこと。ことば。言語。
 ~ ŋuujun. 事実がことばを追うの意。縁
 起のよいことを言えば、その言の通りのこ
 とがあり、悪いことを言えば悪いことが実
 現することをいう。~ nu 'wakaran. こ
 とばがわからない。ことばが通じない。~
 kanajun. 口が違者である。また、(長上
 に対し) 口答える。~ šindakasjun.
 口をすべらす。言うべきでないことをう
 っかり口にする。~ nin saaran munuŋii-
 kata. 絶対に口にすべきでないことを言う
 こと。~ nu 'waqsan. 口が悪い。物事を
 悪しざまに言う癖がある。~ hujun. 物
 を言わせてみて様子を探る。それとはなし
 に意中を尋ねる。tasikani murabarunu
 hjaa 'jašiga sikaitu miiŋubinu neera-
 n. mazi ~ huti saguti 'ndoo. [たしか
 に村原ひややすが しかいと見覚の無ら
 ぬ まづ口振て探て見だう(大川敵討)] 確
 かに村原の比屋だが、しかと見覚えがない。
 まず物を言わせてみてさぐって見よう。⊕
 (接尾)言語名をあらわす。語。ŋucinaa-
 guci (沖繩語), 'jamatuguci (日本語),
 toonukuci (中国語), ŋurandaguci (西
 洋語) など。⊕端緒。はじめ。⊕(接尾)
 端緒, しはじめの意を表わす。miiguci(商
 売の口あけ), hakaguci (仕事のしはじめ),
 nuuguci (布の織りはじめ) など。

kuči①(名) 骨(こつ)。遺骨。

kuci?aQsan① (形) 口が軽い。輕輕しく口をきく。?aQsan は浅い。

kuciba① (名) くつわ。馬の口につける金具。

kucibeesan① (形) 口が早い。早口にしゃべる。また、食べるのが早い。

kucibita① (名) 口べた。訥弁。~na. 口べたな。

kucibuci① (名) 春先に東風が吹くこと。こち吹き意。

kucibuuci① (名) ほらを吹くこと。大言壮語。

kucidumi① (名) 口止め。他言しないようににとどめておくこと。自分が慎む場合にもいう。

kucigani① (名) 口金。器の口に付ける金具。

kucigan sui① (名) 口がかみそりのように鋭いこと。口達者。口巧者。

kucigaQsan① (形) 口が軽い。輕輕しく口をきき、秘密をもらしやすい。

kuciguci① (名) 口口。みんなのことば。

kuciguhwaa① (名) ことばが荒荒しい者。口が悪い者。毒舌家。

kuciguhwasan① (形) ことばが荒荒しい。また、口が悪い。毒舌を吐く。

kuciguruma① (名) 口車。zurinu ~ ?ucaku ?ucinusiti. 女郎の口車、お客うち乗せて。

kucigusi① (名) 口癖。

kucigutu① (名) 口論。言い争い。口げんか。

kucihagoosan① (形) 口ぎたない。物の言い方が卑しい。

kucihwinkee① (名) 口ではむかうこと。口答え。

kucihwintoo① (名) 口返答。口答え。kucihwinkee (口はむかい)の方がやや積極的反抗。

kucijagasjan① (形) 口やかましい。小

言ばかり言う。

kucikarazi① (名) 口と髪意。次の句で用いる。~ 'janun. 子供などを叱り続けて疲れる。小言を言い続けて頭も痛くなり、口もだるくなる意。karazi (髪)はこの場合、頭の意か。

kucikazi① (名) ⊖口数。ことば数。⊖飯を食う口の数。すなわち、人数。

kuciki① (名) 朽木。

kucimaai① (名) 口実。言いのがれ。逃げ口上。文語は kucimigui。

kucimaasan① (形) 食欲が出て、何でもおいしい。病気の回復時などにいう。kuciniisan の対。

kucimigui① (名) [文] kucimaai の文語。?uhu?umini ?uriti sjuukumigatijari, hwahwaja ?iru?iruni ~ katara. [大海に下りて 潮汲みがてやり 母や色々に口めぐり語ら (孝行之巻)] 海に降りて潮を汲みにとか、母にはいろいろ口実を言おう。

kucinas:① (名) くちなし。植物名。kazimajaa ともいう。

kuciniisan① (形) 食欲が無い。

kucinoosi① (名) 口直し。にがい薬を飲んだあとで砂糖をなめるなど。

kucinumee① (名) 自分ひとりがやっと食べられるだけの働き。

kucinu① (名) 口癖。いつもふた言目には言い出すようなこと。口の緒('uu)の意。

kucinu?waabi① (名) 口先。うわべだけのことば。

kuci?nbusan① (形) 口が重い。話がへたである。訥弁である。

kuciNda① (名) 東風平。《地》参照。

kuçiruzi① (名) くつろぎ。

kuçiru=zuN① (自 =gaN, =zi) くつろぐ。体を休めて、のんびりする。

kucisabiQsan① (形) 口がさびしい。空腹というほどではないが、何かを口にした

kucisaci

い。

kucisaci① (名) 口先。本心でなく、うわべのことば。

kuçisan① (形) 苦しい(のどをしめられた時など)。また、つらい。情ない。やるせない。

kuçişiba① (名) うわさ。評判。口唇の意。sikiNnu ~ni kakajuN. 世間のうわさにのぼる。悪いことの場合にいう。

kucisiru① (名) 唾。よだれ。口の中にたまった唾液。~ ziizii. よだれをたらたら。

kuçiZuNkee① (名) 骨をお迎えすること。よそに葬った骨を、改葬するために持って来ること。

kuçiZuucii① (名) 墓の移転の場合など、骨を移すこと。

kuciwigoosaN① (形) えぐい。口がえぐい。

kucizaNsın① (名) 口三味線。口で三味線(saNsın)の音をまねること。

kucizukui① (名) 何か少し食べて食欲をそらすこと。たとえば外出の時、ほんの少し食べて、食事をした気分を作って出かけること。~ sjuN.

kucoo① (名) 故郷。普通は sima という。~nu nagurinu tacuN. 故郷が目に見えかぶ。⊖帰郷。~ sjuN. 帰郷する。

kuçubi① (名) いぼ。皮膚に盛り上がってできるいぼ。

kucugu=juN① (他 =raN, =ti) くすぐる。

kucukueu① (感・副) こちょこちょ。人をくすぐる時にいう語。~ kucugujuN. こちょこちょくすぐる。

ku=cuN① (自 =taN, =qci) 朽ちる。くさってこわれる。

kucunsija① **zaNniN**① (句) [文] [口惜しや残念] 口惜しや残念。組踊り用語。

kuda=cuN① (他 =kaN, =ci) 砕く。うちこわして細片にする。

kudagu① (名) 機織りの器具の一つ。緯

糸を巻きつけて梭(ひ)に入れる小さい管。木綿糸・絹糸用で、芭蕉糸や tuNbjajN糸用の kuudaguusi より小さい。

kudai① (名) ⊖下り。高所から低所へ降りること。⊖下り。首里からいなかへ、また、本土から沖縄へ下ること。

kudaikuduci① (名) [下り口説] tabikuduci [旅口説]の項参照。

kudaka① (名) 久高島。沖縄本島南部知念崎(ciniNzaci)の東方にある島。また、久高。《地》参照。

kudaki① (名) この高さ。こんなに高く。

kudaki=juN① (自 =raN, =ti) 砕ける。こわれて細片となる。

kudami① (名) ⊖踏み台。高い所のものを取ったりするための台。⊖地機の道具の一つ。足をかけるもの。⊖縁の外にある、はきものをぬぐ石。くつぬぎ石。踏み石。

kudami=juN① (他 =raN, =ti) 踏む。踏みつける。

kudasi① (名) 下痢。

kudasigusui① (名) 下剤。

kuda=sjuN① (他 =saN, =ci) ⊖下す。本土から沖縄へ、また、首里からいなかへ、人・物を送る。⊖下痢する。

kudee① (名) 仏壇にある台。一番上の台に位牌を安置し、二段目・三段目の台には供物を供える。

kudi① (名) 一族を代表する神官。?ukudaiともいう。その項参照。

kudikiN① (名) 久手堅。《地》参照。

kuduci① (名) [口説] 歌謡の一種。一種の叙事的な歌謡曲。もとは教訓を含めた歌で、だれにでも歌いやすい調子のものであったが、のち、教訓の意を含まない流行歌もできるようになった。数節の歌詞を同じ曲譜で歌う。巷間にもはやされたものとしては、?iciNkuđuci [意見口説]、tabikuđuci [旅口説] (nubuikuđuci [上り口説]と kudaikuđuci [下り口説]より

なる), sicikuđuci [四季口説], kurusi-makuduci [黒島口説] などがある。歌詞はほとんど全く日本語の沖縄読みで, 七五・七五の連続より成る。

kuducibeesi④ (名) [口説拍子] 口説 (kuduci) の歌詞と歌詞との間に, 舞踊する者が即興的に入れる文句。本土のはやしことばのように短いものではなく, 八八調や八六調などのことばをたくさん続ける。新築の祝いには家屋を賛し, 還暦祝い・生年祝いには長寿を祝福し, 子孫繁盛を祈願するなど, 才人でなければできない。

kugaci④ (名) 古我知。《地》参照。

kugani④ (名) こがね。黄金。

kuganiganasiimee④ (名) 王世子をさしていう敬語。皇太子様。

kugani?iibiganii④ (名) 金の指輪。

kugani?iibinagii④ (名) kugani?iibiganii と同じ。

kuganii④ (名) 橘。こがね色の実がなるのでいう。šiikwaasjaa ともいう。初夏, 香り高い白い花が咲く。未熟の酸味の強い青い実は, 芭蕉布をさらすのに用いる。

kuganiikunibu④ (名) kuganii と同じ。

kuganikamisasi④ (名) 金のかんざし。男子用。王・王子・按司が用いたもの。kamisasi の項参照。

kugani?udun④ (名) 首里城の建物の名。?ugušiku の項参照。

kugani?eeku④ (名) kugani?eekuu と同じ。

kugani?eekuu④ (名) 飾り職。金属でかんざし・金具などを作るのを業とする者。

kugani?iihwaa④ (名) 金のかんざし。女子用。?uminaibi および ?aqtoganasiimee, すなわち女王以上の身分の女がさしたもの。ziihwaa の項参照。

kugara=sjun④ (他 =saN, =ci) 焦がす。焼いて黒くする。

kugari=jun④ (自 =raN, =ti) ①焦げる。

②恋いこがれる。

kugarizini④ (名) こがれ死に。恋いこがれて死ぬこと。

kugasi④ (名) 水につけておいた米をすりつぶし, 水にといたもの。その煮たもの (niikugasi) は病人・老人などの流動食にし, なまのままのもの (namakugasi) は悪酔いをさますのに用いる。

kugata④ (名) こちら側。こっち。?unna-daki ?agata satuga ?nmarizima, mu-in ?usinukiti ~ nasana。[恩納岳あがた 里が生れ島 森も押のけて こがたなさな] 恩納岳の向こう側は恋しい方の生まれ故郷, あの山も押しかけてこちら側にしたいもの。

kugatoo④ (名) こんな遠方。この遠さ。

kugee④ (名) kugeei と同じ。

kugee④ (名) 社交。交際。付き合い。「公界 (くげい)」から転じた語 (伊波普猷)。多人数相手の場合をいう。個人的な交際は hwiree という。~ sjun. たくさんの人を招いてごちそうする。

kugeei④ (名) ①動くこと。揺れること。揺れ。②寝返り。

kugee=jun④ (自 =raN, =ti) ①動く。揺れる。huninu ~。船が揺れる。②寝返りをうつ。

kugeezin④ (名) 訪問着。晴れ着。

kugeezin④ (名) 交際費。社交費。

kugunii=jun④ (他 =raN, =ti) 慎重にする。うやうやしくする。

kugušiku④ (名) 小城。《地》参照。

kugušiku④ (名) 湖城。《地》参照。

kugwaçi④ (名) 九月。kUNgwaçi ともし

kuhuu④ (名) くふう。~ sjun. しう。

kuhwa- (接頭) 堅い・柔和でないなどの意を表わす。kuhwamuci (堅い餅), kuhwaçiburū (堅い頭, 男の頭をさしている), kuhwahwizi (つけんどんな返事) など。

kuhwaa④ (名) 毒蛇の一種。はぶ (habu)

kuhwaa

に似ているが、はぶより短い。

kuhwaaⓄ (名) 堅いもの。

kuhwabaniiⓄ (名) 強くはねのけること。

荒荒しく拒絶すること。

kuhwaçiⓄ (名) 小波津。《地》参照。

kuhwaçiburuⓄ (名) 堅い頭。男の頭をさしていう。

kuhwadiisiⓄ (名) 植物名。「沖繩産有要植物(金城三郎)」には「しまほう」「こぼでいし」とある。葉は円形で、径15センチくらいに達する。墓の庭に植える。人の泣き声を聞いて成長するといわれている。材は良質で建築用・器具用。葉は紅葉する。

kuhwadisaⓄ (名) [文] kuhwadiisi の文語。～nu ʔuçici madumadudu tijuru, ʔjusumi madu hakati sinudi ʔimori. [こはできのお月 まどまどど照ゆる よそめまどはかて しのでいまうれ] kuhwadiisi の葉陰に照る月はところどころにしかり照らぬ。人の目のすきをねらって忍んでいらっしやい。

kuhwadooriⓄ (名) 日ごろ体の強い者が急病で倒れ、あるいは急死すること。

kuhwahwiziⓄ (名) つっけんどんな返事。怒りをおびた返事。

kuhwa=juNⓄ (自 =raN, =ti) ⊖(柔らかいものが) 堅くなる。固まる。kuhwatoon. (=kuhwaku natoon.) 固まっている。⊖仲が悪くなる。不和になる。kuhwatoon. 不和である。⊖こごえる。寒さで体が堅くなる。⊖目がさめる。また、目がさえる。眠れない。mii ~. 目がさめる。

kuhwamuciⓄ (名) 堅い餅。

kuhwanⓄ (名) [糴飯] 祭祀の場合の花米(hanagumi…洗い清めた米)を盛る器。丸い重箱の三つ重ね。普通は ʔukuhwan という。もともとは、その中に入れた米の意。

kuhwaNgwaⓄ (名) 小波葎。《地》参照。

kuhwaNgwaⓄ (名) 古波葎。《地》参照。

kuhwasanⓄ (形) ⊖堅い。ʔuudunu ~.

ふとんが堅い。⊖仲が悪い。不和である。

ʔanu miitundaa ~. あの夫婦は仲が悪い。

kuhwasicaⓄ (名) 小橋川。《地》参照。

kuhwaziri=juNⓄ (自 =raN, =ti) すっかり固まる。堅くなりきる。腫物などがうんでから、堅くなる場合などにいう。

kuhwaçuşiiⓄ (名) 炊きこみ御飯。いろいろなものをまぜ、味を付けて炊いた飯。単に çuşii ともいう。

kuhwinaⓄ (連体・名) この大きさの。このくらいの。また、こんなに大きい。～mun. この大きさのもの。これくらいのもの。～nu mun. こんなに大きいもの。～ʔuza. こんな貴い御座敷。

kuhwinⓄ (名) 小瓶。酒・水などを入れる小さい瓶一般をいう。多くは陶製。

kuiⓄ (名) [文] 恋。ʔikana tinzikunu ʔunitacinu ʔuzon, ~nu mici ʔjariba ʔakidu sjujuru. [いかな天竺の 鬼立の御門も 恋の道やれば 明きどしゆゆる(手水之縁)] どんな天竺の鬼の立っている御門でも、恋の道なら開きもしょう。

kuiⓄ (名) 古宇利島。沖繩本島本部半島東北方にある小島。また、古宇利。《地》参照。

kuiburiⓄ (名) 恋に狂った者。女についていうことが多い。-buri<hurijun.

kuihaiⓄ (名) ぶつぶつ。不平をいうさま。また、不平。kujaahajaa ともいう。～sjun. ぶつぶつ言う。

kuihuniⓄ (名) くり舟。丸木舟。一本の木をくりぬいて作った舟。şinNi ともいう。şinNi ~nu ʔicuru tuke ʔjariba, kijuja ʔnzi ʔugadi ʔacaja çuşiga. [すんねくり舟の 行きゆる渡海やれば 今日や打ち拜で 明日や来ゆすが] くり舟の行ける海だったなら、きょう行ってお会いしてあすは帰って来るのだけれど。

kuihwici① (名) いたく後悔すること。kuu-kwee より後悔の度が深刻。

kuika① (名) 恋歌。

kuikee=ju`N① (他 =raN, =ti) くり替える。ふり替える。

kuikeeruu① (名) くり替え。支払い先の決まった金を一時他に流用することなど。

kuikeesige`esi① (副) くりかえし。何度も。

kuikee=sjuN① (他 =saN, =ci) くり返す。

kuimaasii① (名) やりくり。融通。

kuimaa=sju`N① (他 =saN, =ci) 融通する。やりくりする。

kuimee① (名) 機織りの器具の名。十字形の中心に軸があり, kana (かせ糸) をかけて回転させ, 糸を繰るもの。

kuimudu=sju`N① (他 =saN, =ci) [文] くりもどす。また, くりかえす。'jujuru tusi mudusi 'wakaku nararijumi, kui-muduci mibusja hananu mukasi. [寄ゆる年戻ち 若くなられゆめ くり戻ち見ほしや 花の昔] 寄る年を戻して若くなれようか。花の昔をくりもどして見たいものだが。

kuizi① (名) [文] 恋路。

kuizinaa① (名) kuizIN の卑語。

kuiziN① (名) 恋に浮き身をやつす者。恋に夢中な者。

kuja① (名) [文] こうや。紺屋。普通は sumimUNjaa という。'asazi kunzumi-nu 'iruwakin neran, sumiwakaci tabori ~nu 'aruzi. [浅地紺染の色わけもないらぬ そめわかちたばうれ 紺屋のあるじ] 浅く染めるのと濃く染めるのとの色分けもこちらではできません。こうやの主人さんそちらで染め分けて下さい。

kujaahajaa① (名) ぶつぶつ。不平を言うさま。また, 不平。~nu 'uhusan. 不平が多い。

kujami① (名) 悔み。人の死を悔んで言う

ことば。~ 'juN. お悔みを言う。

kuja=nuN① (他 =maN, =di) 悔む。後悔する。cimunu 'januN または kuukwee sjun の方を多く用いる。また, お悔みを言う意では kujami 'juN という。

kujoo① (名) ① 供養。死者の霊の供養。② 供養。墓を作る, 橋をかけるなどの石普請をする時, その落成に際して石の神を祭り, 供物を供え, 祝儀をすること。hakanu ~ (墓の供養), hasinu ~ (橋の供養) などという。

kujoo① (名) 苦勞。心勞。

kujui① (名) [文] 今宵。今夜。tamaskanu ~ tuija 'utarutun, sibasi 'akigumuni nasaki 'arana. [たまさかの今宵 鳥やうたるとも しばし明雲に 情あらな] たまに会う今宵であるから, 鶏は時を告げても, しばらくの間夜明けの雲に情があつて, 夜が明けないようにしてほしいもの。宜湾朝保の歌。

kujumi① (名) 曆。旧曆は 'ucinaagujumi, 新曆は 'amatugujumi という。

ku=juN① (他 =raN, =ti) 繰る。kana ~ かせ糸を繰る。

knkaru① (名) 小鳥の名。4~5月ごろ姿を見せる。凶鳥として忌み嫌われている。

kuku① (名) ① 仲が悪いこと。剋の意。taruujia ziruutu ~. 太郎は次郎と仲が悪い。② 食いあわせ。'aNdamuntu hwi-zurumizee ~. 油こいものと冷水は食いあわせ。

kuku① (名) [文] 殺物。殺の意。

-kuku (接尾) 石。一斗の10倍。'icikuku (一石), nikuku (二石) など。

kukuba① (名) 園場。《地》参照。

kukubu① (名) 園分。鹿児島地名。

kukuci① (名) 気持ち。気分。心地。~nu 'waqsan. 気分が悪い。

kukuçi① (名) 癩癩。

kukugaku① (名) [国学] 首里の龍潭池畔

kukui

- の松崎に尚温王の時(1858年)に設けられた国立の学校。王みずから「海邦養秀」の額を書き、教育を奨励した。
- kukui**①(名) ⊖しめくくり。まとまり。しまり。⊖くけ縫い。
- kukuibaai**①(名) くけ針。
- kukuijaku**①(名) [総り役] しめくくり役。まとめ役。
- kuku=juN**①(他 =raN, =ti) ⊖結ぶ。結んでまとめる。一緒にまとめる。'ututu ~. 離縁していた妻を和解させて夫と一緒にする。また、死後、別に葬られていた妻の骨を、夫の骨と一緒に、一つの骨がめに入れる。⊖(裁縫で) くける。⊖しめくくる。結末をつける。
- kukumui**①(名) つぼみ。
- kukumu=juN**①(自 =raN, =ti) (花が) つぼむ。つぼみとなる。coosjuNnu kukumutooN. ぼらがつぼみをもっている。
- kukuniin**①(名) 織機の箴(おさ)の種類の名。九読みの意。経糸720本を通すもの。またそれで織った布。huduciの項参照。
- kukunu**① ⊖(感) ここの。九つ。声を出して数える時にのみいう。⊖(接頭) kuku-nukeeN (九回), kukunuhwani (九羽), kukunukumui (1銭8厘) など。
- kukunuçi**①(名) ⊖九。ここのつ。⊖昼・夜の12時。
- kukunukaN**①(名) 生後九か月目に行なり食べ初めの式。赤飯をたき、'juçigun(その項参照)のごちそうをする。その子供にはおかゆのような柔らかい飯を食べさせる。
- kukunukumui**①(名) 1銭8厘。ziN(銭)の項参照。
- kukunukumuiguN³zuu**①(名) 1銭9厘。ziN(銭)の項参照。
- kuku=nuN**①(他 =maN, =di) 口に含む。口にくわえる。口でしゃぶる。cii ~. 乳をしゃぶる。
- kukunutai**①(名) 九人。まれな語。普通はkuniNという。
- kukunutugu³zuu**①(名) 四十九歳。'jaa-noo ~ najuN. 来年は四十九になる。
- kukuNzaki**①(名) 口移しに酒を飲ませること。含み酒の意。昔、国頭地方などで男が女に対してこうする風があった。
- kukuoo**①(名) 国王。
- kukuraki**①(名) むなやけ。甘藷などを食べ過ぎた場合などに胸がやけること。
- kukuri**①(名) 注意する心。気をつける心。用心。~nu ?aru qcu. 気をつける人。注意心のある人。
- kukurii**①(名) 心得ること。心得。理解。
- kukuri=juN**①(他 =raN, =ti) 気を付ける。用心する。注意する。kukuriti ?aqki 'joo. 気を付けて歩けよ。
- kukuru**①(名) 心。精神。心情。意志。cimu(肝・心)と意味はほとんど同じだが、cimuを多く用いる。~nu 'NkaaN. 心が向かない。しようとする意志がない。~nu nuriraN. 気乗りがしない。また、納得しない。~ ?uci?akijuN. 心を打ちあける。~nu sibasaN. 心が狭い(cimunu sibasaNともいう)。~nu suku. 心の底(cimunu sukuともいう)。~nu tuukiraN. 心が解けない、釈然としない(cimunu tuukiraNともいう)。~'jurusjuN. 安心する、心をゆるめる(cimu 'jurusjuNともいう)。kukuroo 'jurusaraN. 安心できない。
- kukuru?ati**①(名) 心あて。心で期待すること。
- kukurubeesaN**①(形) 目ざめやすい。睡眠中、ちょっとした物音ですぐ目をさます。cimubeesaNともいう。
- kukurugaki=juN**①(他 =raN, =ti) 心掛ける。また、励む。gakumuN ~. 学間に励む。

kukurugawaiⓂ (名) 心変わり。変心。
kukuruʔiriⓂ (名) 好意。親切。心をこめること。cimuʔiri ともいう。
kukurujaQsaiⓂ (形) 心安い。気づかない。安心である。
kukurumiⓂ (名) 試み。ためし。
kukurumuciⓂ (名) ころもち。気持ち。
kukurumutunasaⓂ (形) 心もとない。不安である。きずかわしい。
kukuruʔubiⓂ (名) 心覚え。心に記憶しておくこと。cimuʔubi ともいう。
kukuruzasiⓂ (名) ころざし。志。
kukuruzikiⓂ (名) 心付け。僕婢に手当てとして与える金品。また、物品を取納する役人に対する心付けをもいう。
kukuruzikijakuⓂ (名) [心付役] kura-jaku と同じ。受け取る物品のうちから心付けとして上前をはねることが公然と許されていたのでこういう。
kukutimiŋwaaⓂ (名) 目まい。目がくらむこと。脳貧血。miikuragan ともいう。
kukutimiŋwiⓂ (名) kukutimiŋwaa と同じ。
kukutimiŋwi=juʔNⓂ (自 =raN, =ti) 目まいがする。目がくらむ。脳貧血を起こす。
kukutirusaⓂ (形) [文] やるせない。うらさびしい。masi kumati ʔuriba kukutirusa ʔamunu, ʔusukazitu ʔiriti sinudi ʔirana。[ませこまて居れば ここてるさあもの うそ風とつれて 忍でいらな] 引きこもっているとさびしくてたまらないから、恋人のところへそよ風と一緒にこっそり入り込もう。
kukuʔuⓂ (名) 穀雨。二十四節の一つ。
kumaⓂ (名) 熊。沖縄にはいないが、話や毛皮などで知られていた。
kumaⓂ (名) ⊖ここ。こちら。この場所。～ʔicooN。(ここにすわっている意) イ。しっかりしている。思慮がある。ロ。家に落ち着いている。(放蕩者が)遊びに出歩か

ない。Ⓜあなたさま。また、このお方。こちらさま。貴人に対する二人称および三人称。kumaa taa ʔaimiseega。あなたさまはどなたでいらっしゃいますか。

kumageeiⓂ (名) 寝返り。
kumagumaⓂ (名) こまごま。詳細なこと。～nu hanasi。こまごまと詳しい話。
kuma=juNⓂ (自 =raN, =ti) こもる。籠居する。また、女郎屋に居続ける。
kumakiiⓂ (名) 砕けたかけら。細かいかけら。tamunnu～。薪を割った時に出る薪のかけら。caanu～。茶の粉になったもの。kwasinu～。菓子のかげら。
kumamutiⓂ (名) こちら側。こっちの方。
kumarikaaⓂ (名) kurikaa と同じ。
kumasaⓂ (形) (所帯の持ち方などが) つつましい。ʔarasaN の対。sjuteegumasaN ともいう。hwiizijja kumasa sjooti, nuuganaŋdi ʔiinee, ʔumiciqtu ʔikajuN。平常は儉約して何かという時には思いきりよく使う。
kumeekiⓂ (名) ⊖つつまじやかなこと。質素。儉約。Ⓜ綿密。細心。詳細。
kumeekijaaⓂ (名) ⊖儉約家。しまりや。Ⓜ物事を丁寧にする者。細かい者。
kumeeki=juNⓂ (他 =raN, =ti) ⊖つつましくする。儉約して質素に暮らす。ziN kumeekiti ʔikajuN。金をつつましく使う。Ⓜ細かく注意を払う。また、詳細にする。hanasi kumeekiti cikasec。話を詳しく聞かせてくれ。
kumiⓂ (名) ⊖組。仲間。同義語の kuna は組織する・まとめるなどの動作性の意をも含む(kuna sjuN。組織する)。～najuN。組になる。～ʔukujuN。組を作る。Ⓜ組。一揃いのもの。Ⓜ(接尾) 組。zubaŋku kumi。重箱一組。
kumiⓂ (名) 米。
kumiʔareemiziⓂ (名) 米のとぎしる。しろみず。kuminusiru ともいう。

kumiçizi

- kumiçizi**ⓐ (名) 米粒。
kumidaaraⓐ (名) 米俵。
kumigaNⓐ (名) 米の粉で作った羊羹のようなもの。
kumigasiraⓐ (名) [与頭] 組の代表。部落内の親族集団, 耕作組, 砂糖組などの代表。muragasira の項参照。
kumiguraⓐ (名) 米倉。
kumi=juNⓐ (他 =raN, =ti) 押し入れる。(かご・棚などの中へ) 入れる。「こめる」に対応する。
kumikaNⓐ (名) こめかみ。
kumikangojakuⓐ (名) こめかみごりやくの意。頭痛のする時に女子供がこめかみに貼るこりやく。
kumimacijaⓐ (名) 米穀店。米屋。
kuminukuuⓐ (名) 米の粉。
kuminusiruⓐ (名) 米のとぎしる。しろみず。kumi?areemiçi ともいう。
kuminutama`ziriⓐ (名) [久米二間切] 久米島の二つの間切。すなわち具志川 (gusicaa) 間切と仲里 (nakazatu) 間切。
kumiN=euNⓐ (他 =kaN, =ci) 汲みこむ。(水がめなどに水をたくさん) 汲んで入れる。
kumiN=euNⓐ (他 =kaN, =ci) 踏み込む。踏み入れる。hwisja ~。足を踏み入れる。
kumiraaⓐ (名) kumiru と同じ。
kumiruⓐ (名) くいな(水鶏)。稻田などで小魚・小虫を食う水鳥。体長30センチたらずで褐色。
kumiçiⓐ (名) 米須。《地》参照。
kumitati=juNⓐ (他 =raN, =ti) 組み立てる。
kumitiⓐ (名) 組み手。唐手で相手と組んで戦う練習法の名。
kumitu=juNⓐ (他 =raN, =ti) 汲み取る。
kumiuduiⓐ (名) [組躍・組踊] 沖縄の古典劇。能と歌舞伎とを折衷したような形式をもつ楽劇。台詞・地謡とも韻文であり、間

の物・道行き・踊り・立ち回りなどいろいろのものが組み合わされている。日本本土の能の影響が見られる。廃藩前は国営の劇, すなわち国劇であった。享保4年(1719), 尚敬王の時の冊封使(正使海宝, 副使徐葆光)が渡来した際, その歓迎のために玉城朝薫(tamaguşiku cookuN)が躍奉行('uduibuzoo)に任ぜられて, 組躍五番(kumiudui gubaN)を創作した。組躍五番とは, mikarusii [銘菊子], sjuusiNkani?iri [執心鐘入], kookoounumaci [孝行之巻], 'unnamunugurui [女物狂], nidootici?uci [二童敵討]である。ほかに有名なものとしては, 田里(tasatu)作の man?ai [万歳], zisiNmunugatai [義臣物語], ?uhuguşikuku?iri [大城崩]の三番, 平屋敷朝敏(hwisica coobin)の timiçinuin [手水之縁], 高宮城(takamjaaguşiku)の hana?uinuin [花売之縁], 古堅(huruzin)ほか数名の合作の euukoohuzin [忠孝夫人], そのほかに, zuNcinnukwaw [巡検之官], euusiNmigawai [忠臣身替], tingwanwaka?azitici?uci [天願若按司敵討], niçanwabuku [二山和陸], simaitici?uci [姉妹敵討], çikahwinajuuci [東辺名夜討], mutubutaihwara [本部大腹]などがある。国劇であったから, 政庁の役人が中心となって, 貴族の子弟から抜擢された貴公子が役者となり, 国費を投じて数年におよぶ練習ののち演ぜられたのであった。廃藩後は一般公衆のものとして公演されるようになった。

kumizimaⓐ (名) 久米島。沖縄本島西方の島。

kumuⓐ (名) 雲。

kumuiⓐ (名) 池。沼。自然のもの・人工の溜池のどちらをもいう。庭園の池は ?ici という。

kumuiⓐ (名) 曇り。

-**kumui** (接尾) 金銭勘定の単位。2厘。ziN (銭)の項参照。cukumui (2厘), takumui (4厘)など。

kumuibataⓐ (名) 池の端。

kumuidineciⓐ (名) 曇りの天気。曇天。

kumu=juNⓐ (自 =raN, =ti) 曇る。

kumuzaaⓐ (名) あばた。また、あばたのある者。maazaa ともいう。

kumuziⓐ (名) あばた。

kumuziriⓐ (名) [文] 雲の切れ目。雲の絶え間。

kunaⓐ (名) 組, kumi の項参照。~ kunun. 組を作る。組織する。sjuiganasimedei nananu ~. [首里加那志美公事七の組] [文] 首里王城に仕える七つの組。すなわち, ʔweekatabi [親方部] 二人, ʔuzasisjuu [御座敷衆] 二人, ʔataipeeciinta [当親雲上た] 二人, sidupeeciinta [勢頭親雲上た] 二人, gusjuinpeeciinta [御書院親雲上た] 二人, satunusita [里之子た] 二人, cikudunta [筑登之た] 二人, gireeʔakugaN [家来赤頭] 七人(真境名安興による)。役目の下につく -ta は複数を表わす接尾辞。

kunaa=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) 踏みつける。踏みにじる。踏み荒らす。

kunaba=juNⓐ (自 =raN, =ti) 並ぶ。二つのものが一線にそろう。また、肩を並べる。優劣がない。

kunabi=juNⓐ (他 =raN, =ti) 並べる。並べて比べる。比較する。

kunagiⓐ (名) この長さ。こんなに長く。

kuna=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) ㊦踏みつける。㊦(人を)踏みつけにする。(弱者を)あなどり, しいたげる。㊦消化する。(食物を)こなす。㊦耕作する。耕して十分土の手入れをする。'wan 'warabitunguti kunasjuraba kunasi, kunasidanu ʔN-ninu ʔabusimakura. [わんわらべともて こなしゆらばこなせ こなし田の稲の

あぶしまくら] わたしを子供だと思っていじめめるのならいじめよ。よく耕された田の稲はあぜを枕にするほど実るのだから。

㊦(受身の形で) 修養を積む。鍛練を経る。kunasaqtooru qcu. 修養のできている人。

kuneedaⓐ (名) この間。先日。先ごろ。

kuneedaŋsiⓐ (名) 近ごろ。最近。この間。~nu kutu ʔari ʔicatan. この間彼に会った。kuneedaŋsee. 近ごろは。

kunee=juNⓐ (自 =raN, =ti) ㊦こらえる。我慢する。kuneeti turaʃee. 我慢しておくれ。㊦(けんかしてのち) 仲直りする。すなわち, こらえてけんかをやめる。dii kuneera. さあ, 仲直りしよう。

kuniⓐ (名) ㊦村落。落部。村。sima, mura などと同じ意味。複合語に, hanaguni (芸能のさかんな村), kariguni (寒村) など。㊦封土。領土。知行所。知行としてもらう村。㊦故郷。郷土。出身の部落。㊦国。国家。

kunibuⓐ (名) オレンジ類の総称。みかんなど。kaabucii (実の皮が厚く, 汁が少なく, 甘いもの), ʔootoo (実の皮が薄く, 汁が多く, すっぱいもの) などの種類がある。

kuniciⓐ (名) ここのか。月の九番目の日。また, 一日の九倍。

kunicoodeeⓐ (名) 血縁関係のない他人同志でいて, まるで兄弟のように似ている者。他人のそら似。coodee は兄弟。

kunihjaaⓐ (名) kunuhjaa と同じ。

kunjiaⓐ (名) ㊦この時分。今ごろ。'jaan-nnu ~. 来年の今ごろ。㊦こんなに遅く。こんな時間。~ maakaiga. こんなに遅くどこへ行くのか。~'jubukasani 'warabigwinu ʔaʃiga, ʔitu husizidemunu, ʔisuzi cikani. [こねや夜ぶかさにわらべ声のあすが いと不思議だいの急ち聞かね(執心鐘入)] こんな夜ふけに子

kuninuzuku

供の声がするが、実に不思議だ。急いで行って聞いてみよう。

kuninuzuku①(名) ⊖ 国の風俗。⊖ 村里・郷土の風俗。土俗。

kuninda②(名) 久米村。《地》参照。

kuniri③(名) [古][こねり] 舞踊。オモロなどにある語。

kunisi④(名) 国吉。《地》参照。

kuniwaa⑤(名) 国内。国の広さ。

kunizuu⑥(名) 國中。国全体。

kunu⑦(連体) この。～ *sjumuçi*。この本。

kunuca⑧(名) この歳。この老境。kunujuca ともいう。

kunuguru⑨(名) このごろ。

kunuguruŋsi⑩(名) このごろ。昨今。最近。～*ja maankaiga ʔnzara*。[此ごろむすや まあむかへが行ちやら(花売之縁)] このごろはどこへ行ったやら。

kunugutooru⑪(連体) こんな。このよう。かよる。かよる。kūngutooru ともいう。～ *mun*。このよるもの。また、こんなつまらぬもの。

kunugutooruu⑫(名) こんなもの。このよるもの。これと似たもの。

kunugutu⑬(副) このよるに。こんなに。かよるに。kūngutu ともいう。

kunuhjaa⑭(名) こいつ。こやつ。この野郎。kūnihjaa ともいう。

kunuhuzanee⑮(名) これしき。こんな些細なこと。kunu ʔatai(nu kutu) ともいう。

kunuhwiN⑯(名) この辺。このあたり。

kunujoo⑰(名) このよる。やや文語的な語。～*na*。このよる。～*ni*。このよるに。kūngutooru, kūngutu などというのが普通。

kunujuca⑱(名) この歳。この老境。kunuca ともいう。～*ni natiN*。この歳になっても。

kunujuu①(名) この世。現世。ʔanujuu の対。

kunumi②(名) ⊖ 考案。立案。計画。⊖ 企て。計略。ʔjanagunumi。(悪い企て)

kunu=nuN③(他 =*maN*, =*di*) ⊖ 考案する。立案する。計画する。kunu ciNnu ʔajaa ʔjuu kunudeeN。この着物の模様はよく考案してある。⊖ 企てる。策謀する。

ku=nuN④(他 =*maN*, =*di*) ⊖ 組む。編む。hwiraguN ～。組みひもを組む。boosi ～。帽子(パナマ帽)を編む。⊖ 組む。組織する。kuna ～。組をつくる。

ku=nuN⑤(他 =*maN*, =*di*) (はきものを) はく。ʔasiza ～。下駄をはく。huja ～。靴をはく。

ku=nuN⑥(他 =*maN*, =*di*) 汲む。miçi ～。水を汲む。

kunuqcu⑦(名) この人。

kunusjaku⑧(名) このくらい。これくらい。これほどの量。～ *dikiree ʔjutasjan*。このくらいできればよろしい。

kunutaki⑨(名) これほど。～*nu kutu*。これほどのこと。～*ni ʔwanuN najagajai ʔuŋiga, cini kanau ʔwinagu subani mata ʔuran*。[此たけに我も なやがやい居すが 氣に叶ふ女 側にまた居らぬ(大川敵討)] これほどにわたしも高い身分になったが、氣に入った女がそばにはいない。ʔjaa kamizuu, ʔawari ～*ni naihatiiti ʔuŋiga, tanumusija mutunu makutu ʔwaŋiriran*… [やあ亀千代 あはれ此たけに なり果ててをすが たのむしや元の 誠忘れらぬ…(忠臣身替)] やあ亀千代、あわれこれほどまでに落ちぶれてしまっている、頼もしいことに昔の誠を忘れずに…。～*ni natoondee muru ʔumaantaN*。これほどになっているとは全然思わなかった。

kunutuci⑩(名) この時。

kunuʔuci⑪(名) 近いうち。近日中。～

cuura hazi. 近いうちに来るだろう。～nakai sjuſee masi. 近いうちにやった方がよい。

kunuu① (名) 保証。保証人となること。「口入(くにゅう)」に対応する。～ʔijun. 保証する。保証人となる。

kunuu① (名) 不平。苦情。抗議。ciNnu ～. 着物についての不平。

kunuumanuu① (名) 大いに不平をいうこと。不平たらたら。～nu ʔuhusaN. 不平が多い。～Qsi saN. 不平ばかり言って、やらない。

kunuzu① (名) この間中。このところずっと。～ʔicunasataN. このところずっと忙しかつた。

kuN-(接頭) 動詞について「強く…する」, 「はげしく…する」などの意を表わす。kuNsibajun (強くしぼる), kunsimijun (ぎゅっと締める) など。

kuNcaa① (名) ⊖癩病患者。⊖こじき。癩病患者はこじきに多いので、こじきの別名ともなった。

kuNcaaboozaa① (名) kuNcaaboozi の卑語。ʔamatu ʔNmariti ～ narajaka, ʔucinaa ʔNmariti karihaamee. 日本に生まれてざんぎり頭になるよりは、沖縄に生まれてきたばりばあになった方がまだよい。鹿藩のころ、日本本土の断髪をのしって言ったことば。

kuNcaabo'ozii① (名) ざんぎり頭(卑語)。断髪が悪口としていう。～N 'waaboozi. (諺) ざんぎり頭でも自分の頭。自分のものは何でもよい意。

kuNcaka=juN① (自 =raN, =ti) (水などが) ひっかかる。(水などを) あびる。

kuNcaki=juN① (他 =raN, =ti) (水などを) ひっかける。あびせる。ʔjuu ～. 湯をあびせる。

kuNcee=juN① (自 =raN, =ti) kuNkeekuN と同じ。

kuNcee=sjuN① (他 =saN, =ci) kuNkeekuN と同じ。

kuNci① (名) 癩病。

kuNci① (名) 根気。

kuNciburaari① (名) 根気がたりないこと。根気不足。

kuNçici① (名) 今月。

kuNci=juN① (他 =raN, =qci) 横切る。横切って近道をする。kuN-<kunUN(踏む)。

kuNçika=juN① (他 =aN, =ti) こき使う。酷使する。

kuNçiki=juN① (他 =raN, =ti) 踏みつける。強く踏んで荒す。

kuNcirimici① (名) 近道。畦などを伝って近道すること。また、その道。

kuNcirmiicii① (名) 畦を伝うなど、道でない所を横切って近道すること。～sjuN.

kuNcisjuubu① (名) 根気くらべ。

kuNciʔuzinii① (名) 体力をつける食物。滋養物。tamagoʔ tadeemanu ～. 卵はすぐ効果のある栄養物。

kuNcuu① (名) 困窮。貧窮。

kuNcuu=juN① (自 =raN, =ti) (病人・子供などの足が) 強くなる。立って歩けるようになる。maada kuNcuuraN, burabura sjoon. まだ足の力がなくてよろよろしている。

kuNcuumuN① (名) 困窮者。貧乏で生活に困る者。

kuNda① (名) こむら。ふくらはぎ。

kuNdaʔagajaa① (名) こむらがえり。ふくらはぎの筋が急にけいれんして激痛を覚えること。

kuNda=sjuN① (他 =saN, =ci) (行事を) とりやめる。お流れにする。ʔami huti kuNdasaqtaN. 雨が降ってとりやめにさせられた。

kuNdi=juN① (自 =raN, =ti) ⊖(こすれて) 消える。(字・印などが) 鮮明でなく

kuNdu

なり、わからなくなる。sirusinu kuNdiiti 'wakaraN natoon. 標識が消えてわからなくなっている。⊖(催しが)中止になる。お流れになる。cuunu hanabee kuNdiitan. きょうの花火はお流れになった。

kuNdu①(名)今年。ことし。kuNdoos 'jugahuudusi. ことしは豊年。

kuNgutooru①(連体) kunugutooru と同じ。

kuNgutu①(副) kunugutu と同じ。

kuNgwaçi①(名)九月。年の第九番目の月。kugwaçi ともいう。~ kunici cikuʔuzaki. [九月九日菊お酒] 9月9日の重陽の節供に、酒に菊の葉をひたして供え、また飲むこと。

kuNhaN=sjuN①(他 =saN, =ci) 踏みはずす。踏みそこなって、足場を失う。

kuNjaku①(名) こんにやく。

kuNkee=jun①(自 =raN, =ti) (貧乏・病気などから)立ち直る。kuNceejun ともいう。kuN-<kumi-(踏み)-keejun (かえる)。

kuNkee=sjuN①(他 =saN, =ci) 立ち直る。(貧乏・重病などを)克服する。kuNcee-sjuN ともいう。hwinsuu kuNkeeci ʔweeki sjoon. 貧乏を克服して、金持ちになった。

kuNkoo①(名) 勲功。国家に尽した功勞。

kuNkoomuci①(名) 勲功のある人。

kuNkuNsii①(名) [工工四] 琉球音楽の曲譜。三味線のものとは琴のものとする。いずれも安富祖流と野村流の両派がある。三味線 (saNsIn) の場合は 'uuziru (一の糸), nakaziru (二の糸), miiziru (三の糸) について、それぞれ次のような符号で表わす。一の糸: 合 (不掩), 乙 (人差指), 老 (中指), 下老 (無名指)。二の糸: 四 (不掩), 上 (人差指), 中 (中指), 尺 (小指), 下尺 (小指下)。三の糸: 工 (不掩), 五 (人差指), 六 (中指), 七 (小指), 八 (小

指下), 九 (又下)。打音ㄅ, 掛音ㄆ, 極音ㄇ, 列弾ㄏ, 声出ㄏ, 声切ㄏ。もとは楽譜もなく、面授口伝であったものを、向氏屋嘉比朝奇が音曲のことを調べ、はじめて音楽譜工工四を作り、のち数代を経て歌氏知念積高が大成し完全なものにした。知念は平民で無系の者であったが、声楽にすぐれていたので士同列歌職を命ぜられ、功を以て歌氏という新家譜を賜わった。琴 (kutu-u) の譜は、弦名は日本のものと同じく、一二三四五六七八九十斗為巾の13弦でこれを三味線の譜に調べ合わせたものである。

kuNkurubaasæe①(名) 押し合いへし合い。人を押しのけたり、突き倒したりの大混雑。sjuincoo suriizurii, naahwancoo naahaibai, kunindaNcoo ~, tumaincoo tumeeidumeei. 首里の人は打ち揃って、那覇の人はばらばらに走り、久米の人はおし合いへしあい、泊の人は互いに助け合って。(頭韻を踏んでいる)

kuNkwaa=sjuN①(他 =saN, =ci) 無理に食わせる。また、(酒・薬などいやがるものを)無理に飲ませる。

kuNmaa=sjuN①(他 =saN, =ci) 踏まないようにさけて通る。(水たまりなどをさけて) ちょっと回り道する。

kuNmi①(名) 小嶺。《地》参照。

kuNna①(連体) こんな。

kuNnagee①(名) ⊖こんなに長い間。~ macundee ʔumaantaN. こんなに長い間待つとは思わなかった。⊖従来。以前。前。~ja hataki 'jataşiga moo natoon. 以前は畑だったが、野原になってしまった。

kuNnoo=jun①(自 =raN, =ti) 立ち直る。勢いをもりかえす。病気などがよくなる。また、貧困から浮かび上がる。

kuNnoo=sjuN①(他 =saN, =ci) 持ち直す。回復する。(病気などが)よくなる。

kuNnu=zun①(他 =gaN, =zi) 追い越す。

- kuNnugarijun. 追い越される。
- kuNpaika'apai① (副) 大いにふんばるさま。kunpainipai ともいう。
- kuNpainipai① (副) 大いにふんばるさま。durumici ~ qsi ʔaɣcun. 泥道を一步一步踏みしめながら歩く。
- kuNpa=jun① (自 =raN, =ti) ①足をふまえる。ふんばる。②がんばる。頑固に抵抗する。
- kuNpeN① (名) 菓子の名。麦粉を油で練り、ごまをあんに入れた焼き菓子。
- kuNpici① (名) 蹂躪(じゅうりん)。
- kuNpii=zuN① (他 =gaN, =zi) 踏みつぶす。踏みにじる。蹂躪する。
- kuNpiraka=sjuN① (他 =saN, =ci) 踏みつぶす。あやまって踏みつぶす場合にいう。kuNpiizun は意識してする場合に多くいう。
- kuNrii① (名) 婚礼。結婚式。身分のある人の婚礼をいう。王子・王女の婚礼は gukuNrii (御婚礼) という。一般人の婚礼は niibici, その敬語は ʔunibici という。
- kuNsi① (名) 君子。教養ある人の使ひ語。
- kuNsju① (名) 豆腐を作る時、煮て、豆腐をしぼる前の汁。にがりを入れて固める前のものをいう。固まってまだしぼらぬものは ʔusidoohu という。
- kuN=sjuN① (他 =saN, =ci) 消す。こすって消す。すり消す。zii ~. 字を消す。
- kuNsgu=juN① (他 =raN, =ti) ひったくる。奪い取る。ひっさらう。
- kuNtaba=juN① (他 =raN, =ti) 強く縛る。束ねて強く縛る。
- kuNtoo=sjuN① (他 =saN, =ci) 踏み荒らす。踏み倒す。
- kuNtu=juN① (他 =raN, =ti) 奪い取る。ひったくる。
- kuNzaahwiNzaa① (名) 幾重にも縛りつけ、結びつけること。~ sjuN. やたらに縛り、結びつける。
- kuNzan① (名) ①kunzanhooh と同じ。②国頭。《地》参照。
- kuNzanhooh① (名) [国頭方] 沖縄の旧行政区画で、のちの国頭郡。ʔjanbaru (山原) ともいう。
- kuNzansabakui① (名) [国頭さばくり] 国頭木遣音頭。国頭から首里王府へ重い材木を多人数で運ぶ時の歌。八八調の長歌ではやしをつけて歌う。
- kuNzi① (名) 紺地。紺の地の布・着物。
- kuNzin① (名) 金神。陰陽上の方角の神。その方角に対して物事をするのを避ける。
- kuNzoo① (名) 悪意。意地悪。根性が悪いこと。立腹しやす根性。~ ʔnzijun. 怒る。立腹する。
- kuNzooʔabii① (名) 怒声。怒ってどなる声。
- kuNzoomun① (名) 根性の悪い者。意地悪。
- kuN=zuN① (他 =daN, =ci) くびる。くくる。しめて結ぶ。縛る。また、捕縛する。
- kuQkuruuʔu'u① (副) おんどりが時をつくる時の鳴き声。こけこっころ。
- kuQpeeru① (連体) これほどの(量の)。この大きさの。
- kuQpeeru① (名) この大きさのもの。これだけの量のもの。
- kuQpi① (名) これほど(の量)。これくらい(の分量)。この大きさ。
- kuQsa① (名) これだけ(の数)。これくらい(の数量)。これほど。
- kura① (名) 倉。倉庫。
- kura① (名) 鞍。牛馬の背におくもの。
- kuraa① (名) 雀。ʔjumudui はその古語。
- kurabi=juN① (他 =raN, =ti) 比べる。比較する。kunabijun ともいう。
- kuragaa① (名) 甘藷の一種。上等な品種である。
- kuraguratu① (副) [文] 暗暗と。不安・疲労・恐怖などのために、目の前が暗くなる

kurajaku

さま。mimutu ~ naruga siNci. [目もとくらぐらと なるが心気(銘刈子)] 目の前がまっくらになる心地。

kurajaku①(名) [蔵役] 物品を収納する役所の役人。出納人。kukuruzikijaku ともいった。

kurajami①(名) 暗やみ。暗黒。

kuramutu①(名) [蔵元] 先島の行政役所の名。徴税を主な仕事とした。

kurasaN①(形) 暗い。

kurasi①(名) 暮らし。生活。生計。

kurasiḡata①(名) 暮らし方。生計。生活の方法。tuzimiitu cutukuruni ~ naraN. [妻めいと一所に 暮し方ならぬ(花売之縁)] 夫婦がひとところに生活することができない。

kurasiḡurisaN①(形) 暮らしにくい。暮らしが楽でない。kurasiḡurisaN 'juu 'jaqsaa 'jaa. 暮らしにくい時代だねえ。

kurasiḡaqsan①(形) 暮らしやすい。暮らしが楽である。ʔanu simaa ~. あの部落は暮らしやすい。ʔaree kurasiḡaqsasjoon. 彼は楽に暮らしている。

kurasiN①(名) まっ暗なところ。暗やみ。暗すみの意。~utee nuun miiraN. 暗やみでは何も見えない。

kura=sjun①(他 =saN, =ci) 暮らす。'jamatuuti naNniN kuracooga. 日本で何年暮らしているか。

kuratai①(名) 王室の倉庫係。

kurazoori=jun①(自 =raN, =ti) (日暮れ方などに) 薄暗くなる。

kuree①(名) ⊖位。位階。⊖(接尾) くらい。canukuree (どのくらい), saataaja kunukuree caaga. (砂糖はこのくらいでどうか) など。

kuri①(名) くれ(樽)。おけ・たるなどを作るために小さく切った板。

kuri①(名) いかの墨。

kuri①(名) これ。この物。この事。また、

この者。

kuriiguri①(副) 狂わんばかりに嘆き悲しんで。~ ʔjuN. 深く嘆いて言う。

kuriimajaa①(名) さかりのついた猫。恋猫。

kuriiʔwaa①(名) さかりのついた豚。

kurikaa①(名) この辺。このあたり。

kurikara①(名) これから。今後。

kurima①(名) 来間島。宮古群島の島の名。

kurisjan①(形) 苦しい。kurisja sjun. 苦しむ。

kuroo①(名) 苦勞。

kuru①(名) ころ。時分。'waaga 'waka-sataru kuroo. わたしの若かったころは。ʔikuḡinu ~. 何歳のころ。

-kuru (接尾) 「自身で」の意を表わす接尾辞。英語の -self に似ている。'wankuru (わたし自身で), duukuru (自分自身で), ʔunzukuru (あなた自身で), ʔjanukuru (おまえ自身で), ʔarikuru (彼自身で), nanukuru (おのずから), ʔamanu ʔunzukuru (あの方御自身で), taruukuru (太郎自身で) など。

kurubaḡee①(名) 子供の遊戯の名。転ばし合い。toosḡee ともいう。相手を倒し、組み敷いて起き上がらせない方が勝。組み敷かれて起き上がれない場合は相手に ʔwenmi. (降参) と言う。

kurubaḡaa①(名) 目分量による計算。大ざっぱな勘定。めこの勘定。

kurubee①(名) 黒かび。夏、白い着物などに生ずる黒いかび。

kurubinkeeriN①(名) ころげ回ること。

kuruboo①(名) 植物名。柿科。果実は魚毒を消し、酒の酔をさます。くさのがき。琉球柿。

kuru=buN①(自 =baN, =di) 転ぶ。転がる。kurubasjun. 転ばす。転がす。

kurucani①(名) 稲の品種の名。

kuruci①(名) 植物名。くろき。琉球黒檀。

- kurucoo**Ⓜ (名) 黒色の coozin [朝衣]。coozin の項参照。
- kuruguma**Ⓜ (名) 黒胡麻。kuruŋuguma と同じ。
- kurugweei**Ⓜ (名) 筋肉隆々として頑丈なこと。黒くたくましくふとること。
- kurujoogari**Ⓜ (名) 栄養不良などでやせて、色が黒くなること。
- kurukani**Ⓜ (名) くろがね。鉄。
- kurukanii**Ⓜ (名) 鉄の一厘銭。Ŷakazinaa に対する。
- kurukumu**Ⓜ (名) 黒雲。
- kurukuru**Ⓜ (副) ところどころ。物のところがるさま。
- kuruma**Ⓜ (名) ㊦製糖場の圧搾車。㊦車。車輪。また、荷車・人力車など、車のついた運送具。もとは㊦以外には kuruma と名のつくものは、ほとんどなかったようである。
- kurumaa**Ⓜ (名) [新] 人力車夫。車屋。kurumahwicaa ともいう。
- kurumaami**Ⓜ (名) 黒豆。烏豆。黒大豆。大豆の一種。
- kurumabo'o**Ⓜ (名) 車棒の意。豆などの脱穀に用いる。長短二本の棒からなり、短い方を手に持ち、長い方を車のように回して豆類をたたいて脱穀する。からざお。
- kurumaga'a**Ⓜ (名) 車井戸。滑車につるべ繩をかけて水を汲む井戸。
- kurumahwicaa**Ⓜ (名) [新] 車引き。人力車夫。kurumaa ともいう。廃藩後零落した士族でこの職業につく者が多かった。そこで、気位高く、平民・いなか者に対して、kuruma nuti Ŷikee. (車に乗って行け) と言い、乗る方が caqsaqsi nusiti kwimiŶeega. (いくらでのせて下さいませか) という光景を演じたりした。
- kurumiibaju**Ⓜ (名) 魚名。くろめばる。miibaju (めばる) の一種。
- kuru=nuN**Ⓜ (自 =maN, =di) 黒くなる。
- 黒ずむ。黒む。打撲傷を受けた時皮膚が黒くなることもいう。
- kuruN**Ⓜ (名) ころも。僧衣。
- kuruNgeei**Ⓜ (名) ころもがえ。更衣。旧暦4月、冬物から夏物へ、また、旧暦10月、夏物から冬物へころもがえすること。
- kururuNsii**Ⓜ (名) kuNkunsii と同じ。
- kurusaN**Ⓜ (形) 黒い。Ŷirunu ~. 色が黒い。
- kurusibii=juN**Ⓜ (自 =raN, =ti) 黒ずむ。(顔色・肌の色が) 黒ずんで色つやが悪くなる。
- kurusima**Ⓜ (名) 黒島。八重山群島の島の名。
- kurusimakuduci**Ⓜ (名) [黒島口説] kuduci [口説] の一つ。
- kurusimi**Ⓜ (名) [文] 苦しみ。
- kurusi=nuN**Ⓜ (自 =maN, =di) [新] 苦しむ。
- kurusju**Ⓜ (名) 黒潮。大海の潮の黒く見えるもの。
- kuru=sjuN**Ⓜ (他 =saN, =ci) ㊦殺す。主として動物を殺すのにいう。㊦打つ。なぐる。tataqkurusjuN などともいう。やや乱暴な語。上品には Ŷatijun という。また、これに対し sjoogurusi (ほんとに殺すこと) という語がある。
- kurusjuŶoosju**Ⓜ (名) 大海原のこと。黒潮青潮の意。
- kurusju'uzuutu**Ⓜ (副) 人の顔色が黒みがかって色つやがあり、一種の味のあるさま。にがみ走っているとか、渋味があるなどといわれる顔つきをいう。
- kurutun**Ⓜ (名) [新] 植物名。クロトン。マライ原産の観賞用植物の名。
- kuruŶuguma**Ⓜ (名) 黒胡麻。kuruguma ともいう。
- kuruu**Ⓜ (名) ㊦黒。黒色。また、黒いもの。㊦反対党。正統派 (siruu) に反対するもの。㊦特に、明治の廃藩時代に、明治

kuruzaataa

政府に反対し、旧制度維持をもくろんだ頑固党をいう。husaNsii(不賛成)ともいい、明治政府支持の開進派(siruu または saNsii)に対する。明治の末ごろまでも髪を切らず、Tusjuganasiimee(琉球王)をたたえた。

kuruzaataaⓄ(名) 黒砂糖。普通は単に saataa という。

kusaⓄ(名) 病名。フィラリヤ。突然発熱し、寒気がして体が震える。慢性で、しみに象皮病になる。南国に多い地方病。～hurijun。フィラリヤにかかる。体が震えるので hurijun(ふるえる)という。

kusaⓄ(名) 草。とくに、雑草。～nu mii-jun。雑草がはえる。～tujun。雑草を取る。

kusabanaⓄ(名) 草花。

kusabiⓄ(名) くさび。楔。

kusabuqkwaaⓄ(名) ませた者。おとなぶる者。また、ペダンティックな者。

kusabuqkwi=junⓄ(自 =raN, =ti) ませる。こましゃくれる。また、物知り顔にふるまう。

kusahurijaaⓄ(名) フィラリヤ患者。

kusaiⓄ(名) 支配。支配力。～nu 'joosaN。支配力が弱い。

kusaiⓄ(名) 鎖。

kusa=junⓄ(他 =raN, =ti) ⊕つなぎ合わせる。一つにする。合体する。分家をもとにもどして一つにする場合などもいう。mii-tundanu kuçi tiiçinkai～。死後、夫婦の骨を一つにして納める。⊖支配する。'jaa～。家を支配する。mura～。村を支配する。

kusakaciⓄ(名) 農具の名。かながき。鉄製の熊手のようなもの。草掻きの意。

kusakaiⓄ(名) 草刈り。

kusakajaaⓄ(名) 草刈りをする者。子供が多くこれにあたる。また、草刈りの道具。

kusakajaawarabaaⓄ(名) 草刈りをする

子供。

kusakiⓄ(名) 草木。kiikusa ともいう。

kusakiiⓄ(名) こんなにたくさん。こんなに多く。Yiriminu～hajagatoon。費用がこんなに超過している。～nu qcu。こんなにたくさんの人。

kusakusaⓄ(副) くさくさ。気がめいり、心がふさぐさま。

kusamicino'oriⓄ(副) 憤慨するさま。いきどおるさま。

kusami=cuNⓄ(自 =kaN, =ci) 怒る。憤慨する。

kusamuniiⓄ(名) ませたものの言い方。おとなびた話し方。また、ペダンティックな口のきき方。camisika şimee siranoo sjooti～bikeei qsi。大して学問はないくせに、物知り顔な口のきき方ばかりして。

kusamunu'jiiⓄ(名) kusamunii と同じ。

kusanuhwaaⓄ(名) 草の葉。

kusanumiiⓄ(名) 草原の中。

kusanuniiⓄ(名) kusa(病名)の病根。

kusanuniiⓄ(名) 草の根。

kusanDakiⓄ(名) ほていちく。竹の一種。節が多く、葉は細かく、杖や格子などにする。

kusaraaⓄ(名) 腐ったもの。kusarimun ともいう。

kusari=juNⓄ(自 =raN, =ti) 腐る。腐敗する。食物のいったん煮たものが腐敗する場合は şiijun という。kusaritooru 'ijju。腐った魚。

kusarimuNⓄ(名) 腐ったもの。kusaraa ともいう。

kusasaNⓄ(形) 臭い。悪臭がする。kusasa kusasa。臭い臭い。とても臭い。

kusatuiⓄ(名) 草取り。

kusazinaⓄ(名) 植物名。くさぎ。

kusa=zuNⓄ(他 =gaN, =zi) こそげる。こするようにして、けずり落とす。(密着したものを)そぎ落とす。'uuzi～。イ。砂糖

きびの枯葉を幹からそぎ落とす。ロ。盆祭りに具える kwasiuuzi (菓子きび) の場合には、その幹の皮をそぎ落とす。

kuṣeeku① (名) 男の裁縫師。巧妙な刺繍などの手工芸を業としている。

kusi① (名) すきぐし。髪をすいてあかを取るための、齒の密な櫛。普通の櫛は *sabaci* という。

kusi① (名) 久志。《地》参照。

kusi① (名) ㊦背中。背。また、腰。腰および背面全体。背中では *kusinagani* ともいう。また腰まわりの細い部分は *gamaku* という。～ *tatacuN*。背中をたたく。あんまをする。～ *ṣijuN*。(風呂などで) 背中を流す。～ *ʔusjuN*。(坂道を上る時などに) 背中を押す。～ *hwicuN*。(親兄弟・一族などの) 名をはずかしめる。つらよごしをする。ʔujuṇu ~ *hwicuru ʔukunee Qsi*。親の恥となるような行為をして。ʔitumikara haimi hukirutuN 'waminu nujudi ʔumisatunu mikusi hwicuga。[糸目から針目 ほけるとも我身のよで思里の 御腰引きゆが] 糸が針の目をくぐるようなかほそい暮らしをしても、何でいとしいあなたの不名誉になるようなことをしましょか。㊦[後]うしろ。後方。背後。'jaanu ~。家の後ろ。～ *nasjuN*。背を向ける。そっぽを向く。(いやだと) 顔をそむける。 *kusjaa nasjuN* ともいう。

kusi① (名) 嫌って避けること。忌避。～ *ṣjuN*。嫌う。忌避する。

kusi① (名) 欠点。きず。 *nuu ~N neeN qcu*。何の欠点もない人。 *ciri tiiqiN neeraN curasadu ~*。[ちり一つもないらぬ 清らさどくせ(姉妹敵討)] 塵一つもないのが欠点。掃除がきれいにできたことを自慢する文句。

kusi① (名) 癖。性癖。'janagusi。(悪癖)

kusibuni① (名) 背骨。 *naganibuni* と同

じ。

kusici① (名) 戸籍。～ ʔirijuN。(結婚して) 入籍する。～ *nuzuN*。(離婚などで) 除籍する。

kusicii① (名) こしき。せいろう。強飯・菓子の類を蒸すもの。木のわくの底に竹のすのこを敷いたもの。

kusiciiʔukwaasi① (名) こしきで蒸して作った菓子。蒸し菓子。もっぱら祭礼用で、米の粉と砂糖を主にして、香料や、味をよくするため南京豆などを少々入れる。種類多く、 *ciisuNkoo*, *paasuNkoo*, *nisi-cimucigoo*, *ʔiruçikimucigoo*, *kooreemuci* などがある。

kusidaki① (名) 久志岳。国頭地方にある山の名。

kusidee① (名) ㊦腰の力。-dee <tee (力)。㊦頼みとする力。頼みとなるもの。～ *najuN*。頼みとなる。～ 'joojuN。イ。腰の力が弱る。ロ。頼みに思う者がいなくなり、力が弱る。

kusigaki① (名) ㊦頼みにすること。頼りにすること。㊦転じて、かさに着ること。鼻にかけること。威を借りること。ʔuja ~ *ṣjuN*。親の威をかさに着る。 *ziN ~ ṣjuN*。金錢を鼻にかける。㊦の意で多く用いる。

kusigirama① (名) [後慶良間] 座間味 (*zamaami*) 間切の別称。

kusihazii① (名) もろ肌脱ぎ。帯から上を脱いで、上半身の肌をあらわすこと。

kusihwici① (名) 名折れ。つらよごし。不名誉。親兄弟・一族などの名をはずかしめること。<*kusi hwicuN*。

kusihwicimuN① (名) 一族一門などに不名誉となることをする者。つらよごし者。

kusihwizurusaN① (形) 背筋が寒くなる。(こわい夜道を歩く時などに) 恐ろしさでぞっとする。急な危険の時、または人の危険を見た場合には 'NnihwizurusaN (はっ

kusijoosan

とする) という。

kusijoosan① (形) 心細い。頼る者がなくて、心細い。

kusi=juN① (他 =raN, =ti) 着せる。また、着せ与える。着物を作り、または求めて、人に与える。ciN ~。着物を着せる。

kusijuqkwii① (名) [脰憩] 骨休め。農繁期の仕事が終わってする骨休めの行事。部落ごとに酒宴を開き、余興にうち興ずる。砂精仕事の後にするのが普通。

kusinagani① (名) 背中。単に kusi または nagani ともいう。

kusiree=juN① (他 =raN, =ti) 魚や家畜の類を料理しやすい形に切り分ける。(魚を) おろす。(家畜の類を) 解きわかつ。

kusitataci① (名) 腰をたたくこと。あんま。

kusizaa① (名) 機織りの器具の一つ。地機で *ʔijanuqkwa* (織った布を巻くもの。いのあし) と紐で結び、織る人の腰にかけるもの。

kusizii① (名) [後地] 伊平屋鳥 (*ʔihja*) をいう。

kusjaa① (名) 後ろ。後方。背後。~ *ʔuqcee=juN*. 仰天する。びっくり仰天する。後ろへひっくり返る意。~ *najuN* ともいう。~ *nasjuN*. イ。後ろにする。ロ。後ろを向く。顔をそむける。kusi *nasjuN* と同じ。qiranu ~ naruka *ʔaoku sjun*. 顔が向けられなくなるほど、叱る。~ *mucisuri=juN*. 後ろにそりかえる。

kusjati① (名) ⊖後ろにすること。背にすること。haaja ~ *sjun*. 柱を背にする。makutu nani tacuru *sjuanu ban-dukuru, nakajamaja ~ minatu me naci*. [まこと名に立ちゆる 塩屋の番所 中山やこしやて 港前なち (花売之縁)] まことに名高い塩屋の番所は、中山を後ろにし、港を前にしている。⊖頼りになる者。転じて夫。また、ひとり息子*。~ *ʔusina=juN*. 夫 (または、ひとり息子*) を失う。

⊖根拠。nuu ~ *qsi ʔan ʔjuga*. 何を根拠にして、そういうか。

kusjaticata① (名) 夫のかた。嫁入り先の方。nasimii (里方) の対。

ku=sjun① (他 =saN, =ci) 越す。越える。*ʔacakaranu ʔasati satuga bannubui taNca kusju ʔaminu hurana ʔjašiga*. [明日からの明後日 里が番のほり 谷茶 越す雨の 降らなやすが] 明明後日は恋しいかたが首里へ勤務に向かう日だが、谷茶の村を越えてしまうくらいの雨が降って出発できなくなればいいのだが。

kusjuqkwii① (名) kusijuqkwii と同じ。

kusu① (名) くそ。大便。首里の上品な家庭では *ʔura* という。~ *kwee*. くそくらえ。くしゃみをした時にいうまじない。~ *ma=juN*. 大便をする。くそまるの意。上品には *ʔura tacuN*. または *huru ʔjuN*. などという。

kusuciribai① (名) 一目散に走ること。

kusugwee① (名) 下肥え。

kusuhwirii① (名) 下痢。上品には *hukadaci* という。-*hwirii* <*hwijun*).

kusui① (名) 薬。tuti *çikiiru kusuee neeN*. とってつける薬はない。馬鹿につける薬はない。~ *kusoobee*. [新] 薬九層倍。~ *mujun*. 薬を盛る。調合する。

kusuidee① (名) 薬代。医者に払う治療費すべてをもいう。

kusuijaa① (名) 薬屋。薬売り。また、薬局 (*kusuimacija*).

kusuimacija① (名) 薬局。薬屋。

kusunuci① (名) くすのき。楠。樟。

kutaçici① (名) 先月。越えた月の意。前月は *meenuçici*.

kutandi① (名) くだびれ。疲れ。疲労。nagamici *qsi ~ ʔnzacoON*. 長道して疲れが出た。ʔukutandin *saabirani*. お疲れではございませんか (長老へのあいさつ)。

kutaNdi=junⓄ (自 =raN, =ti) くたびれる。疲れる。疲労する。過労などの場合をいう。走った時などの一時的な疲れは 'utajun といい、また、精神的な疲労は çikarijun という。

kutaNdinoosiⓄ (名) 疲れを直すこと。慰勞。また、疲労回復になる食べ物など。

kuta=sjunⓄ (他 =saN, =ci) 腐らせる。いもかすなどをわざわざ腐らせる場合にいう。

kutee=junⓄ (自 =raN, =ti) ⊖答える。普通は hwintoo sjun という。⊖(苦痛が)こたえる。kuteerasaqtosa. だいぶこたえ(させられ)ているよ。

kutibusiⓄ (名) [特牛節] 歌曲の名。御前風 (guziNhuu) 五曲の中の一つ。Yuhunisinu kutija nazicinadu şicuru, 'wasita 'wakamunuja hanaü şicuru. [大西のこてや なづち菜ど好ちゆる わした若者や 花ど好ちゆる] 大西(部落名。北のはずれの意)のことい牛はナジチ菜を好むが、われら若者は花(女)を好む。この歌詞に kuti とあり、これを本歌として歌ったので、kutibusi といわれた。のち、いろいろの歌詞で歌われるようになり、kutibusi の名のいわれがわからなくなった。

kutiiZusiⓄ (名) 牡牛。「ことい牛」、「こつて牛」などと比較される。

kutuⓄ (名) こと。事。ことがら。また、事件。変事。Yurandanakai ~nu Zukutoon. 西洋で事件が起こっている。~kazun. 事欠く。不足し、不自由する。kutoo kagan. 事欠かない。足りて不自由しない。~'jariba ~i. [文] 物かは。何でもない。物ともしない。cizinu masigacin ~'jariba ~i, hanani çiku habiru cizinu najumi. [禁止のませ垣も ことやればことい 花につく胡蝶 禁止のなゆめ(執心縮入)] 恋には禁止のませ垣く

らい何物でもない。花につく蝶をとめることができようか。

-ku^(u)tu (接尾) から。ので。理由を表わす。活用する語の「短縮形」(apocopated form) につく。Zicukutu. 行くから。Yan 'jakutu. そうだから。

kutubaⓄ (名) ⊖訛り。訛語。方言。~sjun. 訛りがある。方言を使う。⊖(接尾) 方言。…弁。Yinakakutuba (いなかの方言), naahwakutuba (那覇弁。那覇方言), 'janbarukutuba (山原弁。山原方言) など。地方的、非標準的なものをいう。kuci の項参照。⊖ことば。表現。~ZuujuN. ことばを追う意。kuci ZuujuN と同じ。kuci の項参照。~kunzun. あげ足を取る。言いそこね、言い過ぎなどをとらえて攻撃する。~nu çikuri. ことばの極致。洗練され、含蓄のあることば。

kutubakaziⓄ (名) ことば数。口数。kucikazi ともいう。

kutubanuⓄ (名) ことばのはし。ことばのあや。ことばの緒の意。~du 'jaru. 言い回しの上のことに過ぎない。

kutubazikeeⓄ (名) ことば使い。

kutubuciⓄ (名) [文] [寿] ことぶき。ことほぎ。

kutujusiⓄ (名) ことよせること。かこつけること。口実。

kutujusiⓄ (名) 忠告。訓育。'jusigutu の動作性名詞。~sjun. 忠告する。教訓をたれる。

kutujusi=ju`NⓄ (他 =raN, =ti) ことよせる。かこつける。口実を設ける。Zuman 'juikaradu zirini kutujusiru, kakurihusu micinu Zarana Zucumi. [思まぬ故からど 義理にことよせる 隠れほそ道の あらな置きゆめ] 思っていないから義理にかこつけるのだらう。思っているならばこっそり通り細道がないはずはない。

kutukaakutukaaⓄ*(感) kutukutuu と同

kutukazi

じ。

kutukaziⓄ (名) 事欠くこと。足りずに不自由すること。

kutukaziⓄ (副) ことごとに。そのたびごとに。～ googuci sjuN. ことごとに苦情をいう。

kutukutuuⓄ (感) 猫を呼ぶ声。沖縄では猫の名前を *tuku* (徳) と名付けるので、呼ぶ時には、どの猫でも *kutukutuu* で間にあう。*kutukaakutukaa* ともいう。

kutusabiⓄ (名) わざわい。悪いできごと。

kutusiⓄ (名) [文] ことし。今年。～ *mu-zukuija*… ことしの作物は…。

kutuʔuseeiⓄ (名) 事をあなどること。軽視。

kutuuⓄ (名) 琴。十三絃で、野村流と安富祖流の二流がある。沖縄では琴を単独に弾く流儀はなく、正式には三味線の伴奏として弾くことが多い。絃名は日本と同じく、一二三四五六七八九十斗為巾の十三絃。～ *hwicuN*. 琴を弾く。～*nu çimi*. 琴爪。日本本土の琴爪より大きく長い。～*nu çiru*. 琴糸。三味線の糸のように生糸で作る。

kutuunuʔnmaⓄ (名) ことじ (琴柱)。形が馬に似ているのでいう。

kutuwa=juNⓄ (他 =*raN*, =*ti*) ことわる。拒絶する。辞退する。

kutuwakiⓄ (名) 言いわけ。陳謝。わけを言ってわびること。～ *sjun*. 陳謝する。

kuuⓄ (名) ㊦いかけ。なべ・おけ・ばけつなどの穴をふさぐこと。綱(こ)の意。また、そのふさいだ箇所。*naabinu* ~ *sjun*. なべの穴を修繕する。㊦衣服のつぎ。*cin-nu* ~ *sjun*. 着物のつぎをする。

kuuⓄ (名) 粉。粉末。「粉(こ)」に対応する。*muzinakuu* (小麦粉), *maamina-kuu* (きなこ) など。～ *narasjun*. 粉にひく。'wajun (割る) という語を忌んで、*narasjun* (鳴らす) と言う。～ *hucuN*. (蒸したさつまいもなどが) 粉を吹く。

kuuⓄ (名) 劫(こう)。暮の手。

kuuⓄ (名) (亀・かになどの) 甲。こうら。

kuuⓄ (名) 功。あまり使わない語。*kaamiikuujaka tusinuku*. 亀の甲より年の功。

kuuⓄ (名) こつ。要領。*habutuinee ~ nu ʔaN*. はぶ捕りにはこつがある。

kuuⓄ (名) 九。普通は *kukunuçi* という。

kuuⓄ (名) かご。鳥かごをいう。*soomi-naakuu* (目白のかご) など。

kuuʔaçisaⓄ (名) 小髻。二十四節の一つ。

kuubaaⓄ (名) 腹 ('wata) のごく軽い敬語。目下の年長などに用いる。普通の敬語は 'Ncuubu, さらに上は ʔuNcuubu.

kuubaaⓄ (名) 蜘蛛。こぶ (九州方言)。文語は *kubu*.

kuubeesanⓄ (形) 味がこまやかである。味わいがある。たとえば南京豆・くるみ・栗など、嚼んで味のよいものについていう。

kuubiⓄ (名) 植物名。ぐみ。果実は子供の好物。

kuubuⓄ (名) 昆布。

kuubuʔiriciⓄ (名) 料理名。昆布を細く切り刻み、肉・かまぼこ・卵焼き・揚げ豆腐などをまぜて油いためたもの。正月ごろ多くする料理。

kuubumaciⓄ (名) 料理名。昆布巻。昆布を巻いて中に魚肉を入れ、砂糖と醤油で煮たもの。

kuucooⓄ (名) 弦楽器の名。胡弓。形は三味線に似て小さく、弦は馬の尾に松やにつけたもので、三弦。出す音は細いが、根みをこめて訴える一種独特の音色を持ち、琴・三味線・笛と合奏する。

kuudaⓄ (名) 芭蕉糸を竹串に巻き、その竹串から引きぬいたもの。おだま (芋環)。

kuudaguusiⓄ (名) 機織りの道具の一つ。芭蕉布または *tunbjan* 糸を巻きつけて、おだまを作る竹串。木綿糸などに用いる *kudaguu* より太くて長い。管串の意。

kuugaⓄ (名) ⊖卵。単独ではふつり鶏卵をいう。tamagu ともいう。他は生み主の名をかぶせる。kaamiikuuga (亀の卵), ?ahwiraakuuga (あひらの卵), soomi-naakuuga (目白の卵), ?ijunu ~ (魚の卵), habunu ~ (はぶの卵) など。⊖ (人・動物の) 卵丸。きんたま。形の類似からいう。

kuugaaⓄ (名) 植物名。さるなし。しらくちづる。実は盆の祭りに miigaa (みょうが) とともに供える。実の形が卵に似ているのでいう。

kuugaguruⓄ (名) 卵のから。

kuugahuwahuwaaⓄ (名) 卵焼き。huwahuwaa は焼き立てのほやほやの意。

kuugatuueeⓄ (名) 子供の遊戯の名。鶏卵大の小石を四つ置き、鬼がその上に四つんばいになって守り、石を取りに来る者を足で蹴る。取る者は蹴られないように機敏に取り、蹴られれば代わって鬼となる。

kuugiⓄ (名) 陰毛。脇毛は 'wacikuugi といい。

kuugusuiⓄ (名) 粉薬。散薬。

kuu?ijuⓄ (名) 鯉。

kuuiⓄ (名) 財産・道具などを入れておく裏部屋。「庫裡(くり)」と関係ある語。

kuuigwaaⓄ (名) kuui の小さいもの。kuui と別にあって、とくに女の持ち物などを入れておく、あるいは、みそ・酒などを貯蔵する小部屋。

kuuziiⓄ (名) もらい乳。乞い乳の意。

kuujaaⓄ (名) 娘のいる家にその娘を嫁にもらいたいと申し込みに行く者。多くは男方の親類縁者が行く。乞う者の意。~ja ?meNsooraN doo. 申し込む人がいらっしやらないよ。女の子のおてんばをたしなめる文句。

kuujaa?nmaⓄ (名) 人にかみつく馬。あばれ馬。荒馬。?wenda?nma (おとなしい馬) の対。

kuujuciⓄ (名) 小雪。二十四節の一つ。

kuu=juNⓄ (他 =raN, =ti) ⊖かみ付く。?i-Nnu qcu ~. 犬が人にかみ付く。⊖歯でくわえる。haa ~. 食物などが冷えて、歯にしみる。歯が食われるように感ずるのでいう。

kuu=juNⓄ (他 =raN, =ti) 嫁に来てくれと頼む。「乞う」に対応する。?jumi ~. 嫁に来てくれと頼む。

kuu=juNⓄ (他 =raN, =ti) 閉じる。kuci ~. 口を閉じる。mii ~. 目をつむる。hakanu zoo ~. 墓の入り口を閉じる。kasa ~. 傘をすぼめる。

kuukweeⓄ (名) 後悔。~ sjun.

kuumooiⓄ (名) 小おどり。雀躍。喜んで躍り上がること。

kuuniiⓄ (名) ?utibici (肉・豆腐・野菜の類を醬油で煮る料理) の料理法の一つ。材料を比較的小さく切って煮るもの。?utibici の項参照。

kuu?NmuniiⓄ (名) 料理名。米の粉・甘藷・?akakoozi (その項参照) をまぜて煮て、砂糖を加えて練ったもの。正月の ?Nmaridusi, tusibii などの祝いのとき(いづれもその項参照) に作る上等な食べ物。きんとんに似ている。

kuuriⓄ (名) ⊖氷砂糖。kuuri?aataa ともいう。⊖[新] 氷。

kuuribuntuⓄ (名) ところてん。「こころぶ」とは関係ない語か。tiN?iikan ともいう。

kuuri=juNⓄ (自 =raN, =ti) こわれる。くずれる。?isigacinu ~. 石垣がくずれる。

kuuri?aataaⓄ (名) 氷砂糖。単に kuuri ともいう。

kuuri?eeweⓄ (名) こぼれざいわい。僥倖。失敗などがかえってざいわいとなること。

kuurizisiⓄ (名) 料理名。卵とじ。肉や細かく切った季節の野菜を使う。

kuuruuⓄ (名) 植物名。塊根を ?akasimaa

kuuruu

(織物の名)の染料とする。

kuuruu①(名)こま。子供の玩具の名。

kuusaini①(名)小さい時。幼時。'wannee kuusainee 'jahwaraa 'jatan. わたしは小さい時は病弱だった。~nu kutu 'jati 'wakaran. 小さい時のことでわからない。

kuusan①(形)小さい。また、幼い。kuusaru 'ucini. 幼時に。同義語 gumasan は小さい・細かい・小粒であるの意。

kuusan'kuu①(名)唐手の型の名。

kuusee① neen①(句)(人が)如才ない。また、(商売などが)失敗のおそれがなく、安全である。たとえば文房具商は、商品が痛まないので kuusee neen. のようにいう。'aree nuu simitiN ~. 彼は何をさせても如才ない。

kuusi①(名)孔子。

kuusiikaa'sii①(副)ついだりはいだり。

また、つぎはぎだらけ。

kuusiimuN①(名)貧乏者。細民。貧民。'jucikuna mun の対。

kuusi'zui①(名)家を解体して売ること。

また、まとまった古道具などを分売すること。

kuusju①(名)古酒。泡盛の百年以上経たものもあり、珍重される。nanbangaami (南蛮がめ)に入れて、密閉してたくわえ、消費しただけ新たに入れて量を減らさない。

kuu=sjuN①(他 =san, =ci)こわす。くずす。解体する。'jaa ~. 家をこわす。

kuusjuuraasjan①(形)かわいらしい。

kuutee①(名)小さい物。小さい者。ちび。kuuteemaa ともいう。<kuusan.

kuuteemaa①(名)kuutee と同じ。

kuuteenuu①(名)kuutee, kuuteemaa と同じ。

kuuteen①(名)少し。わずか。ちょっと。また、小さく。量に関していう。時間に関

しては 'icuta という。~ kwiri. 少しくれ。~na 'uqka. わずかな負債。~ qsi sinun. ちょっとでいい。

kuuteengwaa①(名)ほんの少し。ちょっとびり。

kuuteenna①(名)少しずつ。小量ずつ。

kuutoo①(名)[公当]公平。公正。~na qcu. 公平な人。'ariga sjuru kutoo caa ~ 'jan. 彼がすることはいつも公平だ。

kuutu①(名)以外。よりほか。'arijaka ~ taaga siqcooga. 彼よりほかにだれが知っているか。'ajaakuutoo taagan 'nndan. 母以外にはだれも見ない(幼児を夜外出させる時に言うまじないの文句)。

kuutuguutu①(副)ごとに。ことごとに。hwijja ~. 日ごとに。一日一日と。qicee ~. 月ごとに。

kuuwaree①(名)くすつと笑うこと。~ sjun.

kuuwee①(連体)大変な。危い。とんでもない。たとえば子供が酒を飲もうとした時、おとながびっくりして ~ kutu. とか ~ mun. などという。~ qcu. 無鉄砲な人。~ miinkai 'ijun. とんでもない目にある。

kuuzi①(名)[公儀]王府。官府。

kuuzi①(名)訴訟。裁判。hwiruugutu ともいう。

kuuzigutu①(名)おおやけの事。公儀。公用。公務。

kuuzimuci①(名)国費で事を行なうこと。官費。公儀持ちの意。

kuuzoo①(名)幼児のおしゃべり。幼児のかわいらしい話し方。

kuu=zuN①(他 =gan, =zi)漕ぐ。huni ~. イ. 船を漕ぐ。ロ. 居眠りをする。niibui ~. (眠りを漕ぐ)ともいう。

kuwan①(名)小湾。(地)参照。

kuwee=jun①(他 =ran, =ti)[文]加える。口語では sijun などという。

kuzaⓄ (副) こなごな。こなみじん。～ *na-jun*. こなごなになる。 *cubacinakai kara* ～ *nasjun*. 一撃で瓦をこなごなにする。

kuzaaⓄ (名) 古謝。《地》参照。

kuzaraⓄ (名) 小皿。

kuziⓄ (名) くじ。～ *ʔatajun*. くじに当たる。

kuziⓄ (名) 故事。 *muzin* ～ *N* 'wakanan. 文字も故事もわからぬ意。物の道理をわきまえない。

kuziⓄ (名) 釘。

kuziⓄ (名) 澱粉。くず粉。

kuzibiciⓄ (名) くじ引き。

kuzigatamiⓄ (名) くず粉で固めること。～ *nu ʔusiru*. くず粉でとろりとさせた汁。

kuziguhwasanⓄ (形) くじに弱い。くじ運がない。 *kuzijahwarasan* の対。

kuzijahwarasanⓄ (形) くじ運が強い。(無尽講などで) くじによく当たる。 *kuziguhwasan* の対。

kuzi=juNⓄ (他 =*raN*, =*ti*) ⊖くじる。えぐる。ほじくる。穴の中をかきまわし、または中のものをえぐり出す。⊖皮肉をいう。

kuzikeeⓄ (名) (役場などの) 小使。

kuzimiⓄ (名) 入相の鐘。「こじみ (昏鐘鳴)」に対応する。

kuzinuzaaⓄ (名) 釘抜き。

kuzirigoosiⓄ (名) *muruduqiri* の那覇語。

kuziri=juNⓄ (自 =*raN*, =*ti*) くずれる。 *ʔisigacinu* ～. 石垣がくずれる。

kuzi=sjunⓄ (他 =*saN*, =*ci*) くずす。整ったものを乱す。また、盛ったごちそうなどに手をつける。 *zii* ～. くずし字を書く。 *ʔuzuu* ～. 重箱のごちそうに手をつける。 *taariini ʔumikakitikara kuziʔee*. おとらさんにお目にかけてから (ごちそうに) 手を付けなさい。

kuzuⓄ (名) 去年。「こそ」に対応する。

kuzuuⓄ (名) 九十。

kuzuuⓄ (名) 小僧。仏門の小僧をいう。

kwaⓄ (名) 過の意。数量・程度などが過ぎること。～ *natoon*. やり過ぎている。また、多過ぎる。 *zinnu singwan* ～ *sjoon*. 金が1000貫多過ぎる。

kwaⓄ (名) 桑。

kwaagiⓄ (名) 桑木。桑の木。

kwaaginumataⓄ (名) (桑木の股の意) *kwaaginusica* と同じ。

kwaaginusicaⓄ (感) (桑木の下) 桑原桑原。雷をおそれて唱えるまじないの文句。雷が桑の木に落ちて桑の枝にはさまれて死んだという伝説がある。 *kwaaginumata* ともいう。

kwaahusukuⓄ (名) 過不足。

kwaaninaaⓄ (名) おしゃれな者。

kwaaninⓄ (名) おしゃれ。服装や容貌を飾ること。官人の意か。～ *sjun*. おしゃれをする。

kwaanujumiⓄ (名) 子供が生まれた時、悪魔払いのまじないとして桑で作った小さい弓で矢を射る習俗があった。その桑の弓。

kwaanNkwaaNnuⓄ **nanamakai**Ⓞ (句) 食べない食べないと言っておきながら、七杯も食べる。食わずがらいで、食べてみれば大いに食べる。食べてみなければ好ききらいはわからないという場合にいう。

kwaanNkwaaNnuⓄ **nanamakajaa**Ⓞ (句) 食べない食べないと言っておきながら、七杯も食べる者。食わずがらいでいながら、食べてみて大いに食う者。

kwaarakwaaraⓄ (副) ごろごろ。雷の鳴る音。

kwaasiⓄ (名) 菓子。 *kwasi* ともいう。

kwaasijaaⓄ (名) 菓子屋。 *kwasija* ともいう。

kwaasjuN

kwaa=sjuN① (他 =saN, =ci) 両側からはさみ込む。かみ合わせる。はさんでくわえるようにさせる。

kwaa=sjuN① (他 =saN, =ci) ①食わせる。kwajuN (食う。kanuN の卑語) の使役形。(家畜・こじき・けんか相手などに) 食わせる。②くらわす。こうむらせる。baqi ~. 罰をくらわす。tiizikuN ~. 鉄拳をくらわす。

kwaa=sjuN① (他 =saN, =ci) くり出す。くり出して先へ送る。また、手送りにしてよこす。投げたり、地をころがしたりせずに、間にいる人の手を経て、よこす。'uu ~. 紙だこのひもをくり出す。kumaNkai kwaasee. 手づたいに、こっちへよこせ。

kwabii=jun① (自 =raN, =ti) 華美にする。ぜいたくにする。

kwacikwaei① (副) ぷんぷん。大いに立腹するさま。

kwacuu① (名) 短気。せっかち。「火急」に対応するものか。~na muN. せっかちな者。

kwagun①① (名) 過言。言い過ぎ。無礼なことば。

kwahuu① (名) 果報。幸運 (にめぐり合うこと)。単に huu ともいう。~nu ʔaN. 運がよい。~na muN. 果報者。

kwahwii① (名) [文] 威厳。

kwa=jun① (他 =aN, =ti) ①食う。kanuN (食べる) の卑語。(動物・こじき・けんか相手などが) 食う。②ばくちなどで、利益を得る。kwaarijuN. イ. 食われる。ロ. ばくちなどで、負けて金品を取られる。③(接尾)…しやがる。PicikwajuN (行きやがる), ciikwee (来やがれ), tuikweewa (取りやがれ) など。

kwamuci① (名) 料料。罰金。昔はむちを用いたのでいう。kwasiN と同じ。

kwanaN① (名) 火燵。火事の災難。

kwana① (名) 官。~nu kutu. おおやけの

こと。政府に属すること。

kwana-(接頭) 巻。kwannuʔici (巻の第一巻) など。

-kwana(接尾) 巻。書籍を数える接尾辞。ʔiqkwana (一卷) など。

-kwana(接尾) 貫。古くは銭1000文。明治以後は2銭を1貫(ʔiqkwana)とした。hjaqkwana (100貫。2円), singwana (1000貫。20円) など。zin (銭) の項参照。

kwana baku① (名) 棺箱。棺桶。首里では忌んで takaramuN ともいう。

kwana gwaraasjan① (形) 子供に甘い。盲愛している。

kwana hwaa① (名) 官話。標準中国語。中国へ留学する場合や、役人として派遣される場合にそなえて、ハイカラな青年達が勉強した。

kwana kwana① (副) 上品で威厳のあるさま。中年以上の男の、ゆったりとして立派なこと、福福しいことなどをいう。ʔunci ~. 顔が立派で威厳のあること。ʔunci ~tu hwizija tada miʔizi. お顔はご立派で、ひげはたった三本(歌の文句。ひげの少ないのをあざけたもの)。

kwana mucu① (名) 官費。留学・旅行などの費用を官側がもつこと。

kwana ni① (名) 官人。役人。「高給をとり、美しく着飾った、一般人のあこがれの的であるお役人」といった語感がある。kwana niN でもないくせに、着飾っている者という意味で, turankwanniN (取らぬ官人) という語がある。

kwana nu① (名) 観音。kwannundoo にある千手観音をいう。旅に出る時に必ず参拝した。

kwana nu neiku① (名) 観音竹。庭に栽培される矮小な竹で、幹の高さ50センチ内外。八重山の観音山の原産なのでこの名があるという説がある。

kwaNnuNdoon① (名) 観音堂。首里から那覇への出口にある。

kwaNsiN① (名) [冠船] ʔukwaNsiN と同じ。

kwaNsoo① (名) かんぞう(萱草)。わすれぐさ。花・葉・白い茎は食用となり、不眠症にきく。

kwaNtuN① (名) 広東。広州。

kwaNtuʔuʔi① (名) すいか。広東瓜の意か。

kwaNzimi① (名) [新] かんづめ。

kwaQcii① (名) ごちそう。「活計」に対応する語か。～ sjabira. ごちそうになります。～ sjabitaN. ごちそうさまでした。

kwaQciikwaQcii① (名) おいしいおいしい。おいしい意味の小兒語。

kwaQkwa=sjuN① (他 =saN, =ci) 隠す。

kwaQkwigutu① (名) 隠しごと。密事。秘密。

kwaQkwi=juN① (自 =raN, =ti) 隠れる。○雨宿りする。kwaQkwirasjuN. イ.かかまら。人を隠れさせる。ロ.雨宿りさせる。

kwaQkwimaʔai① (名) 逃げ隠れること。隠れ回ること。

kwaQkwindooree①* (名) kwaQkwintooruu と同じ。

kwaQkwintooruu① (名) 隠れんぼ。その時の用語は, tooi. (もういいかい), tooru. (もういいよ), ʔaaguuru. (鬼が隠れた者を見つけ出せない時にいう。降参) など。～ sjuN.

kwarakwara① (副) かんかん。日が強く照りつけるさま。tiida ~ tijun. 日がかんかん照る。

kwasi① (名) kwaasi と同じ。

kwasija① (名) kwaasijaa と同じ。

kwasiN① (名) 科料。罰金。科銭の意。kwamuci ともいう。～ hakijuN. 罰金を課する。

kwasiuuzi① (名) 甘蔗の一種。製糖用の甘蔗に似ているが、茎が太く汁が甘い。製糖

用にせず、盆に霊前に供えるのに使う。

kwasoo① (名) [新] 火葬。

kwasooba① (名) [新] 火葬場。

kwatakwata① (副) ぐつぐつ。ものの煮えたつ音。gwatagwata ともいう。

kwatii① (名) 道楽者。放蕩者。

kwazi① (名) 火事。

kwazimiimee① (名) kwazimimee と同じ。

kwazimimee① (名) 火事見舞い。

kwee① (名) こえ。こやし。肥料。

kwee① (名) 桑江。《地》参照。

kwee① (名) 鉄。

kweebutaa① (名) でぶ。肥大漢。kweetaa, kweetuu ともいう。

kweebuu① (名) 食にありつく果報。～ nu ʔa. 食にありつく果報がある。ごちそうの席に不意に來訪した人などをいう。-buu <huu (果報, 幸運)。

kweeci① (名) 病気が全快すること。「快気」に対応する。

kweeciʔuiwee① (名) kweeciʔujuwee と同じ。

kweeciʔujuwee① (名) 快気祝い。全快祝い。

kweedoori① (名) 食い倒れ。美食をして財産を失うこと。sjuineoo ciidoori, naahwaneco ~, tumaineoo siidoori. 首里の人は着倒れ, 那覇の人は食い倒れ, 泊の人は働き倒れ。

kweegweetu① (副) でっぷり。太っているさま。～ sjuon. でっぷりと太っている。

kweehoorii① (名) ①食い散らすこと。食い荒らすこと。②財産などの浪費。

kwee=juN① (自 =raN, =ti) ①(体が)太る。②(土地)が肥える。

kweekuci①① (名) 食費。食いぶち。～ ʔucikiree. 食費を出せ。

kweemuN① (名) 食いもの。食物。

kweena① (名) [こゑにや・くわいにや] 歌謡の一種。旅人の平安を祈るために、留守

kweeniibuu

家族・親類の女たちが集まって歌う長い歌。旅歌と訳されることがある。ʔuhuguʂi-kugweena, ʔuriziŋgweena などがある。ʔumuigweena といって、昔は祭式などの折に歌われた。ʔumui は「おもろ」の意。

kweeniibuu① (名) 肥びしゃく。

kweetaa① (名) 太った者。でぶ。kweetuu, kweebutaa ともいう。

kweeta'nda① ʔucun① (句) まるまると太っている。ぶくぶく太っている。-tanda は「たぶら」に対応する。ʔucun (打つ) には特に意味はない。

kweetee (名) 懐胎。妊娠。～ sjoon. 妊娠している。

kweetoo=sjun① (他 =saN, =ci) 食い倒す。(財産などを) 食いつぶす。

kweetuu① (名) kweetaa の愛称。でぶ。でぶちん。

kweeuukii① (名) 肥桶。肥たご。

kweeziraa① (名) 穀つぶし。食ってばかりいるなまけ者。

kweezirimun① (名) kweeziraa と同じ。

kwenkwen① (副) ①ゆらゆら。ちゃぶちゃぶ。運ぶ桶の水などがゆれるさま。②びっこを引くさま。guuni ～。びっこを引き引き。

kwii① (名) くい。地中に打ちこむ棒材。～ ʔucun. くいを打つ。

kwii① (名) ①声。～ tatijun. 声を立てる。②消息。次のように用いる。～ cicun. 消息を聞く。安否を尋ねる。その敬語は ʔuncuu 'uganun, 'waagan ～ cicutaŋdi ʔunnjukiti kwiri. わたしからもよろしくと言っていたと申し上げてくれ。ʔunzunu ～ cicabiitan. あなたによろしくとのことでした。

kwii① (名) 戸棚。たんす代わりに着物などを入れるためのもので、中に棚があり、戸を取り付けてある。作り付けのもの (siçi-

kigwii) と持ち運びできるものとあり、上を仏壇にしたものが多い。

kwiicaa=jun① (自 =raN, =ti) 強くかみ合う。(戸などが) かたくしめる。hasirunu kwiicaati ʔakan. 戸が強くしまつて開かない。

kwiicaa=sjun① (他 =saN, =ci) ①(齒を) 強くかみ合わせる。くいしばる。②(戸などを) 強くしめる。強くかみ合わせる。

kwiici=cun① (他 =kaN, =ci) 食いつく。かみつく。kwiicikijun ともいう。

kwiici=jun① (他 =raN, =qci) 食い切る。噛み切る。

kwiici=jun①(他 =raN, =qci) 密封する。味噌を作る時や漬け物をする時などに、空気がはいらないように密封する。

kwiiciki=jun① (他 =raN, =qci) 食いつく。かみつく。かじりつく。

kwiigaai① (名) 声変わり。

kwii=jun① (他 =raN, =ti) 越える。hasi ～。橋を越える。'NNzu ～。溝を越える。ʔujanu ʔwiikara ～。親の言うことを聞かない。親を何とも思わない。

kwiikaraa① (名) 声がかれること。また、かれた声。しわがれ声。また、しわがれ声の者。

kwiikuci① (名) (きせるなどの) 吸い口。

kwiimici=jun① (他 =raN, =ti) 閉めきる。(雨戸などを) すっかりしめる。

kwiimuuku① (名) 乞婦。娘の婿になってくれと所望すること。また、その婿。

kwiinu=zun① (他 =gan, =zi) 吸い出す。吸い出しごうやくがうみを吸い出す場合などをいう。

kwiirikwiiri① (副) きしきし。ぎいぎい。車など、物のきしむ音。～ sjun. ぎいぎいいう。

kwiiba=jun① (他 =raN, =ti) (黒砂糖・堅い菓子などを) かんで割る。

kwiiziki=jun① (自 =raN, =ti) ①しっかり

とせおう。Yuhwa ~. しっかりとおんぶする。⊖しょい込む。…からのがれられない。'janmee ~. 病気をしょい込む。

hwiNsuu ~. 貧乏からのがれられない。

kwiižukuiⓐ (名) こわづくり。ことさらにせきばらいなどして、そこに人がいることを知らせること。~ sjuN.

kwi=juNⓑ (他 =raN, =ti) くれる。与え

る。やる。また、(…して) やる。(…して) くれる。敬語は kwimišeEN (下さる), さらにその上は ʔutabimišeEN (賜わる)。また, ʔusjagijun(さしあげる)。ʔariNkai sjumuçi tiiči kwirana. 彼に本を一冊やろう。ʔuree 'wanninkai kwiri. それはわたしにくれ。ʔansi kwimišeebiree. そろして下さいませ。

ʔm

ʔmeNʂeeN① (自・不規則) いらっしゃる。
おいでになる。いる・行く・来るの敬語。
同等および目上に対して用いる。ʔimee-
N よりも丁寧であり、さらに丁寧には
ʔimeNʂeeN となる。meNʂeeN という平

民的発音もある。siNsiinu ʔmeNʂjoo-
coon. 先生がいらしている。ʔmeNʂeebi-
ree. いらっしゃいませ。kumaNkai ʔm-
eNʂjooree. こちらへいらっしゃい。

ma- (接頭) ⊕士族以上の男女の童名 ('warabinaa) につける美称の接頭辞。maja-matuu [真山戸] ('jamatuu という男の名を敬っていったもの), madamaçii [真玉津] (女の名), masanduu [真三郎] (男の名) など。⊖真。真の・純粹のなどの意を表わす。mahwiru (真昼), majunaka (真夜中)。maa-となることもある。maaziN (真きび, toonuciN に対する) など。

maaⓄ (名) ⊖どこ。~kai ʔicuga. どこへ行くか。~kaiga. どちらへ(歩いて行く人へのあいさつ)。~nu 'warabiga. どの子供か。~nu maŋgura. どの辺。~nu hwiN. どの辺。~ haiga. どれほどよいかわからぬ(卑語)。hai-<hajun. sibai 'NNdazijaka, ʔuqsaga sisi kamee ~ haiga. 芝居を見るより, それだけ肉を食った方がどれだけいいか知れない。⊖どなた。だれ(taa)の敬語。~ ʔujaNseebiiga. どなたでいらっしゃいますか。

-**maa** (接尾) 密にある意の接尾辞。kiimaa (毛深いこと, 毛深い人)。

maaʔandaⓄ (名) 種油。菜種油。

maaçiⓄ (名) 松。

maaçibaaⓄ (名) 松葉。面積の狭いもののたとえとなる。qecunu nasakee ~ niN çicinun. 人の情は松葉にも包む。情は物の量で計ることができない意。

maaçikasaaⓄ (名) 松かさ。松ぼっくり。

maaçinuʔandaⓄ (名) 松やに。松の幹から出る脂。

maaçuuⓄ (名) 松林。松原。

maadaⓄ (副) まだ。いまだ。naada ともいう。~ see neen. まだしてない。

maaduⓄ (名) 前(に)。…にならないうち(に)。…する前(に)。'juubanNu ~ nu kutu. 夕飯にならない前のこと。'Nnani kwiiru ~, ʔazi Qsi 'NNdee. 皆にあげる前に味見をしてみろ。

maagamaagaaⓄ (副) どこだどこだと。あわてて捜し回るさま。~ sjuN.

maaganaⓄ (名) どこか。~kai ʔicun. どこかに行く。~kai ʔicumi. どこかに行くのか。道などで目下に会ったときのあいさつ。~tigaroonakai ʔatandi ʔjuru hanasi. どことかいうところにあったという話。

maaguⓄ (名) 薬製のかご。女の下着・くず物・布切れなどを入れる。

maaguuⓄ (名) しわの寄った物。しわの寄った人。<magujun.

maaguuhwiiguuⓄ (副) しわくちや。しわだらけ。maguihwigui ともいう。~ sjoon. しわだらけである。

maaguuziraⓄ (名) しわだらけの顔。

maahaNdaaⓄ (名) どれにも合わないもの。使いものにならないもの。無用の長物。人についてもう。役立たず。

maahwanacaaⓄ (副) 仰向け。~ keerijun. 仰向けにひっくりかえる。~ natoon. 仰向けになっている。

maahwanacaaʔwiiziⓄ (名) 背泳。背泳ぎ。niNzaaʔwiizi ともいう。

maahwiNⓄ (名) どの辺。maanu hwiN ともいう。~ga. どの辺か。

maaʔisjaaⓄ (名) 黒色の堅い石。村の青年達が sasiʔisi (力だめしの石) にする。

maaiⓄ (名) まり。手まり。suutiicibukui (そてつ)の芯にある綿のようなものを中にして丸め, 糸糸で模様をつけて作る。

maai

～ YUCUN. まりをつく。

maai① ⊖(名) 回り。回ること。また、周
囲 (maaru)。⊖(接尾) …周。…回り。
tamaainu Yubinu mimai natoosa.

(やせて)二回りの帯が三回りになったよ。

maabeekuu② (名) ある地点へ行くのに左
右両方に分かれ、早く行き着く競争。

maainagiee③ (名) まりの投げあい。まり
投げ。

maaiYuceee④ (名) まりつき。女の子のす
る遊戯の名。～ sjun.

maa=jun① (自 =ran, =ti) ⊖回る。回転
する。また、(物の周囲を)回る。また、迂
回する。⊖行き渡る。全部に回る。⊖すっ
かり…の空気、…の状態となる。hwi-
zurukanzaa ~. (火の気または女気がな
くて) 寒寒とする。nacigataa maatoon.
今にも泣きそうになっている。gata maa-
toon. やがて(破局が)来ようとしている。
陶器が割れる寸前にある、人が捕われ
る寸前にある、などの俗な言い方。gata
は maasigataa (死にそう), Yamihui-
gataa (雨が降りそう) などの接尾辞 -ga-
taa (そう) を単語にして使ったもの。
Yanguu hwiQpati YaQeusiiga, gata
maatoon doo. あれだけ派手にしていた
が、もう破産しそうになっているぞ。

maajuuii② (名) 髪の毛の結い方の一種。丸
髷。簡単に丸く結うだけのもの。女・元服
前の少年、服喪中、急ぐ時の一時的処置な
どの結い方。元服前の土族の少年のそれ
には Ysirii ともいう。

maaku③ (名) 幕。maku ともいう。

maakuma'aku④ (副) ⊕うまそうに。お
いしそうに。niizamundu 'jašiga ~ ka-
nagiisa. まずいものなのに、うまそう
に食べているよ。⊖いい食べ物を食べるさ
ま。munoo ~ kadi kuŋci cikiri 'joo.
いいものを食べて体力をつけなさいよ。

maakuqsa⑤ (名) うんと。たんと。たく

さん。相当の量。あまり上品でない語。
maakusa ともいう。普通には Yuhooku
という。～nu Qcu. たくさんの人。～ Ya-
N. うんとある。

maakusa① (名) maakuqsa と同じ。

maakwaa② (名) ⊖袖の長い、たけの短い
中国風の上着。男用。結びボタンがついて
いる。中国語「馬褂」の借用語。女用のもの
は dinkwaa という。⊖*明治以後、袖の
長いシャツをも言った。

maamadin③ (副) どこまでも。あくまで
も。

maami④ (名) ⊖豆。普通は大豆をいう。
⊖腎臓。形が似ているのでいう。

maamigaa⑤ (名) 豆の皮。大豆の皮。

maamigan⑥ (名) あずきで作った羊羹。

maamigaraa⑦ (名) 豆のから。大豆のから。
大豆の実を取り去ったあとの枝や茎。

maamina⑧ (名) もやし。豆のもやし。?oo-
maamii で作る。

maaminacanpuruu⑨ (名) 料理名。もやし
の油いため。

maaminakuu⑩ (名) きなこ。大豆を炒つ
て粉にしたもの。

maamusubii⑪ (名) 真結び。こま結び。玉
結び。

maamutii⑫ (名) どの方向。どの方角。～
Nkai 'Nkaasjuga. どの方角へ向けるか。

maani⑬ (名) 植物名。くろつぐ。高さは3
メートルくらいになり、葉・茎ともに長い。
若芽は食用になり、幹の繊維は網の材料
となる。茎を子供が刀のおもちゃにする。

maanu⑭ ⊖(連体) どの。maa の項参
照。⊖(感) なんの。とんでもない。“ku-
nu saraa 'Jaaga 'watara 'jaa.” “～,
'wannee saain sandee.” 「この皿はおま
えが割ったろうね。」 「とんでもない、わ
たしはさわりもしないよ。」

maankwiin⑮ (副) どこもかも。どこもか

- しこも。～ nicoon. どこもかも似ている。
- maaʔoohwaa**Ⓞ (名) 植物名。のげし。はるののげし。けしあざみ。野生の草だが、野菜の代用になる。
- maarikaa**Ⓞ (名) どの辺。
- maaru**Ⓞ (名) ㊦回り。周囲。maai ともいう。'jaanu ～。家の周囲。㊦番。順番。'waamaaru. わたしの番。
- maaruu**Ⓞ (名) 順番に回ること。順番制。ʔweekke ～。富は順ぐりに回って来るもの。
- maaruugurusi**Ⓞ (名) 袋だたき。大勢で一人をなぐること。
- maasamuN**Ⓞ (名) うまいもの。おいしい食べ物。
- maasan**Ⓞ (形) うまい。おいしい。女は丁寧には ʔunsiraasjan という。
- maasigataa**Ⓞ (名) 死にそう。死にかかっていること。瀕死。sinigataa は主として動物についていう。～nu qcu. 死にそうな人。～ najuru hudu 'utatootaN. 死にそうなほど疲れていた。
- maasju**Ⓞ (名) 塩。食塩。
- maasjumizi**Ⓞ (名) 塩水。はらい清める時に使う。葬式の帰りなどに戸口で塩水をふりかけてから中にはいる。
- maa=sjuN**Ⓞ (他 =saN, =ci) 回す。回転させる。また、次から次へ回す。ただし maasjuN (死ぬ) の語感をさけるため、migurassjuN を多く使う。
- maa=sjuN**Ⓞ (自・不規則) 死ぬ。なくなる。sinuN よりも丁寧な語で、sinuN は多く動物についていう。
- maasjutacaa**Ⓞ (名) 塩たき。製塩。製塩のため海水を煮つめること。また、塩をたく人。製塩業者。～ sjun. 塩たきをする。
- maasjuʔujaa** (名) 塩売り。塩商人。多く泊の前島の女が売り歩いた。
- maatagaataa**Ⓞ (名) 肩車。股肩の意。那
- 騾では buututukwaan という。
- maataku**Ⓞ (名) 竹の一種。だいさんちく。りょくちく。高さ10メートル近くにもなる最も普通の竹。たけのこは食用、幹は竿・建築用材などにする。
- maaumaa'u**Ⓞ (副) にゃあにゃあ。猫の鳴き声。
- maauu**Ⓞ (名) 猫の小児語。
- maauu**Ⓞ (名) まお(真芋)。からむし。麻の一種。夏物の上等の麻衣にする。
- maaza**Ⓞ (名) 真喜屋。《地》参照。
- maazaa**Ⓞ (名) あばた。痘痕。また、あばたのある人。中国語から来たものか。
- curagasa kakati** ～ natooN. 天然痘にかかってあばたになっている。
- maazi**Ⓞ (名) 真和志。《地》参照。
- maazi**Ⓞ (名) 赤土質の土壌。
- maazi**Ⓞ (接尾) [真地] 王の使用する馬場の意か。teeramaazi (平良馬場), sicinamaazi (識名馬場) の二か所がある。
- maazimu**Ⓞ (名) mazimu と同じ。
- maazinuhwi'ra**Ⓞ (名) 真和志之平等。《地》参照。
- maaziN**Ⓞ (名) 黍。きみ。
- mabui**Ⓞ (名) 魂。靈魂。生きている人の魂をいう。死者の霊は tamasii という。～nu 'Nkatooteesa. 魂が向かっていたのだ。噂している人が来た場合にいう。噂をすれば影。～ nugijun. たまげる。驚いて魂がぬける。～ nugasjun ともいう。
- mabui**Ⓞ (名) 摩文仁。《地》参照。
- mabuigumi**Ⓞ (名) 魂をこめることの意。mabuiʔuti をして人の体から離れた魂をふたたび体にこめること。また、そのための祈願。ごちそうと本人の着物を、魂が落ちた現場へ持って行き、その着物の中に魂を招き入れて持って帰り、本人にごちそうを食べさせると同時に、その着物を着せる。ごちそうの膳には小石三個を置き、茶

mabuiʔuti

碗に一杯水を用意して、ごちそうを食べる前に、mabujaa mabujaa ʔuuti kuu ʔjoo, ʔuhumee ʔatumee kwira ʔjaa. (魂, 魂, ついて来い。大きな大きなめしをやるぞ)と言って、その水 (ʔubii という)をひたいに指で三度つける。

mabuiʔutiⓄ (名) 魂が抜ける病気。魂が体から抜け落ちること。怪しい物を見たり、転んで驚いたりした時などに起きる。病気のように元気がなくなり、衰弱して、ほうっておくと死に至ることもあるというので、mabuigumi をして元にもどす。

mabuiwakasiⓄ (名) ⊖生きている人の魂と死んだ人の魂とがいっしょに遊んだりすると(多く子供にある)、生きた人の魂があの世に連れ去られることがあるというので、それらの魂を引き分けるために祈禱を行なう。その祈禱をいう。⊖人の死後四十九日の夜に、死んだ人の魂と家族の魂とを引き分けるために ʔjuta (巫女)を呼んで行なう祈禱。その祈禱を行なうことを ʔunnujuta ʔisijun ともいう。

mabujaaⓄ (名) mabui と同じ。

mabujaauuⓄ (名) 子供の着物の背に付ける飾り。もとは七色の糸で房を作って付けたが、のちには布切れでハート型を作って付けるようになった。

macaa=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) 取り巻く。たかる。群れ集まる。kibusinu ~. 煙が取り巻く。

maciⓄ (名) 市 (いち)。商品の種類によって、huruzimaci (古着市), ʔijumaci (魚市), tuimaci (鶏の市), ʔwaagwaamacaci (豚の子の市), ʔNmumaci (さつまいの市), ʔwaasjaamacaci (肉市), ʔibujamacaci (瀬戸物市) などがあり、季節によって buNmaci (盆市), siwaasimaci (師走市), sjoogwaʔimaci (正月市) などがある。~kai ʔicuN. 市へ(売りにまた

は買いに)行く。単に市場へ行く意では macinumee kai ʔicuN という。

maciⓄ (名) ⊖つむじ。また、そのほか人・馬などの毛のうず。つむじは一つあるもの (tiʔimacaa) より、二つあるもの (taacimacaa) の方が、一癖あるものとされ、男の子は喜ぶ。⊖相撲の手の名。首投げ。相手の首に手を巻いて倒す手。~ ʔicuN. 相手をあおむけにたたきつける。

maciʔaka=sju`NⓄ (他 =saN, =ci) [文] 待ち明かす。待って夜を明かす。

maçibaraNⓄ (名) maçiraN と同じ。

macibataⓄ (名) ⊖市場のほitori。市のそば。⊖首里では町名となった。町端。《地》参照。macibatancunu nidujuuban. 町端の人の二度夕飯。町端の人は ʔjusa ndimaci (宵市) に上等の魚が出ると、夕飯をすましたあとでも、また魚を買って二度も夕飯を食べたという。

maçibuiⓄ (名) 男女の離れられない関係。まつわりつきの意。

maçibu=juNⓄ (自 =raN, =ti) ⊖からみつく。巻きつく。⊖(子が母に)まつわりつく。つきまとう。また、(男女が)からみ合う。

macicaⓄ (名) 機の付属具の名。おまき。ちきり。経糸を巻く芯にするもの。

maçidanⓄ (名) maçiraN と同じ。

maçigaaⓄ (名) 松川。《地》参照。

maciga=juNⓄ (他 =raN, =ti) ⊖間違り。macigeejuN ともいうが、macigeejuN は那覇語か。⊖あやまつ。道義にそむく。

maciganeⓄ (名) 市場使用料。市に使う土地の使用料。

macigasiraⓄ (名) 市の商品の筆頭。市で一番立派な品。たとえば西瓜の出るころ、市で一番大きく一番値段の高い西瓜。

macigeeⓄ (名) 間違い。過失。失敗。~. ごめんなさい。失礼。人の足を踏んだ時などに目下にいう。目上には ~ deebiru.

- (ごめん下さいませ。失礼いたしました。) という。
- macigeegutu**④ (名) (道徳的に) 間違ったこと。
- macigee=juN**④ (他 =raN, =ti) 間違える。macigajuN ともいう。その項参照。
- maçigi**④ (名) まつ毛。kiramaa miijuşiga maçigee miiran. 慶良間島は見えるが、まつ毛は見えない。灯台もと暗し。また、自分の非は見えにくい。
- macihoo=ju`N**④ (他 =raN, =ti) まき散らす。
- macija**④ (名) ①店。商店。店舗をかまえて売る店。②(接尾) …店。…屋。kumimacija (米屋), tabakumacija (煙草店), ʔasizamacija (はき物店), sjumuçimacija (書店) など。
- macijagwaa**④ (名) 小店。小さい店。
- maçijani**④ (名) 松やに。maaçinuʔanda と同じ。
- maçi=juN**④ (他 =raN, =ti) (祖先・死んだ人) を祀る。
- maçikazi**④ (名) 菓子の名。松風。米の粉に砂糖を加え、平たく延ばして結んだもの。胡麻などを入れて風味をよくする。主として祝賀用。
- macimaai**④ (名) 町回り。芝居の役者が繰出で人力車に乗り、広告して回ること。
- macimudui**④ (名) 市場帰り。首里・那覇などの市に売りに出て、あるいは何か買っていたの帰り。
- maçimutu**④ (名) 松本。《地》参照。
- macinagesa**④ (名) 待ちどおしいこと。hjakuşe narumadija macinagesa ʔamunu, hanazakariʔucini matan ʔugama. [百歳なるまでや 待ち長さあもの花盛りうちに またも拝ま] あの世界まで待つのは待ち遠しいから、若いうちにまたお会いしましょう。
- macinatu**④ (名) 牧港。《地》参照。
- maçinuhwa**④ (名) [文] 松葉。面積が狭いものたもとえとなる。hutari ʔjaru ʔwedaja ~ni sudaci, namaja basjunuhwan ʔibaku natosa. [二人やる間や松の葉に育ち 今や芭蕉の葉も いばくなとさ] 夫婦二人の間は松葉のように狭い家に育ち、子孫がふえた今では芭蕉の葉のような広い家も狭くなった。
- macinumee**④ (名) 市場。市 (maci) のある所。
- maçiran**④ (名) 植物名。風蘭。松・赤木 (ʔakagi) などに寄生する蘭科の常緑草本。葉は細長く、花は黄または白で香氣がある。maçidan, maçibaran ともいう。
- maçiri**④ (名) まつり。祖先の祭祀。
- macisi**④ (名) 牧志。《地》参照。
- macisoozi**④ (名) 市 (maci) の掃除。
- macisoozii**④ (名) 市場掃除人。
- maciʔuki=ju`N**④ (他 =raN, =ti) 待ち受ける。待ちかまえる。
- maciwara**④ (名) 巻藁。唐手の練習のため、短い柱に藁を巻きつけたもの。こぶしで突く練習をするためのもの。
- ma=cuN**④ (他 =taN, =qci) 待つ。macuganaasi maqcin kuuntaN. 待てるだけ待っても来なかった。
- ma=cuN**④ (他 =kaN, =ci) 蒔く。播種する。
- ma=cuN**④ (他 =kaN, =ci) 巻く。うずを巻く。また、円筒形に巻く。
- madanbasi**④ (名) 真玉橋。《地》参照。
- ma^(r)di** (助) まで。到達点(場所・時間など)を示す。kuma~ kuuwa. ここまで来い。koogu magajuru~ ʔicicoon. 腰が曲がるまで生きている。ʔariga cuuru~ maqcookee. 彼が来るまで待っている。
- madii** (接尾) 失って惑う意を表わす接尾辞。ʔujamadii (親を失うこと), ʔjaamadii (家を失うこと), ʔiicimadii (窒息) など。
- madoo=cuN**④ (自 =kaN, =ci) ①(かたづ

madookijun

いて) あき間ができる。⊖(仕事がかたづいて) 暇になる。madocoomi. 暇か。

madooki=junⓄ (他 =ran, =ti) ⊖(整理して) あき間を作る。⊖(仕事をかたづけて) 暇を作る。tiigi tiigi madookiti hwima natan. 一つ一つかたづけて暇になった。

maduⓄ (名) ⊖あき間。すき間。すいている空間。⊖すいている時間。仕事のあいま。すき。暇。～'jami. 暇か。～'jaraa, Yicutaa tanuma. 暇だったらちょっと頼もう。⊖人の見ないすき。kuhwadisanu Yucici madumadudu tijuru, 'jusumi ~ hakati sinudi Yimori. [くはでさのお月 まどまどと照ゆる 与所目まどはかてしのでいまうれ] kuhwadiisi (植物名)を通して照る月の光はあちこちしか照らない。他人の目にもすきがあるから、すきをぬすんで忍んでいっちゃい。Ⓞ平素。平生。不断。ふつうの時。Yaşibi-busja Yatın ~ni Yaşibarimi, sjujuiti-nzanasi Yuiwe 'jakutu. [遊びほしやあても まどに遊ばれめ 首里天加那志 御祝やこと] 歌ったり踊ったりして遊びたくても、不断は遊べようか。きょうは國王様のお祝いだからこうして楽しく遊べる。～nu 'jurarijaaja YaşibiYicunasa. 不断なまけている者は、遊びの時になるとかえて忙しい。

madumaduⓄ (名) ⊖暇暇(に)。暇を見て。tuisigutunu ~ja hananu YiruYiru çukuti nagami, mata Yutandee 'judi kuraci 'ujabiitan. [とり仕事のまどまどや 花の色々作て眺め 又歌もだいで暮ち居やべいたん (花売之縁)] 仕事の暇暇にはいろいろの花を作って眺め、また歌などをよんで暮らしていました。～du najusa. 暇暇にしかできない。⊖すき間すき間。maduの例文参照。

madunaNkaⓄ (名) 死後七日目ごとに四十九日まで行なう法事のうち、haçinaNka

(初なのか)、miranKa (三なのか)、saN-zuugunici (五なのか)、siNzuukunici(四十九日)以外の日。間のなのかの意。madunaNka の法事は近親のみで軽く営む。

madunumuNⓄ (名) 間食。

magaiⓄ (名) ⊖彎曲(したものを)。⊖湾。

magaiGUIⓄ (名) 曲がり口。曲がり角。

magaihi'guiⓄ (副) 曲がりくねったさま。くねくね。

magajaaⓄ (名) 曲がり道。道路の大きく曲がっているところ。おお曲がり。

magajaahwigujaaⓄ (副) 曲がりくねったさま。くねくね。

maga=junⓄ (自 =ran, =ti) ⊖曲がる。⊖かがむ。屈する。⊖屈服する。屈従する。YucinaaNeu 'jatin namaa magatee 'uraN doo. 沖縄人だっても屈従してはいないぞ。Ⓞ道理にはずれる。心がねじける。

magaraⓄ (名) [間柄] 血縁関係(のある者)。続きあい。親類。～nu 'umi. 血縁の者がいるか。caaru ~ga. どんなつながりか。

magaruuhwigaruuⓄ (名) 曲がりくねったもの。また、心のひねくれた者。

magaruuhwiguruuⓄ (名) magaruuhwigaruu と同じ。

magiⓄ (名) 鬻(まげ)。男子が頭に結う鬻。Yiqkwanmagi は髪結い賃が2銭の鬻。

magiⓄ (名) 曲げ物。食物を入れる木製の丸い容器。

magigwiiⓄ (名) 大声。

magiiⓄ (名) ⊖大きい物。大きい者。gumaa の対。⊖相撲の強い者。その出身部落の名を冠している。

magi=junⓄ (他 =ran, =ti) 曲げる。

magimagiituⓄ (副) 大きく。太く。nuzumee ~ mucuru mun. 希望は大きく持つべきもの。

magisaNⓄ (形) 大きい。太いの意でも用い

る。Ticaru magisa. 言ったことの大きさよ。大言する者を嘲笑していうことば。

magui①(名) しわ。

maguihwi'gui①(副) しわくちや。しわだらけ。magujaahwigujaa, maaguuhwii-guu などともいう。

maguikaa①(副) しわくちや。しわの寄ったさま。～sjooru ciN. しわくちやの着物。

maguizira①(名) しわくちやの顔。また、ひげのない顔。

magujaahwigu'jaa①(副) maguihwiguiと同じ。

magu=juN①(自 =raN, =ti) (皮膚・着物・紙などに) しわが寄る。また、しわが寄って縮まる。

magukuru①(名) [文] 真心。

maguraa①(名) なまくら。刃物・きり・針などの刃や先がにぶったもの。

maguraa①(名) magurimuNと同じ。

maguri=juN①(自 =raN, =ti) ⊖しわになる。しわくちやになる。⊖(紙のはし・着物のえり・刀先などが) めくれる。(刀が) なる。

maguri=juN①(自 =raN, =ti) 道義がなく。義理をわきまえない。

magurimuN①(名) 義理をわきまえない者。わからずや。借りた金を返さない者などという。maguraaともいう。

mahu①(名) [文] 真帆。二本マストの船で、大きい主要な帆のことか。～hwikiba kazija matumuni ?Nmahwiçizi. [真帆引けば 風やまともに 午未(上り口説)] 真帆を引くと風は南々西の順風。

mahuqkwa①(名) 暑い真昼。照りつける夏の昼間。～nu doocuuja kasanu neeNdaree naraN. 暑いまっ昼間は傘なしでは歩けない。

mahuu①(名) 魔法。魔術。

mahwee①(名) 真南。karajaçizi nubuti

mahwe 'Nkati miriba, simanuradu mijuru satuja miranu. [瓦屋つちのぼて 真南向かて見れば 島の浦と見ゆる 里や見らぬ] 瓦屋(那覇に近い地名)の丘の上に登って真南の方を見ると、村のかげは見えるが、恋人は見えない。

mahwiru①(名) 真昼。?akarahwiruともいう。

mai①(名) 競技の場合、故障が出て一時中止すること。野球などのタイムというのに似ている。～sjun. タイムにする。namaa ~'jan. 今はタイムだ。

maiciraka=sju'N①(他 =saN, =ci) (くそを) たれ散らす。

majaa①(名) 猫。上品には majuuともいう。

majaagu'ci①(名) 猫舌。

majaasarigutu①(名) 魔がさして起こした事。

majaa=sjuN①(他 =saN, =ci) 惑わす。魔力で人を迷わす。majaasarijun. 惑わされる。魔がさす。立派な身分の人が欲に目がくらんで罪を犯した場合、また、変死の場合などという。

majaazikuku①(名) みみずく。<majaa(猫) + çikuku(ふくろう)。

maju①(名) 眉。

majugii①(名) 眉毛。

majunaka①(名) 真夜中。

ma=juN①(他 =raN, =ti) (大便を) する。まる。那覇では大小便両方についていう。kusu ~. 大便をする。くそまる。下層の者などが大便するのをいう。首里ではふつうは huru 'ijun(便所にすわる)といい、上流の婦人は ?ura tacun(裏に立つ)という。

majuu①(名) 猫。majaaの上品な語。

makaabutuki①(名) nioobutukiの項参照。

makabi①(名) 真壁。(地) 参照。

makabi

makabiⓄ (名) 真嘉比。〔地〕参照。

makaiⓄ (名) ①飯あるいは汁を盛る椀。どんぶり。普通は陶製。主として労働者、農民など下層階級が用いる。天目茶碗のように大きく、すり鉢形をしている。上品には doogu という。②〔接尾〕飯などを makai に盛った数を示す。cumakai(一杯), tamakai(二杯)など。上流は cucawaN, tacawaN と数える。

makaneeⓄ (名) まかない。食事を提供すること。また、提供された食事。

makaneejaaⓄ (名) 軽食堂。

makaNduNciⓄ (名) [真壁殿内] sjuumi-tuNci [首里三殿内] の一つ。maazinuhwira [真和志之平等] の ?ansirari [あもしられ] のいる神の宮。

maki① (名) 負け。勝負に負けること。また複合語に humicimaki (曇さまけ、夏やせ), ?urusimaki (うるしにかぶれること), hazimaki (はぜの木にかぶれること) など。

maki?ikusa① (名) 負けいくさ。

maki=juN① (自 =raN, =ti) (勝負に) 負ける。商品の値を引くことは 'jašimijun, hwicuN などという。

makuⓄ (名) 幕。maaku ともいう。

maku① (名) 腕白。勇猛な者。乱暴者。また、大したやつ。相当な者。有能な者。多くは餓鬼大将・乱暴者・喧嘩の達者な者などをいうが、競争で一等になった者・学力優等で一番になった者などをもいうことがある。?uumaku, ?anmaku, šitimaku などともいう。

makabuⓄ (名) 魚名。鯛に類する上等な魚。tamaN とならんで珍重される。

makugaNⓄ (名) maqkwagwaN と同じ。

makutuⓄ (名) ①誠。誠実。正直。律義。~na muN. 律義者。正直なお人よし。②真実。本当。~ka 'ja žicika, 'wazimu huriburitu nižami ?udurucinu 'jumi-

nu kukuci. [誠かや実か わ肝ほればれと寝覚め驚きの 夢の心地] 本当のことなのだろうか、わたしの心は茫然として、夢からさめて驚いたときの気持ちちがする。子を失った時の歌。

mamaⓄ (名) ①まま。?unu ~. そのまま。qkwanu ?juru ~. 子の言うまま。②通り。niNzinu sjuru ~ saarun sjun. 人間のする通りに猿もする。③〔接尾〕言うなりになる意。'utumama (夫の言うなり), tuzimama (妻の言うなり) など。

mama① (名) 一緒。共。qkwatoo maa-madiN ~. 子とはどこまでも一緒。?icigu ~tumuti ?ikatareN sjašiga. [一期ままとて い語りひもしやすが] 一生涯一緒になると思っ恋も語ったが。

mama-〔接頭〕まま(継)。血縁のない親子、兄弟姉妹の関係を意味する。mama-?uja (まま親), mamaqkwa (まま子), mamacoodee (腹ちがいの兄弟姉妹) など。

mamami① (名) [文] あずき。元來は豆の美称か。口語は ?akamaami. ?ucimamitu ~ 'wa?Nmagwani kekwaci, ?ašibinanu kažini šidaci ?nzira. [打豆と真豆 我馬小にけ食はち 遊び庭の数に すだち出ちら (伊江島の打豆節)] うち豆 (豆の種類の名か) と真豆をわが愛馬に食わせて、馬の競技のたびに着飾って出場しよう。

inamaqkwaa=sjuN① (他 =saN, =ci) babaqkwaasjuN と同じ。mamiqkwaasjuN ともいう。

mamikuⓄ (名) 植物名。まみく。くすのはかえでの一種。落葉喬木。

mamiqkwaa=sjuN① (他 =saN, =ci) babaqkwaasjuN と同じ。mamaqkwaasjuN ともいう。

mami=zuN① (他 =gaN, =zi) とり違える。間違える。?uruku timigušiku kacinu-

hana mimura mimuranu ʔangwataga surutooti nunuʔuibanasi ʔaja mamiguna ʔjoo mutu kanzUN doo. [小祿 豊見城 垣花三村 三村のあんぐわたが揃として布織り話 あやまめぐなより 元かんちゆんどう (三村踊節)] 小祿, 豊見城, 垣の花の三つの村の娘たちがうち揃って布織り話をしている。話に夢中になって綿糸の数をまちがえるなよ。もとがとれなくなるぞ。

mamuiⓄ (名) ⊖守ること。守り。守護。防備。⊖(規則などを)守ること。遵守。～nu ʔaru qcu. 道徳家。

mamu=juNⓄ (他 =ran, =ti) ⊖守る。守護する。防衛する。見守る。⊖(規則などを)守る。ʔujanu ʔjusigutu ～. 親の教訓を守る。

mamukooⓄ (名) 真むこう。正面。

mamuNⓄ (名) [真物] 神。または, 神の霊力のついた偉人。

maneeⓄ* (副) 時には。まれには。～ʔunna kutun ʔan. 時にはそんなこともある。

maniⓄ (名) まね。模倣。手本にして模倣すること。動作表情などのまねは neebi という。sinssiinu ～ ʔukitooN. 先生のものを見習って受け取っている。

maniⓄ* (副) もし。kan siini, ～ʔariga ʔan sjuʃee caa sjuga. こうした時に、もし彼がああしたらどうするか。

mani=cuNⓄ (他 =kan, =ci) [文] 招く。manucun ともいう。

manisiⓄ (名) 真北。北。

manuciⓄ (名) 織機の部品の名。地機で hjaa (あぜ糸) を引っ張るために足にかけて引くもの。

manu=cuNⓄ (他 =kan, =ci) [文] mani-cun と同じ。

manukuⓄ (名) 眉間。また, まゆね。～cicaasjuN. まゆを寄せる。(心配事の時な

どに) まゆをひそめる。

manⓄ (名) つむぎ。つむぎ糸で織った絹布。

manⓄ (名) 万。多数の意にもなる。

manburiⓄ (名) 首ったけ。まる惚れの意。

maNcaahwi'NcaaⓄ (副) まぞこぞ。ごたまぞ。雑多に入り混じったさま。kumitu muzitu ～. 米と麦とまぞこぞ。

man=cuNⓄ (自 =kan, =ci) 混じる。入り混じる。混入する。

mandaciⓄ (名) しっかりと抱くこと。抱きしめること。

mandamasiⓄ (名) 魂全体の意。次の句でいう。～nugijuN. びっくり仰天する。おったまげる。tamasi nugijuN を強めた俗語。

mandeeⓄ (名) 万代。いつまでも。長い年数。

mandoo=NⓄ (自 =ti) (持続態のみを用いる。また, 否定の意では ʔikirasAN, neenなどを多く用いる。) たくさんある。たくさんいる。hananu ～. 花がたくさんある。mandooru zin ʔikaandin san. たくさんある金を使おうともしない。zinnu mandooinee maasamun kanun. 金がたくさんある時にはうまい物を食う。

maNguraⓄ (名) あたり(辺)。おおよその場所を示す。ʔanu ～. あの辺。gaqkoonu ～. 学校のあたり。maanu ～nakai ʔaga. どの辺にあるか。

maNguruⓄ ⊖(名) ころ。おおよその時を示す。ʔiçinu ～. いつごろ。gugwaçinu ～. 五月ごろ。⊖(接尾)ころ。ʔiçiman-guru (いつごろ), guNgwaçiman-guru (五月ごろ), ʔjunakamaNguru (夜中ごろ) など。

maNgwa=sjuNⓄ (他 =san, =ci) 惑わす。まぎらわす。maNgwasaqtoon. 惑わされている。ʔari maNgwaci turasa. 彼を惑わしてやろう。

maNgiwi

maNgiwi①(名) うろたえること。気が転倒すること。～ Yucun. 気が転倒する。(驚きや悲しみで) どうしてよいかわからなくなる。

maNgiwi=jun①(自 =raN, =ti) うろたえる。惑わされる。どうしてよいかわからなくなる。

maN'ici①(名) 万一。

maNki=jun①(他 =raN, =ti) (多くのものに少しのものを) 混ぜる。混入させる。

maNkuu'sju①(名) 糸満の人たちのことを皮肉にいう語。maNkuu [満子] は糸満(地名)の男に多い名前。

maNmaN①(名) まんま。飯の小児語。

maNmaru①(名) まん丸。完全な丸。

maNna①(名) 満名。《地》参照。

maNna=jun①(他 =raN, =ti) のろう。他に災害のあるように祈る。

maNnaka①(名) まん中。中央。

maNnai①(名) 万人。また、たくさんの人。

maNnai①(名) 万年。また、多くの年月。

maNnuun①(名) 丸飲み。かまわずに飲み込むこと。～ sjuN.

maNrici①(名) 万力。家の柱など重量のあるものを持ち上げるのに使う大工道具。

maNsaazi①(名) つむぎで作った saazi (ターバンのように頭に巻くもの)。

maNsaku①(名) [文] [満作] 満作。豊作。

maNsa①(名) [満産] 子供が生まれて七日目の夜、親類縁者が集まってする祝い。うぶたちの祝い。七夜の祝い。

maNtakii①(副) maqtakii と同じ。

maNwataNsu①(名) maNwataziN と同じ。'Nsu は cin (着物)の敬語。

maNwataziN①(名) つむぎで作った礼服。maNwataNsu ともいう。

maNzaabusi①(名) 宵の明星。金星。'juu-baNmaNzaa (夕飯をうらやむ者の意)の略。

maNzai①(名) [万歳] ⊖ conDaraa と同

じ。その項参照。⊖ 舞踊の名。takadeeramanZai [高平万歳] (能の望月に似たもの) と 'jeezinu ~ [八重瀬万歳] の二種がある。

maN=zuun①(他 =daN, =ti) ⊖ ほしそりに見る。うらやましそりに見守る。ʔinnu sisi maNtaNnee. 犬が肉をほしそりに見ているように。⊖ 見守る。miimanZuN ともいう。

maNzuu①(名) まんじゅう。首里では 'jamaguşikumanZuu (山城まんじゅう) が学生などに喜ばれ、那覇では tinpinumeemanZuu (天妃前まんじゅう) が子供たちに喜ばれた。祭祀や法事などには hanagatamanZuu (花型まんじゅう) が用いられ、普通のまんじゅうは子供の進級祝い、誕生祝いなどにも使われた。

maNzuuii①(名) ババア。果実は美味で、腎臓病の薬にもなる。

maŋciiru①(副) 真黄色(に)。～ sjuuru hana. 真黄色な花。

maŋciiruu①(名) 真黄色のもの。

maŋqizi①(名) 頂上。てっぺん。

maŋkaara①(副) 真赤(に)。～ sjuuru hana. 真赤な花。çiranu ~ nati. 顔が真赤になって。

maŋkaaraa①(名) 真赤なもの。

maŋkoo①(名) 植物の名。はりつるまき。米粒ほどの実がなる灌木で、観賞用として鉢に栽培される。

maŋkuuru①(副) 真黒(に)。tinnu ~ nati ʔami hutaN. 空が真黒になって雨が降った。

maŋkuuruu①(名) 真黒なもの。

maŋkwa①(名) ⊖ 枕。kiimaŋkwa (木枕), toomaŋkwa (唐枕) などがある。⊖ 土台・基礎とするもの。また、手本。kuri ~ Qsi çukuree. これを手本にして作れ。～ sjuN. イ。枕にする。ロ。土台にする。ハ。手本にする。

maqwabakuⓄ (名) ⊕枕の一種。枕箱。
上面が正方形の箱形の枕で、中に引き出し
があり、くしなどを入れる。⊖枕箱。枕を
入れる箱。

maqwagwanⓄ (名) 枕上。枕もと。ma-
kugan ともいう。ʔaqizii (寝た時の足も
と)の対。

maqsaciⓄ (名) まっ先。

maqsiguⓄ* (副) まっすぐ。～ sjoorun。
まっすぐな。～na. [新?] まっすぐな。

maqsiguuⓄ* (名) ⊖まっすぐな物。⊖単
純な人。真正直な者。

maqsiraⓄ (副) 真白(に)。～ sacoon。
真白に咲いている。

maqsiraaⓄ (名) 真白なもの。

maqsisiⓄ (名) 赤肉。脂肪のまじってない
赤身の精肉。masisi ともいう。

maqtaciⓄ (名) そっくり。～ nicoon。
まったくよく似ている。ʔaqcijoonu ~
ʔjan. 歩き方がそっくりだ。～nu mun.
よく似ている者。

maqtakiiⓄ (副) 全部。まるまる。そっく
り。mantakii ともいう。～ kwitan. 全
部やった。

maqtakuuⓄ (名) 紙だこの一種。十字の骨
に紙を張った、簡単な紙だこ。maqtaraa
ともいう。形がころもりに似ているので、
那覇では kaabujaa という。

maqtaraaⓄ (名) ⊖つばめ。⊖maqtakuu
と同じ。

maqteemaaⓄ (名) まん丸いもの。

maqteenⓄ (副) まん丸く。まるまると。
mii ~ najun. 驚いて目がまん丸くな
る。duunu ~ sjoon. 体がまるまると
太っている。

maqtoobaⓄ (副) まっすぐ。一直線。また、
正しいさま。～ sjoon. まっすぐである。

maqtoobaaⓄ (名) ⊖まっすぐなもの。⊖
単純な人。馬鹿正直な者。

maraⓄ (名) 陰茎。

mariⓄ (名) まれ。～ni. まれに。duqtu
～na kutu. 大変まれなこと。

marimariⓄ (名) まれ。～na kutu. まれ
なこと。～du ʔjaru. まれである。まれに
しかない。

marineeⓄ (連体) まれな。～ mun. まれ
な物。～ qcu. まれな(偉い)人。

maruⓄ ⊖(名) まる。円。円形。⊖(接頭)
イ。円形のもの意。marubun (丸盆),
maruʔuzin (丸い御膳)など。ロ. 全体・
すっかりなどの意。maruʔnzasi (まる出
し)など。

marubaiⓄ (名) まる出し。まるあき。陰部
などを露出すること。

marubiimaⓄ (名) 丸い模様のかすり。

marubunⓄ (名) 丸盆。丸い盆。

marucaⓄ (名) まないた。

marucizinⓄ (名) まとまった金。大金。

maru-cunⓄ (他 =kan, =ci) 支配する。
治める。国家・家などを統一して采配をふ
る。

maruhadakaⓄ (名) まる裸。全裸。

marukeetiⓄ (名) まれ(に)。たま(に)。
～ou ʔaru kutu. たまにある。たまに
しかないこと。“meenici ʔicumi.” “～du
ʔicuru.” 「毎日行くか。」「たまにしか行か
ない。」～nu sugai. たまのおしやれ。

marumaruuuⓄ (副) すっかり。まるまる。
一つ残らず。～ ʔwasiti. すっかり忘れて。

marumi=junⓄ (他 =ran, =ti) ⊖丸める。
丸くする。円形・球形にする。⊖他人を意
のままに従わせる。心服させる。意のままに
にする。marumiraqtoon. 意のままにな
る。心から信服している場合をいい、丸め
こまれる意ではない。

marumuNⓄ (名) [岡の物・岡の者] ⊖組
踊り(kumiudu)の岡にはさむ狂言。組
踊りの筋を運ぶ助けをする喜劇風の部分。
また、それを演ずる役者。その部分のせり
ふには口語が用いられる。独立した狂言

は coogiN という。⊖ 転じて、おどけ者。

maru=nuN⊙ (自 =maN, =di) ⊖ (月などが)丸くなる。⊖まとまる。円満に治まる。çicisirunu mamui şidakasanu mamun mikazi tiriwatati kunija marumu. [月代の守り 勢高さの真物 美影照り渡して 国やまるむ] 月代のやしろの守りである気高い偉人尚巴志王は、その姿が照り輝いて、国はよく治まる。尚巴志王の三山統一を歌った歌。

maru?Nzasi⊙ (名) まる出し。

marusaN⊙ (形) 丸い。円形または球形である。

maru?uziN⊙ (名) 丸膳。丸い御膳。

maruu⊙ (名) 丸い物。円形・球形のもの。

masagagutu⊙ (副) 案の定。予期の通り。はたして。～ zici natoon. 案の定その通りになった。

masai⊙ (名) まさっていること。すぐれていること。masai?uturui. 優劣。

masa=juN⊙ (自 =raN, =ti) まさる。すぐれる。masaru ?icasa. [文] 人がすぐれていることを快く思わないこと。

masakai⊙ (名) 真っ盛り。全盛。青年男女・花などの全盛時をいう。

masasjan⊙ (形) 靈験がある。靈験あらたかである。masasja ?waamişeen. 靈験あらたかでいらせられる。

masi⊙ (名) [文] 竹や木で密で作った垣。ませ垣。?ju?aki sirasiratu niwanu masi?ucini çiju kamiti sacuru hananu curasa. [夜明しらしらと 庭のませ内に 露かみて咲きゆる 花の清らさ] 夜が白々と明けるころ、庭のませ垣の中に露をいただいて咲いている花の美しさよ。kuinu ~ banti sjuru munuja ?aran, dezisarami ?wamija ?isuzi nugira. [恋のませ番手 しゆるものやあらぬ 大事さらめわ身や 急ぎぬげら (手水之縁)]

恋の邪魔するませ垣となって番人をするものではない。大変なことになるだろうから急いで逃げよう。

masi⊙ (名) まし。一方よりまさること。一方よりよいこと。?arijaka ~. あれよりいい。naahwin ~na kutunu ?ami. もっといいことがあるか。

-**masi** (接尾) まち (町)。田の枚数を数える時の接尾辞。cumasi (田一枚), tamasi (田二枚), ?ikumasi (田何枚) など。畑を数える時には -ciri という。

maşi⊙ (名) 柘目。柘で計る量。～nu ?aN. 柘目がある。柘で計って量がある。

masici⊙ (名) 真志喜。《地》参照。

masigaci⊙ (名) [文] ませ垣。masi と同じ。

masisi⊙ (名) maqsisi と同じ。

masukagami⊙ (名) [文] [増鏡] 和歌に用いられる語を借用したもの。?ujubaran-tumiba ?umui ~, kazijacon ?uçuci ?ugamibusjanu. [及ばらぬとめば 思増鏡 影やちよん映ち 挿みほしやの] 及ばないと思うと、思いは増すばかり。せめて面影だけでも映して見たいもの。

mata⊙ (名) 股。ももとももの間。また、木の枝のまた。

mata- (接頭) 全き。完全な。matamun (完全なもの), hanakakizaarunu matazaru 'warajun. (鼻欠け猿が完全な猿を笑う。)など。

mata⊙ ⊖ (接続) また。taruun kaci, ~ziruun kacun. 太郎も書き、また、次郎も書き。⊖ (副) イ。また。再び。～kuu ?joo, またおいで。ロ。また。kurin ~ ?agijabira. これもまたあげましょう。

matabasi⊙ (名) またぐら。またの間。

matabasigoojaku⊙ (名) 二股膏薬。両方につき、去就の一定しないこと。

matadumeei⊙ (名) 再婚。再度妻をめとること。女の側からは matamuci という。-dumeei < tumeejun.

matagarasi① (名) 又貸し。
mataʒicuku① (名) 再従兄弟姉妹。またい
 とこ。ふたいとこ。両方の親がいとこ同志
 である子の関係。
matamuci① (名) 再婚。再度夫を持つこ
 と。女の場合にいう。男の場合は mata-
 dumeei という。muci < mucuN。
matamuN① (名) 完全なもの。無きずの
 物。
mataniibici① (名) 再婚。女の場合を多く
 いう。
matanui① (名) 馬乗り。またがって乗る
 こと。片方に両足を揃えて乗る女の乗り方
 は subanui という。
mataʒnmaga① (名) ひまご。曾孫。
matankaa① (名) 真向かい。真正面。ま
 とも。tankaa は正面。
matasan① (形) 全しの意。完全である。
 かけたところがない。matasii mun. Ⅰ.
 完全なもの。ロ。信頼のおける人。
matu① (名) 的。目標。めあて。
matuma=juN① (自 =raN, =ti) ①[文] 統
 治される。一つに支配される。①[新] 統
 一する。(意見などが) まとまる。
matumi=juN① (他 =raN, =ti) ①[文] 統
 治する。すべる。一つに支配する。①[新]
 統一する。(話などを) まとめる。
matumu① (名) 舟のとももの方向。また、
 その方向から吹く風。順風。mahu hwi-
 kiba kazija ~ni ʒnmahwiʒizi. [真帆
 引けば 風やまともに 午末(上り口説)]
 帆を引くと風は南々西の順風。
mawasi① (名) [文] ふんどし。口語では
 sanazi または hadoobi という。
maza① (名) 真喜屋。《地》参照。
maza① (名) 真謝。《地》参照。
mazee① (副) まず。まずは。mazi と同じ
 ように用いる。~'judi 'NNda. まず説
 んでみよう。
mazi① (副) ①まず。はじめに。~'wa-

Nkara qsi 'NNda. まず、わたしからやっ
 てみよう。①しばらく。~ mati. しばら
 く待て。
mazi=juN① (他 =raN, =ti) 混ぜる。
mazikina① (名) 真境名。《地》参照。
mazikuN① (名) 魚名。鯛の一種。'juna-
 barumazikuN は美味で、第一等の魚。
mazimu① (名) 正直な心。正直な人。ma-
 azimu ともいう。
mazimuN① (名) 魔物。化物。精。種類の
 自然物に宿る精をいう。kiimazimuN は
 木の精。
mazi=nuN① (自 =maN, =di) 積む。積み重
 ねる。積み上げる。ʒisi ~. 石を積み上げ
 る。ʒweekiNcunu 'jaanee ziNnu ma-
 zimaqtoon. 金持ちの家には金が積み上
 げられている。
maziN① (名) ʒNnimaziN (いなむら) と
 同じ。<mazinun。
 -maziN (接尾) 束。稲・たきぎなど、束ねた
 もの・積み上げたものを数える時にいう。
 cumaziN(一束), tamaziN(二束) など。
maziri① [間切] ①(名) 市町村制以前の行
 政区画の単位。現行行政区画の村にはほ
 相当する。もと、按司地頭(ʒazizituu)、
 惣地頭(suuzituu)の領した采邑で、はじめ
 は境界の意であったものが転じたもの。
 英祖王の時、検地を行ない間切制を定め、
 課税を画一にした。地頭は首里に住むよ
 うになり、かわりに土地の豪族などを地
 頭代(zitudee)とし、間切を統治させた。
 地頭代は明治になって間切長(maziricoo)
 という名に変わった。明治41年に間切制
 は廃され、間切は市町村制による村とな
 った。①(接尾) 間切の名につけ、または
 間切を数える時の接尾辞。nagumaziri
 (名 謔間切), cumaziri(一 間切) など。
maziri① (名) [文] あるだけ。すべて。一
 切。全体。もと境界の意だが、転じて一
 方は間切となり、他方で全体、残らずなどの

maziricoo

意となったものと思われる。ʔumaŋcu-nu ~ ʔauzi 'ugama. [御真人のまぎり仰ぎ拜ま] 人民全体で仰いで拜もう。

maziricoo① (名) [新] [間切長] maziri (間切)の項参照。

maziri=juN① (自 =raN, =ti) 混ざる。混じる。

maziri=juN① (自 =raN, =ti) まぎれる。見分けがつかなくなる。

mazirimuN① (名) 混ぜもの。混ぜるもの。米が不足の時に混ぜる麦など。

maziwai① (名) 交わり。付き合い。交際。

maziwa=juN① (自 =raN, =ti) 交わる。交際する。つきあう。交叉する意には使わず、かわりに ʔazijun という。

mazuN① (名) 一緒(に)。共(に)。~ ʔjatan. 一緒だった。~nu qcu. 一緒の人。ʔjaqciitu ~ ʔicuN. 兄と一緒に行く。

mazuun① (名) mazun と同じ。

medei① (名) [文] [美公事・みおやだいら] 王府への御奉公。ʔweedai よりさらに上の敬語。

medeigutu① (名) [文] 王府への御奉公。すなわち、公務。公用。~ ʔatuti sjuini nuburu. 御奉公のことがあって首里にのぼる。

mee (名) ①前。前方。また、そば・近く、…のある所などの意もある。~ nasjun. 前にする。前に置く。また、そばに置く。gaqkoonu ~. 学校の前。また、学校のある所。ʔaree qkwa ~ nacoomi. 彼は子供と一緒に暮らしているか。②前。以前。時間についている。~uti. 前に。③前のもの。陰部。~ hajun. 陰部をあらわす。

mee① (名) 行くこと・来ること・居ることの目下の年長に対する敬語。~nu najumi. おいでになれるか。moorarijumi というのと同じ。

mee① (名) 前。《地》参照。

mee① (名) 飯。米の飯をいう。農民の用い

る語。さつまいもが常食であったので、ごちそうの意を含んでいる。くしゃみをした時、はたから kusu kwee. (くそ食え) と言ってからかわれるが、その時 mookiti ~ kwee. (もうけて米の飯を食え) と言いつ返す。

mee-(接頭) 尊敬の意を表わす接頭辞。meewikiga (殿方), meewinagu (淑女) など。

mee-(接頭) 毎。meenin (毎年), meenici (毎日) など。

-mee(接尾) [前] 様。尊敬の意を表わす接尾辞。ʔusjuganasiimee [御主加那志前] (国王様), ʔazimee [按司前] (按司様), ʔajaamee (奥様), satunusimee [里之子前] (里之子様), ʔjacimee (ぼっちゃま) など。

-mee(接尾) 持ち前。割り当ての分。mucimee (持ち前。負担すべき分), ʔukuimee (無尽で定期的に償還すべき金), kakimee (掛け前。無尽で定期的に出すべき掛け金), ʔiciniNmee (食物などの一人前) など。

-mee(接尾) 枚。着物・紙などを数えるときの接尾辞。ʔicimee (一枚), ninmee (二枚) など。

meeʔagai① (名) meegai (増長) と同じ。

meeʔaga=juN① (自 =raN, =ti) meegajun と同じ。

meeʔasa① (名) 毎朝。

meeba① (名) meebaa と同じ。

meebaa① (名) 前歯。

meebaN① (名) 順番が早いこと。順位がよいこと。

meebaree① (名) 前払い。前金。

meebisja① (名) 前足。四つ足のものの前足。

meecaa① (名) 農村で女の用いるふんどし。

meecaasanazi① (名) 越中ふんどし。sanaazi は男のふんどし。形が女の meecaa

に似ているのでいう。

meeçiNtaⓄ (名) つんのめること。前にのめること。

meedaⓄ (名) 前田。《地》参照。

meedaⓄ (名) 真栄田。《地》参照。

meedeeraⓄ (名) 真栄平。《地》参照。

meedimaⓄ (名) 賃金 (tima) の前払い。

meegaaⓄ (名) 前川。《地》参照。

meegaiⓄ (名) 前借り。賃金を前もって借りること。

meegaiⓄ (名) 増長。横柄にすること。meeʔagai ともいう。

meega=juNⓄ (自 =raN, =ti) 増長する。横柄にふるまう。meeʔagajuN ともいう。

meegakiⓄ (名) ⊖相撲の手。足を前の方からかけて倒す術。⊖転じて、前もって駄目を押すこと。警告。~ ʔirijuN. 前もって警告する。

meeganikuⓄ (名) 前兼久。《地》参照。

meegaNtaaⓄ (名) 前髪が伸びて乱れた者。

meegaNtuⓄ (名) 前髪。前髪が長くて目立つのはあまり上品でないといわれるので、kaNtu (髪 of 卑語) という。

meegasiⓄ (名) (賃金などの) 前貸し。

meegiramaⓄ (名) [前慶良間] 渡嘉敷 (tukasici) 間切の別称。

meeguciⓄ (名) 家の表口。家の前面。おもて。

meegusaⓄ (名) 織機の付属具の名。経糸を巻き板に巻く時にはさむ細い棒。両端が布幅より 2~3 センチぐらいずつ長く、両端の経糸がずり落ちるのを防ぐ。はたくさ。

meehabaⓄ (名) 着物の前みごろの幅。前幅。

meehanaziⓄ (名) 子供が大人の前をはしゃいで行くこと。~ sjuN.

meehwiⓄ (名) 前日。期日の前の日。

meejuijuiⓄ (名) 前に寄ろう寄ろうとすること。出しゃばろうとすること。meenainai ともいう。

mee=juNⓄ (自 =raN, =ti) 燃える。

meejuruⓄ (名) 毎夜。毎晩。

meekanijoozooⓄ (名) 病気の予防。前もって体に注意し養生すること。

meekanitiⓄ (名) あらかじめ。前もって。~uti ともいう。~(uti) ʔicooke masi ʔjataru mun. 前もって言っておけばよかったのに。~nu kukurugaki. 前もっての心掛け。

meekatakasiraⓄ (名) katakasira [欵髻] を結った時の髪形で、前方に結ったもの。おかしく愚鈍に見える。按司 (ʔazi) など身分の高い貴族は金の重い kamisasi (かんざし) を用いるので、自然前になる傾きがあり、それは重重しくも見えるが、身分の低い士族が、重くもない銀の kamisasi を用いて前方に結るとかえってこっけいに見える。

meekatakasiraaⓄ (名) katakasira を前寄りに結った者。律義者。融通のきかない者。しゃれけのない者。ぬけ作。~ ʔuu-ʔwaakarajaa. まぬけの能なし。ʔuu-ʔwaakarajaa (豚の種付け業者) も能のない者の代表とされている。

meemeeⓄ (名) 御飯の小兒語。まんま。

meemeeⓄ (名) 前前。~kara tanudeetan. 前前から頼んであった。

meemeeguujaaⓄ (名) さざえの殻。子供の用いる語。

meemooiⓄ (名) ⊖行列の前に立って舞いながら行くこと。式典・催し物が行なわれる際などに見受けられる。⊖子供が親の前をはしゃいで踊って行くこと。~ sjuN.

meemuciⓄ (名) ʔuduN [御殿], tuNci [殿内] の中の、男のいる部屋。ʔuucibara に対する。

meenaaⓄ (名) 綿羊。羊。

meenaahwiizaaⓄ (名) meenaa と同じ。hwiizaa は山羊。

meenainaiⓄ (名) 出しゃばること。前にな

meenici

- ろうならうとすること。duku ~nu şizi-ti. あまり出しゃばりが過ぎて。~ şjuna. 出しゃばるな。
- meenici**① (名) 毎日。
- meenin**① (名) 毎年。
- meenubagai**① (名) ①前に伸び上がること。また、危険なところに顔を出すこと。危険なものをのぞき込むこと。②出しゃばること。~ şjUN.
- meenuçici**① (名) 前月。
- meenui**① (名) 地機で、布を織る前に糸にのりをつけること。糸が、けばだたないようにして織りやすくするため。
- meenujaa**① (名) 離れ座敷。ʔasjagi ともいう。その項参照。
- meeN**① (自・不規則) いる・行く・来るの平民の年長に対する敬語。おられる。行かれる。来られる。
- meesaa**① (名) へつらう者。おべっか使い。
- meesi**① (名) 箸。首里・那覇では多くは ʔumeesi という。
- meesi**① (名) お世辞。おべっか。へつらい。~ taramici. お世辞たらたら。
- mee=şjUN**① (他 =saN, =ci) 燃やす。
- meesuba**① (名) 着物の前すそ。つま。
- meeʔuubii**① (名) 帯を前に結ぶこと。前帯。沖縄の習俗として、女は帯をしないが、労働をする女が細い帯をしめる時には前で結ぶ。男も髪を結っていた時代には、みな帯を前で結んだ。
- meewikiga**① (名) 殿方。mee- は敬意を表わす接頭辞。
- meewinagu**① (名) 淑女。御婦人。mee- は敬意を表わす接頭辞。
- meezatu**① (名) 真栄里。《地》参照。
- meezi**① (名) 毎月。
- meezii**① (名) [前地] 伊是名島 (ʔizina) をいう。
- meeziN**① (名) 前金。品物を受け取る前に代金を払うこと。また、その金。
- meezira**① (名) (家などの) 前面。前がわ。
- meezu**① (名) 開き戸。舞戸。
- menumenuu**① (感) 山羊を呼ぶ声。
- meNşeen**① (自・不規則) ʔmeNşeeN の平民的発音。
- mi-**(接頭) 三。mikeen (三回), mihwani (三羽), miqcai (三人) など。
- mi-**(接頭) [美] 御(み)。御(おん)。尊敬の接頭辞。mi- がつかず、'N- がつく語もある。'N-の項参照。mihwisja (おみ足), mihwizi (御ひげ), mikusi (御腰), mizita (御下駄), miʔuubi (御帯) など。
- mi**(接尾) ①目。順序を表わす。ʔjudumi (四度目), rukudeemi (六代目) など。②匆。もんめの略。hjakumi (100 匆), hjakurukuzuumi (160 匆) など。
- mibiçin**① (名) biçin (紙入れ・財布) の敬語。お財布。
- mibuN**① (名) 身分。階級。
- mica**① (名) [文] miqca の文語。
- micaai**① (名) 三分すること。三つ割り。また、三切れ。~Nkai şjUN. 三つ割りにする。
- micaa=juN**① (自 =raN, =ti) 癒着する。miijaaşjUN と同じ。
- mici**① (名) ①道。道路。②人の行なりべき道。また、方法。③(接尾) 道。また方法。qkwanasimicee siçi sudatimicee siran. 子の産み方は知っていて、育て方は知らない。
- miçi**① (名) 蜜。花の蜜。
- miçiba**① (名) 野菜の名。みつば。
- micibaqpee**① (名) 道を間違えること。道に迷うこと。
- micibata**① (名) 道ばた。路傍。
- micibi=cuN**① (他 =kaN, =ci) [文] 導く。口語では sooti ʔicuN (連れて行く), naraaşjUN (指導する) などという。
- miçibusi**① (名) (オリオン座の) 三つ星。
- micigujaa**① (名) 道が三方に分かれる所。

三つ角。三叉路。
micigwaa①(名)小道。
micihwizami①(名)道路をへだてること。家などが道をへだてて向き合うこと。
micijun①(他 =raN, =ti) 閉ざす。(戸・ふたなどを)閉める。hasiru ~. 雨戸を閉める。
micijun①(他 =raN, =ti) 満たす。mitasjun ともいう。満ちるは micuN という。kaami ~. かめを満たす。
micijurari①(名)道草を食うこと。
miçiki①(名)㊦鑑定。見立て。品物・人物などを見分けること。㊦診断。㊦見込み。~nu taqcoon. 見込みが立っている。将来性がある。
miçikicigee①(名)見込み違い。見立ての誤り。誤診。
micikumi=ju①(他 =raN, =ti) 閉じ込める。
micimaa①(名)遊戯(の道具)の名。十六武蔵。
micimaku①(名)[道幕]貴族の葬式の際、婦人の行列は両側を幕でかこんで進む。その幕。
micinaka①(名)途中。道中。~ga 'jajura kurusariga sicara. [道中がやゆら殺されがしちやら(手水之縁)]まだ引かれて行く途中であらうか、もう殺されてしまったらうか。
micinakara①(名)中途。なかば。nakaramici ともいう。
micinusima①(名)十島(土噶喇列島)と奄美群島。薩摩への道の島の意。
miçingwa①(名)三つ子。三歳の子。物の道理をわきまえぬ小兒。三生児は miçiuu という。
micisiba①(名)[文]道ばたの草。ʔasamasija hwicui ʔumuikugarituti, ~nu çijutu tumuni cihatiti, ʔiNmajunu ʔiziki najuratumba. [浅間しや一人

思焦れとて 道柴の露と 共に消え果てて 犬猫のえじき なゆらとめば(花壳之縁)] なさけないことよ。ひとりで思いこがれながら、路傍の露と消え果てて、犬猫のえじきになるかと思うと。
micisigara①(名)道すがら。道中。道のついで。satume huni ʔukuti muduru ~, huran naçigurini 'wasudi nuraci. [里前船送て 戻る道すがら 降らぬ夏ぐれに 我袖ぬらち] 愛する男の船を送って 帰る道すがら、夏の雨に会ったわけではないのにわが袖をぬらした。~'jataN. 道のついでだった。
micisju①(名)満潮。hwisini 'uru tuija ~ ʔuramijui, 'wamija ʔakaçicinu tuidu ʔuramu. [干瀬に居る鳥や 満潮恨みゆい 我身や暁の 鳥ど恨む] 潮の引いた岩の上にいる鳥は満潮を恨んでいるが、わたしはあかつきを告げる鳥を恨む。
micizuci①(名)馬による散歩。馬の遠乗り。
micizuta①(名)[道歌]俚謡の一種。いなかの道を行きながら歌う歌。たとえば、次のようなもの。mutubu nacizinaga 'jaidu kaiga kurawa, kutuba 'jahwajahwatu muduci 'jarasi. [本部今帰仁なが 宿借りが来らは 言葉やはやはと 戻ちやらせ] 本部や今帰仁の者が宿を借りに来たたら、乱暴者だからことばやさしくことわってやれ。nagukaraja hanizi ʔizasi- caja ʔiciri, mazaganikumadija nirinu çimui. [名護からや羽地 伊差川や一里 真喜屋兼久までや 二里のつもり] 名護からだと羽地の伊差川までは一里、真喜屋の馬場までは二里とされている。
miçiwai①(名)miçiwai と同じ。
miçizi①(名)ふくさ。進物・神仏へのお供え物の上にかける、小さい四角の絹の布。çizi(頂)に mi-(敬意の辞頭辞)のついた形か。

miciziri

miciziri① (名) 道連れ。道中を連れだって行く人。

micizukui① (名) 道普請。道路工事。

micu① (名) mitu と同じ。

micukuru① (名) 御三人。miqcai の敬語。mitukuru, ꞑumicukuru ともいう。

mi=cuN① (自 =taN, =qci) 満ちる。いっぱいになる。充滿する。mitaN karakaraa 'joon'eigukuru. 中身のいっぱいない酒瓶(内容のない人間)はかえってそうぞろしい。miqci ꞑamajun. 身走る。満ちて余る意。

-mi=cuN (接尾 =kaN, =ci) 擬声語・擬態語について、…という音を出す、…という状態になるなどの意を表わす。…めく。'jutamicuN (ゆらめく), dakumicuN (どきどきする, ときめく) など。

midari① (名) (秩序・規律などの) 乱れ。'Nzari の項参照。

midari=jun① (自 =raN, =ti) (秩序・規律などが) 乱れる。'Nzarijun の項参照。

midarijuu① (名) 乱世。

midukuru① (名) 見どころ。miidukuru と同じ。

miduri① (名) 芽。草木の芽。枝から出る芽。また、種子から出る芽。~ sacuN. (草木の) 芽が出る。

miduruma① (名) 目取真。《地》参照。

migaci① (名) 銘。刀・鐘・位牌などの銘。

migataci① (名) めがたき(女敵)。恋がたき。

migawai① (名) 身代わり。

migui① (名) 「めぐり」に対応する。⊖ 周囲。まわり。⊖ 回転。また、金の回転・事業の経営・食物の消化など。⊖ (接尾) 周。めぐり。まわり。cumigui (一周) など。

miguiduuruu① (名) まわり燈籠。走馬燈。盆と正月 16 日に用いる。

miguijanzi① (名) 金の回転・事業の経営などの失敗。

miguimun① (名) 働き者。活動家。

migu=jun① (自 =raN, =ti) ⊖ めぐる。回る。回転する・周囲を回る・角を曲がる・方々を回るなど。⊖ 立ち寄る。ちょっと寄る。

migumi① (名) [文] 恵み。'jutakanaru mijunu sirusi ꞑarawariti ꞑamiçijunu ~ tucin taganu. [豊なる御世の しるしあらはれて 雨露のめぐみ 時もたがぬ] 豊かな御世のしるしがあらわれて、雨露の恵みも時節をたがえない。

migura=sjun① (他 =saN, =ci) migujun の使役の形。めぐらす。回す。また、金などを回転させる。maasjun (回す) は maasjun (死ぬ) と同音なので、忌んで migurasjun を多く用いる。

miguruNtooruu① (名) 小児の遊戯の名。敏速に体を回して倒れない方が勝ち。

migurusaN① (形) 見苦しい。みっともない。miigurisaN ともいう。

migutu① (名) 見事。すぐれて立派なこと。'ugaNgutu はその敬語。cimukukuruN ~ ni muqci, hataracigataN siguku zobunna 'utuku 'jajabiitašiga. [肝心も見事に持つち 働き方も至極上分な男ややべいたすが(花売之縁)] 心も立派に持ち、働き方もいたってよい男でありましたが。

mihuN① (名) [新] 見本。もとは tihun といった。

mihusi① (名) 星の敬語。星は尊いものとされていた。人にはおのおのの命となる星があって、それが落ちると死ぬとされる。

mihwira① (名) [三平等] sjuimihwira の項参照。

mihwiruma① (名) mihwirumaꞑubun と同じ。

mihwirumaꞑubun① (名) お昼御飯。hwi-rumamun (昼飯, その項参照) の丁寧語。

mihwisja① (名) おみ足。足の敬語。

mihwizi① (名) 御ひげ。ひげの敬語。

mii④ (感) みい。みっつ。声を出して教える時にのみいう。

mii④ (名) ①目。～ hajun. (驚いて、またあきれて) 目を見張る。～ huracun. 目を開く。～ hwiqceerasjun. 目を回す。気絶する。～ kuhwajun. 目がさめる。また、眠られなくなる。～ kuujun. 目を閉じる。見まいとする。また、死ぬ。～ maqteen najun. (驚いて) 目をまん丸くする。～ mugeejun. 見ていてむかむかど腹が立つ。～ ni kwijun. (わがままなどの度が過ぎて) 目に余る。～ nu hwee yuuri. 目の蠅を追え。人をかれこれ言わずに自分のことをせよ。～ nu kweejun. 目が肥える。鑑識力が増す。～ nu moojun. 見ていて腹が立つ。～ N siru naci 'warajun. 目がなくなるほど目を細めて笑う。～ N tuza najun. 目に角立てて怒る。～ N hujagirun. 目を上げて見ようともしない。無視する。また、恥じて顔も上げられない。また、疲れ切っても動かせない。～ tu hana. 目と鼻 (の間)。きわめて近い所。～ tu hanabana ともいう。～ tu 'intaki. 目と同じ高さ。また、子が成長して親と同じくらいになること。～ tu 'intaki naree, kirookunoo sjuru munoc 'arun. 子が大きくなったら (目と同じ高さになったら), とやかくごことを言うものではない。②穴。貫通した穴を多くいう。'isigacinu ～. 石垣のすきまの穴。haainu ～. 針の目。針のめど。hasirunu ～kara sjuumi sjun. 雨戸の穴からのぞき見する。③欠点。欠陥。また、会計上の欠損。また、手落ち。～ 'acun. イ。穴があく。ロ。会計・仕事などに、欠損・手落ちが生じる。ハ。期日などに間に合わずに恥をかく。～ kwaasjun. イ。穴を埋める。ロ。会計の穴を埋める。また、間に合わせの処置をする。～ nu yuhusan. 欠点(手落ち)が多い。④刻み目。目盛り。

gubanun ～. 碁盤の目。hakainu ～. はかりの目盛り。⑤境遇。立場。'janamii haqcakati. いやな目に会って。'iraran ～Nkai 'iqci. 恥ずかしい目に会って。困った目に会って。⑥めえっ。叱ることの小児語。目を見ろの意。子供をにらんで叱る時にいう。～ sjun. 「めえっ」と言っで叱る。⑦(接尾) …目。順番を表わす。taaçimii (ふたつ目), sanbanmii (三番目), gunicimii (五日目) など。

mii④ (名) ①中。間。物体・群衆などの、中。'uhookunu qcunu ～Nkai 'iqcin 'uziran. 大勢の人の中に入っても怖じない。mizinumii. 水の中。'ncanumii. 土の中。②間 (ま)。時間についていう。nuunu ～niga çicaga. いつの間に着いたか。

mii④ (名) ①実。中身。内容。実質。～ nu 'ijun. 実が入る。みのる。～ nu 'iqcoon. 実が入っている。中身が充実している。～ nu 'ijuru naaka kubi 'uuriri. みのるほど頭を低くたれよ。立派になるほど謙遜せよ。～ nasjun. 物にする。実のあるものにする。完成させる。～ najun. 物になる。完成する。②汁の中に入れる実。③[新] 実。果実。元来は nai という。

mii④ (名) 命 (めい)。運命。'unu ～ 'jateesa. そういふ運命だったのだ。人が死んだ時などにあきらめて言うことば。

mii④ (名) いっぱい。kaaminu ～ mizi kunun. かめにいっぱい水を汲む。'watanu ～ kanun. 腹いっぱい食べる。

mii④ (名) 巳。十二支の第六位。方角なら東南や南寄り、時刻なら午前10時ころ。

mii④ (名) [文] 姪。

mii- (接頭) 新しい意を表わす接頭辞。mii-zin (新しい着物), miizin (新しい銭), miijaa (新しい家), mii-zoo (新しい門) など。

mii- (接頭) 牝。めすの。mii'usi (牝牛),

miigaara (雌瓦) など。

miiʔaa=sju^N (他 =saN, =ci) 見比べる。
比較対照する。

miiʔati=ju^N (他 =raN, =ti) 見つける。
見つけ出す。namanee tasikani miiʔa-
titaN. 今はたしかに見つけた。

miiba (名) 見かけ。みば。外見。~too
naameemec. 見かけとは反対だ。

miibaaraa (名) 目のあらい竹かご。目か
ご。鶏を飼う場合などに用いる。~qsi
tui ʔusujuN. 目かごを鶏にかぶせる。

miibai (名) 魚名。目張(めばる)。飛び
出た大きな目をしている。miibaju と
もいう。ʔakamiibai, kurumiibai の兩種
がある。

miibaju (名) miibai と同じ。

miibaqpee (名) 見間違い。見誤り。

miibukuruu (名) 目がはれぼったいこ
と。(泣いたあとなどで) まぶたがはれる
こと。また、そのような目をした人。

miiburi (名) ほれぼれと見ること。見と
れること。

miibusihqkwa (名) miibukuruu と
同じ。

miicaasiri^{caa} (名) 知り合い。日ごろ知
り合っている間柄。~nu muN. 知り合い
の者。

miicakuN **neen** (句) みっともない。
見苦しい。

miiçi (名) みっつ。三。また、三歳。
ʔikuçiN ~N. いくつも。たくさん。

miici=ju^N (他 =raN, =qci) 見切る。見
限る。見捨てる。miicirarijuN. 見捨て
られる。

miiçiki=ju^N (他 =raN, =ti) 見つける。
見いだす。miiʔatijuN ともいう。

miiçiki=ju^N (他 =raN, =ti) 見つめる。

miiciraa (名) まぶたに傷あとのある者。
南国特有のもので、暑さのためまぶたには
れ物ができ、その傷あとのために、まぶた

が切れ、眠っている時も薄目をあいている
ように見える。miicirii ともいう。

miicirii (名) miiciraa と同じ。

miiçitiçi (名) 三分の一。

miiçiwai (名) 三つ割り。三分。micaai,
miciwai ともいう。

miiciwami=ju^N (他 =raN, =ti) 見きわ
める。

miiçuu (名) 三つ子。三生児。三歳の子
の意では miçiNgwa という。

miida=cuN (自 =taN, =qci) 目立つ。

miidaii (名) 目じり、あるいはまぶたが
垂れ下がった者。下がり目。miidaçjaa と
もいう。

miidajaa (名) miidaii と同じ。

miidarusaN (形) 目がだるい。目が疲れ
てだるい。

miidui (名) めんどり。~nu ʔutaree
'jaku. めんどりが時を告げたら厄がある。

miidukuru (名) 見どころ。見る価値の
あるよいところ。

miidusi (名) 新年。

miiduusaN (形) 久しく会わない。久し
ぶりである。miiduusa. お久しゅう。
しばらく。久しく会わなかった目下への
あいさつ。目上へは 'ugançuusa と
いう。

miigaa (名) まぶた。目の皮の意。~
hwiçkunun. (疲労して) まぶたがひっこ
む。~ ʔukurijuN. (元気が回復して) ま
ぶたが盛りあがる。

miigaa (名) 植物名。みょうが。

miigaara (名) 雌瓦。'uugaara (雌瓦)
の下に置く、平らな瓦。沖繩の瓦屋根は、
暴風を防ぐために、雌雄二種の瓦を組み合
わせてしっくい固めて葺く。

miigamarasjan (形) 見るにたえない。
見たくないような。見るのがいやな。

miigasimasjan (形) ⊖見るにたえない。
見たくないような。どうかと思うような。

- ◎目をわずらっている。眼病である。nuu miigasimasja miʂeebiiNnaa. 何か目でもお悪いのですか。
- miiguci**① (名) (商売の) ぐちあげ。
- miiguhwaa**① (名) よいっぱり。夜遅くまで目をさまして寝ない者 (子供)。
- miiguhwai**① (名) 夜眠れないこと。また、不眠症。
- miiguhwasan**① (形) ◎遅くまで起きている。よいっぱりである。◎眠くない。眠れない。多く、子供についている。
- miigurisjan**① (形) ◎見にくい。見ることが困難である。◎見苦しい。みっともない。醜い意では 'janasan という。
- mii'guruguru**① (副) ◎ (物を捜す時などに) 目をきょろきょろさせるさま。~ sjuN. ◎ぱっちり。小兒などの目のさま。
- miiguruguruu**① (名) 目をきょろきょろさせている者。
- miigurumaai**① (名) 目をきょろきょろさせて見回すこと。~ sjuN.
- miigusui**① (名) 目薬。cannu ~. 喜屋武の目薬。小量で高価なものの代表としている。
- miigwaa**① (名) 小さく細い目。また、そういう目をした者。そういう人は概して小利巧だといわれる。
- miihaahaa**① (感) miihahaa と同じ。
- miihagaa**① (名) miihagii と同じ。
- miihagi**① (名) ただれ目。目のふちが赤くただれて痛む病氣。
- miihagii**① (名) ただれ目にかかった者。miihagaa ともいう。
- miihahaa**① (副) ヒヒーン。馬の鳴き声。
- miihaiʔadaasi**① (名) にらみつくてどなること。miihaiʔadaasi ともいう。~ nu duku ʂiziti. どやしつける度が過ぎて。~ sjuN.
- miihaigutu**① (名) 啞然とするようなできごと。意外な、驚くべきこと。詐欺・盗難に会った場合などにいう。
- miihainusudu**① (名) 目の前で泥棒をはたらくこと。また、まんまと詐欺にかけること。また、そのような泥棒・詐欺漢。
- miihaiʔadaasi**① (名) miihaiʔadaasi と同じ。
- miihana=sjuʔN**①① (他 =san, =ci) 見放す。見捨てる。
- miihanda**① (名) 期待はずれ。あてはずれ。~ nataN. あてがはずれた。~ nu kutu. 期待はずれのこと。
- miihannuu**① (名) miihanda と同じ。
- miihan=sjuʔN**① (他 =san, =ci) 見そこなう。見る機会を失する。
- miihaqpai**① (名) miiciri と同じ。目がひきつっていること。
- miihaqpajaa**① (名) miiciraa と同じ。目のひきつった者。
- miihati=juʔN**① (他 =ran, =ti) 見終わる。残らず見る。
- miihugaa**① (名) 一厘銭。穴あき銭。mii は穴。hugaa < hugijun. 明治年間に通用していた一厘銭には四角な穴があいていた。20枚を一纏にして一貫 (ʔiqkwan) といった。
- miihwa**① (名) 見かけ。みば。外見。mii-ba と同じ。
- miihwaahwaa**① (名) 失望感・羞恥感などにおそわれて、目がほてるように感ずること。~ natoon. (失望感や羞恥感で) ぼろっとしている。~ nu kutu. (失望感や羞恥感で) ぼろっとするようなこと。
- miihwica=juʔN**① (自 =ran, =ti) にらんで目を光らせる。にらむ。目が光る意。mii-hwicati 'NNdee. にらんでごらん。ʔarin-kai miihwicaraqtaN. 彼ににらみつけられた。
- miihwicarasjan**① (形) まぶしい。まばゆい。
- miiʔindee**① (名) ものもらい。目のふちにできる腫れもの。

miiʔiri

miiʔiri① (名) 新入り。新参者。

miijaa① (名) 新しい家。新築した家。また、あらたに分家した家。

miijaa=juˈN① (自 =raN, =ti) 癒着する。傷口がなおってふさがる。

miijahwaragisaN① (形) 体が弱そうである。ひよわそうに見える。mii- は身の意か。

miijaigoojaku① (名) 癒着させるための膏薬。

miijami① (名) 眼病。

miijan=zuˈN① (他 =daN, =ti) 見誤る。見そこなる。

miijaQsaN① (形) ①見やすい。容易に見られる。②見られる。見るにたえる。miija-siku natoon. (病状・暮らしなどの見るかげもなかった者が回復して) 見られるようになる。

miijoo① (名) ①見よう。見かた。見る方法。②目くばせ。目で合図すること。③外見。みば。体裁。

miijookuciˈjoo① (名) 目つきや口の形で合図すること。~ sjun.

miijukaQcu① (名) 新参の士族。麿藩前に、平民から士族となった者。siNʒaN ともいう。また16万貫の金を出せば士族となれたので、そのような士族にもいう。またこの場合は kooijukaQcu ともいう。

miijumi① (名) 花嫁。新婦。

mii=juN① (自 =raN, =ti) 生える。生ずる。haanu ~. 歯がはえる。kusanu ~. 草がはえる。

mii=juN① (自 =raN, =ti) 見える。目にうつる。huninu ~. 舟が見える。

miikaaibaˈa① (名) 乳歯のあとに生え代わった歯。永久歯。

miikaa=juˈN① (自 =raN, =ti) 生え代わる。

miiKagaN① (名) めがね。gancoo ともいう。

miiKahwakahwa① (副) 寝つきの悪いさ

ま。また、眠られないさま。目がこわばる意。

miikaNgee① (名) 世話。見て考えてやる意。ʔariga kutu ˈjuu ~ sjun. 彼のことをよく世話する。

miikaNgee=juˈN① (他 =raN, =ti) 世話する。miikaNgee sjun と同じ。

miikeeraa① (名) (疲れて) 目がくぼむこと。疲れた目つきをしていること。~ natoon. (疲れて) 目がくぼんでいる。

miikeesigeˈesi① (副) くりかえし見るさま。ʔimiN ~. 夢を何度も何度も見て。

miikee=sjuˈN① (他 =saN, =ci) 見返す。くり返して見る。

miiKoogaa① (名) 疲れた時などに目がくぼむこと。miikeeraa ともいう。

miiKubuu① (名) 目がくぼんでいる者。

miiKuci① (名) 表情。顔つき。目と口の意。まれな語。~ ˈjahwahjhwatu. 表情がやさしく。

miiKugee① (名) 目を動かすこと。また、目を離すこと。~N naraN. ちよっとも目が離せない。

miiKuhwai① (名) ①(朝など) 目がさめること。目ざめ。②miiguhwai と同じ。

miiKuhwajaa① (名) ①目ざまし。おめざ。朝など目をさました時に与える菓子の類。②*夜眠れない人。不眠症の人。

miiKuni① (副) 新しく。あらたに。miiKun ともいう。~ ʒukuraqtooru mici. 新しく作られた道。~ misjooocooru siNsii. 新しくいらした先生。

miiKu=nun① (他 =maN, =ai) (相手の出方などを) 見すかす。

miiKun① (副) miiKuni と同じ。

miiKunDaa① (名) 見た目にはっきりしない物。見ても何だかわからない、形のくずれた物。字体・模様・織り目などについていう。

miiKunDaaZii① (名) 何だかわからない字。

読めないようなくずれた字。

miikuraganⓄ (名) 目まい。目がくらむこと。

miikusaaⓄ (名) ⊖始終目やにを出している者。⊖(人の悪口として) 目くそやろろ。ばかたれ。

miikusuⓄ (名) 目くそ。目やに。

miikuumeⓄ (名) ならめっこ。まばたきしたり、笑ったりすれば負けとなる。

miikuutiiⓄ (名) 死ぬことの小兒語。目を閉じる意。

miikwaa=sju^{ˈN}Ⓞ (他 =saN, =ci) 間に合わせる。kurisaai miikwaacookee. これで間に合わせておけ。

miimaaiⓄ (名) 見回り。見回ること。また、見回って世話すること。～ sjuN.

miimaa=ju^{ˈN}ⓄⓄ (他 =raN, =ti) 見回る。

miimaaraakuuⓄ (名) 石合戦。

miimaci^ˈgeeⓄ (名) 見間違い。見そこない。

miimajuⓄ (名) 目と眉。また、容貌。顔だち。～ kurugurutu curaniišee 'jai-biin. 眉目秀麗な青年でございます。

miimaan=zu^{ˈN}Ⓞ (他 =daN, =ti) 見守る。大事に見守る。qkwaʔNmaga ～. 子や孫を見守る。

miimeeⓄ (名) 見舞い。不幸・病気などを見舞うこと。

miimeeⓄ (名) 新米でたい飯。また、その飯をたく祝い。農家でいう。

miimiciⓄ (名) 新道。hurumici (旧道)の対。

miimiihuugaaⓄ (副) 穴だらけ。～ na-toon. 穴だらけだ。

miimiikuuziiⓄ (名) 隅々までほじくりあさること。重箱のすみをほじくるようなこと。また、人のあら捜しをすること。～ sjuN. すみをほじる。また、あら捜しをする。～ nu cuusaN. あら捜しがひどい。

miimiiteedeeⓄ (副) くまなく。すみずみ

まで。

miimunaaⓄ (名) miimUN (雌)と同じ。

miimUNⓄ (名) 見もの。見ておもしろいもの。

miimUNⓄ (名) 雌。動物のめす。miimunaa ともいう。

miimUNⓄ (名) 新しいもの。新品。

miimusiⓄ (名) 目の虫の意。次の句でいう。～ hoojuN. (朝寝すると) 目に虫がはう。朝寝坊をあざけて言う。

miimuukuⓄ (名) 新郎。花婿。

miinadaⓄ (名) 涙。目にたまる涙。

miinaiⓄ (名) よりすを見てみること。また、見立て。

miinaicici^ˈnaiⓄ (名) miinaricicinari と同じ。

miina=ju^{ˈN}Ⓞ (自 =raN, =ti) 見立てる。よりすを見る。見てきめる。duukuru miinai kooree. 自分で見立てて買え。basju miinatikara sjuN. その場の空気を見てからする。

miinara=ju^{ˈN}Ⓞ (他 =aN, =ti) 見習う。見て覚える。

miinaricici^ˈnariⓄ (名) 見たり聞いたりすること。見聞き。見聞。miinaicicinai ともいう。～ sjuN. 見聞する。～ nu hwi-rusaN. 見聞が広い。

miinari=ju^{ˈN}Ⓞ (他 =raN, =ti) 見なれる。

miina=sju^{ˈN}Ⓞ (他 =saN, =ci) [文] 見なす。

miiniciⓄ (名) 命日。普通は ʔumiinici という。月を同じくする年一回の命日は sjo-oʔumiinici という。

miinisiⓄ (名) 秋ごろに吹き始める北風。mii<miisan. nisi は北・北風。

miinuçibiⓄ (名) 目じり。まなじり。～ qsin 'NndaN. (軽蔑して) 見むきもしない。眼中におかない。

miinucihana^ˈnuciⓄ (副) ⊖子供が悪ふざけをするさま。目を突いたり鼻を突いたり。意。⊖人のあら捜しをするさま。また、

miinugaarasjuN

意地悪なことを言うさま。～ sjuN.

miinugaara=sju¹N① (他 =saN, =ci) 見のがしてやる。見ないふりをして許してやる。

miinuhuci① (名) 目のふち。まぶち。

miinukuci① (名) 目がしら。miinuçibi の反対側。

miinumee① (名) 目の前。目先。眼前。～ nu kutu. さし迫った事。

miinusiN① (名) ひとみ。瞳孔。

miinuuu① (名) 目の緒の意。文語は minuu. 次の句で用いる。～ ni sagajun. まぶたに浮かんで離れない。目の前にちらついて離れない。

mii?NmasimuN① (名) 骨惜しみする者。なまけ者。

mii?Nnu① (名) 収穫後、自然に生えたさつまいも。mii-<miijun (生える)。

mii?Nnukuzijaa① (名) 人の畑の mii-?Nnu を掘りあさる貧困な者。

mii?Nza=sju¹N① (他 =saN, =ci) 見つけ出す。見いだす。

mii?Nzi=jun① (自 =raN, =ti) 生え出る。

miin① (名) 織機の篋(おさ)の種類の名。十六よみ。経糸 1280 本を通すもの。また、それで織った布。huduci の項参照。

miiNna① (名) 雌綱。綱引きの時の一方の綱。'uuNna (雄綱) に対する。çinahwici の項参照。

miiNna'bai① (名) むなしく目をあけていること。ぼんやりと見ていること。ポカンとしていること。また、啞然としていること。～ sjuon. ポカンとしている。啞然としている。

miiqcu① (名) 梅毒にかかったことのない人。mii-<miisan. huruqcu の対。

miiqkwa① (名) 姪。

miiraNka① miiraNka① (句) 遠方にあつてかすかに見えるものさま。～ sjuon. かすかに見えている。

miirigan① (名) ?irigan (かもじ・入れが

み)の敬語。mišiiN ともいう。

miisagee① neeraN① (句) ひっきりなしに。絶え間なく。～ qcunu tuujun. ひっきりなしに人が通る。～ sjuumanboosjuunu ?aminu huiçizicunnee 'jun-taku sjun. ひっきりなしにつゆの雨が降り続くようにおしゃべりを続ける。

miisagi=jun① (他 =raN, =ti) 見下げる。軽蔑する。

miisan① (形) 新しい。tatanoo miiku, tuzee huruku. 昼は新しく、妻は古く。cinoo miiku miiku, nucee cuuku. 着物はいつも新しく、命は強く。子に新しい着物を着せる時にいうことば。

miisicihana'sici① (名) 病気。かぜなど。hanasici は鼻かぜ。miisici の mii-は、鼻に対して目といったまでのもの。duucuimunoo ~nu hasju sjuqkwee sjun. ひとり者は病気の時に困る。

miisi=jun① (他 =raN, =qci) 見知る。知り合いになる。顔見知りになる。miisiraran. 会ってもわからない。(成長した場合などに) 見違えるようによろすが変わる。?jajaja miisiraran natoosa. おまえは見違えるようになったよ。miisiran. 見知らぬ。

miišima=sju¹N① (他 =saN, =ci) (大したものではないこと)を見破る。見抜く。

miiširiširi① (副) (起床直後などに)目をこするさま。～ sjun.

miišiti=jun① (他 =raN, =ti) 見捨てる。miišitirarijun. 見捨てられる。

miisju① (名) 名所。また、名産地。

miitooN① neeN① (句) みっともない。見苦しい。miicakun neeN と同じ。～ kutoo san mun dee. みっともないことはないことだよ。

miitu① (名) 夫婦。めおと。

miituduki① (名) 見とどけること。確認。

miituduki=jun① (他 =raN, =ti) 見届ける。たしかに認める。終わりまでよく見

る。
miitunDaⓄ (名) 夫婦。主として平民が使う語。-da は複数の意か。
miitunDagwaaseeⓄ (名) おとうさんおかあさんの役になってするままごと。
miitunDaZiceeⓄ (名) 夫婦関係。夫婦の性的な関係。
miitunDamunugataiⓄ (名) 夫婦だけの話。夫婦の寝物語。
miitunDaZo'oeceⓄ (名) 夫婦げんか。miitunDaZo'oeceja Yinnuun kwaan. 夫婦げんかは犬も食わぬ。
miitunDaziriⓄ (名) 夫婦連れ。
miituusiⓄ (名) 見とおし。洞察。
miituziⓄ (名) 新しい妻。にいづま。
miiZubiⓄ (名) 見覚え。～nu neeran. 見覚えがない。
miiZubi=ju`NⓄ (他 =ran, =ti) 見覚える。見て覚える。
miiZuciⓄ (名) ㊦まばたき。㊦目くばせ。
miiZukuiⓄ (名) 見送り。～sjun. 見送る。～sjuru qcu. 見送り人。
miiZuru=sju`NⓄⓄ (他 =san, =ci) 見おろす。
miiZusiⓄ (名) 牝牛。
miiZusi`na=ju`NⓄ (他 =an, =ti) 見失う。
miiZutuiⓄ (名) 死ぬこと。また、臨終。定められた命が落ちる意。～sjun. 命を終える。「死ぬ」の上品な表現。
miiZutusiⓄ (名) 見落とし。
miiZutu=sju`NⓄⓄ (他 =san, =ci) 見落とす。
miiZuziⓄ (名) 見ただけでおじけづくこと。
miiwaka=sju`NⓄ (他 =san, =ci) 見分ける。弁別する。Zuja ～。(幼児が)親を見分ける。
miiwakiⓄ (名) 見分けること。見分け。区別。miwaki ともいう。'iikutu 'janakutunu ～N neeran. 善悪の区別もつかない。

miiwaki=ju`NⓄ (他 =ran, =ti) 見分ける。見て区別する。
miiwakuⓄ (名) 不面目。不名誉。恥さらし。
miiwareeⓄ (名) ほほえみ。微笑。～sjun.
miiwazaNkuci`wazaNⓄ (名) 顔をしかめること。疲労した時・痛い時・酸っぱい物を食べた時などに、目をすぼめ口をゆがめること。-wazaN < wazanun.
miiwiiQ`kwaⓄ (名) 甥姪。
miiziguuziⓄ (副) ぶつぶつ不平やこごとをいうさま。～sjun. ぶつぶつ言う。
miiziiNziiNⓄ (名) (頭などを強打して)目から火が出ること。また、その火。ziin-ziiN. ははたるの小児語。～tubun. 目から火が出る。
miiziNⓄ (名) 新しい着物。
miiziruⓄ (名) 雌弦。三味線 (sansiN) の三の糸。最も細く、最も音の高い糸。'uuziru (一の糸), nakaziru (二の糸) に対する。
miizitanasanⓄ (形) 薄ぎたない。
miizookiiⓄ (名) み(箕)。米麦など穀類をふるって、殻や塵をよりわける道具。竹を編んで作り、円形で、浅く広い。
miizuurukuniciⓄ (名) 正月16日に営む法事。正月16日は一般に墓参の日であるが、前年に死んだ者のある家では特に法事を営む。その法事をいう。
mijaⓄ (名) 宮。神をまつた建物。šiisinu ～ (末吉の宮), 'asatunu ～ (安里の宮) などがある。
mijakuⓄ (名) 都。国王のいる地。また、都市。
mijamaⓄ (名) [文] 深山。奥山。
mijarabiⓄ (名) 娘。おとめ。「めわらべ」に対応する。農村の未婚の娘をいう。
mijatiⓄ (名) 目あて。目標。
mijuⓄ (名) [文] 御世。
mikakiⓄ (名) [文] 見掛け。外見。～too

mikamisasi

- 'uuziran. 外見とは合わない。見掛け倒し、あるいは見掛け以上。
- mikamisasi**① (名) 男のするかんざし (kamisasi) の敬語。御かんざし。
- mikaN**② (名) 蜜柑。
- mikaNşii**② (名) 蜜柑水。明治時代にあった飲み物の名。
- mikarahwisja** (名) はだしの敬語。御素足。
- mika=sjuN** (接尾 =saN, =ci) 擬声語・擬態語につき、…という、…という音を立てるの意を表わす。dusamikasjuN (どしんという音を立てる), 'jutamikasjuN (ゆらゆらさせる), hijamikasjuN (えいと言ふ) など。
- mikata**④ (名) 味方。
- mikazi**① (名) [文] [美形] 御姿。
- mikaziei**① (名) 三日月。
- mikiimajaa**① (名) 三毛猫。
- mikuci**① (名) お口。kuci (口) の敬語。
~ saNsikwaN, ?unzu biiru. 口は三司官のように達者だが、体はみるのよりにぐにゃぐにゃでたよりにならない。
- mikumi**① (名) 見込み。
- mikumui**① (名) 錢 300 文。6 厘に当たる。ziN の項参照。
- miku=nuN**② (他 =maN, =di) 見込む。あてにする。望みありと見る。予定する。
- mikusi**① (名) [文] 御腹。kusi の敬語。
~ 'uganun. あんましてさしあげる。
- mikusidaci**① (名) [文] 主君を助けて後楯となること。?inuçi hurişititi ~ şiriju. [命ふり捨てて 御腰立すれよ (忠臣身替)] 命を捨てて主の後楯となれ。
- mikusiuğaN**① (名) 腰をもむこと (kusitaci) の敬語。あんますることの敬語。貴族をあんまする場合には、さらに丁寧に、misiuğaN という。
- mimēe**② (名) miimee (見舞い) と同じ。
- mimi**② (名) 耳。~ hwiramijuN. 耳を傾ける。熱心に聞く。耳をすます。また、(動物が) 耳を立てる。
- mimigaa**② (名) 耳の皮の意。耳たぶ。豚肉料理でいう。
- mimigaasasimi**② (名) 料理名。豚の耳の酢のもの。焼いて毛を取り去った豚の耳を煮て、薄く切り、野菜をまぜて酢であえたもの。
- mimigani**② (名) 理解力。かしこい頭。聡明さ。~nu ?aN. 理解力がある。かしこい。
- mimigasimasjan**② (形) やかましい。うるさい。
- mimigui**② (名) きくらげ。きのこの一種。木にはえ、形が人の耳に似ている。干したものを食用にする。
- mimikusu**② (名) 耳くそ。耳あか。
- mimikuzijaa**② (名) 耳かき。
- mimikuziraa**② (名) miNkuziraa と同じ。
- miminuhuutai**② (名) miminutai と同じ。
- miminuhwaa**② (名) 耳たぶ。外耳全体をいう。~niN ?iriraN. 聞こうともしない。~madin 'warajuN. 耳まで笑う。非常に喜んで笑うさまをいう。
- miminutai**② (名) 耳たぶ。耳の下部の垂れ下がった部分。miminuhuutai ともいう。
- mimizi**② (名) みみず。
- mimi=zun**② (他 =gaN, =zi) ⊖(身体を、また野菜などを) もむ。⊖いじめる。とちめる。mimigarijuN doo. いじめられるぞ。
- mimuci**② (名) 身持ち。体の保ちかた。また、品行。その敬語は ?unzumuci. ~teesicini Qsi 'joo. 体を大切にしろよ。お大事に。
- mimunu?uzoo**② (名) 首里城の門の名。?uguşiku の項参照。
- mimutu**② (名) [文] 目もと。目のあたり。nasigwa mi?ukuini kurimadiju caşiga, ?awari çirinasaja ?atukaziN mi-

raN, ~ kuraguratu naruga siNci. [なし子見送りに これまでよ来やすが あわれつれなさや あと影も見らぬ 目もとくらぐらと なるが心気(忠臣身替)] 子の見送りにここまでは来たが、ああ、つれないことに後姿も見えない。目の前が暗くなる心持ちである。

minadaⓄ (名) miinada と同じ。

minaNkaⓄ (名) 三七日。死後 21 日目の法事。

minareeⓄ (名) 見習い。業務などを実地について練習すること。

miniisjaⓄ (名) ひもじさの敬語。御空腹。貴族の家庭で使われる語。~ ?waamiisee-biira 'jaa. 御空腹でいらっしやいませうねえ。

minidaruⓄ (名) 料理名。豚肉にいかの墨と黒ごまとをつけ、醤油味にして蒸したものの。

minugamiⓄ (名) 紙の一種。美濃紙。

minumeeⓄ (名) miinumee と同じ。

minuuⓄ (名) [文] miinuuu の文語。目の緒の意。

minu?wiiⓄ (名) [文] ⊖身の上。境遇。⊖わが身。自分の身の上。?iciN 'jusigutu-ja ~nu takara. [意見寄言や 身の上の宝] 意見や忠告はわが身にとっての宝。

minbukuⓄ (名) 面目。minmuku ともいう。~nu neeraN. 面目ない。~nu tatan. 面目が立たない。~nu toorijun (面目が倒れる)ともいう。

minbutukiiⓄ (名) 植物名。いぬびえ。飢饉の時に食用となる雑草。

mincabaaⓄ (名) 耳の卑語。ののしっていう時に使う。

mincamuNⓄ (名) 目に入ったごみ。mincamunaa mincamunaa kiramanu kusinkai ?iki 'joo. 目に入ったごみよ、目に入ったごみよ、慶良間島のむこうに飛んで行け。目に入ったごみをふっと吹いて取

る時となえるまじない。tanabaruja-manu ~. tanabaruja (棚原山) は西原村にあり、その村の娘たちが松の枯葉を集めに行くところ。そこへ首里の青年たちが遊びに行き、目に入ったごみを取ってくれと称して娘に近付く。娘が男の目に口を近付けた時、男は接吻を盗む。その遊びをいう。そこでは、一人の娘が他の娘の所に近づこうとする時には、?nmaa maaci-baaaja ?ami. (そこには松葉はあるか) と声をかけ、kumaa neen. (ここにはない) と返事があれば、察して近づかないというような、不文律ができていたという。

mincasanⓄ (形) やかましい。うるさい。<mimi + ?icasan.

mindasimuNⓄ (名) 珍しい物。

minDasjanⓄ (形) 珍しい。mizirasjan ともいう。

minDooⓄ (名) 面倒。厄介。~na kutu. 面倒な事。~'jan. 面倒だ。

mingwa=sjunⓄ (他 =san, =ci) 濁らす。濁らせる。

mingwa=sjunⓄ (他 =san, =ci) ⊖回す。めぐらす。migurasjun ともいう。kuuru ~. こまを回す。⊖惑わす。

mingwiⓄ (名) 濁り。濁ること。濁っていること。~nu ?an. 濁っている。

mingwi=juNⓄ (自 =raN, =ti) (水などが) 濁る。

mingwi=juNⓄ (自 =raN, =ti) ⊖回る。めぐる。migujun ともいう。⊖惑う。

minkaaⓄ (名) つんぼ。次項の卑称。

minkuuⓄ (名) つんぼ。次項参照。

minkuziraaⓄ (名) つんぼ。また、耳の遠い者。minkaa, minkuu, mimikuziraa, minkuzirimun ともいう。

minkuzirimunugataiⓄ (名) 耳の遠い者との話。また、そのようなとんちんかんで互いに通じない話。

minkuzirimuNⓄ (名) minkuziraa と同

じ。

miNkwaauu④ (名) ㊦ひどくよごれたりに
じんだりして、もとの形がわからないも
の。そのような字体など。㊦顔がすっかり
よごれること。また、ひどくよごれた顔。
～ sjUN. (子供をこわがらせる時などに)
指で目や口を引っ張って、恐ろしい顔つき
をする。

miNmuku④ (名) miNbuku と同じ。

miNna④ (名) 植物名。るりはこべ。瑠璃
色の小さい花が咲く。家畜の飼料となる。

miNna④ (名) ㊦水納島。沖縄本島本部半
島西方にある小島。㊦水納島。宮古群島の
島の名。

miNnii④ (名) 壬(みずのえ)。十千の一つ。

miNnukuu④ (名) 水の子。水の実。祭祀
の際、なまのまま小さく四角に切って施餓
鬼用として供える野菜。

miNnutu④ (名) みずのと(癸)。十千の一
つ。

miNsaa④ (名) ㊦布の名。緯糸を合わせて
太くして織ったもので、帯用。㊦それで
作った帯。miNsaa?uubi と同じ。nasaki
kwirubikei tisazi kwiti nu sjuga,
gamaku kunsimiru minsaa kwirana.
[情呉ゆるびけい 手巾呉てのしゆが 腰
くんしめる みんな呉らな(かなよ節)]
贈り物をするぐらいなら、手ぬぐいぐらい
やって何になるか、腰をぎゅっとしめるメ
ンサ帯をやりたい。

miNsaa?uubi④ (名) miNsaa の帯。いな
かの女が用いるもの。

miNsi④ (名) 真綿。肩繭を引き伸ばした絹
綿。

miNtama④ (名) 目玉。目の玉。眼球。

miNtana④ (名) 流し。台所の流し台。水
糊の意。

miNtanasiiri④ (名) 台所の流しの先に設け
る水だめ。

miNtari?aNzasa④ (名) 顔を深くおおう編

み笠。深編み笠。

miNtarii④ (名) miNtari?aNzasa と同じ。

miNzai④ (名) 耳だれ。耳の穴から流れ出
るうみ。また、その病気。

miNzaigusa④ (名) 植物名。雪の下。井戸
ばたなどの湿地に生える草。葉をもんで油
とまぜたものを耳だれの薬にする。

miNzici④ (名) [面付] 名義。taaminzici
natooga. だれの名義になっているか。

miNzici① (名) [面付] 顔付き。顔色。相
手・状況によって変わる顔付きをいう。

miNzicigee④ (名) 名義変更。

miNzoo① (名) [面状] 顔付き。面相。～nu
'waqsaN. 顔付きが悪い。

miQca①④ (名) 三日。みっか。一日の三
倍。月の第三日は多く saNnici という。

miQcai① (名) 三人。～ suriree sikin. 三
人そろえば世間となる。

miQcakaan④ (名・副) いっぱい。満ちて
いるさま。kaaminu ～ mizi kunuN. か
めにいっぱい水を汲む。～ sjoon. いっ
ぱいに満ちている。

miQcaka=ju'N④ (自 =raN, =ti) 満ちる。
いっぱいになる。

miQcanasiku④ (名) 正月3日の祝い。そ
の日、国王は円覚寺・天王寺・天界寺の三
寺に参詣し、一般家庭では sikamuduci
(料理名。その項参照) などのごちそうを
作って祝った。

miQcanu?uiwee④ (名) miQcanu?ujuwee
と同じ。

miQcanu?ujuwee④ (名) 旅に出た人の家
で、出帆後三日目に行なう祝い。帆船時代
に 'jamatu に行く船が三日目あたりに七
島灘の難所にかかるので、その無事を祈る
ために祝ったものであろう。

miQei?amajaa④ (名) 才走った者。小利口
者。

miQka① (名) 三日。みっか。

miQkuu④ (名) めくらの人。盲人。miQ-

kwaa ともいう。
miQkwa① (名) 盲。盲目。～nu hwiibun
 ?uziran. 盲蛇に怖じず。
miQkwaa① (名) miqkuu と同じ。
miQkwaatoruu① (名) 遊戯の名。めくら
 おに。鬼が目隠しをしてする鬼ごっこ。
miQkwasamuN① (名) 憎い者。憎まれ者。
 憎らしい者。
miQkwasaN① (形) 憎い。憎らしい。
miQta① (名) めった。むちゃ。～na kutu.*
 めったなこと。むちなこと。～ni. むや
 みに。やたらに。～ni qcu nurajun. や
 たらに人を叱る。
mirujuku① (名) でき心。見ると起こる欲。
miruku① (名) 弥勒(みろく)。弥勒菩薩。
 首里の赤田に首里殿内があり、そこに祀っ
 ている。旧暦8月16日に弥勒会が行なわれ
 る。?akata sjun?unuci kugani?uuruu
 sagiti ?uriga ?akagariba ~ ?unke.
 「赤田首里殿内 黄金燈籠下げて おれが
 明かされば 弥勒御迎」赤田の首里殿内に
 こがねの燈籠を下げて、それに火がともっ
 たら、弥勒をお迎えしよう。～nu 'wara-
 tannee. 弥勒が笑ったように。にっこり
 と笑ったさま。
mirukujugahuu① (名) [弥勒世果報] mi-
 rukujuu と同じ。
mirukujuu① (名) [弥勒世] 豊年。miru-
 kujuja minume hwicijušiti 'ušiga
 hutakacanu nunuja 'utami 'warabi.
 「弥勒世や目の前 ひきよせて居すが ふ
 たかちやの布や 織ためわらべ」豊年は目
 の前に近づいているが、hutakaca (その
 項参照)の布は織ったか、子供よ。
mirukuNgwa① (名) 弥勒会 (miruku?u-
 Nkee)の時、弥勒のお供をする子供たち。
 美しく装束して行列をにぎやかにする。
miruku?unkee① (名) 弥勒会。旧暦8月
 16日に、首里赤田の首里殿内で行なわれ
 る。

mirumiru① (副) 見ていながら。見す見
 す。～ hwiŋgacan. 見す見す逃がした。
misaci① (名) 岬。海中に突き出た陸地。
misaree① (名) ?usaree, misareepaapaa
 と同じ。
misareepaa'paa① (名) 士族の結婚式の世
 話役をつとめる平民の老女。花嫁を迎え、
 儀式の案内・進行など、いろいろの世話を
 する。
misatu① (名) 見里。《地》参照。
mišeeN① (他・不規則) ①言うの敬語。仰
 せられる。?imišeeN (おっしゃる。対等・
 目上に用いる)よりもさらに目上に用い
 る。②するの敬語。あそばす。おやりにな
 る。simišeeN (なさる。される。対等・目
 上に用いる)よりもさらに目上に用いる。
 ③食べるの平民年長に対する敬語。あが
 る。
-mišeeN (接尾・不規則) お…になる。…
 なさる。…される。「連用形」(または「連
 用形」から末尾の i を除いた形)に付き、
 尊敬の敬語を作る。'jumimišeeN (読ま
 れる), ?ujumimišeeN (お読みになる),
 'wakasaimišeeN (お若くていらっしゃ
 る), kacimišeejabiin (お書きになりま
 す)など。なお、-NšeeN の項参照。
mišigamiši① (副) 見す見す。見ていなが
 ら。わかっていながら。～ saqtaN. 見す
 見すやられた。
mišigara① (名) 体ひとつ。单身。身すが
 ら。kunu kwadun šititi ~ni nariba,
 sjutu cuiga kutuja zijuni najun.
 「此子ども捨てて 身すがらになれば 姑
 一人が事や 自由になゆん (大川敵討)」
 この子を捨てて身ひとつになれば、しゅう
 とめひとりの世話はできる。
misigee① (名) しゃもじ。農民が多く使
 り語。首里では多く ?iizee という。
misihwa① (名) 見え。外見の飾り。見せか
 け。

mišiiN①(名) かもじの敬語。miirigan ともいう。普通は ʔirigan という。

mišiiugaN①(名) 貴族の腰をあんますること。kusitataci の貴族に対する敬語。

mišii-jun①(他 =raN, =ti) ⊖ 見せる。ʔuqtu ~. 次の子ができる。二番目以降の子が生まれる時にいう。弟を見せる意。⊖(…して) 見せる。ʔNzi ~. 行って見せる。ʔjudi ~. 読んで見せる。ʔNzi misiri. 行くなら行って見ろ。Qci misiri. 来るなら来て見ろ。ともに、制止しても聞かない場合にいう。⊖(接尾)…しやがる。命令形で用いる。-misiri, -misiree の項参照。

mišikamunugatai①(名) [文] 男女のひそかな語らい。

mišikaqteen①(名・副) ひそかに(に)。内密。内緒。~na hanasi. ひそかな話。~du ʔjateeru. 内密であったのだ。~nu kutu. ひそかなこと。ʔariga ~ ʔici kwitan. 彼がひそかに話してくれた。

mišiku①(副) [文] 丁寧に。慎重に。よくよく。「みすく、こまく、能々密の心也(混効験集) ʔjaa nasigwa ~ ciciugami. [やあ産し子 みすく聞拜め(銘苅子)] さあ子供よ、よくよく聞け。ʔanasakinu ʔuzimu ~ tuiʔukiti cimū ʔwariti zicini ʔunNukijoori. [御情の御肝 みすく取請けて 肝割れて突に おんによけやられ(大川敵討)] お情深いお心を丁寧に お受けして、心を開いて真実を申し上げよ。

mišikuuga①(名) ⊖ 見せ卵の意。産卵しようとする鶏の巢に、あらかじめ入れておく卵。産卵を促進させる意味です。⊖ 転じて、子を生むことを望んだ夫婦が、出産を誘うために、仮にもらって来た子供。

mišimuN①(名) 見世物。

mišinaaku①(感) めっそうな。女の発する語。あきれた場合、あるまじいことを見

聞きした場合などに、多くは指を鳴らしながらいう。misinataaku, misinataraaku ともいう。çiruu çiruu ~. つる子、つる子、あきれたねえ。saqtimu saqtimu ~. なんとまあ、めっそうな。

misinataaku①(感) misinaaku と同じ。

misinataraaku①(感) misinaaku と同じ。

-**mišii'ree** (接尾) …しやがれ。-misiri の項を見よ。

-**mišii'ri** (接尾) …しやがれ。-misiree ともいう。ʔjumimisiree (読みやがれ。ʔjudi misiree。一読んでみろ—とは別)、tuimisiree (取りやがれ)、ʔicimisiri (行きやがれ) など。

misita①(名) 目下。多くは tiisica という。

mišiiʔuki①(名) (下宿業などで) まかないをすること。

mišiiwan①(名) 飯椀。御飯茶碗。

mišiiʔiri①(名) 神の託宣。cihwiziN (きこえ大君)、ciN (君)、nuuru (のろ) などの託宣のことは。ʔukami ʔarawariti, ʔukutubanu ʔariba, ~nu ʔariba. [御神あらはれて お言葉のあれば みすずりのあれば(孝行之巻)] 神様が現われておことばがあったので、御託宣があったので。

mitamita①(副) ゆらゆら。ゆれ動くさま。hasinu ~ qsi ʔuturusjan. 橋がゆらゆら揺れてこわい。

mita=sjun①(他 =saN, =ci) 満たす。いっぱいにする。micijun ともいう。kaami ~. かめを満たす。

mitati①(名) ⊖ 見立て。鑑定。見て決めること。~ sjun. 見立てる。⊖ 見込み。~nu ʔjutasjan. 見込みがある。

mitu①(名) 三年。みとせ。micu, saNniN ともいう。

mituduki①(名) 見とどけること。確認。

- miituduki ともいう。
- mitui**① (名) 見てとること。見定めること。見て決めこむこと。～ sjuN.
- mitujutu**① (名) 三、四年。
- miZuubi**① (名) おみ帯。帯の敬語。
- miwaki**① (名) miwaki と同じ。
- mizi**① (名) 水。～nu kaN TiQcoon. 冬になって水が冷たくなった。水が寒に入った意。～ maajuN. (食物が) 腐って水っぽくなる。(食物が) 汗をかく。
- mizifaree**① (名) 水洗い。
- mizibukuruu**① (名) 水ぶくれ。やけどのあとなどにできる水ぶくれ。
- mizidaki**① (名) 水の高さ。水かさ。水深。
- mizigaami**① (名) 水がめ。炊事用水・飲料水を井戸から汲んで入れておくかめ。多くは hanDuugaami という。
- mizigani**① (名) 水銀。mizikani (鉛) とは別。
- mizigasa**① (名) 水痘。水疱瘡。
- mizigasaa**① (名) mizigasa と同じ。
- miziguruma**① (名) 水車。
- mizigusui**① (名) 水薬。
- mizihanadai**① (名) 水ばな。鼻みず。
- mizihanee**① (名) ⊖水かけ遊び。水のかけ合い。⊖水かけ論。
- mizihanii**① (名) 水鉄砲。
- mizihwici**① (名) 水引き。仏壇の前の卓に掛ける小さな幕。
- miziYiri**① (名) 水入れ。硯にさす水を入れておく小さい器。
- miziYiru**① (名) 青。水色。藍のやや薄い色。Yooruu は緑色をいう。
- miziiru**① (名) miziYiru と同じ。
- mizikaagaa**① (名) 水鏡。水に姿を映して見ること。
- mizikani**① (名) 鉛。mizigani (水銀) とは別。
- mizikazaa**① (名) 湿気によって腐ること。多雨・冠水などで、さつまいもが腐ることなど。
- mizikazaa?Nmu**① (名) 湿気によって腐ったさつまいも。冠水いも。
- mizikubusi**① (名) 便所で女のみが使う手洗い。昔は便所で紙を使用せずに水を使用した。そのための水を入れておく器をいう。
- mizimaki**① (名) 水に負けること。他郷などで、慣れない水のために体が弱ること。
- mizimui**① (名) ⊖見つもり。目算。あらかじめする概算。⊖あて。
- mizimuisooi**① (名) 目算がはずれること。あてがはずれること。
- mizimutaan**① (名) 水遊び。
- mizinumii**① (名) 水の中。水中。Yijoo ~utin Tiici siigisan. 魚は水の中でも息をするらしい。kunu kusaa ~nakai sudacuN. この草は水中で育つ。
- miziQteen**① (副) みずみずしいさま。水のしたたるようなさま。mizitaratara ともいう。～ sjoon. みずみずしい。
- mizirasjan**① (形) 珍しい。miNdasjan ともいう。
- mizisirazi**① (名) 見ず知らず。一面識もないこと。～ satume timizitiši siraN Yatinasiju demunu 'juruci tabori. [見ず知らず里前 手水てす知らぬ あてなしよだいもの ゆるちたばうれ(手水之縁)] 見ず知らずのあなた様、わたしは手水ということを知らない心の幼い娘ですからお許し下さい。～nu qeu. 見ず知らずの人。
- mizisjoo**① (名) 水性。陰陽家のいう水の性(をもった者)。
- mizita**① (名) zita (表付きの下駄)の敬語。
- mizitamai**① (名) 水たまり。雨水などのたまったところ。
- mizitaratara**① (副) miziQteen と同じ。～ sjoon. みずみずしい。
- mizi?uNcee**① (名) じゅんさい。水草の名。水面に生える。葉茎を食用とする。

miziʔutu

- miziʔutu**① (名) 水音。水の音。
mizuN① (名) いわし。
mjaadeera① (名) 宮平。《地》参照。naa-deera ともいう。
mjaagi① (名) みやげ。naagi ともいう。
mjaaguʂiku① (名) 宮城。《地》参照。
mjaaku① (名) naaku ともいう。⊖宮古群島。⊖宮古島。宮古群島の主島。
mjaazatu① (名) 宮里。《地》参照。naa-zatu ともいう。
mjaku① (名) 脈。脈搏。naaku ともいう。
mjooga① (名) 名誉。ほまれ。冥加の転意したもの。nooga ともいう。
mjoozi① (名) 苗字。noozi ともいう。家号と同じ苗字の場合は 'jaan'naa という。
mjuNci① (名) お顔。ʔunci (お顔) のさらに上の敬語。nuNci ともいう。naminu kwiN tumari, kazinu kwiN tumari, sjuitinZanasi ~ 'ugama. [波の声もとまれ 風の声もとまれ 首里天ぎやなし 美御機拝ま] 波の声も静まれ、風の声も静まれ、首里の国王様の御機嫌を伺おう。
mjuNcigutu① (名) 仰せ。国王のおことば。nuNcigutu ともいう。
mjuNcikee① (名) 御招待。また、御案内。貴人を招待または、案内すること。ʔunʒi-kee のさらに上の敬語。
mjuNcoobi① (名) [美御美髪] 貴族の髪への敬語。おぐし。nuNcoobi ともいう。髪への普通の敬語は ʔuncoobi。
mjuNkaki=jun① (他 =raN, =ti) 御覧になる。見る ('NNZUN) の敬語で、ʔumikakijun よりさらに上の敬語。nunkakijun ともいう。
mjuNnjuki=jun① (他 =raN, =ti) 奏上する。言上する。(国王などに) 申し上げる。ʔunNukijun のさらに上の敬語。nuNnukijun ともいう。
mjuNzu① (名) [美御胴] あなたさま。第二人称の貴族に対する敬語。njuNzu, nu-

Nzu ともいう。

- mjuu**① (名) 妙。変。奇妙。~na kutu. 妙なこと。duʒtu ~ 'jan. とても変だ。
mjuukoo① (名) njuukoo と同じ。
mjuuzaree① (名) nuuzaree と同じ。
moo① (名) 野。野原。耕地でもなく、林でもない荒れ野。harunu ~ natooN. 畑が荒れ果てている。
-moo (接尾) 体のある部分が無い者。…無し。hanamoo (鼻の無い者), kiimoo (あるべきところに毛の無い者), hwizimoo (ひげ無し) など。
mooʒaasa① (名) 植物名。きのこの一種。野(moo)に生える ʒaasa (青のり)の意。かさは平たい円形で緑色、径4~5センチ。柄はきわめて小さく、地面に生える。乾かしたものを水にもどして食用にする。
mooʒaʂibii① (名) 農村で夜、若い男女が野原(moo)に出て遊ぶこと。三味線・歌・踊りに打ち興じ、しばしば夜を明かす。
mooCaN① (名) 頭巾。中国風の頭巾で、布製。
moodoo① (副) 心が乱れるさま。どぎまぎ。おろおろ。cimun ~ najun. おろおろする。
mooʒi'cubi① (名) 植物名。苗代莓。山野に自生し、実は熟すると深紅色となる。食用になる。
mooi① (名) 蓬頭。髪が乱れてばさばさしていること。~ kwankwan. 髪をふり乱しているさま。
mooi① (名) 踊り。舞い。
mooihani① (名) 踊ったりはねたりすること。欣喜雀躍。~ sjun.
mooii① (名) 髪を結っていない幼児。
moo=jun① (自・不規則) 行かれる。来られる。行く・来るの平民の年長に対する敬語。hei niʂetaa, namadu mooCaN naa. cuu 'junagata ʒaʂibi dikirasa 'jaa. [へい二歳た 今どまうちやんな 今日夜な

- がた 遊び出来らさや] やあ青年たち、今来られたか。今晩は一晩中うまく遊べるぞ。
- moo=jun**① (自 =raN, =ti) ⊖踊る。舞う。即興的に踊る場合を多くいう。正式な舞踊の場合には、'udujuN を多く使う。⊖喜んで踊りあがる。
- mookaa**① (名) ⊖体のある一部分が無いこと。mookuu の単語。hananu ~ natoon. 鼻がもげて無い。⊖(接尾)体のある一部分が無い者の単称。…無し。tiimookaa (手の無い者) など。
- mookahuu**① (名) 真岡 (もうか)。真岡木綿。浴衣などにする木綿の布地。
- mooki**① (名) 儲け。商売の利益。また、働いて得る賃金。
- mooki=jun**① (他 =raN, =ti) ⊖儲ける。商売で利益をあげる。mookirazijaka ʔaganeeri. 儲けるよりも節約せよ(ことわざ)。mookirazijaka は形は否定だが、意味は肯定。mookijusijaka ともいえる)。⊖働いて賃金を得る。mookihanʃee kamihanʃjun. 賃金をもらいそこなえば食いはぐれる。
- mookitikanaa**① (名) その日暮らしの労働者。労働してその日の食を得る者の意。
- mookizuku**① (名) 儲けることのみ偏すること。儲け一本槍。
- mookuu**① (名) ⊖体のある一部分が無いこと。hananu ~ natoon. 鼻がもげて無い。hwizinu ~ ʔan. ひげ無しだ。⊖(接尾)…無し。体のある一部が無い者の意。-muqkoo, -mookaa, -moo ともいう。tiimookuu (手の無い者), zuumookuu (尾なし) など。
- moomoo**① (名) 牛の小児語。もうもう。
- moomoogwaa**① (名) 子安貝。宝贝。漁村で網のおもりに使う。
- moosiʔnzi=jun**① (他 =raN, =ti) 申し出る。
- moosjagi**① (名) 告げ口。密告。また、陰口。
- mootni**① (名) つぐみ。
- mooʔui**① (名) 植物名。しろうり。きゅうりに似たりりで、食用となる。
- mooʔu'i**① (名) 自生の瓜。
- moozi**① (名) 孟子。
- mu-**(接頭) 六。muhwani(六羽), mukeen(六回) など。
- mubaa**① (名) [無場] あいにくなこと。~nu ʔami ʔaqsaa ʔaa. あいにくの雨だねえ。~ ʔati kuuraran. あいにく来られない。
- mucaga=jun**① (自 =raN, =ti) 持ち上げる。高く盛り上がる。高まる。
- mucagi=jun**① (他 =raN, =ti) 持ち上げる。もたげる。高く上げる。çiburu ~. 頭をもたげる。
- mucamuca**① (副) ねばねば。粘りつくさま。~ sjun.
- muci**① (名) ⊖餅。主として法要、祭祀に用いる。普通は米の粉で作られる。muucii は別。~ çukujun. 餅を作る。⊖しっくい。防風用として屋根瓦の接合に多く用いられる。⊖鳥もち。ʔaNmuci ともいう。
- muçi**① (名) 財産。資産。~ kwirazijaka sjoo kwiri. (子に) 財産を与えるより、立派な性質を与えよ。子孫のために美田を買わず。
- muçi**① (名) 時刻の六つ。朝晩の6時。
- muciʔasaban**① (名) 弁当持ち。昼飯持参。
- mucibaNmee**① (名) 弁当。また、弁当・食糧を持って行くこと。手弁当。弁当持参。~ sjun. 弁当(食糧)を持って行く。
- muciçicaa**① (名) しっくい作りをする者。
- muciçicaaʔu'ta**① (名) しっくい作りの時に歌う歌。hananu という労働歌を多く歌う。歌詞は, hanaanu kazimajaja kazi çiriti miguru, ʔanʔa dusi çiriti

muciçici

ʔaşıbu, cıntuntentun mançinten.
(花の風車は風につれて回る。われは友をつれて遊ぶ。以下はやし)

muciçici①(名) しっくいを作ること。石灰にわらくず・粘土などを入れ、ふのりの液汁をまぜ、練り合わせて作る。女が気長に歌などを歌いながら作ることが多い。

muciciri①(名) 持ったきり。持ち通し。ひとり占め。

mucicirijaˈa①(名) 独立家屋。一軒の家。

mucicirisiˈgutu①(名) ひとりでする仕事。独占してする仕事。

mucidee①(名) 持ちこたえる力。持久力。tee はたえる力。

muciee①(名) 持病。

mucigumi①(名) 餅米。

mucihandi=juˈN①(他 =ran, =ti) (身を) 持ち崩す。墮落する。handijun は外れる。duu ~。身を持ち崩す。

mucii①(名) [無系] 系図のないこと。平民で系図がなく、身分の低いこと。また、その者。平民はほとんどが無系であるが、功勞によってあなたに系譜を与えられることがあった。たとえば、音楽家の ciniN miihagii は平民で無系であったが、音楽の功勞により歌氏を与えられた。

mucijuku①(名) 物欲。金銭・財産への欲望。ʔirujuku (色欲), muNnujuku (食物への欲) と合わせて sanjuku (三欲) という。

muçikasjan①(形) ①むずかしい。困難である。やりにくい。②(病人が)危い。③機嫌をとりにくい。気むずかしい。④非凡である。偉い。muçikasii qcu. 非凡な人。すぐれた人。

mucikeekamiˈkee①(副) 持ちかえたり、頭にのせかえたりするさま。ああ持ったりこり持ったり。kami-<kamijun。また、あっちへやったり、こっちへやったり。ああやったり、こりやったり。

mucikwaa=rijun①(=-riran, =qti) mucikwajun の受身。

mucikwa=jun①(他 =aN, =ti) ①(馬・荷・才能などが人を)引き回す。ʔnmanu qcu ~。馬が人を引き回す。şeeni mucikwaa-qti. 才能に引き回されて。②熱中させる。傾倒させる。夢中にする。多く、受身の形で用いる。mucikwaaqti munun kaman. 熱中して飯も食わない。

mucimee①(名) ①自分の持っている分。持ち分。負担分。持つ義務のあるもの。②自分が祀るべき祖先。

mucinasi①(名) ①持ちかた。手入れ。cin-nu ~。着物の手入れ。kugani saci 'utin nanza saci 'utin cimunu ~du kazai sarami. [黄金さちをても 白銀さちをても 肝の持なしど かざりさらめ] 金のかんざしをさしていようと、銀のかんざしをさしていようと、心の持ちかたこそ飾りになるものだ。②世話。tusjuinu ~。年寄りの世話。

mucinii①(名) 手に持てる程度の荷物。手にさげる荷。手荷物。kaminii より軽い。

mucinoo=juˈN①(自 =ran, =ti) (病状などが) 回復に向かう。持ち直す。'janme-enu ~。病気が持ち直す。

mucinoo=sjuˈN①(他 =san, =ci) 持ち直す。(病状などを) 回復に向かわせる。'janmee ~。病気を持ち直す。

mucinuižeeku①(名) 左官。

mucinujaa①(名) 左官。mucizeeku ともいう。-nujaa は塗る者。

mucin①(名) 無賃。乗物などで料金を払わないこと。

mucin=cun①(他 =kan, =ci) 持ち込む。

muciqkwa①(名) 持ち過ぎ。負担過重。

muçiri①(名) 男女が互いに離れられない仲になること。

muçiri=jun①(自 =ran, =ti) ①(男女が)

仲よくなって、離れられなくなる。「陸る」と関係ある語。陸まじくなりすぎる。
 ⊖* [文] (糸などが) もつれる。口語では 'Nzarijun という。
mucisaNⓐ (形) 粘っこい。粘り気がある。ねばねばしている。kunu 'jaNmucee mucikoo neeraN. この鳥もちには粘りがない。
mucitukaasjaⓐ (名) 男女の仲のよい密な関係。餅とそれを包む葉のように離れない関係。
mucizeekuⓐ (名) 左官。muci はしっこい。mucinujaa, mucinuizeeku ともいう。
mu=cuNⓐ (他 =taN, =Qci) ⊖持つ。手に持つ。また、所有する。維持する。受け持つ。⊖ とつぐ。(女が) 結婚する。また、子供ができる。'utu ~。(女が) 結婚する。とつぐ。Qkwa ~。子供ができる。妊娠する。また、出産する。maada mutani. イまだ嫁に行かないのか。ロ。まだ子供ができないのか。⊖ (自) もつ。持続する。
mu=cuNⓐ (自 =taN, =Qci) むくむ。はれてふくれあがる。mukunun とやや異なり、全体がふくれてはれあがる場合をいう。çiraNkai muQcooN. 顔がむくんで、はれあがっている。hwisjaNkai muQcooN. 足がむくんで、はれあがっている。
mudiⓐ (名) 三味線 (saNsIn) のねじ。karakui, ziihwaa ともいう。
mudi?ajaⓐ (名) 白糸と黒糸とをより合わせて織った模様。mudi-<mudijun。
mudiçinki=ju`Nⓐ (他 =raN, =ti) ひねったり、つねったりする。çinkijun はつねる意。
mudi=juNⓐ (=raN, =ti) ⊖(他) よじる。指先などでねじる。ひねる。⊖(自) ねじれる。よじれる。また、(人間が) ひねかれる。すねる。
mudikeera=sju`Nⓐ (他 =saN, =ci) ひねり倒す。ねじり倒す。
mudiku=juNⓐ (自 =raN, =ti) もつれる。

(糸・藤の枝などが) もつれあり。
mudimuciⓐ (名) 祭祀用の餅の名。細長い餅にきなこをつけたもの。ひねりもちの意だが、別にひねってはない。あずきをまぶした hucagi という餅と形が似ている。
muditoo=sju`Nⓐ (他 =saN, =ci) ひねり倒す。ねじふせる。
mudu=cuNⓐ (他 =kaN, =ci) さからう。そむく。反抗し非難する。「もどく」に対応する。muduci mudukaran. (親などに) さからおうとしてもさからえない。
muduiⓐ (名) 戻り。帰り。
mudu=juNⓐ (自 =raN, =ti) ⊖戻る。帰る。YicuN (行く) の反対の運動を表わすには keejun よりも mudujun を多く用いるようである。⊖離縁となって里へ戻る。
mudu=juNⓐ* (自 =raN, =ti) もとる。そむく。反抗する。?ujan kai ~。親にそむく。
muduru=cuNⓐ (自 =kaN, =ci) 「もどろく」に対応する。⊖老衰して視力が衰える。物がぼっとしか見えなくなる。⊖決めかねる。判断に迷う。ためらう。
-mudusi (接尾) 往復の回数を表わす接尾辞。cumudusi (一往復), tamudusi (二往復) など。
mudu=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) ⊖戻す。返す。帰す。?ujanu kutuba ~。親のこトバを返す。⊖戻す。吐く。
muceeⓐ (名) [模合] 無尽講。頼母子講。'juree ともいう。年一回開くものは niNmucee, 月一回開くものは çicimucee という。
mugakuⓐ (名) 無学。musaN ともいう。~na muN. 無学な者。çimiN siran muN ともいう。
mugeeⓐ (名) おもがい。馬具の一つ。馬の頭からくつわにかける組みひも。また、駄馬には木製のものをを用いる。
mugee=juNⓐ (自 =raN, =ti) 沸騰する。わく。煮え立つ。sirunu ~。汁が煮え立

mugun

つ。'watanu ~. はらわたが煮えくりかえる。非常に立腹する。

mugun① (名) 無言。

muhoo① (名) 無法。規律などに反すること。~na muN. 無法者。

muhun① (名) ①謀叛。②反抗。~na muN. 反抗的な者。šizankai ~ Qsi; 兄に反抗して。

muhunin① (名) ①謀叛人。②反抗的な者。反逆的な者。

mui① (名) ①muijaku と同じ。②子守りをする。お守り。~ sjun.

mui① (名) [森] 丘。山。土が盛り上がって高くなっているところ。'jama は林を意味する。saN はそびえて山らしい地形をしたもの、taki は拜所のある山をいう。ʔanu muee takazaN natooN. あの丘は高くそびえている。ʔunnadaki ʔagata satuga ʔnmarizima, ~N ʔusinukiti kugata nasana. [恩納岳あがた 里が生れ島 森も押しかけて こがたなさな] 恩納岳のあちら側は恋しいかたの生まれ故郷である。山(恩納岳)をも押しかけてこちら側にしたいものだ。

-**mui** (接尾) [文] 殿。様。人名に付き、敬意を表わす接尾辞。ʔikusamui [いくさもい](英祖王の幼名), ʔuzagamui [おぎやがもい] (尚真王の幼名) など。口語の ʔumee, ʔajaamee などの -mee, および 'jakumii などの -mii と語源を同じくするものか。tujumu zanamuiga zanaʔwibaru nubuti kiʔagitaru cijunu tamanu curasa. [とよむ謝名もいが 謝名上原のぼて 獻上げたる露の 玉の清らさ] 名高い謝名の按司様が謝名上原に登って、散らした露の玉の美しさよ。

muigwaa① (名) 小さい丘。小山。

muijaku① (名) 身分の高い子弟のもり役。身分の高い子弟の身のまわりの世話をする役。

muikubana① (名) まつり(muikwa)の花。芳香高く、茶に入れて賞味する。tiN-sjagunu hanaja ʔweguNsjori ʔwemunu, ~ kubana satuga ʔwemunu. [てんしやごの花や ろえぐんしよりおや物むいく花小花 里がおや物] ほりせんかの赤い花はお嬢様の物、まつりの白い花は御主人の物。奉公人が主家の庭をほめた歌。(男女の陰部を庭の花にたとえたものか*)

muikuci① (名) もいだ跡。果実などをもぎとった箇所。

muikwa① (名) 植物名。もりか。もりりんか。まつり。ジャスミンの一種。もくせい科に属し、葉は光沢ある円形。花は白く芳香がある。花を茶に入れて賞味する。

muiniNsi=ju ʔN① (他 =raN, =ti) もりをして寝かせる。muiniNsirariiru gutooN. もりをされながら眠る時のようだ。こちよく眠りにつく場合にいう。

muin=cuN① (自 =kaN, =ci) (心身が) ぐったりする。(非常に眠い時、疲れはてた時などに) 体が地にめりこむように感じる。

muin=cuN① (他 =kaN, =ci) (果実などを) 盛んにもぐ。どンドンもぐ。

muitati=ju ʔN① (他 =raN, =ti) (子) おもりして育てる。立派におもりをする。

muitati=juN① (他 =raN, =ti) 盛り立てる。盛り上げる。

muizukwaasi① (名) 法事の時、盆に盛る各種の菓子。kusciiʔukwaasi, hanabooru, sooʔuburu, ciNsunkoo など。いずれもその項参照。

mujaa① (名) ①子もり。子もりをする者。qkwamujaa ともいう。②かつて、自分の子もり(qkwamujaa)であった者。

mujaga=juN① (自 =raN, =ti) 盛りあがる。

mujamuja① (副) 蠢動するさま。虫などがむらがって動くさま。らようよ。~ sjun.

mujoo① (名) ①模様。様子。状態。②模様。織物・染物などの模様。

mujui① (名) 最寄り。近くの便利なところ

ろ。～nu basju. 最寄りの場所。～～ni ʔaqimari. それぞれその最寄りの場所に集まれ。

mujuku① (名) 無欲。欲のないこと。～na muN. 欲のない者。

mu=juN① (自 =raN, =ti) 漏る。すきまから漏ってこぼれる。

mu=juN① (他 =raN, =ti) (果実を) もぐ。

mu=juN① (他 =raN, =ti) 盛る。盛り上げる。飯を盛る意では ʔirijun という。

mu=juN① (他 =raN, =ti) 子もりをする。qkwa ～. 子供のもりをする。

mujuu① (名) 無用。～na. 無用な。

mujuuḡtu① (名) 無用な事。

mujuuḡsi① (名) ⊖催し。企てて行なう行事。⊖きざし。sanmujuuḡsi は産気づくこと。

mujuuḡsimuN① (名) 催し物。

mujuu=sjuN① (=saN, =ci) ⊖(他)催す。催し物をする。⊖(自) きざす。(病気などが) 発生しかかる。(便宜などを) 催す。kasanu mujuucooN. できものができかかっている。

mukataa① (名) 容貌の醜い者。kata (型) の無い者の意。

mukizi① (名) 無傷。傷のないこと。また、欠陥のないこと。～na muN. 無傷なもの。欠陥のないもの。

mukoo① (名) 額。ひたい。

mukoobaree① (名) 先方払い。受け取り人払い。

mukookizi① (名) むこう傷。額の正面にうける傷。

mukoosiruu① (名) (牛・馬・犬などの) 額の白いもの。

mukuduijumiḡdui① (副) ʔjumiduimukudui と同じ。

mukuʔin① (名) むく犬。むく毛の犬。

mukuʔiri① (名) 婿入り式。結婚の日に、花婿が花嫁の家に招待されて行く式。婿は

mukuʔiri といっしょに行き、花嫁の家では sooba (接待役) の接待により宴を催す。式がすむと sooba 以外の親類の者が次々と婿に酒をすすめる。婿を見に近隣の者が大勢押しかけて、しばしば大騒ぎになる。

mukui① (名) 報い。応報。悪の報いをいり。～ kanzun. 報いを受ける。

mukujoosi① (名) 婿養子。娘に婿を迎えて養子にすること。また、その養子。

mukumi① (名) 木目。木材の年輪。

mukumui① (名) 銭600文。1銭2厘に当たる。ziN (銭) の頂参照。

muka=nuN① (自 =maN, =di) むくむ。mucun とやや異なり、全体がはれてふくれあがるというほどではない。çiranu mukudoon. 顔がむくんでいる。

mukuruku① (名) 目録。

mukurumi① (名) もくろみ。企て。胸算用。

mukuru=nuN① (他 =maN, =ji) もくろむ。企てる。

mukuʔiri① (名) 結婚の日、mukuʔiri (その頂参照) に際して、婿の付添い役として嫁の家に行く役目の者。縁起のよい者が選ばれ、子供のない人・再婚した人などは避けられる。

mukuʔooi① (名) mukuʔiri と同じ。

munti① (名) 靱。

mumigutu① (名) もめ事。争い事。

mumiN① (名) 木綿。

mumizi① (名) [文] 紅葉。沖縄では hazi (はぜの木) のほかには、ほとんど紅葉するものがなく、年中青々としている。ʔisugu mici ʔjuduti miru huduN curasa, ʔuciganikujamanu hazin ～. [急ぐ道よどで 見る程もきよらさ 内兼久山の櫃の紅葉] 内兼久山のはぜの木の紅葉は急ぐ道を立ち止まって見るほど美しい。

mumu① (名) 股 (もも)。足の上。～nu

mumu

çicikuci. ももの付け根。

mumuⓐ (名) [文] 百。また、たくさん。
nasigwa hujakarinu ~nu kurisja.
[なし子ふやかれの 百の苦しや (銘荊子)] 生みの子と別れることの大きな苦し
さよ。

mumuⓑ (名) 楊梅。山桃。'jamamumu と
もいう。実は赤く、春の清明祭(?usiimii)
のころ盛りとなる。美味で、塩漬けにし
て、年中、茶請けにする。中頭郡越来村の
山内および諸見里あたりに多く産する。桃
(水蜜桃)は kiimumu という。

mumu-(接頭) [文] 百, または, 多くの・
大いになどの意を表わす接頭辞。mumu-
tu (百年), mumuzana (多くの按司),
mumukakusikakusi (ひた隠しに隠して)
など。

mumuciⓐ (名) [文] 命。tuin nacišimiti
'akigumun tacui, njamata ŋiçi 'ugadi
~ nubjuga. [鳥も鳴きそめて 明雲も立
ちゆりにやまた何時をがで 百き延びゆ
が] 鳥も鳴きはじめて夜明けの雲も立っ
ている, 今度はいつお会いして命を延ばせる
だろうか。

mumudakabiⓐ (名) [百田紙] 紙の一種。
大きさは半紙よりやや大きく, 美濃紙より
やや小さい。こうぞ (kabigi) 製。役所の
記録用などに用いた最も普通の紙。hja-
kudasi ともいう。

mumugahuuⓐ (名) [文] たくさん の 果
報。大きな幸運。ŋimijacon 'ndaŋ mu-
mugahuu çiaru. [夢やちやらん見だぬ
百果報どつちやる (銘荊子)] 夢にも思わ
ない, 大きな幸運が舞い込んだ。

mumu'kakusika'kusiⓐ (副) [文] ひた
隠しに隠して。'jaçimatano kurani ~
'aru kutuju cikiba. [入つ侯の倉に も
も隠し隠し あることよ聞けば (銘荊子)]
入つまたの高倉に (羽衣が) ひた隠しに隠
してあることを聞いたので。

mumumaqkwaⓐ (名) ひとのももを枕に
すること。ひざ枕。

mumunuciⓐ (名) ももひき。

mumusukwaaⓐ (名) (長く歩いたあとな
どに) ももが痛むこと。

mumutuⓐ (名) [文] 百年。また, 百歳。
mumu は「百 (もも)」, -tu は cutu
(一年), tatu (二年) などと同様, 年を表
わす接尾辞。~ ŋiçimadin. [ももとい
つまでも] 百歳までも。

mumuŋuiŋawaaⓐ (名) 楊梅 (mumu)
を売る娘。宜野湾村の大山, 真志喜あたり
の娘たちが買い出しに行き, 首里・那覇な
どを売り歩いた。

mumuzuŋwaasiⓐ (名) 桃の形に作った祭
祝用の菓子。

mumuzanaⓐ (名) 多くの按司 (?azi) の
意。-zana は 'unazara [女按司], 'waka-
zara [若按司]の -zara と同じく按司の
意。~nu haka. 今帰仁村運天にある百按
司の墓。

munaŋkaⓐ (名) 六七日 (むなのか)。死
後 42 日目に営む法事。

muniiⓐ (名) munuŋii と同じ。sjuimunii
は, 首里風なことば使い。

munuⓐ (名) (mun) ともいう。ただし ⊕
の意では munu を多く用いる。なお接尾
辞としては -mun を用いる。) ⊕食べ物。
食事。飯。~ kanun. 飯を食う。munoo
maasami. 飯はうまいか。病人を見舞う時
のことば。食欲があれば病状がよいのでい
う。~ sjuŋ: 食事のしたくをする。⊖者。
maanu ~ga. どこの者か。⊖物。物質。
⊖もの。物事。事物。~ ŋubitikara. 物心
がついてから。munoo ŋumaan. ものを思
わない。思慮がない。苦勞がない。~ sju-
ŋ. 物事の道理を知る。苦勞する。~ sira-
sarjun. 罰せられる。~ ŋjasimiran. も
のも言わせない。munoo naran. ものにな
らない。成功しない。~N kutun neen. な

にもものを言わない。～N kutuN ʔumaraN. 何事も思ふ余裕がない。どうしていいかわからない。munoo ʔjuu ʔjuru mun. (事実はことばの通りになるので) ことばは縁起よく言うべきものだ。㊦魔物。もののけ。～ni mutarijun. 魔物につかれる。神隠しに会う。

-munu (接尾) [文] 活用する語の「短縮形」(apocopated form) につく。㊦ものを。ʔwamin murutumuni naraN sjumunu. [我身も諸共に ならんしゆもの] 私ももろともになろうものを。㊦のに。ʔjaminu ʔjunu garaši nakanmunu sijumi. [闇の夜の鳥 鳴かんもの知ゆみ] 闇の夜の鳥が鳴かないのに、知るものか。㊦から。ので。ʔjaminu ʔjunu hwitun nisizimati ʔumunu, ʔuzoni ʔNzimisjori kataribusjanu. [闇の夜の人も 寝静まで居もの 御門に出ちみしやられ 語ればしやの] 闇の夜で人も寝静まっているから、御門に出ていらっしゃい。語りたいので。

munuʔakašee㊦ (名) 物を言い当てる遊び。考え物。なぜなぜ。

munuʔatarasja㊦ (名) 物を大事にすること。大切にしてくれ。～ sjun.

munubuzoo㊦ (名) [古] [物奉行] 庶藩前の役名。財務長官に当たる。zuuguniN-sjuu [十五人衆] に属し、三人いた。

munugarii㊦ (名) 豚の飼料。

munugatai㊦ (名) 話。談話。物語は ʔnka-simunugatai という。～ sjun. 話をする。

munugataiziʔci㊦ (名) 話し好き。

munugusi㊦ (名) 食物の好ききらいをすること。

munuhacibusjan㊦ (形) 吐き気がする。胸がむかつく。

munuhusja㊦ (名) 物を欲しがること。物欲しそうにすること。また、食物を欲しがること。～ sjun.

munuhusjagisaN㊦ (形) 物欲しそうである。

munuʔii㊦ (名) ことばつき。ことば使い。

munuʔiigwii㊦ (名) 話し声。話す声。taruumunuʔiigwii ʔjanaN. 太郎の話し声だった。

munuʔiihazimi㊦ (名) 小児のことばの使い始め。

munuʔiikata㊦ (名) ものの言い方。ことばの使い方。話し方。

munuʔiinaci㊦ (名) ものを言いながら泣くこと。泣きながら言うこと。

munuʔiiniisaN㊦ (形) (小児が) ことばを使い始めるのが遅い。

munuʔiitanari㊦ (名) ものの言いかた。

ことばつき。話しぶり。tanari は風采。munuʔiitawaʔree㊦ (名) 談笑。話したり笑ったりすること。

munuʔiizoʔozi㊦ (名) 物言い上手の意。挨拶・応待などがうまいこと。話し上手。

munuʔimi㊦ (名) 食べ物を欲しがること。ʔimi-<ʔimijun (催促する)。

munuʔiri㊦ (名) ものいり。入費。munuʔirimi と同じ。

munuʔirimi㊦ (名) ものいり。いりめ。入費。大勢の来客など費用のかかること。

munujoocigiʔsaN㊦ (形) (人・器物が) 弱い。きゃしゃである。こわれそうに見える。munujoogisaN ともいう。

munujoogisaN㊦ (形) munujoocigisaN と同じ。

munujumaa㊦ (名) おしゃべり。饒舌家。munujunaa ともいう。-jumaa < ʔjunun.

munujunaa㊦ (名) munujumaa と同じ。

munukangee㊦ (名) 思索。思索。～ sjun.

munukukunʔabii㊦ (名) ふくみ声。口に何かふくみながら言うような声。

munukuui㊦ (名) 物乞いをすること。

munukuujaa㊦ (名) こじき。

munukweemuuku㊦ (名) ごちそうにばか

munumaii

りなつて結構な婿。婿は嫁の家で大事にされ、ごちそうになるばかりで結構だという時使う語。

munumaii①(名) 精神異常で家出してゆくえ不明になること。神隠し。魔物に迷う意。mununi mutarijun ともいう。

munumi①(名) 物見。物見台。貴人の屋敷に設けられた。

muumigau①(名) 心配顔。物案じ顔。nugaši tamakugani ~ sicoru, 'jubi 'ncaru ŷiminu 'wazimu kakati. [のがす玉黄金 物思顔しちよる タベ見ちやる 夢の 我肝かかて] 愛兒よ、どうして心配顔をしているか。昨夜見た夢がわたしの気にかかる。

mununuŷatu①(名) 食後。

mu=nun① (=maN, =di) ①(他) もむ。mi-mizun ともいう。②(自) もめる。miitun-danu ŷiqeiNnu mudooN. 夫婦間の事件がもめている。

munusirari①(名) [文] 案内を乞うこと。問にかけて、応待を乞うこと。kunu 'jadunu ŷucini ~ sjabira. [この宿のうちに 物しられしやべら(執心鐘入)] この家にいる方に案内を乞うて泊めてもらいましょう。

munusirasidu'kuru①(名) 苦勞を知らせるところ。苦勞の多いところ。また配所。takahanarizimaja ~, nja munu sija-bitan 'juruci tabori. [高離島や 物知らしどころ にや物知やべたん ゆるちたばうれ] 高離島は苦しみを教える配所、もう充分苦しみました。許して下さい。

munusiri①(名) ①物知り。博識な者。②易者。

munusoodan①(名) 相談。~ sjun. 相談する。

munusugai①(名) 食事の支度。

munuŷubi①(名) 物覚え。記憶。

munuŷumii①(名) 物思い。悲嘆に暮れる

こと。

munuŷumiigisan①(形) 物思いに沈むようすである。心配がありそうである。munuŷumiigisakuN neeN. 何の心配も知らず、あどけない。無邪気である。

munuŷutu①*(名) ①物音。主として、不幸などを知らせる予言的な音をいう。前兆となる音。きねの音・念仏鉢の音などは死の前兆、騒音は火事などの前兆とされる。~ nu ŷatan. 前兆の音があった。②病人のある家などで、のこぎりの音・釘の音・その他縁起の悪い音を立てないようにすること。また、その期間。namaa ~ 'jan. 今は音を禁止する期間だ。③ŷindumijamadamu と同じ。

munuŷutusi①(名) 落とし物をする事。

munuŷuzi①(名) 物怖じ。物事をこわがり、恐れること。

munuwaree①(名) 物笑い。人に嘲笑されるようなこと。

munuwaši①(名) 物忘れ。munwaši ともいう。

munuzici①(名) 物好き。変わったものを好むこと。また、そのような者。munzici ともいう。

mun①(名) munu ともいう。その項参照。~ najun. イ. 成人する。人となる。立派になる。ロ。(腫れ物が) 大きくなり、かさになる。ハ. 熟する。~ nasjun. イ. 人となす。成功させる。ロ. 熟させる。~ naraasjun. しつける。家庭で礼儀作法を教える。~ nareehatitindicee neeN. ものを学び尽くすということはない。②(接尾) 物・者・食物・食事などの意。ŷaree-mun (洗い物), nooimun (縫い物), sirabimun (調べ物), sutumitimun (朝飯), 'jahwaramun (体の弱い者), duucuumun (ひとり者) など。

mun①(名) [文] 門。普通は zoo という。

muN① (名) 紋。家の紋所。
 muN① (助詞) よ。もの。さ。「連体形」に付く。Yicuru ~. 行くよ。Yikan ~. 行かないさ。
 muNbaan① (名) [文・新] 門番。普通には zoobaan という。
 muNcaui① (名) 悶着。もめごと。
 muNceni① (名) 農作物の種。種子。
 muNcan① (名) ちび。小人(こびと)。また、小さい子供など。
 muNçiki① (名) [新?] 紋付。紋付の羽織。
 muNciin① (名) 木戸銭。芝居などの入場料。
 muNcuu① (名) [門中] 一族。一門。一族中。
 muNcuubaka① (名) 一門の共同の墓。
 muNcuuzarii① (名) 一門全体の集会。suriiri は集会。
 muNdakun① (名) 悪だくみ。謀略。
 muNdani① (名) 餌。漁獵などで用いる餌。
 muNdašii① (名) 首里城の建物の名。Yugušiku の項参照。
 muNdoo① (名) [問答] 口論。いさかい。けんか。~nu Yahjaa. けんかの発頭人。
 muNdoohwi'ndoo① (名) けんか口論。いざこざ。~ sjuN.
 muNgawai① (名) 貨幣価値の変更。平価切り下げ(切り上げ)。
 muNguci① (名) 木戸口。芝居の入り口。
 muNgun① (名) [文言] 文章。論文。~ çukujun. 作文する。~ kacun. 文章を書く。
 muNgwaa① (名) ちび。小さい者。おとなで体の小さい者をいう。
 muNmi① ⊖(名) 量目。匁で計る重さ。~nu Yami. 量目はあるか。⊖(接尾) … 匁。Yicimunmi (一匁), nimunmi (二匁) など。
 muNnaku① (副) もみくちゃ。くしゃくしゃ。~ natooru kabi. しわくちゃの紙。

muNnakukwa'nnaku① (副) もみくちゃ。くしゃくしゃ。muNnakwanna ともいう。~ natoon. もみくちゃだ。
 muNnakwanna① (副) muNnakukwan-naku と同じ。
 muNnami① (名) 首里城の建物の名。Yugušiku の項参照。
 muNnaraasi① (名) 家庭での教育。しつけ。家庭で礼儀作法などを教えること。
 muNnaree① (名) 礼儀作法を学ぶこと。しつけを受けること。
 muNnuYati① (名) 思慮。用心深さ。危険に対する用心。いざという時の心がまえ。muNnuYatee neen. 危いことを恐れる心がない。危険を知らない。
 muNnuYatu① (名) mununuYatu と同じ。
 muNngooçuci① (名) 食べ物の不平。
 muNnuYirihui① (名) 食べ物の好ききらい。食べ物の不平。
 muNnujuku① (名) 食べ物に関する欲望。食欲。sjukujuku ともいう。Yirujuku (色欲), mucijuku (物欲) とあわせて sanjuku (三欲) という。健康の目安としての食欲の意ではあまり用いない。病後に起きる食欲は sakaaci という。
 muNnuki'muN① (名) 魔よけ。護符。お守り。
 muNnumee① (名) 食事の前。食前。
 muNnuzibuN① (名) 食事時。時分時。
 muNpa① (名) 紋羽。裏地に使用する木綿の厚い布。
 muNwaši①* (名) munuwaši と同じ。
 muNzaai① (名) かぶれてなる皮膚病。蕁麻疹。kazoorimuN のたぐい。muN は魔物の意。
 muNzici①* (名) munuzici と同じ。
 muNziree① (名) 病気の時、食べてはいけなるとされるもの、また、食べてはいけなると禁じられること。
 muNzuru① (名) 麦わら。

muNzurugasa

- muNzurugasa① (名) 変わらで作った笠。
muNzuruu① (名) 変わらで作った笠。麦
わら帽子をもいう。
muQcaihwiQ¹cai①* (副) muQcoohwiQcoo
と同じ。
muQcaikwaQ¹tai① (副) ねばねば。べとべ
と。mucamuca より一層粘るさま。～
sjun.
muQcaka=ju¹N① (自 =raN, =ti) 粘りつく。
粘ってくっつく。iaQcakajuN ともいう。
muQcirugeei①* (副) 大勢がいっしょに騒
ぐさま。がやがや。～ sjun.
muQcoohwiQ¹coo① (副) はかどらないさ
ま。手間どるさま。もたもた。～ sjun.
muQcoori=ju¹N① (自 =raN, =ti) (仕事な
どが) 手間どる。はかどらない。muru
sigutunu muQcooritooti. 全く仕事が手
間どつていて。
muQeurugeei① (副) 押えようとしても押
えられないさま。なかなかつかまらないさ
ま。逃げる子・うなぎなどについている。
～ sjun.
-muQkoo (接尾) …なし。体のある部分が
切れてなくなった者、もげてなくなった者
の意。tiimuqkoo (手が切れて、ない者)、
hwisjamuqkoo (足のない者)、zuumu-
qkoo (尾が切れて、ないもの) など。類
義の接尾辞に、-moo, -mookuu, -moo-
kaa などがある。それぞれの項参照。
muQkuu① (名) ⊖つぼみ。⊖小さい実。草
木の実。果実など、大きい実は nai とい
う。
muQpara① (名) もっぱら。そのことばかり。
Yicui ~ 'jan. 権勢のみをふりまわし
ている。Pariga simaa cikara ~, nuun
tijja neeran. 彼のすもうは力ばかりで、
何も手はない。
muQtai① (名) 六人。「むたり」に対応す
る。rukuniN を多く用いる。
muQtu① (副) 全然。全く。少しも。～

- miiran. 全然見えない。
muQtuN① (名) もっとも。道理至極。～na
kutu. もっともなこと。～ 'jan. もっと
もだ。
mura① (名) 村。村落。もと、周切制の時
には、周切(maziri)の中の個々の部落が
行政上の村(mura)であった。市町村制に
なつてからは、一つの周切、あるいは周切
をいくつか合わせたものや周切を二分した
ものなどが行政上の村となつた。
muraʔaʂibi① (名) 村芝居。旧暦 8 月 15 日
の夜などに、各村で催した。
murabaree① (名) 村払いの意。村から追
放すること。悪事を働いた者などをその家
族とともに村から追放したもの。
muragai① (名) 村の共同井戸。
muragani① (名) 村の銅鑼。形はいろい
ろあるが、丸い盆の形のものが多く、ぼち
で打ち鳴らす。綱引き(çinahwici)その他
の催し物の時、打つて氣勢を添える。
muragaQkoo① (名) [村学校] 首里・那覇
の各村に置かれていた学校。もっぱら漢籍
を教えた。また、その村の事務所を兼ねて
いた。
muragasira① (名) [村頭] 村がしら。任命
制である ʔuQci に対し、村民の代表とな
る者。部落代表。suugasira (部落全体の
代表) と kumigasira (組ごとの代表) よ
りなる。また、首里の村がしらは ziigasi-
ra といった。
muragumuçi① (名) 村有物。
muragutu① (名) 村全体の事件。また、村
のためにする事。
murahazisi① (名) 村はずれ。
murajaa① (名) [村屋] 村役場。村の事務
を執つた所。
murajaadu① (名) [村宿] 各村の人が首
里・那覇に出た時、泊まる宿。各村ごとに
宿が決まっていた。村の指定の宿。
muramuci① (名) 費用を村で負担するこ

- と。村もち。kwaNmuci (政府負担), duumuci (自己負担) などに対する。
- murasaci**① (名) 紫。色の名。
- murasacihaci`maci**① (名) 紫のかんむり。按司 (ʔazi) が用いる。hacimaci の項参照。
- murazakee**① (名) 村境。村界。
- murazurii**① (名) 村中の人が集まること。村民の集会 (surii)。
- murazuu**① (名) 村中。村全体。～nu qcu. 村中の人。～nu ziNmi. 村全体の協議。
- muri**① (名) 無理。～na kutu. 無理なこと。～ni hataracun. 無理に働く。～ʃi-runu ʔuciju nasakibakari. [無理するな浮世 情ばかり] 無理するな、浮世は情に満ちている。
- muri=juN**① (自 =raN, =ti) ⊖(光・うわさなどが) 漏れる。水については多く mujuN というようである。⊖脱落する。行き渡らない。
- muru**① (副) ⊖皆。全部。～miitooN. 全部生えた。kuqsasaani ～ʔjan. これで全部だ。⊖まるで。全く。全然。～siran. 全く知らない。
- murubisja**① (名) 両足。
- muruduqciri**① (名) かすり模様 (tuqciri) だけの布地。他の縞のまざらないもの。女の着物にする。那覇では kuzirigooisii という。縞の間にかすりのあるものには ʔajannaakaa という。
- muruhaku**① (名) muruhwaku と同じ。
- muruhu**① (名) [文] 諸帆の意。両方の帆。katahu (片帆) に対する。その項参照。
- muruhwa**① (名) 両刃。
- muruhwaku**① (名) 諸白 (もろはく)。最上等の酒。muruhaku ともいう。
- murunooi**① (名) 全治。病気の全快。
- murun**① (名) もろみ。酒・しょうゆのもろみ。
- murunGa`ami**① (名) もろみを入れるかめ。
- murunZatu**① (名) 諸見里。《地》参照。
- murusaageejaa**① (副) ごろごろ。かたまりがあるさま。ʔisinu ～sjooru mici. 石がごろごろしている道。mucinu ～Qsi maakoo neeraN. 餅にかたまりがあっておいしくない。
- murusi**① (名) かたまり(塊)。
- murusigee=juN**① (自 =raN, =ti) かたまりができる。かたまりがある。murusigee-tooru ʔukee. ごろごろかたまりのあるおかけ。
- murutumu**① (名) [文] もろとも。口語では mazun (いっしょ) という。
- muruwaii**① (名) 丸忘れの意。すっかり忘れること。
- musagee=juN**① (自 =raN, =ti) にぎやかに騒ぐ。ざわめく。さんざめく。
- musaN**① (名) 無学。無算の意。mugaku ともいう。hwiqsan に対する。平民についていう。平民の枕詞のように使われた。～na hjakusjoo. 無学な平民。
- musaqtu**① (副) 毛頭。少しも。～siran. 少しも知らない。
- musi**① (名) ⊖虫。昆虫、くもなど。⊖腹の虫・けんかの虫などの場合の虫。～ʔukusjun. (少しだけ食べると腹の虫を起こして) かえって食欲を起こす。～kuujuN. むやみにけんかをしたが。同じことを ʔoomusi kuujuN ともいう。
- musi**① (副) もし。かりに。musika ともいう。～tiNcinu ʔjutasaraa ʔicusa. もし天気がよかったら行くよ。
- musiba**① (名) [新] 虫歯。musikweebaa ともいう。
- musibaa=juN**① (自 =raN, =ti) [古] mu-

muşibun

subaajun と同じ。

muşi=buNⓐ (他 =baN, =di) [古] musu-bun と同じ。

musicıⓐ (名) ⊖回虫などによって起こる病気。⊖虫気。子供の種々の病気をいう。

musigusuiⓐ (名) 虫下し。旧暦4月, ʔabusibaree (その項参照) のころ, na-coora (海人草) を虫下しとして, 家族全員が煎じて飲んだり, または, 雑炊に入れて食べたりする。

musijoogariⓐ (名) 幼児の栄養不良。虫気。musicı (小児結核など) で体が衰えること。

muşi=juNⓐ (他 =raN, =ti) むしる。つかんで引き抜く。karazi ~. 髪をむしる。kusa ~. 草をむしる。

musikaⓐ (副) もしか。もしも。ʔarigadun ~ 'wasatadun sjuraba ʔawarinacutandi katati tabori. [あれがどうももしか 我沙汰どうしゆらば あわれ泣きゆたんで 語てたばうれ] 彼女がもしかわたしの話でもしたら, かわいそうに泣いていたと言っして下さい。~nu kutunu ʔainee. もしものことがあったら。

musikuciⓐ (名) 失業。

musikweeⓐ (名) 虫食い。虫に食われていること。また, そのもの。たとえば, 甘藷などをいう。

musikweeba'aⓐ (名) 虫歯。musiba ともしう。

musimikaganⓐ (名) 虫めがね。中国から輸入され, 易者などが用いた。

musinⓐ (名) 毛布。ケット。

musiri=juNⓐ (自 =raN, =ti) 破れてぼろぼろになる。むしられたようになる。

musiruⓐ (名) むしろ(蓆)。biigumusiru (備後表のむしろ), 'iimusiru (琉球表のむしろ), ʔadanibaamusiru (阿旦の葉のむしろ), 輸入された hanamusiru (花むしろ), toomusiru (籐むしろ) などがあ

る。ʔanbarunu nareja ʔadanibanu ~, sikaba ʔirimisjori sjuinu sjunume. [山原のなれや 阿旦葉のむしろ 敬かば入りめしよれ 首里の主の前] 山原のことで阿旦の葉のむしろしかありませんが, 敷いたらお入り下さい, 首里の旦那様。

musirubiiciⓐ (名) むしろごと引っ張ること。子供などがむしろに寝ている時などに, むしろごと引いて動かすこと。

musirusicaaⓐ (名) 妾の別名。寝ごさを敷く者の意。

musiʔudurukuⓐ (名) 啓蟄(けいちつ)。二十四節の一つ。

musiʔuturuuⓐ (名) 虫をこわがる者。虫ざらい。

musjooⓐ (副) 無性に。我を忘れて。~natan. 我を忘れた。

musjookusjooⓐ (副) 無性に。やたらに。musjoo の強意。

musjooŋiⓐ (副) 無性に。~ kamibusiku natan. 無性に食いたくなった。

musjootu'sjooⓐ (副) 無性に急いで。減法あわてて。~ natooru 'jooŋi. 減法あわてているようす。

musubaa=juNⓐ (自 =raN, =ti) 取っ組み合う。組み打ちをする。

musubiiⓐ (名) 契約。牛馬の売買の契約など。契約が成立した時, 相方で金を出し合って小宴を張るが, そのことをもいう。~ sjun.

musubikuubuⓐ (名) 料理名。結びこんぶの意。こんぶを結んで煮たもの。

musubizoomiNⓐ (名) そうめん的一种。そうめんを作る時, 乾かないうちに結んだもの。油揚げにして, 新年の料理に多く使う。

musu=buNⓐ (他 =baN, =di) ⊖(ひもなどを) 結ぶ。⊖(夫婦の縁を) 結ぶ。結婚する。契る。ʔaraN 'iN musudi. 結ぶべからざる男女の縁を結んで。musubaqtaru

mee naa, ʔatu naa. 結婚の前だったかね、あとだったかね。

-mutaaN (接尾) …遊び。いたずらすること・もてあそぶことの意。tiimutaan (手でいたずらすること), miʔimutaan (水遊び), hwiimutaan (火遊び), durumutaan (泥いじり) など。

mutaaNhwitaʼan① (副) もてあそぶさま。いじくり回すさま。～ sjuN.

muta=buN① (他 =baN, =di) もてあそぶ。いじる。miʔi ~. 水遊びをする。

mutaraNmuci① (名) 荷物・仕事・財産など、持てないものを無理に持つこと。～ ʔjateesa ʔjaa. 無理に持っていたんだねえ。

muteeisakeʼei① (副) 繁栄するさま。ʔumaNcuja suruti kaminigeju sjabira, migumi ʔaru mijuja muteisakei. [お真人やそろて ため願よしやべら 恵みある御代や もたえさかえ] 国中の人が揃って神に祈願をしましょう。恵みのある御代は栄えて行くのである。

mutee=juN① (自 =raN, =ti) ⊖(体が)太る。⊖茂る。繁茂する。⊖栄える。繁栄する。buteejun ともいう。

muti① (名) ⊖方。方向。方面。側。ʔjamatunu ~. 日本の方。⊖(接尾) 方。側。…の一団。…の一族。ʔamamuti (あっちの方, あっち側), maamuti (どっちの方, どっち側), sicamuti (下の方, 下側), ʔagarimuti (東の方, 東側), kusimuti (後の方, 後側), micimuti (道側), ʔjamatumuti (日本の方, 日本側), sjui-muti (首里の方, 首里側), caqcimuti (長男の側, 長男の一族), hwizamuti (比嘉側, 比嘉一族) など。

mutiʔama=sjuʼN① (他 =saN, =ci) もて余す。qkwa ~. 子をもて余す。

mutinasi① (名) 取り扱い。作りかた。kubanuwadu ʔjaʃiga ~nu ʔjutasja, ʔaçisa ʃidamasjuru tamanu ʔuciwa.

[蒲葵の葉どやすが もてなしのよたしや 暑さすだましゆる 玉の団扇] びろりの葉に過ぎないが、作りかたがよいので、暑さを柔らげる玉の扇である。

mutiwaka=sjuʼN① (他 =saN, =ci) ⊖手こずる。もてあます。⊖特別待遇する。(客・子供などを) 特に区別して遇する。

mutu① (名) [文] 許(もと)。そば。ʔujanu ~. 親許。tiçinu ~. 敵のいる所。

mutu① (名) ⊖元。元来。～nu karata. 元の体。⊖muutu と同じ。

mutu① (名) むとせ。六年。

-mutu (接尾) 株。本。もと。生えている植物を数える接尾辞。cumutu (一株)。

mutubiree① (名) 昔交際した人。昔なじみ。-biree < hwiree.

mutubu① (名) 本部。《地》参照。

mutubuzaci① (名) 本部崎。国頭地方の本部半島先端の岬。

mutudunai① (名) もとの隣。昔の隣人。

mutumi=jun① (他 =raN, =ti) [文] 求める。

mutuu=jun① (自 =raN, =ti) 長続きする。永続する。続けて…する。ʔanu ʔwinagutoo mutuutoomi. あの女とは長続きしているか。

mutuu=sjun① (他 =saN, =ci) [最通しゆん] 長続きさせる。永続させる。続けて…する。一つの仕事を長く続ける, 一つの物を長く使うなど。ʔanu ʔwazaa ʔarigamutuusijuusan. あの仕事は彼には長続きできない。ʔanu ʔwinagutoo mutuucoomi. あの女とは長続きさせているか。ʔunu nekutaibikeei mutuuci çilcajun. そのネクタイばかり続けて使う。

muu① (感) む。むっつ。声を出して数える時にのみいう。

muu① (名) 藻。水中・海中の藻。

muuçi① (名) 六。むっつ。また, 六歳。時刻は muçi という。

muucii

muuciiⓄ (名) [鬼餅] 旧暦12月8日, 子供たちに餅を作って与える行事。また, その時の餅。くわしくは *hoochaimuucii* という。びろう (*kuba*) または月桃 (*sannin*) の葉に包んだ餅を, たくさん (ただし奇数) 天井から下げて子供たちに与える。人を食いに来た鬼を, 餅を食って見せて追いはらうという伝説にもとづいて行なわれるという。男の子には一つ特に大きな *cicaramuucii* (力餅) をまぜて与える。餅は, 富者は米ばかりで, 貧者は黍で, あるいは甘藷をまぜて作る。

muucitbiisaⓄ (名) *muucii* のころ, ことさらに感じる寒さ。

muujaba'ajaⓄ (名) 家の中にある柱。家の周囲・縁側などにある柱 (*hazibaaja*) に対する。母屋柱の意か。

muukuⓄ (名) 婿。娘の夫。娘の親からいう語。

muukucoodeeⓄ (名) 妻同志が姉妹である義兄弟。

muutiiⓄ (名) 元結い。髪を結う時, 髪のもとどりを結ってつかねるもの。男の元結いには *ʔakamuutii* (赤色の元結い) と *ʔooruunuutii* (緑色の元結い) とがあり, *katakasirajuujaa* (髪結い床) では赤の方が料金が安かった。

muutuⓄ (名) ⊖元。本。みなもと。また, 先祖。⊖もとで。資本。元金。~ *tuikeesjun*. もとを取り戻す。~ *kanzun*. もとを取れずに, 損失をこうむる。

muutudu'kuruⓄ (名) 宗家。大本である家筋。本家。

muutuja'aⓄ (名) 本家。

muutukweeciriⓄ (名) 元金を食いつぶすこと。商売で損をしてもとでをも失うこと。

muzarakwazaraⓄ (副) うじゃうじゃ。たくさんもののがうごめくさま。~ *sjoon*.

うじゃうじゃしている。

muziⓄ (名) 文字。~N *kuzin 'wakaran maçigaanu hwimun*. 文字もわからぬ松川の碑文。松川の碑文は風化して文字がわからない。物の道理のわからない人間をたとえていう。*kuzi* は故事の意だがさして意味はなく, *muzi* の対句として並べたもの。同じ意味で, *ziiziran 'wakaran*. (字づらもわからないの意か) ともいう。

muziⓄ (名) 麦。沖繩には *ʔuhumuzi* (大麦), *ʔnnamuzi* (小麦), *hadakaamuzi* (裸麦) の三種がある。

muziⓄ (名) *taaʔNmu* (里芋に似た芋) の茎。ずいきの一種。 *taamuzi* と同じ。

muzinakuuⓄ (名) 麦粉。小麦粉。

muzinuʔusiruⓄ (名) *taaʔNmu* (里芋に似た芋) のずいきを入れた汁。

muzinbuNⓄ (名) 知恵が足りないこと。知恵なし。< *zinbuN* (知恵)。~*na muN*. 知恵のない者。

muziʔuseeⓄ (名) *taaʔNmu* (里芋に似た芋) のずいきのあえもの。

muzooⓄ (名) [文] ⊖無情。冷酷。⊖無情。哀れ。~*na muN*. 哀れな者。

muzukuiⓄ (名) 農作。農業に従事すること。

muzuku=junⓄ (自 =*ran*, =*ti*) (木の芽などが) 出かかる。(腫れものなどが) できかかる。 *muqkuunu muzukutoon*. つぼみができかかっている。

muzumuzuⓄ (副) むずむず。 *muzuru-muzuru* ともいう。~ *sjun*.

muzumuzuⓄ (副) むずむず。うずうず。やろうとしていらだつさま。~ *sjun*.

muzurumuzuruⓄ (副) ⊖ *muzarakwazara* と同じ。⊖むずむず。蚕などが着物の下などでうごめくさま。 *muzumuzu* ともいう。

-na (接尾) な。禁止の意を表わす。ふつう本土方言の「終止形」に対応する形に付く。'jumuna. (読むな) など。ただし、ラ行の動詞の場合は ?abinna. (泣くな), tuNna. (取るな) などとなる。また -na のあとに -kee (<?ukee. 置けよ) を付けていうこともある。sjunakee. (するなよ) など。

-na (接尾) 動詞の「未然形」に付いて希望の意をそえる。cikana. (聞こらよ。聞きたい) など。

naaⓄ (名) からし菜。菜, すなわち葉野菜一般は ?oohwa という。

naaⓄ (名) 縄。

naaⓄ (名) ⊖名。名前。人や物の名。～ ?jarijuN. 名高い。有名だ。?aree ~ ?jaqtoon. 彼は有名である。⊖名前, とくに童名 ('warabinaa) すなわち生まれる時に付けられる名前。例をあげれば次のようなものがある。

士族男子…… taruuⓄ, ziruuⓄ, saNduuⓄ, 'jamaaⓄ, maçuuⓄ, kamiiⓄ, ?usiiⓄ, 'NntuuⓄ, kanaaⓄ, kamadeeⓄ, makaruuⓄ, sjumiiⓄ, sutaaⓄ, 'wicaaⓄ, ciruzuuⓄ, turazuuⓄ, kanniiⓄ, nabiiⓄ など。

平民男子…… taraaⓄ, ziraaⓄ, saNdaaⓄ, maçaaaⓄ, kamizaaⓄ, ?usjaaⓄ, 'NntaaⓄ, kamadaaⓄ, masiiⓄ, tukaaⓄ, nijooⓄ, niwaaⓄ など。

士族女子…… çiruuⓄ, ?utuuⓄ, kamiiⓄ, kamaduⓄ, nabiiⓄ, ?usiiⓄ, makateeⓄⓄ, guziiⓄ, maziniiⓄⓄ, meenuⓄ, mamaciiⓄ, ?NdaruuⓄ, maçuuⓄ など。

平民女子…… çiraaⓄ, ?utaaⓄ, kami-

zaaⓄ, kamaaⓄ, nabaaⓄ, ?usjaaⓄ, makaaⓄ, guzaaⓄ など。

このほか、貴族男子は ma- [真] を冠して majamatuuⓄ, masanduuⓄ など、また ?umi- [思] を冠して ?umiziruuⓄ, ?umikanaaⓄ, ?umikamiiⓄ などと、またあとへ -ganii [金] を付して taruganiiⓄ, maçiganiiⓄ, turazuganiiⓄ などと呼ばれ、貴族女子は ma- [真] を冠して maziruuⓄ, moosiiⓄ などと呼ばれた。身分によるこのような区別は明治の中ごろまでであった。

naaⓄ (名) ⊖農家の前庭。家の前の、仕事をするための広場。⊖(接尾) 広場を意味する。…場。?usinaa (闘牛場), şimanaa (相撲場), ?aşıbinaa (村芝居をする広場) など。

naaⓄ (名) おまえさん。あんた。目下の年長に対し、幾分敬意を含めていう、二人称の人代名詞。～ ja ?içi moocaga. おまえさんはいつ来られたか。

naaⓄ (副) おしまい。終わり。完了したさま。hweeku ~ nasi. 早く終わりにしろ。～ natooru sigutu. 終わった仕事。～ 'jan. おしまいだ。もうできた。

naaⓄ (副) もう。いまや。もはや。njaa ともいう。～ cukeen. もう一回。～ kuu-teen. もう少し。～ ?ikan. もう行かない。～ caan naran. もはやどうにもならない。～ i. もういいかい。～ 'jasa. もういいよ。～ ?ihwi siinee. もう少しのところで。もうちょっとで。～ ?Nzi cii. もう行って来たか。

naaⓄ (助) かい。かねえ。の。軽く尋ねる場合に用いる。'junuN ~. 読むかい。?ari ~. あれかね。

naa- (接頭) おのおの・銘銘の意を表わす接頭辞。あとに付く語を重複させる。naajaajaa (めいめいの家), naaʔiiʔii (めいめいが違うことを言うこと) など。

-naa (接尾) ずつ。tiicinaa turee. (一つずつ取れ), ʔinsanaa (同量ずつ), kuu-teeNnaa (少しずつ), ʔooNnaa (ゆっくり。弱くずつの意) など。

naabaⓐ (名) きのこと。cinuku と同じく、かさど柄のはっきりした、きのこと型のものをいう。食用になるものをもいうが、主として食用にならぬものをいうようである。cinuku の項参照。

naabaruⓐ (名) 梅毒。nabaŋgasa ともいう。

naabeeraaⓐ (名) 植物名。へちま。実は未熟のうちには食用にする。へちま水は咳・やけどの薬、酒の酔ざましに用いる。熟して肉を取り去ったものは浴用に用いる。

naabiⓐ (名) 鍋。釜は hagama という。小さい順に、gugooʔaci (5合だき), ʔiq-sjudaci (1升だき), nisjudaci (2升だき), niNmeenaabi, saNmeenaabi, siNmeenaabi などの種類がある。

naabikacikaciiⓐ (名) あぶらぜみ。鍋のしりをかき落とすような騒がしい声で鳴くのでいう。

naabinakuuⓐ (名) naabinukuu と同じ。

naabinuhutaⓐ (名) 鍋のふた。甘藷を煮る時などの編んだ大きなふたは kamaŋta という。

naabinuhwiŋguⓐ (名) 鍋墨。鍋釜のしりにつく煤。

naabinukuuⓐ (名) 鍋釜の修理。鍋釜の穴のあいたものをふさぐこと。いかけ。また、いかけ屋。鍋の (naabinu) いかけ (kuu) の意。

naabisaguiⓐ (名) つまみ食い。鍋の中をさぐって、食べること。

naacaⓐ (名) 翌日。明日は ʔaca という。

ʔunu ~ nu ʔjuuʔirigata. その翌日の日の暮れがた。~ hweeku. 翌日早く。~ nu sutumiti. 翌朝。

naacaʔasaⓐ (名) 翌朝。

naacamiiⓐ (名) 葬式の翌日に婦人が行なう墓参。死後49日間、男は毎日墓参する習慣となっているが、女は翌日だけ墓参する。死者がもしや蘇生することはないかと翌日見に行った習慣が残ったものだと言いつたといわれている。

naaciriʔiriⓐ (副) 銘銘が散り散りになること。四散すること。ʔjaaniŋzu ~ nati. 家族が散り散りになって。

naadaⓐ (副) まだ。いまだ。maaʔa ともいう。~ kuun. まだ来ない。~ ʔan. まだだ。

-naadii (助) から。を。通って。經由路・經由点を示す。kuma ~ ʔikee. ここから(この道を通して)行け。cukata ~. 片端から。maa ~ ʔicuga. どこを通して行くか。kagusima ~ ʔicun. 鹿児島經由で行く。

naaduuʔduuⓐ (名) 銘銘。各自。また、銘銘勝手。ʔujan qkwan ~. 親も子も銘銘勝手。

naagatiⓐ (副) やがて。~ ʔjuunu ʔaki-juN. やがて夜が明ける。

naagiⓐ (名) みやげ。mjaagi ともいう。

naaguⓐ (名) 「名子」に対応する。元来は農村で農奴的な使用人をさしたが、首里では転讓して分家をいうようになった。

naahaiʔbaiⓐ (名) 銘銘勝手に散り散りになること。各人ばらばら。sjuineoo suriizurii, naahwaneco ~, kunindaŋcoo kunkurubaasee, tumaineoo tumeeidumeei. 首里の人はうち揃って、那覇の人はばらばらで、久米村の人は互いに争って、泊の人は互いに捜し合う(頭韻をふんでいる)。~ nu sikata. 各自ばらばらのやり方。

- naahwa① (名) 那覇。
- naahwaa① (名) 那覇の者。卑称。
- naahwaNcu① (名) 那覇の人。
- naahwicibi`ci① (名) 銘銘の縁故。または、銘銘のひいき筋。
- naahwiN① (副) もっと。さらに。なお。一層。～ kwimisjoori. もっと下さい。～ curasan. さらに美しい。
- naa`yii`yii① (名) 各人各様に言うこと。銘銘が(別なことを)言うこと。～ `jatan. 各人各様に言っていた。
- naa`yuru① (連体) 名高い。有名な。～ mun. 有名な物。～ qcu. 有名な人。
- naaja① (副) もはや。もう。今となっては。～ kan`nataru `wiija sikataa neen. もはやこうなった以上しかたがない。
- naajaa`jaa① (名) 各自の家。銘銘の家。
- naajaan① (名) ⊖再来年。naaNcu ともいう。⊖翌翌年。naaNcu ともいう。`yunu ~. その翌翌年。
- naaka① (名) 中。中央。内部。中間。naakaa nuunu `i`qcooga. 中は何が入っているか。～ tujuN. 中庸をとる。～ ni kwaasarijuN. 中にはさまれる。板ばさみになる。
- naaka① (名) 仲。交情の仲。～ noojuN. 仲直りする。～ tuinoosjuN. 仲をとります。仲直りさせる。
- naakaa`huukaa① (名) 中空。中がから(のもの)。
- naakaguhwai① (名) 仲たがい。naakatagee ともいう。-guhwei < kuhwajuN.
- naakame`egame`e① (名) 各自思い思いに構えること。銘銘違った構え方をすること。ばらばらで統一のないこと。各人各様。`yanuhwiNnu `jaaja `Nna ~ `jasa. あの辺の家は構え方がてんでんばらばらだ。～ nu kan`gee. 各人各様の考え。`yaqtaaja nuu `jatin ~ sjun doo. 彼らは何をするのもばらばらだぞ。
- naakamee`igamee`i① (副) おのおのが捜し合うさま。～ sjun.
- naakanooi① (名) 仲直り。和解。
- naakaN`geekan`gee① (名) 各自思い思い。銘銘が違った考えをもつこと。～ nu `yujatu qkwa. それぞれの考え方の違い親子。niibicini ciitee `yujan qkwan ~ `jan. 結婚については親も子も考えが別別だ。
- naakatagee① (名) 仲たがい。nakatagee とは別。hunaka, naakaguhwai ともいう。
- naaka`tuihatatui① (副) 仲をとりもつさま。仲裁して円満にさせるさま。仲を取り端を取る意。～ sjun.
- naaku① (名) 脈。脈搏。mjaku ともいう。
- naaku① (名) 宮古島。mjaaku ともいう。
- naakudaamaa① (名) taamaa と同じ。
- naakusjaagu`sjaa① (名) 銘銘がそっぽを向くこと。各人が背を向けて一致しないこと。`jaatiicidu `jasiiga, `yamanu `jaaja ~ `jan. 一つの家に住みながら、あそこの家は各人がそっぽを向いて暮らしている。
- naakuu① (名) 宮古島 (naaku, mjaaku) の者。卑称。
- naakwee`gwee① (名) 銘銘が別別に働き、別別に食うこと。各人が自活すること。`yamanu `jaaja `yujatu qkwatu ~ `jan. あそこの家は親と子が別別に暮らしている。
- naamee`mee① (名) 銘銘。各自。～ nu mun. 銘銘の物。
- naamuti`muti① (名) 銘銘の受け持ち。各人の得意。銘銘の専門。～ nu `zakutu. 銘銘の得意があるから。
- naaNcu① (名) ⊖翌翌年。その時から三年目の意。-Ncu < mitu. ⊖再来年。naajaan ともいう。
- naaNkeEN`kee① (名) 銘銘の向き向き。銘銘の好みや向いた仕事など。～ nu sigutu.

naarabi

銘銘に向けた仕事。

- naarabi① (名) mjaarabi と同じ。
 naasati① (名) 翌翌日。翌日 (naaca) の次の日。ʔunu ~. その翌翌日。
 naaʒibi① (名) なす。「なすび」に対応する。
 naasiru① (名) 苗代。
 naasirumabui① (名) 案山子(かかし)。
 naatamasida'masi① (名) 銘銘の分。各自に分け与えられたもの。~nu ʔukwaasi. 銘銘のお菓子。
 naatumee'idumee'i① (名) おのおのが捜し合うこと。
 naawakaiwaka'i① (名) 銘銘別れ別れ。各自別別。~ najun. 各自別別になる。~nu miitunda. 別別になっている夫婦。
 naazici①* (名) 翌月。ʔunu ~. その翌月。
 naazikii① (名) 名付け。命名。また、小児が生まれて七日目に名前を付けること。
 nabakuimuN① (名) なぶり者。からかわれる者。
 nabaku=juN① (他 =raN, =ti) からかう。なぶる。ひやかす。
 nabangasa① (名) 梅毒。南蛮瘡の意。nabaru ともいう。
 nabi=cuN① (自 =raN, =ci) なびく。風に、また、人に、なびく。
 nabigee① (名) おたま。しゃくし。鍋匙の意。汁をすくうもの。
 naçi① (名) 夏。
 naciʔaka=sjuN① (他 =saN, =ci) 泣き明かす。泣いて夜を明かす。
 nacibusi① (名) 泣き虫。
 nacibusjaa① (名) 泣き虫。nacibusi ともいう。
 nacigan① (名) 泣き顔。
 nacigeegee① (副) 激しく泣くさま。泣いてしゃくり上げるさま。また、泣かんばかりに嘆くさま。~ sjooru qcu. 泣かんばかりに嘆いている人。

- naçiguci① (名) 初夏。夏の初め。
 naçiguri①① (名) 夏のわか雨。夕立。文語的な語。nagasi ともいう。satume huni ʔukuti muduru micisiğara, huran ~ni 'wasudi nuraci. [呈前船送て戻る道すがら 降らぬ夏ぐれに 我袖ぬらち] 恋しい君の船を見送って帰る道すがら、降らぬ夕立にわが袖を濡らしてしまった。
 nacigwii① (名) 泣き声。
 naciʔi=juN① (自 =raN, =qci) 泣き入る。ひどく泣く。
 nacikaka=juN① (自 =raN, =ti) 泣きつく。泣いて訴える。泣いて、くっつかかる。
 naçikasjan① (形) 悲しい。mikarusii 'Nnci naçikasiku nati nadanu ʔutitana. 銘苺子(組踊りの名)を見て、悲しくなつて涙が出た。naçikasii sibaï. 悲しい芝居。
 nacikura=sjuN① (自 =saN, =ci) 泣き暮らす。
 nacikwaa=rjuN① (他 =riran, =q'i) 泣きつかれる。泣いて、くっつかかれる。
 naçimaki① (名) 夏負け。夏やせ。humicimaki (暑気あたり) ともいう。
 nacimunui① (名) nacimunuʔii と同じ。
 nacimunuʔii① (名) 泣き声、または泣くような甘え声で、ものを言うこと。
 naçimun① (名) 夏着。夏物。夏の着物。
 nacineebi① (名) 泣きまね。~ sjuN.
 naciwaree① (名) 泣き笑い。
 nacizinaa① (名) 今帰仁 (naciziN) の者。卑称。
 naciziN① (名) 今帰仁。《地》参照。
 naciziNugami① (名) 行事の名。一門を代表する女が、数年おきに今帰仁 (naciziN) の城 (guʒiku) に詣でる行事。
 nacoora① (名) 植物名。海入草。まくり。虫下しの薬となる海草。ʔabusibaree の項参照。

- na=cuN**① (自 =kaN, =ci) ①泣く。(悲しんで)泣く。泣きさけぶ意では ?abijun という。② [文] 鳴く。口語では、鶏の鳴くのは ?utajun, 目白・うぐいすなど小鳥の場合は hukijun, 犬・猫・豚の場合は ?abijun という。taruju ?uramituti nacuga hamaciduri, ?awan çirinasaja 'wamin tumuni. [誰よ恨めとて 鳴きゆが浜千鳥 会わぬつれなさや 我身も共に] 誰を恨んで鳴くのか浜千鳥よ, 子を失って会えぬ悲しみは, わたしも同じだ。
- nada**① (名) 涙。~nu ?utijun. 涙が出る。
- nada**① (名) 灘。波の高い, 航海の難所。
- nadagurumaai**① (副) 涙ぐんださま。いまにも泣きそうなさま。nadagurumaajaa ともいう。~ sjooru 'warabi. いまにも泣きそうな子供。
- nadagurumaajaa**① (副) nadagurumaai と同じ。~ natoon. いまにも泣きそうである。
- nadajaQsaN**① (形) [灘安さん] おだやかである。心安い。nadajasii kutu. 心安いこと。?ariga nadajasikoo hwizee saN hazi. 彼がおだやかに承諾はしないだろう。
- nadajoosaN**① (形) 涙もろい。すぐ泣く。
- nadakeemuN**① (名) 名高いもの。naa-?juru muN ともいう。
- nadi=juN**① (他 =raN, =ti) なでる。手のひらでなでる。
- nadisudati**① (名) 撫育。愛育。かわいがって育てること。
- naduqe'en**① (副) なめらかなさま。つるつるしたさま。kwiinu ~ sjoon. 声がなめらかである。
- naga?aqci**① (名) 長旅。長い期間旅をすること。また, 長歩き。遠足などで長いこと歩くこと。~ sjun.
- naga?ami**① (名) 長雨。
- nagaa**① (名) 長いもの。
- nagabi=cuN**① (自 =kaN, =ci) 長引く。遅滞する。
- nagabooi**① (名) 長長と寝ること。ねそべること。~ sjun.
- nagaboojaa**① (名) nagabooi と同じ。~ sjun.
- nagabui**① (名) 長降りの意。長雨。
- nagaçibaa**① (名) 長居する人。長じりの者。ぞりりの裏を焼く (sabanu ?ura 'jacuN.) と帰るといわれている。
- nagaçibi**① (名) 長居。長じり。
- nagaçizici**① (名) 長続き。~ sjun.
- nagadee**①① (名) 長い間。久しい間。~ 'nndaN. 長い間見ない。~nu 'janmee. 長い間の病氣。
- nagadoo**① (名) 長堂。《地》参照。
- nagaduusi**① (名) ずっと。続いて。続く限り。長い間ずっと。nagiduusi ともいう。micinu ~ hanasinu teeraN. 長い道のりの間, 話が絶えない。
- nagagakai**① (名) 長くかかること。工事などが長引くこと。
- nagagarakee**① (名) 長くかかること。効果があがらずに長引くこと。-garakee < karakajun.
- nagahama**① (名) 長浜。《地》参照。
- nagahweeraa**① (名) 長長と延びたもの。へちまなど, 大変に長いもの。
- nagahwicurui**① (名) (事件・病氣などが) 長引くこと。
- nagahwicuruu**① (名) nagahwicurui と同じ。
- nagahwicuruui**① (名) nagahwicurui と同じ。
- naga?ici**① (名) 長生き。長命。
- naga?ihjabusi**① (名) [長伊平屋節] 御前風 (guziNhuu) の一つ。
- nagaii**① (名) 長居。

nagajami

nagajami① (名) 長わずらい。長い間の病
気。

nagajašimi① (名) 長休み。長期欠勤。

nagami① (名) 寛容。寛容性。nubi とも
いう。～nu ʔaN. 寛容性がある。

nagami① (名) ながめ。眺望。

nagamici① (名) 長途。長い旅路。

nagami=juN① (他 =raN, =ti) 免ずる。
qkwani nagamiti kuneere. 子に免じ
て我慢してくれ。

nagami=juN① (他 =raN, =ti) 眺める。

nagamuci① (名) 長もち。長くもつこと。
長く使用できること。

nagamun① (名) ながもの。蛇(主として、
はぶ)を忌んでいう語。

nagani① (名) 背中。kusinaganiともいう。

naganibuni① (名) 背骨。kusibuni とも
いうが、kusibuni は背骨の下の方を主と
してさすようである。

naganiN① (名) 長年。多年。

naganubito^{ori}① (名) 長長とねそべるこ
と。なまけ者や不健康な者のさま。

nagaNsaaži① (名) tiisaazi (手ぬぐい) の
敬語。お手ふき。saazi は頭に巻く手ぬぐ
い。

-nagara (助) ながら。とはいもの。で
はあるが。tuzi～nihweeNci ʔumujun.
妻ながらありがたいと思う。

nagara=juN① (自 =aN, =ti) [文] 長らえ
る。生き長らえる。

nagari① (名) ㊦流れ。㊦質流れ。

nagaribuunii① (名) 舟遊び。舟に乗って
遊ぶこと。

nagari=juN① (自 =raN, =ti) ㊦流れる。
㊦質流れる。

nagasan① (形) 長い。時間についても距離
についてもいう。

nagasi① (名) 夏の通り雨。夕立。流すよ
うに降ってすぐ晴れる雨。

naga=sjuN① (他 =saN, =ci) ㊦流す。㊦質

に流す。

nagaʔui① (名) 長追い。長い間追いか
けること。遠くまで追いかけること。ʔinca-
boo muqci ~ sjuN. 短い棒を持って長
追いする。充分なよりどころがないのに、
しつこく追求する。

nagaʔuzoo① (名) 首里城の門の名。ʔugu-
šiku の項参照。

nagaža① (名) 長座。長居。～ sjuN.

nagee① (名) 長い間。長らく。久しく。
～ kangeejuN. 長い間考える。～ naju-
ru kutu. 長いこと。

nageesan① (形) 久しい。時間が長かつた。
ʔicatikara ~. 会ってから久しい。na-
geesa 'jaa. 久しぶりだねえ。nageesa
'uganabirantašiga, tuNcee gusuujoo
ʔusawain saamišeebirani. 長いことお
目にかかりませんでした。お宅は皆様お
変わりもございませんか。

nagi① (名) 長さ。

nagibakaree① (名) 投げ散らすこと。

nagiduusi① (名) ずっと。続いて。続く限
り。長い間ずっと。nagačuusi ともし
う。kumakara ʔamamadi ~ 'jaanu gi-
zicooN. ここからあそこまでずっと家が
続いている。～nu kii muru maačiču
'jaru. 見渡す限りずっと松だ。

nagice① (名) 投げあい。

nagigwii① (名) 自分の用だけ言って、返事
を聞かずに立ち去ること。投げ声の意。

nagihoorii① (名) 投げ散らしておくこと。
投げやり。

-nagii (接尾) ころ。あたり。時についてい
う。cuunagii (きょうあたり), 'jaanna-
gii (来年ごろ), ʔacanagiija nukuku
najusa. (あしたあたりは暖かくなるよ)な
ど。

-nagiina (接尾) …ながら。…しているの
に。…にもかかわらず。逆説の場合に用い
る。ʔumiinagiina (思いながら、思っ

いるのに), sirinagiina (知りながら, 知っているのに), ʔujanu ʔaanu mee tuuinagiina nubagaiN san. (親の家の前を通りながら, 寄りもしない) など。

nagi=juNⓄ (他 =raN, =ti) 投げる。

nagiN=cuNⓄ (他 =kaN, =ci) 投げ込む。

naguⓄ (名) 名護。《地》参照。

nagudakiⓄ (名) 名護岳。国頭地方にある山の名。

naguiⓄ (名) 豚に食わせる人糞。便所に豚を飼い, 人糞を食わせたのでいう。

nagumagaiⓄ (名) 名護湾。

naguraNⓄ (名) 植物名。蘭の一種。名護蘭 (なごらん)。名護は地名。観賞用。

naguriⓄ (名) ㊦なごり。心残り。hujakariti ʔatunu ~ neN gutuni kataiçikusariru kuizi ʔarana. [ふやかれてあとの名残無ぬごとに 語りつくされる 恋路やらな] 別れたあとの心残りが無いぐらいに, 充分語りつくされる恋であればよいがなあ。~nu ʔaN. (別れて) 心残りがする。㊦あらしなどの余波。ʔuukazinu ~ni ʔuminu ʔaritoon. 台風の余波で海が荒れている。

nagurisjaNⓄ (形) なごり惜しい。

nagusamiⓄ (名) 慰め。慰安。

nagusami=juNⓄ (他 =raN, =ti) 慰める。

nagusa=nuNⓄ (他 =maN, =di) 慰むに対応する。(自分を) 慰める。文語的な語。ʔutaNdee ʔjudi duu ~. 歌でもよんで自分の心を慰める。

nahudaⓄ (名) 名札。名前を書いた札。

nahwaⓄ (名) 那覇港。港の名としての那覇。町の名としてはふつう naahwa という。

nahwaju ʔmaciⓄ (名) [那覇四町] 旧行政区画による那覇の四つの町。

naiⓄ (名) なり。ありさま。身なり。saN-zaNni ʔjaçiri kunu ~ju ʔjariba. [散々にやつれ このなりよやれば (花売之縁)]

ひどくおちぶれて, このありさまであるから。

naiⓄ (名) 実。果実。くだもの・瓜など, 大きなものをいう。小さな実は muqkuu (つぼみの意もある) という。

-nai (助) へ。に。の方へ。の所へ。のそばへ。人・動物を表わす語に付く。ʔari~ ʔicuN. 彼の所へ行く。ʔjaa çikataru ʔuja~ ʔiki. おまえを遣わした親の所へ行け(夜など, 捕えた虫を放す時にいうことば)。

naici=ju ʔNⓄ (自 =raN, =qci) なりきる。すっかり…になる。nusudu naiciqeeon. 泥棒になりきっている。

naičiziⓄ (名) 果実になりかかった小さい粒。

-naigataa (接尾) なりかけ。ʔwinagunai-gataa* (女になりかけ), ʔuhuqçunaigataa (おとなになりかけ), ʔatabicaanai-gataa (蛙になりかけ。足のはえたおたまじゃくし) など。

naihaNciⓄ (名) 唐手の型の名。

naihaN=sju ʔNⓄ (自 =saN, =ci) ㊦なりそこなり。siNsii ~. 先生になりそこなり。㊦不成功に終わる。できそこなり。sigutunu ~.* 仕事不成功に終わる。

naikuziri=ju ʔNⓄ (自 =raN, =ti) できそこなり。悪い結果になる。

naikuzirimuNⓄ (名) できそこない。できそこないの物, または人間。

naimuNⓄ (名) 「なりもの」に対応する。果実。くだもの。

naimuNⓄ (名) 鳴り物。楽器の総称。

naiuuⓄ (名) バナナのなる芭蕉。実芭蕉。

najagaimuNⓄ (名) 自負心の強い者。思いつ上っている者。うぬぼれた者。

najaga=juNⓄ (自 =raN, =ti) ㊦[文] 名が高くなる。名があがる。kunu takini ʔwanuN najagajai ʔuşıga, cini kanoo ʔwinagu subani mata ʔuraN. [此たけ

に我も なやがやり居すが 気に叶ふ女
 側にまた居らぬ (大川敵討) これだけわ
 たしも名があがっているが、心にかなり女
 が側にはいない。⊖思い上がる。うぬぼれ
 る。思い上がって出しゃばる。cuubikeei
 najagati. 我こそはと思ひ上がって。
 ʔaree caa ~ doo. 彼はいつも思い上
 がって、でしゃばっているぞ。

na=juNⓄ (自 =raN, =ti) ⊖(ある状態に)
 なる。ʔuhuqeu ~. おとなになる。ha-
 takinu moo ~. 畑が野となる。cuuku
 ~. 強くなる。⊖行く。寄る。ʔamankai
 naree. あっちに行け。⊖できる。なしり
 る。なる。kuree 'waagan ~. これはわ
 たしでもできる。kunu sigutu ʔjaaga
 najumi. この仕事が君にできるか。~
 できる。naraN. できない。sandaree
 naraN. しなければならぬ。せねばなら
 ぬ。sanɕun ʔaree naraN. ともいう。
 naraa. できれば。なるべく。naraa ʔi-
 cuʔee masi. なるべく行った方がいい。
 naraa ʔjankuru kakec. なるべくおま
 え自身で書け。naree. なるべくなら。

na=juNⓄ (自 =raN, =ti) (実が) なる。
 kunibunu ~. オレンジになる。

na=juNⓄ (自 =raN, =ti) 鳴る。kaninu
 ~. 鐘が鳴る。

nakaⓄ (名) 仲。naaka(仲)と同じ。~
 sjun. 仲裁する。仲をとりもつ。また、
 媒介する。

nakaⓄ (名) naaka(中)と同じ。

nakabaⓄ (名) なかば。中間。半分。

nakabasiruⓄ (名) 部屋の間を仕切る板の
 引き戸。板のふすま。

nakabiⓄ (名) なかざら。中空。中天。ca-
 taN mosizaniga ʔutagwi ʔucizasiba,
 ~ tubu tuin ʔjuɕudi cicusa. [北谷真牛
 ぎやねが 歌声打出せば なかべ飛ぶ鳥も
 よどで聞きゆさ] 北谷まうし(女歌手の
 名)が歌を歌い出せば、中空を飛ぶ鳥もと

まって聞く。

nakaciⓄ (名) 仲地。《地》参照。

nakadaⓄ (名) 仲田。《地》参照。

nakadaciⓄ (名) ⊖なこうど。結婚の仲立
 ちをして、結婚式の時 niibicineu (その
 項参照)を務める人。⊖仲立ち。仲介。

nakadumaiⓄ (名) 仲泊。《地》参照。

nakagudeeⓄ (名) 歴史時代。nakaNkasi
 (中昔)ともいう。kamigudee (先史時代)
 に対していう。

nakaguruⓄ (名) 中ごろ。

nakagusikuⓄ (名) 中城。《地》参照。

nakagusikuhantameebusiⓄ (名) [中城
 はんた前節] 御前風 (guziNhuu) の一つ。

nakaguuⓄ (名) [中子] 芯。中心部にある
 もの。植物の種子の部分。葉などの中に包
 みこまれた部分など。ʔNmunu hwaja
 ʔNbuci, dakinu hwaja dakaci, sutiɕi-
 banu nakagu ʔumuimisjori. (童謡) い
 もの葉は蒸して、竹の葉は抱かせて、そて
 つの葉が包んだ芯のように、心から思っ
 て下さい。

nakahuuⓄ (名) 仲程。《地》参照。

nakahuuⓄ (名) [仲風] 歌の形式の一つ。
 和歌と琉歌の混合した形式のもの。七・七・
 八・六の形をもつ。ʔimahuuともいう。こ
 とばも本土方言と沖縄方言の混合である。

nakaʔiibiⓄ (名) 中指。

nakaʔiriⓄ (名) 仲介。周旋。仲立ち。

-nakai (助) に。の中に。存在する場所を表
 わす。sjui ~ ʔataru hanasi. 首里にあっ
 た話。maa ~ neen kutu. どこにもない
 こと。ʔama ~ ʔuminu miijuN. あっち
 に海が見える。ʔamanu mici ~ ʔjuurii-
 nu ʔNzitootaNdisa. あの道におぼけが
 出たということだ。

nakajašimiⓄ (名) 中休み。仕事の途中で
 しばらく休むこと。

nakajukuiⓄ (名) nakajašimi と同じ。

nakamaⓄ (名) 仲間。《地》参照。

nakamaⓄ (名) 名嘉間。《地》参照。

- nakamee**Ⓞ (名) 茶の間。居間。家の中央にあり、中庭に面している部屋。遊郭では表の出入り口をいう。
- nakami**Ⓞ (名) 豚などの小腸。食物としての名。～nu šiimun. 料理名。豚の小腸を突にした吸いもの。
- nakamui**Ⓞ (名) 一合枱。正確には Yicigoonakamui という。
- nakamuigwaa**Ⓞ (名) 五勺枱。gusjaakunakamui ともいう。
- nakanukasi**Ⓞ (名) 中昔。nakaguḏee ともいう。Yuhunkasi (大昔。先史時代) に対して、歴史時代をいう。
- nakamuutu**Ⓞ (名) Yuhumuutu (本家の先祖) に対して、中ごろの先祖、すなわち分家の先祖をいう。
- nakanisi**Ⓞ (名) 仲西。《地》参照。
- nakaniwa**Ⓞ (名) 中庭。中門の中にある庭。
- nakanooi**Ⓞ (名) naakanooi と同じ。
- nakandakari**Ⓞ (名) 仲村渠。《地》参照。
- nakanmi**Ⓞ (名) 仲嶺。《地》参照。
- nakara**Ⓞ (名) なかば。半分。半量。量・距離などについていう。nakaraa neen. 半分は無い。
- nakaramici**Ⓞ (名) 中途。道・事業などのなかば。micinakara ともいう。
- nakaraNnaci**Ⓞ (名) 無理に泣こうとすること。子供が泣いておこなを牽制しようとする時などにいう。～du 'jaru. 無理に泣こうとしているんだよ。
- nakarawata**Ⓞ (名) 腹半分。腹半分食べること。'watanakara ともいう。
- nakasima**Ⓞ (名) [中島] 那覇にあった遊郭の名。
- nakatagee**Ⓞ (名) ⊕中途半端。帯に短く、たすきに長いこと。⊖女が婚期を逸していること。
- nakatii**Ⓞ (名) 中の物。中手。大中小など三種ある場合の中のもの。
- nakaza**Ⓞ (名) 仲座。《地》参照。
- nakazatu**Ⓞ (名) 仲里。《地》参照。
- nakazici**Ⓞ (名) 織機の器具の名。布を織る時、経糸を上下に分けてまん中に入れるもの。
- nakazin**Ⓞ (名) ⊕中心。中央。まん中。面の中心。また、屋敷の場合は前面の中央。⊖果実の芯、身体の中心部など。
- nakaziru**Ⓞ (名) 三味線 (sansin) の二の糸。中弦。
- nakazui**Ⓞ (名) 中剃り。男が髪を結っていた時代、頭髪の中央部だけを剃ること。前額部にかけて剃る本土の月代(さかやき)とは形が異なる。
- nakazuni**Ⓞ (名) 仲宗根。《地》参照。
- nakeema**Ⓞ (名) 仲柴間。《地》参照。
- nakeema**Ⓞ (名) 仲井間。《地》参照。
- nakoo**Ⓞ (名) 仲尾。《地》参照。
- nakoosi**Ⓞ (名) 仲尾次。《地》参照。
- nakugamihoo**Ⓞ (名) [中頭方] 沖縄の旧行政区画の名で、のちの中頭郡。
- nakunaku**Ⓞ (名) 泣く泣く。tuzimiitu cutukuruni kurasigata naraN, ~N tatu mituja 'wakati hataracai…[妻めいと一所に暮し方ならぬ 泣く泣くも二年三年や 別て働きやり…(花売之縁)] 夫婦ひとところに生活できない。泣く泣く二、三年は別れて働いて…。
- nama**Ⓞ (名) なま。食物の煮たり焼いたりしてない状態。
- nama**Ⓞ (名) ⊕今。また、現在。現代。～kara. 今から。～nu qcu. 現代の人。⊖いまに。もう。もうすぐ。やがて。～Yutijun doo. いまに落ちるぞ。～cuusa. もうすぐ来るよ。
- namacaa**Ⓞ (名) 気の荒い者。向こう見ず。無鉄砲者。
- namaci**Ⓞ (名) 気の荒いこと。向こう見ず。無鉄砲。～na muN. 気の荒い者。
- namaḡiburujaN**Ⓞ (名) 軽い頭痛。
- namadii**Ⓞ (副) いまだに。こんなに遅く

namagata

なっても。まだ。naguja 'janbarunu Yichatiga 'jajura, namadi nagubuninu Yatija neraN. [名護や山原の行き果てがやゆら なまで名護船のあてやないらぬ] 名護は山原のはてであろうか。こんなに遅くなくても、名護通いの船の便りもない。～kuunŋiga caa sjuga. まだ来ないが、どうするか。～nati guburii na'oon. こんなに遅くなって失礼しました。

namagata① (名) 今しがた。ちょっと前。

namasaci ともいう。

namaguru① (名) 今ごろ。

namagurusi① (名) なま殺し。半殺し。

namakugasi① (名) kugasi (すりつぶした米のかゆ)の煮ないもの。悪酔をさますのによい。kugasi の項参照。

namamizi① (名) なま水。

namamunusiri① (名) 半可通。いいかげんな物知り。

namamun① (名) なまもの。煮たり焼いたりしてないもの。

nama'Nmu① (名) なまのさつまいも。

namaraa① (名) namarimun と同じ。

namari① (名) 蛤。sirukani ともいう。その項参照。

namari=juN① (自 =raN, =ti) ①なまる。刃の切れ味がにぶる。②おどける。不まじめになる。また、ずうずうしくなる。

namarimun① (名) おどけ者。また、ずうずうしい者。namaraa ともいう。

namasaci① (名) いまさっき。いましがた。namagata ともいう。

namasan① (形) ①なまでである。煮えて(焼けて)いない。②無神経である。無感覚である。また、ずうずうしい。

namaŋi① (名) 料理名。なます。魚をなまのまま酢であえたもの。

namasibai① (名) あぶら汗。病気の時、苦しい時などに出る汗。

namasiraga① (名) 生絹。すずし。練らな

い生糸で織った布。薄くて、軽い。

namatari=juN① (自 =raN, =ti) ①なまける。②病気が長引く。病がなまける意。

namatarimun① (名) なまけ者。

namatee① (名) おどけ者。

namauu① (名) 芭蕉布の一種。煮てない芭蕉から糸を抜いて織ったもので、白色。

namawaree① (名) 薄笑い。嘲笑的ににやにや笑うこと。

namazibuN① (名) 今時分。今ごろ。

namazimu① (名) 生き肝。殺したばかりの人畜の肝。

namazira① (名) ①ずうずうしい顔。厚顔。恥知らずの顔。②おどけた顔。

namaziraa① (名) ①厚顔な者。ずうずうしい者。②いつもおどけ顔をしている者。おどけ者。

namazirimun① (名) namaziraa と同じ。

namazisi① (名) ①なま肉。なまの肉。②無神経な人間。ずうずうしい人間。nama-zisjaa ともいう。

namazisjaa① (名) 無神経な人間。ずうずうしい人間。

namee① (名) 人の名前。人名。物の名は naa という。

nami① (名) 波。

nami① (名) 並み。平凡。普通。～nu mun. 普通のもの。

namida① (名) [文] 涙。口語は nada。

namikazi① (名) ①波風。波風のあること。②世間の波風。

namimusi① (名) namimusjaa と同じ。

namimusjaa① (名) なめくじ。namimusi ともいう。

namiti① (名) 平均して。一般に。総体に。概して。kunu muranu qcoo ~ 'iiqcu 'jan. この村の人は概していい人だ。～nu kutu 'jan. 一般的なことだ。

namuzaa① (名) 道理のわからぬ者。わからずや。

nanaⓐ ⊖(感) なな。ななつ。声を出して数える時だけいう。⊖(接頭) なな。七。
nanahwani (七羽), **nanakeen** (七回) など。
nanaciⓐ (名) ななつ。七。また、七歳。時刻の場合は午前午後の4時。
nanaci busiⓐ (名) 七つ星。北斗七星。
nanahwiruⓐ (名) 七尋。女物の着物一着分の長さ。女物の布一反。
nanahwiru Nna'akariⓐ (名) 七尋半。男物の着物一着分の長さ。男物の布一反。
nanajuhwiiⓐ (名) **nanajuhwiibaka** の略。
nanajuhwiiba'kaⓐ (名) **nanajuhwii** は七度身請けする意。親のため七度身を売、七度身請けしたという伝説のある孝子の墓。その付近の地を **naneehwa** という。
nanajumiⓐ (名) 七よみ。織機の篋(おさ)の種類の名。経糸560本を通す。またそれで織った布。最も目が荒く、芭蕉布などの粗末な織物である。**huduci**の項参照。~**tu hateen kasi kakiti ŋucoti, satuga ŋakezubaninsuju ŋirani**。(hateenの項参照)
nanakumuiⓐ (名) 1銭4厘。**ziN**(銭)の項参照。
nanakumuigu'Nzuuⓐ (名) 1銭5厘。**ziN**(銭)の項参照。
nananaNkaⓐ (名) **sizuukunici** と同じ。
nanataiⓐ (名) 七人。普通は **siciniN** という。
nanawazanⓐ (名) 非常ににががしい顔をする。苦虫をかみつぶしたような顔をする。
naneenⓐ (名) **nanajumi** と同じ。
nanibunⓐ (名) **nanbun** と同じ。
nanigasiⓐ (名) なにがし。人の名がわからないとき用いる語。**ŋjaaja maanu ~ga**。おまえはどこ何という者か。
nanuiⓐ (名) 名乗り。士族以上の男子が成

人してから、名乗る実名。鳥袋盛敏・比嘉春潮などの、盛敏・春潮は名乗りである。
 'warabinaa (童名) に対する。

nanuigasiraⓐ (名) 名乗りの頭に用いる字。氏によって一定していて、たとえば、尚氏・向氏は朝、毛氏は喜・栄・盛・宗・安・清、馬氏は維・良・正・厚、翁氏は忠・重・盛・可、など。なお、尚・向の両者はともに **sjoo** と読まれるが、前者は王子以上の家柄に限られている。

nanu=junⓐ (自 =raN, =ti) ⊖名乗り (**nanui**) を付ける。**ŋjaaja nanutoomi**。おまえは名乗りを付けたか。⊖[文] 名乗る。**nanuti ŋnziree**。名乗って出よ。

na=nuNⓐ (自 =maN, =di) ⊖[文] 並ぶ。⊖揃う。平均している。(同等なものが) 並ぶ。**nadoon**。揃っている。**nadaru curasa**。揃ってどれも美しい。

nanⓐ (名) ⊖難。災難。⊖難。欠点。

nan-(接頭) 何。**nandu**(何度), **nannin**(何年) など。

nanbaNⓐ (名) ⊖南蛮。⊖**nanbaNgaami** の略。

nanbaNgaamiⓐ (名) 南蛮焼き。南洋から渡来した炭焼きの甕。酒を入れると味がよくなるというので重宝がられる。単に **nanbaN** ともいう。

nanbeeⓐ (名) 斜め。真正面でないこと。また、傾いていること。

nanbee=junⓐ (他 =raN, =ti) ⊖傾ける。斜面にする。⊖斜めにする。真正面に向かせない。

nanbiciⓐ (名) 何匹。

nanbunⓐ (名) なにぶん。**nanibun** ともいう。~**nu hwizi cikaŋee**。なにぶんの返事を聞かせろ。

naŋciⓐ (名) こげ付き。こげて鍋などに付いたもの。

naŋciikazaⓐ (名) 飯などのこげつくにおい。こげくさいにおい。

naNdeesii

naNdeesii①(名) 桑の実。おもに農民が使う語。首里では kwaaginu muQkuu ということが多い。

naNdu①(名) 何度。幾度。

naNduci①(名) 何時(なんじ)。時刻を尋ねるときに使う。

naNdurumici①(名) すべりやすい道。ぬかるみになった道。

naNdurumuN①(名) すべっこいもの。すべりやすいもの。zinoo ~。銭は失いやすいもの。

naNdurusaN①(形) すべっこい。なめらかである。つるつるする。

naNduruu①(名) すべっこいもの。

naNka①(名) 人が死んで七日目ごとに行なう法事。なぬかごとの法事。月の第七日および七日間の意では sicinici という。haginanka(初七日), tananka(ふた七日), minanka(み七日), 'junanka(よ七日), 'iqinanka(いつ七日), munanka(む七日), sizuukunici または nanananka(四十九日, なな七日) など。

naNkanusiku①(名) 正月7日の節供。若菜を雑炊に入れて祝う。

naNku①(名) 遊戯の名。短く折った箸などを手の中ににぎって差し出し, その数を当てさせるもの。何個。

naNkuru①(副) ひとりでに。自然に。~ miijuN. 自然に生える。

naNkurumii①(名) 自生。野生。-mii < miijuN.

naNkwaa①(名) かぼちゃ。cankwaa ともいう。

naNmaçi①(名) 松並木。

naNnici①(名) 何日。幾日。月の第何日の意では 'iqka という。

naNniN①(名) 何人。幾人。

naNniN①(名) 何年。幾年。

naNnuukan'nuu①(名) 何のかの。文句をいうこと。~ sjun. 何のかのと言う。~

nu 'uhusaN. 何のかのと文句が多い。

naNsaN①(名) 難産。

naNsiN①(名) 難船。

naNza①(名) 銀。

naNzatu①(名) 並里。《地》参照。

naNzaziihwaa①(名) 銀のかんざし。土族の女子が使う。

naNzi①(名) 難儀。苦勞。'wakasaininu naNzee kootiN Qsi. 若い時の難儀は買ってでもした方がよい。

naNziku'Nzi①(名) たくさん難儀。多くの苦勞。~nu 'uhusaN. 苦勞が多い。~ sjun.

naNzu①(副) たいして。それほど。~ 'iimunoo 'araN. たいしていいものではない。~ dikiraN. たいしてできない。

naNzuu①(名) いさかい。悶着。もめごと。「難波」に対応する。

naNzuuhwiNzuu①(名) ごたごた。もめごと。~ sjun. ごたごたともめる。~nu 'iqpee 'aN. もめごとがたくさんある。

-naQ'kwee(助) などと。なんて。なんか。'uncuu~ 'jaaga 'jariimi. おじさんなどとおまえが心安く言えるか。'warabinu 'Nzitooti saki numasi~, soouusaN. 子供のくせに酒を飲ませろなどとおこがましい。'jakooi tataN sjooti qsa~Ndi 'i-ci. 役に立たないくせにやりましょうなどと言って。

naQtuu①(名) 料理名。本土の納豆とは異なる。'Nmukasi(その項参照)をこねて煮たもの。砂糖・ごまなどを加えたものは saataanaQtuu という。

naraasi①(名) ⊖教育。しつけ。'warabee ~nu mun. 子供はしつけがもっとも大切だ。⊖習慣。習性。

naraa=sjuN①(他 =saN, =ci)教える。習わせる。munu'ijoo ~。ことば使いを教える。naraasaQtoon. イ. 教えられている。ロ. そそのかされている。入れ知恵さ

れている。

narabaⓂ (副) [文] できれば。なるべく。

口語は *naraa*。 < *najuN*。

narabiⓂ (名) 並び。また、並んでいる隣。
gaqkoonu ~. 学校の隣。

narabi=juNⓂ (他 =*raN*, =*ti*) 並べる。

nara=buNⓂ (自 =*baN*, =*ii*) 並ぶ。列を作る。

nara=juNⓂ (他 =*aN*, =*ti*) 習う。学ぶ。教
えを受ける。

narasiⓂ (名) 衣紋笥。衣紋竹。笥を横に渡
し、何枚も着物を掛けるようにしたもの。

narasiⓂ (名) 平均。 *tunami* ともいう。

narasiⓂ (名) 薬指。無名指。 *narasi?iibi*
ともいう。

narasi?iibiⓂ (名) 薬指。単に *narasi* と
もいう。

nara=sjuNⓂ (他 =*saN*, =*ci*) ⊖平らにする。
ならず。⊖ならず。平均する。 *tunami-
juN* ともいう。 *naraci caQsaga*。平均し
ていくらか。

nara=sjuNⓂ (他 =*saN*, =*ci*) 粉にする。碾
(ひ)く。ひき臼で粉に砕く。

nara=sjuNⓂ (他 =*saN*, =*ci*) (楽器などを)
鳴らす。

nareeⓂ (名) 習わし。習慣。 *?uraN?aanu*
~*ja guriija saN, tiiiu nizijuru*。西洋
人の習わしは、お辞儀はしないで、手をに
ぎる。「…のことであるので」という軽い
意味にも用いる。 *?jan?baru nu nareja ?a-
danibanu musiru, sikaba ?irimis?ori*
sjuinu sjunume。 [山原のなれや 阿旦
葉のむしろ 敷かば入りめしやうれ 首里
の主の前] 山原のこととて阿旦の葉のむし
ろしかありませんが、敷いたらお入り下
さい、首里の旦那様。

-**naree** (接尾) 習い。習うこと。練習。 *?i-
minaree* (学問), *muNnaree* (作法など
を習うこと), *?wiizinaree* (泳ぎの練習)
など。

narejaⓂ (副) [文] なるべく。なるべくな
らば。できることなら。口語は *naree*。 <
najuN。 *?iqtaazooni macumi, kazima-
jani macumi, ~ kazimajaja masija*
?arani。 [いつた門に待ちゆめ 風回に待
ちゆめ ならいや風回や ましやあらね]
きみの家の門で待つか、四つ角で待つか。
なるべくなら四つ角がよくはないか。

nariⓂ (名) 慣れ。習慣。 *naree* ともいう。
~ *natoon*。 習慣となっている。

narihuziⓂ (名) [文] 姿。みなり。容姿。
satuja ~nu ?igata tuimi?era, ?wamija
sinasakinu ?indu tujuru。 [里やなりふ
じの 姿取りめしやいら わみやしなさけ
の 縁ど取ゆる] あなたは容姿の美しいの
をお取りになるでしょうが、わたしは情愛
の深い縁を取ります。

narijuciⓂ (名) [文] なりゆき。いきさつ。
てんまつ。

nari=juNⓂ (自 =*raN*, =*ti*) ⊖(人に) 慣れ
る。親密になる。なじむ。 *?icigu mama-
tumuti ?ikatareN sja?iga, satuja ci-
mu kawati ?jusuni nariti*。 [いちごま
もて い語らひもしやすが 里や肝変て
他所に馴れて] 一生涯一緒になると思って
語らいもしたが、君は心変わりして他の女
と親しくなってしまう。⊖(ものごとに)
慣れる。習熟する。習慣となる。⊖(酒な
どが) なれる。しっとりとしたよい味にな
る。

narimuNⓂ (名) 割れ物。陶磁器の類。割
れるという語を忌んで鳴り物といったもの
か。ただし、楽器類の鳴り物は *naimuN*
という。

narimuNdo?oguⓂ (名) 瀬戸物類。皿・茶
碗などの道具。

narisumiⓂ (名) [文] なれそめ。

narubiciⓂ (副) なるべく。なるだけ。~
kuujoo。なるべく来いよ。 *narubicee ?i-
muN tujun*。なるだけいい物を取る。

naruhudu

naruhudu①(副)[文]なるほど。口語では'ncaという。

nasaga=sjuN①(他=saN, =ci)陰口を言う。

nasaki①(名)⊖[文]情。あわれむ心。~ ?ati kakusi nubinu hanaşici, taiga tamanuunu ?usisa ?araba. [情あてかくせ 野辺の花薄 二人が玉の緒の惜しさあらば]情をもって隠してくれ、野辺のすすきよ、ふたりの命を惜しいと思うなら。⊖愛のしるし。男女間の贈り物。nuun ~N 'iitee 'uraN. 何も愛の贈り物をもらっていない。

nasi?aga=ju'N①(他=raN, =ti)生みあげるの意。子を何人が生んでのち、生まなくなる。また、(鶏が)卵を生まなくなる。

nasigwa①(名)生みの子。生んだ子。愛児。?amori sici 'wamija 'juminumadu 'jaşiga, tageni narisumiti ~ 'wane hutai. [天降してわ身や 夢の間どやすが 互になれ染めて なし子わな二人(銘苅子)]天から降りて来て、わたしは夢のように過ごしたが、その間に男と愛し合って生んだ子がわたしにはふたりある。

nasihaNzoo①(名)出産。単にhanzooともいう。~ sjun. 出産する。

nasihwi'rugi①(名)子孫をふやすこと。繁殖。

naşi=juN①(他=raN, =ti)なす。なすりつける。塗りつける。?anda ~. 油をなすりつける。

nasimee①(名)お産の前。産前。

nasimii①(名)里方。kusjatikata(嫁入り先)に対していう。~nu kutu sjun. 里方への補助をする。

nasimuNnuQkwa①(名)生みの子。

naşiree=juN①(他=raN, =ti)かんべんする。おだやかに許してやる。宥怒する。まれな語。

nasisu'dati①(名)生み育てること。

nasi?uja①(名)生みの親。

nasi?utu=sju'N①(他=saN, =ci)生み落とす。

nasizici①(名)産み月。臨月。

na=sjuN①(他=saN, =ci)⊖(ある状態に)する。なす。Qkwa qunu 'nza ~. 子を人の召使にする。?ariga tuzi ~. 彼の妻にする。curaku ~. 美しくする。⊖移す。移動させる。寄せる。kumaNkai naşee. こっちに場所を移せよ。

na=sjuN①(他=saN, =ci)生む。Qkwa ~. 子を生む。nacaru ?ujajaka suiatinu ?uja. 生みの親よりも育ての親。nasmijun. 生ませる。

nauri①(名)[文]名折れ。ticini kubi magiti koosaNju şiraba businu minu ~…[敵に首曲げて 降参よすらば 武士の身の名折…(忠臣身替)]敵に首を曲げて降参すれば、武士の身の名折れ…。

nawaasjan①*(形)似合わしい。似つかわしい。ふさわしい。nawatoon (<nawajun)を多く用いる。nawaasikoo neen. 似つかわしくない。nawaasii mun. 似つかわしいもの。

nawai①*(名)似合い。似合うこと。つり合うこと。~nu 'winagoo 'uraNga 'jaa. 似合いの女はいないかなあ。

nawa=juN①*(自=raN, =ti)似合う。つり合う。ちょうどよい。cinnu 'juu nawatoon. 着物がよく似合っている。tusihudunu ~. 年ごろである。takihuūunu nawatoon. 背たけがちょうどよい。'juu nawatooru miitunda. 似合いの夫婦。

naşasi①(名)名ざし。指名。

naşatu①(名)名里。(地)参照。

naşiki①(名)そぶり。ふり。miži husja-naşiki tawahuridu 'jajuru. [水欲しややなづけ たはふれどやゆる(手水之縁)]水が欲しいのはそぶりだけで、たわむれであろう。şikan ~ qsi.* 好かぬふりをして。

-**nazikii** (接尾)…するふり。'juminazikii (読むふり), ?aqcinazikii Qsi kuma 'NneootaN. (歩くふりをしてこっちを見ていた) など。

nazimaⓄ (名) 名目だけの領地。名のみあって実在しない領地。～'uganuN. 名前だけの領地をいただく。沖縄は土地が狭いために有名無実の論功行賞として与えられることがあった。

nazinataⓄ (名) なぎなた。

nazinasabaⓄ (名) はきくずして長く伸びた草履。

neeⓄ (名) 地震。～nu 'jujuN. 地震が起きる。

neeⓄ (名) 苗。

neeⓄ (名) 似合い。似合うこと。ふさわしいこと。つりあうこと。niee, niiee ともいう。'iinee 'jasa. よい似合いだ。

-**nee** (助) (…する) ように。(…した) ごとく。比喩の場合に用いる。hwinsuumuNnu taka 'iitan～. 貧乏者が鷹をもらったように。'juumizi cikajuN～ ziN cikajuN. 湯水を使うように銭を使う。nuuzinu taqcooN～ Qsi curasatan. 虹が立ったようにきれいだった。

neebiⓄ (名) まね。動作・表情などのまね。すなわち、外面的なまねごとをいう。一方、mani は模倣して見習うこと。saarunu qeunu ～ sjuN. 猿が人まねをする。

neebuNⓄ (名) 内分。内内。公にしないこと。～nu hanasi. 内分の話。

neeciriⓄ (名) 着物のあげ。総いあげ。

neeçuuⓄ (名) [文] 内通。?iru?iruni ?i-imawaci rakucakuju simiti, huminu kajuwasini ～ju ?iriju. [色色に言ひまわち 落着よしめて 文の通はしに 内通よすれよ (忠臣身替)] いろいろに言い抜けて敵を安心させ、手紙で内通してくれ。

neegaaⓄ (名) neeguu の卑称。neezaa ともいう。

neeguuⓄ (名) 足の働きが不自由なもの。びっこ。ちんば。guunaa ともいう。< neezuN.

nee=juNⓄ (自 =raN, =ti) 萎える。(草木などが) しおれる。しなびる。活力がなくなる。tiidanu ～. 日ざしが弱る。

nee=juNⓄ (他 =raN, =ti) 差し出す。前に出す。突き出す。?iba ～. 舌を出す。tii ～. 手を差し出す。tii ?NzasjuN. (手を出す) はけんかになる意。ziN ～. 金を差し出す。

neekaⓄ (名) ⊖今晚。今夜。きょう来るべき晩をいう。すなわち、朝・昼に今晚についていう語。～nu 'juru ともいう。夜に今晚のことをいう時には単に cuu (きょう) を用いる。⊖死後。死んだあと。～ Qsi kwijuru qeun 'uraN. または ～ nati ?atu Qsi kwijuru qeun neeraN. ともに、死んだあとを見てくれる人もいない。

neemaiⓄ (名) せがむこと。(子供が) ねだること。

neemiⓄ (名) 総い目。

neenceⓄ (名) 内内。ひそかに。～ ?icuN. ひそかに行く。～nu hanasi. 内内の話。

neenⓄ (自・不規則) ⊖無い。?aN (ある) の打ち消し。neeraN ともいう。neejabinan. ありません。～ nasjuN. 無くする。～ najuN. 無くなる。～ 'jaa. 無いねえ。～ga 'jaa. 無いかなあ。～ga ?ara. 無いだろうか。neenuN ?aran. 無くもない。'judee ～. 読んでない (judeen—読んである一の打ち消し)。cinu cijoonu ～, hwiciciikaacii Qsi. 着物の着かたがなっていない、あっちこっち引きつって。nesami. [ないさめ] [文] ないだろう。⊖…してしまった。kadi ～. 食べてしまった。'judi ～. 読んでしまった。nutuNganaasi baqpeeti ～ mun. 何となしに間違えてしまったんだもの。

neeraNⓄ (自・不規則) neen と同じ。

neeraNmuN① (名) 無いものと思ってしまっておく物。金など、あると思うと使ってしまうので、無いことにして、大事にとっておくこと。

neesjuu① (名) 内証。内密。

neesjuubanasi① (名) 内証話。

neetukeetu① (名) 似合い。似たり寄ったり。同じ程度。甲乙なし。多くは、程度が低い場合にいう。～nu miitunja. 似合いの夫婦。dunnasaa ～. 愚鈍さはどちらもどっちだ。

neezaa① (名) neegaa と同じ。

nee=zuN① (自 =gan, =zi) 「瘡ぐ」に対応する。足が不自由で歩行できない。

-ni (助) ⊖に。najun (なる), nasjun (する) などを用いて「…になる」「…にする」などの意を表わす場合には、ふつう助詞を用いない。sinsii naibusjan. (先生になりたい), taruu hwiitai nasjun. (太郎を兵隊にする) など。また「に」に相当する助詞には、ほかに、-nkai, -nakai, -kai, -nai, -ga (それぞれの項参照) などがあるので -ni の用いられることは比較的少ない。kurumani nusijun. 車にのせる。ʔujani kanasja sarijun. 親にかわいがられる。ʔjaqciini nuraaqtan. にいさんに叱られた。ciini kanajun. 気に入る。心にかなる。ʔumaŋcuni hurijun. 人びとに知らせる。tusibcenee 'uuziran. 年に(は)似合わない。⊖…するとき。…した場合に。-ja (は)が付いて -nee となると「…する時には」「…したら」「…すると」などの意となる。ふつう活用する語の「連用形」、または「連用形」にさらに i を加えた形につく。kansiiini mani* ʔariga ʔansjuʃee caa sjuga. こうやった時にもし彼がああやったらどうするか。ciciinee. 聞いた時には。聞いたら。cikaŋdaine. 聞かなかった場合には。聞かなかったら。ʔainidu kubameesjuru. ある

時にこそ節約する。ʔaʔikoʔkoo sjooini kamee. 熱いうちに食べろ。

nibaNdui① (名) 二番鶏。一番鶏について鳴く鶏。

nibuʔNmari① (名) 遅生まれ。hweeʔN-mari の対。ただし、11～12月ごろに生まれたことをいう。

nibuʔuqtaci① (名) 遅く出発すること。次の句でいう。～nu hweeriqsin. イ. おそく出発して早く成功すること。才ある者は遅くやり出しても早く立身すること。ロ. 女の場合には、縁談が遅く始まってすぐまとまるのをいう。riqsin は女については結婚の意。

-nici (接尾) 日 (にち)。日数・日付けを表わす。ʔicinici (一日), sannici (みっか) など。

niçi① (名) 熱。熱気。また、体熱。～nu ʔan. (病気で) 熱がある。hwiinu ～. 太陽の熱(hwiinuniçi は火熱)。niçe ʔami. イ. 熱はあるか。ロ. (相手を押搦して) 生きているのか。気はたしかか。kamanu subaa ～nu hwaahwaa sjun. かまどのそばは熱気がかかかとしている。

niçisamasi①* (名) [新?] 熱さまし。解熱薬。

niciziN① (名) 日限。期日。

nidu① (名) 二度。再度。

nidumii① (名) 二度目。

nice① (名) 似合い。niice, nee ともいう。tuseeü ~ju ʔariba. [年やいど似合よやれば(孝行之巻)] 年ごろが似合いであるから。この場合、nijai とも発音する。

niga=juN① (他 =an, =ti) 顯り。

nigajuu① (名) [文] 凶年。

nigami① (名) 一部落(旧行政区画の村)の神官である女。数部落の神官である nuuru (のろ) の下、一門の神官である kudi の上。nigami のいる家を niidukuru または niija という。

nigaŋgami① (名) まずそりに食べること。

- ～ sjuN.
- nigaNhwiga⁷N**① (副) まずそうに食べるさま。niiguhwiigu ともいう。～ sjuN.
- nigau**① (名) 寝顔。niNzigau ともいう。
- nigee**① (名) 願い。願望。～ du seewee. 願ってれば、それがかなえられて幸いとなる。
- nigeegutu**① (名) 願いごと。
- nigeeka⁷nee**① (名) 強い願い。強く願うこと。nigee の意味を強めた語。～ sjuN. 強く願う。
- nigoo**① (名) 二合。niNgoo ともいう。
- niguruma**① (名) niiguruma と同じ。
- nigutu**① (名) 寝ごと。?umukutu⁷du ～. 思ふことが寝ごとに出るものだ。
- niguunigu**① (副) ゆっくり落ち着いてするさま。食べる場合に多くいう。ゆったり。～ sjuN. ゆったりとしている。
- nigwaçi**① (名) 2月。niNgwaçi ともいう。
- nihaciguru**① (名) [文] 二八のころ。男女十六歳のもっとも花やかなころ。
- nihjaaku**① (名) 錢200文。4厘。ziN の項参照。
- nihoomuci**① (名) [二方持] 領地と扶持米とを持つ者。?iqoomuci [一方持] (扶持米のみあって、領土は名目のみの者) の対。
- nihwa**① (名) 饒波。nuhwa, nuhwa ともいう。《地》参照。
- nihwee**① (名) [御拜・美拜] ありがたく思うこと。感謝すること。古風な発音では mihwee. ～ doo. どもありがと。～ deebiru. ありがとございます。目下に対しては kahuusi という。平民は身分の上の者に対して siduugahuu deebiru という。～ ?juN. お礼をいう。
- nii**① (名) ①根。草木の根。②病根。また、はれものの堅くなっている部分。～ cira-sjuN. 根治する。③怒り・恨みなどの心の底に残っているもの。～ muqcooN. 根にもっている。
- nii**① (名) 荷。荷物。また、負担。～ ?uusi-jun. (牛馬に) 荷を負わせる。tabee ?ira-nažikaN ～ najun. 旅は鎌の柄(のように軽いもの)でも荷になる。
- nii**① (名) そば。近所。近く。?ujuanu ～. 親のそば。gaqkoonu ～. 学校の近く。
- nii**① (名) 子(ね)。十二支の第一。方角は北、時刻は午前零時。
- nii**① (名) 二。普通は taaçi という。
- nii**① (名) 値。値段。～ sjuN. 値段を付ける。
- nii**① (名) 音(ね)。saNsiniNu ～. 三味線の音。
- nii?agi**① (名) 二上がり。三味線 (saNsini) で、二の糸を本調子より一段高くした調子。干瀬節 (hwisibusi), 子持節 (qkwamucibusi), 仲風 (nakahuu), 述懐 (sju-qkwee), 散山 (saNjamaa) など哀調をおびた節に多い。祝宴の席では、はじめに本調子の賀歌を歌い、宴が進むに及んで二上がりの歌が奏せられる。単に ?agi ともいう。
- niibai**① (名) ①草木の根が張ること。根張り。②瘡・腫れ物などの周囲が堅くなること。
- niibi**① (名) 赤くざらざらした堅い土質。堅いので niibibaka という形式の墓が掘られる。
- niibi⁷baka**① (名) 墓の形式の一つ。niibi (堅い赤土の層) に掘って作った墓。沖縄の墓はすべて横穴式であり、身分の高い家では、岩に掘るかまたは石を積み、しっくい塗って固め、亀甲式または破風式に作る。しかし、それには多額の費用を要するので、一般人は niibi に穴を掘って作る。
- niibici**① (名) ①結婚の行事。結婚式。婚礼。丁寧には ?unibici, 身分のある人の婚礼は kuNrii, 王子・王女などのそれは

niibiciNcu

gukunrii という。⊖結婚。
 niibiciNcu①(名) 婚礼の時、花嫁を迎えに行き、また式の進行などをする世話役。女二人が当たる。nakadaci ともいう。
 niibicizaa①(名) 婚礼の日、花婿の友人などを招いて宴会を行なう宴会場。
 niibinuhuni①(名) niibi (堅い赤土) の特に岩のように堅いもの。
 niibiru①* (名) 植物名。のびる。ねびる。ねぎに似た小さな野草で、食用となる。
 niibu①(名) ひしゃく。
 niibugaa①(名) 井戸の一種。水位の高い、または浅い井戸。ひしゃく(niibu)で汲めるような井戸(kaa)。
 niibui①(名) 眠気がさすこと。～sjun. 眠気がさす。眠たがる。
 niibuiga`maN①(名) 子供が眠たがって泣くこと。
 niibuikaa`bui①①(副) しきりに眠気がさすさま。～sjun. とても眠そうにする。
 niibuimii①①(名) 眠そうな眠。
 niibuimusi①(名) 寝坊。眠ってばかりいる者のあだ名。
 niibujaa①①(名) しょっちゅう眠たがる者。寝坊。
 niibutaa①(名) 根太。腫れ物の一種で脂肪分の多い箇所のできるもの。niibutu ともいう。
 niibutu①(名) niibutaa と同じ。
 niici①(名) 寝息。
 niiciri=jun①(自 =raN, =ti) 全治する。根治する。すっかり直おる。
 niidakasan①(形) 値段が高い。高価である。?icandamunoo ～。ただの物は(お返しなどで)かえて高くつく。
 niidukuru①(名) 村の神官の家。niija ともいう。根どころの意。一部落(旧行政区画の村)に一軒ずつあり、その部落でもっとも有力な一族の本家にあるのが普通。nigami (神官たる女)と、niineu (そこ

の男主人)とがいる。
 niiee①(名) 似合い。つりあい。niee, nee ともいう。
 niiguhwiigu①(副) まずそうに食べるさま。niganhwigan ともいう。～sjun.
 niigui①(名) 根っこ。根株。
 niiguruma①(名) 荷車。niguruma ともいう。
 niihuda①(名) 荷札。出荷証。板に書かれる。
 niihuqkwa①(名) 無愛想な者。いつも顔をふくらませている者。女について多くいう。
 niizi①(名) 土台石。家屋の土台石。
 niija①(名) niidukuru と同じ。
 niijaqkee①(名) 荷厄介。負担をもてあますこと。～na mun. 荷厄介なもの。～sjun. 荷厄介である。
 nii=jun①(他 =raN, =ti) ⊖練る。?Nmunii ～。いも練り(料理名)を練る。⊖転じて、なぐる。?unihjaa niiti turasee. その野郎、なぐってやれ。nama niirarijun doo. いまになぐられるぞ。いまになぐるぞ。
 nii=jun①(自 =raN, =ti) 煮える。
 niikara①(名) 根っから。全く。絶対。～narandi ?jun. 絶対にできないという。～nu hurimun. 全くの馬鹿。
 niikee①(名) 二階。
 niikeebasi①(名) 二階に上る階段。はしごだん。
 niikeejaa①(名) 二階屋。二階建ての家屋。
 niikuta①(副) 煮えてくたくたになるさま。～natoon. くたくたに煮えている。
 niimaaraa①(名) 背が低く横に太った者。ずんぐりした体つきの者。
 niimasi①(名) 似てはいるが、まさっていること。?anu 'winaguwarabee ?ujatu ～'jan. あの女の子は親に似てしかも親よりもきれいだ。

niimiciei^{mi}①(副) 根掘り葉掘り聞くさま。～ sjuN.

niimutu ①(名) 根元。

niinai ①(名) もとなり。瓜などが、根の近くに実を結ぶこと。また、その実。simunai, suuranai (うらなり) の対。

niinii ①(名) ねんね。寝ることの小児語。

niinuhana ①(名) 行商の口あけ。普通の商品の口あけは miiguci という。

niinuhwa ①(名) 子(ね)の方角。北。～ nu mihusi. 北極星。

niinuzi ①(名) 肉を煮つめてとった汁。肉からとったスープ。煮抜きの意。

niineu ①(名) niidukuru (村の神官の家) の男主人。

niirihwi^{iri} ①(名) 恥じていたたまれないこと。～ nu miinkai ʔiqei. 恥ずかしくてたまらないような目に会って。

niisahweesa ①(名) 遅速。早い遅い。

niisanumaasanu ①(名) まずいのうまいの。食べ物不平をいうこと。～ nu ʔuhusan. 食べ物不平が多い。～ sjuN.

niisan ①(形) 遅い。のろい。速度がのろい。時間が遅い意味では, ʔuʂisan ともいう。また, niŋku の項参照。

niisan ①(形) まずい。食べ物がおいしくない。

niisee ①(名) 二才の意。青年。～ 。年長者が青年を冷笑し, あるいはたしなめる時のことば。

niiseeudui ①(名) [二才躍] tabikuduci [旅口説] に合わせて踊る舞踊の名。

niisisi ①(名) 根元。付け根。～ kara ʔusirciree. 根元から切ってしまう。

niisizi=juN ①(自 =raN, =ti) 煮え過ぎる。

niisuura ①(名) 根とこずえ。

niitasaN ①(形) 恨めしい。恨みに思う。niitasa sjuN. 恨む。

niiʔuusaa ①(名) 荷馬。駄馬。

niuu ①(名) 芭蕉布の一種。芭蕉を煮てか

ら抜いた糸で織ったもの。黄色味を帯びている。

niiwacaree ①(名) 荷厄介。荷物にわずらわされること。

niiwandee ①(名) 荷物にわずらわされること。荷造りが悪く持ちにくいとか, 重過ぎるとか, 運搬中の困難をいう。

niizamun ①(名) まずい物。おいしくない物。

niizi=cuN ①(自 =kaN, =ci) 根付く。移植した草木に根が付いて育つ。

niizukui ①(名) 荷造り。梱包。

-nija (接尾) [文] [仁屋] -njaa の文語。

nijoobutuki ①(名) nioobutuki と同じ。

ni=juN ①(他 =raN, =ci) 煮る。飯をたく, いもをふかすなどの場合にも nijun を用いる。ʔubuN ～。御飯をたく。ʔnmu ～。さつまいもをふかす。

ni=juN ①(自 =raN, =ci) 似る。ʔarin kai nicoon. 彼に似ている。taani nicooga. 誰に似ているか。taatu nicooga. ともいう。

nikaa ①(名) にかわ。

niku ①(名) 肉。人体の筋肉をも, 食肉(sisi)をもいう。

nikubuku ①(名) 藁縄で編んだむしろ。農家で用いる。

niku=nuN ①(他 =maN, =di) 憎む。miqkwasasjuN ともいう。

nikuN ①(名) にきび。

nikusan ①(形) [文] 憎い。口語では miqkwasan という。nikwii 'eeziga ʔakujukuja 'jamaN. [にくい入重瀬が 悪欲ややまぬ(忠臣身替)] 憎い入重瀬の悪欲はやまず。

nikwanmagi ①(名) 髪結いの料金の名。料金が2貫(4銭)で, 青元結いを用いた。katakasirajuujaa の項参照。

nimuçi ①(名) 荷物。

niniŋgwii ①(名) 寝相の悪いこと。寝てい

- て転げまわること。niNningwii ともいう。～ sjuN.
- niN① (名) 念。気をつける気持ち。熱心な気持ち。～ Yirijun. 念を入れる。～ nu neeN. 念がない。熱心でない。
- niN (接尾) 人。人数を数える時の接尾辞。rukuniN (六人), siciniN (七人) など。
- niN (接尾) 年。guniN (五年), zuuniN (十年) など。
- niNbucaa① (名) 念仏宗のこじき。鉦たたき。葬式に鉦をたたき、また那覇の垣花 (kacinuhana) あたりではお経を説くこともあった。会葬者はその鉦の音によって尋ねて行くことができる。
- niNbucaasi'idu① (名) 乞食の頭目。
- niNbuçi① (名) niNbucaa のやや上品な語。普通は niNbucaa という。その項参照。
- niNbuçiğani① (名) niNbucaa のたたき鉦。
- niNbutukii① (名) 植物名。すべりひゆ。随所に自生する雑草である。
- niNci① (名) 年忌。法事の年忌。sjuukoo の項参照。niNcee Yiçimadi şidooga 'jaa. 法事の年忌はいつまですんでいるか。
- niNdee① (名) 年代。
- niNğaki① (名) 志。志望。Yisja najuru ~ 'jan. 医者になるよう志している。
- niNğaki=juN① (他 =raN, =ti) 心がける。念頭におく。志す。
- niNğaniZzuu① (名) 年がら年中。
- niNğoo① (名) 二合。niğoo ともいう。
- niNğuru① (名) 情人。いろ。情婦または情夫。
- niNğwaçi① (名) 二月。niğwaçi ともいう。
- niNğwan① (名) 念願。神仏に対する願い。Yumigwa tuimudusu ~nu Patuti. [思子取戻す 念願のあとて(大川敵討)] 若君を取りもどす念願があって。
- niNhwiri① (名) 年を経ていること。年数を経た動物や一箇所に長くいて事情によく通じている者などについていう。
- niN'iri① (名) 念入り。念を入れること。また、熱心なこと。
- niNku① (副) のろく。遅く。速度についていう。niiku ともいう。niiku < niisan. 時間については niqka という。
- niNmee① (名) 二枚。nimee とはいわない。
- niNmeenaabi① (名) 鍋の一種。鍋 (naabi) の項参照。
- niNmuee① (名) 年に一回開く組織の muee (無尽講)。
- niNniN① (名) 年年。年年歳歳。
- niNniNgusa① (名) 植物名。ねむりぐさ。おじぎそら。
- niNniNgwii①* (名) niNingwii と同じ。
- niNnukwaa① (名) 念の入れすぎ。念が入りすぎること。また、思い過ごし。～ du 'jaru. 念が入りすぎている。
- niNpu① (名) 年賦。niNziri ともいう。
- niNpu① (名) 人夫。
- niNrıcı① (名) 念力。精神力。思い込むことによって出る力。
- niNşii① (名) 年末。年の暮れ。
- niNsi=juN① (他 =raN, =ti) ⊖寝つかせる。眠らせる。寝かせる。⊖横に倒す。(立石などを) 寝かせる。
- niNsja①① (名) [念者] 念を入れる人。熱心な人。
- niNsoo① (名) 人相。
- niNsuku① (名) 人足。人夫。
- niNsuu① (名) 年数。
- niNtahuunaa① (名) 寝たふり。たぬき寝入り。～ du 'jaru. たぬき寝入りだ。～ sjuN.
- niNtuu① (名) 年頭。年始。～ nu 'ugami. 年頭に一年中の無事息災を神社仏閣に祈願して回ること。
- niNtuumaai① (名) 年始回り。
- niNzaa'wiizi① (名) 背泳。maahwanacaa-

- ʔwiizi ともいう。
- niNzi**① (名) 念じ。信仰。信仰心。普通は guniNzi という。～nu ʔaru qeoo kawatoon. 信仰のある人は偉い。
- niNzibusjan**① (形) 眠い。眠たい。また、寝たい。
- niNzibusuku**① (名) 寝不足。睡眠不足。
- niNzicigee**① (名) niNzicizee と同じ。
- niNzicizee**① (名) 寝違え。睡眠中に筋を違えること。niNzicigee ともいう。
- niNzigau**① (名) 寝顔。nigau ともいう。
- niNzigukuci**① (名) 寝ごころ。
- niNzigunasi**① (名) ふて寝。ふてくさって寝ること。
- niNzihagi**① (名) 床ずれ。長く病床にあって肩や腰などがずれて痛むこと。
- niNzihana**① (名) 寝入りばな。
- niNzihuri=jun**① (自 =raN, =ti) 寝忘れる。寝てしまって時を忘れる。
- niNzijan=zun**① (自 =daN, =ti) 寝そびれる。寝そこなる。
- niNzi=jun**① (他 =raN, =ti) 念ずる。心に祈る。信心する。信仰する。
- niNzikee**① (名) 気がかり。心配。懸念。ʔuhwin ~ja neen. 少しも懸念はない。
- niNzikigee**① (名) 寝返り。
- niNzimunugatai**① (名) 寝物語。夜、寝ながら話し合うこと。
- niNziN**① (名) 人間。ʔatara ~ni ʔnmarijai ʔusiga rakurakutu kurasu hwi-manu neraN. [あたら人間に 生れやい居すが 案々と暮らす 暇のないらぬ] あたら人間に生まれていながら、安楽に暮らす暇がない。
- niNziNsanisci**① (名) 植物名。三七草。下剤・通経・消毒などに効く薬草。
- niNziri**① (名) 年切り。年ぎめ。年季。また年賦。奉公などの年限。また、代金・身代金などを、年数をきめて払うこと。～ qsi kootaN. 年賦で買った。
- niNzizama**① (名) 寝ざま。寝相。niZama ともいう。
- niNzoo**① (名) ㊦人形。hutukii ともいう。また、人形のようにかわいらしい者。㊦無表情な美人にもいう。
- niNzoo**① (名) 人情。
- niNzu**① (名) ㊦人数。㊦ (…の)一団。…のグループ。また、その構成員。団員。複合語には、ʔuiniNzu (踊りの一団), tabiniNzu (旅の一団), ʔjaaniNzu (家族) など。
- niNzuʔaratami**① (名) 人員調査。人数調べ。また、点呼。
- niN=zun**① (自 =daN, =ti) 眠る。寝る。睡眠する意にも就床する意にも用いる。niNtai ʔukitai. 寝たり起きたり。niNdi. おやすみ。寝る目下へのあいさつ。目上に対しては ʔweesimiʔeebiri. という。
- niNzuu**① (名) 年中。一年中。～nu siuu-gahuu. 年末に神社仏閣を回り、一年中のお礼をする祭り。～nu ʔugami ともいう。
- nioobutuki**① (名) 仁王。一對の仁王の一方を女に見たてて、一對の仁王を俗に、～ makaabutuki という。nioo (男) も makaa (女) も、ともに平民に多い名。
- nioo=jun**① (自 =raN, =ti) 似合う。つりあう。ふさわしくなる。多く、いい意味にいう。着物が似合う意では多く ʔuciNjun という。niootooru miitu. 似合いの夫婦。
- niQci**① (名) 日記。
- niQcii**① (名) 植物名。肉桂(につけい)。
- niQciriikeeʔciri**① (副) ゆっくりゆっくり。のろのろ。～ ʔaqcun. のろのろ歩く。
- niQka**① (副) 遅く。時間についていう。速度には niiku, niNku という。～ najun. 遅くなる。
- niQsjuku**① (名) 日蝕。
- niraikaʔnai**① (名) [文] giraikanai と同じ。

nireekanee

nireeka`ncc① (名) gireekanee と同じ。

niri① (名) 食物の中にまじっている砂など。

nirigasagasa① (副) niri (食物の中にまじった砂など) が齒にあたって発する音のさま。～ sjuN. 食物に砂などがまじってじゃりじゃりする。

niri=juN① (自 =raN, =ti) 飽きる。(人・仕事・食物などが) いやになる。

niriuu① (名) 下駄・草履などの鼻緒の一種。竹の皮、葦などをよって作ったもの。貴族は kaauu (皮の鼻緒) を用い、士族は、娘以外は kaauu は許されず、niriuu を用いた。hanauu の項参照。

nirumi① (名) 根路銘。《地》参照。

nisabu=juN① (他 =raN, =ti) 不満足に思う。いやがる。好まない。'waqsandiga Yumutoora nisabuti kooran. 物が悪いと思っているのか、不満足に思っ買わない。'janakaagii ndici nisabutoon. 不美人(または、ぶおとこ)なので、いやがっている。?Nmoo nisabutoon. さつまいも(を食べるの)はいやがっている。

nisasibu① (名) 根差部。《地》参照。

nisi① (名) 便所。雪隠(せっちん)。

nisi① (名) [西] 北。西は ?iri という。

nisi① (名) 西。《地》参照。

nisibaru① (名) 西原。《地》参照。

nisibuci① (名) 北風。冬に北から吹く季節風。

nisici① (名) 節。

nisicimucigoo① (名) kusiciYukwaasi (祭祀用の菓子) の一種。上は桃色、下は白。

nisigee① (名) 露店。大道に大きな傘をさしかけ、その下に商品を並べて売る。?isigee ともいう。

nisii① (名) 似せて作ったもの。模造品。イミテーション。また、にせ物。sjoomuN (本物) の対。

nisi=juN① (他 =raN, =ti) 似せる。まねてする。また、似せて作る。模造する。偽作する。?cuni nisiti sjuN. 人をまねてする。

nisimi① (名) 西銘。《地》参照。

nisimuN① (名) にせもの。模造品。nisii と同じ。

nisinuhwira① (名) 西之平等。《地》参照。

nisinu?udun① (名) 首里城の建物の名。?ugusiku の項参照。

nisinu?umi① (名) 東支那海。北(nisi)と西(?iri)とを混同しているが、ここは西の海の意。

nisinKee① (名) 北向き。

nişizi=juN① (他 =raN, =ti) 煮過ぎる。

nisjudaci① (名) 二升だきの鍋。

nitakamaNta① (名) 似た者同志。kamaN-ta は、編んで作る鍋のふた。

nitamairuku`zuu① (名) rukuzuu (豆腐を小さく切り、塩をつけて焼いたもの) を少し腐らせたもの。茶人のお茶請けにする。

nitamaizira① (名) 生気のない顔。笑ったことのないような顔。腐れかかった顔の意。

nitama=juN① (自 =raN, =ti) 腐りかかる。(食物などが) 腐える。

nitaNçirugi① (名) 二反統きの反物。一匹の反物。

niui① (名) [文] におい。香氣。niwi [文・口] ともいう。

niwa① (名) 庭園。觀賞用の庭。仕事用の前庭は naa という。

niwagi① (名) 庭木。庭園に植える木。

niwatui① (名) 鶉。普通は tui という。

niwi① (名) におい。悪臭にも芳香にもいう。

niwidakasaN① (形) 臭い。強くにおう。

niżama① (名) 寝相。寝ざま。niNziżama ともいう。～nu 'waqsan. 寝相が悪い。

niżamasa① (名) 寝ぼけること。～ sjuN.

nizami① (名) 根謝銘。《地》参照。

nizamiʔuduruci① (名) 恐ろしい夢など見て、驚いて目ざめること。makutukaja zicika 'wazimu huriburitu ~nu 'juminu kukuci. [誠かや実か 我肝ほれほれと 寝覚め驚きの 夢の心地(散山節) 夢かまことか、わたしの心は茫然として、夢を見て驚いて目ざめた時のこちである。子を失った時の歌。

nizasici① (名) 寝座敷の意。寝間。寢室。'Nzoga ~ni ʔarasi hucikumaba, kugarijuru 'waminu ʔiniN tumuri. [無葎が寝座敷に 嵐吹き込まば 焦れよるわみの 遺念ともれ] わが愛する女の寢室に 嵐が吹き込んだならば、思い焦がれるわたしのしたわざと思え。

nizidee① (名) 耐える力。忍耐力。-dee < tee. ~nu ʔaʃigadu ʔuhuʔijoo tujuru. 忍耐力のある者が大魚を取る。

niziikaNtii① (名) こらえかねること。耐えかねること。我慢できないこと。~ sjuN.

niziiku'nee① (副) 我慢するさま。辛抱するさま。-kunee < kuneejuN. ~ sjuN. 我慢する。辛抱する。

nizijaa① (名) けちんぼ。握り屋。

nizi=juN① (他 =raN, =ti) 握る。tii ~. 手を握る。

nizi=juN① (他 =raN, =ti) こらえる。耐える。我慢する。

nizi=juN① (他 =raN, =ti) つねる。

niziri① (名) ねじ。

niziri① (名) 右。hwizai (左) の対。

nizukui① (名) niziukui と同じ。

nizuu① (名) 二重。~ni natoon. 二重になっている。

nizuu① (名) 二十。

nizuuguniNci① (名) 二十五年忌。

nizuusikoo① (名) 二十四孝。中国の二十四人の孝子の物語を書いた家庭教育書。本・掛け軸・絵巻物などになっていて、幼

年時代に深く印象づけられたものである。

njaa① (副) もろ。もはや。naa ともいう。takahanarizimaja munusirasidukuru, nja munu sijabitan 'juruci tabori.

[高離島や 物知らせ所 にやもの知やびたん 許ちたばうれ] 高離島は流刑の地で、苦勞を知らせるところ。もはや苦勞は知りました。許して下さい。

-njaa (接尾) [仁屋] 士族・平民の初階の位の名。姓のあとにつけていう。文語は -ni-ja.

njaaja① (副) もろ。もはや。naaja と同じ。

njahwin① (副) [にやへも、みやへも] もっと。さらに。naahwin の文語。nuhwanu ʔisikubiri 'Nzo ʔiriti nuburu, ~ ʔisikubiri tusawa ʔarana. [伊野波の石小坂 無葎つれてのぼる にやへも石こびり 遠さはあらな] 伊野波の石ころの坂道を恋人(女)をつれて上る。もっと石ころの坂道が遠くまでであるといい。

njamata① (副) [文] もはやまたの意。もう二度と。tuiN naciʃimiti ʔakigumuN tacui, ~ ʔiçi 'ugadi mumuci nubjuga. [鳥も鳴きすめて 明雲も立ちゆりにやまた何時をがで 百き延びゆが] 鳥も鳴き始めて、夜明けの雲も立っている。生き長らえてもう二度といつお目にかかれようか。

njuNzu① (名) mjuNzu と同じ。

njuukoo① (名) ʔukoo (線香) の敬語。

njuukooʃizi① (名) nuukooʃizi と同じ。

noobu① (名) 屏風。

nooga① (名) mjooga と同じ。

nooimuN① (名) 縫い物。裁縫。針仕事。

noo=juN① (他 =raN, =ti) ①縫う。②なう。çina ~. 綱をなう。

noo=juN① (自 =raN, =ti) 直る。癒える。改まる。よくなる。

noo=juN① (自 =raN, =ti) nioojuN と同じ。

nooniNkwaaniN

nooniNkwaan:iN④(副) 読経の声。～ sju-N. 読経の声を立てる。

noonoo④(名) 花の小児語。

noo=sjuN④(他 =saN, =ci) 直す。改善する。修理する。治療する。

noo:akeeta④(名) 相応すること。似合うしいこと。似合い。～nu munoo 'urani. 似合いの者はいないか。

noo:aru④(連体) 然るべき。相応の。ふさわしい。似つかわしい。<noojun. ～munoo 'jaija sani. 然るべき人間だろう。それ相応の者であろう。'wanNi ～kutoo qsiwaču 'jaqsaa. わたしに相応の事はしなければならぬよ。～kama-du sikajuru. 相応のかまどをつくる。相応の者が夫婦になる意。

noozii④(名) mijoozi と同じ。

-nu (助詞) ⊖の。属格を示す。qcu～mu-N. 人の物。mumu～hana. 桃の花。sjui～kwaNnundoo. 首里の観音堂。'jama～'wii. 山の上。hana～'warabi. 花の(ような)子供。ただし、人名や一部の人名代名詞、nuu (何) などの場合は、ふつうたとえば、taruusjumuči (太郎の本)、taamun (だれのもの)、'iqttaa'uja (おまえたちの親)、nuusigutu (何の仕事) などのようにいう。⊖が。の。主格を示す。ただし、人名や一部の人名代名詞などの主格はふつう -nu を用いずに -ga によって示す。-ga の項参照。また、-nu のあとには -ja, -N, -ču などの助詞が付くことができる。tiiča～'agajun. 太陽が昇る。tui～nacun. 鳥が鳴く。'ama～'me-Nsjoocono. あのかたがいらしている。mizi～numibusjan. 水が飲みたい (mizi numibusjan の「水」をとりたてて強調したもの)。nusudu～siibusikoo nee-nkutu hwiNsuu sjoon. 泥棒がしたくないので貧乏している。'amanoo 'me-Nšeesa. あのかたならいらっしやるよ。

miitunča'ooeeja 'in～N kwaan. 夫婦喧嘩は犬(でさえ)も食わぬ。sirihwici-meehwici qsi 'umui～du 'aace sani. 身辺をうろろうろして、気でもあるのかしら。

-nu (接尾) …なので。…くて。形容詞の「終止形(現在)」から末尾の N を除いた形につく。'icunasanu, 'icijuusan. 忙しくて行けない。'jumibusjanu. 読みたくて。読みたいなあ。

nubaciri=jun④(自 =raN, =ti) のびる。くたばる。

nubacirimun④(名) ぐうたら。だらしない者。

nubacirisigutu④(名) ぐうたらにする仕事。いいかげんな仕事。

nubagaikaagi④(名) 次の句でいう。～nu neen. (ときどき来る人が) ちっとも顔を見せない。

nubaga=jun④(自 =raN, =ti) ちよっと覗く。ちよっと顔を出す。ちよっと立ち寄る。hantaNkai ～. がけのふちに首を出してのぞく。

nuba=sjuN④(他 =saN, =ci) (縮んだものを) 伸ばす。長くする。また、延期する。hwii ～. 日を延ばす。

nubi④(名) ⊖伸び。伸びること。伸縮性。⊖延びること。延長。延期。⊖寛大さ。寛容。～nu 'aAN. 寛大である。～nu neen. 短気である。

nubicizimi④(名) 伸び縮み。伸縮。

nubidee④(名) 抱擁力。寛容性。～nu 'aAN. 抱擁力がある。

nubi=jun④(他 =raN, =ti) ⊖伸べる。伸ばす。⊖(期日などを)延ばす。延期する。hwii ～. 日延べする。⊖こらえる。我慢する。堪忍する。許してやる。'jaaga nubiree. おまえが我慢しなさい。'wannee 'iqtpee nubitooibiin. わたしはたいそう我慢をしております。

nubinubi④ (副) 延び延び。期日などが延び延びになるさま。～ *natoon*. 延び延びになっている。

nubu④ (名) 野甫島。伊平屋島 (ʔihja) の属島。また、その部落名。《地》参照。

nubui④ (名) ㊀上り。登り。高いところへ上ること。㊀いなかから都へ、また、沖縄から本土へ上ること。

nubui kudai④ (名) [文] 上り下り。上がったりがったり。ʔakanu hwizimizija ʔwinkaidu hucuru, kamaɖugwaga cimuja ~. [阿嘉の霽水や 上んかいど吹きゆる かまど小が肝や 上り下り]阿嘉(地名)の滝の水はひげのように上に吹き上げるが、カマドグッ(女の名)の心は上がったりがったり下がりたりして落ち着かない。～ *sjun*.

nubui kuduci④ (名) [上り口説] *tabiku duci* [旅口説] の項参照。

nubu=jun④ (自 =*raN*, =*ti*) ㊀上る。登る。空間を上がることは ʔagajun という。*niikeenkai* ~. 二階へ上がる。*kiiinkai* ~. 木に登る。㊀上る。いなかから都へ、また、沖縄から本土へ上る。

nu=buN④ (自 =*han*, =*di*) ㊀(縮んでいるものが) 伸びる。長く伸びる。㊀(期間が) 延びる。延期になる。

nubunzaa④ (名) 登川。《地》参照。

nubusi④ (名) のぼせること。頭部が熱くなり、頭痛などを起こす病気。～ *sagijun*. のぼせをさます。

nubusidama④ (名) 宝珠の玉。如意宝珠。

nubusi=jun④ (自 =*raN*, =*ti*) のぼせる。頭が熱く痛くなる。夢中になる・逆上するなどの意には用いなかった。

nubusi=jun④ (他 =*raN*, =*ti*) ㊀高いところへ上げる。㊀人・物をいなかから都へ、また、沖縄から本土へおくる。

nucaasii④ (名) ごちそりを持ち寄って会をすること。旧暦3月3日には重箱を持ち寄って宴会を開く。

nucaa=sjun④ (他 =*saN*, =*ci*) 寄せ集める。金品などを持ち寄る。

nucaga=jun④ (自 =*raN*, =*ti*) 抜けて上がる。抜けて上に出る。*šidašidatu kumunu ʔnsuja ʔucihaziti šimiti nucagajuru čicinu eurasu*. [すだすだと雲の 御衣や 打はづて 澄みて抜上ゆる 月のきよらさ] すがすがしく雲の衣を脱いで、澄んで出て来た月の美しさよ。

nucagi=jun④ (他 =*raN*, =*ti*) 下からささえて上げる。さし上げる。

nuci④ (名) 命。文語では *ʔinuci* ともいう。～ *ʔincasan*. 命が短い。～ *tabujun*. 死なずに生きながらえる。命をたくわえる意。～ *cirijun*. 命が切れる。死ぬ。*sakisaa* ~ *tutan*. 酒で命を落とした。

nuci④ (名) 貫(ぬき)。貫き木。柱の間を横に貫く材。

nuci④ (名) 緯(ぬき)。緯糸(ぬきいと)。横糸。

nuci④ (名) 味噌をつくる時、麴をませる前のもの。米・大豆あるいは豌豆を煮てつぶしたもの。

nuciʔaja④ (名) 横綱。

nuciciribataraci④ (名) 命の限り働くこと。死物狂いで働くこと。

nucidašiki④ (名) 命を救うこと。救命。助命。

nucidukuru④ (名) 急所。

nucigahuu④ (名) [命果報] 運よく命が助かること。*nucinuhuu* ともいう。～ *nu ʔateesa*. 運よく命拾いしたよ。

nucigusui④ (名) ㊀命の薬。長寿の薬。㊀転じて、非常においしいもの。

nucihwici④ (名) 非難攻撃すること。他の欠点を責めとがめること。*nuci* < *nucun* (突く)。～ *sjun*.

nucikaziri④ (名) 命がけ。一生けんめい。～ *ʔjatan*. 一生けんめいだった。～ *nu hataraci*. 命がけの働き。

nucikurusjun

nucikuru=sjun① (他 =saN, =ci) 刺し殺す。'jaisaani ~. 槍で刺し殺す。

nucimaci① (名) 布を織る時、かせを抜いたり巻いたりすること。

nucimuN① (名) 縫い取り。刺繍。

nucinugusjuuzi① (名) 命拾いしたお祝い。

nucinuhood① (名) nucigahood と同じ。

nucinusintaku① (名) 命の洗濯。平常の苦勞を慰めるための気晴らし。

nucinu?uaja① (名) 命の恩人。

nucinuun① (名) 命の恩。命を助けてくれた恩。

nucisint① (名) 募金。醜金。nuci-<nucun (つもの)。~ sjun.

nucisita① (名) 命知らずの者。

nucisitimuN① (名) 命知らずの者。

nucisitiwaza① (名) 命がけの仕事。

nucitukakugaa① (名) 命がけ。命ととりかえですること。~ 'jan. 命がけだ。

nucizijaa① (名) 貫き木のある家。本建築の家。農村で、茅ぶきではあっても単なる掘立小屋 (?anaja という) でなく、礎石を置き、柱に貫き木を通して造った家。農村の家では上等の部に入る。

nuciziru① (名) 命の緒の意。~ 'joojun. 命が弱る。命が縮まる。非常な心配事などしたときにいう。

mu=cun① (自 =kaN, =ci) ①のく。退く。立ち去る。ducun ともいう。?ašidi nukariran ?ucaja?udun. [遊でのかれらぬ御茶屋御殿] 景色がよいので、遊ぶと立ち去ることができない御茶屋御殿。①離間する。夫婦・友人などの仲がこわれる。また、別れる。離縁する。?iqtaa taee nuk-ee. おまえたちふたりは別れる。

mu=cun① (他 =kaN, =ci) ①ぬく。貫く。穴に通す。?iicuu ~. (針に) 糸を通す。①突く。差す。指先や棒の先で突く。?iibi ~. 指さす。

nu=cun① (他 =kaN, =ci) 募る。zin ~. 金を募る。

nudaki① (名) 野嶺。《地》参照。

nuduka① (名) [文] のどか。~naru hwarunu. [のどかなる春の] のどかなる春の。

nugaa=jun① (自 =raN, =ti) のがれる。免かれる。nugaarasjun. 解放する。放免する。のがしてやる。許してやる。

nugaši① (副) [文] いかにして。どうして。~ 'waga sudija kusanu hwan ?aran, 'jumangwini nariba ?ijunu 'jaduru. [のがすわが袖や 草の葉もあらぬ 夕間暮になれば 露のやどる] どうしてわが袖は、草の葉でもないのに、夕暮れになると露が宿るのか。

nuga=sjun① (他 =saN, =ci) のがす。逃げられる。

nugihwasi=jun① (自 =raN, =ti) 逃走する。

nugi=jun① (自 =raN, =ti) ①抜ける。脱げる。haanu ~. 齒が抜ける。①ぬきんでる。すぐれる。

nugi=jun① (自 =raN, =ti) 逃げる。ただし hwiŋgijun を多く用いる。

nugi?Nzi=ju`N① (自 =raN, =ti) ぬきんでる。ひいでる。suguriti gaqkooutin nugi?Nzitoon. すぐれて学校でもぬきんでている。

nugizikooi① (名) 逃げ支度。

nugu=jun① (他 =raN, =ti) ぬぐう。ふきとる。

nugunaa① (名) 何とかいうもの。何がし。~ja kuuntii. 何がしは来なかったか。?jaaja ?ariga ~ 'jara 'jaa. おまえは彼の何とかだろう。

nugun① (名) 野国。《地》参照。

nuhwa① (名) [古] [能羽] 芸能。nuza の項参照。

nuhwa① (名) 饒波。nihwa ともいう。《地》参照。

nuhwa① (名) 伊野波。《地》参照。
nuhwi① (名) 饒辺。《地》参照。
nuhwina① (名) 饒平名。《地》参照。
nui① (名) 糊。物を貼るもの、また、洗濯した布につけるもの。
nuimuN① (名) 塗りもの。漆器。
nuimuN① (名) 乗りもの。
nuimuNjaa① (名) 塗りもの屋。漆器商。
nu:ʔnma① (名) 乗用の馬。
nujama① (名) [文] 野山。～ kwiru micija ʔikuri hwizamitiN, ʔjamini tada hwicui sinudi ʔicuN. [野山越へる道や幾里へざめても 闇に唯一人 忍で行きゆん] 野山を越える道は幾里へだたっている、闇にただひとり忍んで行く。
nu=juN① (自 =raN, =ti) ①乗る。車馬・舟などに乗る。ʔnmaNkai ～。馬に乗る。「(人が)机の上に乗る」(sjukunkai nubujun), 「(人が)紙の上に乗る」(kabi kudamijun) などの「のる」の意には用いない。②載る。記載される。ciizinakai nutoon. 系図にのっている。
nu=juN① (他 =raN, =ti) 塗る。ʃimi ～。墨を塗る。
nuka① (名) 糠(ぬか)。
nukabacaa① (名) 蜂の一種。形は小さいが、毒は強い。
nukagu① (名) 虫の名。米・糠などの中に生じる、黄色のきわめて小さい虫。～nugutoon. 「ヌカグ」のようだ。非常に小さい物をたとえていう。けしつぶのようだ。
nuki=jun① (他 =raN, =ti) のける。しりぞける。どける。dukijun ともいう。
nukubaa=jun① (自 =raN, =ti) (天候が)、暖かくなる。
nukudukuru① (名) 暖かい所。
nukudusi① (名) 暖かい年。暖冬の年。
nukuguni① (名) 暖国。暖かい地方。
nukui① (名) 残り。
nukuidaka① (名) 残高。

nukuimuN① (名) 残りもの。
nuku=jun① (自 =raN, =ti) 残る。
nukumi=jun① (他 =raN, =ti) [新] 暖める。元来は、nukutamijun (体を、暖める), ʔaçirasjun (食物を、暖める) などを用いた。
nuku=nuN① (自 =maN, =di) 暖まる。暖を取る。nukumee. 火に当たれ。
nukusaN① (形) 暖かい。nukuku najun. 暖かくなる。
nukusi① (名) 残したもの。食べ残しなど。
nuku=sjun① (他 =saN, =ci) 残す。
nukutama=jun① (自 =raN, =ti) 暖まる。体などが暖かくなる。暖をとる。
nukutami=jun① (他 =raN, =ti) 暖める。体などを暖めることを多くいう。食物を暖める意では ʔaçirasjun を多く用いる。
nukuziri① (名) のこぎり。
numi① (名) 鑿(のみ)。工具の名。
numi① (名) 蚕(のみ)。
numidusi① (名) 飲み友達。酒飲み仲間。
numigusui① (名) 飲み薬。内服薬。
numiku=nuN① (他 =maN, =di) ①飲みこむ。②理解する。会得する。
numimizi① (名) 飲み水。飲料水。nuNமிழいともいう。ʔikeemizi (用水) に対していう。
nunu① (名) 布。nunoo nucinooi, ʔutootuzinooi. 布は緯糸次第、夫は妻次第でよくも悪くもなる。-nooi < noojun (適合する)。
nunubata① (名) 織機。機(はた)。普通は古くからある地機をいう。
nunudaki① (名) 一反の布の長さ。普通女物は七尋、男物は七尋半である。tidaja ~ni hwin kuriti ʔumunu, katatucin ʔisuzi sinudi ʔicuN. [てだや布だけに 日も暮れてをもの 片時も急ち 忍で行きゆん (忠臣身替)] 日は布の長さほどに地

平線に迫り、日も暮れているから、すぐにも急いで忍んで行こう。

nu=nuNⓄ (他 =maN, =di) ⊖飲む。⊖酒を飲む。

nunuʔujaaⓄ (名) 機織りを業とする者。

-nu ʔNzitiⓄ (句) …のくせに。…でありながら。ʔNziti<ʔNzijuN (出る)。ʔNzitooti ともいう。'warabi~ saki nudi. 子供のくせに酒を飲んで。

-nu ʔNzitootiⓄ (句) …のくせに。…でありながら。-nu ʔNziti ともいう。'jucanu-muN~. いい年をしながら。

nuNciⓄ (名) mjuNci と同じ。

nuNcigutuⓄ (名) mjuNcigutu と同じ。

nuNçikeeⓄ (名) mjuNçikee と同じ。

nuNcoobiⓄ (名) mjuNcoobi と同じ。

nuNdeeⓄ (名) お叱り。ʔuNdee のさらに上の敬語。

nuNkaki=juNⓄ (他 =raN, =ti) mjuNkakijuN と同じ。

nuNkuuⓄ (名) [暖鍋] 料理名。のっぺいのようなもの。大根・にんじん・こんにゃく・昆布・揚げた豆腐などをさいの目に切って煮たもの。

nuNmiziⓄ (名) numimizi と同じ。

nuNnakaⓄ (名) 布の織りかけ。まだ織り終わらない布。

nuNnuki=juNⓄ (他 =raN, =ti) mjuNnukijuN と同じ。

nuNzuⓄ (名) mjuNzu と同じ。

nuraa=rijuNⓄ (=riraN, =qti) 叱られる。nurajuN (叱る) の受身。

nura=juNⓄ (他 =aN, =ti) 叱る。「呪う」に関係する語か。呪うは ʔicizama sjuN という。のしるは ʔaaku sjuN という。叱られる(受身)は nuraarijuN。

nurcigutuⓄ (名) 陰口。陰で呪うこと。呪い。

nuri=juNⓄ (自 =raN, =ti) 気が進む。乗り気になる。nuriraN. 気乗りがしない。

kukurunu nuririvadu sigutoo najuru. 乗り気になってこそはじめて仕事はできる。cimu ~. 気が進む。

nuruⓄ (名) nuuru と同じ。

nurukumiiⓄ (名) [のろくもい] nuuru (のろ) の敬称。

nurumi=juNⓄ (他 =raN, =ti) ぬるめる。少し暖める。

nuru=nuN (自 =maN, =ii) (水などが) ぬるむ。

nuruNu'ronⓄ (副) とろとろ。まどろむさま。

nuruqkwi=juNⓄ (自 =raN, =ti) さめてぬるくなる。なまぬるくなる。ぬるくなって、おいしくなくなる。

nuruqkwijuuⓄ (名) ぬるま湯。

nuruqkwikaaⓄ (副) さめてなまぬるいさま。ぬるくておいしくなさそうなさま。~sjoon. (茶・吸い物などが)ぬるくなっている。

nuruqkwimuNⓄ (名) なまぬるい者。ぐず。

nurusaNⓄ (形) のろい。(動作が)鈍い。(速度が)遅い。

nurusaNⓄ (形) (液体などの温度が)ぬるい。

nusiⓄ (名) 熨斗(のし)。進物につける熨斗。nusi çikiti muçci ʔikee. 熨斗をつけて持って行け。

nusiⓄ (名) 相撲の手。乗せの意。相手を腹の上に乗せてかかえ、投げるわざ。

nusiduiⓄ (名) [主取] 廃藩前の役名。役所で事務をとる役。

nusi=juNⓄ (他 =raN, =ti) ⊖乗せる。馬・車・船などに乗せる。⊖載せる。記載する。

nusikaimuNⓄ (名) 何にでも顔を出す者。差し出がましい者。出しゃばり。

nusika=juNⓄ (自 =raN, =ti) ⊖少し出る。出かか。ちょっと先が出る。çicinu ~.

月が出かかる。㊦ちょっと立ち寄る。ちょっと顔を出す。

nusiki=juN① (他 =raN, =ti) 差し出す。ちょっと出す。tii ~. イ. 手を差し出す。ロ. けんかをしかける。手を出す。

nusudu① (名) ぬすとの意。ぬすびと。泥棒。~ni mutaqtin 'wakaran. 泥棒に持ち上げられてもわからない。熟睡のさま。~nu kubinu takasan. 泥棒の首が高い。泥棒は発覚を恐れるあまり、かえって露見しやすい態度をとる。

nusuduNgwee① (名) 盗み食い。

nusu=nuN① (他 =maN, =ii) 盗む。泥棒する。

nuta (名) 料理名。ぬた。ぬたあえ。

nuu① (名) 広広としていること。広さ。屋外について、また人の心などについていう。「野」に対応する語か。ʔamarikaaja ~nu ʔa. あの辺は広広としている。~nu neen. 狭い。

nuu① (名) 何。~nu ʔaga. 何があるか。~ʔaga. 何か。~hwidatinu ʔaga. 何のへだてがあるか。~ʔumiin neen. 何の心配もない。無邪気な。~ga. 何か。~ga ~ʔara 'wakaran. 何が何だかわからない。~ga ~ʔaga, munoo maasami. 一体どうした、飯はうまいか。~kara ~mači. 何から何まで。~ga ʔara. どうしたのか。どうしたわけか。cuuja nuga ʔara ʔumukazinu ʔumukazinu minuni sagatoti kurasaraN... (かまやしな節) きょうはどうしたことか、面影が、面影が目の前にちらついて、じっとしてられない。~gaNči ʔee. 何となれば。なぜなら。~gačun ʔaree. ともいう。~sju-ga. イ. 何するか。何をしているか。ロ. 何になるか。何の役に立つか。ʔjaaja ~sju-ga. おまえは何をしているか。ʔaNeeru mun ~sju-ga. そんな物何になるか。~tuN. 何とも。~tuN kiraN. 何ともかち

あわない。~tuN saaran. 何ともさしさわりがない。~duNdiN ʔjararan. 何とも言えない。ことばで表わせない。~nu. 何の。何が。~nu 'ukasjaga. 何がおかしいか(反語)。~nu miini. いつの間に。~nu miini cootaga. いつの間に来ていたか。~jakaN. 何よりも。~jukaN. ともいう。~jakaN masi. 何よりもよい。~ʔatin. 何でも。~ʔatin kanuŋiga ʔami. 何でもいいから食うものがあるか。~N neen. 何もない。~Nči ʔicaru kutuga. 何ということだ。何たることだ。~Nči. なぜ。~Nčiicee neen. 何ということはない。何という理由はない。

nuubi① (名) 伸び。疲れた時などに、手足を伸ばすこと。

nuucu'ku① (名) 互いの曾祖母が兄弟姉妹である間柄(の者)。mataʔicuku (またいとこ)の子同志。

nuudii① (名) のど。咽喉。

nuudiiiguuhu① (名) のどぼとけ。甲状軟骨の突起。

nuudiiʔwaagwaa① (名) のどちんこ。のどびこ。懸壺垂。

nuudiiziru① (名) 声帯。~nu hwiqciiriru sjaku ʔabijun. 声帯がちぎれるほど叫ぶ。

nuu'din① (副) 何でも。何でもいから。~muqci kuuwa. 何でもいから持ってこい。

nuu'doo① **kwii'doo**① (句) 何だかだ。~Nči ʔjuru baaja ʔweekanu ʔuhooku 'usee masi. 何かという場合には親戚が多くいるのがよい。

nuugana① (名) 何か。~ʔaee sani. 何かありはしないか。

nuuguci① (名) 布の織り始め。

nuugu'tu① (名) 何事。~ga. 何事か。

nuuhwa① (名) 饒波。nuhwa, nihwa ともいう。《地》参照。

nuuʔiciNkwiiʔicin

- nuuʔiciNkwiiʔicin① (副) 何のかのと言っても。～ sikataa neeN. 何のかのと言っても仕方がない。
- nuuʔaakwiʔijaa① (名) 何やかや。～ kooi-suraasjuN. 何やかや買い集める。
- nuuʔatiNkwiiʔatin① (副) どうあろうと。ともあれ。
- nuukooʔizi① (名) [文] [美御小筋] 細い線香のことか。ʔugwaN (祈願) の文句などでいう語。
- nuuʔkwii① (名) 何やかや。何のかの。～ Nii ʔicin. 何のかのと言っても。
- nuume① (名) 玄米。
- nuumeeganasi① (名) [美御前加那志] 国王に対する呼び名。ʔusjuganasimee ともいう。
- nuuʔnu① kwiiʔnu① (句) 何のかの。～ Ndi ʔici kuuNtaN. 何のかのと言って来なかった。
- nuunuʔu① (名) 何何。何と何。～ kooju-ga. 何何を買うか。
- nuuN① (他・不規則) ʔNNzuN と同じ。
- nuuN① (名) 織機の箴(おさ)の種類の名。十三よみ。経糸1040本を通す。また、それで織った布。huduci の項参照。
- nuuʔNkwiiʔN① (副) 何もかも。すっかり。～ nicooN. 何もかも似ている。
- nuurakwaʔara① (副) ぬらぬら。べとべと。汚物が所かまわずあるさま。durusaa tihiwisja ~ sjoon. 泥で手足がべとべとだ。hanadainu ~ sjoon. 鼻みずをべとべとにたらしめている。
- nuuri① (名) こけ。～ hoojuN. こけが生えひろがる。hoojuN は違う。
- nuuru① (名) 沖繩固有の宗教の、いわゆる、のろ。祝女。みこ。神に奉仕する女。数部落の宗教的代表者で、部落ごとの神官である nigami, 一門ごとの神官である ʔukudi は nuuru に属し, nuuru 自身は、国家の宗教的元首である cihwiziN (きこえ大

君)に属する。

- nuuʔsabiN① neeN① (句) 何のさしきわりもない。いっこうさしつかえない。maakara ʔaʔcin ~. どんな所へ出ても、いっこうさしきわりない。
- nuuʔsawaN① (副) どうしても。何をやっても。
- nuusi① (名) ぬし。あるじ。主人。持ち主。
- nuuʔizi① (名) [文] [美御せじ] 神様の敬称。
- nuusjankwiiʔisjan① (副) 何のかの。～ Ndi ʔicanTeemaN sikataa neeN. 何のかのと言ったところでしかたがない。
- nuusjaru① (連体) 何ほどの。何の。何する。たいしたことはない。ʔaree ~ munuga. あいつ、何ほどのものか。ʔiisjoo-gwaʔi ʔjaa, ʔurigwaa. nusjaru ʔiisjoo-gwaʔiga, tusizirija, satume. 「いい正月だねえ、女郎さん。」「何がいい正月なものですか、お歳暮はどうしました、だんなさん。」katanabani sawaru munuja nusjaru munuga. [刀ばにさはる者やのしやる者が(手水之縁)] 刀のきまたげをする者は何するものか。
- nuuʔtikutu① (名) 何ということ。nuuti-kutoo neeN. 何と限ったことはない。何もかも。～ N neeN. 何という返事もない。
- nuuʔtuNganaasi① (副) 何かの拍子に。ふとしたはずみに。ひょっと。～ ʔubiʔNzasjuN. 何かの拍子に思い出す。
- nuuʔtuNkwiiʔtuN① (副) 何ともかとも。何とでも。～ ʔjarijuN. 何とでも言える。
- nuuzaree① (名) 御草履。草履(saba)の敬語 ʔuzaree をさらに敬っていった語。mjuuzaree ともいう。
- nuuzi① (名) 虹。
- nuza① (名) [古] 芸。演技。技芸。nuhwa は芸能そのものをいう。
- nuzafu① (名) 野里。(地)参照。
- nuzigaci① (名) 抜き書き。抜粋。

nuzihwa① (名) 遺骨や遺体を移す場合に、その場所に靈魂が残らぬように祭ること。
nuzisasi① (名) 組み立て式の装置。抜いたり差したりできる道具。
nuzi?uci① (名) だまし討ち。nuzi- <nu-zuN (だます)。
nuzumi① (名) 望み。希望。願望。所望。相撲で負けて今一度勝負を望む時などに、nuzumi と言う。
nuzumi?uui① (名) 望みどおり。
nuzu=nuN① (他 =maN, =di) ⊖望む。ほし

がる。希望する。⊖結婚の相手に望む。結婚を申し込む。惚れる。nuzumaqtoon. 惚れられている。

nu=zuN① (他 =gaN, =zi) ⊖抜く。taci ~. 太刀を抜く。⊖脱ぐ。hada ~. 肌を脱ぐ。hakama ~. 下ばかまを脱ぐ。nugasjun. 脱がす。gaNcoo ~. 眼鏡をははずす。着物を脱ぐ場合は、hazijun という。

nu=zuN① (他 =gaN, =zi) だます。čama-sjun ともいう。Qcu ~. 人をだます。

INba① (名) 食品名。さらしくじら。ぬたにして食べる。
INba① (名) 食品名。ゆば。
INbagii① (名) INbagiimee と同じ。
INbagiimee① (名) 農家で、出産祝いに出す飯。略して INbagii ともいう。首里では kaa?uriinu ?uhurumee ともいう。
INbaitu=jun① (他 =ran, =ti) [文] 奪い取る。
INba=jun① (他 =an, =ti) [文] 奪う。口語は boojun。
INbasi① (名) 植物名。くわずいも。薬草となる。里芋に似ているが、有毒。
INbee=jun① (自 =ran, =ti) (傷口や腫れものが) 化膿する。里芋など食物によって腫れものが悪化する場合にいう。
INbee=jun① (他 =ran, =ti) りめる。水を入れてぬるくする。
INbii=jun① (自 =ran, =ti) おびえる。ぞっとする。また、悪夢でうなされる。
INbujuu① (名) 産湯。
INbumizi① (名) 出産の時、生まれた赤子の額に数滴の水をつけてやること。また、その水。
INbumun① (名) 重い物。
INbunii① (名) 重荷。重い荷物。
INbuqkwi=jun① (自 =ran, =ti) おぼれる。
INburaasjan① (形) 重重しい。品格がある。
INburasikeesaa① (名) 料理の暖めかえし。蒸しかえした食物。
INbura=sjun① (他 =san, =ci) 蒸らす。たいた御飯などが蒸れるようにする。
INburi=jun① (自 =ran, =ti) ①(御飯などが) 蒸れる。②蒸されるように暑い。
INburijuru gutoon. 蒸されるように暑い。

INbusan① (形) 重い。
INbusi① (名) ①おもし。漬けものなどのおもし。②秤のおもり。分銅。③心の重荷となるもの。～'jatan. 重荷だった。
INbusii① (名) 料理名。野菜を主として、豆腐・肉などを加え、汁を少なくして煮たもの。
INbu=sjun① (他 =san, =ci) 蒸す。ふかす。
INbuzin① (名) 産着(うぶぎ)。
INgaa?ngaa① (副) おぎゃあおぎゃあ。生まれたばかりの赤んぼりの泣き声。
INma① (名) ①馬。②琴・三味線のこま。形が馬に似ているのでいう。
INma① (名) 午(うま)。十二支の第七位。方角は南、時刻は昼12時。
INma① (名) ①そこ。そっち。そちち。②そのかた。第三人称の ?uri(その者)の敬語。INmaa maa ?ujan?eega. そのかたはどなたでいらっしやいますか。
INmadima① (名) 農村の結婚はたいいてい同部落の間で行なわれたが、まれに他村から嫁をもらう場合、男は女の村の青年たちに酒代を出す習慣があった。その酒代をいう。
INmaga① (名) 孫。
INmagasagasakuma'gasagasa① (副) あちこちでちよこちよこ仕事をするさま。～?si sjooraasii sigutoo tiic?n see neen. あちこちでちよこちよこ仕事をして、まともな仕事は一つもしてない。
INmagwaa① (名) 子馬。
INmahwicaa① (名) 馬方。馬を引く者の意。INmamucaa ともいう。
INmakuma① (名) そこここ。あちこち。
INmamucaa① (名) 馬方。馬を持っている

者の意。ʔNmahwicaa ともいう。
 ʔNmamuti① (名) そっちの方。そっち側。
 ʔNmanuhwa① (名) 午(うま)の方角。南。
 ʔNmanui① (名) 馬乗り。乗馬。また、馬に乗る人。
 ʔNmanuibakama① (名) はかま。男子用。乗馬の時にのみ着用したのでいう。haka-ma は女用の下着。
 ʔNmanujaa① (名) 馬乗り。馬に乗る人。相当の資産があり、名馬を求め、方方の馬場で競馬があるたびに出場して、勝負を争った。
 ʔNmanujaa① (名) うまや。馬小屋。
 ʔNmaʔNmaa① (名) 馬の小児語。
 ʔNmari① (名) 生まれ。出生。
 ʔNmaribii① (名) 生まれた日。誕生日。
 ʔNmaridakasaN① (形) 生まれがいい。尊い生まれである。
 ʔNmaridusi① (名) 十二支の上での生まれた年。生まれてから12年ごとにめぐってくる年。すなわち、13・25・37・49・61・73歳…の年。厄年とされる。sjoonin ともいう。harijakuの項参照。
 ʔNmari=jun① (自 =ran, =ti) ⊖生まれる。ʔNmariran ʔNmari。生まれがいのない生まれかた。生まれなかったらと思われるようなあわれな境遇。⊖(砂糖や型に入れた菓子などが) うまくできあがる。
 ʔNmarikaa① (名) その辺。
 ʔNmarikaa=jun① (自 =ran, =ti) (死後に) 生まれ変わる。
 ʔNmarikucoo① (名) 生まれ故郷。
 ʔNmarisjoosiçi① (名) 生まれつきの性質。
 ʔNmarizçi① (名) 生まれつき。生まれつきの素質。
 ʔNmarizima① (名) 生まれた部落。故郷の部落。
 ʔNmarizimu① (名) 生まれながらの心。天性。
 ʔNmasjuubu① (名) 競馬。馬術競技。

ʔNmazurii ともいう。
 ʔNmatai① (名) 馬丁。
 ʔNmaʔwii① (名) 馬場。
 ʔNmazirimun① (名) うますめ。
 ʔNmazurii① (名) 競馬。馬を揃えて勝負を争うこと。馬術競技。ʔNmasjuubu と同じ。
 ʔNmee① (名) おばあさん。祖母、また、老婆。土族についていう語。
 ʔNmi① (名) 膿(うみ)。
 ʔNmi① (名) 梅。
 ʔNmibusi① (名) 梅干。
 ʔNmiʔiru① (名) 茶色。粹色。
 ʔNmiʔiruu① (名) 茶色のもの。粹色のもの。
 ʔNmii① (名) ねえさん。姉、また、未婚の女。土族についていう語。かりに三人姉がいれば、一番上を ʔuhuʔNmii (大ねえさん)、中を ʔNmii (ねえさん)、すぐ上を ʔNmiigwaa (小ねえさん) のように呼び分ける。
 ʔNmiigwaa① (名) 前項を参照。
 ʔNmiku=cun① (自 =lan, =qci) ⊖(果実が) 熟し過ぎる。⊖(はれものが) 膿んでくずれれる。
 ʔNmiżaki① (名) 泡盛に梅と砂糖とを入れたもの。
 ʔNmiżumi① (名) 梅染め。茶褐色の染物。
 ʔNmookasii① (名) さつまいもを野菜と いっしょに煮た味噌汁。冬によくつくる。
 ʔNmu① (名) 甘藷。さつまいも。単に ʔNmu (いも) といえは常に甘藷をさす。~ çukujun。農業をする。
 ʔNmuçukujaa① (名) 農民。百姓。さつまいもを作る者の意。
 ʔNmugaa① (名) さつまいもの皮。豚の飼料とする。
 ʔNmukaʃi① (名) さつまいもから澱粉を取った残りのかす。二、三日桶に入れて蒸らし、ねばり気が出てから小さく握り、乾燥

ʔNmukəʃidaaci

させて貯蔵し、凶作に備える。

ʔNmukəʃidaaciiⓉ (名) ʔNmukəʃi を粉にしてから煮て固めたもの。食糧不足の時に用いる。

ʔNmukəʃinaqtuuⓉ (名) 菓子の名。ʔNmukəʃi を粉にして、砂糖を入れ、ごまなどを加えて練り固めたもの。ようかんのように、切って食べる。

ʔNmukuziⓉ (名) さつまいもからとった澱粉。洗濯物の糊にも使う。

ʔNmukuzihwirajaciiⓉ (名) 料理名。さつまいもの澱粉とさつまいもを練り混ぜて油揚げにしたもの。

ʔNmukuzipuqturuuⓉ (名) さつまいもの澱粉のくず湯。

ʔNmumaciⓉ (名) さつまいもの市。首里では、近在からさつまいもが運ばれるので、午前10時ごろ始まり、正午ごろ終わるのが普通であった。

ʔNmuniiⓉ (名) 料理の名。いもねりの意。さつまいものくずいも・虫食いもなどを練ったもの。下等な食物。しかし、kuu-ʔNmunii, taaʔNmunii などの上等なものもある。

ʔNmunukuciⓉ (名) さつまいもの(ように黙りこんでいる)口の意。また、そのような者。無口の者を嘲笑していう語。

ʔNmunusiruⓉ (名) さつまいもを煮る時出る汁。～ saajuN. さつまいもの煮汁をあける。

ʔNmuʔuhusjuuⓉ (名) 1605年に中国からさつまいもを伝えた野国総管の俗称。

ʔNmuzakiⓉ (名) さつまいもを原料にした酒。いも焼酎。

ʔNnaⓉ (名) うんこ。大便の小兒語。

ʔNnabiⓉ (名) 小米。砕け米。普通の米より安価なので、貧乏士族が食料とした。

ʔNnageeⓉ (名) もみがら。また、稲穂の外殻の上端の、とがった針のような部分。芒(のぎ)。

ʔNnaguraazeeⓉ (名) ばった・いなごの類。

ʔNnamuziⓉ① (名) 小麦。

ʔNnaNmiⓉ (名) 稲嶺。《地》参照。

ʔNnaziⓉ (名) うなぎ。～ naicirijun. 子供が裸で逃げまわって、つかまらないことをいう。うなぎになりきる意。

ʔNnaziⓉ① (名) 着物の背縫い。うなじから軋じたもの。またさらに軋じて、着物のつま(の不揃い)。～ noosi. 着物のつまの不揃いを直せ。

ʔNnazirakamaziraⓉ (名) 子供などが、ぐずぐずと物をねだること。はっきり口に出さず、そぶりでだだをこねること。～ sjun.

ʔNniⓉ (名) 稲。

ʔNnikaiⓉ (名) 稲刈り。

ʔNnimaziNⓉ (名) いなむら。農家の庭先に稲を積み重ねたもの。単に maziN ともない。

ʔN=nunⓉ (自 =maN, =ci) ⊖(果実が) 熟す。うれる。⊖(はれものが) 膿む。

ʔNNⓉ (感) うん。ああ。親しい者・目下に対して、同意・肯定の意を表わす語。単なる応答の場合は hNN.

ʔNNDiiⓉ (名) かぶらな。蕪。野菜名。

ʔNnnaaⓉ (名) きたないものの小兒語。ばっちいもの。<ʔNna.

ʔNzanaaⓉ (名) どもり。どもる者。

ʔNzaniⓉ (名) 遺言。ʔigun の俗語。

ʔNzaniⓉ (名) どもり。どもること。～ sjun. どもる。

ʔNzaruⓉ (連体) 去る。<ʔicuN. ～ saN-gwaçi. 去る3月。

ʔNzasiʔi'riⓉ (名) 出し入れ。

ʔNza=sjunⓉ (他 =saN, =ci) 出す。tigami ～. 手紙を出す。

ʔNziⓉ (感) そうか? ほんど? 話の真偽を確かめる時発する語。～ ʔaN 'jami. そうか。～ sai. そうですか(男が目上に対して確かめる場合)。

ʔNzi① (名) 伊芸。《地》参照。

ʔNziguci① (名) 出口。

ʔNzihana① (名) ⊖出はな。出たとたん。

⊕茶の出花。⊕市場の初物。はしり。

ʔNzihanɡwi① (名) 放蕩。家出。出奔。～sjun.

ʔNzihuni① (名) 出船。出帆。

ʔNzihuniʔuiwee① (名) 船で旅をする人の無事を祈って行なう祝い。首里では danzu karijusija ʔiradi sasimişeru… と旅の平安を祈る歌(「だんじゆかれよし節」)を歌って祝う。

ʔNzihwa① (名) 支出。支出高。

ʔNziʔiri① (名) 出入り。出はいり。

ʔNzi=juN① (自 =raN, =ti) 出る。ʔNzитай ʔiqcai. 出たりはいったり。

ʔNzikaʔiri'kaa① (名) 出たりはいったり。頻繁に、また親しく出入りすること。また、物事の動きが激しいこと。～nu ʔuhusaN. 出入りが多い。～sjun.

ʔNzikuhwa=ju`N① (自 =raN, =ti) (茶などが) 濃く出過ぎる。

ʔNziridaka① (名) 支出高。

ʔNzirihweerii① (名) ʔNzirimeerii と同じ。

ʔNzirimee① (名) 支出。支出すべき金。

ʔNzirumee ともいう。～ʔirimee. 収支。

ʔNzirimeerii① (名) 外出着。ちょっとした外出の時に着るもので、ʔiqsoocijaa (不漸着) よりよく、ʔwaazi (晴れ着) より悪い。ʔNzirihweerii. tunzihweezii ともいう。

ʔNzirumee① (名) ʔNzirimee と同じ。

ʔNzisugai (名) 出発の準備。

ʔNzitaci① (名) いでたち。門出。出発。tabinu ~. 旅の出發。

ʔNziti① -nu ʔNziti の項参照。

ʔNzitooti① -nu ʔNzitooti の項参照。

ʔNzu① (名) ʔizu [伊集] (植物名) の口語。

ʔNzu① (名) 伊集。ʔizu ともいう。《地》参照。

ʔNzucaaahaqtai① (名) (子供などが) ばたばた動いてじっとしていないこと。

ʔNzucihai① (名) 身動き。体を動かしてじっとしていないこと。～nu ʔuhusaN. 動いてばかりいる。～sjuna. 身動きするな。

ʔNzucimudu`ruai① (名) 身動き。身じろぎ。～N naraN. 身じろぎもできない。

ʔNzu=cuN① (自 =kaN, =ci) 動く。身動きする。じっとしていない。

³N, -N

- ³N- (接頭) 御(み)。御(おん)。尊敬の接頭辞。mi-の項参照。³Nci (御手), ³Npana (御鼻), ³Npaa (御齒), ³Ncuubu (御腹) など。
- N (助) も。N に終わる語に付く時は、たとえば cin (着物) → cinun (着物も) のようになる。ただし ³wan (わたし) に付くと ³wanniN (わたしも) となる。-ga(が), -nu (が) に付くこともある。それぞれの項参照。ʔariN kurin. あれもこれも。tuin saN. 取りもしない。maamadin. どこまでも。
- ³Nba④ (感・名) いや。拒絶・不承知の意を表わす語。また、いやがること。いやと言うこと。拒否すること。³NNba, ³Npa, ³NNpa ともいう。～ ³jaibiiN. いやです。～ sjuN. いやと言う。拒絶する。
- ³Nca④ (名) 土。土壤。
- ³Nca④ (副) なるほど。全く。ほんとに。はたして。予想にたがわず。～ ʔaN ³jasa. ほんとにそうだよ。
- ³Ncaagi④ (名) kaagi (姿・容貌) の敬語。御姿。御容貌。
- ³Ncaagirii④ (名) 綿入れ (³wataʔiri) の敬語。御綿入れ。
- ³Ncabi④ (名) 紙銭。春秋の彼岸に焚く、銭型を打った紙。御紙の意。また、その行事。彼岸祭り。平民は多く kabiʔanzii という。大名以上は彼岸の入り(ʔirihwi)に行かない、土族は彼岸の中日(euunici)に行なり。平民はその後に行なり。
- ³Ncabuku④ (名) 土塊。土くれ。
- ³Ncaca④ (名) kaca (蚊帳) の敬語。御蚊帳。
- ³Ncama④ (名) 御釜。鍋釜類の敬語。
- ³NcamutaaN④ (名) 土遊び。泥遊び。
- ³Ncanasi④ (名) tanasi (女の夏の礼服) の敬語。また、夏着全体の敬語にもなる。
- ³Ncanumii④ (名) 土の中。土中。～karamidurinu ʔNzijuN. 土の中から芽が出る。
- ³NcaN④ (名) [御神] 神。神様。祖神。祖先の神様をいう。自然の神・火の神などにはいわない。
- ³NcaNtiigi④ (名) 一族一門。同族。「御神一つ」の意。tuNzitaru munuja murabarunu ʔajaatu ~nu cicaʔunpaiaN. [とんぢたる者や 村原のあやと 御神一つの 近おんぱだん (大川敵討)] まかり出た者は、村原夫人と祖神を同じくする近い親類。
- ³NcaNʔutana④ (名) 神棚。
- ³Ncatimun④ (名) katimun (おかず) の敬語。
- ³Ncee④ (名) kee (衣びつ・衣裳箱) の敬語。御衣裳箱。
- ³Nci④ (名) 手 (tii) の敬語。御手。
- ³Ncitamagu④ (名) 皮をむいたゆで卵。肌の美しいのにたとえる。ʔiroo hujuunu ʔiru, hadaa ~nu hada. 色は美容の色、肌はむき卵の肌。
- ³Ncu④ (名) 一昨年。おとし。また、三年前。<micu. ~ nati. 三年経って。～ natinu ʔikusa. 三年前の戦争。
- Ncu (接尾) の人 (<-nu qcu). sjuiNcu (首里の人), ʔjamatuNcu (日本人) など。
- ³Ncuca④ (名) kuca (若夫婦の寝室) の敬語。上流家庭で使う語。
- ³Ncucaʔajaamee④ (名) 夫が旅行中の奥様。
- ³Ncumi④ (名) お米。
- ³N=cun④ (他 =kaN, =ci) 剥く。皮をむく。

- kunibu ~. オレンジをむく。?Nmu ~.
 さつまいもの皮をむく。
- N=euN (接尾 =kaN, =ei) 込む。nagiNcu-N (投げ込む), ?usiNcuN (押しこむ), sasiNcuN (さしこむ), hweeriNcuN (はいりこむ) など。
- 'Ncusi@* (名) ⊖kusi(腰)の敬語。⊖おこし。女の腰巻の敬語。
- 'Ncuubu① (名) 腹の敬語。御腹。さらにその上の敬語は ?uNcuubu。 <kuubaa。
- 'Nda@ (感) ⊖どれ。どりゃ。~ misiree。どれ、見せろ。⊖こら。~ kunihjaa。こら、こいつ。
- 'Nda=sjuN① (他 =saN, =ei) 濡らす。
- N'dee (助) など。でも。軽く扱う意を表わす。kuri~。これでも。tabaku~ ?u-sjagamisjooree。たばこでも召し上がり下さい。nuu~ ?aga。何などがあるか。
- N'di (助) ⊖と。引用句を受ける。nuu~ ?jutaga。何と言ったか。N に終わる語に付く時は短縮されて -di となることもある。?icuN~ ?jutaN。「行く」と言った。短縮されて ?icuNdi ?jutaN。(行くと言った。)ともなる。kunnagee macuNdee ?umaantaN。こんなに待つとは思わなかった。⊖ために。?iicigei sjundi ?uca-ga'aN。息をするために水中から浮き上がった。
- Ndi'ei (助) と言って。-Ndi ?ici (と言って)の略。
- 'Ndi=jun① (自 =raN, =ti) ⊖濡れる。⊖零落する。
- 'Ndikaa① (副) ⊖雨などに濡れたさま。びっしょり。~ sjoon。びっしょり濡れている。⊖みじめで見えるかげもないさま。
- Ndi'ru (助) という。-Ndi ?juru (という)の略。
- Ndi'sa (助) とさ。ということだ。-Ndi ?jusa (と言うよ)の略。?juuriinu ?nzitaNdisa。幽霊が出たとき。
- Nkai (助) に。N で終わる語に付く時はそのNをnuに変えて、?iN(犬)→?inuNkai(犬に)のようになる。ただし 'waN(わたし)に付くときは 'waNniNkai(わたしに)となる。kii~ nubujun。木に登る。?uja~ ?jun。親に言う。sinsii~ ?usjagijabira。先生にさしあげましょ。sin-sii~ ?unaree sjun。先生にお習いする。'jaqci~ nuraaqtan。兄に叱られた。sigutu~ hwiqkatanooN。仕事に熱中している。
- 'Nka=jun① (自 =aN, =ti) ⊖向かう。向く。⊖適する。⊖向かう。敵対する。
- 'Nkasi① (名) 昔。~kara namamadi。昔から今まで。
- 'Nkasiba'nasi① (名) 昔話。
- 'Nkasigu'tu① (名) 昔の事。
- 'Nkasihu'uzi① (名) 昔風。昔流。
- 'Nkasimunuga'tai① (名) 物語。昔話。
- 'Nkasi'ncu① (名) 昔の人。古人・老人・故人など。~nu ?ikutuba。昔の人のことば。格言。
- 'Nkasi'zuta① (名) 昔の歌。古歌。
- 'Nkazi① (名) むかで。
- 'Nkee① (名) ⊖向かい。向かい側。~jataa 'jaga。向かい(の家)は誰か。⊖(接尾)向き。hweenkee(南向き), ?agariNkee(東向き)など。
- 'Nkeehana① (名) 迎えてすぐ。迎えたたたん。会りが早い。'Nkeeziraと同じ。~?aqku sjuru mungo ?aran。会りが早いかとなりつけるものではない。
- 'Nkee=jun① (他 =raN, =ti) 迎える。'Nkeega ?icuN。迎えに行く。
- 'Nkeekazi① (名) 向かい風。逆風。
- 'Nkeezira① (名) 迎えてすぐ。会りが早い。~zira<?i:a(顔)。Nkeehanaともいう。
- 'Nki=jun① (自 =raN, =ti) 剥ける。kaanu~。皮がむける。

'Nkijun

- 'Nki=juN**① (他 =ran, =ti) 向ける。
- 'Nkuu**① (名) 幼児の喃語。赤んぼろが、まだことばになっていない音声を発すること。生後二か月くらいからする。boozaaja ~ sjabiimi. ぼっちゃんは声を出しますか。
- 'Nmi**① (名) 嶺井。《地》参照。
- 'Nmoo**① (感) モー。牛の鳴き声。
- 'NmoogaQ'kui**① (名) 子供の遊戯の名。ごっつんこ。額と額とを突き合わせること。
- 'Nna**① (名) から。むなしいこと。空虚。~ natoon. からになっている。
- 'Nna**① (名) 皆。すべて。全員。全部。
- 'Nnaakar!**① (名) 一尋の半分。半尋。片手を伸ばして指先から胸の中央までの長さをいう。昔、布の長さなどを計った単位。
- Nnaara** (接尾) 「不適切に早い時期に」の意。ʔakaçiciNnaara (夜明けなのに), sjoogwaçiNnaara (正月早早にもかかわらず) など。
- 'Nnabai**① (名) むなしく目をあいていること。目はあけていても何も見ないこと。mii ~ sjoon. 呆然としている。
- 'Nnabata**① (名) 何も植えてない畑。あいている畑。
- 'Nnadii**① (副) 素手。手ぶら。手に何も持たないさま。また、みやげものを持たないさま。~ ʔicuN. 手ぶらで行く。
- 'Nnadii'karadii**① (副) 素手。手ぶら。徒手。~ Qsi. 手ぶらで。~ ʔicuN. 手ぶらで行く。
- 'Nnaduu**① (副) 身に何も持たないさま。身一つ。また、みやげものを持たないさま。素手。手ぶら。~ ʔicuN. 手ぶらで行く。
- 'Nnaduu'karaduu**① (副) 身一つ。素手。手ぶら。
- 'Nnagara**① (名) から。からっぽ。容器に何もはいてないこと。
- 'Nnaguruma**① (名) からの車。空車。

- 'Nnaii**① (名) 無為にすわっていること。-ii <'ijun.
- 'Nnajaa**① (名) あき家。
- 'Nnajasici**① (名) あき屋敷。家のない敷地。さら地。
- 'Nnakuci**① (副) 何も食べさせないさま。~ simijun. 何も食べさせない。~ muduci cimu ʔjanun. 何も食べさせずに帰して後悔する。
- 'Nnakuzi**① (名) からくじ。はずれたくじ。
- 'Nnamaci**① (名) むなしく待つこと。待ちぼうけ。
- 'Nnamuni**① (名) からっぽ。中に何もないうこと。
- 'NnanaNzi**① (名) 徒勞。無駄骨折り。
- 'NnaNgwee**① (名) 徒食。働かないで食うこと。
- 'Nnasawazi**① (名) から騒ぎ。
- 'Nnatarugaki**① (名) 空頼み。
- 'Nnatu**① (名) 港。tumai ともいう。
- 'Nnatugwaa**① (名) 港小。島尻の旧具志川間切にある港。
- 'Nnatujuubinuqkwa**① (名) さめ的一种。ぼうざめ。
- 'Nnaʔuqsja**① (名) ぬか喜び。
- 'Nnawata**① (名) 空腹。すき腹。
- 'Nni**① (名) 胸。~ dakumikasjun. 胸をときめかす。~ ʔjacun. 焦心苦慮する。危険に会った時や他人の危険を見た時などにいう。
- 'Nni**① (名) 着物のおくみ。
- 'Nni**① (名) 建物の棟。
- 'Nnidakudaku**① (副) 胸がどきどきするさま。~ sjun.
- 'NnidoNdoN**① (副) 胸がどきどきするさま。~ sjun.
- 'Nnigii**① (名) 胸毛。
- 'Nnigitugitu**① (副) 胸がどきどきするさま。'Nnidakudaku, 'NnidoNdoN などともいう。~ sjun.

'Nniguci④ (名) みずおち。?utusi と同じ。

'NnihwizurusaN④ (形) はっとする。肝を冷やす。

'Nnitaara④ 'warijun④ (句) 心配で、胸がつぶれる。tadeemanu kutu 'jati 'Nnitaara 'waritooN. 突然のことなので、心配で胸がつぶれる思いだ。

'Nniziira④ (名) 心労。精神的な苦勞。心を痛めること。-ziira < siira. ~nu ?uhusaN. 心労が多い。Qkwanu hurimun nati ~ ?iqcoosaa. 子供がならず者になって苦勞させられているよ。

'Nnu④ (名) みの。かや・わら・びろうなどで編んだ、農民の雨着。

'NNba④* (感・名) 'Nba と同じ。

'NNN'N④ (感) うらん。いや。いいえ。目下またはきわめて親しい者に対して、軽く、否定または拒絶の意を表わす語。

'NNpa④* (感・名) 'Npa, 'NNba, 'Nba と同じ。

'NNzu④ (名) 'Nzu と同じ。

'NNzun④ (他・不規則) ⊖見る。sibai ~. 芝居を見る。'NndaNhuunaa. 見ないふり。'Nndarijun. イ。見られる(受身)。ロ。見られる。見るに足る。'NndaN mun 'Nncannee. 見ないものを見たよりの意。子供などが非常にかわいいさま。また、玩具などを非常に大事にするさま。'Nncai cicai. 見たり聞いたり。⊖…してみる。tuti 'Nndee. (取るなら) 取ってみろ。'judi 'Nnda. 読んでみよう。

'Npa④ (感・名) 'Nba と同じ。

-Npaa (接尾) いやがる意を表わす接尾辞。…するのをいやがること。?icinpaa, ?ikanpaa (ともに、行くのをいやがること), kacinpaa, kakanpaa (ともに、書くのをいやがること), siinpaa, sannpaa (ともに、するのをいやがること) など。siinpaaду 'jaru. するのはいやだ。

'judasiiga ciinPaa sjojabiiN. 呼んだが、来るのはいやだと言っています。

'NpaaNpaa④ (感・名) いやいや。いやがること。~nu ?uhusaN. いやがることが多い。~ sjooti. いやいやながら。不承不承。

'Npana④* (名) お花。花の敬語。~ ?usjagijun. (仏壇に) お花を上げる。

'Npana④ (名) 御鼻。鼻の敬語。

'Npanagumi④ (名) [御花米] ?ugwan (祈願) をする時に用いる、洗い清めた米。もし、あたりに水がなくて洗っていない場合には karanpana という。また、洗った時には、?usimasi という。

'Npana?uzaki④ (名) 'Npanagumi (祭祀用の米) とお神酒。?ugwan (祈願) をする時、米を洗い清めて盆に盛り、その上に酒をみたした杯をのせて拝む。その米と酒をいう。

-Nse'en (接尾・不規則) …られる。お…になる。-mi?een と同じ。ただしふつう -mi?een の方がやや敬意の度が高い。しかし、接頭語 ?u- が付くと、ふつう -Nse'en の方がかえって敬意の度を増す。すなわち、たとえば、'jumin?een, 'jumi-mi?een, ?ujumimi?een, ?ujumiN?een (いずれも読まれる、お読みになる) の順にあとのものほど敬意の度が増す。

'NsjamuN④ (名) [文] 頼もしい人間。申し分のない者。murabarutuzija miikuci 'jahwajahwatu kuusjuuraasii kaagi, hunnu 'Nca ~ 'jasiN ?iitee daa ?azija cantu ?ucihuriti. [村原妻や目口やはやはと小しほらしいかあげ ほんのむちやむしやものやすんついてや だあ接司やちやんとうちほれて (大川敵討)] 村原の妻は顔立ちがやさしく美しく、ほんとうに申し分のない者なので、そこで接司はすっかり惚れこんで。

'Nsju④* (名) 火薬。'insju と同じ。

³Nsu④ (名) 味噌。misu ともいう。

³Nsu① (名) [御衣] ⊖着物 (ciN) の敬語。御召し物。みそ(御衣)。⊖ciirukabi (その項参照) のことをいうことがある。

³Nsunabaa④ (名) 味噌菜の意。葉野菜の名。ふだん草に似て大きい。

³Nza④ (名) ⊖下人。下男下女。奴隷的な使用人。身代金 (dusiru) によって使われる者。⊖[文] やつ。ʔija ʔicisakasi ~nu ʔjuru kutunu nikusa. [いや 生きかしんざの 言ふことの憎さ(忠臣身替)] いや, なまいきなやつの言うことの憎さよ。

³Nzadaki④ (名) 'Nzataki と同じ。

³Nzadi④ (副) いやというほどたくさん。どっさり。うんと。ʔNmunu ~ ʔaN. さつまいもがうんとある。

³Nzaki④ (名) 植物名。にがき。樹液は健胃剤, 害虫駆除などに用い, 木材は, 虫がつかないのでたんすなどを作る。

³Nzami④ (名) にがみ。

³Nzamu④ (名) ⊖にがいのもの。⊖悪者。

³Nzana④ (名) 植物名。わだん。ほそばわだん。薬草の名。山野に自生し, その葉は大変にがく, 健胃剤となる。「にが菜」の意。

³Nzanajuu④ (名) 'Nzana の葉をすりつぶして取った汁。解熱剤・健胃剤にする。

³NzaNzaatu④ (副) ずけずけ。無遠慮に面罵するさま。~ ʔici turaci ʔiragwaanacaN. ずけずけと言って, 顔も上げられなくてやった。

³Nzaŋkwa④ (名) 'Nza と同じ。とくにその若い者をいう。

³Nzaraka=sjuN④ (他 =saN, =ci) (糸・髪などを) もつれさせる。乱れさせる。

³Nzari④ (名) 乱れ。もつれ。髪・糸・縄などについていう。困・家などの乱れは mi-

dari という。

³Nzari=jun④ (自 =raN, =ti) ⊖(髪・糸などが) もつれる。乱れる。⊖(事が) もつれる。やっかいな事になる。kunu sigutoo 'Nzaritoosa. この仕事には手こずっている。(心・困などが乱れることには, miɕarijun を用いる。)

³Nzarimun④ (名) 乱暴者。手こずらせる者。

³NzasaN④ (形) にがい。

³Nza=sjuN④ (他 =saN, =ci) 磨く。磨いて光らせる。

³Nzataki④ (名) 竹の一種。ほうらいちく。「にがたけ」に対応する。'Nzadaki ともいう。垣根などに植え, 高さ3~4メートル。ざるなどを作るのに用いる。

³Nzatu④ (名) 美里。《地》参照。

³Nzawaree④ (名) 苦笑い。~ sjun.

³Nzi④ (名) とげ。草木・魚骨・木片などのとげ。

³Nziɕicaa④ (名) あざみ。ɕibana ともいう。

³Nzo④ (名) [文] [無蔵] 男が恋する女を親しんでいる語。恋人(女)。sjura (その項参照) ともいう。~ga ʔumukazini hwi-kasariti 'waminu kasani kau kakucisinudi ʔicun. [無蔵が面影に ひかされてわ身の 傘に顔かくち 忍で行きゆん] 恋する女のおもかげにひかれて, わたしは傘に顔をかくして忍んで行く。

³NzoosaN④ (形) 愛らしい。かわいい。那覇その他で多く用いるが, 首里ではあまり用いない。

³Nzu④ (名) 溝。下水。'NNzu ともいう。

³NzuNzuutu④ (副) うんと強く。~ sugujun. うんと強くなる。

ʔohoʔoho① (副) ごほんごほん。咳の声。
 ~ sjuN.

ʔoo① (感) ⊖(母音が鼻音化する。[ʔōō])
 目下の年長者に対し、肯定・応諾の意を表
 わす語。はい。ええ。ああ。ʔii, ʔuu などの
 項参照。⊖(鼻音化しない) ⊖と同様に
 用いるがぞんざいな返事となる。ああ。

ʔoo① (名) 奥武島。沖縄本島南部の海岸に
 接した小島。またその部落名。奥武。
 (地) 参照。

ʔoobaa① (名) 青菜。

ʔoobacaa① (名) 魚名。青のだんだらのあ
 る長さ15センチほどの小魚。味はずい。

ʔooban① (名) びり。最終番。

ʔoobee① (名) 青縄。

ʔoobicai① (名) ʔoobicee と同じ。

ʔoobicee① (名) 青光り。また、冷たく光
 ること。mii ~ sjuN. 目を青く光らせ
 ている。人を憎んで、黙ってにらむ時のさ
 まをいう。

ʔoobu① (名) 骨膜炎。huniʔoobu ともいう。

ʔoodaa① (名) もっこ。かるこ。

ʔoodaki① (名) 青竹。

ʔoodamun① (名) まだ枯れていない薪。

ʔooee① (名) けんか。格闘。~ najun.
 けんかになる。

ʔooeetii'ee① (名) 盛んにけんかすること。
 ~ sjuN.

ʔoogasaa① (名) 傘の一種。骨の部分のみ
 が緑色で、紙は黒。中国から輸入された男
 物のからかさ。

ʔoogurasiN① (名) まっくらやみ。

ʔoogusu① (名) びり。しんがり。

ʔoohanbin① (名) kusazina (くさぎ) の
 若芽を入れて作った油揚げ。高齢者の葬式
 の時、だんごといっしょに客に出す。客

は、高齢で死んだ人にあやかるために食べ
 る。

ʔoohoo① (名) (鼻音化する。[ʔōōhōō])
 目下の年長者に対することばづかい。肯定
 の時には ʔoo ([ʔōō]) と言い、呼ばれ
 た時には hoo ([hōō]) と答える話し
 方。ʔoo, hoo, ʔiihii, ʔuuhuu などの項
 参照。

ʔoohua① (名) なっぱ。葉野菜。青菜。
 naa は、からし菜。

ʔoohwizurukaNzi① (名) 非常に寒寒とし
 ていること。非常に冷え冷えとしているこ
 と。

ʔoohwizuruu① (名) つめたいもの。食
 物などの、冷えきったもの。

ʔoomusi① (名) けんかの虫。~ kuujun.
 けんかをしたがる。musi kuujun ともし
 う。

ʔoojaa① (名) よくけんかする者。けんか
 ずき。

ʔoo=juN① (自 =raN, =ti) けんかする。格
 闘する。たたかう。ʔusi ʔoorasjuN. 牛
 をたたかわせる。

ʔookazi① (名) 青筋。静脈。~ hoojuN.
 静脈が浮き上がって見える。hoojuN は這
 う。

ʔookusa① (名) 青草。

ʔoomaamii① (名) 植物名。緑豆。やえな
 り。青大豆の類。あずきに似て緑色。もや
 しを作る。

ʔoomun① (名) 果実の熟してないもの。

ʔoonuuri① (名) 青のり。海藻の名。

ʔooʔnnaazaa① (名) 青大将。蛇の一種。

ʔooqteen① (副) 青青と。真青に。

ʔooruu① (名) 青。緑色。緑色を中心にし
 た青をいい、純粹の青は miziiru という。

Zooruubii

ZooruubiiⓄ (名) 鬼火。きつね火。燐火。

ZooruumuutiiⓄ (名) 緑色の muutii (元結い)。muutii の項参照。

ZoosabiⓄ (名) 緑色の錆。緑青。青錆。

ZoosaNⓄ (形) ⊖青い。緑色である。緑色を念頭に置いていう。純粹の青は miziiiru という。⊖(果実・人物などが)未熟である。

ZoosiitooⓄ (名) お手玉。女の子の玩具の名。また、その遊戯の名。

ZoosjukurusjuⓄ (名) 沖の海の色。また、沖の海。沖の海の水。青潮黒潮の意。

ZootooⓄ (名) 柑橘類 (kunibu) の一種。青唐九年母の略。実は皮が薄く、汁多く、

すっぱい。

ZootooⓄ (名) びり。

ZootuuzinⓄ (名) 燈心草。藷(い)。biigu-ii. tuuzinii の別名。

ZoozeeniisegwaaⓄ (名) 青二才。青年 (niisee) をのしっている語。

ZooziⓄ (名) 扇。扇子。また、うちわ。うちわは *ʔuciwa* ともいう。

ZoozimeeⓄ (名) 扇舞い。扇を持って舞う舞い。芝居では若衆がするので *'waka-sjuudui* ともいう。

ZoozinuhuniⓄ (名) 扇の骨。

Zoo=zuNⓄ (他 =gaN, =zi) 扇ぐ。

oo① (名) 王。国王。ふつうは ?usjuga-nasiimee [お主加那志前] と呼ぶ。

’oodan① (名) 病名。黄疸。

’oogai① (名) 横暴。～na ’jakara. 横暴なやから。

’oohoo① (感) ([ōōhōō] のように鼻音化して発音される。鼻音化しないとぞんざいに聞こえる) さあ。では。目下の年長に対して誘いかける時に発する語。diqkaa, diqkaa naa ともいう。目上に対しては ’uuhuu, 目下一般に対しては ’iihii という。～ ?ikana. さあ行きましょう。

’oohuku① (名) 往復。

’oohwi① (名) 王妃。国王の正妻。

’ooki① (名) 和字廢。《地》参照。

’ookwan① (名) 往還。大きな道。街道。

’ooo’oo① (感) ([ōōō’ō] のように鼻音化して発音される。鼻音化しないとぞんざいに

聞こえる) いいえ。いや。目下の年長に対して、否定または拒絶の意を表わす語。目上には ’uuuu, 目下一般には ’iiii という。

’ooree① (名) 往来。人の行き来。sjuniN ~nu taima neN ?amunu, kuma ’ututi gujooši tazinijaimjabira. [諸人往来の絶間ないぬあもの こまをとて御様子 尋ねやりみやべら (花売之縁)] 諸人の往来の絶え間がないから、こっちにいて (父上の) 御様子をたずねて見ましょう。

’oozi① (名) ⊖王子。王の男の子。また、先王の子、すなわち王の兄弟をもいう。⊖位階の名。王に次ぐ最高の位階。

’oozi?udun① (名) 王子の御殿 (?udun)。また王子の家柄。按司 (?azi) の ?udun より一段の尊敬が払われていた。明治の末期には zinoon?udun [宜野湾御殿] と maçijama?udun [松山御殿] があつた。

- paakuu**Ⓞ (名) たばこの小児語。煙の形容から来た語であろう。
- paapaa**Ⓞ (名) haamee (平民の祖母・老女)の敬称。おばあさん。士族・貴族の妾(平民)の老女になった者などをいう。那覇その他では単におばあさん(祖母・老女)の意で用いるようである。
- paaraNkuu**Ⓞ (名) 片側だけを張った、胴の短い太鼓。
- paasuNkoo**Ⓞ (名) kusiciiTukwaasi (祭祀用の菓子の名。その項参照)の一種。白色で、落花生入り。
- pacimika=sjuN**Ⓞ (自 =saN, =ci) ばちんという。pacimikaci 'waritaN. ばちんと割れた。
- pacin**Ⓞ (副) ばちん。陶器などの割れる音・小さな爆発音など。
- pacipaci**Ⓞ (副) ばちばち。手をたたく音・たきぎなどの燃える音・炒った豆などのはぜる音・木の枝などを折る音など。
- pakupaku**Ⓞ (副) ぶかりぶかり。たばこを吸うさま。tabaku ~ hucun. たばこをぶかりぶかり吸う。
- pan**Ⓞ (副) ぱん。ぱんと音を立てるさま。また、ぱんと打つ意の小児語。~ sjun. ぱんと打つ。
- panmikasihii**Ⓞ (名) 銭をかけてする遊戯の名。相手の銭に銭を打ちつけ、それに重なるか、それを越すかすれば、自分のものとする。のち、正月以外にすることを禁じられた。
- panmika=sjuN**Ⓞ (自・他 =saN, =ci) ぱんという音を立てる。ぱんと打つ。
- paQsai**Ⓞ (名) 唐手の型の名。
- paQtarigeejaa**Ⓞ (副) paQturugeejaa と同じ。
- paQturugeejaa**Ⓞ (副) ばたばた。じたばた。子供・魚などが、体・手足などをばたばたさせて暴れるさま。haQturugeejaa ともいう。~ sjuna. じたばたするな。~ Qsi kaçimiraran. ばたばたしてつかまえられる。
- pee**Ⓞ (名) 物を捨てること・口に入れたものを吐き出すことの小児語。ぱい。ちゃい。~ sjun.
- peecin**Ⓞ (名) [親雲上] 鹿藩前の位階の名。[大やくもい] (Tuhujakumui) の俗称。一村を領する。satunusipeecin [里之子親雲上] と cikudunpeecin [筑登之親雲上] の二種があり、王子から数えて前者は四番目、後者は六番目に位する。
- peepee**Ⓞ (名) きたない物の小児語。ぼっち。?NNnaa ともいう。
- piipii**Ⓞ (名) ねずみの小児語。
- piipii**Ⓞ (副) 貧乏なさま。~ sjoon. 困窮している。びいびいしている。
- piiraruraa**Ⓞ (副) 管楽器 (gakubura など) の音のさま。~ sjoon. 管楽器の音がしている。
- pijapija**Ⓞ (副) びよびよ。ひよこの鳴き声。~ sjun. びよびよと鳴く。
- pinʔan**Ⓞ (名) 唐手の型の名。
- pirinʔaran**Ⓞ (副) ㊦べちゃくちや。おしゃべりするさま。~ munu 'junun. べらべらしゃべる。㊦外国語(ことに西洋語)をしゃべるさま。べらべら。?ura-Nçaguci ~ sjun. 西洋語をべらべらしゃべる。
- pon**Ⓞ (副) ぼとん。物の落ちる時の音。また、落ちるさま。水中に小石を投げた場合の音など。
- ponmika=sjuN**Ⓞ (自 =saN, =ci) ぼとんと

音を立てる。ぼとんという。poNmikaci
ʔutijun. ぼとんと落ちる。

poopooⓄ (名) 料理の名。焼きぎょうざの
ようなもの。小麦粉を水でこね、薄く伸べ
て、中に細かく刻んだ豚肉・みそなどを包
み、鍋で焼いたもの。料理法も名前も中国
伝来のものと思われる。

pucimika=sjunⓄ (自 =san, =ci) ぶつと
いう。ぼきんと音を出す。pucimikaci
'uuritan. ぼきんといって折れた。

puqeciriⓄⓄ (副) ぶつり。ぼきり。物が折

れるさま。また、切れるさま。

puqturuuⓄ (名) 料理名。のり状に作った
料理。soominpuqturuu (そうめんを煮
て油をかきまぜたもの), ʔNmukuzipu-
qturuu (さつまいもの澱粉を練り、熱湯
をそそいで固まらせ、味噌で味を付けたも
の) などがある。

puuⓄ (副) 屁の音。

puurupuuruuⓄ (副) ぶくぶく。生きもの
などが水中に沈んでいくさま。～ sjun.
ぶくぶく沈む。

Qcu① (名) 人。また、他人。文語では hwi-tu ともいう。～ najun. 人となる。成長して人並みになる。～ ni 'iiraqtoon. 人に信頼されている。信望がある。～ nu ?wii-ndin ?umaaran. 他人の身の上とも思われない。あまりにかわいそうで、我が身のよさな気持ちがする。～ nu kukuru. 人の心。人間の心。わかりにくいもの・移りやすいものという場合に多く使う。～ nu kuci. 世間の評判。人のうわさ。～ nu kucee ?uturusii mun. 人のうわさは恐ろしいもの。～ nu kutu. 他人事。人の事。～ nu kutu sjundi duu mucitoosjun. 人のことを助けようとして、わが身をそこなう。～ nu kutuba. 他人の言。～ nu kutuba kunzun. 人のことばのあげ足をとる。～ nu taicukukudoon. 人が立ち屈んでいる。人垣を作っている。～ nu ?icuN. 大勢の人が寄ってくる。(医者などが) 人気がある。～ nu duu. 人の体。人身。～ nu tunci. 人様の御屋敷。他人の家の敬称。女が言う。～ nu nuci. 人の命。人命。～ nu ni-geeja ?adaa naran. 人の願いはあだにはならぬ。折ればかなえられる。～ nu neebi. 人真似。他人の真似事。～ nu hwii ?akagarasjun. 人の非をあばく。～ N ?aran. 他人でもない。他人行儀にしなくてもよい。Qcoo ?aran. イ。人でなしである。人非人である。ロ。他人ではない。他人行儀にするな。

Qcu?anamun① (名) 他人。親類でない者。tuusaru ?weekajaka cicasaru ～. 遠い親類より、近い他人。

Qcu?asi① (名) 人の往来。～ nu cirijun. 往来がとだえる。

Qcu?atu① (名) 人におくれること。人後。

～ najun. 人におくれる。人後に落ちる。

Qcubanari① (名) 人里離れた所。

QcubaQpee① (名) 人違い。あらぬ人をその人かと思ひ違えること。

Qcubiree① (名) 人との交際。人とのつきあい。～ ja muçikasii mun. 人とのつきあいはむずかしいもの。

Qcucimugurisja① (名) 慈愛。人を憐れみ、いつくしむこと。～ sjun.

Qcudaki① (名) 人の背たけ。人の背たけほどの高さ。

Qcudamasjaa① (名) 人をだます者。詐欺師。

Qcuduui① (名) 人通り。人の往来。

Qcugara① (名) 人柄。

QcugawaiimuN① (名) ⊖変わり者。変人。
⊖*非凡な人。偉人。

Qcugutu① (名) ⊖人との交際。社交。～ N cuweemun 'jasa. 人との交際も大変なものだ(交際費がかかる)。⊖人の悪口。～ 'junun. 人の悪口をしゃべる。

Qcuhada① (名) 人の肌。また、そのぬくみ。

Qcuhurubasjaa① (名) 借金をふみ倒す者。-hurubasjaa < hurubun.

Qcukasimasjaa① (名) 人をうるさがること。また、その者。人間ざらい。～ 'jan. 人間ざらいである。

Qcukazi① (副) 人ごとに。どの人にも。～ tuutaşiga 'wakaranTan. 会う人ごとに尋ねたが、わからなかった。

Qcukweebiira① (名) 南京虫。-biira < hwiiraa.

Qcumama① (名) 人の言いなり。人のするまま。～ ni najun. 人の言いなりになる。人の言うままに従う。

Qcumasai① (名) 人にまさること。文語は

hwitumasai。
Qcumee① (名) ㊦人前。～uti hazi kaka-saqtan. 人前で恥をかかされた。㊦人に先んじること。人よりすぐれること。caa ~ nati ?aqcun. いつも人に先んじている。
Qcunami① (名) 人並み。世間並み。
Qcunari① (名) (子供・動物などが) 人に馴れること。
Qcunusudu① (名) 人さらい。
Qcunuzaa① (名) 詐欺師。-nuzaa < nuzun。
QcunuzimuN① (名) 詐欺師。
Qcusaci① (名) 人に先んじること。Qcumee (人前) ともいう。Qcu?atu の対。
Qcusasi?iibi① (名) 人さし指。
Qcu?ujamee① (名) 人を敬うこと。また、謙讓で礼儀正しいこと。
Qcu?uqsjagisan① (形) 愛想がいい。人がよさそうに見える。
Qcu?u?seeimu'nii① (名) 人を馬鹿にした言い方。軽蔑したことは使い。
Qcu?u?seeimuN① (名) 人をあなどる者。人を軽蔑する者。
Qcu?utu① (名) 人の来る足音。また、人のいる気配を感じさせる音。
Qcu?uzi① (名) 人怖じ。人見知り。
Qcuwii① (名) 人いきれに酔うこと。劇場など、大勢の人の中にいたために頭痛などを起こすこと。-wii < 'wiijun。
Qkwa① (名) 子。子供。親に対する子。大人に対する子供は 'warabi. ~ nasjun. 子を生む。～nu cuuree ?ujaa ?izin. 子が大きくなれば親は仕合わせ。
Qkwabiicaa① (名) わが子をひいきする者。親馬鹿。
Qkwabiici① (名) 子びいき。わが子をひいきすること。
Qkwagwaa① (名) 小さい子。～ tiicee. 鳩(hootu)の鳴き声。子供を一人の意。ku-tuukwiikwii ~ tiicee ?oonu 'jama ?nzi

nasawa kwira 'jaa. (童謡) クトゥー
 クィークィー (鳩の鳴き声), 子供を一人、
 奥武の山へ行って生んだらあげよう。
Qkwamucaabusi① (名) [子持節] 歌曲の名。子持節。その本歌は子を失った悲哀を歌った次の歌。 taruju ?uramituti nacuga hamaciduri ?awan çirinasaja 'wamin tumuni. [誰よ恨めとて 鳴きよが浜千鳥 逢わぬつれなさや わみも共に] 誰を恨んで鳴くのか浜千鳥, 子に会えないつれなさは, わたしも同じだ。
Qkwamucaabusi① (名) 子持ち星。そばに小さな星を従えた星。
Qkwamuci① (名) 子持ち。子のあること。子を連れていること。女親をいう。
Qkwamujaa① (名) 子もり。小児のもりをする者。上流家庭では特にそのために少女が雇われる。
Qkwamujaa?uta① (名) 子もり歌。たとえば次のようなもの。 ??ooi ??ooi nakuna 'jo, ?uhumura?udunnu kadunakai miciriboozinu taqcojabin, ?iigun, hoocean muqcojabin… (おどしつける歌の例) イョーイ イョーイ 泣くなよ, 大村御殿の角に耳切り坊主が立ってます。ナイフもほうちょうも持ってます…。 ?Nmiiga ?Nmiiga muitatitii, zitagwan sabagwan kumasjun doo, toon 'jamatun ?aqkasa 'jaa, 'waq?aa?unbozugwaaaja nacabiran, ?weru ?weru ?weru. (愛情のこもった歌の例) ねえさんがねえさんがおもりして育て, 下駄もぞりりもはかせてあげるよ。唐も大和も旅させてあげるよ。うちのおぼっちゃまは泣きません。ウエルウエルウエル。
Qkwanasaa① (名) ㊦多産の女。㊦乳児のある女。Qkwamucaa と同じ。
Qkwanasimici① (名) 子供の生み方。Qkwanasimicee siqci sudatimicee siran. 子の生み方は知っていて, 育て方は知らな

Qkwanasimijaa

い。子を生みっぱなしにして、ろくに養育しない者をいう。

Qkwanasimijaa① (名) 産婆。子を生ませる者の意。

Qkwa?Nmaga① (名) 子と孫。子孫。

Qkwa?umii① (名) 子を思ふこと。子煩悩。

Qkwa?umujaa① (名) 子を思ふ者。子煩悩の者。

Qkwa?weekiNcu① (名) 子福者。子だくさ

んの人。

-Q¹si (助) で。材料・道具などを表わす。<Qsi (して。<sjUN)。「では」は -seeとなる。panoo muzi~ çukujUN. パンは麦で作る。?isi~ ?ucun. 石で打つ。?ucinaaguci~ hanasi sjUN. 沖縄語で話をする。sugaişee qcunu 'jusi?asee ?jaraN. 服装では人のよしあしは言えない。

-**raasjan** (接尾) らしい。…の特徴・よろすがみえる。samureeraasjan (士族らしい), 'wikigaraasjan (男らしい), 'weekin-curaasjan (金持ちらしい), naahwaraasii tukuru. (那覇らしい所) など。

rakuⓄ (名) 楽。安楽。daku ともいう。～ni kuracoON. 安楽に暮らしている。～sjoON. 安楽にしている。何の苦勞もない。

rakubuçinuⓄ **mi?uubi**Ⓞ (句) [文] 金糸のはいった帯。'weekata [親方] 以上の位階の人がしめる帯。rakubuçi は織物の名か。rakubuçinu mi?ubi 'juhware 'usimawaci sjuNzanasimedei di 'wane sadara. [らくぶつの御帯 よわらおし廻ち 首里ぎやなしみやだい でわないさだら] 三司官の大帯を腰にきりりとしめて、首里王府への御奉公に、いざ、わたしは先がけしよう。

rakucakuⓄ (名) 落着。物事がかたがつくこと。dakucaku ともいう。～sjun.

raku?iNcuⓄ (名) [新] 楽隠居。

rakurakutuⓄ (副) 楽楽と。安楽に。kumaja ~ hwisja takudi 'ututi, mura-balunu hjaaga hakarigutu tajuti… [こまや楽々と 足たくで居とて 村原のひやが 計事便て…(大川敵討)] こっちは楽楽とすわっていて、村原の比屋の計略を利用して…。

ramisjaⓄ (名) [文] 恨めしい。残念だ。歌などの終わりに来る語。nasigwa 'wane çiriti 'icibusjadu 'aşıga 'winagu 'Nmaritaru kutunu ~. [なし子わな い列れて いきほしやどあすが 女生まれたる 事の浦めしや (護佐丸敵討)] 子を連れてわたしも行きたいが、女に生まれたことが残念だ。

raNgasaⓄ (名) [蘭傘] dangasa と同じ。
raNkanⓄ (名) 欄干。手すり。dankan ともいう。

raNpaçiⓄ* (名) danpaçi と同じ。

raNpaçijaaⓄ* (名) [新] 理髪屋。床屋。

raNpuⓄ (名) danpu と同じ。

raNsanⓄ (名) [涼傘] 王のかご(?ucuu) にさしかける傘。普通 'turaNsan という。

reNⓄ (名) 聯。細長い板または赤い紙 (sjugami) など書いた漢詩の聯句をいう。結婚の時には、「佳偶従天定 大倫以礼成」などと、旅の人を祝う時には、「順風応節送 清吉自天申」などと書いて、左右の柱にはりつけた。

-**ri** (接尾) 里。距離の単位。'iciri (一里), guri (五里) など。

ribiçiⓄ (名) 離別。離縁。～sjun. 離別する。～natoon. 離別している。

ribjooⓄ (名) 痢病。赤痢など。kudasi ともいう。

rihwiiⓄ (名) [利平] 利率。

riiⓄ (名) 例。文語的な語。namamadi 'unu 'joona ~ja neeran. 今までそのような例はない。

riiⓄ (名) ㊦礼。お辞儀。gurii ともいう。㊦礼。礼儀。～N siran muN. 礼も知らぬ者。

riiⓄ (名) 利。利息。利子。dii ともいう。～nu hoojun. 利子がふえる。hoojun は這う。

riiciⓄ (名) 植物名。荔枝 (れいし)。ライチー。diici ともいう。常緑喬木。果実は卵形で、外皮には初生のまつかさのようなしわがあり、色は赤味を帯びている。肉・核ともに竜眼に似て大きく、美味。北谷 (catan) はその名産地。～ringen. 荔

riizi

- 枝と竜眼。
- riizi**① (名) ㊦礼儀。㊦感謝の意を表わすための贈り物。進物。礼金・結納などをもいう。～ *sjun*. 進物をする。
- riizigeesi**① (名) 贈り物のお返し。返礼の品。
- riiziin**① (名) 霊前。また、位牌。diizin ともいう。普通は *guriizin* という。
- riizisahuu**① (名) 礼儀作法。
- rijuku**① (名) 利欲。欲。～*na mun*. 欲ばり。～*nu cuusan*. 欲が強い。
- rijuN** (接尾 =*riraN*, =*qti*) ㊦れる。られる。…される。受身を表わし、動詞の「未然形」に付く。*humirarijuN* (ほめられる), *ʔutarijuN* (打たれる) など。㊦れる。られる。尊敬の意を表わす。まれにしか言わない。–*miiseen* (…なさる) などと共に用いることもある。*ʔujumimisjoo-rarijuN* (お読みになられる) など。
- rijuN** (接尾 =*raN*, =*qti*) ㊦れる。られる。おもに、「…することが可能な状態にある」の意を表わし、動詞の「未然形」に付く。主体の能力に関してはふつう –*juusjuN* を用いる。*kunu hudisaanee kakaran*. この筆では書けない。’*nndarijuN*. 見られる。見るに値する。*nakaran naci*. 泣けない泣きの意。泣けない状態にあるのにむりに泣こうとすること。
- rikucaa**① (名) 狡猾な者。*rikuçina mun*, *rikuçikweemun* ともいう。
- rikuçi**① (名) ㊦ずるがしこいこと。狡猾。小利口。～ *kwatoon*. ずるがしこい。～*na mun*. 狡猾な者。㊦反抗。～ *siinee ʔukaasan doo*. 反抗すると危いぞ。
- rikuçikwe'emun**① (名) 狡猾な者。*rikucaa*, *rikuçina mun* ともいう。
- riN**① (名) 蓮。はす。*din* ともいう。～*nu hana*. 蓮の花。
- riNcaa**① (名) 激しく倍気する者。やきもちやき。*dincaa* ともいう。

- riNci**① (名) 倍気。男女間のしつと。*dine:* ともいう。
- riNdee**① (名) [連合] 盆の一種。長方形の盆。その大きいものは *giriðee* という。
- riNgaN**① (名) 植物名。竜眼。むくろじ科の常緑樹。実は球形で、中に竜眼肉があり、さらにその中に球形の種がある。竜眼肉は美味で、盆祭りに霊前に供える。*dinagan* ともいう。
- riNgua**① (名) [新] 煉瓦。もとは *sicigaa-ra* といった。
- riNkwaa**① (名) 着物の一種。冬に防寒用として羽織るもの。ちゃんちゃんこのようなもので、男女両用。中国伝来のものであろう。*riNkwaa* に似た *hwiitaa* というものもある。
- riNsu**① (名) 綸子(りんず)。織り模様が入った、ピロードのような、つやのある絹の織物。礼服などにする。
- riNzi**① (名) *rinsu* と同じ。
- riNzi'wataziN**① (名) 女の冬の礼服(ʔwataziN)の一種。綸子(りんず)の礼服。*riNzi* など、絹のものは、ʔweekata [親方] 以上の貴族の身分の者にしか着用を許されなかった。
- riqkaa**① (名) 立夏。二十四節の一つ。
- riqpa**① (名) 立派。*diqpa* ともいう。～*na qcu*. 立派な人。
- riqpuku**① (名) 立腹。*diqpuku* ともいう。～ *sjun*.
- riqsjuN**① (名) 立春。二十四節の一つ。
- riqsjuu**① (名) 立秋。二十四節の一つ。
- riqtuu**① (名) 立冬。二十四節の一つ。
- ririqsan**① (形) 麗麗しい。仰仰しい。改まって立派である。形式張って大げさである。*didiqsan* ともいう。必ずしも悪い意味ではない。*duku ririqsanu ʔjaa*. あんまり大げさでねえ。*ririsii kutu*. 麗麗しいこと。
- ritoopen**① (名) [李桃餅] 菓子の名。桃型

の干菓子で、月餅のようなもの。中国渡来の製法で、油を入れて作る。

ritukuⓄ (名) 利得。

rooⓄ (名) ろうそく。doo ともいう。

rooⓄ (名) ラオ。羅宇。きせるに用いる竹の管。cisirizoo ともいう。

roohoo① (名) 両方。doo ともいう。
～kara. 両方から。～nu mura. 両方の村。

rookusuⓄ (名) ほくそ。ろうそくの燃えかす。dookusu ともいう。

roomaⓄ (名) 老もう。もうろく。dooma ともいう。

roomataN'meeⓄ (名) もろろくじいさん。

roosuuzituuⓄ (名) [両総地頭] 按司地頭 (ʔazizituu) と総地頭 (suuzituu)。按司地頭と総地頭とは、二重に一問切を領するので、両方を併称した語。

rootuNʔuiⓄ (名) 織物の名。王が中国からもらう衣裳の織り。王の着物、高官の冠 (hacimaci) や帯にする。

rugwaiⓄ (名) 植物名。竜舌蘭。葉はへら形で大きく、縁には鋸の歯のようなとげがあり、先端は鋭くとがっている。中央から高い茎が出て、先に淡黄色の花を多数つける。葉から繊維を取り、綱などにする。dugwai ともいう。アフリカ原産の蘆薈 (ろかい) と形が似ているので、それと混同された名ではないかと思われる。

ruiⓄ (名) 類。文語的な語。

rokuⓄ (名) ㊦六。duku ともいう。普通は muuci という。㊦(接尾) rukuniN (六人), rukunici (六日。むいか。月の第六日をもいう), rukugwaçi (六月) など。

rokuⓄ (名) 祿。家祿。俸祿。～ʔutabimisjooi. 祿を賜わって。

rukugwaçiⓄ (名) 六月。dukugwaçi ともいう。年の第六月。六か月は muçi ともいう。

rukuniciⓄ (名) 六日。むいか。dukunici

ともいう。月の第六日の意にもなる。

rukusiNgwaaⓄ (名) 六寸四方の重箱。zuumaku の項参照。

rukuzuuⓄ (名) 六条豆腐。豆腐を薄く切り、塩をつけて焼いたもの。二つ重ねて茶請けに出す。京都の六条豆腐とは製法・用途も異なるようである。rukuzu kasabiti hjakunizunu ʔunige. [六十重ねて 百二十のお願] 六条豆腐 (六十歳) を重ねて百二十歳のお願。六十と音が共通するので、長寿を祈る際の、縁起のよいものとされた。

rukuzuuⓄ (名) 六十。また、六十歳。

rukuzuuʔiciⓄ (名) 六十一。また、六十一歳。～nu ʔujuwee. 還暦。

ruqkakuⓄ (名) 六角。

ruqpekuⓄ (名) ruqʔjaku と同じ。

ruqʔjakuⓄ (名) 錢 600 文。1 錢 2 厘のこと。ziN (錢) の項参照。

ruqʔjakugunʔzooⓄ (名) 錢 650 文。1 錢 3 厘のこと。ziN (錢) の項参照。

rusuNⓄ (名) ルソン島。

rusuNtoozinⓄ (名) とうもろこし。gusuntoonucin と同じ。

ruuⓄ (名) 竜。duu ともいう。想像上の動物。また、たつまき。たつまきは竜と見なされていた。

ruuⓄ (名) 櫓(ろ)。櫓は首里の生活にはあまり縁がないので、duu という発音も首里には無いようである。

ruuⓄ (名) [文] 牢。

ruucuuⓄ (名) 琉球。duucuu ともいう。外国に対して琉球全体 (先島を含む) の国名として用いた語。外国人に国籍を問われたときに ruucuu と答える習慣になっていた。沖縄人同志では用いなかった。なお、ʔucinaa は元来は沖縄本島 (zizi) をさす。maanu kunigandici tuuraqta-kutu ~ndici hwintoo sjan. 「どこの国か」と聞かれたので、「琉球」と答えた。

ruugumi

ruugumi① (名) [文] 牢籠めの意。投獄。

～ sarijuN. 牢に入れられる。口語では hwirazuNkai kumirarijuN. ([平等所] に入れられる) といった。

ruuhwi① (名) [竜樋] 首里城内、瑞泉門 (hwiizaaʔuzoo) の下にある竜の形をした樋。その口から湧く清水は、水量が豊富で味もよく、中山第一と称せられた。中山伝信録の著者、徐葆光によって書かれた碑がそのそばに立っていた。

ruuja① (名) 牢屋。監獄。

ruuka① (名) 琉歌。八八・八六の琉球式

の短歌。普通は単に ʔuta という。rjuuka は日本式発音。

rukazi① (名) 櫓と舵。

ruooganasi① (名) 竜王様。ʔami tabori ～. 雨を給われ、竜王様。雨乞いの時の文句。

ruusja① (名) 入獄。入牢。～ moosiwata-saqtaN. 入獄を申し渡された。

ruzigaku① (名) [路次楽] 国王の行列の先頭で奏する音楽。その楽器には gakubura (その項参照) を用いた。

-sa (接尾) よ。さ。述べることを相手に対して軽く強調する場合に用いる。「短縮形」(apocoped form) に付く。'junusa. (読むよ), ʔaŋ 'jasa. (そらだよ), tuu-sasa. (遠いよ) など。

saa① (名) 心神。人の霊的な活動力。神通力。「性(さが)」に対応するか。

saa- (接頭) 少しの意を表わす。saahuu-huu (ほろ酔い), saagusamici (少し怒ること) など。

saadakaʔNmari① (名) 霊力高く生まれること。予言をしたり、神がかりなことをしたりする、霊力をそなえた生まれ。

saadakasaŋ① (形) 霊力(saa)が高い。神通力がある。人についている。

saagusamici①① (名) 少し憤慨すること。～ sjuŋ.

saahagoosaŋ① (形) ㊦うすぎたない。㊦うす気味が悪い。何となく気持ちが悪い。

saahuŋ① (名) ちょうず鉢。口の広い、大型の手水鉢。

saahuŋgwaa① (名) saahuŋjuuciと同じ。

saahuŋjuuci① (名) 小さいまさかり。手斧。柄の長さ30～40センチ内外の、片手で用いるもの。'juuciは「よき」に対応する語。saahuŋgwaaともいう。

saahuuhuu① (副) ほろ酔いのさま。一杯機嫌のようす。～ sjuon. 一杯機嫌である。

saai① (名) つわり。～ sjuŋ. つわりになる。

-sa'ai (助) saaniと同じ。その項参照。

saaimaki① (名) つわりで体が弱ること。

saa=jun① (自 =raŋ, =ti) おありになる。「ある」の敬語。tuncinee ciizinu saatoobjiimi. お宅には系図がおありです

か。Tukutaŋaiŋ saaihirani. お疲れではございませんか。ʔumawae saatoomiŋceibiimi. おかずはおありでございますか(肉売りが来ていうことば)。

saa=jun① (他 =raŋ, =ti) さわる。触れる。saaree sangwaŋ, turee tunaa. さわったら三貫(6銭)、取ったら十繩(20銭)の罰金(子供が大事なものを人にさわらせまいとする時に言う文句)。

saa=jun① (他 =raŋ, =ti) (汁を) あける。容器を傾けて中の汁をすっかり出す場合にいう。ʔNmumusiru ～. さつまいもの煮汁をあける。

saajuu① (名) さゆ。白湯。

saakuu① (名) 土鍋。中国語「沙鍋」の借用語。小児用のかゆなどをたくもの。

saamaki① (名) おのれの saa(霊力)に体が負けること。天才が弱体な場合とか、神がかりをする人などについていう。

saanaa① (副) さかさま。人体についていう。saaraaともいう。～ keerijun. さかさまにひっくり返る。～ najun. さかさまになる。

-sa'ani (助) で。使用する道具・材料を表わす。saaiともいうが、saaniの方が上品に感じられる。また、-Qsiともいう。hoocaa～ cijun. 包丁で切る。tiqpuu～ tui ʔijun. 鉄砲で鳥を撃つ。kabi～ çiçinun. 紙で包む。sakee nuu～ çukuteega, ʔawaɖu 'jarui, kumiɖu 'jarui. 酒は何で作ってあるのか、粟なのか米なのか。sugaisanee qcunu 'jusiʔasee ʔjaran. 服装では人のよしあしは言えない。

saara① (名) たわし。

saaraa① (副) saanaaと同じ。saaru(猿)

に由来する語か。

saaru①(名)㊦猿。昔は野生の猿はいなかったであろう。文語は saru。その項参照。㊦猿まねをする者。人まねをする者のあだな。

saaru②(名)口のとがった者。猿に似た者の意。

saasi①(名)錠。錠前。かけ金。～Yiri-jun。錠をかける。～Yakijun。錠をあける。

saasinuqkwa①(名)錠。錠前に差し込むもの。

saataa①(名)砂糖。普通は黒砂糖(kuru-zaataa)をさす。

saataaʔandaagii①(名)菓子の名。麦粉を水でこね、砂糖を入れて油で揚げたもの。

saataadaʔru①(名)砂糖樽。黒砂糖を入れる樽。

saataagii①(名)植物名。灌木の名。てらつばき。葉をもむと砂糖の香りがする。

saataaguruma①(名)砂糖をしぼる車。砂糖きびをくだいて汁をとる車で、牛馬が引いて回し、中で歯車がかみあって砂糖きびをしぼる仕掛け。

saataanaqiuu①(名)菓子の名。ʔnmuka-si(甘藷から澱粉をとったかす)をこね、砂糖・ごまなどを入れて煮たもの。

saataasikuci①(名)製糖の仕事。砂糖仕事の意。

saataauuzi①(名)砂糖きび。甘蔗。

saataazukui①(名)砂糖作り。製糖。農民にとつて一年中で最も多忙な仕事であった。

saatumee①(名)紙製の男びな。女びなは ʔumentuu という。

saazaa①(名)saazi(驚)と同じ。

saazaatu①(副)さっぱりと。心についていう。cimun ~ najun。心がさっぱりする。せいせいする。

saazi①(名)はちまき。手ぬぐいのように

細く長く切った布。ターバンのように頭に巻きつける。～sjun。はちまきをする。

saazi②(名)saaziと同じ。

saazi③(名)驚(さぎ)。saazaaともいう。

saba①(名)ぞりり。皮・わら・阿旦葉・蘭(い)・竹の皮などで作り、種類が多い。敬語はʔuzaree または, nuʔaree。～nuʔura ʔjacun。ぞりりの裏を焼く。(長居する人を追い払いまじない)

saba②(名)錠。

sabaci①(名)櫛。とき櫛。歯が密でない櫛。歯の密なもの、すなわちすき櫛は kusi という。

sabacibaku①(名)くしげ。櫛箱。黒漆塗りの箱で、前面に引き出し、上に蓋があり、その中に kakugu(落とし蓋)があり、その下はいくつにも仕切られている。結婚の時、新調して持参する。

saba-cun①(他 =kan, =ci)㊦くしげずる。乱れないように、とき分ける。さばく。karazi ~。髪をくしげずる。nunu ~。かせ糸を乱れないようにさばく。tamun ~。まきを割る。㊦裁く。裁判する。

sabahagi①(名)鼻緒ずれ。鼻緒ですれた足の傷。

sabaki=jun①(他 =ran, =ti)(仕事などを)さばく。処理する。片付ける。cuunakai sabakijusjumi。きょう中にやっしまえるか。

sabaki=jun②(自 =ran, =ti)さばける。処理が進む。商品が売れてしまう。

sabaku①(名)[古][搦理]間切の番所の村役人。

sabani①(名)丸木舟。くり舟。ʔinniの別名。kuihuniともいう。

sabatui①(名)[古]ぞりり取り。貴人の家の下足番。ʔuzareetuiともいう。

sabee①(名)㊦害虫の名。作物の葉・茎などに密集して付く小さい虫。油虫。ありまき。㊦小児のかかる皮膚病の名。皮膚が赤

くだれる。あせも。

sabi① (名) わざわい。悪いできごと。

sabi① (名) 錆。

sabimUN① (名) 味気のない食べもの。おかずの少ない食事、だしはいいっていない料理などをいう。

sabiqsAN① (形) ㊦さびしい。聞くもの・見るものがないなど、物・場所についていう。精神的なさびしさは、多く sikaraa-sjan という。㊦口さびしい。食物がない、食物が貧弱であるなどの場合にいう。

sabiri=juN① (自 =raN, =ti) さびれる。

sabiziru① (名) 食弱な吸い物。だしはいいっていない汁・実のはいいっていない汁などをいう。

saboori=juN① (自 =raN, =ti) 荒れはてる。朽ちはてる。腐朽し荒廃する。

saboorkaa① (副) 荒れはてたさま。朽ちはてたさま。～ sjoON. 荒れはてている。

saci① (名) 先。前。前方。～ naree. 先に行け。前になれ。㊦先端。hudinu ～. 筆の先。㊦先。将来。～ ?Nzi caaga 'jaa. 将来どうだろうかねえ。㊦先。以前。～ nati cootan. 先に来ていた。

saci① (名) 崎。岬。

saci① (名) さつ。紙幣。

sacibai① (名) 先がけ。先駆。先駆者。'winagoo ?ikusanu ～. 女はいくさのさきがけ。いざという時、女は勇気が出る。

sacibarunusaci① (名) 先原崎。那覇港外にある岬。

sacici=juN① (自 =raN, =qci) すっかり咲く。満開になる。咲き切るの意。saciciri-juN ともいう。

saciciri=juN① (自 =raN, =ti) sacicijuN と同じ。

sacidaci① (名) 先に立つこと。先導。先行。また、先に立つ人。先導者。～ sjUN.

sacida=cuN① (自 =taN, =qci) ㊦先立つ。先に行く。㊦先に死ぬ。先立つ。

sacidii①① (名) 先手。～ ?NzasjuN. 先手を打つ。～ ?irijuN. ともいう。

sacidumi①① (名) 先妻。sacituzi ともいう。?atudumi (後妻) の対。

sacidusi① (名) 先年。すぎ去った年。

saciguci① (名) 先口。順番が先であること。

sacigudee① (名) 昔。toogudee (現代) に対する。

saci?iibi① (名) 人さし指。普通は qcusasi という。

saciii① (名) [裂蘭] 蘭(い)。七島蘭。琉球表を作る蘭。茎は三角形で、これを裂いて乾かし、晝表とする。その質が丈夫なので、台所用・道場用などに用いられる。

sacijama① (名) 崎山。《地》参照。

sacikaN=zuN① (自 =laN, =ti) 咲きこぼれる。咲き乱れる。いっぱい咲く。

sacimaai① (名) 先回り。抜けがけ。他を出し抜いて事をすること。

sacinutubu① (名) 崎本部。《地》参照。

sacinaisigamunuu① (名) 早い者勝ち。先になった者の物の意。

sacinujuu① (名) 過去の時代。前の世。昔。また、前世。

saci?Nzi=juN① (自 =raN, =ti) 咲き出す。咲き始める。

sacisakee=juN① (自 =raN, =ti) 花ざかりとなる。満開になる。hananu sacisakee-toon. 花が満開である。

sacisidee① (名) 先着順。申し込み順。

sacisima① (名) [先島] 先島。宮古群島と八重山群島。

sacisiri=juN① (自 =raN, =ti) 満開の時期が過ぎる。花の盛りが過ぎる。

sacituzi① (名) 先妻。sacidumi ともいう。

saciuu① (名) 先夫。前夫。

sacizaei① (名) [文] 先先。将来。

sa=cuN① (他 =kaN, =ci) 裂く。

sa=cuN① (自 =kaN, =ci) 咲く。

sadaiʔaNsitaree

sadaiʔaNsitaree① (名) 上流階級の結婚式の時、行列を先導し、新婦につき添って世話する女。二人が当たり、黒朝衣(kurucoo)を着る。sadaiʔaNsitari ともいう。sadai<sadajun。一般の結婚式のそれは、niibiciNcu または nakadaci という。

sadaiʔaNsitari① (名) sacaiʔaNsitaree と同じ。

sada=jun① (自 =raN, =ti) [文・古] 先に立つ。先行する。tootoo sadari sadari。[たりたり さだれさだれ(花売の縁)] さあさあ、先になれ先になれ。sadaree。お先にどうぞ。sacajabira。お先に失礼します。

sadami① (名) 定め。決まり。法規。

sadami=jun① (他 =raN, =ti) 定める。決める。

sadi① (名) さで。叉手網。魚をすくう網。

sadi① (名) 佐手。《地》参照。

sagai① (名) 地面が低くなっているところ。低地。しも。ʔagai の対。ʔamagaasagai といえば、山川という部落の中のしもの部分。

sagai① (名) 掛け。代金あと払いの売買。

sagaigooi① (名) 掛け買い。

sagaiʔiju① (名) 鮮度の落ちた魚。古い魚。

sagaitiida① (名) 落日。落ちる太陽。夕日。ʔagaitiidadu ʔuganuru, sagaitiidaa ʔugaman。上がる日は拝むが、落ちる日は拝まぬ。勢いのよいものにつく意の諺。

sagaiʔui① (名) 掛け売り。

saga=jun① (自 =raN, =ti) ⊖下がる。位置が下に下がる。⊖下がる。ぶら下がる。⊖値が安くなる。⊖魚などの生きがなくなる。鮮度が落ちる。

saga=jun① (自 =raN, =ti) 掛けで買う。sagarasjun。掛けで売る。

sagee=sjun① (他 =saN, =ci) 捜す。

sagi① (名) 三味線の本調子。ʔagi (二上がり) に対する。三下がりは sansagi とい

う。

sagidiiru① (名) 天井から下げるざる。

sagigusui① (名) のぼせを直す薬。薬として ʔika (いか), kubuʂimi (いかの一種) などを煮て、汁とともに食べる。

sagi=jun① (他 =raN, =ti) ⊖(位置を)下げる。⊖下げる。ぶらさげる。⊖値を安くする。⊖(膳などを)下げる。

sagizookii① (名) 天井から下げる、竹で編んだかご。食物を入れる。

saguiNgswee① (名) さぐり食いの意。棚捜しして食うこと。

sagu=jun① (他 =raN, =ti) 探る。手足でものを探る。また、よろすを探る。

sahudu① (副) [文] さほど。それほど。sahudoo ʔaran。さほどではない。

sahuu① (名) ほんの形だけ。軽少。人に物を贈る時にいう語。~du ʔjaibiʂiga。わずかではございますが。~na ʔusjagimun。ほんの形だけの進物。

sahuu① (名) 作法。~ni kanatoon。作法にかなっている。

sai① (感・助) 目上に話しかける時・呼びかける時などに男が発する敬語。さらに高い目上には sari という。女は tai という。もし。~。もし(他家で案内を乞う時など)。ʔuncuu ~。もし、おじさん。

saiguNmee① (名) [新] 外米。toogumi ともいう。

saihwan① (名) [新] 裁判。明治の初めごろ一時使われた語。

saita① (連体) 変な。妙な。不思議な。~mun。不思議なもの。

saja①① (名) 鞘。刀のさや。ʂii ともいう。豆のさやは guru という。

sajaka① (名・副) さやか。~ tiru ʂici。[さやか照る月] さやかに照る月。~na ʂici。さやかな月。

sajumi① (名) 織り上げて、まだ水を通してない布。さよみ(狭誂)の転意。

sajuu① (名) ⊖左右。⊖同等なこと。甲乙ないこと。ziNtu nucee ~. 金と命は同じくらい大事なもの。金の値打を強調したことば。

saka① (名) 逆。さかさま。反対。ziinu ~ natoon. 字が逆になっている。~Nkai ŷicuN. 反対の方向に行く。~Nkai munu ŷijuN. 理に合わないことを言う。

sakadaci① (名) 病後、食欲が旺盛になること。また、その食欲。~ sjun. (病後) 食欲が起る。

sakagaŷimi① (名) 無実の罪。冤罪。

sakaiŷuturui① (名) [文] 盛衰。興亡。kunuju ninziNnu ~ ja naŷitu hujugukuru ŷicikawaigawai. [この世人間の盛衰や 夏と冬ごころ いき替り替り (花売之縁) この世の人間の盛衰は夏と冬のように変転きわまりない。

sakaja① (名) つくり酒屋。酒造家。酒を売る店は sakimacija という。

saka=juN① (自 =raN, =ti) 栄える。sakeejuN ともいう。

sakamaŷigi① (名) さかまつげ。さかさまつげ。

sakamizi① (名) 水が逆流すること。また、逆流する水。大雨のために屋根で sakamizi が起これば、雨もりの原因となる。

sakamunii① (名) 不合理なことを言うこと。矛盾したことを言うこと。

sakana① (名) 酒のさかな。酒を飲む時の料理。

sakanai① (名) 急な傾斜。急斜面。~ natooru hwira. 急な坂。

sakanajaa① (名) 料理屋。料亭。

sakanajaawinagu① (名) 料理屋の女給。酌婦。ほとんどが娼婦をかねていた。

sakaŷnmari① (名) 逆産。逆子 (さかご) で生まれること。

sakaNkee① (名) 旅から帰る人を迎えるこ

と。また、その行幸。また、ŷagariŷumaai, nacizinuŷami (その項参照) などで神に詣でて帰る人を迎えること。「一族を代表する尸婦の一行が、三年おき或は七年おきに、祖先発祥の地に詣で、帰る日、一族中の老弱男女が、之を郊外の坂の辺で迎へて、慰勞会をやること (伊波普猷: 琉球語彙)」

sakaŷiki① (名) さかむけ。ささくれ。皮膚のさかむけ。親不孝者にできるといわれている。

sakazici① (名) ⊖さかずき。⊖(接尾) さかずきに盛った数を数える時にいう。cusakazici (一杯), tasakazici (二杯) など。

sakazui① (名) さか剃り。

sakee① (名) 境。境界。

sakee=juN① (自 =raN, =ti) 栄える。繁栄する。繁昌する。sakajuN ともいう。sakeetooru 'jaa. 栄えている家。

sakeemi① (名) 境目。境界。事に分かれ目。

saki① (名) 酒。普通は泡盛をさす。

sakibiN①① (名) 酒瓶。酒を入れる陶製の器。儀式用・祭壇用として用いるもの。普通に飲む時には多く karakaraa を用いる。

sakiduŷkui① (名) 酒どっくり。酒を入れる陶製の器。運搬用の大きなものもある。

sakigaami①① (名) 酒がめ。酒を貯えておくかめ。

sakigaci① (名) 酒を飲みすぎて病むこと。酒中毒。二日酔。

sakigaku① (名) 酒を飲み過ぎて起る癆。

sakigusi① (名) 酒癖。酒を飲むと出る癖。

sakigweei①① (名) 酒太り。酒を飲んで太ること。

sakii① (名) 酒飲み。酒豪。

saki=juN① (自 =raN, =ti) 裂ける。

sakikwee① (名) のんだくれ。酒飲みをのしっている語。

sakimacija① (名) 酒屋。酒を売る店。

sakimui

sakimui① (名) (平民が用いる語) ⊖ 結納。

⊖ いいなづけ。

sakisakana① (名) 酒と肴。

sakišici① (名) 酒好き。

sakitari① (名) 酒の醸造。

sakiwii① (名) 酒に酔うこと。～ sjuN.

sakizooгу① (名) 酒好き。酒を好むこと。

上戸。

sakizooгу① (名) 酒好き。酒飲み。酒を好む者。上戸。

saku① (名) 谷間。農村で用いる語。

sakugumi① (名) うるち。粳米。sakumee ともいう。

sakuhwira① (名) [文] 急な坂。けわしい坂。'wakasa hwitutucinu kajuizinu sara ja'jaminu ~N kurumatoobaru. [若さ一時の 通路の空や 關のさくひらも 車たう原] 若い時恋人のところへ通う心は、關のけわしい坂も砂糖車を据える平原と同じようなものである。

sakui① (名) ひっかき傷。浅い切り傷。

saku=juN① (他 =raN, =ti) ひっかく。とがったもので浅く傷をつける。ʔijunu 'nzisaani šiba ~. 魚のとげで舌を傷つける。

sakumee① (名) うるち。粳米。sakugumi と同じ。

sakura① (名) 桜。桜は少ないが、本部・名護・久米島などにみられる。nagarijuru mižini sakurabana ʔukiti ʔiruzura sa ʔatidu sukuti 'Ncaru. [流れよる水に 桜花浮けて 色清らさあてど すくて見ちやる] 流れる水に桜の花が浮かんでいて色が美しいので、すくって見た。

sakuraʔiru① (名) 桜色。人の血色のいいのにいう。ʔakazakuraʔiru ともいう。

sakurazima① (名) 桜島。鹿児島地名。

sakusaN① (形) もろい。こわれやすい。折れやすい。sipusaN の対。

sakutuku① (名) [作得] zituu (地頭),

ʔweekanu (役人), nurukumui (のろ) などが役地から取得する穀物。生産の三分の二弱を取得した。

sama① (名) [文] 女が恋する男をいう語。わが君。～wa ʔikanaru katakinu sui-ka, ʔumuiwaširijuru hwimanu neraN. [様はいかなる 敵の末か 思ひ忘れゆる 暇のないらん] 愛する君はどんなかたきの子孫でもあるのか、片時も忘れることがない。(これは仲風、すなわち和歌と琉歌の混合体でよまれたもの。)

sama① (名) しらふ。酒を飲まずにいる時。

samaa① (名) 鮫肌の者。

samacicasaN① (形) そそっかしい。粗忽である。

sama=juN① (自 =raN, =ti) samijun ともいう。⊖ 熱がさめる。湯などがさめる。

⊖ 酔いがさめる。

sama=sjuN① (他 =saN, =ci) 覚ます。目をさます。mii ~. 目をさます。

sama=sjuN① (他 =saN, =ci) ⊖ ひやす。熱をさます。冷たくする。⊖ 酔いをさます。

samatagi① (名) 妨げ。妨害。邪魔。

samatagi=juN① (他 =raN, =ti) 妨げる。妨害する。邪魔する。

samažama① (名) さまざま。種種。～na kutu. さまざまなこと。

sami① (名) 彼岸の最終日。彼岸のあけの日。

sami① (名) ⊖ 鮫。普通は saba という。⊖ 鮫肌。

-sa'mi (助) …なののだぞ。…なんだよ。文語で用いることが多い。ʔandu ʔaqsami. そうなんだよ。'wakarusamitumiba… [別るさめとめば…] 別れるのだと思うと…。çicija 'Nkasikara kawaru kutu nesami, kawati ʔiku munuja hwiṭunu kukuru. [月や昔から 変ることないさめ 変て行くものや 人の心] 月は昔から変わ

ることがないのだ。変わって行くものは人の心。

sa^{migoosi}① (名) 疥癬の一種。疥癬のひとついもの。

sa^{mi=juN}① (自 =raN, =ti) 覚める。目がさめる。mii ~。目がさめる。

sa^{mi=juN}① (自 =raN, =ti) 色がさめる。あせる。

sa^{mi=juN}① (自 =raN, =ti) samajun ともいう。⊖熱がさめる。湯などがさめる。⊖酔いがさめる。

sa^{muree}① (名) 土族。'jukaQcu ともいう。土族であれば、女でも samuree である。

sa^{nazi}① (名) ふんどしの卑称。普通は hadobi (肌帯の意) という。越中ふんどしが伝えられてからは、多くそれを用いるようになったが、それは meecaasanazi という。

sa^{nazinuŋazimaa}① (名) ふんどしのみつ。

sa^{nazinutai}① (名) ふんどしの前に垂れている部分。

saⁿⁱ① (名) 種。果実などの種子。核。さね。~ ŋurusjun. 種をまく。

sa^N① (名) 三。普通は miiçi という。

sa^N① (名) 山(やま)。地形が山形に高くなっているところ。ŋanu muee ~ natoN. あの丘は山になっている。

sa^N① (名) ⊖棧。板戸などに横に渡し、骨とする木。⊖戸締りのために渡す棒の類。

sa^N① (名) 神仏へのお供えの上に置いておくもの。お供えするまで、すなわち持って歩く間は、芭蕉の葉などを細長く切り、お祓いの時の結び方で結んで、お供えの上に置き、いざお供えをする時に取り除く。魔物がけがすのを防ぐために置いたもの。

sa^N① (名) 書物をくりかえし読む時、その回数を数えるために本にはさむ目印。また、多くのものを数える時の覚えとするし。~ tujun. saN をとって数える。

また、数える。

sa^N① (名) お産。~nu ŋNbusaN. お産が重い。~nu kaQsaN. お産が軽い。

sa^{Nba}① (名) [三馬] 楽器の名。いなかで俗楽に和するのに用いる。三個の竹の板を紙で通し、左手の指の間にはさみ、右手で打ち鳴らしてはやしとする。

sa^{Nba}① (名) [新] 産婆。Qkwanasimijaa ともいう。

sa^{Nbagu'ci}① (名) おしゃべり。

sa^{Nbandui}① (名) 三番鶏。夜の白白明けるころに鳴く鶏。

sa^{Nbasi}① (名) [新] 棧橋。

sa^{Nbee}① (名) 三倍。saNzoobee ともいう。

sa^{Nbeku}① (名) saNbjaku と同じ。

sa^{Nbjaku}① (名) saNbeku (女の発音) ともいう。⊖三百。⊖錢300文。6厘にあたる。ziN (錢) の項参照。

sa^{Nbjakugun'zuu}① (名) 錢350文。7厘にあたる。ziN (錢) の項参照。

sa^{Ncei}① (名) 参詣。普通は ŋugami という。~ sjun. 参詣する。

sa^{Ncira}① (名) 植物名。山帰来(さんきらい)。ゆり科の多年生蔓性灌木。浄血利尿剤となる。

sa^{NdaNkwa}① (名) 植物名。観賞用として庭に栽培する灌木。小さくて細長い赤い花が密集して咲く。

sa^{Ngamaci}① (名) 材木の名。松の細い角材。

sa^{Ngau}① (名) 珊瑚。

sa^{Ngun}① (名) 三献。三たび杯を差すこと。~nu tuikee. 結婚式における三三九度の杯。

sa^{Ngwaçi}① (名) 3月。一年の第三番目の月。

sa^{Ngwaçiŋašibi}① (名) 年中行事の名。三月遊びの意。旧曆3月3日、平民の娘たちが鼓を打ち、歌を歌って興ずること。上代の歌垣に似ている。那覇では、娘たちが遊

山船 (nagaribuunii) を仕立てて、船の中で鼓を打ち、歌を歌って遊び暮らす風があり、その時、村と村とが対抗して、歌で喧嘩する場面も見られた。

saNgwaçisaNnici① (名) 3月3日の節供。上巳。子供は、男女ともお重のごちそうをつくってもらう。青年はどんぶり料理を持ち寄って酒宴を開く。

saNgwanaa① (名) 辻君。街娼。3貫(6銭に当たる)で淫淫売をしたので、この名がある。

saNja① (名) 山野。耕地・宅地でなく、草刈り・たきぎ取りなどをする土地。

saNjuku① (名) [文] 三欲。ʔirujuku (色欲), mucijuku (財産欲), muNnujuku (食欲)をいう。

saNkaku①① (名) 三角。

saNkee① (名) 三階。また、三階建て。

saNkwee① (名) [参会] 宴会。

saNmeenaabi① (名) 鍋の一種。鍋 (naabi) の項参照。

saNmi① (名) 金魚の一種。尾が三つに分かれているもの。三尾の意。

saNmi① (名) ʔusanmi の項を見よ。

saNmiN① (名) 計算。勘定。kanzoo ともいう。～nu naraN. 計算ができない。多過ぎて教えきれない。

saNmiNbaQpee① (名) 計算間違い。

saNmujusu① (名) 産気づくこと。

saNmuN① (名) 山門。三門。

saNnici① (名) 三日。みっか。月の第三日にもいう。

saNniN① (名) 三人。miqcai ともいう。～suriree sikiN. 三人揃えば世間となる。

saNniN① (名) 三年。mitu ともいう。

saNniN① (名) 植物名。月桃。サニソ。sjaNniN ともいう。葉が広く、食物を包むのに使う。

saNniNci① (名) 三年忌。三回忌。

saNniNga¹asja① (名) 月桃の葉。餅などを

包む。kaasja は広い葉。

saNri① (名) 三里。灸点の名。

saNsagi① (名) 三下がり。三味線の調子の名。三の糸を下げるもの。

saNsanaa① (名) ㊦くませみ。せみ(せみ一般をさす語はない)のうち最も大きいもの。羽は透明。sirubanii ともいう。声が大きく、saNsanaa と鳴くので、こういう。㊦転じて、おてんば娘。

saNsanaa¹ʔaigwaamee① (名) おてんばお嬢さん。土族のおてんば嬢。

saNsanaa① (副) 落ち着きのないさま。それぞれ。～sjun.

saNsici① (名) 棧敷。綱引きの時など、石垣の上に材木を組み合わせて作り、上流婦人の見物席とした。～ʔucun. 棧敷を作る。

saNsii① (名) [新] ㊦賛成者。賛成派。ʔjaa-ja ~ ʔjami. きみは賛成する側か。㊦明治の初め、廃藩騒ぎの時、明治政府に従うことを支持した派。開化党 (kaikwatoo) ともいい、髪を切った。husansii (不賛成派) に対する。

saNsii① (名) [新] 賛成。～sjun. 賛成する。

saNsikwan① (名) [古] [三司官] 大臣に相当する役名。国務卿。天曹司・地曹司・人曹司の三人よりなる。ʔasatabi ともいう。

saNsini① (名) 沖繩の三味線。沖繩の代表的な楽器で、日本本土の三味線のもととなったもの。すなわち蛇皮線。ただし沖繩でこれを「蛇皮線」とは言わない。蛇皮で張った上等の zahwibai (蛇皮張り) と、いなかの青年などが使う sibubai (洗張り) の二種がある。三本の糸は太い順にそれぞれ ʔuuziru (雄弦), nakaziru (中弦), miiziru (雌弦) という。その胴は çiiġaa, 棹は soo という。三つの糸巻きは karaku, ziihwa または mudi などという。また, kunkunsii の項参照。

saNsinihajaa① (名) 三味線作り。三味線を

張る者の意。

saNsooba① (名) 不当に高い相場。しない相場の意。～ʔuqcakijun. 高値をふっかける。

saNtoo① (名) たたきつち。しっくいやセメントの代用となるもの。石垣の根・肥つぼ・水だめ・へっついなどを固めるのに用いるもの。色は土色。

saNtui① (名) 数えること。計算。saN (数える時の目印) の項参照。

saNtunii① (名) 申酉(さるとり)の方角。すなわち、西やや南寄りの方角。

saNzan① (名) 散散。ひどいこと。したたか。～ni 'jaçiri kunu najju 'jariba. [散散にやつれ 此のなりよやれば(花売之縁)] ひどくやつれて、このありさまであるから。～na sikata. ひどいやりかた。

saNzanKu 'Nzan① (名) 散散。めちゃくちゃ。～najuN. めちゃくちゃになる。

saNzici① (名) 臨月。産み月。

saNzicoo① (名) 三字経。三字ずつで一句をなしている、幼少年の教科書。

saNziNsoo① (名) [三世相] 易者。売卜者。首里では ciitatijaa ともいう。

saNzoobec① (名) 三層倍の意。saNbec と同じ。

saNzuu① (名) 三十。また、三十歳。

saNzuugu 'nici① (名) 三十五日。五なのか。死後 35 日目に営む法事。ʔiçinaNka ともいう。

saNzuusaNniNci① (名) 三十三年忌。33 年目の法事。これをすませると、死者の霊は神になるとされる。

saQcuu① (名) 臆測。あて推量。～sjun. 臆測する。～'jatin ʔatajuru kutunu ʔaN. 当て推量でも当たることがある。

saQcuununuʔii① (名) いい加減に推測してもを言うこと。

saQkoo① (名) ⊖きちんとなしないうこと。整っていないこと。整然となしないうこと。狂いが

あること。～na munuʔiikata. 整然としない話し方。ʔaree kunuguroo ~ doo. 彼はこのごろは異常だよ。⊖無風流。殺風景。また、みすばらしいこと。～na sugai sjoon. みすばらしいなりをしている。

saQkoobi① (名) シャッキリ。～sjun.

saQkwii① (名) 咳。～sjun. 咳をする。～çiçicun. 咳きこむ。

saQpaci① (名) さっぱり。淡白で、こだわらない性質をいう。～na niisee. さっぱりした青年。

saQpuusi① (名) [冊封使] 冊封使。明治以前、琉球国王が王位につく時、中国から来て冠を授けた使者。一般人からは toonu ʔazi (唐の按司) と呼ばれた。正副の二使があり、清朝以来正使は満人、副使は漢人で、俗にこれを左の按司、右の按司といった。二、三百人から七、八百人の兵を従えて約半年間滞在し、非常に歓待された。その乗船を ʔukwansin [御冠船]、その歓迎のために演じた国劇を ʔukwansinudi [御冠船躍] といった。

saQsi=juN① (他 =raN, =ti) [文] 察する。

saQtimu① (感) さても。おやまあ。いやはや。珍しい場合・あきれた場合・深く感じた場合などにいう。

saQtimusaQ' timu① (感) さてもさても。おやまあ。あれまあ。いやはや。女がよく使う。

sara① (名) 皿。大を haaci, 中を suurii, または cuçzara, 小を keeʔuci, または kuzara という。

sara-(接頭) 新しい意を表わす。saramiimuN (真新しい物), saraʔutii (あらたに女郎に身を落とした者) など。

saraba① (感) [文] さらば。～taciwakara 'jusumi neN ʔucini, 'jagati ʔakaçiçinu tuiN nacura. [さらば立ち別れ 余所目ないぬうちに やがて暁の 鳥も鳴きゆら] さあ別れよう、人に見つからない

うちに。やがてあかつきの鶏も鳴くだろうから。

sarakaci④ (名) いばら。とげのある灌木。

saramakutu④ (名) 馬鹿正直。お人よし。

~na qcu. お人よしの人。

-sa'rami (助) [文] 「であろう」の意を強調して表わす。…であろうぞ。ʔumicakin

ʃiran tusinu 'juti 'wataru, nakasi-

manu kubasi ʔinuci~. [思きやけもす

らぬ 年の寄て渡る 中島の小橋 命さら

め] 思いもかけず年寄ってから渡る中島

(遊郭)の小橋, 命あつてのことであろう。

「年たけてまた越ゆべしと思ひきや 命な

りけり小夜の中山」の歌とよく似ている。

saramiimuN④ (名) 真新しいもの。まだ一度も使ってないもの。新品。

saraNdi=juN④ (自 =raN, =ti) saruNaijuN と同じ。

sararaNsii④ (名) いやいやながらすること。仕方なく、無理にすること。

sarasi④ (名) さらし木綿。

sara=sjuN④ (他 =saN, =ci) ⊖さらす。漂白する。⊖さらす。雨風などの当たるままにしておく。ʒira ~. 人前で恥をかく。

saratatii④ (名) 女兒が三歳の時に行なり, 頭を剃る儀式。また, その剃り方。頭の回りを剃り, 前額からほんのくぼまでを溝形に剃る。女子を象徴する剃り方で, 男児の ʒinutatii (その項参照) に対する。

saraʔutii④ (名) あらたに女郎に身を落とした者。

saree=juN④ (他 =raN, =ti) 浚う。浚える。たまったごみを除く。cisiri ~. きせるを掃除する。'Nzu ~. 溝をさらえる。

sari④ (感・助) もし。sai と同様に sai よりもさらに目上に男が用いる敬語。女は tari という。

sari=juN④ (自 =raN, =ti) さらされる。漂白される。

saru④ (名) [文] 猿。口語は saaru. ku-

nu ~ja tooʃee guzuuhaci, kiramakara 'watati kutusi zuuguniN. [この猿や当歳五十八 慶良間から渡って 今年十五年 (花売の縁)] この猿は当歳 58 歳で, 慶良間島から渡って, ことして 15 年。(猿回しの口上)

saru④ (名) 申(さる)。十二支の第九。時刻は午後 4 時。方角は西南西。

saruhwici④ (名) 猿回し。

saruNdi=juN④ (自 =raN, =ti) (ひつ・おけ・たるなどの) たががゆるむ。sarandi-juN ともいう。

sasa④ (名) 魚をとるために, 水中に投入する毒物。hukurugi (きりんそう) の茎・葉を切って乳状の液の出たところをそのまま水中に投入する。また miNna (るりはこべ) も用いられる。魚類はその毒分に酔って水面に浮かび上がる。こうして魚をとることを ~ ʔirijuN. (ささを入れる) という。

sasa=nun④ (自 =maN, =di) 雨が小やみとなる。雨がしばらくやむ。sasadi cuun. だんだん雨がやんで来る。sasadikara ʔi-kee. 雨がやんでから行け。

sasiʔai④ (名) sasiʔajaa と同じ。

sasiʔajaa④ (名) 蟻の一種。刺し蟻。黒く大きく, 人を刺す。

sasici④ (名) 佐敷。《地》参照。

sasiʒikee④ (名) さしつかえ。さしさわり。~nu ʔati ʔikaran. さしつかえがあつて行けない。

sasiʒima=ju'N④ (自 =raN, =ti) ⊖つまる。窮する。hwintooni ~. 返事に窮する。⊖おしつまる。その時期がさしせまる。

sasidasi④ (名) [差出] 地券。土地の権利書。土地所有の証明書で, 抵当に入れる時などに差し出すもの。

sasigusui④ (名) 目薬。点眼薬。

sasihaNkaa④ (名) 出しゃばる者。出しゃばり。sasihaNkimun ともいう。

sasihaNkigu`tuⓐ (名) 出しゃばった事。
 出しゃばった行為。
sasihaNki=ju`Nⓐ (自 =raN, =ti) 出しゃばる。
sasihaNkimu`Nⓐ (名) sasihaNkaaと同じ。
sasi`Yisiⓐ (名) 力石。力だめしに頭上にさし上げる石。村の広場に大小の丸い黒い石がそなえてあり、青年たちが力を競った。
sasikaⓐ (名) ひさし。家の軒に別に差し出した小屋根。
sasikasaⓐ (名) 日傘。
sasikiⓐ (名) 挿し木。
sasikuru=sju`Nⓐ (他 =saN, =ci) 刺し殺す。
sasimiⓐ (名) 料理名。刺身。
sasimuNⓐ (名) 指物。
sasimuNze`ekuⓐ (名) 指物師。
sašinusubaⓐ (名) [古] [鎖の側] 麿藩前の役名。貿易・外交などを扱う長官。外務長官。zuuguniNsjuu [十五人衆] のひとり。
sasiN=cuNⓐ (他 =kaN, =ci) 差し込む。
sasisiri=juNⓐ (自 =raN, =ti) [文] (人間の善悪などが) はっきりと天に知れる。「指し知れる」の意。
sasiYusaiⓐ (名) [新] 差し押え。元来はhwicimuNという。
sa=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) ⊖刺す。haai ~。針を刺す。hacaani sasarijuN。蜂に刺される。⊕差す。腰などに帯びる。はさみこむ。taci ~。太刀を差す。指差すにはYi-ibinuci sjunという。⊕高くさし上げる。Yisi ~。石を高くさし上げる。⊕差す。つぐ。そそぐ。`juu ~。湯を差す。湯をつぐ。çizuNともいう。
sataⓐ (名) ⊖沙汰。うわさ。また、評判。Yanguwaataaja simauti `waasata sjura doo。娘たちは村でわたしのうわさをしているだろう。~N naraN。お話にならない。問題にならない。Yicaawa ~

qsi kwiri `joo。会ったらよろしく伝えてくれよ。~ sarijuN。うわさされる。~ nukujuN。死後も人の口にのぼる。⊕音信。~N neeraN。音信もない。
satanumisaciⓐ (名) 佐多岬。鹿児島県の地名。
satiⓐ (感) さて。~, kurikara caa sjuga。さて、これからどうしよう。
satisatiⓐ (感) さてさて。~ Yandu `jatii。さてさて、そうであったか。
satoociNsaⓐ (名) [新] 砂糖検査。砂糖(sataa)の等級を決める検査。
satuⓐ (名) [文] [里] 女が、男の恋人をいう語。背の君。わが君。çicin nagamitai dikajo tacimuçura, ~ja `waga `jaduni macurademunu。[月も眺めたいでかやう立ち戻ら 里やわが宿に待ちゆらだいもの] 月も眺めたし、さあ帰ろう。わが君がわたしの家で待っているだろうから。
satu=juNⓐ (自 =raN, =ti) 感づく。さとる。
satumeeⓐ (名) [文] [里前] satuの敬語。わが君。背の君。また、殿方。satume huni Yukuti muduru micisiçigara huran naçigurini `wasudi nuraci。[里前船送て 戻る道すがら 降りぬ夏ぐれに 我袖ぬらち] わが君の船を送って帰る道すがら、降りもしない夏の雨にわが袖をぬらした。
satunusiⓐ (名) [里之子・里主] ⊖位階の名。`wacizituu [腦地頭] (一村の領主) になりうる士族の位階。⊕一般士族の男子に対する敬称。平民からいう。だんな様。
satunusigwaaⓐ (名) satunusiの子。一般士族の15歳前後の男の子の敬称。
satunusigwaameeⓐ (名) satunusigwaaを敬って呼びかけていう語。平民からいう。
satunusinumeeⓐ (名) [里主之前] satunusiの敬称。呼びかけていう。

satunusipecciN

satunusipecciNⓄ (名) [里之子親雲上] 位階の名。王子から数えて五番目の位階。

satunusişizimiⓄ (名) [里之子筋目] **satunusi** [里之子] になる士族の家柄。 **cikudunşizimi** とともに、譜代の士族の家柄である。

sawaiⓄ (名) モスリン。メリンス。また、メリンス友禪。

sawaiⓁ (名) 病気。身体の異常。 **siNnu** ~。精神異常。 **taNnu** ~。肺病。 **ʔusawaiN** **saamiseebirani**。お変わりもございませんか。

sawa=juNⓁ (自 =**raN**, =**ti**) ⊖ さわる。心や体に支障を起こす。 **ʔukiti ʔaŋciinee** **bjooçinkai** ~。起きて歩くと、病気に悪い。 **karataNkai** ~。体に悪い。 **cimunKai** ~。気にさわる。 **cimuni** ~。ともいう。 ⊖ さしつかえる。邪魔になる。 **sigutuNkai** ~。仕事の邪魔になる。

sawazigutuⓁ (名) うろたえ騒ぐ事件。騒ぎ。

sawa=zuNⓁ (自 =**gaN**, =**zi**) あわたる。うろたえる。

sazaka=juNⓁ (他 =**raN**, =**ti**) ⊖ 授かる。 **ŋkwa** ~。(神から)子を授かる。 ⊖ (職務・子供の世話などを)引き受ける。(財産などを)管理する。預かる。 **ŋkwa** ~。(他人の)子を預かる。 **ziN** ~。金を管理する。

sazaki=juNⓁ (他 =**raN**, =**ti**) ⊖ 授ける。 ⊖ 管理させる。預けて世話させる。

sazaranamiⓄ (名) [文] さざ波。小波。

sazeeⓄ (名) さざえ。

saziⓄ (名) [佐事] 役場の小使をいう。 **saa-zi** ともいう。 **kuzikee** と同じ。

sazira=sjuNⓁ (他 =**saN**, =**ci**) 細める。細くする。 **boonu saci hwizi** ~。棒の先をけずって細くする。

saziri=juNⓁ (自 =**raN**, =**ti**) 細くなる。先が細る。細くそげる。また、やせこける。

zuunu saziritooN。尾が細くなっている。

çiranu saziritooN。顔がやせこけている。

seeⓄ (名) 才。才知。知恵。 ~**nu ʔaN**。才がある。 ~ **ciroo**。才知と才能。

seeⓄ (名) ばった。いなご。

seebeeⓄ (名) おせっかい。余計な世話。差出口。

seebeegutuⓄ (名) おせっかいとなるような事。

seeeciⓄ (名) 酒瓶。酒を入れる器。 **sijaci** ともいう。

seeeciⓄ (名) 才知。

seezanaⓁ (名) おろしがね。

seezwaaⓄ (名) 川えび。 **siraşee** と同じ。

see は、ばった。

seejaNgasiⓄ (名) かせ(総)に巻いた木綿糸。工場製のものをいう。紡績糸。 **seejaN** は西洋の中国音。

seejaNpuuⓄ (名) 木綿の布。綿布。

seekiⓄ (名) [仕明] 開墾。 ~ **ʔakijun**。開墾する。

seeki=juNⓁ (他 =**raN**, =**ti**) ⊖ 次々にかたづける。畑・食物・仕事などをだんだんと(耕して、食べて…)かたづける。やって行く。 ⊖ 賭けごとに勝ってもうける。せしめる。

seekiziiⓄ (名) 開墾地。私有地として、自由に売買できた。

seekooⓄ (名) [再科] 文官試験の本試験。その前に行なわれる **koo** [科] (その項参照)に合格した者が受ける。合格すれば、官吏に任用される資格ができる。

seekuⓄ (名) 大工。また、職人。工人。大工の棟梁を **deeku** という。 **seekeo doogumasai**。職人は腕よりも道具が大切。

seekudooguⓄ (名) 工具。大工道具など。

seekugaŋtiⓄ (名) 物を作るのが器用なこと。また、その人。

seenukaNⓄ (名) 塞の神。道祖神。

seerooⓄ (名) [宰領] ⊖ 宰領。荷物の輸送

を監督する役。⊖結婚の時、花嫁およびその荷物などの一行を監督して行く役。一人または二人以上の男が当たる。

ʃeesiN① (名) 食べ物のおかわり。再饌の意か。ʔirijun. おかわりをつぐ。～ hwichiwici ʔirirasjuN. 遠慮なしにおかわりをもらう。

ʃeesizirimuʔN① (名) 才走った者。狡猾な者。

ʃeetubaa① (名) 小利口なやつ。悪がしこいやつ。

ʃeetubimuN① (名) 小利口者。悪がしこいやつ。

ʃeewee① (名) さいわい。幸福。幸運。

ʃeezara① (名) 菜皿の意。底のやや深い、おかず用の皿。

ʃeezicaa① (名) さいづち。kiizicaa ともいう。

ʃeezuku① (名) 催促。ʔarinkai ziNnu ~ siiga. 彼に金の催促をしに(行くところだ)。

ʃeNsuruu① (名) 昆虫の名。かげろう。とんぼとは別。

-ʃi (接尾) (…する, …した, …な) の, もの, こと。活用する語の「短縮形」(apocopated form) に付き、その語に名詞のような働きを与える。九州諸方言の助詞「と」「つ」、山口県方言などの助詞「そ」と比較される。なお、-ʃiga (が、けれども), -ʃiN ʃiitee (ので) は別項。ʔNndaNʃiga masi. 見ない方がよい。sicanu ʔaʃi koojuN. 量のあるのを買う。nizideenu ʔaʃigadu ʔuhuʔijoo tujuru. 忍耐力のある者が大きな魚をとる(諺)。

siaN① (名) [文] 思案。ʔwatati kujamuna siaNbasi. [渡てくやむな 思案橋] 渡ってくやむな思案橋(その先は遊郭)。

siaNgutu① (名) 思案事。思案するような事。

ʃiba① (名) ⊖舌。sica (舌) の項参照。～

neejuN. 舌を出す。馬鹿にする意もある。～ neeree. 舌を出しなさい(医者がいる場合など)。～ neerarijuN. 舌を出される。馬鹿にされる。～ ciqcaN. 舌をけがした。⊖ʔwaaʃiba (上くちびる), sicaʃiba (下くちびる), ʃibaʔiru (くちびるの色) などの複合語の時は、くちびるの意。

ʃibaʔiru① (名) くちびるの色。

sibai① (名) [新] 芝居。もとは 'uɖui といった。

sibaisii① (名) [新] 役者。俳優。もとは 'uɖuisjaa といった。

sibaja① (名) [新] 芝居小屋。劇場。

siba=juN① (他 =raN, =ti) [文] 縛る。たばねてくる。口語では 'juujuN など。

sibaki① (名) 植物名。やぶにつけい。種子から油をしぼり、食用・燈用にする。

sibasan① (形) 狭い。そこにある物や家、そこにいる人などについて、その場所が狭い場合には ʔibasan といい、単に広狭を問題にする時は sibasan という。kukuru-nu ~. 心が狭い。心には ʔibasan とはいわない。

sibasi① (副) [文] しばし。しばらくの間。

ʃibee① (名) 三つ口。いぐち。兎唇。

ʃibee=juN① (自 =raN, =ti) ふざける。ざれる。「そばえる」と関係ある語。

sibi① (名) しべ。わらしべ。普通は 'wara-sinbuu という。

sibiri① (名) しぶりばら(の時の便)。

sibu① (名) 洪。

sibubai① (名) ⊖洪張り。⊖洪張りの三味線(saNsini)。三味線の胴を芭蕉紙で張り、その上に芭蕉の洪を塗ったもの。いなかの青年たちが mooʔaʃibi で弾いて楽しむのはこれで、蛇皮張り(zahwibai)の方がずっと上等だが、sibubai は夜露に対しても強いなどの特長がある。

sibuʔici① (名) 四分の一。

sibuʔita① (名) 4分板。厚さ4分の板。主

sibui

として壁板用。

sibui⑩ (名) とうがん(冬瓜)。

sibuigara⑩ (名) しぼりがら。しぼりかす。

sibuiwata⑩ (名) しぶりばら。

sibu=juN⑩ (他 =raN, =ti) しぼる。

sibu?oozi⑩ (名) 洗うちわ。?Nmigwaši-gataja kamika hutukika, taiga tuzee 'jaci?Nmunu ?iru ~nu ?iru. (茶売節) 茶売りのねえさんは神か仏のように美しいのに、自分らふたりの妻は焼きいもの色、洗うちわの色。

sibusAN⑩ (形) 洗い。味が洗い。

sica⑩ (名) 舌。慣用句、比喩的用法や複合語の成分としてのみ用いる。普通は šiba という。~ neejuN. 舌を出す(馬鹿にする意)。~ ?incasan. 舌足らずである。ことばが足りない。~ nagasan. 発音がもつれる。

sica⑩ (名) 志喜屋。《地》参照。

sica① (名) 下。?wii (上) の対。

sicaara⑩ (名) [下原] しもの方。また、都の町はずれ。近郊。

sicaašee⑩ (名) 押しあい。押しあうこと。押しあいへしあい。また、押しくらまんじゅう。~ sjuN.

sicaa=sjuN① (他 =saN, =ci) ⊖(子が親などに) しつこくまつわりつく。qkwanu ?uja ~. 子が親にまつわりつく。⊖体を押しつける。押しつけてはいり込む。⊖たがいに押しあう。押しあいへしあいする。sicaašee sjuN. ともう。zaanu ?iba-sakutu 'warabiNcaaga ~. 部屋がせまいので子供たちが押しあいへしあいしている。

sicabaa⑩ (名) 下葉。枝の下の方にある葉。

sicabaa① (名) 下齧。

sicabai⑩ (名) 土瓶・急須などの口から、湯などがまっすぐに出ないで、下方にだらだらとあとを引いて流れること。

sicabeesan⑩ (形) 早口である。舌が早く回

る。

sicacirimunii⑩ (名) 舌足らず。舌が短いようなしゃべり方。sicakweemunii と同じ。

sicacirimunu?ii⑩ (名) sicacirimunii と同じ。

sicadakuma① (名) こっそりたくらむこと。内心では利口な考えをもっていること。悪い意味にいう。

sicadamasi① (名) 心の中で用心すること。心の中では慎重に注意していること。よい意味にいう。

sicadan⑩ (名) [螺] 巻貝の一種。「しただみ」に対応する。丸く小さく、ふたがあって、岩・砂などに付着する。食用となる。その長いものは cinboora という。

sicadan⑩ (名) 下段。段・棚・役職などの下の段。?wiidan の対。

sicadii⑩ (名) [下手] 身分の低い者。しもじもの者。

sicadii⑩ (名) [下手] 賄賂。袖の下。下からこっそり出す手。~ neejuN. 袖の下から手を出す。贈賄・収賄する。

sicagaci⑩ (名) 下書き。草稿。下絵。sita-gaci ともう。

sicagui① (名) [古] [下庫裡] 式部官の詰所。

sicagukuru① (名) 下心。底意。悪い意味にいう。

sicahwimu① (名) [文] 下紐。女の下ばかまのひも。普通は hakamanu 'uu という。satuga tini narisi hananu ~ja, ?ikuharuni natiN tagasi tucuga. [里が手に馴れし 花の下紐や 幾春になっても誰がし解ちゆが] 恋しい君の手に馴れている下ばかまのひもは、幾春になっても誰も解く人がいない。

sicahwizi① (名) あごひげ。下ひげの意。?waahwizi (口ひげ) に対する。

sicaida① (名) 下枝。

sicajaku① (名) 下役。
 sicajakuniN① (名) 下役人。
 sicajurukubi① (名) 内心喜ぶこと。ひそかに喜ぶこと。
 sicakata① (名) しもじもの者。下層階級の人。?wiikata の対。
 sicakweemunii① (名) 舌足らず。舌をかみそりなものの言い方。うまく舌がまわらないものの言い方。早口ことばを言う場合など。
 sicakweemunu?ii① (名) sicakweemunii と同じ。
 sicanii① (名) 下荷。下積みの荷。?waanii (上荷) の対。
 sicanui① (名) 下塗り。下地を塗ること。?waanui の対。
 sicaşiba① (名) 下くちびる。～ kuujuN. 下くちびるをかむ。人をおどす時の表情をいう。
 sicasjoonugaa① (名) うっかり者。そこつ者。sjoonugaa のはなはだしい者。
 sica?uki① (名) 下請け。
 sicawata① (名) 下腹。下腹部。
 sicazi① (名) 下着。上着のすぐ下に着る着物をいう。冬なら、上にあわせを、下にじゅばん、中にひとえを着るが、そのひとえをいう。
 sici① (名) 質。質屋に入れる担保。質草。～ ?irijuN. 質に入れる。～ tujuN. 質草として取る。また、質屋を営業する。～ ?ukijuN. 質から出す。
 sici① (名) 七。普通は nanaçi という。
 sici① (名) 四季。
 sici① (名) 式。儀式。
 sici① (名) 敷居。
 siçi① (名) 好き。～ 'jan. 好きだ。～ naqcu. 好きな人。
 siçi① (名) 節。二十四節の節。
 siçi① (名) 湿気。しめりけ。～ kakajuN. 湿気をおびる。じめじめする。～ nu ?an.

湿気がある。
 siçibi① (名) 市などがにぎわり日。商売の書き入れ時となる日。正月・3月3日・5月5日・盆などの祝祭日とおよそ一致する。
 siçibuqkwi=jun① (自 =raN, =ti) むくむ。病気で体がむくむ。
 siçibuşici① (名) 好ききらい。好きなものときらいなもの。
 sicica① (名) 布を織る時、腰を掛ける板。敷板の意。
 sicigaara① (名) ⊖建物の周囲・塀などに敷く瓦。煉瓦に相当するもの。敷瓦の意。⊖sicigaara をかたどった、着物の模様の名。市松模様に似たもの。
 siçigakai① (名) ⊖しめりけが多いこと。湿気のあるところ。⊖不健康に太ること。
 siçigawai① (名) 季節の変わり目。
 sicigwaçi① (名) 7月。
 sicigwaçiisaa① (名) 盆踊り。旧暦7月15日の送り火がすむと、16日の夜は、各村の青年たちが各家を回り、酒や餅をもらって、歌い舞い、最後に村の広場で踊って遊ぶ。その時の歌に 'eisaa 'eisaa というはやしがつくのでいう。
 siçigwiiniigwi① (名) 腹を立てた声。つっけんどんな声。強い不満の声。～ ?nzaci. つっけんどんな声を出して。
 siçihui① (名) (子が親などに)まつわりつくこと。siçi<siçun (下にはいり込む・下から起こす)。
 siçihukusin① (名) 七福神。
 sici?isi① (名) 敷石。
 sicija① (名) 質屋。
 siciju① (名) [新] 石油。sicitanjuu よりもさらに新しい語。
 siçiki① (名) 作りつけ。戸棚・たんすなどの作りつけのもの。
 siçiki① (名) しつけ。家でする礼儀作法などの教育。
 siçikigata① (名) しつけかた。礼儀作法な

siçikigwii

どのしこみかた。

siçikigwii① (名) 作りつけの衣裳棚。kwiiの頂参照。

siçiki=jun① (他 =raN, =ti) ⊖なぐる。いじめる。やっつける。那覇などでは kuru-sjun という。⊖叱る。⊖しつける。礼儀作法を教える。'winaguwarabee 'juu siçikiriwadu 'jaru。女の子はよくしつけなければいけない。

siçiki=jun① (他 =raN, =ti) 作りつける。作りつけにする。sjumuçidana siçiki-teen。本棚を作りつけてある。

siçikiʔubuçidan① (名) 作りつけの仏壇。

siçikuduci① (名) [四季口説] 口説 (kuduci) の一つ。

siçiku=nuN① (自 =maN, =di) しけ込む。他人の家へはいり込んで、いすわる。

siçikusiree① (名) 髪をくしけずること。梳きこしらえの意。

siçimazimN① (名) 魔物の名。魔物のなかでもっとも恐ろしいとされる。天まで届いたり、地面いっぱい伸びたり、いくらでも広がる、得体の知れない魔物で、逃げようがない。

siçimiN① (名) しきりにせがむこと。しきりに催促すること。~ sjun。

siçimiNcoo① (名) 七面鳥。

siçimuçi① (名) 質草。抵当。担保。

siçimuci① (名) 体がむくむこと。腎臓病などの場合に起こるもの。脚気。siçi (湿気) をもつ意。

siçimuçisirabi① (名) muee (無尽講) などで金を貸借する時、その抵当が金高に相当するかどうかを調べること。質物調べの意。

siçimN① (名) 敷物。たたみ・むしろ・毛布など、坐ったり寝たりする時に敷くもの。

siçimusiru① (名) 夜、寝床に敷くむしろ。寝ごぞ。広幅の長い上等のむしろで、敷き

ぶとんの代わりに用いる。以前は、敷きぶとんはほとんど用いられなかった。

siçina① (名) 尻の下に敷くもの。~ sjun。

尻に敷く。'utu ~ sjun。夫を尻に敷く。

siçina① (名) 識名。《地》参照。

siçinagari① (名) 質流れ。

siçinici① (名) 七日。なのか。月の第七の日にもいう。

siçiniN① (名) 七人。nanatai ともいう。

siçiniNci① (名) 七年忌。

siçinurii① (名) 質の利息。

siçirihweeri① (副) はなはだしく笑うさま。首をちぢめて笑う意。~ 'warajun。腹をかかえて笑う。

siçiriN=cuN① (自 =kaN, =ci) ちぢこまる。引っこんで短くなる。kaamiikuubinu ~。亀の首がちぢこまる。

siçitaku① (名) 坐り込んで動かないこと。いすわること。子供などが不平な場合にやることなどをいう。ʔusinu ~ natoon。牛が坐り込んでしまった。

siçitaNgani① (名) ブリキ。

siçitaNjaQkwAN① (名) ブリキのやかん。

siçitaNjuu① (名) [新] 石油。さらに新しくは siçiju という。

siçitoo① (名) [七島] 土噶喇(とから)列島。

siçitootu' naka① (名) [七島渡中] 七島の沖。土噶喇列島の沖合。

siçitʔuku=sjun① (他 =saN, =ci) ⊖下から起こす。下からかきほぐす。上のものをこわさぬように、下から起こす場合などにいう。⊖(田畑を) 鋤き起こす。

siçizuu① (名) 七十。また、七十歳。

siçizuusaN① (名) 七十三。また、七十三歳。~nu ʔujuwee。七十三歳のお祝い。

siçu① (名) 量。~nu ʔaşi koojun。量のあるのを買う。

siçuma① (名) [しきよま] 祭りに神に供えるための米麦の初穂。~ kamirasjun。祭りに神に供えた米を、おさがりとして与え

る。nanzaʔuʃinakai kuganiziku tati-ti, cibati ʃiri 'joo 'unainucaa, ~ kamirasa 'jaa. (稲摺節) 銀の白に黄金の軸を立てて、張り切って稲をすれよ、女たち。初穂のおさがりをいただいでやろう。

ʃi=cuN① (他 =kaN, =ci) 敷く。敷物などを敷く。

ʃi=cuN① (他 =kaN, =ci) 好く。好む。ʃi-kan. きらいである。saki ʃicumi. 酒が好きか。

ʃi=cuN① (他 =kaN, =ci) 下からはいり込む。下から持ち上げる。下から起こす。「鋤く」に対応する語か。ʔusini ʃikarijun. 牛に下から突き上げられる。

ʃi=cuN① (他 =kaN, =ci) ①漉く。紙などを漉く。②梳く。くしけずる。梳き櫛で梳く。櫛 (sabaci) でとかすことは sabacun という。

sicuraasjan① (形) 小児の体重が重い。小児の体重は、お産が重いことを恐れて ʔN-busan (重い) といわない。おとなの体重は ʔNbusan という。

sicuʔuhusan① (形) 量が多い。

ʃidagisan① (形) 涼しそうである。

ʃidai① (名) すだれ。みす。

ʃidakaza① (名) 清らかな香り。すがすがしいにおい。

ʃidakazi① (名) 涼風。涼しい風。

ʃidaki① (名) 瀬高。《地》参照。

ʃida=nuN① (自 =man, =di) 涼む。ʃidamasjun. 涼しくする。

ʃidasan① (形) 涼しい。

ʃida=sjun① (他 =san, =ci) 卵をかえす。孵化する。高貴の人が子を生むことをもいふ。ʔuʃidasimiseen. お生み遊ばされる。

ʃida=sjun① (他 =san, =ci) ①磨く。②化粧をする。

sidee① (名) ①次第。由来。事情。caaru ~ga. どんなわけか。②(接尾) 順。次第。-siNdee ともいう。ʃiizasidee (年長順)

など。

sideejooi① (名) 次第に弱ること。だんだんに衰弱すること。~ sjuN. 次第に弱る。

sideeni① (副) 次第に。だんだんと。~ masi najun. 次第によくなる。

sideesideeni① (副) 次第次第に。~ masi najun. だんだんとよくなる。

ʃidigahuu① (名) ʃiduugahuu と同じ。

ʃidigajamamici① (名) [文] 死出の旅。~ni humimajuti nakaba, ti tuti hwi-citabori ʔamidabutuki. [死出が山道にふみ迷って泣かば 手として引き給ばうれ 阿弥陀仏] 死出の山道にふみ迷って泣いたならば、手を取って引いて下さい、阿弥陀仏様。子の死に際して親の歌った歌。

ʃidigara① (名) ʃidiguru と同じ。

ʃidiguru① (名) ぬけがら。蛇・蟬のぬけがら、ひなのかえったあとの卵のからなど。ʃidigara ともいう。

ʃidi=jun① (自 =ran, =ti) ①卵がかえる。孵化する。tuigwaanu ~. ひながかえる。②高貴の人が生誕する。お生まれになる。ʔumingwanu ~. お子様がお生まれになる。ʃidirarijun. お生まれになる。③いただく。頂戴する。身分の低い者が使う。kuree 'ookara ʃiditaru mun. これは王からいただいたものだ。

sidupeeci① (名) [勢頭親雲上] 庵藩前の位階役職の名。

ʃiduugahuu① (名) ʃidigahuu ともいう。①頂戴物をする。ありがたいものをいただくこと。~ deebiru. ありがとうございます。平民や女の使うことば。②お礼。ありがとうございますと言うこと。~ ʔun-njukijun. お礼を申し上げる。niNzuunu ~. 一年中のお礼。また、一年中のお礼に、年末に神社仏閣を回る。③妊娠。首里の女のいう語。天から賜わった果報の意。

-ʃi¹⁹ga (接尾) が。けれども。活用する語の

sigaci

「短縮形」(apocopated form) につく。
'judaşiga 'wakarantaN. (読んだがわからなかった。), 'jumaŋşiga (読まないが), tuusataşiga (遠かったが) など。

sigaci① (名) 施餓鬼。盆祭りやその他の法事の折, minnukuu (水の子) を施餓鬼用に供える。

şiga=jun① (他 =raN, =ti) 縫る。つかまっ
て, たよりとする。

şigari=jun① (他 =raN, =ti) 工面する。金などを算段する。zin ~. 金を工面する。kuşsa 'jatiN sigaritidu sikooteşiga. これだけでもやっと工面して準備したんだが。

şigarinami① (名) 津波。また, 高潮。

şigata① (名) 姿。みなり。風采。~nu 'jutasjan. みなりがいい。

şigaziru① (名) 膿汁。膿の薄い液。

şigi=jun① (他 =raN, =ti) すげる。はめこむ。とりつける。cisiri ~. きせるをすげる。ʔasizanu 'uu ~. げたの鼻緒をすげる。

şigu① (副) すぐ。ただちに。~ kuu 'joo. すぐ来いよ。

şiguhwan① (名) 祭祀用の米 ('npanagumi) を入れる器。ʔuuʔukuhwan ともいう。

şiguku① (副) 至極。ひどく。非常に。平民は多く zikoo という。~ ʔami huti ʔikantaN. 非常に雨が降って行かなかった。連体詞的にも用いる。~ ʔweekincu. 非常な金持ち。~ ʔuujaşimun. 非常に容易なこと。

şigunzani① (名) 針金。

şigunzani ① (名) şigunzani と同じ。

şigu=şjun① (他 =saN, =ci) (度を) 過ごす。saci ~. 酒を過ごす。

şigutu① (名) 仕事。

şigwaçi① (名) 四月。年の第四の月。多くは şingwaçi という。

şihjaaku① (名) 四百。

şihoohaq'poo① (名) 四方八方。

şii① (感) しい。はい。牛馬などを追い進める声。

şii① (名) 四。普通は 'juugi という。

şii① (名) 椎。しいのき。実は炒って食用にする。'janbarusii (山原椎) というように, 山原に多い。

şii① (名・感) おしっこ。しい。小便の小児語。また, 小児に小便をうながす語。

şii① (名) 債。負債。債務。借金。ʔuqka ともいう。

şii① (名) [瀬] 岩。

şii① (名・接尾) 姓。唐姓をいう。ʔuzi ともいう。şjoosii (尚氏) など。

şii① (名) 精力。元気。勢い。~ çicun. 勢いがつく。精がつく。回復期の病人・農作物などが元気よく, 勢いがつくのをいう。~ nugijun. 勢いが抜ける。精が抜ける。元気がなくなる。

şii① (名) 背たけ・身の大きさの意か。勢, すなわち生きのよいことの意かもしれない。次の句でいう。tui kooraa kaçi koori ʔiju kooraa ~ koori. 鶏を買うなら数を買え (若鶏を何匹も買った方がよい), 魚を買うなら大きいのを買え (小魚を何匹も買うよりいい)。

şii① (名) [子] ①* cikuduŋşizimi [筑登之筋目] の士族の男子。15歳以上の男子で, おそくとも25歳ころまでに cikuduN [筑登之]になる。murikawanu ~. [森川之子]組踊りの名。「花売之縁」の別名。②士族男子(20歳以上)をいう。

şii① (名) 単独での意味不明。~ ʔijun. 困る。siira ʔijun. と似た意味で用いる。~ ʔiqtı turasiwadu 'jaru. 困らせてやろう。苦しませてやらねばならない。

şii① (名) 巢。tuinu ~. 鳥の巢。

şii① (名) 刀などのさや。saja ともいう。

şii① (名) 酢。hweei ともいう。

sii① (名) 末。終わり。結末。～*ja caa na-tagá*。終わりはどうなったか。
siibai① (名) 小便。～*sjun*。小便する。上流の婦人は *ʔusi ʔuujuN*。(牛を追う) という。
siibaibukuru① (名) 膀胱。siibaizicin ともいう。
siibaiguuru① (名) 小便壺。
siibaijandi① (名) 淋病。尿道炎。
siibaizicin① (名) 膀胱。siibaibukuru ともいう。
siiban① (名) 末番。びり。また一番終わりの番組など。
siibaree① (名) 負債を返却すること。借金を返すこと。
siibi① (名) 衰微。家が衰えることをいう。
siibiisan① (形) りすら寒い。
siibjuu① (名) 聖廟。孔子の廟。
siiboozaa① (名) 植物名。つるそば。薬草の名。
siibuN① (名) おまけ。売買などで余分に添えてやるもの。添え分の意。
siibusjahunde① (名) したい放題。勝手気ままにすること。
siibuu① (名) しょげること。また、間の悪い思いをすること。～*nasarijuN*。間の悪い思いをさせられる。
siibuugeeci① (名) しょげかえること。また、ひどく間の悪い思いをすること。
siicaakwaaee① (名) 押し合いへし合い。～*nu miin kai ʔijuN*。押しあいへし合いの中にはいる。～*sjun*。
siicamee=juN① (他 =*raN*, =*ti*) 仕事を次々にして行く。仕事をどんどんかたづけける。
siicee① (名) 押しくら。押し合い。押しくらまんじゅう。寒い時にする子供の遊び。たがいに押し合って、倒れるか、または列から押し出されたり、退いたりした方が負け。
siicikaka=juN① (自 =*raN*, =*ti*) つめ寄る。

murabarunu ʔajaaja zaan neen, kurusi kurusindi siicikakatasa, daa kurusjuru ʔizija suqtun neeran, ʔzawaree sici mudujuru sikataja hunnu ʔukasjadu ʔuhusaru。[村原のあやや ぢやあんないらぬ 殺す殺すむで すいきかかたさ だあ 殺しゆるいちや そつともないらぬ なが笑ひしち 戻ゆる仕方や ほんのかしやど多さる(大川敵討)] 村原の夫人は少しも恐れず、殺せ殺せとつめ寄ったが、谷茶の按司は少しも殺す勇氣はなく、なが笑いして戻るようすは笑止千万であった。
siicin① (名) 聖賢。教養ある人の用いる語。～*nu ʔusii*。聖賢の教え。
siicroo① (名) やりかねない者。やりかねないこと。いかにもやりそうなこと。賄賂など取りそうな者が、賄賂を取ったというような場合など、siicroo ʔjasa。(やりそうなことだ) という。よいことの場合にはあまりいわない。
ʔiigiziʔuzoo① (名) 首里城の門の名。ʔugusiku の項参照。
ʔiicoogin① (名) 切狂言。一番終わりの狂言。
ʔii=cun① (自 =*kaN*, =*ci*) 体で押す。押し入る。miqcaidu ʔirariiru tukurunkai siici naa cui ʔican。三人しか坐れない所に押し入ってもうひとり坐った。
ʔii=cun① (自 =*kaN*, =*ci*) 位置がずれて動く。
siidakasan①* (形) ⊖靈力がある。神の靈を身につけている。気高い。神神しい。⊖神神しいよりすである。寄りつけない感じをもつ。王・美人などについていう。
siidoori① (名) 働き過ぎて倒れること。sjuincoo ciidoori, naahwancoo kweendoori, tumaincoo ～。首里人は着倒れ、那覇人は食い倒れ、泊人は働き倒れ。
siidu① (名) [勢頭] かしら。親分。頭目。

siiganee

下層階級の語。複合語に 'jureesiidu (無尽講の頭目), ninbucaasiidu (念仏宗乞食の頭目) など。

siiganeeⓐ (名) ⊖*いやがらせにすること。また、人に対して意地ですること。siiganeesii ともいう。tusjuinu simisjooNna-ndi ʔunNjukitiN ~ Qsi simiseekutu 'jaa. お年寄りがなさいますと申し上げても、いやがらせみたいにおやりになるからねえ。⊖老人などがしなくてもよいことをして失敗したり、怪我したり、病気がしたりすること。

siiganeesiiⓐ (名) siiganee と同じ。~du 'jaru. いやがらせだ。~ sjun.

siiguⓐ (名) 小刀。ナイフ。

siihanaⓐ (名) ⊖煮てすぐの熱い食物。できたて。⊖*仕事などの、はじめ。

siihAQ'looⓐ (名) 無理強い。人に、仕事・食物などを無理に強いること。ʔansiiinee ~ najun. そりすると無理強いになる。~ sjun.

siihooⓐ (名) 製法。作りかた。

siihuduⓐ (名) 背丈。せい。背かっこう。~ ʔucajun. 背丈がちょうどよい。均衡のとれた体つきをしている。

siihuiⓐ (名) sinpui と同じ。

siiʔimijaaⓐ (名) 借金取り。債鬼。sii は債, ʔimijaa < ʔimijun (催促する)。

siiʔiQpeeⓐ (名) 精一杯。力の限り。もうこれ以上できないという、否定的な意味で用いる。~ sjoon. 精いっぱいやっているのだ。もうこれ以上はできない。

siijaabuuⓐ (名) 小児の遊戯の名。また、その時の歌の名。hwiiziNtoo ともいう。その項参照。

siijanziⓐ (名) しくじり。やりそこない。失敗。

siijanzigu'tuⓐ (名) やりそこなった事。失敗事。

siijan=zuNⓐ (他 =daN, =ti) しそこなう。

失敗する。しくじる。

siijaQsaNⓐ (形) ⊖しやす。やりやすい。

⊖暮らしやすい。また暮らしが楽である。namaa ~. 今は暮らしが楽だ。siijaQsa sjoon. 安楽な暮らしをしている。

siijooⓐ (名) しかた。やりかた。しよう。~nu ʔaN. やりかたがある。

sii=juNⓐ (他 =raN, =ti) 強い。ʔarinkai sigutu ~. 彼に仕事を強いる。

ʃii=juNⓐ (自 =raN, =ti) 髓(す) える。いったん煮た食物が腐ってすっぱくなる。

ʃii=juNⓐ (他 =raN, =ti) ⊖添える。増して加える。⊖売買の際、おまけとして加える。

siikakiⓐ (名) 仕事のやりはじめ。また、やりかけ。~ 'jan. やりかけだ。

ʃiikazaⓐ (名) 食物の髓えたにおい。

siikee=sjunⓐ (他 =saN, =ci) し直す。やり直す。

ʃiikiⓐ (名) 食物の髓えた味。

ʃiiki=juNⓐ (他 =raN, =ti) ずらす。押しやる。ʔagataNkai ʔuri ʃiikiree. あっちにそれを押しやれ。

siikuimee'kuiⓐ (副) ⊖ふらふら。よろよろ。よろめくさま。⊖負債などを負って、生活にあえぐさま。~ sjun.

siikuinooriⓐ (名) 前後左右によろけること。

ʃiiku=juNⓐ (自 =raN, =ti) ⊖よろける。よろめく。ふらつく。⊖左前になる。衰運に傾く。

siikumiiⓐ (名) 何度かに食べる飯を一度に炊いて置くこと。暇のない労働者などがする。~ sjun.

siikutaNdiⓐ (名) 過勞。働き過ぎて疲れ果てること。

ʃiikwaasjaaⓐ (名) 植物名。橋。こがね色の実がなるので, kuganii とよぶ地方もある。実は、まだ青くて酸味が強い時、芭蕉布をさらすのに用い、芭蕉布の色つやを

よくする。酔食わしの意。
šiikwaʔuʔi① (名) [新] 西瓜。-ʔui は瓜。
 普通には kwantuʔui という。
šiimi① (名) 潜水。水中にもぐる。こと。～
 sjun.
siimii① (名) 清明。二十四節の一つ。沖縄
 で最も快適な季節である。清明祭 (ʔusii-
 mii) を行なう。
siimiigwaa① (名) にいにいぜみ。
šiimun① (名) ㊦食物の籠えたもの。籠え
 もの。㊦酸いもの。すっぱいもの。
šiimun① (名) 吸い物。普通は ʔušiimun
 という。おかずとして出すものでなく、単
 独で出す吸い物をいう。お椀物。すまし汁。
 soominnu ～。そうめんの吸い物。おかず
 として出す、すまし汁・みそ汁は ʔusiru
 という。
šiimunwan① (名) 吸い物椀。
siinari=jun① (自 =ran, =ti) し慣れる。
 慣れて熟達する。やりつける。
siinasi① (名) 仕上げかた。やりかた。また、
 うまく仕上げること。じょうずにやる
 こと。sabimun ʔjatin ～du ʔjaru。貧
 弱な材料でも、料理のやりかたでよくな
 る。材料よりも腕(諺)。～nu neeran。
 やりかたがまずい。
siina=sjun① (他 =san, =ci) よく仕上げ
 る。うまくする。家事・料理・着付けな
 ど、何でもうまくやることをいう。caa
 ʔjuu siinacoon。いつでもうまくやって
 いる。
šiinoo① (名) 水囊。水ぶるい。底を銅線な
 どで張った、細目のふるい。粉をふるうの
 にも、また、うらごしにも用いる。
siinoosi① (名) し直し。やり直し。
siinoo=sjun① (他 =san, =ci) し直す。や
 り直す。
siinʔnza=sjun① (他 =san, =ci) もうける。
 働いて富を生み出す。ʔacinee ～。商売を
 大きくやってもうけ出す。hwinsuumun

ʔjašiga siiʔnzaci ʔweeki sjan。貧乏者
 だが、もうけて富をなした。sakanajaaja
 siiʔnzasiʔsaru ʔacinee ʔjakutu ʔja-
 miransa。料理屋はもうけやすい商売だ
 からやめないよ。
siipui① (名) sinpui と同じ。
siira① (名) 災難・苦しみ・病気などの意。
 ʔijun (入る) とともに用いる。災難がは
 いりこむという感じである。～ ʔijun。困
 る。苦しむ。病気になる。災難にあり。
 ʔamini ʔndiinee ～ ʔijun。雨にぬれる
 と病気になる。ʔuqkanu ʔuhusanu ～
 ʔiqcoon。借金が多くて苦しんでいる。
 tuzinu duujahwasanun ～ ʔiqcoon。
 妻の体が弱くて、困っている。～ ʔijun
 doo。困った目に会わず。
šiiraran① (動) ʔizinu ～。(腹にすえか
 ね) という句でのみ用いる。
siiri① (名) 肥だめ。
šiisan① (名) 推参。差出がましいこと。生
 意気。文語的な語。～na kuʔuu。推参な
 小僧。
šiisan① (形) すっぱい。酸い。
siisi① (名) ㊦獅子。獅子舞いの獅子をい
 う。人と遊ぶ動物とされ、猛獣とされない。
 獅子舞いの獅子は芭蕉の糸で巧みに作られ
 ている。～ keerasjun。獅子舞いをする。
 獅子がひっくり返る動作が多いので kee-
 rasjun という。㊦獅子舞い。村芝居で
 行なわれた。首里でも旧暦8月15夜のころ
 各村で催された。
siisi① (名) しんし(篠)。洗い張りの時、布
 を引っ張る道具。
šiisi① (名) 添石。《地》参照。
šiisi① (名) 末吉。《地》参照。
šiisi① (名) すす。～ kantoon。すすだ
 らけになっている。～ kuujun。すすける。
siisiçi① (名) 性質。～nu ʔwaqsan。性質
 が悪い。
siisiguci① (名) しんし (siisi) の両端のと

がったものがついているところ。もとは牛豚などの骨を削って作ったが、後には金属製のものができた。

siisii① (副) ふうふう。妊娠して、または太って苦しうにあえぐさま。ʔuhuwata ~ sjoon. 大きなおなかをかかえて、ふうふういっている。

siizigama① (名) 起居振舞。挙動。

siisu① (名) 腎臓病。

siiti① (副) 強いて。無理に。~ ʔicun. 無理に行く。~ simijun. 強いてさせる。
-siiti (接尾) …ごと。…ぐるみ。< ʔiijun (添える)。huniʔiiti hakajun. (骨ごとと計る), kaasiiti kanun. (皮ごとと食べる)。

siitu① (名) [新?] 生徒。明治の初め一時使われた語。生徒のことは、元来は gaku-sjoo といった。

siiʔuwa=jun① (他 =ran, =ti) し終わる。なしとげる。

siitutai① (名) 過勞。

ʔiiʔwii① (名) 皮膚の一部が厚く堅くなること。また、その部分。たこ。nuunu ~ ga. 何でできたたこか。

ʔiiʔwii=jun① (自 =ran, =ti) たこができる。皮膚が厚くなる。唐手の訓練で maci-wara (巻藁) を突いて、にぎりこぶしにたこができることなどをいう。

ʔiiza① (名) ʔuqtu (年下、弟妹) の対。⊖年上(の者)。年長(者)。⊖兄弟。年上の兄弟。兄または姉。性別を区別する時には 'wikigaʔiiza (兄), 'winagaʔiiza (姉) という。'waaʔiiza. わたしの年上の兄弟。

siizaa① (名) 植物名。椎。椎の木。主として、たきぎとして使う場合にいう。

siizaadamun① (名) 椎のたきぎ。

ʔiizakata① (名) ⊖年上の人たち。年長者たち。先輩たち。ʔuqtunucaa (年下の人たち) の対。⊖壮年の者たち。30~40歳代の者。'wakamunnucaa の対。

ʔiizakatasidee① (名) 年長順。大勢の間で

順序を決める場合は、たいてい ʔiizakatasidee となる。ʔiizasidee ともいう。

ʔiizasidee① (名) 年長順。

ʔiizaunai① (名) 姉。弟から見た場合の姉をいう。

siizi① (名) [新?] 政治。

ʔiizima① (名) すもりの結びの一番。

siizimuci① (名) [新?] 政治の道。政治の行ないかた。政治むきの意。~nu 'juu natoon. 政治がよくなっている。

ʔiizukurii① (名) ⊖巢を作ること。鳥類が産卵のため、巢を作ること。⊖転じて、女のお産の準備をいうことがある。

sijaci① (名) ʔeeci と同じ。

sijawasi① (名) [文] しあわせ。幸福。~na qcu. しあわせな人。

sijawasigu'tu① (名) しあわせな事。幸福な事件。

sijoomujoo① (名) いろいろと手段を講ずること。いろいろの方法でやってみること。~ sjun.

sijoosizama① (名) やりよう。やりかた。行ないぶり。

si=jun① (他 =ran, =qci) 知る。siqcoon. 知っている。

ʔi=jun① (他 =ran, =ti) 磨る。こする。kusi ~. ふろで、背中を流す。

sika① (名) [新?] 鹿。慶良間島に野生の鹿がいる。元来は koonusisi (鹿。また、鹿の肉) という。

sikaa① (名) 臆病者。

sikaitu① (副) しっかりと。ちゃんと。~ ʔubiran. はっきり覚えていない。~ ʔucinkai ʔiree. ちゃんと内にはいれ。どうぞ室内におはいらなさいの意。

sika=jun① (他 =ran, =ti) ⊖くくる。束ねる。縄をかける。縛る。また、捕縛する。nii ~. 荷物を縛る。⊖(妊婦が大きい腹を) かかえる。ʔuhuwata sikatoon. 大きなおなかをかかえている。

sikaka=jun① (他 =raN, =ti) ①しかかる。
やり始める。とりかかる。②いどみかかる。

sikaki① (名) ①仕掛け。装置。からくり。
②始め。起こり始め。病気などのきざし。
兆候。

sikaki=jun① (他 =raN, =ti) ①しかかる。
やりかける。②しかける。動作をし向ける。

sikaku① (名) 四角。siqkaku ともいう。

sikama① (名) 借金の利息のために使役されること。

sikama① (名) [古] 酒を暖めて赤ん坊の体をふくこと。また、一説に産児を沐浴させること。

sikama① (名) [古] 四つ時分 (午前10時ごろ)の意か。また、早朝の意か。

sikamaa① (名) 負債のために使役される人。

sikamiiguru guru① (副) 臆病な目をきょうつかせること。恐怖の目付きをすること。びくびく。

sikamuduci① (名) 料理名。鹿もどきの意。肉・野菜・豆腐などをさいの目に切って作る。ʔutibici (お祝いに作る料理の名)の一種。

sikamun① (名) 臆病者。

sika=nuN① (自 =maN, =di) 臆病になる。おじける。

sikaNkaa① (副) びくびく。おすおす。臆病なさま。~ sjoon. びくびくしている。

sikaqtu① (副) しっかりと。しっかりと。ちゃんと。sikaitu ともいう。sikaqtuの方が上品な語。

sikaraasan① (形) さびしい。寂寞としている。sikaraasii ciici 'jaqsaa 'jaa. さびしいけしきだねえ。

sikarasi① (名) 経験。平常やりつけて熟達していること。~nu ʔaN. 経験がある。

sikara=sjun① (他 =saN, =ci) 経験する。

熟達する。zii kacuʃi sikaracoon. 字を書くことに熟達している。ʔuraNdaguci sikaracoon. 西洋語に熟達している。

sikasan① (形) 臆病である。

ʃikasiimaa sii① (名) なだめすかすこと。~ sjun.

sikasika① (副) いらいら。心の落ち着かないさま。また、気分の晴れ晴れとしないさま。~ sjun.

ʃika=sjun① (他 =saN, =ci) ①泣く子をあやしなだめる。すかす。②なだめる。慰める。③(女などを)だます。

sikata① (名) ①しかた。やりかた。sika-taa neen. しかたがない。~nu 'juta-sjakutu. やりかたがよいので。②ようす。ありさま。ていたらく。悪い場合にいう。ʃirinasii ~. つれない、あわれなありさま。ʔjaasikataa nuundi ʔjuru ~ga. おまえのざまは何というていたらくだ。

sikee① (名) 世界。

ʃiki=jun① (他 =raN, =ti) ①据える。据えつける。置いて安定させる。ʔisi ~. 石を据える。ʔuhuʃibi ʃikiti. 大きなしりを据えて。gaNsina ʃikiti baaki kamijun. ガンシナ (荷を頭にかつぐ時、頭に敷くもの)を据えて、かごを頭にのせる。taka-makura sikiti ʔuciju rakurakutu kurasu ʔurisja. [高枕すけて 浮世らくらくと 暮す婦しや (忠臣身替)] うれしいことに高い枕を置いて(枕を高くして)らくらくとこの世を過ごせるよ。②食べ物を煮る用意をしておく。鍋をかけておくこと・米をといでかまに入れておくことなどをいう。ʃikiteekutu hwii ʃikiree naa. かけてあるから、火をつけさえすればよい。

sikima① (名) 志慶間。《地》参照。

sikin① (名) 世間。世の中。miqcai suri-ree ~. 三人揃えば世間。~ sjun. 世間並みとなる。kunu cinnu ʔaree, ~ sju-sa. この着物があれば世間並みだ。siki-

sikiNbanasi

nuN saN. 世間並みにならない。～nu
Yimasimi. 世間に対するいましめ。世の
人のみせしめ。罪人を罰する場合などに
いう。～nu hjooban. 世間のうわさ。

sikiNbanasi①(名) 世間話。

sikiNbaru①(名) 志堅原。《地》参照。

sikiNbiree①(名) 世間とのつきあい。

sikiNnami①(名) 世間並み。人並み。

sikiNnari①(名) 世間に馴れること。世間
に通じること。

sikin?uma'Ncu①(名) 世間の人びと。天
下の人民。

sikooi①(名) 用意。準備。支度。sjoogwa-
çinu ～。正月の準備。

sikooimukooi①(名) いろいろ準備するこ
と。sikooimukooee cuusaşiga, nuun
şee neeran. いろいろ準備はしているが、
何もやってはない。～sjun.

sikoo=juN①(他 =raN, =ti) 用意する。準
備する。支度する。'juuban ～。夕飯の
支度をする。

şikubuu①(名) 台所(の土間)。

sikuci①(名) 仕事。労働。sigutu ともし
う。～'wata?iri. 仕事は締入れと同じ。
働けば暖かくなる。

sikumi①(名) 仕組み。計画。

siku=nuN①(他 =maN, =di) 仕組む。計
画する。(会などの)準備をする。

sikusiku①(副) 着物がよごれて見すぼらし
いさま。～sjooru cin. 見すぼらしい着
物。

şikutaikaatai①(副) よごれた着物・よれよ
れの着物などを着たさま。尾羽うち枯らし
たさま。身なりのみすぼらしいさま。

şikutajaa①(名) だらしない者。元気の
ないもの。

şikuta=juN①(自 =raN, =ti) よれよれの
着物を着る。みすぼらしいなりをする。

sima①(名) ㊦村里。部落。kaçirinnu ～
ja kajuibusja ?aşiga. [勝連の島や 通

ひほしやあすが] 勝連の村里には通いたく
はあるが。㊦故郷。出身の部落。㊦領地。
知行所。領地としてもらう村落。～'uga-
nun. 知行地をいただく。㊦島。海にか
こまれた島。

sima①(名) 織物の模様。縞は ?aja とい
う。boozimaa (棒縞の模様の布)。

şima①(名) 相撲。たがいに敵の帯をにぎ
り合って身構えてから始める。相手を倒し
て、相手の背を地面に付ければ勝ち。二番
続けて行なり。速敗した方が、nużumi
(望み)と言って、もう一番取り直しを望
んだら、勝った方はそれを拒否できない。

simaa①(名) 小さい鳥の者、または小さい
鳥出身の者(卑称)。

simabuku①(名) 鳥袋。《地》参照。

simacizoo①(名) 領地を持ち知行を得るこ
と。また、領地と扶持米。地頭に与えられ
た領地と、その領地から地頭が得る扶持
米。

simagumi①(名) 沖繩産米。ziimee (内地
米)、toogumi (外米) などに対する。

simaguni①(名) 島国。toojamatoo tee-
kuku, ?ucinaaja ～。中国と日本は大國、
沖繩は島国。

simakuni①(名) ㊦村里。sima も kuni
もともに村里の意。㊦領地。～N 'ugadi.
知行地もいただいて。

simakusarasi①(名) 村に悪疫のはいるの
を防ぐために行なり、まじないの行事。獸
血を塗ったしめ縄を張りめぐらし、獸骨な
どをつるし、はいて来る舟から悪疫がは
いり込むのを防いだもの。農村でする行事
で、首里では行なわない。

simamuci①(名) 名目だけの領地を与えら
れた脇地頭('wacizituu)。領地はなく、
米は政府の倉庫からもらう。いわゆる ?i-
Qpoomuci [一方持]の脇地頭。字義は、
領地(sima)を持つ者の意。

simanagasi①(名) 島流し。流罪。

simariⓐ (名) 戸じまり。'juu ~ sii 'joo.
よく戸じまりをしろよ。

šimasibaaiⓐ (名) くけ縫い。縫い目を表に出さない縫いかた。šimasi は šiimi (潜水) と関係ある語か。

šima=šjuNⓐ (他 =saN, =ci) ①済ます。終わらせる。②婚約する。許嫁となる。婚約の成立をすます。女の側からいう。ʔuN-zutaaciuruuja maatu 'jatin šimaceemišeeibiimi. お宅のつる子さんはどちらかと婚約をすましていらっしゃいますか。

šimasugaiⓐ (名) 故郷に帰る支度。

šimasuiʔazanaⓐ (名) 首里城の石垣の上にある様。ʔugušiku の項参照。

šinatihjaa'tiiⓐ (副) あらん限りの声で叫ぶさま。声を限りに。

šimawaaⓐ (名) 村落(sima)の中。村落の大きさ。村落の範囲。

šimaziriⓐ (名) 島尻。《地》参照。また、次項と同じ。

šimazirihooⓐ (名) [島尻方] 沖縄の旧行政区画で、のちの島尻郡。

šimeeⓐ (名) 住まい。住居。

šimee① (名) 身構え。また、受入れの準備。~ šjuN. 身構えをする。また、身構えるふりをする。また、受入れの準備をする。

šimeeci=ju`Nⓐ (自 =raN, =Qci) すっかり整える。無駄なくきりつめる。また、部屋の使い方などに無駄がない。ʔariga kurasee šimeeciQcookutu ʔuhooku tamitooru hazi doo. 彼の暮らしはきりつめてやっているから、たくさんためているだろうよ。'jaa ~. 家を無駄なく住む。

šimee=juN① (自 =raN, =ti) 身構える。けんかなどの身構えをする。

šimeekame'e① (名) 身構えばかりすること。やたらに身構えすること。~nu cuusan. 身構えばかりが大げさである。~ šjuN.

šimeezaⓐ (名) 居室。居間。住まっている

部屋。

šimeczuⓐ (名) 住所。居所。

šimiⓐ (名) 締め。合計。

šimiⓐ (名) ①墨。②学問。ʔagari ʔakariba ~ narega ʔicuN, kasira 'juti tabori 'waʔujaganasi. [東明がれば墨なれが行きゆん 髪結てたばうれ 我親がなし] 東の空が明るくなると学問を習いに行きます。髪を結ってくださいますか。šimee siqci munoo siran. 学問はありながら、物の道理を知らない。論語読みの論語知らず。~N siran mun. 無学な者。文盲。③消し炭。caasizinのこと。木炭は普通 taN という。

šimiⓐ (名) 隅。

šimieeⓐ (名) 攻め合い。

šimihudika'biⓐ (名) 墨と筆と紙。学用品。文房具。

šimihukuⓐ (名) 読書。音読。朗読。昔はみな声を出して読んだ。

šimiidiⓐ (名) 済井出。《地》参照。

šimi=juNⓐ (自 =raN, =ti) しめる。湿気をおびる。simikeejuN ともいう。

šimi=juNⓐ (他 =raN, =ti) 締める。帯を締めるは、普通 ʔuubi šjuN という。

šimi=juNⓐ (他 =raN, =ti) ①攻める。攻撃する。②責める。

šimi=juN① (他 =raN, =ti) させる。šjuN (する)の使役形。soozi ~. 掃除させる。

-šimi=juN [接尾 =raN, =ti] せる。…させる。「サ行」の動詞の「未然形」に付き、使役の意を表わす。他の動詞には -šjuN が付く。nasjuN (産む)→nasimijun. (産ませる), tuusjuN (通す)→tuusimijun. (通させる)など。

šimijusi=juNⓐ (自 =raN, =ti) 攻め寄せる。

šimikabiⓐ (名) ①墨と紙。②字を書いた紙。神聖なものであって、決して物を包んだりしない。あやまって踏みつけた場合に

simikeejun

は、おしいたいで丁寧に石垣の穴に入れるか、焚字炉 (hunzuruu) に入れて焼くかした。それを怠ると、ʔuhubisjaa (象皮病) になるといわれた。

- simikee=ju`N① (自 =raN, =ti) しける。湿気をおびる。
- simikuru=sju`N① (他 =saN, =ci) 締め殺す。
- simikuru=sju`N① (他 =saN, =ci) 攻め殺す。
- šimikwaasjaa① (名) 墨ばさみ。墨づか。
-kwaasjaa < kwaasjun (食わす。はさむ)。
- šimimun① (名) 料理名。煮しめ。肉類・野菜などを醬油で煮しめたもの。
- šiminaa① (名) 墨繩。墨糸。
- šiminarajaa① (名) 学問を習う人。学生。生徒。
- šimiNcu① (名) 読み書きのできる人。学問のある人。
- šimisi① (名) 湿らせること。反物などに霧を吹くこと。霧吹き。~ sjuN. 霧を吹く。
- šimisiri① (名) 学問のある人。墨知りの意。
- šimizi① (名) しめじ。きのこの一種。食用にする。
- šimu① (名) 冷雨。冬の冷たい雨。「霜」に対応する。霜は降らないので、霜を表わす語はない。
- šimu① (名) ㊦しも(下)。㊦台所。勝手。
- šimubataraci① (名) 下働き。台所働き。
- šimuci① (名) 心だて。気だて。根性。性質。ʔjanasimuçi. 意地悪。
- šimuçi① (名) 11月。霜月。zuuʔicigwaçi とはめったに言わない。
- šimugusi① (名) 子宮病。
- šimukata① (名) ㊦しもの方。都から遠い地方。また、島尻方面をいう。㊦しもじも。下層階級。

- šimuku① (名) 撞木(しゅもく)。
- šimuku① (名) 下句。しもの句。琉歌は、上の句八・八、下の句八・六、全体で三十字からなる。
- šimukudaru① (名) 霜降。二十四節の一つ。
- šimunai① (名) うらなり。suuranai ともいう。niinai (もとなり)の対。
- šimunturi① (名) 首里城の門の名。ʔugu-šiku の項参照。
- šimuru① (名) すもり。孵化しないで巢に残った卵。
- šimusica① (名) 下志喜屋。《地》参照。
- šimuwataziN① (名) 下女の冬の晴れ着。
- šimuziibu① (名) 下儀保。《地》参照。
- šimuzimu① (名) しもじも。下層階級。
- šina① (名) ㊦品(しな)。物品。また、物品の種類。㊦(接尾)物品の種類を数える接尾辞。品。ʔikusinaN ʔaN. 幾品もある。㊦人品。品性。~nu ʔaN. 品性がある。
- šina① (名) 砂。海岸にある砂・さんご礁片。また、砂利。ʔjuni ともいう。その項参照。
- šinabi① (名) 砂辺。《地》参照。
- šinaga① (名) 瀬長島。沖縄本島南部の西海岸に接した小島。
- šinahwa① (名) 瀬名波。《地》参照。
- šina=jun① (自 =raN, =ti) 合う。調和する。適合する。似合う。ʔucajun ともいう。kunu karazee çiratu šinatoomi. この髪は顔と合っているか。ʔjuu šinatoru miitunda. よく似合った夫婦。šinatooru nii. ちょうどよい荷物。
- šinamici① (名) 砂を敷いた道。砂利道。
- šinamun① (名) 品物。
- šinasaki① (名) なさけ。思いやり。また、男女の愛情。情愛。satuja narihuzinu šigata tuimišera, ʔwamija ~nu ʔindu tujuru. [里やなりふぢの 姿取りみせら わみやしなさけの 縁ど取ゆる] 君は姿形

の美しいのお取りになるでしょうが、わたしは情愛の深い縁を取ります。

sinaʔurusi① (名) おはつ。新しいものを初めて用いること。多くは身につけるものについていう。

sinaziri① (名) 品切れ。

ʃini① (名) すね。

-ʃini ʃiitee① (句) [文・古] -sin ʃiitee と同じ。

sinidukuru① (名) 死ぬべき場所。たとえば、女はいったん結婚したら夫の家を **sinidukuru** と思えと、さとされる。

sinigau① (名) 死に顔。

ʃinigii① (名) すね毛。すねに生えた毛。

sinijaNzaa① (名) 死にそこなった者。

sinijaN=zuN① (自 =daN, =ti) 死にそこなう。

sinimce① (名) 死ぬ前。死にぎわ。

sininuku=juN① (自 =raN, =ti) 生き残る。

sinin① (名) 死人。事故・けんかなどで死んだ人をいう。普通の場合の死んだ人には **maasjooru qeu** という。~nu ʔnziton. 死人が出た。

siniqcu① (名) 死人。死んだ人。ʔiciqcu (生きている人) に対する。

siniwakari① (名) 死に別れ。死別。ʔiciwakari (生き別れ) の対。

sinjuku=juN① (他 =raN, =ti) **sinukujun** と同じ。

sinubi① (名) ⊖[文] 忍び。微行。⊖ひそかな恋。密通。また、あいびき。ʔnzotu ʔwaga nakanu ~ ʔarawariti, ʔacaja ʔnzo siminu ʔajura tumiba. [無蔵と我が仲の 忍びあらわれて 明日や無蔵責めの あゆらと思は(手水之縁)] 女とわたしの間のひそかな恋があらわれて、あすは女が責められることがあるかと思うと。⊕探偵。密偵。tantii ともいう。

sinu=buN① (自 =baN, =di) ⊖忍ぶ。堪える。こらえる。cimunu sinubaran. 同情

にたえない。かわいそうで見過ごせない。

⊖ひそむ。かくれる。ひそかに行く。(男女が) かくれて通り。あいびきする。nujama kwiru micija ʔikuri hwizamitin. ʔjamini mazirijai sinudi ʔicun. [野山越る道や 幾里へちやめても 闇にまぎれやり しのいでいきゆん(手水之縁)] 野山を越える道は何里へだたっている、闇にまぎれて忍んで行く。

sinugu① (名) 農村で祭りの時、男女で行なう舞踊。村の若い男女が神前の広場で入り乱れて踊る。儒教思想輸入により尚敬王時代に禁止されたことがある。ʔanibitaja ʔjukati ~ sici ʔasudi, ʔwasitajuni nariba ʔutumi sariti. [姉べたやよかてしのぐしち遊で わした世になれば お止めされて] 姉たちは幸福だった、シメグ遊びをして遊んで、われわれの世になったら禁止されてしまった。恩納なべ(女流歌人の名)のよんだ歌。

ʃinui① (名) 海藻の名。もずく。沿海に産し、細くて糸状をなし、分枝が多い。蒼黒色で柔らかく、採集して三杯酢などにして食べる。

sinukuimata ʔkui① (副) 工夫して準備するさま。苦心して作るさま。お祝いのごちそう、または金銭などを苦心して用意する場合にいう。~ sjun.

sinuku=juN① (他 =raN, =ti) 工夫して用意する。苦心して準備する。支度する。**sinjukujun** ともいう。ʔagari tacikumuja ʔjugahu sinukujui, ʔaʃibi sinukujuru hatacimijarabi. [東立雲やよがほしによくゆり 遊びしによくゆる 二十美童] 東の方の雲は豊年を支度するし、遊びの支度をしているのははたちのおとめ。

si=nuN① (自・不規則) 死ぬ。主として事故死の場合や卑しめていう場合、または動物の死についていう。普通、人間の死については **maasjun** という。

šinun

ši=nuN① (自 =maN, =di) 済む。終わる。
sikucinu šidaraa ?uca numee. 仕事
が済んだのだったら、お茶を飲みなさい。～
それでいい。ことわる時にいう。šinundi
?umutoomi. それで済むと思っているの
か。

ši=nuN① (自 =maN, =di) 澄む。mizinu
šidoon. 水が澄んでいる。

šinu=zuN① (他 =gaN, =zi) しのぐ。困難・
危険の中をくぐりぬける。nuci ～. 困難
から助かる。?ami ～. 雨をしのぐ。雨や
どりをする。sinuzi sinugaraN. しのご
うとしても、しのげない。困難から逃れら
れない。

šIN① (名) ①心(しん)。ものの中心部。
～nu niiraN. (米・いもなどの) 芯が煮
えない。②燈心。③木の芽などの芯。また、
それが出た先端。草木の幹の最先端。梢。
maačinu ～. 松の梢。～ja tiN kamiti
?judaja kuni hwirugi, hwizija zinu
sukunu hatiN siran. [しんや天かめて
枝や園ひろげ ひげや地の底のはても知ら
ぬ] 梢は天をいただき、枝は園中に広がり、
根は地の底のはても知らない。④心(ここ
ろ)。精神。また、本心。心の底。～kara
?jami. 本心からなのか。～kara ?uzi-
toon. すっかり恐れている。～kurusjun.
心の底を痛める。～nu sawai. 精神異常。

šIN① (名) ①さる。雨戸の戸じまりをする
装置。雨戸のさんに仕掛けて、敷居や鴨居
に差し込むもの。～?iriJun. さるで戸じ
まりをする。～sasjun ともいう。②栓。
たるなどの栓。～sjun. 栓をする。

šIN① (名) ①詮。甲斐。効能。ききめ。
?Nmaritaru ～nu ?aN. 生まれた甲斐が
ある。?icicooru ～. 生き甲斐。?joozo
sjaru ～nu neen. 治療した甲斐がない。
kusui nudin ～nu neen. 薬を飲んでも
ききめがない。②効験。～ciriJun. 死
後、霊のあるしるしがなくなる。冥土から

の音沙汰がなくなる。夢にも見えず、願
(?ugwan) をしても御利益がない時など
にいう。

šIN① (名) 千。
šIN① (名) ①寸。～nu taraN. 寸法が足り
ない。背が低い。②(接尾) 寸。?iqšIN
(一寸), nišIN (二寸) など。

šINbaa① (名) 草木の若芽。若葉。
šINbai① (名) 心張り棒。戸口のしまりに用
いる、戸を押える棒。

šINbiči① (名) 餞別。はなむけ。
šINbii① (名) 煎餅。

šINbjuu① (名) 神妙。おとなしくして落ち
着いていること。～ni sjoon. 神妙にして
いる。～na qcu. 神妙な人。

šINci① (名) 疝気の転意。フィラリヤ。kusa
と同じ。

šINci① (名) [文] [心気] こころ。心持ち。
mimutu kuraguratu naruga ～. [目も
とくらぐらと なるが心気(銘苺子)] 目も
とが暗くなるようなこころ。

-šIN čiitee① (句) [文・古] ので。?icuna-
sašin čiitee ?wannee ?ikaran. いそが
しいのでわたしは行けない。

šINcimuci① (名) フィラリヤ患者。kusa-
hurijaa と同じ。

šINciri=juN① (自 =raN, =ti) 澄みきる。
すっきり澄む。

šINčiru① maNkami① (句) 鶴は千年、亀は
万年。

šINda① (名) 責め苦しめること。虐待。残
酷に取り扱うこと。

šINDaka=sjun① (他 =saN, =ci) 滑らす。
滑らせる。kuci ～. 口を滑らす。

-šINdee (接尾) -sidee ともいう。…次第。
また、…の順。cuusiNdee (来た順、また、
来次第), ?uwaisiNdee (終わった者順、
また、終わり次第) など。

šINdi=juN① (自 =raN, =ti) ただれる。や
けどなどで皮膚がくずれる。

ʃiNdi=juN① (自 =raN, =ti) 滑る。
 siNdoo① (名) siNroo と同じ。
 siNduu① (名) 船長。船頭に対応する。
 ʃjanbaraa, toosiN などの船長。
 siNgwaçi① (名) 4月。年の第四の月。si-
 gwaçi ともいう。
 siNgwāN① (名) 銭千貫。20円にあたる。
 ziN (銭) の項参照。
 siNgi=juN① (自 =raN, =ti) 濁る。くも
 る。目・ガラス・鏡などがくもるのをいう。
 水の濁るのは miNgiwjuN という。
 siNhwicagi① (名) 神経衰弱。心配のあま
 り精神に異常をきたすこと。
 siNjaku① (名) 煎じ薬。siNzigusui, sizi-
 gusui, sizirigusui と同じ。主として
 ʃucinaaʃisja (神繩医者, すなわち漢方
 医) の用いたもの。
 siNka① (名) 臣下。手下。農村では転じて
 家族の意にも用いる。
 siNkee① (名) [新] 気違い。狂気。
 siNkoogu① (名) 猫背。
 siNkuçi① (名) 洗骨。死後数年内に次の死
 者があった場合に行なった。次の死者がな
 い場合には十年ぐらいして行なった。棺
 を墓から墓地の広場へ運び出し、爪の先ま
 で拾い取ってきれいに洗い、拭き上げてか
 ら、下部の骨から順順にかめに入れて、墓
 の中へ納める。
 siNkumaʔnku① (名) 千苦万苦の意。非常
 に苦心すること。
 siNma① (名) 神がかり。一種の神経病で、
 それにかかるると霊媒となって予言などを行
 なるようになる。神魔の意か。
 siNmajuʔta① (名) 神がかり病になった
 ʃjuta (占いをする女)。ʃjuNjujuta と同
 じ。
 siNmeenaabi① (名) 鍋の一種。非常に大
 型のもの。
 siNmi① (名) 器具の肝心な箇所。弱のかな
 め・器具のはめる所・ねじる所・差し込み・

ねじ, など。~nu ʃjoosaN. イ. ねじなど
 がゆるんで用をなさない。ロ. (人間が)
 無能である。

siNna① (連体) siNnu と同じ。
 ʃiNni① (名) 丸木舟。くり舟。sabani,
 kuihuni ともいう。~ kuihuninu ʃicu-
 ru tuke ʃjariba, kijuja ʔNzi ʔgadi
 ʔacaja cuʃiga. [すんねくり舟の 行き
 ゆる渡海やれば 今日や行ぢ拜で 明日や
 来ゆすが] くり舟の行くような海ならば、
 きょう行ってお目にかかって明日は帰っ
 てくるのだが。
 ʃiNnigwaa① (名) ʃiNni (丸木舟) の小さ
 いもの。
 siNniN① (名) 仙人。
 siNniNtaNmee① (名) ⊖仙人様。⊖仙人の
 ようなおじいさん。まゆが真白になった老
 翁 (土族) をいう。
 siNnu① (連体) 真の。正式の。格式通りの。
 ~ baa. 表向きの正式の場。型通りに正
 式に行なうべき場合。~ basju ともいう。
 ~ ʔuʃiN. 正式の賓客。格式通りに一定
 の順序に従って応待しなければならぬ。
 すなわち、初めに煙草盆を出し、次にお
 茶、お茶うけ、料理、酒の順序に出し、次
 に食後の菓子を出し、改めてお茶を出し、
 それから次々に膳部を下げ、最後には煙草
 盆まで下げる。そこで初めて客は座を立
 つ。その間、世間話などは一切しない。正
 式の用向きは料理の膳部が出る前に型通り
 の法によって伝え、法によって承諾の挨拶
 を述べる。客も主人もすべて式順を追っ
 て、あやまりのないように期する。
 siNpui① (名) ころげ回ること。すねた場
 合、また痛みにたえかねた場合など、もだえ
 てころげ回ること。のたうつこと。siipui,
 siihui ともいう。~ sjun.
 siNpuikaapui① (名) すねて、ころげ回
 ること。~ sjun.
 siNroo① (名) 心労。心の苦勞。気苦勞。

siNsitati

siNdoo ともいう。siNroo は上流の老人などの上品な発音。

siNsitati① (名) 新しい仕立て。仕立てたばかりのもの。

siNsjaku① (名) 反省。反省して後悔する場合や、反省して改める場合の反省をいう。斟酌の転意。siNsjakoo neen. 反省の色がない。～ sjun.

siNtaku① (名) ①洗濯。水につけて洗うことだけでなく、洗い、乾かし、伸ばし、たたみ上げるまでの全部をいう。～ sjun. 洗濯して仕上げる。ʔaratee ʔaʃiga siNtakoo maada. 洗ってはあがるが、まだ仕上げてない。洗う仕事のみは ʔareesikuci である。②布に水を通すこと。

siNtii① (名) 心底。心の底。心。～nu 'waqsan. 心がよくない。

siNtikwaNnu① (名) 千手観音。首里から那覇への出口、観音堂にあり、旅の平安を守る菩薩として、旅立ちの時に必ず参詣した。

siNʒan① (名) 新参の士族。廃藩以前に、平民から士族となった者。hudee (譜代の士族) に対する。miijukaqcu ともいう。

siNʒasi① (名) さる。雨戸のとじまりの装置。sin ともいう。

siNʒatu① (名) 新里。《地》参照。

siNzi① (名) 煎じた汁。スープ。tuisinzi (鶏のスープ), ʔirabuusinzi (えらぶうなぎの煎じ汁), kaʒuusinzi (かつお節を煎じた汁), taaʔijusinzi (ふなを煎じた汁), guujaasinzi (豚の尻の骨を煎じた汁) などがある。

siNziʒi① (名) [真実] ①真実。②真心。親切。誠意。tanumusija mutunu makutu 'waʃiriran, ʔinuci huriʃititi namanu ~ja ʔikutubani ʔnzaci ʔicija ʒikusa-ran. [たのむしや元の 誠忘れらぬ 命ふり捨てて 今の真実や い言葉に出ち 云ちや尽さらぬ (忠臣身替)] たのもしい

かな、昔の誠を忘れずに命をふり捨てての今の真心はことばに出して言いつくせない。～ni sjun. 親切にする。③世話。看病。親切に面倒を見ること。tusjuinu siNziʒee sjuru mun. 年寄りには親切に面倒を見るべきもの。

siNzigusui① (名) 煎じ薬。siziigusui と同じ。

siNzi=juN① (他 =ran, =ti) 信じる。信心する。信仰する。確信する意では元来は用いない。

siNzi=juN① (他 =ran, =ti) 煎じる。煮出す。sizijuN ともいう。

siNzikaʃi① (名) 煎じかす。煮出したかす。

siNzimun① (名) 煎じもの。煎じたもの。

siNziNtu① (副) しとやかにしているさま。静粛に控えているさま。しみじみとの転意か。～ sjoon. 神妙にしている。静かに控えている。

siNziziru① (名) 煎じ汁。煮出した汁。

siNzu① (名) ①先祖。②墓。ʒikazu ともいう。

siNzuuku'nici① (名) 四十九日。死後49日目の法事。sizuukunici と同じ。

siNzi=juN① (他 =ran, =ti) (鼻をかむ。(鼻汁を)ぬぐいとる。hanadai ~. 鼻をかむ。hana ~. ともいう。

siNzi=juN① (自 =ran, =ti) ①ぺしゃんこになる。押しつぶされてひらたくなる。sipiriti neeran. すっかりぺしゃんこになってしまった。②卑下する。小さくなる。

siNzirimunii① (名) 卑下したしゃべりかた。～ sjun.

siNziʒaiganzuumun① (名) 体が弱そうに見える強い者

siNziʒaika'tai① (副) しょんぼりしたさま。しょげているさま。元気のないさま。また、見すばらしいさま。ʔaree kunumeekara ~ sjootaru mun, 'nca sipitati nee-

raN. 彼はこの間から意気沮丧していたが、やっぱりすっかりしょげかえってしまった。

sipitainaci① (名) めそめそ泣くこと。

sipitajaa① (名) 弱虫。弱い者を罵倒している語。

sipita=jun① (自 =raN, =ti) しょんぼりする。元気がなくなる。また、落ちぶれる。

sipizaa① (名) ⊖ペちゃんこのもの。押しつぶれたもの。⊖実のはいていない米・豆など。

sipizaamaami① (名) ペちゃんこの豆。実のはいていない豆。

sipjaaku① (名) 銭400文。8厘にあたる。zin (銭)の項参照。

sipjaakugun'zuu① (名) 銭450文。9厘にあたる。zin (銭)の項参照。

šipuigoojaku① (名) 吸い出し膏薬。

šipu=jun① (他 =raN, =ti) 口にくわえて吸う。(あめ・乳などを)しゃぶる。

sipukaramun① (名) 塩からいもの。

sipukarasan① (形) 塩からい。しょっぱい。šjuuzuusan ともいう。

sipusan① (形) ねばり強い。弾力性が強い。sakusan の対。

sipusipu① (副) じめじめ。着物などが、ぬれて湿っているさま。~ šjun. じめじめしている。

siputaikaa'tai① (副) じめじめ。ぬれて湿っているさま。

siputa=jun① (自 =raN =ti) 湿る。じめじめする。ぬれる。siqtajun の項参照。塩分をもって湿っている場合に多くいうようである。

siputaraŋačisan① (形) 蒸し暑い。

sipuu① (名) 弾力の強いもの。粘り強いもの。折れない枝、かみ切れない肉、ねばり強い人間など。

sipuutu① (副) びっしょり。ぐっしょり。ひどくぬれたさま。

siqci① (名) ⊖費え。むだな出費。散財。

⊖むだ。~ najun. むだになる。

siqciigutu① (名) ⊖金のかかること。出費のかさむこと。⊖むだなこと。徒勞なこと。

siqkaku① (名) ⊖四角。sikaku ともいう。⊖長さの単位。布の約一尺の長さをいう。物差しを用いない時代の計り方。

siqkakuu① (名) 四角いもの。方形のもの。

siqkan① (名) 折檻。子女のしつけとして、体罰を加えること。

siqku① (名) [文] 節供。季節季節にある祭りや祝いの日。正月の miqcanusiku (3日の祝い), nankanusiku (7日の祝い), 3月3日の ŋuzuu, 5月4日の 'ju-qkanuhwii, 5月5日の ŋamagasi, 9月9日の cikuŋuzaki, 11月の tunzii (冬至の祝い)などをいう。

siqkuihaqkui① (副) 激しく泣くさま。慟哭のさま。おいおい。~ šjun.

siqkwa① (名) 動かないように下に敷くもの、またははめこむもの。くさび。建築用のみでなく、車どめとして車輪の下に入れる石、その他、ぐらぐら動かないように下やまわりにはめこむものをいう。

siqkweehaqkwee① (副) siqkuihaqkui と同じ。

siqpa① (名) 強情なこと。しぶといこと。また、強情者。しぶとい者。

siqpaka'agi① (名) しぶとい顔つき。

siqpakaagii① (名) しぶとい顔つきをした者。

siqpa'mun① (名) 強情者。しぶとい者。

siqpii① (副) ペちゃんこ。ペちゃんこ。押しつぶされてひらたくなったさま。また、やつつけられたさま。圧倒されたさま。<šipirijun. ~ nasjun. ペちゃんこにする。~ kwaasjun. ペちゃんこにやつつける。~ najun. ペちゃんこになる。

siQpuku

やつつけられて小さくなる。

siQpuku⑩ (名) [文] 切腹。

siQsii① (名) [摂政] saNsikwan [三司官] の上に立って、政治を行なう最高の役人。王族の中から任命される宰相。総理大臣に当たる。

siQsiQ⑩ (感) 鳥獣を追いはらう時の声。しっしっ。

siQta⑩ (名) [新?] 雪駄。kaasaba (皮草履) ともいう。

siQta⑩ (名) 数久田。《地》参照。

siQtai⑩ (副) ぬれたさま。～ najun. ぬれる。

siQtaidii⑩ (名) ぬれ手。水にぬれた手。～ saani ʔawa ʔikanunnee. ぬれ手で粟をつかむように。

siQtaikaatai⑩ (副) すっかりぬれたさま。びしょぬれ。ずぶぬれ。～ najun. びしょぬれになる。～ sjoon. びしょびしょだ。

siQtaimimi⑩ (名) 中が湿っている耳。そういう耳は遠くならないといわれている。

siQtaizi⑩ (名) ぬれた着物。

siQta=jun⑩ (自 =ran, =ti) ぬれる。布で言えば、siQtajun はしぼれば水の出るほどのぬれ方、siputajun はしぼったあとの程度のぬれ方を、simijun は湿気を感じずる程度をいう。

siraʔakagai① (名) 夜が白むこと。明けがたの薄明。siraʔaki ともいう。

siraʔaki① (名) 夜が白むこと。薄明。siraʔakagai ともいう。ʔjuunu ~ sjoon. 夜が白んでいる。

siraakusjaʔa⑩ (名) 前後左右。周囲。回り。～ nu qcu. 周囲の人。～ ʔjamabike-ei. 回りは山野ばかり。

sirabee⑩ (名) 白なます。顔に白色の斑点ができる皮膚病。

sirabi⑩ (名) 調べ。調査。検査。

sirabi=jun⑩ (他 =ran, =ti) 調べる。調査

する。検査する。

sirabimu⑩ (名) 調べ物。

siracani⑩ (名) [文] [白種子] 稻。元來は稻の品種の名。hubana saciziriba cirihwizin ʔikan, ~ja nabici ʔabusimakura. [穂花咲き出れば 塵ひらもつかぬ 白種子やなびき あぶしまくら] 稻の穂花が咲き出ると塵も泥もつかない。稲はあぜを枕にする豊作。

siraciku⑩ (名) 白菊。siruciku ともいう。

siraga⑩ (名) ⊖しらが糸。すが糸。よりをかけない細い生糸。またそれで織った絹の布。⊖siragawatazinの略。

siragaa⑩ (名) 白髪頭の者。悪口としていう語。

siragagaʔsi⑩ (名) siragaの経糸。細い、よってない生糸の経糸。

siragawataʔzin⑩ (名) 絹のしらが糸で織った、女の、冬の礼服。

siragi⑩ (名) しらが。白髪。

siragiʔiʔburu⑩ (名) 白髪頭。

siragigumi⑩ (名) 白米。精米。

siragi=jun⑩ (他 =ran, =ti) しらげる。

玄米について白くする。精米する。

sirahama⑩ (名) 白浜。白い砂浜。

sirahu⑩ (名) [文] 白帆。ʔucinu ~. 沖の白帆。

sirahwee⑩ (名) 石灰。いしばい。黒糖を固める時などにも用いる。

sirai⑩ (名) 白蟻。

sirakaci⑩ (名) 瀬良垣。《地》参照。

sirakumu⑩ (名) 白雲。

siranaa⑩ (名) 糸車にかけた白いより糸。

siranami⑩ (名) 白波。

sira=nu⑩ (自 =man, =di) (夜明けの空が) 白む。ʔagarinu ~. 東の空が白む。

siraN⑩ (名) しらみ。

siraNgaci⑩ (名) 失敗して頭を掻くこと。

siraN は、しらみ。

siraNhuunaaⓄ (名) 知らぬふり。
 siranQeuⓄ (名) ⊖知らない人。⊖(小児の)人見知り。～sjun. 人見知りする。
 siraqkwaⓄ (名) 生後しばらくして、赤い色がぬけて白くなったころの赤んぼろ。生後半年ぐらいの赤んぼろをいう。
 sirasabe=juNⓄ (自 =ran, =ti) 白っぽくなる。白ちゃける。湯水にながくはいつて、皮膚が白くふやけるのを多くいう。
 siraseeⓄ (名) 川えび。小さいえびで、食用となる。seegwaa ともいう。
 sirasiⓄ (名) ⊖知らせ。報告。⊖前兆。
 sirasibiⓄ (名) [文] 知らせる人。告げ知らせる人。似た語に, kataibi (語り部)がある。ともに文語。'unazarani 'waga takumi ~nu ?atara, ?azitu murutu-muni tamanuuju ciraci. [をなぢやらに我がたくみ しらしべのあたり 按司と諸共に 玉の緒よちらち (忠臣身替)] 按司夫人にわがたくらみを知らせる者があったのか, 按司とともに死んでしまった。
 sirasibuiⓄ (名) 白絞め油。大豆油。上等な食用油である。
 sira=sjunⓄ (他 =san, =ci) 知らせる。通知する。
 sirawareeⓄ (名) 冷笑。しら笑い。
 širicaa=sju`NⓄ (他 =san, =ci) すり消す。もみ消す。
 širičiki=ju`NⓄ (他 =ran, =ti) すりつける。こすりつける。
 siriceeⓄ (名) ⊖知り合い。知人。⊖承知の上。知っていて。～nu ?wii ともいう。～karasjun. 知っていて貸す。
 sirihaciⓄ (名) širuhaci と同じ。
 širihā=zunⓄ (他 =gan, =zi) すりむく。
 sirihuka=sjunⓄ (他 =san, =ci) 熟知する。十分知る。知りつくす。?ucuu sirihukacoošiga šeesa. 内情をよく知っている者がしたのだよ。
 sirihwicimeehwiciⓄ (副) つきまとうさ

ま。身辺をうろろろするさま。～Qsi ?umuinudu ?aeē sani. 身辺をうろろろして, 気があるのかしら。

siriiⓄ (名) 後ろ。後方。裏。'jaanu ~. 家の後ろ。
 širi=juNⓄ (自 =ran, =ti) おそくなる。時節が過ぎる。時間が過ぎる。
 širikiziⓄ (名) すり傷。かすり傷。
 širikooⓄ (副) すり消すさま。あとかたもなくするさま。立ち消えのさま。次の句でいう。～najuN. イ. あとかたもなくなる。ロ. 立ち消えになる。御破算になる。～nasjuN. もみ消す。立ち消えにする。御破算にする。siijanzigutoo muru ~naceeN. 失敗はすべてもみ消してしまつてある。
 širikuciⓄ (名) sirukuci と同じ。
 širinaši=juNⓄ (他 =ran, =ti) なすりつける。
 širinugaa=ju`N (自 =ran, =ti) すりぬける。まぎらわしてのがれる。人になすりつけてのがれる。
 siruⓄ (名) ⊖汁。液体。～tubasjun. 水を切る。水気を切る。～hajun. 汁が出る。また, 腐って汁が出る。～hwijun. 汁が干る。(飯が炊けてきて)水分がなくなる。～najuN. イ. 溶ける。溶けて液体となる。ロ. 無くなる。無になる。無駄になる。miin ~naci 'warajuN. 目がなくなるように目を細めて笑う。'jaajasicin ~natan. 家屋敷もなくなった。siroo naran. 無駄にはならない。⊖汁。おつゆ。おすましやみそ汁。首里では多くは ?usiru という。
 siruⓄ (名) 白。
 siru ① (名, 代(しろ)).かわりとなるもの。代価。または金のかわりとして取る器物など。dusiru は身の代。
 siruⓄ (名) [文] 城。口語は gušiku。
 siru?aciⓄ (名) めじまぐる。?acinu?iju

(まぐろ)の項参照。

siru?atu①(名)[文]城跡。口語は *gušikunu ?atu* という。

sirubi①(名)* 印。標識。

sirubonhon①(名)吸い物などに実が少なく、汁ばかりが多いこと。汁気ばかり。～*nu ?usiru*。汁ばかり多いおつゆ。

sirubusi①(名)白星。勤務の良好な場合などに付ける印。*kurubusi*(黒星)の項参照。

siruciku①(名)*siraciku*と同じ。

sirucoo①(名)[白朝] *coozin*[朝衣]の一種。真白い麻の礼服。*kurucoo*[黒朝]の対。いずれも芭蕉布で作り、もとは朝廷用の衣の意であったが、明治以降、*sirucoo*はもっぱら喪服として用いられるようになった。

sirngweei①(名)色白く太ること。脂肪ぶとり。*kurujoogari*の対。

širuhaci①(名)すりばち。*širihaci*ともいう。那覇では *reehwaa* という。～*nakai kugasi šijuN*。すりばちで米の粉をする。

siruhaimun①(名)汁の出るもの。また、腐って汁の出るもの。

siruhwitazii①(名)㊦飯が炊けてきて水が引くこと。㊦転じて欲などが激しいこと。*'jukunu*～*sjcon*。欲が煮えたぎっている。激しい欲に燃えている。

siru?iihwee①(名)[白位牌]死後四十九日までは、木牌を奉書紙で包み、表に法名を書いておくが、その位牌をいう。四十九日の法事ののちは、普通の位牌に、貴族は金文字で、一般の士族は黄または朱で法名を書きかえる。

siru?iju①(名)魚名。鯛の一種。滋養分に富み、病人用によく用いる。

sirukabi①(名)白紙。白い紙。

sirukani①(名)㊦錫。*šizi*ともいう。

㊦鉛。*namari*の誤用として用いる。

sirukani?uzoo①(名)首里城の門の名。

*?ugušiku*の項参照。

sirukuci①(名)両方。前後または左右などの両方。～*nu ?uzoo*。両方の門。一軒に門が二つある時にいう。

sirukucima'akuci①(名)前後左右。四方。どこもかも。～*ticiäu 'jaru*。どこもかも敵だ。

širukuzi①(名)すりこぎ。那覇その他では *riizi* という。

sirumaami①(名)白豆。白隠元のことか。
sirumi①(名)㊦(卵の)白身。*sirumii*ともいう。㊦(豚の)脂身。

sirumii①(名)*sirumi*と同じ。

sirumii①(名)白目。～*hwiqceerasjun*。まぶたをひっくりかえして白目を出す。

sirunuguri①(名)汁のかす。*guri*はかす・沈澱物。

sirununu①(名)白い布。

siruNna①(名)はまぐり。

siru?quu①(名)白子。白人(しらびと)。

sirusaN①(形)白い。

sirusi①(名)㊦しるし。標識となるもの。～*bikeei*。しるしばかり。ほんのわずか。㊦きざし。前兆。また、神の知らせ。*'jutakanaru mijunu*～*?arawariti, ?amišijunu migumi tucin tagan*。[豊なる御代のしるしあらはれて 雨露の恵時もたがぬ]豊年の前兆があらわれて、雨露の恵みも時をたがえず順調である。㊦感応。祈った心が神仏に通ずること。㊦効験。ききめ。*kusni nudaru*～*nu ?an*。薬を飲んだききめがある。㊦あとかた。

sirusita①(名)白下。白砂糖を製造する途中の製品。

sirutumiituu①(名)薄いかゆ。かゆの汁と実とがわかれわかれになっているもの。

siru?uci①(名)[文]城内。*kuhwina*～*ni tumu cuiN 'uran*。[こへな城内に 供一人もおらぬ(忠臣身替)]これほどの城内にひとりの家来もない。

siruʔugumaⓐ (名) 白胡麻。
siruuⓐ (名) ㊦白いもの。㊦与党。賛成派。
 kuruu (野党。反対派) に対する。とくに
 明治の中ごろの明治政府支持派をいう。
 saNsii ともいう。その項参照。
siruwanⓐ (名) 汁椀。吸い物椀。汁を入れ
 る椀。多くは ʔusiruwan という。
siruwaiaⓐ (名) 魚などの白い腹。～ ʔu-
 qeejuN. 白い腹が裏返える。魚が白い腹
 を上にして死ぬ。
siruzatooⓐ (名) 白砂糖。新語ではない。
 tehwaku ともいう。
siruziⓐ (名) 白地。白地の織物。白地は夏
 に多く用いるが、葬式には夏冬を問わず
 白、お祝いには同じく紺が用いられる。
siruzikiiⓐ (名) 飯に汁をかけたもの。多く
 は ʔusiruzikii という。
sisiⓐ (名) 肉。多くは食肉をいう。niku
 の項参照。
sisiburiiⓐ (名) 身震い。寒さ・恐怖・嫌悪
 などによる身震い。
ʔišiçiⓐ (名) [文] すすき。口語では、すす
 きは gusici, その花 (尾花) は baran と
 いう。nasaki ʔati kakusi nubinu hana-
 ʔišiçi taiga tamanuunu ʔusisa ʔara-
 ba. [なさけあて隠せ 野辺の花すすき
 二人が玉の緒の 借しさあらば(汀間節)]
 情をもって隠してくれ野辺の花すすきよ、
 ふたりの命を借しく思うならば。(汀間と
 安部の境の海辺で神谷という役人が丸目カ
 ナという恋人と会った時よんだ歌)
ʔišidamaⓐ (名) ㊦ʔišidamagii と同じ。
 ㊦ʔišidamagii の実。じゅずだま。子供が
 糸に通し、または、竹の管で吹き上げて遊
 ぶ。また、夏まけの薬として煎じて飲む。
ʔišidamagiiⓐ (名) 植物名。じゅずだま。
sisiʔiriciⓐ (名) 料理名。豚肉に野菜を入
 れ、すきやきのように料理したもの。牛肉
 の場合には ʔusinu ~ という。

sisiikutubaⓐ (名) 丁寧なことば。敬語。
sisi=juNⓐ (他 =raN, =ti) 念入りにする。
 丁寧にする。(ことば使い・道具の扱い・
 髪の手入れなどを) 丁寧にする。sisiti
 'juutooN. 丁寧に髪を結っている。sisiti
 kacuN. 丁寧に書く。sisiree. 丁寧にし
 る。sisiti ʔee. ともいう。
ʔiši=juNⓐ (他 =raN, =ti) すする。
ʔišikaa=sjuʔNⓐ (他 =saN, =zi) ㊦(子供を)
 あやす。'warabi ~. 子供をあやす。㊦
 (人の気を) 他にそらす。
sisika=juNⓐ (他 =aN, =li) ㊦邪魔する。干
 渉する。sisikati turasa. 邪魔してやろ
 う。sisikaaqti tuuraran. 邪魔されて通
 れない。㊦(事件が)かち合う。
sisikeehanakeeⓐ (副) ㊦はたから何かと
 邪魔するさま。次々と干渉するさま。～
 sarijuN. 次次に邪魔される。㊦事がかち
 合うさま。
sisikee=juNⓐ (他 =raN, =ti) sisikajuN
 と同じ。
sisikweebooziⓐ (名) なまぐさ坊主。
ʔišimi=juNⓐ (他 =raN, =ti) ㊦励ます。奮
 起させる。㊦勧める。奨励する。qeuNi
 ʔišimiraqti ʔunu kusui nudan. 人に
 すすめられてその薬を飲んだ。
sisi:mucinaiⓐ (名) 肉付き。～nu ʔjuta-
 sjan. 肉付きがよい。
ʔiši=nuNⓐ (自 =maN, =i) ㊦励む。進んで
 する。歩いて前進することは meen'kai
 ʔaqcuN などという。㊦促進される。進
 む。sjukunu ~. 食欲が進む。
sisitiNpuraⓐ (名) 料理名。肉(主として豚
 肉) のてんぷら。
ʔiši=zuNⓐ (他 =gaN, =zi) [文]すすぐ。ゆ
 すぐ。口語では ʔjuʔizuN という。kuci ~.
 口をすすぐ。
sisiʔuuʔiiⓐ (名) 肉を入れて味をつけて炊
 いた飯。肉入り御飯。
sisjooⓐ (名) 師匠。先生。もっばら学問上

の先生をいう。

sisuku④ (名) 瀬底島。沖縄本島本部半島西方にある小島。またその部落名。瀬底。《地》参照。

sisuN① (名) [文] 子孫。普通は Qkwa?N-maga という。

sitagaci④ (名) sicagaci と同じ。

sitaga=juN① (自 =aN, =raN, =ti) 従う。服従する。

sitahwaku④ (名) 志多伯。《地》参照。

sitai① (感) でかした。よくやった。したり。うまくやった者に対し、あるいは自分の気に入ったことについて発する語。sitari ともいう。その項参照。目上に対しては sitai sai という。

sitaku④ (名) ①支度。用意。②身支度。着物を着て装うこと。③綱引きの時、綱の上に乗る、扮装した人物。たいていは組踊りの人物に扮装する。

șitanasan④ (形) きたない。不潔である。citanasan また hagoosan ともいう。șitanasii mun. きたないもの。

șitaneeku⁷tu④ (名) 困ったこと。もてあますようなこと。

șitaneemu⁷N④ (名) 困ったもの。もてあましたもの。扱いにくいもの。

sitaraku④ (名) ざま。悪いようす。みじめな装い。ていたらく。'janasitaraku. みじめなようす。kunu sitarakoo nuuga. このざまは何だ。

sitari① (感) ①ざま見ろ。ほらやった。失敗した者などに対して、ののしる意を含んで発する語。②したり。でかした。よくやった。sitai と同じように使う。

șitari=juN④ (自 =raN, =ti) すたれる。

șitarimuN④ (名) すたれもの。廃物。

sitataka④ (名・副・連体) したたか。ひどく。はなはだ。非常に。~na 'janaa. ひどく悪い者。~ni 'wiitooN. したたか酔っている。~ suguraqtan. ひどくな

ぐられた。~ 'nditan. ひどくぬれた。

~ 'janakaagii. はなはだ容貌の醜い人。
sitati=juN④ (他 =raN, =ti) ①特別に作る。仕立てる。仕立て上げる。家・着物・位牌など金のかかるものを作る。'jaa ~. 家を作る。②飼育する。nui?Nma ~. 乗馬を飼う。③栽培する。hanagi ~. 花を栽培する。

sitazita④ (名) しもじも。下層階級。

siti④ (名) やりて。働き者。

șitigara④ (名) 捨てたもの。捨てたかす。~ sjun. 粗末にして捨てる。?aqtarumun ~ qsi. そんな大事なものを捨ててしまつて。

șithoorii④ (名) 捨て散らかすこと。捨ててかえりみないこと。ほつたらかすこと。~ saqtoon. ほつたらかされている。

șiti=juN④ (他 =raN, =ti) 捨てる。

șitimaku④④ (名) 腕白者。乱暴者。不良。多くは子供についていう。maku の項参照。

șitimuN④④ (名) ①捨ててあるもの。②投げ物。捨て値の品。③乱暴者。しょうのない腕白者。

șiti?ui④ (名) 捨て売り。投げ売り。

situ④ (名) 夫の親。しゅうと、しゅうとめの両方をいうが、多くの場合は姑をさす。特に区別しては舅は 'wikigasitu, 姑は 'winagusitu という。また小姑すなわち夫の姉妹は 'unaisitu という。

situbiree④ (名) 姑とのつきあい。姑への接しかた。

siwa④ (名) 心配。世話の転意。~ sjun. 心配する。

siwaasi④ (名) 師走。(旧暦の)十二月。

siwaasi?acinee④ (名) 師走の商売。

siwaasi?icunasa④ (名) 師走の忙しさ。

siwaasikooimuN④ (名) 師走の買物。正月用の買物。

siwaasimaci④ (名) 師走の市。師走に立つ

市。～nu gutoon. 師走の市のようだ。
混雑するさまをいう。

siwaasizikeeⓄ (名) 師走の費用。師走に使う金。

siwagutuⓄ (名) 心配事。

siwasjaaⓄ (名) 心配性の者。苦勞性の者。心配の絶えない者。

siwazaⓄ (名) しわざ。所業。行為。

sizaⓄ (名) [文] 人。人間。天界の神に対して下界の人を、また冥土の人に対して現世の人をいう。kasiraginu ʔaşıga ~nu kami naran. [頭毛のあすが しぢやの髪ならぬ (銘荊子)] 髪の毛があるが、常の人の髪ではない。

sizakiⓄ (名) [古] 侍女。貴族の娘の侍女で、その娘が嫁に行く時は、婚家へ一緒について行く。普通は ʔusizaki という。

sizamaⓄ (名) さま。したありさま。ざま。よろす。態度。多くは悪い、あるいはみじめな場合にいう。～nu 'waqsan. する態度が悪い。makutu gusjo ʔaraba ʔicati katati kwiri, ʔasaju naciʔakasu ʔujanu ~. [まこと後生あらば 行逢て語て呉れ 朝夕なきあかす 親のしざま] 本当にあの世があるならば、会って話してくれ、朝夕泣き明かしている親のありさまを。

sizeeraka=sjunⓄ (他 =san, =ci) 散らかす。とり散らす。

sizeeri=junⓄ (自 =ran, =ti) 散らかる。散り乱れる。

siziⓄ (名) ㊦筋。血筋。血統。～nu ʔicuku. 父親同志が兄弟であるいとこ。㊦筋。条理。～nu tuuran. 筋が通らない。㊦筋。繊維。線。～ hwicun. すじを引く。線を引く。㊦(接尾) 繊維など、非常に細いものを数える時の接尾辞。筋。cuşizi (一筋)、taşizi (二筋) など。

siziⓄ (名) 神。また神の靈力。神靈。人についた靈力は sii という。

siziⓄ (名) 杉。

şiziⓄ (名) 錫。sirukani ともいう。

şizibinⓄ (名) 酒を入れ、儀式などで用いるための、錫のびん。一対で用いるので、ʔiŋşizibin ともいう。

siziciⓄ (名) 油皿。燈油を入れ、燈心を用いて火を点ずるための小皿。

şizi=cunⓄ (自 =kan, =ci) 後へすする。退く。のく。

şizidakasanⓄ (形) 神々しい。神の靈力が高い。聖地などについていう。人については siidakasan という。

şiziʔitaⓄ (名) 杉板。

siziigusuiⓄ (名) 煎じ薬。sizirigusui, sinzigusui, sinjaku ともいう。

sizihwira=sjuʔnⓄ (他 =san, =ci) 煎じつめる。煎じて汁をなくする。煎じ減らす意。

sizi=junⓄ (名 =ran, =ti) 煎じる。sinzi-jun ともいう。

şizi=junⓄ (自 =ran, =ti) ㊦過ぎる。度が過ぎる。şizitoosa. 度が過ぎていよ。時が過ぎることは口語では şirijun という。㊦(接尾) …し過ぎる。ʔiışizijun (言い過ぎる), kamişizijun (食べ過ぎる) など。

şizikaⓄ (名) 静か。～na tukuru. 静かな所。～ narisumiri çinini miga kukuru, nami tatan mişidu kazija ʔuçiru. [静なりそめれ 常に身が心 波立たぬ水ど 影やうつる] いつも自分の心を静かに澄ませよ、波立たぬ水にこそ影は映るのだから。～ ʔjan. 静かだ。

şizimutiⓄ (名) 同族。同じ血筋を引く家。

şizi=nuNⓄ (自 =man, =di) 沈む。水中に沈む。また、気分が沈む。めいる。cibunnu sizidi. 気分がめいって。

siziNⓄ (副) 自然。おのずから。また、当然。siziNni ともいう。～ ʔan najun. 自然にそなる。

siziNniⓄ (副) 自然に。おのずから。当然。

siziraka=sjuNⓂ (他 =saN, =ci) (人・物を)どける。退ける。のける。

siziraka=juNⓂ (他 =saN, =ci) (皮膚を, または人を)やけどさせる。

šiziraraNⓂ (自) たえられない。我慢できない。<šizijuN (過ぎる)。ʔizinu ~. 腹が立って我慢できない。'jaa 'jaa ʔamari miži husjanu ~ ʔamunu, 'Nzoju ʔunasakini numaei tabori. [やあやあ 余り水欲しやの すぎらぬあもの 無蔵よ御情に 呑まち賜れ(手水之縁)] もしもし, 余り水が欲しくて我慢できないので, どうぞ飲ませて下さい。'jaa ciciʔujaju 'ugamibusja ʔuracirasja ʔamari ~, hwahwaʔujatu hutai ʔinuci ʔumihamati siran 'jamagunini tazunijai ʔuriti cuu 'ugamu kutuja 'jumiga 'jajabiira. [やあ父親よ 拝みほしやうらきらしや あまり過ぎらぬ 母親と二人 命思はまて 知らぬ山国に 尋ねやりおりて 今日拝むことや 夢がややべいら(花売之縁) ねえおとうさん, お目にかかりたいのと, 悲しいのとなたえられず, 母と二人で命をかけて知らぬ山国に尋ねて都から下って来て, きょうお目にかかれたのは夢でございましょうか。

šiziriⓂ (名) 硯。

šiziribakuⓂ (名) 硯箱。

šiziributaⓂ (名) 硯蓋。口取りの肴などを入れる, 漆器の四角い器。また, その中に入れた料理。

sizirigusuiⓂ (名) siziigusui と同じ。

siziri=juNⓂ (自 =raN, =ti) やけどする。やけどして, 皮膚がただれる。

sizisaNⓂ (形) [文] しげし。頻繁である。'jusunu minu sizisa, ʔisuzi mudura. [与所の目の繁さ 急ぎ戻ら(手水之縁)] 人の目が多いから, 急いで帰ろう。

sizuciⓂ (名) しとぎ。米の粉で作った長卵形の餅。祭祀用。

sizukuⓂ (名) [新] 士族。普通は samuree または 'jukaqcu という。

sizumi=juNⓂ (他 =raN, =ti) 片付ける。整頓する。sizumirarijuN doo. 片付けられるぞ。やっつけてしまうぞ。けんかの相手にいうことば。

sizumi'kaciⓂ (名) 整頓。整理。散らかった道具類などを片付けること。

sizuuⓂ (名) 四十。また, 四十歳。

sizuuku'niciⓂ (名) 四十九日。死後49日に行なう法事。nananan'ka ともいう。

sizuumuduruciⓂ (名) 四十くらがり。四十歳になると, 体力・眼力が衰えることをいう。

sjaakaganasiⓂ (名) [釈迦加那志] お釈迦様。

sjaakamuNdoⓂ (名) 灌仏会(かんぶつえ)。4月8日の花祭り。

-sjaaku (接尾) sjaku (勺) の項参照。

sjadaNmeeciⓂ (名) 社壇参り。社壇は首里の郊外, 末吉村の入り口にある社の名。

sjadaNnuʔutuuʔNmiiⓂ (名) 鼻の低い女に対する悪口。おたふく。おかめ。社壇の宮の柱に丸顔で鼻の低いおたふくの女の顔だけの像があり, その女(ʔutuu はその名)よりさらに鼻が低いものの意である。

sjakuⓂ (名) 量。また, ほど。程度。…ほどの量。また, 適度な量。適度な程度。canu ʔataee 'iisjakuga. どのくらいがいい量か。ʔuqsa qsi 'iisjaku. そのくらいがいい量だ。mizinu sjakoo caaga. 水加減はどうだ。~N neen numikata qsi, 'wilhuritoosa. 限度のない飲み方をして酔いしれている。nuu 'jatin ~nu ʔan. 何でも程度がある。

sjakuⓂ (名) ⊖勺。一台の十分の一。⊖(接尾)-sjaaku ともなる。ʔiqsjaku (一勺), nisjaaku または nisjaku (二勺), sanzaku (三勺), sisjaaku または sisjaku (四勺), gusjaaku または gusjaku (五

- 勺), rukusjaku (六勺) など。
- sjaku**① (名) ①尺。一寸の十倍。②(接尾)尺。ʔiqsjaku (一尺), nisjaku (二尺), gusjaku (五尺) など。-sjaaku とはならない。
- sjaku**① (名) 酌。～ see. 酌をしろ。
- sjaku**① (名) 癩癩。癩。～nu ʔugurijun. 癩癩がおきる。
- sjakumuci**① (名) 癩癩もち。
- sjaNnin**① (名) saNnin (月桃) と同じ。
- sjaNpin**① (名) [香片] 支那茶の名。
- sjasin**① (名) 写真。
- sjo**① (名) 性。性根。根性。思慮。知恵。～ ʔiqcoon. 賢い。しっかりしている。～nu neen. 思慮がない。また小児などが賢くない。物覚えが悪い。
- sjooba**① (名) ①相伴。陪食。②婚礼の mukuʔiri (婿が嫁の家を訪問する儀礼) に際して、嫁の家で婿を接待する役。婿は付添い役 (mukuziri) とふたりで来るので、嫁の家では sjooba がふたり出る。その若い方が婿の、相当の年輩の者が mukuziri の相手役となる。
- sjoobee**① (名) 粗製品。商売の転意。ʔjama-tu ~ too ʔačiree. 日本品は粗末で、中国品はあつらえもののように上等。
- sjoobu**① (名) 菖蒲。ʔamagasi (5月5日端午の節供に祖神にささげる飲物) には菖蒲の葉を切って箸のかわりにする。
- sjoobun**① (名) 性分。性質。
- sjooburimun**① (名) 気狂い。狂人。
- sjooci**① (名) 正気。たしかな心。～ ʔusinajun. 正気を失う。精神が錯乱する。
- sjoodukuru**① (名) 急所。nucidukuru, čibudukuru ともいう。
- sjoogaa**① (名) 植物名。しょうが。
- sjoogaasirii**① (名) しょうがをすりおろしたもの。
- sjoogaku**① (名) 小学(書名)。三字経とともに、昔の初等教科書。
- sjoogu**① (名) 鉦。綱引きの時、また念仏宗の乞食が、たたく小さい鉦。鉦鼓の転意。
- sjooguniʔnu**① (名) 綱引きの時、鉦太鼓をならず一団。15, 6歳から20歳ぐらいまでの青少年で組織され、白鉢巻をして、はかまのももだちを高くとり、掛け声とともに鉦・太鼓をたたく。
- sjoogurusi**① (名) ほんとに殺すこと。kurusun (殺す) はなぐる意にも用いられるので、この語がある。～ sjun.
- sjooguʔuci**① (名) 鉦鼓打ち。綱引きの時、鉦鼓を打つ者。sjooguninʔu (その頂参照) の中心人物として、他の太鼓打ちの拍子の中心となる。
- sjoogwači**① (名) 正月。一月。
- sjoogwačimaci**① (名) 正月市。正月に立つ市。
- sjoogwačiNnaara**① (副) 正月早早。よくないことにいう。～ ʔoojun. 正月早早けんかする。
- sjoogwačiʔwaa**① (名) 正月用に屠る豚。
- sjoogwačiwaree**① (名) 正月笑い。正月の浮き浮きした気分。
- sjoogwačizi**① (名) 正月の晴れ着。
- sjoohunnu**① (名・連体) 本当の。事実の。～ kutu. 本当のこと。～ ʔjami. 本当か。
- sjooʔiraa**① (名) 利口者。性根のしっかりした者。賢い者。sjooʔirimun ともいう。
- sjooʔirimun**① (名) sjooʔiraa と同じ。
- sjoojuu**① (名) 醤油。
- sjoojuuduqkui**① (名) 醤油を入れるとっくり。
- sjoojuuja**① (名) 醤油屋。醤油をつくる家。
- sjookani**① (名) 性根。本性。～nu handijun. もうろくする。また、性根をなくする。ぼける。kanihandijun ともいう。
- sjookan**① (名) 病名。傷寒の意。熱病のたぐいをいう。

sjookutu

- sjookutu**① (名) 本当の事。
sjoomaa② (名) 斜視の者。やぶにらみの者。
sjoomi③ (名) ⊖横目。流し目。～ sjun.
 ⊖斜視。やぶにらみ。
sjoomuN④ (名) ⊖本物。⊖大事な物。重宝な物。
sjoonaa⑤ (名) 本名。実名。
sjooniN⑥ (名) 十二支の上での生まれた年。生まれてから12年ごとにめぐってくる年。ʔNmaridusi ともいう。貴族のそれは敬って gusjooniN という。その項参照。
sjoonoo⑦ (名) 樟脳。
sjoonugaa⑧ (名) あわて者。落ち着きのない者。性の抜けた者の意。
sjoonugi=jun⑨ (自 =raN, =ti) うろたえさわぐ。あわてふためく。肝をつぶす。
sjoonGwa⑩ (名) 実子。実の子。生みの子。
sjoon⑪ **tataN**⑫ (句) 効果がない。かいたがない。しょうがない。nuu simitiN ~. 何をさせてもやらせがない。
sjooraasjan⑬ (形) 賢い。しっかりしている。聡明である。
sjoorooʔN`ma⑭ (名) がまきりの一種。細長く褐色。盆祭りに祖先の霊が乗って来ると言い伝えられている。敬って ʔusjooroo-ʔNma ともいう。
sjoosiçi⑮ (名) 性質。生まれつきの性質をいう。ʔNmarigiçi, ʔNmarisjoosiçi, sii-çiçi ともいう。
sjoosiçigwaçi⑯ (名) 正月と七月。ともに一年中でもっとも行事の多い大事な月。
sjoosjootu⑰ (名) [新] 事実。本当。実際。～ 'jami. 本当か。～nu kutu. 本当のこと。
sjootamasi⑱ (名) [性魂] 精魂。精神。
sjooʔuja⑲ (名) 実の親。本当の親。
sjooʔumiinici⑳ (名) 月を同じくする、年一回の御命日。
sjoozici㉑ (名) 正直。～na muN. 正直な

- 者。～ni sjun. 正直にする。
sjoози=jun㉒ (自 =raN, =ti) ⊖生じる。発生する。起こる。namanu 'jununakaa caaru kutunu sjoozijura 'wakaran. 今の世の中はどんな事が起きるかわからない。⊖将来伸びる。将来性がある。kuree sjoozijuru 'warabi doo. これは将来性のある子供だよ。
sjoozimajaa㉓ (名) sjoozimujaa と同じ。
sjoozimujaa㉔ (名) いもり。油沼にすむ両棲動物。sjoozimajaa ともいう。
sjoozinaa㉕ (名) sjoозиN (一厘銭) と同じ。
sjoозиN㉖ (名) 精進料理。
sjoозиN㉗ (名) 昔の鉄銭 (kurukanii) に対して、普通の一厘銭をいう。正銭の意。sjoozinaa ともいう。
sjoozoo㉘ (名) 猩猩。酒好きとされている想像上の動物。
sjoozuku㉙ (名) 装束。一式の着物を着ること。～ simijun. 装束をさせる。sugarasjun ともいう。
-sju (接尾) 升。一合の十倍。ʔiqsju (一升), nisju (二升), sanzu (三升) など。
sjubi㉚ (名) ⊖首尾。結末。顛末。caaru ~ nataga. どんなてんまつになったか。⊖首尾。完成。でき上がること。～ natan. すっかりでき上がった。
sjubiʔuiwee㉛ (名) [首尾御祝] 落成祝い。完工祝い。sjubijuuwee ともいう。
sjudée㉜ (名) [酒代] お祝いや法要に招かれた場合、差し出す金一封。普通は ʔusjudée という。包み紙の表に「御酒代」と書く。お祝いの場合には sjugami をのしのように張りつけ、法要の場合(香典にあたる)にはつけないでそのまま出す。
sjugami㉝ (名) [朱紙] お祝いの時、聯 (reN) を書いたり、祝意の進物に張りつけたりする赤い紙。紙質は唐紙で、表を赤く染めてある。

- sjugu**⑩ (名) [守護] 大切にしまっておくこと。大事に保存すること。秘蔵。kakuguともいう。～ sjun.
- sjui**⑩ (名) 首里。sjuigatanu samuree. 首里の士族。
- sjuibaru**⑩ (名) 首里周辺の畑。よく手入れがゆきとどいた畑として知られていた。
- sjuiganasime³dei**⑩ (名) [文] [首里加那志美公事] 首里王府への御奉公。sjunzanasimedeiともいう。
- sjuihuuzi**⑩ (名) 首里の風俗。
- sjuikutuba**⑩ (名) 首里方言。
- sjuimi³hwira**⑩ (名) [首里三平等] 首里の昔の行政区画。三つに分かれそれぞれをmaazinuhwira (真和志之平等), hweenuhwira (南風之平等), nisinuhwira (西之平等)という。
- sjuimituNci**⑩ (名) [首里三殿内] 首里三平等 (sjuimihwira) にそれぞれ一つずつあった神の宮。三人の³Yamusirareのいる所。南風之平等 (hweenuhwira) に³sjun³nci [首里殿内], 西之平等 (nisi-nuhwira) に³ziibu³nci [儀保殿内], 真和志之平等 (maazinuhwira) に³maka³nci [真壁殿内]があった。
- sjuiNcu**⑩ (名) 首里人。
- sjuitiNganasi**⑩ (名) [文] [首里天加那志] 国王の敬称。首里の国王様。
- sjui³we³eguni**⑩ (名) [首里親国] 首里の敬称。首里以外のいなか, 山原などから, 首里を敬っていった語。
- sjuja**⑩ (名) [文] 塩屋。製塩小屋。口語は³sjuuja または ³sjuujaa. ³juin³ ³yaka³ci³n narisi ³umukazinu tatan³ hwi³ja nesami ~nu cimuri. [宵も暁も 馴れし 佛の 立たぬ日やないさめ 塩屋の煙 (花売之縁)] 宵にも暁にも夫の面影が塩屋の煙のように立たない日はない。
- sjuja**⑩ (名) 塩屋。《地》参照。
- sjukita**⑩ (名) 諸喜田。《地》参照。
- sjuku**⑩ (名) 魚名。琉球沿岸に産する小魚。塩辛にして食べる。
- sjuku**⑩ (名) 机。
- sjukubun**⑩ (名) 職分。務めとしてすべきこと。
- sjukuduui**⑩ (名) 街道。国道。公道。sjukumiciともいう。首里を中心として, 首里から, 島尻方面へ三本, 中頭・国頭方面へ二本あった。
- sjukugarasju**⑩ (名) sjuku (小魚の名)の塩辛。
- sjukujuku**⑩ (名) [文] 食欲。食物への欲。munnujukuともいう。病後などの食欲は, sakadaciという。
- sjukumici**⑩ (名) [宿道] sjukuduuiと同じ。
- sjukusjoo**⑩ (名) 食あたり。食傷。
- sjukwee=sjun**⑩ (自 =saN, =ci) sju³qkweesjunと同じ。
- sjumi**⑩ (名) 諸見。《地》参照。
- sjumoo**⑩ (名) [文] 所望。～ sjun.
- sjumu³ci**⑩ (名) 本。書物。～ ³jun. 本を読む。
- sjumu³çibaku**⑩ (名) ⊖本箱。⊖本ばかり読んでいる者をあざけていう語。書物の虫。sjumu³çikweemusiともいう。
- sjumu³çida³ŋsi**⑩ (名) 本棚。
- sjumu³çikweemusi**⑩ (名) ⊖書物を食らう虫。sjumu³çimusiと同じ。⊖書物ばかり読んでいる者。
- sjumu³çimacija**⑩ (名) 本屋。書店。
- sjumu³çimusi**⑩ (名) 書物を食い荒らす虫。
- sjumu³çinukaa**⑩ (名) 本の表紙。
- sjuniN**⑩ (名) 諸人の意。もろもろの人。万人。～ ³ooreenu mici. 万人が通る道。
- sjuniN³moo³ŋa³ŋibi**⑩ (名) [諸人毛遊] 他村の者が大勢集まって行なり moo³ŋa³ŋibi。
- sjunooza**⑩ (名) [古] [取納座] 租税に関する事務を取り扱う役所。首里にあった。
- sjunui**⑩ (名) 朱塗り。

sjunumee

sjunumee①(名) [主の前] だんな様。士族の成人男子に対して平民が用いる敬称。また、士族の妻は平民に対して自分の夫のことを sjunumee という。

sjun①(他・不規則) ①する。'jamatuguci ~. 日本語を話す。hincooja siibusikoo neenktu san. 勉強はしたくないからしない。sijjuusjun. できる。なしうる。②(強意の補助動詞として) 'jumiđu sjuru. 読むのだ。?aee sani. ありはしないか。--sjun (接尾 =san, =ci) せる。させる。使役を表わし、動詞の「未然形」に付く。ただし、sjun (する) の使役形は simijun となり、また「サ行」の動詞の使役形は -simijun を付して作る、その項参照。kakasjun (書かせる), turasjun (取らせる) など。

sjunbuN①(名) 春分。二十四節の一つ。秋分とともに彼岸祭り('Ncabi)を行なう。

sjunCiku①(名) 野菜の名。春菊。

sjundo①(名) [醜童] 踊りの名。醜女踊り。

sjundunuci①(名) [首里殿内] 首里の赤田にあった神の宮。sjuimituNci [首里三殿内] の一つ。

sjunduNci①(名) sjundunuci と同じ。

sjunkaN①(名) [笋簍] 筍干。磁器の小さいどんぶり。中国風で上等な焼物である。

sjunsi①(名) [筍子] 干したけのこ。たけのこの干したも。中国産。

sjunsooro①(名) できもしない事をやろうとすること。また、する意志のないのに、すると言うこと。また、できもしない事を、するふりをする。?aree ~du 'jaru. あれはできもしないのにやっているんだ。あれはやるふりだけだ。~ sjun.

sjunza①(名) 潮平。《地》参照。

sjunzanasi①(名) [首里加那志] 国王の敬称。普通は ?usjuganasimee という。

sjunzanasime'dei①(名) sjuiganasime-

dei と同じ。

sjuQkwee=sjun①(自 =san, =ci) ①困る。duucuimunoo miisicihanasicinu basju ~. ひとり者は病気の時困る。②ばつの悪い思いをする。引込みのつかない恥ずかしい思いをする。sjukweesjun と同じ。

sjuQsii①(名) [文] [出精] 精出すこと。努め励むこと。~ sjun.

sjura①(名) [文] 恋人。男から女をさしても、また女から男をさしても用いる。~gakusjuraNdi 'janba saci ?ucan, sudija tanigawanu sukuni hwitaci. [しほらが越しゆらんで 山葉さち置きやん 袖や谷川の 底にひたち] 恋しい人が越えて行くだろうと思って道しるべを差しておいた。袖は谷川の水底にぬらしながら。

sjurasjan①(形) [文] sjuuraasjan の文語。kuinu sjurasja. 声の愛らしさ。

sjuru①(名) 植物名。棕櫚(しゅろ)。

sjuruciku①(名) 植物名。棕櫚竹。

sjuručina①(名) 棕櫚繩。

sjurugaa①(名) 棕櫚の皮。その繊維で帯・繩・蓑などを作る。

sjusitaree①(名) [文] 他人の父の尊称か。または、役人の尊称か。sjuusitarimee の項参照。

sjuu①(名) ①うしお。海水。潮。~ kunun. 潮を汲む。②[文] 塩。口語では普通 maasju という。

sjuu①(名) 父。おとうさん。平民の父をいう。平民の父の名称および呼称。

sjuu①(名) 趣。おもむき。~N neen. おもむきがない。面白味がない。

sjuubu①(名) 勝負。競争。

sjuubuN①(名) 秋分。二十四節の一つ。春分とともに彼岸祭り('Ncabi)を行なう。

sjuubuQtee①(名) 皮膚病の一種。虫にさされるなどして、皮膚に小さな腫れができるもので、かゆい。

sjuubuta①(名) 豚肉の塩漬け。

sjuuciⓄ (名) ㊦塩気。㊦酒のつまみ。
sjuucikiⓄ (名) 塩漬け。肉の塩漬けをい
 ちう。
sjuuhuⓄ (名) 家屋などの修理。修補。
sjuujaⓄ (名) 塩屋。塩たき小屋。sjuujaa
 ともいう。文語は sjuja。
sjuujaaⓄ (名) sjuuja と同じ。
sjuukaawataiⓄ (名) 海を渡って他郷で死
 ぬこと。sjuukaa (潮川) は海のこと。
sjuukanⓄ (名) 小寒。二十四節の一つ。
sjuukarigwiiⓄ (名) 塩から声。しわがれ
 声。
sjuukooⓄ (名) [焼香] 法事。回忌ごとに
 行なう法事。十三年忌までを、普通、ʔu-
 sjuukoo といい、二十五年忌、三十三年
 忌は、ʔubuɕizi, または ʔuhuʔusjuukoo
 という。また、一周忌 ('inui), 三年忌
 (saNniNci) は 'wakaʔusjuukoo とい
 う。ʔusjuukoo には、白地の喪服を着て
 祭りを行なうが、ʔubuɕizi には紺地の着
 物を用いる。
sjuukuⓄ (名) 証拠。
sjuukumiⓄ (名) [文] 潮汲み。製塩のため
 海水を汲むこと。
sjuumaNⓄ (名) 小満。二十四節の一つ。
 芒種 (boosjuu) とともに、沖繩で雨の多
 い季節。
sjuumaNboosjuuⓄ (名) 小満芒種。沖繩
 で梅雨期にあたる季節。～nu ʔaminu
 huicizicuNnee. 小満芒種の雨が降り続
 くように。絶え間のないさま。
sjuumeeⓄ (名) [新] 旦那。日本本土から
 来た商人を呼んでいった。役人や巡査は
 daNna と呼ばれた。
sjuumecgwaaⓄ (名) [新] 日本本土の商人
 の若旦那。
sjuumiziⓄ (名) 塩水。塩を加えた水。
sjuumuNⓄ (名) 証文。
sjuuniiⓄ (名) 塩煮。魚などを塩味だけで
 煮ること。

sjuunuhanaⓄ (名) 塩花。不幸のあった
 家、または葬式から帰った場合などに、は
 らい清めるためにまく塩。
sjuuraasjanⓄ (形) しおらしい。かわい
 らしい。愛らしい。
sjuusiNⓄ (名) 惚れること。恋慕。「執心」
 に対応する。～sjuon. 惚れている。
sjuusiʔarimeeⓄ (名) [文] 他人の父の尊
 称か。または、役人の尊称か。sjuu は父、
 sitari は ʔansitari などの -sitari と同
 じく敬意の接尾辞か。-mee は敬意の接尾
 辞。zitudee ～ʔutuicizi sjabira, ʔa-
 manjunu sinugu ʔujurusimisjoori.
 [地頭代主したり前 お取次しやべら あ
 まん世のしのぐ 御許しめしやうれ (恩納
 なべの歌)] 地頭代様、恐れながら申し上げ
 ます。昔の時代の sinugu (男女でする
 踊り) をお許し下さいませ。
sjuutacaaⓄ (名) [文] 潮をたく人。口語で
 は maasjutacaa という。
sjuutaciⓄ (名) [文] 潮たき。製塩。また、
 潮をたく人。製塩する人。
sjuuteeⓄ (名) 所帯。世帯。
sjuuteeʔarasanⓄ (形) 所帯持ちが悪い。
 家計が荒れている。sjuuteekumasaN の
 対。
sjuuteedooguⓄ (名) 所帯道具。
sjuuteekumasaNⓄ (形) 所帯持ちがいい。
 つつましく暮らしている。
sjuuteemuciⓄ (名) 所帯持ち。一家を構え
 ている者。
sjuuteewakaiⓄ (名) 一軒の家に暮らしな
 がら、所帯を別にすること。別所帯。次三
 男が結婚しながら、同じ家の中で所帯を別
 にする場合などをいう。
sjuutukuⓄ (名) 得。利益。益。金銭の利
 益は mooki という。～N neen hanasi.
 益もない話。つまらない話。
sjuuwataiⓄ (名) 海中の歩いて渡る箇所。
 入江などで海中を歩いて通れる所。

sjuuziⓐ (名) 小路。露地。横丁。
sjuuziⓑ (名) 祝儀。祝宴。お祝いの宴。
sjuuuzisiⓐ (名) 塩漬けの肉。主として豚肉の塩漬け。単に **sjuuuziki** ともいう。
sjuuuzizaaⓐ (名) 祝宴の座。祝賀の席。
sjuuuzuguciⓐ (名) 塩からい味。また、塩からい味を好む者。から口。
sjuuuzumuNⓐ (名) 塩からいもの。
sjuuuzusanⓐ (形) 塩からい。しょっぱい。**sipukarasan** ともいう。
sjuzasju`kuraⓐ (名) [文] [諸座諸倉] すべての役所。諸官庁。すべての **zaa** (役人のいるところ) と **kura** (倉庫)。
sjuzinⓐ (名) [文] 主人。主君。
sjuzooⓐ (名) 歓楽。享楽。娯楽。楽しみ。**cuuja`iisjuzoo sjan.** きょうはいい楽しみをした。
sjuzooninⓐ (名) 粹人。通人。風流人。
sjuzunⓐ (名) ⊖所存。考え。~**daki`fici`NNDi.** 考えのほどを言ってみろ。⊖好意。親切。所存の転意。**qecunu ~ toosjuru munoo`?araN.** 人の好意を無にするものではない。
sjuzunsideeⓐ (名) 所存次第。考えのまま。ころざし。寄付を求める場合などにいう。~ **'jutasjasa.** ころざしで結構だ。
songaciⓐ (名) 袖垣。**cinibu** (篠竹を密に編んだもの) で作られているので、単に **cinibu** ともいう。
sooⓐ (名) ⊖さお。⊖陰茎。
soobaⓐ (名) 相場。市価。
soodanⓐ (名) ⊖相談。⊖意見をすること。訓戒。~ **sjun.** 訓戒する。
soodooⓐ (名) ⊖騒動。大勢の人が騒ぐこと。取り込みなどがあること。⊖けんか。
soohooⓐ (名) 双方。両方。~ **gaqtin.** 双方が合点すること。
sooiⓐ (名) 相違。違い。**sooe neeraN.** 相違はない。
sooininzuⓐ (名) 結婚に際し、婿の家に向

かり嫁につれそって行列に加わる、嫁の友達など。
soo=junⓐ (他 =**raN, =ti**) 連れる。連れそ。同伴する。**sooti`?icuN.** 連れて行く。**tuzi sooti cuuN.** 妻を連れて来る。
sookiⓐ (名) ざる。竹を縦横に編み、回りを縮めた、丸いざるをいう。底が丸い。主として、野菜・穀物を入れるのに用い、目は比較的密なものが多い。**baaki** の項参照。
sookiⓐ (名) あばら。
sookibunⓐ (名) あばら骨。肋骨。
soomaaⓐ (名) やぶにらみの者。
soominaaⓐ (名) めじろ。**ciiju ciiju** と鳴く。
soominaakuuⓐ (名) めじろ籠の意。鳥籠。小鳥用の籠の総称。
soominⓐ (名) そうめん。~**nu`?iimuN.** そうめんの吸い物。
soominpuqturuuⓐ (名) 料理名。そうめんの油いため。
soori=junⓐ (自 =**raN, =ti**) ⊖(たまったもの・積み上げられたものなどが)減る。(体積が)小さくなる。**niinu ~.** 荷が減る。**takajamanu ~.** 高い山が小さくなる。⊖(腹が)減る。**'watanu ~.** 腹が減る。
soorusooruⓐ (副) するする。なめらかに出るさま。よどみなく流れるさま。ひっきりなしに続くさま。**soorusooruu** ともいう。**?ansi hanasinu ~ ?nziti cuuru muN`jaa.** よく、そう話がするするとよどみなく出て来るものだねえ。
soorusooruuⓐ (副) するする。**soorusooru** と同じ。**'jukusimunii ~.** うそがするすると出ること。**habunu ~ hoojun.** はぶがするするとほう。
soosiciⓐ (名) [文] 葬式。口語では、普通 **dabi** という。
soosicigusaⓐ (名) 植物名。とろろ。せいろんべんけいそう。

soosigui① (名) [古] [双紙庫理] 麈藩前の役名。人事局長のような役。zuuguni-Nsjuu [十五人衆] を構成するひとり。

soosoo① (副) 水の流れるさま。ざあざあ。じゃあじゃあ。mizi ~ kakijun. 水をざあざあかける。?asi ~ hajun. 汗がだくだく流れる。

soosoo① (副) 早々。早く。急いで。さっさと。~ tuuri. さっさと通れ。

sootoo① (名) 相当。~na mun. 相当する者。その条件の備わった者。

soozuburu① (名) 祭祀用の菓子の名。小麦粉で作った、まんじゅうの皮をむいたようなもの。

soouu① (名) 相応。ふさわしいこと。身のほどにふさわしいこと。~ sjoon. ふさわしい。相応している。kunuhjaa, ~ saN mun. こいつ、身のほどを知らぬ者。

soozi① (名) 掃除。~ sjun. 掃除する。hooCi sjun. ともいう。

soozi① (名) 寒水。《地》参照。

soozi① (名) あじろ。竹で四つ目垣のように粗く編んだもの。農家などで、戸・天井・垣などに、また、中に茅を入れて壁などにする。

soozimaai① (名) 掃除の見回り。役人が掃除の検査で回ること。

soozootu① (副) ものさびしいさま。蕭条と。~ natooN. 蕭条としている。

soozukuniN① (名) 相続人。あとつき。

suba① (名) ⊖そば。かたわら。また、わき。~ najun. イ。そばに寄る。そばに近づく。ロ。わきへのく。車馬などをよけてわきへのく。⊖あめ(めかけ)。?juuheeともいう。貴人の妾は ?usuba という。

suba① (名) 蕎麦。そばきり。昔は身分の高い者のみが食べた。明治のころからは、そば屋が夜などに、?uduun (うどん) subaa. と声を長く引いて町を売り歩いた。

subahwira① (名) かたわら。横の方。「そばひら」に対応する。

subami① (名) 横目。横目を使うこと。

subanui① (名) 横乗り。馬の片側に両足をそろえて乗る乗り方。女がするもの。

subaNkee① (名) 横向き。わきへ向くこと。

subazikee① (名) ⊖そば仕え。貴人のそばに仕えること。また仕える者。小間使。近侍。⊖めかけとなること。また、めかけ。

subedu① (名) [文] 農家の家の裏戸。naka-Nkari ~ mašidaiwa sagiti, ?anera-wantumaba sinudi ?imori. [仲村柄そばいど ますだれは下げて あにあらはんとまば 忍でいまれ (仲村柄節)] 仲村柄の美しい娘の住む家の裏の戸はいつもはずだれを上げてあるが、下げてあるときは大丈夫だから忍んでいらっしやい。

subi① (名) 楚辺。《地》参照。

subi=cuN① (他 =kaN, =ci) ひきずる。subikarijun. イ。ひきずられる。ロ。引っぱられる。拘引される。

sudaci① (名) 育つこと。育ち。~nu 'jutasjan. 育ちがよい。よい環境で育っている。

suda=cuN① (自 =taN, =ci) 育つ。(人・動植物が) 生育する。

sudati① (名) 育てること。養育。また、生活の保護。~ sjun. 養育する。また、生活のめんどうを見る。

sudati=juN① (他 =raN, =ti) 育てる。Qkwa ~. 子を育てる。hanagi ~. 花卉を育てる。

sudatimici① (名) 育て方。

sudati?uja① (名) 育て親。nacaru ?ujajaka ~. 産んだ親より育ての親(の恩が大きい)。

sudi① (名) 袖。

sudiciraa① (名) 芭蕉布で作った粗末な夏の着物。昔は下層の労働者が着るもので、

sudigaci

- 袖が無かった。そこで, sudiciraa (袖の切れたもの) といったもの。
- sudigaci**① (名) 子供が死んだ時に作る仮の墓。おとなの死の場合には墓を開いて, そこに棺を納めるが, 子供の死の場合には, すぐ墓を開かず, そばに小さい仮の墓を作っておき, おとなが死んだ場合に一緒に本葬をする。それまでの子供の遺体を納めておく小さい仮の墓をいう。
- sugai**① (名) ①装い。服装。身なり。～saanee qunu 'jusifasee ?jaraN. 服装では人のよしあしは言えない。curasugai. 美しい装い。②準備。したく。用意。munnu ～. 食事のしたく。
- sugaimanu'gai**① (名) 準備万端。sugai (準備)を意味を強めていう語。
- suga=juN**① (他 =raN, =ti) ①装う。容儀をととのえる。身じたくをする。着飾る。②したくする。準備をととのえる。munu ～. 食事のしたくをする (平民が使う。士族は, munu sjuN. という)。
- sugari=juN**① (自 =raN, =ti) 風に当たる。風に当たって涼む。
- suga=sjuN**① (他 =saN, =ci) 風を通す。風に当てる。また, 風に当てて冷やす。
- sugi=juN**① (自 =raN, =ti) そげる。そげて細くなる。また, やせ細る。
- sugiwara**① (名) [杉原]紙の一種。杉原紙。一般の辞令などに用いる上質の紙。
- suguikeera=sju'N**① (他 =saN, =ci) なぐりつける。ひっぱたく。
- suguita=cu'N**① (自 =taN, =qci) suguita-qcooN (すらりとしている。姿がすらりと高く, 美しい) の形で多く用いる。
- suguituba=sju'N**① (他 =saN, =ci) なぐりとばす。
- suguitu=juN**① (他 =raN, =ti) しごくようにしてとる。また, ひったくる。
- sugui'yuubi**① (名) しごき帯。
- sugu=juN**① (他 =raN, =ti) ①しごく。②

- なぐる。
- suguraa**① (名) すぐれた者。秀才。
- suguridaqkwii**① (名) 秀才の血統。
- suguri=juN**① (自 =raN, =ti) すぐれる。ひいでる。
- sugurimuN**① (名) すぐれた者。秀才。
- suguriNcu**① (名) すぐれた人。偉人。学徳・才能などのすぐれた人。
- suguringwa**① (名) すぐれた子。
- su=juN**① (他 =raN, =ti) 剃る。
- su=juN**① (自 =waN, =ti) [文] (女が男に) 添う。(女が) 結婚する。kunanu husunabiga 'waduja taka nacuti, 'wacitiku'gu ?webitu ca sui suwame. [古仁屋のほそなべが 我胴や鷹なちゆて 脇文字親部と ちや添ひそわまい] 古仁屋 (奄美大島の地名)のほそなべ (女の名)が, 自分の器量を高ぶって脇文字 (書記補)の親部といつまでも添おうとしている。*
- suku**① (名) ①底。kumuinu ～. 池の底。kukurunu ～. 心の底。②谷。沢。谷底。
- sukubuu**① (名) 台所(の土間)。sikubuu ともいう。
- sukuçi**① (名) ①粗忽。そそっかしいこと。②こっけいなこと。ひょうきんなこと。～na mun. ひょうきん者。おどけ者。
- sukuhwi**① (名) そこひ。眼病の一種。
- sukui**① (名) 救い。
- suku=juN**① (他 =raN, =ti) すくう。すくいとる。?usirunu mii ～. 吸い物の実をすくう。
- suku=juN**① (他 =raN, =ti) 救う。nuci ～. 命を救う。
- sukukuzirija'N**① (名) 腹の底がえぐられるように痛むこと。
- sukuna=juN**① (他 =raN, =a, =ti) そこなう。損ずる。こわす。
- suku=nuN**① (他 =maN, =di) すくむ。ちぢこまる。縮み上がる。garaşi 'jumuduinu takanu mani sjuNdi, tubiutati

simanu ?urani sukudi. 鳥のやつめが、鷹のまねをしようとして、飛びくたびれて鳥のかけにちぢこまってしまった。(がらにもないことをやって失敗したことを風刺した歌)

suku=nun① (自 =maN, =di) 巣ごもる。巢につく。

sukuNdui① (名) 巣ごもった鳥。

sukuNkaa① (副) 身をすくめたさま。また、恐れて、縮み上がったさま。～ sjooN. 縮み上がっている。

sumi①* (名) 痣。

sumiikata① (名) 染め方。

sumiikee=sjuN① (他 =saN, =ci) sumike-esjuN と同じ。

sumija① (名) 染め物屋。sumimunjaa, kuja ともいう。

sumi=juN① (他 =raN, =ti) 染める。

sumikee=juN① (他 =raN, =ti) 染め替える。

sumikeesii① (名) 染め返し。染め返すこと。染め返したも。

sumikee=sjuN① (他 =saN, =ci) 染め返す。

sumimun① (名) 染め物。

sumimunjaa① (名) 染め物屋。

sumu=cuN① (自 =kaN, =ci) ①そむく。後ろを向く。②そむく。反逆する。

sunan① (名) 楚南。《地》参照。

sunata① (名) 貴様。相手をとがめ、またののしっている語。～ nuunDi ?juga. 貴様、何というか。?ija kunu ?azinu kutuba cikanaraba ～, cukatanani ?inuci ?ibuci turasa. [いや 此按司の言葉 聞かならばそなた 一刀に命 つぶち取らさ (大川敵討)] いや 按司であるこのおれのことばを聞かないのなら、貴様、一刀のもとに命をつぶしてやるぞ。

sunawai① (名) 備わり。備え。設備。道具・人数などが充分そろふこと。

sunawa=juN① (自 =raN, =ti) 備わる。充

分に整う。

sunee① (名) 酢の物。

sunuban① (名) そろばん。

su=nun① (自 =maN, =di) ①染まる。②(他人の風に)染まる。

sun① (名) 損。tuku (得) の対。～ sjun.

sun① (名) しみ。汚点。着物のしみ、顔の痣やしみなど。～ ?icuN. しみがつく。また、きず物になる。見苦しい痣になる。

sun?ike'era=sjuN① (他 =saN, =ci) ひきずり倒す。

sun=cuN① (他 =kaN, =ci) subicuN と同じ。

sunGaa① (名) 寒水川。《地》参照。

sunGaci① (名) songaci と同じ。

sunKabui① (名) 商売で損をすること。

sunKwa=juN① (自 =raN, =aN, =ti) しみる。(傷口などに)しみて痛む。suunun とともいう。

sunTuku① (名) 損得。

sunzi=juN① (自・他 =raN, =ti) 損じる。破りこわす。また、破れいたむ。

su?kwii① (名) そくい。飯粒を練って作った糊。

su?puN① (名) ふたのあるきせる入れ。ふたをぬくとポンと音がする。

su?tu① (副) 少し。musingutunaqkwee ～N ?jan. [無心事なつくわい すつとも言やぬ(花売之縁)] 無心事などは少しも言わない。su?too kawatoon. 少しは変わっている。

sura① (名) [文] ①空。天空。?arin nagamijura kijunu ～ja. [あれも眺めゆら 今日空や] 彼女も眺めているだろう、きょうの空は。②身空。'wakasa hwitutucinu kajuizinu ～ja 'jaminu saku-hwiran kurumatoobaru. [若さひと時の通路の空や 闇のさくひらも 車たり原] 若い時代の恋の通り路は、闇の急坂も砂糖車を据える平坦な原と同じである。

suraasjuN

- suraa=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) ⊖集める。
 qcu ~. 人を集める。⊖揃える。doogu
 ~. 道具を揃える。
- suriiⓄ (名) 集まり。集会。会合。
- suriiman'dooⓄ (副) たびたび集会のある
 さま。~ sjuN.
- suriiizaⓄ (名) 学問所。自習塾。学校以外
 の民家で、若者たちが勉強所とした場所。
 学生の集会所。
- suriiizuriiⓄ (名) 仲よく揃って事をなすこ
 と。sjuincoo ~, naahwancoo naahai-
 bai, kunindaNcoo kunkurubaasee,
 tumaincoo tumeeidumeei. 首里の人は
 うち揃って、那覇の人は散り散りばらばら
 で、久米村の人は互いに争って、泊の人は
 互いに捜し合いながら。
- suri=juNⓄ (自 =raN, =ti) ⊖人が、集ま
 る。⊖揃う。
- surikee=ju`NⓄ (自 =raN, =ti) そり返る。
- suritiⓄ (副) 揃って。一緒に。こぞって。
 nunku ?uminabiga haranu guçimiki-
 ba ~ meru ?isjanu sazinu sizisa.
 [のんこ思鍋が 腹のぐつめけば そりてめ
 る医者 匙の繁さ(狂歌)] スンクー鍋
 (料理名)の腹がぐらぐらいうと、そろっ
 ておいでの医者はさじを忙しく動かす。
 ?uminabi は女の名でもある。
- surubanⓄ (名) sunuban と同じ。
- suruituⓄ (副) そっと。ひそかに。こっそ
 り。suruqtu ともいう。~ nareega caN.
 こっそり教わりに来た。
- suruqtuⓄ (副) suruitu と同じ。
- sururugwaaⓄ (名) 小魚の名。きびなど。
 体長10センチたらずで、かつおの釣餌に
 用いられる。
- surusuruⓄ (副) ざらざら。伸びはじめた
 ひげなどのさま。~ sjoon. ざらざらし
 ている。
- surusuruuⓄ (名) ざらざらしたもの。ざら
 ざらしたひげなど。

- surusuruuhwizigwaaⓄ (名) 若者の、生え
 はじめたひげの愛称。
- susiiⓄ (名) 楚洲。(地) 参照。
- susi=juNⓄ (他 =raN, =ti) そしる。悪し
 ざまにいう。
- susiriⓄ (名) そしること。誹謗。悪口。
 humirarin şikan susirarin şikan,
 ?uciju nadaşaşiku 'wataibusjanu. ~
 humirarija 'junukananu narai satan
 neN mununu nu 'jaku tacuga. [ほめ
 られも好かぬ そしられも好かぬ 浮世な
 だやすく 渡りほしやの… そしりほめら
 れや 世の中の習 沙汰もないぬもの
 何役立ちゆが] ほめられるのもいやだ、そ
 しられるのもいやだ、浮世を安らかに渡り
 たいもの…。そしられたりほめられたりす
 るのは世の中の常、うわさもされない者が
 何の役に立つか。
- susjuuⓄⓄ (名) 陰口。悪口。誹謗。
- susoonⓄ (副) 人・物を粗末にするさま。
 虐待するさま。~ saqtaru qkwa 'jaku-
 tu, ?uja ~ sjusa. 粗末にされた子だか
 ら、親を粗末にするさ。
- susoonkaro'onⓄ (副) 粗末にし軽んじるさ
 ま。karoon は軽んじるの意が含まれてい
 る。~ sjuN.
- susuⓄ (名) ⊖据。ciNnu ~. 着物のすそ。
 ⊖山すそ。⊖びり。しり。~ najuN. び
 りになる。
- susuiⓄ (名) ぞりきん。
- susuka'ciⓄ (名) ぞりきんがけ。ふき掃
 除。~ sjuN.
- susu=juNⓄ (他 =raN, =ti) ふく。ぬぐう。
- sutiçiⓄ (名) suutiçi と同じ。
- sutimitiⓄ (名) sutumiti と同じ。
- sutimitimunⓄ (名) sutumitimun と同じ。
- sutuⓄ (名) 外(ほか)。以外。
- sutumitiⓄ (名) 朝。「つとめて」に対応す
 る。sutimiti ともいう。?asa という語
 は単独ではあまり用いない。その項参照。

sutumitimuN① (名) 朝飯。Yasaban の項参照。

sutumitiYubun① (名) 朝御飯。sutumitimuN (朝飯) の丁寧語。

sutumitiYuki① (名) 朝早く起きること。

suu① (名) [数] ⊖運。運命。命数。～nu Yiqoon. 運が向いている。⊖[新] 数。かず。

suu- (接頭) 総。残らず、すべての意。suudaka (総高), suujoo (皆さん) など。

-suu① (接尾) 艘。船を数える時の接尾辞。Yiqsuu (一艘), nisuu (二艘) など。

suucee① (名) [秀才] 那覇の久米村 (kuniNja) の青年をいう。中国からの帰化人の子孫で、中国に留学する権利と中国語を学ぶ義務があり、扶持をもらっていた。

suucici① (名) [惣領] Yuiun [御殿], tun-ci [殿内] の家の財産の管理人。この下に、二名の zidee [下代] (会計係) と多数の使用人がいる。

suucunmaa① (名) 地方の農村や先島などで無学な人のために用いられた一種の文字。農作物・家畜などの種類・数量とか年月日などを表わす符号で、その多くは象形的なものであるが、簡単な漢字に似せたものもある。商取引や租税の付課・徴収の証書などに用いた。中国語「数籌碼」の借用語であろう。

suudaka① (名) 総高。総額。

suudee① (名) [総代] 村の世話係。私設のもので、各部落ごとにいた。

suudoori① (名) 総倒れ。～sjun.

suugamii① (名) 総務。全体の世話をする係。

suugasira① (名) [総頭] mura (部落) 全体の代表。muragasira の項参照。

suugoosaku① (名) [古] suugoosakuYatai と同じ。

suugoosakuYatai① (名) [古] [総耕作当] 庵藩前の、農事に関する役人。間切番所に

いた。各村にいたものは koosakuYatai あるいは単に koosaku という。

suugurii① (名) 一斉に御辞儀すること。

suujoo① (名) 皆。全員。一座の人 (目下) に呼びかける時に多く使う。諸君。皆さん。一座に少数でも目上がはいってれば gusuujoo (皆様) という。maada ~ja kuun. まだ全員は来ない。～nu gaqtin 'jami. 皆の承知のことか。

suu=juN①* (自 =ran, =ti) [新?] 沿う。主として suutoon, suuti などの形で使う。'waqtaahatakee kaaranakai suutoon. うちの畑は川に沿っている。mici suuti Yicun. 道に沿って行く。

suu=juN① (他 =ran, =ti) 吸う。

suukangee① (名) ⊖皆の考え。一般の考え。総意。世論。⊖基本的な考え。大体の考え。⊖皆の世話をする。また、皆の世話をする係。総務。～ja Yariga kamii. 全体の世話は彼の役だ。

suuki① (名) 態度。(地) 参照。

suukukni① (名) 総括。全体をくくりまとめること。～sjun.

suumabui① (名) 皆の魂。家族など全員の魂。魂が物に驚いて体から落ちたりしないように、年に一、二度、家族全員の mabui (魂をしっかりと体内にこめること) の行事を行なう。

suumi① (名) すき見。かいま見ること。のぞくこと。

suumi①* (名) 深い興味をもつこと。Yutanakai ~nu YaN. 歌に興味がある。

suumii① (名) 聡明。賢いこと。～na mun. 聡明な者。

suu=nuN① (自 =maN, =di) 深い興味をもつ。熱中する。gakumunnakai suudoon. 学問に熱中している。

suu=nuN① (自 =maN, =di) しみる。(傷などに) しみて痛む。sunkwajun ともしる。

suura

- suura① (名) こずえ。うら(末)。
 suuranai① (名) うらなり。simunai と
 もいう。niinai (もとなり) の対。
 suurii① (名) 中皿。cuuzara ともいう。
 haaci (大皿), kee?uci (小皿) の中間。
 suusuu① (副) ㊦少し。少少。~ja 'wii-
 tooN. 少しは酔っている。㊦まだしも。さ
 ておき。'jaasaa ~ hwiisaa 'joo. ひも
 じさはまだしも、寒いことよ。
 suutiici① (名) 蘇鉄(そてつ)。観賞用・備
 荒食用として栽培される。種子は食用に
 し、茎からは澱粉をとる。葉からは帽子・
 ほろきなどを作る。
 suutiicibukui① (名) 蘇鉄の芯にある柔ら
 かい綿のようなところ。まり (maai) の
 芯にしたりする。
 suu?wiici① (名) 総動員。-?wiici<?wii-
 cuN(動く)。'jaaniNzu ~. 一家総動員。
 suuzimi① (名) 総締め。総合計。総決算。
 ~ sjun.

- suuzituu① (名) [総地頭] ?azizituu [按
 司地頭]の下, 'wacizituu [脇地頭] の上。
 一間切の采邑を持つ領主で、位階は ?wee-
 kata [親方]。その家は tunci [殿内] と
 いわれる。?azizituu と suuzituu とは
 二重に一間切を領する。両者を併称して
 roosuuzituu [両総地頭] という。
 suzibana① (名) 風当たりの強い所。風通
 しのよいところ。
 suzoo① (名) ㊦素姓。本来の性質。生まれ
 つき。また、血統。㊦生育。育ち。育つ間
 にでき上がった性質。果実・竹などの品・
 形などについても、~nu 'jutasjan (素
 姓がよい) のようにいう。
 suzoosaN① (形) 風がやや強い。風が吹き
 抜ける。机上の紙が飛んだりする程度のこと
 をいう。
 su=zuN① (自 =gaN, =zi) 風が少し吹く。
 「そよぐ」よりやや強い吹き方をいう。

ta- (接頭) 二。ふた。takeen (二回), tai (二人), tahwani (二羽) など。

taa① (感) ふう。ふたつ。声を出して数える時にだけいう。

taa② (名) 田。

taa③ (名) ①誰。韻文や古語、また一部の方言では taru という。ʔaree ~ 'jaga. あれは誰か。~ga. 誰か。~ga 'jara. 誰かしら。~din cui kumankai kuuwa. 誰でもいいからひとりここに来い。~'jatin. 誰でも。②(接頭) 誰の。taamun (誰のもの) など。

-taa (接尾) ①たち。人について複数を表わす。waqtaa(わたしたち), ʔiqtaa(おまえたち), ʔaqttaa(彼等, 彼女等), niiseetaa (青年たち), ʔangwaataa (平民の娘たち) など。複数の接尾辞には -caa という形もある。その項参照。②転じて、その人の家を示す。ʔaqttaakai ʔicun. (彼の家へ行く), zirutaata (次郎の家) など。

taaba① (名) 田場。《地》参照。

taabaazeeku① (名) へたな大工。しろうと大工など。[田場] という名の昔の名工に由来する語で、へたな大工を皮肉にいう語。

taabi① (名) 足袋。

taabuqkwa① (名) たんぼ。田のたくさんあるところをいう。地名としては, catan-taabuqkwa (北谷たんぼ), hanizitaabuqkwa (羽地たんぼ) など。

ʔaaca① (名) 立つことの小児語。たち。

taaci① (名) 二つ。二。~N narce. 二つのうちならば。二つのうち、一つを選ぶとすれば。~sjun. 二つする。兼ねる。

taacii① (名) ʔnmukaʃi (芋かす。甘藷から澱粉をとった残りかす)を粉にして煮た

料理。食糧不足の時に食べるもの。詳しくは ʔnmukaʃidaacii という。

taaqimacaa① (名) つむじが二つある者。一癖ある者とされ、男の子なら喜ぶ。

taaqimisi① (名) 二つ違いの子供を産むこと。tiiçimisi はとしごを産むこと。としごはまれに tusingwa ともいう。miçi-misi は三つ違いの子を産むこと。-misi < misijun (見せる)。弟妹が生まれることを ʔuqtu misijun (弟妹を見せる) という。

taaqiwai① (名) 二つに割ること。二つ割り。二分。

taacuu① (名) ふたご。双生児。

taadoosi① (名) 田を畑として使うこと。田の水を干させて、畑とすること。稲の刈入れ後、さつまいもを作る場合などにする。田倒しの意。

taadoosiʔnmu① (名) 田を畑にして作ったさつまいも。甘味が多く、美味。

taagana① (名) 誰か。~ ʔikani. 誰か行かないか。~ tanumariisee 'urani. 誰か頼める者はいないか。

taagu① (名) ①たご。桶の一種。もっぱら水を運ぶのに用いる。桶の両側の板がおのおの一枚ずつ伸び、それに横木を通して取っ手とした桶。②(接尾) taagu に一杯・二杯などと数える時いう。cutaagu, tataagu など。

taagusa① (名) 田の草。~ kacun. 非常にあせる。

taagusiree① (名) 田ごしらえ。稲を植える前に田を耕して準備すること。

taahwaakuu① (名) [打花鼓] 楽劇の名。中国より渡来し、那覇の久米村で行なわれたもの。

taaʔiihwee① (名) 水田にいる虫の名。げんごろうの類。丸く黒色。

taaʔiju① (名) ふな(鰯)。田にいる魚の意であろう。煎じて熱さましの特効薬として用いる。

taaʔijugaʔsira① (名) お山の大将。餓鬼大将。ふなの大将の意。

taaʔijusiʔNzi① (名) ふなを煎じた汁。

taakutu① (名) ろわごと。熱に浮かされて言うことば。～ʔjunuN. ろわごとを言う。

taakuu① (名) 茶器を入れる器。芝居見物・墓参などに携帯するもの。中国渡来の器であろう。朱塗りの箱で、中には錫製の土瓶を入れ、箱に入れたまま湯をつぐ仕掛けになっている。

taamaa① (名) とんぼの一種。やんま。青緑色で、形が大きい。ʔaakeezuu はこれより小さい。naakudaamaa (宮古の taamaa) ともいう。

taamuN① (名) 誰のもの。～ga. 誰のものか。

taamuzi① (名) taaʔNmu (里芋の一種) のずいき。muzinuʔNsiru, muziʔuʂee, duruwakasii などにして食べる。

taaʔNmu① (名) 田芋の意。水田に作る芋で、形は里芋に似ており、一種の風味がある。

taaʔNmunii① (名) 料理の名。taaʔNmuとさつまいもを混ぜ、砂糖を加えて練ったもの。きんとんに似た上等の食物。

taaNna① (名) たにし。水田に生じ、食用となる。田にいる蟻(にな)の意。

taara① (名) ㊦。特に藁で作った米俵。㊦俵米。俵禄としてもらう米。ʔuguʂiku-kara ~ ʔutabimiʂeen. お城から俵米を下さる。

ʔaaraguu① (名) あき俵。

ʔaarasi① (名) 植物名。ほおのき。木蘭科。こぶしに似て、香気高い花が咲く。一名ほるとの木。樹皮・葉から褐色の染料をと

る。

taari① (名) 憑くこと。kamidaari は神がかり。

taarii① (名) ㊦父。おとらさん。士族についていう。名称でも呼称でもある。平民の父は sjuu。「昔は主(シュ-)といひたるなれども、久米村(閩人の子孫の部落)より始まりて、支那語の大令をもて、父を呼びたるにより、首里にも移り来るものと師の朝保翁いへり。(南島八重垣)」あるいは中国語「大人」の転訛か。㊦家族・親族以外から taarii といえば、士族の父・士族の戸主に対する単称ともなる。士族のおやじ。taariigwaa ともいう。

taariigwaa① (名) taarii の単称。士族のおやじ。

taari=juN① (自 =raN, =ti) <teejuN. ㊦費える。hwiqcii ~. 一日むだにつぶれる。複合語に、zindaari (金銭が費えること)、hwimadaari (時間がつぶれること)。㊦(病気が)長引く。

taataa① (名) 父の小児語。那覇では caacaa という。

taawaN① (名) 椀の一種。椀の大きなもの。大碗の中国音。

tabai① (名) ㊦束。たばね。㊦(接尾) cutabai (一束) など。

tabaisikaʔi① (名) たばねること。荷作りなどをすること。-sikai<sikajuN.

taba=juN① (他 =raN, =ti) たばねる。物をたばねて、なわ・ひもなどで縛る。また、人などを縛る。

tabakai① (名) 多忙。

tabaku① (名) たばこ。～ hucun. たばこを吹かす。～Ndee ʔusjagamisjooree. たばこでも召し上がって下さい。

tabakubun① (名) たばこ盆。普通、四角の箱の中に ʔuciritui (小さい火鉢) と hweehuci (灰吹き) と入れてある。褻ったものは引き出しがいくつもあり、さげて持つ

手があつたりする。
tabakuʔirii① (名) たばこ入れ。
tabakumacija① (名) たばこ屋。
tabakunuhwiikusu① (名) たばこの吸いがら。
tabaru① (名) 田原。《地》参照。
tabasa① (名) 間。物体の間の狭いすき間をいう。tanaka より狭い。sjumuçinu ~nakai kwaacookee. 本の間にはさんでおけ。
tabi① (名) 旅。tabee ʔiranazikaN nii najun. 旅は鎌の柄のように軽いものでも荷物になる。旅はできるだけ身軽にせよの意。
tabidaci① (名) 旅立ち。鹿島立ち。門出。
tabidumi① (名) 旅先でできた妾。-dumi <tumeejun.
tabijadu① (名) 旅宿。旅先の宿。~nunaraja makura subadatiti ʔubizasusa mukasi ʔjuwanu çirasa. [旅宿の習や枕そばだてて 覚出すさ昔 夜半のつらさ] 旅の宿に泊ると寝てから昔の会わぬ夜のつらさを思い出す。
tabi=jun① (他 =raN, =ti) [文] 賜わる。
tabikuduci① (名) 旅口説。kuduci (口説) の一つ。首里から、那覇を経て、海を渡り、薩摩へ往復する状況を叙事的に歌った歌曲で、nubuikuçuci [上り口説] と kudaikuduci [下り口説] とある。
tabiniNzu① (名) 旅の一团。
tabinuçcu① (名) 旅の人。行人。他国の人。見知らぬ人。
tabinuçcuu① (名) よそもの。他国者。軽蔑的な言い方。
tabisju① (名) 旅に出ている人のある家。その家では、5月1日、同5日、9月1日に、旅にいる人の無事息災を祈る行事をする。一族一門の女が揃い、kweena (旅歌) を歌って踊り、夜を徹することがある。
tabisugai① (名) 旅装束。旅装。

taboo=juN① (他 =raN, =ci) 給り。下さる。首里では、口語としては命令形 taboori (下さい) のみを用いる。韻文では tabori と短くなる。ʔjuruci tabori. [許ちたばうれ] 許して下さい。taboori taboori sjaşiga kwirantan. ちょうだいちょうだいとせがんだが、くれなかった。
tabuigusa① (名) kusa はフィラリヤ (熱病の一種)。tabui- <tabujun (ためる、たくわえる)。長い間起こらずにいて、そのあとで起こった kusa. kusa は時時起こった方がしのぎよく、これが長いこと起こらないと、一時に重い病気になるので、この語がある。
tabu=juN① (他 =raN, =ti) ためる。たくわえる。保存する。とっておく。ziN ~. 銭をためる。nuci ~. 命を大事にする。duu ~. なまける (体を節約する意)。taburaran. 長くおけない。とって置けない。tabaaran ともいう。
tabun① (副) 多分。大かた。
tacaai① (名) 二つ切り。二つ割り。~ nasjun. 二つ切りにする。~Nkai sjun. ともいう。
tacaaii① (名) のっぽ。背の高い者への悪口としていう。「二つ割りの者」の意。すなわちふたり分の背たけがあるという意。
tacagainubaʔgai① (名) 親しい家などに、しばしば立ち寄ること。-nubagai は伸びあがる意から、ちょっと立ち寄ること。
taci① (名) 太刀。刀の大きなもの。
taci① (名) [文] 滝。滝は少ないが、名護間切数久田に轟の滝という滝がある。ʔacakaranu ʔasati satuga bannubui, ~ narasu ʔaminu hurana ʔjaşiga. [あちやからのあさて 里が番上り 滝ならす雨の 降らなやすが] 明明後日はわが背の君が首里へ勤番で上る日である。どうか滝のような雨が降って出発が延びればよい (恩納なべの歌)。~ narasu ʔaminu のとこ

- ろは tanca kusju ʔaminu [谷茶越す兩の] という歌詞もある。
- taçi**① (名) 辰(たつ)。十二支の第五。時間は午前8時(ʔiçiçi)。方向は南寄りの東。
- tacibaa ʔasiza**① (名) 足駄。台に植えた二枚の歯を tacibaa (立歯) といったもの。ʔasiza は単に下駄をいう。
- taçici**① (名) 来月。naa ~。再来月。
- taçici**① (名) ふた月。二か月。
- taciece**① (名) 立ち合い。監督、検証などのために立ち合うこと。
- tacigari**① (名) 立ち枯れ。
- tacigi**① (名) 立ち木。zeegi (材木) に対する。
- tacigurisjan**① (形) 暮らしにくい。暮らしが立ちにくい。嫁がしゅうとに虐待された場合などにもいう。
- tacihaba ʔka=juN**① (自 =raN, =ti) 立ちばかり。
- tacihwa**① (名) 立場。~ ʔusinajuN。立場を失う。⊖境遇。暮らしむき。ʔiitacihwa。よい暮らしむき。
- tacii**① (名) 他系の意。他姓。血統の違う他姓。
- tacimazikui**① (名) 血統上関係のない者が相続人として家を継ぐこと。多くはきらわれる。-mazikui はまざること。
- tacisuri ʔi**① (名) 事件などで大勢が寄り集まること。急病人の家へ親類縁者が次々に集まる場合など。祝いごとなどの場合には言わない。
- tacijaqsaN**① (形) 暮らしやすい。暮らしが楽である。kunu murankai cakutu ~。この村に来たので暮らしが楽になった。tacijaqsa sjoon。暮らしむきがよい。
- tacikaNtii**① (名) ⊖その場を立ちかねること。この意ではあまり用いない。⊖暮らしを立てかねること。生活難で日苦しむこと。~ sjoon。生活難で苦しんでいる。
- tacikuci**① (名) 一番はじめの先祖。分家して一家を作れば、それが後世 tacikuci (立口) となる。多く ʔutacikuci という。
- tacikuNpai**① (名) 立ちどおし。立ちっぱなし。立ち往生。
- tacimaaima ʔai**① (副) しばしば立ち寄るさま。~ sjuN。
- tacimaaituN ʔmaai**① (副) しばしば回って立ち寄ること。~ sjuN。
- tacimasa ʔ=juN**① (自 =raN, =ti) たちまざる。すぐれる。
- tacimee**① (名) 嫁入り前。
- tacimudui**① (名) 出もどり。嫁に行った者が離縁して生家へもどること。
- tacimui**① (名) 立ってもりをすること。子供を抱いて、立って、あやすこと。子供は坐って抱かれるよりこの方を好む。
- tacinaaka**① (名) つれあい。配偶者。
- tacinaci**① (名) 犬の長鳴き。遠ぼえ。犬が夜中に声を長く引いて鳴くこと。魔物を見た時の鳴き方とされている。
- tacinama**① (副) 立ちどころに。すぐさま。たちまち。~ miiraN nataN。たちまち見えなくなった。
- tacinu=cuN**① (自 =kaN, =ci) 立ちのく。
- tacinugi=ju ʔN**① (自 =raN, =ti) 抜きん出る。衆にすぐれる。
- taciNka=ju ʔN**① (自 =aN, =raN, =ti) 立ち向かう。相手になる。
- tacisikuci**① (名) 立ち仕事。立ってする仕事。また、力仕事。taciwaza ともいう。
- tacitoori**① (名) 立つか倒れるか。浮沈。興亡。生きるか死ぬか。
- taciui**① (名) 女の婚期。taci-<tacun (とつぐ)。ʔui は折。
- taci ʔwi ʔici**① (名) 身動き。立って動くこと。~nu nanzi ʔjaqsaa。身動きが大儀だよ。
- taciwaza**① (名) 立ち仕事。水汲み・炊事など。tacisikuci ともいう。ʔi iwaza (すわ

り仕事)の対。
taciziⓐ(名)たきぎ。tamUN ともいう。
taciziciⓐ(名)立ち聞き。
tacizisiⓐ(名)立岸。《地》参照。
tacizituiⓐ(名)たきぎ取り。
tacizukuⓐ(名)暮らしむき。生活。
tacooⓐ(名)他郷。kucoo(故郷)に対する。
ta=cuNⓐ(自 =tan, =qci) ⊖立つ。建つ。また、成立する。taqcin 'icIN 'uraran。(心配で)いても立ってもいられない。ta-qcoomi。立っているかの意。立っている者への平民などがいうあいさつ。⊕起きる。生じる。?umukazinu ~。面影が浮かぶ。⊖経つ。経過する。ⓐ立つ。出発する。?ici tacuga。いつ出発するか。ⓐとつぐ。嫁に行く。diqsin sjUN。ともいう。taqcoon。とついでいる。ⓐ(刃物が)よく切れる。鋭利である。haanu ~。刃が鋭い。haanu tatan。刃がよく切れない。
ta=cuNⓐ(他 =kan, =ci)火を燃やしてものを煮る。炊く。単に火を焚く意では hwii meesjUN という。sjuu tacai hwi-binu kurasi sjuntijari。[塩たきやり日目の 暮らしゆんでやり(花売の縁)]塩をたいて日目の暮らしをしているとか。
tadaⓐ ⊖(名)ただ。無代。?icanda ともいう。⊖(副)イ。いたずらに。むなしく。~ ?aqcuN。ただ歩く。ロ。わずか。たつた。~ gunzuu。たつた1厘。
tadariⓐ(名)ただれ。
tadari=jUNⓐ(自 =ran, =ti)ただれる。
tada=sjUNⓐ(他 =san, =ci) ⊖正す。kai-koo ~。開合を正す。kaikoo の項参照。⊖糺す。吟味する。詮議する。
tadeemaⓐ(名)すぐ。即刻。即座。また、急ぎ。緊急。~ cuusa。今すぐ行くよ。~ nu sikuci。急ぎの仕事。緊急の仕事。
tadi=jUNⓐ(他 =ran, =ti)「たでる」に対

応する。湯の熱ではれものなどをむす。
taga=jUNⓐ(自・他 =an, =ran, =ti) 違ひ。たがえる。「たがり」に対応する。tagaan。たがわぬ。一致する。違約しない。'jaku-suku ~。約束をたがえる。
tagaNmiⓐ(名)田頭。《地》参照。
tageeⓐ(名)互い。相互。相方。tageeni。互いに。
tageecigeeⓐ(名)互にくい違ひこと。互い違ひ。
tageeni?iiahiiⓐ(名)互いに敬語を使わずに、肯定の時は ?ii と言ひ、呼ばれた時は hii と答える話し方。親しい同年輩同志の話し方。きみ・ほくの話し方。'inu?iiahii ともいう。?iiahii の項参照。
tageeni?uuhuuⓐ(名)互いに敬語を使い、肯定の時は ?uu と言ひ、呼ばれた時は huu と答える話し方。初対面や、まだ互いに親しくない間柄の礼儀正しい話し方。'inu?uuhuu ともいう。?uuhuu の項参照。
tagee=sjUNⓐ(他 =san, =ci) 耕す。田返すの意か。keesjUN ともいう。
taguikaka=jUNⓐ(自 =ran, =ti) 食つてかかる。つめ寄る。
tagu=jUNⓐ(他 =ran, =ti) (ひも・縄・たこの糸などを)たぐる。
tagUNⓐ(名)他言。他人に語り告げること。
taiⓐ(感・助)目上に話しかける時・呼びかける時などに女が発する敬語。さらに高い目上には tari という。男は sai という。もし。taarii ~。もしおとうさま。cuuja 'iitinci 'jaibiiN ~。きょうはいい天気でございますねえ。?ee ~。もしもし。
taiⓐ(名)垂れ。垂れたもの。sanazinu ~。ふんどしの前に垂らした部分。
taiⓐ(名)ふたり。二人。兩人。~ nu ?uja。ふたりの親。両親。
-tai(接尾)人数を表わす接尾辞。'juqtai (四人), ?içitai (五人), muqtai (六人),

- nanatai (七人), 'jaqtai (八人), kuku-nutai (九人)。ただし, cui (一人), tai (二人), miqcai (三人), また, 五人以上は gunin (五人), rukunin (六人) のようにいうことが多い。
- tai (接尾) 係。?atai (係) 参照。
- taisaga=jun¹N① (自 =raN, =ti) 垂れ下がる。下に垂れて下がる。
- tai?uti=jun① (自 =raN, =ti) 垂れて落ちる。
- taiwan① (名) 台湾。伝説的な野蛮国の意でも用いられる。~nu ?uni. 台湾の鬼。生蕃。
- taiwanboo① (名) [新] 台湾はげ。頭の毛がところどころはげる病気。日清戦争後, 台湾から帰った兵隊が流行させたという。taiwanboozいともいう。
- taiwanboozい① (名) taiwanboo と同じ。
- tajui① (名) ⊖便り。消息。⊖頼り。頼みとなるもの。また, よるべ。知人。縁故。
- tajuihwi'ci① (名) 縁故。tajui と同じ。
- ta=jun① (自 =raN, =ti) 足りる。tarijun と同じ。
- taka① (名) 鷹。秋の初めごろ来て終わりごろ去る。cinmii (金色の目の鷹。高価で, 貴族の子弟に飼われた) と kasizeemii (灰色の目の鷹。安価で, 一般士族の子弟などが飼った) とがある。?andee ~ ~ takusinu kusikara miijun doo. (童謡の文句) ほら, 鷹が沢岬村の後ろに見えるぞ。~nu mooree garasiN moojun. 鷹が舞えばからすも舞う。人真似をあざ笑ったことわざ。hwinsuumunnu ~ 'iitannee. 貧乏者が鷹をもらったように。鷹は高価なので, 非常な喜びを表わすことば。天に昇るようだ。
- taka?agai① (名) 高い所に上がること。高く上がること。'winagoo ~ see naran. 女は(目より)高い所に上がってはいけない。
- taka?azana① (名) 首里城の石垣の上にある楼。?ugusiku の項参照。
- takabaru①* 高原。《地》参照。
- takabasiru① (名) 高窓。壁の上方の高い所にある採光・通風用の窓。hasiru は遺戸。
- takabi=jun① (自 =raN, =ti) 高ぶる。俾せうにふるまう。
- takadee①① (名) 高価。代金 (dee) が高いこと。
- takadiimigui① (名) 高利貸し。高利で貸すこと。高利回りの意。takarihiwitujaa ともいう。koorigasi はその新語。
- takagii① (名) 高い木。喬木。
- takagooi① (名) 高く買うこと。相場以上の値段で買うこと。
- takahana① (名) 高い所。高く突き出た所。風当たりの強い, 高い所をいう。
- takahanari① (名) 高離島。沖縄本島の東側にある島。平安座島 (hjanza) の東北側, 伊計島 (?ici) の南にある。
- takahata① (名) [新] 高機。織機 (nunu-bata) のたけの高いもの。旧来の低い zibata (地機) に対する。
- takahazii① (名) 細く背の高い人。のっぽ。takasoo, takasoonaa などと同じ。
- takahuda① (名) 高札。昔, 禁制や法度などのむねを記して路傍に高く立てたもの。時には禁止ばかりでなく, 一般に告知する内容のものもあったであろう。cizinuhwee (禁止の牌) ともいう。
- takahwiruma① (名) 昼過ぎ。昼下がり。午後2~3時ごろをいう。
- takahwisjazikee①① (名) 気づかい。客・隣人などに対していろいろと気をつかうこと。足を高くして歩く, すなわち足音を立てないようにする意からいったもの。~ sjun. 気をつかう。
- taka?icubi① (名) ほろろくいちご。野生のいちごで, 'jama?icubi ともいう。
- takakaza① (名) 生臭いにおい。kaza は

- 香り, におい。生臭いは hwirugusasan という。
- takamaa**①* (名) takamaami と同じ。
- takamaami**① (名) めだか。淡水にすむ長さ3センチぐらいの小魚。takamaa, takamami ともいう。
- takamami**① (名) takamaami と同じ。
- takamjaagusiku**①* (名) 高宮城。《地》参照。takanaagusiku ともいう。
- takanukurumaci**①* (名) ①空高く, たくさんの鷹が輪を作って飛ぶこと。黒いうず巻きが壮観である。②その時節に出る小さいはぶ。
- takanusiibai**①② (名) 鷹の渡る9~10月ごろ, 青空から霧のように降る小雨。鷹の小便の意。
- takanmi**① (名) 高嶺。《地》参照。
- takara**① (名) 宝。貴重な品物。
- takara**① (名) 多賀良。《地》参照。
- takara**① (名) 高良。《地》参照。
- takaramun**① (名) 棺。kwan(棺)を忌んでいったものであろう。
- takaraNgwa**① (名) 大事な子。子宝。
- takarazima**① (名) ①宝島。土噶喇列島の島の名。②中国や西洋に対し'jamatu(薩摩)のこことをいつわって言ったもの。沖縄が薩摩に間接支配されていることをかくすために, takarazima という島と通商しているように見せかけた。
- takarihwi**① (名) 高利。利子が高いこと。
- takarihwiitujaa**① (名) 高利貸し。
- takari-jun**① (自 =ran, =ti) たかる。一箇所に集まる。かたまる。sirannu ~。しらみがたかる。koosi ~。疥癬がたくさんできる。複合語に husitakaraa (節だらけのもの), zinbuntakaraa (才知のありあまるもの) など。
- takasaagaa**① (名) 高さ比べ。
- takasan**① (形) ①(空間的な位置, 地位などが) 高い。②(値段が) 高い。③(声が) 高い。また, (声が) 大きい。④(におい, 主として悪臭が) 高い。複合語に, takakaza (生臭いにおい), niwidakasan (悪臭が強い) など。
- takasiQpu**① (名) 高志保。《地》参照。
- takasoo**① (名) のっぽ。背の高い者。高い竿の意か。takahazii, takasoonii, takasoonaa などともいう。
- takasoonaa**① (名) takasoo と同じ。
- takasoonii**① (名) takasoo と同じ。
- takaYucagaa**① (名) 偉そうにしている者。超然とかまえている者。
- takaYucagi**① (名) ①高く顔をあげていること。②高慢。超然としていること。~sjun. 超然とする。偉そうにする。
- takaYui**① (名) 高く売ること。'jasiYui(安売り)の対。
- takaYucaki**①② (名) 高値を吹っかけること。高値を付けること。Yansi ~ see kooisee 'uran. そう高い値では買う人はいない。
- takaware**① (名) 声を立てて笑うこと。哄笑。高笑い。~sjun.
- takazan**① (名) 高い山。Yanu muee ~natoon. あの丘は高くなっている。
- takazikuku**① (名) ふくろう。
- takeen**① (名) 二回。-keen は回数を表わす接尾辞。
- takeesi**① (名) 高安。《地》参照。
- takeesi**① (名) 高江洲。《地》参照。
- taki**① (名) 岳。主として拜所 ('uganzu)のある山をいう。拜所のある山は敬ってYutaki ともいう。binnuYutaki [弁御岳], sunuhjanYutaki [園比屋御岳], seehwaYutaki [斎場御岳] など。拜所のない山は, Yunnadaki [恩納岳], 'junahwadaki [与那覇岳] など。
- taki**① (名) たけ。背の高さ。身長。
- takibun**① (名) ①身分。分際。②天分。素質。~nu YAn. 身分がある。また, 素質

takiçikijun

がある。

takiçiki=juN① (自 =raN, =ti) (苦痛・病
気などが)最悪の状態になる。ʔawari ta-
kiçikitoon. 極度に苦しんでいる。ʔjan-
meenu takiçikitoon. 病気が最悪の状態
になっている。危篤である。

takihudu① (名) 体格。身のたけと体格。
hudu はやはり体全体の体格。～ ʔuca-
toon. 体格の均衡がとれている。

-takii (接尾) ごと。ぐるみ。のまま。haku-
takii muçei kuuwa. 箱ごと持ってこい。
hunittakii hakajun. 骨ぐるみ計る。

takimui① (名) 山岳。

takinamun① (名) 程度の知れたやつ。た
かの知れたやつ。

takitutuumi① (名) ありったけ。あるだけ
全部。せいぜい。～nu hataraci qsi 'NN-
di. ありったけの働きをしてみよ。kunu
'jaaja ~ hjakumanendu sjuru. この
家はせいぜい百万円しかない。～ zuu-
rijaka ʔwiija neeran. いくらあっても、
十里以上はない。

taku① (名) 蝸。～nu ʔeeuku. 蝸のように
骨無しの人間。立って歩けない人をいう。
ʔeeuku はその項参照。

taku=buN① (他 =baN, =di) たたむ。折り
返して重ねる。

takuku① (名) 他国。他郷。

takuma① (名) 利口さ。知恵のあること。
悪い意味はない。悪知恵は ʔjanadakuma。

takumaa① (名) 利口者。知恵のある者。
うまいことを考える者。悪い意味はない。

takumaciraa① (名) 切れ者。利口者。頭の
よく働く者。

takumaciri① (名) 頭がよく切れること。
頭が鋭いこと。

takumacirimun① (名) takumaciraa と
同じ。

takumui① (名) 4 厘。錢 200 文。ziN (錢)
の項参照。

takumuiguNzuu① (名) 5 厘。錢 250 文。
ziN (錢) の項参照。

taku=nuN① (他 =maN, =di) たくらむ。
企てる。muhun ~. 謀叛をたくらむ。

takusi① (名) 沢岬。《地》参照。

takutu① (名) 二言 (ふたこと)。次の慣用
句で用いる。takutoo neen. 異論なし
に。口答えせずに。言通りに。二つ返事
で。

takuwee=juN① (他 =raN, =ti) 貯える。

tama① (名) ⊕玉。丸いもの。また、宝玉。
のろ(nuuru)の首飾りの玉など。tiçpuu-
nu ~. 鉄砲の玉。～ hacoon. イ。首飾
りの玉を首にかけている。ロ。小児の首・
手足などが丸丸と太り、輪をはめたように
めりこんでいる。～nu sakazici. [文] 玉
杯。ʔutuku ʔNmarituti kui siran mu-
nuja ~nu sakazicinu sukun miran.
[をとこ生れとて 恋知らぬものや 玉の
さかづきの 底も見らぬ (執心鐘入)] 男
に生まれて恋を知らぬ者は玉の杯の底を見
ないのと同じ。⊖ガラス。

tama① (名) たま。まれ。～nu hanasi.
たまの話。～ni ʔicataru mun. たまに
会ったんだもの。

tamabai① (名) ガラス張り。ガラス戸・ガ
ラス窓など。

tamagai① (名) 凶兆。人の死の前兆。魂が
火の玉となって、家の上に高く上がった
りすること。また、人の泣き声がしたり、
棺桶を作る音が聞こえたりする。タマアガ
リ(魂上がり)の意であろう(伊波普猷)。

tamaga=juN① (自 =raN, =ti) 死の前兆が
現われる。tamagai が起こる。

tamagu① (名) 卵。主として、鶏卵または鳥
の卵をいう。kuuga ともいうが、kuuga
(卵)には擧丸の意味があるので、上流で
は、避けて tamagu という。

tamaguhwin① (名) ガラスびん。kuhwin
は小びん。

tamaguşikuⓄ (名) 玉城。〔地〕参照。

tamaguzakiⓄ (名) 卵酒。

tamaiⓄ (名) たまり。水溜まりなど。

tamaimiziⓄ (名) 溜まり水。ひと所に溜まって、流れない水。

tamajanⓄ (名) 玉が痛むこと。すなわち、眼球が痛むこと。あるいは睾丸が痛むこと。

tama=juNⓄ (自 =raN, =ti) たわむ。しなやかに曲がる。しなり。

tama=juNⓄ (自 =raN, =ti) 溜まる。mi-zinu ~. 水が溜まる。ziNnu ~. 銭が溜まる。

tamakuganiⓄ (名) 玉や黄金 (のように大事なもの)。

tamakuganinasi'gwaⓄ (名) [文] 玉や黄金のような産みの子。

tamakugani'zoⓄ (名) [文] 玉や黄金のようなかわいい女。

tamakuganisatu'meⓄ (名) [文] 玉や黄金のような背の君。

tamamiziⓄ (名) [文] [玉水] 水・井戸などの美称。きれいな水辺。'wakanaciğa nariba kukuru ųukasariti ~ni ųuriti kasira ųarawa. [若夏がなれば 心浮かされて 玉水において かしらあらは (銘苅子)] 初夏になったので、心浮き浮きと、美しい水べに降りて髪を洗おう。

tamanuuⓄ (名) [文] 玉の緒。命。nasaki ųati kakusi nubinu hanaşisici, taiga ~nu ųusisa ųaraba. [情あてかくせ 野辺の花すすき 二人が玉の緒の 惜しさあらば] 情あって隠してくれ、野辺のすすきよ、二人の命を惜しく思うならば。

tamanuwariⓄ (名) ガラスの破片。

tamaNⓄ (名) 鯛の類。makubu とともに魚のうちでもっとも美味とされるもの。ųiibuusaani ~ çijuN. えびで鯛を釣る。ųiibuu はとびはぜ。

tamaNcaabuiⓄ (名) [玉御冠・たまみきや

ぶり] 玉のかんむり。王冠。

tamasakaⓄ (名) [文] まれ。まれなこと。~nu kujui tuija ųutarutun, sibasi ųakigumuni nasaki ųarana. [たまさかの今宵 鳥や歌るとも しばし明雲に 情あらな] たまに会う今夜のこと、鶏は鳴いても、しばらくの間、夜明けの雲に情があってほしい。

tamasiⓄ (名) 魂。精神。注意し思慮する心。~ kanagijuN. 心をひきしめて、注意する。~ ųiqcooN. 精神がしっかりしている。

tamaşiⓄ (名) 銘銘の分。持ち分。

tamasiiⓄ (名) 魂。靈魂。死者の魂をいう。tamasi とは別。生きている人の魂は mabui という。

tamasikwee'kaagiⓄ (名) 賢そらな顔つき。

tamasikwe'emunⓄ (名) 思慮深い者。

tamatagakiⓄ (名) 二股をかけること。二股がけ。niwanu kubagaşini ųnmaja çinagutuN ~ satuni ųuzimu kwiruna. [庭のこぼが巢に 馬やつなぐとも たまたがけ里に 御肝呉ゆるな] 庭のくもの巢に馬をつないでも、二股がけの男に心をくれてはいけない。

tamaųuduNⓄ (名) [霊御殿] 琉球王の代代の墓地。首里にある。

tamee=juNⓄ (他 =raN, =ti) 溜めておく。いくつも溜める。tamijuN を継続する。

tameesiⓄ (名) 玉代勢。〔地〕参照。

tamiⓄ (名) ため。tamee ųaran. ためにならない。結果が悪くなる。caçci suba nacee, tamee ųaran. 嫡子をさしおいては、ためにならない。

tamiⓄ (名) ふた目。~too 'Nndaran. ふた目とは見られない。

tami=juNⓄ (他 =raN, =ti) たわめる。ためる。曲げる。'juda ~. 枝をたわめる。

tami=juNⓄ (他 =raN, =ti) 溜める。たくわえる。ziN ~. 銭を溜める。

tamisi

tamisiⓐ (名) ⊖ためすこと。試み。canu-gutooga ~ qsi 'NNdee. どんなか試してみろよ。⊖前例。ためし。munu ?umi-ba ?iruni ?arawariru ~. [物思めば色にあらはれるためし(忠臣身替)]ものを思うと顔色に現われてしまうものだ。⊖限度。ほど。限り。caQsa maasatin ~nu ?an doo. いくらおいしくても、限度があるぞ。

tami=sjuNⓐ (他 =saN, =ci) ためす。試みる。tamisi sjuN ともいう。

tamoosiⓐ* (名) 玉城。《地》参照。

tamuciⓐ (名) 保つこと。長く続いてもつこと。

tamu=cuNⓐ (自 =kaN, =ci) 保つ。長持ちする。もつ。tamukasan. 長持ちさせない。子供がおもちゃをすぐこわしてしまう場合など。

tamuNⓐ (名) たきもの。たきぎ。まき。

tamuNtujaaⓐ (名) たきぎ取りを業とする者。

tamuN?ujaaⓐ (名) たきぎ売りを業とする者。

tamutuⓐ (名) たもと。明治以後、男が断髪してからの衣服はたもとがあったが、それまでは単なる広袖であった。

tamutusudiⓐ (名) たもとのある袖。hukurusudi ともいう。

tanaⓐ (名) 棚。~ kacuN. 棚をつくる。

tanabaraaⓐ (名) 棚原 (tanabaru) の者。卑称。

tanabaruⓐ (名) 棚原。《地》参照。

tanabataⓐ (名) たなばた。7月7日。行事の名。墓参・墓地の掃除などをして、盆祭りに備える祭りを行なう。星祭りは行なわなかった。

tanabi=cuNⓐ (自 =kaN, =ci) (油などが) 水面に広がる。?andanu mizinakai ~. 油が水に浮いて広がる。

tanagaaimuNⓐ (名) 変わり種。また、親

に似ない者。不肖の子。種変わり者の意。

tanagaa=junⓐ (自 =raN, =ti) 変種が生ずる。在来の種類とは違ったものとなる。また、親に似なくなる。

tanageeⓐ (名) 川えび。淡水にすむ小えび。

tanakaⓐ (名) 間。中間。?anu 'jaatu kunu 'jaatunu ~. あの家とこの家の間。sanZitu 'juzitunu ~. 3時と4時との間。

tanakaⓐ (名) ふたなのか。死後14日目に 行なう法事。

tanariⓐ (名) ⊖ていさい。ありさま。身のこなし。風采。また、ぐあい。つごう。便利。'iitanari. (着こなしなどがいいこと。着物などがよくうつること。) ~nu 'juta-sjan ('waQsaN). つごうがいい(悪い)。便利がいい(悪い)。⊖(接尾) cinciidanari (着こなし), munu?iitanari (ものの言いぶり) など。

tanasiⓐ (名) 女の夏の礼服。晴れ着。tun-bjan (中国から輸入される布)、または上等の芭蕉布で作る。多くは bingata あるいは ?akauu (いずれもその項参照) である。貴族の tanasi は 'ncanasi (御タナシの意) という。

tanasiwata'zinⓐ (名) tanasi と watazin. 夏冬の礼服。

taniⓐ (名) [文] 谷。tani (陰茎) と同音語なのでほとんど使われない。

taniⓐ (名) 陰茎。男根。soo, cuucuU などともいう。「種」に対応する。

tanihjaaⓐ (名) どいつ。どやつ。tani を 忌んで tanuhjaa ともいう。

taniNⓐ (名) 他人。coodeeja ~nu hazimai. 兄弟は他人のはじまり。

tani?urusiⓐ (名) 種おろし。種まき。tani を 忌んで sani?urusi ともいう。

tanuhjaaⓐ (名) どいつ。どやつ。tanihjaa ともいう。

tanuka=sjuN① (他 =saN, =ci) 誘惑する。
 そそのかす。tanukasarijuN. 誘惑される。
 そそのかされる。たぶらかされる。
 tanumi① (名) 頼み。依頼。
 tanu=nuN① (他 =maN, =di) 頼む。依頼する。
 tarunuN ともいう。
 tanusimi① (名) 楽しみ。
 tanusi=nuN① (自 =maN, =di) 楽しむ。
 taN① (名) 痰。ことに肺病やみの出す痰。
 痰は多くは kasagui という。～nu sawai. 肺病。
 tanunkai ʔiqcoon. 肺病にかかっている。
 肺病は tanjanmee ともいう。
 taN① (名) ㊦反。衣服一着分の布の長さ
 (鯨2丈8尺)。鯨尺の輸入される前は、両
 手を広げた尋(1尋4尺の計算)で計った。
 ㊦(接尾) nitaN (二反) など。
 taN① (名) 炭。木炭。
 taNbaku① (名) 炭箱。
 taNbi① (名) 炭火。
 taNca① (名) 谷茶。《地》参照。
 taNcaa① (名) 短気者。
 taNci① (名) 短気。～haradacija kiganu
 mutu. 短気腹立ちのはげがもの(諺)。
 taNcirasi① (名) 痰切り。痰をなくする薬。
 痰切りしの意。こんぶ・餡などがよいとさ
 れる。
 -taNda (接尾) たぶら。肉の太っている部
 分を意味する接尾辞。ʔibitanda (しりべ
 た), kweetanda ʔucun. (まるまると太っ
 ている) など。
 taNdaara① (名) 炭俵。
 taNdi① (副・名) どうか。どうぞ。たつて。
 懇願・哀願する時に用いる。多く女が言う
 語。～ʔunasakini ʔjuruci taboori. どう
 かお情けで許して下さい。～tootu, ʔwaa-
 qkwanu nuci taʔikiti kwimisjoori. ど
 うかどうかわが子の命を助けて下さい。
 ～nu nige. たつての願ひ。
 taNditandii① (副) どうかどうか。どうぞ

どうぞ。哀願するさま。～ʔsin tunkee-
 tin ʔNndantaN. お願いだからと頼んで
 もふり向いても見なかった。
 taNgana① (名) 誰か。taagana と同じ。
 ～ʔikani. 誰か行かないか。
 taNganamaNcuu① (名) 誰だか。誰かさ
 ん。目の前にいる子供をあてこすつて言う
 時などに使う。～ga ganmari sjun. 誰
 かさんがいたずらする。
 taNjaca① (名) 炭焼き。炭を焼く者。
 taNjama① (名) 谷山。鹿児島島の地名。
 taNjanmee① (名) 肺病。tanu sawai.
 ともいう。肺病になっていることは tanu-
 nkai ʔiqcoon. という。
 taNkaa① (名) 満一年の誕生日。その祝ひ
 の日は机の上にいろいろな物を置き、自由
 に取りたい物を取らせる。はじめに取る
 物、次に取る物をもって、性格を予測し将
 来を祝福する。はじめに書物を取れば学者
 になるとか、金を取れば金持ちになると
 か、仏飯(ʔuhuku)を取れば食の果報が
 あるとか言つて、皆喜ぶ。
 taNkaa① (名) 真向かい。正面。
 taNkaadaci① (名) 若夫婦の世帯。次男三
 男が分家して夫婦で一家を営む場合をい
 う。子供ができて小さい間は taNkaa-
 daci だが、子供が一人前になればそうは
 いわない。また老夫婦の二人暮らしにもい
 わない。
 taNkaageei① (名) 等価の物品の交換。双
 方の品物を等価と見て交換すること。もし
 品物に差違があれば、劣る方の品に何か足
 して等価にして交換する。その足すことを
 ʔwii ʔucun という。
 taNkaai① (名) 相對して坐ること。さし向
 かい。-ii<'ijuN.
 taNkaamaNkaa① (副) 相對するさま。向
 かい合うさま。
 taNkaamisi① (名) 一つ違ひの子を産むこ
 と。年子を産むこと。tiiçimisi と同じ。

taNkaanaa

taNkaanaa①(名) 対等。相方が対等であること。一騎打ちとか、同人数のけんか、一對一の品物の交換など。

taNki=juN①(他 =raN, =ti) ①病気の体を大事にする。体に用心する。taNkiri 'joo. お大事に。(病人へ言う) ②加減を調節する。手加減する。手ごろにしておく。議論などをひかえ目にする。

taNmee①(名) 士族の祖父。また、士族の老翁。おじいさん。平民の祖父は ?usju-mee という。

taNmii①(名) 短命。coomii(長命)の対。

taNmjatu①(名) 田港。taNnatu, taNnaともいう。《地》参照。

taNna①(名) 手綱(たづな)。

taNnatu①(名) 田港。taNmjatu ともいう。《地》参照。

taNni=juN①(他 =raN, =ti) 尋ねる。tazinijuN ともいう。

taNnumuN①(名) どいつ。何者。taa の卑語。～ga. どいつだ。

taNši①(名) たんす。日本風のたんすは coodaŋši(京だんす)という。

taNtii①(名) [新?] 探偵。sinubi [文] と同じ。

taNtui①(名) 苗代に稲種をまくこと。また、その儀式。

taQcaNtaQcaN①(感) たっちたっち。立った立った。幼児が立ったことをほめはやす語。taQcaN は「立った」。

taQci?adaa=sju¹N①(他 =saN, =ci) となりつける。taQci は強意。?adaasjuN はどなる。

taQçikaimuQ¹çikai①(副) taQkwaimu-çkwai と同じ。やや上品な語。

taQçika=ju¹N①(自 =raN, =ti) くつつく。taQkwajuN と同じで、少し品のいい語。

taQçikihwiQ¹çiki①(副) 何度もくつつけるさま。

taQçikimuQ¹çiki①(副) taQçikihwiQçiki

と同じ。

taQcuu①(名) とがって立っているもの。橋の欄干の柱など。人についてもいう。梵語の塔頭から来た語か。?iitaQcuu. 伊江島の丘にあるとがった岩。

taQkwaa=sjuN①(他 =saN, =ci) くつつける。ひつつける。密着させる。

taQkwaimuQ¹kwai①(副) くつつき合うさま。餅などがくつつき合うさま。また、男女間・親子間についてもいう。

taQkwa=juN①(自 =raN, =raN, =ti) ①(餅などが)くつつく。ひつつく。密着する。粘着する。②(子供が母親に)くつつく。また、(男女が)いちゃつく。

taQkwii①(名) 血統。血筋。血筋。～nu 'juta-sjan. 血統がいい。suguridaQkwii は秀才の血統。

taQkwi=juN①(自 =raN, =ti) ただれる。腫れもので皮膚がくずれる。

taQsi①(名) 違し。官府から人民への、また上役から下役への通達。

taQsja①(名) ①違者。健康。②違者。上手。

taQta①(副) ①たびたび。～kuu 'joo. たびたび来い。②次第に。～masi najun. だんだんよくなる。

taQtiiN①(名) 盛大。～na gusjuuzi. 盛大なお祝い。

taQtu=buN①(他 =baN, =di) 尊ぶ。

taQtuihwiQtui①(副) 胸がどきどきして落ち着かないさま。そわそわ。～sjun.

taraa=juN①*(自 =N, =raN, =Qti) 満ち足りる。不足がない。

tarama①(名) 多良間島。宮古群島の島の名。

tara=sjuN①(他 =saN, =ci) 垂らす。垂れ下がるようにさせる。また、したたり落とす。?usiru ～. 女が礼装する時、髪をうしろへ垂らすように結う。'judai ～. よだれを垂らす。

tarataraⓄ (副) たらたら。'judai ~. よだれたらたら。ʔandaguci ~ sjun. 甘言をたらたら言う。

taree=juNⓄ (他 =raN, =ti) 足す。補う。不足分を加える。

tariⓄ (感・助) もし。tai と同様に tai よりさらに目上に女が用いる敬語。男は sari という。

tari=juNⓄ (自 =raN, =ti) 垂れる。

tari=juNⓄ (他 =raN, =ti) (酒・醤油などを) 醸造する。

tari=juNⓄ (自 =raN, =ti) 足りる。

taruⓄ (名) 樽。saataadaru (黒砂糖をつめる樽) など。

taruⓄ (名) [文] 誰。~ju ʔuramituti nacuga hamaciduri ʔawaN ʔirinasaja 'wamin tumuni. [誰よ恨めとて 鳴きゆが浜千鳥 会わぬつれなさや 我身も共に] 誰を恨んで鳴くか浜千鳥よ、死んだ子に会えない悲しさは、わたしもいっしょだ。

tarugaaⓄ (名) (砂糖用の) あき樽。-gaa <kaa (皮)。

tarugajooⓄ (名) 柑橘類 (kunibu) の一種。

tarugaki=juNⓄ (他 =raN, =ti) 当てにする。頼みにする。'wakasa tarugakiti 'judandun ʔiruna, ʔNminu hwaja hananu niui siran. [若さたるがけて 油断どもするな 梅の葉や花の 匂ひ知らぬ] 若さを頼みにして油断などするな。梅の葉は花のにおいを知らない。tarugakiru 'jamani ʔami hurasjun. たきぎを当てにしている山に雨を降らす。山のときぎを当てにしていると雨で取れなくなる。しないうちから当てにするな。(詠)

taru=nuNⓄ (他 =maN, =di) tanunun と同じ。

tasiⓄ (名) 足し。補い。代理。補欠。~ ʔirijun. 代わりにものを入れる。

tasijaaʔubunⓄ (名) いため御飯。

tasi=juNⓄ (他 =raN, =ti) (食物を油で) いためる。

tasikaⓄ (名) 確か。また、多分。きっと。~ni. 確かに。~na. 確かな。~ 'jami. 確かか。

tasikami=juNⓄ (他 =raN, =ti) 確かめる。

tasikasiiⓄ (連体) 確かな。間違いない。~ qcu. 確かな人物。

taʔikiⓄ (名) 助け。援助。救助。

taʔiki=juNⓄ (他 =raN, =ti) 助ける。

tasimaⓄ (名) 他村。よその部落。sima は部落の意。qcuu sima ともいう。

tasimeeⓄ (名) 不足を補う分。足し前。また、不足の立て替え分。立て替え。また、賠償。弁償。~ sjun. 不足分を補う。立て替える。弁償する。

tasimee=juNⓄ (他 =raN, =ti) 不足分を補う。また、立て替える。人に代わって品物・金銭などを払っておく。また、弁償する。

tasinamiⓄ (名) たしなみ。心掛け。

ta=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) 裁つ。(布を) 裁断する。tacai nootai. 裁ったり縫ったり。

tataasjanⓄ (形) 分に過ぎる。身分不相応である。tataasii kutu. 分に過ぎたこと。

tataciN=cuNⓄ (他 =kaN, =ci) たたき込む。

tata=cuNⓄ (他 =kaN, =ci) たたく。

tataka=juNⓄ (自 =aN, =raN, =ti) 戦う。戦闘する。勝負を争う。

tatakeeⓄ (名) 戦い。合戦。ʔikusa は戦争。

tatama=juNⓄ (自 =raN, =ti) 滞る。食物が消化せずにとどこおる、溝がつまるなどの場合にいう。

tataNⓄ (名) 畳。biigudatan (備後表の畳) と 'iidataN (琉球表の畳) とがある。

tataNjaaⓄ (名) 畳屋。

tataNzeekuⓄ (名) 畳屋。

tatari

tatari① (名) たたり。鬼神・もののけなどが災いをなすこと。

tati① (名) 縦。'juku (横) の対。

tatiçibu① (名) 建坪。

tatihuda① (名) 立札。禁止事項などを書いて道ばたに立てる札。takahuda (高札) ともいう。

tatijuku① (名) たてよこ。

tati=jun① (他 =raN, =ti) ①立てる。建てる。②起こす。生じさせる。③嫁入りさせる。とつがせる。④記入する。帳面に金銭や人名などを記入する。

tatikee'Ziri'kee① (副) 何度も茶・湯などを入れかえるさま。また、何度も飯などのお代わりをするさま。~ sjun.

tasi'Zukuri① (名) 記入もれ。

tatu① (名) ふたとせ。二年

tatugusi① (名) 二年おき。

tatui① (名) 例。事例。ʔunna tatuee neraN. そんな例はない。

tatui① (副) たとえ。~ ʔicirinu mici 'jatin. たとえ一里の道であっても。~ ʔaN 'jarawan. たとえそうであっても。

tatuibanasi① (名) たとえ話。

tatu=jun① (他 =raN, =ti) たとえる。taturee. たとえば。

tatumitu① (名) 二, 三年。

taturu=cun① (自 =kaN, =ci) ①(心が) 迷う。落ち着かない。②(死者の霊が) 迷う。先祖の祭りを怠ったため、あるいは、先祖の霊が子孫を心配して、迷う。

tatuii① (名) 二通り。

taucii① (名) 鬪鶏。tawacii と同じ。

tawacii① (名) 鬪鶏。鶏の一種。しゃも。またその鶏を、財物をかけて戦わせること。taucii ともいう。

tawahuri① (名) [文] たわむれ。口語では ganmari という。mizi hus'jaja naziki, ~du 'jajuru. [水欲しややなづけ たはふれどやゆる (手水之縁)] 水が欲しいとい

うのは口実であって、たわむれであろう。

tazi=jun① (自 =raN, =ti) たぎる。煮え立つ。

tazini=jun① (他 =raN, =ti) tazunijun と同じ。

tazirasikeesaa① (名) 何度も煮返すこと。また、何度も暖め返した料理。

tazira=sjun① (他 =saN, =ci) ①tazijun (たぎる) の使役。②(食物を) 煮返して暖める。暖め返す。

tazuni=jun① (他 =raN, =ti) 尋ねる。tazunijun, ta'nnijun ともいう。しかし、口語ではふつう tumeejun (求める), cicun (聞く) などを用いる。

tee① (名) 力。たえる力。はねかえす力。堪えの意か。teezikara, teecikara ともいう。~nu ʔaN. (たえる) 力がある。~ ʔiqti hwicun. 力をこめて引く。~ sjun. 根にもつ。恨みを持ち、対抗する。~tun miitun kanaan. どうにもこうにもしようがない。いくら苦心し努力しても、いたしかたがない。cimutun ~tun kanaan. も同じ。~N tataran. 力の入れどころがない。張り合いが無い。ʔanu gutooru 'warabitoo ~N tataran. あんな子供では張り合がなく本気になれない。~N tatan. 煮えきらない。はっきりしない。~N tatan hwizi sjutan. 煮えきらない返事をしていた。

tee① (名) たいまつ。竹・かや・きびがらの類をたばねて火をともし、照明用としたもの。松のそれには tubusi という。

tee① (名) 胎。胎児。~ ʔukijun. 胎を受ける。懐胎する。kweetee sjun と同じ。

-te'e (助) と言い。繰り返して用いることが多い。ʔicun~ ʔikan~ qsi ʔooetiiee sjuna 'joo. 行くだの行かないだの言ってけんかするなよ。'jaN~ ʔaraN~. そうであると言い、そうでないと言い。甲論乙駁。

- teebii⑩ (名) tee (たいまつ) の火。
- teebjoo① (名) 大病。重病。
- teebuku⑩ (名) 大木。大樹。ʔuhugii と
もいう。
- teebun⑩ (名) 大分。たくさん。
- teeçi=eun⑩ (自 =kaN, =ci) 燃え付く。つ
けた火がよく燃えはじめる。
- teeci'kara⑩ (名) 堪える力。また、大力。
teezikara ともいう。tee の項参照。
- teeciiki=jun⑩ (他 =raN, =ti) 焚き付ける。
- teedaka⑩ (名) 多量。たくさん。多額。
~ mookitaN. たくさんもうけた。
- teeduku⑩ (名) 胎毒。胎児の時に胎中で受
けた毒。
- teegee⑩ (名) ㊦大概。大てい。おおよそ。
~ siqcooN, 大概知っている。㊦大概の
程度。相当。~du ʔjaru. 大したことはない。
~ja ʔaN. 相当なものだ。まずまずだ。
- teegeezaNmin⑩ (名) 概算。目の子勘定。
- teehaikazi'hai⑩ (副) 声を限りに。あらん
限りの声で叫ぶさま。simatiihjaatii と
もいう。~ ʔabijun. 声を限りに叫ぶ。
- teehati=jun⑩ (自 =raN, =ti) [新] 絶え
果てる。
- teehujaa⑩ (名) tee (たいまつ) を振る者。
綱引きの時には、火をつけた tee を大勢
がふりかざし、暗夜も白昼のように明るく
なる。
- teehuu⑩ (名) 台風。大風。おとなの使う
語。ʔuukazi ともいう。
- teehwa⑩ (名) 冗談。おどけ。こっけい。
- teehwaa⑩ (名) おどけ者。
- teehwaku⑩ (名) 太白。白砂糖。
- teejaku⑩ (名) 大役。重い役目。
- tee=jun⑩ (自 =raN, =ti) ㊦費える。欠乏
する。とぼしくなる。消費されて減ってい
く。㊦ 絶える。なくなる。減びる。ʔatu
~. 子孫が絶える。
- teeku⑩ (名) 太鼓。
- teekuku⑩ (名) [大國] 中国を大國として
尊敬している語。
- teekwan⑩ (名) 大官。高位高官の人。
- te'emaN (助) ても。とて。…したところ
で。ʔican~ cikan. 言ったって聞かない。
- teen⑩ (名) 織機の箆(おさ)の種類の名。
経糸 960 本を通すもの。また、それで織つ
た布。huūuci の項参照。
- te'eN (助) ても。とて。…したところで。
-teemaN と同じ。ʔican~ caa sjuga.
言ったところでどうなるか。
- teen (接尾) だけ。きり。cuiteen ʔuru
qkwa (ひとりきりでいる子。ひとりきり
の子) など。
- teenNnatu⑩* (名) 炬港。本部半島の北岸に
ある港の名。
- teera⑩① (名) 平良。《地》参照。
- teera① (名) 田井等。《地》参照。
- teeruu① (名) 逗留。滞在。
- teesaga=jun⑩ (他 =raN, =ti) (けんか・
議論などで相手に) 食い下がる。
- teesici⑩ (名) 大切。大事。~ni muqci
ʔaqki. 大切に持って歩け。mimuci ~ni
qsi ʔjoo. 体を大切にしろよ。お大事に。
~na. 大切な。
- teesjoo⑩ (名) 大将。かしら。一群の長。
- teesjuku⑩ (名) 大食。健啖。
- tee=sjun⑩ (他 =saN, =ci) ㊦費やす。消
費する。使って減らす。ziN ~. 金を費や
す。㊦絶やす。
- teesoo① (名) 難儀。困難。tusi tuti, ʔa-
qcuʂiN ~. 年をとって、歩くのも難儀。
- tecteemunii⑩ (名) teeteemunuʔii と同
じ。
- teeteemunuʔii⑩ (名) 舌がもつれるよう
な、ものの言い方。
- teetii⑩ (名) 大てい。大概。一とおり。あ
らかた。~nu kutoo ʔwakajun. 大てい
のことはわかる。~ ʔjutasjan. あらかた
いい。

- teetutuumi**① (副) せいぜい。たかだか。
 ~ ʔuzoobaan ʔjasa. せいぜい御門番に
 しかねないよ。
- teeʔutugee**① (名) 二重あご (太った人な
 どの)。tee はふたえの意か。
- teewa**① (他) おあがり。お食べ。老女が目
 下に「食べよ」という意をやや丁寧にいう
 語。命令形のこの形のみを用いる。普通の
 人は kamee (食べろ) という。
- teewaka=sjun**① (自 =saN, =ci) (否定形は
 あまり用いない) 聞き分けがない。もて余
 す。子供などが、わがまま・乱暴をして困ら
 せる。人の体を分かつ意。teewakacooru
 ʔwarabi. もて余すような子供。
- teezee**① (名) 滞在。逗留。旅をして、ひと
 所に長くとどまること。
- teezikara**① (名) 大力。
- teeziʔkara**① (名) teecikara と同じ。
- tenbusu**① (名) でべそ。ʔwenbusu と同
 じ。
- teNteN**① (副) 三味線の音のさま。
- teNtuu**① (名) 三味線の小兒語。
- ti** (接尾) 手。グループ・隊などを数える
 接尾辞。cuti (一手), tati (二手), ʔiku-
 tii (幾手) など。
- tibana=sjun**① (他 =saN, =ci) 手放す。持
 ち物を売却することなどをいう。
- tibee=juN**① (自 =raN, =ti) あばれる。乱
 暴狼籍を働く。ひどいいたずらをする。
- tibici**① (名) 料理名。普通 ʔutibici とい
 う。その項参照。
- tibiku**① (名) 農具の名。木製で、さつまい
 もの苗を植えるために穴を掘る場合などに
 用いる。手鉾の転か。
- tibusi**① (名) 腕力。腕っぶり。また、働き。
 手節の意。qkwanu ~ kanun. 子の働
 きに頼る。
- tici**① (名) 敵。戦う相手。また、かたき。
- tiçi**① (名) 鉄。
- tiçijaqkwan**① (名) 鉄びん。

- tidaN**① (名) 手段。てだて。方法。cimurusa sici ʔuti, musika taNcaga ~ hwicikawaci, ʔumingwanu ʔwiini ʔarasigwinu ʔaraba, nigati ʔuru kutun ʔumuti ʔjaku tatan. [肝ぬるさしちをて 若か谷茶が 手段引替ち 思子の上に あらし声のあらば 願てをる事も 思て役立たん (大川敵討)] のんびりして いて、もしも谷茶が手段を変えて、若君の上に万一のことがあったら、願っていることも何の役にも立たない。~nu neeran. 手だてがない。
- tidaŋiki**① (名) 手助け。加勢。他の仕事を 助けること。
- tidee**① (名) 饗応。人にごちそうすること。
- tidee=juN**① (自 =raN, =ti) 饗応する。ごちそうする。
- tidikuN**① (名) 手登根。《地》参照。
- tigakai**① (名) 手掛かり。捜し出す、または着手する端緒。
- tigami**① (名) 手紙。むかしは hagaci (端書) といった。その項参照。
- tigancee**① (名) 手伝い。加勢。仕事の手助けをすること。
- tigara**① (名) 手柄。功勞。
- tiʔgaroo** (助) とか。とかいう。maagana~. どことか。
- tigukuru**① (名) 手心。手加減。
- tiguma**① (名) 手先が器用なこと。
- tigumi**① (名) 手組み。手配。手はず。準備。ʔacaga hwini naraba, ʔikusa ʔusijusiti, ʔucitujuru ~ sjuru ʔucidu ʔjataru. [あちやが日になれば いくさ押寄せて 討ちとゆる手組 しゆるうちどやたる (忠臣身替)] あすになったら軍勢が押し寄せて打ち取る手配をしているところだった。tigumee seemi. 手配はしてあるか。
- tigusu**① (名) てぐす。てぐす糸。てぐす蚕から取った糸。つり糸用。tigusui ともし

- う。
- tigusui**Ⓞ (名) tigusu と同じ。
- tigutu**Ⓞ (名) 手事。歌が中断している間の、琴・三味線の弾奏。
- tihoo**Ⓞ (名) 次の句で用いる。～ ?usinajun. 途方にくれる。なすところを失う。tadeemanu kutu 'jati, ~ ?usinajun. 突然のことで、どうしてよいかわからなくなる。
- tihui**Ⓞ (名) 手振り。踊りの手振り。?un-nadaki nubuti ?usikudai miriba, ?unnamaçiganiga tihuzurasa. [恩納岳登て 押し下り見れば 恩納松金が 手振りぎよらさ] 恩納岳に登って、はるか下を眺めると、松の枝振りの美しさはここで恩納松金が舞った時の手振りの美しさを思い出させる。
- tihun**Ⓞ (名) ⊖手本。模範。⊖見本。
- tihwana'waza**Ⓞ (名) 危険なわざ。あぶないふるまい。
- tii**Ⓞ (感) ひい。一つ。声を出して数える時々のみいう。
- tii**Ⓞ (名) ⊖手。腕の付け根から指先までの全体。また、手首から先。その敬語は 'nei. ~ ?usjaasjun. 手を合わせる。合掌する。～ kamijun. 手を頭にのせる。頭をかかえこむ。悲しい時、心配な時、寝て手を額にのせて悩む時などのさまをいう。～ kusjaa maaci sibajun. 後ろ手に縛る。～kara hanasjun. イ。手から放す。ロ。(大事なものを) 手放す。売却する。(大事なものを) 失う。～nu tudukan. 手が届かない。及ばない。また、行き届かない。～nu 'warijun. ひび・あかぎれなどができる。～ neejun. 手を出す。手を差し出す。また。なぐる。～ miijun. 子供が成育して、働けるようになる。手が生える意。⊖取っ手。柄。⊖手腕。技。術。また、手段。方法。Ⓞ唐手。拳法の術。～ çikajun. イ。唐手を使う。
- また、唐手の技を演ずる。ロ。転じて、人が働いている時に何もしていないでいる。冗談にいう。
- tii**Ⓞ (名) 樋。竹製が多い。
- tii?abui**Ⓞ (名) 手あぶり用の小さい火鉢。hwiiuru と同じ。
- tii?anda**Ⓞ (名) 料理を特に念を入れて作ること。手の油の意。～ ?nzasjun. 念入りに料理する。手の油を出す意。
- tii?arasan**Ⓞ (形) 手荒い。しわざ、物の扱い方が荒っぽい。
- tii?aree**Ⓞ (名) 手洗い。手を洗うための器。また、その水。
- tiibeesan**Ⓞ (形) ⊖手早い。仕事が早い。⊖短気で、すぐ手を出してなぐる。
- tii bucukuru**Ⓞ (名) ⊖ふところ手。⊖働かずに何もしないこと。
- tii buraari**Ⓞ (名) 手不足。人手が足りないこと。buraari は不足。
- tii busuku**Ⓞ (名) 手不足。人手が足りないこと。tii buraari ともいう。
- tiiçi**Ⓞ (名) ⊖一。一つ。一個。sjuutee ~ najun. 所帯が合併して一つになる。⊖似ていること。そっくり。同じ。çira ~. 顔がそっくりで同一人のようだ。
- tiiçibirii**Ⓞ (名) 一つ一つ拾うこと。また、一つ一つ数えあげること。
- tiiçigaci**Ⓞ (名) 一つ何何と書くこと。箇条書き。
- tiiçi?irabi**Ⓞ (名) 一つ一つ丁寧に選ぶこと。多くの中からいいものを選び出すこと。
- tiiçimacaa**Ⓞ (名) つむじが一つの者。taaçimacaa の項参照。
- tiiçimisi**Ⓞ (名) 年子を産むこと。tankaa-misi ともいう。misi は見せることで、弟妹を兄姉に見せるの意。弟妹が生まれることを ?uqtu misijun という。年子はまれに tusingwa ともいう。二つ違い(三つ違い)の子を産むことは、taaçimisi (miiçimisi) という。

tiĩçimunⓂ (名) 同じ物。同一物。また、すっかり同じもの。taacuu 'jakutu çiraa ~ 'jasa. ふた子だから顔はすっかり同じだ。~nu gutoosa. 同一物のようだ。

tiiciriboocuuⓂ (名) 料理を作る材料が少なく、hoocuu (料理人) が苦心すること。また、客が大勢で家族の食う物が無いことなどをもいう。tiiciri は切るものがなくて手を切るの意。

tiĩçizaaⓂ (名) 一杯のお茶。次のことわざで用いる。~ja numan mun. お茶は一杯だけは飲まないもの。どんなに急ぎの時でも二杯以上飲むべきだ。ゆっくり落ち着いてせよという意味の教訓。

tiidaⓂ (名) 太陽。お日さま。日輪。~nu 'agatoon. 日が上っている。

tiidaʔamiⓂ (名) 日照り雨。きつねの嫁入り。tiidabui ともいう。

tiidabuiⓂ (名) tiidaʔami と同じ。

tiidabuuiⓂ (名) ひなたぼっこ。

tiidarusanⓂ (形) 手がだるい。重い物を長く持っている時とか手を長く上に上げている時とかなど。

tiigooⓂ (名) 手でするいたずら。てご・てんごう(本土諸方言)。tiinuganmari ともいう。~ çicoon. いたずらばかりしている。

tiigurumaⓂ (名) 手かせ。罪人の手にかけるもの。またその刑罰。

tiigusiⓂ (名) 手癖。物を盗む癖。

tiiguusuiⓂ (名) 栄養剤となる食物。たとえば çirabuu (えらぶうなぎ), tuisinzi (鶏のスープ) など。

tiiguusjanⓂ (名) 坐って手を後ろについで、体を支えること。

tiihagoosanⓂ (形) はがゆい。もどかしい。自分で手を出したくなる。

tiihwicibooziⓂ (名) ⊖葬式の引導僧。⊖悪友。誘惑する者。

tiihwisjaⓂ (名) 手足。手と足。

tiihwisjadooriⓂ (名) てんてこまい。

tiihwisjamaçibuiⓂ (名) 手足まとい。

tiĩçiriⓂ (名) ⊖畑の手入れ。⊖物品の修繕。⊖外科手術。

tiijooⓂ (名) 手振り。手つき。おもしろく話す時などの手まね。

tiijooçwisja'jooⓂ (名) 手つき足つき。手振り足振り。

tiijurusjaaⓂ (名) 手を放すこと。綱渡りなどで、何もつかまえないこと。'jurusjaa < 'jurusjun (放す)。

tiikarahana=sjunⓂ (他 =san, =ci) 手放す。tiikara hanasjun ともいう。

tiikwaahwisja'kwaaⓂ (副) いちいち食ってかかるさま。人のすることを片はしから非難攻撃するさま。手を食おう足を食おうの意。~ sjun.

tiimaⓂ (名) 汀間。《地》参照。

tiimaamaaⓂ (副) 準備なく、うろたえるさま。~ sjun.

tiimaamiⓂ (名) 手豆の意。なれない労働などで手にできるまめ。

tiimamiziⓂ (名) 手先でする仕事で手順を間違えること(機織りなど)。

tiimaniciⓂ (名) 手招き。tiimanuci, timanuci ともいう。~ sjun.

tiimanuciⓂ (名) tiimanici と同じ。

tiimaçkwaⓂ (名) 手枕。自分の手を枕に寝ること。これに対し、çudimakura は他人の腕を枕にすること、または他人に腕を枕に貸すこと。

tiimimiziⓂ (名) 老人や病人などの足腰を手でもむこと。あんま。~ sjun.

tiimooⓂ (名) 手の無い者。手無し。-mooはその項参照。

tiimookaaⓂ (名) 前項の卑称。

tiimookuuⓂ (名) 手の無い者。手無し。やや卑称。tiimuçkoo ともいう。

tiimucamucaⓂ (副) ⊖手にねばり気のあるものがついて、手がねばねばするさま。

- 仕事などののろいさま。もたもた。～
sjUN.
- tiimuqkoo**Ⓞ (名) 手の無い者。手の切れて無くなった者。-muqkoo の項参照。
- tiimutaan**Ⓞ (名) 手でいたずらをするこ
と。-mutaan はその項参照。
- tiinagasaN**Ⓞ (形) 盗み癖がある。手が長い
の意。盗み癖のある者は hwizaidiinagaa
(左手の長い者) という。
- tiinaree**Ⓞ (名) tinaree と同じ。
- tiinecihwisja¹neei**Ⓞ (副) けんかをいどむ
さま。手を出したり足を出したり。～
sjUN.
- tiinii**Ⓞ (名) 丁寧。～na kutuba. 丁寧な
ことば。～ni gurii sjUN. 丁寧におじぎ
する。
- tiiniisan**Ⓞ (形) 手がのろい。仕事がおそ
い。niisan は遅い。
- tiinuʔaja**Ⓞ (名) 手のひらにあるすじ。掌
紋。
- tiinuganmari**Ⓞ (名) 手でするいたずら。
tiigoo ともいう。ganmari はいたずら。
- tiinukubi**Ⓞ (名) 手首。
- tiinuʔura**Ⓞ (名) 手のひら。tiinuwata と
もいう。～hwaahwaa sjUN. (子供が病
気などで) 手のひらが熱っぽい。
- tiinuwata**Ⓞ (名) 手のひら。
- tiinuzaa**Ⓞ (名) ①すもうの手の名。手を
相手のわきの下から抜いて背の上に回し帯
を取ること。②水泳の技。抜き手のこと。
- tiin**Ⓞ (名) 手斧の一種。柄の長さ50センチ
ぐらい。刃が鋏のように、柄と交差する方
向についているもの。
- tiin**Ⓞ (名) 織機の篋(おさ)の種類の名。
経糸800本を通すもの。また、それで織っ
た布。huduci の項参照。
- tiinkece**Ⓞ (名) 手向かい。反抗。
- tiinna**Ⓞ (名) 綱引きの時、大きな綱にたく
さんつける小さな綱。人が引きやすくした
もの。手綱の意。çinahwici の項参照。
- tiiNzari**Ⓞ (名) ①手をよごすこと。②やっ
かいな事にかかわること。
- tiira**Ⓞ (名) 照屋。《地》参照。
- tiirami**Ⓞ (名) 十匁。指輪・ziihwaa (か
んざし)・糸・真綿のように軽い物を計る
時に用いる。めったに使わない語。普通
の物を計るには、zuumunmi という。
- tiiru**Ⓞ (名) 手かご。手にさげて持つかご。
また、手のついたざる。sagidiiru は天井
にさげざる。
- tiisaaʔan**Ⓞ (名) 菓子の名。月餅に似た菓
子で、中国伝来のもの。餡に油や香料がは
いっていて、特別の風味がある。
- tiisaazi**Ⓞ (名) 手ぬぐい。saazi は頭に巻
く布。
- tiisagui**Ⓞ (名) 手探り。暗い所で物を捜す
時などの動作。
- tiisica**Ⓞ (名) 手下の転。身分・官位・富
などの程度が自分より下の者。ʔjumece
～kara. 嫁は自分の家より低いところか
らもらえ。
- tiisigutu**Ⓞ (名) 手仕事。手先でする簡単
な仕事。tiiwaza ともいう。
- tiisju**Ⓞ (名) ①亭主。家の主人。②宴会な
どの主人役。
- tiisuʔan**Ⓞ (名) tiisaaʔan と同じ。
- tiitoo**Ⓞ (名) [新] 抵当。担保。sicimuçi
ともいう。
- tiitoodaacii**Ⓞ (名) 手をこまねくこと。何
もしないで傍観すること。
- tiiturationa**Ⓞ (副) 手に取れるほど近いさ
ま。
- tiiʔukuri**Ⓞ (名) 手おくれ。手当がおくれ
ること。また、機会を失ふること。
- tiiʔuqcaki**Ⓞ (名) 肩の後ろの、手を肩の
上からまわして届く部分。そこにできる腫
れものは特に悪性とされる。
- tiiʔuʃeei**Ⓞ (名) 軽く見ること。相手を見
くびること。
- tiiʔwii**Ⓞ (名) 手腕が上であること。

tiiwacaree④ (名) 手をわずらわすこと。
面倒な事に掛かりあうこと。

tiiwatasi④ (名) 手渡すこと。手から手に
直接渡すこと。

tiwaza④ (名) 手仕事。手先の仕事。

tiiza④ (名) 手首の痛むこと。

tiizikaan④ (名) 手づかみ。また、手づかみ
で食うこと。

tiizikasan④ (形) ⊖表通りに面して、通り
から手が届くくらいである。表通りで、物
を盗られやすい。⊖近所である。

tiizikee④ (名) tiizikee と同じ。

tiiziki=jun④ (他 =ran, =ti) ⊖手はずけ
る。懐柔する。⊖病人などを、よく世話す
る。

tiizikun④ (名) にぎりこぶし。げんこつ。
tikubusi ともいう。

tiizooki④ (名) 取っ手の付いたざる。soo-
ki (ざる) はその項参照。

tijaga=jun④ (自 =ran, =ti) 晴れあがる。
照りあがるの意。

-ti'jai (助) とか。tigaroo ともいう。文語
は tijari。

-ti'jari (助) [文] とか。口語は tijai。ka-
kuci ʔan～。隠してあるとか。

ti=jun④ (自 =ran, =ti) 照る。tiidanu ～。
日が照る。

tiakaci④ (名) 灌木の名。車輪梅。てかちぎ。
樹皮、ことに根の皮から茶褐色の染料を取り、
沖縄産の ʔakazumii の原料とする。

tiakazi④ (名) ⊖手数。～ kakijun。手数を
かける。⊖唐手を演ずる際の変化する手の
数。

tiku④* (名) ⊖てこ。⊖かま・ほうちょうな
などの柄につけて刃を固定させるための金
具。

tikubai④ (名) 手配り。手配。手分けして
各自の部署につくこと。

tikubusi④ (名) 手こぶしの意。げんこつ。
tiizikun ともいう。

tikugu④ (名) [文] 鹿藩前の役名。ban-
zu [番所] の下役人。

tima④ (名) ⊖手間。仕事に費やす時間。
⊖手間賃。

timacin④ (名) 手間賃。

timadaari④ (名) 手間ばかりかかること。
手間つぶし。手間損。

timahwima④ (名) 費やす時間。手間どる
時間。

timakura④ (名) [文] tiimaqkwa の文語。

timani④ (名) 手まね。

timanuci④ (名) tiimanuci, tiimanici と
同じ。

timatujaa④ (名) 日傭取り。日雇いの労働
者。

timawasi④ (名) ⊖手回し。準備。～nu
'jutasjan。手回しがいい。⊖暮らしが楽
になること。生活に余裕ができること。
tarututin hwicui ~nu ʔikaba。[誰と
ても一人 手廻のいかば (花売之縁)] 誰
でもひとり生活にゆとりができたなら。

timiguʂiku④ (名) 豊見城。《地》参照。

timizi④ (名) [文] [手水] 恋人に水を手で
すくって飲ませること。国頭の名護間切許
田村に手水物語の井戸がある。むかし薩摩
の武士がこの井戸で水を汲んでいる娘に手
水を飲ませてもらい、その娘を自由にした
ことから、後世「手水之縁」という組踊り
も脚色されるに至ったという。

tinami④ (名) 手並み。腕前。

tinaree④ (名) 手習い。字のけいこ。tiina-
ree ともいう。

tinuʔuci④ (名) [文] ⊖手の内にあるよう
に、容易なこと。ʔumingwatu 'wanja
tageni nihaciguru, mikatajui hukani
taga sijura 'jariba, ticiju damasjuʂi-
ja ~du 'jajuru。[思子とわ身や 互に二
八比 味方より外に 誰が知ゆらやれば
敵よだましゆすや 手の内どやゆる (忠臣
身替)] 若君とわたしとは共に十六歳で、

- 味方よりほかには誰も知らないだろうから、敵をだますのはわからないことだ。㊦家来。
- tinuza**④ (名) 手芸。手のわざ。ししゅうなどをいう。
- tin**④ (名) 天。空。sura (空) は文語。～**çirugaajun**。天につらなる。～**tu zii**。天と地。天地。
- tinbaçi**④ (名) 天罰。
- tinbee**④* (名) 楯。
- tin cama**④ (名) いたずら。手のいたずら。
- tin camaa**④ (名) いたずら小僧。
- tin ci**④ (名) 天気。空模様。ʔwaaçi (上っ気) ともいう。
- tin ci**④ (名) [文] 天地。
- tin da**④ (名) 手のひら。たなごころ。～**nu ʔuqi**。手のひらの広さだけ。狭いものの形容。猫のひたい。
- tin ga**④ (名) 天下。
- tin gaacuu**④ (名) 天鵝絨(びろうど)。
- tin gaara**④ (名) 天の川。銀河。ʔakijo tin-garaja simajukuni natusa, dikajo taci-mudura ʔjubinu zibuN. [あけやう天川原や 島横になとさ でかやう立戻らよべの時分] あれ、天の川が島の横になってしまったよ。さあ帰ろう。ゆうべと同じ時間だ。
- tin ganasi**④ (名) [文] 国王の敬称。sjuitingnansi ともいう。
- tin gee**④ (名) 天蓋。葬送の棺の上にさしかけるもの。長さおの先に龍の彫刻をしたものが付けてある。
- tin gu**④ (名) 天狗。山中にいる天狗の意でなく、自慢する者に対するあだ名として使う。
- tin gwan**④ (名) 天願。《地》参照。
- tin gwan ga**④ (名) 天願川。川の名。中頭郡にあり東海岸に注ぐ。
- tin ma**④ (名) 伝馬。はしけ。
- tin mii**④ (名) 天命。身にそなわった運命。
- tin muN**④ (名) 天文。天体の現象。また、天体の現象による占い。たとえば, hoocibusinu ʔagainnee kuninu ʔjaku. (ほうき星があがれば国の厄) のようにいう。
- tin na**④ (名) 天仁屋。tinnja ともいう。《地》参照。
- tin nasi**④* (名) 一名代。《地》参照。
- tin nja**④ (名) 天仁屋。tinna ともいう。《地》参照。
- tin nu qeu**④ (名) 天人。天上に住み, tubi-zin (飛びぎぬの意。羽衣) を着た想像上の人。
- tin pura**④ (名) てんぷら。sisitinpura (豚肉のてんぷら), ʔijutinpura (魚のてんぷら) など。
- tin sama**④ (名) 次の句で用いる ~ keerijun. ひどく騒ぐ。わめき騒ぐ。疼痛の激しい時, 子供が泣き騒ぐ時などにいう。
- tin si**④ (名) [文] [天使] 中国からの使者。冊封使のこと。
- tin si**④ (名) [文] 天子。
- tin sii**④ (名) 天水。雨水。海岸地方で井戸水に塩分のある所では, 軒の雨水を溜めて飲料水に使う。お茶の水には井戸水より天水の方がよいとして, わざわざ天水を溜めておく好事家もある。
- tin šiigaami**④ (名) 天水壺。天水を入れるかめ。口が狭く胴が広い。handuugaami (普通の飲料水用のかめ) は反対に口が広い。
- tin šiikan**④* (名) ところてん。てんぐさを煮てそのかすを去り, 冷やして固めたもの。kuuribuutu ともいう。
- tin sjaaguu**④ (名) ほうせん花。つまくれない。女兒がこの葉をもんで爪を染める。tin sjagunu hanaja çimizacini sumiti, ʔujanu ʔjusigutuja cimuni sumiri. [てんしやごの花や 爪先に染めて 親のよせ言や 肝に染めれ] つまくれないの花は爪に染めて, 親の教訓は心に染めよ。

tiNsuu① (名) [天數] 天から与えられた運命。天命。～ kamiti ʔNmaritooN. 天運をいただいて生まれている (王などについていう)。

tiNzanasi① (名) [文] tinganasi と同じ。

tiNziku①① (名) [文] 天竺。ʔikana ~nu ʔunitacinu ʔuzoN, kuinu mici ʔjariba ʔakidu sjujuru. [いかな天竺の 鬼立の御門も 恋の道やれば 開きとしゆゆる (手水之縁)] たとえ天竺の鬼の立っている門でも恋のためなら開くものだ。

tiNzoo① (名) 天井。

tiNzoogita① (名) 桁。屋根の梁とうちがいに渡す材木。

tiOosao① (副) 右往左往。うろたえて騒ぐさま。～ sjun.

tiqkoo① (名) 手の卑語。～ magirariin doo. 手をひん曲げてやるぞ。

tiqpuu① (名) 鉄砲。

tiqpuusudii① (名) 筒袖。

tira① (名) 寺。寺院。

tiracaga=juN① (自 =raN, =ti) 照り輝く。tiracagati mijusa ʔumui ʔaru simanu, ʔjujuru tusi mudusu hananu kukazi. [てらちやがて見ゆさ 思ある島のよよる年もどす 花の木蔭] 照り輝いて見えるぞ、思いをかけている郭の、寄る年を押し返すような花の木かげ (愛人) が。

tiramunumee①* (名) 寺参り。宮参りをもいう。参詣。参拝。

-tiʔramuN (接尾) というもの。ともあろうもの。ʔwinagutiramun banzuni tumajumi, ʔisuzi suzisuzi ʔjadu kakara. 女ともあろうものが番所に泊まることがあるものか。急いで家に着こうよ。

tiriwata=juʔN① (自 =raN, =ti) 照り渡る。-tiʔru (助) という。てふ。kubama~ simaja kwahuna sima ʔjariba, ʔuhudakija kusjati sirahama me naci. [小

浜てる島や 果報な島やれば 大嶽やこしやて 白浜前なち (八重山民謡)] 小浜という島は恵まれた島なので、大嶽を背にして、白浜を前にしている。

-tiʔsa (助) とさ。伝聞にもとづくことを人に伝える時用いる。ʔataN~. あったとさ。ʔutaN~. いたとさ。

-tiʔsi (助) ということ。というもの。guin~ siran ʔuciju~ siran ʔwamija kunu sikenu hwituja ʔaran. [御縁てす知らぬ 浮世てす知らぬ わ身やこの世界の 人やあらぬ (銘苅子)] 御縁というものを知らない、浮世というものを知らない わたしは、この世界の人ではありません。

tišimigakumuN① (名) 習字や読書。すなわち、学問。

tiširazi① (名) 汀志良次。《地》参照。

tisoo① (名) 手相。手のひらの相。また、それを占うこと。

titiNdii① (名) 身の毛のよだつようないやな事。ぞっとするような事。

tiwaki① (名) 手分け。何人かで仕事を分担すること。

tizikee① (名) 手づかえの意。仕事で手がふさがって都合が悪いこと。

tizima① (名) ⊖着物の柄の名。かすりと縞のまぜ織り。⊖tizimawataziN と同じ。

tizimawataziN① (名) tizima の ʔwataziN (冬の礼服)。女用。

tizukui① (名) 手製。手作り。

toNtoNmii① (名) ⊖水切り。石を水面に投げ、水面を切って飛ばせること。⊖魚名。とびはぜ。海辺の地上をトントン飛んでいくのでいう。

too① ⊖(感)さあ。それ。気合いを入れる声。また、あらたに思いを入れる時などに発する声。さあ。さて。～ ʔutee. さあ打て。～ naa caa sjuga. さあ、どうしよう。～ ʔjoo caa sjaga. さて、どうしたんだろう。⊖(副)もういいという意。よ

- し。～'jasa. よし。これでいい。naa 'jasa ともいう。tooi. もりいいか。かくれんぼの鬼の呼び声にもなる。naai ともいう。「もりいいよ」は tooru.
- too**① (名) [唐] ⊖中国。沖縄では中国をいつも唐と呼んだ。中国も、沖縄と交通する時には、宋・明・清の時代になっても唐と称したようである。～nu Qcu. 中国人。～nu ʔazi. イ。唐の按司。冊封使のこと。ロ。馬鹿。間抜け。お人よし。⊕遠方の国の意から転じて、あの世。～Nkai ʔNzan. 死んだ。
- too**① (名) 平坦。平ら。また土地の平らな所。平地。
- tooʔaʔiree**① (名) 中国の製品は丈夫で、あつらえ物のように上等であるの意。'jamatustoojee ～. と対句にしている。'jamatustoojee は日本製品は粗製濫造の意。
- toobaru**① (名) 平原。平野。'wakasa hwitutucinu kajuizinu suraja 'jaminu sakuhwiran kurumatoobaru. [若さ一時の 通路の空や 闇のさくひらも くるまたる原] 若い時恋人の所へ通り心は、闇の急坂も砂糖車を据えつけるような平原と同じである。
- toobaru**① (名) 桃原。《地》参照。
- toobiraa**① (名) 鬮魚。亜熱帯産の小魚で、赤青の縞があり、鬮争を好む。
- toobun**① (名) 当分。相当の期間。しばらく。
- toocoo**① (名) [新] 東京。
- toodii**① (名) 唐手。単に tii ともいう。
- toogudee**① (名) 現代。当代。sacigudee (昔) に対する。
- toogumii**① (名) 南京米。外米。内地米は ziimee (地米) という。
- toohjaa**① (感) それっ。けんかの相手にいどみかかる時などに発する。
- toohu**① (名) 豆腐。製法は日本と異なり、かすは煮る前に絞り去って、その後煮て
- 苦汁を加えて固める。
- toohucanpuruu**① (名) 料理名。豆腐の油いため。
- toohuʔirici**① (名) 料理名。炒り豆腐。toohucanpuruu ともいう。正確には、toohuʔirici は油が少ないものをいい、toohucanpuruu の方が上等で正式の名。
- toohujoo**① (名) 豆腐を発酵させて作ったもの。風流人が茶請けにする。
- toohumaami**① (名) 豆腐豆の意。大豆。
- toohunaabi**① (名) 豆腐を作る鍋。特別に大きく作られる。
- toohunabii**① (名) 植物名。ほおずき。女の子が実を口に含んで鳴らす。
- toohunuguu**① (名) 大豆を水に浸し、ひいて布でこした液。型付けなどの染色の材料として用い、色をとめる作用をもつ。
- toohunujuu**① (名) 豆乳。
- toohunukaʔi**① (名) 豆腐のかす。おから。うのはな。
- toohunukaʔirici**① (名) おからを油でいため、魚・肉・野菜などいろいろの材料を入れた料理。
- toohuʔujaa**① (名) 豆腐売り。多く女が頭にのせて売り歩いた。
- toohwi**① (名) 当日。
- toojaamaa**① (名) さなぎ。蚕のさなぎ。tooja maa 'jaga ～. 唐はどこなの、さなぎさん。(童謡)
- toojama**① (名) 当山。《地》参照。
- tooja'matu**① (名) too (中国) と 'jamatu (日本)。
- tookaci**① (名) ⊖とかき。ますかき。穀類を杵で計る時、杵の縁と平らに掻きならす道具。竹で作り、一端を斜に切ったもの。⊕tookaciʔuiwee と同じ。～sjun. 米寿の祝いをする。また八十八歳になる。
- tookaciʔuiwee**① (名) 八十八の祝い。米寿の祝い。hacizuhaci, 'juninuʔuiwee などともいう。tookaci を客にみやげとして

tookaciʔujuwee

与え、大勢の客があやかりに行く。

tookaciʔujuweeⓄ (名) tookaciʔuiwee と同じ。

tookanibuⓄ (名) 柑橘類の一種。唐九年母。

toomaⓄ (名) 当間。《地》参照。

toomaamiⓄ (名) そら豆。

toomaqkwaⓄ (名) 枕の一種。中国製の枕。木製で漆塗り。

toomiⓄ (名) 当銘。《地》参照。

toomi=juNⓄ (他 =raN, =ti) ならす。平らにする。

toomuNⓄ (名) 唐物。中国産の物。上等なことを意味する。

tooniⓄ (名) 豚の餌を入れる器。大きな材木に溝を掘ったもの。

toonikacaaⓄ (名) tooni を搔いてさらえる器具。

toonuciNⓄ (名) もろこし。高粱(こうりゃん)。唐きび。唐のきみ(黍)の意。とうもろこし(gusunutoonucin)とは別。

toonuciNmuciⓄ (名) とうきびの粉で作った餅。色は褐色。

toonukucaaⓄ* (名) わけのわからぬ発音をする者(幼児など)。喃語する幼児。

toonukuʼciⓄ (名) ⊖中国語。⊖転じて、子供などの、わけのわからぬ発音。喃語。

toonukuraⓄ (名) 当蔵。《地》参照。

toonSuⓄ (名) 中国渡来の布で作った着物。ʼnsu は御衣(みそ)。

tooqsaⓄ (感) それっ。toohjaa と同じ。

toorijaihwaawⓄ* (副) toorirajaihwaaw と同じ。

toori=juNⓄ (自 =raN, =ti) ⊖倒れる。⊖倒産する。滅亡する。

toorikuʼrubiⓄ (副) 倒れたりころんだり。道の悪い所を行くさまなど。~ʼwarajuN. 笑いころげる。

toorirajaihwaawⓄ (副) まさに倒れようとするさま。toorijaihwaaw ともうい。

tooruⓄ (感) ⊖かくれんぼの時の隠れた者の呼び声。もういいよ。⊖幼児に「いないいない、ばあ」をする時の、「いないいない」に当たる語。ばあは ʼwaa。

tooruwaʼaⓄ (名) 幼児とする遊戯の名。いないいない、ばあ。

tooseeⓄ (名) 遊戯の名。倒し合い。両軍に分かれ、互いに敵を倒し合う。組み敷いて上になっている者の多い方が勝ち。

toosiNⓄ (名) 唐船。中国から来る船。

toosiNbaiⓄ (名) おたふくかぜ。耳下腺炎。他家の火吹き竹を盗んで来て、それで粥を煮て食べると直るという迷信がある。盗まれた所で、怒って顔をふくらますので、病気がそこへ移転するというわけ。

toosjoogaaⓄ (名) 唐変木。岡抜け。わけのわからぬやつ。

too=sjunⓄ (他 =saN, =ci) 倒す。

tootabiⓄ (名) 中国への旅。

tootooⓄ (感) 注意をうながす時・制止する時などに発する語。さあさあ。それぞれ。~ʼanee sjuna. よせよせ、そんなことはするな。

tootooⓄ ⊖(名)お月様。月の小児語。tootomee ともうい。⊖(副)手を合わせ tootutu と祈るさま。

tootooganasiimeeⓄ (名) お月様。ʼaqtomee (按司の妻)、tootogwaa (按司の娘)などのtooもtootoo(月)と関係ある形と思われる。

tootogwaaⓄ (名) お姫様。お嬢様。ʼumee (ʼuduNの主人。昔の按司)の娘の敬称。按司の子のうち、男の子については、長男だけをʼumeegwaa というが、女の子はすべてtootogwaa という。

tootomeeⓄ (名) ⊖お月様。月の小児語。⊖祖先の位牌。尊いお方の意。

tootuⓄ (感・副) どうぞ。どうか。哀願する時にいう語。多く女がいう。また、神に祈る時にも発する。~ʼansikwiri. ど

うかそうしてくれ。

-tu (助) と。taruu~ ziruu~. 太郎と次郎と。ʔiN~ majaanu ʔuN. 犬と猫がいる。ʔjaqci~ mazun ʔicuN. 兄と一緒に行く。nuu~N kiran. 何ともかち合わない。tamitoo ʔNNDaran. ふた目とは見られない。

tu- (接頭) 十。とお。tuhwani(十羽), tukeen (十回), tuka(十日)など。

-tu (接尾) 年。cutu (一年), tatu (二年), mitu (三年), ʔjutu (四年), mutu (六年), kukunutuguzuu (四十九歳), mu-mutu(百年, 百歳) など。

-tu (接尾) 斗。一石の十分の一。ʔiqtu (一斗), nitu (二斗) など。

tubeetubee① (副) とびとびに。あちこち。~ hananu mujoonu ʔan. (着物などの) あちこちに花の模様がある。

tubiʔicaa① (名) するめいか。

tubira① (名) とべらの木。海岸地方に自生し、黄白色の花をもつ。海桐花科の常緑喬木。

tubitui① (名) 飛ぶ鳥。鶏(単にtuiということが多い)などと区別して飛ぶ鳥を呼んだもの。

tubizi① (名) 天人の羽衣。「飛びぎぬ」に対応する。

tubu=juN① (自 =ran, =ti) ともる。とぼる。ʔukoonu ~. 線香がともる。

tu=buN① (自 =ban, =di) 飛ぶ。つばさで飛ぶ。また、風に吹かれて飛ぶ。はねてとぶ意では tunuzun を多く用いる。tubasjun. 飛ばす。飛ばせる。taka tubasjun. 鷹にひもをつけて飛ばせて遊ぶ。

tubusi① (名) とぼし。脂の多いよく燃える松材を割って、たきつけ用または照明用としたもの。

tubuu① (名) 飛び魚(とびうお)。

tuci① (名) ㊦時。時刻。また、時間。時期。時刻は本土と同じく十二支や kuku-

nuçi (九つ)… ʔjuçi (四つ) 式を用いた。~ tujun. イ. 鶏が、ときを作る。ロ. 占って日時をきめる。㊦ tucitui と同じ。

tuciduci① (名) 時時。おりおり。

tucii① (名) 時計。なお、首里城には砂時計式のものど日時計式のものどがあった。

tucinukwii① (名) [文] ときの声。ʔjaasaciidanu hjaa, ticinu sirumutuni ʔu-sijusiti ʔamunu, hasijujai ʔisuzi tuc-inukwiju ʔagiri. [やあ崎枝のひや 敵の城元に 押寄せてあもの 走寄やり急ぎ 関の声よあげれ(忠臣身替)] これ崎枝の比屋、敵の城下に押し寄せているのだから、急いで走り寄ってときの声をあげよ。

tucinuʔuhujakuu① (名) [古] [時の大屋子] 昔の役職名。日時の吉凶を占う役の者。無学な平民がこの職にあった。

tuciširi① (名) ㊦時間がおそいこと。時期を失っていること。㊦夜ふけ。深夜。

tucitui① (名) 時の吉凶を占うこと。また、日時を占って決めること。

tucituihwiʔui① (名) tucituihwiitui と同じ。

tucituihwiitui① (名) 時刻や日どりを選ぶこと。

tuciʔura① (名) [文] 時についての占い。普通は tuci または tucitui などという。ʔuman naka ʔjašiga ~ju širiba, ʔi-çin katawarinu çicija ʔaran. [思まぬ 仲やすが 時うらよすれば いつも片われの 月やあらぬ] いまは思いのかなわぬ仲であるが、占って見るといつまでも片思いばかりではない。

tudana① (名) 戸棚。持ち運びのできるものをいう。作り付けのものは šiçikigwii という。

tudee=cuN① (自 =kan, =ci)(人通り・風・音信などが) とだえる。qkwakara tigaminu tudeecoon. 子から手紙がとだえている。

tudeejun

tudee=juN① (自 =raN, =ti) [新?]tudee-cuN と同じ。

tudi=juN① (他 =raN, =ti) ⊖ 綴じる。coomiN ~。帳面をとじる。⊖ 縛る。nusudu kaçimiti tuditeen. だろぼろを捕えて縛ってある。

tudu=cuN① (自 =kaN, =ci) (品物などが) 届く。「手がとどく」などは tiinu ?icajuN などという。'waaga ?ukutaşee tudu-coomi. わたしが送ったものは届いたか。

tuduki① (名) 届け。役所などへの届け。また、役所などへ届け出ること。

tuduki=juN① (他 =raN, =ti) ⊖ (品物などを) 届ける。⊖ (官庁などへ) 届ける。届け出る。⊖ (罪人などを引受人に) 引き渡す。

tudukuui① (名) ⊖ (荷物, 仕事の進行などが) 滞ること。滞り。⊖ (食物が) 消化せずに胃などにたまること。

tudukuu=juN① (自 =raN, =ti) ⊖ (荷物, 仕事の進行などが) 滞る。⊖ (食物が) 消化せずに胃などにたまる。

tuduma=juN① (自 =raN, =ti) [文・新] とどまる。

tueçika'mee① (名) とっくみあい。つかみあい。ふざけあい。

tueehwi'ree① (名) 交際。つきあい。tuee < tuiee (交際)。hwiree も交際。

tuga① (名) とが。とがむべき行ない。罪となる行為。また、罪。罰。~ kwaasjuN. (とがを食らわせる) 勘当する。罰として放逐する。

tugai① (名) とがった先。尖端。

tugaihwi'gai① (名) でこぼこ。

tugaii① (名) やせて口のとがった者。tugajaa ともいう。

tugajaa① (名) tugaii の卑称。

tuga=juN① (自 =raN, =ti) とがる。物の先端が鋭く細くなる。kuci ~。口がとがる。怒った時、不平がある時などのさま。tu-

garasjuN. とがらせる。

tugami① (名) 非難。叱責。とがめの意。

tugami=juN① (他 =raN, =ti) とがめる。非難する。叱責する。

tugani① (名) 罪人。とがにん。

tuguci① (名) ⊖ 港。⊖ 川の downstream にある渡し場。

tuguci① (名) 渡口。《地》参照。

tuguci① (名) 渡具知。《地》参照。

tuguci① (名) 渡久地。《地》参照。

tuguru① (名) 灰汁。灰を水に浸してとった黄色のりわずみ液。芭蕉布などの洗濯に用いる。?aku ともいう。

tugurutin① (名) 食品名。ところてん。

tuhwasina① (名) 渡橋名。《地》参照。

tuhwee① (副) べっ。唾をはく音。

tuhweemika=sjuN① (自 =saN, =ci) 唾をべっとはく。

tui① (名) ⊖ 鳥。⊖ 鶏。~ nu ?utajuN. 鶏がときを作って鳴く。~ kooraa kaçi koori, ?iju kooraa sii koori. 鶏を買うなら数を(大きい鶏より, うまい若鶏を数多く)買え, 魚を買うなら大きいのを買え。sii は背丈の意か。

tui ① (名) 酉(とり)。十二支の第十位。時間は午後6時。方角は西。

tui?açi'ka=juN① (他 =aN, =raN, =ti) 取り扱う。

tui?açi'kee① (名) 取り扱い。

tui?açi'kee① (名) やっかいな預かりもの。他人の子供など。また, うっかり受け取ると, 迷惑でも以後長く預からなければならぬようなもの。また, いったん取ったら, ずっと預からなければならぬとする取りきめ。子供同志が, 他にさわらせたくない物について, うっかり取るとあとで困るよりに, そろ取り決めることがある。

tuibusjahuNdee① (名) 取り放題。取りたいだけ自由に取ること。

tuicamee=ju'N① (他 =raN, =ti) 取り集

める。拾い集める。-cameejun < kamee-jun.

tuiciga=ju¹N① (他 =aN, =ti) (物を)間違
って取る。また、取り違える。誤解する。

tuïkikanajaa① (名) 養鶏業者。

tuïkiki=ju¹N① (他 =raN, =ti) 盛んに取
る。一生けんめいに取る。

tuiciraka=sju¹N (他 =aN, =ci) 取り散ら
かす。乱雑にする。

tuicira=sju¹N① (他 =saN, =ci) 取り散ら
す。乱雑にする。

tuiciwa¹mi① (名) 取り決め。決定。

tuïzizi① (名) 取り次ぎ。また、取り次ぐ役
の者。

tuïçi=zun① (他 =gaN, =zi) 取り次ぐ。

tuidukuru① (名) とりえ。長所。nuu ~
N neeN. 何のとりえもない。

tuiee① (名) 交際。つきあい。tueehwiree
ともいう。

tuigwaa① (名) 小鳥。小さい鳥。

tuihakara=ju¹N① (他 =aN, =raN, =ti)
tuihwakarajun と同じ。

tuihan=sju¹N① (他 =saN, =ci) ⊖取り落と
す。誤って手から落とす。⊖失禁する。

tuihukugida=cuN① (自 =taN, =qci) 鳥
肌が立つ。総毛立つ。

tuihwakara=ju¹N① (他 =aN, =raN, =ti)
取り計らう。計画し、処理する。

tuihwi¹ree① (名) 交際。つきあい。tuiee,
hwiree と同じ。

tuihwi¹ruu① (名) 訴訟。hwiruu と同じ。

tuijan=zu¹N① (他 =daN, =ti) しくじる。
失敗する。病気の治療を誤るとか、人を評
価しそこなうなどの場合にいう。

tuijusi=ju¹N① (他 =raN, =ti) 取り寄せる。

tuika=nun① (他 =maN, =di) 食う。むさ
ぼり食う。

tuikee① (名) (敬語は Tuituikée) ⊖取りか
わし。贈答。物品・結納・杯などの取りか
わし。⊖交際。つきあい。Yamatoo Twee-

kanu ~ sjoon. あそこの家とは親戚のよ
うなつきあいをしている。

tuikée=sju¹N① (他 =saN, =ci) 取り返す。
また、回復する。もちなおす。kunçi ~.
元気を取りもどす。

tuikugu¹ni① (名) つつしみ深いこと。丁重
な態度であること。kuguni < kugunijun
(うやうやしくする)。

tuiku=nun① (他 =maN, =di) 取り入れ
る。取り込む。取って自分のものにする。
tuinecuN ともいう。

tuiku¹ree① (名) 位。官職の地位。この接
頭辞 tui- には余り意味がない。

tuimaa=sjuN①* (他 =saN, =ci) 取っ置て
く。あとのために残して置く。

tuimaci① (名) 鶏の市。鶏を売買する市。

tuimee① (名) 取り分。分け前。

tuimu=cuN① (他 =taN, =qci) 接待する。
もてなす。tuimutaqtoon. 優遇されている。

tuimudu=sju¹N① (他 =saN, =ci) 取りもど
す。取り返す。Tari kara tuimuducan.
彼から取り返した。

tuinasi① (名) とりなし。とりなすこと。
よいように取り計らうこと。また、推挙。
仲裁。

tuinoo=sju¹N① (他 =saN, =ci) ⊖改める。
(悪い所を) 直す。⊖叱られている者のた
めに弁疏してやる。とりなす。

tuinukuuga① (名) 鶏卵。

tuinuqcu① (名) 酉年生まれの人。

tuiN① çimiN① naraN① (句) 始末におえ
ない。手に余る。どうしようもない。~ 'wa-
rabi. (いたずらで) 始末におえない子供。

tuisakana① (名) 酒のさかな。tui- < tu-
jun.

tuisata① (名) 取り沙汰。うわさ。風説。

tuisiçi¹bi① (名) 四季折折の祝祭日。季節
季節の大きな行事のある日。

tuisigaiši¹gai① (副) しきりに取りすがる

tuiſigajuN

さま。

tuiſiga=ju¹N① (他 =raN, =ti) 取りすがる。

tuisikuci①① (名) 仕事。tui- は余り意味のない接頭辞。

tuisima① (名) ⊖鳥島。沖縄本島の西方、粟田島のさらに西にある島の名。⊖奄美群島徳之島西方にある火山島。中国に硫黄を輸出した関係で慶長以後もとくに琉球に帰属していた。

tuisima=juN① (他 =raN, =ti) 取り締まる。監守・管理する。

tuisimari①① (名) 取り締まり。管理。

tuisimikaa¹simi①① (副) 詰問するさま。

はげしく問いつめるさま。～ sjuN.

tuisinzi① (名) 鶏のスープ。

tuisira¹bi① (名) 取り調べ。

tuiſiti=ju¹N① (他 =raN, =ti) 取り捨てる。取って捨てる。

tuisju¹ukoo① (名) sjuukoo (法事) と同じ。tui- は余り意味のない接頭辞。

tuisuraa=sju¹N① (他 =saN, =ci) 取り揃える。もれなく集める。

tuitakatee① (名) 子供を甘やかして育てること。

tuitati① (名) とりたてること。抜擢。登用。その敬語は ʔutuitati。

tuitati=ju¹N① (他 =raN, =ti) とりたてる。抜擢する。登用する。

tuiʔubi① (名) 仕事・技術などを習い覚えること。習得。

tuiʔubi=juN① (他 =raN, =ti) (仕事・技術などを) 習い覚える。習得する。tuiʔukijun と同じ。

tuiʔuki① (名) 了解。会得。のみこみ。～ nu¹ʔutasjan. のみこみが早い。

tuiʔuki=juN①① (他 =raN, =ti) (技術などを) 習い覚える。習得する。tuiʔubijun ともうい。

tuiʔuki=ju¹N①① (他 =raN, =ti) 受け入れる。また、了解する。会得する。

tuiʔutu=sjuN① (他 =saN, =ci) 取り落とす。

tujaasimuN① (名) 取り合わせたもの。数種類のものを集めて一組にしたもの。

tujaa=sjuN① (他 =saN, =ci) ⊖取り合わせる。揃えてととのえる。また、揃えて一式とする。karazi ～。(髪を結び暇のない時に) 髪のを直してととのえる。⊖(男女を取り合わせて) 夫婦とする。親同志がとりきめる場合などにいう。

tujuma=rijuN① (自 =riraN, =qti) [文] 世間に鳴り響く。評判になる。tujunuN の受身の形。sikin¹ tujumariru curawinagu¹ʔariba. [世間豊まれる 美女やれば(忠臣身替)] 世に評判の美女であるから。

tuju=nuN① (自 =maN, =di) [文] ⊖音に聞こえる。(評判が) 鳴り響く。名高くなる。tujumu tumiguſiku. [とよむ豊見城] 名高い豊見城。⊖月が出る。また、月の出の時間に東の空が白む。çici tujumu ʔwedanu macinu kurisja. [月とよむ間の 待ちのくれしや] 月が出るまでの間の待ち遠しさよ。

tu=juN① (他 =raN, =ti) ⊖取る。手にとる、取得する、捕獲する、収獲する、採用する、選び取る、奪う、盗む、没収する、とり除く、立場をとるなどの意。hwii ～。日どりを決める。nuci ～。命を落とす。⊖(船が港に) 着く。kagusima ～。(船が) 鹿兒島に着く。

tuka① (名) とおか。10日。月の第十番目の日をもいう。

tukasici① (名) 渡嘉敷島。慶良間列島の島の名。また、渡嘉敷。《地》参照。

tuka=sjuN① (他 =saN, =ci) 浴かす。

tukee① (名) ⊖渡海。航海。海を渡ること。⊖海洋。渡る海。tukeja hwizamitin¹tiru çicija hwituçi, ʔaman¹nagamijura kijunu suraja. [渡海や隔めても照る月や一つ あまも眺めゆら 今宵の空

や] 海は隔てても照る月は一つ、あのかたもこよいの空を眺めているだろう。

tuki=jun (自 =ran, =ti) 溶ける。

tukisiⓐ (名) 渡慶次。《地》参照。

tukuⓐ (名) 徳。人徳。～nu ?an. 徳がある。

tukuⓐ (名) 得。利益。

tukuⓐ (名) 床。座敷の床の間。

tukumuciⓐ (名) 徳のある人。

tukunusimaⓐ (名) 徳之島。奄美群島の島の名。

tukuqtuⓐ (副) ⊖とくと。じっくり。念入りに。よく。～kangeeti 'Nndee. とくと考えてごらん。⊖気分がよくなったさま。～najuN. 気分がすっきりする。気分が落ち着く。

tukuruⓐ (名) ⊖所。場所。⊖その土地。～nu qcu. その土地の人。⊖(接尾)人を敬って教えるときに用いる接尾辞。cutukuru (おひと方), tatukuru (おふた方), ?ikutukuru (御幾方) など。

tukuru?açisaⓐ (名) 処暑。二十四節の一つ。

tukurubareeⓐ (名) 所払い。廃藩前の一種の私刑。裁判なしに、近隣の者が居所から追放すること。

tukurudukuruⓐ (名) ところどころ。あちこち。

tukuuⓐ (名) ⊖人の名。⊖猫の名。猫は一般に tukuu という名が付けられていた。

tumaⓐ (名) 苦(とま)。かやなどを編んだもの。

tumaiⓐ (名) 船着き場。港。

tumaiⓐ (名) 泊。《地》参照。

tumaiⓐ (名) 宿泊。泊り。

tumaikuruuⓐ (名) 甘藷の一種。甘味が多く、肉は薄紫色。?akaguu や ?urandaa と共に上等なもの。

tumaizituuⓐ (名) [古] [泊地頭] 廃藩前の役名。先島の税務をつかさどる長官。

zuuguniNsjuu [十五人衆] を構成するひとり。

tumajaaⓐ (名) 泊 (tumai…地名) の者。卑称。

tuma=junⓐ (自 =ran, =ti) ⊖宿泊する。泊る。⊖止まる。動作がやむ。静まる。

tumeeidumceeiⓐ (副) あちこち探し求めるさま。尋ね尋ね。探し探し。

tumeeimuNⓐ (名) 拾いもの。拾い上げたもの。

tumeei?uza'neeⓐ (副) 方方を探し回るさま。

tumee=junⓐ (他 =ran, =ti) kameejun ともいう。kameejun はやや下品な語。⊖捨る。(落とし物を) 拾い上げる。⊖求める。探し求める。尋ね求める。一つのを探し求めることに多くいう。捜すは sageesjuN. nanaçi kasabitaru tusigurunu satuni ?umukutunu ?atidu tumeti eicaru. [七つ重べたる 年比の里に 思事のあてど とまいてきちやる (執心鑑入)] 十四くらい若い男のかたを恋したって尋ねて来たのです。tuzi ~. 妻をめとる。妻をもらう。?juubee ~. 妾をもつ。

tumiⓐ (名) 喪の時に女が用いる竹製のかんざし。止めの意。dakiziihwaa ともしる。

-tu'miba(助) [文] と思えば。?ujubaran~ ?umui maşikagami kazijacon ?uçuci 'ugamibusjanu. [及ばらぬとめば 思ひ増鏡 影やちやうも写ち 拝みほしやの] 及ばないと思えば思いは増鏡、せめて面影でもうつして拝みたいもの。

tumi=junⓐ (他 =ran, =ti) ⊖止める。進むのを止める。⊖禁じ制する。⊖宿らせる。泊める。

tumuⓐ (名) とも。船尾。

tumuⓐ (名) 供。従者。

tumuguuⓐ (名) 足の付け根の骨。

tumuguunugaaⓐ (名) 労働や徒歩旅行な

どして、足の付け根の骨のあたりがだるく、力がぬけた感じのすること。

tumui⑩ (名) 富盛。《地》参照。

-tu'muri (助) [文] と思え。ʔumukazinu tataba sataju sjuN~。[俤の立たば 沙汰よしゆんともれ] わたしのおもかげが浮かんだならば、おうわさをしていると思ってください。

tumusi⑪ (名) 友寄。《地》参照。

-tu'muti (助) [文] と思って。

tunaa⑫ (名) 20銭。十繩の意。ziN (銭)の項参照。

tunacaa⑬ (名) 渡野喜屋。《地》参照。

tunaci⑭ (名) 渡名喜島。那覇の西北方にある島の名。

tunai⑮ (名) 隣。また、隣にあるもの。隣家。

tunai biree⑯ (名) 隣づきあい。

tunaimasai⑰ (名) 隣近所を回ること。

tunaimura⑱ (名) 隣村。

tunaka⑲ (名) 沖の海。沖合い。沖の海上。

tunami⑳ (名) 平均。narasi ともいう。

tunami=jun㉑ (他 =raN, =ti) ㊦ならす。でこぼこをなくし平らにする。㊦平均する。また、中間をとる。

tunuci㉒ (名) tuNci (殿内) と同じ。

tunuumanuu㉓ (名) うろたえること。ろうばいすること。まごまごすること。

tunu=zun㉔ (自 =gaN, =zi) 跳ねる。跳ねて飛ぶ。また、ふっ飛ぶ。すっ飛ぶ。hwi-izaanu ~。やぎが跳ねる。tunugasjuN. はね飛ばす。すっ飛ばす。

-tuN (助) [文] とも。tuija ʔutaru~。[鳥や歌るとも] 鶉は鳴いても。

tuNbjan㉕ (名) [桐板] 夏用の反物の名。中国から輸入される薄物。

tuNbjancee㉖ (名) tuNbjan の織り目の荒いもの。biNgata [紅型], ʔeeʔuburuu などに用いる。

tuNci㉗ (名) [殿内] tunuci ともいう。㊦

脇地頭以上の家柄の称。島持 (simamuci), 親方 (ʔweekata) 及び上士の家柄。また、それらの邸宅。御殿 (ʔudun) の下。明治17年ころには次の姓の tuNci があった。kamigaa [亀川], hjakuna [百名], ʔizina [伊是名], takusi [沢岬], ʔahwagun [阿波根], 'wakugaa [湧川], sacihama [崎浜], kuciinda [東風平], tamaguʃiku [玉城], ʔuruku [小祿], ziwan [宜湾], nakada [仲田], 'junabaru [与那原], mabui [摩文仁], gusi-caN [具志頭], teera [平良], timiguʃiku [豊見城], nuuhwa [饒波], kunzan [国頭], ciN [金武], ʃiisi [添石], gusicaa [具志川], 'junagusiku [与那城], 'Nzatu [美里], ʔoo [奥武], ʔuraʃii [浦添], makabi [真壁], ʔii [伊江], caN [喜屋武], kusi [久志], cinin [知念], ʔicuman [糸満], cinaa [喜納], bin [保栄茂], sicina [識名], kaqcin [勝遊], hukujama [譜久山], tumigaa [富川], zacimi [座喜見], nakazatu [仲里], cibana [知花], sakuma [佐久間], kooci [幸地], sadujama [佐渡山]。㊦大きな家・他人の家などの敬称。おやしき。お宅。

tuNciʔuuçii㉘ (名) [殿内移り] 転宅の敬語。お引越し。殿内 (tuNci) の家柄でなくてもいう。平民の転宅は 'jaaʔuuçii (屋移り) という。

tuNdaabuN㉙ (名) [東道盆] 盆の一種。丸い大きな盆で、宴会などで各種の酒のさかななどを盛り合わせるのに用いる。

tuNdoo㉚ (名) [通堂] 埠頭。

tuNdoojaa㉛ (名) 埠頭にある一時荷を入れる倉庫。㊦転じて、がらんどろ。つつぬけで何もなさま。

tuNgwa㉜ (名) 台所のある小屋。母屋のわきにある。小さい家にあり、士族の大きい屋敷などにはない。

tuNhanari=juN① (自 =raN, =ti) 飛び離れる。急に離れる。
 tuNhan① (名) [豚飯] 豚肉入りの飯。中国伝来の料理であろう。くわしくは tuNhanZuuşii という。
 tuNhanZuuşii① (名) [豚飯雑炊] tuNhanと同じ。
 tuNkee=juN① (自 =raN, =ti) 振り向く。後方を振り返る。
 tuNkwiihaQ'kwii① (副) 飛び越え飛び越え。次に飛び越えて。
 tuNkwii=juN① (他 =raN, =ti) 飛び越える。
 tuNmaaimaai① (副) しばしば立ち寄るさま。また、ちょっと見回るさま。tacimaaitunmaai などともいう。
 tuNnaa=juN① (自 =raN, =ti) ちょっと寄る。ちょっと回って立ち寄る。
 tuNmigu=juN① (自 =raN, =ti) ちょっと寄る。ちょっと回って立ち寄る。
 tuNmigu=juN① (自 =raN, =ti) ちょっと寄る。ちょっと回って立ち寄る。
 tuNmoo=juN① (自 =raN, =ti) 飛び上がって驚く。飛び上がって喜ぶ。Yuhudunmooi はびっくり仰天。
 tuNmudujaa① (名) 行ったり帰ったりすること。しばしば往復すること。
 tuNna=juN① (自 =raN, =ti) とびのく。急に退く。
 tuNnubaga=juN① (自 =raN, =ti) ちょっと立ち寄る。nubagajun は立ち寄る。ちょっと顔を出す。
 tuNnukusuu① (名) 鶏のくそ。~nin cutindukurunu raN. (諺) 鶏のくそにも一つの取りえがある。どんなものにも何か取りえがある。
 tuNşizi=cuN① (自 =kaN, =ci) とびのく。とびすさる。

tuNtaci① (名) しゃがむこと。-ii<'ijun。
 tuNtaci=juN① (副) 立ったりすわたりするさま。また、ほとんど席の暖まるひまのないさま。
 tuNturumookaa① (副) 飛び上がって騒ぐさま。
 tuNzaagasa① (名) 小児の皮膚病。飛び火するように点点と蔓延するもの。
 tuNzaajaNzaa① (名) 付き合い。交際の卑語。
 tuNzaamoosaa① (名) 欣喜雀躍。
 tuNzaku① (名) ㊦扱ひ。(物・人の) 取り扱い。~nu 'jutasja. 取り扱いがよい。㊦看病。
 tuNziweezii① (名) ちょっとした外出着。晴れ着と不漸着の中間の着物。
 tuNzii① (名) 冬至 (tuuzi) に行なり祭り。tunziizuusii を炊いて先祖に供える。
 tuNziibiisa① (名) 冬至のころ、急に寒くなる寒さ。
 tuNziizuusii① (名) [冬至雑炊] 冬至 (tuuzi) に先祖に供える。taa?Nnu (里芋の一種)を入れて炊いた飯。
 tuNzi=juN① (自 =raN, =ti) 飛び出す。まかり出る。狂言・組踊りなどで用いる。
 tuNzitaru munuja murabarunu ?ajatu 'ncantiiginu cica?unpadaN. [とんちたる者や 村原のあやと御神一つの近おんばだん (大川敵討)] まかり出た者は、村原夫人と祖神を同じくする近い親類。類義の dijoocarun munuja [出様ちやる者や]よりもこっけい味がある。
 tuNzumui① (名) 鳥小堀。《地》参照。
 tuNzuN① (自 =gaN, =zi) tunuzun と同じ。
 tuNqei=juN① (他 =raN, =qei) ㊦つまみ洗ひする。また、(布の一部分だけを) つまんで、強くしぼる。また、(布の一部分を) つまんで染める。㊦(悪臭などがのどを)ふさぐ。むせる。nuudii ~. むせる。
 tuNqiki=ju'N① (他 =raN, =ti) 取り押え

tuQcimijun

る。つかまえて、とっちめる。Yusoozinu ninku najundun 'jaree, taija tuQci-kiraqti ?arihudunu miisjuuti çibi ?u-çiçikirariiru çimui, dii, ?isugoo 'jaa. [御払除のにくなくゆんどもやれい 二人やとつつけらつてあれほどの名所をて つび打付けられる積り でいいそがりやあ (姉妹敵討)] お掃除がおそくなりでもしたら、ふたりは取り押えられてあれほどの名所で尻を打ちのめされるはず、さあ急ごう。

tuQcimi=junⓐ (他 =ran, =ti) とっちめる。詰問する。

tuQciraha`Qciraⓐ (副) 散り散り。ばらばら。物品が散りうせたさまなどをいう。

tuQciriⓐ (名) 緋(かすり)。muruduQciri は緋がすり。

tuQcirijuujaaⓐ (名) かすりを作ることを業とするもの。-juujaa < 'juujun (結う)。

tuQciriti`Nⓐ (名) かすりの着物。

tuQkaçimi=ju`Nⓐ (他 =ran, =ti) とつつかまえる。だしぬけにつかまえる。

tuQkaka=ju`Nⓐ (自 =ran, =ti) つっかかる。くっつかかる。

tuQkuiⓐ (名) とっくり。とっくり型の陶製の器。酒用 (sakiduQkui), 醬油用 (sjo-juuduQkui), 油用 (?andaduQkui) などがある。

tuQkwaⓐ (名) [文] 徳化。

tuQkwa=junⓐ (自 =ran, =ti) 食ってかかる。食いつく。また、組みつく。

tuQpanaⓐ (副) ほったらかし。捨てておいてかえりみないさま。Tuja ~ nasjun. 親をほったらかしにする。

tuQsooha`Qsooⓐ (副) そわそわ。心が落ち着かないさま。

turaⓐ (名) 寅(とら)。十二支の第三。時間は午前4時 (nanaçi)。方向は北寄りの東。

turaⓐ (名) 虎。

turanuzuuⓐ (名) 千歳菌。とらのおらん。葉から繊維を取り織物の材料にする。zuu は尾の意。

turaNkwaNniNⓐ (名) kwanniN (役人) であるかのように着飾っている者。給料を取らぬ官人の意。

tura=sjunⓐ (他 =san, =ci) ⊖tujúN (取る) の使役。⊖やる。与える。tiçinaa ~. 一つずつやる。⊖(…して) やる。?Nzi ~. 行ってやる。kuruci ~. 殺してやる。ⓐ(命令形で) (…して) おくれ。kwiree よりも丁寧となる。kuneeti turaşee. 我慢しておくれ。tigami kaci turaşee. 手紙を書いておくれ。

turiⓐ (名) 鳥居。また、楼門。?wiinturi (首里城の守礼門), simunturi (首里城の中山門) など。

turiⓐ (名) 凧。?asaduri (朝凧), 'juuđuri (夕凧) など。

turihwizuiⓐ (名) 風がなくて底冷えのする寒さ。

turi=junⓐ (自 =ran, =ti) ⊖凧ぐ。風がやむ。⊖心がなごむ。'jumangwitu çiriti tacuru ?umukazini ?asamasija 'wazimu turiti ?icusa. [夕間暮とつれて立ちゆる俚に あさましや我肝 とれて行きゆさ]夕暮れとともに立つ面影に、情ないことにわたしの心はぼんやりとなっている。

turubaimunⓐ (名) ぼんやりしている者。ポカンとしている者。

turubai?oobaiⓐ (副) さびしげにぼんやりしているさま。

turubajaaⓐ (名) turubaimun と同じ。

turuba=junⓐ (他 =ran, =ti) ぼんやりする。ポカンとする。

turumika=sjunⓐ (自 =san, =ci) まどろむ。うとうとと眠る。うたた寝する。

turuturuⓐ (副) ⊖とろとろ。うつらうつら。うとうと。まどろむさま。⊖火勢が弱く燃えるさま。とろとろ。

turuturuubii® (名) ところ火。炎の弱い火。
 turuturuuniNzi® (名) うたた寝。
 tusi® (名) 年。時間の単位。また、年齢。
 また、歳月。～nu tuzimiitu. 長年つれそ
 った夫婦。
 tusi® (名) 砥石。
 tusiʔana® (名) その年の方位の悪い所。
 その方向に対して物事をするのは不吉とさ
 れている。陰陽道でいう金神は方向を変え
 て行けばよいが、tusiʔana はどこから
 行っても悪い。
 tusibee® (名) 年のほど。年のころ。年配。
 ～nee 'uuziraN. 年に似合わない。年以上
 のことをする時にいう。
 tusibii® (名) 正月の、各人の生まれた年
 (十二支上)と同じ日。また、その日を
 祝うこと。子の年の人は正月の子の日に、
 丑の年の人は正月の丑の日にそれぞれ祝
 う。元旦にその日が当たった人は、13日に
 祝う。また、その年が生まれた(十二支上
 の)年と一致する場合には、ʔnmaridusi
 (その項参照)といってその tusibii を盛
 大に祝う。
 tusiguru® (名) 年ごろ。結婚してよい年ご
 ろ。
 tusikaʔkoo® (名) 年かっこう。年齢のほ
 ど。年配。tusibee ともいう。
 tusinamuʔN® (名) いい年をした者。年甲斐
 のない者。
 tusinooi® (名) 方角の悪かった所が、年が
 改まって直ること。-nooi<noojuN. tu-
 siʔana の項参照。
 tusinujuru® (名) 年の夜。大みそかの晩。
 ～nu ʔuhurumee. 年の夜のごちそう。
 tusinukuu® (名) 年の功。kaamiikuuja-
 ka ～. 亀の甲より年の功。
 tusisica® (名) 年下。
 tusiʔiʔa® (名) 年上(の者)。年長(者)。
 tusiʔuci® (名) 年内。その年の内。
 tusiʔwii® (名) 年上。年長。

tusiwaʔiri® (名) 年忘れ。忘年会。
 tusiziri® (名) (「年切れ」に対応する) ⊙
 年末の総決算。⊙年末になじみの女郎にや
 る金。
 tusjui® (名) 年寄り。老人。
 tusjuigwii® (名) 年寄りの声。しわがれ声。
 tusjuijooi® (名) 老衰。
 tusjuimii® (名) 老眼。
 tusjuinuʔkwa® (名) 年寄りの子。年とっ
 てからできた子。
 tusjuiʔuja® (名) 年とった親。
 tusjuiwarabi® (名) 童心に帰った年寄り。
 tusjuiwaʔrabi® (名) 年寄りと子供。
 tutiN® (副) むしろ。いっそ。いっそのこ
 と。～kunu kawani 'wamija ʔitira.
 [とても此の川に わ身や捨てら(手水之
 縁)] いっそのことこの川にわが身を捨て
 よう。
 tutoogumi® (名) 徒党組みの意。悪人な
 どの集団。集団強盗の類。
 tutuna=juN® (自 =aN, =raN, =ti) 整う。
 全部そろう。調子が合う。準備などができ
 あがる。
 tuturuu® (名) ⊙わからずや。道理のわか
 らぬ者。⊙のろま。
 -tutuʔumi (接尾) 長く続く限り。ある限り。
 ʔicimitutuumi. 生きている限り。mici-
 tutuumi. 道のある限り。
 tuu® (名) 簾。植物名。簾細工に用いる。
 tuu® (名) 十。とお。また、10歳。～nu
 ʔiibi 'innagee neen. 十本の指は同じ長
 さではない。十人十色。
 tuu® (名) 沖。遠い海上。tunaka ともいう。
 tuuʔasa® (名) 遠浅。
 tuui® (名) (…する、…の)とお。ʔjaru
 ～. そのとお。ありのまま。
 tuuimici® (名) 通り道。通路。
 tuujajumi® (名) 織機の篋(おさ)の種類
 の名。十八よみ。経糸1440本を通すもの。
 huduci の項参照。

tuuja nukan

tuuja① nukan① (句) 当たらずといえども遠からず。かねての見込みに遠くははずれない。まとはずれではない。遠くは退かないの意。

tuu=juN① (自 =raN, =ti) ①通る。通行する, 通過する, 貫通する, 通用する, 浸透するなどの意。②行き渡る。もれなく分配できる。?usakiinaa tuujumi. そんなにたくさんずつ行き渡るか。

tuu=juN① (他 =raN, =ti) 問う。聞く。尋ねる。

tuukaa① neeN① (句) 何の隔意もない。さっぱりしている。よい意味に用いる。～muniiikata. うちとけた話し方。

tuuki=juN① (自 =raN, =ti) すける。すっきりと通る。また、心がすっきりする。あまり使わない語。eimunu tuukiran. 心がすっきりしない。不服である。tuukiraN munu?iikata. 不服の心のある言い方。?usiru～。やせこける。(死ぬ前などに) やせて首すじが細くなる。

tuukukunujumi① (名) 織機の箴(おさ)の種類の名。十九よみ。経糸1520本を通すもの。huduci の項参照。

tuumagara① (名) 遠い親戚。遠戚。

tuumici① (名) 遠路。遠い道のり。

tuumigui① (名) 遠回り。迂回。

tuumikagan① (名) 遠めがね。望遠鏡。

tuumusi ru① (名) 簾むしろ。簾で編んだむしろ。冷たい感じで夏向き。

tuunanajumi① (名) 織機の箴(おさ)の種類の名。十七よみ。経糸1360本を通すもの。huduci の項参照。

tuunu=cuN① (自 =kaN, =ci) 遠のく。遠ざかる。また、疎遠となる。

tuuru① (名) 燈籠。あんどん。普通は木や竹で作り、紙を張ったものをいう。石のものは?isiduuru, 仏壇用は?utuuru, 盆祭りの回り燈籠は miguiduuru という。

tuuruu① (名) ①通り抜け。通り抜けの道

など。②つつ抜け。情報などのつつ抜け。

tuusan① (形) 遠い。tuusaru ?weekajaka cicasaru qcu?anamun. 遠くの親戚より近所の他人。

tuusinumii① (名) 便所の穴。糞を落とす穴で、下に豚が飼ってある。禅宗でかわやを東司(とうす)というが、tuusi はそれと関係ある語か。mii は穴。

tuu=sjuN① (他 =saN, =ci) ①通す。通行させる, 貫通させる, 貫徹させる, 続行する, 浸透するなどの意。②告げ口をする。

tuuzi① (名) [通事] 通事。通訳(ををする人)。～sjun. 通訳する。

tuuzi① (名) 冬至。二十四節の一つ。冬至の祭り(tunzii)を行なう。

tuuzin① (名) 燈心。燈心には綿糸も使ったが、多くは燈心草(藺)を用いた。

tuuzinii① (名) 燈心草。biguii (備後藺)の別名。?ootuuzin ともいう。

tuza① (名) もり。やす。魚を刺して捕える具。研矢の意か。またのないもの・あるもの、みつまたのものなどがある。miija～najuN. 目がtuzaのように鋭くなる。

tuZai① (感) [文] 興行のはじめに述べる「東西」に当たる語。～～tunzitaru munuja…[東西東西 とんぢたるものや…] 東西東西, まかり出た者は…。

tuzi① (名) 妻。刀自に対応する。～tumeējuN. 妻をめとる。tumeējuN は捜す, 拾うなどの意。

tuzi① (名) [文] 伽。相手となって慰めること。また、その者。

tuzibiici① (名) 妻びいき。わが妻のひいきをすること。

tuzi=juN① (他 =raN, =ti) 遂げる。目的を達する。?umui～。思いを遂げる。

tuzikata① (名) 妻の里のかた。里方。姻戚。

tuziki① (名) ①訓戒。また、言い付け。命令。②ことづけ。伝言。

tuziki=juNⓐ (他 =raN, =ti) ⊖訓戒する。言いつける。命令する。zasinu tuziki-taru kutuja 'waširituti nujudi tira ũuciju susoni ũiriru. [座主のとづけたる 事や忘れとて のよで寺内を 麁相に入れる (執心鐘入)] 和尚の言いつけたことを忘れてしまって、なぜ寺の内に軽々しく(女を)入れるか。⊖ことづける。伝言する。

tuzima=juNⓐ (自 =raN, =ti) (話が)まとまる。(婚約・契約が)成立する。(仕事が)完成する。成就する。また、無事につとめ終わる。ũiikwiinu ~. 縁談がまとまる。

tuzimiituⓐ (名) 夫婦。miitu は「めをと」すなわち、やはり夫婦の意。tusinu ~. 長年つれそった夫婦。çirinasaja 'utunu

murikawaga kutudu gurukuniN ũiru-ũirunu husijawasi çizici, ~ cutukuruni kurasigata naraN. [面難や夫の森川が事ど 五六年色色の 不仕合つづき 妻めいと一所に 暮し方ならぬ (花売之縁)]つれないことに、夫の森川は五、六年色色の不仕合わせが続き、夫婦がいっしょに暮らすことができない。

tuzimi=juNⓐ (他 =raN, =ti) (仕事を)なしとげる。仕上げる。また、(話を)まとめ上げる。成立させる。

tuzinukookooⓐ (名) 妻の尻に敷かれること。また、恐妻家。妻への奉行の意で、妻に従順な者を嘲笑している語。

tuziQkwaⓐ (名) 妻子。

tu=zuNⓐ (他 =gaN, =zi) (刃物を)とぐ。

ㇿu- (接頭) [御] お。御。敬語の接頭辞。

ㇿusiru (おつゆ), ㇿuguşiku (御城。首里城のこと), ㇿujumimiseen (お読みになる) など。

ㇿubiⓄ (名) 覚え。記憶。 ~nu ㇿan. 覚えがある。

ㇿubiⓄ (名) (おけ・たるなどの) たが。なお、帯は ㇿuubi という。

ㇿubiçikanasanⓄ (形) はっきり覚えていない。よく思い出せない。 ㇿaree ㇿiçinu kutuga 'jatara ㇿubiçikanasasaa. あれはいつの事だったかはっきり覚えてないねえ。

ㇿubidakiⓄ (名) 桶などのたが (ㇿubi) に用いる竹。

ㇿubidee (名) 覚える力。記憶力。 -dee <tee (力)。

ㇿubiiⓄ (名) 神仏に供えるための水。お供えのお水。

ㇿubiigaciⓄ (名) 覚え書き。メモ。

ㇿubiiyadiiⓄ (名) [水撫] 旧暦3月と8月に、水の霊地 (祖先の使った水のあるところ) を拝みに行く女の行事。一門の女子供が着飾って水辺で一日を遊び暮らすならわしであった。

ㇿubi=juNⓄ (他 =ran, =ti) 覚える。記憶する。暗記する。意識に上せる。 tuin ㇿubiraran. 思案のほかである。どうしてよいかわからない。

ㇿubi?nza=sju`NⓄ (他 =san, =ci) 思い出す。

ㇿubiraziⓄ (副) ㇿubizini と同じ。

ㇿubirazigutuⓄ (名) 不意のでき事。思いがけない事。

ㇿubiziniⓄ (副) 思わず。 ~ tunzitan. 思

わず飛び出した。

ㇿubuçida`NⓄ (名) お仏壇。祖先の位牌を安置する壇。士族の家では、普通、幅1周のものが作り付けられていて、三段の供物台がある。仏像はない。

ㇿubuçiziⓄ (名) ㇿuhu?usjuukoo (その項参照) と同じ。

ㇿubukuⓄ (名) 神仏に供える飯。御仏供 (おぶく)。小さな茶わんに円錐形に盛って供える。 ~ ㇿusjagijun. おぶくを供える。

ㇿubukuiⓄ (名) 御機嫌よろしいこと。あいさつに使う語。なお、那覇では結納のとりかわしのことをもいうようである。 <hukujun. ~ mişeebiitii. お元気でいらっしゃいましたか。丁寧なあいさつのことば。

ㇿubukuiganasiiⓄ (名) 御機嫌よろしいこと。貴族に対するあいさつの敬語。 ㇿubukunzanasii, ㇿubukunzansii ともいう。 ~ ㇿwaamişeebiimi. 御機嫌よろしゅういらっしゃいますか。

ㇿubukuNzanasiiⓄ (名) ㇿubukuiganasii と同じ。

ㇿubukuNzansiiⓄ (名) ㇿubukuiganasii と同じ。

ㇿubunⓄ (名) 御飯。 munu (飯・食事) の丁寧語。

ㇿubuñçiziⓄ (名) 御飯粒。 mişičizi (飯粒) の丁寧語。

ㇿubunNiziriiⓄ (名) おむすび。お握り御飯。楕円形に握ったものが多い。

ㇿubun?uca`wanⓄ (名) 御飯茶わん。

ㇿuburuziciⓄ (名) おぼろ月。

ㇿuburuzicuuⓄ (名) おぼろ月夜。

ㇿucaⓄ (名) お茶。 caa (茶) の丁寧語。

Yucaa=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) ⊖打ち合わせる。(着物の前などを)合わせる。ciN ~. 着物の前を合わせる。⊖打ち合わせる。協議する。⊖協力する。kukuru Yucacaci hataracun. 心を合わせて働く。

YucagaaⓄ (名) Yucagee と同じ。

Yucaga=junⓄ (自 =raN, =ti) ⊖浮き上がる。⊖模様などが、鮮明になる。また、はなばなしくなる。派手になる。Yašidi Yucagajuru YucajaYudun. [遊で浮上ゆる御茶屋御殿] 管弦の遊びをして一段とはなやかに御茶屋御殿。

YucagamuiⓄ (名) [文] Yuzagamui と同じ。

YucageeⓄ (名) 顔を上向けていること。また、上を向いている者。あごを突き出している者。足もとに気を付けない者。Yucagaa ともいう。

Yucagi=junⓄ (他 =raN, =ti) 上へ向ける。上へ上げる。çira ~. 顔を上に向ける。あおむく。

YucahukašeeⓄ (名) caawakašee の丁寧語。ちょっとしたお祝いの会。ティーパーティー。

Yucaisi'naiⓄ (名) ぴったり合うこと。よく調和すること。よく似合うこと。~ sjooN. よく合っている。

YucajaYudunⓄ (名) [御茶屋御殿] 首里の崎山 (sacijama) にある王の別荘。

Yuca=junⓄ (自 =aN, =ti) ⊖似合う。適合する。調和する。kunu cinoo 'wanNiNkai Yucatoomi. この着物はわたしに似合っているか。⊖兼ね備わる。兼ね備する。Yuceekanee sjun ともいう。

YucakuⓄ (名) お客。

YucanukuⓄ (名) 祖神や火の神に供える小さな餅。

Yucataikana'taiⓄ (副) 互いによく適合するさま。よく似合うさま。

YucatooⓄ (名) 壺前に供えるお茶。catoo

の丁寧語。

YucawakašeeⓄ (名) [新?] Yucahukašee と同じ。

YucawakiⓄ (名) お茶うけ。

Yuceemiše'eNⓄ (自・不規則) おいで遊ばす。いらっしゃられる。「居る」「行く」「来る」の貴族に対して用いる敬語。土族同志の普通の敬語は Ymenšeen である。

Yuceekane'eⓄ (名) 合わせもつこと。兼ね備えること。兼ね備。kaagin zinbunun ~ sjooN. 才色兼備である。

Yuceeme'eⓄ (副) 不作法なさま。女が男の前でふざけて遠慮なくふるまったり、しゃべったりするさまなどをいう。

Yuceenše'eNⓄ (自・不規則) Yuceemiše'eN と同じ。

YuciⓄ (名) ⊖内。内側。中。~nu sawai. 見えない体の内部の病気。⊖家の内。屋内。~Nkai Yiree. 家の中にはいれ。

YuciZaki=ju'NⓄ (他 =raN, =ti) 打ち明ける。隠さずに語る。

YuciZamiⓄ (名) 屋内に雨が降り込むこと。~ sjun. 雨が降り込む。

YucibaⓄ (名) ⊖内輪。控え目。~ni sjun. ひかえ目にする。~ni Yicin, zuuman-gwanoo muqcooN. 内輪に見ても10万貫の金は持っている。⊖内金。手つけ金。払うべき金額の一部。kuqsa guzuqkwan ~ Yiqtooka. これだけ50貫内金を入れておこう。

YucibanaⓄ (名) 打ち綿。Yuciwata ともいう。

YuciciⓄ (名) 打ち身。打撲傷。

YuçiciⓄ (名) [文] 月。お月様。

YucicuuⓄ (名) お月様。子供などが多く使う語。Yucicuume ともいう。

YucicuumeeⓄ (名) お月様。月の小児語。

YucidumaiⓄ (名) 宇地泊。《月》参照。

YucigumiiⓄ (名) 事業などの組合を作ること。~ sjun. 組合を作る。

ʔucigusa

ʔucigusa① (名) 浮き草。水草。

ʔucigutu① (名) ㊦家事。㊦内輪の事。

ʔucihuka① (名) ㊦内外。内と外。㊦家の内外。㊦近親と他人。

ʔucihuri=ju'N① (自 =raN, =ti) すっかり惚れる。惚れこむ。

ʔucijaqcii① (名) とつおいつ。逡巡すること。どうしようかと迷うこと。ʔikiwadu 'jašiga, ʔaminu hujukutu ~ 'jaqsaa. 行かなければならないが、雨が降るのでどうしようかと迷っているのさ。

ʔucijan① (名) 体の内部の痛み。

ʔuciju① (名) [文] 浮き世。

ʔuci=juN① (自 =raN, =ti) ㊦写る。映る。(映像が) うつる。㊦うつる。(色・柄などが) よく合う。似合う。㊦移る。転宅する。㊦あく。中のものがあく。部屋などがあく。ʔuciidun saa karašee. もしあいたら貸してくれ。ʔuçiraa 'wanni kwiri 'joo. あいたら(その容器を)わたしにくれよ。㊦(病気が) うつる。伝染する。

ʔucikabi① (名) 春秋の彼岸祭り(kabiʔan-zii, 'ncabi) に、神仏に供えて燃やす、鏡型を打った紙。茶色の紙で ʔanzikabi ともいう。

ʔucikanagušiku① (名) 内金城。《地》参照。

ʔucikawa=juN① (自 =raN, =ti) うって変わる。一変する。(姿などが) 変わりはてる。

ʔuçikee① (名) お使い。使者。「お使いに行く」は çikaaqti ʔicun. (使われて行く) という。

ʔuçikeesarijaa① (名) 小間使い。走り使いをする者。

ʔuciki=juN① (他 =raN, =ti) 置く。定置する。位置をきめてきちんと置いておく場合にいう。sjukunu ʔwiinakai sjumuçi ~. 机の上に書物を(きちんと)置く。

ʔuciku=nun① (自 =maN, =di) (雨が屋内

へ) 降り込む。ʔuciʔami sjun. ともいう。

ʔucikurisja① (名) [文] 苦惱。憂苦。うれい苦しむこと。ʔaa, 'warabi ʔatina-sinu ʔasaju munu ʔumuti ~ sjušin taga sicaru kutuga. kahun neN ʔujani nasaqtaru ʔingwa. [ああ わらべあてなしの 朝夕物思て 憂きくれしやしゆすも 誰がしちやることが 果報も無いぬ親に 産つたる因果(花売之縁)] ああ、無邪気な子供が、朝晩物を思いうれい苦しむのも誰がしたとか。不運な親に生み落とされたためだ。

ʔucikuta=sju'N① (自 =saN, =ci) 病気で長く床につく。病臥する。

ʔucima①① (名) 内間。《地》参照。

ʔucimaaima'ai① (副) 間をにおいて。ときどき。~ miiga ʔicun. ときどき見に行く。caa ʔicum. 'nNNN ~du 'jaru. いつも行くか。いやときどきだ。

ʔucimamaaruu① (名) まどい(团居)。車座。~ sjun. 車座になる。

ʔucimami=zu'N① (他 =gaN, =zi) 間違えてしまう。うっかり間違る。

ʔucimaN=zu'N① (他 =daN, =ti) 見守る。cuiŋwa ʔucimantooti kurasjun. ひとり子を見守って暮らす。

ʔucimumu① (名) 内もも。~ mudirari-jun. 内ももをつねられる。女の子が折檻される時にされる。

ʔucimun① (名) わき立つこと。騒ぎ。「浮きもの」の意か。'eisaanu cikaziciidun šee, murazuunu 'wakamuNnucaa ~ najun. エイサーの祭りが近づけば、村中の若者たちがわき立って来る。

ʔucina① (名) [文] 浮き名。

ʔucinaa① (名) 沖繩。本来は、沖繩本島をさす。

ʔucinaaganasii① (名) 国王様。宮古・八重山などの人が王(sjuiganasii) のことを敬っている語。

- ʔucinaaguci① (名) 沖繩語。
- ʔucinaagujumi① (名) 旧曆。大陰曆。'jamatumagujumi (新曆) に対する。
- ʔucinaaʔisja① (名) 漢方医。'jamatuʔisja (蘭方医) に対する。
- ʔucinaajuu① (名) 廃藩前の時代。琉球王統治下の時代。明治12年以前。'jamatujuu に対する。
- ʔucinaganii① (名) 牛・豚の背にある上等な肉。背肉。ロース。
- ʔucina=juN① (自 =raN, =ti) すっかり終わる。済む。終わってしまう。
- ʔucina=sjuN① (他 =saN, =ci) すっかり終える。済ます。終えてしまう。
- ʔucineezaqkwii① (名) 重い咳。苦しそうな咳。-zaqkwii < saqkwii (咳)。
- ʔucii① (名) 植物名。うこん(爵金)。中国から渡来し、観賞用に庭に栽培する。黄色の染料となり、また痔疾の薬になる。
- ʔucii① (名) 宇堅。《地》参照。
- ʔuciiNbu ʔuʔuduN* (名) ʔusiiNbujuʔuduN と同じ。
- ʔucii=cuN① (自 =kaN, =ci) (雨が家の中に) 降り込む。ʔucikunun, ʔuciiʔami sjun ともいう。
- ʔuciri① (名) おき。薪が燃えて炭火のようになったもの。たきおとし。
- ʔuciri① (名) ①あくこと。容器・部屋などがあくこと。②お返し。おうつり。もらい物をした時に、返す容器の中に入れる形式なお返し。多くはちょっとした食べ物を入れる。
- ʔuciribii① (名) おき火。赤く熱した炭火。
- ʔucirikeei① (名) ①中味をあけて容器を返すこと。②お返し。おうつり。進物の容器を返す時、中に入れるもの。単に ʔuciri ともいう。~ ʔiriree. お返しを入れろ。
- ʔucirikeei① (名) (家の住人などが) 移り変わること。
- ʔuciritui① (名) たばこ盆に入れてある小

さい火鉢。首里の上品な語。火入れ。hwii-tui ともいう。

- ʔucisoodan① (名) 内内の相談。
- ʔucita=cuN① (自 =taN, =qci) 浮きたつ。目立つ。際立つ。色などが鮮明に浮き上がる。
- ʔuciti① (名) おきて。法律。
- ʔuciiʔucii① (副) ①軽く。一杯でなく、8分目くらいに。~ ʔirijun. 軽く入れる。②軽く。軽んじて。ʔjaaja ~ 'nnda-qtoosa. お前は軽く見られているよ。
- ʔuciiʔuku=sjuʔN① (他 =saN, =ci) 耕す。田畑の土を、打ち起こす。
- ʔuciiʔumi① (名) 内海。
- ʔuciiwa① (名) 団扇(うちわ)。ʔoozi (うちわ、扇) の形の丸いものをいう。ʔuciiwa-ʔoozi ともいう。
- ʔuciiwaa① (名) 内輪。また、内輪の者。家族。近親。~nu 'ugami. 内輪とする ʔugwan (祈願)。
- ʔuciiwaʔoʔozi① (名) ʔuciiwa と同じ。
- ʔuciiwata① (名) 打ち綿。ʔucibana ともいう。
- ʔuciihweʔesi① (名) 数箇所です ʔugwan (祈願) をする場合に用意するお供物のとりかえる分。いちいち別のお供物を作るのは大変なので、お供物は一式しか作らず、お供物の一部のみについてあらかじめおはつ (ʔuhwaʔi) を必要なだけとっておき、ʔugwan をする先でそれだけをとりにかえる。そのとおくおはつをいう。また、そうしておはつをとりにかえること。~ sjun.
- ʔuciihoo① (名) 不調法。そこつ。~namun. 不調法な者。
- ʔuciioori=jun① (自 =raN, =ti) (歯が) 浮く。(歯の根・杭などが) ゆるむ。haanu ~. 歯が浮く。
- ʔuciikwii① (名) ふろしき。
- ʔuciikwiiiziciN① (名) ふろしき包み。

YucuN

Yu=cuN① (他 =taN, =qci) ①打つ。たたく。なぐる。ぶつ。また、打ち鳴らす。teeku
 ～。太鼓を打つ。②討つ。tici ～。かたきを討つ。③(その他慣用句的に) Yami ～。網を打つ。cina ～。網を組む。ひもを打つ。sansici ～。棧敷を構える。bakuci
 ～。ばくちを打つ。guu ～。碁を打つ。hataki ～。畑を耕す。

Yu=cuN① (他 =kaN, =ci) ①置く。②(…して)おく。kacee Yukan. 書いておかない。この形の肯定は kacooCuN (書いておく。書いとく)。Yucocun. 置いておく。置いとく。

Yu=cuN① (他 =kaN, =ci) ①指く。やめる。cii ～。乳を飲むのをやめる。cii Yuka-sjuN. 乳を飲むのをやめさせる。

Yu=cuN① (自 =kaN, =ci) ①浮く。浮かぶ。

Yuçusi① (名) ①写し。コピー。②模造品。

Yuçu=sjuN① (他 =saN, =ci) ①写す。(映像を)映す。②写す。原物の通りに書き取る。模写する。また、模造する。③移す。場所を変える。④(病気を)うつす。伝染させる。⑤あける。(容器を)あけてからにする。Yirimun Yuçuci turaşee. 入れものをあけてやれ。

Yucutukuru① (名) おひとかた。御一人様。cui の敬語。

Yucuu① (名) [御轎]王の乗り物。十六人がかつぐかご。

Yucuu① (名) 内情。～ sagujuN. 内情をさぐる。

Yucuuubi① (名) 味見。毒味。お調味の意。

Yucuuhu① (名) [御轎夫] Yucuu (王の乗り物) をかつぐ者。

Yudaa=sjuN① (他 =saN, =ci) 大声で叱る。どなりつける。どやす。

Yudaki① (名) その高さ。そんなに高く。～ Yagatoon. そんなに高く上がっている。

Yudi① (名) 腕。上膊と下膊の全体、または

下膊をさす。上膊(二の腕)は keena という。～ kakijuN. 腕ずもうをする。

YudiYagisudi Yagi① (名) 大いに腕まくりをすること。大いに働く時、あるいはけんかをする時などに袖をまくり上げること。

Yudimakura① (名) [文] Yudimaqkwa の文語。

Yudimaqkwa① (名) 腕枕。他人の腕を枕に寝ること、また腕を枕に貸すことをいう。自分の手を枕にすることは tiimaqkwa という。

Yudimurusi① (名) 二の腕にできる力こぶ。

Yudizikara① (名) 腕の力。腕力。

Yuduki=jun① (他 =raN, =ti) 損する。商売で失敗する。古語「おどく」と関係ある語か。

YuduN① (名) [御殿] 御殿。按司地頭 (Yazizituu) が首里にかまえた邸宅の敬称。もと地方に割拠していた按司 (Yazi) が中央集権制以後、首里に集められ、住まった邸宅。また、その家柄。王の世子、王子の家をもいう。tunci [殿内] の上位。YuduN の家柄は、間切 (maziri) を領したために、間切の名と同じ姓が多い。すなわち、明治の鹿藩のころは次の通りであった。kunzan [国頭], 'uzimi [大宜味], kusi [久志], hanizi [羽地], nacizini [今帰仁], mutubu [本部], nagu [名護], Yii [伊江], cin [金武], Yuraşii [浦添], zinoon [宜野湾], 'Nzatu [美里], 'juntanza [説谷山], gwiiiku [護得久], 'junaguşiku [与那城], gusicaa [具志川], Yuruku [小祿], timiguşiku [豊見城], gusican [具志頭], tamaguşiku [玉城], mabui [摩文仁], takanmi [高嶺], makabi [真壁], can [喜屋武], tamagaa [玉川] (兼城間切), Yuhumura [大村] (北谷間切), maçijama [松山] (領地なし), nakaguşiku [中城]。

以上のうち、中城御殿は王の世子の邸宅、宜野湾・松山両御殿は王子の邸宅である。また、王の別荘も Ŷuċun といい、hamanuŶudun [浜御殿], sicinanuŶudun [諛名御殿], ŶucajaŶuċun [御茶屋御殿]がある。また、王妃にも Ŷudun の名がつく。

Ŷudunġaaⓐ (名) 大鈍川。《地》参照。

Ŷuduru=ċunⓐ (自 =kan, =ci) 驚く。びっくりする。ŶuċurukaŶjun. 驚かす。びっくりさせる。

Ŷugaⓐ (名) [文] おのれ。きさま。相手を見くだして、または罵倒している語。~ga Ŷakujukuja Ŷazisuini Ŷinaci. [おがが悪欲や 按司そひに言ひなち (忠臣身替)] おのれの悪欲は按司様のせいにして。

Ŷugacikasaⓐ (名) その近さ。そんなに近く。

Ŷuganⓐ (名) 神を祭ってある所。木や石の囲いがあり、前に広場がある。Ŷutaki [御岳] よりも小さく、一部落にいくつもあって、拝む人の範囲も限られている。

Ŷugannumooⓐ (名) Ŷugan の前の広場。moo は野原の意。

Ŷuganzu`uⓐ (名) ganzzuu (頑丈, 壮健) の敬語。~`jamiŶeeibiitii. 御壮健でいらっしゃいましたか。

Ŷugatooⓐ (名) その遠さ。そんなに遠く。

Ŷuguciⓐ (名) 積極性。また、進んでする機知。~nu Ŷan. 積極的である。機略がある。~nu neeran. 消極的である。引込み思案である。

Ŷugucimu`ciⓐ (名) 積極的な人。進んでする者。やり手。Ŷaree ~`jakutu caa qcumee nati Ŷaqcun. 彼は積極的だから、いつでも人に先んじている。

Ŷugucizi`nbunⓐ (名) 積極性と分別。機略。

Ŷuguiiⓐ (名) 御肖像画。王の肖像画をい

る。御御絵 (おんごえ) の意。

Ŷuguimunⓐ (名) おごりたかぶる者。傲慢者。

ŶuguiŶiⓐ (名) ろぐいす。huuhwiqċoo または huuhuicoo と鳴く。

Ŷugu=junⓐ (自 =ran, =ti) おごる。たかぶる。

Ŷugumaⓐ (名) ごま。

Ŷugumahacagumiⓐ (名) 菓子の名。ごまおこし。ごまで作ったおこし (hacagumi)。

ŶugumanuŶa`ndaⓐ (名) ごま油。

Ŷuguri=junⓐ (自 =ran, =ti) (病気が) 再発する。ぶりかえす。初発は Ŷukurijun という。

ŶuŶuŶikuⓐ (名) [御城] 王の居城。首里城のこと。guŶiku は城。首里のほぼ中央にあり、第二次大戦で焼失したが、その主な建物には次のようなものがあつた。mundaŶii [もんだそへ・百浦添] (首里城正殿。王が政務をとり、儀式などを行なった所。俗に karahwaahu という。mundaŶii とは百の浦浦を統べる意), kuganiŶuċun [こがねおどん・常の御殿] (王および、王の家族の居間), `jubukui [よほこり・世誇], munnamu [もんなみ・百次], ŶuniikeeŶudun, [二階御殿] (王の個人的な座敷), guŶjuin [御書院] (王が政務の取り次ぎを受けた所), Ŷukugusjuin [奥御書院], hweenuŶudun [南殿] (薩摩の使節を接待した日本風の建物), nisinuŶudun [北殿] (中国使節を接待した中国風の建物), gubanzzu [御番所], cimihukui [きみほこり・君誇], cimihukuiŶuzoo [きみほこりおちやう・奉神門] (正殿の正面の大きい門), nagaŶuzoo [広福門] (門の名), kaguisiŶuzoo [かごゑせおちやう] (ruqkukumun [漏刻門] ともいう。門の名。ここまでかごで乗り入れることができた), hwiizaaŶuzoo [ひぎやおちやう・瑞

泉門] (そばに ruuhwi [籠桶]がある。その頂参照), Pameeŷuzoo [あまゑおぢやう・猷会門] (首里城の正門), ŷwiinuturi [うへあやぢやう・守礼門] (正門の西の大通りにある門で、守礼之邦の四字を書いた額がある), simunturi [しもあやぢやう・中山門] (ŷwiinuturiと同じ大通りにあった門。その大通りを ŷajazoo という), mimunuŷuzoo [みものおぢやう] (門の名。女しか通れなかった), ŷjususuhwicinuŷuzoo [よそへちのおぢやう・右掖門], hukuiŷuzoo [ほこりおぢやう・久慶門], kawarumiŷuzoo [かわるめのおぢやう], ŷunakaŷuzoo [淑順門] (女官の通り所にある門であるが、男も通れた), ŷakataŷuzoo [あかたおぢやう・美福門] (女のみ通る裏門), ŷiiçiziŷuzoo [そへつぎおぢやう・継世門] (一番外側の裏門。最も古く、昔の正門であったと伝えられている), sirukaniŷuzoo [しろかねおぢやう・白銀門] (王の死に際してのみ開く石の門), takafazana [たかあざな] (城の東側の石垣の上にある鐘楼。旗を立てて時を知らせた), simaŷiiŷazana [しまそへあざな] (同じく、西の石垣上にある鐘楼), kamee [かまい], ŷuciniŷjuuŷudun [御寝廟御殿] (王の死んだ時に、死体をしばらく安置しておいた所。ŷusiŷnbjuuŷudun ともいう), ŷungwa [御蔵] (ziŷngura [銭蔵], kanigura [金蔵] などの倉), ŷunaa (正殿前の広庭) など。

ŷugwanⓄ (名) [お願] 祈願。願。祈禱。神仏に願をかけること。吉日を選び、酒や洗い清めた米を供えて、一家の女主人が行なり。願いごとの目的によって祈禱の文句が異なるが、そのおおよそは似たりよったりである。次に、一例として ŷjasicinuŷugwan (屋敷と家族の無事息災を祈る祈禱) の文句をあげる。ŷuutootu, cuunu ŷjuka-ruhwi cuunu masaruhwi, ŷujasicinu

guruŷugwan ŷunŷjukijabiin. zuuni-hunnu ŷumuçiri njuukooŷizi, 'npana ŷuzaki ŷusjagijabiti, turadiisjoowiki-ga ŷumuŷibi taçidiisjoowinagukaranu ŷunigeçŷizi ŷunŷjukirawa, ŷunnu-kaizurasa misjooci ŷutabimisjoori. ŷujasicinu ŷukami, 'juŷimi 'jaŷimi ŷunakazin njuuŷizi, ŷuzooŷumamui, huuuŷusizimee, ŷuicicizuraku ŷutabimisjooci, 'janakazin sitanakazin, ŷizi naran munun, mici naran munun, ŷinŷihuka, ŷusinukimisjooci, 'jahwirugun tuhwiruŷuci nuukutusaabin neeran gutu, ŷukakuizurasa ŷutabimisjooci, turadiisjoonu ŷujasici ŷumamuizuraku misjooci ŷutabimisjoori. 'utukuŷujanu guun kamiŷagitooçjabiin. ŷujasicigunnakai ŷusudacigun tuti 'ujabiŷi 'utuku 'unna, ŷumamuizuraku ŷutabimisjooci, kutusi 'jukuaruçusi cutu ŷicinin, nuukutusabin neejabiran gutu, ŷiisakee ŷuhwirugi simiraci ŷutabimisjooci, sindee mandee ŷuhwikari ŷutacimisjooci ŷutabimisjooci, guŷisjubusukoo ŷunagamiŷutunŷjooci ŷutabimisjooci, ŷumunziti guninçihudu tatiti 'ujabiikutu. ŷuutootu. あなとうと、きょうのよい日に、お屋敷のお願いごとを申しあげます。十二本を一束にした細いお線香と、洗い清めたお米と、お酒とお供えいたしまして、寅年の男とそのつれあいの辰年の女とのお願いの筋を申しあげますので、お聞き入れになって下さいませ。お屋敷の神様、四隅八隅、中央の神様、御門の守り神様、便所の神様、やすらかにおわしました下さいまして、悪い風も、けがれた風も、筋ならぬものも、道ならぬものも、千里の外にお押しわけになって下さいまして、八尋、十尋の家に何の異変も

ないように守護なすって下さいまして、寅年の者の屋敷をお守りになって下さいませ。天の御恩（2月には「男親」といい8月には「女親」という。男親は天、女親は地を意味する）をありがたくおし戴いております。お屋敷に住まわせていただいております男女をお守り下さいまして、ことしよい年、一年の間、何の異変もありませんように、末栄え、子孫繁盛させて下さいまして、千代万代、お光りをお立てになって下さいまして、言葉の不足はお見のがしになって下さいますよう、尊んで御信仰申し上げておりますから。あなとうと。

Yugwanbi'i①(名) Yugwan (祈願) をする日。その祈願の性質・種類に応じて、陰陽道による吉日が選ばれる。

Yugwanbutuci①(名) 結願。また、結願のお礼参り。神仏に Yugwan (祈願) をしたあとのお礼参り。一年中の Yugwanbutuci は年末に行なり。

Yugwando'ogu①(名) Yugwan (祈願) をする時使う道具。酒を入れる瓶、洗った米と洗わない米を別々に入れる器、線香を入れる器、杯、それをのせる盆、それらすべてを納める箱の一式をいう。寺院・霊地を回って祈願をする時、持ち運ぶ。清浄であるべきものとされ、他の用にはいっさい用いない。

Yugwangu'tu①(名) Yugwan (祈禱) をすべき事から。病人・不幸などが続く時、何か Yugwangu'tu があるのではないかと迷う。

Yuhooku①(名) 多く。たくさん。～ YAN. たくさんある。～ nu qcu. たくさんの人。

Yuhu-(接頭) 大。大きい意を表わす。Yuhuqcu (おとな), Yuhujaa (本家), Yuhumuci (大きい餅) など。

Yuhuzagarizima①(名) 大東島。むかし付近の海を通った舟が鶏の声を聞き、近くに島のあることが知られたが、島そのものは

発見できなかったと言われている。実際には北大東島, 南大東島, 沖大東島がある。

YuhuYahwii①(名) 一番上の兄。長兄。平民についていう語。

YuhuYaja①(名) 大柄。着物の模様についていう。

YuhuYajaa①(名) 父母の一番上の姉。士族についていう。一番上の伯母。

YuhuYajaamee①(名) 大奥様。士族の YuhuYajaa について平民などがいう敬称。Yajaameegwaa (若奥様) に対する。

YuhuYajazin①(名) 大きな柄の着物。

Yuhuzami①(名) 大雨。

Yuhuzanmaa①(名) 父母の一番上の姉。平民についていう。一番上の伯母。

Yuhubaa①* (名) 父母のすぐ下の叔母。大きい叔母さんの意。

Yuhubisjaa①(名) 象皮病 (の患者)。大脚の者の意。

Yuhubuni①(名) 大船。大きな船。

Yuhubusi①(名) 大節の意。hwaYuta (端歌) に対して、御前風節 (guzinhuu), 特牛節 (kutibusi) など、何々節と呼ばれる本格の歌をいう。

Yuhuciburaa①(名) 頭でっかち。大頭の者。Yuhuciburu の卑称。

Yuhuciburu①(名) 頭でっかち。大頭の者。Yuhuciburaa ともいう。

YuhuciburuYa'mi①(名) 大粒の雨。

Yuhuciku①(名) [古] [大筑] 麿藩前の警察官の役名。'wacikiku [脇筑], cikuszazi [筑佐事] の上。

Yuhucikwi'ici①* (名) (病人が) 退屈すること。～ sjoon. (病人が) 退屈がっている。

Yuhucinee①(名) 富んだ家。また、大所帯。大家族。Yuhuzinee ともいう。

Yuhuzizaa①(名) 大豆。大粒のものの意。toohumaami ともいう。

Yuhucoodee①(名) 兄弟が多いこと。たく

ʔuhucun

さんの兄弟姉妹。

ʔuhucun① (名) 大中。《地》参照。

ʔuhuduNci① (名) ⊖お宅。お屋敷。他人の家に対する敬称。大きなお屋敷の意。
⊖土族の名家。宗家。平民のそれは ʔuhujaa という。

ʔuhuduNmooi① (名) びっくり仰天。飛び上がって驚くこと。

ʔuhudusjui① (名) 非常な年寄り。大年寄り。

ʔuhugaci① (名) 大の食いしんぼう。

ʔuhugacima⁷jaa① (名) 大変な泥棒猫。また、そのように盗み食いする者。

ʔuhuganiku① (名) 大兼久。《地》参照。

ʔuhugee① (名) 豚などの胃。食品としての名。

ʔuhugii① (名) 大木。また、喬木。teebukuともいう。gumagii (灌木) に対する。

ʔuhugacaa① (名) 大きな口をした者。

ʔuhuguci① (名) 大口。大きな口。～ huracuN. 大口をあける。

ʔuhugui① (名) [大庫裡] 財産を保管する裏部屋。大きな kuui。とくに、ʔuduN [御殿], tunci [殿内] などの家での財産を保管する部屋。そこで財産の管理人 (sucici) や会計係 (zidee) が事務をとる。

ʔuhugusiku①① (名) 大城。《地》参照。

ʔuhugusikugwe⁷ena① (名) [大城ごゑにや] kweena (旅歌) の一つ。ʔuhugusikugireena [大城ごらゐをゑな] という文句に始まる長い古歌。

ʔuhugusjuazi① (名) 大きなお祝い。盛大な祝儀。ことに、選歴およびそれ以上の高齢の祝いをいう。

ʔuhugwii① (名) 大声。

ʔuhuhaamee① (名) 曾祖母。ひいおばあさん。また、祖父母の姉、祖父母の兄の妻をもいう。* 平民についていう語。

ʔuhuhaba① (名) 大幅。普通の布の二倍の

幅の布。

ʔuhuhwinazi① (名) 大辺名地。《地》参照。

ʔuhuʔiibi① (名) おや指。

ʔuhuʔici① (名) ため息。嘆息。

ʔuhuʔiju① (名) 大きな魚。大魚。nizi-deenu ʔaʔigadu ʔuhuʔijoo tujuru. しんぼう強い者が大魚を取る(諺)。

ʔuhuja① (名) [大親] ʔuduN [御殿] の家の家政を管理する人。家令。

ʔuhujaa① (名) 名家。平民のそれをいう語。

ʔuhujaaniNzu① (名) 大家族。大勢の家族。

ʔuhujakaa① (名) 貴族の男の子のおもひ役。補導役として雇われた者をいう。ʔjaka-agwaa (遊び相手として雇われた者) に対する。専属の家庭教師。

ʔuhujaku① (名) [古] [大屋子] 位階の名。大役の意であろう。さらに古くは ʔuhujakumui といったが、後には peecin というようになった。peecin の項参照。

ʔuhujakuu① (名) [古] ʔuhujaku と同じ。

ʔuhujamatu① (名) 日本。日本本土全体。ʔjamatu が薩摩だけを意味することがあるので、それと区別していう。

ʔuhujamatuNcu① (名) 日本人。日本本土の人。ʔjamatuNcu が薩摩の人だけを意味することがあるので特に薩摩以外の日本人をいう。

ʔuhujaqcii① (名) 一番上の兄。長兄。大きいにいさん。土族についていう語。

ʔuhujaqkwanaa① (名) ʔuhukuugaa と同じ。ʔjaqkwan は、やかん、および、きんたま。

ʔuhujaqsan① (形) おとなしい。やさしい。ʔuhujaqsaru qcu. やさしい人。おとなしい人。

ʔuhujasii① (名) ⊖(赤ん坊などの)おとなしい者。⊖お人よし。人の言うなりになる

- 者。
- Zuhujukusimunu'Zii** ① (名) 大うそ。～sjun. 大うそをつく。
- Zuhujukuu** ① (名) 大欲張り。強欲な者。goojukuu ともいう。
- Zuhukaa** ① (名) 大保川。国頭地方にある川の名。
- Zuhukubi** ① (名) 大首の意。次の句でいう。～toorijun. 大ぎょうりに頭を下げて頼む。我を折って頼み入る。懇請する。
- Zuhukuugaa** ① (名) 大ぎんたま。象皮病で鞆丸の大きくなった者。Zuhujaqkwanaa ともいう。
- Zuhumaaru** ① (名) 仕事を人にまかせて、楽に暮らせること。左うちわ。
- Zuhumacija** ① (名) 大きな店。macija は家をかまえた店。
- Zuhumeejatu'mee** ① (名) 大きな飯の意。大盛りにした飯。'jatu- も大きなの意。mabuigumi (魂をこめる式。その項参照)の時の文句にある。mabujaa mabujaa, 'uuti kuu 'joo, ~ kwira 'jaa. 魂よ, 魂よ, 追って来いよ, 大きな飯をやるぞ。
- Zuhumici** ① (名) 大通り。大道。
- ZuhumicinuQeu** ① (名) 道行く人。行きずりの人。赤の他人。
- Zuhumi'ntamaa** ① (名) 眼玉の大きな者。
- Zuhumnu'Zii** ① (名) 大言壮語。ほらを吹くこと。
- Zuhumunu'Zutusi** ① (名) 大きな落とし物をする。～sjooru gutoon. 大きな落とし物をしたようだ。大きな穴があいたようだ。親しい家族がひとり欠けた場合などにいう。
- Zuhumtamuta** ① (副) 大勢で笑いさざめくさま。がやがや。わいわい。～sjoon. わいわいと笑いさざめいている。
- Zuhumuutu** ① (名) 絵本家。一族一門の元祖の家柄。nakamuutu (分家の祖先) に対する。
- Zuhumuzi** ① (名) 大麦。
- Zuhuni** ① (名) 大根。deekuni というのが普通。
- Zuhunibaa** ① (名) 大根の葉。
- Zuhuniici** ① (名) 大きな寝息。
- Zuhuni'Nzu** ① (名) 大人数。多人数。大勢。
- Zuhunusi** ① (名) [古][大主] 'Zazi [按司]の家来の中の頭役。
- Zuhunusudu** ① (名) 大泥棒。
- Zuhu'Nbusi** ① (名) ㊦大きな重し。㊦大きな負担。～'Zuruci 'jaajaatu natan. 大きな重荷を下ろしてほっとした。
- Zuhu'Nmari** ① (名) こせこせしないたち。ゆったりとした性質。鷹揚な性質。
- Zuhu'Nmee** ① (名) 曾祖母。ひいおばあさん。また、祖父母の姉、あるいは祖父母の兄の妻*。士族についていう語。
- Zuhu'Nmii** ① (名) 長姉。一番上の姉。大きいねえさん。士族についていう語。
- Zuhu'Ncaki** ①* (名) 大見武。《地》参照。
- ZuhunKasi** ① (名) 大昔。先史時代の意で用いる。nakamukasi に対する。kamigudee ともいう。
- Zuhu'Nmi** ① (名) 大嶺。《地》参照。
- Zuhu'Qeu** ① (名) おとな。～nu kubai. おとなの待遇。おとな並みの扱い。
- Zuhu'Qeubui** ① (名) (子供が)おとなぶること。
- Zuhu'Qeugwii** ① (名) おとなの声。
- Zuhura** ① (名) 大浦。《地》参照。
- Zuhurume'e** ① (名) お祝いのごちそう。祝宴のおふるまい。'juçigunnu ~'juçigunの項参照。
- Zuhurumentaa** ① (名) ままごと。お客さまごと。
- Zuhusaagaa** ① (名) 数の多さを争うこと。遊戯などで数・点数の多い方を勝ちとすること。<taaga Zuhusaga. (誰が多いか)。
- Zuhusanikatazikiru** ① (名) 数の多い方

ʔuhusan

に決めること。また、多数決。

ʔuhusan① (形) (数・量が) 多い。

ʔuhusi① (名) [大瀬] 大岩。大きい岩(sii)。

ʔuhusidubi① (名) [古] [大勢頭部] gušikuncu (宮女) の中から選ばれて王の妾となったもの。

ʔuhusjoo① (名) ʔuhusjoomuN と同じ。

ʔuhusjoomuN① (名) そそっかしい者。とんま。間抜け。抜け作。

ʔuhusjuu① (名) 父方の一番上の伯父。または ʔuhuʔanmaa の夫。平民についていう語。また農村の8月踊りに出て来る120歳の長者はとくに hjakuhataci najuru coozanu ~ という。

ʔuhuta① (名) 大田。《地》参照。

ʔuhutaarii① (名) 伯父。伯父さん。父母の兄。また ʔuhuʔajaa の夫。士族についていう。叔父は ʔuncuu という。

ʔuhutaNmee① (名) 曾祖父。ひいおじいさん。また、祖父母の兄あるいは祖父母の姉の夫*。士族についていう語。

ʔuhuʔuhuʔNmee①* (名) 曾祖父母の姉。または、曾祖父母の兄の妻。士族についていう語。

ʔuhuʔuhuʔusjume①* (名) 曾祖父母の兄。または、曾祖父母の姉の夫。平民についていう語。

ʔuhuʔuhuntu① (副) たっぷりと。たくさん。~ ʔirijun. たっぷりと入れる。

ʔuhuʔuhwaka① (名) 本家のお墓。

ʔuhuʔumi① (名) 大海。

ʔuhuʔuminaaku① (副) すっかり安心したさま。次の句でいう。~ najun. すっかり安心する。大きな心配事が解消した場合にいう。

ʔuhuʔusjume① (名) 曾祖父。ひいおじいさん。また、祖父母の兄、あるいは祖父母の姉の夫*。平民についていう語。

ʔuhuʔusjuukoo① (名) 大法会。二十五年忌と三十三年忌の法事をいう。ʔubuçi

ともいう。十三年忌までは、白地の喪服を着るが、二十五年忌以上は紺地の晴れ着を着て盛大にいとなむ。

ʔuhuʔutira① (名) 首里の円覚寺をいう。大寺院の意。

ʔuhuʔuubi① (名) 礼装用の大帯。男が礼装の時着用する幅の広い帯。中国の紳に相当するもの。

ʔuhuʔuza① (名) 一番座敷。屋敷のなかで一番大きく立派な座敷。単に ʔuza ともいう。

ʔuhuʔuzoo① (名) 表門。正門。屋敷の表側にある大きな門。ʔuzoogwaa に対する。

ʔuhuuNcuu① (名) 母方の伯父。また、母方に限らず自分と非常に年の違い叔父。大きいおじいさん。

ʔuhuwaree① (名) 大笑い。~ sjuN. 大笑いする。

ʔuhuwata① (名) ⊖大きな腹。妊婦などの大きな腹。~ siisij sjoon. 大きな腹をかかえて苦しそである。⊕大腸。

ʔuhuwataa① (名) 腹の大きい者。妊婦や大食いの人称。

ʔuhuwatamuN① (名) 妊婦。腹の大きい者の意。普通は kasagincu という。また、女同志では siduugahuu sjoon. (ありがたいものをいただいている) のように言いあらわす。

ʔuhuwataʔurumaa① (名) くつわ虫の一種。腹が大きい。

ʔuhuwikiga① (名) 元来は大男の意。女が出生した時に、女の子をほしがる魔物に命をとられることを恐れて、わざと ʔuhuwikiga (大男) が生まれたという。

ʔuhuwinu① (名) 元来は大女の意。男が出生した時に、男の子をほしがる魔物に命をとられることを恐れて、わざと ʔuhuwinu (大女) が生まれたという。また、その父親が旅先にある時は、名前までも女の子の名前をつける。首里には、男で女の名の

ついた者がよくあるが、みな、このため
で、たいがいは nabii (鍋) という女の
名前がつけられた。

Tɔhuzaⓐ (名) 年寄り。老人。謙称または
軽い卑称として用いる。'waqtaaTɔhuza.
うちの年寄り。

Tɔhuzaaⓐ (名) 老いぼれ。Tɔhuza の卑
称。

Tɔhuzanaⓐ (名) 大謝名。《地》参照。

Tɔhuzatuⓐ (名) 大里。《地》参照。

Tɔhuziⓐ (名) [大地] 沖繩本島をいう。

Tɔhuzimuuⓐ (名) 気前がいい者。惜しげ
なく人に物を与える者。

Tɔhuzineeⓐ (名) Tɔhucinec と同じ。

TɔhuziNⓐ (名) 大金。多額の金。

TɔhuzuNzaNsii meeⓐ (名) おじいさま。
貴族の祖父・老翁に対する敬称。貴族の家
族がいう。

Tɔhwaⓐ (名) おんぶ。人を背負うこと。
～kwiizikijun. しっかりと背におんぶ
する。Qkwa ～sjun. 子をおんぶする。

Tɔhwaçiⓐ (名) おはつ。神仏に供えるため
に、人が手を付けぬうちにとっておく食
物。

Tɔhwakaⓐ (名) お墓。

Tɔhwakame'eⓐ (名) お墓参り。墓参。ha-
kamee ともいう。旧暦1月16日、7月7
日には、親戚一同が揃って Tɔhwakamee
を行なう。

Tɔhwiⓐ (名) その大きさ。それだけ (の
量)。そんなに大きく (多く)。また、そん
なわずか。～na kutu. そんな (大きな・わ
ずかな) こと。～na Tɔuzauti 'juntaku
suna. そんな立派なお座敷でおしゃべり
するな。

Tɔhwiⓐ (名) おきさき。王妃 (hwii) の敬
語。Tɔhwii ともいう。

Tɔhwigamutuⓐ (名) お日のもとの意。首
里をさしている。

Tɔhwigwaaⓐ (名) TɔQpigwaa と同じ。

Tɔhwiiⓐ (名) Tɔhwi (おきさき) と同じ。

Tɔhwiiku'tuⓐ (名) 大きな事。盛大な事。
盛典。'oonu Tɔkuree TɔçiciNgeesee ～
'jan. 王が即位されるのは盛典である。

Tɔhwikariⓐ (名) お光。神仏の威光。

Tɔhwirakuⓐ (副) お平らに。お楽に。か
しこまった客に対して言う語。hwiraku
の敬語。～Tɔunaimiseebiri. お楽になさ
いませ。

Tɔhwisanⓐ (形) 大きい。magisan (大き
い) より格式ばった語感があり、多くは抽
象的な大きさをいう。すなわち、盛大であ
る・偉大である・大げさである、など。
Tɔhwii kutu. 大いなること。大儀式な
ど。Tɔhwii qcu. 偉人。Tɔmari muri-
kujaja ziridatinu Tɔhwisa. [余り盛小
屋や 義理立ての大きさ (手水之縁)]あまり
盛小屋 (人名) は義理立てが大げさである。
macidu Tɔrisigutu 'jurukubin Tɔhwi-
sa. [待ちど嬉しごと 喜びもおへさ (大川
敵討)]待つのがうれしく、大きな喜びだ。

TɔTɔihweeⓐ (名) 御位牌。Tɔihwee (位牌)
の敬語。

Tɔiⓐ (名) 瓜。

Tɔidakaⓐ (名) 売り高。売り上げ高。

TɔigwaaTɔuseeⓐ (名) 料理名。きゅうりま
たは白うりなどを薄く切り、塩・酢、また
は砂糖水などで味をつけ、もんだもの。
きゅうりもみ。

Tɔimunuⓐ (名) 売りもの。売品。

Tɔinukusiⓐ (名) 売れ残り。

Tɔiroomuciⓐ (名) 菓子の名。いろいろも
ち。米の粉で作った餅菓子。那覇で作られ
た。

Tɔisaba=cuNⓐ (他 =kan, =ci) 売りさばく。

Tɔiweeⓐ (名) お祝い。お祝いの行事。
Tɔjuwee ともいう。

Tɔjaⓐ (名) 親。tainu ～. ふた親。両親。
～karanu 'juziri. 親からゆずり受けた
もの。財産・性質・病気など、親ゆずりの

ʔujaʔanmaa

もの。

ʔujaʔanmaaⓂ (名) zeeban (その項参照) が任地でもつ妾。もとは、子供ができた場合にそう呼ばれた。ʔujaʔanmaa の家は免税、子はその土地の士族になるなどの特権があった。

ʔujaaduiⓂ (名) 貴族の別荘。

ʔujabuNooⓂ **qkwacikusjoo**Ⓜ (句) 親は子ほんのりで、子は親に対して畜生のよう。親の心子知らず。

ʔujaçirasaⓂ **qkwaçirasa**Ⓜ (句) 親もつらく、子もつらいこと。親子別離の場合などにいう。

ʔujagakaiⓂ (名) 親がかり。親の庇護の下にあること。

ʔujaganasiⓂ (名) [文] 親御。親の敬語。
'waʔujaganasi. わたしの親御。

ʔujaganasiiⓂ (名) 親御様。他人の親の敬称。

ʔujagawaiⓂ (名) 親がわり。親のかわりになって世話すること。

ʔujagiⓂ (名) 援助。補助。金銭・物資などを援助すること。

ʔujagi=junⓂ (他 =ran, =ti) ㊦ささえる。押し上げる。qkwa ~. 背負った子を上に押し上げる。㊦援助する。物質的に助ける。ʔujanujaa ~. 親の家を援助する。

ʔujahukooⓂ (名) 親不孝。

ʔujahuziⓂ (名) 父祖。祖先。

ʔujahwahu'ziⓂ (名) 父祖。祖先。hwaa-huzi は祖父母。

ʔujakuⓂ (名) [文] 親子。口語では ʔuja-qkwa という。

ʔujakuⓂ (名) お役。'jaku (官職) の敬語。

ʔujamaⓂ (名) 大山。《地》参照。

ʔujamadiiⓂ (名) 親を失うこと。~ sjuN. みなし子になる。

ʔujama=junⓂ (他 =an, =ran, =ti) 敬う。あがめる。

ʔujamasaiⓂ (名) 親まさり。親より傑出すること。

ʔujamasai'ngwaⓂ (名) 親まさりの子。

ʔujameekutubaⓂ (名) 敬語。

ʔujamuduigu'tuⓂ* (名) 親にそむくこと。親不孝なこと。ʔunu cimoo ʔarantaŋiga, ~ nati. そのつもりはなかったが、親にそむくことになった。

ʔujamuduin'gwaⓂ* (名) 親にそむく子。親不孝者。

ʔujamutuⓂ (名) 親もと。

ʔujanujaaⓂ (名) 親の家。また、とついだ女の里。里は nasimii ともいう。

ʔujanutamiⓂ (名) 親のため。~ kuninutami. 親のため困のため。

ʔujanmaaⓂ (名) ʔujaʔanmaa と同じ。

ʔujanŋe'enⓂ (連詞・不規則) 'jan (だ・である) の敬語。ʔwaanŋeen と同じ。でいらっしやる。でおありになる。ʔamaamaa ʔujanŋeebiiga. あのかたはどなたでいらっしやいますか。

ʔujaqkwaⓂ* (名) 親子。親と子。

ʔujaqkwamuru'qkwaⓂ (名) 親子全部。親子もろとも。

ʔujasiⓂ* (名) もやし。おとなの使う語。普通 maamina を多く用いる。

ʔujazumujaaⓂ (名) 親思い。孝行者。

ʔuju=buNⓂ (自 =ban, =di) およぶ。到達する。否定の形で多く用いる。ʔjuunin ʔujuban. 言うにおよばない。

ʔu=junⓂ (他 =ran, =ti) 織る。nunū ~. 布を織る。

ʔu=junⓂ (他 =ran, =ti) 売る。

ʔujuweeⓂ (名) ʔuiwee と同じ。

ʔukaⓂ (名) 宇嘉。《地》参照。

ʔukaasjanⓂ (形) あぶない。危険である。失敗の可能性が多い。また、病人の状態などがあぶない。

ʔukabi=junⓂ (他 =ran, =ti) [新?] 浮かべる。huni ~. 舟を浮かべる。

Tuka=bun① (自 =ban, =di) [新?] 浮く。
浮かぶ。

Tukaçimi① (名) 特定の仏が特定の人の運命を加護し、左右していること。おつかまへの意。人の生年の十二支の別によってそれぞれ仏が異なる。たとえば寅年の人のTukaçimiは円覚寺の仏、子の年の人のそれは観音堂の仏のようになっており、Tugwan(折願)をする場合は、それぞれのTukaçimiの寺院へ行く。<kaçimijun。

Tukaga=jun① (他 =an, =ran, =ti) うかがう。ひそかにさぐる。ひそかにのぞく。訪問する・お聞きするなどの意はない。

Tukagi=jun① (他 =ran, =ti) 「(食べ物)をよそう」(Tirijun)の敬語。Tubun Tukaçijabira。御飯をおつぎしましょう。

Tukaimun① (名) 開聞岳。薩摩半島にある山の名。

Tukaitu① (副) うっかり。Tukaqtuともいう。

Tuka=jun① (自 =ran, =ti) 交接する。男の側からいう。上品な語ではない。普通の語はTicajun。動物についてはçirubunという。

Tukakibuşē① (名) 御統治。お治めになること。しろしめすこと。-buşee (<-huşee)は榮えさせる意か。Tisinagunu Tisinu Tuhusi narumadin, Tukakibuşemisjori 'waTusjuganasi。[石なごの石の大瀬なるまでも おかけぼさへ召しやうれ 我御主がなし] 石なごの石が大岩になるまでも、お治め下さいわが君。沖繩の君が代に当たる歌で、宴席などで最初に歌われた。

Tukakizi'ma① (名) [古] [御掛島] 御領地。御采地。<sima kakijun (采地を領する)。simaの項参照。

Tukani① (名) (食物が) 暖かいこと。~nu Taru Tucini Tusjagamisjooree。暖かいうちに召し上がって下さい。~sjabiiimi。

暖めましょうか。

Tukaqtu① (副) うっかり。Tukaituともいう。

Tukaqtuu① (名) うっかり者。そこつ者。

Tukasa=rijun① (自 =riran, =qi) ①高熱に浮かされる。②(心が) うきうきする。kukuru ~。心がうきうきする。

Tukazai① (名) 仏壇・床の周などに、飾りつけをしたり、ものを供えたりすること。また、その物。お供え。お飾り。

Tukazaika'bi① (名) 正月などに、祭壇と火の神の前に供える紙。白・黄・赤の三枚を重ね、その上に供物をのせる。

Tukazi① (名) ①おかげ。Tujanu ~。親のおかげ。Tunzuga ~。あなたのおかげ。②役得。余録。役得として得るもの。~Tnzasjun。役得を生み出す。料理の場合なら、材料を全部使わずに、いくらかを自分のために残すことなど。

Tukee① (名) おかゆ。Tukeenu Tusiru。旧暦7月15日盆祭りの終わりの日に祭壇に供える、あずきのかゆと汁。汁は煮出汁に醬油を加えたもので、実に冬瓜・豆腐・肉その他色色のものを饗の目に切って入れる。~nu Twaajuu。おかゆのうわ湯、すなわち重湯。

Tukeeihwike'ei① (名) 躊躇逡巡。大いにためらうこと。~sjun。

Tukeeimunii① (名) ためらったものの言い方。自信のない言い方。

TukeeiYumii① (名) ためらうこと。引っこみ思案。また、気兼ねすること。遠慮。~sjun。

Tukee=jun① (自 =ran, =ti) ためらう。しりごみする。不安がる。また、気兼ねして引っこむ。遠慮する。

Tuki① (名) 浮き。釣り糸につける浮標。

Tukidui① (名) 受け取り。領収証。

Tukihansi① (名) 受け答え。議論・談判などの時の応対。受けはずしの意。

ʔukihwiṅtoo

ʔukihwiṅtooⓂ (名) 受け答え。応答。

ʔuki=juNⓂ (自 =raN, =ti) 起きる。起床する。ʔuukimiṣeebitii. お早うございます。目上に対する、朝の室内でのあいさつ。お目ざめですか。ʔukitiN niṅtiN. 起きてても寝ても。寝てもさめても。

ʔuki=juNⓂ (他 =raN, =ti) ⊖受ける。baçi ~. 罰を受ける。⊖請ける。引き受ける。請け負う。

ʔuki=juNⓂ (他 =raN, =ti) 浮かべる。浮かせる。huni ~. 舟を浮かべる。

ʔukimuciⓂ (名) 受け持ち。担当の仕事。

ʔukimu=cuNⓂ (他 =taN, =qci) 受け持つ。担当する。

ʔukiniNⓂ (名) 身元引受人。保証人。

ʔukiniNziiⓂ (名) 床の中で眼をさましていること。

ʔukiʔNzi=ju^ʔNⓂ (他 =raN, =ti) 起きて出る。(病人などが) 床を離れる。

ʔukinʒuⓂ (名) 肥土 (ʔiihu) の流失を防ぐため、畑のところどころに掘る溝。satuja ~nu tamaimiʒigukuru, kaniriwan ʔjusuni ʔjukuci ʔicusa. [里やうけんずの溜り水ごころかねれわも与所によこち行きゆさ] 愛する君はうけ溝にたまる水のようなもの、せき止めてもよそに流れて行く。

ʔukinʒuhainʒuⓂ (名) [受水走水] 地名。玉城間切玉城にあり、沖繩ではじめて稲を植えたとされるところ。

ʔukisikuciⓂ (名) 請け負い仕事。

ʔukitu=juNⓂ (他 =raN, =ti) ⊖受け取る。⊖(技術などを) 習得する。

ʔukitumi=ju^ʔNⓂ (他 =raN, =ti) 受け止める。

ʔukizamaniza^ʔmaⓂ (名) 起きたとたん。起きぬけ。起きてまだ目のさめやらぬうち。~nu kutu ʔjati, caa ʒee ʔjutasjaga ʔwakaraṅtan. 起きぬけのことで、どうしてよいかわからなかった。

ʔukooⓂ (名) [お香] 御線香。仏壇にあげて先祖を祭る。~du kookoo. お線香をあげることこそ奉行。

ʔukooruⓂ (名) 御香炉。仏壇で線香をあげる炉。大きいほど子孫繁昌を意味するとして、大きい香炉を尊んだ。

ʔukuⓂ (名) 奥。(地) 参照。

ʔukuçiiⓂ (名) たこあげで、たこの調子をとるためのひも。たこがさかさ落ちたりしないために付けたもの。

ʔukudaⓂ (名) 宇久田。(地) 参照。

ʔukudiⓂ (名) 奥の手。秘訣。

ʔukudiⓂ (名) 一門の中の、神に仕える人。kudi ともいう。三十三年忌をすませた祖先が男女おのおの二柱の神となり、それぞれを一門中の ʔunaiʔukudi と ʔwiki-ʔukudi の二人が受け持って祭る。部落の神官 nigami, さらに数部落の神官 nuuru の下部組織をなす。kudi からは kundi ʔawaci, misudi ʔawaci (手を合わせ、袖を合わせ) という祈りの文句の kundi (組み手?) が連想されるが関係あるまい。

ʔukugusjuiniⓂ (名) [奥御書院] 首里城の建物の名。

ʔukuhwanⓂ (名) kuhwan の丁寧語。

ʔukuʔirizo^ʔoⓂ (名) 奥まった門。道路からはいりこんだところにある門。旧家の門に多い。

ʔukuikēe=sjuNⓂ (他 =saN, =ci) 送り返す。返送する。

ʔukuimeeⓂ (名) 無尽で、中途で当たるか、人の当たったのを買いかして金を受け取ったのち、利子を付けて返還すべき掛け金。kakimee (掛け前) の対。

ʔukuimuNⓂⓂ (名) 進物。おつかいもの。贈り物。恋人への贈り物は元来は nasaki という。~ sjuN. 進物をする。贈り物をする。

ʔukuiʔuzinⓂ (名) 送り膳。宴会に来ない客にその人の膳部を送りとどけること。ま

- た、その膳部。
- Zukuizoo**Ⓞ (名) 婚礼の際の、嫁の荷物の送り状。婿の家へ持参する荷物の目録。
- Zukujama**Ⓞ (名) 奥山。深い森林。
- Zuku=jun**Ⓞ (自 =ran, =ti) (事件が) 起こる。起きる。病気についてはいわない。Yikusanu (soodoonu) ~. 戦争(騒動)が起こる。
- Zuku=jun**Ⓞ (他 =ran, =ti) ⊖(物品・書状などを) 送る。⊖葬送する。(死人を) 送る。
- Zukuku**Ⓞ (名) 小谷。(地) 参照。
- Zukuma**Ⓞ (名) 奥間。(地) 参照。
- Zukumaami**Ⓞ (名) 植物名。いんげん豆。
- Zukumuimise'en**Ⓞ (自・不規則) 崩御する。おかくれ遊ばす。王が死ぬことの敬語。
- Zukuna=jun**Ⓞ (他 =an, =ti) 行なり。
- Zukunee**Ⓞ (名) 行ない。行為。品行。~nu 'waqsan. 品行が悪い。
- Zukura=sjun**Ⓞ (他 =san, =ci) (時刻) に遅れさせる。遅刻させる。また、(速度を) 遅らせる。
- Zukureeoozi**Ⓞ (名) [古] [御位王子] 王の子でない者で、功勞によって王子の位を与えられた者。ʔazi [按司] が siqsii [摂政] になった場合などになる。
- Zukuri=jun**Ⓞ (自 =ran, =ti) ⊖盛り上がる。miigaanu ~. (元気が回復して) まぶたが盛り上がる。⊖(事件・病気などが) 起こる。起きる。Yikusanu ~. 戦争が起こる。bjooocinu ~. 病気が起きる。⊖大きくなる。盛んになる。kurasinu ~. 暮らしが大きくなる。
- Zukuri=jun**Ⓞ (自 =ran, =ti) (かさぶたが) はげて離れる。kasabutanu ~. かさぶたがとれる。
- Zukuri=jun**Ⓞ (自 =ran, =ti) 遅れる。また、遅刻する。niiku najun (遅くなる) ともいう。速度については多くは nibuku najun (のろくなる) という。
- Zukusi**Ⓞ (名) [古] 御輿。王の乗る輿。
- Zuku=sjun**Ⓞ (他 =san, =ci) ⊖(物・人を) 起こす。起こして立てる。⊖(人を) 起こす。目ざめさせる。⊖興こす。盛んにする。'jaa ~. 家を栄えさせる。mura ~. 村を盛んにする。
- Zukuta=jun**Ⓞ (自 =ran, =ti) 怠る。なまける。
- Zukwan'si'n**Ⓞ (名) [お冠船] 中国から沖縄に派遣される冊封使 (toonuu ʔazi) の船。
- Zukwan'si'nudui**Ⓞ (名) [お冠船] 冊封使を接待するために催した国劇。演ぜられたのは主として組踊り (kumiudui) であり、冊封は琉球王の一代一度の大儀典なので、役者の選抜、練習は厳重をきわめ、その華麗さや役者となる美男の評判は、国中をどよめかせたという。
- Zumaaci**Ⓞ (名) 火 (hwii) の敬語。多く ʔumaçi という。~nu ʔugwan. 火の神に対する祈願。村の 'uganzu (祈願をする霊地) で祈願をし、家に帰ってから、おのおのの家のかまどで祈願をする。
- Zumaan'ngasagasa**Ⓞ (名) 思わなくてもよいような雑念。とりこし苦勞。~ ʔumu-jun. 考えなくてよいことを、かれこれと考える。とりこし苦勞をする。
- Zumaaranmu'n**Ⓞ (名) 心外なこと。とんでもないこと。また、心外な者。心ない者。けしからぬ者。ʔariga 'waakutu ʔjuteegisašiga ~ 'jaqsaa. 彼がわたしのことを悪く言ったそうだが、心外なやつだ。
- Zumaasibui**Ⓞ (名) 思わせぶり。ʔansi ʔumaasibuee san gutu kamee. そんなに思わせぶりはしないで食べ。~nu šizii-nee duunudu sunoo sjun doo. 思わせぶりが過ぎると自分が損するぞ。
- Zumaazihuraazi**Ⓞ (副・名) ⊖思わず。~ dateen ʔabitan. 思わず大声を出した。⊖ 思いがけず。また、思いがけない

Yumaçi

こと。kumauti ʔicaişee ~nu kutu ʔjaqsaa ʔjaa. ここで会うとは思いがけないことだねえ。

YumaçiⓄ (名) [古] 火 (hwii) の敬語。老女などがよく言う。Yumaçee saatooja-biimi. 火はございますか。

YumaçiiⓄ (名) 稲麦などの農耕に関して行なわれるお祭り。2月, 3月に麦の祭りを, 5月, 6月に稲の祭りを行なう。4月には ʔabusibaree (その項参照) が行なわれる。もとは, 国王が久高 (2月), 玉城 (4月) に出かけて, その祭りを行なった。

YumaniiⓄ (名) [思姉] ⊖ 兄嫁さん。または, 嫁に行ったおねえさん。兄嫁・既婚の姉の敬称。士族についていう。⊖ 奥さん。既婚の士族の婦人の敬称。

YumanimeeⓄ (名) 兄嫁様。または, 嫁に行ったおねえさま。結婚した貴族の女をその弟妹などがいう語。一般からは ʔaqtoomee と呼ばれる。

YumaNcuⓄ (名) [御真人・御万人] 人民。一般の庶民。多くの人。万人。

YumaNtu'NⓄ (名) 王の礼服。

YumawaiⓄ (名) おかず。おまわり。

YumeeⓄ (名) [古] [御前] 御前 (ごぜん)。御前様。殿様。ʔuduN [御殿] の主人公に対する敬称。昔, ʔazi [按司] と称した者が, 首里に居宅 (ʔuduN) をかまえて住むようになってからは, Yumee といわれるようになった。

YumeegwaaⓄ (名) 若殿様。若様。Yumee の長男に対する敬称。Yumee が ʔazi [按司] といわれた時代には, ʔwakaazi [若按司] といわれた。

Yumeenume'eⓄ (名) お殿様。御前様。Yumee の敬称。

YumeesiⓄ (名) お箸。meesi の丁寧語。首里の上品な家では, 普通 Yumeesi といった。

YumeesibakuⓄ (名) お箸箱。

YumeNtuuⓄ (名) 紙びな。紙で作り, 紙の着物を着せた女ひなにんぎょう。男びなは saatuumee という。ʔjuqkanuhwii (旧暦 5月4日) をにぎわす玩具のひとつ。

YumeNtuubakuⓄ (名) YumeNtuu を入れる箱。にんぎょう箱。木箱を色紙で美しく飾ったもの。

YumiⓄ (名) 海。~ ʔaqcuN. 海を行く。航海する。また, 船乗りを業とする。また, 漁師をする。

Yumi- (接頭) [思] 敬愛の意をあらわす接頭辞で, 人名, 人倫関係の語につける。さん。さま。Yumiziruu (次郎さん), Yumişiiza (おにいさま), Yumisatu (恋しいお方) など。

YumiʔaasaⓄ (名) 海あおさの意。ʔaasa (あおさ。青のりの一種) と同じ。moo-ʔaasa (きのこの一種) と区別してよんだ名。

YumiʔaqcaaⓄ (名) 船乗り。船員。また, 漁師。-ʔaqcaa < ʔaqcuN (歩く)。

YumibataⓄ (名) 海ばた。海辺。海岸。

YumicakiⓄ **neen**Ⓞ (句) 思いがけない。~ kutu. 思いがけないこと。

Yumiçi=cuNⓄ (他 =kan, =ci) 思いつく。Yumiçicaruu kutunu ʔwamini mata ʔajuN. [思付ちやることの 我身にまたあゆん (手水之縁)] 思いついたことがわたしにまたある。

Yumici=juNⓄ (他 =raN, =qci) 思い切る。あきらめる。

Yumiciku'ruⓄ (副) 御てずから。御自身で。Yunzukuruu よりいっそう丁寧。~ misjooci. 御自身でなさって。

Yumiçimi=juNⓄ (他 =raN, =ti) 思いつめる。一途に思いこむ。

Yumiçi'munⓄ (名) かまどの神。かまど (kama) は石三つからできていたのだからこの名がある。お三つ物の意。

YumiciqciⓄ (副) 思い切って。決心して。

Yumiciqtu④ (副) 思いきり。強く。うんと。しっかり。～ kaçimitoon. しっかりつかんでいる。

Yumiciri④ (名) 思い切り。決断。また、あきらめ。断念。～ nu neen. 思い切りが悪い。

Yumicuku`ru④ (名) 御三人様。おさんかた。miqcai の敬語。micukuru, Yumitakuru ともいう。

Yumigaamii④ (名) 海亀。単に kaamii と いえば水陸両棲の亀を多くいう。

Yumiga`ni④ (名) 海にいる蟹。

Yumigwa④ (名) [文] 主人の子、または、目上の人の子に対する敬称。お子さま。口語は Yumingwa。

Yumihama=ju`N④ (自 =raN, =ti) はげむ。熱心に努力する。

Yumii④ (名) Yumui (思い) と同じ。

Yumiibukasan④ (形) 思慮深い。考えが深い。また、考え過ぎる。

Yumiidui④ (名) 思い通り。思った通り。～ natan. 思い通りになった。

Yumiijamii④ (名) 思いなやむこと。思いためらうこと。～ sjun.

Yumiinici④ (名) 御命日。miinici の敬語。

Yumiinuhuka④ (名) 思いのほか。意外。案外。

Yumii`Nbusan④ (形) 心が重い。重大なことを思って気が重い。

Yumiisizi④ (名) 思い過ごし。

Yumiisizi=ju`N④ (他 =raN, =ti) 思い過ごす。

Yumijui④ (名) 思いつくこと。思いおよぶこと。心にかかること。気がつくこと。～ nu `jutasjan. よく気がつく。

Yumijuikeeju④ (名) 気がつくこと。あれこれ思いつくこと。～ nu `an. よく気がつく。

Yumiju=juN④ (他 =raN, =ti) 思いおよぶ。気がつく。Yumijuti qei kwiti ka-

huusi. 思いだして来てくれてありがとう。

Yumikaki=juN④ (他 =raN, =ti) ⊖お目にかける。御覧に入れる。misijun (見せる) の謙譲語。さらにその上の敬語は nunkakijun. Yumikakijabira. お目かけましょう。⊖御覧になる。`NNZUN (見る) の尊敬語。Yamanakai Yajabiikutu Yumikakiti kwimişeebiri. あちらにございますから、御覧になって下さい。

Yumikakimiş`eN④ (他・不規則) 御覧になる。`NNZUN (見るの敬語)。njunkakimişeen はさらにその上の敬語。

Yumikana④ (名) [文] [思加那] 恋人 (女) を親しんでいう語。

Yumika`zi④ (名) 海風。海の方から吹く風。

Yumikii④ (名) ⊖貴族・士族の女が男の兄弟 (`wikii) を敬愛していう語。⊖女が、身分のある家柄の年下の男の子を呼ぶ語。ほっちゃん。

Yumikiinume`e④ (名) 御兄弟様。おにいさま。弟さま。姉妹から見た男の兄弟の敬称。目下の第三者が貴族の女に、その兄弟を話題にしていう場合などに用いる。

Yumima`açi④ (名) 海松 (うみまつ)。黒さんご。

Yumimaga④ (名) お孫さん。御令孫。

Yumima`jaa④ (名) 海綿。

Yuminaaku④ (副) 安心したさま。心配がなくなつたさま。次の句でいう。～ najun. 心配がなくなる。また、皮肉として、万事休した場合にもいう。

Yuminaga=sju`N④ (他 =saN, =ci) 思い流す。思いあきらめる。つとめて忘れるようにする。

Yuminai④ (名) おねえさま。妹様。貴族・士族の、兄弟から見た姉妹の敬称。主として第三者がいう。

Yuminaibi④ (名) 王の娘に対する敬称。王女様。-bi は複数または敬意の接尾辞。

ʔuminaitisazi

ʔuminaiti'sazi① (名) 'unaigami の頂参照。

ʔuminaiʔu'sizi① (名) 姉妹 (ʔuminai, 'unai) の靈。'unai [をなり] の靈は旅に出ている男の守護神となる。'unaigami の頂参照。ʔuninu takatumuni siratujaga 'icon, siratujaja ʔaran, ~. [御船の高ともに 白鳥が居ちよん 白鳥やあらぬ 思をなり御すじ] お船の高いともにしらとりがとまっている。しらとりではない。あれはわたしを守る「をなり」の靈だ。

ʔumiʔnmagwaa① (名) たつのおとしご。

ʔumi'ncakira① (連体) 思いがけぬ。意外な。~ kutu. 思いがけぬこと。

ʔumi'neuu① (名) 漁師。漁夫。海の人の意。ʔijutujaa ともいう。

ʔumi'ngwa① (名) お子さん。他人の子の敬称。

ʔumi'ni ʔjura① (句) 思いもよらない。意外な。~ kutu. 思いもよらないこと。

ʔumi'no① (名) [文] [思無蔵] 恋人 (女) を親しんでいう語。

ʔumi'otu① (名) [思弟] 弟さん。妹さん。士族の弟妹を第三者がいう語。

ʔumisatu① (名) [文] [思里] 恋人 (男) を親しんでいう語。恋しいお方。

ʔumi'siiza① (名) おにいさま。貴族が兄・年上に対していう語。

ʔumisi=ju'N① (他 =raN, =qci) [文] 思い知る。namadu ʔumisijuru. 今こそ思い知った。

ʔumi'simi=ju'N① (他 =raN, =ti) 強く思う。また、深く恋する。

ʔumita=cu'N① (他 =taN, =qci) 思い立つ。思い企てる。

ʔumituku'ru① (名) ʔumicukuru と同じ。

ʔumiwarabi① (名) 子供さん。お子さん。子供 ('warabi) の敬語。また、かわいい子供。~ ʔilkaci namadu ʔumisijuru,

'Nkasi 'wan mutaru hwitunu nasaki. [思童すかち 今と思ひ知ゆる 昔我身守たる 人の情] かわいい子供のもりをしてはじめて知った、むかしわたしのもりをした人の情を。

ʔumizituganawai① (名) 思うことがかなうこと。願いが成就すること。~ sjoon. 願いがかなった。

ʔumizituguhwasan① (形) 思うようにならない。思い通りにいかない。

ʔumu'çiri'ʔukoo① (名) 束にした線香。一束となっている線香。ʔugwan (祈願) の時使う。lutuci'ʔukoo (一本一本ばらにした線香) に対する。ʔumu'çiri < mu'çiri-jun.

ʔumuda=cu'N① (自 =taN, =qci) おもだつ。ʔumudaqcooru qcu. おもだった人。

ʔumui① (名) ⊖思い。考え。所存。願望。⊖思慕。恋愛。⊖おもろ。各地方の nuuru (のろ。巫女) によって伝えられ、歌われている「おもろ」(ʔumuru) をいう。

ʔumui'zata'=ju'N① (他 =raN, =ti) 思い当たる。ʔumui'ʔatataru kutunu ʔa. 思い当たったことがある。

ʔumui'ba① (名) [文] [思羽] おしどりの二つの翼。恋の象徴とされる。ʔamakawanu mizini ʔašibu ʔusiduinu ~nu ciziri 'jusuja siran. [天川の水に あそぶおしどりの 思羽のちぎり よそや知らぬ] 天川 (架空の井戸の名) の水に遊ぶおしどりの二つの翼のようなわたしたちのちぎりを入人は知らない。

ʔumui'gwe'ena① (名) kweena と同じ。

ʔumui'kee=sju'N① (他 =saN, =ci) 思い返す。思い直す。

ʔumui'niku=sju'N① (他 =saN, =ci) 思い残す。みれんに思う。

ʔumujaa① (名) 思う相手。恋人。

ʔumujoo① (副) おぼろげ。ぼんやり。ほか。かすか。kurasaa ʔašiga qcunu

taqcooʃi ~ja 'wakajuN. 暗くはあるが、人の立っているのがおぼろげにわかる。kunu hwimunoo nuuNdicī kakaqtooga ~ 'jatin 'wakarani. この碑文は何と書いてあるかおぼろげにでもわからないか。

ʔumu=juNⓄ (他 =raN, ʔumaan ともあり, =ti) 思う。考える。また、案ずる。また、恋する。ʔumujuru mama. 思うまま。思う通り。ʔumaaransaa. 考えられないことだなあ。とんでもない。心ないことをする者をとがめる時などにいう。ʔumui ʔumutooti. 思いに思って。よくよく思いつめて。また、深く恋して。ʔumui ʔumuti ともあり。ʔariga ʔagatookara kumaNkai caʃee ʔumui ʔumutootinu kutudu 'jaru. 彼があんな遠くからここに来たのは、よくよく思いつめてのことだ。

ʔumukaziⓄ (名) おもかけ。心に浮かぶ姿。~nu tacuN. 心に姿が浮かぶ。'juin ʔakaʃicin narisi ~nu tatan hwija nesami sjujanu cimuri. [宵も暁も 馴れし 弟の 立たぬ日や無いさめ 塩屋の煙 (花充之縁)] 宵もあかつきも親しい夫のおもかけが、塩たく家の煙のように立たない日はない。

ʔumukooⓄ (名) 寺の中央。本堂。本尊のある正面。mukoo は正面。

ʔumukutuⓄ (名) 思うこと。ふだん思っていること。~du nigutu. 思っていることが寝ごとに出る。nuu ~N neeraN. 何の思うこともない。

ʔumumuciⓄ (名) ⊖用向き。用。目的。nuugana ~nu ʔati cooN doo. 何か用があって来たんだよ。ʔariga munuʔii-jooja nuugana ~nu ʔaʃsaa 'jaa. 彼のしゃべり方は何か目的があるなあ。⊖[新?] 趣。趣向。

ʔumumuciⓄ (名) 面もち。顔つき。

ʔumunubuzo'oⓄ (名) [御物奉行] munubuzoo (その項参照) の敬称。

ʔumunugu'ʃikuⓄ (名) [御物城] 中国貿易のための倉庫。那覇港の入口にあった。

ʔumuʃsaNⓄ (形) 面白い。あまり上品でない語。普通は ʔwiirikisaN という。

ʔumuruⓄ (名) [文] [おもろ] おもろ。沖繩に古くから伝わる伝誦詩。日本の祝詞にあたるような歌謡で、そのほとんどが叙事詩である。ʔumuru とは、首里王府に集められ、ʔumuruʔusoosi [おもろ御さうし] に収められたおもろをいい、地方の nuuru (のろ。巫女) に伝わるおもろは ʔumui という。ʔomoro は日本式発音。

ʔumurunusi'duiⓄ (名) [古] [おもろ主取] おもろをつかさどる役の男子。ʔumuruʔusoosi [おもろ御さうし] を保管し、王の式典の時、おもろを歌った。

ʔumuruʔuso'osiⓄ (名) [古] [おもろ御さうし] 沖繩最古の歌集。各地に伝わるおもろを集大成したもので、日本の万葉集に匹敵する。二十二巻からなり、尚清王即位5年(西暦1532)に第一巻、その80年後、島津の琉球入りの5年後、尚寧王即位25年(西暦1613)に第二巻、尚豊王即位3年(西暦1623)に第三巻から第二十二巻までができた。わずかに漢字を含むひらがな文の韻文で書かれている。

ʔumusirusaNⓄ (形) 面白い。楽しい。愉快である。興味がある。やや文語的な語。duqtu ʔumusirii kutu. 非常に面白いこと。saki nudi ʔumusirusa sjun. 酒を飲んで楽しむ。

ʔumusubiⓄ (名) [文] つれあい。配偶者。ʔugwan (祈願) の文句で使いう語。

ʔumutiⓄ (名) 表。ʔura (裏) の対。家の表は mee(前), huka (外) などという。~zuuguniN. [表十五人] zuuguniNsjuu の項を見よ。

ʔumutigeeciⓄ (名) (豊)の表がえ。

ʔumutimuci

- ʔumutimuci**Ⓞ (名) 表向き。表立つこと。
公然となること。～ najun. 公然となる。
ʔumutimucee nuun sirantaru kutuni
qsi. 表向きは何も知らなかったことにし
ろ。
- ʔumutu**Ⓞ (名) 植物名。おもと。
- ʔumutudaki**Ⓞ (名) 於茂登岳。八重山群島
石垣島にある山の名。
- ʔunaa**Ⓞ (名) 首里城の正殿前の広庭。ʔu-
guşiku の項参照。
- ʔunaaNda**Ⓞ (名) おかご。貴族の乗るかご
(ʔanda) の敬語。
- ʔunagi**Ⓞ (名) その長さ。そんなに長く。
～ ʔan. それだけの長さある。～ nu ha-
bu. その長さのはぶ。
- ʔunahwa**Ⓞ (名) 小那覇。《地》参照。
- ʔunakaa**Ⓞ (名) 共有すること (cuukuu)
の敬語。御共有。おなかま。目上の人と共
有する場合などにいう。
- ʔunakaʔuzoo**Ⓞ (名) 首里城の門の名。ʔu-
guşiku の項参照。
- ʔune**Ⓞ (感) ⊖おや。珍しい物を見た時
などに発する。～ hwirumasii mun. お
や、珍しいものだ。⊕ほら。それ。指示
する場合に発する。目上に対しては、男は
～ sai. 女は ～ tai. のようにいう。～
'NNdee. それ見ろ。
- ʔuneʔune**Ⓞ (感) おやおや。おやまあ。珍
しい物を見た場合などにいう。
- ʔuni**Ⓞ (名) ⊕鬼。taiwannu ～. 台湾の鬼。
生蕃。～ du 'jaru. 鬼のように残酷だ。
⊖(接頭) [古]「偉大な」の意。ʔuniʔuhu-
guşiku. 偉大な大城 (大城は英雄の名)。
- ʔuni**Ⓞ (名) 字根。《地》参照。
- ʔunibici**Ⓞ (名) 御婚礼。御結婚。niibici
(婚礼, 結婚) の敬語。ただし、貴族の
それは kunrii, 王子・王女のそれは
gukunrii という。
- ʔunihjaa**Ⓞ (名) そいつ。そやつ。その野
郎。ʔunuhjaa ともいう。

- ʔunihwee**Ⓞ (名) ʔunjuhwee と同じ。
- ʔuniikeeʔuduN**Ⓞ (名) 首里城の建物の名。
ʔuguşiku の項参照。
- ʔunimuN**Ⓞ (名) 料理名。みそ煮。肉・野
菜の類をみそで煮た料理。
- ʔunjuhwee**Ⓞ (名) [御美拝] 神仏、祖先の
霊などに対して、男子が行なり礼拝。まず
ひざまずいて拝し、立って合掌し、またひ
ざまずいて拝し、これを四回くりかえすの
で、'juçinuʔunjuhwee ともいう。しかし、
coonuʔunjuhwee (その項参照) はこれ
を七回行なり。
- ʔunooi**Ⓞ (名) ʔusjuukoo (法事) の際のお
供物の菓子を下げて、おみやげとしたも
の。
- ʔunu**Ⓞ (連体) その。～ sjumuçi. その本。
～ gutu. そんなに。そのように。
- ʔunubaa**Ⓞ (名) その場。また、その場合。
～ ʔaree 'urantan. その場に彼はいな
かった。
- ʔunuca**Ⓞ (名) ʔunujuca と同じ。
- ʔunugutooru**Ⓞ (連体) そんな。そのよう
な。～ kutoo maanin neen. そんなこ
とはどこにもない。
- ʔunugutooruu**Ⓞ (名) そんなもの。そのよ
うなもの。
- ʔunuhjaa**Ⓞ (名) ʔunihjaa と同じ。
- ʔunuhzancee**Ⓞ (名) それっばかり。それ
くらいのささいなこと。～ nu kutunin
kusamicumi. それくらいのことにも怒
るか。
- ʔunuhwee**Ⓞ (名) ʔunjuhwee と同じ。
- ʔunuhwin**Ⓞ (名) その辺。そのあたり。
- ʔunujoo**Ⓞ (名) そのよう。やや文語的な
語。～ na. そのような。～ ni qsi. そのよ
うにして。ʔunugutooru, ʔunu gutu な
どというのが普通。
- ʔunujuca**Ⓞ (名) その年配。その年。ʔunu-
ca ともいう。'juca の項参照。
- ʔunukuru**Ⓞ (名) そのころ。

Ųunumama① (名) そのまま。～ sjooree, Ųnzuciinee deezi doo. そのままにしている。動く大変だぞ。

ŲunuQcu① (名) その人。

Ųunusjaku②① (名) それくらい。そのくらい。その程度。～ nu kutunakai nacumi. それくらいのことで泣くか。～ Qsi 'jutasjasa. それくらいでいいよ。

Ųunusjakugwaa① (名) それしきのこと。それっばかり。

Ųunutuci① (名) その時。

ŲunuŲwii① (名) その上。かつ。それに加えて。

ŲuN (名) 'uN (恩) と同じ。

ŲuN① (名) 運。ŲuNci, Ųunsuu ともいう。～ nu 'waqsan. 運が悪い。～ nu Ųijun. 運が開ける。

Ųunbin① (名) 穏便。文語的な語。～ na sikata. 穏便なやりかた。Ųaradatiran gutu ～ ni sjun. 荒立てないように穏便にやる。

Ųunbozgwaa① (名) [文] ほっちゃん。子守り歌などで、下女などが boozuu をいう語。～ 'joo, ～. ほっちゃんまよ, ほっちゃんま。子守り歌のはじめの文句。このあとに即興的に色色の文句を並べる。

Ųunbuikoo'bui① (副) ⊖首を前後左右に曲げるさま。こっくり。居眠りなどのさま。～ sjun. こっくりこっくりする。⊕態度がはっきりしないさま。どっちつかず。～ sjoon. どっちつかずである。

Ųunbujaa① (名) 気取り屋。もったいをつけたがる者。

Ųunbu=jun① (自 =raN, =ti) 気取る。もったいぶる。

ŲuNcabi① (名) 'Ncabi (彼岸に焚いて祭る, 銭型を打った紙。また, その行事。彼岸祭り) の敬語。御紙銭。お彼岸。～ Ųusjagijun. 御紙銭を供える。

ŲuNcee① (名) [雲菜] ⊖野菜の名。よりさ

い。あさがおな。⊕miŲiŲuNcee と同じ。

ŲuNcee① (名) 拝借。借りることの敬語。～ sjabira. お借りしましょう。

ŲuNceemu^(N)① (名) 拝借した物。お借りした物。～ nihwee deebiru. お借りしたものをありがとうございます。

ŲuNci① (名) お顔。顔 (çira) の敬語。～ kwankwan. 顔つきが立派で威厳のあるさま。顔が福福しいさま。～ kwankwan-tu, hwizija tada miŲizi. 顔つきは堂堂としているが, ひげはたった三本。(ひげの少ないのを笑った歌の文句)

ŲuNci① (名) [運氣] 運。運勢。人に賦与された運。～ nu 'joosan. 運勢が弱い。

ŲuNcihiwi'Nci① (名) ŲuNci (運) を強めた語。運の悪い場合にいう。

ŲuNçikee① (名) 御招待。お招き。また, 御案内。御同行。おつれすること。貴人に対しては, さらに上の敬語 nuNçikee を用いる。～ saqtoon. 御招待を受けている。～ qsi Ųicun. お連れして行く。

ŲuNciN① (名) [新] 運賃。元来は単に tima (手間), または, 人が運搬する場合 kata-midima (かつぎ賃), 舟の場合 çimidima (積み賃), 馬の場合 Ųuusidima (負わせ賃) などという。

ŲuNcita'ka① (名) 御傘。貴人の傘の敬語。女が多く使う。お顔をかばりもの (ŲuNci +kataka) の意か。

ŲuNcoobi① (名) [御美髪] 髪 (karazi) の敬語。御髪。おぐし。nuncoobi, mjuncoobi はさらにその上の敬語。

ŲuNcu① (名) りみ。はれ物から出る汁。

ŲuNcuu① (名) 御機嫌。nuNci, mjuNci はさらに上の敬語。～ 'uganun. 御機嫌を伺う。Ųajaataarii ～ 'ugadi kwiri 'joo. おとうさんやおかあさんによろしく言ってくれよ。

ŲuNcuubu① (名) [御美腹] 腹の敬語。おなか。貴人の腹をいう。普通の敬語は

ʔuNcuuugan

ʔNcuubu.

ʔuNcuuugan① (名) 御機嫌伺い。<ʔuNcuu + ʔuganun. cuuja ~ siiga ʔuʂiritoo-jabiiN. きょうは御機嫌伺いに参上いたしました。

ʔuNdee① (感) ほら。見ろ。御覧。

ʔuNdee① (名) お叱り。目上が叱ることの敬語。~ sarijun. お叱りを受ける。叱られることは、普通は、nuraarijun という。

ʔuNdeekaa① (副) これ見よがし(に)。子供などが物を見せびらかすさま。

ʔuNgeesi① (名) 恩返し。ʔungeesi ともいう。

ʔuNgutooru① (連体) ʔunugutooru と同じ。

ʔuNgutu① (副) そんなに。そのように。~ qsin, caan naran. そんなにしても、どうにもならない。

ʔuNkee① (名) ㊦お迎え。人をお迎えること。㊦ʔusjoorooʔuNkee の略。

ʔuNna① (名) 恩納。《地》参照。

ʔuNna① (連体) そんな。~ kutu. そんなこと。

ʔuNnabusi① (名) [恩納節] guzinhuu [御前風] の一つ。

ʔuNnadaki① (名) 恩納岳。国頭にある山の名。

ʔuNnagee① (名) そんなに長い間。~ kangeetin ʔwakarani. そんなに長い間考えてもわからないか。

ʔuNneeru① (連体) そのような。そんな。kumanakae ~ kutoo neerani. can-neeru kutuga. ここにはそのようなことは無い。どんなことか。

ʔuNnii① (名) そのおり。その時。~ nu kutu. その時のこと。~ kara. その時から。その時以後。~ ni. そのおりに。その時に。

ʔuNnjuka=juʔN① (他 =ran, =ti) お聞きになる。cicun (聞く) の敬語。ʔuNnjuka-

misjooran. お聞き入れにならない。kan ʔjuru ʔuta ʔuNnjukataru kutunu ʔa-ibiimi. ʔNNNN, neeran. こういう歌をお聞きになったことがありますか。いや、ない。taagana ʔuNnjukati ʔumikakimiʂeebiree. 誰かにお聞きになってごらんなさいませ。

ʔuNnjuki=juʔN① (他 =ran, =ti) 申し上げる。目上に言うことの敬語。さらに上の敬語は mjunnjukijun (奏上する、言上する)。ʔuNnjukijabiiN. 申し上げます。

ʔuNnuka=juʔN① (他 =ran, =ti) ʔuNnjukajun と同じ。

ʔuNnuki=juʔN① (他 =ran, =ti) ʔuNnjukijun と同じ。

ʔuNpadaʔN① (名) 御親類。御親戚。ʔweeka (親戚) の敬語。tunzitaru munuja murabarunu ʔajaatu ʔncantiicinu cicuʔuNpadaN. [とんちたる者や 村原のあやと 御神一つの 近おんぼだん (大川敵討)] まかり出た者は村原夫人と祖神を同じくする近い親戚の者。

ʔuNsa① (名) 宇茂佐。《地》参照。

ʔuNsadai① (名) [古] お先払い。貴人の行列の先頭にあつて、通行人を追い払う者。

ʔuNsiraasjaʔN① (形) おいしい。maasan (うまい) の上品な語。女がいう。

ʔuNsjaku① (名) 甘酒。昔は若い娘がかみ砕いたなま米から作った。神に供える。

ʔuNsuu① (名) [運数] 運命。運。suu, ʔuNci ともいう。~ nu ʔiqcoon. 運が向いている。~ nu neeran. 運がない。

ʔuNtamamui① (名) 運玉森。首里西方、東海岸寄りにある山の名。

ʔuNtasjan① (形) 愛される。慕われる。敬愛される。ʔumancuni ʔuntasja saqtoon. 万人に慕われている。ʔuntasii qcu. 敬愛すべき立派な人。ʔuntasja sjun. 慕う。

ʔuNtiin① (名) 運天。《地》参照。

ʔuNzaniⓄ (名) ㊦り類の種。おもにすいかの種をいう。りぎね。㊦*karasju (幼魚の塩辛) の上等なもの。季節的に数日続いて幼魚の大群が海岸へ押し寄せる。その最初の日に取れるものが最も小さく、上等の塩辛となる。それをいう。

ʔuNzuⓄ (名) [御舅] ㊦あなた。目上および、親しくない同等に礼をもって対する時の、二人称。さらに目上の貴人に対しては nUNZU, mJUNZU という。㊦御自分。御自身。duu(自分の敬語)。㊦御自分の体。mikuci sansikwan, ~ hiiru. 口は三司官のように達者だが、体はへなへな。

ʔuNzukuʔruⓄ (副) あなた自身で。また、御自分で。御自身で。-kuru は英語の -self に似た接尾辞。

ʔuNzumiⓄ (名) ʔuzumi と同じ。

ʔuNzumuciⓄ (名) mimuci の敬語。~ teesicini misjoori. お体を大切になさいませ。

ʔuNzunaaⓄ (名) ㊦あなたがた。-naa は複数の意の接尾辞。㊦お宅。あなたの家。㊦ʔUNZU (あなた) よりもやや丁寧な二人称。

ʔuQcaka=juʔNⓄ (自 =raN, =ti) ㊦よりかかる。もたせかける。㊦たよる。㊦(神霊・もののけなどが、みこなどに)憑く。よる。

ʔuQcakiⓄ* (名) ちょっとひっかける着物。羽織に似てそでないもの。男女用。diŋkwaa ともいう。

ʔuQcakigwaaⓄ* (名) ʔuQcaki と同じ。

ʔuQcaki=juʔNⓄ (他 =raN, =ti) ㊦うち掛ける。ちょっと羽織る。㊦値をつける。ʔwaaga kurinkai guhjaQkwAN ʔuQcakitoosiga, ʔuran. わたしがこれに500貫の値を付けたが売らない。ʔuQcakiree. 値を付けてみる。sansooba ~. 高値をふっかける。

ʔuQcaŋgiiiriⓄ (名) おいてきぼり。置き去り。~ saQti nacun. おいてきぼりに

されて泣く。

ʔuQcangi=juʔNⓄ (他 =raN, =ti) うっちゃる。投げ捨てる。

ʔuQceehwiʔceeⓄ (副) 盛んに裏返すさま。しきりにひっくり返すさま。ʔuudu ~ husjun. ふとんを裏返し裏返し干す。

ʔuQcee=juʔNⓄ (他 =raN, =ti) ㊦裏返る。ひっくり返る。寝返りをうつ。kusjaa ~. 後ろへひっくり返る。びっくり仰天する。㊦逆になる。あべこべになる。ʔuQceetoON. さかさまだ。弟が兄を教える場合などにいう。㊦裏切る。寝返る。㊦あと戻りする。逆転する。退歩する。病状、子の成長などについていう。

ʔuQceeraka=sjuʔNⓄ (他 =saN, =ci) うっちゃらかす。ほったらかす。捨ておく。

ʔuQcee=sjuʔNⓄ (他 =saN, =ci) 裏返す。ひっくり返す。逆にする。

ʔuQciⓄ (名) [掟] 廃藩前の村長。土着の平民になる。

ʔuQcigasiⓄ (名) [掟加勢] 廃藩前の村長(ʔuQci)の補佐役。首里・那覇の士族で、学問があっても役職のないものが、都落ちしてこの役を務めた。

ʔuQcigu=nuNⓄ (他 =maN, =di) 急に口をつくむ。黙り込む。

ʔuQci=juNⓄ (他 =raN, =Qci) (布を) 織り終わる。織りあげる。

ʔuQcikaQciⓄ (名) おっつかっつ。優劣のないこと。~ ʔjan. おっつかっつだ。ほとんど同じだ。

ʔuQcikiⓄ (名) 点。しるしとして付ける小さい標識。~ sjuN. 点をうつ。

ʔuQciN=cuNⓄ (自 =kaN, =ci) うつむく。下を向く。うなだれる。また、うつぶす。hazikasjaga ʔatara, ʔuQciŋci munu ʔiijusantaN. 恥ずかしかったのだから、うつむいてもも言えなかった。

ʔuQciŋki=juʔNⓄ (他 =raN, =ti) (人・物を) うつぶせにする。下を向ける。伏せ

ʔuqciNtuu

る。

ʔuqciNtuuⓐ (名) うつぶせ。(人・物が)

下向きになること。また、うつむくこと。
うなだれること。また、うつむいている
者。～ najun. うつぶせになる。うなだ
れる。

ʔuqciriⓐ (名) 見切り品。売れ残りの品。

ʔuqcirikubusiⓐ (名) 起き上がり小法師。
玩具の名。

ʔuqkaⓐ (名) 負債。借金。sii(債)ともい
う。～ kanzun. 負債を負う。

ʔuqkaaⓐ (名) うっかり者。そこつ者。

ʔuqkabarecⓐ (名) 借金払い。弁済。sii-
barec ともいう。

ʔuqkuru=buNⓐ (自 =ban, =di) ころがる。
ごろりと横になる。

ʔuqpeeruⓐ (連体) その大きさの。それだ
けの(量の)。

ʔuqpeeruuⓐ (名) その大きさのもの。そ
れぐらいのもの。

ʔuqpiⓐ (名) その大きさ。それだけの大き
さ。それだけの(量の)。tindanu ～. 手の
ひらの大きさ。狭いものの形容。猫のひた
いほど。

ʔuqpigwaaⓐ (名) それっぽっち。それっぽ
かり(の量・大きさ)。

ʔuqpinaaⓐ (名) その大きさ。それほどの
大きさ。そんなに大きく。～ nu mun. そ
んなに大きなもの。

ʔuqsaⓐ (名) それだけ。それだけの数量。
…ほどの量。mutariiru ～ mucun. 持て
るだけ持つ。too ～. よし、それまで。

ʔuqsjagisaNⓐ (形) うれしそりである。

ʔuqsjahukurasjeaⓐ (名) うれしく喜ばし
いこと。非常なうれしさ。

ʔuqsjanaçikasjaⓐ (名) うれしいこと悲し
いこと。悲喜こもごも。

ʔuqsjanⓐ (形) うれしい。ʔuqsja sjun.
喜ぶ。

ʔuqsjaʔuqsjaaⓐ (副) 嬉嬉とするさま。

うれしそりなさま。～ sjoon. 嬉嬉とし
ている。

ʔuqtaaⓐ (名) 彼ら。それらの者。

ʔuqtaatiⓐ (副) ㊦わざと。故意に。～ ku-
rudan. わざところんだ。㊦わざわざ。cuu-
nuhwini ～ ʔami hutu. きょうに限って
雨が降って。

ʔuqtaciⓐ (名) 出発。また、発足。出だし。
nibuʔuqtacinu hweeriqsin. おそく出発
して早く立身(または結婚)すること。多
くは女についていう。婚期は逸したが、そ
の後よい縁談が早くまとまった場合、晩婚
だが早く男の子を生んだ場合などをいう。
ʔuqtacee nibusataşiga, dikitasa 'jaa.
出発は遅かったが、うまく行ったねえ。

ʔuqta=cuNⓐ (自 =tan, =qci) ㊦勢いよく
立つ。おっ立つ。㊦勢いよく出発する。威
勢よく始める。おっばじめる。

ʔuqtaiⓐ (名) 訴え。訴訟。～ sjun. 告訴
する。

ʔuqtaimo'taiⓐ (副) ゆっくりと。のんび
りと。～ sjun. のんびりやる。

ʔuqtee=junⓐ (他 =ran, =ti) 訴える。告
訴する。「なやみを訴える」などの訴える
意はない。

ʔuqteeraka=sju'Nⓐ (他 =san, =ci) ʔuq-
ceerakasjun と同じ。

ʔuqteeraki=jun'Nⓐ (他 =ran, =ti) ʔuqcee-
rakasjun と同じ。

ʔuqtiⓐ (名) 討手。また、追っ手。

ʔuqtiⓐ (副) おって。やがて。おっつけ。
そのあと間もなく。～ cuukutu maqcoo-
ree. 間もなく来るから待ってろ。

ʔuqtooⓐ (名) 火のし。布のしわをのばす
道具。

ʔuqtoohwi'tooⓐ (副) 病状がはかばかし
くないさま。病状が一進一退するさま。
～ sjoon. 病状が一進一退している。はか
ばかしくない。

ʔuqtuⓐ (名) ㊦弟。妹。年下の兄弟につい

て、男女の区別なくいう。特に区別する場合は 'wikigaʔuqtu(弟), 'winaguʔuqtu(妹)という。ʂiizaの対。～ misijun. 二番目以下の子を出産する。また、二番目以下の子を妊娠する。長子に弟(妹)を見せるという言い方をする。～ 'NNZUN. 弟(妹)が生まれる。㊦年下。

ʔuqtuba=sjuʼN㊦(他 =saN, =ci) すっ飛ばす。勢いよく飛ばす。

ʔuqtu=bun㊦(自 =baN, =di) すっ飛ばぶ。勢いよく飛ばぶ。

ʔuqtumaki㊦(名) おとみづわり。母が次の子を妊娠してつわりにかかったために、乳児が弱ること。ʔuqtumiijoogariともいう。

ʔuqtumiijoogari㊦(名) ʔuqtumakiと同じ。

ʔuqtumisi㊦(名) 二番目以後の妊娠、または出産。次の子ができること。おとみ。

ʔuqtunuga=sjuʼN㊦(他 =saN, =ci) すっ飛ばす。はね飛ばす。

ʔuqtuNgwa㊦(名) おとご。末っ子。

ʔuqtuʂiiza㊦*(名) 兄弟。兄と弟。または、姉と妹。兄と妹。姉と弟。tusu ~. 年上と年下。

ʔuqtuunai㊦(名) 妹。兄から見た場合にいう。'unaiは男からみたその姉妹。

ʔuqtuwikii㊦(名) 弟。姉から見た場合にいう。'wikiiは女から見たその兄弟。

ʔura㊦(名) ㊦裏。ʔumuti(表)の対。～ ʔucun. イ。裏打ちする。ロ。炊いた飯を裏返してほぐす。㊦反対。逆。～ du ʔicoo-ru. 反対のことを言っている。㊦便所。また、大便。上品な語。～ tacun. 大便に行く。便所に立つ。～ nu ʔjahwarasan. 便が柔らかい。

ʔura㊦(名) 宇良。(地)参照。

ʔuraaki=jun㊦(他 =raN, =ti) 水につける。水にひたす。食器・洗たく物などを洗う前に水につけることをいう。cimu ~.

心を洗い清める。nuudii ~. のどをうるおす。nuudii ʔuraakijuru ʔuqsaa neeran. のどをうるおすほどの量はない。

ʔuraçirasa㊦(名) うら悲しいこと。心中が悲しいこと。文語的な語。ʔasama ʔjuma kajuti miru zijunu nariba, mibusja ~ nujudi sjabiga. [朝またま通て 見る自由のなれば 見欲しやうらつらさのよでしやべが] 朝夕かよって会う自由があるのなら、何で会いたがったり悲しがたりしましょか。～ sjun. うら悲しく思う。

ʔuragee=jun㊦(自 =raN, =ti) 裏返る。

ʔuragee=sjun㊦(他 =saN, =ci) 裏返す。

ʔuragoosa㊦(名) ねたましく思うこと。ねたみ。そねみ。やくこと。男女間の場合には岡焼きの意でいう。男女間のしつとは rin-ci という。ʔariga dikiiikutu ~ sjun. 彼ができるので、ねたむ。

ʔurahara㊦(名) 反対。あべこべ。さかさま。うらはら。～ cigajun. 全然違ひ。正反対である。

ʔurami㊦(名) 恨み。

ʔuranee㊦(名) 占い。易の吉凶の占い。

ʔuranucimunii㊦(名) ʔuranucimunuʔiiと同じ。

ʔuranucimunuʔii㊦(名) 裏から言うこと。あてこすり。皮肉。風刺。

ʔura=nuN㊦(他 =maN, =di) 恨む。ʔuramarijun. 恨まれる。

ʔuraNda㊦(名) 西洋。「オランダ」を以て西洋全体をさす。

ʔuraNdaa㊦(名) 西洋人。

ʔuraNdaaʔNʼmu㊦(名) 甘藷の一種。実が黄色で美味。

ʔuraNdaguci㊦(名) 西洋語。西洋諸国のことば。

ʔuraNdasugai㊦(名) (女の) 洋装。男が洋服を着たのには言わない。

ʔuraNdatiisaazi㊦(名) 西洋手ぬぐい。タ

ʔuraNsan

オル。

ʔuraNsa^Nⓐ (名) [古] [御涼傘] ransan の敬語。

ʔurasaciⓐ (名) 浦崎。《地》参照。

ʔuraʃiiⓐ (名) 浦添。《地》参照。

ʔuraʔuciⓐ (名) 裏打ち。表具などの裏打ち。

ʔuraʔumutiⓐ (名) ⊖裏表。裏と表の両方。～nakai zii kacun. 裏表両面に字を書く。⊖裏表が逆になること。裏返し。～natooN. 裏表になっている。

ʔuraʒaⓐ (名) 裏座敷。女部屋。婦人の居間。遊郭では、女郎が客をとる部屋。ʔuraʒaa ʔacoomi. ʔacooibiisa, ʔimi-ʒeebiree. 部屋はあいているか。あいています。おはいり下さいませ。(女郎を買う時の、客と女郎の間答のしかた。)

ʔuraziⓐ (名) (衣服の) 裏地。

ʔureemasaNⓐ (形) うらやましい。

ʔuriⓐ ⊖(名) それ。そのこと。その物。その者。彼。～jaka kuree masi. それよりこれの方がよい。⊖(感) ほら。それ。人に指摘する場合、物を渡す場合、驚かす場合などにいう。目上には、男は～sai, 女は～tai, 目下などにさげすんでいう時には、ʔuriqsa, ～hjaa などと使いわけ。

ʔuridakiⓐ (名) それほど。それだけ。

ʔuriiⓐ (名) うるおい。雨が降って土地がうるおうこと。おしめり。ʔiiʔurii ʔjai-biin. よいおしめりですね。

ʔuriiⓐ (名) 憂い。憂い悲しむべきこと。不幸。

ʔuriigutuⓐ (名) 不幸。不幸なできごと。

ʔuriisju^uziⓐ (名) 不幸なこととお祝いごと。不祝儀と祝儀。

ʔurijookuri^ujooⓐ (名) あれこれと大騒ぎすること。上を下への大騒ぎ。

ʔuri=juNⓐ (自 =raN, =ti) 降りる。huni-kara ～. 舟から降りる。tinkara ～. 天

から降りる。

ʔuri=juNⓐ (自 =raN, =ti) 売れる。

ʔurikaaⓐ (名) その辺。

ʔurikaraⓐ (副・接続) それから。それ以後。

ʔurikuruⓐ (副) 彼(彼女)自身で。～ciidu sjuru. (彼は) 自分で来るさ。

ʔuriqsaⓐ (感) 目下に対して、または怒って、指摘したり、物を渡したりする場合にいう語。それ。

ʔurisjaⓐ (名) [文] ʔuqsja (うれしさ) の文語。

ʔuriʔuriⓐ (感) ほらほら。それぞれ。急いで人に指摘する時などにいう。

ʔuriziNⓐ (名) [文] 旧暦2～3月、麦の穂の出るころのこと。ʔwakaʔuriziN ともいう。那覇では ʔuruziN という。

ʔuriziNbeeⓐ (名) 2～3月ころ吹く南風。

ʔuriziNgeweenaⓐ (名) kweena (旅歌) の一つ。布を織ることをテーマとしたもの。はじめの文句は次の通り。ʔuriziNnu ha-çigauu ʔwakanaciinu mahadauu, mataki kuda çukuti…[おれづみのはつが芋若夏の真肌芋 真竹くだ造て…] ʔuriziNのころの初芋を、初夏の柔らかい芋を竹で管をつくり…。

ʔuroosaNⓐ (形) ⊖(糸などが) 細い。⊖(粒などが) 細かい。siinoonu miinu ～. ふるいの目が細かい。

ʔuruⓐ (名) 砂。細かな砂。また、砂利。ʃina ともいう。～katamiiga ʔicun. 砂をかつぎに行く。

ʔurudusiⓐ (名) うるう年。

ʔurukaⓐ (名) 愚か。考えが足りないといったほどの軽い意の語。～na mun. 愚かな者。

ʔurukamuniiⓐ (名) つまらぬ口のききかた。愚かなしゃべりかた。

ʔurukuⓐ (名) 小祿。《地》参照。

ʔurumaaⓐ (名) ʔurumaaʒee と同じ。

ʔurumaaʒeeⓐ (名) くつわ虫。-ʒee<ʒee

(ばった, いなど)。

ʔurumiⓄ (名) ⊖ころ.ころおい.ʔunu ~. そのころ. hananu sacuru ~. 花の咲くころ. naa cuuru ~ 'jašiga. もう来るころだが. ⊕(接尾)ころ. gungwaçiʔurumi (5月ごろ), 'juduusi tuuti tui-ʔuteeʔurumini muranu miitan. (夜通し歩き通して, 鶏の鳴くところに村が見えた) など。

ʔuruniinama'niiⓄ (名) 半煮え. なま煮え。

ʔurusaNⓄ (形) 不充分である. 足りない. zinbunnu ~. 知恵が足りない. šiminaanu ʔurusa nahwin kunsimiri. [賁繩のうるさにやへもこんせめれ (久志若按司)] 繩の縛り方がゆるい. もっと強く縛れ。

ʔurusiⓄ (名) 漆. 植物名. またそれからとる塗料の名。

ʔurusimakiⓄ (名) 漆負け. 漆かぶれ。

ʔurusinuiⓄ (名) 漆塗り。

ʔuru=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) ⊖降ろす. nii ~. 荷を降ろす. ⊕おろす. 墮胎する. ⊕(種を)まく. sani ~. 種をまく. ⊕細かく刻む. tabaku ~. たばこの葉を刻む。

ʔuruʔubiiⓄ (名) ろろ覚え. 不確かな記憶。

ʔuruziciⓄ (名) ろるう月. 'junzici ともいう。

ʔusaa=sjuNⓄ (自 =raN, =ti) ʔusjaajun と同じ。

ʔusaareeⓄ (名) ⊕ʔusaree と同じ. ⊕ʔusaree が来たことを知らせる声. 花嫁の一行の行列を見てよばわる声。

ʔusaa=rijuNⓄ (自 =riraN, =qti) ⊖襲われる. hweereeni ~. 強盗に襲われる. munni ~. 魔物に襲われる. 夢でうなされることもいう. 高い石垣のそばの部屋で寝ると, 魔物に襲われてうなされるといふ. ⊕押えつけられる. siini ʔusaaqti

sizaN. 岩の下敷きになって死んだ. ⊕圧倒される. ʔamanu ʔicui ʔusaaqti makitaN. あの人の威勢に圧倒されて負けた. ⊕病気に負ける. 用心して寝込んだため, かえって病気が重くなったような場合にいう。

ʔusaa=sjuNⓄ (他 =saN, =ci) ʔusujuN の使役形として用いる. ⊕おおわせる. かぶせさせる. ⊕(卵を)抱かせる. kuuga ~. 卵を抱かせる。

ʔusaa=sjuNⓄ (他 =raN, =ti) ʔusjaasjun (一緒にする)と同じ。

ʔusaciⓄ (名) 酔の物。

ʔusadamiⓄ (名) [文] 天命. tinnu ~nu kudati kuru tucija. [天の御定めの下で来る時や (手水之縁)] 天命が下って来る時は。

ʔusakatiⓄ (名) 祭祀の際の分担金. 一族一門の祭祀を行なう場合, その費用を各家に割り当てる. その割り当てられた費用。

ʔusakiiⓄ (名) そんなにたくさん. そんなに多量. ~nu kooimun. そんなにたくさん. 買物. ~na saki nudi. そんなにたくさん. 酒を飲んで。

ʔusakiinaaⓄ (名) そんなにたくさん. 数量. そんなにたくさんずつ. ~nu qcu. そんなにたくさん. の人. ʔihwindi ʔiceerumun, ~ muqci qci. 少しと言っておいたのに, そんなにたくさん持って来て. ~ ʔataimi. そんなにたくさんずつ割り当てがあるか。

ʔusaNⓄ (名) 胡散. 疑い怪しむべきこと. ~na mun. 胡散くさい者. 道で会った者には誰に対しても挨拶するのが一般であったので, 人に会っても挨拶をしない者をいうことが多い. tadanecon 'waminu ~ kakirariši, taga sicaga 'wazoni tisazi kakiti. [ただねちやうん吾身のうさんかけられす 誰がしちやが吾門に手巾かけて] ただでさえわたしは疑われているのに, 誰がしたのか, わたしの家の門に

ʔusaNdec

恋のしるしの手ぬぐいをかけて。

ʔusaNde'eⓄ (名) おさがり。神仏への供物のさげたもの。また、人の使用したあとを頂戴したもの。

ʔusaNmiⓄ (名) sanmi の敬語。神仏に供えるためにつくる重箱料理。一つには餅をつめ、一つには肉類・豆腐・大根などの煮しめをつめる。

ʔusareeⓄ (名) 結婚の時、婿の家に向かう花嫁の一行を先導する役。平民の老婆が当たる。ʔusareepaapaa, misareepaapaa などともいう。ʔusaree- は御先立ち (<sa-dajun) の意か。

ʔusareepa'apaaⓄ (名) misareepaapaa と同じ。

ʔusaziⓄ (名) 兎。家畜として飼育していた。沖縄には野兎はいない。

ʔuʂecⓄ (名) 料理名。あえ物。

ʔuʂec=junⓄ (他 =ran, =ti) あなどる。軽蔑する。見くびる。

ʔuʂeesinⓄ (名) おかわり。ʂeesin の敬語。

ʔusiⓄ (名) 牛。～ ʔuujun. 小用に立つ。上流の婦人の上品な言い方。なぜ「牛を追う」というかは不明。このことばのわからない農村の人はとまどう。～ ʔoorasjun. 牛を戦わせる。ʔusiʔaasi の項参照。

ʔusiⓄ (名) 丑(うし)。十二支の第二。方角は東寄りの北。時間は午前2時。

ʔusiʔaasiⓄ (名) 闘牛。牛合わせ。牛二頭を、角で突き合わせさせて戦わせる行事。逃げた方の牛が負けとなる。農村で、旧暦6月の稲の穂祭りのころ行なう行事。

ʔusihakujooⓄ (名) 牛買い。牛の売買をする者。

ʔusici=junⓄ (他 =ran, =qci) ⊖押しきる。すっきり押す。⊖勢いよく切る。ちょんぎる。

ʔusiçiki=junⓄ (他 =ran, =ti) 押しつける。圧迫する。

ʔusiçiku=nunⓄ (他 =man, =di) (着物・布などを) 押し重ねて、小さく丸める。押しつかねる。押し丸める。

ʔusiçiri=junⓄ (自 =ran, =ti) [文] 連れる。連れだつ。ʔusiçiriti tageni nagamijai ʔaʂiba. [押し連れて互に 眺めやり遊ば] 連れだつて一緒に眺めて楽しむ。

ʔusiciriziriⓄ (名) 細かく切りきざむこと。ずたずたに切ること。～ sjun.

ʔuʂideekuⓄ (名) [臼太鼓] 神事の祭りに行なう踊りの名。農村で、太鼓をたたいて女のみが踊る。はじめはうすをたたいたのであろう。

ʔusiduki=junⓄ (他 =ran, =ti) 押しのける。

ʔusihana=sjunⓄ (他 =san, =ci) 押し放す。つっぱなす。

ʔusiiⓄ (名) 教え。教育。しつけ。

ʔuʂiiⓄ (名) 雨水。二十四節の一つ。

ʔusiidakiⓄ (名) 経糸を押える竹。地機の付属具。

ʔusiigaciⓄ (名) 透き写し。敷き写し。手本の上から透き写しに書いてけいこすること。ʔusii<ʔusujun.

ʔusiigataⓄ (名) 教え方。教育法。教育。

ʔusiimaaruuⓄ (名) 順番を追って回ること。順ぐり。回り持ち。

ʔusiimaasiiⓄ (名) 順番に回すこと。順ぐり。回り持ち。

ʔusiimiiⓄ (名) 清明祭。清明 (siimii) の季節に行なう先祖の祭り。墓参をする。

ʔusiinⓄ (名) 賓客。お客様。上流家庭で使う語。

ʔuʂitareeⓄ (名) 補足。足りない分を補うこと。～ sjun.

ʔuʂiiziiⓄ (名) (乳の不足を) もらい乳して補うこと。

ʔusijusi=junⓄ (自 =ran, =ti) 押し寄せる。

- ʔusikaki=jun**① (他 =raN, =ti) 押しかける。
- ʔusikeera=sjun**① (他 =saN, =ci) 突き飛ばす。押し倒す。押してひっくり返す。
- ʔusikee=sjun**① (他 =saN, =ci) 押し返す。
- ʔusuku**① (名) [薄久] 植物名。あこう。気根を生じ、榕樹 (gazimaru) に似ているが、葉・実とも榕樹より大きい。材木は榕樹より劣る。実はいちじくに似て小さく、食用となる。
- ʔusikumi=jun**① (他 =raN, =ti) 押し込める。
- ʔusiku=nuN**① (他 =maN, =di) 押し込む。
- ʔusimaa=sjun**① (他 =saN, =ci) しっかり回す。きりりと回す。rakubučinu miʔubi ʔjuhwara ʔusimawaci sjunzanasimedei di ʔwane sadara. [らくぶつの御帯 よわらおし廻ち 首里ぎやなしみやだい でわないざだら] rakubuči (織物の名)の御帯を横腹にしっかりしめ回して、首里王府の御奉公に、いざわれこそは先がけしよう。
- ʔusimaci**① (名) うすべり。へりを付けたごぞ。
- ʔusimagi=jun**① (他 =raN, =ti) ⊖押し曲げる。へし曲げる。⊕屈服させる。負かす。ʔahwinaanu toonu ʔjamatuni ʔusimagiraqti taiwan turaqtaN. あれほどの中国が日本に負かされて、台湾を取られた。
- ʔusimasi**① (名) karanpana に対し、洗い清めた ʔnpanagumi を特にさす。おすましの意か。
- ʔuʕimasi**① (名) 上流婦人の洗髪・もく浴。上流婦人は決して、着物を全部脱いで、湯にはいったりすることがなかった。～sjun. もく浴する。
- ʔusimudu=sjun**① (他 =saN, =ci) 押し戻す。
- ʔusimutuu**① (名) 台所。農家でいう語。
- ʔusinaa**① (名) 闘牛場。-naa は広場の意。ʔusiʔaasi を行なう所。
- ʔusinaga=sjun**① (他 =saN, =ci) 押し流す。
- ʔusina=jun**① (他 =aN, =ti) 失う。無くす。人の死にもいう。ʔuja ~. 親を失う。
- ʔusinucii**① (名) 牛乳。
- ʔusinujaa**① (名) 牛小屋。
- ʔusinuki=jun**① (他 =raN, =ti) 押し of ける。排除する。ʔunnadaki ʔagata satuga ʔnmarizima, muin ʔusinukiti kugata nasana. [恩納岳あがた 里が生れ島森も押し of けて ことがたなさな] 恩納岳のあちら側は恋しい君の生まれ故郷、その山も押し of けてこちら側にしたいもの。
- ʔusinukubuu**①* (名) ʔusirukubuu と同じ。
- ʔusinusisi**①① (名) 牛肉。
- ʔusiʔZna=sjun**① (他 =saN, =ci) 押し出す。
- ʔusinhjuʔudu**① (名) 首里城の建物の名。ʔuguʕiku の項参照。
- ʔusincii**① (名) 着物の前の端を下ばかまのひもに押し込むこと。沖繩の婦人は帯を用いないので、着物の前があかないようにするためにこうする。
- ʔusin=cun**① (他 =kaN, =ci) 押し込む。差し込む。突っこむ。
- ʔusintui**① (名) おしどり。
- ʔusirasi**① (名) 神仏、祖先の霊などのお知らせ。お告げ。夜、大きな石の落ちる音がして、易を立ててみると、それが祖先の祭りを怠っているお告げであったりする。
- ʔusirii**① (名) 元服前の士族の少年の髪のかき方。丸く大きく結る。maajuuii の項参照。
- ʔusiru**① (名) えりあし。首すじ。うなじの付近。主に女のそれをいう。～tarasjun. 髪を耳の後ろにふくらませ、うなじにかかるように結る。首里の上流婦人が礼装する時の髪のかき方。その結い方は curaʔun-

ʔusiru

coobi ともいう。～tuukijun. やせこける。死ぬ前などに、首すじがやせ細のをいう。

ʔusiru① (名) おつゆ。お汁。siru の丁寧語。すまし汁・みそ汁の両方についていう。

ʔusiruhuuzi① (名) 後ろ姿。主としてえりあしの美しさを中心にしていう語。

ʔusirukubuu① (名) ほんのくぼ。ʔusinu-kubuu ともいう。

ʔusiruwan① (名) 汁を入れるお椀。siruwan の丁寧語。

ʔusiruzikii① (名) 飯に汁をかけること。また汁をかけた飯。

ʔusisan① (形) ㊦(厚さが)薄い。hwiqsan ともいう。㊦(色・味などが)薄い。katas-an の対。㊦知恵が足りない。愚かである。

ʔusisan①* (形) 遅い。時間が遅い意で用いる。

ʔusisjoo① (名) お師匠。先生。sisjoo (師匠) の敬語。

ʔusitoo=sjun① (他 =san, =ci) 押し倒す。

ʔusitunami=jun① (他 =ran, =ti) 押しならす。でこぼこを平らにする。

ʔusitura① (名) 丑寅。東北の方角。

ʔusiʔusi① (名) むりやり。強制。押し押しの意。～ni simijun. むりやりにさせる。siibusikoo neentaşiga ~ simiraqtan. したくなかったがむりやりにさせられた。

ʔusiʔwaasjaa① (名) 牛殺し。牛を屠殺する者。

ʔusiwaki=jun① (他 =ran, =ti) 押し分ける。

ʔusizaado'ohu① (名) 豆腐の一種。豆腐を固める時、箱に入れずに、布に包み上に重い物をのせて固めたもの。従って円形にでき上がる。押しつぶした豆腐の意か。

ʔusizaki① (名) 侍女様。sizaki (貴族の娘

の侍女) の敬語。

ʔusizasi① (名) かんざしの種類。男が kamisasi (その項参照) に添えて差すもので、金属製。形は耳かきに似ていて、それより長い。御副え差しの意か。装飾品で、耳かき、紙の穴あけなど色色なことにも用いる。kamisasi と同じく、身分によって材料が異なった。もとはこれのみがかんざしとして用いられたといわれる。

ʔusizi① (名) [文] 神様。また、みたま (御霊)。神・神霊(şizi) の敬称。

ʔusizimee① (名) [文] 神様。神・神霊(şizi) の敬称。

ʔusizirimise'en① (自・不規則) おかくなる。過ぎ去りたまる。崩御なさる。王の死についていう。ʔukumuimiseen ともいう。

ʔusjaa=jun① (自 =ran, =ti) 一緒になる。合体する。合わさる。'jaaninzunu ʔikiraku natakutu ʔujanujaankai ʔusjaatan. 家族が減ったので、本家に合同した。

ʔusjaamaatuu① (名) ごた混ぜ。一緒くた。

ʔusjaamii① (名) 機織りで、おさに4本の糸を通して織ってできる、厚い布。普通に2本ずつ通してできる布は hwiranuci ともいう。

ʔusjaa=sjun① (他 =san, =ci) 一緒にする。合併する。合わせる。足す。taaçitu miiçitu ʔusjaaci caqsaga. 2と3を足すといくつか。

ʔusjaga=jun① (自 =ran, =ti) 召しあがる。「食べる」(kanun) の敬語。ʔusjagamişeebiree. お召しあがりなさいませ。

ʔusjagi=jun① (他 =ran, =ti) ㊦押し上げる。ささげる。上にさし上げる。㊦さし上げる。献上する。お供えする。㊦髪を結うひまがない時などに、髪を簡単にくしで梳き上げる。

- ʔusjagimuci**① (名) お供えもの。
- ʔusjagimuN**① (名) ①献上物。進物。②賄賂。賄賂として贈るもの。
- ʔusjagimuN**① (名) お供えもの。
- ʔusjaku**① (名) お酌。酒をついでやること。～ sjabira. お酌しましょう。～ 'uganuN. さかづきをいただく。
- ʔusjooba**① (名) sjooba (その項参照) の敬語。お相伴。また、結婚式の時、花嫁の家で花婿の接待をする役。
- ʔusjooroo**① (名) ①お精霊。精霊(しよりょうりょう)。盆に祭る死者の霊。②お盆。盂蘭盆会。
- ʔusjoorooha'asi**① (名) 草の名。みそはぎ。精霊花。
- ʔusjoorooʔun'kee**① (名) 精霊迎え。7月13日の晩、迎え火をたいて精霊をお迎える行事。略して ʔunkee ともいう。
- ʔusjoorooʔun'ma**① (名) sjoorooʔnma と同じ。その項参照。
- ʔusjoorooʔuu'kui**① (名) 精霊送り。略して ʔuukui ともいう。7月15日夜半、送り火をたいて送る。日が暮れてすぐお送りすると、接待に飽いたと思われるであろうと、なるべく夜遅く送る習慣があり、農村では、夜明けあるいは16日になってからする所もあった。送りの翌日は朝寝したり、naganubitoori (長くのびて横になること) して休むのが普通である。
- ʔusju**① (名) うしお。潮。海水。～ kunuN. 潮を汲む。ziNkahaikawaja ~ka 'juka miʔika, ziNkamijarabinu ʔuʔididukuru. [源河走川や 潮かゆか水か 源河めわらべの おすでどころ] 源河川の水は潮か湯か水か、源河の娘たちの水浴場である。
- ʔusjudee**① (名) [御酒代] 祝事・法要に招かれて行く場合に差し出す金一封。お祝儀。香典。sjudee の敬語。
- ʔusjuganasiimee**① (名) [古] [お主加那

志前] 国王様。琉球王に対する敬称。

- ʔusjukunaa**① (名) 潮汲み。潮を汲むこと。製塩のための海水を汲むこと。また、潮を汲む者。<ʔusju+kunuN. ~ sjun. 潮を汲む。
- ʔusjumee**① (名) ①平民の祖父。おじいさん。②平民の老翁。おじいさん。③とも士族については taNmee といい、首里周辺農村では平民のそれを puupuu といい。
- ʔusjunuma**① (名) [文] ちよっとの間。片時。潮の干満の流れがやむ間の意。ʔuman 'juikaradu ʔubizasin sjujuru, 'wamija ~N 'waʔirigurisja. [思まぬ故からど 覚出しもしゆゆる わみや潮の間も 忘れぐれしや] 恋していないゆえにこそ思い出しもするのです。わたしは片時も忘れられません。
- ʔu=sjun**① (他 =san, =ci) 押す。mikusi ʔusijabira. (坂道で老人などに対して) 腰を押しましょ。
- ʔusjuu**① (名) [お主] 王様。琉球王の敬称。ʔusjuganasiimee ともいう。～ doo haca. 蜂を追ひ払うためのまじないの文句。「おれは王様だぞ、蜂め」の意。
- ʔusjuukoo**① (名) 御法事。御仏事。sjuukoo の丁寧語。
- ʔusoozi**① (名) ①お考え。～N misjooran. お考えにもならない。②王のおぼし召し。敬慮。
- ʔusoozimiʔe'n**① (他・不規則) お考えになる。お思いになる。おぼし召す。nuNzoo caa ʔusoozimisjoorarijabiliga. あなた様はどうお考えになりますか。
- ʔusuʔakagai**① (名) うすあかり。日出前・日没後の薄明。
- ʔusuba**① (名) ①おそば。～N 'juraran. おそばにも寄せない。②貴人の妾。
- ʔusuba=sjun**① (他 =san, =ci) (物を) 伏せる。下向きにする。

ʔusuburimUN

ʔusuburimUN④ (名) 薄ばか。単に ʔusuu ともいう。

ʔusugurasaN④ (形) 薄暗い。

ʔusugusamici④ (名) 少し怒ること。少し憤慨すること。saagusamici ともいう。
<kusamicUN。

ʔusu=juN④ (他 =raN, =ti) ⊖おおう。かぶせる。上に掛ける。ʔuudu ~. ふとんを掛ける。⊕押える。ʔusuraqtoON. 押えられている。⊖(巢について卵を)抱く。kuuga ʔusutoON. 卵を抱いている。

ʔusukazi④ (名) [文] そよ風。和風。~N kijuja kukuru ʔati sarami, kumu hariti tirasu çicinu curasa. [おす風も今日や 心あてさらめ 雲晴れて照す月のきよらさ] そよ風もきょうは心があるのだから、雲が晴れて照らす月の美しさよ。

ʔusukoogu④ (名) 少し腰が曲がっている者。また、ねこ背(の者)。

ʔusuku④ (名) ʔusuku の項(P.565)参照。

ʔusumasjan④ (形) すごい。ものすごい。驚くべき。「おぞましい(悍)」と関係ある語か。ʔusumasii qcu ʔjatan. すごく人が集まっていた。

ʔusumuimui④ (副) 少し盛り上がったさま。ciigwaa ~ sjoON. 少女の乳が少し盛り上がっている。

ʔusunee④ (名) [新?] お供え。神仏にお供えすること。

ʔusuneei④ (名) お行列。<suneejuN (行列する)。

ʔusuneemuN④ (名) [新?] お供えもの。

ʔusuri④ (名) 敬うこと。尊ぶ気持ち。大事に思う念。ʔujanu ʔusuree neen. 親を尊ぶ気持ちがない。zinnu ~N neeran. 金の力を認めない。~nu ʔataran. もったいない。物を粗末にする者がいる場合などにいう。

ʔusuri=juN④ (他 =raN, =ti) 敬う。尊ぶ。あがめる。大事に思う。こわがる意では

ʔuturusja sjUN ともいう。

ʔusurikaga^hN④ (名) 貴人の前で平身低頭すること。おそれかがみの意。

ʔusutikwaqkwašee④ (名) 遊戯の名。着物・羽織などの中に子供がはいり、誰がはいっているか、何人はいっているかを当てさせる遊戯。

ʔusuʔusu④ (副) うすうす。もと ʔušiʔuši と言ったかもしれない。ʔunu kutoo ~ siqcootaN. そのことはうすうす知っていた。

ʔusuu④ (名) 薄のろ。薄ばか。ʔusuugwaa ともいう。

ʔusuugwaa④ (名) ʔusuu と同じ。

ʔusuwaree④ (名) 薄笑い。

ʔuta④ (名) 歌。ruuka (琉歌) をさすことが多い。~ ʔjunUN. 歌(ふつうは琉歌)をよむ。~ çukujun. ともいう。~ sjUN. 歌を歌う。

ʔutaa=sjuN④ (他 =saN, =ci) ならう。準ずる。ʔnkasinçuni ʔutaaci sjUN. 昔の人にならってする。nuu ʔjatin ʔwanni ʔutaášee. 何でもわたしにならえ。

ʔutabimišee^hemUN④ (名) いただき物。賜わり物。目上から頂戴した物。

ʔutabimišee^hen④ (他・不規則) kwijun (くれる) の敬語。kwimišeeN (下さる) より丁寧。<tabijun. ⊖賜わる。下さる。ʔami ~. (天から) 雨を賜わる。⊖(…して) 下さる。ʔansi ʔutabimišeebiree. そうして下さいませ。kacimisjooci ~. お書きになって下さる。

ʔutaciku^hci④ (名) 元祖。開祖。家の一番はじめの祖先。お立ち口の意。

ʔutaga=juN④ (他 =aN, =raN, =ti) 疑う。ʔarinu kutu ʔjakutu, ʔutagaandi ʔumuree ʔutagaarijun. あいつのことだから、疑おうと思えば疑える。

ʔutagaki④ (名) 歌で風刺すること。~ sjuN. 歌で風刺する。その場合の歌は kaki-

ʔuta という。

ʔutageeⓄ (名) お互い。～ni hwiraku najabira. お互いに楽にすわりましょう。

～du ʔjaru. お互いさまだ。

ʔutageeⓄ (名) 疑い。～nu harijun. 疑いが晴れる。

ʔutaguciⓄ (名) 歌うのが上手なこと。歌声がよいこと。また、その人。

ʔuta=junⓄ (=an, =ran, =ti) ⊖(他) 歌う。声に節をつけて歌う。また、節なしで、歌を詠ずる。⊖(自) (鶏が) ときをつくって鳴く。tuinu ～. 鶏がときを作る。

ʔutakabiⓄ (名) [おたかべ] 神を祭る式。また、その時に nuuru, kudi (それらの項参照) などがとなえる祈りの文句。のりと。～ sjun. 神を祭る式を行なう。ʔutakabee siqcoomi. のりとは知っているか。

ʔutakiⓄ (名) [御岳] 山の森の中にある神を祭った場所。聖地とされ、婦人が ʔugwan-doogu をもって熱心に ʔugan (祈願) をしに行った。首里には binnuʔutaki [弁の御岳], sunuhjanʔutaki [園比屋武御岳] などがある。

ʔutamuciⓄ (名) 三味線による前奏。歌曲の歌う前に三味線だけを弾く部分。歌曲によってその ʔutamuci が異なる。

ʔutanka'atuusiⓄ (名) 遙拜。遠くへ行けない場所に遙かに礼拝して ʔugwan (祈願) を行なうこと。単に ʔutuusi ともいう。

ʔutasansinⓄ (名) 歌や三味線 (sansin) (でうち興ずること)。

ʔutaʂikiⓄ (名) お助け。kaminu ～. 神のお助け。

ʔutasjaaⓄ (名) 歌手。歌い手。歌を歌うことのうまい者。

ʔutatukuruⓄ (名) お二人様。おふたかた。tai の敬語。

ʔutiⓄ (名) ⊖落穂。また、作物の落ちこぼれ。～ hwirujun. 落穂を拾う。⊖見落

とし。

ʔutibiciⓄ (名) お祝いの時作る料理の名。肉・豆腐・大根・昆布などを醬油味で煮こんだもの。材料の切り方によって、ʔuunii (大きく切ったもの), kuunii (小さく切ったもの), sikamuduci (さらに小さく、さいの目に切ったもの) の三種がある。

ʔutibuciⓄ (名) 西風。

ʔutiɕiciⓄ (名) 落ち着き。沈着さ。

ʔutiɕi=cunⓄ (自 =kan, =ci) (心が) 落ち着く。(天気などが) 静かになる。

ʔutici'riⓄ (名) 落ちて散らかること。また、落ちて散らかったもの。散りくず。kiinu hwaanu ～ sjoon. 木の葉が落ちて散らかっている。

ʔutidaⓄ (名) おてんとうさま。お日さま。太陽(tiida)の敬称。～nu ʔugamaqtoon. お日さまがさして来た。

ʔutiʔiriⓄ (名) [古] [御手入] 処分。行政的処分をいう。maziri [閩切] の財政が崩壊した時の行政処分など。

ʔuti=junⓄ (自 =ran, =ti) ⊖落ちる。⊖優劣の差がある。段がある。ʔaritu kuritu kunabiinee, duqtu sinanu ～. あれとこれとを比べると、大分品が違ふ。

ʔuti=junⓄ (他 =ran, =ti) (料理したものを他の器に) あける。うつす。ʔnmu ～. 煮たさつまいを鍋からほかの器にあける。

ʔutikee=junⓄ (自 =ran, =ti) 初めの状態に戻る。もとへ戻る。人が幼時の状態へ返る場合などをいう。

ʔutima'iⓄ (名) (子供・犬猫などが食べ物などを欲しがり) 飛び回って騒ぐこと。

ʔutinaⓄ (名) [文] うてな。楼台。

ʔutinⓄ (名) 雨天。普通は ʔamihui といいう。

ʔutiingu'tuⓄ (名) 天意。天命。神意。

ʔutiraⓄ (名) ⊖お寺。寺 (tira) の敬称。

ʔutiraakwaasagaraakwa

㊦首里の円覚寺の通称。

ʔutiraakwa'asagaraakwa'a① (副) 犬猫がものを欲しがってねらうさま。落ちたら食おう、下がったら食おうの意。

ʔutirazuunikasju① (名) [お寺十二箇所] 十二支のそれぞれをつかさどる仏が安置されている所。円覚寺・観音堂・赤平・鳥小堀の四寺が、それぞれ十二支のいくつかずつをつかさどっていた。

ʔutisizimi① (名) 零落。おちぶれること。また、盛衰。落ち沈みの意。ninzinu ʔutisizimee 'wakaran mun. 人間の盛衰はわからないものだ。

ʔutitaimo'otai① (副) こけつまろびつ。夜、悪路を行くさまなど。落ちたり舞ったりの意。

ʔutu① (名) ㊦音。音響。㊦たより。音さた。～N cikaran. 音さたもない。㊦うわさ。評判。～nu 'waqsan. 評判が悪い。ʔutoo cici ʔuqsja sjoosiga. うわさは聞いて、喜んでるが。

ʔutuciʔaga'ci① (名) 優劣。

ʔutugaku① (名) ʔutugee の卑称。

ʔutugee① (名) おとが。下あご。

ʔutugeenaNdururu① (名) あごがすべすべしている者。hwizimoo (ひげなし) をいう。

ʔutuiçi'zi① (名) お取りつぎ。tuiçi'zi の敬語。

ʔutuike'e① (名) tuikee の敬語。(貴人との) 御交際。また贈答品・結納などのおとりかわし。

ʔutuimu'ci① (名) おもてなし。御接待。

ʔutuitati① (名) 御登用。tuitati の敬語。～ni najun. 御登用になる。

ʔutu=juN① (自 =ran, =ti) [新?] 劣る。ʔarijaka ～. あれより劣る。

ʔutumumu① (名) お供。従者。ʔutumuzurasadu danazurasa. お供が立派なのが、旦那の立派であるゆえん。

ʔutuna① (名) おとな。文語的な語。普通

は ʔuhuqcu という。ʔicinukezi nikezi 'judidu ʔašibjutaru, ʔiçinu mani satuja ～ nataga. [一のかいぢ二かいぢ 読でど遊びゆたる 何時の間に里や 大人なたが] 一回、二回と数えて石投げをして遊んでいたのだが、いつの間にあなたはおとなになったのか。

ʔutunasjan① (形) [新?] おとなしい。普通は ʔwendasjan という。

ʔutunno'o① (名) お燈明。神前仏前にともす燈明。ʔutuunjoo ともいう。

ʔuturi=juN① (自 =ran, =ti) 衰える。mi-jakunu ～. 都が衰える。

ʔuturu=juN① (自 =ran, =ti) ʔuturijun と同じ。

ʔuturusjahwi'isja① (名) 恐れおののくこと。びくびくすること。

ʔuturusjamun① (名) 恐ろしいもの。こわいもの。～nu miibusjamun. こわいもの見たさ。

ʔuturusjan① (形) 恐ろしい。こわい。ʔuturusja sjun. こわがる。恐ろしがる。恐れる。ʔuturusjan siran. こわいことも知らない。あどけない者、また豪胆な者についていう。ʔuturusii mazimun. こわいおばけ。mazimun ʔuturusja sjuru qcu. おばけがこわい人 (mazimunu ʔuturusii qcu のようには言わない)。

ʔuturusjaʔumii① (名) 恐ろしい思いをすること。こわがること。～ sjun.

ʔuturuu① (名) 恐ろしいもの。

ʔutusata① (名) 音さた。音信。たより。

ʔutusi① (名) みぞおち。'nniguci (むなもと) ともいう。

ʔutusiʔana① (名) 落とし穴。

ʔutusidani① (名) 落とし種。落胤。ʔutusiŋwa (落とし子) ともいう。

ʔutusiguu① (名) 小鳥を捕える仕掛けのかが (kuu)。中におとりの鳥を入れる。

ʔutusiju'i① (名) お年寄り。御老人。tu-

- sjui の敬語。
- YutusimuN**Ⓞ (名) 落とし物。
- Yutusingwa**Ⓞ (名) Yutusidani と同じ。
- Yutusizama**Ⓞ (名) 鏡餅。正月に供える Yucanuku。仏壇と火の神の前に供える。大中小の三つを重ねる。下の大きなものを sicadee (下台), 中のものを nakadee (中台), 上の小さなものを Ywaadee (上台) という。
- Yutu=sjuN**Ⓞ (他 =saN, =ci) ⊖ (高い所から)落とす。⊖もらす。脱漏する。⊖無くする。紛失する。Ⓞ陥落させる。また、女をわがものにする。Yuruku sumijanu cuiwinagungwaja Yutusigurisja. [小祿染屋の一人女子や 落しぐれしや (小祿染屋節)] 小祿村の染屋 (屋号) のひとり娘は陥落させにくい。
- YutuYu=cuN**Ⓞ (自 =tan, =qci) 評判が高い。遠方まで知られる。音に聞こえる。多くは YutuYuqcooN の形で用いる。cura-kaagiindici YutuYuqcooN. 美人として音に聞こえている。
- Yutuui**Ⓞ (名) 願いがかなること。Yugwan (祈願) の筋が通り、神仏に聞き入れられること。
- Yutumjoo**Ⓞ (名) YutuNnoo と同じ。
- Yuturu**Ⓞ (名) お燈籠。仏壇に供える燈籠 (tuuru)。木造・紙張りで、はすの花などをえがいてある。
- Yutuusi**Ⓞ (名) 遙拝。Yutankaatuusi と同じ。
- Yutuzanda**Ⓞ (名) 兄弟。兄弟姉妹。以前は、弟(妹)を Yutuza, 兄(姉)を sinuza, また兄弟をも Yutuza といったらしい。主として平民や女子供が使う語。
- Yutuzici**Ⓞ (名) ⊖遠くの人声・物音などの音だけを聞くこと。⊖評判に聞くこと。音に聞くこと。
- Yutuziri**Ⓞ (名) たより。音さた。kwii-nu ~N cikaran. 声のたよりも聞かれな
- い。何の音さたもない。
- Yuu**Ⓞ (感) 目上に対して、承諾・肯定・同意をあらわす語。はい。ええ。はあ。(Yii, Yoo と異なり鼻音化しない。) 目下の年長には Yoo, 目下には Yii, YNN のように嚴重に使いわけ。また目上に呼ばれた時の返事は huu という。
- Yuu**Ⓞ (名) 卯(う)。十二支の第四。方向は東、時刻は午前6時。
- YuuYaciisa**Ⓞ (名) 大暑。二十四節の一つ。
- YubaNbaaraa**Ⓞ (副) がらんどろ。家の中などに何もなさま。tuNdoojaanu gutu ~ qsi. 倉庫のようにがらんどろで。
- Yubi**Ⓞ (名) 帯。YuhuYubi, husuYubi, suguiYubi (いずれもその項参照) など、すべて男用で、女は普通、帯をしない。しかしいなかの娘の労働用の帯に minsaaYubi というのがある。
- Yubisiiguci**Ⓞ (名) 帯をしめる所。腰のもっともしまる部分。gamaku ともいう。
- Yubu**Ⓞ (名) 夏、子供の頭にできるはれもの。あとがはげになる。
- Yubuu**Ⓞ (名) とばくの一。一銭銅貨または二銭銅貨を傾いた板の上のころがし、相手の銅貨の上に倒れたら、相手の銅貨をとる。明治の中ごろまで行なわれていた。
- Yuci**Ⓞ (名) 沖。ただし、海岸からさして遠くない所をいう。全くの外洋は Yutu という。
- Yuciba'ra**Ⓞ (名) [御内原] YuduN [御殿], tunci [殿内] の家の夫人の居間。
- Yuucii**Ⓞ (名) 引越。転宅。くわしくは 'jaaYuucii (家移り) という。
- YuciribaNta**Ⓞ (名) 断崖絶壁。大きく切り立ったがけ。-banta<hanta (がけ)。
- Yuucirugaa=juN**Ⓞ (自 =ran, =ti) すっかり連なる。ちょうど達する。及んで同じになる。çirugaajun (連なる, 達する, 及ぶ)を強めていう語。

ʔuucizɪN

ʔuucizɪN① (名) 大つづみ。

ʔuudu① (名) ふとん。昔は敷きふとんはなく、むしろ (sicimusiru) を用いたので、もっぱら掛けふとんをさした。

ʔuudu① (名) 小渡。《地》参照。

ʔuuduui① (名) 大通り。

ʔuueekunee① (副) 追いつ追われつ。また、あとになり先になり。～ ʔsi cuuN. あとになり先になりして来る。

ʔuugutu① (名) ありがたいこと。うれしいこと。

ʔuuhuu① (名) 目上に対する、敬語を使うことば使い。肯定の時に ʔuu と言い、呼ばれた時に huu と答える話し方。初対面の場合などで、双方が敬語を使う話し方には、tageeniʔuuhuu ('inuʔuuhuu ともいう) という。親しくなれば、身分が同じであっても、年長には ʔuuhuu、年下には ʔiihii となる。～ sjuN. 目上に対することば使いをする。

ʔuuhwa① (名) おんぶ。人を背負うこと。Okwa ~ sjuN. 子をおんぶする。

ʔuuhwira① (名) 大平椀。浅くて底の平たい大型の漆器の椀。煮しめ・蒸しもの・菓子などを入れるのに用いる。

ʔuuhwiruzi① (名) 大広揚。大広間。

ʔuujuɕi① (名) 大雪。二十四節の一つ。

ʔuu=juN① (他 =raN, =li) ⊖ (牛馬などが荷を) 負う。nii ʔuutooru ʔNma. 荷を付けた馬。⊖ (罪・責任などを) 負う。çimi ~. 罪を負う。çimi ʔuurasarijuN. 罪を着せられる。

ʔuu=juN① (他 =raN, =ti) ⊖ 追う。あとを追いかける。また、あとに従う。kutuba ~. ことばどおりになる。言ったとおりのことが実際に起こる。⊖ 追う。追いかける。

ʔuukata① (副・名) 大方。大抵。多分。～ cuuru hazi ʔjaN. 大方来るだろう。～ nu ʔcunu sjuru ʔajamari ʔjaN ʔjaa. 大抵の人がするあやまちだなあ。

ʔuukazi① (名) 大風。あらし。暴風。台風。teehuu ともいう。

ʔuuki① (名) お受け。受けとること、承諾することの敬語。～ sjuN. お受けする。

ʔuuku① (名) 奥。

ʔuukuba'a① (名) 奥歯。

ʔuukui① (名) ⊖ 葬送。⊖ 精霊送り (ʔu-sjoorooʔuukui)。またその日。～ nu naaca. 精霊送りの翌日。ʔusjoorooʔuukui (その項参照) はなるべく遅い時間に行なり習慣であったので、その翌日は、朝寝したり休息したりした。

ʔuumaku① (名) わんぱく。きかん坊。maku, ʔanmaku などともいう。

ʔuumiçi① (名) 大水。洪水。

ʔuumusageei① (名) 大騒ぎ。にぎやかな騒ぎをいう。

ʔuuni① (名) 大根。「おおね」の意。

ʔuuni① (名) お船。船(huni)の敬語。

ʔuunii① (名) 料理名。ʔutibici (その項参照) の一種。肉・野菜・豆腐などをすべて大きく切った ʔutibici。

ʔuunna① (名) [大縄] 大綱引き。盛大な綱引き (çinahwici)。首里のそれは ʔa-jazooʔuunna という。

ʔuusariʔaa'sari① (副) へいへい。ぺこぺこ。権力者に頭をさげて、恭順の意を表するさま。ʔuu および sari はおのおのその項参照。ʔjamatuncunkai ~bikeei sjutan. 日本本土の人に対してぺこぺこしてばかりいた。

ʔuušekara'kee① (名) 互いに譲り合うさま。互いに押しやり合うさま。遠慮の場合も、いやなことを押しつけ合う場合もある。～ sjuN.

ʔuušekurubaşee① (名) 押し合い、ころばし合うこと。押し合いへしあい。混雑のさま。

ʔuusı① (名) 白。つき白をもひき白をもいり。

ʔuusiʔarasjaaⓂ (名) 白の目立てを業とする者。

ʔuusiiba`aⓂ (名) 白歯。ʔuukubaa (奥歯)ともいう。

ʔuusidimaⓂ (名) 牛馬に荷を負わせて運ぶ運賃。

ʔuusimoo`mooⓂ (名) 牛の小児語。

ʔuusi=juNⓂ (他 =ran, =ti) ⊖(牛馬に荷を負わせる。人に負わせることはいわない。kunu nimuçi ʔnmani ʔuusiti ʔikee. この荷を馬に負わせて行け。⊖(罪・責任などを人に)負わせる。転嫁する。…のせいにする。duunu nusudooti qcu ~. 自分で盗みながら、人のせいにする。

ʔuusikaNsi=ju`NⓂ (他 =ran, =ti) ⊖荷をたくさん負わせる。⊖(責任・罪などを他に)おっかぶせる。

ʔuusimaⓂ (名) [大島] 奄美大島本島。

ʔuusoozootuⓂ (副) ひっそり閑。大風のあと、大勢の客の帰ったあとなどの静けさなど。~ najun. ひっそり閑とする。

ʔuutigaraⓂ (名) 大手柄。

ʔuutikweeⓂ (名) とりまき。金持ちと遊郭などに一緒に行き、金持ちの金でもっぱら遊興する者。追って食いの意。その金持ちの方は zinkwijaa (金をまきちらす者)である。

ʔuutootuⓂ (感) 婦人が神仏を拝む時、ʔugwan (願) をする時となえる語。あなとうと。

ʔuutuⓂ (名) [大渡] 沖の海。外海。大海。~nkai `juu taciʔirijun. 大海に湯を沸かして入れる。焼け石に水。

ʔuutuuruuⓂ (名) つつぬけ。見通し。間に仕切りのないこと。ʔamatu kumiatu ~ `jan. あっちとこっちとつつぬけだ。tunainu ʔasicinu ~ natooru kutu, nuun kwiin marumii `jan. 隣の部屋とつつぬけになっているから何もかも丸見えだ。

ʔuutuuruukaaⓂ (副) 間の仕切りがなく

すっきり見通しになったさま。つつぬけのさま。~ natoon. すっきりつつぬけである。

ʔuowanⓂ (名) 大湾。《地》参照。

ʔuuzakiⓂ (名) 大酒。大量に飲む酒。また、大酒飲み。

ʔuwaiⓂ (名) 終わり。

ʔuwa=juNⓂ (自 =ran, =ti) 終わる。ʔucinajun (終わる、済む)の方を多く用いる。sjuukoo ʔuwatan. 三十三年忌の法事が終わった。

ʔuzaⓂ (名) 宇座。《地》参照。

ʔuzaⓂ (名) [御座] ⊖内閣。政府。kaminu ~. siqsii [摂政]と sansikwan [三司官]のいるところ。政府の最高首脳部。simunu ~. zuuguninsjuu [十五人衆]のいるところ。kaminu ʔuza に次ぐ政府機関。~nu qcu. guhjoozoozu [御評定所]の役人。⊖お座敷。ʔaa (座敷、部屋)の敬語。ふつうもっともよい客間、あるいは仏壇のある座敷をいう。ʔuhuʔuzaともいう。その他の座敷は nibanʔuza (二番座敷), sanbanʔuza (三番座敷)のようにいる。他の部屋は、その位置・用途により名があり、ʔuraza, nakamee, kuca (おのおのその項参照)などがある。

ʔuzagamuiⓂ (名) [文] [おぎやがもい] 尚真王の神号。

ʔuzagamuiga`nasiⓂ (名) [文] ʔuzagamuiの敬称。

ʔuzakiⓂ (名) 御酒。酒の敬語。

ʔuzanasiⓂ (名) [文] 温順なこと。やさしいこと。温厚なこと。nisinumaciḡaniḡa ʔizicamisu misjoci ʔuzananasiburija ʔugamibusjanu. [西の松金が いぢきやみそ召しようち 御ぢやなしぶりや 拝みぼしやの] 尚円王が短い御衣(みそ)を召しているその温厚な姿を拝みたい。

ʔuzareeⓂ (名) おぞり。ぞり(saba)

Zuzareetui

の敬語。さらにその上の敬語は nuuzaree。
Zuzareetui①(名) [文] ぞり取り。saba-
tui ともいう。

Zuzi①(名) 蛆。蠅の幼虫。

Zuzi①(名) 氏。中国姓をいう。士族は姓
のほかに氏をもっている。姓は 'jaanna
などという。氏を同じくする者は、名乗り
頭の字を同じくする。たとえば、向氏は
朝、毛氏は盛、馬氏は良、翁氏は盛のよ
うにきまっている。1689年、尚定王の時、士
族に系図を作らせて氏を定めた。nuuzuzi-
ziga. 何という氏か。

Zuziici=jun①(自 =ran, =qci) すっかり怖
じける。おびえきる。すっかりこわがる。

Zuzi=jun①(自 =ran, =ti) 怖じる。こわが
る。恐れをなす。haaeesjuubu 'jasiga,
ʔarinkee ʔuzitooN. かけっこだが、彼に
恐れをなしている。

Zuzimu①(名) お心。お慈悲ある心。～
ʔaru ʔusjunu ʔwiisigutu 'ugadi. [御
肝ある御主の おいすごと 拝がで(孝行
之巻)] 慈悲深い王の仰せごとを拝して。

ZuzimuzuraNcu①(名) 心のやさしいお
方。恵み深いお方。

Zuzimuzurasan①(形) お恵み深い。お情
深い。kumanu ʔansimeeja ʔuzimuzu-
rasanu kanaganatu, sauen sauen sa-
nsauen piiraruraa raararuraaraa ni-
ngoo ningoo ningoo ʔiqsjuningoo,
ʔicigooga ʔutabimišeera, ningooga
ʔutabimišeera sadamigrurisja. (同じ
はやし) ʔicigoo 'jatin sjuizakikara doo.
こちらのおかみさんはお恵み深いからやさ
しく、(はやし) 一合下さるか二合下さる
かわからない。(はやし) 同じ一合でも (い
も酒でなく、上等な首里の) 米の酒の方だ
ぞ。(7月の 'eisaa の歌)

Zuzina=jun①(他 =an, =ti) 栄養をとる。
栄養をとって体力を補う。単に不足を補う
意はない。maasamun (ʔirabuundee)

kadi kunci ~. うまいものを(えらぶら
なぎでも) 食べて、体力を補う。

Zuzinii①(名) 体力の補いになる食物。栄
養物。滋養のある食物。

Zuziniigusui①(名) 栄養価の高いもの。
体力を補うくすりの役をする食物。うな
ぎ・鶏・ʔirabuu (えらぶらなぎ) など
をいう。

Zuzin①(名) お膳。zin (膳) の丁寧語。

Zuzin① **Zubiran**①(句) 思いもよらない。

Zuzira①(名) 鶉(うずら)。

Zuziraasigisan①(形) ʔuziraasjan ⊖と
同じ。

Zuziraasjan①(形) ⊖美しい。かわいい。
女・子供の美しいこと、かわいいことをいう
が、みめよいだけでなく、賢いの意味をも
もつ。ʔuziraasigisan ともいう。⊖(接
尾) 利口である、上手であるの意をあらわ
す。kooiʔuziraasjan. (買物上手である)

Zuzoo①(名) 御門。門(zoo)の敬語。

Zuzooba'an①(名) 御門番。zoobaan の
敬語。

Zuzoogwaa①(名) 裏の御門。貴族の大き
な邸宅には、大小の門があり大きな表門を
ʔuhuʔuzoo, 小さい裏門を ʔuzoogwaa
といった。

Zuzumi①(名) はずみ。機会。きっかけ。
次のような句で用いる。ʔatunu ~. とど
のつまり。あげくのはて。結局。ʔatunu
ʔuzumee nusududu najuru. あげくの
はては泥棒となりはてる。caaru ~ga
'jatara. 何のはずみだったか。どんなき
っかけだったか。

Zuzumu=jun①(自 =ran, =ti) うずまる。

Zuzumuri=jun①(自 =ran, =ti) ⊖うずも
れる。⊖世に知られなくなる。世間に忘れ
られる。

Zuzu=nuN①(自 =man, =di) 目がさめる。
睡眠から目さめる。ʔuzumasjun. 目をさ
まさせる。ʔuzumasin san. 何の警告も

与えない。不意打ちする場合にいう。目を
 さまさせもしない意。

Yuzu=nuN① (他 =maN, =di) りずめる。
 埋める。

Yuzunbii① (名) りずみ火。

Yuzunbiira① (名) [古] 木製の鋤。水田耕

作用の農具の名。

Yuzuu① (名) ⊖重箱料理。お重。⊖旧暦
 3月3日の節供に、子供たちのために作る
 重箱料理。⊖転じて、3月3日の節供。子
 供がいう。

- 'ubacaNsiime`c① (名) おばさま。伯母様。叔母様。伯叔母の敬語。貴族についていう。
- 'ubahaNzansiime`c① (名) 大おばさま。従祖母の敬語。貴族についていう。
- 'ubamaa① (名) おば(伯叔母)。関係を表わす語で、呼びかけには言わない。～natoon. おばに当たっている。
- 'uci① (感) 子供に危険を知らせる時に発する語。落ちそうな場所に子供が近づいた時などにいう。あぶない!
- 'uciuci① (感) 'uci と同じ。縁側などから落ちないように、'uciuci と言って落とすまねをして見せる。
- 'uciuci①② (副) 相手を見くびったさま。～sjun. 相手を見くびって勝手にふるまう。ないがしろにする。
- 'uduee① (名) 旅の祝いをする家(tabisju)で、親戚の女たちが集まってする踊り。手を打ち、旅歌(kweena)などを歌いながら輪になって回る。
- 'udui① (名) ①踊り。舞踊。首里の正式の舞踊は、元来は男がするものであった。'waksajuudui [若衆踊], 'winaguudui [女踊], niiſeeuđui [二歳踊], ʒoouđui [雑踊] などいろいろな舞踊がある。②芝居。組踊り(kumiudui)。
- 'uduibuzoo① (名)・[古] [躍奉行] kumiudui [組躍] をつかさどる役。その項参照。
- 'uduihani① (名) 踊ったりはねたりすること。踊る時やうれしがる時のさま。欣喜雀躍。
- 'uduiniNzu① (名) 踊りの一団。舞踊団。また、劇団。
- 'uduisjaa① (名) 俳優。役者。踊りをする者の意。sibaisii ともいう。
- 'uduiziN① (名) 踊りの時の着物。また、舞台衣裳。
- 'udu=juN① (他 =ran, =ti) 踊る。舞踊をする。舞う。踊りの型によって踊る。即興的な踊りや、喜んで踊り上がる場合などは多く moojun という。
- 'ugami① (名) 祈願。願。'ugwan と同じ。nintuunu ~. 年頭の祈願。一年中の無事息災を神社仏閣霊地などに祈願して回ること。ninzuunu ~. 年末の祈願。年末に一年中のお礼を申し述べるために、神社仏閣霊地などを回ること。
- 'uga=nuN① (他 =man, =di) ①(神仏を) 拝む。②お会いする。お目にかかる。会う('icajun)の敬語。hwibinu ʔitunami-ni ʔinagariti 'waminu 'ugamibusja ʔatin zijuja naran. [日日の営みに つながれてわみの 拝みほしやあても 自由やならぬ] 日日の営みにつながれてわたしは、お目にかかりたくても自由になりません。cuu 'uganabira. こんにちは。目上に対する屋外でのあいさつ。③見る('NN-zun)の敬語。拝見する。'ugamaci ʔutabimisjooi. 拝見させて下さいませ。④「貴人と…する」という意の敬語。ʔwiicee ~. お会いする。拝顔する。ʔuhanasi ~. (貴人と) お話をする。'ugamaʔtoon. おだて上げられている。また、甘く見られている。皮肉にいったもの。
- 'ugancumi=ju`N① (他 =ran, =ti) [文] 承る。かしこまる。承知する。'ugancumijabiti. [拝留めやべて] かしこまりました。ʔNN, 'ugancumitoosa. ああ、わかってるよ。口語で冗談に言う。
- 'uganduusa⁽ⁿ⁾① (形) 久しくお会いしない。御無沙汰をしている。miiduusan の

- 敬語。'uganduusaibiişiga ʔwaacimişee-biitii. 久しくお目にかかりませんが、お元気でいらっしゃいましたか。
- 'uganguu① (名) ㊦miimuN (見もの) の敬語。また、migutu (見事) の敬語。お見事な行事。ご立派な催し。貴人の催しものなどをいう。㊦皮肉に、嘲笑の対象にもいう。
- 'uganzu① (名) [拝所] 神を拝むところ。ʔutaki [御岳], ʔugan, また、神を拝むために、屋敷の中にしつらえた場所など。
- 'ugari① (名) 飢え。
- 'ugari=jun① (他 =raN, =ti) ㊦飢える。かつえる。㊦(比喩的に) 飢える。zin ~. 金に飢える。
- 'ugarimuN① (名) 飢えた者。
- 'uimi① (名) 'ujumi と同じ。
- 'uizu① (名) 居所。居場所。
- 'ujumi① (名) 神仏に関する四季折折の祝日。'uimi ともいう。4月の ʔabusibaree, 6月25日の新米の ʔumaçii, 8月10日 (kasicii を作る), 8月15日 (hucagi を作る), 11月の tunzii, 大みそかなど。
- 'ukasjan① (形) おかしい。こっけいである。'ukasjadu ʔuhusaru. こっけい至極だ。大笑いだ。
- 'unaga① (名) 翁長。《地》参照。
- 'unai① (名) [をなり] 男の兄弟から見た姉妹。兄に対する妹。または、弟に対する姉。'wikii に対する。宗教的には、男の兄弟に対する守護神であり、また一家の中で、宗教的な任務をにならう者である。上流家庭のそれは ʔuminaĩ という。また、王の娘は ʔuminaibi という。
- 'unaigami① (名) 'wikii (姉または妹から見た、兄または弟) に対する守護神としての 'unai. 'unai は 'wikii の守護神としての霊力をそなえているとされた。'wikii が旅に出る時には、その 'unai の霊がその守護神となる。お守りとして手ぬぐいを
- 持たせるのが普通で、それを ʔuminaitisazi という。
- 'unaigeei① (名) 姉妹を交換すること。すなわち、ふたりの男が互いに相手の姉または妹を妻とすること。
- 'unaisitu① (名) 小じゅうと。すなわち、夫の 'unai. 'unaisitoo saasinuqkwa. 小じゅうとは鍵のようなもの。すなわち家庭を円満にするさしわたし役となる。
- 'unaiʔukudi① (名) 女神をまつる ʔukudi (その項参照)。一門中の女の神をつかさどる女の神官。
- 'unaiwikii① (名) 'unai と 'wikii. 兄と妹、または姉と弟。
- 'unaiwikii① (名) 兄弟姉妹。'wikii と 'unai.
- 'unazara① (名) [女按司] ㊦[古] ʔazi [按司] の妻。㊦王の妻妾。㊦奥様。上流の他人の妻に対する敬称。直接その本人に対しては言わない。
- 'unazaraʔusirabi① (名) 王の妾選び。
- 'un① (名) 恩。ʔun ともいう。~nu ʔaru qeu. 恩のある人。恩人。
- 'un① (自・不規則) ㊦いる。おる。(人間・動物などが)存在する。'Nkasi sjuinakai ...Ndi ʔjuru qeunu 'uibiitaN. むかし首里に…という人がいました(こういう時にも ʔaN (ある) は用いない)。kumanakai 'utoori. ここにずっとという。'uru ʔuqsa. いる者みんな。㊦(…して)いる。'judi ~. 読んでいるぞ。'judoon (読んでいる) をぶっきらぼうに言ったもの。'juddee 'uraN. 読んでいない。'judoon の否定の形。hasirunu ʔacee 'uraN. 戸があいていない。
- 'unecumii① (名) 下男。
- 'uNcuu① (名) ㊦叔父。叔父さん。父母の弟、または父母の妹の夫。士族・平民にっという。伯父は ʔuhutaarii という。叔父が何人かいる場合には ʔuhuuncuu (自分と年の大きく違う叔父), 'uNcuu,

uNeuugwaa

uNcuugwaa (自分と年の近い叔父) などと呼び分ける。◎おじさん。自分の父より年下の男をいう。

uNeuugwaa◎ (名) 小さい叔父さん。自分と年の近い叔父をいう。

uNgeesi◎ (名) 恩返し。?uNgeesi ともいう。

uNna◎ (名) [文] 女。口語は 'winagu。 ~ ?Nmaritin ziri siran munuja kuridu 'jununakanu ziguku demunu。 [女生れても 義理知らぬものや これど世の中の 地獄だいの(執心鐘入)] 女に生まれても義理を知らぬ者は、これこそ現世の地獄である。

uNzi◎ (名) 恩義。 ~ kanzun。 恩義をこらむる。 ~ 'wašiririba 'jaminu 'junu kumici。 'wadudu sukunajuru ?ajumi-gurisja。 [恩義忘れれば 闇の夜の小路 我胴とそこなゆる 歩みぐれしや] 恩義を忘れればやみ夜の小道と同じ、自分をそこなうばかりであゆみにくい。 ~ boocaku nasakiciri 'jakara。 [恩義忘却 情切れやから (大川敵討) 恩義を忘却した情のなくなったやから。

uNzoo◎ (名) 蕨堂。《地》参照。

uqti◎ (名) ◎おととい。一昨日。◎前前日。?unu ~。 その前前日。

usama=juN◎ (自 =raN, =ti) 治まる。平静に復する。騒ぎや混乱が静まる。やむ。kwazinu ~。 火事が治まる。?ooeenu ~。 けんかが治まる。

usamigata◎ (名) 治め方。統御。統制。 ~nu tudukan。 統御がゆき届かない。 ~nu neen。 ともいう。

usami=juN◎ (他 =raN, =ti) 治める。統治する。また、騒ぎなどを治める。また、子弟などをよくしつけ、服させる。?anu 'jaaja qkwanucaa 'juu 'usamitoon。 あの家は子供たちをよくしつけている。

utai◎ (名) 疲れ。疲労。

uta=juN◎ (自 =raN, =ti) くたびれる。疲れる。主として、仕事のあとなどの一時的な肉体的疲労をいう。過労で体が弱るような疲労は kutandijun, 精神的な疲労は çikarijun という。

u'ti (助) で。おもに動作の行なわれる場所を、ときにその時間を示す。 <'uti (いて。 <'uN)。 ?jaaja kuma ~ tabaku hucoori 'joo。 おまえはここでたばこを吸っているよ。 meekaniti ~。 前もって。

uto'oti (助) で。において。にあって。 kaagigwaaaja mura ~ hjoobanmunoo 'wan 'jašiga。 容貌は村で評判者はわたしであるが。

utu◎ (名) 夫。 ~ mucun。 夫を持つ。とつぐ。上流の女についてはこういわない。また、男からは tuzi mucun (妻を持つ) とはいわず、 tuzi tumeejun または tuzi kameejun という。

utubiree◎ (名) 夫への接し方。夫への仕え方。

utuku◎ (名) ◎ [文] 男。口語は 'wiki-ga。 ~ ?Nmaritin kui siranu munuja... [男生れても 恋知らぬ者や (執心鐘入)] 男と生まれながら恋を知らない者は…。 ◎男の中の男。 danzuga, ?jaa ~ 'jasa。 まったくおまえは男の中の男だよ。

utusitu◎ (名) 夫と姑。 ~ hwirajun。 夫やしゅうとめに仕える。

uu◎ (名) 芭蕉。糸芭蕉。実芭蕉は naiuu という。葉柄から繊維をとり、芭蕉布を織る。

uu◎ (名) 緒。結ぶためなどに物にとりつけたひも。

uu- (接頭) 雄。牡。'uudui (雄鶏) など。

uu'zata'i◎ (名) 芭蕉畑。

uu'zata'ku◎ (名) 青がえる。芭蕉の葉などによくいるのでいう。

uuba'ara◎ (名) 芭蕉糸を績(う)んで入れる竹のかご。 haara は竹で編んだかご。

'uubari=juN① (自 =raN, =ti) 雨が小やみになる。少し晴れる意。'uubariraa ʔikee. 少しやんだら行け。

'uubee① (名) 植物名。からむし(芋麻)。

'uubuciki① (名) 芭蕉の糸くず。huciki は繊維などのくず。

'nudui①① (名) 雄鶏(おんどり)。

'uugaara① (名) 雄がわら。本かわらぶきの丸がわら。竹筒を二つ割りにした形かわら。雌がわら(miigaara)と組み合わせ雌がわらの上にうつぶせにふき、しっくい固める。

'uuga'asja① (名) 芭蕉の葉。kaasja は広い葉。'uunuhwaa ともいう。

'uuguci① (名) おごけ(麻小筥)。おけ(麻筥)。まんばち。績(う)んだ麻糸をためるおけ。薄い杉板を円形に曲げて作る。のちには女の身の回りの調度品を入れる器に、さらにのちには食べ物を入れる器にも用いられるようになった。

'uuhuu① (感) さあ。では。目上に対して誘いかける時発する語。鼻音化しない。diqkaa sai ともいう。目下の年長に対しては 'oohoo (鼻音化する), 目下一般に対しては 'ihii (鼻音化する) という。~ ʔi-cabira. さあ、まいりましょ。

'uui① (名) ⊖折。ころ。時期。caaru ~ni. どんな時に。⊖(接尾)折。ころ。時期。'juubanui (夕飯の時分, 晩飯時), taci-uui (婚期, とつぐ時期) など。

'uui① (名) 折。折箱。折ぐめ用の箱。

'uuiN=cuN① (他 =kaN, =ci) ゆり動かして入れる。ゆすぶって入れる。'wata ~. 腹ごなしをする。食べたものを腹にゆすぶり込む意。

'uuiwaq'kwa=sjuN① (他 =saN, =ci) ゆり動かしてばらばらにする。ゆすぶってこわす。

'uu=juN① (他 =raN, =ti) 折る。kiinu 'juda ~. 木の枝を折る。tii ~. 手をくじ

く。

'uu=juN① (他 =raN, =ti) ゆする。ゆすぶる。ゆり動かす。

'uuki① (名) ⊖桶。⊖(接尾)桶に一杯・二杯などと数える時にいう。cuuuki, ta-uuki など。

'uukigwaa① (名) 小さい桶。

'uukijuujaa① (名) 桶作り。桶を作ることを業とする者。

'uumunaa① (名) 雄。動物の雄。'uumun ともいう。miimunaa の対。

'uumuN① (名) 雄。動物の雄。'uumunaa ともいう。miimuN の対。

'uunuhwa'a① (名) 芭蕉の葉。弁当など食物を包むのに用いた。少し火にあぶると柔らかく包みやすくなる。'uugaasja ともいう。

'uuN① (名) おの。大きく、柄の長い両手で扱うものをいう。

'uunua① (名) 雄綱。綱引きの時の一方の綱。miinna (雌綱)に対する。qinahwici の項参照。

'uuri=juN① (自 =raN, =ti) ⊖折れる。⊖我を折る。折れて出る。

'uurito'ori① (副) 平身低頭。ぺこぺこ。卑屈な態度で頼むさま。折れ倒れの意。'juca-numunnu ~ qsi, miitooN neeran. 年配の者が平身低頭して、みっともない。

'uusa① (名) 機織りの器具の名。おさ(箆)を上下からはさんでそのわくとなるもの。おさかまち。おさの目の細かい部分のことは huduci という。

'uuʔusi①① (名) 雄牛。闘牛用として特に尊重される。

'uuu'u① (感) いいえ。目上に対して、否定または拒絶の意をあらわす語。鼻音化しない。目下の年長に対しては 'oooo (鼻音化する), 目下一般に対しては 'iiii (鼻音化する) という。

'uuʔwaa① (名) 雄豚。種豚。

'uuʔwaakarajaa

'uuʔwaakarajaaⓐ (名) 豚の種付けを業とする者。雄豚を飼う者の意。能無し of 代表とされる。

'uuwinaguⓐ (名) 男のような女。雄女の意でさげすんでいう語。

'uuziⓐ (名) 甘蔗。砂糖きび。「をぎ(荻)」に対応する語か。saataauuzi (製糖用の砂糖きび) と kwasiuuzi (靈前に供える菓子となる砂糖きび) とがある。

'uuzigaraⓐ (名) 砂糖きびのから。砂糖きびのしほりかす。

'uuzijukumiⓐ (名) 甘蔗栽培の監視官。

'uuzi=juNⓐ (自 =raN, =ti) 応じる。mi-bunni 'uuziti še. 身分に応じてしろ。

'uuziruⓐ (名) 雄弦。三味線 (saNsIN) の一の糸。一番太く、一番低い音を出すもの。nakažiru (二の糸), miižiru (三の

糸) に対する。

'uu=zuNⓐ (他 =gaN, =zi) あななどる。軽んじる。qcu ~. 人をあななどる。'uugaqto-oN. 軽んじられている。

'uu=zuNⓑ (他 =gaN, =zi) ゆすぐ。すすぐ。ゆり動かして洗う。

'uzasaaⓐ (名) おじ(伯叔父)。関係をあらわす語で、呼びかけには言わない。~ na-toon. おじに当たっている。

'uzihužiⓐ (名) 従祖父母。祖父母の兄弟姉妹。関係をあらわす語で、呼びかけには言わない。

'uzihužiʔN`meeⓐ (名) 従祖母(おおおば)。士族についていう語。

'uzihuzitaN`meeⓐ (名) 従祖父(おおおじ)。士族についていう語。

'uzimiⓐ (名) 大宜味。《地》参照。

- ʔwaa① (名) 豚。
 ʔwaaɓa① (名) 余分。必要のない余計なもの。
 ʔwaaɓagutu① (名) 余計な事。しなくてもよい事。～ sjUN. 余計な事をする。～ 'junUN. 余計な事をしゃべる。
 ʔwaaɓaku'joo① (名) 豚の売買・周旋をする者。
 ʔwaaɓamuN① (名) 余計者。
 ʔwaaɓasiwa① (名) 余計な心配。とりこし苦勞。～ bikeei sjUN. とりこし苦勞ばかりする。
 ʔwaaɓaʔumii① (名) 余計な心配。とりこし苦勞。
 ʔwaaɓazikee① (名) ①むだづかい。余計な出費。②予算外に使う金。小遣い。
 ʔwaaɓi① (名) うわべ。表面。外見。
 ʔwaaɓibirree① (名) うわべだけの交際。
 ʔwaaɓicuraa① (名) 表面がきれいなもの。うわべを美しく飾る者。外見をつくらうもの。～ ga ʔucikunzoo. 表面は美しく、内心は根性の悪い者。
 ʔwaaɓigaa① (名) 表面の皮。外皮。表皮。
 ʔwaaɓinaNduuru① (名) 表面がつるつるしてなめらかなこと。
 ʔwaaɓišiNdi① (名) 表皮がただれること。
 ʔwaaɓooii① (名) 着物の上から、さらに一枚を羽織って着ること。冬の女の服装。
 ʔwaaɓaa① (名) しゃれ者。おしゃれ。また、気取りや。主として男についていう。
 ʔwaaɓi① (名) おしゃれ。容貌や服装をかざること。主として男のおしゃれをいう。また、気取ること。なま意気。浮気の転意。～ sjUN. おしゃれをする。～ na mun. 気取り屋。なま意気な者。
 ʔwaaɓici① (名) 天気。上っ気の意。 tinci

- ともいう。'iiʔwaaɓici deebiru. よい天気でございます。'janaʔwaaɓici 'jaibiiN 'jaa. お天気が悪いですねえ。ともに、あいさつにいう。
 ʔwaaɓikijaa① (名) 種豚業者。
 ʔwaaɓimiše'eN① (自・不規則) ʔaɓcUNの敬語。①お歩きになる。②お元気でいらっしゃる。違者でいらっしゃる。ʔwaaɓimišeebiitii. お元気でいらっしゃるいましたか。目上に対するあいさつのことば(歩いている人に限って言うのではない)。同様に、目下には ʔaɓcutii. (違者だったか) という。ʔaɓcUN (歩く)の項参照。
 ʔwaaɓire'e① (名) おあつらえ。あつらえ(ʔaɓiree)の敬語。
 ʔwaaɓagaci① (名) 上書き。書状などの表書き。
 ʔwaaɓagami① (名) おあがめ。神仏をあがめ尊ぶこと。<ʔagamiʔun (あがめる)。
 ʔwaaɓi=juN① (他 =raN, =ti) 追い散らす。追っばらう。平民の多く使う語。普通は ʔuujuN (追う)という。
 ʔwaaɓgwaa① (名) 小豚。子豚。
 ʔwaaɓgwaamacɪ① (名) 子豚市。子豚を取り引きする市。～ nu gutoon. 子豚の市のようにだ。子供が大勢騒いでやかましいさまをいう。
 ʔwaaɓgwaaniNzi① (名) ごこ寝。子豚が入り乱れて寝ているのに似ているのでいう。
 ʔwaaɓhugujaa① (名) 豚の去勢を業とする者。hugui はふぐり。ʔwaaɓu hugui tuibira. (豚のふぐりをとりましよう)と呼ぼわって歩いた。
 ʔwaaɓhwa① (名) 数量・金額などの余分。端数。
 ʔwaaɓhwizi① (名) 口ひげ。口の上に生えた

ʔwaaɟun

ひげ。sicaɟwizi (あごひげ) に対する。

ʔwaa=ɟun①* (自 =raN, =ti) 陰莖が勃起する。ʔwaaɟun ともいう。

ʔwaaɟuu① (名) 重湯。おかゆの上湯。正確には ʔukeenu ~ という。

ʔwaaɟarajaa① (名) 養豚業者。豚飼い。

ʔwaaɟnai① (名) 「うはなり」に対応する。

⊖後妻。あと入り。⊖転じて、しっと。やきもち。ねたみ。そねみ。男女間のしっともいうが多くは子供同志・兄弟間などのそれをいう。母が兄を抱くと、弟が ~ sɟun (ねたむ) のようにいう。男女関係に関するしっとにはおもに rinci という。

ʔwaaɟnaikwa'anai① (名) ねたみそねむこと。さかんにねたみ、争うこと。~ sɟun.

ʔwaaɟnee① (名) ʔwaaɟnai と同じ。

ʔwaaɟnii① (名) 上荷。上積み。の荷。sicanii (下荷) の対。

ʔwaaɟnui① (名) 上塗り。sicanui (下塗り) をした上にさらに塗ること。~ sɟun.

ʔwaaɟnuka'mi① (名) きたならしい者。また、きたない者にふれる子供を叱る時などにいう語。ʔwaa (豚) はきたないものの代表。-kami は kamii (係り) の意か。maɟidadun ~。松田道之(琉球処分官)への陰口。明治の中ごろ、豚を飼っていた松田という鹿児島人がいたので、松田道之の陰口として誤用されたもの。

ʔwaaɟnee① (名) 御按配。御加減。

ʔwaaɟnde'e① (名) <'wandajun. ⊖お仕えすること。御奉仕。ʔuja ~ simisjooci. 親を大事になさって。⊖祖先を大事に祭ること。

ʔwaaɟŋe'eN① (連詞・不規則) でおありになる。でいらっしやる。'jan (である) の敬語。ʔujanŋeen, ʔwenŋeen ともいう。

ʔwaaɟa① (名) 上の方。かみの方。部落などの低い方に対して、上の方。

ʔwaa=riɟun① (他 =riɟa, =qti) ⊖ʔuura-riɟun (ʔuuɟun の受身) と同じ。追わ

れる。追いかけられる。sigutuni ʔwaaq-toon. 仕事に追われている。⊖ʔwaaɟun と同じ。

ʔwaaɟsiba① (名) 上くちびる。

ʔwaaɟjaa① (名) 屠殺業者。主として豚を屠殺する者をいう。牛を屠殺する者を特にさす場合は、ʔusiʔwaaɟjaa という。

ʔwaaɟjaajaa① (名) 肉屋の小屋。

ʔwaaɟjaamaaci① (名) 肉市。豚肉が主である。

ʔwaa=ɟun① (他 =saN, =ci) ⊖成長させる。育て上げる。大きくする。ʔacinee-mun ~。商品をふやして、店を大きくする。hudu ~。たけをのぼす。(⊖の意があるため、hudu ~ のほかは余り用いない。⊖陰莖を勃起させる。

ʔwaa=ɟun① (他 =saN, =ci) 追加する。次次に加える。natooru ʔuqsa 'watacooti, nukuee ʔwaaɟjusa. できているだけ渡しておいて、残りは次次に加えるよ。

ʔwaaɟa'masi① (名) お引越。御転宅。貴人の引越しの敬語。'watamasi のさらに上の敬語。tuncinu ~nu basjoo 'wanin 'juɟirijabitan. お宅のお引越しの際は、わたしも参上いたしました。

ʔwaaɟooɟaa① (名) かなへび。とかげに似た爬虫類の動物。豚と戦う者の意。kooreegusjukwee ともいう。

ʔwaaɟuci① (名) ⊖汁に入れる葉野菜。汁に浮く野菜。上に浮く意か。⊖上置き。形式的な、または大して役に立たない添え物。

ʔwaaɟwaa① (名) 豚の小児語。

ʔwaaɟzee① (名) 悪知恵。悪がしこい才。

ʔwaaɟzetubaa① (名) 悪知恵の働く者。悪がしこい者。

ʔwaaɟzi① (名) 晴れ着。よそ行きの着物。もとは上着の意で sicazi (下着) の対であったろう。ʔiqsoocijaa (不断着) の対。

ʔwaaɟeda①① (名) ⊖間。ɟuikara naahwa-

(madi)nu ~nakai ʔikuçi muranu ʔaga. 首里から那覇までの間に幾つ村があるか。⊖間。期間。…までの間。…までの期間。ʔacanu ~. あしたまでの間。'waa-ga tuti cuuru ~ maqcoori ʔjoo. わたしが取って来るまで待ってろよ。ʔunu ~ caa sjootaga. その期間どうしていたか。sanzikara ʔjuzimadinu ~nakai kuu ʔjoo. 3時から4時までの間に来いよ。

ʔweedaⓐ* (名) 親田。(地) 参照。

ʔweedaiⓐ (名) [公事] 御内裏奉公。王城の勤務。宮仕え。転じて、官職。公職。

ʔweedaibansiⓐ (名) お役所仕事のような仕事ぶり。うわべだけを整えておくこと。-hansi は一時しのぎの意。

ʔweedainiⓐ (名) 宮仕えの人。役人。

ʔweedaiugaNⓐ (名) 官職を拝命すること。仕官。任官。ʔugan は拝み。

ʔweedaʔwe'edaⓐ (名) 間間に。合間合間に。hanasinu ~nakai ʔuta ʔiriɟun. 話の合間合間に歌を入れる。

ʔweedumaiⓐ (名) 親泊。(地) 参照。

ʔweegaaⓐ (名) 親川。(地) 参照。

ʔweegasaⓐ (名) 悪性の腫れ物の名。背の上、肩の後ろの辺にできる癧(よう)。劇痛を伴い、非常に恐れられている。

ʔweeguniⓐ (名) [親国] 御国。位の高い国を敬っていう語。首里以外のいなか、山原(*janbaru) などからは、首里を敬って sjuiʔweeguni [首里親国] といった。

ʔweejumiⓐ (名) お嫁さん。他家の嫁の敬称。

ʔweekaⓐ (名) 親戚。親類。姻戚をもいう。~ sjun. 親戚づきあいをする。

ʔweekaharo'ozīⓐ (名) 一族一門。親類縁者。親戚全部。-haroozi という形は首里では単独には用いられない。

ʔweekaNcuⓐ (名) 役人。領地を持つ人。ʔweekazi (その領地) から穀物を取得する。

ʔweekataⓐ (名) [古] [親方] 位階の名。

按司(ʔazi)に次ぐ位階で総地頭の家柄。

ʔweekaʔweekaⓐ (感) よその犬にあった時、かみつかれぬように唱えるまじないの文句。この家の親戚だといってなだめる意。

ʔweekaziⓐ (名) [古] [おえか地] 地頭(zituu) その他の役人に賜った地。領地。知行。采地。その土地からの収入は sakutuku という。

ʔweekiⓐ (名) 富。たくさんの財産。~nu ʔukami. 福の神。~ sjun. 富をなす。富を作る。

ʔweekiiⓐ (名) 金持ち。財産家。

ʔweeki'Ncuⓐ (名) 金持ち。財産家。ʔweekii ともいう。

ʔweekiNcuuⓐ (名) 金持ち。ʔweekincu を軽蔑的にいう語。

ʔweekuⓐ (名) ʔeeuku (榎) と同じ。

ʔweemaⓐ (名) ⊖間。…までの距離全体。gaqkoonu ~. 学校までの距離。ʔama-madinu ʔweemaa ʔaqcijuusan. あそこまでは歩けない。⊖間。期間。…までの間全体。sanzikara ʔjuzimadinu ~ maqcoori ʔjoo. 3時から4時までの間(計1時間) 待ってろよ。ʔunu ~nakai ʔi-kukeen ʔjukuiga. その間に何回休むか。ʔunu ʔweedanakai...ともいえる。

ʔweemunⓐ (名) お持ちもの。持ちものの敬語。taariiʔweemun. おとうさまのお持ちもの。

ʔweeNsuⓐ (名) お召し物。cin (着物) の敬語 ʔnsu(みそ)のさらに上の敬語。

ʔweesimişe'enⓐ (自・不規則) おやすみになる。寝る(ninzun), やすむ(ʔjuku-jun) の敬語。ʔweesimişeebiri. おやすみなさいませ。目上に対する、寝る時のあいさつ。目下に対しては ʔjukuree (やすめ) とか, nindee (眠れ) とかいう。

ʔweesituⓐ (名) 御しゆりと。situ (しゆり)

ʔweezikijun

と、しゅうとめ)の敬語。

ʔweeziki=jun④(他 =ran, =ti) (仕事などを他に)押しつける。

ʔwegunsjori④(名) [古] お嬢さま。口語は ʔaigwaamee. tiŋsjagunu hanaja ~ ʔwemunu, muikubana kubana satuga ʔwemunu. [てんしやごの花や うえぐんしよりおや物 むいく花小花里がおや物] ほろせんかの赤い花はお嬢様のもの、まつりの白い花は御主人のもの。奉公人が主家の庭をたたえた歌。男女の陰部を庭園の花にたとえたものか*。

ʔwenbusaa④(名) 出べその者。

ʔwenbusu④(名) 出べそ。tenbusu ともいう。

ʔwenu④(名) ねずみ。忌んで上の人(天井にいる人)の意で言ったものか。

ʔwenujaama④(名) ねずみおとし。ねずみ取り。ʔjaama は機械の意。

ʔwenda④(名) おとなしい人。やさしい人。

ʔwendaŋma④ おとなしい馬。kuujaa-ŋma(荒馬)の対。

ʔwendasan④(形) やさしい。おとなしい。柔和である。

ʔwenmi④(名) 負けたという意を表示する語。降参。toosee(倒し合い)の時などにいう。~i. 降参か。~simijun. 降参させる。

ʔwenʂe'en④(連詞・不規則)でおありになる。でいらっしゃる。ʔjan(である)の敬語。ʔujanʂeen, ʔwaanʂeen と同じ。ʔuganzuu qsi ʔwenʂeebiimi. お元気でいらっしゃいますか。

ʔwii④(名) ⊕上。場所・地位・優劣などの高いところ。⊖上。表面。⊕上。以上。kan nataru ~ja sikataa neen. こうなった以上は、しかたがない。

ʔwiibaa④(名) 上歯。上あごの歯。sicabaa(下歯)の対。

ʔwiibaru④(名) 上原。《地》参照。

ʔwiibaru④(名) 宇栄原。《地》参照。

ʔwiicee④(名) 御面会。お会いすること。会う(ʔicajun)ことの敬語。~sjun. お会いする。お目にかかる。拝顔する。~'uganun ともいう。

ʔwiici④④(名) 上地。《地》参照。

ʔwiici=cun④(自 =kan, =ci) 追い付く。

ʔwiicikee④(名) 身近に置いて使ひ者。小間使い。追い使ひ者の意。

ʔwiiciki=jun④(他 =ran, =ti) ⊖追い付く。namakara 'ja'in ʔwiicikirariiga 'jaa. 今からでも追い付けるかねえ。⊖追いかける。

ʔwiicikima'açiki④(副) どこまでも追い回すさま。付け回すさま。kasimasjaru ʔatai ~ qsi. うるさいぐらい付け回して。

ʔwiiciraka=sjun④(他 =san, =ci) 追い散らす。追い払う。'warabincaa ~. 子供たちを追い散らす。

ʔwiicoo④(名) 植物名。ういきょう。葉は食用に、実は薬用になる。

ʔwii=cun④(自 =kan, =ci) 動く。ゆれ動く。ゆらぐ。また、動いて位置を変える。ずれる。ranpunu ʔwiicagiisiga needu 'jaga 'jaa. ランプが動いているが地震かなあ。qcunu ʔeezi qsiŋ ʔwiicin sanŋan. 人が呼んでも身動きもしなかった。neenu 'juti zoonu haajanu ʔwiicoon. 地震があって、門柱がずれている。

ʔwiida④(名) 宇栄田。《地》参照。

ʔwiidan④(名) (たななどの)上の段。上段。また、(役柄などの)上位。sicadan(下の段)の対。

ʔwiigusiciraka=sjun④(他 =san, =ci) 追い散らす。散散に追い立てる。ʔwiicirakasjun ともいう。

ʔwiiguşiku④(名) 宇江城。《地》参照。

ʔwiihoo=jun④(他 =ran, =ti) 追い払う。追っばらう。

ʔwiijandi④(名) 成長するに従って悪くな

- ること。大きくなって顔などが醜くなること。
- ʔwiijan̄di=jun① (自 =ran, =ti) 成長するに従って悪くなる。大きくなって顔などが醜くなる。ʔwiiʔnzijun の対。
- ʔwiijun̄baru① (名) 上与那原。《地》参照。
- ʔwii=jun① (自 =ran, =ti) 老いる。老年になる。
- ʔwii=jun① (自 =ran, =ti) 成長する。発育する。大きくなる。「生ふ」に対応する。hudu ~. 背たけが伸びる。成長する。
- ʔwii=jun① (他 =ran, =ti) 植える。
- ʔwiikata① (名) ⊖中頭 (nakugami) 地方。simukata (島尻地方) に対していう。⊕上層階級。ʔwiiʔwii ともいう。simukata, sicakata の対。
- ʔwiikuNnu=zun① (他 =gan, =zi) 追い越す。追い抜く。kunnuzun も追い越す意。
- ʔwiikun=sjun① (他 =san, =ci) ぶちこわす。だいなしにする。だめにする。'wara-bincaaga ʔaçimati ʔaçibuši ʔujanu qei ʔwiikuncan. 子供たちが集まって遊ぶのを親が来てぶちこわした。siqkaku qsan̄di sjuru kwai ʔwiikunsaqtan. せっかくやろうとしていた会をぶちこわされた。
- ʔwiima① (名) 上間。《地》参照。
- ʔwiimasai① (名) 「おいまさり」に対応する。成長するに従って美しくなること。ʔwiijan̄di の対。~ sjoon. 成長するに従ってよくなっている。
- ʔwiimuti① (名) 上の方。かみの方。上の側。kaaranu ~. 川上。
- ʔwiinaʔwiina① (名) おいおい年をとってのち。老後。~nu kutu namakara kangeetookandaree, ʔwiinaʔwiinaa ʔawari sjun doo. 老後のことを今から考えておかなくては、老後はみじめになるぞ。
- ʔwiinuturi① (名) 首里城の門の名。ʔugusiku の項参照。
- ʔwiinu=zun① (他 =gan, =zi) 追い抜く。追い越す。
- ʔwiiʔnza=sjun① (他 =san, =ci) 追い出す。
- ʔwiiʔnzi=jun① (他 =ran, =ti) 成長するに従って(容貌などが)よくなる。おいまさる。ʔwiijan̄dijun の対。
- ʔwiingwa① (名) うい子。初子。
- ʔwiingwahwaçi¹ngwa① (名) うい子。初子。ʔwiingwa を強めて言った語。
- ʔwiiraasjan① (形) 年よりふけてみえる。年とって見える。
- ʔwiirikidukuru① (名) 面白い所。また、観光地。景色のよい所。
- ʔwiirikigisan① (形) 面白そうである。
- ʔwiirikii① (名) 面白い人。いつも人を面白がらせる人。愉快な人。
- ʔwiirikisan① (形) 面白い。楽しい。愉快である。興味を感じる。ʔwiirukisan ともいう。ʔwiirikisa sjun. 面白がる。楽しむ。
- ʔwiirukisan① (形) ʔwiirikisan と同じ。
- ʔwiisi① (名) 仰せ。貴人のおことば。御命令。
- ʔwiisica① (名) うえした。上下。
- ʔwiisigutu① (名) 仰せごと。貴人の御命令。~ 'ugadi. 仰せごとを拝して。
- ʔwiisimise¹en① (他・不規則) 仰せられる。おっしゃる。また、お命じになる。ʔjun (言う)の敬語。
- ʔwiisjoo① (名) 御衣裳。ʔisjoo (衣裳)の敬語。
- ʔwiitaci① (名) 成長。発育。おい立ち。ʔwiqtaci ともいう。
- ʔwiitaciwa¹rabi① (名) 発育する子供。
- ʔwiita=cun① (自 =tan, =qci) 成長する。発育する。おい立つ。
- ʔwiitati=jun① (他 =ran, =ti) 追い立てる。

ʔwiiʔucun

ʔwiiʔu=cun① (他 =kan, =ci) (品物を交換する場合などに、劣る物の方に、補いとして他の品または金銭を)添える。ʔjaaja caqsa ʔwiiʔucuga. おまえはいくら添えるか。sinanu 'waqsakutu singwan ʔwiiʔuceesa. 品が悪いから千貫添えたのだよ。

ʔwiiʔunʔin① (名) 上運天。《地》参照。

ʔwiiʔutu=sjun① (他 =san, =ci) ⊖追い落とす。追い抜いて勝つ。⊖ひったくる。強引に奪い取る。

ʔwiiʔweeʔumuuku① (名) 王の婿の敬称。王女をめとったかた。廃藩後は、旧国王尚侯爵の婿をもいった。

ʔwiiʔwii① (名) 高貴のかたがた。家柄のよ

い人たち。上層階級。ʔwiikata ともいう。simuzimu の対。

ʔwiiʔatu① (名) 上里。《地》参照。

ʔwiiʔi① (名) 泳ぎ。水泳。

ʔwiiʔi① (名) 上江洲。《地》参照。

ʔwiiʔiibu① (名) 上儀保。《地》参照。

ʔwiiʔzun① (自 =gan, =zi) 泳ぐ。

ʔwiqcu① (名) 年寄り。老人。'Nkasinu ʔwiqcoo hurimun doo. ʔnmagaa ʂikasan, 'jumi ʂikaci. 昔の年寄りはばかだよ。孫はあやさず、嫁をあやして(子も)り歌の文句。

ʔwiqcuwa'rabi① (名) 年寄りと子供。

ʔwiqtaci① (名) ʔwiitaciと同じ。

- 'waa① (感) ①わあ。驚いた時・うれしい時などに発する。子供がよく使う。②ばあ。顔や姿を現わす時に言う小児語。
- 'waa② (名) ①広さ。幅。~nu ʔaŋ. 広い。~nu neeŋ. 狭い。~nu neeraŋkutu magijaanu cukuraraŋ. 狭いので大きな家が建たない。~nu neeraŋkutu tuuraraŋ. 狭いので通れない。②度胸。人前で億しない度胸。~nu ʔaŋ. 度胸がある。
- 'waa- (接頭) わたしの。'waamun (わたしの物), 'waasjumuçi (わたしの本) など。
- 'waaʔaa① (感) へええ。あれまあ。珍しい時・不思議に思ふ時などに子供などが発する語。cuuja 'jašimi 'jaŋtisa... ~. きょうは休みだとさ...。へええ。
- 'waamuci① (名) 度胸のある者。
- 'wabi① (名) 降参。負けて敵にくだること。また、その意を相手に伝える語。~ sjuŋ. 降参する。~i. 降参か。
- 'wabiŋhai① (副) ぐちをこぼすさま。
- 'wabiŋnooi① (副) ぐちをこぼすさま。ぐちっばいさま。~ sjuŋ. ぐちばかり言う。
- 'wabijaa① (名) ぐちっばい者。ぐちばかりこぼす者。
- 'wabi=juŋ① (自 =aŋ, =ti) ぐちをこぼす。弱音をはく。
- 'wabuku① (名) 和睦。仲直り。文語的な語。miitunçaa namaa ~ sjuŋ. 夫婦は今仲直りしている。
- 'wabuwabu① (副) だぶだぶ。大き過ぎる着物、またはたくさんを着物を着た時のさま。転じて、hwiŋsuunu ~ sjuŋ. (一生貧乏から抜けきれない) のようにも用いる。
- 'wacaga=juŋ① (自 =raŋ, =ti) 湧き上がる。湧き出る。
- 'wacakooge'ezi① (副) あてつけがましく。つらあてに。わざわざいたずらする場合などをいう。~ nuŋi misira. (禁酒した人の前などで) わざと酒を飲んでみせよう。~ ʔami huti. あてつけがましく雨が降って。
- 'wacaku① (自) からかうこと。他人にいたずらすること。
- 'wacaku=juŋ① (他 =raŋ, =ti) からかう。人にいたずらする。'wacakuraqtaŋ. からかわれた。
- 'wacara=juŋ① (他 =aŋ, =raŋ, =ti) わずらう。苦難・面倒を受ける。'wiqcuŋi 'wacaraarijuŋ. 酔っぱらいにわずらわされる。caa hwiŋsuuni 'wacaraaqti ʔiqtaançain ʔicijuusaŋ. いつも貧乏にわずらわされて、きみの家にも行けない。
- 'wacaree① (名) わずらい。面倒。わずらわしいこと。
- 'wacareegandoo① (副) 面倒にわずらわされるさま。わずらわしいさま。面倒なさま。~ saqti. 面倒にわずらわされて。
- 'wacaciku① (名) [古] [脇筑] 麿藩前の警官の役名。ʔuhuciku [大筑] の下。cikusazi [筑佐事] (警吏, 巡査) の上。
- 'waciec① (名) わけ。意味あい。
- 'wacijaku① (名) 副官。補佐役。
- 'wacikusaa① (名) わきが。わきがの者。
- 'wacikuugi① (名) わき毛。わきの下の毛。kuugi は陰毛。
- 'wacimici① (名) わき道。支道。間道。
- 'wacinagui① (名) 湧稲圃。(地) 参照。
- 'wacišibi① (名) 着物のわきに当てる四角の布。まち。わき当て。そでの上げおろし

'wacizasi

にゆとりをつけるためのもの。

'wacizasi① (名) 脇差し。

'wacizituu① (名) [脇地頭] 一村 (現在の字) を領する者。suuzituu [総地頭] (一周切を領する者) に対する。

'wa=cuN① (他 =kan, =ci) 切って割る。木など堅いものをのこぎり・おのなどで次第に裂いて二つにすることにいう。kii ~。木を切りさく。

'wa=cuN① (自 =kan, =ci) ① 湧く。?izuNnu ~。泉がわく。② [新?] 沸く。沸騰する。'juunu ~。湯が沸く。

'wadaN① (名) 和気あいあいとすること。仲よくすること。平和。

'wadaNwago'o① (名) 仲よくすること。和気あいあいとすること。'wagowadaNともいう。

'wadu① (名) [文] わが身。~jacoN ~nu ziju naraN sikeni, ?ariju ?uramijuru 'jusinu ?arui。[我胴やちやうもわたの自由ならぬ世界に あれよ恨めゆる 由のあるゑ] わが身でさえわが身を自由にできない世の中で、彼女を恨むゆえがあるらうか。kaneru mumukwahuja 'jumi-jacoN 'ndaN, ~'jariba ~i cididu mja-biru。[かにやる百果報や 夢やちやうも見だぬ わどやればわどゑ つでど見やべる (奉行之巻)] このような大きな幸福は夢にも見ない。わが身がわが身かとおつねって見るばかりでございます。

'wagakaimuN① (名) ちん入者。押し入った者。

'wagaka=juN① (自 =raN, =ti) 強引に出る。押し強く出る。押し入る。ちん入する。?nzitee naraN tukuruNkaiN ~。出てはいけない所へも強引に出る。

'wagamama① (名) わがまま。文語的な語。zimamaの方を普通に用いる。~na. わがままな。

'wagami① (名) [文] わが身。~ cidi 'N-

cidu 'jusunu ?wija sijuru, muri ?iru-na ?uciju nasakibakari。[我が身擁で見ちど 与所の上や知ゆる 無理するな浮世 なさげばかり] わが身をつねって他人の身の上を知る。無理をするな、浮世は情が大事なのだ。最後の -bakari は、俗には、-bikēi ともいう。

'wagoo① (名) 和合。仲よくすること。むつまじくすること。'wadaNともいう。cuunu suriija ~ sjooti munusoodanuN sjan 'jaa。きょうの集まりは和気あいあいとして相談したなあ。

'wagoowada'N① (名) 仲よくすること。和気あいあいとすること。'walaNwagooともいう。

'waibaN① (名) 割り印。証書のとじ目などに押す割り印。

'waihu① (名) わっぷ。割り符。板などの中央に証印を押して、二つに割ったもの。割り札。また、系図などに押す割り印。

'wai?in① (名) 割り印。'waibaNの方を多く使う。

'waikwii① (名) 分け前。配当。割り当ててくれるもの。

'waimee①① (名) 割り前。割り当てて出す費用。~ sjuN. 割り前を出す。

'wain=cuN① (自 =kan, =ci) 割り込む。無理に入り込む。

'waisoozi① (名) 竹を割って編んだ soozi (あじろ)。

'waitui① (名) 切り通し。切り開いて通した道。

'waizakaa① (名) 割ったたきぎ。割り木。割り裂いたものの意。

'wa=juN① (他 =raN, =ti) ① 割る。cawaN ~。茶わんを割る。② 割る。分割する。hjaqkwaw zuuninukai ~, 100 貫 (2 円) を十人に分ける。③ 切開する。kasa ~。瘡(かさ)を切開する。

'wakaazi① (名) [文] [若按司] ?azi [按

- 司]の世つぎ。幼君。若君。'wakazara
ともいう。
- 'wakaazinume¹e¹Ⓣ (名) 若按司様。若君
様。
- 'wakabaaⓉ (名) 若葉。
- 'wakagee=juNⓉ (自 =raN, =ti) 若返る。
- 'wakagiⓉ (名) 若木。若い木。
- 'waka=juNⓉ (自 =raN, =ti) わかる。理解
する。納得する。kutun 'wakaraN mun.
わからず屋。
- 'waka=juNⓉ (自 =raN, =ti) 分かれる。別
別になる。'jaa ~. 分家する。
- 'wakakiⓉ (名) 'wakamaaçi と同じ。
- 'wakakusaⓉ (名) 若草。
- 'wakamaaçiⓉ (名) 若松。若木。年始の飾
りに用いる小松の枝。門に飾り、また仏壇
にも供える。'wakakiともいう。
- 'wakamiziⓉ (名) 若水。元旦未明に井戸か
ら汲む水。その敬語は 'wakaʔubii。汲む
者は男の子に限られ、男の子のいない家
には、近所の男の子が汲んで行ってやり、お
年玉をもらう。飲めば、その年の邪気が払
われるという。
- 'wakamuNⓉ (名) 若者。若い衆。
- 'wakanaçiⓉ (名) [文] 初夏。旧暦 4 ~ 5
月の、稲穂の出始めるところをいう。~ga
nariba kukuru ʔukasariti tamamiçini
ʔuriti kasira ʔarawa。[若夏がなれば
ころ浮かされて 玉水におりて かしら
あらは(銘苅子)] 初夏になったので心浮き
浮きと、きれいな水辺に降りて髪を洗お
う。
- 'wakaqteenⓉ (副) 若若しく。tusi tutin
~ sjoon。年をとっても若若しくしてい
る。
- 'wakariⓉ (名) ⊖別れ。別離。⊖分かれた
もの。分岐したもの。傍系。分家筋。
- 'wakariʔaçisaⓉ (名) 残暑。別れ暑さの意。
- 'wakaribiisaⓉ (名) 余寒。冬の終わること
の寒さ。別れ寒さの意。
- 'wakari=juNⓉ (自 =raN, =ti) ⊖別れる。
離別する。⊖分かれる。分岐する。micee
maauti 'wakarijuga。道はどこで分かれ
ているか。
- 'wakasainiⓉ (名) 若い時。~nu nanZee
kootin Qsi。若い時の苦勞は買ってでも
した方がよい。
- 'wakasamaciⓉ (名) 若狭町。[地] 参照。
- 'wakasaNⓉ (形) ⊖若い。'wakasa taru-
gakijun。若さを頼みにする。⊖経験が未
熟である。ʔoosanともいう。nama 'wa-
kasanu 'jaa。まだ未熟なんだ。
- wakasi (接尾) [済・沸] 升。酒の量を計る
時の接尾辞。cuwakasi(酒一升), tawa-
kasi(酒二升), tuwakasi(酒一斗)など。
- 'wakasiragaⓉ (名) 'wakasiragi と同じ。
- 'wakasiragiⓉ (名) 若しらが。'wakasira-
gaともいう。
- 'wakasiwakasiⓉ (副) 別別に。ʔuqtuſii-
zankai ~ 'iirimun kwijun。兄弟に別
別に玩具を与える。
- 'wakasjuⓉ (名) [若衆] ⊖元服前の貴族の
男子で、王城に出仕して小姓をつとめる
者。ちご小姓。ʔudun [御殿], tunci
[殿内] の次男・三男から選ばれた男子が
当たる。髪も着物も女のように美しく派
手に装い、お給仕をつとめた。ʔudun,
tunci の長男は勞せずして、地頭などの地
位につくが、'wakasju の身分の者は学問
に励み、文官試験を受けて苦勞したのち、
文官に仕官した。⊖男色(の相手の少年)
の隠語。若衆。ちご。
- 'waka=sjuNⓉ (他 =saN, =ci) ⊖分ける。分
かつ。別別にする。区別する。magiitu
gumaatu ~. 大きいのと小さいのと分け
る。'jaa ~. 家を分ける。分家させる。
ziqpi ~. 是非を分かつ。真偽を判断する。
⊖仲裁する。仲に立つ。仲直りさせ、引き
離す。ʔooee ~. けんかを仲裁する。
- 'waka=sjuNⓉ (他 =saN, =ci) [新?] 沸か

'waka^sju^udui

す。沸騰させる。首里では hukas^jun の方を多く用いる。

'waka^sju^udui^o (名) [若衆踊] 踊りの名。昔の 'waka^sju の姿で踊る。緋縮緬の着物で、長い袖をひるがえして、gu^zinhuubusi [御前風節] に合わせて踊る。

'waka^zubii^o (名) 'wakamizi の敬語。

'waka^zuriziⁿ^o (名) 旧暦 2～3 月ごろの季節。略して ^zuriziⁿ ともいう。混効駿集には「わかおれづみ」とある。

'waka^zusjuukoo^o (名) 一周忌 ('inui) と三年忌 (sanninci) とをいう。ʔuhu-ʔusjuukoo に対する。

'wakawikiga^o (名) 若い男。

'wakawinagu^o (名) 若い女。

'wakazara^o (名) 'wakaazi と同じ。-zara は 'unazara (按司の妻) の -zara と同じく、按司の意。

'wakaziira^o (名) 産後、日の浅い体。産後、まだ回復しない体。

'wakaziiramuⁿ^o (名) 産婦。産後、まだ体が回復しない者。

'waki^o (名) ⊖わけ。意味。理由。'wacicee, cimuee ともいう。caaru ~ga. どういう理由か。⊖謝罪。弁解。~ sjun. 謝罪する。あやまる。~N cikan. 弁解も聞かない。

'wakibuⁿ^o (名) 配分した分け前。分けてくれるもの。ʔujanu ~. 親が子供たちに分けてくれるもの。

'wakiee^o (名) [新?] 'wacicee と同じ。

'waki=juⁿ^o (他 =raⁿ, =ti) ⊖分ける。区分する。⊖分ける。分配する。

'wakimee^o (名) 分け前。分けて取る分。

'waku^o (名) 簍(わく)。手で回しながら、糸を巻きつける織具。

'waku^o (名) 泉。とくにその水の湧き出て来るところ。水底にあって見えないようなものを多くいう。湧き口。ʔizun は湧き口が見えるものをいう。

'wakubici^o (名) ひきがえる。がまがえる。

'wakugaa^o (名) 湧川。《地》参照。

'wakuidii^o (名) おびき出す手。だまして誘い出す手段。

'waku=juⁿ^o (他 =raⁿ, =ti) ⊖おびき出す。⊖からかり。いたずらする。挑発して怒らす。'wacaku^jun ともいう。

'wami^o (名) [文] [我身] 私。われ。tu-bitacuru haberu ma^ziju mati çirira, ~ja hananu mutu siran ʔamunu. [飛び立ちゆるはべる まずよ待て連れら 我身や花のもと 知らぬあもの] 飛び立つ蝶よ。しばらく待って私を連れて行ってくれ。私は花のありかを知らないのだから。

'wana^o (名) 和仁屋。'wanja ともいう。《地》参照。

'wanja^o (名) 和仁屋。'wana ともいう。《地》参照。

'wanu^o (名) [文] 私。われ。'wami よりも古い文語。~ mutaci tabori 'wanço mja-gana. [わぬ持たち給れ わ無蔵見やがな] わたしに(手紙を)持たせて下さい。恋人に会うついでに。~ja kunu muranu situi. [わぬや此村の猪取り] わたしはこの村の獵師。この場合の 'wanu は山原ことば(国頭方言)として使われている。~N ʔizu 'jatuti masira sakana. [わぬも伊集やとて 真白咲かな] わたしも伊集の木のように真白に咲きたい。

'wan^o (名) わたし。私。うしろに付く助詞によって形が不規則に変わる。'waaga (わたしが), 'wannee (わたしは), 'wannin (わたしも), 'waa-(わたしの) など。また、一人称単数の人称代名詞には、性別・敬語などによる区別はない。複数は 'waqtaa. ~du 'jaru. わたしである。'waga ʔicun. わたしが行く。'wannee ʔikan. わたしは行かない。'wannin. わたしも。'wanninkain. わたしにも。

- 'wan① (名) [文?・新?] 灣。'wantuguci, kuwan, ʔuuwan などの海岸の地名はある。
- 'wan① (名) 梳。
- 'wanbaa① (名) 'wanbuu (顔の大きい者) の卑称。
- 'wanbuu① (名) 食器の名。深い鉢。どんぶりの大きな物。料理の際、麦粉をとかしてこねたり、あえものを作ったりするなど、用途が多い。ボールの用をする焼き物。
- 'wanbuu① (名) 'wanbuu (料理用の鉢) のように顔の大きい者。'wanbaa ともいう。
- 'wanamee=jun① (他 =ran, =ti) 弁償する。与えた損害を償う。古語「わきまふ」(つぐなり)と関係ある語か。
- 'wanda=jun① (他 =an, =ran, =ti) 世話をする。面倒を見る。尽くす。多く、年長者の面倒を見るのにいう。'wandaarijun. 世話になる。厄介になる。⊖祖先の祭祀を受け持つ。
- 'wankuru① (副) わたし自身で。わたしが自分で。-kuru は英語の -self に似た接尾辞。qcoo tanumaN gutu ~ sjuN. 人を頼まないようにわたし自身です。~ çukuteesi. わたしが自分で作ったもの。
- 'wankuruhuu① (名) 自己流。
- 'wanwan① (名) [新?] 犬の小児語。わんわん。ciicaa ともいう。
- 'waqkwa=sjun① (他 =san, =ci) ときほぐす。分解する。ばらばらにする。
- 'waqkwi=jun① (自 =ran, =ti) 分解する。ほぐれる。ばらばらにこわれる。karazinu ~. 髪がとけて乱れる。
- 'waqpu① (名) 'waihu と同じ。
- 'waqpu① (名) 費用などの割り当て。
- 'waqsa① (名) わび。謝罪。あやまること。~ sjuN. あやまる。~ ʔunnjukiree. おわびを申しあげろ。~ sjuraa 'jurusjusa. あやまるなら、許してやるよ。
- 'waqsaN① (形) 悪い。性質・品質などが悪い。また、正しくない。'janasaN および 'jana- の項参照。deenu 'jaqsaree sinan ~. 値が安ければ品も悪い。'waaga ~. わたしが悪い(あやまるときのことば)。
- 'waqtaa① (名) ⊖わたしたち。われら。われわれ。話し相手を含めた意も、含めない意もある一人称複数。⊖わが家。わたしの家。~Nkai ʔikani. わたしの家へ行かないか。⊖(接頭)わたしたちの。われわれの。'waqtaahara. (わたしたちの親類)
- 'waqtaakuru① (副) われわれで。自分たちで。~ sjaibiisa. 自分たちでやりますよ。
- 'waqtuka=sjun① (自 =san, =ci) わっと言う。わっと人を驚かす。また、わっと泣き出す。
- 'wara① (名) わら(藁)。
- 'waraaraNwaree① (名) 笑えないのを無理に笑った笑い。しいて笑うこと。
- 'warabaa① (名) 子供('warabi)の卑称。
- 'warabaakurusjaa① (名) 子供をいじめる者。那覇の人や平民が使う。上品には 'warabisiçikijaa という。
- 'warabee① (名) わら灰。
- 'warabi① (名) 子供。おとな (ʔuhuqcu) に対する子供。親に対する子は qkwa. ~ şikasjunnee. 子供をあやしすかすように。~ naikeejun. 子供になりかえる。老いてふたたび子供のようになることにいう。
- 'warabi① (名) 植物名。わらび。
- 'warabiʔaçikee① (名) 子供扱い。子供のように軽く遇すること。
- 'warabidusi① (名) 幼友だち。幼なじみ。
- 'warabigami① (名) 神のように天心らんまん子供。子供をほめたたえたことば。
- 'warabigwii① (名) 子供の声。
- 'warabii① (名) わらを燃やした火。わら火。
- 'warabinaa① (名) nanui (貴族・士族の元服の時につける名) に対して、子供の時か

'warabinaci

らの名。わらべ名。幼名。

'warabinaci① (名) 子供の泣き方。子供のよりに大声で泣くこと。

'warabiNcaa① (名) 子供たち。

'warabiNcaa?ooec① (名) 子供のけんか。
~kara ?uhuqcu?ooee najun. 子供同志のけんかから、おとなのけんかになる。

'warabisiçikijaa① (名) 子供をいじめる者。上品な語で、乱暴には 'warabaakurusjaa という。

'warabizimu① (名) 子供ごころ。幼ごころ。童心。

'waraçina① (名) わら縄。

'waradoosi①*(名) 紙の一種。わら製の薄い紙で、もっぱら 'ncabi (その項参照) に用いるもの。?ucikabi ともいう。

'waraguçi①*(名) [新] わらじ。'warazi よりも古い借用語。

'wara=juN① (他 =aN, =ti) ⊖笑う。⊖嘲笑する。qcu ~. 人を嘲笑する。

'warasaba① (名) わらの芯で作った草履。稲の穂の実らぬ前の芯で作ったもので、きわめて高価。王のみが用いる。

'warasibi① (名) わらしべ。わらの芯。

'warasiNbuu① (名) わらしべのひも。ひもに使うわら。~saani kunzun. わらで縛る。

'warasiNbuu?uubi① (名) わらで作った帯。

'waraçaara① (名) わらのたわし。

'warazi① (名) [新] わらじ。もと、わらじは無かった。'waraguçi ともいう。

'waraziçin① (名) わら包み。わらづと。農民が肉などを包んでよそへ行く時などに使う。

'wareebanasi① (名) 笑い話。こっけいな話。冗談。teehwa ともいう。?uree ~du 'jaee sani. 冗談ではないか。まじめな話か。

'wareegau① (名) 笑い顔。えがお。

'wareejoo① (名) 笑いよう。笑い様子。

'wareekaN=zuN① (自 =dan, =ti) にここにこ笑う。えみくずれる。'wan 'Nncakutu kamakara 'wareekanti Yee?ee sjutan. わたしを見たら遠くからにここにこして呼びかけたものだ。

'wareekuzi=juN① (他 =raN, =ti) 嘲笑する。笑って人を傷つける。

'wareemunuu① (名) 笑いもの。嘲笑の対象。~ nasjun. 笑いものにする。

'wareemunuuu① (名) 'wareemunuu と同じ。

'wareesiizii① (副) 無理にえがおを作るさま。~ sjun. 無理に笑う。

'wari① (名) 割れた物。割れたかけら。

-wari (接尾) 分(ぶ)。100分の1の単位をあらわし、金利についていう。なお、金利は月計算であらわすのが普通。?iciwari (1分), niwari (2分) など。

'warigaami① (名) ⊖割れがめ。⊖転じて、大酒飲み。

'warigani① (名) 割れ鐘。~nu nainnee. 割れ鐘の鳴るように。蛮声をたとえていう。

'wari=juN① (自 =raN, =ti) 割れる。割れてこわれる。割れて分かれる。(団体などが) 割れる。

'warimi① (名) 割れ目。割れた所。

'warimuN① (名) 割れ物。割れた物。また、割れやすい物。~ 'jakutu 'juu qsi 'joo. 割れ物だから気をつけろよ。

'warinaabi① (名) 割れなべ。割れ目のできたなべ。'warigani と同じく、蛮声のたとえに使う。

'warumuN① (名) 悪者。悪人。

'wasami=cuN① (自 =kaN, =ci) ざわめく。ざわざわ騒ぐ。'nninu ~. 胸騒ぎする。

'wasawasa① (副) がやがや。騒がしいさま。大勢いて騒がしいさま。'warabincaaga ~ sjoon. 子供たちががやがや騒い

- でいる。
- 'waši=jun① (他 =ran, =ti) 忘れる。'waširaran. 忘れられない。
- 'wasinutui① (名) わし。鳥の名。
- 'wasita① (名) [文] われら。われわれ。力んで言う時などに使う。～nišetaga. われら青年が。
- 'wata① (名) ①腹。～nu 'janun. 腹が痛い。～sagujun. 腹をさぐる。～kuzijun. 故意に、人を怒らせるようなことを言う。腹をくじる意。～nu kamiririjun. 腹が突き上げられるようにはげしく痛む。～hwinarasjun. 腹を減らす。運動などをして腹ごなしをする。～mugeejun. 腹がにえくりかえる。非常に立腹する。～'uuiNcun. 腹ごなしをする。大食したあとなど、立って歩いて腹を減らす。'uujun はゆり動かす。②はらわた。腸。動物などのそれをいう。'watamiimun ともいう。
- 'wata① (名) 綿。
- 'watabinai① (名) 腹が減ること。-binai < hwinajun (減る)。naada ~N san. まだ腹も減らない。
- 'watabonbon① (副) 腹がだぶだぶ。水分で腹がだぶだぶしているさま。caa ?uhooku nudi ~ sjoon. 茶をたくさん飲んで、腹がだぶだぶだ。
- 'watabutaa① (名) 腹が大きい者 (卑称)。
- 'watabutu① (名) 腹の卑称。また、腹の小児語。qcunu meeuti ~ hati. 人の前で腹を出して。
- 'watadee① (名) 腹持ち。食べたあとで腹が減りにくい食物の質。～nu ?an. 腹持ちがよい。もちなどについている。
- 'watagukuci① (名) 腹ぐあい。haragukuci ともいう。
- 'watagurisjan① (形) 惜しくて思い切れない。非常に残念である。後悔してほぞをかむ。あきらめきれない。
- 'watagwaa① (名) 小腸。?uhuwata (大腸) に対する。
- 'watahuqkwii① (名) 腹が張ること。食い過ぎなどで、腹がふくれること。
- 'wata?iri① (名) 綿入れ。冬に着る、綿を入れた着物。
- 'watai① (名) 渡り。渡る所。ちょっとした渡し場。
- 'wata=jun① (自 =ran, =ti) ①渡る。一方から他方へ渡って移る。②(物が人に) 渡る。ziqcuunu ~. 月給が渡る。
- 'watakusi① (名) ①私事。'watakusigutu と同じ。②へそくり。婦人などがわたくしに貯えた金。
- 'watakusigutu① (名) 私事。
- 'watamasi① (名) お引越。御転宅。引越しの敬語。さらに上の敬語は ?waatamasi。
- 'watamiimu'N① (名) 内臓。はらわた。臓物。
- 'watanakara① (名) 腹半分。腹半分食うこと。nakarawata ともいう。nizirii tiigee ~du 'jaru. おむすび一つでは腹半分しかない。
- 'watanumii① (名) 腹一杯。～kanun. 腹一杯食べる。
- 'wataNsu① (名) 'watazin (冬の礼服) の敬語。貴族の冬の礼服をいう。'Nsu (みそ) は cin (きぬ) の敬語。
- 'wataNzi① (名) ①渡し場。渡船場。②[渡地] 那覇にあった遊郭の名。いなか相手の下等な遊郭であった。'watanzizurigwanu çirinasá 'ja, susuciribakamani kata?utizin cici 'janbarubuni kajujuša 'jaa. 渡地女郎のあわれさよ。すその切れたはかまに、肩のおちた着物を着て、山原舟に(船乗りめあてに)通うよ。
- 'watasibuni① (名) 渡し舟。
- 'wata=sjun① (他 =san, =ci) ①渡す。一方から他方へ渡らせる。②渡す。かけ渡す。③(人に物を) 渡す。tima ~. 手間賃を

'wataʔuci

渡す。

'wataʔuci① (名) 綿打ち。綿を打つこと。
また、綿を打つ人。また、その道具。

'wataʔuci② (名) 腹の中。腹の中の考え。
'wataʔucee 'wakaraN. 腹の中はわからない。

'wataʔuhusaN① (形) 腹いっぱいである。
食べ過ぎて腹が張っている。'wataʔuhwi-
saN ともいう。

'wataʔuhwisaN① (形) 'wataʔuhusaN と
同じ。

'watawataatu① (副) 親しく。腹の底をう
ちあけて。

'wataziN① (名) 冬の礼服。男女用。biN-
gatawataziN, tizimawataziN, maNwa-
taziN, siragawataziN, riNziwataziN,
dunsiwataziN など、柄や布地によって
多くの種類があり、身分・性別・年齢に
よって着用の制限があった。

'wauwau① (副) わんわん。犬の鳴き声。

'wauwau② (名) 犬の小児語。わんわん。

'waza① (名) 仕事。職業。nuunu ~ sjuqa.
何の職業か。~ ʔusinajuN. 失業する。

'wazami① (名) ⊖しわ。ciNnu ~ nooʃee.
着物のしわを直せ。⊖顔などのしわ。ま
た、しかめっつら。泣いた時の顔のしわな
ど。ʔcunu ʔmeNsjuocooru muN ~N
nooʃee. 人が見えているのに、しかめっ
つらはよしなさい。

'wazami=juN① (他 =raN, =ti) ⊖しわを
寄せる。⊖顔をしかめる。

'waza=nuN① (自 =maN, =di) ⊖しわが寄
る。しわになる。ciNnu 'wazadoon. 着
物がしわになっている。⊖顔などにしわが
よる。しかめっつらになる。miinu ʔibi-
nu ~. 目じりにしわが寄る。

'wazaNkaa① (副) 顔をしかめるさま。~
sjoon. しかめっつらをしている。

'wazaʔtu① (副) わざと。故意に。'waza-
tu ともいう。

'wazatu① (副) わざと。故意に。'waza-
ʔtu ともいう。

'wazawaza① (副) わざわざ。ʔicunasaru
muN ~ ʔei kwiti. 忙しいのにわざわざ
来てくれて。ʔjantiN ʃinuru muN ~
ʔiiʔNzaci. 言わなくてもすむのに、わざ
わざ言い出して。

'wazawee① (名) わざわい。災難。~nu
mutu. わざわいのもと。

'wazi=juN① (自 =raN, =ti) ⊖沸く。沸騰
する。⊖腹を立てる。憤慨する。'wazi-
wazii sjoon. まさに怒りが発せんとし
ている。

'wazimu① (名) [文] わが心。口語では単
に cimu ということが多い。

'wazirigaara① (名) ⊖後世に入っはじめ
に渡る、熱湯のわき立つ川。三途の川にあ
たるもの。⊖首里の円覚寺にある ho-
sjooʔici [放生池]の俗称。

'weewee① (副) おいおい。わあわあ。声を
あげて泣くさま。~ nacuN. おいおい泣
く。

'wigeenee① kanaan① (句) 'jugeenee
kanaan と同じ。

'wii① (名) 酔い。~nu samatikara ʔikee-
酔いがさめてから行け。

'wii② (名) [文] 甥。

'wii③ (名) 柄(え)。おの・ほうちょうな
どの柄。

'wiibacinoʔori① (副) むかむかするさま。
吐き気を催すこと。~ sjun.

'wiiba=cuN① (自 =kaN, =ci) むかつく。
吐き気を催す。

'wiigoomun① (名) ⊖えぐいもの。えが
らっぽいもの。⊖[古] 毒のあるもの。毒
物。

'wiigoosan① (形) ⊖えぐい。えがらっぽ
い。食べるとのどを強く刺激する味をい
う。⊖(皮膚が)かゆい。

'wiigu=juN① (他 =raN, =ti) えぐる。

- 'wiigukuci④ (名) 酔いごころ。酔った気分。
- 'wiigusi④ (名) 酒癖。酒に酔った時に出る癖。
- 'wiihuri=jun④ (自 =ran, =ti) 酔いしれる。酔って正体を失う。
- 'wii=jun④ (自 =ran, =ti) 酒・船などに酔う。saki nudi ~. 酒を飲んで酔う。「酒に (sakini, sakin kai) 酔う」とは言わない。
- 'wiikurubi④ (名) 酔いつぶれて寝ること。酔い倒れ。
- 'wiimuN④ (名) 毒のあるもの。毒物。
- 'wiimuNhuri'mun④ (名) 酔っぱらいの気違い。酔っぱらいを気違い (hurimuN) と同じと見なしていった語。
- 'wiinaci④ (名) 酔い泣き。酒に酔って泣くこと。
- 'wiiniNzi④ (名) 酔いつぶれて寝ること。
'wiikurubi ともいう。
- 'wiiQkwa④ (名) 甥。
- 'wiiri④ (名) ⊖(着物の) えり。⊖えりかたあき。着物にえりを付けるために、肩の部分を切りひらいたところ。
- 'wiiruu④ (名) ひも。よって作ったひも。
~ hwinijun. ひもをよる。
- 'wiiruunaci④ (名) めそめそ泣くこと。だらだらといつまでも泣くこと。
- 'wiisamasi④ (名) 酔いざまし。酔をさまざま飲み物など。namakugasi (米をすりつぶして水にといたもの) が有効だとされる。
- 'wikiga④ (名) 男。'wikigaa tin, 'winagoo zil. 男は天, 女は地。男尊女卑の思想をあらわしたことば。~nu kutubaa sjuumungaai. 男のことばは証文がわり。男子の一言金鉄より堅し。
- 'wikigagwii④ (名) 男の声。男声。
- 'wikigahuuzi④ (名) 男のなり。男としての姿。
- 'wikigahuuzii④ (名) 男のような女。'uu-

- winagu ともいう。
- 'wikigahwa'ahuzi④ (名) 祖父。
- 'wikigajagusami④ (名) 男やもめ。
- 'wikigamasai④ (名) 男まさり。女丈夫。
- 'wikiganuʔuja④ (名) 男の親。父親。
- 'wikigangwa④ (名) 男の子。
- 'wikigaraasjan④ (形) 男らしい。
- 'wikigaʃiiza④ (名) 兄。
- 'wikigasitu④ (名) しゅうと。夫の父親。
- 'wikigasugai④ (名) 男装。女のする男装。
- 'wikigaʔuja④ (名) 男親。父親。
- 'wikigaʔuqtu④ (名) 弟。
- 'wikigawarabi④ (名) 男の子。男の子供。
- 'wikii④ (名) [あけり] 姉妹から見た兄弟。姉または妹から見た, 兄または弟。'unai の対。
- 'wikiiʔukudi④ (名) 男神をまつる ʔukudi (その項参照)。一門中の男の神をつかさどる女の神官。
- 'winagu④ (名) 女。~nu hatiree zaa najun. 女は果ては蛇になる。女の執念深さをいったもの。'winagoo ʔikusanu sacibai. 女はいくさのさきがけ。いざという時の女の勇気をいったもの。
- 'winaguda'ci④ (名) 女世帯。女立ちの意。
- 'winagugwii④ (名) 女の声。女声。
- 'winaguha'qtu④ (名) [女法度] 女人禁制。
- 'winaguhuzi④ (名) 女のなり。女としての姿。
- 'winaguhunzii④ (名) 女のような男。
- 'winaguhwa'ahuzi④ (名) 祖母。
- 'winagukaçimijaa④ (名) 女たらし。色魔。女をつかまえる者の意。
- 'winagumi④ (名) [文] 女の身。
- 'winagumuçiri④ (名) 女とむつまじくすること。女色におぼれること。女狂い。
- 'winagunuka'ta④ (名) 里方。姻戚。外戚。tuzikata, hwahwakata ともいう。
- 'winagunuʔuja④ (名) 女の親。母親。

'winagunuusi

- 'winagunuusi① (名) 女主人。多くは、男主人がいない場合の女主人をいう。
- 'winaguŋwa① (名) ㊦女の子。娘。ことに未婚の若い女。㊦娘。親に対する娘。ʔaree maanu ~ga. あれほどこの家の娘か。
- 'winaguraasjaN① (名) 女らしい。しとやかである。女についていう。
- 'winaguŋiiza① (名) 姉。
- 'winaguŋikasjaa① (名) 女たらし。女をだます者。
- 'winagusitu① (名) しゅうとめ。夫の母親。
- 'winagusugai① (名) 女装。男のする女装。
- 'winaguŋuja① (名) 女親。母親。
- 'winaguŋuqtu① (名) 妹。
- 'winaguŋutusjaa① (名) 女たらし。女を落とす者の意。
- 'winaguudui① (名) [女踊] 踊りの一種。踊り手が士族の女の服装をして踊る。

- 'winaguugari① (名) 女に飢えること。女ひでり。
- 'winaguwarabi① (名) 女の子。女の子供。
- 'winaguwa`rabi① (名) 女子供。婦女子。
- 'wiNca=juN① (自 =raN, =ti) うすぎたなくなる。うすよごれる。着物・水・洗い物などについていう。
- 'wiŋwii① (名) 酒に酔って暴れまわること。
- 'winturukaasjaN① (形) 食べるとむかつく。食べたあと味が悪い。脂の濃いものかいたみかけた時の味をいう。
- 'wiQcaa① (名) 酔っぱらい。酔漢。のんだくれ。'wiQcuu ('wiQcu の卑語) をさらに悪く言った語。
- 'wiQcu① (名) 酒に酔った人。
- 'wiQcuu① (名) 酒に酔った者。酔っぱらい。酒に入りびたっている者。のんだくれ。'wiQcu の卑語。

zaa① (名) 蛇 (じゃ)。次のような場合にいう。'winagunu hatiree ~ najun. 女は果ては蛇となる。女の執念深さをいったものの。hatiree は命がけになればの意。

zaa② (名) ㊦座。人のすわる席。~ tujun. 席をとる。㊦地位。役職。ポスト。㊦(廃藩前の)役所。?uza の項参照。㊦座敷。部屋。

zaa③ (名) 座安。《地》参照。

zaagamee④ (名) 部屋の構え。部屋の中の道具などの配置など。

zaagaru⑤ (名) 粘土質の黒土。畑などにある黒土。赤土は maazi という。

zaahaneekijaa⑥ (名) 座をにぎやかにする者。

zaahwa⑦ (名) 座波。《地》参照。

zaahwee⑧ (名) しまつにおえないこと。めっちゃめっちゃ。また、乱暴なこと。荒荒しいこと。~na mun. もて余し者。~natoon. (物事が)しまつにおえなくなっている。

zaahweegutu⑨ (名) しまつにおえない事。困った事。やっかいな事。

zaahweemun⑩ (名) 乱暴者。ならず者。しまつにおえない者。

zaahweetii'hwec⑪ (名) 乱暴狼籍。~ sjun.

zaama⑫ (名) 迷うこと。途方に暮れること。また、道に迷うこと。まい子になること。mici ~ najun. 道に迷う。まい子になる。

zaamatiima⑬ (名) 散散迷うこと。途方に暮れること。また、散散道に迷うこと。~nu ?uhusan. 途方に暮れることが多い。~ sjun.

zaamucaa⑭ (名) 座をもたせる者。一座を

にぎやかにする陽気な人。

zaan① neen② (句) 人の言を気にしない。他人のおもわくをかえりみない。座をわきまえない。平気である。よい意にも悪い意にも使う。zaa は座の意か。~ qcu. 人を気にしない人。~ sikata. 人をかえりみないやり方。~, taameeutin ?uci?ucinu kutu hanasi qsi. 座をわきまえない、誰の前でもうちうちの事を話して。

zaasi③ (名) 「座主」の意。和尚。住職。一山の長である僧。

zaashinumee④ (名) 和尚様。住職様。

zacimi⑤ (名) 座喜味。《地》参照。

zawana⑥ (名) 謝花。《地》参照。

zawibai⑦ (名) 蛇皮張りの三味線(sansin). 沖縄の三味線中、上等のものである。蛇皮線とはいわない。

zakoo⑧ (名) 麝香(じゃこう)。~nu kaza. 麝香の香り。

zakura⑨ (名) 植物名。ざくろ。

zama⑩ (名) 邪魔。さまたげ。

zama⑪ (名) ざま。見たようす。zamaa neen. 見苦しい。

zamaui⑫ (名) うろたえること。狼狽。とまどうこと。~ sjun.

zamauikaa⑬ (名) zamauikaadui と同じ。

zamauikaa'dui⑭ (名) 大いにうろたえること。大狼狽。大いにとまどうこと。~nu ?uhusan. 大いにうろたえることが多い。~ sjun.

zamadu=jun⑮ (自 =ran, =ti) うろたえる。狼狽する。とまどう。

zamami⑯ (名) 座間味島。慶良間列島(kirama)の島の名。また、座間味。《地》参照。

zamazamaa neeN

zamazamaa④ neeN④ (句) 数限りない。
無数である。zamazamaa neeraN ŷimi.
無数の夢。

zana④ (名) 謝名。《地》参照。

zanadoo④ (名) 謝名堂。《地》参照。

zan④ (名) zanNuŷiju と同じ。

zan④ (名) 讒。讒言。

zanmee① (名) 作法。礼儀。~nu neeraN.
作法を知らない。

zanNiN④ (名) 残念。kucuuŷija ~。[口借
しや残念] 口借しや残念。~na kutu.
残念なこと。

zanNuŷiju④ (名) 海獣の名。儒艮(じゅご
ん)。人魚。ŷakangwaaŷijuともいう。

zanpami'saci④ (名) 残波岬。沖繩本島西
海岸にある岬。

zaqkuku④ (名) [文] 雑糞。

zaqpi④ (名) [新] 雑費。以前は zooŷiku-
ri といった。

zaqtu④ (副) ざっと。簡略に。大ざっぱに。
~'juŷi 'NNŷee. ざっと読んで見る。

zaqtuu④ (名) 飾り気のない人。動作が気
軽でとりつくろわぬ人。あっさりした人。
さっぱりした人。

zari=juN④ (自 =raN, =ti) ざれる。下品に
なまめかしく飾る。また卑猥なたわむれか
たをする。

zarikutuba④ (名) 卑猥なことば。ざれ
言。

zasici④ (名) ⊖座敷。部屋。⊖寝間。寝室。
⊖寝床。~sjun. 床をとる。

zasidoogu④ (名) 寝具。夜具

zasicisjuu④ (名) 本官にならない役人。補。
やとい。

zazici④ (名) 謝敷。《地》参照。

zee④ (名) 采。采配。大將がさしず用い
たもの。

zeebaN④ (名) [在番] 宮古、八重山などの
先島の kuramutu [蔵元] に勤務し、土
地の行政を監督した役人。その土地の人は

zeebaNnumee と敬って呼んだ。首里から
単身で出かけ、任期が数年にわたるので、
めかけ (ŷujaŷaNmaa) を持つようにな
り、任期を終えて首里に帰る際に、離別の
悲劇となるが多かった。

zeegi④ (名) [材木] 銘木。床柱などに使ら
材木。

zeemuku④ (名) 材木。

zeerikweeri④ (副) 無益なおしゃべりのさ
ま。ぺちゃくちゃ。~munu'junun. ペ
ちゃくちゃしゃべる。

zibaN④ (名) 襦袢(じゅばん)。

zibaqtu④ (副) ぎっしり。容器などにすき
まなくはいったさま。~ŷiqcoon. ぎっ
しりはいつている。

zibita④ (連体) 下卑た。下品な。卑しい。
わいせつな。また、けちな。

zibuku④ (名) 地固め。家の基礎の地盤を
胴突きなどで固めること。~niijun. 地
固めをする。

zibun④ (名) [文] 自分。口語は auu。

zibun④ (名) ⊖時。時刻。時間。~na-
toon. 時間になった。naa zibunoo ŷa-
rani. もう時間ではないか。⊖(接尾) 時
分。頃。'juŷizibun (四つ時分。午前午後
の10時ごろ) など。

zicasi④ (名) しらみの卵。

ziŷi④ (名) 実(じつ)。まこと。本当。文語
的な語。ziŷee. 実は。~nu kutu ŷii. 本
当のことを言え。

ziŷiŷin④ (名) 実印。登録した印。また ŷii-
biban (摺印) にもいう。

zidee④ (名) [下代] ŷuaun [御殿], tunŷi
[殿内] の家で、会計その他の雑務をする
使用人。suucici [惣聞] の下に属する。

ziganee④ (名) 地代。借地料。主として耕
地のそれをいう。

ziguku④ (名) 地獄。

zihwi④ ⊖(副) ぜひ。必ず。きつと。~
qci kwiri 'joo. ぜひ来てくれよ。⊖(名)

[文] 是非。正邪。善悪。～'wakasjun.
善悪を判断する。

zihwineemuN① (名) 是非ないもの。しかたのないこと。

zii① (名) 地。土地。地面。陸地。地所。領地。～nu Yukami. 地の神。地面・地所をつかさどる神様。屋敷には四隅と中央と不動(便所)の地の神があり、墓地には左右両側に地の神が祭られている。

zii① (名) ⊖字。文字。⊖筆跡。kuree taa-ziiiga. これは誰の書いた字か。

zii① (名) ⊖髓。骨の髓。また、骨の中の中空の部分。⊖植物の茎、幹の中空の部分。ćakinu ～. 竹の幹の中空の部分。

zii① (名) 義。正義。正しいこと。

zii① (名) 痔。

ziiYanda① (名) 骨の髓にある油。

ziibira① (名) ねぎ。zii は中空の意。単に bira ともいう。cibira (にら) と区別していう語。

ziibu① (名) ⊖わらで作った網の袋。⊖馬の口にかける袋。農作物を食うことを防ぐためのもの。

ziibu① (名) 宜保。(地) 参照。

ziibuduneci① (名) [儀保殿内] sjuimituneci [首里三殿内] の一つ。西之平等(nisinhwira) の Yama'sirare [あもしられ] のいる神の宮。

ziibuneei① (名) (船酔いした者が) 陸に上がってからも地が揺れる心地がしてふらつくこと。～sjun.

ziibuN① (副) [随分] 大いに。あくまで。存分。Yjaakutu 'jaraa ～sjusa. 君のためならあくまでやるよ。

ziigasira① (名) [地頭] 首里の muragasira (その項参照)。

ziiguawaa① (名) 気むずかしや。無愛想者。強情者。木強(きごわ)と似た語。

ziigui① (名) 不平。munnu ～sjun. 食べ物の不平を言う。

ziiguihjaagui① (名) 不平ばかり言うこと。不平たらたら。～nu YuhusaN. 不平が多い。

ziiguimun① (名) 不平ばかり言う者。

ziigujaa① (名) ziiguimun と同じ。

ziigusi① (名) ziiguusi と同じ。

ziiguusi① (名) 地串の意。畑泥棒を防ぐためにすいか畑などに立てておく、先のとがった竹のくし。gusi ともいう。

ziihuuzi① (名) 事のよしあし。是非。して良いこと悪いこと。～N 'wakaraN. よしあしもわからない。

ziihwaa① (名) ⊖かんざし。女が用いる。kuganiziihwaa (金製。王妃・王女用), nanzaziihwaa (銀製。士族女子用), cikakuziihwaa (真鍮製。平民女子用), dakiziihwaa (竹製。喪中用) その他がある。⊖三味線のねじ。形がかんざしに似ているのでいう。mući, karakui ともいう。

ziihwici① (名) 字引。辞書。

ziikaci① (名) 書家。書のたくみな人。

ziikašitira① (名) 葉子の名。カステラ的一种。黒砂糖を入れて作るので色が黒い。

ziikazi① (名) 聞き分け。ものわかり。～N cikaN. 聞き分けがない。親のいうことを聞かない。～N neeN ともいう。

ziikwaakwaa① (副) 顔が地面すれすれになるさま。腰のひどく曲がった老人の歩き方などにいう。地食おう食おうの意。

ziima① (名) つつじ科の植物の名。実を子供が取って食べる。

ziima① (名) 儀間。(地) 参照。

ziimaami① (名) 落花生。南京豆。地豆の意。

ziimee① (名) 地米。本土産の米をいう。もと 'jamatunecu の語。toogumi (外米), simagumi (沖縄産米) に対する。

ziinaa① (名) ほたる。

ziinaabii① (名) ほたる火。文語では hutarubi という。

ziinunuusi

- ziinunuusi① (名) 地主。
 ziinuu① (名) ziN (銭)の小兒語。
 ziinuu① (名) ㊦芸能。音楽・舞踊その他の芸。㊦転じて、子供の芸。
 ziinumuci① (名) 芸達者の人。多芸の人。
 ziiNcu① (名) 地の人の意。その土地に住み、土地の配分を受けて耕作する人。百姓。
 ziiNziiN① (名) ほたる (ziinaa) の小兒語。
 ziiru① (名) [地炉] ㊦炉。㊦出産後一週間昼夜の別なく火をたき、産婦に暖をとらせた炉。保温のほか、けがれを清める信仰もあって、夏でも盛んに火をたいた。～ nukunUN. 地炉をたいて産婦に暖をとらせる。
 ziiyasi① (名) 字指(じさし)。子供などが三字経・小学など漢籍を習って読む時、字をさすのに用いる細い竹製の道具。
 ziiisiga'ami① (名) [厨子甕] 遺骨を納めるかめ。骨つぼ。骨がめ。
 ziiYutec① (名) 地謡。沖縄の組踊りや舞踊では地謡は舞台には出ない。
 ziiwaziiwa① (名) せみの一種。夏の終わりから秋にかけて鳴く小さいせみ。鳴き声によってつけた名。
 ziiizaa① (名) ziiwaziiwa (せみの一種) の小兒語。
 ziiizii① (副) よだれを流すさま。だらだら。'judai ~ sjun. よだれをだらだら流す。
 ziiizira① (名) ㊦模様。字づらの転意か。hurukoo natoosiga, nama ziiiziraa 'wakaisee. 古くはなっているが、まだ今の模様かはわかるのさ。㊦道理。～N 'wakaran munu?iikata. 道理のわからぬ口のききかた。
 zijuu① (名) 自由。意のまま。思いどおり。'wadujacon 'wazunu ziju naran sikenii, ?ariju ?uramijuru 'jusinu ?aruui. [わどやちやりもわどの 自由ならぬ世界に あれよ恨めゆる 由のあるゑ] 自分自身でさえ自分の自由にならない世の

中で、彼女を恨むわけがあるろうか。～ni najun. 思いどおりになる。～naran. 思いどおりにならない。～nu neeran. 自由がない。

- zikan① (名) [新] 時間。普通は tuci という。～nu ?an. 時間が決まっている。決められた時間がある。
 zikiran① (名) 瑞慶覧。《地》参照。
 zikoo① (副) ひどく。非常に。えらく。ばかに。?iqpee (たいそう) の意で平民が多くいう語。～ curasan. ひどくきれいだ。～ hweeku ?aqcun. とても早く歩く。連体詞のようにしても用いる。～ munujunaa. ひどいおしゃべりな者。
 zikuzikuu① (名) 植物名。さふらんもどき。ひがんばな科の多年生草木。鑑賞用。
 zimama① (名) 自まま。わがまま。
 zimanaa① (名) よく自慢する者。自慢ばかりする者。
 ziman① (名) 自慢。
 zinan① (名) 次男。
 ziniN① (名) 下男。下人。
 zinoon① (名) 宜野湾。《地》参照。
 zinu① (連体) どの。～ 'jaaga, どの家か。
 zinu?cu① (名) どの人。
 zinuza① (名) 宜野座。《地》参照。
 zin① (名) 銭。かね。金銭。貨幣。鹿藩前の鳩の目銭50文(50枚)が寛永銭1枚(1厘)に相当した。そこで銭の数え方は次のようであった。
- | | |
|--------------------------------|----------|
| gunzuu | 50文(1厘) |
| hjaaku (cu.sumui) | 100文(2厘) |
| hjaakugunzuu (cu.kumuigunzuu) | 150文(3厘) |
| nihjaaku (takumui) | 200文(4厘) |
| nihjaakugunzuu (takumuigunzuu) | 250文(5厘) |
| sanbjaku (mikumui) | 300文(6厘) |
| sanbjakugunzuu (mikumuigunzuu) | 350文(7厘) |

sipjaaku ('jukumui) 400文(8厘)
 sipjaakugunZuu ('jukumuigunZuu)
 450文(9厘)
 guhjaaku (ʔiçikumui) 500文(1銭)
 guhjaakugunZuu (ʔiçikumuigun-
 zuu) 550文(1銭1厘)
 ruq̄pjaku (mukumui) 600文(1銭2厘)
 ruq̄pjakugunZuu (mukumuigun-
 zuu) 650文(1銭3厘)
 sichijaku(nanakumui) 700文(1銭4厘)
 sichijakugunZuu (nanakumuigun-
 zuu) 750文(1銭5厘)
 haq̄pjaku ('jakumui) 800文(1銭6厘)
 haq̄pjakugunZuu ('jakumuigunZuu)
 850文(1銭7厘)
 kuhjaaku (kukunukumui)
 900文(1銭8厘)
 kuhjaakugunZuu (kukunukumui-
 gunZuu) 950文(1銭9厘)
 ʔiçkwan 1貫(2銭)
 gukwan 5貫(10銭)
 tunaa 10貫(十繩)(20銭)
 hjaq̄kwan 100貫(2円)
 siNgwan 1,000貫(20円)
 ʔiçimangwan 10,000貫(200円)
 zuumaNgwan 100,000貫(2,000円)
 hjakumaNgwan 1,000,000貫(20,000円)
 100文(2厘)単位を -kumui という。-ku-
 mui は集まったものの意かと思われる。
 また、1貫ずつ一繩にまとめ、10貫を tu-
 naa (十繩)という。当時、一日の労賃は
 1貫(2銭)、女郎の玉代は5貫(10銭)ほ
 どで、100万貫(2万円)の金ができると百
 万長者の祝いをした。ʔiçiniçini gunZu
 hjakunicini gukwan, tamiti ʔaru ~
 nu ʔadani natasa. [一日に五十 百日
 に五貫 貯めてある銭の あだになたさ]
 一日に1厘、百日で10銭、貯めてあった金
 が、一夜の女郎買いでなくなったよ。zi-
 noo takara. 銭は宝。zinoo nanduru-

muN. 銭はすべっこいもの。銭はつかまえ
 にくく、失いやすいもの。~nu sanmin.
 金の計算。~tu nucee sajuu. 銭と命は
 左右。銭と命の価値は同等。

ziN①(名)膳。普通は ʔuziN という。普
 通のものは四角い足の高いものであるが、
 そのほかに 'jasikuziN (夜食膳。足が短
 い), maruʔuziN (丸い膳)などがある。

ziNʔami①(名)銭の雨。大散財。~hura-
 sjuN. 大散財をする。

ziNbai①(名)一杯。満ちあふれているこ
 と。平民が多く用いる語。ziNbai, zunbai
 ともいう。kaaminakai sakinu ~ sjuo-
 N. かめに酒が一杯ある。ʔanu 'jaaja
 q̄cunu ~ sjuoN. あの家は人が一杯いる。
 ʔanu ʔnmanu niija ~ doo. あの馬の荷
 はあれで一杯だ。ziNbakunakai ~nu
 ziN. 銭箱に一杯の銭。

ziNbai②(名)ziNbai, zunbai と同じ。

ziNbainii①(名)いっぱい荷物。かつげ
 だけの荷物。

ziNbaku①(名)㊦銭箱。金を入れておく
 箱。商家には大きい銭箱があった。㊦転じ
 て、顔のよい女郎のこともいう。ドル箱。

ziNbuku①(名)元服。貴族についていう。
 貴族は15歳までは若衆('wakasju)で、
 髪型は ʔusirii (後結いの意)であるが、
 16歳で katakasira [敬髻] (その項参照)
 を結って、元服の儀式をあげる。廃藩後
 も貴族の子弟には明治の中ごろまでこの風
 が見られた。一般の子弟は ziNbuku とい
 わず, katakasirajuui といい、貴族より
 早く、8~9歳ごろ行なった。

ziNbukuru①(名)銭袋。財布。巾着。

ziNbuN①(名)[存分]知恵。分別。才能。

ziNbuNkusaraa①(名)愚物。知恵なし。

知恵 (ziNbuN) がくさっている者の意。

ziNbuNmuci①(名)知恵のある者。才能の
 ある者。

ziNbuNtakaraa①(名)知恵がありすぎる

ziNdaari

者。多く子供についていう。-takaraa
 <takarijun (たかる, 集まる)。
 ziNdaari① (名) むだづかい。金をむだに使うこと。cuuja ʔaritu ʔasidi ~ sjan.
 きょうは彼と遊んでむだづかいした。
 zindaka① (名) 金額。銭高の意。
 zingii① (名) 植物名。しまたご。もくせい科。その材は用途多く、帆船の滑車などにも使う。
 zingunzuu① (名) けちんぼ。守銭奴。銭50文(1厘)でも借しむ意。
 zinʔirii① (名) 銭入れ。財布。
 zinʔirimi① (名) 金がかかること。出費の多いこと。銭いりめの意。
 zinka① (名) 源河。《地》参照。
 zinkani① (名) 金銭。
 zinkarasjaa① (名) 金貸し。高利貸し。
 zinkoo① (名) 沈香。香料の名。
 zinkoo① (名) [新] 銀行。
 zinkwan① (名) 玄閼。土族以上の家にある。
 zinkwijaa① (名) 金をまき散らす者。やたらに銭をくれる者。それにたかって遊興する者は ʔuutikwee (追って食えの意) といふ。
 zinmi① (名) ㊦協議。~ sjuN. 協議する。
 ㊦吟味。調べただすこと。また、裁判で善悪を調べただすこと。
 zinmijjaQsaʔN① (形) 金回りがよい。暮らしが楽である。金を見やすい意。
 zinmijaku① (名) [古] [吟味役] 麿藩前の役名。各役所の次官に当たる。
 zinmookizuku① (名) 金もうけ一点張り。金もうけだけを目的ですること。
 zinmuci① (名) 金持ち。
 zinnaa① (名) 銭繩。銭差し。1厘銭の穴に繩を通し、1貫(2銭)ごとに一繩にまとめたもの。またその細い繩。
 zinnu① (連体) どの。zinu と同じ。~ jaaga. どの家か。
 zinʔitigutu① (名) 銭を捨てるようなこと。

浪費。むだづかい。また、むだな出費。
 ziNteesjaa① (名) 浪費する者。やたらに金を使う者。
 zinonii① (名) ㊦人柄。ʔiizintii. (よい人柄) ㊦本人。当人。hunnin ともいう。~ ja ʔjutasami. 本人はよい人間か。
 zintoo① (名) 本当。真実。~ ʔjami. 本当か。~ na kutu. 本当の事。
 zinugari① (名) 金に飢えること。
 zinzaku① (名) 銭気違い。金銭のことに凝り固まった者。
 zinziira① (名) 金で苦しむこと。ʔijun とともに用いる。siira の項参照。~ ʔijun. 金銭のことで苦しむ。
 zinziikee① (名) 金づかい。金の使い方。~ ʔarasan. 金づかいが荒い。
 zinzimai① (名) 金づまり。
 zinziN① (名) ほたるの小兒語。ziinziin と同じ。
 zinzuu① (名) 敬重。また、確か。信用できること。~ na Qcu. 信用のおける堅い人。
 zinzuusan① (形) 信用がおける。人間が堅い。確かである。
 ziQcaku① (名) 勢理客。《地》参照。
 ziQcin① (名) 頭巾。子供がかぶるもの。
 ziQcuu① (名) [新] 月給。
 ziQpakuzii① (名) 織物の名。濃い青に黒の縞のあるもの。首縞に近い感じの模様。
 ziQpi① (名) 真偽。実否。是非。zihwi ともいう。~ ʔwakasjun. 真偽を判断する。
 ziQsi① (名) 宜寿次。《地》参照。
 ziqtai① (名) ぬかるみ。gweqtai ともいう。~ najun. ぬかるみになる。~ sjoon. ぬかるみである。
 ziqtaiQweqtai① (名) ぬかるみ。~ nu naka tuujun. ぬかるみの中を通る。
 zira① (名) ずりずりしい顔。あつかましい顔。~ najun. ずりずりしくなる。
 ziramii① (名) かまきりの別名。ʔiibuuzi-

raa と同じ。ʔisjatuu ʔisjatuu ziramii-gaa, ʔjubinu nukuee nuu kwatagaa, ʔakamaamiidu kwataru, danzuga danzuga kusu hwiqcaru. かまきり, かまきり, 昨夜の残りものは何を食ったか。あずきを食った。なるほどそれで下痢したのだ。(童謡)

ziri④ (名) 義理。

-ziri (接尾) きり。限り。cuuziri (きょう限り), kuriziri (これっきり) など。

zirimati④ (名) 義理立て。義理を立て通すこと。ʔamari murikujaja ~nu ʔuhwisa. [余り盛小屋や 義理立ての大きさ(手水之縁)] あまり盛小屋(人名)は義理立てがやかましすぎる。

ziriZamee④ (名) 義理や作法。

ziru④ (名) どれ。~ga ~ʔjara. どれがどれやら。~din. どれでも。~ʔjatin. どれであっても。ʔunu ʔucinu ~ ʔjarawan tuti kwiri. そのうちのどれか取ってくれ。~Nkai sjuga ʔjaanai ʔumutoon. どれにしようかと思っている。

zisaqtu④ (副) ぎっしり。びっしり満ちてつかえたさま。zisiqtu ともいう。~ sjoon. ぎっしりつまっている。~ sacoon. びっしり咲いている。

zisici④ (名) 儀式。おもに、結婚式における杯の取りかわしなどをいう。

zisiqi④ (名) ⊖時節。時候。ʔiizisiqi nattoon. いい時候になった。⊖時機。~ maciʔukijun. 時機を待ち受ける。

zisiu④ (名) 時勢。世のなりゆき。

zisiqtu④ (副) zisaqtu と同じ。

zita④ (名) 表付きの下駄。普通の下駄は ʔasiza という。

zitzita④ (副) じめじめ。しっとり。雨後の道などがしめったさま。~ nattoon. じめじめしている。

zitec④ (名) 辞退。~ sjun.

zitecgwaa④ (名) 思わせぶりに辞退すること。

と。内心ほしいが、辞退するふりをするようなことをいう。~ sjoon. 内心に反して辞退のそぶりをしている。

zitoo④ (名) 種痘。植痘瘡。~ ʔwiijun. 種痘を植える。

zitudee④ (名) [地頭代] 地頭 (zituu) のかわりに、その地頭の采邑すなわち間切 (maziri) を統治する者。中央集権後、地頭は首里に住み、地方の平民の有力者がかわってその間切を統治することになり、zitudee と呼ばれた。のち、明治になって、maziricoo [間切長] という名称に変わった。

zituu④ (名) [地頭] 地頭。麩藩前、地方に知行を与えられていた貴族。ʔazizituu [按司地頭], suuzituu [総地頭], ʔwacizituu [脇地頭] の三種がある。それらの項参照。

zizaku④ (名) 磁石。

zizi④ (名) [地下] 沖繩本島。hanari (離島) に対する。

ziziki④ (名) 漬け物の一種。大根・瓜類などを酒と砂糖に漬けて作ったもの。奈良漬けに似ている。

ziziri④ (名) 茶壺。おもに金属製のものをいうようである。

ziziʔuci④ (名) 沖繩本島内。これに対し離島を hanari という。

zizoo④ (名) 事情。~nu ʔan. 事情がある。

zizoo④ (名) 地蔵。地蔵は那覇にあったのでその地名となり、zizoomec (地蔵前), zizoodoohu (地蔵豆腐) などができた。

zoo④ (名) 門。ʔjaazoo (屋根のある門), kiizoo (木造の門), ʔisizoo (石造りの門) などがある。⊖複合語の固有名詞の中には、広い道路、馬場などの意で用いられている。ʔajazoo (首里の守礼門と中山門の間の大通り), kuhwangwazoo (古波蔵の

- 馬場), 'wanamazoo (和那真の馬場) など。
- zoo① (名) 手紙。書状。普通は guzoo という。
- zoo② (名) 栓。とっくり・びんなどの栓。
- zoo③ (名) 情。感情。愛情。
- zoo- (接頭) 上。上等。zooʔwaaçici (上天気), zoohwi (吉日), zooci (上等の畑地) など。
- zoobaʼan④ (名) 門番。以前は首里城はもちろん ʔuiun [御殿], tunci [殿内] にもいた。
- zoobun⑤ (名) ㊦じょうぶ。堅固。がんじょう。～ni çukuraqtoon. じょうぶに作られている。㊦[文] [上分] 立派。申し分のないこと。hataracigatan siguku ~na 'wikiga 'jajabiitaşiga. [働き方も至極上分な男ややべいたすが(花売之縁)働き方もいたって申し分のない男でありました]が。
- zooci⑥ (名) 上等の畑地。
- zoocibai⑦ (名) [上気張] 立派な働き。すぐれた働き。
- zooçi'kuri⑧ (名) 雑費。こまごました支出。
- zooe⑨ (名) 情愛。
- zoeeemuci⑩ (名) 情愛の豊かな人。
- zoogu⑪ (名) じょうご。漏斗。
- zoogu (接尾) 上戸。特定の食べ物をおむこと。…好き。酒に限らずいう。sakizoo-gu (酒好き。上戸), ʔaNmucizoo-gu (あんもち好き) など。
- zooguci⑫ (名) 門口。
- zooguu⑬ (名・接尾) 上戸。特定の食べ物を好む者。…好き。酒に限らずいう。sakinu ~ 'jan. 酒好きだ。sakizoo-gu (酒好き。上戸), ʔaNmucizoo-guu (あんもち好き) など。
- zoohu⑭ (名) 上布。上等の麻布。宮古島で紺上布, 八重山島で白上布を産する。
- zoohu⑮ (名) 臍腑。臍物。
- zoohwi⑯ (名) [上日] 吉日。願 (ʔugwan)・転居・結婚など, すべて zoohwi を選んでする。
- zoohwita⑰ (名) 不断。始終。いつも。しゅっちゅう。～nu kutu. 不断のこと。～kukuritooki. 始終気をつけておけ。
- zooi⑱ (副) (否定的な表現が続く) とも。とらてい。zooja ともいう。～ʔu-juban. とてもおよばない。nama ~ 'warabidu 'jaru. まだとても子供である。
- zooja⑲ (副) zooi と同じ。
- zoojaci⑳ (名) うわぐりをかけて焼いた焼き物。ʔarajaci (素焼き) の対。陶器。瀬戸物。
- zooma㉑ (名) ㊦規格。規準。標準。また, 規格品。標準となるもの。規準量。㊦(接頭) 規格の。標準の。規準となる。zooma-taagu (標準の桶), zoomawikiga (一人前の男), zoomawinaga (一人前の女) など。
- zoomata'agu㉒ (名) 標準の桶。一人前の男が運ぶのに適当に作った水汲み桶。
- zoonoo㉓ (名) 上納。官府へ物を納めること。また, 転じて租税の意。
- zoorzooru㉔ (副) [新?] ぞろぞろ。あとからあとから続くさま。
- zoosa㉕ (名) 費用。
- zoosaku㉖ (名) 造作。家の中の, 天井・床・建具などを作ること。
- zoosicaa㉗ (名) 下女。台所女中。
- zoosici㉘ (名) [雑色] 炊事。台所仕事。
- zootankaa㉙ (名) 向こう隣。門が向かい合っている家。tankaa は真向かいの意。
- zootuNmjoo㉚ (名) 常燈明。神仏の前に常に点じておく燈明。死後49日間つけておく。
- zootuu㉛ (名) 上等。すぐれてよいもの。～na mun. 上等のもの。
- zooʔwaaçici㉜ (名) 上天気。快晴。
- zoozi㉝ (名) ㊦上手 (じょうず)。hwita

(下手)の対。～'jan. 上手だ。～namun. 上手な者。⊖お利口。幼児をはめる時いう語。

zoozihwi'taⓈ (名) 上手下手。kurinee zozihwitaa neeran. これには上手下手はない。

zukuⓈ (名) 遊女でない普通の女。しろうと。

zukuⓈ (名) 俗。風俗。時代・土地のならわし。zukoo ~ni nariri. 俗は俗に馴れよ。郷に入れば郷に従え。

-zuku (接尾) …ずく。…にかかりきり。…一点張り。tuzuku (取るにかかりきり), hwitani zinmookizukubikeei (ひたすら金もうけにかかりきり) など。

zukuḡuⓈ (名) [俗語] 俚諺。ことわざ。

-zukuu (接尾) …にかかりきりの者。…一点張りの者。tuzukuu「(金を) 取ることにかかっている者」など。

zunⓈ (名) ⊖正常であること。あたりまえ。～natoon. 正常である。zunoo ʔaran. あたりまえでない。⊖本当であること。正真。ʔaree ~ni ʔurandaa 'jami. 彼は本当に西洋人か。

zunbaiⓈ (名) zinbai と同じ。

zunpuuⓈ (名) 順風。

zunʔigataⓈ (名) ありのままの姿。本当の姿。

zun'takuⓈ (名) 潤沢。豊かなこと。munoo ~ni kadoon. 飯は存分に食べている。

-zuraku (接尾) -zurasa と同様に用いられる敬語。

-zurasa (接尾) かしくも(…なさる), 尊くも(…なさる) といった意の最上級の敬語。神に対し ʔugwan (祈願) の文句などで使われることが多い。<curasan (美しい)。ʔwiizikizurasa ʔutabimisjoo-ci. 尊くもお言いつけ下さって。ʔwaa-gaŋʂeezurasa ʔutabimisjoo-ci. 尊くもお召し上がり下さって。

zuriⓈ (名) [尾類] 女郎。遊女。娼妓。歌も歌い、三味線も弾くので、芸者をも兼ねている。～ʔagijun. 娼妓を落籍させる。～'jubun. 女郎を買う。女郎遊びをする。女郎屋の入口(nakamee)をたたいて女郎を呼び出すので'jubun (呼ぶ) という。

zuriʔagaiⓈ (名) もと娼妓であった者。女郎あがり。hunʔuri ともいう。

zuriʔanmaaⓈ (名) 女郎の抱え親。抱え主はすべて女で、娼妓はこれと母子まがいの関係をむすび、それぞれ ʔanmaa (おかあさん), zuringwa (娼妓としての子) と呼ばれる。satume ʔuturusjaja haçiʔiceenu cujuru, ʔanma ʔuturusjaja ʔasasan 'jusan. 男の恐ろしいのは初夜の一夜だけ、抱え親の恐ろしいのは朝も晩も。

zuriʔasibiⓈ (名) 女郎遊び。女郎買い。

zuribakujooⓈ (名) 女郎を人身売買する者。

zuriganecⓈ (名) ⊖女郎の身代金。⊖女郎買いをして娼家に払うべき金。

zuriguNbooⓈ (名) 妓楼を渡り歩いて、方々の zuri を買い歩くこと。略して gunboo ともいう。

zurigwaamuḡkuuⓈ (名) candakasii (ひま) の実。美しいのでいう。

zurihanaⓈ (名) 娼妓。遊女。女郎。zuri を花に見立てて言ったもの。

zurijubaaⓈ (名) 女郎買いをする者。

zurijubiⓈ (名) 女郎買い。女郎を買うこと。～sakinumi. 女郎を買い、酒を飲むこと。すなわち放蕩。zurin 'jubuʂigaadu ʔujanukon sijuru. sakin numuʂigaadu gwansu çiʂuru. 女郎買いをするぐらいの者こそ親に孝をつくすし、酒も飲むぐらいの者こそ先祖のあとも継ぐのだ(耽歌)。

zurimuḡiriⓈ (名) 女郎に夢中になること。

zurinujaaⓈ (名) 女郎屋。遊郭。妓楼。

zurinujaagumaiⓈ (名) 女郎屋に入りびたりに家に帰らないこと。居続け。流連。

zurinuQkwa

zurinuQkwa① (名) 女郎の子。nasingwa (女郎が遊郭で産んだ子) と kooingwa (買った子) とあるが, zuringwa とは異なり, 子供として大事に育てる。普通, 女郎にせずに, 多くは他の女郎の子と夫婦にさせる。

zurinuQkwa② (名) 女郎の子。zurinuQkwa の卑称。

zuriNma① (名) [尾類馬] haçikasjoo-gwaçi (二十日正月…旧暦正月二十日) に遊郭中総出で行なう祭りの名。各楼から選ばれた zuri が Nmagwaa [馬小] (板に馬の形を彫ったもの) を前帯にはさみ行列の先頭となり, 続いて, 装いをこらした zuri が長蛇の列を作って踊り歩いた。meendakari [前村渠] (前郭) と kusindakari [後村渠] と合して, kubaçikasa (聖地の名) に参拝し, 終わってふたたび分かれ, 郭の中を踊り歩いた。

zuringwa① (名) 女郎のかかえ主 (zuri?anmaa) に対して, 女郎をいう。また, 一人前になる前の女郎。半玉。なじみの客などが, 12~13歳の娘をなじみの zuri に買って与えるなどして, zuri はその娘をかかえ子にする。娘が小さいうちは給仕などをさせ, 大きくなれば客を取らせてその利益を受ける。次第に人数をふやして, その zuri は zuri?anmaa となり, 何人も zuringwa をかかえることになる。zurinuQkwa とは異なる。

zuriZui① (名) 娘を女郎として売ること。Turamu hwizabasija 'wan 'watasatunuti nasaki neN hwitunu kakiti Turacara. [恨む比謝橋や 我身渡さともて情無いぬ人の 架けておきやら] 恨めしい比謝橋はわたしを渡そうと思って, 情の無い人がかけておいたのか (ユシヤという遊女が, 売られる時の悲しさをよんだ歌)。

zuşee① neeN① (句) ありそうである。多分。きつと。~ kutu. ありそうな事。~,

?ariga sjaru kutoo ?aranga 'jaa. きつと彼がやった事ではないかね。

zuo① (名) 十。普通は tuu を多く用いる。

zuo② (名) 尾。しっぽ。

zuobaku① (名) 重箱。haçşinzuobaku, sicişinzuobaku, rukuşinzuobaku (それぞれ, 8寸四方・7寸四方・6寸四方の重箱) の三種があり, 身分によりその使用に区別があった。

zuobui① (名) zuuhui と同じ。

zuobun① (名) 充分。十分。~na hataraci. 充分な働き。

zuobunbuu① (名) ひとり前の賃金。gububuu (半人前の賃金) の対。

zuugu① (名) 十五。

zuuguja① (名) ⊖十五夜。⊖とくに八月の十五夜の月をさすこともある。

zuugunici① (名) ⊖15日。⊖月経の隠語。普通は çicinumun という。

zuuguniNjaku① (名) [古] [十五人役] zuuguniNsjuu と同じ。

zuuguniNsjuu① (名) [古] [十五人衆] Yumuti zuuguniN, zuuguniNjaku ともいう。guhjoozoozu [御評定所] の十五人の役人。sansikwan [三司官] に次ぐ役人で, 各省長官および次官に相当し, simunu Yuza [下の御座] を構成する。すなわち, munubuzoo [物奉行] 三人, その zinmijaku [吟味役] (次官) 三人, saşinusuba [鎖の側] 一人, その下に hwi-coonusidui [日帳主取] 二人, soosikui [双紙庫理] 一人, その zinmijaku 一人, tumaizituu [泊地頭] 一人, その zinmijaku 一人, hwiranusuba 一人, その zinmijaku 一人, 計十五人。

zuugwaçi① (名) 10月。年の第十番目の月。

zuuhaci① (名) 十八。

zuuhui① (名) 尾を振ること。犬が喜んで尾を振ることなど。また転じて, おべっか

を使うこと。zuubuiともいう。～sjun.
尾を振る。また、おべっかを使う。

zuuʔici①(名)十一。

zuuku①(名)十九。

zuumaNgwa⁷N①(名) 銭10万貫。2,000円にあたる。ziN(銭)の項参照。

zuumitamiitaa①(名)せきれい。尾を上下に動かすのでいう。mitamitaはその動かすさま。

zuumookuu①(名) zuumuQkooと同じ。

zuumuQkaa①(名) zuumuQkooと同じ。

zuumuQkoo①(名)鳥獸の、尾の無いもの。尾の切れたもの。尻切れ。

zuuni①(名)十二。

zuunikasi①(名) [十二箇所] ʔutirazuunikasiを見よ。

zuuniN①(名)十人。

zuuniNbicee①(名)十人力。十人に匹敵すること。

zuuniNgaai①(名)十人に匹敵すること。

'warabee ~. 子供がひとりいればおとなが十人いるぐらいにぎやかになる。

zuunisi①(名)十二支。

zuuruku①(名)十六。

zuurukunici①(名) 1月16日に行なう墓参り。その前年に死んだ者に対しては、その日に特に供え物をして祭るが、それは miizuurukunici という。

zuusaN①(名)十三。

zuusi①(名)十四。

zuusici①(名)十七。

zuusiciha⁷ci①(名)十七八。年ごろ。文語では nihaciguru ともいう。

zuuʂii①(名) ⊖炊きこみ飯。釜飯。野菜などを味付けして炊きこんだ飯。kuhwazuuʂiiともいう。⊖雑炊。おじや。'jahwarazuuʂiiともいう。

zuuzuu①(副) 重重。重ね重ね。～'waa-ga 'waqsataN. かえすがえすわたしが悪かった。

索 引 篇

使用上の注意.....611~614

索 引.....615~816

配 列 順

あ	615	い	624	う	633	え	638	お	639
か	652	き	664	く	671	け	676	こ	679
さ	688	し	694	す	710	せ	713	そ	717
た	720	ち	728	つ	731	て	735	と	739
な	746	に	750	ぬ	753	ね	754	の	756
は	758	ひ	766	ふ	773	へ	779	ほ	781
ま	785	み	789	む	793	め	796	も	798
や	801			ゆ	804			よ	806
ら	809	り	810	る	811	れ	812	ろ	812
わ	813							を	816

使用上の注意

(1) 用法について

この索引は本文編の利用を便利にするために作成したものであって、標準語引き首里方言辞典ではない。すなわち、この索引編の見出し語の標準語は、そこにあがっている首里方言と、意味や用法の上で完全に同じというわけではない。たとえば、この索引編のあね〔姉〕という見出し語には、ʔaŋgʷaa, ʔNmii, šiizaunai, 'unai, 'winaguʃiiza などの首里方言があがっているが、これらの単語は互いに意味や用法が異なるし、またどれも標準語の「姉」と意味が少しずつ違っている。したがって、この索引編は、本文編にでている首里方言を標準語から見いだすために使用して欲しい。本文編に採録されていない首里方言はこの索引にはもちろんない。

(2) 見出し語の表記と配列

見出し語(標準語)は現代かなづかいに従って平仮名で書き、それを五十音順に配列してある。見出し語の平仮名(ゴシック)の次に〔 〕に入れて示してあるのは、標準語のふつりの表記である。ただし便宜上、当用漢字表以外の漢字を使用したところもある。また、見出し語の次に()に入れて、たとえば(植物名)(感動詞)のように示したものは、その見出し語に関する注記である。

(3) 見出し語の形

見出し語としてあげた標準語には、接頭辞、接尾辞、慣用句なども少数あるが、大部分は単語である。複合語も原則として独立して見出し語となっている。たとえば、たび〔旅〕とたびびと〔旅人〕とたびしょうぞく〔旅装束〕とは、別々の見出し語となっている。

二単語以上の標準語は原則として独立の見出し語とせず、見出し語の下位項目として扱った。その場合、～の記号を用いて、見出し語をくりかえさないですました。たとえば、あたらしい〔新しい〕の下位項目に/~家/とあるのは/あたらしい家/の意味である。

(4) 首里方言の表記と配列

首里方言は本文編の見出し語にある形(音韻表記)のままである。同じ見出し語のところに二つ以上の首里方言が出ている場合には、原則として本文編の配列順、すなわちアルファベット順に並んでいる。

(5) 参照項目について

矢印(→)をうけてそのあとに首里方言を出してあるのは、本文編のその見出し語をも参照して欲しいという意味である。たとえば、あいする[愛する]の項に→kanasjan とあるが、本文編の見出し語 kanasjan㊦(かわいい)の項を見ると、kanasja sjuN.(かわいがる、愛する)という例文が出ている。また、あいさつ[挨拶]の下位項目/～の表現/の項に矢印(→)があって、いくつかの首里方言があがっているのは、本文編のそれらの見出し語の項のそれぞれに、挨拶に関する記載が見られるという意味である。

矢印(→)のあとに標準語があがっているのは、索引編のその標準語の項も参照して欲しいという意味である。たとえば、あだ[仇]の項に/→かたき/とあるのは索引編のかたき[敵]の項を参照して欲しいという意味である。

(6) 類義語などの扱い

この索引は、本文編の見出し語に付けた標準語訳をもとにして作っており、小項目主義である。また、意味による分類をしていないので、同義語、類義語、反義語や、上位概念と下位概念を表わす語などを、一箇所にまとめることは原則としてしなかった。したがってこれらの単語は別々の箇所に別の見出し語として出ている。たとえば、「雨」の類義語「おおあめ」「きりさめ」「こさめ」「しぐれ」「つゆ」「ながあめ」「にわかあめ」「ひでりあめ」「ゆうだち」「れいう」などのそれぞれに当たる首里方言は、あめ[雨]の項目にまとめず、それぞれの項目に別個に出ている。また、「皆」の類義語「ありったけ」「ことごとく」「ぜんぶ」「すっかり」「すべて」「のこらず」などのそれぞれに当たる首里方言も、本文編見出し語に付けた標準語訳に従って、それぞれの項目に個別に出ている。そこでこの索引を利用する場合、一つの見出し語に当たることでとどまらずに、その標準語と同義または類義の見出し語にもなるべく当たるようにして欲しい。ただし、このような不便をできるだけ少なくするために、→(矢印)を用いて参照すべき見出し語(標準語)を示すように努めた。

(7) 標準語から捜しにくい首里方言の扱い

標準語からでは検索しにくいような首里方言については次のように扱った。すなわち、沖縄固有の事物を表わす首里方言の単語で、それに当たる標準語がないもの、あるいはあっても、あまり知られていないようなものは、適当な見出し語のところにまとめてある。その主なものは次のようなものである。

種々の位階・役職の名……………	→ いかい [位階]
種々の料理の名……………	→ りょうり [料理]
種々の菓子の名……………	→ かし [菓子]
種々のおもちゃの名……………	→ おもちゃ [玩具]
詩歌・音曲の種類や名……………	→ うた [歌]
踊りの種類や名……………	→ おどり [踊り]
織物の種類・織物の柄の名……………	→ おりもの [織物]
着物の名……………	→ きもの [着物]
織機の部品・付属品などの名……………	→ はた [機]
神の種類や名……………	→ かみ [神]
神事に従事する者の名……………	→ しんかん [神官]
行事の名……………	→ ぎょうじ [行事]
植物の名……………	→ しょくぶつめい [植物名]
魚の名……………	→ さかな [魚]
病気の名……………	→ びょうき [病気]
皮膚病の名……………	→ ひふびょう [皮膚病]

しかし、これらに属する首里方言であっても、それに当たる標準語をはっきりしているものは、その標準語によっても捜すことができる。たとえば「松」に当たる首里方言 *maaqi@* はしょくぶつめい[植物名]によっても、まつ[松]によっても検出できる。

また、上記のほかにも、標準語をはっきりしているものでも、それぞれを独立の見出し語とすると同時にさらに品種ごとにまとめて重ねて出したものもある。たとえば、蛇の種類、せみの種類、竹の種類、紙の種類、傘の種類などの首里方言は、それぞれ、へび[蛇]、せみ[蟬]、たけ[竹]、かみ[紙]、かさ[傘]の項にも見いだされる。

(8) 地名について

琉球列島の地名は、付録の「地名一覧」によって捜すことができるので、この索引には入れなかった。ただし、*sjui@*(首里)のように、地名を含む複合語 *sjuiNeu@*(首里人)、*sjuikutuba@*(首里方言)などが本文編に収録されている場合はこの限りではない。

(9) 対応語について

この索引は標準語と意味的に対応する首里方言の索引であるから、音韻的に対応関係にある語でも意味が相違していれば、この索引からは探すことができない。そのような場合の音韻的な対応語を探す場合には、解説編の音韻の項を参照しながら本文編から捜さなければならない。

あ

ああ(感動) ?aa, ?akijo, ?aqkijoo, haa
 ああ(返事) hii, hnn, ?ii, ?nn
 ああ(副) ?aN/ ~言いこり言い ?aN?iika-
 N?ii/ ~思いこり思い ?aN?umiikan?u-
 mii/ ~かこりか ?aNsawaNkANSawa-
 N/ ~したりこりしたり ?ANsiikansii/ ~
 なったりこりなったり ?ANnaikaNnai/ ~
 持ったりこり持ったり, ~やったりこり
 やったり mucikeekamikee
 ああああ ?aa?aa
 ああん hau/ ~と口をあける haumika-
 sjun
 あい[藍] ?ee/~を入れるかご ?eediiru/~
 を入れるつぼ ?eeçibu
 あいいく[愛育] nadisudati
 あいいろ[藍色] ?ee?iru/ ~の型付け染め
 ?eegata, ?ee?uburuu/ ~のしぼり染め
 ?eesibui/ ~のもの ?ee?iruu
 あいこ[相子] ?iinuu
 あいさつ[挨拶] ?eesaçi/ ~上手 kanami-
 zoozi/ ~の表現 →?aqcun, cibajun,
 cuu, guburii, hazimiti, kanami, ?ubu-
 kui, ?ubukuiganasii, ?ubukunZanasii,
 ?ubukunZansii, ?waaçici/ ~もなく
 ?ANneenasiku, ?ANneenasini/ ~を返さ
 ないこと bu?eesaçi
 あいじ[愛児] kanasingwa, nasigwa
 あいしょう[相性] ?eesjoo
 あいじょう[愛情] sinasaki, zooe, →な
 さけ/ ~のある人 zooeemuci
 あいしる[藍汁]/ ~の泡 ?eenuhana
 あいじん[愛人] ?Nzo, sama, satu, satu-
 mee, sjura, →こいびと, じょうふ
 あいする[愛する] →kanasjan/ 愛される
 →?untasjan
 あいぜんごして[相前後して] ?atunaisa-
 cinai

あいそ[愛想] ?eesoo/ ~がいい qcu?u-
 qsjagisaN/ ~のいい者 ?eesoomuci/ ~
 よく kanaganaatu 「者 ?eesumijaa
 あいぞめ[藍染め] ?eezumii/~を業とする
 あいた(感動) ?aqkaa, ?aqçaa
 あいだ[間] ?eeza, mii, tanaka, ?weeda,
 ?weema, →maadu, madu/ ~あいだに
 ?weeda?weeda
 あいたいする[相對する] →さしむかい/ ~
 さま tankaamaNkaa
 あいつ ?anihjaa, ?anuhjaa
 あいて[相手] ?eeti
 あいにく[相憎] buhjoosi, ?irusigamaa-
 si, katagata, mubaa
 あいのり[相乗り] ?ainuii/ ~の人力車
 ?ainuiguruma, ?ainuii
 あいびき[逢引き] sinubi/~する sinubun
 あいぼう[相棒] guu, →なかま
 あいぼれ[相惚れ] ?eenuzumi
 あいま[合間] madu, →あいだ/ ~あいま
 に ?weeda?weeda
 あいらしい[愛らしい] ?eeraasjan, kana-
 sjan, ?ngoosAN, sjurasjan, sjuuraa-
 sjan, →かわいい
 あいろう[藍蠟] ?eeroo
 あう[合り] ?aaJUN, ?ataJUN, ?icaaJUN,
 ?icajUN, ?jucaaJUN, ?inajUN
 あう[会り] ?icaaJUN, ?icajUN, (敬語)
 ?uganUN/ 会いそこなり ?iceehANSJUN/
 会にくい人 ?iceegurii/ ~が早いか
 ?Nkeehana, ?Nkeezira/ ~こと ?icee, (敬
 語) ?wiicee/ 会えないこと ?iceekantii
 あえぐ[喘ぐ] / ~さま hweehwee, siisii
 あえもの[和え物] ?uſee
 あえる[和える] ?eeJUN
 あお[青] mizi?iru, miziiru, ?ooruu
 あおあおと[青青と] ?ooqteen

あお

あおい〔青い〕 ʔoosan/ 青くなった者 ʔi-runugaa/ 青くなる →ʔirusjumoosju/ 青くなるさま ʔirusoomoosoo
 あおがえる〔青蛙〕 ʔataku, 'uuʔataku
 あおぐ〔扇ぐ〕 ʔoozUN
 あおくさ〔青草〕 ʔookusa
 あおさ〔植物名〕 ʔaasa, ʔumiʔaasa
 あおさび〔青錆〕 ʔoosabi
 あおすじ〔青筋〕 ʔookazi
 あおだいしょう〔青大将〕 ʔooʔNnaazaa
 あおだいず〔青大豆〕 ʔoomaamii
 あおだけ〔青竹〕 ʔoodaki
 あおな〔青菜〕 ʔoohwa
 あおにさい〔青二才〕 ʔoozeeniiseegwaa
 あおのり〔青のり〕 ʔoonuuri/ ~の一種 ʔa-asa, ʔumiʔaasa
 あおば〔青葉〕 ʔoobaa
 あおばえ〔青蠅〕 ʔoobee
 あおびかり〔青光り〕 ʔoobicai, ʔoobicee
 あおむく〔仰向く〕 →ʔucagijUN
 あおむけ〔仰向け〕 maahwanacaa
 あか〔赤〕 ʔaka, ʔakaʔiru, →まっか/ ~の他人 ʔuhumicinuqeu, →ʔaka
 あか〔垢〕 hwiNGU, →gahwara/ ~がたまっている者 hwiNGaa, hwiNGaama-jaa/ ~だらけ hwiNGUjoogaci
 あかあかと〔赤赤と〕 ʔakaʔakaatu/ ~つける ʔikiʔakagarasjUN
 あかい〔赤い〕 ʔakasan/ ~色 ʔakaʔiru/ ~おべべ binbinjaaajaa/ ~紙 ʔakakabi, →sjugami/ ~麴 ʔakakoozi/ ~元結び ʔakamuutii/ ~もの ʔakaa/ ~夕日 ʔakatiidaa/ 赤くなったさま ʔakamigeei/ 赤くなる ʔakanUN/ 赤ちゃけた髪の子供 ʔakabusjaawarabaa/ 赤ちゃけた髪をしている者 ʔakabusjaa, →ʔakagantaa
 あかうし〔赤牛〕 ʔakaʔusi
 あかがね〔銅〕 ʔakugani, →どろ
 あかがわら〔赤瓦〕 ʔakagaara
 あかぎ〔赤木〕 (植物名) ʔakagi/ ~の実 ʔa-

kaginumukkuu
 あかぎれ〔輝〕 hwibari, ʔasiziri, 'junziri, ʔasizirijunziri
 あかげ〔赤毛〕 ʔakagii/ ~のおかっぱ ʔakagantaa
 あかさび〔赤錆〕 ʔakasabi
 あかじ〔赤字〕 →ʔicaasikantii
 あかす〔明かす〕 ʔakasjUN
 あかぞめ〔赤染め〕 ʔakazumii
 あかつき〔暁〕 →あけがた/ ~に起きること ʔakaʔiciʔuki, →あさ
 あかつきやみ〔暁闇〕 ʔakaʔicigurasin
 あかつち〔赤土〕 ʔakanca, maazi
 あかにく〔赤肉〕 maqsisi, masisi
 あかはじ〔赤恥〕 ʔakahazi, →はし
 あかはだか〔赤裸〕 →まるはだか
 あかはな〔赤鼻〕 ʔakabanaa
 あかばむ〔赤ばむ〕 ʔakanUN
 あかひげ〔赤ひげ〕 ʔakahwizaa, ʔakahwizi
 あかみ〔赤身〕 maqsisi, →あかにく
 あかめがしむ〔植物名〕 'jamajuuna
 あかめばる〔魚名〕 ʔakamiibaju
 あがめる〔崇める〕 ʔagamijUN, →とらとぶ/ ~こと ʔwaagami
 あからがお〔赤ら顔〕 ʔakaziraa
 あかり〔明かり〕 ʔakagai
 あがる〔上がる〕 ʔagajUN, →nucagajUN, nusikajUN/ (食べるの敬語) miʔeen, ʔusjagajUN
 あかるい〔明るい〕 →ʔakaʔakaatu/ ~ことと暗いこと ʔakasakurasa/ ~所 ʔakagai/ 明るくなる ʔakeejUN/ すっかり明るくなる ʔakagaiʔikijUN
 あかるみ〔明るみ〕 ʔakagai
 あかんべえ cinbeeru ʔakakoozi
 あかんぼう〔赤ん坊〕 ʔakanGwa, ʔakanGwaa, ʔjooii, ʔjooiiGwaa, →siraqkwa/ ~の泣き声 ʔNGaaʔNGaa/ ~の出す声 'Nkkuu

あき〔秋〕 ʔaci
あきだる〔空き樽〕 tarugaa
あきだわら〔空き俵〕 hwiihwaa, taaraguu
あきつば〔秋津羽〕 →ʔakezubaninsu
あきっぱい〔飽きっぱい〕 ʔacihatibeesan
あきない〔商い〕 ʔacinee, →しょうばい/
～上手 ʔacineezoozi
あきま〔空き間〕 →すきま/～ができる ma-
doocun/～を作る madookijun
あきや〔空き家〕 'Nnajaa
あきやしき〔空き屋敷〕 'Nnajasici
あきらか〔明らか〕 ʔaciraka/～になる
ʔarawarijun
あきらめ〔諦め〕 'jasunzi, ʔumiciri
あきらめる〔諦める〕 'jasunzijun, ʔumici-
jun, ʔuminagasjun/あきらめきれない
→'watagurisjan, こころのこり
あきる〔飽きる〕 ʔacagajun, nirijun,
ʔacihatijun/飽き飽き cuhwaara/飽き
が早い ʔacihatibeesan/飽きたらぬ ʔaci-
zaraN/飽きてしまう仕事 ʔacihaisigutu
あきれた →misinaaku, misinataaku,
misinataraku 「coodaa, ʔacoodu
あきんど ʔacineencu, ʔacineesjaa, →ʔa-
あく〔空く〕 ʔacuN, ʔuçijun/空いている
畑 'Nnabataki/～こと ʔuçiri
あく〔開く〕 ʔacuN, hugijun, huracuN,
→goorijun, ひらく
あく〔灰汁〕 ʔaku, tuguru
あくえん〔悪縁〕 ʔakuin, →くされえん
あくじ〔悪事〕 ʔaku, hwii, 'janagutu
あくしゅう〔悪臭〕 'janakaza, →くさい
あくしゅう〔悪習〕 'janahuuzi
あくしん〔悪心〕 'janagukuru, 'janazimu
あくた〔芥〕 →ごみ
あくたび〔芥火〕 ʔakutabii
あぐに〔粟国〕(地名) /～の者 ʔagunaa
あくにん〔悪人〕 ʔakunin, 'janaa, →わる
もの

あくび〔欠伸〕 ʔakubi
あくまで ziibun/～も maamadin
あくむ〔悪夢〕 'janaʔimi
あくむ -ʔagunun
あぐら ʔangweeui, ʔangweeii, →hwi-
あくりょう〔悪霊〕 'janamun 〔rasan
あくろ〔悪路〕 'janamici
あげ〔上げ〕 ʔagi/着物の～ neeciri
あげがし〔揚げ菓子〕 ʔandaagii
あげがた〔明け方〕 ʔakaçici, ʔakigata, →
あかつき, よあげ/～の雲 ʔakigumu/
～の月 ʔakaçicizicuu/～の星 ʔakaçici-
busi
あげくのはて →ʔuzumi
あけくれ〔明け暮れ〕 ʔakikuri, ʔasaju,
ʔasajusa
あげざげ〔上げ下げ〕 ʔagisagi
あけたて〔開け立て〕 ʔakikwii
あげどうふ〔揚げ豆腐〕 ʔagidoohu
あけのみょうじょう〔明けの明星〕 'jookaa-
busi 「かいほうする
あけはなす〔開け放す〕 ʔakihanasjun, →
あけひろげる〔開け広げる〕 ʔakihwirugi-
jun
あげまど〔あげ窓〕 hwicidu
あげもの〔揚げ物〕 ʔagimun
あける〔開ける・明ける〕 ʔakijun, huga-
sjun, ʔirihugasjun, hurakijun, hwi-
rakijun, →çiciʔakijun, ひらく
あける〔空ける〕 ʔiihoojun, ʔiikeerasju-
N, ʔuçuşjun, ʔutijun/汁を～saajun
/あけて返すこと ʔuçirikeei
あげる〔上げる〕 ʔagijun, nubusijun,
→ʔusjagijun, さしあげる
あげる〔揚げる〕 ʔagijun
あご〔顎〕 kakuzi, ʔutugee, ʔutugaku/
～がすべすべした者 ʔutugeenanDuruu/
～の骨の張った者 habukakuzaa
あごう (植物名) ʔusuku
あごひげ sicahwizi

あさ

あさ〔朝〕 ʔasa, sutumiti/ ~早く起きる

こと sutumitiʔuki/ ~の日陰 ʔasakaagi

あさ〔麻〕 ʔasa/ ~の着物 ʔasazin

あさ〔蒔〕 sumi, suN

あさ〔字〕 →mura

あさい〔浅い〕 ʔaqsan, ʔasasan

あさがえり〔朝帰り〕 →ʔakaçicimudui

あさがおな〔植物名〕 ʔuNcee

あさぐもり〔朝曇り〕 ʔasagumui

あさける〔嘲る〕 ʔazamucun

あさごはん〔朝御飯〕 sutumitiʔubun, →あ

あさだち〔朝立ち〕 ʔasadaci しめし

あさづけ〔浅漬け〕 →ʔasaziki

あさって〔明後日〕 ʔasati

あさっぱら〔朝っぱら〕 / ~から ʔasannaa-
ra

あさつゆ〔朝露〕 ʔasaçiju

あさな〔字〕 ʔazana

あさなぎ〔朝凧〕 ʔasaduri

あさぬの〔麻布〕 ʔasanunu/ ~の一種 ʔaa-
rancee, zoohuあさね〔朝寝〕 ʔasani, →あさねぼう/ ~昼
寝 ʔasanihwiNni

あさねぼう〔朝寝坊〕 ʔasanaa, →ねぼう

あさばん〔朝晩〕 ʔasaban, →あさゆう

あさひ〔朝日〕 ʔagaitiida

あさましい〔浅間しい〕 ʔasamasjan

あさまゆうま〔朝間夕間〕 ʔasamajuma

あざみ〔植物名〕 çibana, 'Nziçicaa

あざめし〔朝飯〕 sutimitimun, sutumiti-

あさやけ〔朝焼け〕 ʔasaʔakeei [mun

あさゆう〔朝夕〕 ʔasaju, ʔasajusa, ʔasa-
majuma, →あさばん

あさる〔漁る〕 ʔasagujun, ʔasajun

あざわらい〔あざ笑い〕 ʔazamuciwaree,
ʔazawaree

あし〔足〕 ʔasi, hwisja, (敬語) mihwisja

→ʔasihwisja, / ~がだるい hwisjadaru-
san/ ~が強くなる kunçuujun/ ~の裏
が切れること ʔasiziri, ʔasizirijunziri,

'junziri / ~の甲 hwisjanaa/ ~の力

ʔasidooni, hwisjazikara/ ~の付け根の

骨 tumuguu/ ~の細い者 cincinbisjag-

waa/ ~の骨 hwisjabuni/ ~の曲がった

者 gooi/ ~の向くま→hwisja/ ~の弱

い者 ʔasijoo, ʔasijoobaa

あじ〔按司〕 ʔanzi, ʔazi, →ʔazibi, -ca-

ra, ʔuçun, (敬語) ʔaziganasii, ʔa-

ziganasiimee, ʔaziimee, ʔazimee, ʔa-

zisu/ ~の妻 'unazara, (敬語) ʔaqtoo-

mee, ʔaqtooganasiimee

あじ〔味〕 ʔazi/ ~が薄い ʔahwasan/ ~が薄

くなる ʔahwageejun, ʔahwageerijun/

~のよいもの ʔazikuutaa/ ~が足りない

→kucisabiqsan, sabiqsan/ ~の足りない

もの sabimun/ ~の足りない吸いもの

あじ〔鱈〕 gaçun [sabiziru

あしあと〔足あと〕 hwisjakata

あしおと〔足音〕 ʔasitu, ʔasiʔutu

あしかせ〔足枷〕 ʔasiguruma

あしくび〔足首〕 hwisjakubi

あしこし〔足腰〕 ʔasikusi

あしずり〔足ずり〕 ʔaduşirişiri, hwisjaşi-
rişiri

あした〔明日〕 ʔaca/ ~の朝 ʔacaʔasa,

ʔacasutumiti/ ~の晩 ʔacajusanii/ ~の

夜 ʔacajuru

あした〔足駄〕 tacibaaʔasiza

あしならし〔足ならし〕 ʔaçinaree

あしのうら〔足の裏〕 hwisjanuwata

あじみ〔味見〕 ʔazi, ʔucuubi

あしもと〔足もと〕 →ʔaçizii

あしよわ〔足弱〕 ʔasijoo, ʔasijoobaa

あしらう ʔasireejun

あじろ〔綱代〕 ʔannumii, cinibu, soozii/

~の一種 'waisoozi/ ~の垣根 cinibuga-

ci

あじわい〔味わい〕 ʔaziwee, →ふりみ/ ~
 がある →kuubeesan/ ~のあるもの ʔa-
 あす〔明日〕 →あした [zikuutaa
 あずかりもの〔預かりもの〕 →tuiʔazikee
 あずかる〔預かる〕 ʔazikajun, sazakajun
 あずき〔小豆〕 ʔakamaamii, mamami/
 ~を入れた御飯 ʔakamaamiiʔubun
 あずきがゆ →ʔukee
 あずける〔預ける〕 ʔazikijun
 あせ〔汗〕 ʔasi, →hwizuruʔasi/ ~水流し
 て ʔasihaimizihai/ 鼻にかく~ hanaʔasi
 あぜ〔畦〕 ʔabusi
 あせかき〔汗かき〕 ʔasihajaa
 あせばむ〔汗ばむ〕 ʔasigunun
 あぜみち〔畦道〕 ʔabusimici
 あせも〔汗疹〕 ʔasibu, sabee
 あせり〔焦り〕 ʔasigaci, →ʔasigacinoori
 あせる〔褪せる〕 samijun
 あせる〔焦る〕 ʔasigacun, →taagusa/
 ~さま →hatahata
 あぜんとする〔啞然とする〕 →miiNnabai/
 あそこ ʔama [~こと mihaigutu
 あそばす〔遊ばす〕〔敬語〕 miʃeen
 あそび〔遊び〕 ʔaʃibi, →mutaan/ ~の盛
 んな村 →ʔaʃibiguni
 あそびしごと〔遊び仕事〕 ʔaʃibisigutu, ʔa-
 ʃibisikuci
 あそびともだち〔遊び友達〕 ʔaʃibidusi
 あそびにん〔遊び人〕 ʔaʃibaa, ʔaʃibjaa,
 ʔjurarijaa, ʔjuutee, kwatii
 あそぶ〔遊ぶ〕 ʔaʃibun/ ~ために忙しいこ
 と ʔaʃibiʔicunasa/ 遊びほうけること
 ʔaʃibiburi
 あだ〔徒〕 ʔada
 あだ〔仇〕 ʔada, →かたき
 あたえる〔与える〕 →やる
 あたたかい〔暖かい〕 nukusan/ ~地方
 nukuguni/ ~所 nukudukuru/ ~年 nu-
 kudusi/ 暖かくなる nukubaajun
 あたたかみ〔暖かみ〕 →ʔukani
 あたまる〔暖まる〕 ʔaʃirijun, nukunu-

N, nukutamajun
 あたためかえし〔暖め返し〕 ʔaʃirasikeesaa,
 ʔnburasikeesaa, tazirasikeesaa
 あたためかえす〔暖め返す〕 →tazirasjun
 あたためる〔暖める〕 ʔaʃirasjun, nuku-
 mijun, nukutamijun, →kamirasjun
 あだな〔あだ名〕 ʔazanaa, gucinaa
 あたま〔頭〕 ʔiburur, →ʔatama, ʔiburur-
 guu, kamaci/ ~が重いこと ʔiburur-
 ʔnbuu/ ~で突き上げる ʔicikamijun/
 ~にのせて運ぶ荷物 kaminii/ ~にのせ
 る kamijun/ ~のてっぺん hjuuruci/
 ~をかかえこむ →tii/ ~を掻くこと sira-
 ngaci/ ~をさげる →ʔuhukubi/ ~をな
 やます →ʔanmasjan
 あたまわり〔頭割り〕 ʔatamawai, ʔiburur-
 wai, ʔiziwai
 あたら ʔaqtara, ʔatara
 あたらしい〔新しい〕 miisan, mii-, sara-/
 ~家 miijaa/ ~着物 miizin/ ~仕立て
 sinsitati/ ~もの miimun, saramii-
 mun/ 新しく miikuni, miikun
 あたり〔辺り〕 hwin, -kaa, mangura,
 →cinpoo, -nagii
 あたりまえ〔当たり前〕 ʔataimee, zun,
 →とうぜん
 あたる〔当たる〕 ʔatajun, →そりとうする/
 当たらずといえども遠からず tuuja nu-
 kan
 あだん〔阿旦〕〔植物名〕 ʔadani, ʔadan/
 ~の気根 ʔadanasi/ ~の葉 ʔadanbaa/
 ~の葉の草履 ʔadanbaasaba/ ~の葉
 のむしろ ʔadanbaamusiru
 あちこち ʔamakuma, ʔarikaakurikaa,
 ʔnmakuma, →ほうほう/ ~でちょこちょ
 こ仕事をするさま ʔnmagasagasakuma-
 gasagasa
 あちら →あっち
 あちらがわ〔あちら側〕 ʔagata, ʔamamuti

あち

あちらこちら →あちこち
 あつい〔暑い〕 ʔaʕisaN, →humicuN/ ~地方 ʔaʕiguni/ ~真昼 mahuqkwa/ 暑くてふりふりいうさま ʔaʕijaahuujaa
 あつい〔熱い〕 ʔaʕisaN/ ~うちに ʔaʕikookoo/ ~もの (小児語) ʔacuu, ʔaʕcuu/ 熱くする ʔaʕirasjun/ 熱くなる ʔaʕirijun
 あつい〔厚い〕 ʔaʕisaN/ 厚く →butaaku
 あつかい〔扱い〕 tunzaku, →とりあつかい
 あつかう〔扱う〕 ʔaʕikajun, →とりあつかう/ 扱いにくい ʔaʕikeegurisjan
 あつかましい →こうがん, ずりずりしい/ ~者 ʕiranukaaʔaʕii/ ~顔 zira
 あつがり〔暑がり〕 ʔaʕisaʔumii 「jaa
 あつがる〔暑がる〕 / ~さま ʔaʕijaahuu-
 あつさ〔暑さ〕 →humici/ ~嫌い ʔaʕisakamarasaa/ ~で腐りかかったにおい humicikaza/ ~に負けること humicimaki/ 残暑 'wakariʔaʕisa
 あっさり / ~した人 ʔaʕtʔuu
 あっち ʔama/ ~でもこっちでも ʔiqpeekuqpee/ ~の方 ʔagata, ʔamamuti/ ~を読んだりこっちを読んだり ʔamajumikumajumi
 あっとうされる〔圧倒される〕 ʔusaarijun,
 あっばい〔熱灰〕 ʔaʕibee 〔→くっぶくする
 あっばくする〔圧迫する〕 ʔusiʕikijun
 あっはっは ʔahahaa
 あつまり〔集まり〕 surii, →taciisurii/ ~のあるさま suriimandoo
 あつまる〔集まる〕 ʔaʕimajun, 'jujun, 'jureejun, surijun, →takarijun, いしゅうする
 あつめる〔集める〕 ʔaʕimijun, 'juraa-sjun, suraasjun, →とりあつめる
 あつらえ ʔaʕiree, (敬語) ʔwaaʕiree, →ちゅうもん
 あつらえもの〔誂え物〕 ʔaʕireemun
 あつらえる〔誂える〕 ʔaʕireejun, →ちゅうもん
 あて〔当て〕 ʔati, mizimui, →みこみ/ ~

がはずれる ʔatikawajun/ ~がはずれること miihandaa, miihanuu, mizimuisooi/ ~にする ʕimujun, tarugakijun
 あてこすり ʔuranucimunii, ʔuranucimunuʔii
 あてずいりょう〔あて推量〕 saʕcuu, cimupatigee, ʔatigeehuu/ ~でものを言うこと saʕcuumunuʔii
 あてずっぽう ʔatigeehuu, ʔatitixpuu, ʔatitiqpuu
 あてつけがましく 'wacakoogeezi
 あてる〔当てる〕 ʔatijun
 あと〔後〕 ʔatu, →うしろ/ ~になり先になり ʔatunaisacinai, ʔuueekuuee/ ~の方がかえってよくなること ʔatumasai-gahuu/ ~をつけること ʔatuʔwii
 あと〔跡〕 →ʔatu/ ~を引いて流れること sicabai
 あとあし〔あと足〕 ʔatubisja
 あとあじ〔後味〕 / ~が悪い →'wiNturu-kaasjan
 あとあと ʔatuʔatu
 あとおし〔あと押し〕 ʔatuʔusii
 あとかた〔跡かた〕 ʔatukata, kata
 あとかたづけ〔あと片付け〕 ʔatukataʕiki
 あどけない / ~さま ʔatiqteen/ ~もの ʔatinasi
 あとさき〔後先〕 ʔatusaci
 あとざん〔後産〕 ʔija
 あとしまつ〔あと始末〕 ʔatukataʕiki, ʕikituʕuki, →しりぬぐい
 あとずさり ʔatusizici, →あともどり, しりごみ
 あとつぎ〔跡継ぎ〕 ʔatuʕizi, ʔatumi, →あとり, そろぞろにん
 あとり〔跡取り〕 caʕci, →ちゃくし
 あとばらい〔あと払い〕 sagai
 あとめ〔跡目〕 ʔatumi, →あとつぎ
 あともどり〔あと戻り〕 ʔatumudui, →あとずさり/ ~する ʔuqceejun
 あな〔穴〕 ʔana, hugi, mii/ ~があいたもの hugimun/ ~があく hugijun,

→goorijun/ ~だらけ miimiihuugaa/
 ~をあける hugasjun
 あなあきせん〔穴あき銭〕 miihuugaa
 あなた naa, ʔunzu, ʔunzunaa, →おま
 え, きさま, (敬語) kuma, mʔunzu,
 nʔunzu, nunzu/ ~自身で ʔunzukuru
 あなたがた ʔunzunaa, →おまえたち
 あなとうと ʔaatootu, ʔuutootu
 あなどる〔悔る〕 ʔuseejun, 'uuzun, →み
 くびる/ことを~こと kutuʔuseei
 あに〔兄〕 ʔahwii, 'jaqci, 'jakumii, ʃii-
 za, 'wikigaʃii, (敬語) ʔumikiinumee,
 ʔumiʃii, →ʔaʔpii, 'wikii/ 上の~
 ʔuhuʔahwii, ʔuhujaqci/ 下の~ ʔa-
 hwiigwaa/ ~と妹 →'unaiwikii
 あによめ〔兄嫁〕 (敬語) ʔumanii, ʔumani-
 mee
 あね〔姉〕 ʔangwaa, ʔnmii, ʃiizaunai,
 'unai, 'winagaʃii, (敬語) ʔuminai, →
 ʔabaa, ʃiiza/ 上の~ ʔuhuʔnmii/ 下の~
 ʔnmiiigwaa/ ~と弟 →'unaiwikii/ 既婚
 の~ (敬語) ʔumanii, ʔumanimee
 あの ʔanu/ ~大きさの ʔaʔpeeru/ ~く
 らい →あれくらい/ ~ころ ʔanukuru/
 ~高さ ʔacaki/ ~速さ ʔagatoo/ ~時
 ʔanutuci/ ~とし →ʔanuca, ʔanujuca/
 ~長さ ʔanagi/ ~人 ʔanuqcu, (敬語)
 ʔama/ ~人たち ʔaʔtaa/ ~辺 ʔanu-
 hwin, ʔamarikaa, ʔarikaa/ ~まま
 ʔanumama/ ~野郎 ʔanijjaa, ʔanu-
 hjaa/ ~よな ʔaneeru, ʔanugutooru,
 ʔangutooru, →ʔanujoo/ ~よなもの
 ʔanugutooruu, ʔangutooruu/ ~よ
 うに ʔanugutu, ʔangutu, →ʔanujoo
 あのお〔あの世〕 ʔanujuu, giraikanai,
 gireekanee, gusjoo, niraikanai, niree-
 kanee, →しご
 あばく〔発く〕 ʔarawasjun
 あばずれ baacira, hoorimun
 あばた〔痘痕〕 kumuzaa, kumuzi, maa-

zaa/ ~のある者 kumuzaa, maazaa
 あばばば ʔawaawaa
 あばらほね〔あばら骨〕 sookibuni
 あばらや ʔabaraja 「あらうま
 あばれうま〔暴れ馬〕 →hwincaaʔnma,
 あばれもの〔暴れ者〕 ʔamaimun, ʔamajaa,
 あばれる〔暴れる〕 ʔamajun →らんぼう者
 あびせる〔浴びせる〕 kuncakijun
 あひる〔家鴨〕 ʔahwiraa, ʔahwiru
 あびる〔浴びる〕 kuncakajun
 あぶく →あわ
 あぶない〔危い〕 ʔabunasjan, ʔajaqsan,
 ʔukaasjan, →hantasjan, kuuwee,
 'uci, 'uciuci / ~ふるまい, tihwanawaza
 あぶみ〔燈〕 ʔabui
 あぶら〔油・脂〕 ʔanda, →しぼり/ ~で揚
 げる時の音 caaracaara/ ~でいためる
 →いためる/ ~を煮たせた鍋 ʔandana-
 abi/ ~を入れるとつくり, ʔandaduqkui,
 →あぶらつぼ
 あぶらあげ〔油揚げ〕 ʔagidoohu
 あぶらあせ〔脂汗〕 namasibai
 あぶらいため〔油いため〕 caaraa, ʔiricii,
 →canpuruu
 あぶらかす〔脂かす〕 ʔandakasi
 あぶらがめ〔油がめ〕 →あぶらつぼ
 あぶらぎる〔脂ぎる〕 ʔandamaajun
 あぶらぐち〔油口〕 →おせじ, かんげん
 あぶらざら〔油皿〕 sizici
 あぶらぜみ naabikakacii
 あぶらっこい〔脂っこい〕 ʔandazuusan/
 ~さま ʔandabutubutu
 あぶらつぼ〔油壺〕 ʔandaçibu, ʔandaduq-
 kui
 あぶらみ〔脂身〕 ʔandabutubutu, sirumi
 あぶらむし〔油虫〕 hwiiraa
 あぶらや〔油屋〕 ʔandajaa
 あぶる〔炙る〕 ʔabujun, ʔanzun
 あふれる〔溢れる〕 ʔandijun/ 溢れさせる
 ʔandasjun

あべこべ ʔurahara, →さかさま
 あま[阿魔] ʔjumuwinagu, →おんな
 あまい[甘い] ʔamasan, →kwangwaa-raasjan, あまみ/ ~もの ʔamamun/
 甘くなり過ぎる ʔamabirijun
 あまがさ[雨傘] ʔamagasa
 あまくだり[天降り] ʔamari, ʔamaʔuri,
 ʔamooi, ʔamoori, ʔamori
 あまぐも[雨雲] ʔamigumu, →くろくも
 あまごい[雨乞い] ʔamagui 「あまやどり
 あまごもり[雨ごもり] ʔamihuigumai, →
 あまざけ[甘酒] ʔunʂjaku/ ~の一種 ʔa-
 あまじお[甘塩] ʔamazuu [magasi
 あまじたく[雨支度] ʔamihuizitaku
 あます[余す] ʔamasjun
 あまだれ[雨だれ] ʔamidaimiʒi
 あまど[雨戸] hasiru
 あまのがわ[天の川] tiŋgaara
 あまのじゃく ʔamagaku, ʔamagakaa
 あまみ[甘味] ʔamami, →あまい
 あまみおおしま[奄美大島] ʔuusima
 あまみぐんとう[奄美群島] →micinusima
 あまもよう[雨模様] ʔamimujuusi
 あまやかす[甘やかす] →kwangwaraa-
 sjan/ 甘やかして育てること →tuitaka-
 tee
 あまやどり[雨宿り] / ~する →kwaqkwijun
 あまり[余り] ʔamai, →よぶん
 あまりもの[余りもの] ʔamaimum, ʔjuu-
 ʔamai, →よぶん
 あまる[余る] ʔamajun
 あみ[網] ʔami, →ʔabuikuu
 あみがさ[編笠] ʔamigasa, ʔanzasa, →ふ
 あむ[編む] kunun [かあみがさ
 あめ[雨] ʔami, →simu/ ~が上がる ha-
 rijun, hjaagajun, →sasanun/ ~が
 降りこむこと ʔuciʔami/ ~が降りそう
 ある ʔamihuigisan/ ~と露 ʔamiʒiju/
 ~の原因となるもの ʔaminunii/ ~の降

りそうな気配 ʔamimujuusi/ 冬の冷たい
 ~ simu
 あめ[飴] ʔami
 あめかぜ[雨風] ʔamikazi
 あめふり[雨降り] ʔamihui, ʔutin/ ~続
 き ʔamihuizici/ ~のあと ʔamihuinu-
 ʔatu
 アメリカ ʔamirika
 アメリカ人 →ʔamirikaa
 あやうく[危うく] huda, hudagasi, huda-
 ganasi ʔagati
 あやかる ʔajakaajun
 あやしい[怪しい] hwirumasjan/ ~音
 →cigutu/ ~こと →ʔusan
 あやす ʂikasjun, ʂiʂikaasjun
 あやふやである hantasjan
 あやまち[誤ち] ʔajamaci, ʔajamai, ʔa-
 jamaigutu, ʔajamari, baqpee, husuku
 あやまり[誤り] →まちがい
 あやまる[謝る] ʔiiwakijun, →ʔiiwaki,
 ʔwaqsa, ʔwaki
 あやまる[誤る] ʔajamajun, →まちがり
 あゆむ[歩む] →あるく
 あら[感動] ʔai, ʔaki, ʔakijoo, ʔane,
 ʔiqcaa, →あれ/ ~まあ ʔeeʔiqcaa, ʔa-
 kitoonaa
 あら[粗] ʔara, ʔara-
 あら[荒] ʔara-
 あら[新] ʔara-
 あらあらしい[荒荒しい] →ʔaraci, ʔaa-
 hwee, あらっばい/ ~返事 kuhwahwizi/
 荒荒しく拒絶すること kuhwabanii
 あらい[荒い] ʔarasan
 あらい[粗い] ʔarasan/ ~もの ʔaraa
 あらいがみ[洗い髪] ʔareegami, ʔaree-
 karazi
 あらいこ[洗い粉] cuuzinakuu
 あらいもの[洗い物] ʔareemun
 あらう[洗う] ʔarajun 「ま
 あらうま[荒馬] kuujaaʔnma, →あばれり

あらがう →あらそう
 あらかじめ〔予め〕 meekaniti, →かねて
 あらかせぎ〔荒かせぎ〕 →ʔaramooki
 あらさがし〔あら探し〕 miimiikuzzii/～するさま miinucihananuci
 あらし〔嵐〕 ʔarasi, kazihuci, ʔuukazi
 あらしごと〔荒仕事〕 ʔarasigutu, ʔarasikuci
 あらす〔荒らす〕 ʔarasjun
 あらそう〔争う〕 ʔaragaajun, ʔarasuujuun, →きょうそう, たたかう
 あらだてる〔荒立てる〕 ʔaradatijun
 あらたに〔新たに〕 miikuni, miikun
 あらたまる〔改まる〕 ʔaratamajun
 あらためる〔改める〕 ʔaratamijun, hwicinoosjun, →tuinoosjun
 あらっほい〔荒っほい〕 tiiʔarasan, →そぼろ, あらあらしい
 あらなみ〔荒波〕 ʔaranami
 あられ〔霰〕 ʔjuci/～と冷雨 ʔjucisimu
 あらわ〔露わ〕 /～にする ʔarawasjun, hajun/～になる ʔarawarijun
 あらわす〔現わす〕 ʔarawasjun
 あらわれる〔現われる〕 ʔarawarijun
 あり〔蟻〕 ʔai, (小児語) ʔaikoo/～の一種 sasiʔai, sasiʔajaa
 ありあけのつき〔有明けの月〕 ʔakaçicizicuu
 ありあわせ〔有り合わせ〕 ʔaee, ʔaiee
 ありか〔在処〕 →ありばしょ
 ありがたい →nihwee, ʔidigahuu, ʔiduugahuu/～こと ʔarigateekutu, ʔuugutu
 ありがたいわく〔ありがた迷惑〕 cimuziri
 ありがとう kahuusi, →nihwee, ʔidigahuu, ʔiduugahuu
 ありさま〔有様〕 ʔarisama, sikata, siẓama, tanari, →ていたらく, ようす
 ありったけ →ある, のこらず
 ありのまま /～の姿 ZUNʔigata/～の人 ʔaarankaa
 ありばしょ〔あり場所〕 ʔaizu

ありもしないこと ʔarazaranKutu
 ある〔有る・在る〕 ʔan, (敬語) saajun/～だけ ʔaruʔuqpi, ʔaruʔuqsa/～だけですます人 ʔaruʔuqpii/～もの全部(～もの無いもの, ありったけ) ʔarukasiruka, ʔarumuNneeNmun, takitutuumi, →のこらず/ありそうである zuʔee neen/ありもしないこと ʔarazaranKutu/で～→である
 ある〔或る〕 ʔaru
 あるいは ʔeenee
 あるきはじめ〔歩きはじめ〕 ʔaqcihazimi
 あるく〔歩く〕 ʔaqcun, ʔajunun, (敬語) ʔwaacimiʔeen/～こと ʔaqci, (小児語) ʔaaqca, ʔaqca/～さま →goNgon/～人 →ʔaqcaa/～練習 ʔaqcinaree/歩けるようになる →kuncuujun
 あるじ〔主〕 nuusi
 あれ〔感動〕 ʔane, ʔandee, →あら/～ま あ ʔaneʔane, ʔanmajoo, ʔiqcaakuqcaa, saqtimusaqtimu, ʔwaaʔaa/～よあれよ ʔariʔarii/あれえっ ʔakisamijoo, ʔanmajoo
 あれ ʔari/～がいいこれがいい ʔarimasaraakurimasaraa/～くらい(～ほど, ～だけ) ʔahwi, ʔanusjaku, ʔaqpi, ʔaqsa/～くらいの ʔahwina, ʔaqpeeru/～これ ʔarijaakurijaa, karikuri/～これ思いなやむさま ʔariʔumiikuriʔumii/～これとさわるさま ʔarisaaikurisaai/～だけの長さ ʔanagi/～っぱかり ʔahwi-gwaa, ʔaqpigwaa
 あれち〔荒れ地〕 ʔarici, hagimoo, →moo
 あれの〔荒れ野〕 →あれち
 あれはてる〔荒れ果てる〕 ʔarihatijun, saboorijun/荒れはてたさま saboorikaa
 あれる〔荒れる〕 ʔarijun
 あわ〔粟〕 ʔawa
 あわ〔泡〕 ʔaa, ʔaabuku
 あわい〔淡い〕 →うすい
 あわさる〔合わさる〕 ʔusaajun, ʔusjaa-

あわ

jun

あわせ〔恰〕 ʔaasimUN, ʔaasiziN 「かがみ
あわせかがみ〔合わせ鏡〕 ʔaasikagan, →
あわせる〔合わせる〕 ʔaasjun, ʔicaasjun,
ʔucaasjun, ʔusaasjun, ʔusjaasjun/
合わせもつこと ʔuceekanee
あわせる〔合わせる〕 ʔicaasjun
あわつぶ〔粟粒〕 ʔawaçizi
あわてもの〔あわて者〕 →そこつ
あわてる ʔawatijun, dumangwijun, sa-
wazun, sjoonugijun, zamadujun, →
うろたえる / ~さま ʔawatinoori, ʔawe-
esjukwee, zamaduikaa, zamaduikaa-
dui/ あわてさせる dumangwasjun/ あ
わてふためいて走ること ʔasimarubi,
ʔasimarubitiimarubi
あわもり〔泡盛〕 ʔaamui/ ~を水で割って
かんをしたもの ʔjuucu/ ~を水で割っ
てかんをしたものを入れる器 ʔjuucuunzu-
あわれ〔哀れ〕 muzoo, →ʔawari ʔukaa
あわれ〔感動〕 ʔakijo, ʔawari
あん〔餡〕 ʔan
あんがい〔案外〕 ʔangwee, ʔumiinuhuka
あんこう〔鮫鱈〕 (魚名) kamanta
あんじ〔按司〕 →あじ
あんじがお〔案じ顔〕 munumigau

あんしょう〔暗唱〕 hanasibuku
あんしょう〔暗礁〕 →hwisi
あんしん〔安心〕 →ころづよい/ ~する
→kukuru, ʔuhuʔuminaaku, ʔuminaa-
ku, やずんずる/ ~である kukurujaqsan,
cimuzuusan
あんずる〔案ずる〕 →しんばい
あんた →あなた, おまえ
あんちゃん ʔaqpii, →あに
あんどん〔行燈〕 tuuru, →kaguduuru
あんな ʔaneeru, ʔanugutooru, ʔangu-
tooru, ʔanna/ ~に ʔanugutu, ʔan,
ʔangutu/ ~に多く ʔasakii/ ~に高く
ʔadaki/ ~に遠く ʔagatoo/ ~に長い間
ʔannagee/ ~に長く ʔanagi/ ~もの
ʔanugutooruu
あんない〔案内〕 ʔanee, (敬語) →mju-
nçikee, nuñçikee, ʔunçikee/ ~を乞う
こと munusirari
あんのじょう〔案の定〕 masagagutu
あんばい〔按配〕 ʔanbee, kagiN, (敬語)
ʔwaanbee
あんまり ʔanmadi, ʔanmari, duku
あんもち〔餡餅〕 ʔanmuci
あんよ ʔaaqca, ʔaqca
あんらく〔安楽〕 ʔanraku, →らく/ ~に
rakurakutu

い

い〔胃〕 ʔii, ʔuhugee
い〔箇〕 ʔii, →biiguui, ʔootuuziN, saciii,
tuuzinii/ ~で作ったぞり ʔisaba
い〔亥〕 ʔii
いあん〔慰安〕 nagusami
いい ʔii-, ʔutasjan, masi/ ~相手 ʔee-
tu/ ~按配 ʔiiʔanbee/ ~縁組 ʔiitacinaa-
ka/ ~加減なやり方 hantagaki/ ~考え

ʔiikangee/ ~気 ʔiicii/ ~機会 ʔiibaa, ʔi-
basju, ʔiihjoosi/ ~気持ち ʔiicii, ʔiikuku-
ci/ ~景色 ʔiiciici/ ~子 ʔiiqkwa, ʔiqkwa,
→ʔjukaaqcu/ ~こと ʔiikutu/ ~仕事 ʔii-
waza/ ~正月 ʔiisjoogwaçi/ ~商売 ʔii-
ʔacinee/ ~勝負 ʔiisjuubu/ ~職業 ʔiiva-
za/ ~知らせ ʔiisirasi/ ~天気 ʔiiʔwaa-
çici, →zooʔwaaçici/ ~年をしながら

→'jucanumUN, tusinamUN/ ~友達 'iidusi/ ~仲 'iinaaka/ ~習わし 'iihuuzi/ ~におい kabakaza/ ~日 'iihwii/ ~人 'iiqcu, 'iqkwa/ ~風采 'iihuuzi/ ~物 'iimUN/ ~夢 'iiYimi

いいあてる〔言い当てる〕 Yii?atijUN/ 言い当て遊び ?akasee

いいあらい〔言い争い〕 Yeekwee, Yigaa-i, Yigaahai, Yiikwaace, →いさかい, ろんそう/ 言い争うさま ?iriwaikaawai

いいえ 'iiai, 'NnNN, 'oooo, 'uuuu

いいおき〔言い置き〕 Yii?uci

いいおく〔言い置く〕 Yii?ucUN

いいかけ〔言いかけ〕 Yiikaki

いいかける〔言いかける〕 YiikakijUN

いいかた〔言い方〕 munuYiikata

いいすぎ〔言い過ぎ〕 Yiigwaasa, Yiikwa, Yiisizi, kwagUN

いいすぎる〔言い過ぎる〕 YiisizijUN

いいそこなう〔言いいそこなう〕 YiijanZUN

いいたいほうだい〔言いたい放題〕 Yiibusjahundee, YiibusjakaQtii, →たいげんそう

いいだす〔言い出す〕 Yii?nzasjUN 上ご

いいたてる〔言いい立てる〕 YiitatijUN

いいつけ〔言いい付け〕 Yiikiiki, →めいれい

いいつける〔言いい付ける〕 →koo, ざんげん, つげぐち, めいれい

いいつたえ〔言いい伝え〕 çitee, ?ikutuba

いいなおす〔言いい直す〕 YiinoosjUN

いいなげけ〔許嫁〕 sakimui/ ~となる ?imasjUN

いいぬける〔言いい抜ける〕 YiimaarasjUN

いいのがれ〔言いいのがれ〕 kucimaai, kucimigui, →いいひらき, いいわけ

いいのこす〔言いい残す〕 YiinukusjUN

いいはる〔言いい張る〕 YiihajUN/ ~こと Yiihai

いいひらき〔言いい開き〕 Yiihwiraci, →いいのがれ, いいわけ

いいふらす〔言いいふらす〕 YiihwirugijUN

いいぶり〔言いい振り〕 munuYiitanari

いいぶん〔言いい分〕 Yiibun

いいまかす〔言いい負かす〕 YiikunaasjUN/ 言いい負かし合い Yiimakasee

いいまぎらす〔言いいまぎらす〕 YiimaarasjUN, YiimaNgwasjUN

いいまくる〔言いいまくる〕 YiikunaasjUN

いいまける〔言いい負ける〕 YiimakijUN

いいまちがい〔言いい間違い〕 Yiimacigee

いいよう〔言いいよう〕 YiiJoo

いいわけ〔言いいわけ〕 Yiiwaki, →いいひらき, こうじつ, しゃくめい, べんかい/ ~を言う YiiwakijUN

いいわたし〔言いい渡し〕 Yiiwatasi

いう〔言いう〕 ?jUN, (敬語) mišeEN, mju-nnjukijUN, nunnukijUN, ?UNnjukijUN, ?UNnukijUN, ?wiisimišeEN, →つげる/ ~なり →mama/ ~までもない →?juuniN ?ujubaN/ 言いいながら泣くこと munuYiinaci

いえ〔家〕 'jaa/ ~ごと cineekazi, 'jaakazi/ ~と家財 'jaakazai/ ~にこもること 'jaagumai/ ~にこもる者 'jaagumajaa/ ~の建築 'jaacukui, 'jaazukui/ ~の前面 meeguci/ ~の中 'jaanu?uci/ ~の普請 'jaabusin/ 一つの~に暮らすこと 'jaatiiçi

いえで〔家出〕 ?Nzihangwi, →しゅっぱん

いえやしき〔家屋敷〕 'jaajasici

いか〔烏賊〕 ?ica, ?ika/ ~の一種 kubu?imi/ ~の塩辛 ?icagarasju/ ~の墨 ?icanukuri, kuri

いかい〔位階〕 kuree/ ~名・役職名など ?akugami, ?anzi, ?asatabi, ?a?itabi, ?atai, ?ataipeecin, ?azi, ?azimee, ?azizituu, bunnin, ?igucijukumi, cikudun, cikudunpeecin, cikusazi, cin?sa, girce?akugan, gujuuhwiçi, hana?atai, hanatai, -hjaa, hwicoonusidui, hwi-qsja, hwirajakunin, hwiranusuba, ?iqpoomuci, 'jama?atai, 'jamabuzoo, 'jamatai, 'jamatujukumi, 'jukumi, 'jununusi, 'juNcu, kasirajaku, koosa-

ku, koosakuʔatai, kukuruʒikijaku, kumigasira, kurajaku, kuratai, mazi-ricoo, munubuzoo, muragasira, nihoo-muci, -nija, -njaa, nusidui, 'oozi, pee-ciN, roosuuzituu, saazi, sabakui, sansikwan, saʒinusuba, satunusi, satunusinumee, satunusipee-ciN, sazi, sii, sidupeeciN, siqsi, simamuci, soo-sigui, suucici, suudee, suugasira, suugoosaku, suugoosakuʔatai, suuzituu, tikugu, tucinuʔuhujakuu, tumaʒituu, tunci, ʔudun, ʔuhuciku, ʔuhuja, ʔuhujaku, ʔuhujakuu, ʔuhunusi, ʔukureeoozi, ʔuhusidubi, ʔumunubuzoo, ʔumurunusidui, ʔuqci, ʔuqciʒasii, 'u-duibuzoo, 'uuzijukumi, ʔweekancu, ʔweekata, 'waciciku, 'wacizituu, zaci-sisjuu, ʒeeban, zidee, ʒiʒasira, ziNmi-jaku, zitudee, zituu, zuuguniNjaku, zuuguniNsjuu

いがい〔以外〕 kuutu

いがい〔意外〕 ʔumiinuhuka, →おもいがけない, きたいはずれ

いかが →caa

いかけ kuu, naabinakuu, naabinukuu

いかけや〔いかけ屋〕 kanʒeeeku, kanʒee-kuu, naabinakuu, naabinukuu

いかす〔生かす〕 ʔicikijun, ʔikasjun

いがた〔鋳型〕 ʔikata

いかなる ʔicaru, ʔikana, →どんな

いかに〔如何に〕 ʔica/～しても ʔikanasin, →どう

いかにも danzu

いかばかり ʔikira, camisi, camisika, canusjaku, →どれ

いかり〔怒り〕 →りっぶく

いかり〔錨〕 ʔikai

いき〔息〕 ʔiici/～が切れる ʔicizirijun/

～とあくび ʔiiciʔakubi/～をつぐこと

ʔiicigeei/～をとめること ʔiicigun

いき〔意気〕 ʔiziri

いき〔行き〕 ʔici

いきあう〔行き会う〕 →あう

いきうつし〔生き写し〕 ʒiratiicʒi

いきおい〔勢い〕 ʔicui, sii

いきかえり〔行き帰り〕 →おうぶく

いきかえる〔生き返る〕 ʔicigeejun

いきぎも〔生き肝〕 namazimu

いきぐるしい〔息苦しい〕 ʔicizirasan

いきごみ〔意気込み〕 /～がよいこと ci-hwee

いきすぎ〔行き過ぎ〕 ʔicisizi

いきすぎる〔行き過ぎる〕 ʔicisizijun

いきずり〔行きずり〕 ʔicisiri/～の ʔicisi-juru

いきちがい〔行き違い〕 ʔiceecizee

いきづまる〔行きづまる〕 ʒiciʔatajun

いきとどく〔行きとどく〕 ʔicitajun

いきどまり〔行きどまり〕 ʒiciʔatai

いきなり →きゅうに

いきぬき〔息ぬき〕 ʔiicigeei

いきのこる〔生き残る〕 ʔicinukujun, sini-nukujun

いきむ ʔicanun, →ʔicanpai

いきもの〔生きもの〕 ʔicimun

いぎょう〔遺業〕 'juʒiri

イギリス ʔincirii, ʔinzirii

いきりょう〔生霊〕 ʔicimabui, ʔicizama

いきる〔生きる〕 ʔicicun/ 生きている人 ʔicicqu

いきわかれ〔生き別れ〕 ʔiciwakari

いきわたる〔行き渡る〕 tuujun

いく〔行く〕 ʔicun, →ʔaʒcun, cuun,

(敬語) ʔimeNʒeeN, meen, moojun,

meNʒeeN, ʔmeNʒeeN, ʔuceeimʒeeN/

～先 ʔikusaci, →ʔaʒkukata/～末 'ju-

kuʒii/ 行きにくい ʔicigatanasan/ 行き

着く所 ʒicikuci/ 行ったり帰ったり

→tuNmuɖujaa/ 行ってしまう ciiʔicun,

いく〔幾〕 ʔiku-

lkeeʔicun

いくかい〔幾回〕 → なんと
 いくさ〔戦〕 ?ikusai, → たたかい
 いくさぶね〔いくさ船〕 ?ikusabuni
 いくじ〔意気地〕 ?iziri/ ～がない bitaraa-sjan, → いくじなし
 いくじなし〔意気地無し〕 bitataimun, daruu, → いくじ, だじゃく/ ～の子 → ?ajaa?uujaa, ?anmaa?uujaa
 いくつ〔幾つ〕 ?ikuçi
 いくにち〔幾日〕 → なんにち
 いくにん〔幾人〕 → なんにん
 いくばん〔幾晩〕 ?ikujuru
 いくひろ〔幾尋〕 ?ikuhwiru
 いくまわり〔幾回り〕 ?ikumaa, ?ikumigui
 いくら cahwi, caqsa/ ～でも caqsan, caqsan kaqsan
 いけ〔池〕 ?ici, kumui/ ～の端 kumuibata
 いけいれん〔胃けいれん〕 kamici, → kamirarijun/ ～の持病のある者 kamirarijaa
 いけがき〔生け垣〕 → kaci
 いけどり〔生けどり〕 ?icidui
 いけばな〔生け花〕 ?icibana
 いける〔生ける〕 ?icijun
 いげん〔威厳〕 kwahwii/ ～のあるさま kwankwan, → おもおもし
 いけんする〔意見する〕 → ?icin, soodan
 いご〔以後〕 ?igu
 いこい〔憩い〕 → きゅうそく
 いこう〔威光〕 hwikari, ?uhwikari
 いこう〔衣桁〕 ?iikaa
 いこう〔憩う〕 → やすむ
 いごこち〔居ごこち〕 ?igukuci
 いこつ〔遺骨〕 kuçi
 いざ dikajo, dii, → さあ/ ～いざ dikadika
 いさい〔委細〕 ?iše, → しょうさい
 いざかい munáo, nanzú → いいあらし
 いざこざ munáoohwindoo, → もんちゃく
 いさみたつ〔勇み立つ〕 ?isamitacun
 いさめる → ?icin, ちゅうこく

いざり〔漁〕 ?izai
 いざりび〔漁火〕 ?izaibii
 いさん〔遺産〕 ?juziri
 いし〔石〕 ?isi/ ～のある小坂 ?isikubiri/ ～の一種 maa?isjaa/ ～の舗道 ?isimici/ ～の門 ?isikabuizoo, ?isizoo
 いじ〔意地〕 ?izi, → かたいじ/ ～があるい → いじわる/ ～ですること → siigane, siiganeesii/ ～のある者 ?izaa, ?izizuu, ?izizuumun/ ～を張る者 gaazuu
 いしうす〔石臼〕 ?isi?uuçi
 いしがき〔石垣〕 ?isigaci
 いしがこい〔石囲い〕 ?isigakui
 いしがっせん〔石合戦〕 miimaraakuu
 いしきりば〔石切場〕 / ～の穴 ?isi?ana
 いしく〔石工〕 ?isizeeku, ?isizeekuu
 いしころみち〔石ころ道〕 ?isikakaraamici
 いしだん〔石段〕 ?isikizai
 いしどうろう〔石燈籠〕 ?isiduuruu
 いしなご ?isinaguu
 いしばい〔石灰〕 ?isibee, sirahwee
 いしばし〔石橋〕 ?isibasi
 いしぼとけ〔石仏〕 ?isibutuki
 いじめる mimizun, siçikijun/ いじめて追い出す ?ibiri?nzasjun
 いしや〔石屋〕 ?isizeeku, ?isizeekuu,
 いしゃ〔医者〕 ?isja
 いしゅ〔意趣〕 ?isju
 いしゅうする〔翹集する〕 guzumujun, → あつまる, たかる
 いしょう〔衣裳〕 ciñeihwada, ?isjoo, (敬語) ?wiisjoo, → きもの
 いじょう〔異状〕 (体の～) sawai
 いじょう〔以上〕 ?wii
 いしょうばこ〔衣裳箱〕 kee, (敬語) 'ncee
 いじる mutahun, → さわる/ いじりまわすさま mutaanhwitaan
 いじわる〔意地悪〕 ?janasimuci, → kunzoo/ 意地悪く邪魔する者 ?akumahukurugi/ ～なことを言うさま miinuciha-

nanuci/ ~な女 giza/ ~者 Yakuma,
kuNzoomuN
いじん[偉人] qcgawaiimuN, suguriNu
いす[椅子] 'ii
いずみ[泉] 'izun, 'waku
いすわり[居すわり] sicitaku, →いつく
いせい[威勢] 'isii/ ~をつける gaajuN
いぜん[以前] hweeku, kuNnagee, →ま
え/ ~から →hweeku, まえまえ
いそいそ 'iisuikaqsui
いそがしい[忙しい] 'icunasan, →たぼり,
いそぎ[急ぎ] 'isuzi, tadeema [せわしい
いそぐ[急ぐ] 'awatijuN, 'isuzun/ 急い
で →soosoo/ いそがせる →せきたてる
いた[板] 'ica, 'ita/ ~のふすま(引戸)
nakabasiru
いたい[痛い] 'januN, →'aqa, 'aqa
いたいたしい[痛痛しい] 'icasan
いたきれ[板切れ] 'icaziri
いたじき[板敷き] 'icadatan, karajuka
いたずら biqsee, ganmari, 'itazira,
-mutaan, 'wacaku, →tiigoo, tiimu-
taan, tiinuganmari, tin cama/ ~した
りからかったりすること biqseekarakee/
~する tibeejuN, 'wacakujuN/ ~っ子
'janawarabi, tin camaa
いただきもの[いただき物] 'utabimisee-
muN, →もらいもの
いたたく kamijuN, 'sidijuN, →はいりよ
う, もらう
いたのま[板の間] karajuka, →いたじき
いたべい[板塀] hwiigaci
いたまえ[板前] hoocuu
いたみ[痛み] →'ucijan
いたむ[痛む] 'itanuN, 'januN, →kami-
rarijuN/ ひりひり~ hwiiracuN/ ~さ
ま hwisihwisi
いためる[痛める] 'jamasjuN
いためる[炒める] 'iricuN, 'tasijuN/ い
ため御飯 'tasijaa'ubun
いち[1・一] 'ici, 'tii, cu-/ ~の糸 'uu-

ziru

いち[市] maci/ ~で一番立派な品 maci-
gasira/ ~のある所(市場) macinumee/
~からの帰り macimuui/ ~の使用料
macigane/ ~の掃除 macisoozi/ ~の掃
除人 macisoozii/ ~のそば macibata
いちいち 'icicici
いちがつ[1月] 'icigwaçi, 'sjoogwaçi
いちげき[一撃] cubaci
いちこ[市子] 'juta
いちご[一期] 'icigu, →いっしょうがい
いちご[苺] 'icubi/ ~の一種 'jama'icu-
bi, taka'icubi
いちごう[1合] 'icigoo [nakamui
いちごうます[1合拵] 'icigoonakamui,
いちざ[一座] cuzaa
いちじ[一字] cuzii
いちじ[一事] cukutu
いちじ[一時] →しばらく/ ~しのぎ 'icu-
tanuhan'si, →han'si/ ~のよろごび 'i-
cutabukurasja
いちじゅん[一巡] cumigui, →ひとまわり
いちぜん[一艦] hunpan
いちぞく[一族] →いちもん
いちだい[一代] 'icidee
いちだいじ[一大事] 'icidannakutu, 'ici-
deezi, 'icidennakutu, 'icikuuweekutu
いちだん[一団] →ninzu
いちだん[一段] / ~と 'icidantu, →いっ
そう/ ~とよいこと 'icidannakutu
いちだんらく[一段落] katamadooci
いちど[1度] 'icidu, →どうじ
いちにち[1日] hwiqci, 'icini/ ~お
き hwiqciigusii/ ~がかりの畑仕事
hwiqciibaru/ ~がかりの仕事 hwiqci-
sikuci
いちにちじゅう[一日中] hwizuu, →hwi-
qciijuqci, しゅうじつ
いちにねん[1, 2年] cututatu

いちにまえ〔一人前〕 YiciniNmee
 いちねん〔1年〕 cutu, YiciniN/ ~おき cutugusi/ ~ 目の誕生日 tankaa
 いちねんじゅう〔1年中〕 niNzuu
 いちば〔市場〕 →いち
 いちばん〔一番〕 YicibaN, YiqciN, muqtuN
 いちばんざしき〔一番座敷〕 YuhuYuzaa
 いちばんどり〔一番鶏〕 YicibaNdui
 いちぶん〔一分〕 Yicibun
 いちまい〔一枚〕 Yicimee, →cuciri/ ~ 着たきりであること Yicimeemaaminukaa/ ~ しかない着物をきちんと着ること Yicimeehwiqpai
 いちまん〔1万〕 Yiciman
 いちまんがん〔1万貫〕 (銭) YicimaNgwan
 いちもくさん〔一目散〕 YiqsaN, YiqsaNbaae, kusuciribai
 いちもん〔一門〕 cutaruka, cutaruki, YicimuN, muNcuu, →muti, 'Ncaantiigi, Yweekaharoozi/ ~ で行なり清明祭 YicimuNYusiimii/ ~ の集会 →しんぞくかいぎ/ ~ の墓 muNcuubaka
 いちもんめ〔1匁〕 YicimuNmi
 いちや〔一夜〕 kujuru
 いちやつくさま taqkwaimuqkwai, taqci-kaimuqçikai
 いちよう〔胃腸〕 →hwii/ ~ が弱い hwii
 いちよう〔銀杏〕 haberubaa [joosaN
 いちり〔1里〕 Yiciri
 いちりづか〔1里塚〕 Yicirizika, →çinmaa-
 いちりん〔1厘〕 guNzuu [saa
 いちりんせん〔1厘銭〕 miihugaa, →Yakazinaa, kurukanii, sjoozinaa, sjooziN
 いちれい〔一礼〕 Yicirii
 いちわ〔1羽〕 cuhwani
 いつ〔何時〕 Yiqi, canutuci/ ~ か Yiqika/ ~ ごろ Yiqiguru/ ~ も caa, →しじゅう, にちや, ふだん/ ~ も…する →YaqcuN
 いつ〔五〕 Yiqi-
 いつか〔五日〕 gunici

いっか〔一家〕 cinee, cucinee, cujaa/ ~ 中 cinezuu, cujaaniNzu
 いっか〔一荷〕 cukatami
 いっかい〔1回〕 cukeen, Yicinukezi
 いっかしょ〔1箇所〕 cutukuma, cutukuru
 いっかぞく〔一家族〕 →いっか
 いっかん〔1貫〕 (銭) Yiqkwan
 いっきょく〔1曲〕 cuhusi
 いっきん〔1斤〕 YiqciN 「すわり
 いつく〔居付く〕 'iiqicuN, 'jaaçicuN, →い
 いっけん〔1軒〕 cujaa, →mucicirijaa
 いっこく〔一國〕 cukuni
 いっさい〔一切〕 Yiqsai, maziri, →のこらず/ ~ 合切 Yarukasiruka, YarumuN-
 neeNmuN
 いっさくさくねん〔一昨昨年〕 'jutu
 いっさくじつ〔一昨日〕 →おととい
 いっさくねん〔一昨年〕 'Neu
 いっさくぼん〔一昨晚〕 cinuunujuru
 いっしき〔一式〕 cukusai
 いっしゃく〔1尺〕 Yiqsjaku, →siqkaku
 いっしゃく〔1勺〕 Yiqsjaku
 いっしゅう〔一周〕 cumigui, →ひとまわり
 いっしゅうき〔一周忌〕 'inui/ ~ と3年忌 'wakaYusjuukoo
 いっしょ〔一緒〕 cukusai, YiqtiN, mama, mazun, mazuun, →ぐるみ, もろとも/ ~ くだ Yusjaamaatuu/ ~ に mazun, mazuun, suriti/ ~ にする Yusaasjun, Yusjaasjun/ ~ になる Yusaajun, Yusaajun
 いっしょう〔1升〕 Yiqsjju, →cuwakasi/ ~ だきの鍋 Yiqsjudaci/ ~ はいるとっくりに cuwakasjaa 「→いちご
 いっしょうがい〔一生涯〕 Yicimitutuumi,
 いっしょうけんめい〔一生懸命〕 →いのちがけ
 いっしょうびん〔1升瓶〕 cuwakasjaa
 いっしょうます〔1升枘〕 cooban
 いっしょく〔1食〕 coosii, huNpaN/ ~ の

いっ

まかない huNpaNzikanee

いっす[逸す] -hazakijun, -hazikijun, →

いっすん[1寸] ʔiqʃin [のがす

いっせん[1銭] guhjaaku/ ~1厘 gu-
ljaakugunzuu/ ~2厘 mukumui, duq-
peku, ruqpeku, ruqpjaku/ ~3厘 áuq-
pekugunzuu, ruqpjakugunzuu/ ~4厘
nanakumui/ ~5厘 nanakumuigun-
zuu/ ~6厘 'jakumui/ ~7厘 'jakumu-
igunzuu/ ~8厘 kukunukumui/ ~9厘
kukunukumuiGUNZUU

いっそ tutin, →むしろ

いっそう[1艘] ʔiqsuu

いっそう[一層] 'juku, 'jukun, →いちだ

んと, さらに

いっそん[1村] cumura

いったん[1反] ʔiqtaN, →nanahwiru,

nanahwirUNnaakari

いっちょうら[一張羅] →ʔicimeehwiqpai,

いっつ[五つ] ʔiçiči [きたきりすずめ

いっつい[1対] ʔiççii

いっつけ[居続け] zurinujaagumai

いっつける[居続ける] →kumajuN, いら

いって[一手] cuti [びたる, りゅうれん

いってき[一滴] cutai

いってつもの[一徹者] →がんこもの

いってんばり[一点張り] →zuku, いっぺ

んとう/ ~の者 →zukuu

いっと[1斗] ʔiqtu

いっとう[一刀] cukatana

いっば[1羽] cuhwani

いっばい[一杯] mii, miqcaakan, zinbai,

zinbai, zisaqtu, zunbai, →cucawan,

cumakai, cusakaçici, cutaagu, たくさ

ん, みたす, みちる/ ~ないこと 'joonci/
~のお茶 →tiiçizaa/ ~の荷物 zinbainii

いっばいきげん[一杯機嫌] saahuuhuu

いっばんに[一般に] namiti, →ふつう

いっびき[1匹] ʔiqpici/ 布~ nitançirug-

gi

いっびつ[一筆] cuhudi

いっびょう[1俵] ʔiqpjuu

いっびん[一品] cusina

いっぺんとう[一辺倒] →いってんばり/ ~

となる hwiqkatançun

いっほ[1歩] cuhwisja

いっほう[一方] cukata, →かたほう/ ~

に偏すること ʔiqpoonkee

いっほん[1本] cumutu, ʔiqpuN

いっほんまつ[一本松] ʔiqpuNmaaçi

いづらい[居づらい] duumucigurisaN

いつわり[偽り] ʔiçiwai, →うそ

いでたち ʔNzitaci

いでん[遣伝] 'juziri

いと[糸] ʔiicuu/ ~の一種 →hutagu

いど[井戸] kaa, kawa, →tamamizi/
~さらえ kaasaree/ ~の一種 çiiçaa,

hwiizaagaa, kurumagaa, niibugaa

いとう[厭う] ʔitujun, →いやがる, きら

いとときりば[糸切歯] ciiba しう

いとぐるま[糸車] 'jaama

いとこ[従兄弟・従姉妹] ʔicuku

いとこおじ[従兄弟小父] ʔicukuuzasaa

いとこおば[従姉妹小母] ʔicukuubamaa

いとしご[愛し子] →あいじ

いとなみ[営み] ʔitunami

いとまごい[暇乞い] ʔitumagwii

いとまん[糸満](地名)/ ~の者 →manku-

usjuu

いどみかか[挑みかか] sikakajun

いとやなぎ[糸柳] ʔitujanazi

いないいないばあ tooruwaa, →tooru

いなおる[居直る] 'iinoojun

いなか[田舎] ʔinaka/ 都に近い~ cika-

ʔinaka/ ~ことば ʔinakakutuba/ ~育

ち ʔinakasudaci/ ~の人 ʔinakançu/
~風 ʔinakahuuzi/ ~回り ʔinakamaai

いなかもの[田舎者] ʔinakaa

いなご[蝗] ʔNnaguraaçee, çee

いなずま[稲妻] hudii

いなびかり〔稲光り〕 hudii
 いなむら〔稲藪〕 maziN, ?NnimaziN
 いぬ〔犬〕 ?iN, (小児語) ciicaa, 'wan-waN, 'wauwau/ ~と猫 ?iNmajaa, ?iNmaju/ ~の長鳴き tacinaci/ ~の鳴き声 'wauwau/ ~をなだめる声 →?wee-ka?weeka/ ~を呼ぶ声 ciicaaciicaa
 いぬ〔戊〕 ?iN
 いぬびえ〔植物名〕 minbutukii
 いぬまき〔植物名〕 caagi/ ~の柱 caagi-baaja
 いね〔稲〕 ?Nni, →siracani/ ~の種まき taNtui/ ~の品種の名 koozaa, kuruca-ni, →siracani
 いねかり〔稲刈り〕 ?Nnikai
 いねむり〔居眠り〕 'iiniibui, →うたたね
 いねん〔遺念〕 ?inin
 いのゑし〔織機具名〕 ?ijanuqkwa
 いのしし〔猪〕 'jamasisi, →?aqpajamasisi/ ~の肉 'jama?aqtami, 'jamasisi
 いのししもどき〔料理名〕 ?inamuduci
 いのち〔命〕 ?inuci, nuci, →mumuci/ ~が縮まる →nuciziru/ ~の緒 nuciziru/ ~の恩 nucinuuN/ ~の恩人 nucinu?uja/ ~の薬 nucigusui/ ~の洗濯 nucinusintaku/ ~を救うこと nucida-siki
 いのちがけ〔命がけ〕 nucikaziri, nucitukakugaa/ ~でかかる hatijun/ ~の働き nuciciribataraci/ ~の仕事 nucisiti-waza 「nucisita, nucisitimun
 いのちしらず〔命知らず〕 hatii, hatimun,
 いのちびろい〔命拾い〕 →nucigahuu, nucinuhuu/ ~の祝い nucinugusjuuzi
 いのつめ〔織機具名〕 ?ijanuqkwa
 いのまま〔意のまま〕 →おもいどおり/ ~にする →marumijun
 いのり〔祈る〕 ?inujun, →おいのり, おがむ/ ~時の声 ?aatootu, tootu, ?uu-tootu

いはい〔位牌〕 ?ihwee, ?iihwee, diiziN, riiziN, (敬語) ?u?iihwee, guriiziN, →tootoomee/ ~の一種 siru?iihwee
 いばしょ〔居場所〕 'uizu
 いばら〔茨〕 sarakaci 「gaaimun, ?ibajaa
 いばる〔威張る〕 ?ibajun/ いばっている者
 いびき / ~をかく →hucun
 いふきょうだい〔異父兄弟〕 ?iceecodee
 いぶすき〔指宿〕 (地名) ?ibusuci
 いぼ kuçubi, buqtuu, →うおのめ/ ~いぼ buqtuuhiwtuu
 いま〔今〕 nama/ ~ごろ kunija, nama-guru, namazibun/ ~に nama
 いま〔居間〕 nakamee, ?imeeza
 いまいましそう / ~にすること biqsuu/ ~な口つき biqsuuguci
 いましがた namagata, namasaci, →さつき
 いましめ〔戒め〕 ?imasimi, →くんかい
 いまだに〔未だに〕 namadii, →まだ
 いみ〔意味〕 cimuee, ?imi, 'waciek, 'waki, 'wakiek
 いみ〔忌〕 ?imi
 いみあけ〔忌み明け〕 ?imi?aki
 いも〔芋〕 →各品種の名を見よ
 いもうと〔妹〕 'winagu?uqtu, →?umi-nai, ?umiqtu, ?umiqtuu, ?uqtu, ?uqtuunai, 'unai
 いもじょうちゅう〔いも焼酎〕 ?Nmuzaki
 いもの〔銚物〕 ?imun
 いもり sjoozimajaa, sjoozimujaa
 いや〔否・嫌〕 'Nba, 'NNba, 'NNpa, Npa, -Npaa, →bee, beeru, いいえ/ ~というほど 'Nzadi/ ~な 'jumu- 'juN-, →'jana-/ ~な声 'janagwii/ ~な叫び声 'jana?abii/ ~なにおいがする 'jungusasaN/ ~な人間 'janagataa/ ~な目 'janamii/ ~なやつ 'janamun/ ~に強情なこと (~に強情なもの) 'janasiqpa/ ~になる nirijun

いや

いやいやながら →'npaanppaa/ ~すること
 と ꝑacihatisii, sararaNsii/ ~の仕事
 ꝑacihatisigutu
 いやがらせ →siiganeē siiganeesii
 いやがる〔嫌がる〕 nisabujun, →いとら,
 きらう/ ~こと 'Nba, 'NNba, 'Nnpa,
 'Npa, -Npaa, 'Npaanppaa
 いやがる〔居やがる〕 'isikajun
 いやしい〔卑しい〕 kaziraasjan, zibita,
 →げひん, ひわい / ~職業 'janawaza
 いやはや saqtimu, saqtimusaqtimu
 いやらしい hagoosan/ ~者 hagoonun
 いらいら ꝑasigacinoori, sikasika, →い
 らだつ, じれったい
 いらか〔薨〕 ꝑirica, →かわら
 いらだち cimupasigaci
 いらだつ ꝑasigacun, →いらいら
 いらっしゃる ꝑimeen, ꝑimeNṣeen, me-
 nseen, ꝑmeNṣeen, ꝑuceeimiṣeen, ꝑu-
 ceenṣeen/ ~こと ꝑimee, mee
 いらあい〔入相〕 ꝑiricee/ ~の鐘 kuzimi
 いらこむ〔入り込む〕 hweeriNcun, sici-
 kunun
 いらどうふ〔炒り豆腐〕 toohuꝑirici
 いらびたる〔入りびたる〕 hwirikumajun,
 hwirikunun, 'jaati sjun, →いつづける
 いらふね〔入船〕 ꝑirihuni
 いらふねほっけ〔入船祝〕 ꝑirihuniꝑuiwee
 いらむこ〔入婿〕 ꝑirimuuku, ꝑirimuukuu,
 →ようし
 いらめ〔入目〕 ꝑikuri, ꝑirimi, munuꝑiri-
 mi, →ししゆつ, しゆっぴ, ひよう
 いらよう〔入用〕 ꝑirijuu, →ひつよう
 いる〔居る〕 'un, (敬語)ꝑimeNṣeen,
 meeN, meNseen, ꝑmeNṣeen, ꝑuceei-
 miṣeen/ 居合わせること 'iiee
 いる〔入る〕 ꝑijun
 いる〔要る〕 ꝑijun
 いる〔炒る〕 ꝑiricun
 いる〔射る〕 ꝑijun

いるい〔衣類〕 cincihwada, cincirukaa,
 cirumun, ꝑisjoochhwada, →きもの
 いるか〔海豚〕 hwiitu
 入れかえる〔入れかえる〕 ꝑirikeejun/ ~
 さま tatikeeꝑirikee
 入れがみ〔入れ髪〕 ꝑirigan, →かもじ
 入れかわる〔入れ代わる〕 ꝑiricigajun
 入れこ〔入れ子〕 ꝑiriku
 入れずみ〔入れ墨〕 hazici
 入れめ〔入れ目〕 →ぎがん
 入れもの〔入れもの〕 ꝑirimun
 入れる〔入れる〕 ꝑirijun/ 入れたまま ꝑi-
 ritakii
 いろ〔色〕 ꝑiru/ ~が美しい ꝑiruzurasan/
 ~つやが出る haneecun/ ~の黒い人
 →'jacifusi/ ~を失う →ꝑirusjumoosju,
 ꝑirusoomoosoo
 いろ〔情婦〕 →じょうふ
 いろあげ〔色あげ〕 ꝑirunoosi/ ~をする
 hweesjun
 いろいろ ꝑiruꝑiru, ꝑirukaꝑi, →さまざま
 / ~な ꝑirunna/ ~やってみること sijoo-
 mujoo
 いろろう〔慰勞〕 kutandinoosi
 いろか〔色香〕 ꝑiruka
 いろごのみ〔色好み〕 ꝑiruꝑici
 いろどり〔色どり〕 ꝑirudui, →はいしょく
 いろわけ〔色分け〕 ꝑiruwaki, →くべつ
 いわ〔岩〕 ꝑiwa, sii, →おおいわ
 いわい〔祝い〕 →おいわい
 いわし〔鯛〕 mizun
 いわれ ꝑiwari, →わけ
 いん〔印〕 han, ꝑin, →ꝑiibiban, 'jama-
 ꝑin, ꝑiꝑin
 いんが〔因果〕 ꝑingwa
 いんきょ〔隠居〕 ꝑincu
 いんけい〔陰茎〕 mara, soo, tani, (小兒語)
 cuucuu 「kumaami
 いんげんまめ〔隠元豆〕 ꝑinzinmaami, ꝑu-
 いんせき〔姻戚〕 gweesici, tuzikata, 'wi-

nagunukata, →'inbici, さとかた, は
はかた
インド〔印度〕 →tinziku
いんどうそう〔引導値〕 tihwiciboozi
いんとく〔陰徳〕 ?intuku

いんのう〔陰養〕 hugui
いんぶ〔陰部〕 hazi, mee, hoo
いんもう〔陰毛〕 kuugi 「nunmizi
いんりょうすい〔飲料水〕 numimizi,
いんれき〔陰曆〕 ?ucinaagujumi

う

う〔卵〕 ?uu
ういきょう〔植物名〕 ?wiicoo 「cingwa
ういご〔初子〕 ?wiingwa, ?wiingwahwa-
ういろもち〔外郎餅〕 ?uiroomuci
ううん 'NNNN
うえ〔上〕 ?wii, →かみ/ ~の段 ?wiidan/
~の方 ?waara, ?wiimuti, →?wiikata/
~を下への大騒ぎ →?urijookurijoo/
~を向いている者 ?ucagaa, ?ucagee
うえ〔飢え〕 'ugari, →'jaasan/ ~の苦し
さ 'jaasakurisja
うえきばち〔植木鉢〕 hanabaaci
うえした〔上下〕 ?wiisica, →じょうげ
うえじに〔飢え死に〕 'jaasazini
うえぼうそう〔植癒瘡〕 zitoo
うえる〔植える〕 ?wiijun
うえる〔飢える〕 'ugarijun, →'jaasan, は
ら/ 飢えた者 'ugarimun
うお〔魚〕 →さかな
うおいちば〔魚市場〕 ?ijumaci
うおうさおう〔右往左往〕 tioosao
うおのめ〔魚の目〕 ?ijunumii
うかがう〔伺う〕 'jusurijun, ?ukagajun
うかされる〔浮かされる〕 ?ukasarijun
うかぶ〔浮かぶ〕 →うく
うかべる〔浮かべる〕 ?ukabijun, ?ukijun
うき〔浮き〕 ?uki
うきあがる〔浮き上る〕 ?ucagajun
うきうきする〔浮き浮きする〕 ?ukasarijun
うきぐさ〔浮草〕 ?ucigusa

うきたつ〔浮きたつ〕 ?ucitacun
うきな〔浮名〕 ?ucina
うきよ〔浮世〕 ?uciju, →げんだい, このよ
うく〔浮く〕 ?ucun, ?uqoorijun, ?ukabu-
N/ 浮いて広がる tanabicun
うぐいす〔鶯〕 ?uguisi, →coqcongwa/
~の鳴き声 huuhucico, huuhwiqcoo
うけいれる〔受け入れる〕 tui?ukijun
うけおいしごと〔請け負い仕事〕 ?ukisikuci
うけおう〔請け負う〕 ?ukijun
うけこたえ〔受け答え〕 ?ukihwintoo, ?i-
caihaneai, ?ukihansi
うけたまわる〔承る〕 'ugancumijun
うけとめる〔受け止める〕 ?ukitumijun
うけとり〔受け取り〕 ?ukidui
うけとりにんばらい〔受取人払い〕 mukoo-
baree
うけとる〔受け取る〕 ?ukitujun
うけもち〔受け持ち〕 ?ukimuci
うけもつ〔受け持つ〕 ?ukimucun
うける〔受ける〕 ?ukijun, →koomujun,
(敬語)→ ?uuki
うご〔雨後〕 ?amihuinu?atu
うごく〔動く〕 ?nzucun, ?wiicun, → ?a-
qcun, kugeejun/ ~こと → kugee, ku-
gee/ 動き回ること ?nzucaahaqtaí,
?nzucihai 「dui
うこつけい〔烏骨鶏〕 hukugaa, hukugaa-
うこん〔植物名〕 ?ucin
うさぎ〔兎〕 ?usazi

うさ

うさん〔胡散〕 ?usan, →ふしん(不審)
 うし〔牛〕 ?usi, (小児語) moomoo, ?uusiimoomoo/ ~の鳴き声 'Nmoo/ 突くせのある~ kamijaa?usi
 うし〔丑〕 ?usi
 うじ〔氏〕 ?uzi
 うじ〔蛆〕 ?uzi
 うしあわせ〔牛合わせ〕 ?usi?aaasi/ ~する場所, →とうぎゅうじょう
 うしお〔潮〕 sjuu, sjuutaci, ?usju.
 うしかい〔牛買い〕 ?usibakujoo
 うしごや〔牛小屋〕 ?usinuja
 うしとら〔丑寅, 良〕 ?usitura 「dii
 うしなう〔失う〕 ?usinajuN/ ~こと→-ma-
 うじゃうじゃ gwasagwasa, muzarakwazara, muzurumuzuru
 うしろ〔後〕 kusi, kusjaa, sirii, →あと/
 ~へさがるさま ?atunainai
 うしろあし〔後足〕 ?atubisja
 うしろすがた〔後姿〕 ?usiruhuuzi
 うしろだて〔後楯〕 (敬語) mikusidaci
 うしろで〔後手〕 /~にしぼる →tii
 うす〔白〕 ?uusi, →きらす, つきらす, ひきらす/
 ~の目立てをする者 ?uusi?arasjaa
 うすあかり〔薄明り〕 →はくめい
 うすあじ〔薄味〕 ?ahwaguci
 うすい〔薄い〕 ?ahwasan, ?aqsan, ?asasan,
 hwiqsan, hwişisan, ?uşisan/ ~布地 →hwişibataa/
 ~もの hwişii/ 薄物を通して見える物のかけ
 hwişikaa-gaa/ 薄くなる hwişijun, →?ahwa-
 geejun, ?ahwageerijun
 うすい〔雨水〕 ?uşii
 うすうす〔薄薄〕 ?usu?usu, →かすか
 うずうず muzumuзу
 うすぎたない〔薄ぎたない〕 miizitanasan,
 saahagoosan/ 薄ぎたなくなる 'winca-
 jun

うすきみがわるい〔うす気味が悪い〕 'joo?u-
 sumasjan, saahagoosan, →きみがわるい
 うすぐらい〔薄暗い〕 ?usugurasan, →ci-
 mugurasan/ 薄暗くなる kurazoorijun
 うすべり ?usimaci
 うずまきはなび〔うず巻き花火〕 gaNsina-
 gwaahjooacaku
 うずまる〔埋まる〕 ?uzumujun, →うずも
 れる
 うずみび〔うずみ火〕 ?uzuNbii
 うずめる〔埋める〕 ?Nbeejun, ?uzunun
 うずもれる〔埋もれる〕 ?uzumurijun, →う
 ずまる
 うすよごれする〔薄よごれする〕 'winca-
 うずら〔鶉〕 ?uzira]jun
 うすらさむい〔うすら寒い〕 şiibiisan
 うすわらい〔薄笑い〕 namawaree, ?usuwa-
 ree 「り, おおうそ
 うそ〔嘘〕 'jukusi, 'jukusimunii, →いつわ
 うそつき 'jukusimuniisjaa, →hjaku?icii
 うた〔歌〕 ?uta/ ~で諷刺すること ?uta-
 gaki/ ~のうまい者 ?utaguci/ ~や三
 味線 ?utasansin/ 詩歌・音曲の名など
 ?ajagu, çirani, guzinhuu, hama-
 ciduribusi, ha?uta, hwa?uta, hweei-
 ?uta, ?icinkuduci, ?imahuu, kazadi-
 huubusi, kuduci, kunzansabakui, ku-
 rusimakuduci, kutibusi, kweena, mi-
 ci?uta, mucicicaa?uta, naga?ihjabusi,
 nakaguşikuhantameebusi, nakahuu,
 nubuikuduci, qkwamucaabusi, qkwa-
 mujaa?uta, mici?uta, ruuka, siciku-
 duci, tabikuduci, ?uhubusi, ?uhuguşi-
 kugweena, ?umui, ?umuigweena, ?u-
 muru, ?un nabusi, ?urizingweena
 うたい〔歌い手〕 ?utasjaa
 うたう〔歌う〕 ?utajun, →?uta

うたがい〔疑い〕 *ʔutagee* 「んぎ
 うたがう〔疑う〕 *ʔutagajun*, →はんしんは
 うたたね〔うたた寝〕 *turuturuuninzi*, →い
 ねむり/ ~する *turumikasjun*
 うち〔内〕 *ʔee, maadu, ʔuci/* ~と外 *ʔuci-
 huka*
 うちあける〔打ち明ける〕 *ʔuciʔakijun*
 うちあわせ〔打ち合わせ〕 *cirree*, →そりだん
 うちあわせる〔打ち合わせる〕 *ʔucaasjun*
 うちうち〔内内〕 *neenee/* ~の相談 *ʔuciso-*
 うちうみ〔内海〕 *ʔuciʔumi* [odaN
 うちかける〔打ち掛ける〕 *ʔuqcakijun*
 うちき〔内気〕 /~である *cimuguusan/* ~
 な者 *cimuguumun*
 うちきん〔内金〕 *ʔuciba*
 うちぬく〔撃ち抜く〕 *ʔirihugasjun*
 うちべんけい〔内弁慶〕 *ʔjaaʔizaa*
 うちまくる〔撃ちまくる〕 *ʔiritubasjun*
 うちまたごうやく〔内股膏薬〕 *ʔirataaaca*
 うちみ〔打ち身〕 *ʔucici*
 うちもも〔内もも〕 *ʔucimumu*
 うちわ〔団扇〕 *ʔoozi, ʔuciwa, ʔuciwaʔoozi*
 うちわ〔内輪〕 *ʔuciba, ʔuciwaa*, →ないじ
 ょう/ ~の事 *ʔucigutu*
 うちわた〔打ち綿〕 *ʔucibana, ʔuciwata*
 うつ〔打つ〕 *ʔatijun, ʔucun*, →たたく,
 なぐる
 うつ〔討つ〕 *ʔucun*
 うつ〔撃つ〕 *ʔijun*
 うっかり *ʔukaitu, ʔukaqtu/* ~できない
ʔooʔusumasjan/ ~者 *sicasjoonugaa,*
ʔukaqtuu, ʔuqkaa, →そこつ
 うつくしい〔美しい〕 *curasan, ʔuziraasi-*
gisan, ʔuziraasjan, →cura-, きれい/
 ~おぐし *curaʔuncoobi/* ~着物 *cura-*
zin/ ~もの *curaa/* ~装い *curasugai*,
 (敬語) *curaʔwiisugai*
 うつけつ〔鬱血〕 *ciihai, ciihainiihai*
 うつし〔写し〕 *hwiikee, ʔuʔusi*
 うつす〔移す〕 *ʔuʔusjun*, →ʔutijun

うつす〔写す・映す〕 *ʔuʔusjun*
 うったえ〔訴え〕 *ʔuqtai*, →そしょう
 うったえる〔訴える〕 *ʔuqteejun*
 うっちゃらかす *ʔuqceerakasjun, ʔuqtee-*
rakasjun, ʔuqteerakijun/ ~こと →
ʔitihoorii
 うっちゃる *cannagijun, ʔuqcaŋgijun*,
 →すてる
 うって〔討手〕 *ʔuqti*
 うってかわる〔うって変わる〕 *ʔucikawajun*
 うつぶす *ʔuqʔincun* [jun
 うつぶせ *ʔuqʔintuu/* ~にする *ʔuqʔinki-*
 うつむく *ʔuqʔincun/* ~こと *ʔuqʔintuu/*
 うつむいている者 *ʔuqʔintuu*
 うつりかわり〔移り変り〕 *ʔuʔirikeei*
 うつる〔移る〕 *ʔuʔijun*
 うつる〔写る・映る〕 *ʔuʔijun*
 うで〔腕〕 *ʔudi*, →tii, かいな/ ~の力 *ʔu-*
dizikara/ ~の太い者 *hwizigeemagii*
 うでじる〔茹で汁〕 →ゆでる
 うでずもる〔腕ずもる〕 →ʔudi
 うでつぶし〔腕つぶし〕 *hwizigee, hwizi-*
kee, tibusi, →わんりょく
 うてな〔台〕 *ʔutina*
 うでまえ〔腕前〕 *tinami*, →さいのり/ ~が
 上であること *tiiʔwii* [kwa.
 うでまくら〔腕枕〕 *ʔudimakura, ʔudimaq-*
 うでまくり〔腕まくり〕 →ʔudiʔagisudiʔagi
 うでる〔茹でる〕 →ゆでる
 うてん〔雨天〕 *ʔutin*, →あめふり
 うとうと *turuturu*
 うどのたいぼく〔うどの大木〕 *buragee,*
garagwaamagii
 うどん *cirimuzi*
 うなぎ〔鰻〕 *ʔnnazi*
 うなされる *ʔnbiijun, ʔusaarijun*
 うなじ〔項〕 *kazi, kazigaa, kubigaa*, →
ʔnnazi, ʔusiru
 うなだれる〔項垂れる〕 *ʔuqʔincun/* ~こ
 と *ʔuqʔintuu*

うな

うなる →duunii 「rasju
うに〔雲丹〕 gacicaa/ ~の塩辛 ciiruka-
うぬぼれ duuʔagami, duuʔujamee
うぬぼれる najagajun/ うぬぼれた者 na-
うぬめ〔采女〕 guʃikuncu ʔjagaimun
うのはな〔卵の花〕 toohunukaʃi
うば〔乳母〕 ʔanmee, ciiʔan, ciiʔanmee,
ciiʔuja, →ʔanaa 「karakee
うばいあい〔奪いあい〕 baakee, →baakee-
うばいとる〔奪い取る〕 kunsugujun, kun-
tujun, ʔnbaitujun, ʔwiiʔutusjun, →
とる
うばう〔奪う〕 boojun, ʔnbajun, →とる
うぶぎ〔産着〕 ʔnbuzin
うぶげ〔産毛〕 →hukugii
うぶぞり〔産剃り〕 boozinadii
うぶたちのいわい〔産立の祝〕 mansan
うぶゆ〔産湯〕 ʔnbujuu
うま〔馬〕 ʔnma, (小児語) ʔnmaʔnmaa,
→haiʔnma, niiʔuusaa, nuiʔnma/ ~の
口にかける袋 ziibu/ ~の鳴き声 miiha-
haa, miihaahaa/ ~の腹帯 harabi, ha-
rubi
うま〔午〕 ʔnma/ ~の方角 ʔnmanuhwa
うまい maasan, →baci, zoozi, おいし
い/ ~もの maasamun/ りまく行く dika-
sjun, dikijun/ りまく行かない ʔjandi-
jun/ りまく行くこと dikasi/ りまくやる
siinasjun/ りまそりに maakumaaku
うまうまと ʔamakutaraku
うまごや〔馬小屋〕 ʔnmanujaa
うまのり〔馬乗り〕 matanui, ʔnmanui,
ʔnmanujaa
うまや〔厩〕 ʔnmanujaa
うまる〔埋まる〕 ʔuzumujun, →りずもれる
うまれ〔生まれ〕 ʔnmari, →すじょう/ ~が
高い ʔnmaridakasan, →saadakaʔnma-
ri

うまれかわる〔生まれ変わる〕 ʔnmarikaa-
jun
うまれこきょう〔生まれ故郷〕 ʔnmariku-
coo, →ʔnmarizima, こきょう
うまれつき〔生まれつき〕 ʔnmarizici, →そ
しつ, てんぶん! ~の心 ʔnmarizimu/
~の性質 ʔnmarisjoosiçi
うまれる〔生まれる〕 ʔnmarijun, (敬語)
ʃidijun, →ʔuqtu/ 生まれた年 ʔnma-
ridusi, sjoonin, (敬語) guʃjooonin/ 生
まれた日 ʔnmaribii, →tankaa
うみ〔海〕 ʔumi, →tukee, tunaka, ʔuutu/
~の歩いて渡れるところ sjuuwatai
うみ〔臍〕 ʔnmi, ʔuncu, sigaziru
うみおとす〔産み落す〕 nasiʔutusjun, →
りむ, しゅっさん, ぶんべん
うみかぜ〔海風〕 ʔumikazi
うみがめ〔海亀〕 ʔumigaamii
うみづき〔産み月〕 nasizici, sanʒici
うみのおや〔産みの親〕 nasiʔuja
うみのこ〔産みの子〕 nasigwa, nasimun-
nuqkwa, sjoonɡwa
うみへ〔海辺〕 ʔumibata
うみまつ〔海松〕 ʔumimaaçi
うむ〔産む〕 nasjun, (敬語) →ʃidasjun,
ʔuqtu, しゅっさん, ぶんべん/ 産み終わ
る nasiʔagajun/ 産み育てること nasi-
sudati/ 産みふやすこと nasihwirugi
うむ〔臍む〕 ʔnbeejun, ʔnnum/ 臍んでく
うめ〔梅〕 ʔnmi ʔずれる ʔnmaikucun
うめきごえ〔うめき声〕 / ~を発するさま
うめく →duunii ʔ→duuniikamanii
うめしゅ〔梅酒〕 ʔnmizaki
うめぞめ〔梅染〕 ʔnmizumi
うめたてち〔埋立地〕 gata
うめぼし〔梅干〕 ʔnmibusu
うめる〔埋める〕 ʔnbeejun, ʔuzunun
うやまう〔敬う〕 ʔujamajun, ʔusurijun,
→とるとぶ/ ~こと ʔusuri

うようよ gwasagwasa, mujamuja
 うら〔裏〕 sirii, ʔura/ ~から言うこと ʔu-
 ranucimunii, ʔuranucimunuʔii
 うら〔末〕 →こずえ
 うらうち〔裏打ち〕 ʔuraʔuci/ ~する →
 うらおもて〔裏表〕 ʔuraʔumuti 〔ʔura
 うらがえし〔裏返し〕 keesimaa, ʔuraʔu-
 muti
 うらがえず〔裏返す〕 ʔuqceesjuN, ʔura-
 geesjuN, →ひっくりかえず/ ~さま ʔu-
 QeechwiQcee
 うらがえる〔裏返る〕 ʔuqceejuN, ʔuragee-
 juN, →ひっくりかえる
 うらがなしい〔うら悲しい〕 cimucaagana-
 san/ ~こと ʔuraçirasa
 うらぎる〔裏切る〕 ʔuqceejuN
 うらざしき〔裏座敷〕 ʔuraça
 うらさびしい〔うら寂しい〕 cimusikaraa-
 san, kukutirusan, →ものさびしい
 うらじ〔裏地〕 ʔurazi
 うらど〔裏戸〕 subedu
 うらない〔占い〕 ʔuranee, →tuci, tucitui,
 tuciʔura, えき
 うらなり〔末成り〕 simunai, suuranai
 うらはら ʔurahara, →さかさま
 うらべや〔裏部屋〕 →kuui
 うらぼんえ〔盂蘭盆会〕 →ぼん
 うらみ〔恨み〕 ʔurami
 うらむ〔恨む〕 ʔuranun, →niitasan
 うらめしい〔恨めしい〕 niitasan, →rami-
 sja
 うらもん〔裏門〕〔敬語〕 ʔuzoogwaa
 うらやましい ʔureemasana/ うらやましそ
 うに見る manzuN
 うり〔瓜〕 ʔui
 うりあげだか〔売り上げ高〕 ʔuidaka
 うりざね〔瓜実〕 ʔunzani
 うりさばく〔売りさばく〕 ʔuisabacuN
 うりふたつ〔瓜二つ〕 çiratiiçi, →そっくり
 うりもの〔売りもの〕 ʔuimun

うる〔売る〕 ʔujuN
 うるうづき〔閏月〕 ʔjunzici, ʔuruzici
 うるうどし〔閏年〕 ʔurudusi
 うるおい〔潤い〕 ʔurii
 うるごめ〔粳米〕 →うるち
 うるさい ʔjanagamasjan, ʔjungasima-
 sjan, kasimasjan, mincasan, mimi-
 gasimasjan, →さわがしい, やかましい
 うるし〔漆〕 ʔurusu
 うるしぬり〔漆塗り〕 ʔurusinui, →しっき
 うるしまけ〔漆負け〕 ʔurusimaki
 うるち〔粳〕 sakugumi, sakumee
 うれい〔憂い〕 ʔurii
 うれいくるしむ〔憂い苦しむ〕 →ʔucikuri-
 sja
 うれしい〔嬉しい〕 hukurasjan, ʔuqsjan,
 →ʔuugutu, たのしい, よろこび/ ~こと
 悲しいこと ʔuqsjanaçikasja/ うれしそ
 うである ʔuqsjagisan/ うれしそらな
 さま ʔuqsjaʔuqsjaa, →きんきじゃくやく
 うれしさ〔嬉しさ〕 ʔisjoosja, ʔurisja, →
 ʔuqsjahukurasja, よろこび
 うれのこり〔売れ残り〕 ʔuinukusi, →ʔuq-
 ciri
 うれる〔売れる〕 ʔurijuN
 うれる〔熱れる〕 ʔnnun, →じゅくす
 うろうろ →ʔamazicikaa/ 身边を~するさ
 ま sirihwicimeehwici
 うろほえ〔うろ覚え〕 ʔuruʔubii
 うろこ〔鱗〕 ʔiriçi
 うろたえる ðumangwijuN, mangwijuN,
 sawazuN, sjoonugijuN, zamaðujuN,
 →あわてる/ ~こと(~さま) ðumangwi-
 cimangwi, mangwi, tiimaamaa, tioo-
 saoo, tunuumanuu, zamaðu, zama-
 ðuikaa, zamaðuikaacui/ うろたえさせ
 る ðumangwasjuN
 うわおき〔上置き〕 ʔwaaʔuci
 うわがき〔上書き〕 ʔwaaçaci
 うわき〔浮気〕 /~である cimufasasaN

うわ

うわくちびる〔上唇〕 ʔwaasiba
 うわごと taakutu
 うわさ sata, tuisata, ʔutu, →kucişiba,
 ʔeu, →ひょうばん
 うわて〔上手〕 tiʔwii
 うわに〔上荷〕 ʔwaanii
 うわぬり〔上塗り〕 ʔwaanui/ ~をする da-
 mijun
 うわば〔上歯〕 ʔwiibaa
 うわべ〔上辺〕 ʔwaabi, →ひょうめん/ ~
 だけの交際 ʔwaabibiree/ ~を飾る者
 ʔwaabicuraa
 うん〔返事〕 →はい

うん〔運〕 suu, ʔun, ʔunci, ʔunsuu, →
 husi, ʔuncihwinci, うんめい, てんらん/
 ~がよい →huu/ ~のよい人 huuniN/
 ~よく命が助かること nucigahuu, nuci-
 nuhun, →こうらん
 うんこ ʔnna
 うんせい〔運勢〕 →らん
 うんちん〔運賃〕 ʔunciN, →çimiðima, ka-
 tamidima, ʔusidima
 うんと ʔumiciqtu, maakuqsa, maakusa,
 ʔnzadi, →たくさん
 うんめい〔運命〕 çizisuu, mii, tinsuu,
 ʔunsuu, →らん, てんめい

え

え〔柄〕 ʔwii
 え〔絵〕 ʔii, →kata
 えい〔感動〕 hija
 えいが〔映画〕 →かつどうしゃしん
 えいきゅうし〔永久歯〕 miikaaibaa
 えいこく〔英国〕 →イギリス
 えいずる〔詠ずる〕 ʔutajun, →よむ
 えいよう〔栄養〕 / ~不良 kamiburaari/
 ~物 kunciiʔuzinii, ʔuzinii, →tiigusui,
 ʔuziniigusui/ ~をとる ʔuzinajun
 えいり〔鋭利〕 →するどい
 ええ〔返事〕 →はい
 えがお〔笑顔〕 ʔwareegau
 えかき〔絵かき〕 ʔiikaci
 えがらっばい kuciwiigoosaN, ʔwiigoosa-
 N/ ~もの ʔwiigoomun
 えき〔易〕 ʔici, →うらない
 えき〔益〕 ʔici, sjuutuku, →とく, りえき/
 ~のない →juucira
 えきしゃ〔易者〕 ciitatijaa, munusiri, sa-
 nziNsoo/ ~の判断 hanzi
 えきたい〔液体〕 siru
 えぐい kuciwiigoosaN, ʔwiigoosaN/ ~も

の ʔwiigoomun
 えくぼ huukubuugwaa
 えぐる〔剝る〕 ʔwiigujun
 えこひいき katabiici, →ひいき
 えさ〔餌〕 munðani, →しりょう
 えだ〔枝〕 ʔida, ʔjuda
 えだは〔枝葉〕 ʔidahwaa, ʔjudahwaa
 えだぶり〔枝ぶり〕 ʔidamuci, ʔjudamuci
 えっちゅうふんどし〔越中ふんどし〕 mee-
 caasanazi
 えて〔得手〕 →とくい
 えど〔江戸〕 ʔidu
 えとく〔会得〕 tuiʔuki, →しゅうとく/ ~す
 る tuiʔukijun
 えのき〔榎〕 biŋgi
 えのぐ〔絵の具〕 ʔinugu
 えび〔蝦〕 ʔibi/ ~の一種 ſeegwaa, sira-
 ſee, tanagee
 えふで〔絵筆〕 ʔiihuidi
 えもんざお〔衣紋竿〕 narasi
 えら〔鰓〕 ʔazi
 えらい〔偉い〕 muçikasjan, →すぐれる/
 ~事 ciweekutu, cuweekutu/ ~もの ci-

weemUN, cuweemUN/ 偉く zikoo/ 偉
 そりにしている者 takaʔucagaa/ 偉そう
 にする takabijUN
 えらびだす〔選び出す〕 ʔirabiʔNzasjUN
 えらぶ〔選ぶ〕 ʔirabUN/ 選ばれた人々 ʔi-
 rabiniNzu/ 選びすぎる ʔirabiʔizijUN
 えらぶうなぎ ʔirabuu/ ~を煎じた汁 ʔi-
 rabuusiNzi
 えり〔襟〕 ciNnukubi, husumUN, kubi,
 'wiiri/ ~が首の内側に曲がること ka-
 miNkuubi
 えりあし〔襟足〕 ʔusiru
 えりかたあけ〔襟肩明け〕 'wiiri
 えりごのみ〔選り好み〕/ ~しすぎる ʔi-
 biʔizijUN
 えりした〔襟下〕 ʔasagi
 えりのこし〔選り残し〕 ʔirabinukusi
 えん〔縁〕 'iN, (敬語) guiN, →buçiIN, く
 されえん
 えん〔円〕 maru
 えんえんと〔延延と〕 →çirinagaanagaa
 えんかい〔宴会〕 sankwee, →しゅくえん
 えんがわ〔縁側〕 'iiN 「bijUN
 えんき〔延期〕 hwinubi, nubi/ ~する nu-
 えんぎ〔演技〕 nuza

えんぎ〔縁起〕→ごへいかつぎ/ ~のよいこ
 と 'iikutu, kari, karijusi/ ~の悪いこと
 を言うこと 'janamunii, 'janamunuʔii
 えんぐみ〔縁組〕 'iNgumi
 えんげい〔演芸〕 →ʔaʔibi, nuhwa/ ~が
 らまい ʔaʔibizurasaN/ ~をする広場
 ʔaʔibinaa
 えんこ〔縁故〕 hwici, 'iNbici, tajui, taju-
 ihwici
 えんざい〔冤罪〕 sakagaçimi
 えんじゃ〔縁者〕→えんこ
 えんじょ〔援助〕 hwici, kasii, ʔujagi, →
 かせい, たすけ/ ~する ʔujagijUN
 えんだん〔縁談〕 ʔiikwii/ ~の申し込みを
 する者 'iijaa
 えんちょう〔延長〕 nubi, →えんぎ
 えんどうまめ〔えんどう豆〕 ʔiNduu, ʔiN-
 duumaami
 えんとつ〔煙突〕 hwiitatii
 えんぼう〔遠方〕 'iNpoo, kaama
 えんまおう〔閻魔王〕 'iNmaoo
 えんりょ〔遠慮〕 'iNru, ʔukeeiʔumii, →き
 がね, じたい/ ~する ʔukeejUN
 えんろ〔遠路〕 tuumici

お

お〔尾〕 zuu/ ~の無いもの zuumuqkaa,
 zuumuqkoo/ ~を振ること zuubui, zuu-
 hui
 お〔御〕 ʔu-, →ʔi-, み
 お〔雄〕 →おす
 おあいする〔お会いする〕 →あう
 おあがめ〔御あがめ〕 →あがめる
 おあつらえ〔お談え〕 →あつらえ
 おありになる →ある
 おあるきになる〔お歩きになる〕 ʔwaacimi-

ʔeeN, →あるく
 おい〔呼掛け〕 daa, ʔee, hei, 'jai/ ~おい
 ʔeeʔee
 おい〔甥〕 'wii, 'wiiqkwa/ ~と姪 miwii-
 qkwa
 おいおい〔泣くさま〕 siqkweehaqkwee, si-
 qkuihaqkui, 'weewee, →なく
 おいおとす〔追い落とす〕 ʔwiiʔutusjUN
 おいかける〔追いかける〕 ʔwiiçikijUN, →
 おう/ 追いかけられる ʔwaarijUN

おいこす〔追い越す〕 kunnuzun, ?wiiku-
nnuzun, ?wiinuzun
 おいしい maasan, ?unsiraasjan, →ku-
cimaasan/おいしそりに maakumaaku/
 ~おいしい kwaqciikwaqcii/ ~もの
 maasamun
 おいしげる〔生い茂る〕 →しげる, はえる
 おいだす〔追い出す〕 ?wii?nzasjun, →つ
 おいたち〔生い立ち〕 →せいちょう しいほうり
 おいたつ〔生い立つ〕 →せいちょう
 おいたてる〔追い立てる〕 ?wiitatijun
 おいちらす〔追い散らす〕 ?waagijun,
 ?wiicirakasjun, ?wiigusicirakasjun
 おいつおわれつ〔追いつ追われつ〕 ?uuee-
kuuee [cun
 おいつく〔追い付く〕 ?wiicikijun, ?wiici-
 おいてきぼり ?uqangiirii
 おいでになる ?imeen, ?imen?seen, me-
 en, menseen, ?men?seen, ?uceeimi-
 ?seen, ?uceen?seen/ ~こと ?imee, mee
 おいぬく〔追い抜く〕→おいこす
 おいのり〔お祈り〕 kaminigee, ?unihwee,
 ?unjuhwee, ?unuhwee, →'juçinu?u-
 njuhwee, きがん, きとろ
 おいはい〔御位牌〕 →いはい
 おいはぎ〔追いはぎ〕 hweeree, →さんぞく
 おいはらう〔追い払う〕 ?wiihoojun, ?waa-
 gijun, →tukurubaree, おいたてる, お
 いちらす, けちらす / ~声 siqsiq
 おいほれ〔老いほれ〕 ?uhuzaa, →kiihagi-
 mootui, →もうろく, ろうすい
 おいまさる ?wii?nzijun, →せいちょう /
 ~こと ?wiimasai
 おいまわす〔追い回す〕 / ~さま ?wiiçiki-
 おいめい〔甥姪〕 miwiiqkwa [maaçiki
 おいる〔老いる〕 ?wiijun
 おいわい〔お祝い〕 gusjuuzi, gusuuzi, ?i-
 wee, 'juuwee, ?uiwee, ?ujuwee/ ~
 の宴 sjuuzi/ ~のごちそう ?uhurumee
 おう〔王〕 'oo, (敬語) nuumeeganasi,

sjuitinganasi, sjunzanasi, tingana-
 si, tinzanasi ?ucinaaganasii, ?usju-
 ganasiimee, ?usjuu/ ~の行列に演じる
 音楽 ruzigaku/ ~の乗物 ?ucuu/ ~の
 乗物をかつぐ者 ?ucuuu/ ~の墓 tama-
 ?udun/ ~の別荘の名 ?ucaja?udun/
 ~の婿 (敬語) ?wii?wee?umuuku/ ~の
 妾 çuma, huzin, →?ajaa?ansirari,
 ?ajaamee/ ~の妾選び 'unazara?usira-
 bi/ ~の礼服 ?umantun/ ~への奉公→
 sjuiganasimedei, sjunzanasimedei
 おう〔追う〕 ?uujun, →おいかける/ 追わ
 れる ?waarijun
 おう〔負う〕 kanzun, ?uujun, →せおう/
 負わせる ?uusijun, →?uusikansijun
 おうえん〔応援〕 →かせい
 おうかん〔往還〕 →かいどろ
 おうかん〔王冠〕 →かんむり
 おうぎ〔扇〕 ?oozi, →りちわ/ ~の骨 ?oozi-
 nuhuni/ ~を持って舞う舞い ?oozimee
 おうし〔牡牛〕 kutii?usi, 'uu?usi
 おうじ〔王子〕 'oozi/ ~の家柄(~の御殿)
 'oozi?udun
 おうしゅう〔応酬〕 ?icaihancai
 おうじょ〔王女〕 →?uminaibi/ ~の夫 (敬
 語) ?wii?wee?umuuku
 おうじる〔応じる〕 'uuzijun
 おうたい〔応対〕 ?ukihansi, →りけこたえ
 / ~を乞うこと munusirari
 おうだん〔黄疸〕 'oodan
 おうとう〔応答〕 ?ireehwizi, ?ireekutee,
 ?ukihwintoo, →りけこたえ, へんとう
 おうひ〔王妃〕 hwii, 'oohwi, (敬語) ?uhwi,
 ?uhwii
 おうふ〔王府〕 →kuuzi
 おうふく〔往復〕 ?icimudui, 'juqcai, 'oo-
 huku, →mudusi, tunmudujaa
 おうへい〔横柄〕 mee?agai, meegai, →そ
 んだい/ ~な者 cigweeimun, ciigwee-
 mun/ ~になる cigweejun, meegajun

おうぼう[横暴] 'oogai
 おうまれになる[お生まれになる]→りまれる
 おうらい[往来] 'ooree, →qcuʔasi
 おえる[終える] siiʔuwajun, ʃimasjun,
 ʔucinasjun
 おお(感動) →ああ, おや
 おお(けんかの時などの返事) ʔiihjaa
 おお[大] ʔuhu-, →ʔatu-
 おおあめ[大雨] deeʔu, ʔuhuʔami
 おおあわて[大あわて] →ʔawatiihjaatii,
 ʔaweesjukwee, あわてる
 おおい[多い] ʔuhusan/ ~が勝ち ʔuhu-
 saagaa/ ~少ない ʔikirasaʔuhusa
 おおい[覆い] →kabui
 おおいおおい(呼び声) ʔeeʔee
 おおいそぎ[大急ぎ] →ʔawatiihjaatii,
 ʔawatinoori
 おおいなる[大いなる] →ʔuhwisAN
 →たいへん
 おおいのしし[大いのしし] →ʔaqpajama-
 おおいゆ[大岩] ʔuhusi [sisi
 おおう[覆う] ʔusujun, →かぶせる, しゃ
 へい/ おおわせる ʔusaasjun
 おおうそ[大うそ] ʔuhujukusimunuʔii
 おおうなばら[大海原] →kursujuʔoosju,
 おおうみ[大海] →たいかい [たいかい
 おおおくさま[大奥様] ʔuhuʔajaamee
 おおおじ[従祖父] 'uzihuzitanmee
 おおおとこ[大男] 'jatun, 'jatu, →
 ʔuhuwikiga
 おおおば[従祖母] 'ubahanzansiimee,
 'uzihuziʔnnee
 おおおび[大帯] ʔuhuʔubi
 おおおんな[大女] →ʔuhuwinaɡu
 おおかせ[大風] teehuu, ʔukazi
 おおかた[大かた] 'iikuru, tabun, ʔuu-
 kata, →たぶん

おおがら[大柄] ʔuhuʔaja/ ~の着物 ʔu-
 huʔajazin
 おおきい[大きい] magisan, ʔuhwisAN,
 →きょだい/ 大きく dateen, magimagii-
 tu/ 大きくする ʔwaasjun/ 大きくなり
 過ぎる ʔarageejun, ʔarijun
 おおきな[大きな] ʔuhu-, →きょだい/ ~
 家→ʔuhucinee, ʔuhuzinee/ ~お祝い
 ʔuhugusjuuuzi/ ~落しもの ʔuhumunu
 ʔutusi/ ~重荷ʔuhuʔnbusi/ ~顔 ʔira-
 waa/ ~口 ʔuhuguci/ ~口をしたもの
 ʔuhugucaa/ ~事 ʔuhwiikutu/ ~魚
 ʔuhuʔiju/ ~寝息ʔuhuniici/ ~腹 ʔuhu-
 wata/ ~船 ʔuhubuni/ ~店 ʔuhuma-
 cija/ ~飯→ʔuhumeejatumee/ ~餅→
 'jatumuci/ ~もの dateemaa, magii
 おおく[多く] →たくさん
 おおぐい[大食い] ʔabaraa, teesjuku,
 ʔuhuwataa [gucaa
 おおぐち[大口] ʔuhuguci/ ~の者 ʔuhu-
 おおげさ[大げさ] →ぎょうさん/ ~である
 ririqsaN, →ʔiidataasjan/ ~な hago-
 ろご/ ~に言う ʔiitatijun
 おおごえ[大声] magigwii, ʔuhugwii
 おおごと[大ごと] deezi
 おおざけ[大酒] ʔuuzaki/ ~をのむ →ka-
 ʃijun [gaami
 おおざけのみ[大酒飲み] ʔuuzaki, 'wari-
 おおざら[大皿] →haaci
 おおさわぎ[大騒ぎ] ʔuumusageei, →ʔu-
 rijookurijoo, さわぎ
 おおじょたい[大所帯] ʔuhucinee, ʔuhu-
 zinee, ʔuhujaaniNzu
 おおすぎ[多過ぎ] →kwaa, ちょうかする
 おおせ[仰せ] mjuNcigutu, nuncigutu,
 ʔwiisi, ʔwiisigutu, →おおせられる
 おおぜい[大勢] ʔuhuniNzu, →buriniN-

おお

zu/ ~の家族 ?uhujaaniNzu
 おおせられる〔仰せられる〕 mişeen, ?wi-
 simişeen, →いり, おおせ
 おおたにわたり〔植物名〕 hwiramusiru,
 hwiramusiruu
 おおつづみ〔大つづみ〕 ?uuçizîN
 おおつなひき〔大綱引き〕 ?uunna, →?ai-
 zoo?uunna
 おおつづ〔大粒〕 /~の雨 ?uhuçiburu?ami
 おおてがら〔大手柄〕 ?uutigara
 おおどおり〔大通り〕 ?uuduui, ?uhumici
 おおどしより〔大年寄り〕 ?uhudusjui
 おおどろぼう〔大泥棒〕 ?uhunusuðu
 おおなべ〔大鍋〕 →sanmeenaabi
 おおにんずう〔大人教〕 →おおぜい
 おおばかもの〔大馬鹿者〕 ?iciguðuN
 おおぼこ〔車前草〕 hwirahwagusa, hwi-
 ruhagusa
 おおはじ〔大恥〕 ?icihazî
 おおはば〔大幅〕 ?uhuhaba
 おおはまぼう〔植物名〕 'juuna/ ~の葉
 'juunaagaasja
 おおひらわん〔大平碗〕 ?uuhwira
 おおひろば〔大広場〕 ?uuhwiruzi
 おおひろま〔大広間〕 ?uuhwiruzi
 おおぶた〔大豚〕 'jatu?waa
 おおぶね〔大船〕 ?uhubuni
 おおみず〔大水〕 ?uumiçi
 おおみそかのぼん〔大みそかの晩〕 tusinu-
 juru 「si
 おおむかし〔大昔〕 kamiguðee, ?uhunka-
 おおむぎ〔大麦〕 ?uhumuzi
 おおもいになる〔お思いになる〕 ?usoozi-
 mişeen, →おかんがえ, おもう
 おおもうけ〔大もうけ〕 ?aramooki
 おおもん〔大門〕 ?uhuzoo
 おおよくばり〔大欲張り〕 ?uhujukuu
 おおよそ〔大よそ〕 →だいたい
 おおわらい〔大笑い〕 ?uhuwarec/ ~する
 さま sicirihweeri

おか〔丘〕 mui
 おか〔陸〕 ?agi 「おや
 おかあさん ?ajaa, ?anmaa, →はは, はは
 おかえし〔お返し〕 çikituðuuki, keesi, rii-
 zigeesi, ?uçiri, ?uçirikeei, →へんさい,
 へんれい
 おかお〔お顔〕 →かお
 おがくず kiikaşi
 おかくれになる ?ukumimişeen, ?uşi-
 rimişeen, →しぬ
 おかげ〔お蔭〕 ?ukazi, →huki, めぐみ
 おかご〔御駕籠〕 →かご
 おかさ〔お傘〕 ?uncitaka
 おかざり〔お飾り〕 ?ukazai, →おそなえ,
 かざり/ ~の紙 ?ukazaikabi
 おかしい 'ukasjan, →こつけい
 おかじょうき〔陸蒸気〕 ?agihwiigurumaa
 おかず katimun, ?umawai, (敬語) 'nea-
 timun/ ~にする katijun/ ~の少ない
 食べ物 →sabimun/ ~のない飯 kara-
 mun
 おかっぱ kanta, kantuu, →kantuu-
 mee
 おかね〔お金〕 zin, (小児語) ziinuu, →か
 ね, ぜに
 おかま〔お釜〕 →かま
 おかみさん ?ansii, ?ansimee, ?ansira-
 ri, ?ansitaree, →おくさま, ごないぎ
 おがむ〔拜む〕 'uganun, →いのり/ ~こと
 ?unihwee, ?unjuhwee, ?unuhwee, →
 'juçinu?unjuhwee/ ~時の声 ?aatootu,
 tootu, ?uutootu
 おかめ〔阿亀〕 sjadaNnu?utuu?Nmii, →
 çiratamajaa 「しっと
 おかやき〔岡焼き〕 biqsuu, →?uragoosa,
 おかゆ →かゆ
 おから toohunukaşi
 おからだ〔お体〕 →からだ
 おがわら〔牡瓦〕 'uugaara
 おかわり〔お代わり〕 şeesin, (敬語) ?uşe-

esiN/ ~をする ?irikeejuN/ ~をするさま
 ま→tatikee?irikee
 おかん〔悪寒〕 hwiisanuu
 おかんがえ〔お考え〕 →おおもいになる、かんがえ
 おき〔沖〕 tunaka, tuu, →?oosjukurusju, ?uuci, ?uutu
 おき〔煨〕 ?uciri, →おきび
 おき〔置き〕 -gusi
 おきあい〔沖合〕 tunaka, →おき
 おきあがりこぼし〔起き上り小法師〕 ?uqei-rikubusi
 おきえらぶじま〔沖永良部島〕 ?irabu
 おききになる〔お聞きになる〕 ?uNnjukajun, ?unnukajun, →きく
 おきさき〔御后〕 →おうひ
 おきざり〔置き去り〕 ?uqcaangiirii
 おきて〔掟〕 ?uciti, →きそく, きまり
 おぎない〔補い〕 tasi, →たしまえ
 おぎなう〔補う〕 tareejuN, →?uzinajun, ついかする/ ~こと ?usiitaree/ 補い合うさま cuitareedaree
 おきな布〔沖繩〕 ?ucinaa/ ~産の米 simagumi/ ~本島 ?uhuzi, zizi/ ~本島内 zizi?uci
 おきな布ご〔沖繩語〕 ?ucinaaguci
 おきにいり〔お気に入りに〕 eii?iri
 おきぬけ〔起きぬけ〕 ?ukizamanizama
 おきび〔煨火〕 ?uciribii, →おき
 おぎゃあおぎゃあ ?ngaa?ngaa
 おきやく〔御客〕 →きやく
 おきやくさまごっこ〔御客さまごっこ〕 ?uhurumentaa
 おきょう〔御経〕 coomun/ ~の声 nooni-nkwaanin
 おきる〔起きる〕 ?ukijun, ?ukujun, ?ukurijun, →?uki?nzijun/ 起きたとたん ?ukizamanizama 「zoo
 おく〔奥〕 ?uuku/ ~にある門 →?uku?iri-
 おく〔置く〕 'isijun, ?ueun, →?ucikijun

おく〔措く〕 ?ucun
 おくがた〔奥方〕 ?aqtoomee, 'unazara, →おくさま/ ~様 ?aqtooganasiimee
 おくさま〔奥様〕 ?ajaamee, guneezi, ?umanii, 'unazara, →おかみさん, おくがた
 おくし〔御髪〕 mjuncoobi, nuncoobi, ?uncoobi, →かみ
 おくする〔臆する〕 cuuzijun
 おくそく〔臆測〕 cimufatigee, saqcuu/ ~ものを言うこと saqcuumunu?ii
 おくち〔お口〕 mikuci, →くち
 おくない〔屋内〕 'jaanu?uci
 おくの手〔奥の手〕 ?ukudi
 おくば〔奥歯〕 ?uukubaa, →きゆうし
 おくびょう〔臆病〕 →しょうしん/ ~である sikasan/ ~なさま sikankaa/ ~そうに目をきよろつさせること sikamiiguru-guru/ ~になる sikanun
 おくびょうもの〔臆病者〕 sikaa, sikamun
 おくみ〔枉〕 'nni
 おくやま〔奥山〕 ?ukujama
 おくやみ〔お悔み〕 kujami
 おくらせる〔遅らせる〕 ?ukurasjun
 おくりかえす〔送り返す〕 ?ukuikeesjun
 おくりじょう〔送り状〕 →?ukuizoo
 おくりぜん〔送り膳〕 ?ukui?uzin
 おくりもの〔贈り物〕 nasaki, ?ukuimun,
 おくる〔送る〕 ?ukujun ↳しんもつ
 おくれる〔遅れる〕 ?ukurijun
 おけ〔桶〕 taagu, 'uuki, →'uuguci/ ~の一種 cuuzidaree, haziuuki/ 標準型の ~zoomataagu/ 小さい~ 'uukigwaa
 おけつくり〔桶作り〕 'uukijuuja
 おこうろ〔御香炉〕 ?ukooru
 おごけ〔麻小筈〕 'uuguci
 おこころ〔お心〕 ?uzimu, →こころ 「し
 おこころざし →gusjuzunsidee, こころざ
 おこさま〔お子さま〕 ?umigwa, ?umin-gwa, ?umiwarabi, →こども
 おこし〔御履〕 mikusi, 'ncusi, →こし

おこ

おこし(菓子の名) hacagumi
 おこす[起こす・興す] ?ukusjuN/ 下から
 ~ ?iicun
 おこぜ(魚名) →?abasi
 おこた[怠る] →なまける
 おことば[お言葉] →おおせ, ことば
 おこない[行ない] ?ukunee
 おこなう[行なら] ?ukunajuN, →する
 おこめ[お米] →こめ
 おこる[起こる] sjoozijuN, ?ukurijuN,
 ?ukujun
 おこる[怒る] kusamicun, →はら, りっぶ
 く/ 少し~こと saagusamici, ?usugu-
 samici
 おごる[驕る] gaajuN, ?ugujuN, →ぞう
 ちょう/ おごりたかぶる者 ?uguimun
 おこ巾[お強] kasicii, →せきはん
 おさ[箴] huduci/ ~の種類 →はたおり
 おさえる[押さえる] ?usujuN, →あっぱく
 する/ 押さえつけられる ?usaarijuN
 おさかまち 'uusa
 おさがり[お下がり] ?unooi, ?usandee
 おさきに[お先に] →sadajun
 おさきばらい[お先払い] ?unsadai, →せん
 おさけ[御酒] →さけ じどう
 おさしき[御座敷] →ざしき
 おさなご[幼子] →あかんぼう
 おさなごころ[幼心] 'warabizimu
 おさなともたち[幼友たち] 'warabidusi
 おさまる[治まる] 'usamajuN
 おさめ[納め] haree
 おさめる[治める] 'usamijuN, marucun/
 ~こと(敬語) ?ukakibu?ee, →しはい/
 治めかた 'usamigata
 おさめる[納める] →harajuN/ 納めないこ
 おさん[お産] →しゅっさん じと hunoo
 おじ[伯叔父] 'uzasaa/ 伯父 ?uhusjuu,
 ?uhutaarii/ 叔父 'uncuu/ 上の~ ?u-
 huunuu/ 下の~ 'uncuugwaa
 おしあい[押しあい] sicaa?ee, ?iicee/ ~

へし合い kunKuruba?ee, ?iicaakwaa-
 ee, ?uu?eekuruba?ee
 おしあう[押しあう] sicaasjuN
 おしあげる[押し上げる] ?icagijuN, ?uja-
 gijuN, ?usjagijuN
 おしい[惜しい] ?atarasjan, ?icasan, →
 ?aqtaru, おしむ/ 惜しくも →?aqtara
 おじいさん taNmee, ?uhuzunZaNsiimee,
 ?usjumee, →そふ
 おしいる[押し入る] ?iicun, 'wagaka-
 juN/ 押し入った者 'wagakaimun
 おしえ[教え] ?usii, →きょうくん
 おしえかた[教え方] ?usiigata
 おしえる[教える] naraasjuN/ ~こと na-
 raasi 「しもどす
 おしかえす[押し返す] ?usikeesjuN, →お
 おしかける[押しかける] ?usikakijuN
 おしかり[お叱り] nundee, ?undee, →しっ
 せき
 おじぎ[御辞儀] gurii, rii/ いっせいにす
 る~ suugurii
 おじぎそう(植物名) niNningusa
 おしきる[押しきる] ?usicijuN
 おしくら[押しくら] →おしあい
 おしこむ[押しこむ] hwiisuncun, ?usiku-
 nun, ?usinuncun, →おしこめる
 おしこめる[押しこめる] ?usikumijuN, →
 kumijuN, おしこむ
 おしたおす[押し倒す] ?usikeerasjuN,
 ?usitoosjuN, →あっとりされる
 おしだす[押し出す] ?usi?NzasjuN
 おしたばねる[押し束ねる] ?usigikunun
 おしつける[押しつける] hani?weeziki-
 juN, sicaasjuN, ?usigikijuN, ?weeziki-
 juN/ 押し付け合りさま cui?uusi?uusi,
 ?uu?eekarakee
 おしつぶす[押しつぶす] hwiizuN, hwira-
 kasjuN/ 押しつぶされる →sipirijuN
 おしつまる[押しつまる] sasici:majun
 おしどり[鴛鴦] ?usintui/ ~の翼 →?u-
 muiba

おしながす〔押し流す〕 ʔusinagasjun
 おしならす〔押しならす〕 ʔusitunamijun
 おしのける〔押しのける〕 ʔusidikujun,
 ʔusinukijun, →おしやる, どける
 おしはなす〔押し放す〕 ʔusihanasjun
 おしまい →おわり
 おしまげる〔押し曲げる〕 ʔusimagijun
 おしまるめる〔押し丸める〕 ʔusiçikunun
 おしむ〔惜しむ〕 →ʔicasan, ʔibirijun,
 おしい/ 惜しがること munuʔatarsja
 おしむぎ〔押麦〕 hwirakaamuzi
 おしめ〔お湿〕 kakoo
 おしめり〔お湿り〕 ʔurii 「おしかえす
 おしもどす〔押し戻す〕 ʔusimudusjun, →
 おじや〔雑炊〕 ʔahwarazuusii, zuusii
 おしゃかさま〔お釈迦様〕 sjaakaganasi
 おしゃく〔御酌〕 →しゃく
 おしゃべり ʔjuntaa, ʔjuntaku, ʔjunta-
 kuu, munujumaa, munujunaa, san-
 baguci, →kuuzoo/ ~するさま ʔaaba-
 asaabaa, ʔaacirahjaacira, hwiqtaku-
 maqtaku, ʔjudaikuuzoo, ʔjuntaahwin-
 taa, ʔjuntakuhantaku, ʔjuntakuhwi-
 ntaku/ ~な女 ʔabasi, ʔabasjaa
 おしやる〔押しやる〕 šiikijun
 おしゃれ çukujaa, kwaaninaa, kwaan-
 nin, ʔwaacaa, ʔwaaci
 おじゅう〔お重〕 ʔuzuu, →じゅうばこ
 おしょう〔和尚〕 zaasi, (敬語) zaasinu-
 mee, →おぼろさま, じゅうじ, そりりよ,
 ぼろず
 おじょうさま〔お嬢様〕 ʔaigwaamee, too-
 toogwaa, ʔwegunsjori, →むすめ
 おしょうばん〔お相伴〕 →しょうばん
 おしょうりょう〔お精霊〕 →しょうりょう
 おしよせる〔押寄せる〕 ʔutikeerasjun,
 ʔusijusijun
 おしらせ〔お知らせ〕 →しらせ
 おじる〔怖じる〕 sikanun, ʔuzijun, →お
 びえる, こわがる/ すっかり~ ʔuziicijun
 おしる〔お城〕 →しろ

おしろいばな(植物名) ʔjusan dibana
 おしわける〔押し分ける〕 ʔusiwakijun
 おす〔雄〕 ʔuumunaa, ʔuumun, →ʔuu-
 おす〔押す〕 ʔusjun, →šiicun
 おずおず sikankaa, →びくびく
 おすがた〔御姿〕 →すがた 「んげん
 おせじ〔御世辞〕 ʔandaguci, meeši, →か
 おせっかい seebee, →でしゃばり/ ~とな
 る事 seebeegutu
 おぜん〔御膳〕 →ぜん/ 丸い~ maruʔuzin
 おせんこう〔御線香〕 ʔukoo, mjuukoo,
 njuukoo, →せんこう
 おそい〔遅い〕 niisan, ʔuʔisan, →のろい/
 ~出発 nibuʔuqtaci/ 遅く niiku, niq-
 ka/ 遅くなる →sirijun
 おそう〔襲う〕 /襲われる ʔusaarijun
 おそうまれ〔遅生まれ〕 nibuʔnmari
 おぞうり〔御草履〕 mjuuzaree, nuuzaree,
 ʔuzaree, →ぞうり
 おそなえ〔お供え〕 ʔukazai, ʔusjagimuci,
 ʔusjagimun, ʔusunee, ʔusuneemun/
 ~する ʔusjagijun/ ~の上まじないと
 して置くもの san/ ~のお下がり ʔusa-
 ndee, ʔunooi/ ~のお茶 catoo, ʔucattoo
 / ~の水 ʔubii/ ~の紙 ʔukazaikabi/ ~
 の米 hanagumi, ʔnpanagumi, →kara-
 npana, ʔusimasi/ ~の米と酒 ʔnpana-
 ʔuzaki/ ~の台 kuddee/ ~のとりかえる
 分 →ʔucizihweesi/ ~の飯 ʔubuku
 おそば〔お側〕 ʔusuba, →そば
 おそらく〔恐らく〕 →たぶん
 おそれる〔恐れる〕 →おじる, こわがる/ 恐
 れおののくこと ʔuturusjahwiisja/ 恐れ
 はばかること ʔjagumisa
 おそろしい〔恐ろしい〕 ʔakutooraasjan,
 ʔuturusjan, →こわい/ ~思い ʔuturu-
 sjaʔumii/ ~人 ʔakutoo/ ~もの ʔutu-
 rusjamun, ʔuturuu/ 恐ろしがる →ʔu-
 turusjan
 おだいじに〔お大事に〕 →mimuci, ʔunzu-
 mucu

おたいらに〔お平らに〕 ʔuhwiraku, →hwi-
 rasan
 おたがい〔お互い〕 ʔutagee, →たがい
 おたく〔御宅〕 tuŋci, ʔuhuduŋci, ʔunzu-
 naa, →tunuci
 おたすけ〔お助け〕 →たすけ
 おたふく〔お多福〕 sjadaNnuʔutuuʔNmii
 おたふくかぜ toosinbai
 おたま〔食器の名〕 nabigee
 おだま〔芋環〕 kuuda/ ~を作る竹ぐし
 kuudaguusi
 おたまじゃくし〔蝌蚪〕 ʔaminaa
 おたやか/ ~である nadajaQsaN, →なご
 む, やすらかに
 おちこぼれ〔落ちこぼれ〕 ʔuti
 おちつき〔落ち着き〕 ʔutiçici
 おちつく〔落ち着く〕 'iiçicuN, 'ijun, ʔuti-
 çicuN/ 落ち着かない →'iiçibin çikaN,
 taturucun/ 落ち着かないさま →cimu-
 wasamici, cimuwasa, saNsaN,
 sikasika/ ~こと →らくちゃく
 おちど〔落度〕 husuku, →あやまち
 おちぶれる〔落ちぶれる〕 sipitajun, →ʔu-
 おちぼ〔落穂〕 ʔuti ʔtisizimi
 おちゃ〔御茶〕 caa, ʔuca, →ʔucatao, ちゃ
 / ~の会 ʔucahukaŋsee, ʔucawaka-
 ŋsee
 おちゃうけ〔お茶うけ〕 ʔucawaki, →ちゃ
 うけ/ ~なしのお茶 karazaa
 おちる〔落ちる〕 ʔutijun/ 落ちて散らかる
 こと ʔuticiri
 おつかい〔御使い〕 ʔuçikee, →つかい
 おつかえ〔お仕え〕 ʔwaanDee
 おっかぶせる ʔuusikaNsijun, →çicika-
 Nsijun
 おつきさま〔お月さま〕 tootoo, tootooga-
 nasiimee, tootoomee, ʔuçici, ʔucicuu,
 ʔucicuumee, →つき
 おつげ〔お告げ〕 ʔusirasi
 おっしゃる →おおせられる

おったつ〔おっ立つ〕 ʔuqtacun
 おっつかつ ʔuqçikaqçi
 おっつけ →やがて
 おって〔追手〕 ʔuqti
 おって〔追って〕 ʔuqti
 おっと〔感動〕 ʔai
 おっと〔夫〕 'utu/ ~と姑 'utusitu/ ~の
 方/ kusjatikata/ ~への接し方 'utubi-
 おっばい →ちち ʔree
 おつゆ〔御汁〕 siru, ʔusiru, →しる
 おつり keci, keesimudusi
 おて〔御手〕 →て
 おてがみ〔御手紙〕 →guzoo
 おでこ gaqpaŋaa, gaqpai, →ひたい/ ~
 の頭 gaqpaiçiburū
 おてずから〔御てずから〕 ʔumicikuru, →
 おてだま〔お手玉〕 ʔoosiitoo ʔじぶん
 おてら〔お寺〕 ʔutira
 おてん〔汚点〕 sun
 おてんばむすめ〔おてんば娘〕 ʔabasi, ʔa-
 basjaa, saNsananaa, →saNsananaaʔaigwa-
 amee
 おと〔音〕 ʔutu, →ね, ねいろ/ ~に聞くこ
 と ʔutuzici/ ~に聞こえる ʔutuʔucun/
 ~を聞くこと ʔutuzici/ 稲穂の出るころ
 の~をさける期間 ʔindumijamadumi/
 予言となる~ munuʔutu
 おとうさん sjuu, taarii, (小児語) taa-
 taa, →ちち/ ~おかあさん ʔajaataarii
 おとうと〔弟〕 'wikigaʔuqtu, →ʔuqtu,
 ʔuqtuwikii, 'wikii, (敬語) →ʔumikii-
 numee, ʔumiqtu
 おとうみょう〔御燈明〕 ʔutuNnoo, ʔutuu-
 mjoo
 おとうろう〔御燈籠〕 →とうろう
 おとがい →あご
 おどけもの〔おどけ者〕 ʔahwageerimun,
 cooginaa, marumun, namaraa, na-
 marimun, namatee, namaçiraa, na-
 maçirimun, teehwaa
 おどける ʔahwageejun, ʔahwageeri-

juN, namarijuN/ ~こと teehwa/ おど
けた顔 namazira
 おとこ[男] 'utuku, 'wikiga, →とのがた/
 ~が生まれること →?uhuwinaɡu/ ~の
 子 'wikigawarabi/ ~の声 'wikigagwii/
 ~のなり 'wikigahuuzi/ ~のような女
 'uuwinagu, 'wikigahuuzii/ 女のような
 ~ 'winaguhuuzii
 おとご[乙子] ?uqtuŋɡwa
 おとこおや[男親] 'wikiganu?uja, 'wiki-
 ga?uja, →おや, ちち, ちちおや
 おとこまさり[男まさり] 'wikigamasai
 おとこやもめ[男やもめ] 'wikigajagusami
 おとこらしい[男らしい] 'wikigaraasjan
 おとさた[音沙汰] ?utu, ?utusata, ?utu-
 ziri, →?ati
 おとしあな[落とし穴] ?utusi?ana
 おとしだね[落とし種] ?utusiđani, ?utusi-
 ŋɡwa
 おとしだま[御年玉] 'iizizN, 'iirizizN
 おとしぶた[落しぶた] kakugu 「mun
 おとしもの[落し物] munu?utusi, ?utusi-
 おとしより[お年寄り] →としより
 おとす[落す] ?utusjuN
 おととい 'uqtii/ ~の晩 cinuunujuuru
 おととし 'Neu/ ~の前の年 'jutu
 おとな ?uhuqeu, ?utuna/ ~の声 ?uhu-
 qeugwii/ ~びた話し方 kusamunii, ku-
 samunu?ii/ ~ぶること ?uhuqeuwai/
 ~ぶる者 kusabuqkwa
 おとなしい ?uhujaqsan, ?utunasjan,
 ?wenđasan/ ~馬 ?wenđa?Nma/ ~者
 ?uhujasii, ?wenđaa/ おとなしく 'jagu-
 おとみ[乙見] ?uqtumisi l jaguutu
 おとみづわり[乙見づわり] ?uqtumaki,
 ?uqtumiijoogari
 おとめ[乙女] →むすめ
 おとも[お供] →とも
 おどり[踊り] mooi, 'uđui/ ~の着物
 'uđuizizN/ ~の種類, 名など ?ajaamee-

uđui, ?amakaauđui, ?anɡwaamooi,
 ?aQcamee, ?aQcameegwaa, coozanu,
 ?uhusjuu, hwađui, hweenusimaa,
 'jarasii, kuniri, niiseeđui, manzai,
 sinugu, sjuNdo, ?uđideeku, 'uđuee,
 'wakasjuuđui, 'winaguđui
 おとりかわし[お取りかわし] →とりかわし
 おとりつき[お取りつき] →とりつき
 おとる[劣る] ?utujuN/ ~こと →cizi
 おどる[踊る] moojuN, 'uđujuN/ 踊りあ
 がって喜ぶさま tuNmooimooi/ 踊ったり
 はねたりすること mooihani, 'uđuihani
 おとろえる[衰える] ?uturijuN, ?uturu-
 juN, →すいび, よわる
 おどろく[驚く] ?udurucuN, →kusjaa,
 ?uqceeujuN/ manđamasi, ?uhuduN-
 mooi/ ~べき ?usumasjan/ ~べきこ
 と→miihaigutu/ 驚かす →?uđurucuN/
 驚いて目覚めること →nižami?uduruai
 おながれ[お流れ] /~にする kuNdasjuN/
 ~になる kuNđijuN
 おなし[尾無し] zuumookuu
 おなじ[同じ] eu, 'inu, 'in-, tiici, →?u-
 QçikaQçi, どうよう/ ~大きさ 'inpi/ ~家
 cujaa/ ~顔 'inuçira/ ~考え 'inukan/
 ~心'inucimu/ ~時節'inui/ ~高さ'inu-
 taki, 'intaki/ ~時'inutuci/ ~歳cutu-
 si, 'inutusi/ ~年(十二支の)'inusaa/ ~
 歳の人 cutusiNeu/ ~長さ'inunagi, 'in-
 nagi/ ~日'inuhwii/ ~人'inuqeu /~
 道 cumici, 'inumici/ ~もの'inumun,
 'inuu, tiiciimuN/ ~ようす'inkirahwa-
 a/ ~ようである'inugutooN/ ~ような
 もの'inugtooru/ ~ように'inugutu
 おに[鬼] ?uni
 おにいさま →あに
 おにぎりごはん[おにぎり御飯] ?ubuNni-
 zirii, →にぎりめし
 おにごっこ[鬼ごっこ] kaçimiNsooree, →
 miqkwaatooru

おにび〔鬼火〕 ʔooruubii
 おねえさま →あね
 おの〔斧〕 'uuN, →'juuci, tiin, saahun-
 gwaa, saahuNjuuci,
 おのおの naa-, →かくじ, それぞれ
 おのずから naNkuru, siziN, siziNni
 おのれ ʔuga, →じぶん
 おば〔伯叔母〕 'ubamaa, (敬語) 'ubacaN
 siimee/伯母 ʔuhuʔajaa, ʔuhuʔaNmaa/
 叔母 baa, baacii/ 上の~ ʔuhubaa/ 下
 の~baagwaa
 おばあさん haamee, haNsii, ʔNmee, →
 paapaa, (敬語) haNzaNsimee, そば
 おはか〔御墓〕 →はか
 おはかまいり〔御墓参り〕 →はかまいり
 おばさん〔小母さん〕 →baacii
 おはし〔御箸〕 →はし
 おはじき ʔiqtagajoo
 おはしばこ〔お箸箱〕 →はしばこ
 おはつ〔お初〕 sinaʔurusi, ʔuhwaçi
 おはな〔御鼻〕 →はな
 おはな〔御花〕 →はな
 おばな〔尾花〕 baraN
 おび〔帯〕 ʔuubi, (敬語) miʔuubi/ ~の-
 種 husuʔuubi, miNsaa, miNsaaʔuubi,
 suguiʔuubi, ʔuhuʔuubi, 'warasinbuu-
 ʔuubi, →rakubuçinu miʔuubi/ ~用の
 布の名 miNsaa/ ~をしめる所 ʔuubisii-
 guci
 おびえる ʔNbiijun, →おじる, こわがる/
 すっかり~ ʔuziicijun
 おひかり〔お光〕 →ひかり
 おひがん〔御彼岸〕 →ひがん
 おひきあわせ〔お引き合わせ〕 hwicaasi,
 hwicawasi, →ひきあわせる
 おびきだす〔おびき出す〕 'wakujuN/ ~手
 'wakuidii, →ひきあわせる
 おひげ〔御ひげ〕 →ひげ
 おひさま〔お日さま〕 →ひ
 おひっこし〔お引っ越し〕 →ひっこし

おひとよし〔お人よし〕 hurimakutu, sara-
 makutu, ʔuhujasii, →hutuki, too
 おひとり〔御1人〕 cutukuru, →ひとり/
 ~様 ʔucutukuru
 おひめさま〔お姫様〕 →tootoogwaa
 おひるごはん〔お昼御飯〕 mihwiruma, mi-
 hwirumaʔubun, →ひるめし
 おぶ〔小児語〕 buu, buubuu
 おぶく〔御仏供〕 ʔubuku 「ふたり
 おふたりさま〔御2人様〕 ʔutatukuru, →
 おぶつだん〔お仏壇〕 →ぶつだん
 おふね〔お船〕 →ふね
 おふれ hurii, →ふこくする
 おふれがき〔おふれ書き〕 huriigaci
 おべっか meesi, →zuubui, zuuhui/ ~を
 言ひ者 meesaa
 おべべ 'jaajaa 「よう
 おぼうさま〔お坊さま〕 cooroomee, →おし
 おぼえ〔覚え〕 →きおく, ものおぼえ
 おぼえがき〔覚え書き〕 ʔubiigaci
 おぼえる〔覚える〕 ʔubijun, tuiʔubijun,
 →tuiʔukijun, きおく, ものおぼえ/ ~力
 ʔubidee/ 覚えていない →ʔubiçikanasan
 おほしさま〔お星さま〕 mihusi, →ほし
 おほしめし〔おほし召し〕 ʔusoozi, →かん
 がえ
 おほしめす〔おほし召す〕 →かんがえる
 おほれる〔溺れる〕 ʔnbuqkwijun
 おほろげ ʔumujoo, →ほんやり
 おほろづき〔おほろ月〕 ʔuburuziçi
 おほろづきよ〔おほろ月夜〕 ʔuburuzicuu
 おほろ豆腐〔おほろ豆腐〕 'jusidoohu
 おほん〔お盆〕 ʔusjooroo, →ぼん
 おまえ〔お前〕 ʔjaa, →ʔiqtaa, naa, あな
 た, きさま/ ~自身で ʔjaakuru, ʔja-
 nkuru/ ~の →ʔjaa/ ~の家 ʔiqtaa/
 ~のがわ ʔiqtaahara/ ~のようなʔjaa-
 gutooru/ ~のような者 ʔjaagutooruu/
 ~ひとり ʔjançui
 おまえたち〔お前たち〕 ʔiqtaa, →あなたが
 た/ ~の →ʔiqtaa/ ~の方 ʔiqtaahara

おまき〔緒巻〕 macica
 おまけ šiibun/ ～を付ける šiijun
 おまごさん〔お孫さん〕 →まご
 おまつり〔御祭り〕 →まつり
 おまねき〔お招き〕 ?unçikee, →しょうたい
 おまもり〔御守り〕 munnuikumun, →ごふ/
 ～の手ぬぐい →?uminaitisazi
 おまわり →おかず
 おみあし〔おみ足〕 →あし
 おみごと〔御見事〕 →みごと
 おみや〔お宮〕 →?ugan, 'uganzu, やしろ/
 ～の前の広場 →?ugannumoo
 おむかえ〔お迎え〕 ?unkee
 おむすび →にぎりめし
 おめぐみぶかい〔お恵み深い〕 ?uzimuzura-
 san, →めぐみぶかい
 おめざ miikuhwajaa
 おめしもの〔御召し物〕 →きもの
 おめでとう〔新年のあいさつ〕 'iisjoogwaci
 おめにかかる〔お目にかかる〕 'uganun, →
 おめん〔お面〕 haaçiburaa [?wiicee, あう
 おもい〔重い〕 ?nbusan/ (赤んぼうの体重
 が～) sicuraasjan/ ～物 ?nbumun
 おもい〔思い〕 ?umii, ?umui, →しあん/～
 がかなること →?umizituganawai/ ～の
 ほか ?umiinuhuka, →おもいがけない/
 ～もよらない →おもいがけない/ ～を強
 くする ?umišimijun
 おもいあがる〔思い上る〕 najagajun, →ぞ
 うちょう/ 思い上っている者 najagaimun
 おもいあたる〔思い当たる〕 ?umui?ata-
 jun, →?atajun, おもいつく
 おもいおもい〔思い思い〕 naakangeekan-
 gee, →それぞれ
 おもいおよぶ〔思い及ぶ〕 ?umijujun
 おもいかえず〔思い返す〕 ?umuikesjun
 おもいがけない〔思いがけない〕 →おもい,
 ?umiNeakiran, ?umin 'juran, ?umin
 ?ubiran, →?ubijun/ ～こと kawaqta-
 kutu, ?ubirazigutu/ ～幸福 ?atagahuu/

思いがけず ?umaazihuraazi/ 思いがけ
 もない ?umicakin neen
 おもいきり〔思い切り〕 ?umiciri
 おもいきる〔思い切る〕 →あきらめる/ 思いき
 り(思い切って) ?umiciqi, →?umiciqtu/
 思い切れない 'watagurisjan, →こころ
 おもいしる〔思い知る〕 ?umisijun [のこり
 おもいすごし〔思い過ごし〕 ?umišizi
 おもいすごす〔思い過ごす〕 ?umišizijun,
 →かかんがる
 おもいだす〔思い出す〕 ?ubi?nzasjun/ 思
 い出せない ?ubiçikanasan [tacun
 おもいたつ〔思い立つ〕 citudacun, ?umi-
 おもいつく〔思いつく〕 ?umiçicun →おも
 いあたる/ ～こと ?umijui, ?umijuikeejui
 おもいつめる〔思いつめる〕 ?umiçimijun
 おもいどおり〔思い通り〕 cimuduui, ?umi-
 iduui, zijuu, →marumijun/ ～にいか
 ない ?umizituguhwasan
 おもいとどまる〔思いとどまる〕 'jusinun/
 思いとどまらせる 'jusimijun
 おもいなおす〔思い直す〕 ?umuikesjun
 おもいながす〔思い流す〕 ?uminagasjun
 おもいなやむ〔思い悩む〕 /～こと ?umii-
 jamii, →くのう
 おもいのこす〔思い残す〕 ?umuinukusjun
 おもいやり〔思いやり〕 sinasaki
 おもう〔思う〕 ?umujun, (敬語) ?usoozi-
 mišeen, →ねんずる/ ～こと ?umukutu/
 ～ことがなくなる →?uminaaku, ?uhu-
 ?uminaaku / ～ようにならない ?umi-
 zituguhwasan
 おもおもし〔重重しい〕 ?nburasjan,
 おもがい〔面癩〕 mugee [→いげん
 おもかげ〔面影〕 ?umukazi
 おもがわり〔面変わり〕 kaagigawai
 おもし〔重石〕 ?nbusi
 おもしろい〔面白い〕 ?umuqsan, ?umusi-
 rusan, ?wiirikisan, ?wiirikisan/ ～
 所 ?wiirikidukuru/ ～人 ?wiirikii/ 面

白がる →?wiirikisaN/ 面白そうである ?wiirikigisaN 「だつ
 おもだつ〔重立つ〕 ?umudacuN, →かしら
 おもちもの〔御持ちもの〕 ?weemuN
 おもちゃ〔玩具〕 'iirimuN/ ~の名 →baN-bataa, caNcaN?Nmagwaa, ciNciN?Nmagwaa, garagaraa, karamaa, hwaahwaa
 おもて〔表〕 meeguci, ?umuti
 おもてがえ〔表がえ〕 ?umutigeei
 おもてぐち〔表口〕 meeguci
 おもてだつ〔表立つ〕 →?umutimuci
 おもてなし ?utuimuci, →もてなす
 おもてむき〔表向き〕 ?umutimuci, →が
 おもてもん〔表門〕 ?uhu?uzoo しいけん
 おもと〔植物名〕 ?umutu
 おもとだけ〔於茂登岳〕〔山の名〕 ?umutu-daki 「かい, ふたん
 おもに〔重荷〕 ?Nbnuii, →?Nbusi, にやっ
 おもはゆい〔面映ゆい〕 ?ira?ahwasan, ?irahazikasjan, →はずかしい
 おもむき〔趣〕 sjuu, ?umumuci
 おもち〔面持ち〕 ?umumuci, →かおつき
 おもゆ〔重湯〕 ?waajuu, →?ukee
 おもり〔錘〕 ?Nbusi
 おもろ ?umui, ?umuru/ ~をつかさどる役 ?umurunusidui
 おもろそうし〔おもろ草紙〕 ?umuru?usoo-si
 おもわず〔思わず〕 ?ubirazi, ?ubizini, ?umaazihuraazi, →ふい
 おもわせぶり〔思わせぶり〕 ?umaasibui/ ~に辞退すること ziteegwaa
 おや〔感動〕 ?ane, ?andee, cee, haa, ?une/ ~おや(～まあ) ?akitoonaa, ?ane-?ane, ?iqaakuqcaa, saqtimu, saqtimusaqtimu, ?une?une
 おや〔親〕 ?uja, →?ahjaa, (敬語) ?ujaganasi, ?ujaganasii, おとおや, おんなおや/ ~にそむく子 ?ujamuduIngwa/

~にそむくこと ?ujamuduigutu/ ~に似ない者 tanagaaimuN/ ~の家 ?ujanujaa/ ~のため ?ujanutami/ ~の心子知らず →?ujabuNnoo Qkwacikusjoo/ ~もつらく子もつらいこと ?ujaçirasa Qkwaçirasa/ ~を失うこと ?ujamadui
 おやおもい〔親思い〕 ?uja?umuja, →こう
 おやがかり〔親がかり〕 ?ujagakai しこう
 おやがわり〔親がわり〕 ?ujagawai
 おやく〔お役〕 →やく
 おやくしょしごと〔お役所仕事〕 →?weeda-ibansi, やくしょ
 おやこ〔親子〕 ?ujaku, ?ujaQkwa/ ~全部 ?ujaQkwamuruQkwa
 おやご〔親御〕 →おや 「おや
 おやじ →taarii, taariigwaa, ちち, ちち
 おやしき〔お屋敷〕 tuNci, ?uhudunci, →
 おやすみになる →やすむ しやしき
 おやばか〔親馬鹿〕 →Qkwabiicaa
 おやふこう〔親不孝〕 ?ujahukoo, →ふこう/
 ~なこと ?ujamuduigutu/ ~な者 ?ujamuduIngwa
 おやぶた〔親豚〕 ?ahjaa, ?ahjaa?waa
 おやぶん〔親分〕 siidu, →かしら
 おやまさり〔親まさり〕 ?ujamasai/ ~の子 ?ujamasaiIngwa
 おやまのたいしょう〔お山の大将〕 taa?ijugasira
 おやもと〔親もと〕 ?ujamutu
 おやゆび〔親指〕 ?uhu?iibi
 おゆ〔お湯〕 →ゆ, おぶ
 およぎ〔泳ぎ〕 ?wiizi
 およぐ〔泳ぐ〕 ?wiizun
 およぶ〔及ぶ〕 ?ujubun, →?irugajun, ?u-çirugaajun
 およめさん〔お嫁さん〕 →よめ 「san
 おらくに〔お楽に〕 ?uhwiraku, →hwira-ori
 おり〔折〕 baa, basju, 'uui, →とき/ ~が悪いこと buhjoosi
 おり〔折(折箱)] 'uui

おり〔漚〕 guri
 おりあげる〔織りあげる〕 ʔuqcijun
 おりおり〔折折〕 cuqpuziqpu, →ときどき
 おりつけ〔織り付け〕 kasici, nuuguci
 おりもの〔織物〕 →nunu/ ~の種類の名,
 柄の名など→ʔajamun, ʔajannaakaa,
 ʔakasimaa, ʔakauu, ʔasanunu, ba-
 sjaa, bingata, binsibui, ʔeegata, ʔee-
 ʔuburuu, hanaʔui, husu, hutagu,
 hwiranuci, ʔiicu, ʔiiciri, ʔjaširami,
 kasigaa, kasinucitunbjan, kataçiki,
 maN, marubiima, minsaa, mookahuu,
 mudiaja, munpa, muruduçiri, na-
 mauu, niuu, rinzi, rootunʔui, sawai,
 sicigaara, seejanpuu, siraga, tingaa-
 cuu, tizima, tunbjan, tunbjancee,
 tuçiri, ʔusjaamii, ziçpakuzii, →はた
 おり, かすり
 おりる〔降る〕 ʔurijun
 おる〔織る〕 ʔujuN/ 織りかけの布 nunna-
 ka
 おる〔折る〕 ʔuujun
 おる〔居る〕 →いる
 おれい〔御礼〕 ſidigahuu, ſiduugahuu/
 ~をいう →nihwee
 おれいまいり〔御礼参り〕 →ʔugwanbutuci
 おれる〔折れる〕 ʔuurijun
 オレンジ →kunibu
 おろおろ moodoo
 おろか〔愚か〕 ʔuruka, →ばか, くぶつ/
 ~しく見える hwizarugisaN/ ~である
 ʔuſisaN
 おろしがね〔下し金〕 deekuniſirii, seeğa-
 na
 おろす〔降ろす・下ろす〕 ʔurusjun/ (魚を
 ~) kusireejun

おわり〔終わり〕 hati, naa, ſii, ʔuwai/~
 の番 ſiibaN
 おわる〔終わる〕 ſinuN, ʔucinajun, ʔu-
 wajun, →おえる, はてる
 おん〔お碗〕 →わん
 おん〔恩〕 ʔuN, ʔuN, (敬語)guun, →いの
 ち, おんぎ
 おん〔御〕 mi-, ʔN- 「(敬語) guungeesi
 おんがえし〔恩返し〕 ʔungeesi, ʔungeesi,
 おんぎ〔恩義〕 ʔunzi, →おん
 おんこう〔温厚〕 →ʔuzannasi
 おんしん〔音信〕 sata, →おとさた, たより
 おんち〔音痴〕 hwizainuudii
 おんどく〔音読〕 ſimihuku
 おんどり〔雄雞〕 ʔuudui
 おんな〔女〕 ʔunna, ʔwinagu, (敬語) me-
 ewinagu, (卑語) ʔjumuwinagu/ ~が
 生まれること →ʔuhuwikiga/ ~に夢中
 になること →ʔwinagumuçiri/ ~の親
 ʔwinagunuʔuja/ ~の子 ʔwinagungwa,
 ʔwinaguwarabi/ ~の声 ʔwinagugwii/
 ~のなり ʔwinaguhuuzi/ ~の身 ʔwina-
 gumi/ ~のような男 ʔwinaguhuuzii/ 男
 のような~ ʔuwinagu, ʔwikigahuuzii
 おんなおや〔女親〕 ʔwinaguʔuja, →はは
 おんなしゅじん〔女主人〕 ʔwinagunuusi
 おんなしょたい〔女所帯〕 ʔwinagudaci
 おんなたらし〔女たらし〕 ʔwinagukaçimi-
 jaa, ʔwinaguſikasjaa, ʔwinaguʔutusjaa
 おんなひでり〔女ひでり〕 ʔwinaguugarij
 おんなべや〔女部屋〕 ʔuraça
 おんならしい〔女らしい〕 ʔwinaguraasjan
 おんびん〔穩便〕 ʔunbin
 おんぶ ʔuhwa, ʔuuhwa

か(助詞) -ga, -gana, -i, →naa
 か[蚊] gazaN, gazaN
 か[荷] -katami
 が[我] gaa/ ~が強い gaazuusaN/ ~の
 強い者 gaazuu/ ~を折る →'uurijuN
 が(助詞) -ga, -nu, (逆接) -šiga
 があがあ gaagaa
 かい[貝] kee, →?ahwakee, ?ahwakuu
 かい[榎] ?eekuu, kee, ?weeku
 かい[匙] kee
 かい[甲斐] siN/ ~がない →sjoon tatan
 かい[回] -keen, →-du
 かい[階] -kee
 かい(助詞) naa
 がい[害] gee, →わざわい
 がいがいしい ganaraasjaN, ganaragisaN
 かいかとう[開化党] kaikwatoo
 かいがら[貝がら] →?ahwakee, ?ahwa-
 kuu
 かいがん[海岸] ?umibata, →はま
 かいま[快気] kweeci, →ぜんかい/ ~祝い
 kweeci?uiwee, kweeci?ujuwee
 かいぐい[買い食い] kooingwee
 かいけつ[解決] haNsi/ ~する haNsjun
 かいけん[会見] ?icee, →めんかい
 がいけん[外見] bazoo, miiba, miihwa,
 miijoo, ?waabi, →おもてむき/ ~をつく
 ろうもの ?waabicuraa
 かいこ[蚕] kaigu, ?itumusi
 かいごう[会合] surii, →あつまり
 かいごう[開合] kaikoo
 がいこつ[骸骨] karahuni, →こつ, ほね
 かいこん[開墾] kaikuN, seeki
 かいこんち[開墾地] seekizii
 がいさん[概算] teegeezaNmiN

がいして[擬して] namiti, →だいたい
 がいしゅつ[外出] →?aqcihwici
 がいしゅつぎ[外出着] ?Nzirihweerii, ?N-
 zirimeerii, tuNzihweezii
 がいしょう[街娼] hweezuraa, hweezuri,
 saNgwanaa, →じょろり
 かいすい[海水] sjuu, ?usju
 かいせい[快晴] zoo?waaçici
 がいせき[外戚] gweesici, hwahwakata,
 'winagunukata, →いんせき, さとかた
 かいせん[疥癬] koosi/ ~にかかつた者
 koosaa/ ~の一種 samigoosi
 かいぞう[改造] çukuikkee
 かいぞく[海賊] haiçee
 かいたい[懐胎] →にんしん, みごもる
 かいたい[解体] →ぶんかい/ ~して売ること
 kuusi?ui/ ~修理 hwiracisjuuhu
 かいだん[階段] kiçai, →はしごだん
 かいだん[怪談] 'juuriibanasi
 かいてん[回転] migui/ ~の失敗 migui-
 janzi
 かいどう[街道] 'ookwaN, sjukuduui, sju-
 kumici
 かいな[腕] keena, →て, りで
 かいにんそう[海人草] nacoora
 かいふく[回復] cuui, →ぜんかい, へいゆ/
 ~が遅い cuuniisaN/ ~が早い cuuibe-
 saN/ ~する cuujun, kuNnoosjun, mu-
 cinoosjun, mucinoosjun
 かいへい[開閉] ?akikwii「→あけひろげる
 かいほうする[開放する] ?akihwirugijun,
 がいまい[外米] saiguNmee, toogumii
 かいまみる[かいま見る] →suumi, のぞく
 かいみよう[戒名] ?iihweezii
 かいめん[海綿] ?umimajaa

かいもの〔買物〕 kooimUN/ ~上手である
 kooiʔuziraasjan/ ~をする人 kooimu-
 Nsjaa
 かいもんだけ〔開闢岳〕(地名) ʔukaimUN
 かいよう〔海洋〕 tukee, →たいかい
 かいらいし〔傀儡師〕 condaaa, ʔanjai,
 ʔanjajaa, manʔai 「koojUN
 かう〔買う〕 koojUN/ 買ってしまふ kee-
 かう〔飼う〕 ʔikanajUN, karajUN, sita-
 tijUN
 かえし〔返し〕 keesi, →おかえし, へんさい
 かえず〔返す〕 keesjUN, mudusjUN/ ~こ
 と →hwinbin, へんさい 「dusjUN
 かえず〔帰す〕 keesjUN, →keerasjUN, mu-
 かえず〔解す〕 ʔidasjUN, →ふかする
 かえって keetee, keeti, keetiNKai/ ~悪
 かえり〔帰り〕 keei, muɖui 〔い ʔagajuN
 かえりみち〔帰りみち〕 keeimici
 かえる〔帰る〕 keejUN, muɖujUN
 かえる〔返る〕 keejUN, →ʔutikeejUN
 かえる〔変える・替える〕 keejUN/ かえて
 しまふ ciikeejUN
 かえる〔解る〕 ʔidijUN, →ふかする
 かえる〔蛙〕 ʔatabicaa, ʔatabici/ ~の子
 ʔaminaa/ ~の一種 ʔataku, ʔwakubici,
 ʔuuʔataku
 かお〔顔〕 ʔira, kau, (敬語) mjuNci, nu-
 Nci, ʔunci, →つら, めんそう/ ~がつぶ
 れること →ʔirawaidoogu/ ~が憎らしい
 ʔiramiqkwasan, ʔiranikusAN/ ~がふ
 くれること ʔitabuqkwi/ ~がほてること
 ʔirahwaahwaa/ ~で借りること →ʔira-
 sicimuci/ ~の大きい者 → ʔwanbuu,
 ʔwanbaa/ ~の広さ ʔirawaa/ ~をしか
 める ʔwamijUN/ ~をしかめること, →
 miiwazanKuciwazan, nanawazan,
 ʔwazanKaa/ ~をそむけること ʔirabui/
 ~を出す nubagajUN, →tuNnubagajUN/
 ~を出すこと meenubagai/ ~をつつ込
 むこと ʔiraɕiikUN

かおいろ〔顔色〕 ʔiramiikuci, ʔiru, ʔiru-
 kisa, miNzici/ ~が急変すること ʔiru-
 migaai/ ~にあらわれやすい ʔirumiija-
 Qsan/ ~の悪い者 ʔirunugaa 「kumi
 かおかたち〔顔かたち〕 ʔiragaku, ʔiramu-
 かおだち〔顔だち〕 ʔirakaagi, miimaju,
 →きりょう/ ~が変わること kaagigawai
 かおつき〔顔つき〕 ʔiramiikuci, ʔiraʔuci-
 ki, miikuci, miNzici, miNzoo, ʔumu-
 mucu, →つらがまえ/ ~の変わることに
 kaagigawai 「い kabasjan
 かおり〔香り〕 →におい, ほろこう/ ~がよ
 かかし〔案山子〕 naasirumabui
 かかと〔踵〕 ʔadu/ ~の裏(~の裏にできる
 はれもの) ʔaduzisi
 かがみ〔鏡〕 kagan/ あわせ ~ʔaasikagan
 かがみみがき〔鏡磨き〕 kaganhweesaa
 かがみもち〔鏡餅〕 →ʔutusizama 「む
 かがむ kagamajUN, magajUN, →しゃが
 かかり〔係り〕 kamii, ʔatai, -tai
 かかりあい〔掛かりあい〕 kakawai, →かん
 けい
 かかりきり〔掛かりきり〕 →zuku/ ~の者
 かかる〔掛かる〕 kakajUN 〔→zukuu
 かかり〔係わり〕 kakawai, →かんけい/
 ~の多いさま kakeehwicee
 かかわる〔係わる〕 kakawajUN, →かんけい
 かき〔垣〕 kaci, →たけがき
 かき〔花卉〕 →hanagi, はな
 かぎ〔鍵〕 saaʔinuqkwa, →じょう
 かぎ〔鈎〕 gakizaa, gakizuu
 がき〔餓鬼〕 gaci/ ~のようである gacigi-
 san, gaciraasjan/ ~のような猫 gaci-
 majaa
 かきあげる〔掻き上げる〕 kacagijUN
 かきあさる〔掻きあさる〕 ʔasagujUN
 かきいれどき〔書き入れ時〕 →siɕibi
 かきいれる〔書き入れる〕 kaciʔirijUN, →
 きにゆる 「nuN
 かきこむ〔掻き込む〕 hoociNcUN, kaciku-

かぎ

かぎざき〔鈎裂き〕 'jukujai
 かきそえる〔書き添える〕 kacišiijun
 がきだいしょう〔餓鬼大将〕 taaʔijugasira
 かきちらす〔掻き散らす〕 kacihoojun
 かきつけ〔書き付け〕 kacičiki
 かきね〔垣根〕 kaci, →たけがき
 かきまわす〔掻き回す〕 kizaasjun, →ひっ
 かきまわす/ 掻き回して濁らす kacimiN-
 gwasjun
 かきみだす〔掻き乱す〕 kacimiNgwasjun
 かきむしる〔掻きむしる〕 kakanun, kaca-
 nkwasjun
 かきもの〔書きもの〕 kacimun
 かきよ〔科挙〕 →koo
 かぎり〔限り〕 kaziri, tamisi, →tutuumi,
 -ziri/ できる～ →gana, -ganaasi
 かく〔角〕 kaku, →かど
 かく〔書く〕 kacun
 かく〔掻く〕 kacun, →ひっかく
 かく〔嗅ぐ〕 →kaza
 かくおび〔角帯〕 husuʔuubi
 かくかく〔斯く斯く〕 kaNkan
 がくげき〔楽劇〕 →kumiuaui/ ～の名 taa-
 かくげん〔格言〕 →ʔikutuba [hwaakuu
 かくご〔覚悟〕 kakugu 「ぞう
 かくご〔格護〕 kakugu, →ほぞんする, ひ
 かくじ〔各自〕 naameeme, →おのおの, そ
 れぞれ
 かくしき〔格式〕 →ない/ ～どおりの siN-
 na, siNnu 「qkwigutu
 かくしごと〔隠しごと〕 kakusigutu, kwa-
 かくしだて〔隠しだて〕 kakusi/ ～のない
 人 →ʔaruʔuqpii
 かくしもつ〔隠し持つ〕 daeun
 がくしゃ〔学者〕 gaksuja
 かくしゃくと〔嬰傑と〕 gahwagahwa
 かくじんかくよう〔各人各様〕 →naakamee-
 gamee, →それぞれ/ ～に言うこと →naa-
 ʔiiʔii 「N, ひたかくし
 かくす〔隠す〕 kwaQkwasjun, →kaksuju-

がくせい〔学生〕 gaksujo, šiminarajaa,
 →せいと 「する ʔoojun
 かくとう〔格闘〕 ʔooee, tuečikamee/ ～
 がくふ〔楽譜〕 →kunKunsi, kururuNsi
 かくべつ〔格別〕 →とくに, べつだん/ ～の
 かくまう →kwaQkwijun [間柄 kakubiçi
 がくもん〔学問〕 gakumun, šimi, →hwi-
 qsaN, tišimigakumun/ ～に夢中な者
 gakuburi/ ～のある人 šimiNcu, šimisi-
 ri, →hwiqsaNniN/ ～を習う人 šimina-
 rajaa
 がくもんじょ〔学問所〕 suriiza, →がっこう
 がくようひん〔学用品〕 simihudikabi
 がくりょく〔学力〕 gakurici
 かくれる〔隠れる〕 kwaQkwijun, sinu-
 buN/ 急いで～ haikwaQkwijun/ 隠れ
 て通る →sinubun/ 隠れ回ること kwa-
 Qkwimaai
 かくれんぼ〔隠れんぼ〕 kwaQkwindooree,
 kwaQkwintooruu/ ～で鬼が降参すること
 ʔaaguuru
 かけ〔賭け〕 kaakii, →ばくち/ ～の一種
 cankuruu, cenkuruu, paNmikasio,
 ʔuubuu
 かけ〔欠け〕 kagi, →けっせん 「かけうり
 かけ〔掛け〕 sagai/ ～で売る sagajun, →
 かけ〔影・陰〕 kaagaa, kaagi, kazi, (敬語)
 'Ncaagi 「hucibanta
 がけ〔崖〕 hanta, luci, →ʔuuciribanta,
 かけあい〔掛け合い〕 kakiee
 かけあし〔かけ足〕 haee
 かけうり〔掛け売り〕 sagaiʔui, →かけ
 かけがい〔掛け買い〕 ʔirikeesii, sagaigooi
 かけがね〔掛け金〕 kakugani, saasi
 かけきん〔掛け金〕 →kakimee, kakisin
 かげぐち〔陰口〕 čicagimoosjagi, moosja-
 gi, nurecgutu, susjuu, →わるくち/ ～
 を言う nasagasjun
 かけごえ〔掛け声〕 ʔiitu, ʔagwii/ 花婿に
 対する～ →doodoo/ 船を漕ぐ時の～ →
 ʔimeenukaazi

かけことば〔掛けことば〕 kakikutuba
 かけじく〔掛け軸〕 kakimUN
 かけずりまわる〔かけずり回る〕/ ~さま
 ʔamaahaikumahai
 かけつぐ〔掛け継ぐ〕 kakiçizUN
 かけっこ haaeesjuubu
 かけね〔掛け値〕 kaki
 かけひ〔算〕 hwiizaa, (小児語) beebEE/ ~
 で水を引いた水汲み場 hwiizaagaa
 かげぼうし〔影法師〕 kaagaa, →かけ
 かげぼし〔陰干し〕 kaagibusi, kazibusi
 かけもち〔掛け持ち〕 kakimuci, →kataka-
 kimaakaki, かけもつ 「もち,かねる
 かけもつ〔掛け持つ〕 katakakijUN, →かけ
 かけら kaki, kumakii, 'wari
 かける〔掛ける〕 kakijUN, →ʔusujUN, ši-
 kijUN, →ひっかける
 かける〔賭ける〕 kakijUN
 かける〔欠ける〕 kagijUN, kakijUN/ 欠け
 たところだらけ kakikaa/ 欠けたもの
 kagi, kakimUN
 かげろう〔虫の名〕 šeNsuruu
 かけるまじま〔加計呂麻島〕 kakiruma
 かげん〔加減〕 ʔaNbee, kagin, (敬語)
 ʔwaanbee
 かご〔駕籠〕 kagu, (敬語) ʔanda, ʔunaa-
 nda/ ~の一種 'jamakagu/ ~の音 gi-
 qeirigiqeiri
 かご〔籠〕 baaki, kuu, sjooki/ ~の一種
 ʔutusiguu, haara, miibaaraa, sagiçoo-
 かこい〔囲い〕 kakui, →かきね ʔkii, tiiru
 かこう〔囲う〕 kakujUN/ 囲いたい心 çi-
 migukuru/ 囲われた女郎 çimizuri
 かこうひん〔加工品〕 çukuumUN
 かごしま〔鹿児島〕 kagusima
 かごする〔加護する〕 kagusamijUN
 かごつくり〔駕籠作り〕 kaguçukujaa
 かこつけ kutujusi
 かこつける kutujusijUN, →ことよせる

かこむ〔囲む〕 kakunUN, →かこう, ほうい
 かごん〔過言〕 kwagUN, →いいすぎしする
 かさ〔笠・傘〕 kasa, (敬語) ʔuncitaka,
 →ひがさ/ ~の一種 ʔamigasa, ʔanzasa,
 daNgasa, ʔeegamigasa, ʔeegasa, hana-
 gasa, kaabujaagasa, kara kasa, kuba-
 gasa, miNtariʔanzasa, miNtarii, ʔoo-
 gasaa, rangasa, ransan, ʔuransan,
 →ʔuncitaka/ ~に着ること →kusigaki
 かさ〔瘡〕 kasa/ ~のできかかり kasaki
 がさがさ gasagasa, gwasagwasa
 かざかみ〔風上〕 kaziwaara, kaziʔwaara
 かざぐるま〔風車〕 kazimajaa
 がさつなもの〔がさつな者〕 gasaa
 かさなる〔重なる〕 kasabajUN
 かさね〔重ね〕 -kasabi ʔzuuzuu, →たびたび
 かさねがさね〔重ね重ね〕 kasanigasani,
 かさねぎ〔重ね着〕 →ʔwaabooii
 かさねる〔重ねる〕 kasabijUN, →つむ
 かさはり〔傘張り〕 kasahajaa
 かさばる kasabajUN, kasanUN
 かさぶた kasabuta, kasanTa/ ~がとれる
 かさむ〔嵩む〕 kasanUN ʔ→ʔukurijUN
 かさや〔傘屋〕 kasazeeku 「うしよく
 かざり〔飾り〕 kazai, (敬語) ʔukazai, →そ
 かざりけ〔飾り気〕/ ~のない人 ʔaaran-
 kaa, ʔaqtuu
 かざりしよく〔飾り職〕 kuganizeeku, ku-
 ganizeekuu 「→そうしよく
 かざりつけ〔飾り付け〕 çukuikazai, kazai,
 かざる〔飾る〕 kazajUN
 かし〔菓子〕 kwaasi, kwasi/ ~の名など
 ʔamasjoogaa, ʔami, ʔandaagii,
 ʔandamuci, ʔandamuchjaagaa, bu-
 kubukuzaa, bukubukuu, butankoo,
 ciirunkoo, ciisunkoo, cinbin, cin-
 sukoo, çiqpen, hacagumi, hanabooru,
 hjaagaa, hjaakumuci, hucagi, huzi-
 sarasa, ʔiruçikimucigoo, kaşitira,
 koogwaasi, kooreemuci, kubaʔaagii,

かじ

kubanʔagii, kubanʔagi, kumigaN, ku-
npeN, kusiciiʔukwaasi, maamigaN,
maçikazi, manZuu, mumuʔukwaasi,
nisicimucigoo, ʔNmukašinaqtuu, pa-
asunKoo, ritoopen, saataaʔandaagii,
saataanaqtuu, sooʔuburu, tiisaaʔan,
tiisuʔan, ʔugumahacagumi, ʔuiroo-
muci, ziikaşitira, →もち

かじ〔舵〕 kazi

かじ〔火事〕 kwazi, →hwii/ ~の災難 kwa-
nan/ ~の時のまじない →hoohai, hwi-
damageesi, hwiigeesi/ ~場での働き
hwiibataraci

かじ〔家事〕 ʔucigutu, →かせい

がし〔餓死〕 ʔjaasazini

かしこい〔賢い〕 sjooraasjan, →ʔuziraa-
sjan/ ~顔つき çiradamasi, tamasi-
kweekaagi/ ~こと mimigani, suumii/
~者 haganaa, haganimUN, sjooʔiraa,
sjooʔirimUN, →りころもの

かしこまる〔畏まる〕 →ʔugancumijun,
きょうしゆく

かじごや〔鍛冶小屋〕 kanZaajaa

かしつ〔過失〕 ʔajamai, ʔajamaigutu, ʔa-
jamari, →あやまち

かじつ〔果実〕 →kiinunai, み

かじとり〔舵取り〕 kazitui

かしましい kasimasjan, →やかましい

ガジマル〔植物名〕 gazimaru/ ~の這って
長く伸びたもの hooigazimaru

かじみまい〔火事見舞〕 kwazimiimee,
kwazimimee

かしや〔菓子屋〕 kwaasijaa, kwasija, kwa-

かしや〔貸家〕 karasijaa [sijaa

かじや〔鍛冶屋〕 kanZaa, kanZeeku, kan-

かしゅ〔歌手〕 ʔutasjaa [Zeeku

かじょうがき〔筒条書き〕 tiiçigaci

かしら〔頭〕 ʔatama, kasira, kasirajaku,
siidu, →たいしょう 「だつ

かしらだつ〔頭立つ〕 kasiradacun, →おも

かじりつく kwiiçikijun

かじる kakazijun

かす〔糶〕 guri, kaşi

かす〔貸す〕 ʔiraasjun, karasjun

かす〔数〕 kaşi, →すう

がすいと〔瓦斯糸〕 gasuʔitu

かすか ʔumujoo, →ぼんやり/ ~に見え
るさま miiraNka miiraNka

かすかざりない〔数限りない〕 zamazamaa
neen, →たくさん

カスタネット →juçidaki

カステラ kaşitira/ ~の一種 ziikaşitira

かすめとる keetujun

かすら〔葛〕 çita, kanda

かすり〔緋〕 ʔiiciri, tuçiri/ ~の着物 tu-
çirizini/ ~模様 biima/ ~の模様の名
ʔijabiima, marubiima/ ~の染め付けを
業とする者 tuçirijuujaa

かすりきざ〔かすり傷〕 şirikizi

かせ〔袴・綴〕 kasi

かぜ〔風〕 kazi, →ʔusukazi/ ~当たりの
強い所 suzibana/ ~が強い kažoosAN,

→suzoosAN/ ~が吹く →suzun/ ~が回
ること kazimaai/ ~が南に回ること

hweemaai/ ~で折れた木の枝 kažoori-
ridamun/ ~で折れた木の枝のたきぎ kažo-
ridamun/ ~に当たる sugarijun/ ~に

当てる (~を通す) sugasjun

かぜ〔風邪〕 geeci, hanasici, →huuci, mi-
isicihanasici/ ~気味 hanasicikagin

かせい〔家政〕 ʔjaamuciçuku, →かじ

かせい〔加勢〕 kasii, tidaşiki, tigane, →
えんじょ, かせい

かせいと〔袴糸〕 kasi/ ~とぬき糸 kasinu-

かぜよけ〔風よけ〕 kazigataka [ci

かせん〔科銭〕 kwasin, →ばっきん

かそう〔家相〕 hunşi

かそう〔火葬〕 kwasoo

かそうかいきゅう〔下層階級〕 sicakata, si-
mukata, simuzimu, sitazita, →しもじも

かそうば〔火葬場〕 kwasooba
 かぞえる〔教える〕 'junuN, kazuujun, →
 san/ ～こと santui/ ～時のしるし →
 san/ ～に足りない者 kazinaranmun
 かぞく〔家族〕 cineeniNzu, 'jaaniNzu/ ～
 全体の転居 cineegusi/ ～中 cineezuu,
 cujaaniNzu
 かた〔肩〕 kata, →katabai/ ～の後の部分
 tiiʔuqcaki/ ～と腕 katageena/ ～先か
 らもう一方の手の先までの長さ katasaci
 かた〔型〕 ʔikata, kata, →かたち
 かた〔方〕 muti, -kata
 かた〔渦〕 katabaru, →gata
 かた〔片〕 kata-
 かたあげ〔肩上げ〕 kataneeciri
 かたあしとび〔片足とび〕 giitaa, →giitaa-
 かたい〔固い・堅い〕 katasan, kuhwasan,
 →zinzuusan, けんご/ ～頭 kuhwaçibu-
 ru/ ～餅 kuhwamuci/ ～もの kuhwaa/
 固くなる kuhwajun
 がたい〔難い〕 -gurisjan, →むずかしい
 かたいじ〔片意地〕 →いじ, がんご/ ～であ
 る cimuspusan/ ～な者 cimuspua
 かた いっぽう〔片一方〕 →かたほう
 かたおもい〔片思い〕 kataʔumui
 かたおや〔片親〕 kataʔuja
 がたがた gatagata, hutuhutu
 かたき〔敵〕 ʔada, kataci, tici
 かたぐるま〔肩車〕 maatagaataa
 かたこと〔片言〕 cukutuba
 かたしぐれ〔片時雨〕 katabui
 かたすみ〔片隅〕 katašimi
 かたずをのむ〔かたずを呑む〕 →çinNUN
 かたそで〔片袖〕 katasudi/ ～をぬぐこと
 katakusinuzi, katasudinuzi
 かたち〔形〕 kataci, →かた, かっこう
 かたつけ〔型つけ〕 kataçiki/ ～を業とする

者 kataçikijaa
 かたづける〔片付ける〕 kataçikijun, sa-
 bakijun, seekijun, siicameejun, sizu-
 mijun, →しまる/ ～こと →sizumikaci
 かたつむり〔蝸牛〕 çinNan
 かたてま〔片手間〕 katatima
 かたとき〔片時〕 katatuci, ʔusjunuma
 かたな〔刀〕 katana, →たち
 かたは〔片刃〕 katahwa/ ～の小刀 kata-
 hwašigu
 かたはし〔片はし〕 cukata/ ～から ʔiqsoo-
 naadii, ʔiqsooziicii
 かたはば〔肩幅〕 katahaba
 かたひざ〔片ひざ〕 kataçinSi
 がたびし gaarahwiçii
 かたほう〔片方〕 cukata, kataguu, →いっ
 ぽう/ ～の帆 katahu
 かたまり〔塊〕 katamai, murusi, →buq-
 kwa/ ～があるさま murusaageejaa/ ～
 ができる murusigeejun
 かたまる〔固まる〕 kuhwajun, kuhwazi-
 かたみ〔形見〕 katami [rijun]
 かたみち〔片道〕 katamici
 かたむき〔傾き〕 katançi
 かたむく〔傾く〕 katançun, →šikujun
 かたむける〔傾ける〕 katançijun, nanbee-
 jun
 かたむすび〔片結び〕 hutucimusun
 かたよる〔片寄る〕 / ～こと ʔiqpoonkee/
 片寄った分け方 katawaki
 かたらい〔語らい〕 ʔikataree, kataree
 かたらう〔語らう〕 katarajun 「kataibi
 かたる〔語る〕 katajun, →はなす/ ～人
 「ra, →そば, ほとり
 かたわら〔側〕 katahara, suba, subahwi-

かた

かたわれ〔片割れ〕 katawari
かだん〔下段〕 sicadan
かち〔勝ち〕 kaci
かち〔徒歩〕 kaci
かちあう〔かち合う〕 hanakaasjun, kijun,
sisikajun, sisikeejun/ ~さま sisikee-
hanakee
かちいくさ〔勝ちいくさ〕 kaciʔikusa
かちく〔家畜〕 çikaneemun/ ~の売買者
→bakujoo
かちまけ〔勝ち負け〕 kacimaki, →しょうぶ
がちょう〔鷺鳥〕 gaanaa
かつ〔勝つ〕 kacun
かつお〔鰹〕 kaçuu
かつおのえぼし〔くらげの一種〕 ʔiiraa
かつおぶし〔鰹節〕 kaçuubusi/ ~のだし汁
かっかっ hwaahwaa [kaçuusinzi
ががつする gacikeejun
がっかりする gaNdujun, →きおち, らく
たん/ ~こと çirudai,
がっき〔楽器〕 naimun/ ~の一種 gaku,
gakubura, ʔjuçidaki, kuucuu, saNba/
ガクブラ (gakubura) の奏者 buraa
かつぎ〔荷〕 -katami
かつぎちん〔かつぎ賃〕 katamidima
かつぐ katamijun
かっけ〔脚気〕 siçimuci
かっこう〔格好〕 kaqkoo, →かたち, すがた
がっこう〔学校〕 gaqkoo, gaqkoozi, →hwi-
ragaqkoo, kukugaku, muragaqkoo, su-
がっしょうする〔合掌する〕 →tii [riiza
かっせん〔合戦〕 tatakee, →せんそう
がったいする〔合体する〕 kusajun, ʔusaa-
jun, ʔusjaajun, →がっぺいする
かって〔勝手〕 cimakasi, kaqti, wagama-
ma, zimama, →きまま, わがまま/ ~気ま
かって〔勝手〕 simu [ま siibusjahundee
かつどうしゃしん〔活動写真〕 kaagaaudui
かっぱ〔河童〕 kaagarimoo

かっぱ〔合羽〕 kaqpa
かっぱらう keetujun, →うばいとる
がっぺいする〔合併する〕 ʔusaasjun, ʔu-
sjaasjun, →がったいする
かてい〔家庭〕 cinee
かていきょうし〔家庭教師〕 →ʔuhujakaa
がてん〔合点〕 gaqtin/ ~が行く →cikwii-
jun
かど〔角〕 kadu/ ~がある haçikoosan,
→haçikoogisan, haçikoooraasjan/ ~が
立つ kadudacun
かとう〔下等〕 / ~なもの kazii
かどぐち〔門口〕 zooguci, →きどぐち
かどで〔門出〕 ʔnzitaci, tabidaci, →しゅ
かどわかす ʔjukusjun しっぽつ
かなあみ〔金網〕 →ʔabuikuu
かなう kanajun
かながき〔金掻き〕 kusakaci
かなぐ〔金具〕 kanagu
かなくそ〔金くそ〕 kanakusu, kanikusu
かなけ〔金気〕 / ~のある汁 kanasiru
かなしい〔悲しい〕 naçikasjan/ 悲しそら
な顔 çirajoo/ 悲しみがこみ上げる →ha-
cikunun
かなだらひ〔金だらひ〕 binðaree
かなづち〔金づち〕 kanazicaa, kanizicaa
かなてこ〔金てこ〕 kanigara
かなひぼし〔金火箸〕 kanihwiibasi
かなぶんぶん kanibuubuu
かなへび kooreegusjukwee, ʔwaatuʔoo-
jaa
かなほとけ〔金仏〕 kanibutuki
かなめ〔要〕 siNmi
かなもの〔金物〕 kanamun
かなものや〔金物屋〕 kanamunjaa
かならず〔必ず〕 kanarazi, kaNnaazi, ka-
Nnazi, kaziti, zihwi, →きっと
かなり ʔjukai, →そうとう, だいぶ, よほ
ど/ ~の ʔjukai/ ~の量 ʔjukaiʔuqsa
かなん〔火難〕 kwanaN

かに〔蟹〕 gani/ 〓の一種 gazami, kataçimiganigwaa, ʔumigani
 がにまた/ 〓の歩き方 →ʔaatabai
 かね〔金〕〔金属〕 kani/ 〓のたが kaniʔubi
 かね〔金〕〔金銭〕 zin, zinʔkani, →ぜに/ 多額の〓→たいきん/ まとまった〓 marucizin/ 〓が掛かる çikurijun/ 〓で苦しむこと zinziira/ 〓に飢えること zinugari/ 〓のかかること siçciigutu, zinʔirimi/ 〓の教え方 →zin/ 〓を入れておく箱 zinbaku/ 〓を借り歩く者 hwiçqatiruu/ 〓を無駄に使うこと zinʔaari/ 〓をやたらに人にやる者 zinʔkwijaa
 かね〔鐘〕 kani/ 寺院であけ方に鳴らす〜 keezoo
 かね〔鉦〕 kani, sjoogu/ 〓太鼓 →eiNku/ 〓太鼓をたたく一団 cinʔkuniNzu/ 〓たたき ninbuçi, ninbucaa/ 鉦たたきの〜 ninbuçigani/ 〓の音 →keNken
 かね〔矩〕 kani, →かねじゃく
 かねかし〔金貸し〕 zinʔkarasjaa, →こうりかし
 かねじゃく〔曲尺〕 baNzoogani, kani
 かねしょう〔金性〕 kanisjoo
 かねづかい〔金使い〕 zinʔkicee/ 〓が荒い者 zinʔteesjaa
 かねづまり〔金づまり〕 zinʔzimai
 かねて kaniti/ 〓から →hweeku まえもって 「QsaN
 かねまわり〔金回り〕/ 〓がよい zinʔmiija-
 かねもち〔金持ち〕 ʔjuzeemuci, ʔweekii, ʔweekiNcu, ʔweekiNcuu, zinʔmuci
 かねる〔兼ねる〕 kanijun, →かけもつ/ 兼ね備えること ʔuceekanee/ 兼ね備わる ʔucajun
 かのうする〔化膿する〕 →うむ
 かのえ〔庚〕 kanii
 かのじょ〔彼女〕 →ʔari
 かのと〔辛〕 kanutu 「miʔiruu
 かばいろ〔穉色〕 ʔNmiʔiru/ 〓のもの ʔN-

かばう〔庇う〕 kanimaasjun
 かび〔華美〕 hanʔkwa, →はなやか/ 〓にする kwabiijun
 かび〔黴〕 koozi, →kaabui
 かびん〔花瓶〕 hanaʔici
 かぶ〔蓑〕 ʔNNDii
 かぶ〔株〕 -mutu
 かふう〔家風〕 ʔjaazina, kahuu
 かぶせる〔被せる〕 kansijun, ʔusujun, →おっ被せる/ 被せさせる ʔusaasjun
 かふそく〔過不足〕 kwaahusuku
 かぶと〔兜〕 kabutu
 かぶらな〔蕪菜〕 ʔNNDii
 かぶり kaabui
 かぶりかぶり kaabuikaabui
 かぶりもの kabuimun, kanʔzimun
 かぶる kabujun, kanʔzun/ かぶらせる kansijun
 かぶれ munzaai
 かべ〔壁〕 kubi/ 〓をへだてた隣り kubi-hwiçzami
 かへい〔貨幣〕 zin, →かね
 かほう〔果報〕 huu, kwahuu, →mumuga-huu, こうふく
 かほうもの〔果報者〕 huunin
 かぼちゃ〔南瓜〕 cinʔkwaa, nankwaa
 かほど kansjuka, →これ
 かま〔鎌〕 ʔirana, kama/ 〓の柄 ʔirana-zika
 かま〔釜〕 hagama, (敬語) ʔncama
 かまう〔構う〕 kamajun, kamujuN/ かまわずにおく ʔjoosjoojun
 かまえ〔構え〕 kamee
 かまえる〔構える〕 hwicimaasjun
 がまがえる ʔwakubici
 かまきり ʔiibuuziraa, ʔisjatuu, sjooroo-ʔNma, ʔusjooorooʔNma, ziramii
 かます〔魚名〕 kamasaa
 かます〔吠〕 kamazii
 かまち〔框〕 kamaci

かまど〔竈〕 kama/ ~作り kamanui/ ~
作りの日 kamanuibii/ ~の神 hwinu-
kan, ūmiciṃun

かまぼこ〔蒲鉾〕 kamabuku

がまんする〔我慢する〕 čitumijun, kune-
jun, nižijun, →nižiikunee, こらえる/
我慢できない šiziraran/ 我慢できないこ
と nižiikantii/ 我慢できる →jašimajun

かみ〔神〕 kami, manun, →ŷibi, sizi, (敬
語) nušizi, 'Nean, ŷušizimee/ ~に祈
ること kaminiNzi/ ~に供える米 hana-
gumi/ ~に仕える人 kaminēu, →しんか
ん, みこ/ ~のいる場所 ŷibi/ ~の国→
ŷamamijasirinija/ ~の託宣 ciziŷuri,
mišiziri/ ~の種類, 名など →ŷamami-
cuusiniricuu, ŷamamikusuniriku, cin-
mamun, čicisiru, hujuunukami, hwi-
nukan, šeenukan/ ~のような子供→
'warabigami/ ~の靈力 sizi, (敬語) ŷu-
šizi/ の靈力が高い sisidakasan/ ~と仏
kamihutuki/ ~を祭ってある所 ŷugan,
ŷutaki, 'uganzu/ ~を祭る式 ŷutakabi

かみ〔髪〕 karazi, karazigii, kasira, ka-
siragii, (卑語) kantu, (敬語) mjuncoobi,
nuncoobi, ŷuncoobi, →もうはつ/ ~の
剃り方の名 hatazui, saratatii/ ~のつ
かみ合い kantukuumee/ ~の結い方の名
curaŷuncoobi, haajuu, haajuuii, hwi-
ragun, ŷiriganhaajuu, kamuroo, kan-
puu, katakasira, maajuuii, ŷusirii/
~を剃る儀式の名 saratatii/ ~を結う儀
式 katakasirajuui/ ~を結っていない幼
児 mooii

かみ〔紙〕 kabi/ ~の種類の名 basjuuka-
bi, basjuusi, caakabi, hjakudasi, hu-
usjugami, minugami, mumudakabi,
sugiwara, 'waradoosi/ ~漉きを業とする
者 kabišicaa/ 彼岸に燃やす →ŷanzikabi

かみ〔上〕 →ŷagai, うえ/ ~の句 kamiku/
~の方 ŷwaaara, ŷwiimuti

かみあう〔噛み合う〕 kwiicaajun/ かみ合
わせる kwiicaasjun, →kwaasjun

かみあぶら〔髪油〕 biNžiki, katasijuu, →
kabaŷanda

かみいれ〔紙入れ〕 biqcin

かみがかり〔神がかり〕 kamiburi, kami-
daari, siNma, →taari/ ~の「ゆた」 si-
Nmajuta

かみかくし〔神隠し〕 munumaii

かみがみ kirookunoo

かみきりむし (虫の名) karazikwee

かみきる〔噛み切る〕 kwiicijun

かみしも〔上下〕 kamisimu

かみぜに〔紙銭〕 ŷanzikabi, (敬語) 'Nca-
bi, ŷuncabi [kansuižikee

かみそり〔剃刀〕 kansui/ ~を使うこと

かみだな〔神棚〕 'Neanŷutana

かみつく〔噛み付く〕 kuujun, kwiičicun,
kwiičikijun, →くいつく/ ~馬 kuujaa-
ŷNma

かみなり〔雷〕 kannai, →hjaaignnai

かみのけ〔髪の毛〕 →かみ

かみばり〔紙張り〕 kabibai

かみびな〔紙びな〕 ŷumentuu, →saatuu-
mee

かみゆいどこ〔髪結い床〕 katakasirajuu-
jaa, karazijuujaa, →とこや/ ~の料金の
名 ŷiqkwanmagi, nikwanmagi

かみわる〔噛み割る〕 kwiiwajun

かむ〔噛む〕 kanaasjun/ ~さま kanaa-
hwicaa

かめ〔亀〕 kaamii/ ~の一種 'jamagaamii,
'janbarugaamii, ŷumigaamii/ ~の甲
kaamiikuu

かめ〔壺〕 kaami, →つぼ, みずがめ/ ~な
どのかげら kaaminzari/ ~の一種 han-
duugaami, nanban, nanbangaami, ti-

かも〔鴨〕 gaatui, kamu [Nšiigaami

かもじ〔髻〕 ŷirigan, (敬語) miirigan,

かや〔茅〕 kaja [mišiiN

かや〔蚊帳〕 kaca, (敬語) 'Ncaca
 がやがや buusagwaasa, gwasagwasa,
 muqcirugeei, ?uhumutamuta, 'wasa-
 wasa, →わいわい
 かやく〔火薬〕 'insju, 'Nsju
 かやぶき〔茅葺き〕 kajabuci/ ~の家 kaja-
 bucijaa, kajajaa
 かゆ〔粥〕 kee, (敬語) ?ukee, →çizinumUN
 / ~の薄いもの sirutumiituu
 かゆい〔痒い〕 'wiigoosaN
 かよいじ〔通い路〕 kajuizi, →つりろ
 かよう〔通う〕 kajujUN/ ~こと kajui
 かような →こんな
 かように →このように
 から〔殺〕 gara, guru, kara
 から〔空〕 kara, 'Nna, 'Nnagara, 'Nna-
 muN, →がらんどろ, ちゅうくろ/ ~の車
 'Nnaguruma 「ôii, →'Nnaara
 から〔助詞〕 -demunu -kara, -kutu, -naa-
 がら〔殺〕 karahuni, →がいこつ
 がら〔柄〕 -gara, →もよう/ こまかい~
 ?ajagwaa/ ~のこまかい着物 ?ajagwaa-
 ziuN/ ~の名 →おりもの
 からい〔辛い〕 karasaN, sipukarasaN,
 sjuuzuusaN, →しおからい/ ~味 sjuuzu-
 uguci/ ~もの karamUN, (小児語) kaa-
 からいばり kara?ibai [kaa, →しおからい
 からえずき〔空嘔〕 karawiibaci
 からかう nabakujUN, 'wacakujUN, 'wa-
 kujUN/ ~こと 'wacaku/ からかわれる
 者 nabakuimUN
 からかさ〔唐傘〕 karakasa
 からかね〔唐金〕 karakani
 がらがら garagara 「zi, 'Nnakuzi
 からくじ〔空籤〕 hwiihwirikuzi, karaku-
 からくち〔辛口〕 sjuuzuuguci
 からげる kanagijUN, →たばねる
 からさお kurumaboo
 からさわぎ〔空騒ぎ〕 'Nnasawazi
 からし〔辛子〕 karasi

からしな〔辛子菜〕 naa
 からす〔烏〕 garaşi/ 夕方の~ 'juugaraşi
 からす〔枯らす〕 karasjUN
 からす〔噎らす〕 karasjUN
 ガラス tama/ ~の破片 tamanuwari
 からすのきゅう〔烏の灸〕 'junuðuiguci
 ガラスばり〔ガラス張り〕 tamabai
 ガラスびん tamaguhwiN
 からすへび〔蛇の名〕 garaşihiibaa
 からすまがり →garaşimagai
 からだ〔体〕 ðuu, karata, →(敬語) ?unzu-
 mucu, み/ ~が大きい huðumagisaN/ ~
 が大きい者 huðumagii/ ~が重たい duu-
 ?nbusaN/ ~がかなう →ðuugana, duu-
 gara/ ~が小さい huðuğuusaN/ ~が強
 い karazuusaN/ ~が弱い ðuujuhwaras-
 saN, karajoosaN, →びょうじゃく/ ~の
 骨 ðuubuni/ ~ひとつ mişigara/ ~を
 いためること ðuuziira, →juu/ ~を振り
 動かすこと duubui
 からちゃ〔空茶〕 karazaa
 からて〔唐手〕 toodii, →tii/ ~の型の名
 kuusaNkuu, naihaNci, paqsai, pin?an,
 kumiti
 かな〔唐名〕 karana, →sii, ?uzi
 からはふ〔唐破風〕 karahwaahu
 からぶき〔空拭き〕 karazusui
 からみつく karakujUN, maçibujUN/ ~
 さま karakuimaçibui
 からむし〔植物名〕 maauu, 'uubee
 からめとる karamitujUN
 からめる karamijUN, →まきつける
 がらんどろ baNbaaraa, ?uubanbaaraa,
 →tuNdoojaa, から, ちゅうくろ
 かり〔仮〕 kai
 かりいれどき〔刈入れ時〕 ?aci
 かりごや〔仮小屋〕 kaija
 かりに〔仮に〕 →もし
 かりもの〔借りもの〕 kaimUN/ お借りした
 物 ?unceemUN

かり

かりや〔仮屋〕 kajja
 かりょう〔料料〕 →ぼっきん
 かりる〔借りる〕 ʔirajuN, kajun, →hwi-qcatijun/ ~こと →hwiqcatiruu, ʔi-reekai, はいしゃく
 かりわけ〔刈り分け〕 çukuiwaakii
 かる〔刈る〕 kajun
 かるい〔軽い〕 gaQsaN, →kaQsaN/ ~荷物 garunii/ ~物 garumuN/ 軽く karugaruutu, 'jooN, 'jooNgwaa, ʔuciʔuciitu/ 軽く見る →かろんじる
 かるいし〔軽石〕 karasi
 かるがると〔輕輕と〕 karugaruutu
 かるこ ʔoodaa
 かるわざ〔軽業〕 hooka, karuwaça
 かれ〔彼〕 ʔari, ʔuri, (敬語) ʔama, ʔNma/ ~自身で ʔarikuru, ʔurikuru
 かれい〔魚名〕 kaasjanuhwaaʔiju
 かれい〔嘉例〕 kari
 かれえだ〔枯れ枝〕 guziri, kariida, kari-juda
 かれぎ〔枯れ木〕 karigii, kariki
 かれくさ〔枯れ草〕 karikusa
 かれは〔枯れ葉〕 karibaa
 かれはてる〔枯れ果てる〕 karihatijun
 かれら〔彼等〕 ʔaQtaa, ʔuQtaa
 かれる〔枯れる〕 karijun, →かれはてる/ 枯れていること →husikari
 かれる〔暖れる〕 karijun, →しわがれごえ
 かれる〔溷れる〕 kaakijun 「れ
 かるう〔過勞〕 siikutandi, siutai, →つか
 かるく〔家祿〕 karuku, ruku, →ちぎょう
 かるくもち〔家祿持ち〕 karukumuci
 かろんじる〔軽んじる〕 karunzijuN, 'uu-zun, →けいべつする, けいし/ 軽ろんじて ʔuciʔuciituʔuciuci/ ~こと tiiʔuseei, →susoonkarooN
 かわ〔川〕 kaara
 かわ〔皮〕 kaa/ ~が張る kaahajuN/ ~の薄い者 kaabisii, kaabisuu/ ~の鼻緒

kaauu/ ~のように張り付いたものkaahai
 かわ〔側〕 hara, muti, →-bara, -hara
 かわいい huQcagisaN, kanasjan, 'Nzoo-saN, ʔuziraasigisaN, ʔuziraasjan, →cimuganasjan, →あいらしい, かわいらしい/ かわいくてたまらない顔 çiramiQkwee, 'jumuziramiQkwee
 かわいがる →kanasjan, あいされる
 かわいそう/ ~である cimugurisaN/ ~に cimugurigiinaa, cimugurugiinaa/ かわいそうに思う →cimuʔicaaen
 かわいらしい ʔeeraasjan, huQcagisaN, kuusjuuraasjan, sjurasjan, sjuuraa-sjan, →cimuganasjan, →あいらしい, かわいい 「nagee
 かわえび〔川えび〕 seegwaa, sirasee, ta-
 かわかす〔乾かす〕 kaakasjun, →ほす
 かわかみ〔川上〕 →ʔwiimuti
 かわぎし〔川岸〕 kaarabanta
 かわく〔乾く〕 kaakijun, kaaracun, →ひる/ 乾いたさま →horohoro/ 乾いている →kaarakisaN
 かわく〔渴く〕 kaakijun, kawacun
 かわざいく〔革細工〕 kaazeeku
 かわせみ〔鳥の名〕 kaarakanzujaa, kaar-amaqtaraa, kanzujaa
 かわぞうり〔革草履〕 kaasaba
 かわぼた〔川端〕 kaarabanta
 かわほり〔編組〕 →こうもり
 かわら〔瓦〕 kaara, →miigaara, 'uugaa-ra, いらか/ ~と石の垣根 kaaraʔisigaci
 かわらぶき〔瓦葺き〕 kaarabuci/ ~の家 kaarajaa
 かわらもん〔瓦門〕 'jaazoo
 かわらや〔瓦屋〕 kaarajacaa
 かわり〔代り〕 kawai, →しろ, だいら
 がわり〔代わり〕 →gaai
 かわりだね〔変わり種〕 tanagaaimun, →tanagaajuN

かわりばえ〔変わりばえ〕/ ~のしないこと
→Yiqçigahuu, Yiqçigahwii, Yiqçinhuu,
Yiqçinhwii

かわりはてる〔わりはてる〕 Yucikawa-
jun

かわる〔変わる〕 kawajun/ 変わったもの
kawaiimun/ 変わった事 kawaiikutu,
kawaqtakutu

かわる〔代わる〕 kawajun, →こうたい

かん〔官〕 kwan

かん〔寒〕 kan

かん〔棺〕 kwanbaku, takaramun, →gan

かん〔臍〕 kanmusi, →かんしゃく

かん〔勘〕 kan/ ~がにぶいこと kanđuu

かん〔羹〕 kan

かん〔巻〕 kwan-, -kwan

かん〔貫〕 -kwan

がん〔顔〕 →きがん, ねがい/ ~がかなうこ
と ?utuui, →cura?utuui

がん〔瘡〕 kaku, →sakigaku

がん〔龕〕 →gan/ ~を納めておく小屋 ga-
nĵaa

かんがえ〔考え〕 kangce, sjuzun, (敬語)
?usoozi, →しあん, しさく, しりょ/ ~が
深い ?umiibukasan/ ~のまま sjuzun-
sidee, (敬語) gusjuzunsidee

かんがえごと〔考えごと〕 kangeemun, →
nu?akasee 〔しあんごと, ものおもい

かんがえもの〔考えもの〕 ?akasimun, mu-
かんがえる〔考える〕 kangeejun, →?umu-
jun, (敬語) ?usoozimişeen/ 考えもし
ない ?umin ?juran/ 考え過ぎる ?umi-
bukasan

かんかん kwarakwara

がんがん →gwaaNgwaaN

かんき〔歓喜〕 →よろこび

かんぎく〔寒菊〕 kanciku

かんきつるい〔柑橘類〕 →kunibu/ ~の一種
kaabucii, kuganiikunibu, miKAN, ?oo-
too, tarugajoo, tookunibu

がんきん〔元金〕 mutu, muutu/ ~を食い
つぶすこと muutukweeciri

かんけい〔関係〕 kakawai/ ~する kamu-
jun, kaganajun, kaganasjun, kaka-

かんけい〔奸計〕 →わるだくみ 〔wajun

かんげん〔甘言〕 ?amaguci, ?amakuci,
?andaguci, →おせじ/ ~で人をつるさ
ま ?amakutaraku 「こもの

がんこ〔頑固〕 gahwasi, gwanĵu, →がん

かんこういわい〔完工祝い〕 sjubi?uiwee,

→かんせい

かんこうち〔観光地〕 ?wiirikidukuru

かんごく〔監獄〕 →ろうや

がんこう〔頑固党〕 gwanĵutoo, gwan-
kuu, →?isimakuradoo

がんこもの〔頑固者〕 deekuniganĵaa, ga-
hwasaa, ganĵaa, ?iqpuuhuu, →かた
いじ, ごうじょう, わからずや

かんざし ziihwaa, →kamisasi, mikami-
sasi, tumi, ?usizasi/ ~の端のしゃくし

かんざつ〔鑑札〕 kansaçi 〔型の部分 kabu

かんざんちく〔寒山竹〕 deemjoo

かんしかん〔監視官〕 ?jukumi

がんじつ〔元日〕 gwanĵan, gwanĵici

かんしゃ〔感謝〕 →nihwee 「→かん

かんしゃく〔癩癩〕 sjaku, →hĵaaiganĵai,

かんしゃくもち〔癩癩もち〕 sjakumuci

かんしょ〔甘藷〕 →さつまいも

かんしょ〔甘蔗〕 →さとうきび

かんじょう〔勘定〕 kanĵoo, sanĵin, →け

いさん

がんじょう〔頑丈〕 →じょうぶ

かんじょうする〔干渉する〕 kamujun, si-
sikajun, sisikeejun/ ~さま sisikeeha-
nakee 「じょうぶ

がんじょうもの〔頑丈者〕 ganĵuumun, →

かんじょう〔官職〕 ?weedai, →ĵaa/ ~名

→いかい

かんじょう〔間食〕 madunumun/ ~に食

ら物 ?juruĵinamun

かん

かんせい〔完成〕 sjubi, →かんこういわい/
 ~する tuzimajuN, tuzimijuN, →しあ
 げる, できあがる
 かんせつ〔関節〕 çigee, darumi, husi/ ~
 がはずれた人 çigeehanDaa
 かんぜん〔完全〕 →もうしぶんのない/ ~
 である matasan/ ~な mata-/ ~なも
 の matamuN
 がんそ〔元祖〕 →せんぞ
 かんぞう〔肝臓〕 cimú
 かんぞう〔甘草〕 kanZoo
 かんぞう〔萱草〕 kwanSoo
 かんそん〔寒村〕 kariguni
 かんだい〔寛大〕 →かんよう
 がんたん〔元旦〕 →がんにじつ
 かんち〔奸智〕 'janadakuma
 かんちがい〔勘違い〕 kanCigee
 かんちょう〔干潮〕 hwirisju/ ~に現われ
 る岩や洲 hwisi
 かんづく〔感づく〕 satujuN, →YumijujuN
 かんづめ〔鑑詰〕 kwanZimi
 かんてい〔鑑定〕 miçiki
 かんどう〔間道〕 →わきみち 「とりしまる
 かんとくする〔監督する〕 kagusamijuN, →
 カントン〔広東〕 kwantun
 かな〔鉤〕 kana
 カンナ〔植物名〕 hanabasjuu, kanna
 かななくず〔鉤くず〕 kanakudii
 かにん〔堪忍〕 kanNiN/ ~する →がま
 んする, こらえる/ ~する力 nubidee, →
 にんたいりょく

かにん〔官人〕 →やくにん/ ~のように着
 飾っている者 turankwaninN
 かのん〔観音〕 kwanNuN
 かのんのちく〔観音竹〕 kwanNunciku
 かのんのどう〔観音堂〕 kwanNundoó
 かんぼつ〔早魃〕 hjaai, hwiidiri/ ~の年
 hjaaidusi, →ひでり 「kunpajuN
 がんばる〔頑張る〕 cibajuN, 'jaqpajuN,
 かんび〔官費〕 kuuzimuci, kwanmuci
 かんびょう〔看病〕 'jamiwanDee, kanbjo-
 o, sinziçi, tunzaku
 がんびょう〔眼病〕 miijami, →tamajan
 かんぶつえ〔灌仏会〕 sjaakamuNdoó
 かんべん〔勘弁〕 kanbin, →かにんにん/ ~
 する našireejun, →ゆるす
 かんぼうい〔漢方医〕 Yucinaa'isja
 かんぼく〔灌木〕 gumagii
 かんむり〔冠〕 hacimaci, kanmui, →?a-
 kahacimaci/ 王の~ tamancaabui
 がんやく〔丸薬〕 gwanjaku
 かんよう〔寛容〕 cimununubi, nubi, →ci-
 mubirusan/ ~性 nagami, nubiçee
 かんよう〔肝要〕 kannuu, →たいせつ
 かんらく〔歓楽〕 sjuzoo, →たのしみ
 かんらくさせる〔陥落させる〕 Yutusjun
 かんりする〔管理する〕 sazakajuN, →とり
 しまる/ 管理させる sazakijuN
 かんれいち〔寒冷地〕 hwiidukuru
 かんれき〔還曆〕 →rukuzuuYici
 かんろ〔寒露〕 kanru, kanruu
 かんわ〔官話〕 kwanhwa

き

き〔木〕 kii, →かんぼく, きょうぼく, ざいも
 く/ ~のかけら kikaraa/ ~の皮 kiinu-
 kaa/ ~のかんざし kiiziihwa/ ~の精
 →kizimuN/ ~の根 kiinunii/ ~の葉
 →きのは/ ~のまた kiinumata/ ~の実

kiinumquku, kiinunai/ ~の門 kiizoo
 き〔気〕 cii, →cimu/ ~が合う →?atajuN,
 'jucaajuN/ ~が荒いこと namaci/ ~
 が荒い者 nathacaa/ ~が重い Yumii?N-
 busan/ ~が変わること →hwinci/ ~が

変わるさま →?arimasaraakurimasaraa/ ~が利く →cinucici/~が進む citudacuN, nurijuN/ ~が小さい cimuguusaN/ ~が付く ?umijujuN/ ~が付くこと ?umijui, ?umijuikeejui/ ~が転倒する →mangwi/ ~が長い ciiniisaN, cimunagasaN, 'juujuuturaasjaN/ ~がぬける ?ahweejun/ ~が早い ciibeesaN/ ~が弱い cimujoosaN/ ~に入ったもの cii?iri/ ~に入られる ?irarijuN/ ~にしない →cimu, ?aan neeN/ ~のせい cimunu?umii/ ~のやまい cibjoo, cijami / ~を失う →きぜつ/ ~をそらす sisikaasjuN/ ~をつかり →takahwisjazikee/ ~を付ける kukurijuN, →こころがける/ ~をもむこと →?asigaci, ?asigacinoori

ぎ〔義〕 zii, →ぎり

ぎいぎい gwiirigwiirii, kwiirikwiiri

きいと〔生糸〕 →siraga

きいろ〔黄色〕 ciiru, →まっきいろ/ ~いもの ciiruu/ ~の紙 →ciirukabi/ ~の冠 ciiruhacimaci

きうす〔木白〕 kii?uusi

きえぎえと〔消え消えと〕 →ciiziitu

きえる〔消える〕 caajuN, kundijuN

きおく〔記憶〕 munu?ubi, ?ubi, →ものおぼえ/ 不確かな ~ ?uru?ubii/ ~する ?ubijuN 「ほえ

きおくりよく〔記憶力〕 ?ubidee, →ものお

きおち〔気落ち〕 cidai, →がっかり

きかい〔機械〕 'jaama, karakui, →しかけ

きかい〔機会〕 basju, hjoosi, →じき

きがえ〔着替え〕 keeiziN/ ~のないこと cicarukakita, →?icimeemaaminukaa

きがえる〔着替える〕 ciikeejun

きがかかり〔気掛かり〕 cigakai, cimugakai, cimuhwicagi, niNzikee, →しんぱい

きかく〔規格〕 zooma, →きじゅん

きかざる〔着飾る〕 sugajuN, →よそおう

きがね〔気兼ね〕 ?ukeei?umii, →えんりょ, しんろう/ ~する ?ukeejun

きがん〔祈願〕 cigwaN, gwaN, kamini-gee, ?ugwaN, 'ugami, →おいのり, がん, きとう, ねがい/ ~する日 ?ugwaN-bii/ ~することから ?ugwaNgutu/ ~に使う道具 ?ugwaNdoogu/ ~の文句の例 →?ugwaN

ぎがん〔義眼〕 ?irimii

きがんじょ〔祈願所〕 cigwaNzu 「ku

きかんぼう〔きかん坊〕 ?aNmaku, ?uuma-ききおとす〔聞き落とす〕 cici?utusjuN

ききおぼえ〔聞き覚え〕 cici?ubi

ききかえす〔聞き返す〕 cicikeesjuN/ 聞き返して cicikeesigeesi

ききじょうず〔聞き上手〕 cicizoozi

ききだす〔聞き出す〕 cicimaajuN

ききと〔嬉嬉と〕 →うれしい, はしゃぐ/ ~するさま ?uqsja?uqsjaa

ききながす〔聞き流す〕 cicinagasjuN

ききほれる〔聞き惚れる〕 cicihurijuN/ ~こと ciburi

ききまちがい〔聞き間違い〕 cicimacigee, 'joogaazici

ききまわる〔聞き回る〕 cicimaajuN

ききめ〔効目〕 siN, sirusi/ →こうか

ききもの〔聞きもの〕 cicigutu

ききょう〔帰郷〕 kucoo, →きこく

ぎきょうだい〔義兄弟〕 'eecoodee, muuku-

きぎれ〔木切れ〕 kiiziri 「coodee

ききわけ〔聞き分け〕 ciciwaki, ziikazi/ ~がない →teewakasjuN

ききわける〔聞き分ける〕 ciciwakijuN

きまん〔飢饉〕 gasi/ ~の年 →きょうねん

きく〔菊〕 ciku

きく〔聞く〕 cicuN, →とら, たずねる, (敬語) ?unNjukajuN, ?unNukajuN/ 聞いただけでも 憎い cicinikusaN/ 聞いて味がある cicisjuuraasjaN/ 聞きたくもない cicicakuN neeN/ 聞きにくい cicigu-

risjan/ 聞くだけで黙っていること eici-gun

きく[利く・効く] cicuN, kazicicuN

きくぎ[木釘] kiikuzi

きくらげ[植物名] mimigui

きくり hwiqsui, →どきん/ ~とする → hwiqsuimikasjun

きぐろう[気苦労] →しんろう

きけん[危険] / ~である yukaasjan, →あぶない/ ~なこと →hantigutu/ ~な業 hantiwaza, tihwanawaza

きげん[機嫌] eiziN, →ごきげん/ ~がよくなる →'jucaajuN/ ~をとる (~を直す) →cimu

きげん[期限] kaziri, →きじつ, にちげん / ~付きのもの kaki'aasimuN

きこう[氣候] →hadamuci, じこう, てんき

きこえ[聞こえ] →ひょうばん

きこえおおぞみ[聞得大君] cihwiziN, (敬語) cihwiziN'nganasii/ ~の御殿 cihwiziN'uduN

きこえる[聞こえる] cikwiijuN, →cicuN

きこく[帰国] cihwan, →ききょう

きごち[着心地] ciigukuci

きごちない hwizarugisaN

きこり[樵] 'jamaku

きごわ[木強] ziiguhwaa

きこん[気根] kiinuhwizi

きさき[后] →おうひ

きざし[兆] mujuusi, sikaki, sirusi, →

きつちよう, ききょうちよう, ぜんちよう

きさま[貴様] sunata, yuga, →あなた

きざみこんぶ[刻み昆布] cizamikuubu

きざみたばこ[刻みたばこ] cizamitabaku

きざむ[刻む] cizanuN, →hweesjuN, 'urusjuN

きざわり[気障り] cimuzawai

きし[岸] cisi, →かいがん, かわぎし

きしき[機式] zisici, →しき, さほう

きしきし kwiirikwiiri

ぎしぎし gicigici

きじつ[期日] nicizin, →きげん

きしゃ[汽車] →'agihwiigurumaa

きじゅん[規準] zooma, →kata

きじょうもの[氣丈者] 'izizuu, 'izizuu-muN

きず[傷] kizi, →きりきず, けが, すりきず, ひっかききず/ ~の口がふさがる mi-

きずつける[傷つける] sakujuN [caajuN

きずもの[傷物] →suN

ぎする[擬する] 'atigajuN 「gawai

きせつ[季節] →しき/ ~の変わり目 sici-

きぜつ[気絶] bucikuN, →そつとう/ ~する →'a.Nmasjan

きせる[煙管] cisiri/ ~の管 cisirizoo, roo/ ~入れの一種 suqpuN

きせる[着せる] kusijuN

きそう[鏡う] →ききょうそうする

きそく[規則] cisuku, →kata, おきて, き

きぞく[貴族] deemjoo しまり

きた[北] manisi, niinuhwa, nisi

きたいはずれ[期待はずれ] miihan'naa, miihan'nuu

きたおれ[着倒れ] ciidoori 「miinisi

きたかぜ[北風] nisibuci/ ~の吹きはじめ

きたきりすずめ[着たきり雀] cicarukaki-ta, 'icimeemaaminukaa, →いっちょうら

きたけ[着丈] ciidaaki

きだて[気立て] ciiaati, simuci

きたない[汚ない] citanasaN, hagoosaN, 'junhagoosaN, 'sitanasaN, →bucirii,

きたならしい, よごす/ ~もの hagoon-muN, (小児語) 'inn'naa, peepee

きたならしい hagoonisaN, 'junhagoon-saN, →きたない/ ~者 'waanukami

きたむき[北向き] nisin'kee

きち[機智] →'uguci, きりやく

きちゅう〔忌中〕 hwiiʔuci
 きちょう〔記帳〕 coodumi, →きにゅう
 きちんと canTu, →ちゃんと
 きつい ciwasjan, →きつく
 きづかい〔気遣い〕 takahwisjazikee
 きっかけ ʔuzumi
 きつく ciqtu, cuuzuuku, →きついで
 きつじつ〔吉日〕 'iihwii, zoohwi
 きっしり zibaqtu, zisaqtu, zisiqtu
 きづち〔木づち〕 kiizicaa, →さいづち
 きっしょう〔吉兆〕 ciqcuu
 きっちり ʔintu 「neen, →かならず
 きっと ciqtu, ʔijadin, kaziti, zuʔee
 きつね〔狐〕 ʔiqini/ ~の嫁入り tiidaʔami,
 きつねび〔狐火〕 ʔooruuhii [tiidabui
 きっぼう〔吉報〕 'iisirasi
 まてい〔規定〕 →kata, きそく, きまり
 きとう〔亀頭〕 hanki
 きとう〔祈禱〕 citoo, ʔugwan, →おいのり,
 きがん/ ~の代わりにとなるもの citoogaai
 きどぐち〔木戸口〕 munguci, →かどぐち
 きどせん〔木戸銭〕 muncin
 きどりや〔気取り屋〕 bunmucaa, ʔunbu-
 jaa 「aci
 きどる〔気取る〕 ʔunbujun/ ~こと ʔwa-
 きなが〔気長〕 →のんびり/ ~である ciin-
 iisaN, cimunagasan, 'juujuuturasjan
 きなくさい〔きなき臭い〕 / ~におい kako-
 obikaza
 きなこ〔黄な粉〕 maaminakuu
 きにいり〔氣に入り〕→おきにいり
 きにゅう〔記入〕 coodumi/ ~する tati-
 jun, →かきいれる/ ~もれ tatiʔukuri
 きぬ〔絹〕 ʔiieu, ʔitu/ ~の着物 ʔiicuzin/
 ~のもの ʔitumun, maN, →siraga, ka-
 sinucisiraga
 きぬいと〔絹糸〕 ʔiieuʔiicuu, →siraga
 きぬずれ〔衣ずれ〕 / ~のさま →bitabita,

きぬた〔砧〕 ʔicabu [horohoro
 きね〔杵〕 ʔazin, kakiziei
 きのう〔昨日〕 cinuu/ ~きより cinuucuu
 きのえ〔甲〕 cinii
 きのこ〔茸〕 cinuku, naaba / ~の一種
 ʔaasa, hatakiʔaasa, mimigui, simizi,
 mooʔaasa
 きのと〔乙〕 cinutu
 きのとく〔氣の毒〕 cinudukN/ ~である
 cimugurisjan, cimuficasaN/ ~な(～
 に) cimugurugiinaa
 きのは〔木の葉〕 kiinuhwaa/ ~の広いも
 の kaasja, kaasjanuhwaa/ ~で包んだ
 もの kaasjanuhwaaʔicin
 きのはり〔木登り〕 kiinubui
 きば〔牙〕 ciiba
 きばらし〔氣晴らし〕 nucinusintaku
 きばる〔氣張る〕 →cibajun, がんばる
 きはん〔婦帆〕 cihwan
 きはん〔規範〕 →kani, てほん
 きひ〔忌避〕 kusi
 きび〔黍〕 maazin 「gurusan
 きびきびしている cibiraasjan, →haziri,
 きびしい〔厳しい〕 cibiqsan, ciwasjan,
 →げんじゅう
 きびなご〔魚名〕 sururugwaa
 きぶくれ〔着ぶくれ〕 / ~したさま 'wabu-
 wabu
 きふるす〔着古す〕 ciihurumasjun
 きぶん〔氣分〕 cigeo, kukuci, →きもち,
 こころもち / ~が悪い ʔanmasjan / ~
 が悪いこと ʔanmasjabucigee, bucigee,
 buciun, bukucui
 きぼし〔擬宝珠〕 →boontaa, boontuu
 きぼとけ〔木仏〕 kiibutuki
 きまえ〔氣前〕 / ~がいい者 ʔuhuzimuu
 きまくら〔木枕〕 kiimaqkwa
 きまま〔氣まま〕 cimama, →かって
 きまり〔決まり〕 sadami, →きそく, けっ
 てい, さほう

きま

きまる〔決まる〕 → けってい
 きみ〔君〕 cimi, → cin
 きみ〔代名詞〕 → おまえ, きさま/ ~ ぼく
 の話し方 'inu?iihii, tageeni?iihii
 きみ〔黄身〕 ?akamii
 きみがわるい〔気味が悪い〕 hagoosan,
 'joo?usumasjan, → うすきみがわるい
 きみじか〔気短か〕 → たんき
 きみじかも〔気短か者〕 taNcaa
 きみたち〔君たち〕 → おまえたち
 きみょう〔奇妙〕 cimjuu, → ふしぎ/ ~ で
 ある hwirumasjan
 きむ〔義務〕 ?ataimee
 きむずかしい〔気むずかしい〕 kamarasjan,
 muçikasjan/ ~ 者 kamarasjaa,
 hwireegurii, ziiguhwaa 「→ けってい
 きめる〔決める〕 ciwamijun, sadamijun,
 きも〔肝〕 cimu/ ~ を冷やす → 'Nnihwi-
 zurusan 「ころもち
 きもち〔気持〕 kukuci, siNci, → きぶん, こ
 きもの〔着物〕 cin, → いしょう, いるい, (小
 児語) 'jaajaa, (敬語) 'nsu, ?weensu,
 → cinçihwada, cirukaa/ ~ の襟 cinnu-
 kubi/ ~ の着こなし cinçiidanari/ ~ の
 種類・名など ?aasimun, ?aasizin, ?a-
 kauuzin, basjaazin, basjazin, ci-
 mun, ciizin, coozin, diNkwaa, dusudii,
 duubuku, duusibui, duzin, hadasibui,
 ha?ui, hwiitaa, ?irunucin, 'judaci,
 kurucuo, maakwaa, riNkwaa, sirucuo,
 sudiciraa, tanasi, ?uqçaki, ?uqçaki-
 gwaa, 'wata?iri, 'watazin, ?waazi, →
 がいしゆつぎ, しょうぞく, はれぎ, ふだ
 んぎ, れいふく/ ~ の背につける飾り →
 mabujaaau/ ~ のたけ ciidaki/ ~ の
 つくろい cinnukuu/ ~ のつけひも
 cinnuuu/ ~ の前すそ cinnusubaa/ ~
 をゆがめて着ること kata?nazi
 きやく〔客〕 caku, (敬語) ?ucaku, ?u?iin
 きやく〔逆〕 → さかさま

きやくたい〔虐待〕 siNda, → susoon
 きやくてんする〔逆転する〕 ?uqçeejun, →
 ひっくりかえす
 きやくふう〔逆風〕 'Nkeekazi
 きやくりゅう〔逆流〕 sakami?i
 きやくりよく〔脚力〕 ?asidooni, hwisja-
 zikara 「joogisan
 きやくしゃである munujoocigisan, munu-
 きやくしい〔気安い〕 hwireejaqsan, → ここ
 ろやすい
 きやくはん〔脚絆〕 cahan, cahwan
 きやくみ〔気病〕 cibjoo, cijami
 きやくり〔木遣り〕 cijai/ ~ 歌 cijai
 きゅう〔灸〕 'jaacuu 「nu
 きゅう〔九〕 kukunuçi, kuu, → ku-, kuku-
 きゅう〔急〕 → ?aQta, たちまち, とつぜん/
 ~ な思い立ち ?aQta?umitaci/ ~ な傾斜
 sakanai/ ~ な坂 sakuhwira/ ~ に cuu-
 can/ ~ に驚くこと ?aQta?uduruci
 きゅうあく〔旧悪〕 hurukizi
 きゅうか〔休暇〕 'jurii, → やすみ
 きゅうくつ〔窮屈〕 / ~ である ?ibasan,
 ?icizirasan/ ~ なさま ?ibajaasiicee/
 ~ な所 ?ibaçukuru, ?ibai, ?ibaiduku-
 ru, → ?ibainumii
 きゅうけい〔休憩〕 → きゅうそく
 きゅうけいしょ〔休憩所〕 'jukuidukuru
 きゅうけつりょうほう〔吸血療法〕 buubuu-
 nuzi
 きゅうし〔白歯〕 ?uu?ibaa, → おくば
 きゅうしゃめん〔急斜面〕 sakanai
 きゅうじゅう〔90〕 kuzuu
 きゅうしょ〔急所〕 çibuçukuru, nucidu-
 kuru, sjoodukuru
 きゅうじょ〔宮女〕 gu?ikuNcu
 きゅうず〔急須〕 cuukaa
 きゅうする〔騎する〕 çimajun, sasiçima-
 jun, → こまる
 きゅうそく〔休息〕 'jukui, → なかやすみ,

ほねやすめ/ ~する→やすむ
 きゅうてん〔灸点〕 çibu, çibudukuru
 きゅうどう〔旧道〕 hurumici
 きゅうにく〔牛肉〕 çinu?aqtami, ?usinu-
 きゅうにゅう〔牛乳〕 ?usinucii [sisi
 きゅうはんじだい〔旧藩時代〕 ?ucinaajuu
 きゅうびょう〔急病〕 cuubjoo
 きゅうめい〔救命〕 nucidaşiki
 きゅうり〔胡瓜〕 kii?ui
 きゅうりもみ ?uigwaa?usee
 きゅうりゅう〔急流〕 haikawa
 きゅうりん〔9厘〕 sipjaakugunzuu
 きゅうれき〔旧曆〕 ?ucinaagujumi
 きゅっと →kun-, つよい
 きょう〔経〕 →おきょう, きょうもん
 きょう〔今日〕 cuu, kiju/ ~というきょう
 cuuqsicuu/ ~の日 cuunuhwii
 きょう〔器用〕 ſeekugaqti
 きょういく〔教育〕 naraasi, ?usii, ?usii-
 gata, →しつけ 「る tideejuN
 きょうおう〔饗応〕 tidee, →せったい/ ~す
 きょうかい〔境界〕 sakeemi, →さかい
 きょうぎ〔協議〕 cuugoo, ziNmi, →そら
 だん/ ~する ?ucaasjuN
 きょうぐう〔境遇〕 minu?wii, tacihwa
 きょうくん〔教訓〕 ?jusigutu, →おしえ
 きょうげん〔狂言〕 coogin, →marumun,
 →きりきょうげん 「く
 きょうこう〔僂倅〕 kurizæewee, →こうふ
 きょうざ〔餃子〕 poopoo
 きょうさいか〔恐妻家〕 tuzinukookoo
 きょうさん〔仰山〕 dandan, →たくさん/
 ~な hagoorii
 きょうじ〔行事〕 / ~の名など ?abusiba-
 ree, ?agari?umaai, booginadii, bun,
 çinahwici, çinutatii, cuizin, duuguma-
 çii, 'eisaa, haarii, haçigoosaa, hama-
 ?uri, huuciee, ?izaihoo, 'jookabii, 'juN-
 nujuta, 'juqkanuhwii, 'juqkaziiru, ka-
 a?urii, kabi?anzii, kukunukan, ma-

buiwakasi, man?san, miizuurukunici,
 miqcanusiku, miqcanu?uiwee, miqca-
 nu?ujuwee, miruku?unkee, muucii,
 nacizinuçami, nan?kanusiku, 'Ncabi,
 ?Nzihuni?uiwee, sakankee, saNgwa-
 çifaşibi, sicigwaçieisaa, simakusarasi,
 sinugu, tanabata, ?ubiinadii, ?unca-
 bi, ?usjooroo, zuri?Nma, zuurukunici
 きょうしゅく〔恐縮〕 'jagumisa, →かしこ
 まる/ ~する→duugurisjan
 きょうしょう〔行商〕 kami?acinee, kata-
 mi?acinee 「?amijuN
 きょうずい〔行水〕 →?uşimasi / ~する
 きょうそう〔競争〕 ?aragaa, ?aragaaee,
 ?aragaai, ?araşii, sjuubu/ ~する ?a-
 ragaajuN ?arasuujuN/ 近道をする~
 maaibeekuu
 きょうそう〔競漕〕 →haarii
 きょうだい〔兄弟〕 coodee, ?utuzaNda, →
 ?umikii, ?umikiinumee, ?uqtuşiiza,
 'wikii, はらから/ ~が多いこと ?uhuco-
 odee/ ~の仲が悪い coodeeguhwasan
 きょうだんす〔京箏笛〕 coodaNşi
 きょうちくとう〔夾竹桃〕 coocikutoo
 きょうちょう〔凶兆〕 tamagai
 きょうづか〔経塚〕 coozika
 きょうと〔京都〕 cootu
 きょうどう〔共同〕 →きょうゆう, きょう
 りょく/ ~井戸 →muragaa/ ~飼育
 →kareewaakii
 きょうねん〔凶年〕 gasidusi, nigajuu
 きょうぼう〔共謀〕 ciiku, →たくらむ/ ~
 している者 haratiiçi
 きょうぼく〔喬木〕 takagii, ?uhugii, →
 きょうみ〔興味〕 suumi [たいぼく
 きょうもん〔経文〕 coomun
 きょうゆう〔共有〕 cuukuu, (敬語) ?unakaa
 きょうらく〔享楽〕 sjuzoo, →たのしみ
 きょうりょく〔協力〕 cimuzurii, →きょう
 どう/ ~する ?ucaasjuN

ぎょ

ぎょうれつ〔行列〕 (敬語) ʔusuneei
 ぎょか〔許可〕 ʔjuri, →ゆるす
 ぎょくげい〔曲芸〕 hooka, →かるわざ
 ぎょくげんする〔極言する〕 ʔiicijun
 ぎょくち〔極致〕 cikuri, →きわ
 ぎょしつ〔居室〕 ʃimeeʒa, →いま
 ぎょしょ〔居所〕 ʔuizu 「おとこ, おおおんな
 ぎょじん〔巨人〕 ʔjatumuN, ʔjatu, →おお
 きょせいする〔去勢する〕 →hugui
 きょぜつ〔拒絶〕 kuhwabanii, ʔnba, ʔnpa,
 ʔNnba, ʔNnpa, →ことわる
 きょだい〔巨大〕 →おおきい, おおきな/ ~
 である ʔjatumagisaN/ ~な ʔjatu-/ ~な
 もの ʔjatumagii
 きょどう〔挙動〕 siisizama, →たちいふる
 きょねん〔去年〕 kuzu しまい
 きょひ〔拒否〕 →きょぜつ
 きよめる〔清める〕 cijumijun
 きよろきよろ ʔamamiikumamii, guru-
 guru, miiguruguru, miigurumaai/ ~
 する者 miiguruguruu
 きょろり ciNcaan
 きらい〔嫌い〕 buʃici 「とら, いやがる
 きらう〔嫌う〕 cirajun, →hujun, kusi, い
 きらきら ciracira, hwicarahwicara
 きらく〔気楽〕 →ʔizin, ころやすい
 きらす〔切らす〕 cirasjun, hwiqcijun,
 hwiqcirasjun/ 切らしがちなさま ciri-
 naataranaa, hwiqcirakaacira/ 切らし
 がちな所帯 hwiqcirizuutee 「sjun
 きり〔錐〕 ʔiri/ ~で穴をあける ʔirihuga-
 きり〔霧〕 ciri/ ~が降りること ciriʔuri/
 ~を吹くこと simisi
 きり〔桐〕 ciri
 きり〔切り〕 cirihwa/ ~がない →hati き
 り -teen, -ziri
 ぎり〔義理〕 ziri, →kadu, ぎ/ ~や作法
 ziriganmee/ ~を欠く →hazi/ ~をわ
 きまえない magurijun/ ~をわきまえない

い者 maguraa, magurimuN
 きりきざむ〔切り刻む〕 →きざむ / ~こと
 cirikuʒan, ʔusiciriziri
 きりきず〔切り傷〕 cirikizi, sakui
 きりきょうげん〔切狂言〕 ʃiicoogiN
 きりくち〔切り口〕 cirikuci, cirimi
 きりころす〔切り殺す〕 cirikurusjun
 きりさめ〔霏雨〕 gumaʔamigwaa, →こさ
 め
 きりすてる〔切り捨てる〕 ciriʃitijun
 きりたおす〔切り倒す〕 ciritoosjun
 ぎりだて〔義理立て〕 ziridati
 きりつめる〔切り詰める〕 →ʃimeecijun /
 ~こと cirigimi, →けんやく
 きりどおし〔切り通し〕 ʔwaitui
 きりばん〔切りばん〕 →ciriban, まないた
 きりふき〔霧吹き〕 simisi
 きりほしだいこん〔切干大根〕 eizamide-
 ekuni
 きりやく〔機略〕 ʔuguciziNbuN, →きち
 きりゆう〔寄留〕 cirjuu, eizuu
 きりゆうにん〔寄留人〕 eizuunin
 きりよう〔器量〕 kaagi, →kiroo, かおだち,
 ようほう/ ~の悪い者 ʔjanakaagii
 きりようじん〔器量人〕 ciroonin
 きりん〔麒麟〕 cirin
 きりんそう〔植物名〕 hukurugi
 きる〔着る〕 cijun, cirumuN/ 着始めのも
 の ciikaki
 きる〔切る〕 cijun, →ʔusicijun, ʔwacun/
 さっと~ gusumikasjun, →ちよんぎる
 きれ〔切れ〕 →ぬの
 きれ〔切れ〕 -caai, -ciri
 きれい〔奇麗〕 cirii, ciriiN/ ~である→うつ
 くしい/ ~な女 →びじん/ ~に curaaku
 きれぎれ〔切れ切れ〕 hwiqciribiqciri, →ず
 されくず〔切れ屑〕 hucigi 〔たずた
 きれつ〔亀裂〕 hwibari, hwibici, hwibiki,
 きれはし〔切れ端〕 cirihasi 〔→さけめ
 きれめ〔切れ目〕 cirimi, →きりくち

きれもの〔切れ者〕 hagonaa, haganimu-
N, takumaciraa, takumacirimun, →
さいばしる
きれる〔切れる〕 cirijun, hwiqcirijun,
tacun/ 切れたり破れたり cirimusiri/
切れてなくなった者 -muqkoo
ぎろう〔妓楼〕 zurinujaa
きわ〔極〕 ciwa, →きょくち
きわまる〔極まる〕 →takiqikijun
きん〔金〕 cin, kugani/ ~のかんざし ku-
ganiziihwa, kuganikamisasi/ ~の指
輪 kugani?iibiganii, kugani?iibinagii,
/ ~歯, ~屏風, ~欄→それぞれの項目を
見よ
きん〔斤〕 -cin, →cinmi 「ziihwa
ぎん〔銀〕 nanza/ ~のかんざし nanza-
ぎんが〔銀河〕 tingaara
きんがく〔金額〕 zinbaka
きんかん〔金柑〕 cinkan
きんがん〔近眼〕 cikami
きんきじゃくやく〔欣喜雀躍〕 mooihani,
tunmooimooi, tunzaamoojaa, 'u?ui-
hani, →うれしい, こおどり, よろこぶ
きんぎょ〔金魚〕 Yaka?ijuu/ ~の一種 da-
きんこう〔近郊〕 sicaara [Neuu, sanmi
ぎんこう〔銀行〕 zinKoo
きんさつ〔禁札〕 cizinuhwee
きんし〔禁止〕 cinzi, haqtu/ ~されてい

ること cireemun/ ~すべきこと ciree/
~する cizijun
きんじょ〔近所〕 cinpin, cinpoo, →とな
り, となりきんじょ/ ~払い cinzubaree/
~づきあい cinzubiree/ ~の集まり cin-
nzuzurii
きんしん〔近親〕 cika?weeka, ?uciwaa,
(敬語) cica?unpadaN, →しんせき
きんせい〔禁制〕 haqtu, →きんし
きんせい〔金星〕 'juubanmanzaa, 'jooka-
abusi, manzaabusi
きんせん〔金銭〕 →かね
きんぞく〔金属〕 →かね
きんたま〔翠丸〕 'jaqkwan, kuuga/ ~が
痛むこと tamajan
きんたろう〔金太郎〕 →はらかけ
きんちゃく〔巾着〕 zinbukuru
きんとん /~の一種 kuu?nmunii, taa?N-
きんば〔金歯〕 cinbaa [munii
きんびょうぶ〔金屏風〕 cinbjoobu, cinno-
きんべん〔近辺〕 →ちかく [obu
きんぼう〔近傍〕 →ちかく
ぎんみ〔吟味〕 →しらべ
きんむ〔勤務〕 ?imi, ?itumi, →つとめる
きんむひょうてい〔勤務評定〕 husikoo
きんめ〔斤目〕 cinmi, →りょうもく
きんもつ〔禁物〕 →だいきんもつ
きんらん〔金欄〕 cinDan, cinran

く

く〔九〕 →きゅう
ぐあい〔工合〕 Yanbee, tanari, →かげん,
くい〔杭〕 kwii [つごう
くいあらず〔食い荒らす〕 /~こと kizihoo-
rii, kizihui, kweehoorii
くいあわせ〔食いあわせ〕 kuku
くいいじ〔食い意地〕 →くいしんぼう/ ~が
張る gacikeejun/ ~がはっている gaci-

gisan, gaciraasjan
くいきる〔食い切る〕 kwiicijun
くいさがる〔食い下がる〕 teesagajun
くいしばる〔食いしばる〕 kwiicaasjun
くいしんぼう〔食いしん坊〕 gaci, 'jaasao,
→?uhugaci, くいいじ
くいたおす〔食い倒す〕 kweetoosjun
くいだおれ〔食い倒れ〕 kweedoori

くいちがう〔食い違ふ〕 ʔaakijun, →ちぐはぐ
 くいちらす〔食い散らす〕 →くいあらす
 くいづく〔食いつく〕 kwiiçicuN, kwiiçiki-jun, tuqkwajun, →かみつく
 くいづぶす〔食いつぶす〕 kweetoosjun
 くいな〔水鶏〕 kumiraa, kumiru 「sjun
 くいはぐれる〔食いはぐれる〕 kamihan-
 くいぶち〔食いつ持〕 kweekuci
 くいもの〔食いもの〕 →たべもの
 かう〔食う〕 kanun, kwajun, tuikanun,
 (敬語) ʔusjagajun, →たべる/ ~こと
 の果報 kweebuu/ 食わせる kwaasjun/
 ~にやっとの働き kucinumee
 ぐうぐう gutaguta
 ぐうしゃ〔空車〕 'Nnaguruma
 ぐうぜん〔偶然〕 hjoosi, →たまたま/ ~の
 機会 ʔaqtazuzumi
 ぐうたら guula, nubacirimun, →なまけ
 もの/ ~にした仕事 nubacirisigutu
 ぐうふく〔空腹〕 'jaasawata, (敬語) mini-
 isja 'Nnawata/ ~である 'jaasan/ ~で
 元気がなくなる hwicisagajun
 ぐがつ〔9月〕 kugwaçi, kungwaçi
 ぐき〔茎〕 guci, huni
 ぐぎ〔釘〕 kuzi
 ぐぎぬき〔釘抜き〕 ganzimi, kuzinuzaa
 ぐぐりぬける〔潜り抜ける〕 çinpuçijun,
 hukijun
 ぐる〔括る〕 kunzun, →kukujun
 ぐる〔潜る〕 hukijun
 ぐけぬい〔新け縫い〕 kukui, şimasibaa
 ぐけぼり〔新け針〕 kukuibaa
 ぐける〔新ける〕 kukujun
 ぐさ〔草〕 kusa/ ~の中 kusanumii/ ~の
 根 kusanunii/ ~の葉 kusanuhwaa
 ぐさい〔臭い〕 'jungusasan, kusasan,
 niwidakasan, →あくしゅう, きなくさい,
 けむり, こげくさい
 ぐさかり〔草刈り〕 kusakai/ ~をする子

供 kusakajaawarabaa/ ~をするもの
 kusakajaa
 ぐさき〔草木〕 kiikusa, kusaki
 ぐさぎ〔植物名〕 kusazina
 ぐさくさ kusakusa, →くしゃくしゃ
 ぐさとり〔草取り〕 kusatui
 ぐさばな〔草花〕 kusabana
 ぐさび〔楔〕 kusabi, siqkwa
 ぐさもち〔草餅〕 huuçimuci
 ぐさり〔鎖〕 kusai
 ぐさる〔腐る〕 kusarijun, →humieun,
 nitamajun, şiijun, くちはてる, くち
 る/ 腐らせる →kutasjun/ 腐ったもの
 kusaraa, kusarimun/ 腐って汁の出るも
 の siruhaimun/ ~こと →mizikaçaa
 ぐされいも〔腐れいも〕 mizikaçaaʔnmu
 ぐされえん〔くされ縁〕 ʔakuin/ ~の友達
 kizimunaadusi
 ぐさわた〔草棉〕 (植物名) hana
 ぐし〔櫛〕 sabaci, →kusi, くしげずる
 ぐし〔串〕 guusi
 ぐじ〔籤〕 kuzi/ ~運が強い kuzijahwara-
 san/ ~運がない kuziguhwasan
 ぐしげずる〔梳る〕 sabacuN, şicuN/ ~こ
 と şicikusiree
 ぐしばこ〔櫛箱〕 sabacibaku
 ぐじびき〔籤引き〕 kuzibici
 ぐしゃくしゃ çikunaamukunaa, munna-
 ku, munnakukwannaku, munnakwa-
 nna, →ぐさくさ
 ぐじゅうくのいわい〔九十九の祝い〕 →kazi-
 majaa
 ぐじょう〔苦情〕 googuci, kunuu, →ぐち/
 ~を言うこと googucihjaaguci/ ~をい
 う者 googucaa
 ぐじら〔鯨〕 guzira
 ぐじる kuzijun/ 突いて~ çicikuzijun
 ぐず〔愚図〕 nuruqkwimun, →のろま
 ぐずぐず danzamunza, →もたもた
 ぐすぐったい hagoosan

くすぐたがりや hagoo?umii
 くすぐる kucugujun
 くずこ〔葛粉〕 kuzi/ ～で固めること kuzigatami
 くずす〔崩す〕 kuzisjun, →つきくずす
 くすのき〔楠〕(植物名) kusunuci
 くすのはかえで(植物名) mamiku
 くすぶる〔燻る〕 kibujun/ ～こと→kibu-
 jaatuuruu
 くすり〔薬〕 kusui
 くすりだい〔薬代〕 kusuiäee
 くすりや〔薬屋〕 kusuijaa, kusuimacija
 くすりゆび〔薬指〕 narasi, narasi?iibi
 くずれる〔崩れる〕 kuurijun, kuzirijun/
 崩れた模様 →miikunjaa
 くせ〔癖〕 kusi/ …の～に -nu ?Nziti, -nu
 ?Nzitooti
 くそ〔糞〕 kusu, →nagui, だいべん/ ～を
 する majun
 くだく〔砕く〕 kujacun
 くたたく / ～になる →?aata, つかれる
 くだけごめ〔砕け米〕 ?Nnabi
 くだける〔砕ける〕 kudakijun
 くださる〔下さる〕 taboojun, ?utabimi-
 ?seen, →くれる/ 下さい →taboojun
 くだす〔下す〕 kudasjun, →けり
 くたばる →のびる
 くたびれ →つかれ
 くたびれる →つかれる
 くだもの〔果物〕 naimun, →kiinunai
 くだり〔下り〕 kudai
 くち〔口〕 kuci, (敬語) mikuci/ ～がえぐ
 い kuciwiigoosaN/ ～が重い kuci?N-
 busaN/ ～が軽い kuci?aQsaN, kuciga-
 QsaN / ～が早い kucibeesaN/ ～が悪い
 kuciguhwasaN/ ～が悪い者 'jana-
 gucaa, kuciguhwaa/ ～のとがった顔
 'juumuuzira/ ～のとがった者 'juumu-
 saaruu, tugaii, tugajaa, →hajuuguci
 / ～を大きく開くこと gaaburaci

くち →くじょう/ ～をこぼすさま 'wabi-
 hai, 'wa-biinooi/ ～っぽい者 'wabijaa/
 ～をこぼす 'wabijun
 くちあけ〔口明け〕 miiguci, niinuhana
 くちうつし〔口移し〕 / ～に酒を飲ませること
 kukunzakai
 くちおしい〔口惜しい〕 →ざんねん/ 口惜し
 や残念 kucuusija zanNin
 くちかず〔口数〕 kucikaži, kutubakaži
 くちがね〔口金〕 kucigani
 くちき〔朽木〕 kuciki
 くちぎたない〔口汚ない〕 kucihagoosaN
 くちぐせ〔口癖〕 kucigusi, kucinuu
 くちぐち〔口口〕 kuciguci
 くちぐるま〔口車〕 kuciguruma
 くちげんか〔口喧嘩〕 ?iikwaaee, kucigutu,
 →こうろん
 くちごたえ〔口答え〕 guci, hwinkee, ku-
 cihwinkee, kucihwintoo, →はんこう/
 ～する →kuci
 くちさき〔口先〕 kucinu?waabi, kucisa-
 ci/ ～ばかり ?iinagasinagasi, →sjun-
 sooro
 くちさびしい〔口さびしい〕 kucisabiQsaN,
 sabiQsa
 くちじゃみせん〔口三味線〕 kucižansin
 くちだっしゃ〔口違者〕 binkuu, kucigan-
 sui/ ～な者 binkuumun
 くちどめ〔口止め〕 kuciđumi
 くちなおし〔口直し〕 kucinoosi
 くちなし〔植物名〕 kazimajaa, kucinasi
 くちはてる〔朽ちはてる〕 saboorijun, →
 くさる/ 朽ちはてたさま saboorikaa
 くちひげ〔口ひげ〕 ?waahwizi
 くちびる〔唇〕 →šiba/ ～の色 šiba?iru
 くちぶえ〔口笛〕 / ～の音 huuihuui
 くちべた〔口下手〕 kucibita
 くちやかましい〔口やかましい〕 kucijaga-
 masjan
 くちよせ〔口寄せ〕 'junnujuta, sinmaj-

くち

ta/ ~をする「ゆた」'juNnujuta
 くちる〔朽ちる〕 kucun, →くさる
 くつ〔靴〕 huja
 くつがえる〔履る〕 →ひっくりかえる
 ぐつぐつ gwatagwata, kwatakwata
 くつじゅうする〔屈従する〕 →くっぶくする
 ぐっしょり →びっしょり
 ぐったり guqtai, gutaqtu, →げんなり/
 ~する ciisiqtajun, muiNcun
 くつつく taqçikajun, taqkwajun/ くっ
 つき合うさま taqçikaimuqçikai, ta-
 qkwaimuqkwai
 くつつける hwiqçikijun, taqkwaasjun/
 ~さま taqçikihwiqçiki, taqçikimuqçi-
 ki
 くてかかる〔食って掛かる〕 taguikaka-
 jun, tuqkajakun, tuqkwajun/ ~さま
 →tiikwaahwisjakwaa
 くつぬぎ〔沓脱〕 kudami, →ʔisizi
 くっぶくする〔屈服する〕 magajun/ 屈服
 させる ʔusimagijun, →あっとりされる
 くつろぎ〔寛ぎ〕 kuçiruzi, →ゆったり
 くつろぐ〔寛ぐ〕 kuçiruzun
 くつわ〔簪〕 kuciba
 くつわむし〔簪虫〕 ʔurumaa, ʔurumaa-
 zee/ ~の一種 ʔuhuwataʔurumaa
 くどくど ʔiikeesigeesi
 く〔国〕 kuni, (敬語) →ʔweeguni/ ~
 の広さ kuniwaa/ ~の風俗 kuninuzuku
 く〔がみ〕 国頭 →やんばる
 く〔じゅう〕 国中 cukuni, kunizuu
 ぐにやぐにや biirakwaara/ ~になる
 ʔaatanajun
 く〔にん〕 9人 kukunutai
 くねくね 'joogaahwiigaa, 'joogeehwi-
 gee, magaihwigui, magajaahwigu-
 jaa
 くねんぼ〔九年母〕 (植物名) →kunibu

くのう〔苦惱〕 →ʔucikurusja, おもいなやむ
 くばりもの〔配りもの〕 kubaimun
 くばる〔配る〕 hazun, kubajun
 くび〔首〕 kubi, (卑語) 'jumukubi/ ~が
 だるい kubidarusan/ ~に掛ける ha-
 cun, hakijun/ ~の根っこ →kazigaa/
 ~までの高さ kubidaki/ ~をくくる ku-
 birijun
 くびすじ〔首すじ〕 kubigaa, ʔusiru
 くびったけ〔首ったけ〕 manburi
 くびつり〔首吊り〕 kubirizini
 くびなげ〔首投げ〕 maci
 くびる〔捻る〕 kunzun, →しぼる
 くふう〔工夫〕 kuhuu, →こうあん
 ぐぶつ〔愚物〕 ʔinbunkusaraa, →おろか
 くべつ〔区別〕 miiwaki, miwaki, →いろわ
 け/ ~する miiwakijun, 'wakasjun
 くほみ〔窪み〕 kubun
 くま〔熊〕 kuma
 くまぜみ〔蟬の名〕 saNsanaa
 くまどり〔隈取り〕 / ~をする damijun
 くまなく〔隈無く〕 miimiiteede
 くみ〔組〕 kumi, kuna/ ~の代表 kumi-
 gasira/ ~を作ること ʔucigumii
 ぐみ〔植物名〕 kuubi
 くみうちする〔組み打ちする〕 muşibaa-
 jun, muşibaajun, →とっくみあう
 くみおどり〔組踊り〕 kumiudui
 くみこむ〔汲み込む〕 kumiNcun
 くみたてる〔組み立てる〕 kumitatijun, →
 kacun/ 組み立て式のもの nuzisasi
 くみとる〔汲み取る〕 kumitujun
 くみひも〔組紐〕 →hwiragun
 くむ〔汲む〕 kunun
 くむ〔組む〕 kunun
 くめむら〔久米村〕 (地名) kuniNda/ ~の
 青年 →suuʔee
 くめんする〔工面する〕 sigarijun
 くも〔雲〕 kumu/ ~の切れ目 kumuziri

くも〔蜘蛛〕 kubu, kuubaa/ ~の巣 ku-
 bagaşi 「dinci
 くもり〔曇り〕 kumui/ ~の天気 kumui-
 くもる〔曇る〕 kumujun, singwijun
 くやしい〔口惜しい〕 →くちおしい
 くやみ〔悔み〕 kujami
 くやむ〔悔む〕 kujanun, →こうかい
 くよう〔供養〕 kujoo
 くら〔倉〕 kura, →そうこ
 くら〔鞍〕 kura
 くらい〔位〕 ?atai, kuree, tuikuree, →い
 くらい〔暗い〕 kurasan, →まっくら しかい
 くらぐら ?amazicikaa, guragura, guu-
 raahaqtai
 くらぐらと〔暗暗と〕 kuraguratu
 くらげ〔水母〕 / ~の一種 ?iiraa
 くらし〔暮らし〕 →せいかつ
 くらしかた〔暮らし方〕 duumucizuku,
 kurasigata
 くらしむき〔暮らし向き〕 tacihwa, tacizu-
 ku
 くらす〔暮らす〕 kurasjun/ 暮らしかねる
 こと tacikantii/ 暮らしにくい kurasi-
 gurisjan, tacigurisjan/ 暮らしやすい
 kurasijaqsan, siijaqsan, tacijaqsan,
 zinmiijaqsan
 くらべる〔比べる〕 kunabijun, kurabi-
 jun, →みくらべる/ ~こと hwiqcoo/ 比
 べものにならない danun naran
 くらやみ〔暗闇〕 kurajami, kurasin, →や
 くらわす〔食らわす〕 kwaasjun しみ
 くりあわせる〔繰り合わせる〕 katakakijun
 くりかえ〔繰り替え〕 kuikeeruu
 くりかえす〔繰り返す〕 kuikeesjun/ 繰り
 返し kuikeesigeesi, →keesaa, たびた
 び/ 繰り返して見る miikeesjun/ 繰り返
 し見るさま miikeesigeesi
 くりかえる〔繰り替える〕 kuikeejun
 ぐりぐり gurui, →hudu?wiigurui
 くりだす〔繰り出す〕 kwaasjun

くりど〔繰り戸〕 hasiru
 くりのべばらい〔繰り延べ払い〕 ?irikeesii
 くりぶね〔刳り舟〕 kuihuni, sabani, şi-
 nni, sinnigwaa
 くりもどす〔繰り戻す〕 kuimudusjun
 くる〔来る〕 cuun, (敬語) ?imenşeen,
 meen, menşeen, moojun, ?menşeen,
 ?ucceimişeen/ 来てしまう ciihacieuun,
 hacieuun, keehacieuun
 くる〔繰る〕 kujun, →たぐる
 ぐる ciiku, guu 「つらい
 くるしい〔苦しい〕 kuşisan, kurisjan, →
 くるしみ〔苦しみ〕 kurusimi, →?icasan,
 siira, くのう, ころう
 くるしむ〔苦しむ〕 kurusinun, →siira, わ
 ずらう
 くるぶし〔踝〕 →guhusi
 くるま〔車〕 kuruma, →hjaagaa
 くるまいど〔車井戸〕 kurumagaa
 くるまざ〔車座〕 goomaaii, ?ucimamaa-
 くるまどめ〔車止〕 →siqkwa 〔ruu
 くるまや〔車屋〕 kurumaa
 ぐるみ -şiti, -takii, →いっしょ
 くれ〔樽〕 kuri
 くれる〔呉れる〕 kwijun, →くださる/ 呉
 れ →turasjun
 くれる〔暮れる〕 ?juqkwijun
 くろ〔黒〕 kuruu, →まっくろ
 くろい〔黒い〕 kurusan/ 色の~人 →?jaci-
 ?usi/ 黒く太ること kurugweei/ 黒くて
 渋味のあるさま →kurusjuuzuutu/ 黒
 くなる kurunun
 くろう〔苦勞〕 kujoo, kuroo, nanzi, na-
 nzikunzi, ?nniziira, sindoo, sinroo,
 →sinkumaNku, しんぱい/ ~を知らせ
 るところ →munusirasidukuru
 くろうしょう〔苦勞性〕 →siwasjaa
 くろがね〔鉄〕 →てつ

くろ

くろかび〔黒かび〕 kurubee
 くろき〔黒木〕 kuruci
 くろくも〔黒雲〕 kurukumu, →あまぐも
 くろごま〔黒胡麻〕 kuruguma, kuru?uguma
 くろざとう〔黒砂糖〕 kuruzaataa, saataa
 くろさんご〔黒珊瑚〕 ?umimaaçi
 くろしお〔黒潮〕 kurusju
 くろずむ〔黒ずむ〕 kurunUN, kurusibii-
 jun/ 黒ずんでやせること kurujoogari
 くろつぐ〔植物名〕 'jujuzura, maani
 くろつち〔黒土〕 zaagaru
 クロトン〔植物名〕 kurutUN
 くろまめ〔黒豆〕 kurumaami
 くろむ〔黒む〕 →くろずむ
 くろめばる〔魚名〕 kurumiibaju
 くろ〔桑〕 kwaa/ ~の木 kwaagi/ ~の実
 nandeesii/ ~の弓 →kwaanujumi
 くろ〔鉄〕 kwee 「→たす
 くろえる〔加える〕 kuweejUN, ?waasjun,
 くろえる〔銜える〕 →kukunUN/ くわえさ

せる →kwaasjun
 くろしい〔群しい〕 / ~こと ?i?see, kumee-
 ki/ くわしくする kumeekijUN
 くろずいも〔食わず芋〕〔植物名〕 ?Nbasi
 くろずぎらい〔食わず嫌い〕/ ~で食べて見
 れば大いに食へること kwaanKwaanNu
 nanamakai/ ~で食べてみれば大いに食
 る者 kwaanKwaanNu nanamakajaa
 くろだて〔企て〕 ?igumasi, kunumi, mu-
 kurumi
 くろだてる〔企てる〕 ?igumasjun, kunu-
 nUN, mukurunUN, takunUN
 くろばらくろばら〔桑原桑原〕 kwaaginu-
 mata, kwaaginusica
 ぐん〔群〕 buri-
 ぐんかい〔訓戒〕 soodaN, tuziki, →いま
 しめ/ ~する tuzikijUN
 ぐんかん〔軍艦〕 ?ikusabuni
 ぐんこう〔勲功〕 kuNkoo/ ~のある人 ku-
 Nkoomuci
 ぐんし〔君子〕 kunsii
 ぐんせい〔群星〕 buribusi

け

け〔毛〕 kii, →かみ, ひげ, まつげ, まゆげ,
 むなげ, わきげ, いんもう/ ~のぐあい
 kiisiru/ ~のない者 kiimoo/ ~のぬけた
 つぐみ kiihagimootui/ ~のはえぎわ
 kiimiikuci
 け〔卦〕 cii
 けい〔芸〕 nuza, ziinuu, →げいのり, わざ/
 ~の達者な人 ziinumuci 「jaNzi
 けいえい〔経営〕 migui/ ~の失敗 migui-
 けいかく〔計画〕 ?igumasi, kunumi, si-
 kumi/ ~する →くわだてる
 けいき〔景気〕 ciici
 けいけん〔経験〕 sikarasi/ ~する sikara-

sjun
 けいこ〔稽古〕 ciiku, →naree/ ~して習う
 もの ciikumun/ ~する →ciiku
 けいご〔敬語〕 sisiikutuba, ?ujameekutu-
 ba/ ~を使う話しかた →cura?uuhuu,
 hoo?oo, huu?juu, huu?uu, tageeni?u-
 uhuu, ?ooohoo, ?uuhuu
 けいこく〔警告〕 meegaki, →ちゅういする
 けいざい〔経済〕 ?agane
 けいさつ〔警察〕 ciisaçi, →hwirazu
 けいさん〔計算〕 saNmin, saNtui, →かん
 じょう/ ~間違ひ saNminbaqpee/ 大ざつ
 ばな~ kurubazaa, teegeezanmin/ こ

まぎれの～ hwiqcirizaNmIn
 けいし〔軽視〕 →kutuʔuseei, かろんじる,
 けいし〔罫紙〕 ciihwicikabi けいべつする
 けいしゃ〔傾斜〕 katanCi
 げいしゃ〔芸者〕 →zuri 「ある kaqsan
 けいしょう〔輕少〕 sahuu, →すこし/ ～で
 けいず〔系図〕 ciizi/ ～のない者 mucii
 けいちつ〔啓誓〕 musipuduruku
 けいていしまい〔兄弟姉妹〕 →'unaiwikii,
 きょうだい
 けいと〔毛糸〕 kiitu
 けいとうする〔傾倒する〕 hwiqkatanCUN,
 katanCUN, mucikwaarijUN, mucikwa-
 jun, →しんぷくさせる
 げいのう〔芸能〕 nuhwa, ziinuu, →げい
 けいば〔競馬〕 ʔNmasjuubu, ʔNmazurii
 けいはく〔輕薄〕 →ciihwaku
 けいべつする〔輕蔑する〕 miisagijUN, ʔu-
 seejUN, 'uuzUN, →かろんじる, けいし/
 輕蔑し合うさま cuiʔuseeʔusee/ 輕蔑し
 たことば使い qcuʔuseeimunii
 けいぼう〔閨房〕 kuca, 'Ncuca
 けいむしょ〔刑務所〕 →hwirazu, ろうや
 けいやく〔契約〕 'jakuzoo, musubii, →と
 りきめ, やくそく
 けいゆ〔經由〕 →へる/ …～で -naadii
 けいらん〔鶏卵〕 tuinukuuga, →たまご
 けいりやく〔計略〕 hakarigutu, kunumi,
 けいろ〔毛色〕 kiiʔiru けいりやく
 けが〔怪我〕 kiga, →きず/ ～する 'jama-
 けがにん〔怪我人〕 kiganiN けがにん
 けがらわしい hagoosan, →きたない
 けがれる〔汚れる〕 cigarijUN, →よごれる
 げきじょう〔劇場〕 sibaja
 げきだん〔劇団〕 'uduiniNzu
 げざい〔下剤〕 kudasigusui
 げし〔夏至〕 kaacii/ ～のころ吹く南風 kaa-
 ciibee
 けしあざみ〔植物名〕 maaʔoohwaa

けしからぬもの〔怪しからぬ者〕 ʔumaara-
 NmUN
 けしき〔景色〕 ciici, cisici/ ～のよいとこ
 ろ →ʔwiirikidukuru
 けしずみ〔消し炭〕 caasiʔin, ʔimi
 けしとぶ〔消し飛ぶ〕 hwiqtunugasjun, →
 けじめ cirihwa けしとぶ
 けしょうする〔化粧する〕 ʔukujUN, ʔuku-
 riijUN, ʔukurijUN, ʔidasjun, →よそおう
 けじらみ〔毛虱〕 hjaan
 けす〔消す〕 caasjun, kunsjun
 げすい〔下水〕 'NNzu, 'Nzu
 けた〔桁〕 kita, tinzoogita
 げた〔下駄〕 ʔasiza/ 表付きの～ zita, (敬
 語) mizita/ ～の音 kaqkuikaqkui
 けだかい〔気高い〕 →こうごうしい
 けたがいがい〔桁違い〕 →だんちがいがい
 けだもの〔獸〕 ʔicimusi
 げたや〔下駄屋〕 ʔasizamacija
 けち ʔibiraa, ʔijasjaa, nizijaa, ziŋu-
 Nzuu/ ～けちする ʔibirijUN/ ～な →zi-
 けちがん〔結願〕 ʔugwanbutuci けちがん
 けちらす〔戯散らす〕 kirihoojun
 けつ〔尻〕 →しり
 げつきつ〔月橋〕〔植物名〕 gikizi/ ～のいけ
 垣 gikizigaci
 げつきゅう〔月給〕 ziʔquu
 げつきよく〔結局〕 →ʔuzumi
 げっけい〔月経〕 ʔicinumUN, zuugunici
 けっこう〔結構〕 ciqkuu
 けっこん〔結婚〕 niibici, →diʔsiN, (敬語)
 ʔunibici, →けっこんしき/ 強制的な～→
 hwiqcatiruuniibici/ ～する musubUN,
 →kameejUN, tumeejUN/ ～の申し込み
 をする人 kuujaa/ ～の持参品の目録
 ʔukuizoo
 けっこんしき〔結婚式〕 niibici, (敬語) gu-
 kunrii, kunrii, ʔunibici, →けっこん/
 ～に際しての行事の名 mukuʔiri/ ～に際

けっ

して嫁の家で婿を接待する役 sjooba, Yusooba/ ~の宴会場 niibicizaa/ ~の際の婿の付添役 mukuziri, mukuzooi/ ~の酌をする役 bintui/ ~の世話役 niibicinCu/ ~の際の嫁の行列先導役 misaree, misareepaapaa, sadaiYansitaree, sadaiYansitari, Yusaaree, Yusaree, Yusareepaapaa/ ~の際の嫁の行列に加わるつきそい sooiniNzu/ ~の時に花嫁とその荷の一行を監督する役 seeroo/ ~の時の行列の提灯を持つ役 coocinmuci
 けっしょく〔血色〕 ciifiru, firukisa/ ~よく太っていること Yakaragweei
 けっしょく〔月蝕〕 gwaqsjuku
 けっそん〔欠損〕 hugi, →かけ, そんがい
 けったん〔血痰〕 ciikasagui
 けってい〔決定〕 tuiciwami, →とりきめ/ ~する ciwamajun, ciwamijun, →きめる 「kusi, mii
 けってん〔欠点〕 hwiihwinaN, hwiikusi, ケット kiqtu, musin
 けっとう〔血統〕 ciisizi, sizi, taqkwii, →ちすじ/ ~がさせる業 ciinuwaža
 げっとう〔月桃〕 (植物名) sannin, sjannin/ ~の葉 sanningaasja
 けっぱく〔潔白〕 ciqpaku
 げっぺい〔月餅〕 →ritoopen
 けつまつ〔結末〕 cibikukui, sii, sjubi, →げつまつ〔月末〕 ciicisii しまつ
 げづめ〔巖爪〕 qiruzi
 けとばす〔蹴飛ばす〕 kiritubasjun 「gisan
 けなげ/ ~である ganaraasjan, ganara-
 けなす iijanZUN, iikuzijun, iisiqta-
 rakijun, iisitarasjun, →ときおろす, そしる, ひなん
 げに daniju, →なるほど, ほんとう, まこと
 げにん〔下人〕 'Nza, 'Nzaqkwa, zinin
 けねん〔懸念〕 →しんぱい
 げびょう〔仮病〕 cibjoo, çukuijanmee

げひん〔下品〕 →いやしい/ ~である ha-
 goosan/ ~な →zibita/ ~な女 baacira/
 ~な者 hagoonun, kazii
 げぶかい〔毛深い〕 / ~者 kiimaa
 げぶる〔煙る〕 kibujun
 げむい〔煙い〕 kibusan
 げむし〔毛虫〕 kiimusi
 げむたい〔煙たい〕 kibusan 「kibusikaza
 げむり〔煙〕 cimuri, kibusi/ ~臭いにおい
 げもの〔獣〕 →けだもの
 げら(虫の名) →Yamagakaa, Yamagaku
 げり〔下痢〕 hukadaci, kudasi, kusuhwir-
 rii, →sibiri/ ~する kudasjun/ ~する
 さま hwirihwirii
 げる〔蹴る〕 kijun, →けとばす/ 蹴って
 ひっくりかえす kirikeerasjun
 げれども 'jantun, 'jašiga, -šiga, →Yan
 げん〔間〕 -cin
 げん〔軒〕 →'jaa
 げんか〔喧嘩〕 mundoo, Ŷoeee, soodoo/
 ~口論 mundoohwindoo/ ~する Ŷoo-
 jun, →あらそう/ ~する者 Ŷoojaa/ ~の
 虫 Ŷoimusi/ ~をいどむさま tiineehwi-
 sjaneei/ ~をけしかける者 çiçicidujaa
 げんかん〔玄関〕 zinkwan
 げんき〔元気〕 cikun, Ŷizi, 'inuci, sii, ta-
 qsja, →そうけん/ ~がなくなる ciisiq-
 tajun, sipitajun/ ~である →Ŷaqcun,
 Ŷwaacimišeen/ ~になる cuujun/ ~の
 ある時とない時 cikunbucikun/ ~のな
 いさま sipitaikaatai/ ~のない者 dai-
 mun, dajaa, šikutajaa
 げんきん〔現金〕 / ~である Ŷirumiijaqsa-
 n/ ~な人 Ŷirumiijasii/ ~引き替え
 hwicigee 「→かたいたい, じょうぶ
 げんご〔堅固〕 ciqkuu, katoo, zoobun,
 げんご〔言語〕 →ことば
 げんこつ〔拳骨〕 tiizikun, tikubusi, →
 koosaa/ ~で打つ gahwamikasjun
 げんごろう(虫の名) →taaŶiihwee

けんさ〔検査〕 ?aratami, ciNsa, sirabi, →
 しらべ/～する ?aratamijun, sirabijun
 けんし〔犬歯〕 ciiba
 げんじゅう〔嚴重〕 zinzuu
 けんじょうする〔献上する〕 →さしあげる
 けんじょうぶつ〔献上物〕 ?usjagimun
 げんせ〔現世〕 ?icimi, →げんだい, このよ
 けんせい〔権勢〕 →いきおい
 げんぞく〔選俗〕 geei/ ～する →geejun
 げんそん〔玄孫〕 hwicimaga, hwici?Nma-
 げんだい〔見台〕 cindee [ga
 げんだい〔現代〕 toogudee, →げんせ
 けんちょう〔県庁〕 cincoo
 げんど〔限度〕 tamisi, →かぎり
 げんなり biqteen, →ぐったり
 けんび〔兼備〕 ?uceekanee/ ～する ?uca-

jun
 げんぶく〔元服〕 katakasirajuui, zinbu-
 ku/ ～前の名 doona
 けんぶつ〔見物〕 cinbuçi
 けんぶつにん〔見物人〕 cinbuçiniN
 けんぶん〔検分〕 cinbuN 「miinaricicinai
 けんぶん〔見聞〕 cinbuN, miinaicicinari,
 げんまい〔玄米〕 nuumee
 けんむする〔兼務する〕 katakakijun
 けんやく〔儉約〕 ?agane, cinjaku, ku-
 meeki, (敬語)gucinjaku/ ～する ?aga-
 neejun, hwicisimijun, kubameesjun,
 kumeekijun, →きりつめる
 けんやくか〔儉約家〕 kumeekijaa
 けんようすい〔懸壺垂〕 nuuüi?waagwaa
 けんりしょ〔権利書〕 →sasidasi

こ

こ〔子〕 Qkwa, (敬語) ?umigwa, ?umiN-
 gwa, →こども/ ～と孫 Qkwa?Nмага
 こ〔綱〕 kuu
 こ〔小〕 (接尾) →-gwaa
 こ〔子〕 (接尾) →-gwaa
 こ〔五〕 guu, ?içiçi, gu-, ?içi-
 こ〔暮〕 guu
 こ〔御〕 gu-
 こ〔語〕 →kuci
 ごあんない〔御案内〕 mjunçikee, nuNçi-
 kee, ?uNçikee, →あんない
 ごあんばい〔御按配〕 ?waanbee
 こい〔恋〕 kui, ?umii, ?umui, →sjuusiN/
 ～に狂った者 kuiburi/ ～をする →こい
 する/ ～をする者 →kuizinaa, kuiziN
 こい〔鯉〕 kuu?iju
 こい〔濃い〕 katasaN/ ～茶 katazaa/ 濃
 くする katamijun

こいか〔恋歌〕 kuika
 こいがたき〔恋敵〕 migataci
 こいこがれる〔恋い焦がれる〕 kugarijun
 こいじ〔恋路〕 kuizi
 ごいし〔基石〕 gudama
 ごいしょう〔御衣裳〕 →いしょう
 こいする〔恋する〕 ?umujuN
 こいそぎ〔小急ぎ〕 guma?isuzi, →こぼしり
 こいつ kunihjaa, kunuhjaa
 こいに〔故意に〕 ?uqtaati, 'wazaqtu, 'wa-
 zatu, →わざわざ
 こいぬ〔小犬〕 ?ingwaa
 こいねこ〔恋猫〕 kuriimajaa
 ごいはい〔御位牌〕 →いはい
 こいびと〔恋人〕 ?umujaa, →'Nzo, sama,
 satu, satumee, sjura, ?umikana, ?u-
 miNzo, ?umisatu, あいじん
 こいむこ〔乞婦〕 kwiimuuku, →むこ

こう

こう〔甲〕 kuu
 こう〔講〕 koojuree
 こう〔劫〕 kuu
 こう kan/ ~する kaNsjuN
 ごう〔合〕 -goo
 こうあん〔考案〕 kunumi, →かんがえ, く
 ふう/ ~する kununUN
 こうい〔行為〕 Yukunee, →わざ
 こうい〔好意〕 cimufiri, kukurufiri, sju-
 zuN, →しんせつ
 こううん〔幸運〕 →huu, ſeeewee, かほう
 こうおつなし〔甲乙なし〕 ?eeti, ?eetu, nee-
 tukeetu, sajuu
 こうか〔効果〕 →sin, sirusi/ ~がある →
 cicuN, kazicicuN/ ~がない →sjoon
 tatan
 こうか〔高価〕 takadee/ ~な物 deedakaa
 ごうか〔豪華〕 / ~なさま ?akarakwaara
 こうかい〔航海〕 tukee/ ~する →?aQCUN
 / ~中 keesjoo
 こうかい〔後悔〕 kuihwici, kuukwee, →
 'watagurisjaN/ ~する kujanUN, →ci
 mu
 こうかつ〔狡猾〕 'jamagu, rikuçi/ ~な者
 rikucaa, rikuçiweemUN, ſeeſizirimUN
 こうかん〔交換〕 keei, keeruu, taNkaa-
 geei, →bakujo
 こうがん〔羣丸〕 →きんたま
 こうがん〔厚顔〕 namaſira, →あつかまし
 い/ ~な者 namaſiraa, namaſirimUN
 こうぎ〔公儀〕 →kuuzi, kuuzigutu
 こうぐ〔工具〕 ſeekudoogu 「く
 ごうけい〔合計〕 simi, suuzimi, →そりが
 こうけん〔効験〕 siN, sirusi, →こうか
 こうこう kaNkan
 こうこう〔孝行〕 kookoo/ ~な者 ?ujaſu-
 ごうごo googoo [mujaa
 こうごうしい〔神神しい〕 ſiidakasan, ſisi-
 dakasan
 こうさい〔交際〕 hwiree, maziwai, qcubi-

ree, tueehwiree, tuiee, tuihwiree, tui-
 kee, →biree, kugee, tuNzaajanZaa,
 (敬語) Yutuikkee, しゃこう, まじわり/
 ~している人びと hwireeniNzu/ ~しに
 くい hwireegurisaN/ ~上手 kanami-
 zoozi/ ~上のかなめ →kanami/ ~する
 →つきあり
 こうさいひ〔交際費〕 kugeezin
 こうさく〔耕作〕 keesibaru, keesibataraci/
 ~する kunasjuN, →たがやす
 こうさする〔交叉する〕 ?azijun/ 交叉した
 ところ (交叉したもの) ?azimaa
 こうさつ〔高札〕 takahuda
 こうさん〔降参〕 ?wenmi, 'wabi/ かくれ
 んぼで鬼が~すること ?aaguuru
 こうざん〔鋳山〕 kanigaa
 こうし〔格子〕 koosi/ ~のすきま koosinu-
 こうし〔孔子〕 kuusi [mii
 こうじ〔麴〕 koozi
 こうじ〔小路〕 sjuuzi, →こみち
 こうしじま〔格子縞〕 guban?aja
 こうじつ〔口実〕 kucimaa, kucimigui,
 kutujusi, →いいわけ
 こうしど〔格子戸〕 koosinumii
 ごうじょう〔強情〕 gahwasi, siqpa, →か
 たいじ, がんこ/ ~である gaazuusan/
 ~なもの boociraa, boocirimUN, gaa-
 zuu, gahwasaa, 'janasiqpa, siqpa, siq-
 pamUN, ziguhwaa
 こうしょく〔公職〕 ?weedai, →こうむ/ ~
 の名 →いかい
 こうずい〔洪水〕 ?uumizi
 こうせつする〔交接する〕 ?icaajun, ?ica-
 jun, ?ukajun, →hoo, çirubun
 こうぞ〔植物名〕 kabigi
 こうたい〔交替〕 çigaa, çigaaru, kawa-
 iee/ ~する çigaajun, ?iricigaajun, →
 こうたい〔後退〕 ?atuſizici [かわる
 こうたいしさま〔皇太子様〕 →kuganiga-
 nasiimee

こうたく〔光沢〕 hwicai, →つや
 こうだて〔甲立〕 koodati
 こうち〔碁打ち〕 guuʔucaā
 こうてい〔皇帝〕 kootii
 こうてつ〔鋼鉄〕 hagani
 こうでん〔香典〕 →sjudee, ʔusjudee
 こうどう〔公道〕 →かいどう
 こうのもの〔香の物〕 cikimUN, kooru-
 mun, kooruu, →つけもの
 こうはいする〔荒廃する〕 →あれはてる
 こうびする〔交尾する〕 ʔirubUN, →こうせ
 つする 「う, ぎょうこう, しあわせ
 こうふく〔幸福〕 ʔeewee, sijawasi, →かほ
 こうぶし〔香付子〕 koobusi
 こうへい〔公平〕 kuutoo, →びょうどう
 こうぼ〔酵母〕 →ʔahjaa
 こうほう〔後方〕 →うしろ
 こうぼう〔興亡〕 sakaiʔuturui, tacitoori
 こうま〔子馬〕 ʔnmagwaa
 こうまん〔高慢〕 takaʔucagi
 ごうまん〔傲慢〕 ciihwaku, gooman
 ごうまんもの〔傲慢者〕 goomanāa, ʔugu-
 imUN, →たかぶる「こうしょく, こうより
 こうむ〔公務〕 kuuzigutu, medeigutu, →
 こうむる〔蒙る〕 koomujUN
 こうめい〔公明〕 ʔaciraka
 こうもり〔蝙蝠〕 kaabujaa/ ~の一種 'ee-
 makaabujaa 「jaagasa, rangasa
 こうもりがさ〔蝙蝠傘〕 aangasa, kaabu-
 こうもん〔肛門〕 ʔibinumii
 ごうもん〔拷問〕 ʔicizimi 「ものや
 こうや〔紺屋〕 kuja, ʔeesumijaa, →そめ
 こうやく〔膏藥〕 koojaku, →つけぐすり
 こうゆ〔香油〕 kabaʔanġa
 こうゆう〔交友〕 aʔusibiree, aʔusikugee, →
 こうゆうぶつ〔公有物〕 gumuʔi 〔つきあい
 こうよう〔公用〕 gujuu, kuuzigutu, →こ
 ろむ
 ごうよく〔強欲〕 goojuku/ ~な者 gooju-
 kuu, ʔuhujukuu
 こうり〔高利〕 takarihwii

こうりがし〔高利貸し〕 koorigasi, takaai-
 imigui, takarihwiitujaa, →かねかし
 こうりょう〔香料〕 / ~の一種 zinġoo
 こうろ〔香炉〕 ʔukooru
 こうろ〔航路〕 hunamici
 こうろん〔口論〕 ʔaragaa, ʔaragaa, ʔi-
 gaahai, ʔigaa, ʔiriwai, kucigutu,
 muNDoo, →くちげんか/ ~する →ʔara-
 gaajuN
 こえ〔声〕 kwii/ ~がかれること kwiika-
 raa/ ~の質 guin/ ~を限りに simatii-
 hjaatii, teeħakazihai
 こえ〔肥〕 kwee
 こえおけ〔肥桶〕 kweeuukii
 こえがわり〔声変わり〕 kwiigaa
 こえたご〔肥たご〕 kweeuukii
 こえだめ〔肥だめ〕 siiri
 こえびしゃく〔肥え柄杓〕 kweeniibuu
 こえる〔越える〕 kusjuN, kwiijuN
 こえる〔肥える〕 buteejuN, kweejuN, mu-
 teejuN, →ふとる
 ごえん〔御縁〕 →えん
 こおけ〔小桶〕 'uukigwaa
 コーチン kooċin 「じゃくやく
 こおどり〔小踊り〕 kuumooi, →きんき
 こおり〔氷〕 kuuri 「taa
 こおりざとう〔氷砂糖〕 kuuri, kuurizaa-
 コーリヤン〔高粱〕 toonucin
 こおろぎ kamaʔee
 ごおん〔御恩〕 →おん
 ごおんがえし〔御恩返し〕 →おんがえし
 こか〔古歌〕 'Nkasiʔuta
 ごかい〔誤解〕 ʔjukugaN/ ~する →cimu
 こかげ〔木陰〕 kiinukaagi, →kaagi
 こがす〔焦がす〕 kugarasjuN
 こがたな〔小刀〕 ʔiigu
 ごがつ〔5月〕 gugwaʔi, gungwaʔi
 こがね〔黄金〕 →きん
 こがね〔小金〕 gumaziN
 こがねむし〔黄金虫〕 kanibuubuu

こがれじに〔焦がれ死に〕 kugarizini
 こきおろす ʔiisagijun, →けなす
 こきげん〔御機嫌〕 ʔuncuu, →きげん/ ~
 伺い ʔuncuuugan/ ~よろしいこと ʔu-
 bukui, ʔubukuiganasii, ʔubukunzana-
 sii, ʔubukunzansii
 こきざみ〔小刻み〕 hwiqiribiqiri
 こきつかう〔扱き使う〕 ʔaçikajun, kuŋci-
 kajun
 こきぶり〔虫の名〕 hwiiraa
 こきゅう〔胡弓〕 kuucuo
 こきょう〔故郷〕 kucoo, ʔnmarizima, →
 kuni, sima/ ~に帰る支度 simasugai
 こきんしん〔御近親〕 cicaʔunpadaN, →き
 こく〔石〕 -kuku 〔んしん〕
 こぐ〔漕ぐ〕 kuuzun
 こくう〔穀雨〕 kukuʔu
 こくうふく〔御空腹〕 miniisja, →くうふく
 こくおう〔国王〕 kukuoo, →おう
 こくかん〔酷寒〕 guqka, guqkaN
 こくしする〔酷使する〕 ʔaçikajun, kuŋci-
 kajun
 こくそする〔告訴する〕 ʔuqteejun
 こくたん〔黒檀〕 →kuruci
 こくつぶし〔穀潰し〕 kweeziraa, kweezi-
 rimun
 こくどう〔国道〕 →かいどう
 こくない〔国内〕 kuniwaa
 こくひ〔国費〕 →kuuzimuci
 こくぶ〔国分〕(地名) kukubu
 こくふくする〔克服する〕 kunceesjun, ku-
 nceesjun
 こくもつ〔穀物〕 kuku, →ごこく
 ごくらく〔極楽〕 gukuraku
 ごくろうさま〔御苦勞さま〕 ʔjukaagcu
 こげ〔苔〕 nuuri
 ごげ〔後家〕 ʔjagusami
 ごげ〔碁笥〕 guzara
 こげくさい〔焦げ臭い〕/ ~におい nançici-
 kaza

こげこっこう kuqkuruuʔuu
 こげつき〔焦げ付き〕 nançici
 ごげっこん〔御結婚〕 ʔunibici, →げっこん
 こげつまるびつ →ʔutitaimootai
 こげる〔焦げる〕 kugarijun
 ごげんやく〔御儉約〕 →げんやく
 ここ kuma
 ごご〔午後〕 →hwiruma, ひるすぎ/ ~の
 食事 hwirumamun, hwirumaʔubun
 ごごう〔ご合〕 / ~だきの鍋 gugoodaci/
 ~柁 gungoonakamui
 ごごうさい〔御交際〕 →ごうさい
 ごこえ〔小声〕 gumagwii
 ごこえる〔凍える〕 kuhwajun
 ごこく〔五穀〕 gukuku
 ここち〔心地〕 kukuci, siŋci, →こころもち
 こごと〔戸毎〕 cineekazi
 こごと〔小言〕 →ʔaoku, くじょう/ ~ばかり
 いう人 ʔakuu/ ~を言うさま kirookunoo
 ここの〔九〕 kukunu
 ここのか〔九日〕 kunici
 ここのつ〔九つ〕 kukunuçi
 こごめ〔小米〕 ʔnabi
 こころ〔心〕 cimu, kukuru, (敬語) ʔuzi-
 mu, →cimukukuru, ʔicizimu, siŋ, せ
 いしん/ ~が合り →cimu/ ~が痛むcimu-
 ʔicasan/ ~が重い →ʔumiiʔnbusan/ ~
 が通ずる →ʔatajun/ ~が広い cimubi-
 rusan/ ~から →siŋ/ ~のいとま cimu-
 nuhwima/ ~の援助 cimugasii, cimu-
 nukasii/ ~の底 siŋ, sintii/ ~の動揺
 cimuʔamazi/ ~の迷い cimumajui, ci-
 mutaturuci/ ~の余裕 cimunuʔamai,
 cimunuhwima, cimununubi/ ~を合わ
 せること cimuzurii/ ~を取り直す →ci-
 mu/ ~を一つにすること cimutiiçi/ 付
 いてくる~ çicizimu
 こころあたり〔心当たり〕 ʔati 「あて
 こころあて〔心当て〕 ʔati, kukuruʔati, →
 こころえ〔心得〕 kukurii

ころおぼえ〔心覚え〕 ?ati, cimu?ubi,
 kukuru?ubi
 ころがかり〔心掛かり〕 →きがかり
 ころがけ〔心掛け〕 cigaki, cimugaki, ci-
 mumuci, →たしなみ, ようい/ ~が違
 者 cimugawaimuN, cimugawaimuN
 ころがける〔心掛ける〕 cimugakijun,
 kukurugakijun, ningakijun, →き
 ころがわり〔心変わり〕 kukurugawai
 ころぐるしい〔心苦しい〕 duugurisjan
 ころざし〔志〕 ?iqsii, kukuruzasi, nin-
 gaki, →gusjuzunsideo, sjuzunsideo
 ころざす〔志す〕 ningakijun
 ころさびしい〔心淋しい〕 cimusikaraa-
 san, →さびしい
 ころだて〔心だて〕 →きだて 「ぎ
 ころづけ〔心付け〕 kukuruziki, →しゅう
 ころづもり〔心積もり〕 cimui/ ~にする
 gimujun 「と cimu?wii, →あんしん
 ころづよい〔心強い〕 cimuzuusan/ ~こ
 ころない〔心ない〕 →cimu
 ころのこり〔心残り〕 naguri, →ざんねん
 ころほそい〔心細い〕 kusijoosan, →たよ
 りない, ふあん
 ころみ〔試み〕 kukurumi, tamisi
 ころみる〔試みる〕 tamisjun 「→こち
 ころもち〔心持ち〕 kukurumuci, siNci,
 ころもとない〔心もとない〕 kukurumutu-
 nasan, →ころほそい, しんばい, ふあん
 ころやすい〔心安い〕 hwireejaqsan, ku-
 kurujaqsan, nadajaqsan, →したい
 ごこんれい〔御婚礼〕 →けっこん, けっこん
 ごさ→むしろ しき
 ごさい〔後妻〕 ?atudumeei, ?atudumi,
 ?waanai, ?waanec/ ~の子 ?atubara
 ごさいます →ある/ で~ →です
 こさく〔小作〕 →kaneegakai, kancegaki
 こさくにん〔小作人〕 naagu
 こさくりょう〔小作料〕 kaneec/ ~を集める

こと kaneejusi
 こさめ〔小雨〕 ?amigwaa, cijacijaabui,
 guma?ami, →きりさめ
 こさら〔小皿〕 kee?uci, kužara
 ごさんけい〔御参詣〕 →さんけい
 こし〔腰〕 kusi, →gamaku, ?uubisiiguci,
 (敬語) mikusi, 'Neusi/ ~が曲がる →
 koogu/ ~の力 kusidee/ ~の曲がった者
 kooguu/ ~の曲がったさま →ziikwaa-
 kwaa/ 少し~が曲がっている者 ?usu-
 koogu/ ~をたたくこと kusitataci, (敬
 語) mikusiugan, misiiugan
 こじ〔故事〕 kuzi
 こしき〔籠〕 kusicii
 ごしちにち〔五七日〕 →さんじゅうごにち
 ごじぶん〔御自分〕 ?unzu/ ~で ?umieuc-
 kuru, ?unzukuru/ ~の体 ?unzu
 こしほね〔腰骨〕 gamakubuni
 こしまき〔腰巻〕 →kakan, (敬語) 'Neusi
 ごしゃくます〔5勺杓〕 gusjaakunakamui,
 こしゅ〔古酒〕 kuusju [nakamuigwaa
 ごじゅう〔50〕 guzuu
 ごしゅうぎ〔御祝儀〕 →しゅうぎ
 ごじゅうと〔小姑〕 'unaisitu
 ごじゅうもん〔50文〕 gunzuu
 ごしゅじんさま〔御主人様〕 sjunumee. →だ
 こしょう〔小姓〕 'wakasju しんな, しゅじん
 こしょう〔後世〕 gusjoo
 ごじょう〔御状〕 →てがみ
 ごしょうたい〔御招待〕 mjunçikee, nunçi-
 kee, ?unçikee, →しょうたい
 こしらえる →つくる
 こしん〔誤診〕 miçikicigee
 ごしんせき〔御親戚〕 →しんせき
 こす〔越す〕 kusjun, →?amajun
 こすう〔戸数〕 'jaakazi
 こずえ〔棺〕 kiinusiN, siN, suura
 こすりつける →なすりつける

こす

こする şijun, →なす/ こすって消す
kunsjun, şiricaasjun/ こすりけずる
kusazun

こせいそう〔御盛装〕 →せいそう

こせいねん〔御生年〕 →せいねん

こせき〔戸籍〕 kusici

こせったい〔御接待〕 →せったい

こせに〔小銭〕 gumaziN

ござんさま〔御前様〕 →?umee, ?umeenu-

こそ〔助詞〕 →du, duN [mee

こぞう〔小僧〕 kuзуu

ござうけん〔御壮健〕 →そうけん

こそげる kusazuN, →そぐ

こぞって suriti, →すべて, ぜんぶ, のこ
ずら, みな

こそどろ〔こそ泥〕 gumanusudu

こたえ〔答え〕 ?iree, →へんとう, へんじ

こたえる〔答える〕 ?ireejun, kuteejun, →

こたえる〔応える〕 kuteejun [へんじする

こだから〔子宝〕 takarangwa

こだくさん〔子沢山〕/ ~の人 qkwa?wee-
kinCu

ごたごた 'jama, 'jamacirigutu, 'jusaju-
sa, nanZuuhwinZuu/ ~を起す者 'ja-
macirimun

こだち〔木立〕 kikaci

ごたまぜ caahwiihwii, caahwiitoo, ma-
NcaahwinNcaa, ?usjaamaatuu

こち〔東風〕 →kucibuci

ごちそう〔御馳走〕 kwAQcii, →tidee/ ~す
る tideejun

ごちゃごちゃ gwasagwasa

ごちょうする〔誇張する〕 huukasjun, ?ii-
datijun/ 誇張した言い方 huukasi

ごちょごちょ kucukucu

こちら kuma, →こっち/ ~がわ kugata,

ごちんまりと ?iba?ibaatu [kumamuti

こつ〔骨〕 kuçi, kuu, →ほね/ ~を移すこ
と kuçi?uucii/ ~をお迎えすること ku-
çi?unkee

こづかい〔小遣い〕 gumazikee, gumazi-
keeziN, ?waabazikee

こっかく〔骨格〕 hunigumi, →ほねぐみ

こつがめ〔骨髄〕 ?iisigaami

こづく〔小突く〕 çiçicun

こっくり ?unbuikoobui

こっけい〔滑稽〕 sukuçi, teehwa/ ~であ
る 'ukasjan

ごっこ -gwaasee

こっそり →ひそか

ごったがえし〔ごった返し〕 çiburuwaaee

こっち kugata, →こちら/ ~の方 kuma-

こつつほ〔骨壺〕 ?iisigaami [muti

ごつつんこ 'nmoogaqkui

こっぴどく ?ica?icaatu

こつまくえん〔骨膜炎〕 huni?oobu, ?oobu

ごてん〔御殿〕 →?udun

ごてんじょちゅう〔御殿女中〕 guşikuncu

ごてんたく〔御転宅〕 ?waatamasi

こと〔事〕 kutu, →şi

こと〔琴〕 kutuu [tu

ごと〔毎〕 (~に) kaazi, -kazi, kuutuguu-

ごと -şiiti, -takii, →いっしょ, もろとも

こというし〔特牛〕 →おろし

ごとうち〔御統治〕 ?ukakibuşee

ごとうよう〔御登用〕 ?utuitati

ことかく〔事欠く〕 / ~こと kutukazi

ごとく〔五徳〕 gutuku

ごとごと gasagasa [らず

ことごとく〔悉く〕 ?arukasiruka, →のこ

ことごとに〔事毎に〕 kutukazi, kuutuguu-

ことし〔今年〕 kundu, kutusi [tu

ことじ〔琴柱〕 kutuunu?nma, ?nma

ごとし →gutoon, gutu

ことづかりもの〔言付かりもの〕 ?ijaimun

ことづけ〔言付け〕 →でんごん

ことづける〔言付ける〕 tuçikijun

ことづて〔言伝て〕 →でんごん

ことに〔殊に〕 kawati

ことば〔言葉〕 kutuba, →ʔikutuba, kuci
 , →おおせ/ ～が荒い kuciguhwasan/
 ～が荒い者 kuciguhwaa/ ～が遅い
 munuʔiiniisaN/ ～の使い始め munuʔii-
 hazimi/ ～のはし kutubanuū 「ʔi
 ことばかず〔言葉教〕 kucikaʔi, kutubaka-
 ことばづかい〔言葉遣い〕 kutubazikee,
 munii, munuʔii, munuʔiikata
 ことばつき〔言葉付き〕 munuʔiitanari
 こども〔子供〕 Qkwa, 'warabaa, 'warabi,
 (敬語) →おこさま/ ～ができる →mu-
 cun/ ～たち 'warabincaa/ ～と孫 Q-
 kwaʔNmaga/ ～に返った年寄り tusjui-
 warabi/ ～の生み方 Qkwanasimici/ ～
 の多い人 →Qkwaʔweekincu/ ～のけん
 か 'warabincaaʔooee/ ～の声 'warabi-
 gwii/ ～の泣き方 'warabinaci/ ～をい
 じめる者 'warabaakurusjaa, 'warabi-
 siçikijaa
 こどもあつかい〔子供扱い〕 'warabiʔaçikee
 こどもごころ〔子供心〕 'warabizimu
 ことよせる〔事寄せる〕 kutujusijun/ ～こ
 と kutujusi
 ことり〔小鳥〕 tuigwaa
 ことわざ〔諺〕 zukugu, →ʔikutuba
 ことわりもなく〔断りもなく〕 →ʔaannee-
 nasiku, ʔaanneenasini
 ことわる〔断る〕 kutuwajun, →きよぜつ,
 こな〔粉〕 kuu 「じたい
 ごないぎ〔御内儀〕 guneezi, →おかみさん,
 こなぐすり〔粉薬〕 kuugusui 「おくさま
 こなごな〔粉粉〕 kuza
 こなす kunasjun 「nici
 ごなのか〔五七日〕 ʔiçinanka, sanzuugu-
 ごにん〔5人〕 ʔiçitai
 こにんずう〔小人数〕 ʔikiraninzu
 こねる〔捏ねる〕 ʔaasjun
 この kunu/ ～大きさの kuhwina/ ～大き
 さのもの kuqpeeruu/ ～かた kuma/ ～
 くらい kunusjaku/ ～時分 kunija/ ～

高さ kudaki/ ～速さ kugatoo/ ～時 ku-
 nutueci/ ～ところずっと kunuzuu/ ～歳
 kunuca/ ～長さ kunagi/ ～人 kunuqeu/
 ～辺 kumarikaa, kunuhwin, kuri-
 kaa/ ～野郎 kunihjaa, kunuhjaa/ ～よ
 りな →こんな/ ～ように kanssi, kunu-
 gutu, kungutu, →kunujuo, こう
 このあいだ〔この間〕 kuneeda, kuneedaN-
 ši/ ～中 kunuzuu
 このごろ〔この頃〕 kunuguru, kunugu-
 runši, →さいきん
 このむ〔好む〕 šiçun, →すき/ 好まない
 →nisabujun
 このよ〔この世〕 ʔicimi, kunujuu
 ごはいりょう〔御拝領〕 →はいりょう
 ごはさん〔御破算〕 →sirikoo/ ～にする ha-
 こばし〔小橋〕 kubasi 「nijun
 こばしり〔小走り〕 gumahaaee, →こいそぎ
 こばん〔小判〕 kuban
 ごばん〔碁盤〕 guban
 ごはん〔御飯〕 ʔubun, →めし
 ごばんごうし〔碁盤格子〕 gubanGoosi
 ごはんぢやわん〔御飯茶椀〕 misiwan, ʔu-
 bunʔucawan
 ごはんつぶ〔御飯粒〕 ʔubunçizi, →めしつ
 ぶ
 ごびいき〔子びいき〕 Qkwabiici, →おやば
 か
 ごひやくもん〔500文〕(銭) guhjaaku, ʔiçi-
 kumui/ 550文 ʔiçikumuigunzuu
 ごびん〔小瓶〕 kuhwin
 ごぶ〔護符〕 huuhuda, →おまもり/ ～が
 わり huuhudagaai, munnukimun
 ごぶ〔窟〕 buqtuu, gaanaa, guuhu/ ～の
 ある者 guuhwaa
 ごぶ〔五分〕 gubu
 ごぶくしゃ〔子供者〕 Qkwaʔweekincu
 ごぶさた〔御無沙汰〕 gubusata/ ～をして

こぶ

いる →'uganaiusan
 こぶじ〔御無事〕 →ぶじ
 こぶしめ〔魚名〕 kubuşimi
 こぶじん〔御婦人〕 →おんな
 こぶた〔子豚〕 ?waaɡwaa/ ～の市 ?waa-
 gwaamaci
 こぶり〔小降り〕 gumabui, →こやみになる
 こぶれい〔御無礼〕 guburii
 ごへいかつぎ〔御幣かつぎ〕 'jutamunii,
 'jutamunu?ii, →えんぎ
 ごぼう〔牛蒡〕 gunboo
 ごほうこう〔御奉公〕 guhuukuu, medei,
 medeigutu, ?weedai, →ほうこう
 ごほうし〔御奉仕〕 ?waaɳdee, →ほうしする
 ごほうじ〔御法事〕 →ほうじ
 こぼす〔零す〕 hoojuN, 'jutijun
 こぼれさいわい〔零れ幸〕 kuurizeewee
 こぼれる〔零れる〕 hoorijun, ?iikeerijun,
 'jutirijun
 ごほんごほん gusugusu, ?oho?oho
 ごほんのう〔子煩惱〕 qkwa?umii/ ～の者
 qkwa?umujaa
 こま〔独桑〕 kuuruu
 こま〔胡麻〕 ?uguma
 こまあぶら〔胡麻油〕 ?ugumanu?andia
 こまおこし〔胡麻おこし〕〔菓子の名〕 ?ugu-
 mahacagumi
 こまかい〔細かい〕 gumasan, ?uroosan,
 →ちいさい/ ～かけら kumakii/ ～者
 kumeekijaa
 こまかす babaqkwaasjuN, mamaqkwaas-
 sjun, mamiqkwaasjuN, →だます, まぎ
 こまごま kumaguma Lらわす
 こましゃくれる →ませる
 こまづかい〔小間使〕 subazikee, ?u?ikee-
 sarijaa, ?wii?ikee
 こまむすび〔こま結び〕 maamusubii
 こまもの〔小間物〕 gumamuN 「cinee
 こまものしょう〔小間物商〕 gumamuN?a-
 こまる〔困る〕 sjukweesjuN, sjuqkwee-

sjun, →sii, siira, きゅうりする, わずら
 り/ 困ったこと şitaneekutu, kateemun,
 zaahweegutu, →なんぎ/ 困ったもの
 şitaneemun
 ごみ〔塵芥〕 ?akuta, gumi, hukucici, ?u-
 ticiri, →ちり, ほこり/ 燃料にした～
 ?akutadamun/ ～を燃やす火 ?akutabii
 ごみすてば〔塵芥捨て場〕 cirişiti
 こみせ〔小店〕 macijagwaa
 こみち〔小道〕 micigwaa, →ろじ
 こむ〔込む〕 -neun
 ゴム gumu
 こむぎ〔小麦〕 ?Nnamuzi
 こむぎこ〔小麦粉〕 muzinakuu
 ゴムマリ gumumaai
 こむら〔肪〕 kunda
 こむらがえり〔肪返えり〕 kunda?agajaa
 こめ〔米〕 'juni, kumi, (敬語)'ncumi, →
 simagumi, toogumi, ziimee/ ～の →
 'juna-/ ～の粉 kuminukuu/ ～のときし
 る kumi?areemiži, kuminusiru/ ～の
 飯 mee/ ～を入れるざる 'junabaakii/
 なま米をすりつぶして水にといたもの
 namakugasi
 ごめいにち〔御命日〕 →めいにち
 こめかみ kumikan/ ～に貼るこりやく
 kumikangojaku
 こめぐら〔米倉〕 kumigura
 こめだから〔米俵〕 kumidaara
 こめつぶ〔米粒〕 kumiçizi, →çizinumun
 こめや〔米屋〕 kumimacijaa
 こめる〔込める〕 kumijun, →いれる, つめる
 ごめん〔御免〕 →macigee/ ～下さい →'ju-
 şirijabira
 ごめんかい〔御面会〕 →めんかい
 ごもくならべ〔五目並べ〕 gumukunara-
 biee, gumukunarabii
 こもち〔子持ち〕 qkwamuci, qkwanasaa
 こもちぼし〔子持ち星〕 qkwamucaabusi
 ごもっとも gumuqtun

こもり〔子守〕 mujaa, Qkwamujaa/ ~を
 する mujun
 こもりうた〔子守歌〕 Qkwamujaa?uta
 こもる〔籠る〕 kumajun
 ごもん〔御門〕 →もん
 ごもん〔御紋〕 →もん
 こもんじょ〔古文書〕 hurucoo, →しよるい
 ごもんばん〔御門番〕 →もんばん
 こや〔小屋〕 'jaagwaa
 こやし〔肥やし〕 kwee
 こやすがい〔子安貝〕 moomoogwaa
 こやま〔小山〕 muigwaa
 こやみになる〔小やみになる〕 sasanun,
 'uubarijun, →こぶり
 こゆび〔小指〕 ?iibingwaa
 こよい〔今宵〕 →こんや
 ごよう〔御用〕 gujuu, →より
 ごようほう〔御容貌〕 →ようほう
 こよみ〔曆〕 kujumi
 こより〔紙縫〕 koowiiruu
 こらえる kuneejun, nizijun, nubijun,
 sinubun, →がまんする, たえる/ こらえ
 かねること niziiikantii
 ごらく〔娯楽〕 sjuzoo, ?asibi, →たのしみ
 こらっ dukasiree, 'nda
 ごらん〔御覧〕 / ~に入れる →みせる/ ~
 になる →みる
 こり〔癡り〕 ciihai, ciihainiihai
 こりこう〔小利口〕 rikuçi, →さいばしる/
 ~な者 haişiziraa, haişizirimun, miq-
 ci?amajaa, şeetubaa, şeetubimun
 こりごり cuhwaara
 こりしょう〔癡り性〕 cukataa
 ごりん〔5厘〕 takumuigunzuu
 これ kuri/ ~から kurikara/ ~だけ (~
 ほど) kaNsjuka, kunusjaku, kunuta-
 ki, kuqi, kuqsa/ ~しき kunuhuza-
 nee/ ~だけのもの kuqpeeruu/ ~ほど
 の kuqpeeru, kaNsjuka/ ~ほどまで ka-
 nsjukawaaki/ ~見よがし ?undeekaa

ころ〔頃〕 kuru, maNguru, ?urumi, zi-
 bun, -guru, -nagii, →じぶんどき
 ころあい〔頃合い〕→じぶんどき/ ~である→
 つりあり
 ころがす〔転がす〕 →kurubun
 ころがる〔転がる〕 kurubun, ?uQkurubun
 ころげまわる〔転げ回る〕 / ~こと keerin-
 kurubin, kurubinkeerin, siihui, sii-
 pui, sinpui, sinpuikaapui
 ころころ kurukuru
 ごろごろ guruguru, kwaanakwaaara,
 murusaageejaa/ ~しているさま kee-
 rinkurubin
 ころす〔殺す〕 kurusjun, →sjoogurusi
 ころばす〔転ばす〕 →kurubun
 ころぶ〔転ぶ〕 dugeejun, kurubun/ ~こ
 と →?asimarubi/ 盛んに~さま dugeei-
 kurubi, →?utitaimootai
 ころも(僧衣) kurun
 ころもがえ〔衣替え〕 kurungeei
 ごろり ごろごろ/ ~と横になる ?uQkuru-
 kobu〔強〕 kuhwa- [bun
 こわい〔恐い〕 ?akutooraasjan, ?uturus-
 jan, →おそろしい/ ~思い ?uturusja-
 ?umii/ ~人 ?akutoo/ ~もの ?uturus-
 jamun, ?uturuu
 こわがる〔恐がる〕 sikanun, ?uzijun, →
 ?uturusjan, ?uziicijun, おそれる, お
 びえる/ ~こと munu?uzi, ?uturusja-
 ?umii
 ごわごわしている haçikoosan 「najun
 こわす〔壊す〕 'janzun, kuusjun, suku-
 こわづくり〔声作り〕 kwiiizukui
 こわれ〔壊れ〕 'jaburi, 'jandi
 こわれる〔壊れる〕 'jandijun, kuurijun,
 'waqkwijun/ こわれやすい sakusan
 こんき〔根気〕 →じきゅうりょく/ ~がた
 りないこと kuNeiburaari
 こんき〔婚期〕 taciui/ ~を逸しているこ
 と nakatagee
 こんきくらべ〔根気比べ〕 kuncisjuubu
 こんきゅう〔困窮〕 çimai, kuncuu, →びん

こん

ぼり

こんきゅうしゃ〔困窮者〕 →びんぼりにん
 こんきょ〔根拠〕 kusjati
 こんくらべ〔根比べ〕 kuNcisjuubu
 こんげつ〔今月〕 kuNçici
 こんげん〔権現〕 gunzin
 こんこん konkon
 こんざつ〔混雑〕 →çiburuwaaee, ʔuuşee-
 こんじ〔耕地〕 kunzi [kurubaşee
 こんじする〔根治する〕 niicirijun
 こんじょう〔根性〕 simuci, sjoo, →kun-
 zoo, しょうね/ ~が悪いこと 'janasimu-
 ci, kunzoo/ ~の悪い者 ʔakuma, kun-
 zoomun
 こんじょう〔言上〕 gunzoo, →もうしあげる
 こんじん〔金神〕 kunzin, →tusiʔana
 こんな kaNneeru, kunugutooru, kungu-

tooru, kunna, →kunujuo/ ~遠方 ku-
 gatoo/ ~時間 kunija/ ~に kansi, ku-
 nugutu, kungutu/ ~大きい kuhwina/
 ~多く kusakii/ ~遅く kunija/ ~高く
 kudaki/ ~長い間 kunnagee/ ~長く
 kunagi/ ~もの kunugutooruu
 こんなん〔困難〕 teesoo, →なんぎ, むずか
 こんにちは →cuu [しい
 こんにゃく kunjaku
 こんぼん〔今晚〕 cuujuru, kujui, neeka
 こんぶ〔昆布〕 kuubu/ ~の細く切り刻んだ
 もの cizamikuubu
 こんぶまき〔昆布巻〕 kuubumaci
 こんや〔今夜〕 cuujuru, kujui, neeka
 こんやくする〔婚約する〕 şimasjun
 こんらん〔混乱〕 'jama, 'jamacirigutu
 こんれい〔婚禮〕 →けっこん, けっこんしき

ん

ざ〔差〕 →ちがひ/ ~がある ʔutijun
 ざ〔接頭辞〕 saa-
 ざ〔助詞〕 mun, -sa
 ざ〔座〕 zaa/ ~をにぎやかにする者 zaa-
 haneekijaa/ ~をもたせる者 zaamucaa/
 ~をわきまえない zaaN neeN
 ざあ dii, dikajo, diqkaa, 'iihii, 'oohoo,
 too, 'uuhuu/ ~ざあ diidii, dikadika,
 ざあざあ soosoo [tootoo
 さい〔才〕 →さいのり
 さい〔償〕 →しゃっきん
 さい〔際〕 ciwa, →とき
 さい〔采〕 →さいはい
 さい〔差異〕 cigemi, →そらい, ちがひ
 さいあく〔最悪〕 /~になる →takiçikijun
 さいき〔才器〕 ciroo
 さいきん〔最近〕 kuneedaŋşi, kunugurun-
 şı, →このあいだ, このごろ

さいこん〔再婚〕 matadumeei, matamuci,
 mataniibici
 さいざら〔菜皿〕 şeezara
 さいざん〔財産〕 'juşee, muçi, ʔweeki/
 ~への欲 mucijuku
 さいざんか〔財産家〕 'juşee, ʔweekii,
 ʔweekincu, →かねもち
 さいし〔妻子〕 tuziqkwa
 さいじつ〔祭日〕 →'uimi, 'ujumi
 さいしょう〔宰相〕 siqşii
 さいそく〔催促〕 şeezuku/ ~する ʔimi-
 jun/ ~すること sicimin/ ~するさま
 ʔimizigoozi
 さいだん〔祭壇〕 guriizin
 さいち〔才智〕 şee, şeci, →さいのり
 さいち〔采地〕 →りょうち
 さいづち〔才髓〕 şeezicaa, →きづち
 さいづちあたま〔才髓頭〕 gaqpaçiburu

さいなん〔災難〕 →わざわい
 さいにん〔罪人〕 tuganin
 さいのう〔才能〕 ciroo, zinbun, see, →う
 だまえ, さいち, ちえ/ ~のある人 ciroo-
 nin, zinbunmuci, →きれもの
 さいのかみ〔塞の神〕 →さえのかみ
 さいはい〔采配〕 zee
 さいばいする〔栽培する〕 sitatijun
 さいばしる〔才走る〕 haišizijun/ 才走った
 者 haišiziraa, haišizirimun, miqciŷa-
 majaa, ŷeešizirimun, →きれもの, こ
 りこう
 さいはつする〔再発する〕 ŷugurijun, →ぶ
 りかえす
 さいばん〔裁判〕 kuuzi, saiŷwan, →さばく
 ざいばん〔在番〕 →zeeban/ ~が任地でも
 つ妾 ŷujaŷanmaa, ŷujanmaa
 さいばんしょ〔裁判所〕 →hwirazu
 さいふ〔財布〕 biqcin, zinbukuru, zinŷi-
 rii, (敬語) mibiqcin
 さいほう〔裁縫〕 nooimun
 さいほうし〔裁縫師〕 →kušeeku
 さいほうばこ〔裁縫箱〕 haabaku 「jai
 ざいもく〔材木〕 zeeemuku/ ~の運搬 →ci-
 さいりょう〔宰領〕 ŷeeroo, →かんとくする,
 ざいりょう〔材料〕 ŷirigu じとりしまり
 さいわい〔幸〕 →こうふく
 さえ(助詞) -coon, -denŷi
 さえぎる〔遮る〕 cizijun, kanijun, →じゃ
 ま/ ~ もの kataka
 さえずる〔囀る〕 hukijun
 さえのかみ〔さえの神〕 ŷeenukan
 さお〔竿〕 soo
 さか〔坂〕 hwira, →sakanai, sakuhwira
 さかい〔境〕 sakee
 さかめ〔境目〕 sakeemi
 さかえおとろえ〔盛え衰え〕 →せいすい
 さかえる〔栄える〕 buteejun, muteejun,
 sakajun, sakeejun, →はんじょう/ ~
 さま muteesakeei

さかき〔柵〕 huçima
 さかご〔逆子〕 sakaŷnmari
 さかさま〔逆様〕 saanaa, saaraa, saka,
 ŷura, ŷurahara/ ~になる ŷuqceejun
 さがす〔探す〕 ŷalatijun, ŷanamijun,
 kameejun, sageejun, tumeejun/ 探し
 探し tumeeiŷumeei/ 探し回るさま maa-
 gamaaga, tumeeiŷuzanee/ ひっかき回
 して~ ŷasageerasjun
 さかざき〔杯〕 çibu, haimaa sakazici/ ~
 を回すこと →haimaa
 さかざきだい〔杯台〕 'juhoobun
 さかぞり〔逆剃り〕 sakazui
 さかて〔酒手〕 →ŷnmaðima
 さかな〔魚〕 ŷiju/ ~と肉 ŷijusisi/ ~の卵
 harami/ ~のてんぷら ŷijutiŷnpara/ 魚
 の名など ŷabasi, ŷacinuŷiju, ŷaibiçaa,
 ŷakaŷaci, ŷakamiibaju, ŷakangwaaŷi-
 ju, basikaa, basikaaŷiju, çikura, ŷee-
 bicaa, ŷeeŷiju, gaçun, gurukun, ha-
 juu, ŷiibuu, ŷiqkwanðarumii, 'juna-
 barumazikun, 'juubinuqkwa, kama-
 saa, katakasaa, kaçuu, katakasi, ku-
 buŷimi, kurumiibaju, makubu, mazi-
 kun, miibai, miibaju, mizuŷn, 'Nnatu-
 juubinuqkwa, ŷoobacaa, saba, sami,
 siruŷaci, siruŷiju, taaŷiju, taman,
 tontonmii, tubuu, zaŷn, zaŷnnuŷiju, →
 sjuku, sururugwaa/ ~を取るための毒
 sasa/ ふるい~ sagaiŷiju
 さかな〔肴〕 sakana, tuisakana
 さかなうり〔魚売り〕 ŷijuŷujaa
 さかびん〔酒瓶〕 sakibin
 さかまつげ〔逆睫〕 sakamaçigi
 さかむけ〔逆剥け〕 sakanki
 さかや〔酒屋〕 sakimacijja, →sakaja
 さからう〔逆らう〕 →はんこう
 さかりば〔盛り場〕 →çiguci
 さがりめ〔下がり目〕 miidaii, miidajaa
 さがる〔下がる〕 sagajun

さか

さかん〔左官〕 mucinuiizeeku, mucinujaa, mucizeeku
 さき〔先〕 saci, →せんたん/ ～に死ぬ saci-dacuN/ ～に立つ sacidacuN, sadajun/ ～に立つこと(～に立つ人) sacidaci
 さき〔崎〕 →みさき
 さぎ〔籠〕 saazaa, saazi
 さきがけ〔先駆け〕 sacibai→さきばらい
 さきこぼれる〔咲きこぼれる〕 sacikanZUN
 さきざき〔先先〕 →しょうらい
 さぎし〔詐欺師〕 Qcudamasjaa, Qcunuzaa, Qcunuzimun
 さきしま〔先島〕 sacisima
 さきだす〔咲き出す〕 saci?NzijuN
 さきだつ〔先立つ〕 sacidacuN 「さきがけ
 さきばらい〔先払い〕 ?unSadai,→せんどろ,
 さきまわり〔先回り〕 sacimaai
 さきみだれる〔咲き乱れる〕 sacikanZUN
 さく〔咲く〕 sacun/ すっかり～ sacicijuN, sacicirijun
 さく〔裂く〕 ?aakasjuN, sacun, →ひきさ
 さくさく gusugusu しく, やぶる
 さくしゃ〔作者〕 gukujaa
 さくとく〔作得〕 →sakutuku
 さくばん〔昨晚〕 ?juubi
 さくぶん〔作文〕 →munGun
 さくほうし〔冊封使〕 saqpuusi, tinsi, →too/ ～を接待するための国劇 ?ukwan-sinuui/ ～の船 kwansin, ?ukwansin
 さくもつ〔作物〕 gukuimun, gukuimuzu-
 さくら〔桜〕 sakura [kui
 さくらいろ〔桜色〕 sakura?iru, →?akaza-kura?iru, ももいろ
 さくらじま〔桜島〕(地名) sakurazima
 さくららん(植物名) kamisasibana
 さぐる〔探る〕 sagujuN/ ～こと →?ibisa-
 さくら(植物名) zakura [gui
 さけ〔酒〕 saki, (敬語) ?uzaki/ ～一升 cuwakasi/ ～と肴 sakisakana/ ～に酔うこと sakiwii/ ～に酔った者 ?wiqcu,

?wiqcu/ ～の一種 ?aamui, ?juucu, ?Nmizaki, ?Nmuzaki, muruhaku, muruhwaku/ ～の肴 sakana, tuisakana, →sjuuci/ ～の醸造 sakitari/ ～を入れる器の名 bin?ii, ?iq?iibin, ?ju?ibin, karakaraa, sakibin, sakiduQkui, ?eeci, sijaci, ?izibin/ ～を飲み過ぎて起こる癌 sakigaku/ ～を飲みすぎて病むこと sakigaci/ ～を飲んで太ること sakigweei
 さけかす〔酒粕〕 ka?izee/ ～であえたもの ka?izee?eei
 さけがめ〔酒甕〕 sakigaami
 さけぐせ〔酒癖〕 sakigusi, ?wiigusi
 さけずき〔酒好き〕 saki?iici, sakizoogu, sakizoogu
 さけちゅうどく〔酒中毒〕 sakigaci
 さけどっくり〔酒徳利〕 sakiduQkui
 さけのみ〔酒飲み〕 sakii, sakikwee, saki-zoogu, ?uuzaki, ?warigaami, ?wiqcaa, ?wiqcu, ?wiqcuu
 さけのみなかま〔酒飲み仲間〕 numi?usi
 さけびごえ〔叫び声〕 ?abiigwii
 さけびん〔酒瓶〕 sakabin, →さけ
 さけぶ〔叫ぶ〕 ?abijun, →どなる/ ～さま simatiihjaatii, teehaikazihai/ ～者 ?a-bijaa
 さけぶとり〔酒太り〕 sakigweei 「われめ
 さけめ〔裂け目〕 ?aaki, →きれつ, やぶれめ,
 さける〔裂ける〕 ?aakijuN, sakijuN, →や
 さける〔避ける〕 dukinajuN [ぶれる
 さげる〔下げる〕 hwisagijuN, sagijuN
 ざこう〔座高〕 ?iidaki
 ざこね〔雑魚寝〕 ?waagwaaninzi
 ささえ〔支え〕 ?ikasi [jaa
 ささえ〔栄螺〕 sa?ee/ ～の殻 meemeegu-
 ささえる〔支える〕 ?ujagijuN, →nucagi-
 ささくれ sakanki [jun
 ささげ(豆の名) →huuroo
 ささげる〔捧げる〕 ?usjagijuN
 さざなみ〔さざ波〕 sa?aranami

さざんか〔山茶花〕 →ʔizu, ʔNzu
 さじ〔匙〕 kee
 さしあげる〔差し上げる〕 ʔagijun, nuca-
 gijun, sasjun, ʔusjagijun, →あげる,
 やる
 さしあり〔蟻の一種〕 sasiʔai, sasiʔajaa
 さしおさえ〔差し押さえ〕 hwicimun, sasi-
 ʔusai/ 差し押さえられた物 hwicimun
 さしき〔挿し木〕 sasiki
 さじき〔棧敷〕 saNsici
 さしき〔座敷〕 zaa, ʔasici, (敬語) ʔuza,
 →ʔuhuʔuza, ヘヤ
 さしこみ〔差し込み〕 sinmi
 さしこむ〔差し込む〕 sasiNcuN, ʔusin-
 cuN/ 手荒く〜 hwisincun〔sikurusjun
 さしころす〔刺し殺す〕 nucikurusjun, sa-
 さしさわり〔差し障り〕 kakaisaaraci, sa-
 siçikee, →さしつかえ
 さしさわる〔差し障る〕 kijun, sawajun
 さしせまる〔差し迫る〕 sasiçimajun, →ひ
 っぱく
 さし出す〔差し出す〕 neejun, nusikijun
 さしつかえ〔差し支え〕 çikee, sasiçikee,
 →さしさわり/ 〜ない nuusabin neen
 さして ʔansjuka, →それ(それほど)
 さしでがましい〔差出がましい〕 →すいさん,
 でしゃばる/ 〜者 →でしゃばり
 さしでぐち〔差出口〕 seebee, →でしゃばる
 さしみ〔刺身〕 sasimi
 さしむかい〔差し向かい〕 tankaai, →むか
 さしもの〔指物〕 sasimun 上
 さしものし〔指物師〕 sasimunʔeeku「さす
 さす〔差す・刺す〕 nucun, sasjun, →つき
 さす〔座主〕 zaasi, (敬語) zaasinumee
 さずかる〔授かる〕 sazajakun
 さずける〔授ける〕 sazakijun
 させる simijun, -simijun, -sjun
 さそう〔誘う〕 →ゆるわくする
 さそり ʔjamaNkazi
 さた〔沙汰〕 sata
 さだまる〔定まる〕 →けってい

さたまさき〔佐多岬〕(地名) satanumisaci
 さだめ〔定め〕 saçami, →けってい
 さだめる〔定める〕 →けってい
 さつ〔札〕 saçi
 さっき kiqsa, →いしましがた
 ざっこく〔雑穀〕 zaqkuku
 ざっこん〔昨今〕 →このごろ 「している
 ざっさと kasiikasi, soosoo, →てきぱき
 ざっする〔察する〕 saqsijun
 ざっそう〔雑草〕 →kusa
 ざっと ʔaraʔara, ʔaqtu, →だいたい
 ざっぱり saqpaci, →せいせいする/ 〜し
 たら ʔaqtuu/〜 している tuukaa neen/
 〜と saazaatu
 ざっぴ〔雑費〕 zaçpi, ʔooçikuri
 ざっふうけい〔殺風景〕 saqkoo 「cu
 ざつま〔薩摩〕 ʔjamatu/ 〜の人 ʔjamatun-
 ざつまいも〔薩摩藩〕 ʔNmu, →hanSu, kan-
 da, karaʔNmu/ 湿度でくさった 〜 →
 mizikazaaʔNmu/ 〜と野菜の味噌汁 ʔN-
 mookasi/ 〜につく虫 hwiimus/ 〜の
 市 ʔNnumaci/〜の一種 ʔakagu, ʔisi-
 guuʔNmu, kuragaa, tumaikuruu,
 ʔurandaaʔNmu/ 〜の皮 ʔNmugaa/
 〜の茎 kançabuni/ 〜の酒 ʔNmuzaki/
 〜の自然に生えたもの miiʔNmu/ 自然に
 生えた〜を掘りあさる者 miiʔNmukuzi-
 jaa/ 〜の澱粉 ʔNmukuzi/ 〜の澱粉で作
 ったくず湯 ʔNmukuziputuruu/ 〜の煮
 汁 ʔNmunusiru/ 〜の澱粉を取ったかす
 ʔNmukaçi/ 〜の澱粉を取ったかすで作
 った菓子 ʔNmukašinaqtuu/ 〜の澱粉を
 取ったかすを煮固めたもの ʔNmukaçi-
 daacii/ 〜の葉 kançabaa/ 〜を練ったも
 の ʔNmunii
 さて sati, too/ 〜さて satisati
 さてあみ〔叉手網〕 saçi
 さておき suusuu, →ともあれ
 さても saqtimu/ 〜さても saqtimusa-
 qtimu

さと

さと〔里〕 ʔujanujaa, →さとかた
さといも〔里芋〕 →taaʔNmu, たいも/～の
一種 ʔinNuku
さとう〔砂糖〕 saataa, →sirusita, tee-
hwaku/できそこないの ~'jaNdiʔaataa/
～の検査 satoocinsa/ ~をしぼる車 ku-
ruma, saataaguruma
さとうきび〔砂糖黍〕 saataauuzi, 'uuzi/
～の一種 kwasiuuzi/ ~のから'uuzigara
さとうしごと〔砂糖仕事〕 saataasikuci
さとうだる〔砂糖樽〕 saataajaruru
さとうつくり〔砂糖作り〕 saataazukui
さとかた〔里方〕 nasimii, tuzikata, 'wina-
gunukata, →がいせき, さと
さとの〔悟る〕 satujun
さなぎ〔蛹〕 toojaamaa
サニン〔植物名〕 saNniN, sjaNniN/ ~の葉
sanningaasja
さね〔核〕 sani 「→さいばん
さばく〔捌く・裁く〕 sabacuN, sabakijun,
さばける〔捌ける〕 habacuN, sabakijun
さび〔錆〕 kanakusu, sabi
さびしい〔寂しい〕 sabiʔsaN, sikaraasan,
→cimucaaganasan, ʔuraʔirasa, ところ
さびれる〔寂れる〕 →あれはてる しさびしい
さふらんもどき〔植物名〕 zikuzikuu
さほう〔作法〕 sahuu, ʔaNmee, →れいぎ
さほど ʔansjuka, sahudu, →それ(ほど)
さま〔狭間〕 hjaamii 「なり, ようす
さま〔様〕 sizama, →すがた, ていたらく,
さま〔様〕 →bi, -ganasi, -ganasii, -gana-
siimee, mee-, -mee, -mui, ʔumi-
さま〔様〕 sitaraku, sizama, ʔama, →て
いたらく/ ~見る 'juusita, sitari
さまさま〔様様〕 samazama, →いろいろ
さます〔覚ます〕 samasjun
さます〔冷ます〕 samasjun, nuruqkwi-
jun, →ひやす
さまたげ〔妨げ〕 →じゃま
さまたげる〔妨げる〕 →じゃまする

さむい〔寒い〕 hwiisan/ ~所 hwiiduku-
ru/ ~地方 hwiiguni
さむがり〔寒がり〕 hwiisaʔumii
さむさ〔寒さ〕 →guqka, guqkaN, hwi-
san, kaN, muuciibiisa, 'wakaribiisa/
～でがたがたするさま hwiisagatagata/
～に苦しむこと hwiisakurisja/ ~にこ
ごえる kuhwajun/ ~にこごえること
hwiisaguhwai, hwiisamagai/ ~に負け
ること hwiisamaki
さむざむとする〔寒寒とする〕 hwizurukan-
zun/ ~こと hwizurukanzi, ʔoohwi-
zurukanzi/ 寒寒としたさま hwizuru-
kanzaa
さむさよけ〔寒さ避け〕 hwiisahusizi
さめ〔鮫〕 saba, sami, →ふか/ ~の一種
'Nnatujuubinuqkwa
さめはだ〔鮫肌〕 sami/ ~の者 samaa
さめる〔覚める〕 samijun, ʔuzunun/覚め
やすい kukurubeesan, →めざめる
さめる〔冷める・褪める・醒める〕 hwizu-
jun, nuruqkwijun, samajun, samijun
さもしい →いやしい
さや〔鞆〕 kara, saja, ʔii
さやか sajaka
さゆ〔白湯〕 saajuu
さゆう〔左右〕 sajuu, →sirikuci, sirukuci
さら〔皿〕 sara/ ~の一種 cuʔzara, ʔee-
zara, surii, →ござら
さらいねん〔再来年〕 naajaaN, naaNCu
さらう〔浚う〕 sareejun
さらえる〔浚える〕 sareejun
さらさら soorusooru, soorusooruu
さらさら surusuru/ ~したひげ →suru-
suruuhwizigwaa/ ~したもののsurusuruu
さらしくじら〔晒し鯨(食品の名)〕 ʔnba
さらしもめん〔晒し木綿〕 sarasi
さらす〔晒す〕 sarasjun/ 晒される sari-
さらち〔更地〕 'Nnajasici ʔjun
さらに〔更に〕 'juku, 'jukuN, naahwin,
njahwin, ʔunuwii

さらば saraba, →それ
 さる〔猿〕 'juumu, saaru, saru/ ~のよ
 うな口 'juumuuguci/ ~のよくなつら
 さる〔申〕 saru ɽ'juumuɽzira
 さる〔戸締まりの道具〕 siN, siNɽasi
 さる〔去る〕 ?Nzaru, →たちさる
 さる〔策〕 baaki, sooki/ 目の荒い~ ?ara-
 baakii/ ~の一種 miiɽookii, sagidiiru,
 tiiru, tiizooki
 ざるご〔箒〕 ʔisigaciguu
 さるすべり〔百日紅〕〔植物名〕 hagoogi
 さるとり〔申酉〕 /~の方角 santunii
 さるなし〔植物名〕 kuugaa
 さるまね〔猿真似〕 →saaru, まね
 さるまわし〔猿回し〕 saruhwici
 ざれごと〔戯言〕 ɽarikutuba, →じょうだん
 ざれる〔戯れる〕 ɽarijun, →たわむれ
 ざわ〔沢〕 →saku, suku
 ざわがしい〔騒がしい〕 'jagamasjan, →や
 かましい/ ~さま 'wasawasa
 ざわぎ〔騒ぎ〕 sawazigutu, ʔucimUN, →
 そうどう 「~さま muɽcirugeei
 ざわぐ〔騒ぐ〕 musageejUN, 'wasamicUN/
 ざわめく musageejUN, 'wasamicUN
 ざわる〔障る・触る〕 saajUN, sawajUN,
 →いじる, ふれる
 さん〔3〕 miiɽi, saN, mi-
 さん〔棧〕 saN
 さん〔産〕 saN, →しゅっさん
 ざん〔讒〕 →ざんげん
 さんがい〔3階〕 saNkee
 さんかいき〔三回忌〕 →さんねんき
 さんかく〔三角〕 saNkaku
 さんがく〔山岳〕 →やま
 さんがつ〔3月〕 sangwaɽi/ ~3日の節句
 saNɽwaɽisaNnici, →ʔuzuu
 さんきらい〔山帰来〕〔植物名〕 saNcira
 ざんぎりあたま〔ざんぎり頭〕 kuncaaboo-
 zaa, kuncaaboozi
 さんけい〔参詣〕 saNcii, tiramunmee,
 (敬語) gusanccii

さんけづく〔産気づく〕 /~こと saNmujuu-
 si
 ざんげん〔讒言〕 kooziN, ɽaN/ ~する 'ju-
 kusjuN
 さんご〔珊瑚〕 saNɽu
 ざんこくなもの〔残酷な者〕 cikusjoomUN
 さんこん〔三献〕 saNɽuN
 ざんざい〔散財〕 siɽcii, →ziNʔami
 さんさがり〔三下がり〕 saNsagi
 さんさろ〔三叉路〕 micigujaa
 さんざん〔散散〕 cirizirini, saNɽaN, saN-
 ɽaNkuNɽaN
 さんさんくどのさかずき〔三三九度の盃〕 sa-
 NɽuN
 さんじきょう〔三字経〕 saNziɽoo 「Nsici
 さんしちそう〔三七草〕〔植物名〕 niNziNsa-
 さんしちにち〔三七日〕 miNaNka
 さんじゅう〔30〕 saNzuu
 さんじゅうごにち〔三十五日〕 ʔiɽinaNka,
 saNzuugunici 「zuusaNniNci
 さんじゅうさんかいき〔三十三回忌〕 saN-
 ざんしよ〔残暑〕 'wakariʔaɽisa
 さんじょうする〔参上する〕 'jusirijUN
 さんずのかわ〔三途の川〕 →'wazirigaara
 さんせい〔賛成〕 saNsii/ ~者 saNsii/ ~す
 る duujUN/ ~派 saNsii, siruu
 さんぜん〔産前〕 nasimee
 さんそうばい〔3層倍〕 →さんばい
 さんぞく〔山賊〕 'jamanusudu, →おいはぎ
 ざんだか〔残高〕 nukuidaka 「りくりする
 さんだんする〔算段する〕 sigarijun, →や
 さんちょう〔山頂〕 'jamanuɽizi, →ちょう
 じょう
 さんにん〔3人〕 miɽcai, saNniN, (敬語)
 micukuru, ʔumicukuru, ʔumitukuru
 さんねん〔三年〕 micu, mitu, saNniN/ ~
 前→Neu/ 3,4年 mitujutu
 ざんねん〔残念〕 cinuduku, ɽaNniN, →こ
 ころのこり, くちおしい/ ~である 'wata-
 gurisjan, →ramisja, しんがい

さん

さんねんき〔三年忌〕 sanNninci
さんのいと〔三の糸〕 miiziru
さんばい〔3倍〕 sanBee, sanzoobee
さんばし〔棧橋〕 sanbasi
さんばんどり〔三番鶏〕 sanbandui
さんびゃく〔300〕 sanbeku, sanbjaku
さんびゃくもん〔300文〕 mikumui, sanbe-
ku, sanbjaku/350文 sanbjakugunzuu
さんぶ〔産婦〕 'wakaziiramun/ ~の初め
ての外出 haci?aqei

さんぶんのいち〔3分の1〕 miicitiici, →
みつわり
さんぼ〔散歩〕 hujoo
さんもん〔山門〕 sanmun
さんや〔山野〕 'jama, sanja, →のやま
さんよく〔三欲〕 sanjuku
さんり〔三里〕 sanri
さんりん〔山林〕 'jama
さんりん〔3厘〕 hjaakugunzuu

し

し〔4〕 'juuci, sii, 'ju-
じ〔字〕 zii, →もじ/ ~を書いた紙 shimika-
bi/ 字体の分からない~ miikundaazii
じ〔持〕 zii 「あい, めぐみ
じあい〔慈愛〕 →qecimugurisja, じょう
しあげる〔仕上げる〕 siinasjun, →かんせ
い/ 仕上げ方 siinasi
しあさって〔明明後日〕 ?asatiNnaaca
しあわせ〔仕合わせ〕 šeewee, sijawasi,
→?iziN, こうらん/ ~な事 sijawasigutu
しあん〔思案〕 munukaNgee, sian, →おも
い, かんがえ 「えごと
しあんごと〔思案事〕 siaNgutu, →かんが
しい〔牛馬を迫り声〕 sii 「damun
しい〔椎〕 sii, siizaa/ ~のたきぎ siizaa-
しいくする〔飼育する〕 sitatijun, →かう
しいて〔強いて〕 siiti, →たって
しいる〔強いる〕 siijun, →むりやり/ ~こ
じうたい〔地謡〕 zii?utee しと siihaqtoo
しお〔塩〕 maasju, sjuu/ ~味だけで煮る
こと sjuunii
しお〔潮〕 sjuu, ?usju, sjuutaci
しおうり〔塩売り〕 maasju?ujaa
しおから〔塩辛〕 karasju/ ~の一種 sju-
kugarasju, ?unzani

しおからい〔塩辛い〕 sipukarasan, sjuu-
zuusan/ ~味 sjuuzuuguci/ ~もの si-
pukaramun, sjuuzuumun
しおからごえ〔塩から声〕 →しわがれごえ
しおくみ〔潮波み〕 sjuukumi, ?usjuku-
naa
しおけ〔塩気〕 sjuuci
しおたき〔潮たき〕 maasjutacaa, sjuuta-
caa, sjuutaci/ ~の小屋 sjuja, sjuuja,
sjuujaa
しおづけ〔塩漬け〕 sjuu?iki/ ~の肉 sjuu-
zisi
しおに〔塩煮〕 sjuunii
しおばな〔塩花〕 sjuunuhana
しおみず〔塩水〕 maasjumizi, sjuumizi
しおや〔塩屋〕 sjuja, sjuuja, sjuujaa
しおらしい sjuuraasjan, sjurasjan
しおり〔枝折り〕 'janba
しおれる〔萎れる〕 neejun, →しなびる/
しおれたさま biqteen
しおわる〔し終る〕 sii?uwajuN
しか〔鹿〕 koonusisi, sika/ ~の肉 koonu-
しかえし〔し返し〕 keesi [sisi
しかかる〔し掛かる〕 sikakajun
しかく〔四角〕 kaku, sikaku, siqkaku/ 四

角いもの siqkakuu
 しかけ〔仕掛け〕 sikaki, →きかい, しくみ
 しかける〔仕掛ける〕 sikakijun
 しかし →けれども
 じかせんえん〔耳下腺炎〕 toosinbai
 しかた〔仕方〕 →やりかた/ ~のないこと
 zihwineemun 「N
 しがない〔し難い〕 →gatanasan,-gurisja-
 じがため〔地固め〕 zibuku
 しがつ〔4月〕 sigwaçi, singwaçi
 じかつ〔自活〕 duu?agaci, →どくりつ
 しかねる〔し兼ねる〕 →gatanasan, しが
 だい/ ~こと -kantii
 しかめっつら →'wazami, 'wazaNkaa
 しかめる 'wazamijun
 しかり〔然り〕 →?an
 しかる〔叱る〕 nurajun, siçikijun, →?a-
 daasjun, ?aQku, ?uiaasjun, (小児語)
 mii, →どなりつける/ ~こと →?aQku,
 ?aQkumuQku, tugami, (敬語) nunJee,
 ?undee/ ~人 ?akuu/ 叱られる nuraa-
 rijun/ 叱り疲れる→kucikarazi
 しかるべき〔然るべき〕 nootaru, →とうぜん
 しかん〔仕官〕 ?weedaiugaN/ ~の道 çi-
 keemici
 じかん〔時間〕 zikaN, →zibun, とき
 しき〔指揮〕 ?iiçikigata, →めいれい
 しき〔四季〕 sici, →きせつ
 しき〔式〕 sici, →ぎしき, さほう
 じき caaki, →やがて
 じき〔時機・時期〕 zisiçi, →きかい, じせ
 つ, とき/ ~が終ること ?acagai/ ~が去
 る ?acagajun 「saN
 しきい〔敷居〕 sici/ ~が高い ?icigatana-
 しきいし〔敷石〕 sici?isi
 しきうつし〔敷き写し〕 ?usiigaci
 しきがわら〔敷き瓦〕 sicigaara
 しきじょうきょう〔色情狂〕 buraii
 しきたり huuzi, →しゅうかん, ならわし
 しきべつ〔色別〕 ?iruwaki

しきもの〔敷物〕 sicimun
 しきゅうびょう〔子宮病〕 simugusi
 じきゅうりょく〔持久力〕 mucidee, →こん
 しきよく〔色欲〕 ?irujuku しき
 しきりど〔仕切り戸〕 nakabasiru
 しく〔敷く〕 sicun
 しくじり →しっぱい
 しくじる →しっぱいする
 しくみ〔仕組み〕 sikumi, →しかけ
 しくむ〔仕組む〕 sikunun
 しぐれ〔時雨〕 →simu
 しけこむ〔しけ込む〕 sicikunun
 しげし〔繁し〕 sizisan, →ひんばんである
 しげみ〔茂み〕 hucikumi, hucikun, →やぶ
 しける〔湿気る〕 simikeejun, →しめる
 しげる〔茂る〕 buteejun, hucaajun, hu-
 cikunun, husakeejun, 'jukajun, mu-
 じけん〔事件〕 →?içicun lteejun
 しご〔死後〕 neeka, →あのよ
 じこう〔時候〕 zisiçi, →きこう, てんき
 しごきおび〔しごき帯〕 sugui?uubi
 しごく〔至極〕 siguku, →ひじょうに
 しごく〔極く〕 sugujun
 じこく〔時刻〕 zibun, →とき
 じごく〔地獄〕 ziguku
 じこさんだん〔自己算段〕 →?uuşigari
 じこすうはい〔自己崇拜〕 duu?agami
 しごと〔仕事〕 sigutu, sikuci, tuisikuci,
 'waza, →ろうどう/ ~がおそい tiiniisa-
 N/ ~が早い tiibeesaN
 しごとはじめ〔仕事始め〕 haçi?ukusi
 じこぼくろ〔自己暴露〕 duu?akagai 「て
 じこりゅう〔自己流〕 'waNkuruhuu, →かつ
 しさく〔思索〕 munukaNgee, →しあん
 じさし〔字指し〕 ziisasi
 じさん〔自讃〕 →じまん
 しし〔獅子〕 siisi
 しじ〔私事〕 'watakusi
 ししまい〔獅子舞い〕 siisi
 ししゃ〔使者〕 →つかい

じし

じしゃく〔磁石〕 zizaku
 ししゅう〔刺繍〕 nucimun
 しじゅう〔40〕 sizuu
 しじゅう〔始終〕 katakuzira, zoothwita, →
 いつ, たえまなく, ねん, ねんじゅう
 しじゅうくさい〔49歳〕 kukunutuguzuu
 しじゅうくにち〔四十九日〕 nananaNka,
 sinzuukunici, sizuukunici 「duruci
 しじゅうくらがり〔四十暗がり〕 sizuumu-
 じしゅうじゆく〔自習塾〕 suriiža
 ししゅつ〔支出〕 ?Nzihwa, ?Nzirimee,
 ?Nzirumee, →しはらい, しゅっぴ
 ししゅつだか〔支出高〕 ?Nziridaka
 じしよ〔辞書〕 ziihwici
 じしよ〔地所〕 zii, cikata, →とち
 じじよ〔侍女〕 →sizaki, (敬語) ?usizaki
 ししよ〔師匠〕 sisjoo, (敬語) ?usisjoo
 じじよ〔事情〕 zizoo, →しゅび, ないじよ
 ろ, わけ
 じじよじばく〔自縄自縛〕 →duukweegu-
 ししよぞく〔死装束〕 gusjoosugai [tu
 じしん〔地震〕 nee
 じしん〔自身〕 duu, (敬語) ?unzu, →じぶ
 ん/ ~で-kuru, (敬語) ?unzukuru
 じしん〔自信〕 →じそん/ ~のない言い方
 ?ukeeimunii
 じすい〔自炊〕 duuzoosici
 しずか〔静か〕 sizika/ ~に 'jaajaatu, si-
 nziintu
 しずむ〔沈む〕 sizinun
 じせい〔時勢〕 zisii, →じせつ, よ
 じせい〔自生〕 nanKurumii, →やせい/ ~
 の瓜 moo?ui/ ~のさつまいも mii?Nmu
 じせい〔自製〕 duukuruzukui
 じせつ〔時節〕 zisiqi, →じき, じせい
 しぜん〔自然〕 sizen/ ~に nankuru, si-
 zinni
 しそ〔紫蘇〕 ?akana

しそう -gata, -gataa
 じぞう〔地蔵〕 zizoo
 しぞく〔士族〕 'jukaQcu, samuree, sizu-
 ku/ ~で位のない者 bunniN/ ~の男の
 子 'jukaQcuNgwa, →satunusigwaa, (敬
 語) satunusigwaamee/ ~の成人男子
 →satumusi, (敬語) satunusunumee/ ~
 の身分を金で買った者 kooijukaQcu/ 新
 参の ~miijukaQcu, sinzan
 しぞくぶらく〔士族部落〕 →'jaadui
 しそこなう siijanZun, →hansjun, 'jan-
 zun, -hazakijun, -hazikijun, しっぱい
 しそん〔子孫〕 'jaçimaga, 'jaçi?Nmaga,
 Qkwa?Nmaga, sisun/ ~に苦勞が続く
 こと çizi?uri
 じそん〔自尊〕 duu?ujamee
 した〔下〕 sica, →tiisica, しも/ ~の段 sic-
 ađan/ ~を向く ?uQçincun/ ~を向くこ
 と ?uQçintuu/ ~を向ける ?uQçinkijun
 した〔舌〕 şiba, sica/ ~がもつれること
 teeteemunii, teeteemunu?ii/ ~をかみ
 そうな言い方 sicacirimunii, sicaciri-
 munu?ii, sicakweemunii, sicakwee-
 munu?ii/ ~を出す →sica, siba
 したあご〔下あご〕 kakuzi, ?utugaku, ?u-
 tugee, →あご 「dee
 したい →busjan/ ~放題 siibusjahan-
 したい〔次第〕 sidee, -sindee, →なりゆき/
 ~次第に sideesideeni/ ~に sideeni,
 taqta/ ~に弱ること sideejooi
 じたい〔辞退〕 zitee, →ことわる/ ~するふ
 りをすること ziteegwaa
 じだい〔地代〕 ziganee, →kanee
 したう〔慕う〕 →?untasjan, けいとうす
 る, こいする, しほ/慕われる →?untasjan
 したうけ〔下請け〕 sica?uki
 したえだ〔下枝〕 sicaida
 したがう〔従う〕 sitagajun
 したがき〔下書き〕 sicagaci, sitagaci

したぎ〔下着〕 sicazi, →hakama, はだぎ
 したく〔支度〕 sikooi, sitaku, sugai, →si-
 kooimukooi, じゅんび/ ~する sikoo-
 juN, sugajuN, →sinukujun, sinjuku-
 jun/ ~するさま →sinukuimatakui
 したくちびる〔下唇〕 sicaſiba
 したごころ〔下心〕 sicagakuru, →ないしん
 したごしらえ〔下拵え〕 ʔaraʔukui, →じゅ
 んび
 したしい〔親しい〕 →ところやすい, むつま
 じい/ ~間の話し方 ʔinuʔiihii/ 親しく
 ʔwatawataatu/ 親くなる narijun
 したじき〔下敷き〕 →gaNsina
 したそうだん〔下相談〕 ciriee
 したたか →ひじょうに
 したたらず〔舌足らず〕 sicacirimunii, si-
 cacirimunuʔii, sicakweemunii, sica-
 kweemunuʔii
 したてる〔仕立てる〕 sitatijun/ 仕立てた
 ばかりのもの sinsitai
 したに〔下荷〕 sicanii
 したぬり〔下塗り〕 sicanui
 したば〔下歯〕 sicabaa
 したば〔下葉〕 sicabaa 〔cahwimu
 したばかま〔下袴〕 hakama/ ~のひも si-
 じたばた haʔturuʔeejaa, paʔtarigee-
 jaa, paʔturuʔeejaa
 したばたらき〔下働き〕 hwiimeesaa, sim-
 したはら〔下腹〕 sicawata 〔ubataraci
 したひも〔下紐〕 sicahwimu
 したやく〔下役〕 sicajaku
 したやくにん〔下役人〕 sicajakuniN
 したり sitai, sitari
 しだれやなぎ〔枝垂柳〕 ʔitujanazi
 しち〔7〕 nana, nanaʔi, sici
 しち〔質〕 sici/ ~の利息 sicinurii
 しちがつ〔7月〕 sicigwaʔi
 しちぐさ〔質草〕 sicimuʔi/ ~となるものを
 調べること sicimuʔisirabi
 しちじゅう〔70〕 sicizuu/ 73歳のお祝い→

sicizusaN

しちとうい〔七島蘭〕(植物名) saciii
 しちながれ〔質流れ〕 sicinagari
 しちにち〔7日〕 →なのか
 しちにん〔7人〕 nanatai, siciNiN
 しちねんき〔七年忌〕 siciNiNci
 しちふくじん〔七福神〕 sicihukusiN
 しちめんちょう〔七面鳥〕 sicimiNcoo
 しちや〔質屋〕 sicija
 しちりん〔7厘〕 sanBjakugunZuu
 じつ〔実〕 ziʔi, →ほんとう, まこと/ ~の親
 sjooʔuja/ ~の子 sjooNgwa
 じついん〔実印〕 ziʔiʔiN
 しつうする〔私通する〕 →みつう
 しっかり(しっかりと) ciʔtu, hasiʔtu,
 sikaitu, sikaʔtu, ʔumiciʔtu, →ちゃん
 と/ ~している sjooRaasjan/ ~者 ʔizi-
 cirimUN, ʔizirimUN, ʔakara, ʔakara-
 mun 〔の箱の名 ʔiziributa
 しっき〔漆器〕 nuimUN, →うるしぬり/ ~
 しっきしょう〔漆器商〕 nuimUNjaa
 しつぎょう〔失業〕 musikuci
 しっきんする〔失禁する〕 tuihaNsjuN
 しっくい〔漆喰〕 mucii/ ~作り muciiʔi/ ~
 作り之歌 muciiʔiʔaaʔuta/ ~作りをす
 る者 muciiʔiʔaa
 しつけ〔仕付け〕 ʔiinaraasi, ʔjaanaree,
 muNnaraasi, naraasi, siʔiki, →きょう
 いく, しつける/ ~を受けること muNna-
 ree
 しっけ〔湿気〕 siʔi, →しめりけ/ ~のある
 ところ siʔigakai/ ~をおびる simijun,
 simikeejun
 しつける〔仕付ける〕 ʔiinaraasjuN, siʔi-
 kijun, →しつけ/ しつかけた siʔikigata
 しつげん〔失言〕 ʔiikjwa
 しつこい ʔjanagamasjan
 じっさい〔実際〕 →ほんとう
 じっし〔実子〕 →りみのこ
 しっし siʔsiʔ
 しっしん〔湿疹〕 →hweegasa

しっ

しっせき〔叱責〕 ʔaŋku, tugami, →おしかり, しかる

しっそ〔質素〕 kumeeki, →つつましい/ ~にする kumeekijun

しつづけ〔し続け〕 →caa

しっと〔嫉妬〕 diŋci, riŋci, ʔwaanai, ʔwaanee, →おかやき, ねたみ/ ~する者

しっとり zitazita [diŋcaa, riŋcaa

しっばい〔失敗〕 ʔajamai, ʔajamari, siijanzi, →つくりそこない, やりそこない/ ~する ʔandijun, siijanzun, tuijanzun, →çukuijanzun, ʔudukijun, しそこなう/ ~事 siijanzigutu

しっぼ〔尻尾〕 →お

しっぼう〔失望〕 çirudai, →あて, がっかりする, きおち, しょげる

じつめい〔実名〕 sjoonaa 「gee, ぶさほう

しつれい〔失礼〕 burii, →guburii, maci-

しでのたび〔死出の旅〕 →sidigajamaici

しと〔仕途〕 çikeemici

しどう〔支道〕 →わきみち 「cizituu, zituu

じとう〔地頭〕 →ʔazizituu, suuzituu, 'wa-

じとうだい〔地頭代〕 zitudee

しとき〔桑〕 sizuci

しとめる〔仕留める〕 ʔiricijun

しとやかに〔淑やかに〕 sinziŋtu

しどろもどろ ʔamaʔiikumaʔii, ʔanuu-

しな〔品〕 sina [kunuu

しなう〔撓う〕 tamajun

しなおし〔し直し〕 siinoosi

しなおす〔し直す〕 siikesjun, siinoosjun

しなぎれ〔品切れ〕 sinaziri/ ~になる → hwiçerijun

しなびる〔萎びる〕 bitatajun, neejun, →しおれる/ しなびたさま bitataikaatai

しなもの〔品物〕 sinamun

しなやか / ~でない haçikoosan

しなれる〔し慣れる〕 siinarijun

じなん〔次男〕 zinan

しにがお〔死顔〕 sinigau

しにぎわ〔死隙〕 sinimee

しにくい →gatanasan, -gurisjan

しにしょうぞく〔死装束〕 gusjoosugai

しにそこない〔死にそこない〕 gusjoomu-
dui, sinijanzzaa

しにそこなう〔死に損う〕 sinijanzun

しにものぐるい〔死物狂い〕 →いっしょうけ
んめい/ ~の働き nuciciribataraci

しにわかれ〔死に別れ〕 siniwakari

しにん〔死人〕 siniŋ, siniçeu

しぬ〔死ぬ〕 maasjun, sinun, (敬語) ʔu-
kumuimişeen, ʔuşizirimişeen/ ~こと
miiʔutui, (小児語) miikuutii/ ~べき所
sinidukuru/ ~前 sinimee/ 死なす hwi-
ngasjun/ 死にかけ hanbunzini/ 死に
そら maasigataa/ 死の前兆 tamagai/
死の前兆が現れる tamagajun/ 死んだあ
と neeka/ 死んだ人 siniçeu

じぬし〔地主〕 ziinunuusi

しのぐ〔凌ぐ〕 sinuzun

しのだけ〔篠竹〕/ ~の一種 ʔanbaraa, ʔa-
nbaraadaki, ʔanbarudaki

しのび〔忍び〕 sinubi

しのぶ〔忍ぶ〕 sinubun, →かくれる, たえる

しば〔芝〕 ʔasiziri, ʔasizirijunziri

しはい〔支配〕 kusai, →とりしまり/ ~圍
kagee/ ~圍内 kageeʔuci/ ~する kage-
ejun, kakijun, kusajun, marucun,
→おさめる, とりしまる/ ~力 kusai

しばい〔芝居〕 eoogin, siba, →kumiudui,
'udui/ ~の小屋 sibaja/ ~の入口 mu-

しばし〔暫し〕 sibasi, →しばらく [ŋuci

しばしば〔屢屢〕 ʔjuu, →たびたび

しはじめ〔し始め〕 siihana, →やりはじめ

じばた〔地機〕 nunubata

しばふ〔芝生〕 ʔasiziraamoo

しほらい〔支払い〕 haree, →ししゅつ

しほらう〔支払う〕 harajun

しばらく〔暫く〕 ʔicuta, ʔicutaa, ʔiçtuci,

mazi, →しばし, とらぶん
 しぼる〔縛る〕 'juujun, kunzun, siba-
 jun, tabajun, tudijun, →むすぶ
 じび〔自費〕 →じべん
 じびき〔字引〕 ziihwici
 じびょう〔持病〕 muciee
 しびれる〔痺れる〕 hwirakunun
 しぶ〔洗〕 sibu
 しぶい〔洗い〕 sibusan
 しぶいた〔4分板〕 sibu?ita
 しぶうちわ〔洗うちわ〕 sibu?oozi
 しぶとい →ごうじょう/ ~顔つき siqpa-
 kaagi/ ~顔つきの者 siqpakaagii/ ~こ
 と siqpa/ ~者 siqpa, siqpamun 「bubai
 しぶばり〔洗張り〕 sibubai/ ~の三味線 si-
 しぶりばら〔洗り腹〕 sibiri, sibuiwata
 じぶん〔自分〕 duu, zibun, (敬語) ?unzu/
 かえて ~が怪我をすること duubee-
 ree/ ~勝手 duugaqti/ ~自分で duu-
 naakuru/ ~たち duunaa/ ~たちで 'wa-
 qtaakuru/ ~で duukuru, →kuru,
 'wan'kuru, おてすから, ごじぶんで/ ~
 で髪を結うこと duukurujuui/ ~で転ぶ
 こと duukurubi/ ~で暴露すること duu-
 ?akagai/ ~で働くこと duu?agaci/ ~
 で面倒なことをすること duuwacaree/
 ~に頼ること duu?igari/ ~のことに感
 じること duu?atai/ ~の体(敬語) ?un-
 zu/ ~の身一つ duumi?igara/ ~のやり
 そこない duujanzi/ ~ひとり duucui/
 ~持ち duumuci/ ~の持前 duumee/ ~
 ゆえのこと duujui/ ~を崇めること
 duu?agami, duu?ujamee
 じぶん〔時分〕 →ころ, じき
 じぶんどき〔時分時〕 munuzibun, →ころ
 しぶんのいち〔4分の1〕 sibu?ici, →よつ
 しべ〔蕊〕 sibi じわり
 しへい〔紙幣〕 saçi
 しべつ〔死別〕 siniwakari
 じべん〔自弁〕 duumakane, duumuci

しほ〔思慕〕 ?umii, ?umui, →おもい, し
 たら
 しほう〔四方〕 sirukucimaakuci, →よも/
 ~八方 sihoohaqpoo
 しほう〔脂肪〕 →?anda, butubutuu, siru-
 mi, あぶら/ ~ぶとり sirugweei/ ~の
 不足 →?andagaaki
 じほうじき〔自暴自棄〕 ?aqpangaree
 しほむ〔凋む〕 bitatajun, →しなびる
 しぼる〔絞る〕 sibujun/ しぼったかす si-
 しほん〔資本〕 mutu, muutu [buigara
 しま〔島〕 sima/ ~の者 simaa
 しま〔縞〕 ?aja, →たてじま, ぼりじま, よ
 こじま/ ~とかすりのまじった布地 ?aja-
 nnaakaa
 しまい〔姉妹〕 →'unai, (敬語) →?uminai
 / 守り神となる ~'unaigami/ 守り神とな
 る ~の霊 ?uminai?u?izi/ ~を交換する
 こと 'unaigeei
 じまい〔地米〕 →ziimee
 しまう〔仕舞う〕 →する, かたづける/ …し
 て ~→kee, neen/ しまって置く kazimi-
 jun/ しまって置いたもの kazimimun/
 しまい込んで分からなくなる kazimihu-
 しまぐに〔島国〕 simaguni [kasjun
 しまそだち〔島育ち〕 →simaa
 しまたご〔植物名〕 zingii
 しまつ〔始末〕 çibi, çikitu?uki, →けつまつ,
 しめくり/ ~におえない haçikoo-
 rii, tuin çimin naran/ ~におえないこ
 と zaahwee, zaahweegutu/ ~におえない者
 zaahweemun
 しまった →daa, daanaa 「る →huni
 しまながし〔島流し〕 simanagasi/ ~にす
 しまはまぼう〔植物名〕 'juuna/ ~の葉
 'juunaagaasja
 じまま〔自儘〕 →かって
 しまもの〔縞物〕 ?ajamun
 しまり〔締まり〕 kukui/ ~のない者 çibi-
 hugibaaki

しま

しまりや〔締めまり屋〕 kumeekijaa
 じまん〔自慢〕 duubumii, zimaN/ ～する者 zimanaa
 しみ〔染み〕 suN
 しみる〔染みる〕 sunkwajuN, suunuN/ しみて痛む suunuN
 しむける〔し向ける〕 sikakijun
 しめ〔締め〕 simi
 しめい〔指名〕 nazasi
 しめきる〔閉め切る〕 kwiimicijun
 しめくり〔締め括り〕 çibikukui, kukui, →しまつ ～の役 kukuijaku/ ～をしないこと çibikusuu, çibisuNcaa
 しめくくる〔締め括る〕 kukujun
 しめころす〔締め殺す〕 simikurusjun
 しめじ〔茸の名〕 simizi 「ciiku, cuugoo
 しめしあわせる〔示し合わせる〕 / ～こと
 じめじめ sipusipu, siputaikaatai, zita-zita/ ～する siputajun
 じめつ〔自滅〕 →duukweegutu
 しめりけ〔湿り気〕 siçi, →しっけ/ ～が多いこと siçigakai
 しめる〔湿る〕 simijun, siputajun, →しける simikeejun/ 湿ったさま →じめじめ/ 湿っている耳 siçtaimimi
 しめる〔閉める〕 micijun, →とじる
 しめる〔締める〕 simijun
 じめん〔地面〕 zii
 しも〔下〕 sagai, simu, →した/ ～座 →まつぎ/ ～の方 sicaara, simukata
 しも〔霜〕 →simu
 しもごえ〔下肥え〕 coogwee, kusugwee
 しもじも〔下下〕 simukata, simuzimu, sitazita, sicadii, sicakata, →かそうかい
 しもつき〔霜月〕 simuçici ききゅう
 しものく〔下の句〕 simuku
 しもふり〔霜降り〕 koozaa
 じゃ〔蛇〕 zaa
 じゃあじゃあ soosoo
 しゃか〔釈迦〕 (敬語) sjaukaganasi

しゃがむ kagamajuN, →かがむ/ ～こと
 しゃく〔尺〕 sjaku tuNtaciiai
 しゃく〔勺〕 sjaku
 しゃく〔酌〕 sjaku, (敬語) ?usjaku
 しゃく〔癩〕 →かんしゃく/ ～にさわる →しゃくし〔杓子〕 nabigee cimuzawai
 しゃくとりむし〔尺取り虫〕 hakajaamusu
 しゃくふ〔酌婦〕 bintui, sakanajaawinagu, →じょろう 「いいわけ, べんかい
 しゃくめいする〔釈明する〕 harumijun, →しゃくやにん〔借家人〕 'jaakajaa
 しゃくりあげる〔しゃくり上げる〕 / ～さま nacigeegee 「あい, ころさい
 しゃこう〔社交〕 kugee, qcugutu, →つき
 じゃこう〔麝香〕 zakoo
 しゃこがい〔しゃこ貝〕 ?azakee, ?azikee
 しゃざい〔謝罪〕 'waki, 'waqsa, →あやまる
 しゃし〔斜視〕 sjoomi
 しゃしん〔写真〕 sjasin
 じゃすい〔邪推〕 'jukugan
 しゃっきん〔借金〕 sii, ?uqka, →ふさい/ ～取り sii?imijaa/ ～払い ?uqkabaree/ ～を返すこと hwin?see, siibaree/ ～をふみ倒す者 qcuhurubasjaa
 しゃっくり saqkoobi
 じゃどう〔邪道〕 'janamici, 'jukumici
 じゃびせん〔蛇皮線〕 →sansin
 しゃぶる kukunun, sipujun 「ぎる
 しゃへい〔遮蔽〕 kataka, →おおる, さえ
 しゃべる〔喋る〕 'junun, →おしゃべり, はなす/ しゃべりまくる 'junkansijun
 じゃま〔邪魔〕 samatagi, ?ajameekusamee, zama, →しょうがい/ ～する samatagijun, sisikajun, sisikeejun, →さえぎる/ ～するさま sisikehanakee/ ～する者 →?akumahukurugi/ ～になる sawajun
 しゃみせん〔三味線〕 sansin, (小児語) teNtuu/ 蛇皮張りの～ zahwibai/ ～作り sansinhajaa/ ～の楽譜 →kunkunsii,

kururuNsii/ ~のこま ?Nma/ ~の胴
 çiiga/ ~の音cintunTEN, teNteN/ ~の
 曲の一種 kacaasii/ ~のねじ mudi, zii-
 hwaā 「rookoo
 シャも〔軍雞〕 tawacii/ ~の鳴き声 kooko-
 シャもじ〔飯匙〕 ?iizee, misigee
 ジャリ〔砂利〕 ?isiguu, ?uru
 ジャリジャリ gasagasa
 ジャリみち〔砂利道〕 ?isiguumici, şina-
 シャりん〔車輪〕 hjaagaa [mici
 シャりんばい〔車輪梅〕〔植物名〕 tikaci
 シャれもの〔洒落者〕 kwaaninaa, ?waa-
 caa, →おしゃれ
 ジャんけん →buusaa
 シャんと hasiqtu, →ちゃんと
 シュ〔趣〕 →おもむき
 シゅう〔周〕 -maai, →まわり
 ジゆう〔自由〕 →おもいどおり
 ジゆう〔10〕 tuu, zuu, →tu-
 シゅうい〔周囲〕 maai, maaru, migui, →
 siraakusjaa, しほう, ぜんご, まわり,
 ジゅういち〔11〕 zuu?ici しめぐり
 ジゅういちがつ〔11月〕 simuçiici
 シゅうかい〔集会〕 surii, →あつまり/ ~す
 る →あつまる/ ~のあるさま suriimaan-
 シゅうかいじょ〔集会所〕 →suriiza [doo
 シゅうかく〔収獲〕 →?aci
 ジゅうがつ〔10月〕 zuugwaçi
 シゅうかん〔習慣〕 naraasi, naree, nari,
 ?uku, →しきたり, なれる, ふらしゅう
 シゅうぎ〔祝儀〕 sjuuzi, →sjuđee, (敬語)
 gusjuuzi, gusuuzi, こころづけ, めでた
 ジゅうく〔19〕 zuuku [い
 ジゅうご〔15〕 zuugu
 ジゅうごにち〔15日〕 zuugunici
 ジゅうごや〔十五夜〕 zuuguja
 シゅうさい〔秀才〕 dikijaa, suguraa, su-
 gurimUN, →suuće/ ~の血統 suguri-
 daqkwii
 ジゅうさん〔13〕 zuusan

ジゅうし〔14〕 zuusi
 ジゅうじ〔住持〕 cooro, (敬語) cooro-
 mee, →おしょう
 ジゅうしち〔17〕 zuusici 「としごろ
 ジゅうしちはち〔十七八〕 zuusicihaci, →
 シゅうじつ〔終日〕 hwiruzuu, →いちにち
 ジゅうしゃ〔従者〕 →とも [じゅう
 ジゅうじゅう〔重重〕 zuuzuu, kasanigasa-
 ジゅうしょ〔住所〕 şimeezu, →すまい [ni
 ジゅうしょく〔住職〕 →じゅうじ
 ジゅうじろ〔十字路〕 'juçi?azimaa, kazi-
 majaa, →?azimaa 「なし
 シゅうせん〔周旋〕 naka?iri, →せわ, とり
 シゅうぜん〔修繕〕 tii?iri, →kuu, sjuuhu/
 ~するさま 'joozoohwiizoo, →つくろう
 シゅうせんや〔周旋屋〕 bakujoo
 ジゅうそう〔重曹〕 ?ancoo
 ジゅうそふ〔従祖父〕 'uzihuzitanmee
 ジゅうそふぼ〔従祖父母〕 'uzihuzi
 ジゅうそぼ〔従祖母〕 'uzihuzi?Nmee
 シゅうたんば〔愁嘆場〕 ?aakii
 シゅうてん〔終点〕 çiicukui
 シゅうと〔舅〕 situ, 'wikigasitu, (敬語)
 ?weesitu
 シゅうとく〔習得〕 tui?ubi/ ~する tui?u-
 bijUN, tui?ukijUN, ?ukitujUN
 シゅうとめ〔姑〕 situ, 'winagusitu, (敬語)
 ?weesitu, →?aimee, ?ajamee/ ~への
 接しかた situbiree
 ジゅうに〔12〕 zuuni
 ジゅうにがつ〔12月〕 →しわす
 ジゅうにし〔十二支〕 zuunisi/ ~の1回り
 cumaaarasi
 シゅうにゅう〔収入〕 ?irimee/ ~額 ?iri-
 áaka
 ジゅうにん〔10人〕 zuunin/ ~に匹敵する
 こと zuuninbicee, zuuningaai
 ジゅうのう〔十能〕 hwiisicaa
 ジゅうばこ〔重箱〕 zuubaku, (敬語)?uzuu,
 →haqsinzubaku, kuhwan, rukuşin-

じゅ

gwaa, şiziributa, ʔukuhwan/ ~料理
 じゅうはち[18] zuuhaci 〔→ʔuzuu
 じゅうびょう[重病] cuubjoo, teebjoo
 しゅうぶん[秋分] sjuubun 〔→まんぞく
 じゅうぶん[十分] cuhwaara, zuubun,
 しゅうほ[修補] sjuuhu, →しゅうぜん
 じゅうまんがん[10万貫](銭) zuuman-
 gwan
 じゅうもんめ[10匁] tiirami
 しゅうようする[修養する] →kunasjun
 しゅうり[修理] sjuuhu, →しゅうぜん
 じゅうりん[蹂躪] kunpici, →ふみにじる
 じゅうろうどうしゃ[自由労働者] boosici-
 naa, →たちんぼり, ひやとい
 じゅうろく[16] zuuruku
 じゅうろくささげ[十六ささげ] huuroo
 じゅうろくむさし[十六武蔵] micimaa
 しゅき[酒器] →さけ
 しゅくえん[祝宴] sjuuzi, →おいわい/ ~
 の座 sjuuzizaa 〔çibi
 しゅくじつ[祝日] →'uimi, 'ujumi, tuisi-
 しゅくじょ[淑女] meewinagu
 じゅくす[熟す] ʔnNun/熟し過ぎる ʔNmi-
 kucun/ 熟してないもの ʔoomun
 じゅくたつする[熟達する] sikarasjun, →
 じょうたつする, たつじん 〔しる
 じゅくちする[熟知する] sirihukasjun, →
 しゅくちょく[宿直] 'jużimi
 しゅくはく[宿泊] tumai, →とまる
 しゅくめい[宿命] çizisuu, →うんめい
 しゅくん[主君] sjużin, →しゅじん
 しゅげい[手芸] tinuža
 しゅご[守護] kakugu, →まもり
 じゅごん[儒艮](海獣の名) ʔakan gwaaʔi-
 ju, žan, žanNuʔiju
 しゅし[主旨] ʔisju
 しゅし[種子] muNcani, →たね
 しゅじゅ[種々] →いろいろ
 しゅじゅつ[手術] tiʔiri 〔kawaiimun
 しゅしょうな[殊勝な] →しんみょう/ ~者

しゅじん[主人] danna, nuusi, sjużin,
 →ごしゅじんさま/ ~役 tiisju
 じゅずだま[数珠玉] şişidama, (植物名)
 şişidamagii
 しゅせんど[守銭奴] zingunzuu, →zinza-
 しゅだん[手段] →ほりほり 〔ku
 しゅっさん[出産] hanzoo, nasihanzoo,
 san, →ʔuqtumisi, うむ, さんけづく,
 そりざん, なんざん, ぶんべん, / ~祝い
 kaaʔurii/ ~祝いの飯 ʔnbagii, ʔnba-
 giimee/ ~後産婦が暖をとる炉 ziiru/ ~
 後まだ回復しない体 'wakaziira/ ~する
 →うむ/ ~の準備 →şizukurii/ ~の時
 産児につける水 ʔnbumizi/ ~の前 nasi-
 mee
 しゅっぱつ[出発] ʔNzitaci, ʔuqtaci, →
 かどで/ ~の準備 ʔNzisugai/ ~する
 しゅっぱん[出帆] →でふね 〔ʔuqtacun
 しゅっぴ[出費] çikuri, ʔirimi, munuʔi-
 rimi, zinʔirimi, siçii, →ししゅつ/~
 のかさむこと siçeiigutu, zinʔirimi
 しゅっほん[出奔] ʔNzihangwi, →いえで
 しゅとう[種痘] zitoo
 しゅぬり[朱塗り] sjunui
 じゅばん[襦袢] ziban, →jużin
 しゅび[首尾] sjubi
 じゅひ[樹皮] kiinukaa
 しゅもく[撞木] simuku
 しゅり[首里] sjui, →sjuiʔweeguni, ʔu-
 hwigamutu/ ~王府への御奉公 sjui-
 ganasimedei, sjuNzanasimedei/ ~周
 辺の畑 sjuibaru/ ~の大通りの名 ʔai-
 zoo, ʔaizooʔuhumici, ʔajazoo/ ~の
 旧3行政区 sjuimihwira/ ~の國王 sju-
 itinganasi, sjuNzanasasi/ ~の風俗 sju-
 ihuuzi/ ~にある神の宮 sjuimituNci
 しゅりじょう[首里城] ʔuguşiku/ ~にあ
 る泉の名 duuhwi, ruuhwi/ ~の建物の
 名 ʔazana, cimihukui, gubanzu, gu-
 sjużin, hweenuʔudun, 'jubukui, 'juNci,

kamee, karahwaahu, kugani?uduN,
 muNdašii, muNnami, nisinu?uduN, si-
 masui?azana, taka?azana, ?uciNbjuu-
 ?uduN, ?ukugusjuin, ?uniikee?uduN,
 ?usinbjuu?uduN/ ~の庭 ?unaa/ ~の
 門の名 ?akata?uzoo, ?amee?uzoo, ci-
 mihukui?uzoo, hukui?uzoo, hwiizaa-
 ?uzoo, ?usuhwici?uzoo, kaguisi?uzoo,
 kawarumi?uzoo, mimunu?uzoo, naga-
 ?uzoo, šiicizi?uzoo, simunturi, siru-
 kani?uzoo, ?unaka?uzoo, ?wiinuturi
 しゅりじん〔首里人〕 sjuinCeu
 しゅりほうげん〔首里方言〕 sjuikutuba
 しゅろ〔棕櫚〕 çigu, sjuru/ ~の皮 sju-
 しゅろちく〔棕櫚竹〕 sjuruciku [rugaa
 しゅろなわ〔棕櫚繩〕 sjuruçina
 じゅん〔順〕 sidee, -sindee, →じゅんばん
 しゅんかん〔筍干〕(料理名) sjunkan
 しゅんぎく〔春菊〕 sjuNciku
 じゅんけん〔純絹〕 →kasinucisiraga
 じゅんさい〔植物名〕 miži?uncee
 じゅんずる〔準ずる〕 ?utaasjun
 じゅんたく〔潤沢〕 zuntaku, →ゆたか
 じゅんばん〔順番〕 ban, maaru, →?usii-
 maaru, ?usiiimasii, じゅん, ばん/ ~
 が先であること meeban, saciguci/ ~制
 maaruu
 じゅんび〔準備〕 sikooi, sitaku, sugai,
 →sikooimukooi, šimee, timawasi, し
 たごしらえ, そなえ, ようい/ ~する si-
 koojun, sugajun, →sinjukujun, si-
 nukujun/ ~するさま →sinukuimata-
 kui/ ~万端 →sugaimanugai
 じゅんふう〔順風〕 matumu, zunpuu
 しゅんぶん〔春分〕 sjunbuN
 しゅんめ〔駿馬〕 hai?Nma
 しょうこむ kwizikijun [→sjoon tatan
 しょう〔仕様〕 siijoo, →しかた/ ~がない
 しょう〔性〕 sjoo, →せいしつ/ ~が合わな
 い ?eesjooguhwasan

しょう〔升〕 -sju, →wakasi
 じょう〔滋養〕 →えいよう
 じょう〔情〕 zoo, →cimu, なさけ
 じょう〔錠〕 saasi, →かぎ
 じょう〔状〕 zoo, →てがみ
 じょう〔上〕 zoo-, →じょうとう
 じょうあい〔情愛〕 sinasaki, zoeee, →じ
 あい, じょう, なさけ / ~のゆたかな人
 じょうい〔上位〕 ?wiidan [zooemuci
 しょうが〔植物名〕 sjoogaa/ ~をすりおろ
 したもの sjoogaasirii
 しょうがい〔障害〕 →さしさわり, じゃま
 しょうがく〔小学〕(書名) sjoogaku
 しょうかする〔消化する〕 kunasjun
 しょうがつ〔正月〕 sjoogwaçi, →しんねん/
 ~早早 sjoogwaçinNaara/ ~と7月 sjo-
 osiçigwaçi/ ~の市 sjoogwaçimaci/
 ~の晴着 sjoogwaçizini/ ~用に居る豚
 sjoogwaçi?waa/ ~用の買物 siwaasiko-
 oimun/ ~笑い sjoogwaçiwaree
 しょうがない sjoon tatan, →しかた
 しょうかん〔小寒〕 sjuukan
 しょうき〔正気〕 sjooçi
 しょうぎ〔将棋〕 →cunzii
 しょうぎ〔娼妓〕 →じょろう
 じょうき〔蒸気〕 →ゆげ
 じょうきせん〔蒸気船〕 hwiigurumaa
 じょうげ〔上下〕 ?wiisica, →kamisimu
 しょうこ〔証拠〕 sjuuku
 じょうご〔上戸〕 sakizoogu, sakizooguu,
 じょうご〔漏斗〕 zoogu [zooguu, →zoogu
 しょうごう〔照合〕 hwici?ati
 しょうさい〔詳細〕 kumeeki, →いさい, く
 わしい/ ~にする kumeckijun
 しょうじ〔障子〕 ?akai, ?akaisanbasiri,
 ?akaisanbasiru
 じょうし〔上巳〕 sangwaçisannci
 しょうじき〔正直〕 makutu, sjoozici, →
 maazimu, mazimu/ ~な者 maazimu,
 maqšiiiguu

じょ

じょうしき〔常識〕 →kani
 しょうしょ〔小暑〕 kuuʔaʒisa
 しょうしょう〔少少〕 →すこし
 しょうじょう〔猩猩〕 sjoozoo
 しょうじょうと〔蕭条と〕 soozootu
 しょうじる〔生じる〕 sjoozijun
 しょうしん〔小心〕 →おくびょう/ ~である
 cimuguusan/ ~者 cimuguumun
 しょうしんのう〔尚真王〕 →ʔucagamui,
 ʔuzagamui, ʔuzagamuiganasi
 しょうじんりょうり〔精進料理〕 sjoozin
 じょうず〔上手〕 zoozi, →taqsja/ ~下手
 しょうせつ〔小雪〕 kuujuci ʔzoozihwita
 しょうぞうが〔肖像画〕 (敬語) ʔuguii
 じょうそうかいきゅう〔上層階級〕 ʔwiika-
 ta, ʔwiiʔwii
 じょうぞうする〔醸造する〕 tarijun
 しょうそく〔消息〕 →kwii, じじょう
 しょうぞく〔装束〕 sjoozuku, →しにしよ
 りぞく, たびしょうぞく, きもの
 しょうたい〔招待〕 ʒikee, (敬語) mjunʒi-
 kee, nuŋʒikee, ʔuŋʒikee ʔひきりける
 しょうたく〔承諾〕 gaqtin, →しょうち,
 じょうたつする〔上達する〕 ʔagajun,
 →じゅくたつする
 じょうだん〔上段〕 ʔwiidan 「→ざれごと
 じょうだん〔冗談〕 teehwa, ʔwareebanasi,
 しょうち〔承知〕 gaqtin, →ʔuganʒumi-
 jun, しる/ ~の上 siriee
 しょうちょう〔小腸〕 nakami, ʔwatagwaa
 じょうてんき〔上天気〕 zooʔwaaʒici
 じょうとう〔上等〕 zootuu, →zoo-/ ~の畑
 地 zooci
 じょうとうみょう〔常灯明〕 zootuNmjoo
 しょうとつする〔衝突する〕 ʒiciʔatajun,
 じょうない〔城内〕 siruʔuci ʔ→ぶつかる
 しょうにゅうどう〔鐘乳洞〕 →gama
 しょうにん〔使用人〕 ʒikeemun, →ʔunʒu-
 mii, zinin
 しょうにん〔商人〕 ʔacineeNcu, ʔacinee-

sjaa, →ʔacooɔaa, ʔacooɔu
 しょうね〔性根〕 sjoo, sjookani, →こん
 しょうのう〔樟脳〕 sjoonoo ʔじょう
 じょうのう〔上納〕 zoonoo ʔʔNma
 じょうば〔乗馬〕 ʔNmanui/ ~用の馬 nui-
 しょうはい〔勝敗〕 kacimaki, →しょうぶ
 しょうばい〔商売〕 ʔacinee/ ~がうまく行
 かない ʔacineeguhwasan/ ~上手 ʔa-
 cineezoozi/ ~の口あけ ʔasamiiguci
 しょうばん〔相伴〕 sjooɔa, (敬語) ʔusjoo-
 じょうび〔常備〕 →よいい ʔba
 しょうひする〔消費する〕 teesjun, →つい
 える/ 消費される teejun
 しょうひん〔商品〕 ʔacineemun
 しょうぶ〔勝負〕 sjuubu, →しょうはい/
 ~事で人数を左右に分けること katawa-
 kitii/ ~なし hwiihwiituu
 しょうぶ〔菖蒲〕 sjooɔu
 じょうふ〔上布〕 zoohu ʔguu
 じょうふ〔情夫〕 kamaŋta, ninguru, →
 じょうふ〔情婦〕 niŋguru, →guu
 じょうぶ〔丈夫〕 ganʒuu, katoɔ, zoobun
 (敬語) ʔuganʒuu, →けんご, たっしゃ/
 ~そりである ganʒuugisan/ ~な者 cu-
 ubaa, ganʒuumun/ ~な者が倒れるこ
 と kuhwadoori/ ~になる cuujun
 しょうぶん〔性分〕 →せいしつ
 しょうべん〔小便〕 siibai, (小児語) sii/
 ~する →ʔusi/ ~壺 siibaiguuru
 しょうぼう〔消防〕 hwiibataraci
 しょうぼうふ〔消防夫〕 hwiicaasjaa
 じょうまえ〔錠前〕 saaʒi
 しょうまん〔小満〕 sjuuman/ ~芒種 sju-
 umanboosjuu
 じょうみやく〔静脈〕 ʔookazi
 しょうめん〔正面〕 mamukoo, taŋkaa, →
 ʔumukoo, ましょうめん
 しょうもん〔証文〕 sjuumun
 しょうゆ〔醤油〕 sjoojuu/ ~を入れるとっ
 くり sjoojuuɔukui

しょうゆや〔醬油屋〕 sjooujuujaa
 しょうよく〔情欲〕 →hadahusja
 しょうらい〔将来〕 ?atu?atu, 'juunusaci,
 sacizaci, →kurikara/ ~性がある →sj-
 oozijun
 しょうりょう〔精霊〕 (敬語) ?usjoooro,
 →たましい/ ~送り ?usjoooro?uukui,
 ?uukui/ ~迎え ?usjoooro?unkee
 しょうりょうばな〔精霊花〕(植物名) ?u-
 sjooroohaasi
 しょうわる〔性悪〕 'jaçi
 しょか〔書家〕 ziikaci
 しょか〔初夏〕 haçinaçi, naçiguci, 'waka-
 じょかん〔女官〕 guşikuncu [naçi
 しょかんちよう〔諸官庁〕 sjuzasjukura
 しょき〔暑気〕 humici, →humicimaki
 しょきかん〔書記官〕 hwiqsja
 しょくあたり〔食あたり〕 sjukusjoo
 しょくえん〔食塩〕 maasju
 しょくぎょう〔職業〕 'waza, →しごと
 しょくご〔食後〕 mununu?atu, munnu-
 ?atu
 しょくじ〔食事〕 cuusici, 'jaşimi, munu,
 mun, ?ubun/ ~のかわり →kucizukui/
 ~の支度 munusugai/ 昼下りの~ hwi-
 rumamun
 しょくじどき〔食事時〕 munuzibun
 しょくぜん〔食前〕 munnumee
 しょくどう〔食堂〕 makaneejaa
 しょくにく〔食肉〕 sisi
 しょくにん〔職人〕 şeeku
 しょくひ〔食費〕 kweekuci
 しょくぶつめい〔植物名〕 →?aasa, ?adani,
 ?adan, ?akabanaa, ?akagi, ?akagu,
 ?akamaamii, ?akana, ?asa, ?asiziri,
 ?asizirijunziri, ?awa, hansiruu, ba-
 ran, basjuu, biiguii, biiru, bingi, bi-
 nroo, bira, biwa, butan, caagi, canda-
 kasii, çibaci, çibana, çiburu, cidee-

kuni, çigu, çihwahwa, ciidumigusa,
 ciku, cinuku, çinumata, cinkan,
 cinkwaa, çinnuku, ciri, ciribira, ciri-
 ntoo, cisana, çita, coocikutoo, coosju-
 n, coozi, daki, dakinuqkwa, daqcoo,
 dasica, deede, deedeekunibu, deeku,
 deekuni, deemjoo, diigu, diN, dingan,
 dugwai, ?ee, garasi, gazimaru, gikizi,
 goojaa, gumuru, guNboo, gusici, gu-
 suntoonucin, gusuntoozin, haberu-
 baa, hadakaamuzi, hagoogi, hana,
 hanabasjuu, hanagaci, handama,
 hansu, hataki?aasa, hazi, hazigi,
 hjootançibururu, huçima, hujuu, huku-
 rugi, hukuzi, hunui, huuçi, huuçibaa,
 huurinna, huuroo, huutoo, huzi, hwi-
 gu, hwihwaçi, hwinuci, hwirahwaga-
 sa, hwirakaamuzi, hwiramaaça, hwi-
 ramaaçi, hwiramusiru, hwiramusi-
 ruu, hwiru, hwiruhwagusa, ?icubi, ?ii-
 ku, ?indu, ?induumaami, ?inkunibu,
 ?inziinmaami, ?isiguu?nmu, ?ituja-
 nazi, ?izu, 'ii, 'jaasi, 'jahwatagusa,
 'jamaguruci, 'jama?icubi, 'jamajuu-
 na, 'jamakanða, 'jamakanðaa, 'ja-
 mamumu, 'jama?nmu, 'janabu, 'ja-
 nazi, 'janbaraa, 'janbaraadaki, 'ja-
 nbarudaki, 'janabu, 'jarabu, 'jui, 'ju-
 juzura, 'junziraa, junziri, 'jusandi-
 bana, 'juuna, kaabucii, kabigi, kami-
 sasibana, kançiku, kanda, kanna,
 kançoo, kara?nmu, karataki, kazi-
 majaa, kiimumu, kii?ui, koobusi,
 kooreegusju, koozaa, kuba, kucinasi,
 kuganii, kuganiikunibu, kuhwadiisi,
 kuhwadisa, kunibu, kuragaa, kuru-
 boo, kurucani, kuruci, kuruguma,
 kurumaami, kurutun, kuru?ugua-
 ma, kusandaki, kusazina, kusunuci,
 kuubi, kuugaa, kuuruu, kwaa, kwa-
 nunciku, kwansoo, kwantu?ui,

しょ

kwasiuuzi, maaçi, maami, maani, maaʔoohwaa, maataku, maaui, maa-zin, maçibaran, maçidan, maçiran, mamami, mamiku, manzuuii, maqkoo, miçiba, miigaa, miKAN, mimigui, miNbutukii, miNna, miNzaigusa, miçiʔuNcee, mooʔaasa, mooʔicubi, mooʔui, muikuhana, muikwa, mumu, muzi, naa, naaba, naabeeraa, naaßibi, na-coora, naguran, naiuu, nanKwaa, niibiru, niNbutukii, niNningusa, niNzinsansici, niçcii, nuuri, ʔNnamuzi, ʔNmi, ʔNmu, ʔNni, ʔNndii, ʔNzu, 'Nsunabaa, 'Nzadaki, 'Nzaki, 'Nzana, 'Nzataki, 'Nziçicaa, ʔoomaamii, ʔoonuuri, ʔootoo, ʔootuuzin, riici, rin, ringan, rugwai, rusuntoozin, saataagii, saataauuzi, saciii, sakura, sançira, sandankwa, sannin, sarakaci, sibaki, sibui, sii, siibooçaa, šiikwaasjaa, šiikwaʔui, siizaa, simizi, şinui, siracani, siraciku, siruciku, sirumaami, siruʔuguma, şişici, şişida-magii, şizi, şjannin, şjoobu, şjoogaa, şjuNçiku, şjuru, şjuruciku, soosicigu-sa, sutiçi, suutiçi, taaʔNmu, taarasi, takaʔicubi, tarugajoo, tikaci, tiNsjaaguu, toohumaami, toohunabii, tookunibu, toonucin, tubira, tumaikuruu, turanuzuu, tuu, tuuzinii, ʔucin, ʔuguma, ʔuhuçizaa, ʔuhumuuzi, ʔuhuni, ʔui, ʔukumaami, ʔumiʔaasa, ʔumimaaçi, ʔumutu, ʔuncee, ʔurançaaʔNmu, ʔusuku, ʔusjoo-rochaasi, ʔuuni, 'uu, 'uubee, 'uuzi, ʔwiicoo, 'warahi, çakura, çibira, ziima, zii-maami, zikuzikuu, zingii

しょくぶん〔職分〕 sjukubun

しょくめい〔職名〕 →いかい 〔ʔukani

しょくもつ〔食物〕 →たべもの/ ~の暖かみ

しょくよく〔食飲〕 muNnujuku, sjukujuku, →たべもの/ 病後の~ sakadaci/ ~がある kucimaasan/ ~が無い kucinii-san/ ~をそらすために少し食うこと kucizukui

しょくりょう〔食糧〕 hanmee, →たべもの/ ~持参 duubanmee/ ~を計って炊くこと hakaibanmee 〔joo

しょくん〔諸君〕 suujoo, (敬語) gusuu-

しょげる gandujun, sipitajun, →sipirijun/ ~こと siibuu, →しつほう/ しょげかえること siibuugeei/ しょげているさま biqteen, sipitaikaatai

しょこう〔諸侯〕 →ʔazibi

しょこん〔初婚〕 ʔaradumeei, ʔaramuci, ʔaraniibici

しょさいない〔如才ない〕 kuuşee neen

しょし〔庶子〕 'juubeengwa

しょしき〔書式〕 →hwinagata

しょしよ〔処暑〕 tukuruʔaçisa

しょそう〔女装〕 'winagusugai

しょぞん〔所存〕 sjuzun, →かながえ/ ~次第 sjuzunsidee, (敬語) gusjuzunsidee

しょたい〔所帯〕 sjuutee, →çaci/ ~道具 'jaamucidoogu, sjuuteedoogu/ ~もち 'jaamuci, 'jaamucizuku, sjuuteemuci/ ~持ちが荒い sjuuteeʔarasan/ ~持ちが荒いこと ʔarazuutee/ ~持ちがいい sjuuteekumasan/ ~持ちの上手な者 'jaamucaa/ ~を別にする こと sjuutee-

しょつき〔織機〕 →はた 〔wakai

しょつちゅう →しじゅう

しょっぱい →しおからい

しょてん〔書店〕 sjumuçimacija

しょなか〔初七日〕 haçinanKa

しょにん〔諸人〕 →ばんにん

しょぶん〔処分〕 ʔutiʔiri, →しより

しょほう〔処方〕 hweezee

しょほうせん〔処方箋〕 hweezeeçagaci

しょみん〔庶民〕 →ばんにん

じょめい〔助命〕 nucidaşiki
 しょもう〔所望〕 nuzumi, sjumoo, →ねがい
 しょもつ〔書物〕 sjumuçi, →ほん
 しゃや〔初夜〕 şaraşicenu, şjuru
 しょり〔処理〕 hansı, →しよち/ ~する
 hansjun, sabakijun, →とりはからう
 じょうろ〔女郎〕 zuri, zurihana, →がい
 しょう, しゃくふ/ 囲われた ~çimizuri/
 ~だった女 hunzuri/ ~として売ること
 zurişui/ ~に夢中になること zurimuçi-
 ri/ ~の営業禁止 şakahuda/ ~の抱え親
 zurişanmaa/ ~の身代金 zurigane/ ~
 ~を買いあさること gunboo, zuri-
 gunboo/ ~を買いこと zurişubi/ ~を
 買り代金 zurigane/ ~を買い者 zurişu-
 baa/ ~を売買する者 zurişakujoo/ あら
 たに~に身を落した者 saraşutii/ 営業禁
 止された~ şakahuda/ 初めて買った~
 haşizuri/ 昔なじみの~ huruzuri
 じょうろあそび〔女郎遊び〕 zurişasıbi
 じょうろや〔女郎屋〕 zurinujaa
 しょんぼり →しよげる
 しらあり〔白蟻〕 sirai 「~頭の者 siragaa
 しらが〔白髪〕 siragi/ ~頭 siragişiburu/
 しらいと〔白髪糸〕 siraga, →siraga-
 gasi/ ~で織った礼服 siragawataşin
 しらぎく〔白菊〕 siraciku, siruciku
 しらくちづる〔植物名〕 kuugaa
 しらくも〔白雲〕 sirakumu
 しらげる〔精げる〕 →せいはいく
 しらしめゆ〔白絞め油〕 sirasibui
 しらせ〔知らせ〕 sirasi, (敬語) şusiyasi,
 →きっぽり, つうたつ
 しらせる〔知らせる〕 sirasjun, →çigiju-
 N, huriituuşjun/ ~人 sirasibi
 しらちやける〔白ちやける〕 sirasabeejun
 しらつゆ〔白露〕 hwakuru

しらなみ〔白波〕 siranami
 しらはま〔白浜〕 sirahama
 しらふ〔素面〕 sama 「けんさ, とりしらべ
 しらべ〔調べ〕 şaratami, sirabi zinmi, →
 しらべもの〔調べ物〕 sirabimun
 しらべる〔調べる〕 şaratamijun, sirabi-
 しらほ〔白帆〕 sirahu [jun
 しらみ〔虱〕 siran/ ~の卵 şicasi
 しらむ〔白む〕 siranun
 しらわらい〔しら笑い〕 sirawaree
 しり〔尻〕 şibi, şisici, →şibitai, şibitanda/
 ~がやせてとがった者 şibisaziraa/
 ~にさがった帯 şibitaişuubi/ ~に敷く
 →şicina/ ~に敷くもの şicina/ ~の突
 き出た者 şibitaşquu/ ~を立てること
 şibitaştuu
 しりあい〔知り合い〕 miicaaşiricaa, siri-
 ee
 しりからげ〔尻がらげ〕 şibui
 しりきれ〔尻切れ〕 zuumuşkaa, zuumu-
 şkoo, zuumookuu
 しりごみ〔尻込み〕 şatuşizici, şatuşizi-
 caa, →ひっこみじあん/ ~する şukee-
 jun/ ~するさま şatunainai 「のく
 しりぞく〔退く〕 şizicun, →あとずさり,
 しりぞける〔退ける〕 dukinaşjun, şizira-
 kaşjun, →のける, はいじよする
 しりぬぐい〔尻拭い〕 şibinugujaa, →あと
 しまつ/ ~をしないこと şibikusuu
 しりべた〔尻べた〕 şibitai, şibitanda
 しりよ〔思慮〕 şati, şatisjoo, hunbiçi,
 muNnuşati, şjoo, →かながえ, ふんべつ/
 ~深い şumişbukasaN/ ~深い者 tama-
 sikweemun/ ~分別のない者 şatinasi
 しりょう〔飼料〕 hami, munugarii, →えさ
 しる〔知る〕 şijun/ 知らない人 siranşquu/
 知らぬふり siranhuunaa/ 知りつくす
 sirihukaşjun/ 知っていて siriee

しる

しる〔汁〕 siru, ʔusiru, →ʃiimuN/ ～が引いて煮えたつこと siruhwiitazii/ ～に入れる野菜 →ʔwaaʔuci/ ～のかす sirunuguri/ ～の出るもの siruhaimuN/ ～ばかりが多いこと sirubonbon/ ～をかけた飯 siruzikii, ʔusiruzikii/ 貧弱な～ sabiziru 「ki
 しるし〔印〕 siN, sirusi, →sirubi, ʔuqci-
 しるわん〔汁椀〕 siruwan, ʔusiruwan
 じれったい tiihagoosaN, →hagoosaN, いらいら/ ～さま hutuhutu
 しれわたる〔知れわたる〕 sasisirijun
 しろ〔白〕 siru, →まっしろ
 しろ〔城〕 siru, guʃiku/ ～の中 siruʔuci
 しろ〔代〕 siru, →かわり, だいか
 しろあと〔城跡〕 siruʔatu
 しろあり〔白蟻〕 →しろあり
 しろい〔白い〕 sirusaN/ 白っぽくなる sirasabeejun/ ～紙 sirukabi/ ～布 sirununu/ ～もの siruu/ 魚などの～腹 siruwata
 しろいんげん〔白隠元〕 →sirumaami
 しろうと ʔuku/ ～大工 taabaazeeku
 しろうり〔白瓜〕 (植物名) mooʔui
 しろごま〔白胡麻〕 siruʔuguma
 しろざとう〔白砂糖〕 siruzatoo, teehwaku
 しろじ〔白地〕 siruzi
 しろした〔白下〕 sirusita
 しろなまず〔白なまず〕 sirabee
 しろほし〔白屋〕 sirubusi
 しろまめ〔白豆〕 sirumaami
 しろみ〔白身〕 sirumi, sirumii
 しろめ〔白目〕 sirumii
 しわ〔皺〕 magui, 'wazami, →ひだ/ ～が寄る cizinuN, magujun, wazanun/ ～だらけ→しわくちャ/ ～だらけの顔 maaguuzira, maguizira/ ～になる magurijun/ ～の寄ったもの maaguu/ ～をよせる cizimijun, 'wazamijun
 しわがれごえ〔しわがれ声〕 kwiikaraa,

sjuukarigwii, tusjuigwii, →かれる
 しわくちャ〔皺くちャ〕 maaguuhwiiguu, maguihwigui, maguikaa, magujaahwiigujaa, muNnaku, muNnakuwanna-ku, muNnakuwanna/ ～にする ʃikunasjuN/ ～の顔 maaguuzira, maguizira
 しわざ〔仕業〕 siwaza
 しわす〔師走〕 siwaasi/ ～に使う金 siwaasizikee/ ～の忙しき siwaasiʔicunasa/ ～の市 siwaasimaci/ ～の買物 siwaasikooimuN/ ～の商売 siwaasiʔacinee
 しん〔芯〕 nakaguu, nakaziN, siN, →ずい
 じん〔人〕 -Ncu
 じんあい〔塵埃〕 cirihukui, →ちり
 しんい〔神意〕 ʔutingutu
 しんいり〔新入り〕 →しんざん
 じんいんちょうさ〔人員調査〕 ninʔuʔarata-
 tami
 しんか〔臣下〕 siNka
 しんがい〔心外〕 →ざんねん/ ～なこと (～なもの) ʔumaaranmuN
 しんかん〔神官〕 kamiNcu/ ～の家 →nii-
 dukuru, niija/ ～の家の主人 →niiNcu/
 ～の一種 ʔamusirare, ʔansirari, ʔansitari, cihwizini, cihwizinganasi,
 cimi, ciN, kudi, nigami, nuru, nuruku-
 mij, nuuru, ʔukudi, 'wikiiʔukudi,
 'unaiʔukudi/ ～の御殿 →cihwiziniʔu-
 duN/ ～の屋敷 →sjuimituNci, sjuundu-
 nuci, sjuunduNci, makaunduNci, ziibu-
 duNci
 しんがん〔心願〕 cimunigee, →がん
 しんきゅうし〔鍼灸師〕 'jabuu
 しんけいすいじゃく〔神経衰弱〕 cijami, si-
 Nhwicagi
 しんけいつう〔神経痛〕 hwizuicii
 じんご〔人後〕 qcuʔatu
 しんこう〔信仰〕 guninzi, ninzi/ ～する
 ninzijun, sinzijun
 じんこう〔沈香〕 zinkoo

しんこうせん〔進貢船〕 ʔajabuni, ʔajahununi, cinʔkunsin/ ~で中国へ行く使者 ʔajabuniʔikee/ ~を迎えに中国へ行く船 →ceʔkunsin

しんざん〔新参〕 ʔimamee, miiʔiri/ ~の士族 miiʔukaʔcu, sinʔzan

しんし〔綫〕 (織機具) siisi/ ~の両端のところがったところ siisiguci ㄱNkuca

しんしつ〔寢室〕 niʔasici, ʔasici, →kuca,

しんじつ〔真実〕 sinʔziʔi, zinʔtoo, →ほん

しんしゆく〔伸縮〕 nubicizimi しり

しんじょうする〔進上する〕 →あげる

しんじる〔信じる〕 →しんこう

しんしん〔心神〕 saa, →せいしん

しんじん〔信心〕 guninʔi, ninʔzi/ ~する ninʔzijuN, sinʔzijuN

しんせき〔親戚〕 hwici, kaʔpici, ʔweeka, →hwiciharoozi, magara, ʔweekaharoozi, (敬語) ʔunpaʔan, cicaʔunpaʔan, cicaʔweeka, cikamagara, cikaʔweeka, →えんこ, しんぞく, しんるい/ 遠い~ tuumagara

しんせつ〔親切〕 cimuʔiri, kukuruʔiri, sinʔziʔi, sjuzuN

しんぞう〔新造〕 ʔaraʔukui

しんぞう〔心臓〕 hukumaami

じんぞう〔腎臓〕 maami

じんぞうびょう〔腎臓病〕 siisu

しんぞく〔親族〕 →しんせき/ ~会議 ʔicimuNʔurii, muNcuuʔurii

しんそこ〔心底〕 sinʔtii

しんだん〔診断〕 miʔiki, →みたて

しんちゅう〔真鍮〕 cizaku/ ~のかんざし cizakuziihwa

しんちょう〔身長〕 →たけ, せい

しんちょうに〔慎重に〕 miʔiku

じんつうりき〔神通力〕 →れい

しんどう〔新道〕 miimici 「しょうがつ

しんねん〔新年〕 ʔakimadusi, miidusi, →

しんの〔真の〕 sinna, sinnu, →ほんとう

しんばい〔心配〕 cimuhwicagi, miNʔikee, siwa, →hwicagiʔurusi, きがかり, ころう, こころがかり/ ~がありそうである munuʔumiigisaN/ ~がなくなる ʔuhuminaaku najuN, ʔuminaaku najuN, →あんしん/ ~する hwicagijuN, →siwa/ ~するさま ʔamazaahjaazaa, ʔamazarahjaazara/ ~する者 siwasjaa

しんばいがお〔心配顔〕 munumigau

しんばいごと〔心配事〕 siwagutu

しんばりぼう〔心張り棒〕 sinbai

しんびん〔新品〕 miimun, saramiimun

じんびん〔人品〕 sina

しんぶ〔新婦〕 miijumi 「→けいとるする

しんぶくさせる〔心服させる〕 marumijuN,

じんぶん〔人糞(豚の飼料としての)〕 nagui, →だいべん

しんぼうする〔辛抱する〕 →がまんする

しんまい〔新米〕 →しんざん/ ~でたく飯 miimee

じんましん〔尋麻疹〕 kaʔoorimuN, muNzaai

しんみょう〔神妙〕 sinʔjuu, →しゅしょう

じんみん〔人民〕 →ばんにん

しんもつ〔進物〕 riizi, ʔukuimuN, ʔusjagimuN, →おくりもの

しんや〔深夜〕 tuciʔiri, →まよなか

しんゆう〔親友〕 ʔiidusi

しんよう〔信用〕 / ~がおける zinʔuasan, →zinʔzuu/ ~される→しんらい「rarijuN

しんらい〔信頼〕 →しんよう/ ~される ʔii

じんりきしゃ〔人力車〕 →kuruma

しんるい〔親類〕 →しんせき/ ~縁者 hwiciharoozi, ʔweekaharoozi

しんれい〔神霊〕 sizi, →かみ, れい

しんれき〔新暦〕 ʔamatugujumi

しんろう〔心勞〕 →くろう, しんばい

しんろう〔新郎〕 miimuuku

す[酢] ?amazaki, hweei, ši
 す[巢] ši/ ~につく sukunUN/ ~を作
 ること šiizukurii
 すい[酸い] šiisan/ ~もの šiimun
 ずい[髓] zii, →しん
 すいえい[水泳] ?wiizi, →およぐ
 すいか[西瓜] kwantu?ui, šiikwa?ui/ ~
 の種 ?unzani
 ずいき[芋茎] muzi, taamuzi/ ~を入れた
 汁 muzinu?usiru
 すいぎん[水銀] mizigani
 すいくち[吸い口] kwiikuci
 すいさん[推参] šiisan, →でしゃばる, な
 すいじ[炊事] zoosici [まいき
 すいしゃ[水車] miziguruma
 すいじゃくする[衰弱する] 'jabirijun,
 'jahwaracuN, joojun, →よわる/ ~し
 た者 'jabiraa, 'jabirimun
 すいじん[粹人] sjuzooniN
 すいせい[彗星] hoocibusi, ?iriganbusi
 すいぜんじな[水前寺菜] han'dama
 すいだす[吸出す] kwiinuzun/ 吸出しご
 ろやく šiipuigoojaku/ 吸出し療法 buu-
 buunuzi/ 吸出し療法に使う竹筒 buubuu
 すいちゅう[水中] mizinumii
 すいとう[水筒] →dacibin
 すいとう[水痘] mizigasa, mizigasaa
 すいおう[水囊] (節の一種) šiinoo
 すいび[衰微] šiibi, →おとろえる
 すいふ[水夫] hunaku, kaku, →せんいん
 すいみつとう[水蜜桃] →kiimumu
 すいみんぶそく[睡眠不足] ninzibusuku
 すいもの[吸物] šiimun, →しる
 すいものわん[吸物椀] šiimunwan, siru-
 wan

すいよくする[水浴する] ?amijun, →みず
 すう[数] suu, →かず [あび
 すう[吸う] šiipujun, suujun
 ずうずうしい[図々しい] namasan, →あ
 つかましい/ ~顔 namažira, zira/ ~者
 namaraa. namarimuN. namažiraa.
 namažirimun/ ずりずりしくなる nama-
 スーブ niinuzi, sinzi [rijun
 すえ[末] ši
 すえっこ[末っ子] ?uqtungwa
 すえる[据える] 'isijun, šiikijun
 すえる[籠える] nitamajun, šiijun/ 籠
 えた味 šiiki/ 籠えたにおい humicika-
 za, šiikaža/ 籠えたもの šiimun
 すがいと[紐糸] siraga/ ~で織った礼服
 siragawatazin
 すかす[賺す] šikasjun, →あやす, だます,
 なだめる
 すがすがしい / ~におい šidakaza
 すがた[姿] kaagi, narihuzi, šigata, →
 kataci, (敬語) mikazi, 'Ncaagi, かっこ
 り, ざま, ふりさい [kacišigašigai
 すがる[纏る] šigajun/ すがりつくさま
 すき[好き] šiçi, →zoogu, zooguu/ ~で
 すき[鋤] →?uzunbiira [ないこと bušici
 すき[隙] →すきま
 すぎ[杉] šiži
 すぎいた[杉板] šiži?ita
 すきうつし[透き写し] ?usiigaci
 すきおこす[鋤き起こす] šiçi?ukusjun
 すききらい[好ききらい] šiçibušici, →mu-
 nugusi, muNnu?irihui
 すきぐし[梳櫛] kusi
 ずきずき hwishwisi, →ずきん
 すきばら[空腹] →くうふく

すきま〔隙き間〕 yaaki, maju, tabasa, →
 Peeza, あきま
 すきみ〔透き見〕 suumi, →のぞく
 すぎる〔過ぎる〕 şirijun, şizijun, →ちよ
 りかする, とおりすぎる/ ~こと kwaa
 すぎわらがみ〔杉原紙〕 sugiwara
 ずきん hwiqsui, →ずきずき/ ~ずきん
 hwiqsuihwiqsui/ ~と痛む hwiqsuimi-
 ずきん〔頭巾〕 moocan, ziqcın [kasjun
 すぐ〔鋤く〕 şicun
 すぐ〔梳く〕 →くしげする
 すぐ〔漉く〕 şicun
 すぐ〔好く〕 →このむ 「→たちまち
 すぐ caaki, şigu, tacinama, tadeema,
 づく -zuku
 すくい〔救い〕 sukui, →たすけ
 すくう〔救う〕 sukujun, →たすける
 すくう〔掬う〕 sukujun 「san
 すくない〔少ない〕 ?ikirasan, →hagana-
 すくむ〔蝻む〕 sukunun
 すぐれる〔勝れる〕 kacun, sugurijun, ta-
 cimasajun, →えらい, ぬきんでる, ま
 さる/ すぐれた子 suguringwa/ すぐれ
 た人 sugurincu/ すぐれた者 suguraa,
 sugurimun
 ずけずけ 'Nzanzaatu
 すけべい〔助平〕 ?iraa
 すける〔透ける〕 tuukijun 「ごい
 すげる şigijun 「た, ひじょうに, ものす
 すごい hagoorii, ?usumasjan, →たいし
 すこし〔少し〕 ?ihwi, ?ikira, ?inteen,
 kuuteen, suqtu, suusu, →saa けい
 しょう, ちよつと/ ~ずつ kuuteenna-
 ~のもの ?ikiramun/ ~も musaqtu,
 /もう~の所で→すんでのことで muqtu
 すごす〔過ごす〕 şigusjun, →ちょうかする
 すごもる〔菓籠もる〕 sukunun/ 菓ごもつ
 すざる şizicun→のく [た鳥 sukundui
 すじ〔筋〕 çiru, kazi, şizi/ ~がつかること
 garaşimagai

すじょう〔素姓〕 suzoo, →りまれ
 ずじょう〔頭上〕 çizi
 すす〔煤〕 şiişi 「bin
 すず〔錫〕 sirukani, şizi/ ~のびん şizi-
 すすき〔薄〕 gusici, şişici/ ~の花 baran
 すずぐ〔濯ぐ・漱ぐ〕 şişizun, 'uuzun
 すずし〔生絹〕 namasiraga
 すずしい〔涼しい〕 şidasan, →hwizuru-
 san/ ~風 şidakazi/ ~こと duuhwizui/
 涼しそうである şidagisan
 すすむ〔進む〕 şişinun, →?aqcun/ 進ん
 である şişinun/ 進んでする者 ?uguci-
 mucı
 すずむ〔涼む〕 şidanun, sugarijun
 すずめ〔雀〕 'jumudui, kuraa
 すすめる〔勧める〕 şişimijun
 すずり〔硯〕 şiziri
 すずりばこ〔硯箱〕 şiziribaku
 すずりぶた〔硯蓋〕 şiziributa
 すする〔吸る〕 şişijun
 すそ〔裾〕 meesuba, susu
 ずたずた ciritaikaatai, 'jarikwa'nkwan,
 →きれぎれ/ ~に切ること ?usiciriziri
 すだれ〔簾〕 şidai
 すたれもの〔磨れ物〕 →はいぶつ
 すたれる〔磨れる〕 şitarijun
 ずつ -naa
 ずつう〔頭痛〕 çiburujan, →へんずつう/
 ~の軽いもの namaçiburujan/ ~の種
 ?anmasimun 「→のこらず
 すっかり marumaruntu, nuunkwiin,
 すっきり →tukuqtu/ ~する →tuukijun
 ずっと duqtu, duutu, katakuzira, na-
 gaiduusi, nagiduusi
 すつとばす〔すつ飛ばす〕 ?uqtunugasjun,
 ?uqtubasjun
 すつとぶ〔すつ飛ばぶ〕 tunuzun, tunzun,
 ?uqtubun, →hwiintubi
 すっぱい şiisan/ ~もの şiimun
 すで〔素手〕 'Nnadii, 'Nnadiikaraii,

すて

'Nnadau, 'Nnađuukaradau
すてうり〔捨て売り〕 ſitiʔui
すておく〔捨ておく〕 ʔuqceerakasjun, ʔu-
qteerakasjun, ʔuqteerakijun
すてね〔捨て値〕 / ~の品 ſitimun
すてばち〔捨てばち〕 ʔaqaŋgaree
すてる〔捨てる〕 ſitijun, →tuiſitijun,
ʔuqcaŋgijun, (小児語) buqtii, pee, な
げすてる/ 捨てた滓 ſitigara/ 捨てたも
の ſitimun/ 捨てて散らかすこと ſitihoo-
rii/ 捨ててしまふ canŋagijun
すな〔砂〕 'juni, ſina, ʔuru/ ~の 'juna/
~を敷いた道 ſinamici
すなじ〔砂地〕 kaniku
ずにあたる〔図に当る〕 →baci
すね〔脛〕 ſini, →むこうすね
すねげ〔脛毛〕 ſinigi
すねもの〔すね者〕 hwinaa, hwinsjaa,
→hwin
すねる muđijun, →hwin
すのもの〔酢の物〕 sunee, ʔusaci
すばしこい gurusAN, →みがるである/ ~
者 gurumuN, guru
すばやい gurusAN, →すばしこい
ずぶぬれ siqtaikaatai
すべっこい naŋđurusAN, →なめらか/ ~
もの naŋđurumuN, naŋđuruu/ 表面が
~こと ʔwaabiſiŋdi
すべて maziri, →のこらず
すべらす〔滑らす〕 ſiŋđakasjun
すべりひゆ〔植物名〕 ninbutukii
すべる〔滑る〕 ſiŋciijun/ 滑りやすい道
naŋđurumici
すまい〔住まい〕 ſimee, →じゅうしよ
すまう〔住まり〕 →すみつく/ むだなく ~
ſimeec:ijun
すます〔済ます〕 ſimasjun, ʔucinasjun,
→しおわる 「と紙 ſimihuđikabi
すみ〔墨〕 ſimi/ ~と紙 ſimikabi/ ~と筆
すみ〔隅〕 ſimi, →かたすみ, すみすみ/ ~

をほじくるようなこと miimiikuuzii
すみ〔炭〕 taN
すみいと〔墨糸〕 ſiminaa
すみこみ〔住み込み〕 ʔiricirii
すみずみ / ~まで miimiteedee
すみだら〔炭俵〕 taŋdaara
すみづか〔墨柄〕 ſimikwaasjaa
すみつく〔住みつく〕 'jaazicun
すみな布〔墨繩〕 ſiminaa
すみばこ〔炭箱〕 tanbaku
すみばさみ〔墨ばさみ〕 ſimikwaasjaa
すみび〔炭火〕 tanbii
すみやき〔炭焼き〕 taŋjaca 「る, おわる
すむ〔済む〕 ſinuN, ʔucinajun, →しおわ
すむ〔澄む〕 ſinuN/ 澄みきる ſincirijun
すむ〔住む〕 →すまう
すもう〔相撲〕 ſima/ ~の手の名 'jakusja,
maci, magii, meegaki, nusi, tiinuzaa
すもり〔巢守〕 ſimuru
すやき〔素焼き〕 ʔarajaci, →やきもの/ ~
のどんぶり ʔarajacimakai/ ~のやかん
ʔarajacijaqkwan
すら〔助詞〕 -cooN, -deŋſi
ずらす ſiikijun 「guitaqcooN
すらり →すんなり/ ~としている →su-
ずりうごく〔ずり動く〕 ſiicun, →ずれる
すりきず〔すり傷〕 ſirikizi
すりけす〔すり消す〕 kuŋſjun, ſiricaa-
すりこぎ ſirukuzi ʔſjun, →もみけす
すりつける →なすりつける
すりぬける〔すり抜ける〕 ſirinugaajun,
hwinnugijun/ すり抜けさせる hwinnu-
すりばち ſirihaci, ſiruhaci ʔgasjun
すりむく ſirihazun
する〔為る〕 nasjun, ſjun, (敬語) mi-
ſeeN, →おこなう, やる/ …してしまふ
→cii, kee-/ …してしまつた →neen/ …し
てばかりいる(…して暮らす) →ʔaqcuN,
caa/ しないでおく 'joosjoocun/ しやが
れ -mi-sirei/ しやすい siijaqſan/ …~機

会を失う -hazakijUN, -hazikijUN, →し
 そこなら/ ~ふりだけ →sjuNsooroo
 する〔磨る〕 şijUN, →こする
 ずるい →こるかつ
 するする soorusooru, soorusooruu
 するどい〔鋭い〕 →tacuN/ ~刃物 hwizu-
 rumuN
 するめ kariŋica
 するめいか tubiŋicaa
 ずれる ?wiicuN, →ずりうごく

すわりしごと〔座り仕事〕 'iisikuci, 'iiwaža
 すわる〔座る〕 'ijUN, →hwişjamaŋci, せ
 いざ/ すわりこむこと sicitaku/ 無為に
 すわっていること 'Nnaii/ ~場所→せき
 すん〔寸〕 şin
 ずんぐり / ~した者 niimaaraa
 すんでのことで huda, hudagasi, huda-
 ganasi, →もう
 すんなり →すらり/ ~している 'jujuzu-
 rasan

せ

せ〔背〕 →せなか/ ~を向ける →kusi
 せ〔せい〕〔背〕 hudu, şihudu, →sii/ ~
 の高い者 tacaai, takahazii, takasoo,
 takasoonaa, takasoonii/ ~の高さ ta-
 ki/ ~の低い者 ?incoo
 せい〔姓〕 'jaaNnaa, mjoozi, noozi, sii
 せい〔精〕 →まもの 「すること kusjati
 せい〔所為〕 'jui/ ~にする ?uusijUN/ ~に
 ぜい〔税〕 →kane, zoonoo
 せいいく〔成育〕 →せいちょう
 せいいっぱい〔精一杯〕 siiŋiŋpee, →いっし
 せいえん〔製塩〕 →しおたき しょうけんめい
 せいかつ〔生活〕 kurasi, tacizuku, →く
 らす, せいかつ/ ~難→tacikantii/ ~に
 余裕ができること →timawasi/ ~の方法
 →くらしかた
 せいき〔生氣〕 →げんき/ ~のない顔 nita-
 maizira
 せいぎ〔正義〕 zii
 せいけい〔生計〕 kurasigata, →くらしむき
 せいけつ〔清潔〕 cirii, ciriiN, →きれい
 せいけん〔聖賢〕 šiicin
 せいけん〔生絹〕 namasiraga
 せいこう〔成功〕 dikasi/ ~する dikasjuN
 せいこん〔精魂〕 sjootamasi

せいざ〔正座〕 hwişjamaŋci
 せいし〔生死〕 ?icisini
 せいじ〔政治〕 siizi/ ~の行ない方 siizi-
 mucu
 せいしきの〔正式の〕 siNna, sinnu
 せいしつ〔性質〕 siisiŋi, simuci, sjoobuN,
 sjoosiŋi, suzoo, →しょう
 せいじゃ〔正邪〕 ziqpi, →ぜび, よしあし
 せいしゅん〔青春〕 hanaŋakai
 せいしょ〔清書〕 ?agizi
 せいじょう〔正常〕 zuN, →あたりまえ
 せいしん〔精神〕 siN, sjootamasi, tama-
 si, →しんしん, たましい/ ~的な援助 ci-
 munukasii
 せいしんりょく〔精神力〕 niNrici
 せいすい〔盛衰〕 sakai?uturui, →?utisi-
 zimi
 せいぜい takitutuumi, teetutuumi
 ぜいぜい gusugusu
 せいせいする →cimu, さっぱり
 せいそう〔正装〕 →coohacimaci, cooŋi-
 sjoo
 せいそう〔盛装〕 curasugai, (敬語) cura-
 ?wiisugai
 せいたい〔声帯〕 nuudiiŋiru

せい

せいだい〔盛大〕 taqtiin/ ~なこと ?u-
hwiikutu

せいたく haNkwa/ ~にする kwabiijun

せいだす〔精出す〕 ?agacun, cibajun, ci-
gakijun/ ~こと ?agacihataraci, sju-
qsii

せいちょう〔成長・生長〕 cuui, ?wiitaci,
?wiqtaci/ ~させる ?waasjun/ ~する
?agacun, ?wiijun, ?wiitacun, →そだ
つ/ ~する子供 ?wiitaciwarabi, →'juu-
?akiwarabi/ ~するに従ってよくなる
?wii?nzijun/ ~するに従ってよくなる
こと ?wiimasai/ ~するに従って悪くな
る ?wiijanijun/ ~するに従って悪くな
ること ?wiijanii

せいてん〔盛典〕 ?uhwiikutu, →taqtiin

せいと〔生徒〕 gaksujoo, siitu, ?imina-
rajaa

せいとう〔製糖〕 saataazukui/ ~の仕事
saataasikuci

せいどう〔青銅〕 karakani

せいとん〔整頓〕 sizumikaci/ ~する si-
zumijun, →かたづける

せいなん〔西南〕 santunii

せいにく〔精肉〕 ?aqtami

せいねん〔生年〕 ?nmariäusi, sjooniN,
(敬語) gusjooNiN

せいねん〔青年〕 niisee, →'wakawikiga,
わかもの

せいびょう〔聖廟〕 siibjuu, ciisiNbjuu

せいふ〔政府〕 →hjoozoouzu, ?uza, (敬語)
guhjoozoouzu

せいほう〔製法〕 →つくりかた

せいまい〔精米〕 siragigumi/ ~する sira-

せいめい〔清明〕 siimii [lgijun]

せいめいさい〔清明祭〕 ?usiimii

せいもん〔正門〕 ?uhu?uzoo

せいよう〔西洋〕 ?uraNäa

せいようご〔西洋語〕 ?uraNdaguci

せいようじん〔西洋人〕 ?uraNäaa

せいようてぬぐい〔西洋手ぬぐい〕 ?uraN-
datiisaazi

せいり〔整理〕 sizumikaci, →かたづける

せいりつする〔成立する〕 tuzimajun/ 成
立させる tuzimijun

せいりよく〔精力〕 sii

せいりよくけん〔勢力圏〕 kagee

せいらう〔蒸籠〕 kusicii [sa

せいらんべんけいそう(植物名) soosicigu-

せおう〔背負う〕 kwiizikijun, →おう/ ~
こと ?uhwa, ?uhwa

せおよぎ〔背泳ぎ〕 maahwanacaa?wiizi,

せかい〔世界〕 sikee [niNzaa?wiizi

せがき〔施餓鬼〕 sigaci

せがむ →たのむ, ほしがる/ ~こと nee-
mai, sicimiN 「の声 koNkon, ?oho?oho

せき〔咳〕 saqkwii, →?ucineezaqkwii/~

せき〔席〕 zaa, →せき

せきこむ〔咳き込む〕 çiçiciNcun, çiçicun

せきたてる ?agimaasjun

せきはん〔赤飯〕 ?aka'koozi?ubun, ?aka-
maamii?ubun, ?aka?ubun, →おこわ

せきめん〔赤面〕 ?akaziraa

せきゆ〔石油〕 siciju, sicitanjuu

せきり〔赤痢〕 ribjoo

せきれい〔鴿鴿〕 zuumiitamitaa

せけん〔世間〕 sikiN, →よのなか/ ~との
つきあい sikiNbiree/ ~なみ sikiNna-

mi, →sikiN/ ~に通じること sikiNnari/
~の人びと sikiN?umanu

せけんばなし〔世間話〕 sikiNbanasi

せしめる seekijun [rusan

せすじ〔背筋〕 / ~が寒くなる kusihwizu-

せたい〔世帯〕 →しゃたい

せだい〔世代〕 →だい

せたけ〔背丈〕 →せ(せい)

せつ〔節〕 siçi

せっかい〔石灰〕 ?isibee, sirahwee

せっかいする〔切開する〕 'wajun

せっかち ?asigacaa, kwacuu, →たんき

せっかん〔折檻〕 siQkan
 ぜつきょう〔絶叫〕 kaziciri?abii
 せつきょく〔積極〕 / ～性 ?uguci/ ～性と
 分別 ?ugucizibun/ ～的な人 ?uguci-
 せつく〔節供〕 siQku 〔muci
 せっこうせん〔接貢船〕 ceQkunsin
 せった〔雪駄〕 kaasaba, siQta, →ぞりり
 せったい〔接待〕〔敬語〕 ?utuimuci/ ～す
 る tuimucun
 せつとくする〔説得する〕 ?ii?irijun
 せつぱん〔折半〕 hanbunwaakii
 せつび〔設備〕 sunawai, →もうける
 せつぷく〔切腹〕 siQpuku
 ぜつべき〔絶壁〕 hucibanta, →がけ
 せつやく〔節約〕 ?aganee, →けんやく/ ～
 する ?aganeejun, kubameesjun
 せつわ〔説話〕 ?ihwanasi, →むかしばなし
 せともの〔瀬戸物〕 narimum, zoojaci, →
 やきもの/ ～市 cibujamaci/ ～類 nari-
 mundoogu
 せなか〔背中〕 kusi, kusinagani, nagani,
 →せ/ ～の肉 →?ucinaganii
 ぜに〔銭〕 zin, (小児語) ziinuu, →かね/
 ～の雨 zin?ami/ ～を捨てるようなこと
 zin?itigutu 〔にぶくろ
 ぜにいれ〔銭入れ〕 zin?iri, →ぜにばこ, ぜ
 ぜにさし〔銭差し〕 zinnaa
 ぜにたむし〔銭田虫〕 gueahwa
 ぜになわ〔銭縄〕 zinnaa
 ぜにばこ〔銭箱〕 zinbaku
 ぜにぶくろ〔銭袋〕 zinbukuru, →ぜにいれ
 せぬい〔背縫い〕 ?Nnazi
 せのび〔背伸び〕 hwisjadakaa
 ぜひ〔是非〕 ziihuzi, zihwi, ziQpi, →かな
 らず, しいて, ぜんあく, たって/ ～ない
 もの zihwineemun
 せぼね〔背骨〕 kusibuni, naganibuni
 せまい〔狭い〕 ?ibasan, sibasan, →'waa/
 ～所 ?ibadukuru, ?ibai, ?ibaidukuru

せまくるしい〔狭苦しい〕 ?ibasan, →せま
 い/ ～さま ?ibajaasiicee
 せみ〔蟬〕 / 鳴かない ～?iigaa/ 鳴く～?a-
 bijaa/ ～の一種 ?asasaa, naabikacika-
 cii, sansanaa, siimiigwaa, ziiwaziwa,
 せめあい〔攻め合い〕 simiee 〔ziizaa
 せめころす〔攻め殺す〕 simikurusjun
 せめよせる〔攻め寄せる〕 simijusjun
 せめる〔攻める〕 simijun/ せめおとす→か
 らなくさせる
 せめる〔責める〕 simijun, →sinda, とが
 める/ せめとがめること nucihwici
 せる →させる
 せわ〔世話〕 miikangee, mucinasi, sinzi-
 ci, →しゅうせん/ ～がやけない →hwiQ-
 tin neen/ ～する kangeejun, miikan-
 geejun, 'wandajun/ ～になる →'wan-
 dajun
 せわしい cimuzicunasan, →忙しい
 せん〔千〕 sin
 せん〔線〕 ?izi, →すじ
 せん〔栓〕 hwi?i, zoo
 せん〔詮〕 sin, →かい
 ぜん〔膳〕 ?uzin, zin/ ～に飯と汁とを逆
 に置くこと hwizaigun/ ～の一種 'jasi-
 kuzin, 'jasjukuzin/ 丸い～maru?uzin
 ぜんあく〔善悪〕 zihwi, ziQpi, →ぜひ, よ
 せんい〔繊維〕 kazi 〔しあし
 せんいん〔船員〕 hunanui, ?umi?aQcaa,
 →hunatoo, すいふ
 ぜんいん〔全員〕 suujoo, →みんな
 ぜんかい〔全快〕 hwijuu, kweeci, muru-
 nooi, →かいふく/ ～祝い kweeci?u-
 wee, kweeci?ujuwee/ ～する niicirijun,
 せんがん〔千貫〕(銭) singwan 〔→なおる
 せんぎょう〔賤業〕 'janawaza
 せんきん〔前金〕 meezin, →まえばらい
 せんく〔先駆〕 sacibai, →せんどろ
 せんくち〔先口〕 saciguci

せん

せんげつ〔先月〕 kutaçici
 せんげつ〔前月〕 meenuçici
 せんご〔前後〕 ?atusaci, →sirikuci, sirukuci/ ~左右 siraakusjaa, sirukuci-maakuci
 せんこう〔線香〕 koo, ?ukoo, (敬語) mjuukoo, njuukoo, →njuukuşizi, nuukoo-şizi/ ~の一種 hutuci?ukoo, ?umuçiri-?ukoo/ ~をあげる炉 ?ukooru
 せんこう〔先行〕 saciçaci, →さきがけ/ ~する sadajun
 せんこつ〔洗骨〕 siNkuçi
 せんさい〔先妻〕 hurutuzi, sacidumi, sa-
 ぜんさい〔前妻〕 →せんさい [çituzi
 せんさくする〔詮索する〕 ?anagujun/ 詮
 索し過ぎる ?anaguizuusan
 せんじかす〔煎じ滓〕 sinzikaşi
 せんじぐすり〔煎じ薬〕 sinjaku, sinzigu-
 sui, siziigusui, sizirigusui
 せんしじだい〔先史時代〕 kamigudee, ?u-
 hunkasi
 せんじじる〔煎じ汁〕 sinziziru, sinzi
 せんじつ〔先日〕 →このあいだ
 ぜんじつ〔前日〕 meehwi
 せんしゅ〔選手〕 ?irabininzu
 せんじゅかんのん〔千手観音〕 sintikwan-
 nun
 せんじる〔煎じる〕 sinzijuN, sizijuN/ 煎
 じたもの sinzimun/ 煎じつめる sizii-
 hwirasjun
 せんしん〔専心〕 →cukata, ぼったりする
 せんす〔扇子〕 →おりぎ
 せんすい〔潜水〕 şiimi
 ぜんせ〔前世〕 sacinujuu
 せんせい〔先生〕 sisjoo, (敬語) ?usisjoo
 ぜんぜん〔全然〕 →まったく
 ぜんぜんじつ〔前前日〕 'uqtii, →おととい
 せんぞ〔先祖〕 gwanSu, muutu, sinzu,
 ?ujahuzi, ?ujahwaahuzi, →tacikuci,
 ?utacikuci/ ~の霊 →hutuki

せんそう〔戦争〕 ?ikusa, →かっせん, せん.
 らん, たたかい/ ~ごっこ ?ikusagwaşee
 ぜんそう〔前奏〕 →?utamuci
 ぜんそく〔喘息〕 hwimici/ ~やみ hwimi-
 caa
 ぜんたい〔全体〕 maziri, →ぜんぶ
 せんたく〔洗濯〕 ?areesikuci, sintaku/ ~
 した着物 ?areezin/ ~する ?arajuN/
 ~する時の替えの着物 ?araigee, ?aree-
 geei/ ~物 ?areemun
 せんたん〔先端〕 hana, →さき
 せんたん〔尖端〕 tugai, →さき
 ぜんち〔全治〕 →ぜんかい
 せんちゃくじゅん〔先着順〕 sacisiçee
 せんちょう〔船長〕 siNçuu
 ぜんちょう〔前兆〕 ?arabi, sirasi, sirusi,
 →きざし/ ~となる音 munu?utu
 せんて〔先手〕 saciçii/ ~を打つ →saciçii
 せんどう〔船頭〕 →siNduu
 せんどう〔先導〕 saciçaci, →さきばらい
 せんにん〔仙人〕 siNnin, →siNninTanm-
 ee
 ぜんにん〔善人〕 'iiçcu
 せんねん〔先年〕 saciçusi
 せんねん〔専念〕 →cukata
 せんばいたち〔先輩たち〕 şiiçakata
 せんぱつ〔洗髪〕 →?uşimasi
 せんぶ〔先夫〕 sacituu
 ぜんぶ〔全部〕 mantakii, maqtakii, mu-
 ru, →いっさい, ぜんたい, のこらず
 せんぶう〔旋風〕 kazimaci, →たつまき
 せんべい〔煎餅〕 sinbii
 せんべつ〔餞別〕 sinbiçi
 せんぼうばらい〔先方払い〕 mukoobaree
 せんめん〔洗面〕 / ~用のたらい cuuzida-
 ree
 ぜんめん〔前面〕 meezira
 せんらん〔戦乱〕 / ~の世 ?ikusajuu
 ぜんれい〔前例〕 tamisi

そ

ぞ(助詞) doo, -du, →-dun, -sami, -sarami
 そいつ ?unihjaa, ?unuhjaa
 そう[総] suu-
 そう[艘] -suu
 そう ?an/ ~いうこと ?antikutu/ ~か
 →?nzi/ ~さ→?asi, ?asihjaa, ?asiqsa/
 ~したら →?ansjun/ ~して ?ansi/ ~
 ~する ?ansjun/ ~であっても ?anara-
 wan, ?anerawan
 -そう -gata, -gataa/ ~だ -gisan
 そう[浴り] suujun
 そう[添り] sujun
 そうあい[相愛] ?eenuzumi
 そうい[相違] sooi, →さい
 そうい[総意] suukangee
 そうおう[相応] soouu, →ふさわしい/ ~
 ぞうか[造花] ?ukuibana Lの nootaru
 そうがく[総額] suudaka, →ごうけい
 そうかつ[総括] suukukui
 ぞうきん[雑巾] susui/ ~がけ susuikaci
 そうけ[宗家] →ほんけ 「てん
 そうけい[早計] hajamaigutu, →はやがっ
 そうけだつ[総毛立つ] tuihukugicacuN,
 →ぞっとする 「い
 そうけっさん[総決算] suuzimi, →ごうけ
 そうけん[壮健] ganzuu, (敬語) ?ugan-
 zuu, →げんき, たっしゃ
 そうこ[倉庫] →tuNáoojaa, くら/ ~の名
 ?umunugusiku
 そうこう[霜降] simuku?aru
 そうこう[総統] hjaa, hjaa?aki
 そうこん[早婚] hweeniibici, hweeriqsin
 ぞうさく[造作] zoosaku
 そうざん[早産] ?icibusuku
 そうじ[掃除] hoocikaci, soozii/ ~する→
 hooci/ ~の見回り soozimaa

そうしき[葬式] dabi, soosici, →ほうじ/
 ~に用いる幕の名 micimaku/ ~の時の
 世話役 kanziN/ 盛大なお~ cura?ucabi
 そうじめ[総締め] suuzimi 「もろしあげる
 そうじょうする[奏上する] →ごんじょう,
 そうしょく[装飾] ?ukuikazai, →かざり
 ぞうすい[雑炊] 'jahwarazuusii, zuusii,
 →おじや 「-Nnaara
 そうそう[早早] katakuzira, soosoo, →
 そうそう[葬送] ?uukui 「とつぎ
 そうぞくにん[相続人] soozukunin, →あ
 そうそふ[曾祖父] ?uhutanmee, ?uhu?u-
 sjumee/ ~の兄(~の姉の夫) ?uhu?uhu-
 ?usjumee
 そうそほ[曾祖母] ?uhuhaamee, ?uhu?N-
 mee/ ~の兄の妻(~の姉) ?uhu?uhu?N-
 そうそん[曾孫] →ひまご Lmee
 そうだおれ[総倒れ] suudoori
 そうだか[総高] suudaka, →ごうけい
 そうだん[相談] dangoo, munusoo?an,
 soodaN, zinmi, →きょうぎ, したそうだ
 ん/ ~する ?ii?aasjun
 そうち[装置] sikaki 「jun
 ぞうちくする[増築する] ?ukuhiwirumi-
 ぞうちょう[増長] boo?agai, mee?agai,
 meegai/ ~する ?ameejun, ?icagajun,
 mee?agajun, meegajun, →おごる, た
 かぶる, つけあがる
 そうとう[相当] 'jukai, sootoo, -bicee, →
 -gaai/ ~する hwicajun, →あたる/ ~
 の 'jukai/ ~の量 'jukai?uqsa
 そうどう[騒動] sooioo, →おおさわぎ, さ
 ぞうとう[贈答] tuikee Lわぎ
 そうどういん[総動員] suu?wiici
 そうねん[壮年] 'jakumii/ ~の者たち

そう

'jakumiitaa, šiizakata
 そうば〔相場〕 sooba
 ぞうひびょう〔象皮病〕 ?uhubisjaa, →フィ
 ぞうふ〔臍腑〕 →ぞうもつ 〔ラリヤ
 そうほう〔双方〕 soohoo, →りょうほう
 そうほんけ〔繪本家〕 ?uhumuutu
 そうむ〔総務〕 suugamii, suukaNgee
 そうめい〔聡明〕 mimigani, suumii/ ~で
 ある sjooraasjan, →かしこい
 そうめん soomin/ ~の油いため soomi-
 npuqturuu/ ~の一種 musubizoomin
 ぞうもつ〔臍物〕 'watamiimun, zoothu,
 →ないぞう, はらわた
 ぞうり〔草履〕 saba, (敬語) mjuuzaree,
 nuuzaree, ?uzaree, →せった/ ~のはき
 ぐずして伸びたもの nazinatasaba
 ぞうりとり〔草履取り〕 sabatui, ?uzaree-
 そうりょ〔僧侶〕 →cooroo, おしょう 〔tui
 そえもの〔添え物〕 ?waa?uci
 そえる〔添える〕 šiijun, ?wii?ucun
 そえん〔疎遠〕 →ぶさた/ ~にする hwida
 tijun/ ~になる hwidatajun, →kidu
 そぐ〔削ぐ〕 hwizun, →こそげる
 ぞく〔俗〕 zuku
 そくい〔続飯〕 suqkwii
 そくざ〔即座〕 →すぐ
 ぞくよう〔俗謡〕 ha?uta, hwa?uta
 そげる〔削げる〕 'jubicun, sugijun
 そこ〔其処〕 ?Nma/ ~ここ ?Nmakuma
 そこ〔底〕 suku
 そこい〔底意〕 sicagukuru, →ないしん
 そこつ〔粗忽〕 suku?i, ?ucsoho/ ~であ
 る samacicasan/ ~者 cakucakuu, ca-
 qkujaa, sicasjoonugaa, sjoonugaa,
 ?uhusjoo, ?uhusjoomun, ?ukaqtuu,
 ?uqkaa
 そこなう〔損う〕 →そんじる
 そこぬけ〔底抜け〕 / ~のざる ?ibihug:-
 baaki
 そこひ〔底翳〕 sukuhwi

そこびえ〔底冷え〕 →turihwizui
 そしつ〔素質〕 takibun, →らまれつき, ほ
 そして →?ansjun しんしょう
 そしゃくする〔咀嚼する〕 →かむ
 そしょう〔訴訟〕 hwiruu, kuuzi, tuihwi-
 ruu, ?uqtai
 そしる susijun, →けなす/ ~こと susiri,
 そせい〔租税〕 →ぜい 〔susjuu
 そせいひん〔粗製品〕 sjoobee
 そせき〔礎石〕 ?isizi
 そせん〔祖先〕 →せんぞ
 そそぐ〔注ぐ〕 →つぐ
 そそっかしい →そこつ
 そそのかす〔唆かす〕 tanukasjun
 そだち〔育ち〕 sudaci, suzoo, →せいちょ
 う, はついく/ ~の早い子供 'juu?akiwa-
 rabi 「ちょう
 そだつ〔育つ〕 cuujun, sudacun, →せい
 そだておや〔育て親〕 sudati?uja →やしな
 いおや
 そだてかた〔育てかた〕 suiatimici
 そだてる〔育てる〕 sudatijun, →あいいく,
 さいばい/ 育て上げる ?waasjun
 そちゃ〔粗茶〕 →?arabaacaa
 そっくり mantakii, maqtaci, maqtakii,
 →šiici, りりふたつ, その, まるで
 そっち ?Nma/ ~の方 ?Nmamuti
 そっと suru:uitu, suruqtu
 そっとう〔卒倒〕 bucikun/ ~する →?an-
 masjan, bucigee
 そっとする burigiidacun, ?nbiijun, →
 kusi hwizurusun, そりけだつ/ ~こと
 burigiidaci, titindii
 そっぼ〔そっぼ〕 →よそ/ ~を向くこと ?i-
 そで〔袖〕 sudi 〔rabui
 そでがき〔袖垣〕 sōngaci, sungaci
 そてつ〔蘇鉄〕 sutici, suutiici/ ~の芯
 suutiicibukui
 そでのした〔袖の下〕 sicadii
 そと〔外〕 hu'ka/ ~を遊び回ること huka-

maaruu
 そとうみ〔外海〕 Yuutu, →たいかい
 そなえ〔備え〕 sunawai, →じゅんび
 そなわる〔備わる〕 sunawajun
 そねみ〔嫉み〕 →ねたみ
 その Yunu/ ~足で 'inuhwisja/ ~上 →
 さらに/ ~うちに →?ansjun/ ~大きさ
 ?uhwi, ?uqpi, ?uqpinaa/ ~大きさの
 ?uqpeeru/ ~大きさのもの ?uqpeeru/
 ~かた ?Nma/ ~くらい ?anceen, ?anteen,
 ?unusjaku, →それ/ ~ところ ?unukuru/
 ~高さ ?udaki/ ~近さ ?ugacikasa/
 ~遠さ ?ugatoo/ ~時 ?unutuci,
 ?unnii/ ~歳 ?unuca, ?unujuca/ ~長さ
 ?unagi/ ~揚(~場合)?unubaa/ ~人
 ?unuqcu/ ~辺 ?nmarikaa, ?unuhwin,
 ?urikaa/ ~まま ?unumama/ ~野郎
 ?unihjaa, ?unuhjaa/ ~ような ?aneeru,
 ?aneru, ?anneeru, ?anneetaru,
 ?unugutooru, ?ungutooru, ?unna,
 ?unneeru, →?unujoo, そんな/ ~ような
 もの ?unugutooruu/ ~ように ?ungutu,
 →?unujoo
 そのひぐらし〔その日暮らし〕 /~の者 mo-
 okitikanaa 「?usuba, →かたわら
 そば〔傍〕 hata, mutu, nii, suba, (敬語)
 そば〔蕎麦〕 suba
 そばえる →ふざける
 そばかす〔雀斑〕 hweenukusuu
 そばづかえ〔側仕え〕 →こまづかい
 そふ〔祖父〕 taNmee, ?usjumee, 'wikiga-
 hwaahuzi, →?uhuzunzansiimee/ ~の
 兄(~の姉の夫) ?uhutanmee, ?uhu?u-
 そふほ〔祖父母〕 hwaahuzi [sjumee
 そぶり〔素振り〕 naziki, -nazikii
 そぼ〔祖母〕 haamee, ?Nmee, 'winagu-
 hwaahuzi, →paapaa, おばあさん/ ~の
 兄の妻(~の姉) ?uhuhaamee, ?uhu?N-
 mee
 そぼう〔粗暴〕 ?araci, →あらっばい

そまつ〔粗末〕 /~にするさま susoon, su-
 soonNkaroon, →keerasikurubasi
 そまる〔染まる〕 sunun 「mucun
 そむく〔背く〕 mucucun, mudujun, su-
 そめかえし〔染め返し〕 sumikeesii
 そめかえす〔染め返す〕 sumiikeesjun, su-
 mikeesjun 「め替え ?riunoosi
 そめかえる〔染め替える〕 sumikeejun/ 染
 そめかた〔染め方〕 sumiikata
 そめなおし〔染め直し〕 ?irunoosi
 そめもの〔染め物〕 sumimun
 そめものや〔染め物屋〕 sumija, sumimun-
 jaa, →こうや, あいぞめ
 そめる〔染める〕 sumijun, →hweesjun,
 tuqcijun
 そやつ →そいつ
 そよかせ〔そよ風〕 ?usukazi
 そよぐ →suzun
 そら〔空〕 sura, tin, →なかぞら
 そらす〔逸らす〕 'jucusjun, sisikaasjun
 そらだのみ〔空頼み〕 'nnatarugaki
 そらまめ〔蚕豆〕 toomaami
 そりかえる〔そり返る〕 surikeejun
 そる〔剃る〕 sujun
 それ〔感動〕 too, toohjaa, tooqsa, ?une,
 ?uri, ?uriqsa/ ~それ tootoo, ?uri?uri/
 ~見ろ sitari
 それ ?uri/ ~から ?ansi, ?urikara, →
 ?ansjun/ ~くらい(~だけ) ?uhwi, ?u-
 nusjaku, ?uqpi, ?uqsa, ?uridaki/ ~
 くらい(~だけ) ?uqpeeru/ ~くらい
 のもの ?uqpeeruu/ ~だから →?ansju-
 N/ ~っばかり(~っぼっち) ?anceen,
 ?anceengwaa, ?anteen, ?uhwigwaa,
 ?unuhuzanee, ?unusjakugwaa, ?uqpi-
 gwaa/ ~でも(~なのに, ~なら)→?an,
 ?ansjun, saraba/ ~ほど ?ansi, ?ans-
 juka, nanzu, sahuacu, ?uricaki/ ~ほ
 どまで ?ansjukawaaki
 それぞれ →おもいおもい, おのおの, かく

それ

じんかくよう,ひとり,べつべつ,めいめい
 それら /~の者 ʔuqtaa
 それる[逸れる]/ ~こと 'jukubai
 そろい[揃い]/ ~の物 guutumiiitu
 そろう[揃う] nanuN, surijun/ 揃って
 suriti/ 揃っていること suriizurii
 そろえる[揃える] suraasjun
 ぞろぞろ ʔooruzooru
 そろばん[算盤] sunuban, suruban
 そわそわ sansan, taqtuihwiqtui, tuq-
 soohaqsoo
 そんな[損] sun/ ~をする ʔuiukijun, →
 kabujun, kanzun/ ~をすること sun-
 せんがい[損害] kiga, →けっせん [kabui
 せんじる[損じる] sunzijun, sukunajun
 せんだい[尊大] →おうへい, もったいぶ

る/ ~にかまえること duutakabi
 そんなちょう[村長] →maziricoo
 そんなとく[損得] suntuku
 そんな ʔaneru, ʔaneeru, ʔanneeru,
 ʔanneetaru, ʔunugutooru, ʔungutoo-
 ru, ʔunna, ʔunneeru/ ~こと →ʔan-
 sitakutu/ ~に ʔansi, ʔungutu/ ~に
 大きく ʔuqpinaa/ ~に高く ʔudaki/ ~
 にくたくさん ʔusakii, ʔusakiinaa/ ~に
 近く ʔugacikasa/ ~に遠く ʔugatoo/
 ~に長い間 ʔunnagee/ ~に長く ʔuna-
 gi/ ~もの ʔunugutooru
 ぜんぶん[存分] ziibun, →おもいどおり
 ぜんみんたいかい[村民大会] murazurii
 ぜんゆうぶつ[村有物] muragumuçi

た

た[田] taa, →taabuqwa/ ~の草 taa-
 gusa/ ~の準備 taagusiree/ ~を数える
 時の接尾辞 -masi/ ~を畑として使うこと
 taaioosi/ ~を畑にして作ったさつまいも
 だ 'jan, →である, です [taaioosiʔNmu
 たい[鯛]/ ~の一種 'junabarumazikuN,
 mazikuN, siruʔiju, taman
 たい[胎] tee
 たい -busjan, →na
 たい[代] dee/ ~を経た猫 deehwirima-
 jaa/ ~を経た者 deehwirimuN
 たい[台] dee
 たい[題] dee
 だいち[第一] deefici, →まず
 だいか[代価] dee, deeni, deeka, siru, →
 ねだん/ ~の高い物 deedakaa, deedaka-
 muN
 たいかい[大海] ʔuutu, ʔuhuʔumi, →ku-
 rusjuʔoosju, かいよう

たいがい[大概] →たいてい
 たいかく[体格] kara, karata, takihuũ,
 →からだ 「ninzu, ʔuhuzinee
 だいかぞく[大家族] ʔuhucinee, ʔuhujaa-
 たいかん[大官] teekwan
 だいかん[大寒] deekan
 たいきん[大金] marucizin, ʔuhuzin
 たいきんもつ[大禁物] deeciree
 だいく[大工] seeku, 'jaazeeku, kiizee-
 ku/ ~道具 seekudoogu/ ~の頭梁 de-
 eku/ へたな~ taabaazeeku 「ci
 たいくつ[退屈]/ ~がること ʔuhucikwii
 たいけつ[対決] →hwiceegutu/ ~させる
 hwicaasjun, hwiqaasjun
 たいげんそうご[大言壮語] ʔuhumunuʔii
 →いいたいほうだい, おおげさ
 たいこ[太鼓] teeku, →paaranakuu
 たいこく[大國] teekuku
 だいきん[大根] deekuni, ʔuhuni, ʔuuni/
 ~おろし deekuniʔiriʔirii/ ~の根元 →

deekunigaNsaa, gaNsaa/ への葉 ?uhunibaa 「see
 だいこんざつ〔大混雑〕 →?uuʃeekurubaa
 たいざい〔滞在〕 'juudu, teegee, →とうり
 ゆう/ ~させる'juumijun
 だいさんざい〔大散財〕 zin?ami
 だいさんちく〔植物名〕 maataku
 たいじ〔胎児〕 →たい
 だいじ〔大事〕 →おおごと, たいせつ/ ~で
 ある ?atarasjan/ ~がる →?atarasjan/
 ~なもの ?atarasimun, sjoomun/
 ~に思ふ →?usurijun/ ~に思ふ心 ?u-
 uri/ ~にする →tankijun/ ~にすること
 munu?atarasja
 たいした〔大した〕 deenna, →すぐれる,
 すごい, たいへん, たくさん, ひどい, も
 のすごい/ ~ことはない →teegee
 たいして〔大して〕 nanzu, →それ(それほ
 たいしょ〔大暑〕 ?uu?agisa (ど)
 たいしょう〔大將〕 teesjoo, →かしら
 たいしょく〔大食〕 →おおぐい
 だいず〔大豆〕 maami, toohumaami, ?u-
 huçizaa/ ~を水にひたしひいて布でこし
 た液 toohunuguu
 だいずあぶら〔大豆油〕 sirasibui
 たいせつ〔大切〕 teesici, →だいじ/ ~な →
 たいせつ〔大雪〕 ?uujuuci (kan)nuu
 たいそう〔大層〕 dandan, ?iqpee, →たい
 へん
 だいたい〔大体〕 ?ara?ara, 'iikuru, tee-
 gee, →おおかた, たいてい/ ~の考え suu-
 kangee 「nkunibu/ ~いろ →かばいろ
 だいだい〔橙〕 deelee, deedeekunibu, ?i-
 だいだい〔代代〕 deelee
 だいたんな〔大胆な〕/ ~者 ?izaa
 だいちょう〔大腸〕 ?uhuwata
 たいてい〔大抵〕 'iikuru, teegee, teetii,
 ?uukata, →だいたい
 たいど〔態度〕 sigama
 たいとう〔対等〕 tankaanaa
 だいとうじま〔大東島〕 ?uhu?agarizima

たいどく〔胎毒〕 teeduku
 だいどころ〔台所〕 deezu, şikubuu, simu,
 sukubuu, ?usimutuu/ ~仕事 ?uʃisici/
 ~の小屋 tungwa/ ~の土間 şikubuu/
 ~働き simubataraci
 だいなし〔台無し〕/ ~にする ?wiikunʃju-
 たいはく〔太白〕 (白砂糖) teehwaku (N
 たいぼん〔胎盤〕 ?ija
 たいひ〔堆肥〕 kazigwee
 たいびょう〔大病〕 →じゅうびょう
 だいぶ〔大分〕 'juhuu, teebun, →かなり,
 そうつら
 たいふう〔台風〕 teehuu, ?uukazi
 たいへいよう〔太平洋〕 →?agarinu?umi
 たいへん〔大変〕 deezi, →おおいに, すぐれ
 る, たいした, たくさん, ひどい/ ~な
 deenna, kuwee/ ~なこと ciweekutu,
 cuweekutu, ?icikuuweekutu/ ~なもの
 ciweemun, cuweemun
 だいべん〔大便〕 kusu, ?ura, (小児語) ?N-
 na, →じんぷん/ ~をする →majun
 たいほ〔退歩〕 ?atumudui
 たいほう〔大砲〕 hja, ?isibjaa
 だいほうえ〔大法会〕 ?ubuçizi, ?uhu?-
 sjuukoo, →ほうじ 「うほく
 たいぼく〔大木〕 teebuku, ?uhugii, →きょ
 たいまつ〔松明〕 tee, tubusi/ ~の火 tee-
 bii/ ~を振る者 →teehujaa
 たいまん〔怠慢〕 →なまける
 だいまよう〔大名〕 →?anzi, ?azi, deemjoo,
 タイム mai (ʃ)udun
 たいも〔田芋〕 →taa?nmu, さとも/ ~の
 ずいき muzi, taamuzi
 たいやく〔大役〕 teejaku
 たいよう〔太陽〕 →ひ
 たいようれき〔太陽暦〕 'jamatugujumi
 たいら〔平〕 too, →ひらたい, べしゃん
 こ/ ~である hwirasan/ ~なもの hwi-
 raa/ ~に hwiraqteen/ ~にする hwi-
 rakasjun, hwiramijun, toomijun/ ~
 になる hwirakijun

だい

だいり〔代理〕 deeri, →かわり

たいりき〔大力〕 teecika, teezikara, →ち

たいわん〔台湾〕 taiwan しからもち

たえはてる〔絶え果てる〕 teehatijun

たえまなく〔絶え間なく〕 miisagee neeran, →いつ, しじゅう

たえる〔絶える〕 teejun, →たえはてる

たえる〔耐える〕 nizijun, sinubun, →こ
らえる, こんき, しのぶ/ ~力 nizidee,
teecikara, teezikara/ 耐えかねること
nizii Kantii/ 耐えられない şiziraran

たおしあい〔倒し合い〕 kurubaşee, tooşee

たおす〔倒す〕 toosjun

タオル Turanđatiisaazi

たおれる〔倒れる〕 toorijun/ 倒れたり転
んだり →toorikuruşi/ 倒れよとするさ
ま toorirajaihwaa

たか〔高〕/ ~の知れたやつ takinamun

たか〔鷹〕 taka/ 金色の目の~ cinmii, cin
miidaka/ ~が輪を作って飛ぶこと ta
kanukurumaci/ ~の一種 ŷazitaka, ka
şizeemii

たが〔籬〕 ŷubi, →dakiŷubi/ ~がゆるむ
sarandijun, sarunđijun/ ~に用いる

だが →けれども し竹 ŷubidaki

たかい〔高い〕 takasan/ 値が~ niidaka
san/ 値が~もの deedakaa, deedaka
mun/ ~木 takagii/ ~ところ takaha
na, →ŷagai/ ~山 takagan/ 高く上がる
こと takaŷagai/ 高く売ること takaŷui/
高く買うこと takagooi/ 高く顔をあげて
いること takaŷucagi

たがい〔互〕 tagee, (敬語) ŷutagee/ ~に
→tagee/ ~にくい違ふこと tageecigee/
~に敬語を語り話し方 'inuŷuuhuu, ta
geeniŷuuhuu/ ~に敬語を使わない話し方
tageeniŷiihii

たがう〔違ふ〕 tagajun, →ちがう

たがえる〔違える〕 tagajun

たかさくらべ〔高さ比べ〕 takasaagaa

たかしお〔高潮〕 sigarinami

たかだか〔高高〕 →せいぜい

たかね〔高値〕 →sanşooba, takaŷuqçaki

たかばた〔高機〕 takahata

たかぶる〔高ぶる〕 takabijun, ŷugujun,
→おごる, ぞうちょう/ ~こと duutaka
bi/ 高ぶっている ciidakasan/ 高ぶった
者 ciidakamun, →ごうまんもの

たかまど〔高窓〕 takabasiru

たかまる〔高まる〕 mucagajun

たがやす〔耕す〕 keesjun, kunasjun, ta
geesjun, ŷuciŷukusjun, ŷucun, →こ

たから〔宝〕 takara しうさく

だから →ŷan, ŷansjun

たからじま〔宝島〕 (島の名) takarazima

たからがい〔寶貝〕 moomoogwaa

たかる macaasjun, takarijun, →あつま

たかわらい〔高笑い〕 takawaree しる

たき〔滝〕 taci

たきおとし〔焚落し〕 ŷuciri

たきぎ〔薪〕 tacizi, tamun/ 割った~

'waizakaa/ ~の灰 karahwee/ まだ枯
れていない~ ŷoodamun

たきぎうり〔薪ぎ売り〕 tamunŷujaa

たきぎとり〔薪ぎ取り〕 tacizitui, tamun
tujaa 「uşii, zuuşii

たきこみごはん〔炊き込み御飯〕 kuhwazu-

だきこむ〔抱き込む〕 dacikunun 「ci

だきしめる〔抱きしめる〕/ ~こと manda-

たきつけ〔焚き付け〕 hwiiteeqikijaa, →ŷa
kasi, tubusi

たきつける〔焚き付ける〕 teeçikijun

たきょう〔他郷〕 tacoo, takuku/ ~で死ぬ
こと sjuukaawatai

たぎる〔滾る〕 tazijun, →わく

たく〔炊く〕 tacun

たく〔抱く〕 daacun/ 卵を~ ŷusujun

たくさん〔沢山〕 maakuşsa, maakusa,
'Nzadi, teebun, teeşaka, ŷuhooku,

ʔuhuʔuhuutu, ʔinbai, ʔunbai, →いっばい, うんと, かずかぎりない, ぎょうさん/ ~ある mandoon/ ~の馬 buriʔNma/ ~の兄弟姉妹 ʔuhucoodee/ ~の星 buribusu

たくせん〔託宣〕 ciziʔuri, miʔiziri

たくだく →soosoo

たくましい〔逞しい〕 / たくましくなる ʔarijun/ たくましく太ること kurugweei

たくらむ takunun, →きょうぼう, わるだたぐる〔手操る〕 tagujun, →くる しくみ

たくわえる〔貯える〕 tabujun, takuweejun, tamijun

たけ〔竹〕 daki/ ~の一種 deeku, deemjoo, ʔjanbaraa, ʔjanbaraadaki, ʔjanbarudaki, karataki, kusanadaki, kwanNuNeiku, maataku, ʔnzadaki, ʔnzataki, →daki/ ~の囲い dakigakui/ ~の皮 dakinukaa/ ~の皮のぞり dakinukaa-saba/ ~のかんざし dakiziihwa/ ~の釘 dakikuzi/ ~のたが dakiʔubi/ ~のつぼ dakinʔiibuu/ ~の幹の中空の部分 dakinuzii/ ~の床 dakijuka

たけ〔丈〕 taki, →しんちょう, せい

たけ〔岳〕 taki, →やま

だけ →gana, -teen, ʔuqsa

たけい〔他系〕 tacii/ ~の者が相続すること taciimazikui

たげい〔多芸〕 / ~の人 ziinumuci

たけうま〔竹馬〕 kiibisjaa

たけがき〔竹垣〕 dakigaci, dakigakui

たけづつ〔竹筒〕 dakinʔiibuu

たけとんぼ〔竹とんぼ〕 hwaahwaa

たけな布 banzi

たけのこ〔荷〕 dakinuqkwa/ ~の干したもの sjunsii

たけぶき〔竹葺き〕 dakibuci

たけぼうき〔竹箒〕 dakibooci

たこ〔蛸〕 taku 「jun

たこ〔胼胝〕 siiʔwii/ ~ができる siiʔwii-

たこ〔鰯〕 / ~の一種 buubuudaku, maqtakuu, maqtaraa/ ~の調子をとるため

たご (桶の名)→おけ 〔のひも ʔukuʔii

たこく〔他国〕 takuku, →たきょう

たごん〔他言〕 tagun

たし〔足し〕 tasi, →たしまえ

だし dasi/ ~の入っていない汁 →sabiziru/ ~の入っていない料理 →sabimun

だしいれ〔出し入れ〕 ʔnzasiʔiri

たしか〔確か〕 zinzuu/ ~な tasikasii, →zinzuusan/ ~なこと →ʔiʔee

たしかめる〔確かめる〕 tasikamijun, →みとどける

たしなみ tasinami, →ところがけ

だしぬげに →とつぜん

たしまえ〔足し前〕 tasimee, →たし

だじゃく〔懦弱〕 dazaku, →いくじなし

たしょう〔多少〕 ʔikirasaʔuhusa 「わえる

たす〔足す〕 tareejun, ʔusjaasjun, →く

だす〔出す〕 ʔnzasjun, neejun, →ʔeesjun 「ruu

たすうけつ〔多数決〕 ʔuhusanikataziki-

たすけ〔助け〕 taʔiki, (敬語) ʔutaʔiki, →hwicaasi, hwicawasi, hwici, kasii, えんじょ, かせい, すくい

たすけあげる〔助け上げる〕 hwicagijun

たすける〔助ける〕 taʔikijun, ʔujagijun

→すくう/ 助け合うさま cuisiiʔii/ 助けてくれ →ʔakisamijoo

たずねる〔尋ねる〕 taNnijun, tazinijun,

tazunijun, →kameejun, tumeejun,

とら, ほうもんする/ 尋ね求める ʔadati-

jun/ 尋ね尋ね tumeeidumeci

たせい〔他姓〕 →たけい

たそがれどき〔たそがれ時〕 ʔakookuroo

たそん〔他村〕 tasima 「ʔicandamun

ただ ʔicanda, mucin, tada/ ~のもの

たたかい〔戦い〕 →せんそう

たたかう〔戦う〕 ʔoojun, tatakajun, →

あらそう/ 戦わせる ʔaasjun

たた

たたきこむ〔叩き込む〕 tataciNcuN
 たたきつち〔叩き土〕 saNtoo
 たたく〔叩く〕 tatacuN, →うつ, ながる,
 ひっぱたく
 ただしい〔正しい〕 →ʔaciraka, maqtooba
 ただす〔正す・糸す〕 tadasjuN
 ただちに →すぐ
 ただばたらき〔ただ働き〕 ʔicaNdabuukuu
 たたみ〔畳〕 tatan
 たたみや〔畳屋〕 tatanjaa, tatanʒeeeku
 たたむ〔畳む〕 takubun
 たたり〔崇り〕 ʔarabi, tatari 「ʒindi
 ただれ〔爛れ〕 tadari/ 表皮の ~ʔwaabi-
 ただれめ〔爛れ目〕 miihagi/ ~にかかった
 者 miihagaa, miihagii
 ただれる〔爛れる〕 siNdijun, tadarijuN,
 taqkwijun, →hagijun/ 表皮の ~こと
 ʔwaabiʒiNdii 「rakamazira
 だだきこねる →わがまま/ ~こと ʔNnazi-
 たち〔太刀〕 taci, →かたな
 たち〔達〕 -caa, -taa
 だち〔立ち〕 →daci
 たちあい〔立合い〕 taciee
 たちいふるまい〔起居振舞〕 duumucinaï,
 siisizama
 たちうお〔太刀魚〕 basikaa, basikaaʔiju
 たちがれ〔立枯れ〕 tacigari
 たちき〔立木〕 tacigi
 たちぎえ〔立消え〕 →hwiihwiituu, ʒirikoo
 たちぎき〔立ち聞き〕 tacizici 「く
 たちさる〔立去る〕 nuCuN, →さる, たちの
 たちしごと〔立ち仕事〕 tacişikuci, taci-
 waza
 たちどおし〔立ち通し〕 tacikuNpai
 たちどころに〔立ちどころに〕→たちまち
 たちどまる〔立ち止まる〕 ʔjudunun, ʔjusi-
 nuN/ 立ち止まらせる ʔjusiimijun
 たちなおる〔立ち直る〕 kunceejuN,
 kunkeekuN, kunnoojuN, →kuncees-
 juN, kunkeesjuN, もちなおす 「る

たちのく〔立ち退く〕 tacinucun, →たちさ
 たちば〔立揚〕 tacihwa 「→たちはばかり
 たちはだかる〔立ちはだかる〕 hatakajuN,
 たちばな〔橋〕 kuganii, kuganiikunibu,
 ʒiikwaasjaa 「juN, →たちはだかる
 たちはばかり〔立ちはばかり〕 tacihabaka-
 たちまさる〔立ち勝る〕 tacimasajuN, →ま
 さる 「に, すぐ
 たちまち cuucaN, tacinama, →きゅう
 たちむかう〔立ち向かう〕 tacinkajuN
 たちよる〔立ち寄る〕 nubagajuN, nusika-
 juN, →tuNmaajuN, tuNmigujuN,
 tuNnubagajuN/ ~こと (~さま) taca-
 gainubagai, →tacimaaimaai, tuNma-
 aimaai, tuNmiguikeemigui/ 立ち寄ら
 ない →nubagaikaagi
 たちんぼう〔立ちん坊〕 ʔatuʔusii, boosi-
 たつ〔辰〕 taçi 「cinaa
 たつ〔立つ・建つ〕 tacuN, →ʔuqtacuN/
 ~こと (小児語) →たっち/ ~か倒れるか
 tacitoori/ 立ちかねること tacikantii/
 立ったりすわったり tuNtaciikeetaci/
 立って守りをする事 tacimui
 たつ〔裁つ〕 tasjuN
 たつ〔経つ〕 tacun, →へる
 たつきゅう〔脱臼〕 ciicigeei/ ~する ciici-
 geejuN
 たつし〔達し〕 taqsi, →しらせ
 たつしゃ〔達者〕 taqsja, →じょうぶ, そう
 けん/ ~である ʔaqcuN/ ~でいらつしゃ
 る ʔwaacimiʒeen
 たつじん〔達人〕 busi
 たつする〔達する〕 ʒirugajuN, →ʔuuʒiru-
 gaajuN, →とどく/ 奥儀に~ ʔitarijuN
 たつた →ただ
 たつち (小児語) taaca/ ~たっち
 taqaantaqaan
 たつて tandi, →ぜび
 たつな〔手綱〕 tanna
 たつのおとしご ʔumiʔNmagwaa

たっぶり →よゆう/ ~している 'jucisan/
 ~と ?uhu?uhuutu
 たつまき〔龍巻〕 ruu, →せんぷう
 たて〔縦〕 tati
 たて〔楯〕 tinbee
 たていと〔経糸〕 →kasi/ ~1本 →kataşi-
 zi/ ~2本 →cuhwaa/ ~と緯糸 kasi-
 nuci/ ~の残り çinazuu, hanDi
 たてかえ〔立て替え〕 tasimee 「jun
 たてかえがりする〔立替え借りする〕 ?ira-
 たてかえる〔立て替える〕 tasimeejun/ 立
 替えて貸す ?iraasjun
 たてがみ〔蓋〕 kanzi
 たてじま〔縦縞〕 kasi?aja
 たてつぼ〔建坪〕 tatiçibu
 たてづま〔立棲〕 ?asagi
 たてふだ〔立札〕 tatihuda
 たてよこ〔縦横〕 tatijuku
 たてる〔立てる・建てる〕 tatijun
 たでる tadijun
 たとえ tatui, →もし
 たとえば →tatujun
 たとえばなし〔譬え話〕 tatuibanasi
 たとえる〔譬える〕 tatujun
 たな〔棚〕 tana/ ~探しして食うこと sa-
 guingwee
 たなばた〔七夕〕 tanabata 「tanabaraa
 たなばる〔棚原〕(地名) tanaharu/ ~の者
 たなびく〔棚引く〕 tanabicun, →なびく
 たに〔谷〕 suku, tani, →saku
 たにし〔田畧〕 taanna
 たにやま〔谷山〕(地名) tanjama
 たにん〔他人〕 qcu?anamun, tanin,
 →ひと/ ~の空似 kunicoodee 「ぜい
 たにんずう〔多人数〕 ?uhuniŋzu, →おお
 たぬきねいり〔狸寝入り〕 nintahuunaa
 たね〔種〕 muŋcani, sani
 たねあぶら〔種油〕 maa?anda
 たねおろし〔種下ろし〕 tani?urusi
 たねつけ〔種付け〕 / ~をする çikijun

たねぶた〔種豚〕 'uu?waa
 たねぶたぎょうしゃ〔種豚業者〕 'uu?waa-
 karajaa, ?waaçikijaa
 たねまき〔種蒔〕 tani?urusi
 たのしい〔楽しい〕 →うれしい, おもしろい/
 楽しさ ?isjoosja 「ごらく
 たのしみ〔楽しみ〕 sjuzoo, tanusimi, →
 たのしむ〔楽しむ〕 tanusinun, →?isjoo-
 sja, ?umusirusan, ?wiirikisan
 たのまれもの〔頼まれもの〕 ?ijaimun
 たのみ〔頼み〕 tanumi/ ~となるもの ku-
 sidee, kusjati/ ~にする tarugakijun/
 ~にすること kusigaki
 たのむ〔頼む〕 tanunun, tarunun
 たのもしい〔頼もしい〕 →cimu?wii/ ~者
 'nsjamun
 たのもしこう〔頼母子講〕 muee
 たば〔束〕 çika, tabai, -karagi, -mazin
 だば〔駄馬〕 nii?uusaa
 たばこ〔煙草〕 tabaku, (小兒語) paakuu/
 ~の吸いながら tabakunuhwiikusu/ ~を
 切る庖丁 ciribanboocaa/ ~を吸うさま
 pakupaku 「tabaku?irii
 たばこいれ〔煙草入れ〕 ciritami, huçoo,-
 たばこぼん〔煙草盆〕 tabakubun
 たばこや〔煙草屋〕 tabakumaciija
 たばね〔束ね〕 →たば
 たばねる〔束ねる〕 tabajun, →からげる/
 ~こと →tabaisikai
 たび〔旅〕 tabi, →りょこう/ ~から帰る人
 を迎えること sakankee/ ~先でできた妾
 tabidumi/ ~に出ている人のある家 ta-
 bisju/ ~の一団 tabininzu/ ~の人 ta-
 binuqcu/ ~の宿 tabijadu
 たび〔足袋〕 taabi
 たび〔度〕 kaazi, -kazi, →つど 「na
 たびうた〔旅歌〕 →kweena, ?umuigwee-
 たびしょうぞく〔旅装束〕 tabisugai
 たびだち〔旅立ち〕 tabidaci
 たびたび〔度度〕 kazikazi, taqta, →かさ

たび

ねがさね, くりかえし, しぼしぼ, なんと,
ひんぱんである

たびびと〔旅人〕 → ʔaQcaa

タブー cireemUN

たぶたぶ bonbON

だぶだぶ 'wabuwabu

たぶら -tanda

たぶん〔多分〕 'iikuru, tabuN, ʔuukata,
→ だいたい

たべのこし〔食べ残し〕 kaminukusi

たべもの〔食べ物〕 kweemUN, munu,
muN, → しょくりょう, りょうり/ ~の好
ききらい munugusi/ ~の不平 muNnu-
googuci, muNnuʔirihui, → niisanumaa-
sanu/ ~への欲 → しょくよく/ ~を欲し
がること munuhusja, munuʔimi/ 貧弱
な ~sabimUN

たべる〔食べる〕 kanuN, (敬語) miʃeen,
ʔusjagajuN, → くら, しょくじ/ お食べ
teewa/ 食べさせないで 'nnaKuci/ 食べ
そこなり kamihansjuN/ 食べてはいけ
ないこと munziree/ 食べにくい kami-
gurisjan

たぼう〔多忙〕 hanTa, tabakai, → いそがし
だぼくしょう〔打撲傷〕 ʔucici 〔い

たま〔玉・球〕 tama, → boonta, boo-
ntuu/ ~のかんむり tamancaahui/ ~や
こがね tamakugani/ ~やこがねのよう
な愛児 tamakuganinasigwa/ ~やこが
ねのような恋人 tamakuganiŋo, tama-
たま → まれ 〔kuganisatume

たまう〔陽う〕 taboojuN, → たまわる

たまご〔卵〕 kuuga, tamagu, → けいらん/
~のから kuugaguru/ ~を抱かせる ʔus-
aasjuN/ ~を抱く ʔusujuN/ 産卵をさそ
うための ~ misikuuga

たまござげ〔卵酒〕 tamaguzaki

たまごやき〔卵焼き〕 kuugahuwahuwa

たましい〔魂〕 ʔiniN, mabui, mabujaa,
tamasi, tamasii, → せいしん, れい/ ~

がぬける → mabui, きぜつ/ ~がぬける
病気 mabuiʔuti/ ~をこめるのに用い
る串 geen/ ~をこめること mabuigu-
mi/ ~を分ける行事 mabuiwakasi

だましうち〔騙し討ち〕 damasiʔuci, nuzi-
ʔuci

だます〔騙す〕 damasjuN, nuzuN, ʃikas-
juN, → ごまかす, まどわす/ ~こと boo

たまたま katagata, → ぐらぜん

たまのお〔玉の緒〕 tamanuuu

たまり〔溜り〕 tamai

だまりこむ〔黙り込む〕 danzamajuN, ʔu-
QcigunUN/ 黙りこんでいる口 ʔNmunu-

たまりみず〔溜り水〕 tamaimizi 〔kuci

たまる〔溜る〕 tamajuN

だまる〔黙る〕 damajuN, danzamajuN,
cigunUN, → だまりこむ/ 黙っておく 'jo-
osjooCUN, 'joosjoojuN

たまわりもの〔賜わり物〕 ʔutabimiʃeemUN

たまわる〔賜わる〕 tabijuN, ʔutabimiʃe-

たむし〔田虫〕 → ぜにたむし leN, → たまう
ため〔為〕 tami/ ~にならぬこと hudami/
…する ~に → ndi

ためいき〔溜め息〕 ʔuhuʔiici

ためし〔試す〕 → ころろみ

ためず tamisjuN/ ~こと → ころろみ

ためらう ʔukeejuN, → もどろく/ ~こと
ʔumiijamii, ʔukeeiʔumii, ʔukeeihwi-
keei, → しりごみ/ ためらったものの言い
方 ʔukeeimunii

ためる〔溜める〕 → たくわえる/ 溜めておく

ためる〔矯める〕 tamijuN 〔tameejuN

だめをおす〔だめを押す〕 kazikakijuN

たもつ〔保つ〕 tamucuN/ ~こと tamuci

たもと〔袂〕 tamutu/ ~のあるそで huku-
rusudi, tamutusudi

たやすい duujaQsaN, → やさしい/ ~こ
と → tinuʔuci, ようい 「の duujaʃii

たやすく → やすやすと/ たやすくできるも

たより〔便り〕 ʔati, bin, sata, tajui, ʔutu, ~

?utusata, ?utuziri, →おんしん, てがみ
 たより〔頼り〕 tajui, →たのみ
 たよりない〔頼りない〕 burasan, →ころ
 ぼそい
 たよる〔頼る〕 ?uqcakajun
 たらい〔盪〕 hanziri
 だらけ →kaa, -maa
 だらしない / ～者 daraa, daruu, nuba-
 cirimuN, ?ikutajaa, →ぐうたら
 たらす〔垂らす〕 tarasjun
 たらたら taratara
 だらだら daraakwaraa, daradara, daru-
 ukwaruu, ziizii
 たりる〔足りる〕 tajun, tarijun, →taraa-
 jun, ふそく/ 足りない haganasan,
 ?urusAN/ 足りなくなる buraarijun/ 足
 りないこと -buraari
 たる〔樽〕 taru
 だるい darusan/ だるそうにしている者
 daimun/ ～さま daimui
 たるき〔垂木〕 kici
 たるむ / たるんでいるさま 'jooruu
 だれ〔誰〕 taa, taru, →どなた/ ～か taa-
 gana, tangana/ ～かさん tAnganama-
 neuu/ ～の →taa/ ～のもの taamun
 たれさがる〔垂れ下がる〕 taisagajun
 たれる〔垂れる〕 tarijun/ 垂れた頬 hu-
 tai/ 垂れたもの tai/ 垂れて落ちる tai?u-
 tijun/ 糞を垂れ散らす maicirakasjun
 だれる dajun, darijun
 だろう hazi
 たわごと hurimunii, hurimunu?ii
 たわし〔束子〕 saara/ ～の一種 ?inaza-
 ra, 'wa-razaara
 たわむ〔撓む〕 tamajun
 たわむれ〔戯れる〕 tawahuri, →ざれる
 たわめる〔撓める〕 tamijun
 たわら〔俵〕 taara
 たん〔痰〕 kasagui, taN/ ～をなくする薬
 taNcirasi

たん〔反〕 taN
 だん〔段〕 dan/ ～がある ?utijun
 だん〔団〕 ninzu
 だんがい〔断崖〕 hucibanta, →がけ/ ～絶
 壁 ?uuciribanta
 たんき〔短気〕 kwacuu, tanci, →せっかち
 / ～な者 tancaa
 たんきり〔痰切り〕 taNcirasi
 だんご〔団子〕 daagu
 だんごう〔談合〕 →そらだん
 だんこく〔暖国〕 nukuguni
 たんざ〔端坐〕 hwisjamaNci
 たんじゅう〔胆汁〕 ?ii
 たんじゅん〔單純〕 / ～な人 maq?iiguu
 だんじょ〔男女〕 / ～の離れられない仲 ma-
 ?ibui, mu?iri
 だんしょう〔談笑〕 munu?iiwaree
 たんじょうび〔誕生日〕 ?Nmaribii, →tan-
 kaa, うまれる
 たんしん〔单身〕 mi?igara
 たんす〔箏箏〕 taN?i
 たんすい〔淡水〕 ?amamizi
 だんそう〔男装〕 'wikigasugai
 たんそく〔嘆息〕 ?uhu?iici
 だんだんと →しだい
 だんちがい〔段違い〕 dangawai, →とびは
 なれる/ ～である danun naran 「gaci
 だんちく〔暖竹〕 deeku/ ～の垣根 deeku-
 たんちよ〔端緒〕 hakaguci, →kuci, てが
 かり, でだし, はじめ
 たんてい〔探偵〕 tantii
 だんとう〔暖冬〕 / ～の年 nukudusi
 だんどく〔植物名〕 kaNna
 だんな〔旦那〕 daNna, sjuumee, →しゅじ
 ん/ ～様 satunusi, sjunumee
 だんねん〔断念〕 →あきらめ
 だんばつ〔断髪〕 danpa?i, ranpa?i,
 →kuncaaboozaa, kuncaaboozi
 だんばん〔談判〕 kakiee
 たんぼ〔担保〕 kata, si?imu?i, tiitoo

たん

たんぼ〔田圃〕 taabuqkwa, →た
たんめい〔短命〕 taNmii
だんりょく〔弾力〕 / ～が強い sipusan/

～の強いもの sipuu
だんわ〔談話〕 munugatai, →はなし

ち

ち〔血〕 cii/ ～がさせる業 ciinuwaʒa/ ～
だらけ ciidarakaa, ciidarukaa

ち〔地〕 zii 「ぶん

ちい〔地位〕 tuikuree, ʒaa, →くらい, み

ちいさい〔小さい〕 gumasaN, kuusaN, →

-gwaa, こまかい/ ～家 gumajaa, 'jaag-

waa/ ～桶 'uukigwaa/ ～木 gumagii/

～子 qkwagwaa/ ～字 gumazii/ ～乳

ciigwaa/ ～時 kuusaini/ ～ほくろ ʔa-

ʒagwaa/ ～店 macijagwaa/ ～目 miig-

waa/ ～もの gumaa, gumamuN, kuu-

tee, kuuteemaa, kuuteenuu, mung-

waa/ 小さくなる →sipirijun, soorijun

ちえ〔知恵〕 ʒee, sjoo, ʒinbun, →さいのう

/ ～がありすぎる者 ʒinbuntakaraa/ ～

が鋭いこと takumaciri/ ～なし muzin-

bun, ʒinbunkusaraa/ ～のあること ta-

kuma/ ～のある者 takumaa, takuma-

ciraa, takumacirimun, ʒinbunmuci

ちかい〔近い〕 cicasaN, cikasaN, →tiizi-

kasaN/ ～うち kunuʔuci/ ～御親戚

cicaʔunpaaN/ ～親戚 cikamagara,

cikaʔweeka

ちがい〔違い〕 sooi, →さ, さい 「う

ちがう〔違ふ〕 →kawajun, たがう, まちが

ちかく〔近く〕 cinpin, hata, nii, →きん

ちかごろ〔近ごろ〕 →さいきん 「じょ

ちかづく〔近付く〕 cikazicun, →ちかよる

ちかづける〔近付ける〕 cikazikijun

ちかみち〔近道〕 cikamici, kunʒirimici/

～すること kunʒirimici/ ～する競争

→maaibeekuu

ちかよる〔近寄る〕 cikajujun, →ちかづく

ちから〔力〕 cikara, tee/ ～がない(～がな

いくせに) 'jugeenee kanaaN, 'wigeenee

kanaaN

ちからいし〔力石〕 sasiʔisi

ちからこぶ〔力こぶ〕 ʔudimurusi

ちからだめし〔力だめし〕 cिकaradamisi/

～の石 sasiʔisi

ちからもち〔力持〕 cikaraa, cikaramuci,

'jakara, 'jakaramun, →たいりき

ちからもち〔力餅〕 →cicaramucii, cika-

ramucii

ちぎょう〔知行〕 cizoo, ʔweekazi, →sima,

ほうろく, りょうち

ちぎょうだい〔乳兄弟〕 ciicoodee

ちぎり〔織機具〕 macica

ちぎり〔契り〕 ciziri, ʔikataree, katami

ちぎる〔契る〕 musubun

ちくしょう〔畜生〕 cikusjoo, ʔicimusi,

ʔinmajaa, ʔinmajuu, →ʔaahjangaree/

～のようなさま cikusjoogiinaa

ちぐはぐ kataguumaNcaa

ちくび〔乳首〕 ciinukubi

ちけん〔地券〕 sasisadi

ちごこしょう〔稚児小姓〕 'wakasju

ちしゃ〔植物名〕 cisana, cisanabaa

ちじん〔知人〕 siriee, →しりあい

ちすじ〔血筋〕 ciiʒizi, ʒizi, taqkwii, →け

つと/ ～を引く家 ʒizimuti

ちそく〔遅速〕 niisahweesa

ちち〔乳〕 cii, ciibuqkwa, (小児語) ciicii,

→ちぶさ/ 少女の～ ciigwaa
 ちち〔父〕 sjuu, taarii, (小児語) taataa,
 →おとうさん, おやじ, ちちおや
 ちちおや〔父親〕 cici?uJa, 'wikiganu?uJa,
 'wikiga?uJa, →おとこおや, おとうさん,
 ちち 「と çinmagaruu
 ちちこまる siciriNcun, sukunun/ ～こ
 ちちばなれ〔乳離れ〕 cii?akari/ ～させる
 ?akasjun/ ～した子豚 ?akari?waa-
 gwaa/ ～した豚 ?akaraa?waa, ?akari-
 ?waa/ ～する ?akarijun
 ちちぶそく〔乳不足〕 ciigaziri/ ～の者 cii-
 gaziraa
 ちぢまる〔縮まる〕 magujun, →ちぢむ
 ちぢみあがる〔縮みあがる〕 cizimagajun,
 sukunun/ 縮みあがったさま cizinKaa,
 sukuNkaa
 ちぢみおり〔縮み織り〕 cizimi
 ちぢむ〔縮む〕 →cizinun, ちぢまる
 ちぢめる〔縮める〕 →cizimijun
 ちぢれげ〔縮れ毛〕 cizuu/ ～の者 cizujaa
 ちつじょ〔秩序〕 /～を乱すもの 'jamaciri-
 ちっそく〔窒息〕 ?iicimadii [mun
 ちとせらん〔千歳蘭〕 turanuzuu
 ちどめぐさ〔血止草〕 ciidumigusa
 ちどり〔千鳥〕 cizui, cizujaa, hamaciduri
 ちどりあし〔千鳥足〕 'joogaahwiigaa?aQci
 ちのみご〔乳呑み子〕 ciinumingwa
 ちばなやき〔知花焼き〕 cibanaJaci
 ちび çimaruu, huduguu, ?iNcoo, kuu-
 tee, kuuteemaa, kuuteenuu, muncaN,
 mungwaa
 ちぶさ〔乳房〕 ciibuqkwa, →ちち/ ～にで
 きる腫物 ciigasa
 ちゃ〔茶〕 caa, →catoo, ?uca, ?ucatoo,
 ?arabaacaa, おちゃ/ ～の一種 haNsAN,
 hwaNsAN, sjaNpin/ ～のおり caanu-
 ちゃい〔小児語〕 buqtii, pee [guri
 ちゃいろ〔茶色〕 ?Nmi?iru/ ～のもの ?N-
 mi?iruu

ちゃう →cii-, kee-
 ちゃうけ〔茶請け〕 cawaki, →おちゃうけ
 ちゃがし〔茶菓子〕 cagwasi
 ちゃかす/ ちゃかしてばかりいる者 ?ah-
 wageerimun
 ちゃがら〔茶殻〕 caakaši
 ちゃき〔茶器〕 cadoogu, cawandoogu,
 doogu/ ～をいれる器 taakuu
 ちゃくし〔嫡子〕 caQci, cakusi, →あとつぎ
 ちゃくそん〔嫡孫〕 cakumaga, cakusi?N-
 maga
 ちゃたく〔茶托〕 cadee
 ちゃつぼ〔茶壺〕 ziziri
 ちゃどうぐ〔茶道具〕 cadoogu, cawandoo-
 gu, doogu
 ちゃのま〔茶の間〕 nakamee
 ちゃばしら〔茶柱〕 caanusin
 ちゃぶちゃぶ kwenkwen
 ちゃほ〔矮鶏〕 caan/ ～の鳴き声 kiQkirii-
 ちゃほん〔茶盆〕 cabun [kii
 ちゃわん〔茶碗〕 cawan, →ごはんちゃわん
 チャンス →きかい 「っかり, しゃんと
 ちゃんと cantu, sikaitu, sikaqtu, →し
 ちゅういする〔注意する〕 kukurijun, →け
 いこく, ようじん/ ～心 kukuri
 ちゅうおう〔中央〕 →まんなか
 ちゅうかい〔仲介〕 nakadaci, naka?iri
 ちゅうかん〔中間〕 nakaba, tanaka, →あ
 ちゅうき〔注記〕 →?eezagaci [いだ
 ちゅうくう〔中空〕 naakaahuukaa, naka-
 bi, →から, がらんどろ/ ～の部分 zii
 ちゅうこく〔忠告〕 'jusigutu/ ～する 'ju-
 sijn
 ちゅうごく〔中国〕 too, →teekuku/ ～から
 の使者 tinsi/ ～生地に着物 toonsu/ ～
 と日本 toojamatu/ ～産の物 toomuN/
 ～の船 toosin/ ～への旅 tootabi
 ちゅうごくご〔中国語〕 toonukuci, →kwa-
 Nhwa
 ちゅうさいする〔仲裁する〕 →'wakasjun/

～さま *naakatuihatatui*
 ちゆうざら〔中皿〕 *cuuzara, suurii*
 ちゆうし〔中止〕 *mai*, →とりやめる/ ～になる *kundijun*
 ちゆうしょうする〔中傷する〕 *ʔiikuzijun, ʔjukusjun, kizun*
 ちゆうしん〔注進〕 *cuusiN*
 ちゆうしん〔忠臣〕 *cuusiN*
 ちゆうしん〔中心〕 →まんなか
 ちゆうせつ〔忠節〕 *cuusiçi* 「ためらう
 ちゆうちょ〔躊躇〕 →しりごみ/ ～する →
 ちゆうてん〔中天〕 *nakabi*, →そら
 ちゆうと〔中途〕 *micinakara, nakarami-ci*, →とちゆう/ ～半端 *nakatagee*
 ちゆうふう〔中風〕 *cuuhuu*
 ちゆうもん〔注文〕 *cuumun*, →あつらえる
 ちゆうもん〔中門〕 *cuumun*
 ちよう〔腸〕 *ʔiiwata, wata*, →はらわた
 ちよう〔疔〕 *coo*
 ちよう〔蝶〕 *haberu, habiru*, →ʔajahaberu/ ～の羽のよりに美しい御衣 *ʔajaha-*
 ちよう〔長〕 *ʔatama*, →かしら *berunSu*
 ちようか〔長歌〕 *çirani*
 ちようが〔朝賀〕 →*coonuʔunjuhwee*
 ちようかする〔超過する〕 *hajagajun*, →お
 おすぎ, すぎる
 ちようけし〔帳消し〕 *caahwiihwii, caa-*
 ちようこう〔兆候〕 →きざし *hwiitoo*
 ちようごうする〔調合する〕 *ʔaasjun*
 ちようこく〔彫刻〕 *huimun*
 ちようさ〔調査〕 *ʔaratami*, →しらべ
 ちようじ〔丁子〕 *coozi*
 ちようじぶくろ〔丁子袋〕 *coozibukuru*
 ちようじぶろ〔丁子風炉〕 *cooziburu*
 ちようじゆ〔長寿〕 →ながいき/ ～の薬 *ucigusui*
 ちようしゅんか〔長春花〕 *coosjun*
 ちようしょ〔長所〕 *tuidukuru*, →とりえ
 ちようしょう〔嘲笑〕 *ʔazamuciwaree, ʔazawaree*, →れいしょう/ ～する *ʔwaree-*

kuzijun, →ʔwarajun
 ちようじょう〔頂上〕 *çizi, ʔjamanuçizi, maqçizi*
 ちようじょう〔重畳〕 *coozoo*
 ちようず〔手水〕 *cuuzi*
 ちようずばち〔手水鉢〕 *cuuzibaaci*, →*saa-*
 ちようせん〔朝鮮〕 *kooree* *huN*
 ちようぜん〔超然〕 /～とかまえている者 *takaʔucagaa/* ～とする →*takaʔucagi*
 ちようだい〔頂戴〕 →いただく/ ～物をする
 こと *şidigahuu, şiduugahuu*
 ちようちん〔提灯〕 *coociN*
 ちようちんもち〔提灯持ち〕 →*coociNmuci*
 ちようと〔長途〕 *nagamici*
 ちようど〔丁度〕 *çintu, coodu/* ～よい *na-*
wajun
 ちようなん〔長男〕 *cakusi, coonaN*
 ちようはつする〔挑発する〕 *ʔwakujun*
 ちようほう〔重宝〕 →べんり/ ～な物 *sjoomun*
 ちようむすび〔蝶結び〕 *ʔjamatumusun*
 ちようめい〔長命〕 →ながいき
 ちようめん〔帳面〕 *coomiN*
 ちようようのせつ〔重陽の節句〕 /～の酒
cikuʔuzaki
 ちようろう〔長老〕 →*cooroo*
 ちようわする〔調和する〕 *şinajun, ʔuca-*
jun/ ～すること *ʔucaisinai*
 ちよくちよう〔直腸〕 *çibinumaai, ʔiiwa-*
tagwaa 「*gasa*
 ちよこちよこ /～とすること *gumagasa-*
 ちよっと *biqceen, biqceengwaa, ʔicuta-*
a, kuuteen, →すこし, ちよっぴり/ ～
 の間 *ʔicuta, ʔusunuma/* ～前 *nama-*
gata
 ちよっとみ〔ちよっと見〕 *ʔaqtabazoo*
 ちよっぴり *biqceen, biqceengwaa, ʔiki-*
ragwaa, kuuteengwaa, →ちよっと
 ちよろまかす *keetujun*, →ごまかす
 ちよんぎる *ʔusicijun*, →きる

ちらかす〔散らかす〕 cirakasjuN, sizeerakasjuN, →とりちらす
 ちらかる〔散らかる〕 hoorijun, sizeerijun, →ちる/ 散らかっていること kaci-hoorii, →らんざつ
 ちらしぐすり〔散らし薬〕 cirasigusui
 ちらす〔散らす〕 cirasjuN, hoojuN, →ちらかす
 ちり〔塵〕 ciri, →ごみ, じんあい, ほこり/ ~と泥 cirihwizi
 ちりあくた〔塵芥〕
 ちりぢり〔散り散り〕 ciriziri, naaciriziri, tuqcirahaqaira, →ばらばら

ちりとり〔塵取り〕 ciritui
 ちりょう〔治療〕 'joozoo/ ~するさま 'joozoozoo/ ~の手おくれ 'joozoo?uku-
 ちる〔散る〕 cirijun, →ちらかる [ri
 ちんがり〔貸借り〕 cinsingai
 ちんせん〔貸銭〕 cinsin
 ちんちゃくさ〔沈着さ〕 ?utiçici
 ちんちん〔小児語〕 cuucuu
 ちんでんする〔沈殿する〕 'ijun, →よどむ
 ちんでんぶつ〔沈澱物〕 guri
 ちんにゅうしゃ〔闖入者〕 'wagakaimun
 ちんにゅうする〔闖入する〕 'wagakajun

つ

つい〔対〕 çii/ ~の物 guutumiiitu
 ついえ〔費え〕 →ひよう
 ついえる〔費える〕 çikurijun, taarijun, teejuN, →しょうひする
 ついかする〔追加する〕 ?iriçiijun, ?waa-sjuN, →おぎなり
 ついたち〔朔〕 çiiitaci
 ついで〔序で〕 çiiidi
 ついに〔遂に〕 →?uzumi, やっと 「う
 ついほう〔追放〕 →tukurubaree, おいはら
 ついやす〔費す〕 →しょうひする
 つういんする〔痛飲する〕 kaşijun
 つうじ〔通じ〕 çuuzi
 つうじん〔通人〕 sjuzoonin
 つうたつ〔通達〕 taqsi, →しらせ
 つうやく〔通訳〕 tuuzi
 つうろ〔通路〕 tuuimici, →かよいじ
 つえ〔杖〕 guusjan/ ~の一種 dasicaa-
 つか〔塚〕 çika, →çinmaasaa [guusjan
 つかい〔使い〕 çikee, (敬語) ?uçikee/ ~にやる çikajun
 つかいかた〔使い方〕 çikeekata

つかいこなす〔使いこなす〕 ?açikajun
 つかいこむ〔使い込む〕 →hugasjuN
 つかいべり〔使い減り〕 çikeebinai
 つかいみち〔使い道〕 çikeemici
 つかう〔使う〕 çikajun, →ときつかう/ 使いにくい ?açikeegurisjan
 つかえる〔仕える〕 hwirajun, 'wanda-jun, →ほうしする/ ~こと hwiree, →biree, -?waan-dee
 つかえる〔支える〕 çikeejun, →とどこおる/ つっかえ つっかえ çikeehwikee/ 食物がのどに ~さま ciiciikaakaa
 つかまえる〔掴まえる〕 kaçimijun, →とつつかまえる, とらえる/ つかまらないさま muqcurugeei
 つかみ〔掴み〕 -çikan
 つかみあい tueçikamee 「nun, →にぎる
 つかむ çikanun, kaçimijun, kaqçika-
 つかる〔漬かる〕 çikajun, →çirugajun
 つかれ〔疲れ〕 kutandi, siikutandi, 'utai, →かろう/ ~を直すこと kutandinoosi
 つかれる〔疲れる〕 çikarijun, kutandi-

つか

jUN, 'utajUN/ 疲れた目付き miikeeraa/
疲れ果てること siikutandi
つかわす[遣わす] çikajUN
つき[月] çici, Tuçici, Tucicuu, (小児語)
tootoo, tootooganasiimee, tootoomee,
Tucicuumee/ ~が出る →tujunUN/ ~
の中にいる者 →?akanaa
つき[月] çici/ ~ごと çicinuKaazi/ ~単
位の無尽講 çicimuee
つき[繕ぎ](衣服の) kuu
つき[次] ?atu
つきあい[付き合い] hwiree, maziwai,
qcubiree, tueehwiree, tuiee, tuihwiree,
tuiee, →biree, kugee, tunZaa-
janZaa, こうゆり, こうさい, しゃこう
つきあう[付き合い] hwirajUN, maziwa-
jUN, →こうさい/ 付き合いにくい hwiree-
gurisan/ 付き合いにくい者 hwiree-
gurii/ 付き合いやすい hwireejaQsaN/
付き合っている人びと hwireenINZu
つきあける[突き開ける] çici?akijUN, çic-
eihugasjUN
つきあたり[突き当たり] çici?atai「つかる
つきあたる[突き当たる] çici?atajUN, →ぶ
つきあわせる[繕ぎ合わせる] çizaasjUN
つきうす[搗き臼] çici?uusi
つきかけ[月影] çicikazi 「gasa
つきがさ[月暈] ?amagasa, çicinu?ama-
つきき[接ぎ木] çiziki 「くずす
つきくずす[突きくずす] kacikunSjUN, →
つきさす[突き刺す] çicikuzijUN, →さす
つきずえ[月末] çicišii
つきだす[突き出す] neejUN
つきとばす[突き飛ばす] ?usikeerasjUN
つきぬける[突き抜ける] çinPukijUN, →つ
つきのもの[月のもの] →げっけいしらぬく
つきはぎ çizaahazaa, çizaasihazaasi/
~だらけ kuusiikaasii
つきはなす[突き放す] çicihanasjUN
つきひ[月日] çicihwi

つきまとう maçibujUN, →まつわりつく/
~さま kakaišigai, sirihwicimeehwic
つきみ[月見] çicimi, çicinagami
つきめ[繕ぎ目] çiziguci
つきもの[憑きもの] kakaimUN
つきよ[月夜] çicinujuu, çicuu
つきわり[月割り] çiciwai
つく[付く] çicUN, →くつつく
つく[着く] çicUN, →tujUN
つく[点く] çikajUN
つく[突く] çicUN, nucUN, →つつく
つく[撞く] çicUN
つく[憑く] ?uqcakajUN/ ~こと taari
つぐ[繕ぐ] çizUN/ 繕いだりはいだり
kuusiikaasii, →つぎはぎ
つぐ[注ぐ] çizUN, ?irijUN, sasjUN, (敬
つぐえ[机] sjuku [語] ?ukagijUN
つくす[尽くす] çikusjUN, 'wandaJUN
つくづく çikuziku, ?jukuujukuu
つぐなう[償う] 'wanCameejUN, →べん
しょうする/ 償わせる hakijUN
つぐみ[鞆] mootui/ 毛の抜けた~ kiiha-
gi mootui
つぐむ çigunUN, ?uqçigunUN
つくり[作り] →ぞうさく
つくりかえ[作りかえ] çukuikee
つくりかた[作り方] çukuikata, mutina-
si, siihoo
つくりごえ[作り声] çukuigwii
つくりごと[作りごと] çukuigutu, çukui-
munii, çukuimunu?ii
つくりざかや[造り酒屋] sakaja
つくりそこない[作り損ない] çukuijan-
zi, →しっぱい
つくりつけ[作り付け] siçiki/ ~にする
siçikijUN/ ~の衣裳戸棚 siçikigwii/
~の仏壇 siçiki?ubuçidan
つくりばなし[作り話] çukuibanasi
つくりわらい[作り笑い] çukuiwaree
つくる[作る] çukujUN, sitatijUN/ 作り

そこなり çukuijanzun, →しっぱい/ 作
 ってひろげる çukuihwirumijun/ 船を
 ~ →hazun/ 新しく~ →しんぞう
 つくろう〔繕う〕 çizun, çukurijun, çu-
 kurijun, →しゅうぜん, つぐ/ つくろ
 い整えること çukurii-kuntii
 つげ〔告げ〕 çigi
 つげあがる ?ameejun, çicagajun/ ~こ
 と boo?agai, →ぞうちょう
 つげぎ〔付け木〕 çikidaki
 つげぐすり〔付け薬〕 çikigusui, →こうやく
 つげぐち〔告げ口〕 çicagimoosjagi, koo-
 zin, moosjagi/ ~する koo sjun, tuu-
 つげとどけ〔付け届け〕 çikituduki [sjun
 つげな〔漬菜〕 çikina
 つげね〔付け根〕 çicikuci, niisisi
 つげび〔付け火〕 çikibi, →ほろか
 つげひも〔付け紐〕 çinnuu
 つげもの〔漬物〕 çikimun, (小児語) koo-
 ruu, →こうのもの/ ~の一種 ?asaziki,
 ziziki
 つげる〔付ける〕 çikijun, →?wii?ucun,
 くっつける, とりつける/ 付け回すさま
 ?wiiçikimaaçiki/ つけて明るくする ç-
 ki?akagarasjun
 つける〔着ける〕 çikijun, ?uraakijun
 つける〔着ける〕 çikijun
 つげる〔告げる〕 çigijun, →い
 つごう〔都合〕 çigoo, tanari, →ぐあい
 つじぎみ〔辻君〕 hweezuraa, hweezuri,
 saNgwanaa, →じょうろ
 つじつま〔辻棲〕 çibikuci
 つた〔藁〕 çita
 つたえばなし〔伝え話〕 çiteebanasi
 つたえる〔伝える〕 çitajun, çiteejun
 つたわる〔伝わる〕 çitawajun
 つち〔土〕 'Nca/ ~のかたまり 'Ncabuku/
 ~の一種 zaagaru/ ~の中 'Ncanumii
 つち〔穂〕 / ~の一種 kakizici
 つちあそび〔土遊び〕 'Ncamutaan
 つちくれ〔土くれ〕 'Ncabuku

つちのえ〔戊〕 çieinii
 つちのと〔己〕 çieinutu
 つちふまず〔土踏まず〕 hwisjanuwata
 つつ(……しながら) -agiinaa, -gacii,
 -ganaa/ ~ある -agijun
 つっかいぼう〔つっかい棒〕 çikasi
 つっかかる〔突掛かる〕 tuçkakajun
 つづき〔続き〕 →çirugi
 つつく çigicun, →つく
 つづく〔続く〕 çirugajun, çizicun,
 →?aqcun/ 続いて(~かぎり) nagadu-
 si, nagiduusi [jun, mutuusjun
 つづける〔続ける〕 / 続けてする mutu-
 つっけんどん ciikwaaniikwaa, →ぶあい
 そろ / ~な声 sicigwiiniigwii/ ~な返事
 kuhwahwizi
 つっこむ〔突っ込む〕 ?usincun [kuguni
 つつしみ〔慎み〕 çičisimi/ ~深いこと tui-
 つつしむ〔慎む〕 çičisinun, kuguniijun
 つつそで〔筒袖〕 tiçpuusudii
 つつぬけ〔筒抜け〕 tuuruu, ?uutuuruu,
 ?uutuuruukaa
 つっぱなす〔突っ放す〕 ?usihanasjun
 つっぱり çikasi
 つつましい kumasan, sjuuteekumasan,
 →しっそ/ つつましくする kumeekijun
 つつみ〔包み〕 çičimi, çičin
 つつみ〔堤〕 ?amooçi, ?amuci, ?amutu
 つつみ〔鼓〕 çiziN, →paarankuu/ 大きな
 ~ ?uuçizini/ ~の音 boronboron
 つつむ〔包む〕 çičinun
 つづれ〔綴れ〕 hukutaa
 つて〔伝手〕 çiti, hwici
 つと〔苞〕 hwintu, →çitu
 つと〔都度〕 kaazi, →たび
 つとに →hweeku
 つとめ〔勤め〕 →きんむ
 つとめる〔勤める〕 garamicun, çitumijun
 つとめる〔努める〕 çitumijun, →どりよく
 する, はげむ/ 努め励むこと sjuqsii

つな

つな〔綱〕 →なわ

つながる〔繋がる〕 çirugajuN, →つらなる / つながっているもの çirugi

つなぐ〔繋ぐ〕 çinazuN, çiruzuN çizuN, →むすぶ/ つなぎ合わせる çizaasjuN, kusajuN

つなひき〔綱引き〕 çinahwici, →?aizoo-?uunna, ?uunna/ ~で鉦太鼓を打つ者 sjooguniNzu, sjoogu?uci/ ~でたいまつを振る者 teehujaa/ ~で綱の上に乗る, 扮装した人物 sitaku/ ~の綱 →miinna, tiinna, 'uunna/ ~の綱に通す棒 kani-ci, kaniciboo/ ~の綱に棒を通す者 kaniçiçizaa/ ~の綱のつなぎ口 →kaniçiguci/ ~の時の掛け声 haaija/ ~の時の鉦の音 gwaangwaan/ ~の時の鉦鼓の音 kiçtaakiririn/ ~の時の旗 →hatagasira/ ~の時の旗持ち hatagasiramuci/ ~の時のもみ合い gaaee

つなみ〔津波〕 sigarinami

つね〔常〕 çini/ ~に caa, →しじゅう

つねる çinuN, çinçikijun, çinkijun, hwiinmudijun, nizijuN, →ねじる, ひねる

つ〔角〕 çinu/ ~で突き上げる kamijuN/ ~の生えたもの çinumiijaa

つのだい〔角細工〕 çinuzeeku

つのだ〔植物名〕 çinumata

つのだ〔募〕 nucun

つば〔唾〕 çinpee, kucisiru/ ~をはく →

つばき〔椿〕 çibaci [tuhweemikasjuN

つばさ〔翼〕 hanigee

つばめ〔燕〕 maçtaraa

つぶ〔粒〕 çizi/ ~のあるもの →çizinu-mun/ ~の大きいもの ?araa

つぶて〔礫〕 ?isibuku

つぶれる〔潰れる〕 sipirijuN, →ぺしゃんこ

つぼ〔坪〕 çibu [/ つぶれたもの sipizaa

つぼ〔壺〕 çibu, →かめ

つぼ〔灸点〕 çibu

つぼおり〔壺折り〕 →çibui

つぼみ〔蕾〕 çibumi, kukumui, muçkuu

つぼむ〔蕾む〕 çibunun, kukumujuN

つぼややき〔壺屋焼〕 çibujajaci

つま〔妻〕 tuzi, →さいし/ ~のしりにしかれること tuzinukookoo/ ~びいき tuzi-biici/ ~をめとる →kameejuN, tumeejuN

つま〔棲〕 meesuba, →?Nnazi/ ~が合わないこと kata?Nnazi

つまきれない〔植物名〕 tiNsjaaguu

つまさき〔爪先〕 →kootu

つましらべ〔爪調べ〕 çindami

つまずき〔躓き〕 kiçcaki 「makurubi

つまずく〔躓く〕 / つまずいて転ぶこと çi-

つまはじき〔爪弾き〕 →hazikeehazikee

つまびき〔爪弾き〕 ?iibibançi, →hwiçida-

つまみ sjuuci [misi

つまみあらいする〔つまみ洗いする〕 tuçci-juN 「naabisagui

つまみぐい〔つまみ食い〕 hwiriNçami,

つまむ / つまんで染める tuçcijun

つまる〔詰まる〕 çimajuN, katamajuN, sasiçimajuN/ ~こと çimai

つまあげる〔積み上げる〕 →つむ

つまかさなる〔積み重なる〕 çimujuN

つまちん〔積み賃〕 çimidima

つまとが〔罪科〕 çimituga, →とが

つみに〔積荷〕 çimini

つむ〔積む〕 çinuN, mazinuN, →かさねる

つむ〔摘む〕 çinuN

つむぎ〔袖〕 çimuzi, maN/ ~織りのはちまき maNsaaçi/ ~の礼服 maNwatan-

つむぐ〔紡ぐ〕 çinzun 「su, maNwataziN

つむじ〔旋毛〕 maci/ ~が一つの者 tiçi-macaa/ ~が二つある者 taaçimacaa

つむじかせ〔つむじ風〕 kazimaci, →たつまき

つめ〔爪〕 çimi, →kootu/ ~にできる腫れもの çimimaaçaa/ ~の垢 çimikusu

つめ〔詰め〕 çimi

つめあと〔爪跡〕 çimikata
 つめたい〔冷たい〕 hwizurusan/ ～水
 hwizurumiçi/ ～もの ?oohwizuru/
 冷たくなつたさま hwizuikaa/ 冷たくな
 る hwizujun
 つめよる〔詰め寄る〕 šiicikakajun, tagu-
 ikakajun
 つめる〔詰める〕 çimijun, çinun/ 詰めき
 りの奉公 çimibuukuu
 つもり →gukuru 「çimui
 つもる〔積もる〕 çimujun, çinun/ ～こと
 つや〔艶〕 hwicai/ ～が出る haneecun,
 hwicajun
 つゆ〔梅雨〕 →sjuumanboosjuu
 つゆ〔露〕 çiju
 つよい〔強い〕 cuusan/ ～者 cuubaa/
 強く ciçtu, cuuku, 'NZUNZuutu, ?umi-
 ciçtu, cuuzuuku, kun-/ 強くしばる
 kuntabajun/ 強くする cuumijun/ 強
 くなる cuujun, cuumajun
 つよまる〔強まる〕 cuumajun
 つよめる〔強める〕 cuumijun
 つら〔面〕 çiragamaci, →かお/ ～の皮が
 厚い者 çiranukaa?açii
 つらあてに〔面当てに〕 'wacakoogeezi
 つらい〔辛い〕 kuçisan, →くるしい/ ～こ
 と ?awari
 つらがまえ çiramukumi, →かおつき
 つらなる〔連らなる〕 çirugajun, →?uuçi-
 rugaaajun, →ならぶ/ ～もの çirugi
 つらぬく〔貫く〕 nucun, →つきぬける「る
 つらねる〔連らねる〕 çirugijun, →ならべ

つらよごし çirajugusi, kusihwici/ ～者
 kusihwicimun
 つりあう〔釣合らう〕 nawajun, nioojun,
 つりがね〔釣鐘〕 çicigani L→にあらう
 つりざお〔釣竿〕 çinbuku
 つりせん〔つり銭〕 keei, keesimudusi
 つりばり〔釣針〕 ?ijuzii
 つる〔弦〕 çiru
 つる〔鶴〕 çiru, çiruntui/ ～は千年亀は万
 年 siNçiru mankani
 つる〔釣る〕 çijun
 つるくさ〔蔓草〕 kanda
 つるしかぎ〔つるし鈎〕 gakizuu, gakizaa
 つるそば〔植物名〕 siiboozaa
 つるつる →なめらか
 つるべ〔釣瓶〕 çii/ ～井戸 çiiçaa/ ～繩
 çiiuuu
 つるむ çirubun, →こらせつする
 つるれいし〔植物名〕 gooçaa 「çiriniNzu
 つれ〔連れ〕 →とも, なかま/ ～の人たち
 つれあい〔配偶〕 tacinaaka, ?umusubi
 つれそう〔連れそう〕 →つれる
 つれだつ〔連れだつ〕 →つれる
 つれない çirinasan, →はくじょう, ぶあ
 いそう, むじょう
 つれる〔連れる〕 çirijun, soojun, ?usi-
 çirijun
 つわぶき〔植物名〕 çihwahwa 「aimaki
 つわり〔悪阻〕 saai/ ～で体が弱ること sa-
 つんのめる / ～こと meeçinta

て

て〔手〕 tii, →ti, (敬語) 'Nci, (卑語) tiç-
 koo, →うで, かいな/ ～がだるい tiida-
 rusan/ ～がとどかない →tii/ ～がねば

ねばするさま tiimucamuca/ ～がのろい
 tiiniisan/ ～が早い tiibeesan/ ～で水を
 飲ませること →timizi/ ～でもむこと tii-

mimizi/ ~に余る仕事 ?abacisigutu/ ~
 におえない haçikoorii, tuin çimi na-
 ran/ ~に取れるほど近いさま tiituru-
 ra/ ~に持てる荷物 mucinii/ ~のいたず
 ら tiigoo, tiimutaan, tiinuganmari,
 tinçama/ ~の内 tinuçuci/ ~の数 tika-
 zi/ ~入丁口入丁 ?ihaciroohaci/ ~を合
 わせる →tii/ ~を後についてすわること
 tiiguusjan/ ~を下す kaganasjun/ ~
 を出す →nusikijun, tii/ ~を加える ka-
 ganasjun/ ~をこまねくこと tiitooda-
 acii/ ~を放すこと →tiijurusjaa/ ~を
 よごすこと tiinzari/ ~をよごすこと ti-
 iinzari/ ~をわずらわすこと tiiwacaree
 で(助詞) -kara, -çsi, -saai, -saani, -uti,
 -utooti
 であう[出会う] hai?icajun, hajaasjun,
 ?icaajun, ?icajun, →あり, でくわす/
 出会え dijoori
 てあし[手足] gutee, tiihwisja/ ~まとい
 tiihwisjamaçibui
 てあて[手当] ?joozoo
 てあぶり[手焙り] hwiiruu, tii?abui
 てあらい[手洗い] mizikubusi, tii?aree
 てあらい[手荒い] tii?arasan
 である ?jan, (敬語) dajabiru, deebiru,
 ?ujanşeen, ?waanşeen, ?wenşeen, →
 であるく[出歩く] →?açihwici しです
 ていご[梯梧] (植物名) diigu
 ていさい[体裁] miijoo, tanari
 ていしゅ[亭主] tiisju
 ていたらく sikata, sitaraku, →ありさま,
 ていち[低地] sagai しようす
 ていちずる[定置する] ?ucikijun
 ていちょう[丁重] tuikuguni, →ていねい
 ていど[程度] sjaku, →ど, ほど
 ていとう[抵当] kata, sicimuçi tiitoo
 ていねい[丁寧] tiinii, →ていちょう/ ~
 なことば sisiikutuba/ ~にする sisijun

ティーパーティー ?ucahukaşee, ?ucawa-
 ていはく[碇泊] hunagakai [kaşee
 でいり[出入り] ?Nzi?iri, ?Nzikaatirika
 ていれ[手入れ] mucinasi, tii?iri 「ri
 ておくれ[手遅れ] ?joozoo?ukuri, tii?uku-
 ておの[手斧] ?juuci, tiin, saahungwaa,
 saahunjuuci, →'uun
 てがかり[手掛かり] tigakai, →たんちよ
 てかげん[手加減] tigukuru/ ~する →
 tankijun
 てかご[手籠] tiiru, →かご
 てかす dikasjun/ でかした sitai, sitari
 てかせ[手かせ] tiiguruma
 てかちぎ(植物名) tikaci
 てがみ[手紙] bin, hagaci, tigami, zoo,
 (敬語) →guzoo, たより
 てがら[手柄] tigara/ おお~ ?uutigara
 てき[敵] tici
 てきあがる[出れ上がる] diki?agajun, →
 かんせい/上できに~ ?Nmarijun/ ~こと
 てきごころ[出来心] mirujuku [sjuubi
 てきする[適する] husaajun, şinajun,
 husajun, ?ucajun/ ~さま ?ucataika-
 natai 「→しっぱい
 てきそこない çukuijanzi, naikuzirimun
 てきそこなう ?jandijun, naihansjun,
 naikuzirijun, →しっぱい
 てきたて/ ~の食べ物 siihana
 てぎね[手杵] ?azin, →きね
 てきばきしている cibiraasjan, →さっさと
 てきぶつ dikijaa
 てきもの / ~の名 →ひふびよう
 できる dikijun, najun/ できかかる mu-
 zukujun/ できかねること →kantii/ ...
 することが~ -juusjun, =rijun/ ~だけ
 →なるべく
 てぐす[天蚕糸] tigusu, tigusui
 てくせ[手癖] tiigusi
 てぐち[出口] ?Nziguci
 てくばり[手配り] →てはい

てくび〔手首〕 tiinukubi/ ~の痛むこと
tiiza
てぐみ〔手組み〕 tigumi
てくわす〔出くわす〕 hajaasjun, haqca-
kajun, →あり, である
てこ〔梶子〕 tiku
てごころ〔手心〕 tigukuru, →てかげん
てこずる〔手こずる〕 mutiwakasjun
てごと〔手事〕 tigutu
てこぼこ guuhwaahwiihwaa, tugaihwii-
gai
てさき〔手先〕 / ~が器用なこと tiguma/
~の仕事 tiisigutu, tiiwaza/ ~の間違
い tiimamizi
てさぐり〔手探り〕 tiisagui
てしごと〔手仕事〕 tiisigutu, tiiwaza
てした〔手下〕 sinka, →はいか
てしゃぱり〔出しゃぱり〕 nusikaimun, sa-
sihan kimun, sasihan kaa
てしゃぱる〔出しゃぱる〕 sasihan kijun/
~こと meejuujui, meenainai meenu-
bagai, sasihan kigutu
てす〔敬語〕 deebiru, →-abijun, dajabiru,
てすう〔手数〕 tikazi, →やっかい である
てすり〔手摺り〕 dan kan, rankan
てせい〔手製〕 duukuruzukui, tizukui
てそう〔手相〕 tisoo
てだし〔出だし〕 ?uqtaci, →たんちょ
てだすけ〔手助け〕 →かせい
てだて →ほうほう
てぢか〔手近〕 →tiizikasan
てつ〔鉄〕 kurukani, tiçi
てづかえ〔手支え〕 tiizikee, tizikee
てづかみ〔手摺み〕 tiizikaan
てつき〔手付き〕 →てぶり/ ~足つき tiijoo-
hwisjajoo
てづくり〔手作り〕 →てせい

てっせん〔鉄銭〕 kurukanii
てつだい〔手伝い〕 kasii, tiganee
てつなべ〔鉄鍋〕 ?imuNnaabi
てつびん〔鉄瓶〕 ?imuNjaqkwan, tiçija-
qkwan
てっぶり butibutiitu/ ~太っているさま
kweegweetu
てっぺん →ちょうじょう
てっぼう〔鉄砲〕 tiqpuu
てつや〔徹夜〕 'juu?akiduusi/ ~で 'juu-
?akiduusii
てづる〔手蔓〕 →つて
てなずける〔手なずける〕 tiizikijun
てなみ〔手並〕 →うでまえ
てならい〔手習い〕 tiinaree, tinaree
てにもつ〔手荷物〕 mucinii
てぬぐい〔手拭〕 tiisaazi, (敬語) nagan-
saazi/ 花もよりの~ hanazumitiisaazi
てぬるい〔手ぬるい〕 'jurusAN, →なまぬ
るい
てのひら〔掌〕 tiinu?ura, tiinu wata, tin-
da/ ~のすじ tiinu?aja
ては diqkaa, 'iihii, 'oohoo, 'uuhuu
てはい〔手配〕 tigumi, tikubai
てはいり〔出入り〕 ?Nzi?iri, ?Nzika?iri-
kaa
てはず〔手筈〕 tigumi
てばな〔出端〕 ?Nzihana
てばな〔出花〕 ?irihana, ?Nzihana
てばなす〔手放す〕 tiikarahanasjun, ti-
banasjun, →tii/ 手放せない ?aqtaru,
?atarasjan/ 手放せないもの ?atarasi-
mun
てばやい〔手早い〕 tiibeesan/ 手早く ka-
siikasii
でぶ bukutoo, buqtarakoo, buqtara-
kuu, buqtee, butaa, butuu, kweebu-

てぶ

taa, kweetaa, kweetuu
てぶそく〔手不足〕 tiiburaari, tiibusuku
てふね〔出船〕 ?Nzihuni/ ~の祝い ?Nzi-
huni?uiwee
てぶら〔手ぶら〕 'Nnadii, 'Nnadiikaradii,
'Nnadauu, Nnadaukaraduu
てぶり〔手振り〕 tihui, tiijoo, →てまね/
~足ぶり tiijoochwisajoo
てべそ〔出隣〕 tenbusu, ?wenbusu/ ~の
者 ?wenbusaa
てべんとう〔手弁当〕 mucibanmee
てほん〔手本〕 hwinagata, maqkwa, ti-
hun, →きはん
てま〔手間〕 tima/ ~賃 tima, timaciN/
~つぶし timadaari
てまくら〔手枕〕 tiimaqkwa, timakura,
→?udimaqkwa
てまどる〔手間取る〕 karakajun, muqco-
orijun/ ~さま muqcaihwiqcai, muq-
coohwiqcoo/ ~時間 timahwima
てまね〔手真似〕 timani, →てぶり
てまねき〔手招き〕 tiimanici, tiimanuci,
timanuci
てまわし〔手回し〕 timawasi
てむかい〔手向かい〕 tiinkee
てむかえ〔出迎え〕 →hunaNkee
ても〔助詞〕 -teeman, -teen, -tun
でも〔助詞〕 -ndee
てら〔寺〕 tira, (敬語) ?utira/ ~の中央
?umukoo
てらつばき →saataagii
てらまいり〔寺参り〕 tiramunumee
てりがやく〔照り輝く〕 tiracagajun
てりはほく〔植物名〕 'janabu, 'jarabu
てりわたる〔照り渡る〕 tiriwatajun
てる〔照る〕 tijun
でる〔出る〕 ?nzijun, →?eejun, nucaga-
jun, nusikajun/ 出たり入ったり ?Nzi-
kaa?irikaa/ 出かかる muzukujun, nu-

sikajun/ 茶が出過ぎる ?nzikuhwajun
てわけ〔手分け〕 tiwaki
てわたす〔手渡す〕 / ~こと tiiwatasi
てん〔天〕 →そら/ ~に昇るよう→taka
てん〔点〕 ?uqciki
てん〔店〕 →macija
てんい〔天意〕 ?utingutu
てんうん〔天運〕 tinsuu, →らん
てんか〔天下〕 tinga
てんがい〔天蓋〕 tingee
てんかする〔転嫁する〕 / 転嫁させる相手
→?i?nmanukura
てんき〔天気〕 tinci, ?waaçici
てんきあめ〔天気雨〕 tiida?ami, tiidabui,
→takanusiihai
てんぐ〔天狗〕 tingu
てんこ〔点呼〕 ninzu?aratami
でんごん〔伝言〕 dingun, ?ijai, tuziki/
~する tuzikijun
てんし〔天子〕 tinsi
てんじく〔天竺〕 tinziku
てんじょう〔天井〕 tinzoo
でんしんばしら〔電信柱〕 diisinbaaja
てんすい〔天水〕 tinšii
てんすいがめ〔天水甕〕 tinšiiigaami
てんせい〔天性〕 ?nmarizimu, →まれつ
でんせつ〔伝説〕 çitee. çiteebanasi [き
でんせんする〔伝染する〕 ?uçijun
でんせんびょう〔伝染病〕 →huuci
てんたく〔転宅〕 →ひっこし
てんち〔天地〕 tinci
てんてこまい tiihwisjadoori
てんにん〔天人〕 tinnuqcu/ ~の井戸 ?a-
moorigaa/ ~の子 ?amooriingwa
てんねんとう〔天然痘〕 curagasa
てんばつ〔天罰〕 tinbaçi
てんぶら hukumiN, tinpura
てんぶん〔天分〕 takibun, →りまれつき
でんぶん〔澱粉〕 kuzi, →くずこ

てんま〔伝馬〕 tinma
 てんまつ〔頼末〕 sjobi
 てんめい〔天命〕 tinmii, ?usaaami, ?u-

tingutu, →うんめい
 てんもん〔天文〕 tinmun
 てんやわんや →あわてる

と

と〔戸〕 →hasiru, meezu
 と〔斗〕 -tu
 と〔助詞〕 -Ndi, -tu/ ~言い→ -tee/ ~言
 って Ndici/ ~言う -tiru, -Ndiru/ ~い
 りもの→ -tiramun, -tiši/ ~いうこと
 -tiši/ ~思えば -tumiba/ ~思え -tu-
 muri/ ~思っ -tumuti
 と〔度〕 →-du/ ~がすぎる şizijun/ ~を
 過ぐす şigusjun
 とい〔繩〕 tii
 といし〔砥石〕 tusi 「→どの
 どいつ tanihja, tanuhja, tannumun,
 といつめる〔問い詰める〕 →tuisimikaasi-
 mi, tuqimijun
 とう〔簾〕 tuu
 とう〔唐〕 →too
 とう〔頭〕 -kara
 とう〔問う〕 tuujun, →たずねる
 どう caa, ?ica/ ~あろうとも ?anarawa-
 N, ?anerawan, nuujatiNkwiijatiN/
 ~か doodin, tootu, tandi/ ~かどう
 か tanditandii/ ~したところで ?ansinka-
 nsin/ ~して caasi, nugasi, →caa/ ~
 しても caasin, ?ikanasin, nuusawan/
 ~しよもない caankaan, naran,
 tuin çimin naran/ ~でもこりでも
 caasinkaasin/ ~ともなれ ?ahjanga-
 ree, ?aqpangaree/ ~にか caagana,
 ?icasigana
 どう〔馬を制止する声〕 doo/ ~どう doo-
 doo
 どう〔胴〕 →duu, どうたい

どう〔銅〕 ?akugani/ ~のやかん ?akuga-
 nijaQkwan
 どうあげ〔胴上げ〕 bui, buidoo
 どういする〔同意する〕 →さんせい
 どういつ〔同一〕 'inutiçi, →tiiçi, おなじ
 どういつにん〔同一人〕 'inuçu
 どういつぶつ〔同一物〕 tiiçimun
 とうか〔灯火〕 ?akagai, →とぼし
 とうか〔鋼貨〕 ?akazinaa
 どうがく〔同額〕 'inu?uqsa, 'insa
 とうがらし〔唐辛子〕 kooreegusju
 とうがん〔冬瓜〕 sibui
 どうかん〔同感〕 'inukan
 とうき〔陶器〕 zoojaci, →やきもの/ ~の一
 種 cibanjaci, çibujajaci 「nucinmuci
 とうきび〔唐黍〕 toonucin/ ~の餅 too-
 とうぎゅう〔鬪牛〕 ?usi?aasi
 とうぎゅうじょう〔鬪牛場〕 ?usinaa
 とうぎょ〔統御〕 'usamigata
 とうぎょ〔鬪魚〕 toobiraa
 とうきょう〔東京〕 toocoo
 どうぐ〔道具〕 doogu/ ~一切 dooguhjoo-
 gu/ ~がよいこと doogumasai
 どうくつ〔洞窟〕 gama
 とうくねんぼ〔唐九年母〕 tookunibu
 とうけい〔鬪鷄〕 çiciçidujaa, taucii, ta-
 wacii/ ~で, けんかをけしかけること
 とうごく〔投獄〕 ruugumi 「çiciçidui
 とうごま〔唐胡麻〕 →ひま
 とうざい〔東西〕 →tuzaï
 とうじ〔冬至〕 tuuzi, →tunzii/ ~のころ
 の寒さ tunziibiisa/ ~に作るまぜ飯

どう

tunziiguusii

どうし[同志] -duusjaa, →なかま
 どうじ[同時] 'inutuci, →いちど/ ~に
 どうじつ[当日] toohwi 〔→?aaci
 どうじつ[同日] 'inuhwii
 どうしん[灯心] sin, tuuzin
 どうしん[童心] 'warabizimu
 どうしんぐさ[燈心草] ?ootuuzin, 'ii,
 tuuzinii
 どうずる[動ずる] duuzijun
 どうせい[統制] 'usamigata
 どうせん[唐船] toosin
 どうぜん[当然] sizen, sizeni, zuN, →あ
 たりまえ, ごもつとも
 どうぞ doodin, tandi, tootu, →ぜひ/
 ~どうぞ tanditandii 〔→にげる
 どうそうする[逃走する] nugihwasijun,
 どうぞく[同族] 'ncantiiçi, şizimuti
 どうそじん[道祖神] şeenukan
 どうたい[胴体] duutee, →どう
 どうちゅう[道中] doocuu, micinaka, →
 みちすがら/ ~に歌り歌 micizuta
 どうづき[胴突き] →zibuku
 どうとう →?uzumi, やつと
 どうとう[同等] →sajuu
 どうとぶ[尊ぶ] ?agamijun, taqtubun,
 ?usurijun, →りやまら/ ~気持 ?usuri/
 ~こと ?waagami
 どうにゅう[豆乳] toohunujuu
 どうにん[当人] hunniin, zintii
 どうねん[同年] 'inutusi 〔'inuca
 どうねんばい[同年配] çirimi, 'inujuca,
 どうはつ[頭髮] →かみ
 どうはんする[同伴する] çirijun, soojun
 どうひょう[投票] huda?iri
 どうふ[豆腐] toohu, →やきどうふ, ろく
 じょうどうふ/ ~の油いため toohucaN-
 puruu/ ~の一種 ?usizaadoohu/ ~の
 かす toohunukaşi/ ~料理の一種 nita-
 mairukuzuu/ ~をしぼる前の汁 kuN-

sju/ ~を作る鍋 toohunaabi/ ~を発酵
 させて作ったもの toohujoo
 どうふうり[豆腐売り] toohufujaa
 どうぶつ[動物] ?icimuN, ?icimusi
 どうぶん[当分] toohun, →しばらく
 どうへんぼく[唐変木] toosjoogaa
 どうほく[東北] ?usitura mahai
 どうほんせいそう[東奔西走] ?amahaiku-
 どうみょう[灯明] ?utunnoo, ?utumjoo
 どうむしろ[簾幣] tuumusiru
 どうめい[同名] 'inunaa
 どうもく[頭目] siidu, →かしら
 どうもの[唐物] toomun
 どうもろこし[玉蜀黍] gusuntoonucin,
 gusuntoozin, rusuntoozin
 どうよう[登用] tuitati, (敬語) ?utuitati/
 ~する tuitatijun
 どうよう[動揺] →cimu?amazi/ ~する
 ?amazicun, ?amazun, ?utamycin
 どうよう[同様] duujoo, →おなじ/ ~であ
 る 'inugutoon/ ~なもの 'inugutooruu/
 ~に 'inugutu
 どうらくもの[道楽者] kwatii, →あそびに
 ん
 どうり[道理] doori, ziizira, →わけ
 どうりゅう[逗留] teeruu, →たいざい
 どうりょう[棟領] ?atama, →deeku
 どうりょう[同僚] ?eezuu, guu, →なかま
 どうりょう[同量] 'inu?uqsa, 'insa
 どうるい[同類] 'inuçira
 どうろ[道路] →みち/ ~工事 micizukui
 どうろう[灯笼] tuuru, →?utuuru/ ~の
 一輪 çizinduuruu, kaguduuru
 どうろう(植物名) soosicigusa
 とお[十] tuu, →tu-
 とおあさ[遠浅] tuu?asa
 とおい[遠い] tuusan/ ~親戚 tuumaga-
 ra/ ~道のり tuumici
 とおか[十日] tuka
 とおく[遠く] kaama

とおざかる〔遠ざかる〕 tuunueun
 とおす〔通す〕 nucun, tuusjun
 トートー〔鶏を呼ぶ声〕 'juuijuui
 とおのく〔速のく〕 tuunueun
 とおのり〔遠乗り〕 micifuci
 とおまわり〔速回り〕 tuumigui
 とおめがね〔遠眼鏡〕 tuumikagan
 とおり〔通り〕 mama, tuui/ (…の)～にする ?utaasjun
 とおりすぎる〔通り過ぎる〕 haikwaasjun, haikwiijun
 とおりぬけ〔通り抜け〕 tuuruu
 とおりみち〔通り道〕 tuuimici
 とおる〔通る〕 tuujun
 とか〔助詞〕 -tigaroo, -tijai, -tijari
 とが〔科〕 tuga, →つみとが
 とかい〔渡海〕 tukee
 とかき〔斗掻〕 tookaci
 とかげ〔蜥蜴〕 ?andaçaa, →kooreegusju-kwee, ?waatu?oojaa
 とかす〔溶かす〕 tukasjun
 とがにん〔咎人〕 tuginin
 とがめ〔咎め〕 tugami
 とがめる〔咎める〕 tugamijun
 とかられっとう〔土噶喇列島〕 sicitoo, →micinusima/ ~の沖 sicitootonaka
 とがる〔尖る〕 tugajun/ とがった口 ha-juuguci/ とがった先 tugai/ とがって立ったもの taqeuu
 とき〔時〕 tuci, →baa, basju, ciwa, zihun, おり, じかん, じき/ ~には manee/ ~の声 tucinukwii/ ~を占うこと tucitui/ ~を占う役 →tucinu?uhujakuu/ ~を失していること tucisiri/ ~を作る →tuci
 とぎ〔伽〕 tuzi
 ときぐし〔解き締〕 sabaci
 ときどき〔時時〕 cuqpuziqpu, tuciduci, ?ucimaaiaai, →まれ
 どきどき dakudaku, dusadusa, 'nnida-kudaku, 'nnidonon, 'nnigitugitu,

taqtuihwiqtui, →どきん
 ときふせる〔説き伏せる〕 →せつとくする
 ときほぐす 'waqkwasjun
 どきまぎ moodoo 「る者 'waamuci
 どきょう〔度胸〕 'waa, →çirawaa/ ~のあと
 ときょうそう〔徒競走〕 haaeesjuubu
 どきん hwiqsui/ ~どきん hwiqsuihwiqsui, →どきどき/ ~とさせる dusamika-sjun/ ~とする dakumicun, hwiqsuimikasjun
 ときんする〔鍍金する〕 hwaasjun
 とく〔得〕 sjuutuku, tuku, →えき, りえき
 とく〔徳〕 tuku/ ~のある人 tukumuci
 とく〔解く〕 hutucun, →kusireejun/ 髪を~ sabacun
 とぐ〔研ぐ〕 hweesjun, tuzun/ とき賃
 どく〔毒〕 duku [hweesidima
 どく〔退く〕 ducun, dukinajun, →のく
 とくい〔得意〕 →kooimunsjaa/ ~とする 'iijun/ ~とするもの 'iiti, 'iirimun
 どくけし〔毒消し〕 dukugeesi
 どくしょ〔読書〕 simihuku, →huku
 どくしんせいかつ〔独身生活〕 cuigurasi, duucugurasi, →ひとりもの
 どくぜつ〔毒舌〕 →kuciguhwasan/ ~家 kuciguhwaa 「mucicirisigutu
 どくせん〔独占〕 muciciri/ ~してする仕事
 どくだん〔独断〕 duukangee 「きどぐち
 とぐち〔戸口〕 hasiruguci, 'jaaduguci, →とくと〔簾と〕 tukuqtu, →じゅうぶん
 とくに〔特に〕 kawati, ?iruwakiti
 とくのしま〔徳之島〕 tukunusima
 どくぶつ〔毒物〕 'wiigoomun, 'wiimun
 とくべつあつかい〔特別扱い〕 →とくに/ ~にする →mutiwakasjun
 どくみ〔毒味〕 ?ucuubi
 どくやく〔毒薬〕 dukugusui
 どくりつ〔独立〕 cuidaci, →じかつ/ ~家屋
 とげ〔刺〕 'nzi [mucicirijaa
 とけい〔時計〕 tucii

とけ

とける〔溶ける〕 tukijun
とける〔解ける〕 haŋgwijun
とげる〔遂げる〕 tuzijun
どける〔退ける〕 dukijun, dukinasjun,
nukijun, sizirakasjun, →おしのける
とこ〔床〕 tuku, →ねどこ
どこ maa/ ~か maagana/ ~だどこだ
maagamaagaa/ ~の maanu/ ~までも
maamaadin/ ~もかも maankwiin, si-
rukucimaakuci
とこずれ〔床擦れ〕 ninzihagi
とこや〔床屋〕 ranpaçijaa, →かみゆいどこ
とこよ〔常世〕 →giraikanai, gireekanee,
niraikanai, nireekanee
ところ〔所〕 tukuru, →ばしょ
ところで〔助詞〕 -teeman, -teen
ところてん〔心太〕 kuuribuutu, tinšii-
kan, tugurutin
ところどころ tukurudukuru, →あちこち
ところばらい〔所払い〕 tukurubaree
とさ〔助詞〕 -nāisa, -tisa
とさか〔雞冠〕 kanzi
とさず〔閉ざす〕 micijun, →とじる
どさどさ dusadusa
とし〔年〕 tusi, -tu, →'jaca/ ~が改まっ
て方向の悪いのが直ること tusinooi/ ~
がいもなく →'juca/ ~とった親 tusjui-
'juja/ いい ~をした者 'jucanumun,
tusinamun/ ~とって見える 'wiiraas-
jan/ ~の功 tusinukuu/ ~のほど tu-
sibee/ ~をとる 'wiijun/ ~を経ている
こと niNhwiri
としようえ〔年上〕 šiiza, tusišiiza, tusi-
'wii, →ねんちょう/ ~と年下 →'uqtu-
šiiza/ ~の人たち šiizakata 「ごろ
としかっこう〔年格好〕 tusikaqkoo, →とし
としご〔年子〕 / ~を産むこと taŋkaami-
si, tiičimisi
とじこめる〔閉じ込める〕 micikumijun

としごろ〔年ごろ〕 tusiguru, →çirimi,
huluhudu, nihaciguru, zuusicihaci,
としかっこう, ねんばい
としした〔年下〕 tusisica, 'uqtu
としのよ〔年の夜〕 tusinujuru
としび〔年日〕 →tusibii
とじまり〔戸締まり〕 simari/ ~の装置sin,
sinzasi, →hasirunusan
としょく〔徒食〕 →むだぐい Nnaŋgwee
としより〔年寄り〕 tusjui, →tusinamun,
'uhuza, 'wiqcu, (敬語) 'utusijui, お
おとしより/ ~と子供 tusjuwarabi,
'wiqcuwarabi/ ~の子 tusjuinuqkwa/
~の声 tusjuigwii
とじる〔閉じる〕 kuujun, →しめる
とじる〔綴じる〕 tudijun
としわすれ〔年忘れ〕 tusiwaširi
どしん / ~と音を立てる dusamikasjun
どせい〔怒声〕 kunzoo'abii
とせんば〔渡船場〕 'watanzi
どだいいし〔土台石〕 nii'isi
とだえる〔途絶える〕 tudeecun, tudeejun
とだな〔戸棚〕 kwii, tudana
トタン duutan 「ziiNcu
とち〔土地〕 zii, →tukuru, じしょ/ ~の人
とちゅう〔途中〕 micinaka, →ちゅうと
とつおいつ 'uciijaqei
とつか〔徳化〕 tuqkwa
とつぐ〔嫁ぐ〕 →diqsin, mucun, tacun,
'utu/ とつがせる →tatijun →かくとら
とつみあい〔取っ組み合い〕 tucçikamee,
とつみあう〔取っ組み合う〕 mušibaajun,
とつくり〔徳利〕 tuqkui [musubaajun
とつぜん〔突然〕 'aqtani, →'aqtā-, きゅ
り, にわか, ふい/ ~の幸運 'atagahuu/
~のできごと 'aqtagutu
どっちつかず 'unbuikoobui
とちめる tuqçikijun, tuqçimijun
とつつかまえる tuqkaçimijun, →つかま
える

とっておき〔取って置き〕 kazimimUN
 とつべん〔訥弁〕 kucibita/ ~である kuci-
 ?nbusan
 どて〔土手〕 ?amooei, ?amucl, ?amutu,
 →?inmaasaa 「もない
 とてつもない kakiniN ?ooran, →とんで
 とても duutu, ?ooi, ?ooja
 どてら〔縋袍〕 'juuzi
 ととう〔徒党〕 →tutoogumi
 とどく〔届く〕 ?icaajun, ?icajun, tuducu-
 N, →およぶ, たつする/ 届かないこと ?ic-
 とどけ〔届け〕 tuduki [leekantii
 とどける〔届ける〕 tudukijun
 とどこおる〔滞る〕 tatamajun, tuduku-
 jun, つかえる→/ ~こと tudukuui
 ととのう〔整う〕 tutunajun/ ととのって
 いないこと saqkoo
 とどのつまり →?uzumi
 とどまる〔止まる〕 'judunUN, 'jusinUN,
 tudumajun, →とまる/ とどまらせる
 'judumijun
 とどろかす〔轟かす〕 dusamikasjun
 どなた maa, →だれ
 どなべ〔土鍋〕 saakuu
 となり〔隣〕 narabi, tunai, →ka?unucaa-
 si, むこうどなり/ ~近所 cukeetunai,
 keetunai/ ~付き合い tunaibiree/ ~の
 家 cinzu/ ~近所を回ること tunaimaai
 どなりちらす〔どなり散らす〕 ?abiihoojun
 どなりつける ?adaasjun, taqci?adaasju-
 N, ?udaasjun, →しかる
 となりむら〔隣村〕 tunaimura
 どなる ?abijun, →さけぶ/ どなって驚か
 す ?abii?udurukasjun/ ~声 kunzoo-
 ?abii
 どの canu, zinu, zinnu/ ~くらい ca-
 hwi, canusjaku, caqpi, caqsa/ ~くら
 いの caqpeeru/ ~くらいの時間 canna-
 gee/ ~くらいの丈 cadaki/ ~くらいの
 遠さ cagatoo/ ~くらいの長さ canagi/

~場合 canubaa/ ~人 canuqcu, zinuq-
 cu, →どいつ/ ~辺 maahwin, maari-
 kaa/ ~方向 maamutii/ ~よるな canu-
 gutooru, canneeru, →canujoo/ ~よ
 りに canugutu, →canujoo
 どの〔殿〕 -mui
 とのがた〔殿方〕 meewikiga, satumee
 とのさま〔殿様〕 ?umee, →?umeenumee
 とばく〔賭博〕 →かけ, ばくち
 とばす〔飛ばす〕 →tubun, ?uqtubasjun,
 ?uqtunugasjun
 とびあがる〔飛び上がる〕→はねる/ 飛び上っ
 て驚く〔飛び上って喜ぶ〕tunmoojun/ 飛
 び上ってさわぐさま tunturumookaa,
 とびうお〔飛魚〕 tubuu [→?utimai
 とびこえる〔飛び越える〕 tunkwiijun/ 飛
 び越え飛び越え tunkwiihaqkwii
 とびすさる tun?izicun, →とびのく
 とびでる〔飛び出る〕 tunzijun
 とびとびに〔飛び飛びに〕 tubeetubee
 とびのく〔飛び退く〕 tunnajun, tun?izi-
 cun, →のく
 とびはぜ〔魚名〕 ?iibuu, tontoNmii
 とびはなれる〔飛び離れる〕 tunbanarijun
 とぶ〔飛ぶ〕 tubun, →?uqtubun, はねる/
 ~鳥 tu-bitui/ とんだりはねたり→'udui-
 とべら〔植物名〕 tubira [hani
 とほ〔徒歩〕 kaci
 とほう〔途方〕 / ~にくれる →tihoo/ ~に
 暮れること zaama, zaamatiima
 とほし〔灯〕 tubusi, →とるか
 とほしくなる〔乏しくなる〕 →teejun
 とほる〔点る〕 tubujun
 とま〔苔〕 tuma
 とま〔土間〕 →?ikubuu
 とまどう〔戸惑う〕 zamadujun/ ~こと
 zama?ui, zamaduikaa, zamaduikaadui
 とまり〔泊まり〕 tumai 「jaa
 とまり〔泊〕 (地名) tumai/ ~の者 tuma-
 とまる〔止まる〕 'jusinUN, tumajun, →
 とどまる, やむ/ 止まらせる 'jusimijun

とま

とまる〔泊まる〕 'jaɕujun, tumajun
 とみ〔富〕 ?weeki
 とめる〔止める〕 cizijun, tumijun, →
 とめる〔泊める〕 tumijun 〔やめる〕
 とも〔友〕 →ともだち
 とも〔供〕 tumu, (敬語) ?utumu
 とも〔共〕 mama/ ~に →いっしょ
 とも〔鱸〕 tumu/ ~の方 matumu
 とも〔助詞〕 →tun
 とまあれ nuujatinkwiijatın, →さておき
 ともだち〔友だち〕 ɕusi, →しんゆら/ ~付
 き合い ɕusibiree, dusikugee/ ~と親し
 み過ぎること ɕusimuçiri
 ともる〔点る〕 tubujun
 どやつ →どいつ
 どよう〔土用〕 duujuu
 とら〔虎〕 tura
 とら〔寅〕 tura
 どら〔感動〕 'nda
 どら〔銅鑼〕 muragani
 とらえる〔捕える〕 kaçimijun, →つかまえ
 る/ 捕えてしばる karamijun
 どらごえ〔どら声〕 ɕuragwii
 とらのおらん(植物名) turanuzuu
 とり〔鳥〕 tui, (卑語) →'jumuɕui, 'jumu-
 dujaa, →にわとり/ ~の一種 kukaru/
 ~を捕えるかご ?utusiguu
 とり〔酉〕 tui/ ~年の人 tuinuɕu
 とりあつかい〔取り扱い〕 mutinasi, tui-
 ?açikee, tunzaku, →あつかい
 とりあつかう〔取り扱う〕 tui?açikajun, →
 あつかう 〔→あつめる〕
 とりあつめる〔取り集める〕 tuicameejun,
 とりあわせ〔取り合わせ〕 tujaasimun
 とりあわせる〔取り合わせる〕 tujaasjun
 とりい〔鳥居〕 turi 〔cutinaukuru〕
 とりえ〔取り柄〕 tuiaukuru/ ひとつの~
 とりおさえる〔取り押さえる〕 tuqçikijun

とりおとす〔取り落す〕 tuihansjun, tui-
 ?utusjun 〔muɕusjun〕
 とりかえす〔取り返す〕 tuikesjun, tui-
 とりかえっこ〔取り替えっこ〕 →こうかん
 とりかかる〔取り掛かる〕 sikakajun
 とりかご〔鳥籠〕 soominaakuu
 とりかこむ〔とり囲む〕 kanimaasjun
 とりかわし〔取り交わし〕 tuikee, (敬語)
 ?utuikkee 〔そく, けいやく〕
 とりきめ〔取り決め〕 tuiciwami, → やく
 とりけす〔取り消す〕 ?iikesjun
 とりこしくろう〔取り越し苦労〕 ?umaan-
 gasagasa, ?waabasiwa, ?waaba?umii
 とりこむ〔取り込む〕 tuikunun
 とりざた〔取沙汰〕 →らわさ 〔はい〕
 とりしまり〔取り締まり〕 tuisimari, →し
 とりしまる〔取り締まる〕 tuisimajun, →
 かんとく, かんりする, しはい
 とりしらべ〔取り調べ〕 tuisirabi, →しらべ
 とりすがる〔取り繕る〕 tuişigajun, →つき
 まとる/ ~さま tuişigaişigai 〔てる〕
 とりすてる〔取り捨てる〕 tuişitijun, →す
 とりそろえる〔取り揃える〕 tuisuraasjun
 とりちがえる〔取り違える〕 mamizun, tu-
 icigajun, →まちがう
 とりちらす〔取り散らす〕 sizeerakasjun,
 tuicirakasjun, tuicirasjun 〔içizi〕
 とりつぎ〔取り次ぎ〕 tuiçizi, (敬語) ?utu-
 とりつぐ〔取り次ぐ〕 tuiçizun 〔kurijun〕
 とりつくろう〔取り繕う〕 çukuriijun, çu-
 とりつける〔取り付ける〕 şigijun, →つけ
 とりで〔箸〕 guşiku 〔る〕
 とりなし tuinasi, →しゅうせん
 とりなす tuinoosjun
 とりはからう〔取り計らう〕 tuihakarajun,
 tuihwakarajun, →はからう
 とりはだ〔鳥肌〕 hukugii/ ~が立つ huku-
 cirugeejun, hukugidacun, tuihukugi-
 dacun, →hukugaa/ ~が立つこと kii-
 hukugidaci

とりぶん〔取り分〕 tuimee, →わけまえ
 とりまき〔取り巻き〕 ʔuutikwee
 とりまく〔取り巻く〕 macaasjun
 とりめ〔鳥目〕 ʔjurumiqkwa
 とりもち〔鳥糞〕 ʔjanmuci, mucu
 とりもどす〔取り戻す〕 →とりかえす
 とりやめる kundasjun, →ちゅうし
 どりょうがある〔度量がある〕 cimubirusan, →かんよう 「→つとめる
 どりよくする〔努力する〕 ʔumihamajun,
 とりよせる〔取り寄せる〕 tuijusijun
 とりわけ kawati, ʔiruwakiti
 とる〔取る〕 tujun, →らばう, らばいとる,
 かすめとる/ 取ったりごまかしたりするさま keetuihwicitui/ 取って集める tui-cameejun/ 取って置く hwicinasjun,
 tabujun, tuimaasjun/ 取って自分のもの
 につける tuikunun/ 取ってしまひ hwi-qtujun/
 取り放題 tuibusjahundee/ 盛んに~ tuiçikijun
 ドルばこ〔ドル箱〕 zimbaku
 どれ ziru/ ~くらい(~だけ, ~ほど)caasjuka, cahwi, camisi, camisika, canusjaku, canusjuka, caqpi, caqsa, casakii/
 ~ほどでも caqsan/ ~ほどの caq-
 どれ(感動) ʔnda lpeeru
 どれい〔奴隷〕 →naagu, ʔNza, ʔNzaqkwa
 どろ〔泥〕 duru, →つち/ ~だらけ duru-
 どろあし〔泥足〕 ʔurubisja lbuqtaa
 どろあそび〔泥遊び〕 durumutaan, ʔnca-mutaan
 とろう〔徒勞〕 ʔaaca, ʔnnananzi
 どろた〔泥田〕 ʔjubi, ʔjubita
 とろとろ nurunturun, turuturu
 どろどろ duruduru, gwengwen

とろび〔とろ火〕 turuturuubii
 どろぼう〔泥棒〕 nusudu, →hwizaidiina-gaa/
 ~する nusunun/ 目の前で~すること miihainusudu/
 ~猫 gacimajaa, →ʔuhugacimajaa/
 ~よけに畑にさす串 ziiguusi, ziigusi
 どろみず〔泥水〕 durumizi
 どろみち〔泥道〕 durumici
 どん don/ ~という音を立てる donmikasjun/
 ~どん dondon
 どん〔鈍〕→にぶい / ~な者 dunnamun
 どんかん〔鈍感〕 kanduu, →にぶい
 どんす〔緞子〕 dunsu
 とんちんかん / ~な話 minkezirimumugatai
 とんでもない kuuwee, →maanu, ʔumujun,
 とてつもない, めっそりな/ ~事 kawaqtakutu, ʔumaaranmun
 どんてん〔曇天〕 kumuiçinci, →くもり
 どんな caaru, canugutooru, canna, canneeru,
 →いかなる/ ~に caasjuka, canugutu,
 canusjuka, ʔikira/ ~に沢山 casakii/
 ~に長い間 cannagee/ ~遠方 cagatoo/
 ~もの canugutooru
 どんぶり〔丼〕 dunburi, makai/ ~の一種
 →sjunkan, ʔwanbuu/ ~の大きいもの ʔaramakai,
 ʔaramakajaa/ ~料理を持ち寄ってする宴会 dunburiinucaasii
 とんぼ ʔaakeezuu/ ~の一種 kazihuciʔa-akeezuu,
 naakudaamaa, taamaa/ ~の羽のように美しい着物 ʔakezubaninsu
 とんぼがえり çinburugeei
 とんま →まぬけ
 どんよく〔貧欲〕 goojuku, →よくばり/ ~な者 goojukuu, ʔuhujukuu

な〔名〕 naa, →なまえ/ ～があがる naja-
 な〔菜〕 Ŷoohwa, →naa [gajun
 な(禁止) -na
 なあ(助詞) 'jaa, 'joo
 ない〔無い〕 neeN, neeraN/ ～こととして
 おく物 neeraNmun/ …の～者 mook-
 aa, mookuu, -moo, -muqkoo
 ないがい〔内外〕 Ŷucihuka
 ないかく〔内閣〕 →hjoozoozu, (敬語) gu-
 hjoozoozu, Ŷuza
 ないしょ〔内証〕 miŶikaqteen, neesjuu
 ないじょう〔内情〕 Ŷucuu, →じじょう
 ないしょばなし〔内証話〕 neesjuubanasi,
 gumamunugatai
 ないしん〔内心〕 cimufuci, したごころ/～
 喜ぶこと sicajurukubi
 ないぞう〔内臓〕 hwii, 'watamiimun, →
 ぞうもつ, はらわた
 ないちまい〔内地米〕 →ほんどさん
 ないつう〔内通〕 neeŶuu, →うらぎる
 ないない〔内内〕 →うちうち
 ナイフ Ŷiigu
 ないふくやく〔内服薬〕 numigusui
 ないぶん〔内分〕 neebun
 なう〔綯う〕 noojun
 なえ〔苗〕 nee
 なえぐ〔窺ぐ〕 neezun
 なえる〔養える〕 neejun, →しなびる
 なお〔猶〕 'juku, 'jukun, →さらに
 なおす〔直す〕 hwicinoosjun, noosjun,
 →tuinoosjun, しゅうぜん, しゅうり
 なおる〔直る〕 noojun, →こんじする
 なおれ〔名折れ〕 kushiwici, nauri, →ふめ
 いよ 「kaguru/ ～の物 nakatii
 なか〔中〕 mii, naaka, naka/ ～ごろ na-

なか〔仲〕 naaka, naka, →むつまじい, ふ
 なか/ ～が悪い kuhwasan/ ～が悪いこと
 hunaka, kuku/ ～が悪くなる kuhwaj-
 un/ ～をとりもつさま naakatuihatatui
 ながあめ〔長雨〕 nagaŶami, nagabui
 ながあるき〔長歩き〕 nagaŶaqci
 ながい〔長い〕 nagasan, nageesan/ ～間
 nagee, nagadee/ ～間ずっと nagadu-
 si, nagiduusi/ ～命 mumuci/ ～旅路
 nagamici/ ～病気 nagajami/ ～もの
 nagaa/ 長くかかる karakajun/ 長くか
 かること nagakakai, nagagarakee/ 長
 くつらなるさま çirinagaanagaa
 ながい〔長居〕 nagaçibi, nagaii, →ながざ/
 ～する人 nagaçibaa 「ちゅうじゅ
 ながいき〔長生き〕 coonii, nagaŶici, →
 ながおい〔長追い〕 nagaŶnuui
 なかがいにん〔仲買人〕 Ŷacoodu, bakujoo/
 ～のことば Ŷacooduguci
 ながさ〔長さ〕 nagi/ 一定の～ cunaagi/
 ～が足りないこと Ŷiceehandii
 ながざ〔長座〕 nagaŶa, →ながじり
 ながし〔流し〕 mintana
 ながしめ〔流し目〕 hwicimi, sjoomi
 ながじり〔長尻〕 nagaçibi, →ながい, なが
 ざ/ ～の者 nagaçibaa
 ながす〔流す〕 nagasjun
 ながそで〔長袖〕 /～の上着 →maakwaa
 なかぞら〔中空〕 nakabi, →そら
 なかぞり〔中割り〕 nakazui
 なかたがい〔仲違い〕 naakaguhwai, naa-
 katagee, →なか
 なかだち〔仲立ち〕 nakadaci, nakaŶiri
 ながたび〔長旅〕 nagaŶaqci
 ながつづき〔長続き〕 nagaçizici/ ～させる

mutuusjun/ ~する mutuujun
 ながとうりゅう〔長逗留〕 'juudu
 なかなかおり〔仲直り〕 naakanooi, nakano-
 oi, 'wabuku/ ~する →kuneejun/ ~さ
 せる, →わかいさせる
 ながながと〔長長と〕 /~寝ること naga-
 booi, nagaboojaa/ ~ねそべること na-
 ganubitoori/ ~延びたもの nagahwee-
 ながなき〔長鳴き〕 tacinaci [raa
 なかにわ〔中庭〕 nakaniwa
 ながねん〔長年〕 naganin
 なかば〔半ば〕 micinakara, nakaba, naka-
 ra, nakaramici, →とちゅうり, はんぶん
 ながびく〔長引く〕 hwicurujuun, hwicu-
 ruujun, nagabicun/ 病気が~ namata-
 rijun/ ~こと nagagakai, nagagarakee,
 nagahwicurui, nagahwicuruu, naga-
 hwicuruui/ ~さま hwicuruumucuruu
 なかま〔仲間〕 çiri, dusi, 'yeezuu, guu,
 →kata, どうりょうり/ ~となること ka-
 taree/ ~に入れる katarajun/ ~はずれ
 guuhandaa, guuhaziraa
 なかみ〔中身〕 mii
 なかむかし〔中昔〕 nakamukasi
 ながめ〔眺め〕 nagami
 ながめる〔眺める〕 nagamijun, →みる
 ながもち〔長持ち〕 nagamuci/ ~する ta-
 mucun
 ながもの〔蛇の忌み詞〕 nagamun
 なかやすみ〔中休み〕 nakajaşimi, nakaju-
 kui, →きゅうりそく
 ながやすみ〔長休み〕 nagajaşimi
 なかゆび〔中指〕 naka'iibi
 なかよく〔仲よく〕 kanaganaatu, →kama
 sikajun, むつまじい/ ~すること 'wa-
 dan, 'wagoo, 'wagoowadan, 'wadan-
 なかよし〔仲良し〕 'iinaaka [wagoo
 ながら -agiinaa, -gacii, -ganaa, -naga-
 ra, -nagiinaa
 ながらえる〔長らえる〕 nagarajun

ながらく〔永らく〕 →ながい
 ながれ〔流れ〕 nagari
 ながれほし〔流れ星〕 husinujaa'uuicii
 ながれる〔流れる〕 hajun, nagarijun/ よ
 どもなく~さま soorusooru, soorusoo-
 ながわづらい〔長煩い〕 nagajami [ruu
 なぎ〔凧〕 turi
 なきあかす〔泣き明かす〕 naci'akasjun
 なききる〔泣き入る〕 naci'ijun
 なきがお〔泣き顔〕 nacigau
 なきくらす〔泣き暮らす〕 nacikurasjun
 なきごえ〔泣き声〕 nacigwii, →なく
 なきさけぶ〔泣き叫ぶ〕 'abijun, →tinsa-
 ma, なきわめく
 なきじん〔今帰仁〕(地名) nacizin/ ~の者
 nacizinaa
 なきつかれる〔泣き疲れる〕 nacikwaarijun
 なきつく〔泣き付く〕 nacikakajun
 なきなた〔長刀〕 nazinata
 なきまね〔泣きまね〕 nacineebi
 なきむし〔泣き虫〕 nacibusi, nacibusjaa
 なきわめく〔泣きわめく〕 'abijun, →なき
 さけぶ/ ~者 'abijaa
 なきわらい〔泣き笑い〕 naciwaree
 なく〔泣く〕 'abijun, hwiizijun, nacun/
 ~さま nacigeegee, →'aQkijoo, 'Ngaa-
 Ngaa, siQkuihaQkui, siQkweehaQkwee,
 'weewee/ ~ような話し方 nacimunii,
 nacimunu'ii/ めそめそ~こと sipitain-
 ci, 'wiiruunaci/ 泣きそりな顔 çirajoo/
 泣きそりなさま nadagurumaai, naga-
 gurumaajaa/ 泣きながら言うこと mu-
 nu'iinaci
 なく〔鳴く〕 'abijun, hukijun, nacun,
 'utajun/ ~せみ 'abijaa/ ~もの 'abi-
 jaa
 なく〔凧〕 turijun
 なくさむ〔慰む〕 nagusanun
 なくさめ〔慰め〕 nagusami
 なくさめる〔慰める〕 nagusamijun, nagu-

なく

sanUN, →cimu
なくす[無くす] YusinajUN
なくなく[泣く泣く] nakunaku
なくなる[無くなる] →siru
なぐりつける suguikerasjun
なぐりとばす suguitubasjun
なぐる ?atijUN, niijun, siçikijUN, su-
gujUN, →kurusjun, tii, うつ, たたく
なげあい[投げ合い] nagiee
なげうり[投げ売り] şiti?ui
なげく[嘆く] /嘆いて kuriiguri
なげこむ[投げこむ] nagineUN
なげすてる[投げ捨てる] cannagijUN,
hannagijUN, ?uqçangijUN, →すてる
なげちらす[投げ散らす] /~こと nagiba-
karee/ 投げ散らしておくこと nagihoo-
rii
なげもの[投げ物] şitimUN
なげやり[投げやり] nagihoorii
なげる[投げる] nagijUN
なご[名子] naagu/ ~の住む宅地 'isici/
~の住む宅地の地代 'isicigane
なこうど[仲人] nakadaci/ ~口 →?acoo-
duguci
なごむ[和む] turijUN, →おだやか
なごらん[名護蘭](植物名) naguran
なごり[名残り] naguri/ ~惜しい ?aciza-
ran, nagurisjan
なさけ[情] nasaki, sinasaki, →あいじょ
う, じょう, にんじょう, めぐみ/ ~をか
ける →cimu/ ~深い →やさしい
なさけない[情ない] çirinasan
なざし[名指し] nažasi
なし[無し] -moo, -muqkoo
なしとげる[成し遂げる] tuzimijUN
なす[茄子] naaşıbi
なす[為す] →する
なすりつける şirinaşıjun, şiriçikijUN/
なすりつけてのがれる şirinugaajUN
なする[擦る] naşıjun, →こする

なぜ[何故] →caa
なぞ[謎] ?akasimUN, munu?akaşee
なぞる damijUN
なた[鉦] 'jamanazi, →おの
なだ[灘] naçia
なだかい[名高い] naa?juru, →cikwii-
jun, naa, tujunUN, ?utu?ucun/ ~も
の cikwiitamUN, naçakeemUN,
なたねあぶら[菜種油] maa?anda
なだめる[宥める] şikasjun/ なだめすか
すこと şikasiimaasii
なつ[夏] naçi/ ~の初め naçiguci, 'wa-
kanaçi
なつかしい[懐しい] ?anagacisan
なつぎ[夏着] naçimUN
なづけ[名付け] naažikii
なっとくする[納得する] ciciwakijUN
なっぱ[菜っ葉] ?oohwa, →naa
なつまけ[夏負け] humicimaki, naçimaki
なつもの[夏物] naçimUN
なでる[撫でる] nadijun/ 撫で回すさま
?amasaaikumasaai
など(助詞) -Ndee/ ~と -naqkwee
なな[七] →しち
ななくさ[七草] naNkanusiku
ななつ[七つ] →しち
ななつほし[七つ星] nanaçibusii
ななひろ[七尋] nanahwiru/ ~半 nana-
hwirUNnaakari 「beejun
ななめ[斜め] nanbeeii/ ~にする nan-
なに[何] nuu, →なん/ ~か nuugana/
~する nuusjaru/ ~とぞ doodin/ ~何
nuunuu/ ~ほどの nuusjaru/ ~もかも
nuunkwiin/ ~やかや nuujaakwiijaa,
nuukwii
なにがし[何某] nanigasi, nugunaa
なにごと[何事] nuugutu
なにぶん[何分] nanibun, naNBUN
なにもの[何者] taNnumUN
なのか[七日] sicinici/ ~ごとの法事 na-

nka/ ~正月 nankanusiku
 なのり[名乗り] nanui/ ~の頭に用いる字
 nanuigasira/ ~を付ける nanujun
 なのる[名乗る] nanujun
 なのは[那覇] naahwa, nahwa/ ~の人 naa-
 hwanCnu, →naahwaa
 なびく[靡く] nabicun, →たなびく
 なふだ[名札] nahuCa
 なぶりもの[なぶり者] nabakuimun
 なぶる nabakujun
 なべ[鍋] naabi/ ~釜の修理 naabinakuu,
 naabinukuu/ ~の一種 ninmeenaabi,
 sanmeenaabi, sinmeenaabi, →naabi/
 ~のふた naabinuhuta, kamaNta/ ~を
 さぐって食うこと naabisagui
 なべずみ[鍋蓋] naabinuhwingu
 なま[生] nama/ ~である namasan/ ~の
 いも nama?nmu/ ~のもの namamun
 なまいき[生意気] šiisan, ?waaci/ ~で
 ある ciidakasan/ ~な者 ciidakamun,
 cigweeimun, ciigweemun, →?icisaka-
 sinza/ ~になる cigweejun
 なまえ[名前] naa, namee, →からな, せ
 い, な, なのり, わらべな
 なまぐさい[生臭い] hwirugusasan/ ~に
 おい takakaza/ ~もの hwirugusari-
 mun/ なまぐさ坊主 sisikweeboozi
 なまくら maguraa
 なまけもの[怠け者] dazaku, guuda, 'ju-
 rarijaa, 'jurasimun, 'jurasjaa, mii
 ?nmasimun, namatarimun, →ぐうたら
 なまける[怠ける] 'jurarijun, namatari-
 jun, ?ukutajun/ ~こと 'juCaN, 'judā-
 ntaari/なまけがち 'jurasihai
 なまごろし[生殺し] namagurusi
 なます[膾] namaši
 なまにえ[生煮え] →はんにえ
 なまにく[生肉] namazisi
 なまぬるい →てぬるい, ぬるい/ ~さま
 nuruqkwikaa/ ~者 nuruqkwimun/

なまぬるくなる nuruqkwijun
 なまみず[生水] namamizi
 なまもの[生物] namamun
 なまり[鉛] mizikani, namari, sirukani
 なまり[詛り] kutuba, →ほうげん
 なまる[鈍る] magurijun, namarijun
 なみ[波] nami
 なみ[並み] çini, nami, →ふつり
 なみかぜ[波風] namikazi
 なみだ[涙] miinada, minada, nada, na-
 mida/ ~ぐんださま nadagurumaai, na-
 dagurumaajaa
 なみだもろい[涙もろい] nadajoosan
 なめくじ[蛸螭] namimusi, namimusjaa
 なめらか →naduqtNee, すべっこい/ ~で
 ある nandurusana/ ~に出るさま sooru-
 sooru, soorusooruu
 なよなよと →'jujuzurasan
 ならい[習い] →naree
 ならう[習う] narajun/ ~こと -naree/
 習いおぼえる ?ukitujun/ 習わせる na-
 raasjun
 ならう[做う] ?utaasjun, →まね
 ならず[鳴らす] narasjun
 ならず[均らす] narasjun, toomijun, tu-
 namijun, ?usitunamijun, →へいきん
 ならずもの[ならず者] hurimun, zaa-
 hweemun, →ふりょり
 ならび[並び] narabi
 ならぶ[並ぶ] kunabajun, nanun, nara-
 bun, →つらなる/ 並んで →çirinagaa-
 nagaa 「→つらねる
 ならべる[並べる] kunabijun, narabijun,
 ならぶし[習わし] naree, zuku, →しゅり
 かん
 なり nai, →さま, なりふり, ふくそり, み
 なりきん[成金] ?aqta?weekinCnu しなり
 なりふり huuzi, →なり
 なりもの[鳴り物] naimun
 なりもの[生りもの] naimun, →み

なり

なりゆき〔成り行き〕 ʔicinai, narijuci, →
 したい
 なる〔成る・為る〕 najun/ なりかけ -nai-
 gataa/ なりきる naicirijun/ なりそこ
 なる naihansjun/ お…に～ -mišeen,
 -Nšcen 「najun
 なる〔生る〕 najun/ ならせる narasjun
 なる〔鳴る〕 najun
 なるべく naraba, nareja, narubici, →
 なるほど naruhuúu, 'Nca, →いかにも,
 まことに
 なれ〔慣れ〕 nari, →しゅうかん
 なれそめ〔馴れ初め〕 narisumi
 なれる〔馴れる・慣れる〕 narijun, siina-
 なわ〔縄〕 çina, çinanaa, naa 「rijun
 なわしろ〔苗代〕 naasiru/ ～を張ること
 haiNna 「cubi
 なわしろいちご〔苗代苺〕〔植物名〕 mooʔi-
 なん〔何〕 nuu, →nan-, なに/ ～だかだ
 nuudookwiiLoo/ ～と…うこと nuuti-
 kutu/ ～とか ʔansawankansawan,
 caagana, nugunaa/ ～としても caa-
 siNkaasin/ ～とでも nuutunKwiitun/
 ～とも caadin, caaiundin/ ～ともない
 →caa/ ～の maanu, nuusjaru/ ～のか
 の nanNuukaNnuu, nuukwii, nuunu-
 kwiinu, nuusjankwiisjan, →nuuʔici-
 Nkwiiʔicin/ ～のさしざわりもない nu-

usabiNneen/ ～の拍子に nuutuNgan
 なん〔難〕 nan 「aasi
 なんぎ〔難儀〕 nanzi, nanzikunzi, teesoo,
 →こまる
 なんきんぶくろ〔南京袋〕 kasigaabukuru/
 ～の布 kasigaa
 なんきんまい〔南京米〕 toogumii
 なんきんまめ〔南京豆〕 ziimaami 「biira
 なんきんむし〔南京虫〕 hwiiraa, qçukwee-
 なんご〔喃語〕 'Nkuu, →toonukuci/ ～す
 る幼児 →toonukucaa
 なんこつ〔軟骨〕 gusumici
 なんこん〔男根〕 →いんけい
 なんざん〔難産〕 nansan
 なんじ〔何時〕 nanduci
 なんしょく〔男色〕 →'wakasju
 なんせん〔難船〕 nansin
 なんて〔助詞〕 -naqkwee
 なんと〔何度〕 ʔikukeen, nandu, →たび
 なんとき〔何時〕 →いつ 「たび
 なんにち〔何日〕 ʔiqka, nannici
 なんにん〔何人〕 ʔikutai, nannin/ ～様
 ʔikutukuru
 なんねん〔何年〕 nannin
 なんばん〔南蛮〕 nanban
 なんばんやき〔南蛮焼き〕 nanban, nan-
 bangaami
 なんびき〔何匹〕 nanbici

に

に〔2〕 nii, taaci, →ta-, ふう
 に〔荷〕 →にもつ
 に〔助詞〕 -ga, -kai, -nai, -nakai, -ni
 -Nkai
 にあい〔似合い〕 'iinee, nawai, nee, nec-
 tukeetu, niee, niiee, nootakeeta
 にあう〔似合う〕 nawajun, nioojun, noo-

jun, şinajun, ʔucajun, →nootaru,
 につかわしい/ ～こと(～さま) ʔucaisin-
 ai, ʔucataikanatai
 にあがり〔二上がり〕 ʔagi, niiʔagi/ ～の
 曲 ʔagibusu
 にあわしい〔似合わしい〕 →につかわしい
 にい〔新〕 mii-

にいさん〔兄さん〕 ʔahwii, ʔjakumii, ʔja-
 qcii, →ʔaqpai, あに
 にいづま〔新妻〕 miituzi
 にいにいぜみ (蟬の名) siimiigwaa
 にうま〔荷馬〕 niiʔuusaa
 にえきらない〔煮えきらない〕 →tee
 にえゆ〔煮え湯〕 hucijuu
 にえる〔煮える〕 niijun/ 煮え過ぎる nii-
 szijun/ 煮え立つ mugeejun, tazijun/
 煮えたばかりのさま ʔaçikookoo/ 煮えて
 くれたたになるさま niikuta
 にえん〔2円〕 hjaqkwan 「sjan
 におい kaza, niui, niwi →あくしゅう, あ
 つさ, くさい, ほろころ/ ~がいい kaba-
 におう〔仁王〕 nijobutuki, niobutuki
 におう →niwidakasan
 にかい〔2回〕 takeen, →にど 「basi
 にかい〔2階〕 niikee/ ~への階段 niikee-
 にかい〔苦い〕 ʔnzasan/ ~もの ʔnzamun
 にかいや〔二階屋〕 niikeejaa
 にかうり〔苦瓜〕 (植物名) goojaa
 にかえし〔煮返し〕 tazirasikeesaa
 にかき〔苦木〕 (植物名) ʔnzaki
 にかげつ〔2か月〕 taçici
 にかす〔逃がす〕 hwinnugasjun, →のがす
 にかつ〔2月〕 nigwaç, niNgwaçi
 にかみ〔苦み〕 ʔnzami
 にかわ〔膠〕 nikaa
 にかわらい〔苦笑い〕 ʔnzawaree
 にぎにぎ ciNtuNten
 にきび nikun
 にぎやか / ~なさま gwangwan/ ~に
 する haneekasjun, haneekijun/ ~にな
 る →にぎわう/ 座を~にする者 ʔaaha-
 neekasjaa, ʔaamucaa
 にぎりこぶし →げんこつ
 にぎりめし〔握り飯〕 ʔubunnizirii, →ʔan-
 misi
 にぎりや〔握り屋〕 nizijaa 「かむ
 にぎる〔握る〕 kaçimijun, nizijun, →つ

にぎわう〔賑わう〕 haneecun, humicun,
 →にぎやか
 にく〔肉〕 niku, sisi, →ʔaqtami/ ~入り
 御飯 sisizuusii/ ~からとったスープ nii-
 nuzi/ ~を久しく食べないこと →ʔan-
 dagaaki/ ~の市 ʔwaasjaamac/ ~の
 塩漬け sjuuçiki, sjuuzisi/ ~のてんぶ
 ら sisitinpura
 にくい〔憎い〕 miqkwasan, nikusan, →
 çiranikusan, ʔjanamiqkwasan/ ~者
 miqkwasamun
 にくい -gurisjan, →むずかしい
 にくじる〔肉汁〕 niinuzi
 にくづき〔肉付き〕 sisimucinaï
 にくにくしい〔憎憎しい〕 ʔjanamiqkwasan
 にくまれっこ〔憎まれっ子〕 ʔjanawarabi
 にくまれもの〔憎まれ者〕 miqkwasamun
 にくむ〔憎む〕 nikunun
 にくや〔肉屋〕 →ʔwaasjaajaa
 にくらしい〔憎らしい〕 →にくい
 にぐるま〔荷車〕 niguruma, niiguruma
 にげだす〔逃げ出す〕 →hwinnugijun/ 逃
 げ出した馬 hwiŋgiʔnma
 にげる〔逃げる〕 hwiŋgijun, hwinzijun,
 nugijun, →とらそうする, のがれる/ 逃
 げ支度 nugizikooi/ 逃げ回ること hwin-
 gimaaï
 にごう〔2合〕 nigoo, niŋgoo
 にごにこ / ~笑う ʔwareekanzun
 にごる〔濁る〕 miŋgwijun, siŋgwijun/
 ~こと miŋgwi/ 濁らせる miŋgwa-
 にさんねん〔2, 3年〕 tatumitu 「sjun
 にし〔西〕 ʔiri
 にし〔鱧〕 çinbooraa
 にじ〔虹〕 nuuzi
 にしかぜ〔西風〕 ʔutibuci
 にしき〔錦〕 nisici
 にしみなみ〔西南〕 santunii
 にじむ〔滲む〕 cirijun
 にしむき〔西向き〕 ʔirinkee

にしめ〔煮染〕 simimUN
 にじゅう〔20〕 nizuu
 にじゅう〔二重〕 nizuu
 にじゅうあご〔二重あご〕 teeʔutugee
 にじゅうえん〔20円〕 singwan
 にじゅうごねんき〔二十五年忌〕 nizuuguni-
 Nci/ ~と三十三年忌 →ʔubuɕizi, ʔuhu-
 ʔusjuukoo
 にじゅうしこう〔二十四孝〕(書名) nizuusi-
 koo
 にじゅうしせつ〔二十四節〕 →siçi
 にじゅっさい〔20歳〕 hataci
 にじゅっせん〔20銭〕 tunaa
 にしょうだき〔2升炊き〕 nisjuiaci
 にせもの〔偽物〕 nisii, nisimUN, →もぞう
 にせる〔似せる〕 nisijun
 にせんえん〔2000円〕 zuumangwan
 にだし〔煮出し〕 dasi
 にだす〔煮出す〕 sinzijuN/ 煮出したかす
 sinzikaši/ 煮出した汁 sinziziru
 にたんつづき〔2反続き〕 nitanɕirugi
 にち〔日〕 -nici
 にちげん〔日限〕 niciziN, →きげん
 にちや〔日夜〕 ʔjuruhwiru, →いつ
 につかわしい〔似つかわしい〕 nawaasjan,
 →nootaru, にあう
 にっき〔日記〕 niqci
 にづくり〔荷造り〕 niizukui, nizukui,
 につけい〔肉桂〕 garasi, niqci
 ニッケル ʔjanziN
 にっしゃびょう〔日射病〕 hwiimaki
 にっしょく〔日蝕〕 niqsjuku
 にっちゅう〔日中〕 hwizuu, →ひるじゅう
 にっほん〔日本〕 ʔjamatu, ʔuhujamatu/
 ~への旅 ʔjamatutabi/ ~流のしりから
 げ ʔjamatuɕibui/ ~政府の統治する時代
 ʔjamatujuu
 にっほんご〔日本語〕 ʔjamatuguci
 にっほんじん〔日本人〕 ʔjamatuncu, ʔuhu-
 jamatuncu/ ~の気の早さ ʔjamatuzih-

wee/ ~の機敏さ ʔjamatuguruku
 にっほんひん〔日本品〕 ʔjamatumUN/ ~
 の粗末さ ʔjamatusjoobee, ʔjamatusoo-
 bee
 にど〔二度〕 nidu, →にかい/ ~目 nidumii
 にねん〔2年〕 tatu/ ~おき tatugusi
 にのいと〔二の糸〕 nakaziru
 にのうで〔二の腕〕 keena
 にばい〔2倍〕 →ばい 「としごろ
 にはちのころ〔二八のころ〕 nihaciguru, →
 にぼんどり〔二番鶏〕 nibandui
 にひゃくもん〔200文〕 nihjaaku, taku-
 mui/250文 takumuigunzuu
 にぶい〔鈍い〕 dunnasan
 にふだ〔荷札〕 niihuda
 にぶる〔鈍る〕 namarijun
 にぶん〔二分〕 →ふたつわり
 にほん〔日本〕 →にっほん
 にまい〔2枚〕 niNmee
 にまいがい〔二枚貝〕 ʔahwakee, ʔahwa-
 kuu
 にまいじた〔二枚舌〕 ɕirataacaa
 にまんえん〔2万円〕 hjakumangwan
 にもつ〔荷物〕 nii, niɱuçi/ ~にわずらわ
 されること niiwacaree, niiwandee
 にゃあにゃあ maaumaau
 にゃっかい〔荷厄介〕 niijaqkee, niiwaca-
 ree, →おもに, ふたん
 にゅうごく〔入獄〕 ruusja
 にゅうさつ〔入札〕 ʔirihuda
 にゅうし〔乳歯〕 ciikweebaa
 にゅうじ〔乳児〕 ciinumingwa
 にゅうじょうりょう〔入揚料〕 muncin
 にゅうせんえん〔乳腺炎〕 ciigasa
 にゅうろう〔入牢〕 ruusja
 にょいほうじゅ〔如意宝珠〕 nubusidama
 にょうどうえん〔尿道炎〕 siibaijandi
 にょにんきんせい〔女人禁制〕 ʔwinaguha-
 qtu
 なら〔葦〕 ciribira

にらむ miihwicajun/にらんでどなりつけ
ること miihai?adaasi, miihai?udaasi
にらめっこ miikuumees
にりん〔2厘〕 cukumui, hjaaku, →-ku-
mui/ ~の菓子 →hjaakumuci
にる〔煮る〕 nijun, →tacun/ ~準備をす
る şikijun / 煮返して暖める tazira-
sjun/煮過ぎる nişizijun
にる〔似る〕 nijun/ 似た者同志 nitaka-
manta/ 似たり寄ったり neetukeetu/ 似
てさらによいこと niimasi
にわ〔庭〕 naa, niwa
にわいし〔庭石〕 →bunsan
にわか〔俄か〕 ?aqta-/ ~に ?aqtani, →と
つぜん/ ~の思い立ち ?aqta?umitaci/
~の考え ?aqtakangee
にわかあめ〔俄か雨〕 ?aqtabui, →naçi-
guri, nagasi
にわかぶんげん〔俄か分限〕 ?aqta?weeki-
Ncu
にわき〔庭木〕 niwagi
にわとり〔鶏〕 niwatui, tui, (小兒語)
'juujuu, →とり/ ~の市 tuimaci/ ~の
一種 caan, haatui, haatujaa, hukugaa,
hukugaa'ui, karahaatui, kooçin, ta-
wacii/ ~のうぶげ hukugii/ ~のくそ
tuNnukusuu/ ~のくちばしの下の肉

huutai/ ~のスープ tuisinzi/ ~の鳴き
声 →kookorookoo, kuQkuruu?uu/ ひ
よこの鳴き声 →pijapija/ ~を呼ぶ声
'juuijuui
にん〔人〕 -tai, -niN/ ~様 -tukuru
にんかん〔任官〕 ?weedaigan
にんぎょ〔人魚〕 ?akan gwaa?iju, zan,
zanNu?iju
にんぎょう〔人形〕 hutukii, ninzoo, →?u-
mentuu/ ~使い →con daraa, 'jan'zai,
jan'zajaa, man'zai/ ~箱 ?umentuu-
baku
にんげん〔人間〕 ninzin, →ひと/ ~ぎらい
?eukasimasjaa
にんじょう〔人情〕 ninzoo, →なさけ/ ~の
ある人 cimumucimun
にんしん〔妊娠〕 'iicii, kweetee, şidiiga-
huu, şiduugahuu, →?uqtumisi みども
る/ ~する kasagijun, →mucun, ?uqtu
にんじん〔人參〕 cideekuni
にんずう〔人教〕 ninzu/ ~調べ ninzu?a-
ratami/ ~割り çiburuwai, çiziwai,
?atamawai
にんそう〔人相〕 ninsoo
にんたいりょく〔忍耐力〕 nizidee, →たえる
にんにく〔大蒜〕 hwiru
にんぶ〔妊婦〕 kasagiNcu, →?uhuwataa,
?uhuwatamun

ぬ

ぬいあげ〔縫い上げ〕 neeciri
ぬいとり〔縫い取り〕 nucimun
ぬいばり〔縫い針〕 cinnooibaai, cinnoo-
jaabaai
ぬいめ〔縫い目〕 neemi
ぬいもの〔縫い物〕 nooimun

ぬう〔縫う〕 noojun
ぬか〔裸〕 nuka
ぬかよるこび〔糠喜び〕 'nna?uqsja
ぬかるみ〔泥濘〕 butubutu, durugwaqtai,
gweqtai, ziqtai, ziqtaigweqtai/ ~の
さま gwengwen/ ~になった道 gweqta-

ぬき

imici, nančurumici
 ぬき〔貫〕 nuci /～のある家 nucizijaa
 ぬき〔緯〕 nuci
 ぬきいと〔緯糸〕 nuci
 ぬきがき〔抜き書き〕 nuzigaci
 ぬきて〔抜手〕 tiinuzaa
 ぬきんでる〔抜きんでる〕 nugijun, nugi-
 ?nzijun, tacinugijun, →すぐれる
 ぬく〔貫く〕 nucun
 ぬく〔抜く〕 nuzun, →ひきぬく
 ぬぐ〔脱ぐ〕 hazijun, nuzuń
 ぬぐう〔拭う〕 nugujun, susujun
 ぬけがけ〔抜け駆け〕 sacimaai
 ぬけがら〔抜け殻〕 ŝidigara, ŝidiguru
 ぬけげ〔脱げ毛〕 karazibuciki
 ぬける〔抜ける〕 hwicinajun, nugijun/
 抜けてあがる nucagajun
 ぬげる〔脱げる〕 nugijun
 ぬし〔主〕 nuusi
 ぬすっと →どろぼう
 ぬすみぐい〔盗み食い〕 nusucungwee
 ぬすむ〔盗む〕 nusunun/ ～くせ tiigusi/
 ～くせがある tiinagasan

ぬた〔料理の名〕 nuta
 ぬの〔布〕 ciri, nunu, →おりもの/ ～に水
 を通すこと →sintaku/ ～の織り始め ka-
 sici, nuuguci/ ～の長さ nunudaki/ ま
 だ水を通してない～ sajumi
 ぬま〔沼〕 kumui
 ぬらす〔濡らす〕 'ndasjun
 ぬらぬら nuurakwaara 「なすりつける
 ぬりつける〔塗り付ける〕 naŝijun, →
 ぬりもの〔塗り物〕 →しっき
 ぬりものや〔塗りもの屋〕 nuimunjaa
 ぬる〔塗る〕 nujun
 ぬるい nurusan, →なまぬるい/ ～さま
 nuruqkwikaa/ ぬるくなる nuruqkwi-
 jun.
 ぬるまゆ〔微温湯〕 nuruqkwijuu
 ぬるむ〔温む〕 nurunun
 ぬるめる〔温める〕 nurumijun
 ぬれて〔濡れ手〕 siqtaidii
 ぬれる〔濡れる〕 'ndijun, siputajun,
 siqtajun, →siqtai/ 濡れた着物 siqtai-
 zin/ 濡れたさま 'nāikaa, siqtai, siqta-
 ikaatai, sipusipu, siputaikaatai

ぬ

ぬ〔根〕 nii, →hwizi, niigui/ ～が付く
 niizicun/ ～が張ること niibai/ ～とこず
 え niisuura/ ～も葉もないこと ?araza-
 ranKutu 「kijun
 ぬ〔値〕 nii, →ねだん/ ～をつける ?uqca-
 ぬ〔音〕 nii, →おと
 ぬ〔子〕 nii/ ～の方角 niinuhwa
 ぬあせ〔寝汗〕 →hwizuru?asi
 ぬいき〔寝息〕 niici
 ぬいりばな〔寝入り端〕 niNzihana
 ぬいろ〔音色〕 →guin, おと
 ぬえ daa, -ii 'jaa 'joo, -kee, sai, sari,

tai, tari
 ぬえさん〔姉さん〕 →あね
 ぬがい〔願い〕 nigeē, →きがん, のぞみ, ね
 んがん/ ～ごと nigeegutu, nigeekanee/
 ～がかなりこと ?umizituganawai
 ぬがう〔願う〕 nigajun, →のぞむ, もとめる
 ぬがえり〔寝返り〕 kugee, kugeei, kuma-
 geei, niNzikugee/ ～をうつ →kugee-
 jun, ?uqceejun
 ぬがえる〔寝返る〕 ?uqceejun
 ぬがお〔寝顔〕 nigau, niNzigau
 ぬかせる〔寝かせる〕 niNsijun, →よこたえ

る/寝かせつける muiniNsijun
 ねぎ〔葱〕 bira, ziiBira
 ねぎる〔値切る〕 ?ibujun/ ~さま ?ibui-
 kabui, ?ibuisiizii/ ~者 ?ibujaa
 ねこ〔猫〕 majaa, majuu, (小児語) maa-
 uu/ さかりのついた~ kuriimajaa/ す
 ごい~ →?ankoomajaa/ ~の名 →tu-
 kuu/ ~の鳴き声 maaumaa/ ~のひたい
 ほど →tinda/ ~を呼ぶ声 kutukaakutu-
 kaa, kutukutuu
 ねごこち〔寝心地〕 ninzigukuei
 ねござ〔寝ござ〕 sicimusiru
 ねこじた〔猫舌〕 majaanagui
 ねこせ〔猫背〕 sinKoogu, ?usukoogu
 ねごと〔寝言〕 nigutu
 ねこむ〔寝込む〕 →?ucikutasjun
 ねころがる〔寝転がる〕 →niniNgwii
 ねじ〔螺子〕 karakui, niziri, sinmi
 ねじふせる〔挟む〕 muditoosjun
 ねじめ〔音締め〕 çindami, →hwicidamisi
 ねしょうべん〔寝小便〕 ?juusibai
 ねじる〔捻る〕 hwinijun, mudijun, →hwi-
 Nmudijun, ひねる/ ねじり倒す →ひね
 ねじれる〔捻れる〕 mudijun しりたおす
 ねずみ〔鼠〕 ?weNcu, (小児語) piipii/ ~
 の一種 biicaa/ ~とり ?weNcujaama/
 ~とりの一種 haNcuujaama/ ~花火 ga-
 Nsinagwaahjooaku
 ねせる〔寝せる〕 →ねかせる
 ねぞう〔寝相〕 ninZizama, nizama/ ~の
 悪いこと niniNgwii, ninningwii
 ねそべる〔寝そべる〕 →niniNgwii/ ~こと
 nagabooi, nagaboojaa, naganubitoori
 ねだ〔根太〕 ?jukamuci
 ねたみ〔妬み〕 ?uragoosa, ?waanai, ?wa-
 anee, →?waanaiKwaanai, しっと
 ねだること →せがむ
 ねだん〔値段〕 deeni, nii, →こうか, だいか
 ねちがえ〔寝違え〕 ninZicigee, ninZicizee
 ねつ〔熱〕 uçi/ ~が高いさま hwanai/

~が引くこと haqsan/ ~をもって痛む
 こと ?açiBiraci
 ねっから〔根っから〕 niikara
 ねっき〔熱気〕 humici
 ねづく〔根づく〕 niizicun
 ねっこ〔根っこ〕 niigui, →ね
 ねつさまし〔熱さまし〕 haqsangusui, ni-
 çisamasi
 ねっしん〔熱心〕 nin, →nin?iri/ ~でない
 cimunurusana/ ~な人 ninSja
 ねったいちほう〔熱帯地方〕 ?açiguni
 ねっちゅうする〔熱中する〕 hwiqkata-
 NcuN, katanCuN, mucikwaarijun,
 suunuN, →mucikwajun
 ねっっぽい〔熱っぽい〕 hada?açisan
 ねっぴょう〔熱病〕 →sjookan
 ねどこ〔寝床〕 zasici, →とこ
 ねばっこい〔粘っこい〕 mucisan
 ねばならぬ →najun
 ねばねば buqtakwaqta, mucamuca,
 muqcaikwaqta/ ~している mucisan
 ねばりつく〔粘りつく〕 muqcajajun
 ねばりづよい〔粘り強い〕 sipusan/ ~力
 kakaidee/ ~者 kazii, sipuu
 ねびる〔植物名〕 niibiru
 ねぶそく〔寝不足〕 ninZibusuku
 ねぶと〔根太〕 niibutaa, niibutu「さねぼう
 ねぼう〔寝坊〕 niibuimusi, niibujaa, →あ
 ねぼける〔寝ぼける〕 / ~こと nizamasa
 ねほりはほり〔根堀り葉堀り〕 niimicimi
 ねま〔寝間〕 →しんしつ
 ねまる nitamajun
 ねむい〔眠い〕 ninZibusjan/ 眠くない
 miiguhwasan, →ねむる/ 眠くなること
 niibui/ 眠くなるさま niibuikaabui/ 眠
 そうな眼 niibuimii/ 眠たがって泣くこと
 niibuigaman/ 眠たがる者 niibujaa
 ねむりぐさ〔植物名〕 ninningusa
 ねむる〔眠る〕 ninZun, →ねる/ うとうと
 ~ turumikasjun/ ~さま →gutaguta/

ねも

眠れない miiguhwasan, →kuhwajun/
 眠れないこと miiguhwai, miikuhwai/
 眠れないさま miikahwakahwa/ 眠れない人 miikuhwajaa
 ねもと〔根元〕 niimutu, niisisi
 ねものがたり〔寝物語〕 ninzimunugatai
 ねる〔寝る〕 ninzun, →'jukujun, (卑語)
 ?ahwanacun, (敬語) ?weesimişeen,
 ねむる/ ~こと (小児語) niinii/ 寝そこ
 なら ninzijanZUN/ 寝たい ninzibu-
 sjan/ 寝たふり nintahuunaa/ 寝て目を
 さましていること ?ukininzii
 ねる〔練る〕 niijun
 ねわすれる〔寝忘れる〕 ninzihurijun
 ねん〔念〕 nin, →ねんいり, ねんのため/
 ~の入れすぎ ninnukwaa/ ~のために
 すること 'juusin/ ~を入れないこと hu-
 nin/ ~を入れる人 ninsja/ ~を押す
 kazikakijun
 ねん〔年〕 →nin, -tu/ ~がら年中 ninga-
 ninzuu, →しじゅう
 ねんいり〔念入り〕 nin'iri, →ねん, よく
 よく/ ~に tukuqtu/ ~にする sisijun

ねんがん〔念願〕 ningwan, →ねがい
 ねんき〔年季〕 ninziri
 ねんき〔年忌〕 nincci
 ねんぎめ〔年決め〕 ninziri
 ねんきり〔年切り〕 ninziri
 ねんし〔年始〕 nintuu/ ~回り nintuu-
 maai
 ねんじゅう〔年中〕 ninzuu, →しじゅう,
 ねん
 ねんすう〔年数〕 ninsuu
 ねんずる〔念ずる〕 ninzijun, →おもう
 ねんだい〔年代〕 nindee
 ねんちょう〔年長〕 šiiza, tusişiiza, tusi-
 ?wii →としうえ/ ~の者たち šiizakata/
 ~順 šiizakatasidee, šiizasidee
 ねんとう〔年頭〕 nintuu
 ねんない〔年内〕 tusi?uci
 ねんね niinii
 ねんねん〔年年〕 ninnin
 ねんばい〔年配〕 tusibee, tusikaqkoo,
 →'juca, としごころ/ ~の人 'jucanumun
 ねんぶ〔年賦〕 ninpu, ninziri
 ねんまつ〔年末〕 ninşii/ ~に女郎にくれる
 金 tusiziri/ ~の総決算 tusiziri
 ねんりき〔念力〕 ninrieci

の

の〔野〕 moo
 の〔助詞〕 -nu, -şi
 のあそび〔野遊び〕 moo?aşibii
 のうぎょう〔農業〕 harusikuci, muzukui/
 ~の成績を争う競争 harusjuubu/ ~をす
 る →çukujun, haru
 のうぐ〔農具〕 / ~の一種 kurumaboo, ku-
 sakaci, tibiku, ?uzunbiira
 のうこうぎらい〔農耕儀礼〕 →?umaçii, ぎょ

うじ
 のうさくぶつ〔農作物〕 çukuimun, çuku-
 imuzukui
 のうてん〔脳天〕 hjuuruci
 のうひんけつ〔脳貧血〕 kukutimingwaa,
 kukutimingwi/ ~を起す kukuti-
 mingwijun
 のうべん〔能弁〕 binkuu/ ~な者 binkuu-
 mun, binsja

のうみん〔農民〕 çukujaa, haruʔaqaqa,
 harusjaa, ʔnmuçukujaa, ziiŋcu
 のがす〔逃がす〕 hwingasjun, nugasjun,
 →にがす
 のがれる〔逃がれる〕 nugaajun, →にげる
 のき〔軒〕 ʔamidai
 のぎ〔芒〕 ʔNnagee
 のきした〔軒下〕 ʔamidai, →kaziramaai
 のく〔退く〕 ducun, nucun, şizicun, →
 のげし〔植物名〕 maaʔoohwaa 〔どく
 のける〔退ける, 除ける〕 dukijun, dukina-
 sjun, nukijun, sizirakasjun, →おし
 のこぎり〔鋸〕 nukuziri 〔のける
 のこす〔残す〕 nukusjun/ 残したもの nui-
 kusi/ 残して置く hwicinasjun, tui-
 maasjun
 のこらず〔残らず〕 ʔiqsoonaadii, ʔiqsoo-
 ziicii, →いっさい, ぜんぶ, すっかり, すべ
 のこり〔残り〕 nukui 〔て, みな
 のこりもの〔残り物〕 nukuimun
 のこる〔残る〕 nukujun
 のし〔脱斗〕 nusi
 のせる〔乗せる・載せる〕 nusijun
 のぞく〔覗く〕 nubagajun, →かいまみる/
 ~こと suumi/ のぞき込むこと meenu-
 bagai
 のぞみ〔望み〕 nužumi, sjumoo, →ねが
 い/ ~どおり nuzumiduui
 のぞむ〔望む〕 nužunun, →ねがらう
 のたうつ →sinpui
 のち〔後〕 ʔatu, →あと
 のちのち〔後後〕 ʔatuʔatu
 のっば tacaaii, takahazii, takasoo, ta-
 kasoonaa, takasoonii
 ので〔助詞〕 -jemunu, -kutu, -munu -nu,
 -şini çittee, -şin çittee
 のど〔喉〕 nuudii/ 食物が~につかえるさ
 ま ciiciikaakaa
 のどか nuduka, →のんびり
 のどびこ〔喉彦〕 nuudiiʔwaagwaa

のどぼとけ〔喉仏〕 nuudiiguuhu
 のに〔助詞〕 →munu, -nagiinaa
 ののしる〔罵る〕 ʔiicijun
 のぼす〔伸ばす・延ばす〕 nubasjun, nubi-
 のはら〔野原〕 moo 〔jun, →ひきのぼす
 のび〔伸び〕 nubi, nuubi
 のびちぢみ〔伸び縮み〕 nubicizimi
 のびのび〔延び延び〕 ʔinin, nubinubi/ ~
 になる hwicurujun, hwicuruujun
 のびる〔伸びる・延びる〕 nubun/ くたくた
 に~ →ʔaata najun, nubacirijun,
 sjoozijun
 のびる〔植物名〕 niibiru 〔す
 のべる〔伸べる・延べる〕 nubijun, →のぼ
 のぼせ〔逆上〕 nubusi/ ~を直す薬 sagi-
 のぼせる nubusijun 〔gusui
 のぼらせる〔都へ~〕 nubusijun
 のぼり〔上り・登り〕 nubui/ ~はじめ ʔa-
 gaihana
 のぼりくだり〔上り下り〕 nubui kudai
 のぼる〔上る・登る〕 nubujun
 のぼる〔昇る〕 ʔagajun/ ~日 ʔagaitiida
 のみ〔蜜〕 numi
 のみ〔鑿〕 numi
 のみぐすり〔飲み薬〕 numigusui
 のみこむ〔飲み込む〕 numikunun
 のみともだち〔飲み友達〕 numidusi
 のみみず〔飲み水〕 numimizi, nunmizi
 のむ〔飲む〕 nunun, →kaşijun
 のやし〔植物名〕 biŋroo
 のやま〔野山〕 nujama, →さんや
 のらいぬ〔野良犬〕 ʔjamaʔin
 のらくら daraakwaraa
 のらねこ〔野良猫〕 ʔjamamajaa
 のり〔糊〕 nui/ ~の付いてない着物 →bi-
 tataizun/ ~を付けて着る →hwiqapajun
 のりきになる〔乗気になる〕 citudacun,
 のりと〔祝詞〕 ʔutakabi 〔nurijun
 のりもの〔乗り物〕 nuimun
 のる〔乗る・載る〕 nujun

のろ

のろ〔祝女〕 nuru, nurukumii, nuuru, →
みこ
のろい〔鈍い〕 dunnasan, niisan, nuru-
san, →おそい/ のろく niNku
のろい〔呪い〕 ?icizama, nureegutu
のろう〔呪う〕 maNnajuN, →?icizama
のろし〔狼煙〕 hwiitatii/ ~をあげる場所
hwiitatiimoo, hwiitatimoo

のろのろ niqcirikeeciri, →もたもた
のろま dunnamuN, tuturuu, →ぐず
のんだくれ →さけのみ
のんびり(〜と) 'jagujagutu, 'juruitu,
'juruqtu, 'juujuutu, ?uqtaimootai, →
のどか, ゆうちょう/ ~しすぎる 'juuju-
uturaaajan

は

は〔葉〕 hwaa, →kaasja, kaasjanuhwaa
は〔齒〕 haa →おくば, きば, きゅうし,
けんし, にゅうし, まえば/ ~の痛み
haajami/ ~の無い者 haamoo
は〔刃〕 haa, →かたは, やいば
は〔羽〕 -hwani
は〔助詞〕 -ja
ばあ 'waa
ばあい〔場合〕 baa, basju
ばあさん →おばあさん/ ~づら haamee-
zira
はあはあ hweehwee
はい〔応答〕 hii, hNn, hoo, huu, (肯定)
?ii, ?juu, ?NN, ?oo, ?uu, →?asi
はい〔牛馬を追う声〕 sii
はい〔灰〕 hwee, →karahwee
はい〔肺〕 huku, hwee
はい〔杯〕 (接尾) →cawan
ばい〔倍〕 bee/ ~の仕事 beesikuci/ ~の
難儀 beenanzi
はいいろ〔灰色〕 hwee?iru/ ~のもの
hwee?iruu
ばいう〔梅雨〕 →sjuumanboosjuu
はいえい〔背泳〕 maahwanacaa?wiizi,
ninzaa?wiizi
はいか〔配下〕 kagee, →てした
はいざい〔配剤〕 hweezee
はいしゃく〔拝借〕 ?uncee, →かりる/ ~
した物 ?unceemuN

ばいしゅんふ〔売春婦〕 →hweezuraa,
hweezuri, sangwanaa, zuri, →じょろ
はいしょ〔配所〕 munusirasidukuru しり
はいしょく〔配色〕 ?irudujaasi, →いろどり
ばいしょく〔陪食〕 sjooBa, (敬語) ?usjoo-
ba 「しりぞける, のける
はいじよする〔排除する〕 ?usinukijuN, →
はいすいこう〔排水口〕 'juubaimii
はいぞう〔肺臓〕 →はい
はいた〔歯痛〕 haajami
はいちゃく〔廃嫡〕 →caqci?usikumi
はいでる〔這い出る〕 hooi?nzijuN
はいとう〔配当〕 'waikwii, →わけまえ
ばいどく〔梅毒〕 naabaru, nabaNgasa/ ~
にかかったことのある人 huruqcu/ ~に
かかったことのない人 miiqcu/ ~にか
かった人の血 huruci
はいはん〔廃藩〕 haiban 「→tan
はいびょう〔肺病〕 hwiirroo, tanjanmee,
はいふき〔灰吹き〕 hweehuci
はいぶつ〔廃物〕 ?itarimuN
はいぶん〔配分〕 hweebuN, →わりあて
はいゆう〔俳優〕 sibaisii, 'uduisjaa
はいりこむ〔這入り込む〕 hweeriNcuN, si-
cikuNuN
はいりょう〔拝領〕 hweeroo, (敬語) gu-
hweeroo, →いただく, もらう
はいる〔這入る〕 ?ijuN/ はいってすぐ ?i-
rihana

はう[這う] hoojuN/ 這い回ること hwee-ciri
 はうた[端歌] ha?uta, hwa?uta
 はえ[蠅] hwee
 はえ[南風] hwee, →みなみかぜ
 はえかわる[生え代わる] miikaajuN/ はえ代わった齒 miikaabaa
 はえぎわ[生え際] kiimiikuci
 はえる[生える] miijuN, →しげる/ 生え出る mii?NzijuN
 はおと[羽音] hani?uta
 はおり[羽織] duubuku, ha?ui
 はおる[羽織る] ?uqekajuN/ 羽織って着ること ?waabooii
 はか[墓] ?ikazu, haka, haru, sinzu, ?uhwaka, →hun?i/ 王の~ tama?udun/ ~の一種 huinci, huincibaka, hwaahuu, kaaminakuu?uhwaka, niibibaka, sudigaci/ ~の出入口 hakanuzoo/ ~の番小屋 ?ikaja/ ~の番人 hakabaan/ ~の普請 hakabusin/ ~の見回り harumigui
 ばか[馬鹿] huraa, hurimuN, →おろか, ぐぶつ, まぬけ/ ~げたことば hurimunii, hurimunu?ii/ ~にする →hurimuN, かるんじる, けいべつする
 はがい[羽交い] hanigee
 ばかしょうじき[馬鹿正直] hurimakutu, saramakutu
 はがす[剃がす] ?akasjuN, hagasjuN, →はがた[齒形] haakata [はぐ, へぐ
 ばかぢから[馬鹿力] hurizikara
 ばかづら[馬鹿面] ?irahuraa
 はかどる[歩る] ?agacuN, hakadujuN, →habacuN, hakaraasjan/ はかどらない muqcoorijuN/ はかどらないさま muqcaihwiqcai, muqcoohwiqcoo
 はかない[果無い] →?adasi
 はがね[鋼] hagani 「→はかどる
 はかばかしい[拂拂しい] hakaraasjan,

はかま[袴] hakama, ?Nmanuibakama
 はかまいり[墓参り] hakamee, ?uhwakamee
 はがゆい[齒痒い] tiihagoosan
 はからい[計らい] hakaree 「らう
 はからう[計らう] hakarajuN, →とりはかばからしい[馬鹿らしい] →?ahwageejuN, ?ahwageerijuN
 はかり[秤] hakai
 ばかり -bikaan, -bikeei, -bikeen/ …~している →?aqeuN
 はかりごと[謀] boo, hakarigutu, →けいはかりめ[秤目] hakainumii しりやく
 はかる[計る] hakajuN, →hwiruzun
 はがれる[剃がれる] ?akarijuN, →はげる, むける
 はきけ[吐き気] / ~がする munuacibusjan/ ~を催す 'wiibacunu/ ~を催すこと 'wiibacinoori
 はぎしり[齒ぎしり] haagisii
 はきだす[吐き出す] haci?NzasjuN
 はぎれ[齒切れ] haziri
 はく[吐く] ?agijuN, hacuN, mudusjuN/ 吐いたり下したりすること hacaihwiqcai
 はく[掃く] hooeuN, →hooei/ ~こと hooeikaci/ 掃き落とす hooei?utusjuN/ 掃き込む hooeieun
 はく[履く] kunuN/ はきくずした草履 →nazinatasaba
 はく[佩く] hacuN, hakijuN
 はぐ[剃ぐ] hazun, →はがす, へぐ
 ばぐ[馬具] bagu, bagudoogu/ ~の一つ
 はぐき[齒莖] hasisi [mugee
 はくじょう[白状] hakuzoo
 はくじょう[薄情] hakuzoo, →つれない,
 はくそ[齒くそ] haakusu しふにんじょう
 ばくち[搏打] bakuca, bakuci, →かけ
 ばくちく[爆竹] hjaa, hjaagwaa/ ~の一種 hjoocaku
 はくちゅう[白昼] ?akarahwiru
 ばくばく hauhau

はく

はくまい〔白米〕 siragigumi
はくめい〔薄明〕 sira?akagai, sira?aki,
?usu?akagai
はぐらかす →ごまかす/ ~こと 'jukumu-
nii, 'jukumunu?ii
はくる〔白露〕 hakururu
はけ〔刷毛〕 haki
はげ〔禿〕 hagua, hagai, hudii/ ~の一種
kanpaci, taiwanboo, taiwanboozii
はげあたま〔禿げ頭〕 hagiçiburu, ?imun-
çiburu
はげねこ〔化猫〕 →æehwirimajaa
はげます〔励ます〕 ?isamijun, ?isimijun
はげむ〔励む〕 cigakijun, hamajun, hu-
mikunun, ?i?inun, ?umihamajun, →
はげもの〔化物〕 mazimun [つとめる
はげる〔禿・剃げる〕 hagi?un, →はがれる
はげる〔化ける〕 bukijun
はこ〔箱〕 haku
はごろも〔羽衣〕 tubizii
はさみ〔鋏〕 hasan
はさみこむ〔挟み込む〕 →kwaasjun
はさむ〔挟む〕 hasanun
はし〔橋〕 hasi
はし〔箸〕 haasi, hasi, meesi, →?umeesi/
~を取って食べるまねだけすること haa-
sidui
はし〔端〕 hana, hanta, hazisi, hanaga-
kii/ ~に掛けること hantagaki
はし〔恥〕 hazi, →あかはし/ 顔にあらわれ
る~ çiranuhazi
はしか〔麻疹〕 ?irigasa
はじく〔弾く〕 hançun
はしけ〔解〕 tinma
はしご〔梯子〕 hasi
はしごだん〔梯子段〕 niikeebasi
はじざらし〔恥曝し〕 miiwaku
はじしらず〔恥知らず〕 haziciraa, hazici-
rimun

はしたかね〔端大金〕 hamunzin
はしばこ〔箸箱〕 →?umecsbaku
はしばし〔端端〕 hanabana, hasibasi
はじまり〔始まり〕 hazimai, →はじめ
はじまる〔始まる〕 hazimajun
はじめ〔始め〕 hazimi, sikaki, →?atama,
kuci, はじまり
はじめて〔初めて〕 hazimiti
はじめまして〔初めまして〕 →hazimiti
はじめる〔始める〕 hazimijun, →?uqta-
cun/ ...を始め katakuzira
はしゃぐ ?isjaakaajun, ?isjakajun
ばじゅつきょうぎ〔馬術競技〕 ?Nmasjuu-
bu, ?Nmazurii
ばしょ〔場所〕 basju, →ところ, ちい
ばしょう〔芭蕉〕 basjuu, 'uu/ ~の一種
hanabasjuu, naiuu/ ~の糸を入れる竹
のかご 'uubaara/ ~の糸くず 'uubuciki/
~の葉 'uugaasja, 'uunuhwaa/ ~の葉
に包んだ弁当 kaasjabintoo/ ~の実 ba-
sjanai/ ~の葉柄の裏皮 basikaa, basi-
kee/ ~の畑 'uu?atai [si
ばしょうし〔芭蕉紙〕 basjuukabi, basjuu-
ばしょうふ〔芭蕉布〕 basjaa, basjaanunu/
~の一種 ?akauu, namauu, niiuu/ ~
の着物 basjaazin, sudiciraa/ ~の裏服
basjazin
はしょうふう〔破傷風〕 hasjoohuu
ばしょふさぎ〔場所塞ぎ〕 baahabakai
はしら〔柱〕 haaja/ 家の中にある~ muu-
jabaa/ 端にある~ hazibaa/ ja
はしりづかい〔走り使い〕 ?uçiikesarijaa
はしる〔走る〕 hajun, →haae, かけずり
まわる, かけっこ/ こそこそと~こと ka-
tançibai
はじる〔恥じる〕 →はずかしい
はず〔蕪〕 din, rin
はず〔筈〕 hazi
はずう〔端数〕 ?waahwa
はずかしい〔恥ずかしい〕 hazikasjan, çii-

raʔahwasan, ʔirahazikasjan/ ~思い
 をする sjukweesjun, sjuqkweesjun/
 ~顔 → ʔiragwaa/ ~目 → niirihwiiri
 はずかしがり [恥ずかしがり] cimuguu-
 mun, hazikasjaʔumii
 はずす [外す] hanʃjun
 はずみ [弾み] hjoosi, ʔuzumi, ʔunzumi
 はずれ [外れ] hazisi
 はずれる [外れる] handijun
 はぜ [榼] → hazi, hazigi/ ~の木にかぶれ
 ること hazimaki
 はそん [破損] hasun, 'janɗi, 'jaburi, →
 はた [旗] hata じこわれる
 はた [端] hata
 はた [機] nunubata/ ~の部品・付属品な
 どの名 ʔazi, ciisii, hjaa, huduci, hwi-
 zici, ʔijanuqkwa, 'jaama, 'jaamanu-
 çimi, kudagu, kuimee, kusizaa, kuu-
 daguusi, macica, manuci, meegusa,
 nakazici, sicica, ʔusiidaki, 'uusa,
 'waku, → はたおり
 はだ [肌] hada, → ひふ/ ~がはてる hadaʔa-
 çisan/ ~を欲しいと思ふこと hadahusja
 はたおり [機織り] / ~で縞糸の数を間違え
 ること ʔajamamizi/ ~でかせを抜いた
 り巻いたりすること nucimaci/ ~で糸に
 のりを付けること meenui/ ~でおさの粗
 密, また従って織った布の粗密をあらわす
 単位 cujumi, 'jumi/ ~で, おさの種類
 の名, また従って織り方の種類・織られた
 布の種類の名 ciin, 'een, hatajumi,
 hateen, hjaadaki, ʔičiini, 'iin, kukuni-
 in, miin, nanajumi, naneen, nuun,
 teen, tiin, tuujajumi, tuukununuju-
 mi, tuunanajumi/ ~をする者 nunu-
 はだか [裸] hadaka, → まるはだか ʔujaa
 はだかうま [裸馬] hadakaʔnma
 はだかむぎ [裸麦] hadakaamuzi
 はだかる habakajun, hatakajun
 はだかんぼう [裸んぼう] hadakaamucaa,

hadakaamuucii, → はだか
 はたき [叩き] gumiʔuci 「たぎ
 はだぎ [肌着] duusibui, hadasibui, → し
 はたけ [畑] haru, hataki, → ʔatai/ ~が
 隣合っている間柄 harudunai/ ~の中の
 道 harumici/ ~の見回り harumigui
 はたけしごと [畑仕事] harusikuci/ ~の端
 緒 hakaguci
 はだける ʔakihatakijun
 はだごこち [肌心地] hadamuci
 はだし [裸足] karahwisja, (敬語) mika-
 rahwisja
 はたして [果して] masagagutu, 'Nca
 はたち [二十歳] hataci
 ばたばた haqturugeejaa, paqtarigeejaa,
 paqturugeejaa
 はだみ [肌身] hadami
 はたらき [働き] hataraci, tibusi,
 はたらきもの [働き者] ganaramun, ga-
 narimun, kaneemun, miguimun, siti
 はたらく [働く] ʔagacun, hataracun, →
 cibajun/ 気軽に ~ çibigaqsan/ 働いて賃
 金を得る mookijun/ 働き過ぎて倒れる
 こと siidoori/ 忙しそりに ~さま ʔaga-
 cihai
 はだん [破談] / ~にする ʔiimudusjun
 はち [8] haci, 'jaaçi, → 'ja-, やっつ
 はち [蜂] haca/ ~の一種 nukabacaa /
 ~の巢 hacaanusii
 はち [鉢] / ~の一種 hacinuku, hanaba-
 aci, 'wanbui
 ばち [撥] baci
 ばち [罰] baci, → ばつ/ ~が当たった者 ba-
 çikanzaa/ ~が当たる → baci
 ばちあたり [罰当たり] baçikanzaa
 はちあわせ [鉢合わせ] çiburugaqpai
 はちかい [8回] 'jakeen
 はちがつ [8月] hacigwaçi
 はちきれ [はち切れる] haçcirijun/ は
 ち切れそうなさま haçciriracirira/ はち

はち

切れそりにする haqcijun
はちじゅう[80] hacizuu
はちじゅうはち[88] hacizuuhaci/ ~の祝
'juninu?uiwee, 'juninu?ujuwee, too-
kaci?uiwee
はちにち[8日] hacinici
はちにん[8人] hacinin, 'jaqtai
ばちばち pacipaci
はちぶんめ[8分目] →?uci?uciitu
はちまき saazi/ ~の一種 mansaazi
はちりん[8厘] 'jukumui, sipjaaku
ばちん pacin/ ~という pacimikasjun
はつ[初] ?ara-, haçi-
ばつ[罰] baçi, →せっかん, ばち
ばつ / ~が悪いこと hwizaruu, siibuu/
~の悪い思いをする sjukweesjun, sju-
Qkweesjun
はつあるき[初歩き] →haçi?aqcii
はついく[発育] cuui, ?wiitaci, ?wiqtaci,
→そだち/ ~が遅い cuuniisan/ ~が
早い cuibeesan/ ~が早いこと hweezu-
ui/ ~が悪いこと bucuui/ ~する cuu-
jun, ?wiijun, ?wiitacun/ ~する子供
?wiitaciwarabi
はつおん[発音] →kaikoo
はっか[薄荷] haqka, hwaqka
はつか[20日] haçika/ ~の夜 haçikaju
はっかく[8角] haqkaku 「sjoogwaçi
はつかしょうがつ[二十日正月] haçika-
はつがみなり[初雷] haçigannei
はつきり →あきらか, さやか
ばっきん[罰金] baqcin, kwamuci, kwa-
sin, →かせん
はつくだり[初下り] ?arakudai
はっけ[八卦] haqci
はつご[初子] ?wiingwa, →?wiingwa-
hwaçingwa
はっこうする[醜醉する] →?amikoojun
はっさん[発散] haqsan
ばっし[末子] ?uqtungwa

ばっすい[拔萃] nuzigaci
ばった(虫の名) ?Nnaguraaæee, see
はつたび[初旅] ?aratabi
ばっちい(~もの)(小児語) ?NNnaa, pee-
pee, →きたない
ばっちり miiguruguru
ばってき[拔擢] tuitati, →とりよう/ ~す
る tuitatijun
はっと[法度] haqtu
はっとする →'Nnihwizurusan
はつなり[初生り] haçinai
はつのほり[初上り] ?aranubui
はつはる[初春] haçiharu
はつほ[初穂] sicuma
はつまご[初孫] haçi?Nmaga
はつもの[初物] haçimun, →おはつ
はて[果て] hati, ?icihati
はで[派手] hankwa/ ~なさま ?akara-
kwaara/ ~にする →hwiQpajun, kwa-
biijun
はてる[果てる] hatijun, →おわる
はと[鳩] hootu/ ~の子 hootungwa
はとむね[鳩胸] hootunni
はな[鼻] hana, →hanabuqkwa, (敬語)
'Npana, ~にかく汗 hana?asi/ ~の赤
い者 ?akabanaa/ ~の先 hananusaci/
~のひしゃげた者 hanabiraa, hanasi-
piraa/ ~の低い女 sjadannu?utuu?-
nmii/ ~をかむ sipijun
はな[花] hana, (敬語) 'Npana, (小児語)
noonoo, →hanagi/ ~の盛りが過ぎる
saciçirijun/ ~を植える鉢 hanabaaci
はな[端] hana, -hana
はないけ[花生け] hana?ici
はなうり[花売り] hana?ui
はなお[鼻緒] →hanauu/ ~の一種 niri-
uu/ ~ずれ sabahagi
はながさ[花笠] hanagasa

はなかぜ〔鼻風邪〕 hanasici, →かぜ/ ~気味 hanasickagin
 はながつお〔花籃〕 hanabira
 はながみ〔鼻紙〕 hanagami, hanagan
 はなくそ〔鼻糞〕 hanakusu
 はなげ〔鼻毛〕 hanagii 「?ii
 はなごえ〔鼻声〕 hanamunii, hanamunu-
 はなごさ〔花ごさ〕 hanamusiru
 はなざかり〔花盛り〕 hanazakai/ ~となる sacisakeejun
 はなし〔話〕 hanasi, ?ihwanasi, munugatai, →むかしばなし, ものがたり/ ~する →hanasi, ?junun/ ~にならない→kakinin ?ooran
 はなしかた〔話し方〕 munu?iikata
 はなしごえ〔話し声〕 munu?iigwii
 はなしじょうず〔話し上手〕 munu?iizoozi
 はなしずき〔話し好き〕 munugataizici
 はなしぶり〔話しぶり〕 munu?iitanari
 はなす〔離す・放す〕 ?aakasjun, hanasjun, →ひきはなす
 はなす〔話す〕hanasjun, →かたる, しやべる, はなし/ 話したり笑ったりすること munu?iiwaree
 はなぞの〔花園〕 hana?atai
 はなたらし〔鼻垂らし〕 hanadajaa
 はなぢ〔鼻血〕 hanazii
 はなづまり〔鼻づまり〕 hanakatamajaa/ ~のさま hanapiipii
 バナナ basjanai, →naiuu
 はなばしょう〔花芭蕉〕 hanabasjuu/ ~の実 huuhuudaamaa
 はなはだ〔甚だ〕 →ひじょうに
 はなび〔花火〕 hanabi, hwihwanazi, →gansinagwaahjoocaku, hjoocaku
 はなまつり〔花祭り〕 sjaakamundoo
 はなみ〔花見〕 hanami
 はなみず〔鼻水〕 hanadai, mizihanadai
 はなむけ sinbiçi
 はなむしろ〔花蓆〕 hanamusiru

はなむすび〔花結び〕 'jamatumusun
 はなやか〔華か〕 →かび/ ~な村 hanaguni/ ~にする haneekasjun, haneekijun/ ~になる haneecun, →?ucagajun
 はなよめ〔花嫁〕 miijumi
 はなれうま〔放れ馬〕 hwingi?Nma 「ri
 はなれじま〔離れ島〕 hanarizima, →hana-
 はなれや〔離れ家〕 →?asjagi, meenujaa
 はなれる〔離れる〕 ?aakijun, ?akarijun, hanarijun, hwizamajun, hwizamijun
 はにかみや〔はにかみ〕 hazikasja?umii, →はずかし
 はね〔羽〕 hani, hwani, →つばさ しがり
 ばね〔発条〕 bani
 はねっかえる〔跳ねっ返る〕 hancigeejun
 はねとばす〔跳ね飛ばす〕 ?uqtunugasjun, →tunuzun
 はねる〔跳ねる〕 hanijun, tunuzun, tunuzun, →とびあがる/ ~こと hani/ はねて入れる hanincun
 はは〔母〕 ?ajaa, ?anmaa, hwahwa, →ははば〔幅〕 haba, 'waa しはおやばば〔馬場〕 kaniku, ?Nma?wii, →maazi, zoo
 バババイ manzuuui
 ははおや〔母親〕 hwahwa?uja, 'winagunu?uja, 'winagu?uja, →はは/ ~のあとを追いかける子 ?ajaa?uuujaa, ?anmaa-
 ははかた〔母方〕 hwahwakata 1?uuujaa
 はばかり〔憚る〕 habakajun
 はばたき〔羽撃き〕 hani?uci/ ~の音 hani?utu
 はふ〔破風〕 hwaahuu
 はぶ〔蛇の名〕 habu, nagamun/ ~の一種 cinhabu, takanukurumaci/ ~のように張ったあご habukakuzi
 はぶりよくする〔羽振りよくする〕 hwi?pa-jun
 はま〔浜〕 hama, →かいがん
 はまぐり〔蛤〕 sirunna
 はますげ〔浜菅〕 koobusi

はま

はませんだん〔浜柁檀〕 'jamaguruci
はまちどり〔浜千鳥〕 hamaciduri
はまぼう〔植物名〕 'juuna/ ~の葉 'juu-
はまる〔嵌まる〕 hamajun [naagaasja
はめこむ〔嵌め込む〕 ſigijun
はもの〔刃物〕 hamun, hwizurumun
はもの〔端物〕 →はんば
はやい〔早い・速い〕 hweesan/ ~遅い nii-
sahweesa/ ~馬 hai?Nma/ ~船 haihu-
ni/ ~もの hweemun/ ~者勝ち sacina-
isigamunuu/ 早く hweeku, soosoo, →
つとに/早く支度ができること hweezimee
はやうまれ〔早生まれ〕 hwee?Nmari
はやおき〔早起き〕 ?asa?uki, hwee?uki
はやがってん〔早合点〕 hweegaqtin, →そ
うけい, はやまる
はやくち〔早口〕 / ~である sicabeesan
はやさい〔葉野菜〕 ?oohwa
はやし〔林〕 'jama
はやし〔囃子〕 hweesi, →kuducibeesi
はやしたてる〔囃し立てる〕 hweesitatijun
はやじに〔早死に〕 hwcemaasi
はやす〔囃す〕 hweesjun
はやす〔榮やす〕 hweesjun
はやす〔切り刻む〕 hweesjun
はやね〔早寝〕 hweeninzi
はやばやと〔早々と〕 hweebeetu, →はやい
はやばん〔早番〕 hweeban
はやぶざ〔隼〕 hwenſa
はやまる〔早まる〕 →そうけい/ 早まったこ
と hajamaigutu
はやめる〔早める〕 hajamijun
はやり〔流行り〕 →りゅうこう
はやりうた〔流行歌〕 →りゅうこうか
はやりことば〔流行語〕 hweeikutuba
はやる〔流行る〕 hweejun
はやわざ〔早業〕 hweewaza
はら〔腹〕 'wata, →hara, kuubaa, 'wata-
butu, (敬語) 'Ncuubu, ?Ncuubu/ ~一
杯 cuhwaara, 'watanumii/ ~一杯であ

る 'wata?uhusan, 'wata?uhwisan/ ~
が立つ →'wata/ ~が立つこと di?puku,
haradaci, →'jungusamici/ ~がだぶだ
ぶ 'watabonbon/ ~が張ること 'wata-
huqkwii/ ~が減ること 'watabinai/ ~
が減って元気がなくなる →hwicisaga-
jun/ ~の大きい者 ?uhuwataa, ?uhu-
watumun, 'watabutaa/ ~の底をうちあ
けて 'watawataatu/ ~の中 'wata?uci/
~半分 haragubu, nakarawata, 'wata-
nakara/ ~をかかえて →sicerihweeri/
~をさぐる →'wata/ ~を立てる 'wazi-
jun/ ~を立てた声 sicigwiinigiwii/ ~
を渡らす →'wata 'uuiNcun
ばら〔薔薇〕 coosjun
はらい〔払い〕 haree, →ししゅうつ
はらいおとす〔払い落す〕 harai?utusjun
はらう〔払う〕 harajun/ ~もの haree-
はらおび〔腹帯〕 hara?uubi [mun
はらがけ〔腹掛け〕 →kubusii 「→きょうだい
はらから〔同胞〕haratiiçi, ?i?puku?iqsjo,
はらぐあい〔腹工合〕 'watagukuci
はらごなし〔腹ごなし〕 / ~をする →
'uuiNcun, 'wata
はらす〔晴らす〕 harasjun
はらちがい〔腹違い〕 harawakai
ばらばら naahaibai, naakameegamee,
tu?ciraha?cira, →ちりちり/ ~にする
'waqkwasjun
はらむ〔孕む〕 kasagijun, →かいたい, に
はらもち〔腹持ち〕 'watadee しんしん
はらわた〔腸〕 'wata, 'watamiimun, →ぞ
うもつ, ないぞう
はり〔針〕 haai, →ぬいばり/ ~の頭 haai-
numimi/ ~の目 haainumii 「きはり
はり〔鍼〕 cinbaai, haai, →はりいしゃ, や
はりあい〔張合い〕 / ~がない →tee
はりいしゃ〔鍼医者〕 'jabuu
はりがね〔針金〕 sigunzani, ſigunzani
はりがみ〔張り紙〕 haidasi, haigami

はりこ〔張子〕 hainuzi
 はりさし〔針刺し〕 haaisasii
 はりだし〔張り出し〕 haidasi
 はりつく〔張り付く〕 →kaahai
 はりつるまさき〔植物名〕 maqkoo
 はりぬき〔張抜き〕 hainuzi
 はりばこ〔針箱〕 haaibaku
 はりやま〔針山〕 haaisasii
 はりゅうせん〔爬竜船〕 →ペーロン
 はりわたす〔張り渡す〕 hweejun
 はる〔春〕 haru, hwaru, →ʔurizin, 'wakaʔurizin/ ~に吹く南風 ʔurizinbee
 はる〔張る〕 hajun, harijun, hweejun/
 張った繩 haiNna
 はるたま〔植物名〕 handama
 はれぎ〔晴着〕 curazin, kugeezin, ʔwaa-
 zi, →れいふく
 はれま〔晴れ間〕 harima, →cuhari
 はれもの〔腫れ物〕 huqkwi/ ~の名 →ひふ
 びょう
 はれる〔晴れる〕 harijun/ 晴れあがる ti-
 jagajun/ 晴れて星が輝く husibarijun
 はれる〔腫れる〕 huçinun, huqkwijun, →
 harijun, mucun/ 腫れたり引いたりする
 こと huqkwisoori
 ばれる ʔarawarijun
 はん〔判〕 han, →いん, じついん
 はん〔半〕 →han-, -han
 ばん ban/ ~とくらわす banmikasjun
 ばん〔番〕 baan, ban, maaru, →じゅん,
 ばん〔晩〕 'jukunee, 'juru 〔ばんにん
 ばん pan/ ~と音を立てる (~と打つ)
 panmikasjun
 はんえいする〔繁榮する〕 →さかえる/ ~さ
 ま muteeisakeei
 はんかつう〔半可通〕 namamunusiri
 はんぎゃくしゃ〔反逆者〕 hwinzimun
 はんきゅう〔半休〕 hancuu
 はんぎょく〔半玉〕 →ʔuringwa

はんこう〔反抗〕 gee, hwin, muhun, ri-
 kuçi, tiinkee, →くちごたえ/ ~する
 muducun, mudujun/ ~する者 gee-
 sjaa/ ~的な者 muhunniin
 ばんごはん〔晩御飯〕 →ゆうはん
 ばんごや〔番小屋〕 baanjaa, banti
 はんごろし〔半殺し〕 namagurusi
 はんしはんしょう〔半死半生〕 hanbunʔici-
 ci, hanbunzini
 はんじょう〔繁盛〕 hanzoo, →hvirugai
 はんしょく〔繁殖〕 nasihvirugi/ ~させる
 hvirugijun/ ~する →hvirugajun
 ばんじろう〔植物名〕 bansiruu
 はんしん〔半身〕 kataduu
 はんしんはんぎ〔半信半疑〕 hanbunʔuta-
 gee, hanʔutagee, →うたがり
 はんせい〔反省〕 sinsjaku
 はんせん〔帆船〕 huusin, →ほまえせん
 はんた〔繁多〕 hanta
 はんたい〔反対〕 →さかさま
 はんたいとう〔反対党〕 →kuruu
 はんにえ〔半煮え〕 kataʔagai, katanii,
 ʔuruniinamanii
 はんにち〔半日〕 hannici, hwinaka/ ~仕
 事 hwinakasigutu
 ばんにん〔番人〕 bannin, banti, →ばん
 ばんにん〔万人〕 sjunin, ʔumanuu
 はんにんまえ〔半人前〕 / ~の賃金 gubu-
 huu
 はんば〔半端〕 guuhandaa, guuhaziraa,
 hamun
 はんひろ〔半尋〕 'nnaakari
 はんぶん〔半分〕 hanbun, nakaba, →なか
 ば/ ~の荷 katanii/ ~わけ hanbun-
 はんべん〔食品の名〕 hanbin 〔waakii
 はんみち〔半道〕 hanbunmici, hanmici
 ばんめし〔晩飯〕 →ゆうはん
 はんもする〔繁茂する〕 →しげる
 はんり〔半里〕 hanmici

ひ[火] hwii, (敬語) ?umaaci, ?umaçi/
 とろび turuturuubii/ ~にのせる kami-
 rasjun/ ~の神 ?akagucaamee, hwinu-
 kaN/ ~の熱 hwiinuniçi/ ~の燃えるさ
 ま baabaa/ ~の元 hwiinumutu

ひ[日] hwii, tiida, (敬語) ?utida/ ~が
 暮れる 'juqkwijun, →'juqkwasjun,
 'juu/ ~に日に hwiibii/ ~を選ぶこと tu-
 cituihwidui, tucituihwitui/ ~を暮れ

ひ[非] hwii 1させる 'juqkwasjun

ひ[緋] hwii, →ひいろ

ひ[杵] hwizici

び[美] cura-, →うつくしい

ひあがる[干上がる] hjaagajun, kaaki-
 jun/ ~こと karagaaki/ 干上がったと
 ころ hjaagai

ひあそび[火遊び] hwiimutaan

ひい[-] tii

ひいおじいさん[曾祖父] ?uhutaNmee,
 ?uhu?usjumee, →そらそふ

ひいおばあさん[曾祖母] ?uhuhaamee,
 ?uhu?Nmee, →そらそほ

ひいき[最良] hwiici, →えこひいき

ピーチク cincin

ひいでる[秀る] →すぐれる, ぬきんでる

びいびい piipii

ひいれ[火入れ] hwiitui, ?uciritui

ひいろ[緋色] hwii, hwiiziru

ひえ[冷え] hwizui

ひえしょう[冷え性] duuhwizujaa

ひえびえと[冷え冷えと] hwizuqteen,
 →さむざむとする/ ~したさま hwizuru-
 kanzaa/ ~する hwizurukanzun/ ~
 すること hwizurukanzi, ?oohwizuru-
 kanzi

ひえる[冷える] hwizujun/ 冷えきったも
 の ?oohwizuruu/ 冷えこむさま hwizu-
 i?ooi/ 冷えたさま hwizuikaa

ひおおい[日覆い] hwigataka, hwiigata-

ひがい[被害] kiga 1ka

ひがいしゃ[被害者] kiganin

ひかえ[控え] hwiikee

ひかえじょ[控所] hwiikeezu

ひかえめ[控え目] ?uciba/ ~にする→tan-
 kijun

ひがえり[日帰り] hwimudui

ひかえる[控える] hwiikeejun

ひかく[比較] hwiqcoo, →くらべる

ひかげ[日陰] →kaagi

ひがさ[日傘] hwigasa, sasikasa

ひかされる[引かされる] hwikasarijun

ひがし[東] ?agari/ ~の方 ?agarikata/
 ~向き ?agarinkee, hwizahoo

ひがし[乾菓子] hwigwasi

ひがしかぜ[東風] kuci/ ~が吹くこと→
 kucibuci

ひがししなかい[東支那海] nisinu?umi

ひかず[日数] hwikazi

ひがた[干潟] katabaru

びかびか hwicarahwicara

ひがら[日柄] hwigara

ひかり[光] hwicai, hwikari, (敬語) ?u-
 hwikari

ひかる[光る] hwicajun, →てる

ひがん[彼岸] hwigan, hwingan, (敬語)
 ?uncabi, →kabi?anzii, 'Ncabi/ ~な
 どに燃やす錢型を打った紙 ?anzikabi,
 'Ncabi, ?ucikabi/ ~に燃やす紙を打つ道
 具 kabi?uci/ ~のあけ sami/ ~の入り
 ?irihwi/ ~の中日 cuunici

ひき[匹] -hwici, -kara

ひきあう〔引き合う〕 hwicajun²
 ひきあげる〔引き揚げる〕 hwicagijun,
 hwici?agijun
 ひきあて〔引き当て〕 hwici?ati
 ひきあわせる〔引き合わせる〕 hwicaa-
 sjun, hwiqcaasjun, →おひきあわせ
 ひき入れる〔引き入れる〕 hwicikunun,
 hwicincun
 ひきうける〔引き受ける〕 hwici?ukijun,
 sazakajun, ?ukijun, →しょうだく
 ひきうす〔碾き臼〕 hwici?uus¹, →うす
 ひきおとす〔引き落とす〕 hwici?utusjun
 ひきかえす〔引き返す〕 hwicikeesjun
 ひきかえひきかえ〔引き替え引き替え〕 hwi-
 ひきがえる〔養蛙〕 'wakubici [cihwici
 ひききる〔引き切る〕 hwiqcijun
 ひきこむ〔引き込む〕 hwicikunun, hwici-
 ncun
 ひきこもごも〔悲喜こもごも〕 ?uqsjanaçi-
 kasja
 ひきこもる〔引き籠もる〕 hwiqkumujun
 ひきさがる〔引き下がる〕 hwicinajun
 ひきさく〔引き裂く〕 hwicisacun, hwiqsa-
 cun, →さく
 ひきしお〔引き潮〕 →かんちょう
 ひきしめる〔引き締める〕 hwicisimijun
 ひきずりたおす〔引き摺り倒す〕 suncikee-
 rasjun, →ひきたおす
 ひきずる〔引き摺る〕 subicun, suncun
 ひきたおす〔引き倒す〕 hwicitoosjun, →ひ
 きずりたおす
 ひきだし〔抽斗〕 hwici?nzasi
 ひきだす〔引き出す〕 hwici?nzasjun
 ひきたつ〔引き立つ〕 hwicitacun
 ひきたてる〔引き立てる〕 hwicitatijun
 ひきだめし〔弾き試し〕 hwicidamisi
 ひきちぎる〔引きちぎる〕 hwicitunugasju-
 n, hwiqcijun
 ひきつぎ〔引き継ぎ〕 hwiciçi
 ひきつぐ〔引き継ぐ〕 hwiciçizun

ひきつける〔引き付ける〕 çijun
 ひきつる〔引き纏る〕 / ひきつった着かた
 hwiciciikaaciizii/ ひきつったさま hwi-
 ciciikaacii, hwicicuukaacuu, hwiqpai-
 kaapai [zimun
 ひきでもの〔引出物〕 hwicizibun, hwici-
 ひきとめる〔引き止める〕 'judumijun, 'ju-
 simijun
 ひきとる〔引き取る〕 hwicitujun
 ひきなおす〔引き直す〕 hwicinoosjun
 ひきぬく〔引き抜く〕 hwicinuzun
 ひきのばす〔引き伸ばす〕 hwicinubasjun,
 →çimancun
 ひきはなす〔引き離す〕 ?akasjun, hwici-
 hanasjun
 ひきまわす〔引き回す〕 mucikwajun/ 引
 き回される mucikwaarijun
 ひきもの〔挽物〕 hwicimun
 ひきものし〔挽物師〕 hwicimunzeeku
 ひきやぶる〔引き破る〕 hwicijajun
 ひきよせる〔引き寄せる〕 hwicijusijun
 ひざり〔緋桐〕 cirintoo
 ひきわけ〔引き分け〕 'iinuu
 ひきわたし〔引き渡し〕 hwiciwatasi
 ひく〔引く〕 hwicun
 ひく〔弾く〕 hwicun
 ひく〔碾く〕 narasjun
 ひくい〔低い〕 hwikusan
 ひくびく sikamiiguruguru, sikankaa/
 ~すること ?uturusjahwiisja
 ひくん hwiqsui/ ~とする hwiqsuimika-
 sjun/ ~ひくん hwiqsuihwiqsui
 ひげ〔髭〕 hwizi, (敬語) mihwizi/ ~の伸
 びはじめ surusuruuhwizigwaa
 ひげする〔卑下する〕 sipirijun/ 卑下した
 シャベリかた sipirimunii
 ひけつ〔秘訣〕 ?ukudi
 ひけつする〔秘結する〕 cisijun
 ひげなし〔髭無し〕 hwizimoo, ?utugeena-
 nduruu, →haameezira

ひげ

ひげね〔鬚根〕 hwizi
 ひげもじゃ 'jamahwizaa
 ひげんする〔比肩する〕
 ひご〔卑語〕 'janakutuba
 ひこう〔微行〕 sinubi
 ひこう〔尾行〕 ?atu?wii
 ひさし〔麻〕 sasika
 ひさいい〔久しい〕 nageesan/ 久しく nagealee, nagee/ 久しく会わない miiduu-san/ 久しくお会いしない 'uganduu-san
 ひさしぶり〔久し振り〕 →miiduu-san, nageesan, 'uganduu-san
 ひざまくら〔膝枕〕 mumumaqkwa
 ひじ〔肘〕 hwizigee, hwizikee
 ひしぐ〔拉ぐ〕 hwiizun
 ひしひし hwisihwisi
 ひしひし hwisihwisi
 ひしゃく〔柄杓〕 niibu
 ひじょ〔美女〕 →びじん
 ひしょう〔微笑〕 katakueiwaree, miiwaree
 ひじょうに〔非常に〕 duku, duqtu, duutu, ?iqpee, siguku, sitataka, zikoo, →しごく, めっぼう, ひどい
 ひしょぬれ siqtaikaatai, →びっしょり
 ひじん〔美人〕 curaa, curakaagii, curawinagu, (敬語) curancaagi
 ひぜめ〔火攻め〕 hwiizimi
 ひぜん〔皮瓣〕 koosi
 ひそ〔砒素〕 hwisu
 ひぞう〔秘蔵〕 kakugu, sjugu, →かくご/ ~する kazimijun/ ~品 kazimimun
 ひそか〔初か〕 mişikaqteen/ ~な語らい mişikamunugatai/ ~な恋 sinubi/ ~に suruitu. suruqtu/ ~に行く sinubun/ ~にたくらむこと sicadakuma/ ~に喜ぶこと hucukuru?oozimee, sicajurukubi

ひそひそばなし〔ひそひそ話〕 gumamunugatai, →ないしょばなし
 ひそむ〔潜む〕 →かくれる
 ひだ〔鬚〕 hwiiza, →しわ
 ひたい〔額〕 hwicee, mukoo, →おでこ/ ~の傷 mukookizi/ ~の白い者 mukoosiru
 びたいちもん〔鏢一文〕 kakigunzuu
 ひたかくし〔ひた隠し〕 →kakusiimaasii, mumukakusikakusi
 ひたす〔浸す〕 ?uraakijun
 ひたすら hwitani
 ひだね〔火種〕 →kakoo
 びたびた bitabita
 ひだり〔左〕 hwiizai
 ひだりきき〔左利き〕 hwizaigaqti, hwizajaa
 ひだりまえ〔左前〕 hwizaimigui, hwiizai?ucaasi
 ひだりもじ〔左文字〕 hwiizaizii
 ひたる〔浸る〕 ?ikajun
 ひつ〔櫃〕 kee
 ひっかかる〔引っ掛かる〕 kuncakajun
 ひっかきまきず〔引っ掻き傷〕 sakui
 ひっかきまわす kacikuzijun 「→かく
 ひっかく〔引っ掻く〕 kakanun, sakujun,
 ひっかける〔引っ掛ける〕 hwiqkakijun, kuncakijun
 ひっきりなしに →たえまなく
 ひっくりかえす keerasjun, ?uqceesjun/ ~さま ?uqceehwiqcee/ ひっくり返したりころがしたり kecrasikurubasi
 ひっくりかえる〔引っくり返る〕 hwiqceejun, keerijun, ?uqceejun, →?inta/ ~こと ?intaakeei/ ひっくり返りそう keerirakeerira
 ひっくりする →おどろく
 ひつけ〔火付け〕 hwiizikee, →ほうか
 ひっこし〔引越し〕 'jaa?uuçii, ?uuçii, (敬

語) tuNciʔuuçii, ʔwaatamasi, 'wata-
masi
 ひっこす〔引越す〕 hwiçikusjun
 ひっこみじあん〔引込み思案〕 ʔukeeiʔu-
mii
 ひっこむ〔引込む〕 hwiqkunun
 ひっさげる〔引上げる〕 hwiqsagijun,
hwisagijun, →hwiqeatijun
 ひつじ〔未〕 hwiçizi
 ひつじ〔羊〕 meenaa, meenaahwiizaa
 ひっしょり 'Ndikaa, sipuutu, zisaqtu,
zisiqtu, →びしょぬれ
 ひっそりかん〔ひっそり閑〕 ʔuusoozootu
 ひったくる hwiqtakujun, kunsugujun,
kuntujun, suguitujun, ʔwiiʔutusjun
 ひったり çintu/ ~合うこと ʔucaisinai
 ひつつかむ〔引摺む〕 kaççikanun
 ひつつく〔引付く〕 taqkwajun, →くっ
つく
 ひつつける〔引付ける〕 →くつつける
 ひつてき〔匹敵〕 →bicee, -gaai, ひけん/
~する hwicajun
 ひっぱがす〔引剥がす〕 ʔakasjun
 ひっぱく〔逼迫〕 hwiqpaku, →さしせまる
 ひっぱたく suguikerasjun, sugujun
 ひっぱりあい〔引張り合い〕 hwiicee
 ひっぱりだこ〔引張り尻〕 hwiicaabaee
 ひっぱりる〔引張る〕 hwiqpajun/ 引張
られる →subicun
 ひづめ〔蹄〕 çimagu 「mun
 ひつよう〔必要〕 ʔirijuu/ ~な物 ʔiqta-
びていこつ〔尾骶骨〕 çibinugqsui
 ひでり〔日照り〕 hjaai, hwidiri/ ~の折の
雷 hjaaignnai/ ~の年 hjaaidusi
 ひでりあめ〔日照り雨〕 tiidaʔami, tiida-
bui, →takanusiibai
 ひと〔人〕 hwitu, qcu, →şiza, たにん,
にんげん/ ~ごとに qcukaçi/ ~との交
際 qcugutu, qcubiree/ ~に先んじること
qcumee, qcusaci/ ~に馴れること

qcunari/ ~にまさること hwitumasai,
qcumasai/ ~のいいなり qcumama/ ~
の往来 qcuʔasi/ ~の気配 →qcuʔutu/
~の背たけ qcudaki/ ~の肌 qcuhada/
~の悪口 qcugutu/ ~をあなどる者 qcu-
ʔuŕeeimun/ ~を憐れむこと qcucimu-
gurisja/ ~を敬うこと qcuʔujamee
 ひとあし〔一足〕 cuhwisja
 ひどい →たいして/ ~こと →sanʒan/
ひどく, →こっぴどく, たいした, ひじょ
 ひといき〔一息〕 cuʔiici じうに
 ひといきれ〔人いきれ〕 / ~に酔うこと
qcuwii
 ひとえ〔単衣〕 ciimun, ciizin
 ひとかかえ〔一抱え〕 cudaci, cumaai
 ひとかけら〔一欠けら〕 cukaki
 ひとかさね〔一重ね〕 cukasabi
 ひとがら〔人柄〕 qcugara, zintii
 ひときれ〔一切れ〕 cucaai, cukaki
 ひとくち〔一口〕 cukuci
 ひとこえ〔一声〕 cukwii
 ひとこと〔一言〕 cukutuba
 ひとさしゆび〔人差し指〕 qcusasiʔiibi,
saciʔiibi
 ひとざとはなれたところ〔人里離れた所〕
q Cubanari
 ひとさらい〔人攫い〕 hwitunusudu, qcu-
nusudu
 ひとしづく〔一雫〕 cutai
 ひとそろい〔一揃い〕 cukusai
 ひとたち〔一太刀〕 cukatana
 ひとたば〔一束〕 cuçika, cutabai, cuma-
zin
 ひとだま〔人魂〕 ʔininbii
 ひとちがい〔人違い〕 hwitumagee, q Cuba-
qpee
 ひとつ〔一つ〕 tiçi, →hwituçi, tii, cu/
~になる kusajun/ ~一つ選ぶこと
tiçiʔirabi/ ~一つ捨うこと tiçibi-
rii

ひと

ひとつか[一束] →ひとたば
 ひとつかみ[一掴み] cuçikan
 ひとつき[一月] cuçici/ ~おき cuçicigusi
 ひとつぼ[一坪] cuçibu
 ひとつて[一手] cuti
 ひとつで[人手] /~が足りないこと →てぶそく / ~に渡す→てばなす
 ひとつでなし[人で無し] →Qcu
 ひとつとおり[一通り] cutuui
 ひとつどおり[人通り] Qcuduui
 ひとつところ[一所] cutukuma, cutukuru
 ひとつとせ[一年] →いちねん
 ひとつながさ[一長さ] cunaagi
 ひとつなみ[人並み] Qcunami, →いちにんまえ
 ひとつはこ[一箱] cuhaku
 ひとつばん[一晚] kujuru/ ~中 kujuru, 'junagata, 'junagatasaganagata, 'juşiga
 ひとつひろ[一尋] cuhwiru/ ~の半分 'Nna-akari
 ひとつふし[一節] cuhusi
 ひとつふで[一筆] cuhudi
 ひとつまえ[人前] Qcumees
 ひとつまき[一巻き] cumaai
 ひとつまね[人真似] →Qcu, まね/ ~をする者 saaru
 ひとつまわり[一回り] cumaai, →ひとめぐり
 ひとつみ[瞳] miinusin
 ひとつみしり[人見知り] 'jamakaagaa, Qcu-?uzi, siranQcu
 ひとつめ[一目] cumi
 ひとつめ[人目] 'jusumi/ ~につかない道 katakamiei
 ひとつめぐり[一巡り] cumigui, →ひとまわ
 ひとつもと[一本] cumutu くり
 ひとつよ[一夜] kujuru, →ひとつばん
 ひとり[一人] cui, hwicui, ?icinin, (敬語) cutukuru, ?ucutukuru/ ~ずつ cuna-
 naa/ ~ずつ交替すること cuiçigaruu,
 cuinaakaaru/ ~でする仕事 mucici-

risigutu/ ~ひとり cuinaa, →それぞれ
 ひとり[日取り] hwidui, tucituihwiidui,
 tucituihwiitui
 ひとりあそび[一人遊び] →duumui
 ひとりあるき[一人歩き] duucui?aqei
 ひとりぐらし[一人暮らし] cuigurasi, duu-
 cuigurasi
 ひとりご[独り子] cuingwa
 ひとりごと[独り言] duueuimunii
 ひとりだち[一人立ち] cuidaci
 ひとりでに nanKuru, →しぜん
 ひとりね[一人寝] duucukurubi
 ひとりまえ[一人前] →いちにんまえ, ひと
 なみ/ ~の貸金 zuubunbuu
 ひとりむすこ[一人息子] cuiwikigangwa
 ひとりむすめ[一人娘] cuiwinagungwa
 ひとりもの[独り者] duueuimun
 ひとりわらい[独り笑い] duucuiwaree
 ひとりわん[一椀] hunpan
 ひながた[雛型] hwinagata, →みほん
 ひなたぼっこ[日向ぼっこ] tiidabuui
 ひなにんぎょう[雛人形] →saatuumees,
 ?umentuu/ ~を入れる箱 ?umentuu-
 ひな布[火縄] hwiinaa ばく
 ひなん[非難] →nucihwici, そしる/ ~さ
 れる点 hwiinhwinan, hwiikusi
 ひにく[皮肉] ?uranucimunii, ?uranuci-
 munu?ii/ ~をいう kizun
 ひねくれもの[ひねくれ者] hwinaa, hwin-
 sjaa, hwizaimacaa, magariuhwiga-
 ruu, magariuhwiguruu, →hwin
 ひねくれる mudijun, →hwin
 ひねりたおす[捻り倒す] mudikeerasjun,
 muditoosjun
 ひねる[捻る] hwinijun, →つねる, ねじ
 る/ ひねったりつねったりする mudicin-
 kijun
 ひのえ[丙] hwinii
 ひのき[檜] hwinuci
 ひのこ[火の粉] hwibana

ひのし〔火熨斗〕 ?uqto
 ひのたま〔火の玉〕 hwiidama, hwidama
 ひのと〔丁〕 hwinutu
 ひのべ〔日延べ〕 →えんき
 ひぼし〔火箸〕 hwiibaasi
 ひばち〔火鉢〕 hwibaci, →hwiiruu, tii?a-
 bui
 ひはつ〔萼萋〕〔植物名〕 hwihwaçi
 ひばな〔火花〕 hwibana
 ひばり〔雲雀〕 cincinaa/ ~の鳴き声 cin-
 ひび〔日日〕 hwibi [ciN
 ひび〔罅・罅〕 ?aaki, hwibari, hwibici,
 hwibiki/ ~が入る ?aakijun, hwibari-
 jun, hwibikijun
 ひびき〔響〕 hwibici
 ひびく〔響く〕 hwibicun
 ひひらぐ〔疼ぐ〕 hwiiracun
 ひふ〔皮膚〕 kaa, →はだ/ ~がただれてい
 ひぶ〔日歩〕 hwibu [る者 kaasin daa
 ひふきだけ〔火吹竹〕 hwiihuci
 ひぶくれ〔火脹れ〕 hwiitaqtaa
 ひふびょう〔皮膚病〕 /~の名 ?asibu, bin-
 duku, gucahwa, harajukuni, hweega-
 sa, 'janbarugooraa, 'joo, kasa, kazoo-
 rimun, kizimunaajaacuu, koosi, mi-
 zigasa, mizigasaa, munzaai, nabaN-
 gasa, niibutaa, niibutu, sirabee, sjuu-
 buqtee, tunzaagasa, ?uubu, ?weegasa
 ひぶん〔碑文〕 →ひもん
 ひぼう〔誹謗〕 →そしる
 ひぼう〔美貌〕 curakaagi, →びじん
 ひぼし〔日干し〕 hwibusi
 ひほんなひと〔非凡な人〕 qcugawaiimun
 ひま〔暇〕 hwima, madu/ ~になる ma-
 doocun/ ~暇 madumadu/ ~を作る
 madookijun [gwaamuqkuu
 ひま〔蓖麻〕 candakasii/ ~の実 zuri-
 ひまご〔曾孫〕 mata?nmaga
 ひましに〔日増しに〕 hwimasini

ひまじん〔暇人〕 hwimasiimun
 ひまつぶし〔暇つぶし〕 →hwimadaari
 ひめい〔悲鳴〕 →?akisamijoo
 ひめばしょう〔姫芭蕉〕 hanabasjuu
 ひも〔紐〕 'uu, 'wiiruu
 ひもじい 'jaasan/ ひもじさ →くうふく
 ひもん〔碑文〕 hwimun
 ひやかす〔冷かす〕 nabakujun
 ひやく〔百〕 hjaaku, hjaku, →mumu,
 mumu-
 ひやくさい〔百歳〕 hjakuşee, mumutu
 ひやくにじゅっさい〔120歳〕 hjakuhataci
 ひやくにちぜき〔百日暇〕 hjakunicizaq-
 ひやくにん〔百人〕 hjakunin [kwii
 ひやくねん〔百年〕 hjakunin, mumutu
 ひやくまんがん〔百万貫〕〔銭〕 hjakuman-
 ひやくもん〔百文〕 cukumui [gwan
 ひやごはん〔冷御飯〕 hwizuru?ubun
 ひやす〔冷やす〕 samasjun, →hwizujun
 ひやぞうめん〔冷素麵〕 hweezoomin
 ひやっかにち〔百か日〕 hjaqkanici
 ひやとい〔日傭い〕 hwijuu, timatujaa, →
 じゅうろろどうしゃ
 ひやみず〔冷水〕 hwizurumizi
 ひやりと〔冷りと〕 hwizuqteen
 ひゅうひゅう huuihuui
 ひゅうひゅう buubuu
 ひよう〔費用〕 çikuri, zoosa, →いりめ/
 ~が掛かる çikurijun
 ひょう〔儀〕 -hjuu
 びょう〔廟〕 bjuu
 びょうき〔病氣〕 bjooçi, 'jami, 'janmee,
 sawai, →duuziira, 'jamiwacaree, mii-
 sicihanasici, siira, きゅうびょう, じ
 びょう, じゅうびょう, やむ, わずらい/
 ~がちな者 'janmeemun/ ~させる 'ja-
 masjun/ ~する 'janun/ ~で寝込む
 ?ucikutasjun/ ~でわずらうこと 'jami

ひよ

wacaree/ ~の一種 →'jakii, kusa, musici, sinCi, sjookaN, sukukuzirijaN/
 ~よけ →huucigeesi
 ひょうきん〔劇軽〕 sukuꜛi, →こっけい
 ひょうぐ〔表具〕 hjuugu
 ひょうし〔拍子〕 hjoosi
 ひょうし〔表紙〕 sjumuꜛinukaa
 ひょうしぎ〔拍子木〕 hjoosizi
 ひょうじゃく〔病弱〕 /~である hinasAN,
 'jahwarasAN/ ~そりである miijahwa-
 ragisaN/ ~そりで健康な者 'jahwara-
 gaNzuumuN/ ~なさま 'jahwarageera,
 'jahwataikeetai/ ~な者 'jahwaraa,
 'jahwarageeraa, 'jahwaramuN, 'ja-
 hwataimuN, 'jahwatajaa, 'janmeemuN
 ひょうじゅん〔標準〕 zɔoma
 ひょうじょう〔表情〕 →niikuci
 ひょうじょう〔病状〕 →ようだい/ ~がはか
 ばかしくないさま ʔuqtoohwiitoo
 ひょうたん〔瓢箪〕 ɕiburu, hjootANɕiburu
 ひょうちゃくぶつ〔漂着物〕 'juimuN
 ひょうどう〔平等〕 caahwiihwii, caah-wii-
 too, hwiihwiiuu, →こうへい
 ひょうとり〔日傭取り〕 hwijuu, timatujaa
 ひょうにん〔病人〕 bjoonin
 ひょうはくする〔漂白する〕 sarasjuN/ 漂
 白される sarijuN
 ひょうばん〔評判〕 cikwii, hjoobAN, sata,
 ʔutu, →kuciɕiba, qeu, ろわさ/ ~にな
 る tujumarijuN, ʔutuʔucun/ ~に聞
 くこと ʔutuzici
 ひょうばんもの〔評判者〕 hjoobANmuN
 ひょうぶ〔屏風〕 bjoobu, noobu, →きんび
 ょうぶ
 ひょうめん〔表面〕 ʔwaabi, →りわべ/ ~が
 きれいなもの ʔwaabicuraa/ ~がすべっ
 こいこと ʔwaabiɕiNdi, ʔwaabinaNdu-
 ruu/ ~の皮 ʔwaabigaa
 ひょうろう〔兵糧〕 hjooroo
 ひよけ〔日除け〕 hwiigataka, hwigataka

ひよこひよこ buraisarai
 ひよっとしたら →'juu
 ひよどり〔鳥の名〕 hjuusi
 ビヨビヨ pijapija
 ひよめき〔顎門〕 hjuuruci, →のりてん
 ひよ布 →びょうじゃく
 ひらきど〔開き戸〕 meezu
 ひらく〔開く〕 hurakijuN, hwiracuN, →
 haqpajuN, あく
 ひらぐみ〔平組〕 hwiraguN
 ひらざむらい〔平侍〕 giɕi
 ひらたい〔平たい〕 hwirasan, →たいら/ ~
 もの hwiraa/ ひらたく hwiraqteen/ 平
 たくする hwirakasjuN, hwiramijuN/
 平たくなる hwirakijuN
 ひらまつ〔平松〕 hwiramaaɕaa, hwira-
 maɕi
 ひらめ〔平目〕〔魚の名〕 kaasjanuhwaaʔi-
 ひらやくにん〔平役人〕 giɕi ɭju
 ヒラリヤ →フィラリヤ
 びり ɕibi, ɕibikusu, ɕibikusuu, ʔoobAN,
 ʔoogusu, ʔootoo, ɕiibaN, susu
 びりびり 'jarikwANKwan
 ひりょう〔肥料〕 kwee
 ひる〔昼〕 hwiru, →まひる
 ひる〔干る〕 hwijuN 「hoojuN
 ひる〔放る〕 hwijuN/ ひり散らす hwiri-
 ひるがお /~の一種 'jamakaNda, 'jama-
 ひるごはん〔昼御飯〕 →ひるめし ɭkandaa
 ひるじゅう〔昼中〕 hwiruzuu, →にっちゅ
 う 「ma
 ひるすぎ〔昼過ぎ〕 hwiruma, takahwiru-
 ひるね〔昼寝〕 hwinni/ ~ばかりする者
 hwinnaa
 ひるひなか〔昼日中〕 ʔakarahwiru
 ひるめし〔昼飯〕 ʔasaban, ʔaɕii, →ʔasa-
 ʔubun, hwirumamuN, mihwiruma,
 mihwirumaʔubun/ ~持参 mucuʔasa-
 ban/ ~時分 ʔasabanuui/ ~のさつまい
 もをその日に掘ること huiʔasaban/ ~

の支度 ʔasabaNsugai
 ひろ〔尋〕 hwiru/ ～で計る hwiruzUN
 ひろい〔広い〕 hwirusaN, →'waa/ ～場所
 hwiruzi 「mun
 ひろいもの〔拾い物〕 kameeimUN, tumeei-
 ひろう〔疲労〕 kutandi, 'utai, →つかれ/
 ～する →つかれる
 ひろう〔拾り〕 hwirajUN, hwirijUN, ka-
 meejuN, tumeejuN/ 拾い集める tuica-
 meejuN
 ひろう〔蒲葵〕(植物名) kuba/ ～の葉 kuba-
 gaasja/ ～の葉のうちわ kubaʔoozi/ ～の
 葉の笠 kubagasa
 ピロード tingaacuu
 ひろがり〔広がり〕 hwirugai
 ひろがる〔広がる〕 hwirugajUN, →tana-
 bicUN, ひろまる
 ひろげる〔広げる〕 hwirugijUN, →ひろめる
 ひろさ〔広さ〕 nuu, 'waa
 ひろば〔広場〕 naa
 ひろびろと〔広広と〕 hwiruubiruu/ ～して
 いること →nuu 「がる
 ひろまる〔広まる〕 hwirumajUN, →ひろ
 ひろめる〔広める〕 hwirumijUN, →ひろげ
 びわ〔枇杷〕 biwa する
 ひわいな〔卑猥な〕 zibita, →いやしい, わ
 いせつ/ ～ことば ʔarikutaba/ ～たわむ
 れかたをする ʔarijuN 「biki
 ひわれ〔干割れ〕 hwibari, hwibici, hwi-
 ひわれる〔干割れる〕 hwibarijuN, hwibi-

kijUN

ひん〔品〕 sina, →じんびん, ひんい
 ひん〔接頭〕 →hwiN-
 びん〔瓶〕 biN
 びん〔便〕 biN
 びん〔鬢〕 binta
 ひんい〔品位〕 buN/ ～を保ちたがる者
 buNmucaa
 ひんきゃく〔賓客〕 →きゃく
 ひんけつ〔貧血〕 /～を起こす →bucigeec,
 のうひんけつ
 びんごい〔備後蘭〕 biiguii, tuuzinii
 ひんこう〔品行〕 ʔukunee, →みもち
 びんごおもて〔備後表〕 biigumusiru/ ～の
 暈 biigudatan
 ひんし〔瀕死〕 maasigataa
 びんずる〔賓頭慮〕 binʔuru, bizuru
 びんた binta 「びたび
 ひんぼんである〔頻繁である〕 sizisaN, →た
 びんぼう〔貧乏〕 hwinsuu, →hwiʔpaku/
 ～なさま piipii/ ～をこぼす者 binboo
 びんぼうぐらし〔貧乏暮らし〕 hwinsuugura-
 si
 びんぼうもの〔貧乏者〕 hwinsuumUN,
 kuusiimUN, kuNcuumUN
 ひんまがる〔ひん曲がる〕 ʔiNmagajUN,
 hwiNmagajUN/ ～こと ʔiNmagaruu
 びんろう〔檳榔〕 binroo

ふ

ぶ〔分〕 -bu, -wari
 ぶあいそう〔無愛想〕 buʔeesaʔi, buʔeesoo,
 kamazisi, →つっけんどん, つれない,
 ぶっちゃょうづら/ ～な者 kamazisaa,
 niihwuqkwaa, ziiguhwaa
 ぶん〔不安〕 cimuhwicagi, →ところば

そい, しんばい/ ～がる ʔukeejUN
 ぶい〔不意〕 →とつぜん/ ～なこと ʔaʔta-
 gutu, ʔubirazigutu/ ～に ʔaʔtani,
 おもわず/ ～の思いつき ʔaʔtakangee
 ぶいご〔備〕 huuci/ ～の音 huucoopaNcoo
 ぶいごまつり〔備祭〕 huuciee

ふい

ふいちょうする〔吹聴する〕 ʔiihwirugijun
フィラリヤ kusa, siŋci, →ぞうひびょう/
～患者 kusahurijaa, siŋcimuci/ ～の
一種 huvii, tabuigusa/ ～の病根 kusa-
ふう〔封〕 huu [nunii
ふう〔風〕 huu
ふう〔二〕 taa, →に
ふういん〔封印〕 huufin
ふうがわり〔風変わり〕 huugawai
ふうき〔風気〕〔伝染病〕 huuci
ふうぎ〔風機〕 huuzi
ふうさい〔風采〕 huuzi, →すがた
ふうし〔諷刺〕 ʔuranucimunii, ʔuranuci-
munuʔii
ふうしか〔諷刺歌〕 kakiʔuta
ふうしゅう〔風習〕 huu, huuzi, →しゅう
ふうすい〔風水〕 huŋʂi しかん
ふうぞく〔風俗〕 huu, huuzi, ʂuku, →しゅう
うかん, くへのふうぞく
ふうっ huui/ ～と息を吹きかけること →
huuhuu
ふうふ〔夫婦〕 guutumiiitu, miitu, miitun-
da, tuzimiitu/ ～が死後一つの甕の
中に入ること kaaminuʂibitiiʂi/ ～が
しっくり行く kama sikajun/ ～関係
miitundaʔicee/ ～げんか miitundaʔoo-
ee/ ～だけの話 miitundamunugatai/
～連れ miitundaziri
ふうふう siisii
ふうふう〔豚の鳴き声〕 gaweegawee, guu-
guu
ふうみ〔風味〕 huumi, →あじわい
ふうらん〔風蘭〕〔植物名〕 maʂibaran, ma-
ʂidan, maʂiran
ふうりゅうじん〔風流人〕 sjuzoonin
ふうりん〔風鈴〕 huurin
ふえ〔笛〕 hansjoo, huucoo, →biibii/ ～
の音 →piiraruraa
ふえて〔不得手〕 huiiti, huiti
ふえる〔増える〕 kazuujuun/ ～こと →ʔimi

ふか〔鑿〕 huka, ʔjuubinuqkwa, →さめ
ふかあみがさ〔深編笠〕 mintariʔanzasa.
mintarii
ふかい〔深い〕 hukasan
ふかす〔蒸す〕 ʔnbusjun, →hucun
ふかする〔孵化する〕 ʂidasjun, ʂidijun/
孵化しない卵 ʂimuru
ふかっこう〔不恰好〕 bukaqkoo, hwiza-
ruu/ ～である hwizarugisan
ふかりふかり pakupaku
ふぎ〔不義〕 huzi
ふかえし〔吹き返し〕 keesi
ふきけす〔吹き消す〕 hucicaasjun
ふきげん〔不機嫌〕 →hwiŋci ican
ふきこむ〔吹き込む〕 hucikunun, hucin-
ふきそうじ〔拭き掃除〕 susuikaci
ふきつ〔不吉〕 bukarii, →きょうちょう, ふ
しょう
ふきとばす〔吹き飛ばす〕 hucitubasjun
ふきとる〔拭き取る〕 →ぬぐる
ぶきよう〔不器用〕 bukuu, hwizaruu/ ～
らしい hwizarugisan
ぶきりょう〔不器量〕 ʔjanakaagi
ふきん〔布巾〕 hwiicin
ふく〔福〕 huku
ふく〔吹く〕 hucun, suzun, →ʔabucun/
～音 →huui
ふく〔拭く〕 →ぬぐる
ふく〔葺く〕 hucun
ふくいくと〔馥郁と〕 hukuhuku
ふくかん〔副官〕 ʔwacijaku
ふくぎ〔福木〕〔植物名〕 hukuzi/ ～のいけ垣
hukuzigaci ʔhukugaaʂui
ふくげ hukugii/ ～の立った鶏 hukugaa,
ふくけん〔福建〕 hucan
ふくさ〔袱紗〕 miʂizi
ふくしゅう〔復習〕 →huku
ふくそう〔服装〕 sugai, →なり
ふくどく〔復讞〕 huku

ぶくぶく puurupuuruu
 ぶくぶくしい〔福福しい〕 / ～さま kwaw-
 nkwan
 ぶくべ〔瓢〕 →ひょうたん
 ぶくみごえ〔含み声〕 munukukunʔabii
 ぶくむ〔含む〕 kukunun
 ぶくらはぎ〔脹ら脛〕 kunia
 ぶくらむ〔脹らむ〕 →ふくれる
 ぶぐり〔陰囊〕 →きんたま
 ぶくれ〔脹れ〕 →buqkwa 「niihwuqkwaa
 ぶくれっつら〔脹れっ面〕 ɕirahuqkwaa,
 ぶくれる〔脹れる〕 harijun, huqkwijun,
 → hacikunun, huukeejun, huukeeri-
 jun, ʔitabuqkwijun, ʔitabuqkwi
 ぶくろ〔袋〕 hukuru/ わらの～ ziibu
 ぶくろう〔衆〕 ɕikuku, takazikuku
 ぶくろそで〔袋袖〕 hukurusudi
 ぶくろだたき〔袋叩き〕 maaruugurusi
 ぶけ〔雲脂〕 ʔirici, →gahwara
 ぶけつ〔不潔〕 bucirii/ ～である→きたない
 ぶける〔更ける〕 hukijun/ ぶけてみえる
 ʔwiiraasjan
 ぶこう〔不幸〕 buʂeewee, ʔurii, ʔuriigu-
 tu/ ～なこととお祝いごと ʔuriisjuuzi/
 ～な知らせ →ʔarasigwii/ ～の折 →ba-
 sju
 ぶこう〔不孝〕 hukoo, →おやふこう
 ぶこうへい〔不公平〕 katakaki/ ～な配分
 katawaki
 ぶこくする〔布告する〕 hurijun, →おふれ/
 布告して行き渡らせる huriituusjun
 ぶこころえ〔不心得〕 hukukuri
 ぶさ〔房〕 husa
 ぶさい〔負債〕 →しゃっきん/ ～のために使
 役されること ʂikama/ ～のために使役さ
 れる人 ʂikamaa
 ぶさがる〔塞がる〕 katamajun/ 傷口が～
 miijaajun
 ぶさく〔不作〕 husaku

ぶさぐ〔塞ぐ〕 husazun
 ぶさける ʂibeejun, →biqʂee/ ～こと ga-
 Nmari
 ぶさた〔無沙汰〕 busata, →そえん
 ぶさほう〔無作法〕 busahuu, →ʔuceemee,
 しつれい, ぶれい
 ぶさわしい nawaasjan, nootaru, →nio-
 ojun, noojun, soouu/ ～こと niee/ ふ
 さわしくなる husaajun, husajun
 ぶさん〔不参〕 husan
 ぶさんせい〔不賛成〕 huiui, husansii/
 ～の者 husansii
 ふし〔節〕 husi/ ～だらけ husitakaraa/
 ～と節との間 'juj, 'juju/ ～と節との間
 が長い 'juinagasan, 'jujunagasan
 ぶじ〔藤〕 huzi
 ぶじ〔不時〕 hutu, huzi, →とつぜん
 ぶじ〔無事〕 buzi, (敬語)gubuzi
 ふしあな〔節穴〕 husiʔana, husihugi
 ふしあわせ〔不幸〕 →ふこう
 ふしぎ〔不思議〕 husizi, →きみょう/ ～で
 ある hwirumasjan/ ～な →saita
 ふしぶし〔節節〕 husibusi
 ぶじゆう〔不自由〕 huzijuu
 ぶじゆうぶん〔不充分〕 huzuubun, →ふそ
 く/ ～である ʔurusan
 ふしょう〔不祥〕 husjoo, →ふきつ
 ふしょう〔不肖〕 →kazinaranmun
 ふしょう〔負傷〕 →けが/～する 'jamasjun
 ぶしょう〔無精〕 hujuu, →ものぐさ/ ～で
 ある ɕibiʔnbusan
 ふしょうしゃ〔負傷者〕 kiganin
 ふしょうち〔不承知〕 huiui, hugaqtin
 ふしょうぶしょう〔不承不承〕 →'npaan-
 paa
 ぶじょうまけ〔不浄負け〕 huzoomaki
 ぶしょうもの〔無精者〕 ɕibitugajaa, guu-
 da, →ものぐさ
 ふしん〔普請〕 husin/ ～する →gireejun
 ふしん〔不振〕 humigui

ふしん〔不審〕 husin
 ふしんがみ〔不審紙〕 husingami
 ぶすい〔不粋〕 busizoo
 ふすま〔襖〕 huçima
 ふせいこう〔不成功〕 →しっぱい/ ～に終わる naihansjun
 ふせぐ〔防ぐ〕 husizun/ ～こと husizi
 ふせる〔伏せる〕 ʔuqçinKijun, ʔusubasjun
 ふせん〔付箋〕 husingami
 ふそ〔父祖〕 ʔujahuzi, ʔujahwaahuzi
 ふそうおう〔不相応〕 husoouu
 ふそく〔不足〕 husuku, →buraari, たりる/ ～がちなさま hwiqçirakaacira/ ～する buraarijun/ ～を補う tasimeejun
 ふぞろい〔不揃い〕 guumancaa, →guuhancaa, guuhaziraa
 ふた〔蓋〕 huta/ ～付きのどんぶり hutamakai
 ふた〔二〕 ta-, →に, ふり
 ふだ〔札〕 huda
 ふた〔豚〕 ʔwaa, (小児語) ʔwaaʔwaa, →buta-, -buta/ おすの～ 'uuʔwaa/ さかりのついた～ kuriiʔwaa/ ～の脂 butaʔanda, butaju, butubutuu/ ～の餌入れ tooni/ ～の餌入れをかきさらえる器具 toonikacaa/ ～の去勢を業とする者 ʔwaaahugujaa/ ～の尻の骨と肉 guujaa/ ～の尻の骨を煎じたスープ guujaasinzi/ ～の脊中の肉 boozisi/ ～の種付けを業とする者 'uuʔwaaakarajaa, ʔwaaçikijaa/ ～の鳴き声 gaweegawee, guuguu/ ～の売買をする者 ʔwaaabakujoo/ ～を飼う者 ʔwaaakarajaa/
 ふだい〔譜代〕 →hudee
 ふたい〔舞台〕 butee/ ～衣裳 →'uduizun/ ～の一種 banku
 ふたいとこ〔再従兄弟姉妹〕 →またいとこ
 ふたおや〔双親〕 →りょうしん
 ふたきれ〔二切れ〕 tacaai

ふたご〔双生児〕 taacuu
 ふたこいと〔二子糸〕 hutagu
 ふたこおり〔二子織〕 hutagu
 ふたごころ〔二心〕 hutagukuru
 ふたこと〔二言〕 takutu
 ふたしか〔不確か〕 hutasika
 ふたつ〔二つ〕 taaçi, →taa, ta-, →に/ ～のうちならば →taaçi
 ふたつき〔二月〕 taçici
 ふたつちがい〔二つ違い〕 →taaçimisi
 ふたつわり〔二つ割り〕 tacaai, taaçiwai
 ふたとおり〔二通り〕 tatuui
 ふたとせ〔二年〕 tatu, →にねん
 ふたなのか〔二七日〕 tanaNka
 ぶたにく〔豚肉〕 butaʔaqtami, →boozisi, guujaa, ʔucinaganii/ ～の市 ʔwaaasjaamac/ ～の塩漬け sjuubuta
 ふたまたがけ〔二股がけ〕 tamatagaki
 ふたまたごうやく〔二股膏薬〕 matabasigoojaku, →ふたまたがけ
 ふため〔二目〕 tami
 ふたり〔二人〕 tai, (敬語) ʔutatukuru
 ふたん〔負担〕 →おもに, にやっかい/ ～過重 muciqkwa/ ～する分 mucimee
 ふだん〔不断〕 hwiizii, maçu, zoohwita, →caa, いつ, へいそ
 ふだんぎ〔不断着〕 ʔiqsoocijaa, 'jaakaraçijaa/ ～ですますこと →dusuüimee
 ふち〔淵〕 hukatu
 ぶちこわす〔打ち毀す〕 ʔwiikunsjun
 ぶちょうほう〔不調法〕 binasawaqsa, ʔucoohoo, →ふゆきとどき/ ～である bin-
 ふちん〔浮沈〕 tacitoori [asan
 ふつう〔普通〕 ʔataimee, çini, nami, →あたりまえ
 ふつか〔二日〕 huçika
 ふっかける / 高値を～ →sansooba
 ふつかよい〔二日酔い〕 'jamii, sakigaci
 ぶつかる haqçakajun, →しょうとつする
 ぶづくり〔分作り〕 çukuiwaakii

ふっけん〔福建〕 hucan
 ふつごう〔不都合〕 huçigoo
 ふっそうげ (植物名) ?akabanaa
 ふつだん〔仏壇〕 →buçidan, gusindan,
 ?ubuçidan/ ~の台 kudee「→ぶあいそう
 ふつちょうづら〔仏頂面〕 çirahuqkwaa,
 ふつっ / ~という pucimikasjun
 ふつつかである binasan, →ぶちょうほう
 ふつとう〔沸騰〕 / ~させる hukasjun/
 ~する hucun, mugeejun, →?abucun,
 わく
 ふつとぶ〔吹っ飛ぶ〕 tunuzun, →hwintu-
 bi, けしとぶ, すつとばす
 ぶつぶつ danzamuza, kuihai, kujaa-
 hajaa, ziiguijaagui, miiziguuzi
 ぶつぼう〔仏法〕 buqpo
 ぶつよく〔物欲〕 mucijuku
 ぶつり puçiri/ ~という pucimikasjun
 ふで〔筆〕 huii
 ふていさい〔不体裁〕 hutanari
 ふでき〔不出来〕 hudiki
 ふてきせつ〔不適切〕 hutanari
 ふてね〔不貞寝〕 ninzigunasi
 ふとい〔太い〕 ?arasan, magisan
 ふとう〔埠頭〕 tundo
 ふどうい〔不同意〕 →ふさんせい
 ふとくい〔不得意〕 huiti, huiti
 ふところ〔懐〕 hucukuru
 ふところで〔懐手〕 tiibucukuru
 ふとしたはずみに nuutunãanaasi
 ふとどき〔不屈き〕 huçigoo, hutuuci
 ふともも〔蒲桃〕 (植物名) huutoo
 ふとる〔太る〕 buteejun, kweejun, mu-
 teejun, →cinteejun/ 太ったさま kwee-
 gweetu/ 太った者 buqtarakoo, buqta-
 rakuu, buqtee, butuu, kweebutaa,
 kweetaa, kweetuu/ 太っている buta-
 san, →kweetanda ?ucun/ ~こと
 →sirugweei, kurugweei [icidoogu
 ふとん〔蒲団〕 kanzimun, ?uudu, →zas-

ふな〔鰯〕 taa?iju/ ~の燻製 kaakasjaa/
 ~を煎じた汁 taa?ijusunzi 「buunii
 ふなあそび〔舟遊び〕 huna?asibi, nagari-
 ふなか〔不仲〕 hunaka, →なか, ふわ
 ふながかり〔船祭り〕 hunagakai
 ふなこ〔舟子〕 →すいふ, せんいん
 ふなだいく〔船大工〕 hunaceeku
 ふなたび〔船旅〕 hunatabi
 ふなちん〔船賃〕 hunacin
 ふなつきば〔船着き場〕 tumai
 ふなのり〔船乗り〕 →せんいん
 ふなばし〔船橋〕 hunabasi
 ふなびん〔船便〕 hunabin
 ふなみち〔船路〕 hunamici
 ふなよい〔船酔い〕 hunawii, huneei, →
 ziibuneei
 ふにあい〔不似合〕 hutanari
 ふにんじょう〔不人情〕 huninzo, →はく
 じょう/ ~な者 →cikusjoomun
 ふね〔船〕 huni, (敬語) ?uuni, →?aja-
 buni, ?ajahuni, haarii, ?anbaraabu-
 ni/ ~の検査 huna?aratami/ ~出迎の
 え hunankee/ ~の見送り huna?ukui /
 ~を作る→hazun
 ふねっしん〔不熱心〕 hunin/ ~である ci-
 munurusan
 ふのう〔不納〕 hunoo
 ふのり〔布海苔〕 hunui
 ふびじん〔不美人〕 ?anakaagii
 ふびん〔不憫〕 / ~である cimugurisjan
 →かわいそう
 ぶふうりゅう〔無風流〕 saqkoo
 ふふく〔不服〕 →ふまん, ふへい/ ~そうに
 hukuqtu/ ~である →tuukijun
 ふへい〔不平〕 googuci, gundan, ?irihui,
 kuihai, kujaaajaa, kunuu, kunuu-
 manuu, ziigui/ ~の多いこと (~の多い
 さま) googucihjaaguci, kunuumanuu,
 ziiguihjaagui/ ~を言う者 googucaa,
 ziiguimun, ziigujaa

ふべん〔不便〕 hukaqti, →hubin/ ～や不
 ふぼ〔父母〕 ʔajaataarii, →おや
 ふまじめ〔不真面目〕 / ～な者 ʔahwagee-
 rimun/ ～になる ʔahwageejun, ʔahwa-
 geerijun
 ふまん〔不満〕 ʔirihui, →ふへい/ ～げに
 hukuqtu/ ～である →ʔacizaran
 ふみあらず〔踏み荒らす〕 kuntoosjun
 ふみいし〔踏石〕 kudami
 ふみこむ〔踏み込む〕 humikunun, kumi-
 Neun
 ふみだい〔踏台〕 kudami
 ふみたおす〔踏み倒す〕 kuntoosjun/ 踏み
 倒される →hurubun
 ふみつける〔踏み付ける〕 kudamijun, ku-
 naasjun, kunasjun, kuŋçikijun
 ふみつぶす〔踏み潰す〕 kunpiizun, kun-
 pirakasjun, →ふみつける
 ふみにじる kunpiizun, →じゅうりん
 ふみはずす〔踏み外す〕 kunhansjun
 ふみんしょう〔不眠症〕 miiguhwai, miik-
 uhwai/ ～の人 miikuhwajaa
 ふむ〔踏む〕 kudamijun/ 踏まないように
 させて通る kunmaasjun
 ふむき〔不向き〕 hukaqti, →ふにあい
 ふめいよ〔不名誉〕 miiwaku, →kusihiwi-
 ci, なおれ/ ～な者 kusihiwicimun
 ふめんぼく〔不面目〕 miiwaku, →なおれ
 ふゆ〔冬〕 huju/ ～の雨 →simu/ ～のひ
 とえ ciimun
 ふゆう〔富裕〕 →ゆうふく/ ～なさま huu-
 ふゆかい〔不愉快〕 bukukuci [huu
 ふゆきとどき〔不行き届き〕 binasawaQsa,
 hutuuci, →ぶちようほう
 ふゆもの〔冬物〕 hujumun
 ふよう〔芙蓉〕 hujuu
 ぶよう〔舞踊〕 →おどり/ ～団 'uduininzu

ふらつく šiikujun
 ふうらふうら burabura, siikuimeekui
 ふうらんこ ʔindaagii
 フランス huranŋi [ki
 ふうり〔振り〕 huunaa, -bui, naziki, nazi-
 ふうりあげる〔振り上げる〕 hujagijun
 ふうりかえす〔ぶり返す〕 huikeesjun, huqce-
 esjun, hwiqceesjun, →さいはつする
 ふうりかえる〔振り返る〕 tunkeejun
 ふうりかえる〔振り替える〕 kuikkejun
 ブリキ buriki, sicitangani/ ～のやかん
 sicitanjaqkwan
 ブリキヤ〔ブリキ屋〕 burikiʔeeku
 ふうりこむ〔降り込む〕 ʔucikunun, ʔucin-
 cun
 ふうりこめられる〔降り込められる〕 huiku-
 mirarijun
 ふうりすてる〔振り捨てる〕 huiŋitijun
 ふうりそで〔振り袖〕 huisudi
 ふうりまわす〔振り回す〕 huimaasjun
 ふうりむく〔振り向く〕 tunkeejun
 ふうりょう〔不良〕 hurimun, hwinzimun,
 ふうる〔降る〕 hujun ↳→ならずもの
 ふうる〔振る〕 hujun
 ふうるい〔篩〕 'jui/ ～の一種 šiinoo
 ふうるい〔古い〕 hurusan/ ～家 hurujaa/
 ～魚 sagaiʔiju/ ～反故 huruhugu/ 古
 くする hurumasjun, hurumijun/ 古く
 なる hurunun, →ふるほける
 ふうるえ〔震え〕 hurii
 ふうるえごえ〔震え声〕 hutuhutuugwii
 ふうるえる〔震える〕 hurijun, →ぶるぶる
 ふうるぎ〔古着〕 huruzi, huruzin
 ふうるぎいち〔古着市〕 huruzimaci
 ふうるぎしょう〔古着商〕 huruziʔacinee,
 huruziʔacoodu
 ふうるきず〔古傷〕 hurukizi
 ふうるす〔古巣〕 huruŋii
 ふうるち〔古血〕 huruci

ふるどうぐ〔古道具〕 hurudoogu, →ふるも
 ふるどうぐや〔古道具屋〕 hurudoogu ㄷの
 ふるびる〔古びる〕 hurunun, →ふるぼける
 ぶるぶる hutuhutuu 「→ふるびる
 ふるぼける〔古ぼける〕 hurubuqkwijun,
 ふるもの〔古物〕 hurumuN, →ふるどうぐ
 ふるわた〔古綿〕 huruwata 「つれい
 ぶれい〔無礼〕 burii, (敬語) guburii, →し
 ふれる〔触れる〕 hurijun, saajun, →hu-
 riituusjun
 ふろ〔風呂〕 'juuhuru
 ブローカー bakujoo 「eukwiizi
 ふろしき〔風呂敷〕 ?ucukwii/ ~包み ?u-
 ふろせん〔風呂銭〕 'juuhurucin ㄷcin
 ふろや〔風呂屋〕 'juuhurujaa
 ふわ〔不和〕 huwa, →ふなか/ ~である
 ふん〔返事〕 hNn ㄷkuhwasan
 ぶん〔分〕 bun, →みぶん/ ~に過ぎる tat
 ぶん〔分〕 -mee ㄷaasjan
 ぶんがい〔憤慨〕 'jungusamici/ ~する
 kusamicun, 'wazijun/ 少し~すること
 saagusamici, ?usugusamici/ ~するさ
 ま kusamicinoori
 ぶんかいする〔分解する〕 'waqkwasjun,
 'waqkwijun, →かいたい
 ぶんかんしけん〔文官試験〕 koo/ ~の初め
 ての受験 haçikoo/ ~の本試験 seekoo

ぶんけ〔分家〕 'jaatacaa, 'jaawakajaa, →
 naagu/ ~筋 'judaci, 'wakari/ ~する→
 'jaa, 'wakajun/ ~の先祖 nakamuutu
 ぶんこ〔文庫〕 bunkuu
 ぶんさい〔文才〕 bunſee
 ぶんざい〔分際〕 bunſzee, takibun, →みぶ
 ん
 ぶんしょ〔文書〕 kaciçiki, →こもんじょ
 ぶんしょう〔文章〕 mungun
 ぶんとんきん〔分担金〕 →?usakati
 ぶんちん〔文鎮〕 bunçin
 ふんどう〔分銅〕 ?Nbusi
 ふんどし〔褌〕 haioobi, mawasi, meecaa,
 meecaasanazi, sanazi/ ~の前に垂れて
 いる部分 sanazinutai/ ~のみつ sana-
 zinu?azimaa
 ぶんばい〔分売〕 →kuusi?ui
 ぶんばいする〔分配する〕→わける
 ぶんばる〔踏ん張る〕 jaqpajun, kunpaju-
 N/ ~さま kunpaikaapai, kunpainiipai
 ぶんぶん buubuu, →buubuutuubee
 ぶんぶん kwacikwaci 「→しりょ
 ふんべつ〔分別〕 ?ati, hunbiçi, zinbun,
 ぶんべんする〔分焼する〕 →karunun,
 うむ, しゅっさん
 ぶんぼうぐ〔文房具〕 simihudikabi
 ふんわりと / ~させる hanagijun

へ〔屁〕 hwii/ ~の音 →puu/ ~の臭がし
 てくさい hwiikusasan/ ~のよちなもの
 hwiikusunaçtai/ ~をひる者 hwiihwi-
 raa
 へ〔助詞〕 -kai, -nai, →に
 へ〔部〕 (階層の名) -bi
 へい〔塀〕 →hwinpuN, かこい
 へいかきりさげ〔平銚切下げ〕 →munnga-

wai
 へいき〔平氣〕 çini
 へいきん〔平均〕 hwiicin, narasi, tuna-
 mi/ ~して namiti/ ~する→ならす
 へいげん〔平原〕 toobaru
 へいこく〔米国〕 ?amirika
 へいじゅ〔米寿〕 hacizuuhaci/ ~の祝 'ju-
 niinu?uiwee, 'juninu?ujuwee, tookaci,

へい

tookaci?uiwee, tookaci?ujuwee
へいじょう〔平常〕 →ふだん
へいしんていとう〔平身低頭〕 ?usurika-
gan, 'uuritoori, →?uusari?aaasari
へいそ〔平素〕 çini. maðu, →ふだん
へいたん〔平坦〕 too, →たいら
へいち〔平地〕 too, →へいや
へいみん〔平民〕 hjakusjoo, hwiimin
へいや〔平野〕 toobaru, →へいち
へいゆ〔平癒〕 hwijuu, →かいふく
へえ 'ee, haa
へええ 'waa?aa
へえへえ ?uusari?aaasari
ペーロン〔爬竜船〕 haarii/ ~の時の歌 haa
rii?uta/ ~の時のけんか haariimundoo
べき -bicii
ベキン〔北京〕 hwikin
へぐ〔剥ぐ〕 hwizun, →はがす, はぐ, むく
へご〔植物名〕 hwigu
べこべこ ?uusari?aaasari, 'uuritoori
へしまげる〔へし曲げる〕 ?usimagijun
べしゃんこ siqipii, →たいら, つぶれる/
~である hwirasan/ ~のもの sipizaa/
~に hwiraqteen/ ~にする hwiraka-
sjun/ ~になる hwirakijun, sipirijun
へそ〔臍〕 husu, →ほぞ/ ~の緒と髪
の毛 husukarazi
べそ çirajoo
へそくり〔臍繰る〕 'watakusi
へた〔下手〕 hutaqsja, hwita
へだたる〔隔たる〕 hwidatajun, hwizam-
へだて〔隔て〕 hwidati, hwizami [ajuN
へだてる〔隔てる〕 hwiçatijun, hwizami-
べたべた buqtakwaqta [jun
べたんと hwiraqteen
へちま〔糸瓜〕 naabeeraa
べちゃくちゃ ?aabaasaabaa, ?aacira-
hjaacira, hwiqtakumaqtaku, piriNpa-
ran, zeerikweeri 「に
べつ〔別〕 biçii/ ~に→べつだん, へつべつ

べつ tuhwee/ ~とはく tuhweemika-
sjun
べっかんこ cinbeeru ?akakoozi
べっこう〔鼈甲〕 kaaminakuu/ ~のかん
ごし kaaminakuuziihwaa
べつじょたい〔別所帯〕 sjuuteewakai
べつそう〔別荘〕 harujaaçui, 'jaaçui, →
?ujaaçui
べつだん〔別段〕 biçidan
べつびん〔別嬪〕 curawinagu, →びじん
べつべつに〔別別に〕 'wakasiwakasi, →そ
れぞれ/ ~する 'wakasjun
へつらい〔諂い〕 →おべっか
へつらう〔諂う〕 →zuubui, zuuhui/ ~者
meesaa
べとべと muqcaikwaqta, nuurakwaa-
へなへな biirakwaara [ra
べに〔紅〕 bin/ ~のしほりぞめ binsibui
へび〔蛇〕 hwiibu, nagamun, →zaa/ ~
の一種 ?akamataa, cinhabu, garaçi-
hwiibaa, hwiibaa, kuhwaa, ?oo?Nna-
zaa, →はぶ
へや〔部屋〕 →ざしき/ ~の構え zaaga-
mee/ ~の名 kuca, kuui, kuuigwaa,
meemuci, 'ncuca, ?uhugui, ?uraza,
?uucibara
へら〔篋〕 hwiira
べらべら〔べらべら〕 ?aacirahjaacira,
gakugaku, 'juntaahwintaa, 'juntaku-
hantaku, 'juntakuhwintaku, piriNpa-
ran, →べちゃくちゃ
へり〔減り〕 hwiri
へり〔減〕 hwiri
へる〔減る〕 hwinajun, hwijun, soorijun
へる〔経る〕 hwijun, →たつ/ …を経て
-naaçii
へん〔変〕 hwin, →みよ/ ~な ?ihuuna,
?iruNna, saita, →hwin
へん〔辺〕 hwin, maNgura, -kaa, →
cinpoo, -nagii

べん〔便〕 ?ura, →だいべん
 べんかい〔弁解〕 ?iiwaki, 'waki, →いいわけ/
 ～する ?iiwakijun, →べんめいする
 へんくつ〔偏屈〕 / ～である cimuspusan/
 ～な者 cimuspua
 へんさい〔返済・返債〕 hwinbin, hwinsee,
 siibaree, ?uqkabaree
 べんざいてん〔弁才天〕 bideetin
 へんじ〔返事〕 hwizi, ?iree, →へんとう/
 ～する ?ireejun
 へんしゅ〔変種〕 →かわりだね/ ～が生ずる
 tanagaajun
 べんじょ〔便所〕 huru, 'jaaburu, nisi, ?u-
 ra, →cuuzi/ ～に行く →?usi/ ～の穴
 tuusunumii/ ～の神 huduunukami/ ～
 の手洗い mizikubusi
 べんしょう〔弁償〕 tasimee/ ～する ha-
 cun, tasimeejun 'wanameejun/ ～
 させる hakijun
 へんしん〔変心〕 kukurugawai 「rujan
 へんずつう〔偏頭痛〕 hanziçuu, kataçibu-

へんせつ〔変節〕 ?irumigaai
 へんそうする〔変装する〕 'jaçirijun
 べんつう〔便通〕 çuuzi
 べんてんいけ〔弁天池〕 biçeetingumui
 へんてんする〔変転する〕 / ～さま ?icika-
 waigawai
 へんとう〔返答〕 hwintoo, ?ireehwizi, ?i-
 reekutee, ?ukihwintoo, →うけこたえ,
 へんじ
 べんとう〔弁当〕 bintoo, mucibanmee, →
 hwintu/ ～持参 çuubanmee, mucifa-
 sabaN, mucibanmee
 べんどく〔便毒〕 binäuku
 べんびする〔便秘する〕 cisijun
 へんべん〔返弁〕 →へんさい
 へんぼう〔返報〕 keesi
 べんめいする〔弁明する〕 harumijun, →べんかい
 べんり〔便利〕 binri, tanari, →ちょうほう
 へんれい〔返礼〕 hwinrii, keesi, →おかえし/
 ～の品riizigeesi

ぼ

ぼ〔帆〕 huu, →muruhu, mahu
 ぼ〔穂〕 huu
 ぼいん〔摺印〕 ?iibiban
 ほう 'ee, haa
 ほう〔方〕 hara, hoo, muti/ …の～ -ba-
 ra, -kata
 ほう〔法〕 hoo, →ほうほう, ほうりつ
 ほう〔棒〕 boo 「かこむ
 ほういする〔包囲する〕 kanimaasjun, →
 ほうえんきょう〔望遠鏡〕 tuumikagan
 ほうおう〔鳳凰〕 huuo
 ほうか〔放火〕 çikibi, hwiizikee
 ほうか〔放下〕〔曲芸のこと〕 hooka
 ほうかく〔方角〕 hoogaku, →むき/ ～の悪

い所 →tusi?ana
 ほうかん〔防寒〕 hwiisahusizi
 ほうき〔箒〕 hooci
 ほうきする〔放棄する〕 hanngajun
 ほうきほし〔箒星〕 hoocibusi, ?iriganbu-
 ほうきやく〔忘却〕 boocaku [si
 ほうぎょ〔防禦〕 husizi, →ふせぐ
 ほうぎょする〔崩御する〕 ?ukumuimiseen
 ほうきれ〔棒切れ〕 booziri, bui, bunziri
 ほうけい〔傍系〕 'judaci, 'wakari
 ほうげん〔方言〕 ?inakakutuba, kutuba
 ほうけん〔冒険〕 hantigutu 「ごほうこう
 ほうこう〔奉公〕 huukuu, →みやづかえ,
 ほうこう〔方向〕 →むき, ほう, ほうがく

ほう

ほうこう〔芳香〕 kabakaza, →におい
 ほうこう〔膀胱〕 siibaibukuru, siibaizi-
 cin
 ほうこうにん〔奉公人〕 huukuunin 「く
 ほうさく〔豊作〕 →ʔabusimakura, まんざ
 ほうざめ〔蚊の一種〕 'Nnatjuubinuqkwa
 ほうじ〔法事〕 sjuukoo, tuisjuukoo, (敬
 語) ʔusjuukoo, →madunaNka, そろし
 き, だいほうえ/ ~の年忌 ninCi
 ほうし〔帽子〕 boosi, kanmui
 ほうし〔奉仕〕 ʔwanlee/ ~する garami-
 cun, つかえる
 ほうじま〔袴織〕 / ~の着物 boozimaa
 ほうしゅ〔宝珠〕 / ~の玉 nubusidama
 ほうしゅ〔芒種〕 boosjuu
 ほうしょうがみ〔奉書紙〕 huusjugami, hu-
 sjukabi 「ʔankaNbooz;
 ほうず〔坊主〕 boozī, →おしょう/ ~頭
 ほうすい〔紡錘〕 çimi
 ほうせきいと〔紡績糸〕 seejangasi
 ほうぜん〔呆然〕 →'Nnabai/ ~と huribu-
 riitu
 ほうせんか〔鳳仙花〕 tinSjaaguu
 ほうそう〔疱瘡〕 curagasa
 ほうだい〔放題〕 hundee, →わがまま
 ほうちょう〔包丁〕 hoocaa
 ほうちょうする〔膨脹する〕 huukeerijun
 ほうど〔封土〕 →りょうち
 ほうとう〔放蕩〕 hootoo, ʔNzihangwi/
 ~人 hootoonin/ ~者 hangwimun,
 hootoomun, kwatii
 ほうとう〔蓬頭〕 mooī
 ほうねん〔豊年〕 ʔamajuu, 'jugahuu, 'ju-
 gahuudusi, mirukujugahuu, miruku-
 ほうねんかい〔忘年会〕 tusiwaşiri [juu
 ほうび〔褒美〕 huubi 「kazi, →たいふう
 ほうふう〔暴風〕 ʔarasi, kazihuci, ʔuu-
 ほうふら〔蚊の幼虫〕 boohujaa
 ほうほう〔方法〕 hoo, mici, tidan, →やり
 かた

ほうほう〔方方〕 ʔiqpeekuqpee, →あちこ
 ほうほう baabaa, buntuku [ち
 ほうほけきょ huuhuicoo, huuhwiqeeo
 ほうまい〔俵米〕 taara, →ほうろく
 ほうみょう〔法名〕 ʔiihweezii
 ほうむる〔葬る〕 hoomujun
 ほうもんぎ〔訪問着〕 kugeezin 「ずねる
 ほうもんする〔訪問する〕 'jusirijun, →た
 ほうや〔坊や〕 booboo, boozaa, →ぼっち
 ゃん
 ほうらいちく〔蓬萊竹〕 'Nzadaki, 'Nzata-
 ほうりつ〔法律〕 ʔuciti, →きそく [ki
 ほうる〔放る〕 →なげる, なげこむ/ ほうっ
 ておく 'joosjoocun, →ほったらかす
 ほうれんそう〔ほうれん草〕 huurinna
 ほうろう〔望楼〕 →'jaqkwa
 ほうろく〔俵祿〕 karuku, ruku, →ちぎょう
 ほうろくいちご 'jamaʔicubi, takaʔicubi
 ほえる〔吠える〕 ʔabijun
 ほお〔頬〕 huu, huuzira/ ~のくぼみ hu-
 ukubuu, →huukubuugwaa/ ~のこけた
 人 huukubuu/ ~のたれ下がった子供
 huutajaagwaa/ ~のたれ下がった者
 huutajaa
 ほおむり〔頬かむり〕 koogaakii
 ほおずき〔酸漿〕 toohunabii
 ほおのき〔朴の木〕 taarasi
 ほおばる〔頬張る〕 / ~さま haqkukunK-
 ukun
 ほか〔外〕 huka, sutu, →kuutu
 ほかんと huriburiitu/ ~する →miiNna-
 bai
 ぼきり puqeiiri
 ぼきん〔募金〕 nucisin
 ぼきん →ぼきり/ ~という pucimikasjun
 ぼくそ〔火葬〕 dookusu, rookusu
 ぼくとしちせい〔北斗七星〕 nanaçibusi
 ぼぐるる 'waqkwijun
 ぼくろ〔黒子〕 ʔaza
 ぼける〔惚ける〕 kanihandijun

ほご〔反故〕 hugu, hugukabi/ ～を燃す炉
 hunziruu, hunzuruu
 ほごする〔保護する〕 kageejun
 ほこり〔埃〕 hukucici, hukui, →ごみ, ち
 り/ ～臭いにおい hukucicika/ ～だら
 け hukucicikaa
 ほころび〔綻び〕 hutungwi 「どける
 ほころびる〔綻びる〕 hutungwijun, →ほ
 ぼさつ〔菩薩〕 (敬語) huusaaganasii
 ほし〔星〕 husi, (敬語) mihusi
 ほしい〔欲しい〕 husjan/ 欲しく思ひ hu-
 sinun/ 欲しそに見る manzun
 ほしがる〔欲しがる〕 →husjan, ほっする,
 もとめる/ ～こと munuhusja/ 欲しがり
 かわいがること husjakanasja/ 欲しがっ
 てねらうさま ?utiraakwaasagaraakwa-
 a
 ほじくる →?anagujun/ ほじくり出す
 ?anagui?nzasjun/ ほじくり回す kaci-
 kuzijun 「rijun
 ほしぞら〔星空〕 / ～が晴れわたる husiba-
 ほしたけのこ〔干し筍〕 sjunsii
 ほしもの〔干し物〕 husimun
 ほじょ〔補助〕 ?ujagi, →えんじょ
 ほしょう〔保証〕 kunuu
 ほしょうにん〔保証人〕 husjoonin, ?uki-
 nin
 ほす〔干す〕 husjun, →かわかす 「hara
 ほぞ〔臍〕 husu, →へそ/ ～をかむ →duu-
 ほそい〔細い〕 ?uroosan/ ～目 miigwaa/
 細くする sazirasjun/ 細くなる saziri-
 ほそく〔補足〕 ?usiitaree ljun
 ほそじょうふ〔細上布〕 husu
 ほそばわだん〔植物名〕 'Nzana
 ほそめる〔細める〕 sazirasjun
 ほそる〔細る〕 sazirijun
 ほぞんする〔保存する〕 tabujun
 ぼたぼた concon 「Nzin
 ぼたる〔螢〕 ziinaa, (小児語) ziinziin, zi-
 ぼたるび〔螢火〕 hutarubi, ziinaabii

ぼたん〔牡丹〕 butan
 ぼち〔墓地〕 ?ikazu, →はか
 ぼつき〔勃起〕 / ～させる ?waasjun/ ～す
 る ?waaajun
 ほつきょくせい〔北極星〕 →niinuhwa
 ほっする〔欲する〕 husinun, →ほしがる
 ほっそく〔発足〕 ?uqtaci
 ほっそりしている 'juinagasan, 'jujuna-
 gasan
 ほったてごや〔掘立小屋〕 ?anaja
 ほったらかし tuqpana, duukurubi, →
 ほったらかす
 ほったらかす ?uqceerakasjun, ?uqtee-
 rakasjun, ?uqteerakijun, →ほりる/
 ～こと ?itihoorii, →ほったらかし
 ほっちゃん〔坊ちゃん〕 boozuu, 'jacimee,
 'jaqiimee, ?umikii, ?unbozugwaa, →
 ほっと 'jaajaatu 「ほりや, わかぎみ
 ほっとする〔没頭する〕 hamajun, hwi-
 qkatancon, →せんしん
 ほったた huuzira, →ほお
 ほていちく〔布袋竹〕 kusanadaki
 ほてる〔火照る〕 / ～さま hwaahwaa
 ほと〔陰〕 hoo, →いんぶ
 ほど〔程〕 ?atai, sjaku, tamisi, →?uqsa,
 -ka, ていど
 ほどう〔舗道〕 ?isimici
 ほどく〔解く〕 hutucun
 ほとけ〔仏〕 buçi, hutuki
 ほどけ〔解け〕 →ほころび 「wijun
 ほどける〔解ける〕 hangwijun, hutung-
 ほとり〔廻り〕 hata, →かたわら
 ぼとん pon/ ～という ponmikasjun
 ほね〔骨〕 huni, →duubuni, gara, kara-
 huni, こつ/ ～の痛み hunijan/ ～の髄
 zii/ ～の髄にある油 zii?anda/ ～を借し
 む→huni/ ～を買い集める者 garagwa-
 akoojaa
 ほねぐみ〔骨組み〕 hunigumi/ ～を作る
 'janijun/ ～を作ること 'jani

ほねやすめ〔骨休め〕 duubuninoosi, kusi-
juqkwii, kusjuqkwii, →きゅうそく
ほのお〔炎〕 hwii 「り
ほのか〔仄か〕 ?umujoo, →かすか, ほんや
ほのぐらい〔仄暗い〕 →eimugurasan, う
ほばしら〔帆柱〕 hubasira 「すぐらい
ほぶね〔帆船〕 huusin, →ほまえせん
ほほ →ほお
ほほえみ〔微笑み〕 katakueiwaree, miiwa-
ポマード →binziki 「ree
ほまえせん〔帆前船〕 huumaasin, →はんせ
ん/ ~の一種 'janbaraa, 'janbaraabuni
ほまれ〔誉れ〕 hwikari, mjooga, nooga
ほめく humieun
ほめる〔褒める〕 humijun/ ほめ立てる
humiiatijun, humitatijun/ ほめはや
す humiitaqkwasjun
ほや〔火屋〕 huja
ほやほや ?agikookoo
ほよう〔保養〕 →eijoo
ほら ?ane, ?andee, ?ari, ?une, ?undee,
?uri/ ~ほら ?ane?ane, ?uri?uri
ほら〔法螺〕 bura, buragee, →huukasi,
kucibuuci, ?uhumunu?ii/ ~を吹く huu-
kasjun/ ~を吹く者 huukasjaa
ほら〔魚の名〕 ?ikura
ほらあな〔洞穴〕 gama
ほらがい〔法螺貝〕 buragee
ほりだす〔掘り出す〕 hui?nzasjun
ほりもの〔彫り物〕 huimun
ほる〔掘る・彫る〕 hujun
ほれこむ〔惚れ込む〕 ?ucihurijun
ほれる〔惚れる〕 hurijun, nuzunun, →
あいほれ/ ~こと sjuusin
ほろ〔襤褸〕 hukutaa, kakoo
ほろせ →じんましん
ほろびる〔滅びる〕 hurubun 「jun
ほろほろ ciritaikaatai/ ~になる musiri-
ほろもうけ〔ほろ儲け〕 ?aramooki
ほろよい〔ほろ酔い〕 saahuuhuu

ほん〔本〕 sjumuçi/ ~ばかり読んでいる者
sjumuçibaku, sjumuçikweemusi/ ~を
食う虫 sjumuçikweemusi, sjumuçimusi
ほん〔本〕 -hun, -mutu
ほん〔盆〕 bun, →?usjooroo/ ~に使うも
の bunzikee/ ~の市 bunmaci/ ~のこ
ろに行なり半年の決算 bunziri/ ~の費
用 bun?irimi/ ~の前 bunmee
ほん〔盆〕 bun/ ~の一種 çiridee, dindee,
rindee, tundaabun
ほんおどり〔盆踊り〕 sicigwaçieisaa
ほんげ〔本家〕 muutudukuru, muutujaa,
?uhudunci, ?uhujaa, →?uhumuutu/
~のお墓 ?uhu?uhwaka
ほんげんちく〔本建築〕 / ~の家 nucizijaa
ほんしょう〔本性〕 sjookani, →そしつ
ほんしん〔本心〕 sin
ほんだな〔本棚〕 sjumuçidanşi
ほんちょうし〔本調子〕 huncoosi, sagi
ほんて〔本手〕 hunti
ほんとう〔本当〕 hunnu, huntoo, sjoosjo-
otu, ziçi, zintoo, zun, →しんじつ/ ~か
→?nzi/ ~に hunnu, →'nca, zun, まこ
とに! ~の sjoohunnu, →しんの/ ~の
親 sjoo?uja/ ~のこと sjookutu/ ~の姿
ほんどう〔本堂〕 →?umukoo 「zunşigata
ほんとうない〔本島内〕 zizi?uci
ほんどさん〔本土産〕 / ~の米 ziimee
ほんにん〔本人〕 hunnin, zintii
ほんの →たった/ ~形だけ sahuu/ ~少
し biqeen, biqeenngwaa, ?ikiragwaa,
?inteenngwaa, kuuteengwaa
ほんのう〔煩惱〕 bunnoo
ほんのくほ〔盆の窪〕 ?usinukubuu, ?usir-
ukubuu/ ~の髪 ?ahwiraaguu
ほんばこ〔本箱〕 sjumuçibaku, →bunkuu
ほんぶん〔本分〕 hunbun
ほんみょう〔本名〕 sjoonaa
ほんもの〔本物〕 sjoomun
ほんや〔本屋〕 sjumuçimacija

ぼんやり turubai?oobai, →おぼろげ, ほ
のか/ ~している者 turubajaa, turuba-

imuN/ ~する turubajun, →miiNna-
bai/ ~と huriburiitu

ま

ま[間] Yee, mii, tabasa/ ~が悪いこと
hwizaruu/ ~の悪い思いをする sjukwe-
esjun, sjuqkweesjun/ ~の悪い思いを
すること siibuu, siibuugeei

ま[魔] →まもの/ ~がさして起した事
majaasarigutu

ま[真] ma-

まあ cee, 'ee, haa, ?iqcaa

まあたらしい[真新しい] →あたらしい/ ~
もの saramiimUN

まい[舞い] mooii, →おどり

まい[毎] mee-

まい[枚] -ciri, -mee

まいあさ[毎朝] mee?asa

まいご[迷子] →zaama

まいそうする[埋葬する] hoomujun

まいつき[毎月] ?icinukaazi, meezici

まいど[舞戸] meezu

まいにち[毎日] hwibi, meenici

まいねん[毎年] meenin

まいばん[毎晩] meejuru

まいる[参る] →?usirijun

まう[舞う] moojun, →おどる

まえ[前] maadu, mee, →いぜん/ ~に ma-
adu/ ~になろうとすること meenainai/
~に伸び上ること meenubagai/ ~にのめ
ること meezinta/ ~に寄ろうとすること
meejuujui/ ~の日 meehwi/ ~のもの
mee/ ~の世 sacinujuu/ はしゃいで~
を行くこと meehanazi, meemooi

まえ[前] -mee

まえあし[前足] meebisja

まえおび[前帯] mee?uubii

まえがし[前貸し] meegasi

まえがね[前金] meezin, →まえばらい

まえがみ[前髪] meegantu/ ~の長い者
(~の乱れた者) meegantaa

まえがり[前借り] meegai

まえがわ[前がわ] meezira

まえきん[前金] →まえがね

まえば[前歯] meeba, meebaa

まえはば[前幅] meehaba

まえばらい[前払い] meebaree, →まえが
ね/ ~の賃金 meedima

まえび[前日] meehwi

まえまえ[前前] meemee, →いぜん

まえもって[前以て] meekaniti, →かねて

まお[真芋] maaau

まかす[負かす] ?usimagijun

まかぜ[魔風] ?iceekazi, 'janakazi

まがたま[勾玉] gaaradama

まかない[賄い] makanee, misi?uki

まかりいでる[罷り出る] /まかりいでたる
者は dijooocarununuja, →tunzijun

まがりかど[曲り角] magaiguci

まがりくち[曲り口] magaiguci

まがりみち[曲り道] magajaa

まがる[曲る] magajun/ 曲がりくねったさ
ま ?anmagaiKANmagai, 'joogaahwi-
gaa, 'joogeehwiigee, magaihwigui, ma-
gajaagujaa/ 曲がりくねったもの maga-
ruuhwigaruu, magaruuhwiguruu

まき[薪] tacizi, tamun, →たきぎ

まき[楨] / ~の一種 caagi

まきえ[蒔絵] →cin

「sicaian

まきがい[巻貝] / ~の一種 ?inbooraa,

まき

まきた〔真北〕 manisi
まきちらす〔撒き散らす〕 macihoojun
まきつける〔巻きつける〕 karamacun, →
からめる 「ごまかす」
まぎらわす〔紛らわす〕 mangwasjun, →
まぎり〔間切〕 maziri/ ～と同じ名の村
duumura
まぎりちょう〔間切長〕 maziricoo
まぎれる〔紛れる〕 mazirijun, →まじる
まきわら〔巻藁〕 maciwara
まく〔巻く〕 macun
まく〔晴く〕 macun, ʔurusjun
まく〔幕〕 maaku, maku/ ～の一種 micimaku
まくら〔枕〕 maqkwa/ ～の一種 maqkwabaku, toomaqkwa
まくらばこ〔枕箱〕 maqkwabaku
まくらもと〔枕許〕 makugan, maqkwagwan
まくり〔植物名〕 nacoora 「→めくれる
まくりあげる〔捲り上げる〕 kanagijun,
まぐる〔鮪〕 ʔacinuʔiju, ʔakaʔaci
まけ〔負け〕 maki, →ʔwenmi, 'wabi
まげ〔鬻〕 magi/ ～を前に結ること mee-
katakasira/ ～を前に結った者 meekata-
takasiraa
まけいくさ〔負け戦〕 makiʔikusa
まげもの〔曲物〕 magi
まける〔負ける〕 'jašimijun, makijun
まげる〔曲げる〕 magijun, ʔusimagijun/
曲げていゝ ʔiimagijun
まご〔孫〕 ʔNmaga, (敬語) ʔumimaga
まごころ〔真心〕 magukuru, sinziçi
まこと〔誠〕 makutu, ziçi, →なるほど,
ほんとう/ ～に dani, daniju
まごまご tunuumanuu
まさる〔勝る〕 masajun, →すぐれる, たち
まさる/ まさっていること masai
まさる〔混ざる〕 →まじる
まし masi

まじない〔呪い〕 / ～の一種 ʔijawaree/
～の文句 →ʔazimuku 「かい
ましようめん〔真正面〕 mataŋkaa, →まむ
まじる〔混じる〕 maŋcun, mazirijun
まじわり〔交わり〕 maziwai, →こうさい
まじわる〔交わる〕 ʔazijun, maziwajun,
→こうさいする, つきあ
ます〔拵〕 ciiga/ ～の一種 cooban, gusja-
akunakamui, guŋgoonakamui, ʔicigo-
onakamui, nakamui, nakamuigwaa
ます〔増す〕 kažuujun/ ～こと →ʔimi
ます〔敬語〕 -abijun 「は mазee
まず〔先ず〕 mазee, mazi, →だいいち/ ～
まずい niisan/ ～のうまいの niisanu-
maasanu/ ～物 niizamun/ まずそりに
食べること nigangami/ まずそりに食べ
るさま niganhwigan, niiguhwiigu
ますかがみ〔増鏡〕 masukagami
ますかき〔拵騒〕 tookaci
ますめ〔拵目〕 ciiga, maši
ませがき〔籬垣〕 masi, masigaci
まぜこぜ caahwiihwii, caahwiitoo, ma-
Ncaahwincaa, →ʔusjaamaatuu
まぜもの〔混ぜ物〕 mazirimun
ませる kusbuqkwijun/ ませた者 kusa-
buqkwaa/ ませたものの言い方 kusamu-
nii, kusamunuʔii
まざる〔混ざる〕 kizun, maŋkijun, ma-
zijuŋ/ ～もの mazirimun
また〔股〕 mata, matabasi/ ～の骨 tumu-
guu/ ～の骨がだるいこと tumuguunu-
gaa/ ～を広げた歩き方 ʔaatabai
また mata
まだ maada, naada, namadii
またいとこ〔再従兄弟姉妹〕 mataʔicuku/
～の子同志 nuucuku
またがし〔又貸し〕 matagarasi
またぐら〔股ぐら〕 matabasi, →また
ただけ〔真竹〕 karataki
まだしも〔未だしも〕 suusuu
まだら〔斑〕 / ～によごれたさま ʔajagaci

koogaci
 まち[櫓] hasa, 'wacišibi
 まち[町] -masi, →maci
 まちあいしつ[待合室] hwikeezu
 まちあかす[待ち明かす] maciʔakasjun
 まちうける[待ち受ける] maciʔukijun
 まちがい[間違い] baQpee, cigeemi, macigeē, →あやまち
 まちがう[間違う] baQpeejun, macigajun, macigeejun, mamizun, →あやまる, とりちがえる/ 間違えてしまう ʔucimamizun/ 間違ったこと macigeegutu/ 間違って取る tuicigajun
 まちがえる[間違える] →まちがう
 まちどおしい / ~こと macinageesa
 まちぼうけ[待ちぼうけ] 'Nnamaci
 まちまわり[町回り] macimaai
 まつ[松] maaçi/ ~のたきつけ ʔakasi, tubusi/ ~の細い角材 sangamaci
 まつ[待つ] macun, →まちうける/ 待ちに待って çicijunhwiijun/ むなしく~こと 'Nnamaci
 まっか[真赤] maQkaara/ ~なるぞ ʔakajukusi/ ~なもの maQkaaraa
 まつかさ[松笠] maaçikasaa
 まつかぜ[松風] (菓子の名) maçikazi
 まっきいろ[真黄色] maQciiru/ ~のもの maQciiruu
 まっくら[真暗] / ~なところ kurasin
 まっくらやみ[真暗闇] ʔoogurasin
 まっくろ[真黒] maQkuuru/ ~なもの maQkuuruu
 まつげ[睫] maçigi, →さかまつげ
 まつざ[末座] hazisi
 まっさいちゅう[真最中] banzi
 まっさおに[真背に] ʔooQteen
 まっさかり[真盛り] banzi, masakai
 まっさき[真先] maQsaci
 まっしろ[真白] maQsiira/ ~なもの maQsiira
 まっすぐ maQsiigu, maQtooba ʔQsiiraa

まったく[全く] muqtu, muru, miikara, →もうとろ ʔta-, →かんぜん
 まったし[全し] matasan/ まったき ma-Maççi çikidakigwaa
 まつなみき[松並木] nanmaçi
 まつば[松葉] maaçibaa, maçinuhwa
 まつばやし[松林] maaçuu
 まつび[末尾] çibi
 まつやに[松脂] maaçinuʔanda, maçijani ʔcii
 まつり[祭り] maçiri, ʔutakabi, →ʔumamaççi
 まつり(植物名) muikwa/ ~の花 muimatsu
 まつる[祀る] maçijun ʔkubana
 まつかりつく karakujun, maçibujun, sicaasjun, →つきまとろ/ ~こと maçibui, šiçihui/ ~さま kakaišigai, karakuimaçibui
 まで -maii, →ʔweeda, ʔweema
 まと[的] matu
 まどい[円居] →くるまご
 まどう[惑う] miŋgwijun, →まより
 まとまる[纏る] marunuu, matumajun
 まとめやく[纏め役] kukuijaku
 まとめる[纏める] matumijun/ まとめ上げる tuzimijun
 まどろむ[仮睡む] turumikasjun/ ~さま nurunturun
 まどわす[惑わす] majaasjun, maŋwasjun, miŋwasjun, →だます/ まどわされる maŋwijun
 まないた[組板] maruca, →きりばん
 まなじり[瞥] miinuçibi, →miinuuu, →minuu
 まにあう[間に合う] kakiʔaajun
 まにあわせ[間に合わせ] hansii
 まにあわせる[間に合わせる] kakiʔaasjun, miikwaasjun
 まぬがれる[免がれる] nugaaun
 まぬけ[間抜け] ʔuhusjoo, ʔuhusjoomun, toosjoogaa, →meekatakasiraa,

まね

too, →ばか
 まね〔真似〕 huunaa, mani, neebi, →saaru
 まねき〔招き〕 çikee, →しょうたい
 まねく〔招く〕 mansucun, manucun
 まばたき〔瞬〕 miiçuci
 まばゆい〔眩い〕 hwicarasan, hwicarusan, miihwicarasjan
 まびきする〔間引きする〕 hukijun
 まひる〔真昼〕 ?akarahwiru, mahwiru
 まぶしい〔眩しい〕 hwicarasan, hwicarusan, miihwicarasjan
 まぶた〔瞼〕 miigaa/ ~が切れている者 miiciraa, miicirii/ ~がはれること miibukuruu, miibusihuqkwaa
 まぶち〔眼縁〕 miinuhuci
 まほ〔真帆〕 mahu
 まほう〔魔法〕 mahuu
 まま〔儘〕 mama, →takii
 まま〔繕〕 mama-
 ままごと miitunçagwaaşee, ?uhurumetaa
 まみく〔植物名〕 mamiku
 まみず〔真水〕 ?amamiçi
 まみなみ〔真南〕 mahwee
 まむかい〔真向かい〕 mamukoo, matan-kaa, tankaa, →あいたいする, さしむか
 まむすび〔真結び〕 maamusubii 〔い
 まめ〔豆〕 maami, →tiimaami/ ~のから maamigaraa/ ~の皮 maamigaa/ ~の一種 sipizaamaami/ ~のもやし maamina
 まもなく〔間もなく〕 →やがて
 まもの〔魔物〕 ?janamun, mazimun/ ~の一種 kizimun, sicimazimun
 まもり〔守り〕 mamui, →しゅご
 まもりほとけ〔守り仏〕 →?ukaçimi
 まもる〔守る〕 mamujun, →ほごする
 まゆ〔眉〕 maju, majugii/ ~をひそめる→ manuku

まゆね〔眉根〕 manuku
 まよう〔迷う〕 muçurucun, →taturucun, まどう/ ~こと ?uciijaçcii, zaama, zaamatiima
 まよけ〔魔除け〕 muNnukimun, →huuhudagaa/ ~の一種 ?isigantoo
 まよなか〔真夜中〕 ?jurujunaka, majunaka, →しんや
 まよわす〔迷わす〕 →まどわす
 まり〔翹〕 maai
 まりつき〔翹つき〕 maai?uucee
 まりなげ〔まり投げ〕 maainagiee
 まる〔丸〕 maru, →まんまる
 まるい〔丸い〕 marusan, →まんまる/ ~物 maruu/ 丸くする marumijun/ 丸くなる marunun
 まるきぶね〔丸木舟〕 kuihuni, sabani, şinni, şinNigwaa
 まるぜん〔丸膳〕 maru?uzin 〔zasi
 まるだし〔まる出し〕 marubai, maru?N-
 まるで〔丸で〕 muru, →そっくり
 まるのみ〔まる飲み〕 manNun
 まるはだか〔丸裸〕 ?akahadaka, maruhadaka, →はだか, はだかんぼり
 まるぼん〔丸盆〕 marubun
 まるまげ〔丸まげ〕 maajuuii
 まるまる(〜) mantakii, maqtakii, maqteen, marumaruuu
 まるめる〔丸める〕 çikunaasjun, marumijun
 まるわすれ〔丸忘れ〕 inuruwaşii
 まれ〔希〕 mari, marimari, marukeeti, tama, tamasaka, →ときどき/ ~な marinee/ ~にはmanee
 まわす〔回す〕 maasjun, migurasjun, mingwasjun, →?usimaasjun
 まわた〔真綿〕 minsii
 まわり〔回り〕 maai, maaru, migui, sira-akusjaa, →maai, ぜんご
 まわりどうろう〔回り燈籠〕 miguiduuruu

まわりもち〔回り持ち〕 ʔusiimaaruu, ʔu-
siimaasii, →maaruu
まわる〔回る〕 maajuN, migujuN, miN-
gwijun
まん〔万〕 man
まんいち〔万一〕 manʔici, →もし
まんかい〔満開〕 / ~になる sacicijun,
sacicirijun, sacisakeejun/ ~の時期が
過ぎる sacisirijun
まんざい〔万歳〕 condaraa, ʔjanʔai, ʔja-
Nʔajaa, manʔai
まんさく〔満作〕 mansaku, →ほろさく

まんじゅう〔饅頭〕 manzuu
まんぞく〔満足〕 coozoo, →じゅうぶん/~
する →cimu, みちたりる
まんだい〔万代〕 manʔee
まんなか〔真中〕 mannaka, nakazin
まんんにん〔万人〕 mannin
まんねん〔万年〕 mannin
まんばち〔曲鉢〕 ʔuuguci
まんま〔飯の小児語〕 manman
まんまる〔まん丸〕 manmaru/ まん丸いも
の maqteemaa/ まんまるく maqteen
まんりき〔万力〕 manrici

み

み〔実〕 kiinunai, mii, muqkuu, nai, →く
だもの/ ~のできかかった粒 naiʔizi
み〔身〕 duu, →からだ/ ~の毛がよだつ
burigiidacun/ ~の毛がよだつこと buri-
giidaci/ ~のこなし duumucinai/ ~の
ふりかた duumucizuku/ ~のほど bu-
Nʔee/ ~一つ duumiʔigara, ʔnaʔuu,
ʔnnaʔuukaraʔuu/ ~を入れる humiku-
nun/ ~をすくめたさま sukunkaa/ ~
をすくめる sukunun/ ~を引く hwici-
najun/ ~をもちくずす→duu
み〔巳〕 mii
み〔箕〕 miizookii
み〔御〕 mi-, ʔN-
みあやまり〔見誤り〕 →みまちがい
みあやまる〔見誤る〕 miijanʔun, →みそこ
みい〔三〕 mii, →さん, みっつ Lなり
みいだす〔見出だす〕 miiʔikijun, mii-
ʔnzasjun, →みつける
みうけする〔身請けする〕 ʔjuhwijun, →
duu
みうごき〔身動き〕 taciʔwiici, ʔnzucihai,
ʔnzucimuʔuruci/ ~する ʔnzucun

みうしなう〔見失う〕 miiʔusinajun
みうり〔身売り〕 duuʔui
みえ〔見え〕 misihwa
みえる〔見える〕 miijun
みおくり〔見送り〕 miiʔukui, →hunaʔu-
kui
みおとし〔見落し〕 miiʔutusi, ʔuti
みおとす〔見落す〕 miiʔutusjun
みおぼえ〔見覚え〕 miiʔubi
みおぼえる〔見覚える〕 miiʔubijun
みおろす〔見下ろす〕 miiʔurusjun
みおわる〔見終わる〕 miihatijun
みかえす〔見返す〕 miikeesjun
みかぎる〔見限る〕 miicijun, →みすてる
みがきちん〔磨き賃〕 hweesidima
みがく〔磨く〕 hweesjun, ʔnzasjun, ʔida-
sjun
みかけ〔見掛け〕 bazoo, miiba, miihwa,
mikaki/ ~がよいこと (~がよいもの)
bazoo
みかた〔見方〕 miijoo
みかた〔味方〕 mikata, →kata/ ~に引き
入れる katarajun

みか

みかづき〔三日月〕 mikazūci
 みがって〔身勝手〕 duugaqti, →かって
 みがまえ〔身構え〕 šimee/ ～ばかりするこ
 と šimeekamee
 みがまえる〔身構える〕 šimeejun
 みがるである〔身慥である〕 duugaqsan, →
 みがわり〔身替り〕 migawai しすばしこい
 みかん〔蜜柑〕 mikan, →かんきつるい
 みかんすい〔蜜柑水〕 mikanšii
 みぎ〔右〕 niziri 「cicinari
 みきき〔見聞き〕 miinaicicinai, miinari-
 みきりひん〔見切り品〕 ʔuq̄ciri
 みきる〔見切る〕 miicijun
 みきれ〔三切れ〕 micaai
 みきわめる〔見極める〕 miiciwamijun
 みくびる〔見繕る〕 ʔuʃeejun, →あなど
 る, みさげる/ ～こと tiʔuʃeei/ 見く
 びったさま 'uciuci
 みくらべる〔見比べる〕 miiʔaasjun
 みぐるしい〔見苦しい〕 migurusjan, mii-
 cakun neen, miitooN, →みっともない
 みけねこ〔三毛猫〕 mikiimajaa
 みけん〔眉間〕 manuku
 みこ〔巫女〕 →ʔuta, nuuru/ ～の一種 ci-
 hwizin, cihwizinganasii, cimi, ciN,
 ʔamusiʔare, ʔansitari, ʔansitari, ni-
 gami, nuru, nurukumii, ʔukuai/ ～の言
 うような迷信的な言葉 'jutamunii, 'juta-
 munuʔii/ ～の家 niidukuru, niija/ ～
 の家の主人 niineu
 みこころ〔御心〕 ʔuzimu, →こころ
 みこし〔御輿〕 ʔukusi
 みごと〔見事〕 migutu, (敬語) 'ugangu-
 tu, →りっぱ/ ～に curaaku
 みこみ〔見込み〕 miçiki, mikumi, mitati
 →みとおし, もくさん
 みこみちがい〔見込み違い〕 micikicigee, →
 みこむ〔見込む〕 mikunun しもくさん
 みごもる〔身籠る〕 kasagijun, →かいたい,
 にんしん
 みさき〔岬〕 misaci, saci 「びる
 みさげる〔見下げる〕 miisagijun, →みく

みさだめる〔見定める〕 / ～こと mitui
 みじかい〔短い〕 ʔincasan/ ～棒 bui,
 ʔincaboo/ ～もの ʔincaa, ʔincamun/
 ～ものや長いもの ʔincaanagaa
 みじたく〔身支度〕 sitaku/ ～をする suga-
 jun
 みじめな〔惨めな〕 / ～こと →ʔawari/ ～
 さま 'ndikaa
 みしる〔見知る〕 miisijun/ 見知らぬ →mii-
 sijun
 みじろぎ〔身じろぎ〕 →みろごぎ
 みす〔御簾〕 šidai
 みず〔水〕 miʔi, (小児語) buu, buubuu, →
 tamamiʔi, ʔubii, ʔamamiʔi/ ～につけ
 る ʔuraakijun/ ～に負けること miʔi-
 maki/ ～にもぐること šiimi/ ～のかけ
 合い miʔihanee/ ～の高さ miʔidaki/
 ～の中 miʔinumii/ ～の流れるさま soo-
 みずあそび〔水遊び〕 miʔimutaan ʔsoo
 みずあび〔水浴び〕 ʔuʃimasi/ ～をする
 ʔamijun
 みずあらい〔水洗い〕 miʔiʔaree
 みずいれ〔水入れ〕 miziʔiri, みずさし
 みずいろ〔水色〕 miʔiʔiru, miʔiiru
 みずおち〔鳩尾〕 →みぞおち
 みずおと〔水音〕 miʔiʔutu
 みずかがみ〔水鏡〕 miʔikaagaa
 みずかけろん〔水掛け論〕 miʔihanee
 みずかさ〔水嵩さ〕 miʔidaki
 みずかす〔見透かす〕 miikunun, →みぬく
 みずがめ〔水甕〕 handuu, handuugaa-
 mi, handuugami, miʔigaami
 みすがら〔身すがら〕 miʃigara
 みずきり〔水切り〕 ton-tonmii
 みずくさ〔水草〕 ʔucigusa
 みずぐすり〔水薬〕 miʔigusui
 みずぐるま〔水車〕 miʔiguruma
 みずさし〔水差し〕 ʔanbin, →みずいれ
 みずしょう〔水性〕 miʔisjoo
 みずしらず〔見ず知らず〕 miʔisirazi

みずたまり〔水溜まり〕 miʒitamai, →ta-
 みずだめ〔水溜め〕 miʒtansiiri 〔mai
 みずっぽくなる〔水っぽくなる〕 ʔahwee-
 jun
 みずでっぼう〔水鉄砲〕 miʒihanii
 みすてる〔見捨てる〕 miʒitijun, →みかぎ
 みずのえ〔壬〕 miʒnii する
 みずのこ〔水の子〕 miʒnukuu
 みずのと〔癸〕 miʒnutu
 みずのみ〔水の実〕 miʒnukuu
 みずばな〔水漬〕 miʒihanadai
 みずひき〔水引〕 miʒihwici
 みずぶくれ〔水脹れ〕 miʒibukuruu
 みずぶるい〔水篩〕 ʒiinoo 〔saa
 みずぼうそう〔水疱瘡〕 miʒigasa, miʒiga-
 みすばらしい〔見すばらしい〕 →みぐるしい/
 ～こと (～さま) saʒkoo, sikusiku, ʒiku-
 taikaatai, sipitaikaatai/ ～なりをする
 ʒikutajun 〔miʒi
 みすみす〔見す見す〕 mirumiru, miʒiga-
 みずみずしい miʒiqteen, miʒitaratara
 みせ〔店〕 macija
 みせかけ〔見せ掛け〕 misihwa
 みせたまご〔見せ卵〕 →misikuuga
 みせびらかす〔見せびらかす〕 / ～さま
 ʔundeekaa
 みせもの〔見世物〕 misimun
 みせる〔見せる〕 misijun, (敬語) ʔumika-
 kijun, →みせびらかす
 みそ〔味噌〕 'Nsu/ ～の油いため →
 ʔandansu/ ～煮 ʔunimun/ ～の麴を加
 える前のもの nuci
 みぞ〔溝〕 'NNzu, 'Nzu/ ～の一種 hainzu,
 ʔukinzu 〔ʔutusi
 みぞおち〔鳩尾〕 cimuguci, 'Nniguci,
 みそこなう〔見損う〕 miihanʒjun, miija-
 NZUN, →みあやまる
 みそな〔味噌菜〕〔野菜の名〕 'Nsunabaa
 みそはぎ〔植物名〕 ʔusjooroohaasi
 みたす〔満たす〕 micijun, mitasjun

みだす〔乱す〕 →'Nzarakasjun
 みたて〔見立て〕 miʒiki, mitati, →miinai/
 ～の誤り miʒikicigee
 みたてる〔見立てる〕 miinajun
 みたま〔御霊〕 ʔusizi
 みだれ〔乱れ〕 midari, 'Nzari
 みだれる〔乱れる〕 midarijun, 'Nzarijun
 みち〔道〕 mici →あぜみち, おおどおり,
 かいどう, かよいじ, こうどう, こくどう,
 しどう, じゃりみち, しんどう, やまみち,
 よこちょう, よこみち, ろじ, わきみち /
 ～に迷う→zaama/ ～に迷うこと mic-
 baqpee/～のついで micisigara/～行く人
 ʔuhumicinuqeu/ ～をへだてること mic-
 ihwizami/ ～を間違えること miciba-
 qpee/一つの～ cumici
 みちくさ〔道草〕 micijurari
 みちしお〔満潮〕 micisju 「ちゅう
 みちすがら〔道すがら〕 micisigara, →どう
 みちたりる〔満ち足りる〕 taraajun, →ゆ
 みちづれ〔道連れ〕 miciziri したか
 みちばた〔道端〕 micibata/ ～の草 →
 みちびく〔導く〕 micibicun 〔micisiba
 みちぶしん〔道普請〕 micizukui
 みちる〔満ちる〕 micun, miqcaʒjun →
 いっぱい/ 満ちているさま miqcaaan/
 満たないこと →'joonci
 みつ〔蜜〕 miʒi
 みっか〔3日〕 mica, miqca, miqka,
 saʒnnici
 みつかど〔三つ角〕 micigujaa
 みつける〔見つける〕 miʒatijun, miʒiki-
 jun, miʒʒnasjun
 みつご〔三つ子〕 miʒingwa, miʒeu
 みっこく〔密告〕 moosjagi
 みっしゅうする〔密集する〕 guzumujun/
 密集している家 burijasici
 みつつ〔三つ〕 miʒi, →mii, さん
 みつつう〔密通〕 sinubi/ ～している者
 guunaimun/ ～する guunajun

みっ

みっともない miicakuN neen, miitooN
neen, →huuzi, みにくい
みつば〔三つ葉〕(植物名) miçiba
みっふうする〔密封する〕 kwiicijun 「る
みつほし〔三つ星〕 miçibusi
みつめる〔見つめる〕 miiçikijun, →みまも
みつもり〔見積もり〕 çimui, miçimui
みつもる〔見積もる〕 çimujuN
みつわり〔三つ割り〕 micaai, miçiwai,
miçiwai, →さんぶんのいち
みてとる〔見て取る〕 mitui
みとおし〔見通し〕 mituusi, →?uutu-
ruu, ?uutuuruukaa, みこみ
みどころ〔見どころ〕 miçukuru, miiduku-
ru
みとせ〔三年〕 →さんねん
みとどける〔見届ける〕 miitudukijun, →
たしかめる/ ~こと mituçuki, miituçuki
みどりいろ〔緑色〕 ?ooruu/ ~である ?oo-
saan/ ~の元ゆい ?ooruumuutii
みとれること〔見とれること〕 miiburi
みな〔皆〕 muru, 'Nna, suujoo, →のこら
ず/ ~の考え(~の世話) suukangee/ ~
のたましい suumabui
みなさま〔皆様〕 gusuujoo
みなさん〔皆さん〕 suujoo
みなしご〔孤子〕 →?ujamadii
みなす〔見なす〕 miinasjun
みなと〔港〕 tumai, tuguci, 'Nnatu
みなみ〔南〕 hwee, ?Nmanuhwa, →まみなみ
みなみかぜ〔南風〕 hweenukazi, →hwee,
hweebuci, hweekazi, ?urizibbee, げし
/ ~の吹く季節 hweebucaa
みなみむき〔南向き〕 hweenkee
みならい〔見習い〕 minaree
みならう〔見習う〕 miinarajun
みなり〔身なり〕 nai, narihuuzi, ſigata,
sugai, →さま, すがた, なりぶり
みなれる〔見馴れる〕 miinarijun
みにくい〔醜い・見にくい〕 'janasaan, mii-

gurisjan, →みっともない/ ~女 'jana-
kaagii/ ~顔 'janakaagi/ ~者 muka-
みぬく〔見抜く〕 miisimasjun [taa
みの〔蓑〕 'Nnu
みのうえ〔身の上〕 minu?wii
みのがす〔見逃す〕 miinugaarasjun/ 見の
がしておく 'joosjoocun
みのがみ〔美濃紙〕 minugami
みのけ〔身の毛〕→み
みのしろきん〔身代金〕 çusiru, duuganee
みのむし〔蓑虫〕 hukutaamusii
みばしょう〔実芭蕉〕 naiuu 「る
みはなす〔見放す〕 miihanasjun, →みすて
みぶるい〔身震い〕 sisiburii
みぶん〔身分〕 bun, mibun, takibun, →
いかい, ぶんざい/ ~の名 deemjoo,
hjakusjoo, samuree/ ~が上であること
bun?agai/ ~と家柄 bun?aku/ ~の低
い者 sicadii/ ~不相応である tataasjan
みほん〔見本〕 mihun, tihun, →ひながた
みまい〔見舞〕 miimee, mimee
みまぢがい〔見間違い〕 miibaqpee, mii-
macigee, →みあやまる
みまもる〔見守る〕 manzun, miimanzun,
?ucimanzun, →みつめる
みまわす〔見回す〕 / ~さま ?amamiiku-
mamii
みまわり〔見回り〕 miimaai
みまわる〔見回る〕 miimaajun
みみ〔耳〕 mimi, (卑語) mincabaa/ ~の
皮 mimigaa
みみかき〔耳掻き〕 mimikuzijaa
みみくそ〔耳糞〕 mimikusu
みみず〔蚯蚓〕 mimizi, →?amizi
みみずく〔木菟〕 majaaçikuku
みみたぶ〔耳たぶ〕 mimigaa, miminu-
hwaa, miminuhutai, →hutai
みみだれ〔耳朶〕 minzai
みもち〔身持ち〕 mimuci, →ひんこう
みもの〔見物〕 miimun, (敬語)

'ugangutu
 みや〔宮〕 kamiʔasjagi, mija, →おみや
 みやく〔脈〕 mjaku, naaku
 みやげ〔土産〕 çitu, mjaagi, naagi
 みやこ〔都〕 mijaku
 みやこ〔宮古〕 mjaaku, naaku/ ~の者
 naaku/ ~と入重山 sacisima
 みやすい〔見易い〕 miijaqsan
 みやづかえ〔宮仕え〕 sjuiganasimedei,
 sjuNzanasimedei, ʔweeçai/ ~の人→や
 くにん
 みやぶる〔見破る〕 miişimasjun
 みやま〔深山〕 mijama, →やまおく
 みよ〔御世〕 miju
 みょう〔妙〕 mjuu, →へん/ ~な ʔihuuna,
 ʔiruNna, saita, →mjuu
 みよう〔見様〕 miijoo
 みようが〔植物名〕 miigaa
 みようじ〔苗字〕 ʔjaanna, mjoozi, noozi,
 みょうにち〔明日〕 →あした ʔsii

みょうばん〔明礬〕 doosa, doosaa
 みょうばんせき〔明礬石〕 doosi
 みる〔海松〕 biiru
 みる〔見る〕 nuun, 'NNZUN, (敬語) mju-
 Nkakijun, nuNkakijun, ʔumikakijun,
 ʔumikakimişeen, 'uganuN/ 見たくな
 いような miigamerasjan, miigasima-
 sjan/ 見たただけでおじけづくこと miiʔu-
 zi/ 見よるともしない →miinuçibi/ ~に
 たえない miigasimasjan, →みっともな
 い/ 見るにたえる (見られる) miijaqsa-
 N/ 見ろ →ʔundee,
 みろく〔弥勒〕 miruku
 みろくえ〔弥勒会〕 mirukuʔunkee/ ~の行
 列に加わる子供 mirukungwa
 みわけ〔見分け〕 miiwaki, miwaki
 みわける〔見分ける〕 miiwakasjun, mi-
 iwakijun
 みんな〔皆〕 →みな
 みんよう〔民謡〕 →うた, ぞくよう

む

む〔六〕 mu-, muu, →ろく
 むいか〔6日〕 dukunici, rukunici
 むかい〔向かい〕 'Nkee, tankaa, zootan-
 kaa, →さしむかい, まむかい, むかう,
 むこうとなり
 むかいかぜ〔向かい風〕 'Nkeekazi
 むかう〔向かう〕 'Nkajun, / 向かい合りさ
 ま tankaamankaa
 むかえる〔迎える〕 'Nkeejun/ 迎かえてす
 ぐ 'Nkeehana, 'Nkeezira
 むがく〔無学〕 mugaku, musan
 むかし〔昔〕 hweeku, 'Nkasi, →sacigu-
 dee/ ~の歌 'Nkasiʔuta/ ~の事 'Nkasi-
 gutu/ ~の人 'NkasiNcu/ ~の代 ʔa-
 manju

むかしなじみ〔昔馴染み〕 mutubiree
 むかしばなし〔昔話〕 'Nkasibanasi, 'Nka-
 simunugatai, →せつわ
 むかしふう〔昔風〕 'Nkasihuuzi
 むかつく 'wiibacun, →munuhacihu-
 sjan, 'winturukaasjan/ ~さま 'wii-
 むかで〔百足〕 'Nkazi ʔbacinoori
 むぎ〔向き〕 'Nkee, ほうこう/ ~向き naa-
 むぎ〔麦〕 muzi ʔNkeenkee
 むぎこ〔麦粉〕 muzinakuu
 むぎこがし〔麦焦がし〕 ʔjuunuku
 むきず〔無傷〕 mukizi/ ~のもの mata-
 mun
 むぎめし〔麦飯〕 hwiran, →hwiranmee
 むぎわら〔麦藁〕 munzuru/ ~の笠 mu-

Nzuruu, muNzurugasa/ ~帽子 mu-
 むく[向く] 'Nkajun [Nzuruu
 むく[剃く] 'NcuN, →へぐ
 むくい[報い] mukui
 むくいぬ[老犬] muku?in
 むくげ[植物名] hanagaci
 むくち[無口] ?Nmunukuci
 むくむ[浮腫む] hacikunun, mucun,
 mukunun, siçibuqkwijun/ ~こと si-
 むける[向ける] 'Nkijun [çimuci
 むける[剃ける] hagijun, hankijun,
 'Nkijun, →はがれる
 むこ[婿] muuku, →munukweenuuku/
 ~にしたり嫁にやったりするさま muku-
 duijumidui/ ~の付添役 mukuziri, mu-
 kuzooi/ ~養子 ?irimuuku, ?irimuu-
 kuu, mukujoosi/ 王の~(敬語) ?wii-
 ?wee?umuuku
 むこいりしき[婿入式] muku?iri
 むこうきず[向こう傷] mukookizi
 むこうずね[向こう脛] karaşini
 むこうどなり [向こう隣] zootankaa
 むこうみず[向こう見ず] namacaa, na-
 maci, →むてっぼう
 むごん[無言] mugun
 むし[虫] musu/ ~の一種 →?amagakaa,
 ?amagaku, ?jakumusi, nukagu/ ~を
 こわがる者 musu?uturuu
 むしあつい[蒸し暑い] siputara?açisan,
 →?abucun, humicun
 むしおさえ[虫押え] 'jaasanoosi
 むしかえし[蒸し返し] ?Nburasikeesaa
 むしがし[蒸し菓子] kusicii?ukwaasi
 むしくい[虫食い] ?irimusi, musikwee
 むしくいも[虫食い芋] hwiimusjaa,
 ?irimusjaa
 むしくだし[虫下し] musigusui
 むしけ[虫気] kanmusi, musici, musu-
 むしけん[虫拳] buusaa [joogari
 むじつのつみ[無実の罪] sakagaçimi

むしば[虫歯] musiba, musikweebaa
 むしめがね[虫眼鏡] musimikagan
 むじゃき[無邪気] / ~なさま ?atiqteen/
 ~な者 ?atinasi
 むじゅんする[矛盾する] ?aakijun/ 矛盾
 したことを言うこと sakamunii
 むじょう[無情] muzoo, →つれない
 むしょうに[無性に] musjookusjoo, mu-
 sjooni, musjootusjoo, →miqta, やたら
 に 「になる musirijun
 むしる[巻る] musijun/ むしられたよう
 むしろ[席] musiru, →ねござ/ ~ごと引
 張ること musirubiici/ ~の一種 nikubu
 ku, ?usimaci 「tutin
 むしろ[寧ろ] keetee, keeti, keetinkai,
 むしんけい[無神経] / ~である namasan/
 ~な者 namazisi, namazisjaa
 むじんこう[無尽講] ?juree, muae, nin-
 muae/ ~の親 ?juresiidu/ ~の掛け金
 kakimee/ ~のくじ ?jureenukuzi/ ~の
 返金 ?ukuimee
 むす[蒸す] ?Nbusjun, →?abucun
 むすう[無数] / ~である ?amazamaa
 neen 「-gurisjan, こんなん
 むずかしい muçikasjan, →duugurisjan,
 むすこ[息子] →'wikiganwa, ひとりむ
 すこ
 むすびこんぶ[結び昆布] musubikuubu
 むすびのいちばん[結びの一番] siizima
 むすぶ[結ぶ] muşibun, musubun, →ku-
 kujun, しばる, つなぐ/ 結び方の一種
 ?azimaamusubi, hutucimusun, maa-
 musubii
 むずむず muzumuzu, muzumuzu, muzu-
 rumuzuru/ ~する hagoosan
 むすめ[娘] ?angwaa, mijarabi, naa-
 rabi, 'wakawinagu, 'winagunwa, (敬
 語) →おじょうさま, ひとりむすめ
 むせる[噎せる] →tuqcijun
 むだ[無駄] ?itazira, siqci/ ~な →'juu-

- cira/ ~なこと ?itaziragutu, siqciigutu/ ~になる →siru
- むだぐい〔無駄食い〕 gaadagami, gaadagwee, →?ašibingwee
- むだづかい〔無駄使い〕 ?icanđazikee, ?waabazikee, ziŋdaari, ziŋšitigutu, →とろろひ
- むだぼねおり〔無駄骨折〕 →とろろ
- むち〔鞭〕 buci
- むちゃ〔無茶〕 gaama, →むぼろ
- むちん〔無賃〕 →ただ
- むつき〔襦袢〕 kakoo 「?i, ろく
- むつつ〔六つ〕 muu?i, →muu, (時刻) mu-
- むつまじい〔睦まじい〕 →したしい, なかよく / 男女が睦まじくなりすぎる mu?iri-jun/ 男女の睦まじくなりすぎることを mu?iri
- むてっぽう〔無鉄砲〕 namaci, むこうみず/
- むとせ〔六年〕 mutu 「~な者 namacaa
- むなげ〔胸毛〕 'Nnigii
- むなさわぎ〔胸騒ぎ〕 cimudakumici, cimuwawazi, cimuwasamici, →cimudakuiaku, cimuwawasa
- むなしい〔空しい〕 →'Nna
- むなのか〔六七日〕 munanka
- むなもと〔胸元〕 cimuguci
- むなもん〔棟門〕 'jaazoo
- むね〔胸〕 'Nni/ ~がつぶれる 'Nnitaarawarijun/ ~をときめかすこと cimubutumici, cimudakumici/ ~がときどきするさま cimudakudaku, 'Nnidondon, 'Nnidakudaku, 'Nnigitugutu/ ~がやけること kukuraki/ ~につかえるさま ciikaakaa
- むね〔棟〕 ?irica, 'Nni
- むねかけ〔胸掛け〕 'judaci
- むぼろ〔無法〕 muhoo, →むちゃ
- むぼん〔謀叛〕 'jasiŋgutu, muhun
- むぼんにん〔謀叛人〕 muhunniŋ
- むやみに〔無暗に〕 →miqta, むしょうに
- むよう〔無用〕 mujuu, →むだ/ ~な事 mujuugutu/ ~の長物 maahandaa/ ~の物 juuzucirimun
- むよく〔無欲〕 mujuku
- むら〔村〕 mura, sima, →kuni, maziri/ ~からの追放 murabaree/ ~で負担すること muramuci/ ~の大きさ simawaa/ ~の共同井戸 muragaa/ ~の共有物 muragumu?i/ ~のこと muragutu/ ~の指定の宿 murajaadu/ ~の中 simawaa
- むらがる〔群がる〕 →buri-, むれあつまる
- むらざかい〔村境〕 murazakee
- むらさき〔紫〕 murasaci/ ~のかんむり murasacihacimaci
- むらさきかたばみ〔植物名〕 'jahwatagusa
- むらざと〔村里〕 sima, simakuni
- むらしばい〔村芝居〕 mura?ašibi/ ~をすする所 →?ašibinaa
- むらじゅう〔村中〕 cumura, murazuu/ ~の集まり murazurii
- むらす〔蒸らす〕 ?Nburasjun
- むらはずれ〔村はずれ〕 murahazisi
- むらほちぶ〔村八分〕 →cinzubaree
- むらぼらい〔村払い〕 murabaree, →むらは
- むらふたん〔村負担〕 muramuci 「ちぶ
- むらやくにん〔村役人〕 sabakui
- むらやくば〔村役場〕 murajaa
- むり〔無理〕 muri/ ~に siiti, →むりじい, むりやり/ ~に食わせる kunkwaasjun/ ~にすること sararaŋsii/ ~に泣こうとすること nakaraŋnaci/ ~に笑うこと 'waraaraŋwaree, →'wareesiizii
- むりじい〔無理強い〕 siihaqtoo
- むりやり〔無理遣り〕 ?usi?usi, →むり
- むりよく〔無力〕 / ~である 'jugeenee kanaan, 'wigeenee kanaan
- むれ〔群〕 buri-
- むれあつまる〔群れ集まる〕 macaasjun
- むれる〔蒸れる〕 ?Nburijun

め[目] mii, →めだま/ ~がかすんでいる者
 kaakanZaa/ ~がくぼむこと miikeeraa,
 miikoogaa/ ~がくぼんだ者 miikubuu/
 ~がくらむ kukutimiNgwijuN/ ~がさ
 える(~がさめる) kuhwajuN, →mii/ ~
 がだるい miidarusaN/ ~がはれぼった
 いこと miibukuruu, miibusihuQkwa/
 ~がひきつっていること miihaQpai/ ~
 がひきつった者 miihaQpajaa/ ~がほて
 ること miihwaahwaa/ ~から火が出る
 こと miiziinziiN/ ~と口 miikuci/ ~と
 鼻の間 →mii/ ~と眉 miimaju/ ~に余
 る→mii/ ~に入ったごみ mincamuN/
 視力のない~ →saami, diNganmii/ ~
 の大きい者 YuhumiNtamaa/ ~の玉 mi-
 Ntama/ ~の病気 →かんびょう/ ~のふ
 ち miinuhuci/ ~の前 miinumee, mi-
 numee/ ~もくれない →mii/ むなしく
 ~をあけていること 'Nnabai/ ~を動かす
 こと miikugee/ ~をこすりこすり mii-
 širiširi/ ~を離すこと miikugee/ ~を
 回す →mii/ ~を見張る →mii/ ~を見
 張るようなこと miihaigutu

め[芽] miduri

め[靴] mii-

め[目][接尾] -mi, →mii

めあて[目当て] Yati, mijati

めい[煙] mii, miiQkwa

めい[銘] migaci

めいあん[明暗] Yakasakurasa 「gee

めいぎ[名義] minzici/ ~変更 minzici-

めいしょ[名所] miisju

めいすう[命数] suu

めいど[冥土] gusjoo, →あのよ

めいにち[命日] miinici, (敬語) ?umii-

nici, →sjoo?umiinici

めいぶん[名分] bun

めいぼく[銘木] zeegi

めいめい[銘銘] duunaa, naaduudu,
 naameeme, →naa-, →それぞれ/ ~が
 背を向けて一致しないこと naakusjaagu-
 sjaa/ ~が違った考えをもつこと naaka-
 NgeekaNgee/ ~勝手 naaduudu/ ~勝
 手な話 guunaamunugatai/ ~が別なこ
 とを言うこと naa?ii?ii/ ~捜し合りさま
 naakameeigameei, naatumeeidumeei/
 ~自活すること naakweegwee/ ~違った
 構え方をする事 naakameegamee/ ~
 散り散りになること naahaibai/ ~で
 guunaakuru/ ~の家 naajaajaa/ ~の
 受持ち naamutimuti/ ~の縁故 naa-
 hwicibici/ ~の得意 naamutimuti/ ~
 の分 naatamasidamasi, tamaši/ ~の向
 き向き naankeeNkee/ ~別かれ別かれ
 naawakaiwakai

めいめい[命名] naazikii

めいよ[名譽] hwikari, mjooga, nooga

めいる[滅入] sižinUN

めいれい[命令] ?iiciki, ?iiwataši, tužiki,
 →?wiisi, ?wiisigutu, しき/ ~する ?iici-
 kijun, tužikijun

めうし[牝牛] mii?usi

めおと[夫婦] miitu, →ふうふ

めかけ[妾] 'juubee, niNguru, suba,
 subazikee, ?usuba, →?ansitanmee,
 musirusicaa/ 王の~ →おう

めかご[目籠] miibaaraa

めがしら[目頭] miinukuci

めかす -mikasjuun, →けしょうする

めかた[目方] cinmi

めがたき〔女敵〕 migataci
 めがね〔眼鏡〕 gancoo, miikagan
 めがわら〔雌瓦〕 miigaara
 めく -micun
 めぐすり〔目薬〕 miigusui, sasigusui
 めくばせ〔目配せ〕 miijoo, mii?uci/ ~や
 口つきで合図すること miijookucijoo
 めぐみ〔恵み〕 migumi, →おかげ, じあい
 めぐみぶかい〔恵み深い〕 cimuzurasan, →
 ?uzimuzurasan, やさしい/ ~人 cimuzura
 ncu, →?uzimuzuranCu
 めぐらす〔巡らす〕 migurasjun, miNgwa-
 sjun 「gui
 めぐり〔巡り〕 migui/ ~が悪いくと humi
 めぐりあう〔巡り会う〕 hujawasjun
 めぐりあわせ〔巡りあわせ〕 hujawasi
 めぐる〔巡る〕 migujun, miNgwijun, →か
 いてん
 めくれる magurijun, →まくりあげる
 めさき〔目先〕 miinumee, minumee
 めざまし〔目覚し〕 miikuhwajaa
 めざまめ〔目覚め〕 miikuhwai
 めざまめる〔目覚める〕 →さめる/ 目覚めやす
 い cimubeesan
 めし〔飯〕 mee, munu, mun, →?ubun,
 (小児語) manman, meeme/ ~に汁を
 かけたもの siruzikii/ ~を一度に炊いて
 置くこと siikumii/ やわらかい~ ?açibii
 めしあがる〔召しあがる〕 →たべる
 めした〔目下〕 misita, tiisica/ ~に対する
 ことば使い →hii?ii, ?iihii/ ~の年上
 に対することば使い →hoo?oo
 めしつぶ〔飯粒〕 ?ubunçizi/ ~で作ったの
 めじまぐる(魚の名) siru?aci くり suqkwii
 めじり〔目尻〕 miinuçibi
 めじろ(鳥の名) soominaa
 めじろかご〔めじろ籠〕 soominaakuu
 めしわん〔飯椀〕 →ごはんちゃわん
 めす〔雌〕 miimunaa, miimuN/ ~の mii-

めずらしい〔珍しい〕 hwirumasjan, mi-
 ndasjan, mizirasjan/ ~物 mindasi-
 mun
 めそめそ / ~泣くこと sipitainaci, 'wii-
 ruunaci
 めだか〔目高〕 takamaa, takamaami, ta-
 kamami
 めだつ〔目立つ〕 miidacun
 めだま〔眼玉〕 mintama, →め/ ~が痛む
 こと tamajan/ ~の大きい者 ?uhumi-
 Ntaama
 めちゃくちゃ sanzanKunzan, zaahwee
 めっきをする〔鍍金をする〕 hwaasjun
 めつけやく〔目付役〕 ?jukumi
 めっそうな →misinaaku, misinataaku,
 misinataraaku, とんでもない, ひじょう
 めった〔滅多〕 miqta/ ~に çiini 〔に
 めづな〔雌綱〕 miiNna 「うに
 めっほう〔滅法〕 →musjootusjoo, ひじょ
 めでたい / ~こと karii, karijusi, ?ju-
 rukubi / ~日 →しゆくじつ
 めとる〔寝る〕 →kameejun, tumeejun
 めのこかんじょう〔目の子勘定〕 kuruba-
 zaa, teegeezanmin
 めばる〔目張〕(魚名) miibai, miibaju/ ~
 の一種 ?akamiibaju, kurumiibaju
 めぼし〔目星〕 →めあて/ ~をつける ?ati-
 gajun
 めまい〔眩暈〕 miikuragan, kukutimin-
 gwaa, kukutimingwi/ ~がする kuku
 timingwijun
 めめしい bitaraasjan
 めもと〔目許〕 mimutu
 めやに〔目脂〕 miikusu/ ~を出す者 mii-
 メリンス sawai 〔kusaa
 めわらべ〔女童〕 →むすめ
 めん〔面〕 haaçiburaa
 めんかい〔面会〕(敬語) ?wiicee, →かいけん
 めんきょ〔免許〕 ?jurii
 めんずる〔免ずる〕 nagamijun

めん

めんそう〔面相〕 çiramukumi, miNzoo
 めんどう〔面倒〕 miNdoo, 'wacaree →やっ
 かい/ ~である ?anmasjan/ ~なこ
 と?anmasimun/ ~なさま 'wacareega-
 ndoo/ ~に掛かり合ふこと tiinzari, tii-
 wacaree/ ~をみる kanGeejun, 'wa-
 ndajun/ ~を見ること siNziçi
 めんとむかって〔面と向かって〕 çiraziraa-

tu

めんどり〔牝鶏〕 miidui
 めんぶ〔綿布〕 şeejanpuu, →もうか
 めんぼく〔面目〕 ?icibun, minbuku, mi-
 nmuku/ ~を失ふこと →çirawaidoogu,
 geejun
 めんよう〔緬羊〕 meenaa, meenaahwii-
 zaa

も

も〔藻〕 muu
 も〔喪〕 →きちゅう/ ~に服すること ?imi/
 ~に服すべき統柄 ?imigakai/ ~を終る
 こと ?imi?aki
 も〔助詞〕 -N
 もう ?iina, ?iinanuhwee, naa, naaja,
 nama, njaa, njaja/ ~いいか →too/
 ~いいよ →tooru/ ~すぐ nama/ ~少
 して 'jagati, →すんでのことで
 もう〔牛の鳴声〕 'Nmoo
 もうか〔真岡〕〔織物の名〕 mookahuu
 もうけ〔儲け〕 mooki
 もうける〔儲ける〕 mookijun, sii?nza-
 sjun/ ~こと一点張り mookizuku, zin-
 mookizuku
 もうける〔設ける〕 'isijun
 もうし〔孟子〕 moosi
 もうしあげる〔申し上げる〕 mjunnjuki-
 jun, nunnukijun, ?unnjukijun, ?un-
 nukijun, →いら, ごんじょう
 もうしご〔申し子〕 ?eeeku
 もうしこみじゅん〔申込み順〕 sacisidee
 もうしでる〔申し出る〕 moosi?nzi?jun
 もうしひらき〔申し開き〕 →いいひらき
 もうしぶんのない〔申し分のない〕 →zoo-
 bun, かんぜん/ ~者 'Nsjamun 「たく
 もうとう〔毛頭〕 musaqtu, →すこし, まっ

もうはつ〔毛髪〕 kikarazi, →かみ
 もうふ〔毛布〕 kiqtu, musin
 もうもう〔牛の小児語〕 moomoo
 もうりんか〔植物名〕 muikwa/ ~の花
 muikubana
 もうろく dooma, rooma, →おいぼれ/ ~
 じいさん roomatanmee/ ~する kani-
 handijun
 もえさし〔燃えさし〕 hwiiziri, 'jakiziri
 もえつく〔燃え付く〕 teecicun
 もえる〔燃える〕 meejun, →やける 「あ
 るぐ〔腕ぐ〕 mujun, →muincun/ もいだ
 もくげ〔植物名〕 hanagaci 』と muikuci
 もくさ〔艾〕 huuçi
 もくさん〔目算〕 miizimui, →あて, みこみ,
 もくろみ/ ~がはずれること miizimui-
 もくたん〔木炭〕 tan 』sooi
 もくてき〔目的〕 ?umumuci
 もくひょう〔目標〕 ?ati, →めあて
 もくめ〔木目〕 mukumi
 もくよく〔沐浴〕 ?uřimasi, →みずあび
 もくろく〔目録〕 mukuruku
 もくろみ mukurumi, →くわだて, もくさん
 もくろむ mukurunun, →くわだてる
 もし〔若し〕 mani, musi →たとえ, ひよっ
 としたら, まんいち/ ~か (~も) musi-
 ka/ ~かすると →'juu
 もし ?ee, 'jaa, sai, sari, tai, tari, →

hei/ ~もし ?ee?ee
 もじ〔文字〕 muzi, zii, →suucuumaa
 もしゅ〔喪主〕 ?iihweedacaa
 もずく〔水雲〕 şinui
 モスリン sawai
 もぞう〔模造〕 / ~する nisijun/ ~品 nissii, nisimun, ?uçusi
 もたげる〔抬げる〕 mucagijun
 もたもた muqcaihwiqcai, muqcoohwiqcoo, tiimucamuca, →ぐずぐず, のろのろ
 もち〔餅〕 mucu/ ~の一種 cicaramucii, cikaramucii, hoohaimucii, hucagi, huuçimuci, kagaNhweesaa, mudimuci, muucii, sizuci, ?ucanuku, ?utusizama
 もち〔糰〕 'janmuci, →とりもち
 もちあがる〔持ち上がる〕 mucagajun
 もちあげる〔持ち上げる〕 hwiqcatijun, mucagijun
 もちかた〔持ち方〕 mucinasii
 もちくずす〔持ち崩す〕 mucihanđijun
 もちこたえる〔持ち堪える〕 →たえる/ ~力 mucidee
 もちこむ〔持ち込む〕 mucinçun
 もちごめ〔餅米〕 mucigumi
 もちすぎ〔持ち過ぎ〕 muciqkwa
 もちどおし〔持ち通し〕 muciciri
 もちなおす〔持ち直す〕 kunnoosjun, mucinoosjun, tuikeesjun, →かいふく, たちなおる
 もちほこぶ〔持ち運ぶ〕 →kajaasjun
 もちぶん〔持ち分〕 mucimee, tamaşı
 もちまえ〔持ち前〕 →もちぶん
 もちもの〔持ち物〕 (敬語) ?weemun
 もちよる〔持ち寄り〕 nucaasjun/ 持ち寄りの宴会 nucaasii
 もちろん〔勿論〕 daniju, →いり
 もつ〔持つ〕 mucun/ 持ったきり muciciri/ 持てないものを無理に持つこと mutaranmuci
 もつ〔保つ〕 tamucuN/ ~こと tamuci

もっこ ?oodaa
 もっこく〔植物名〕 ?iiku/ ~の柱 ?iiku-baaja 「みする
 もったいない →?usuri, おいしい, ものおし
 もったいぶる ?unbujuN, →そんだい/ ~者 ?unbujaa 「?unu?wii
 もっと 'juku, 'jukun, naahwin, njahwin,
 もっとも muqtun, →とりぜん, いちばん
 もっぱら〔専ら〕 muqpara
 もつれ〔縫れ〕 'Nzari
 もつれる〔縫れる〕 muçirijun, muikujun, 'Nzarijun/ もつれさせる 'Nzarakasjun
 もてあそぶ 'iijun, mutabun/ ~こと -mutaan/ ~さま mutaanhwiitaan
 もてあましもの〔持て余し者〕 ?amasitamun, şitaneemun, zaahweemun
 もてあます〔持て余す〕 ?abacun, muti?amasjun, mutiwakasjun, →teewakasjun/ ~さま ?abacinoori/ ~仕事 ?abacisigutu/ ~よること şitaneekutu
 もてなし →せったい
 もてなす tuimucun
 もと〔本・元〕 mutu, muutu, →?ahjaa/ ~の隣 mutudunai / ~から →hweeku,
 もと〔許〕 mutu 1つと
 もと〔接尾〕 -mutu
 もどかしい →じれったい 「す
 もどす〔戻す〕 muşusjun, →?agijun, かえ
 もとで〔元手〕 mutu, muutu/ ~を失うこと muutkweeciri
 もとなり〔本成り〕 niinai
 もとめる〔求める〕 kameejun, mutumijun, tumeejun, →さがす, たずねる,
 もとゆい〔元結い〕 muutii 1ほしがる
 もどり〔戻り〕 mudui, →かえり
 もとる〔悴る〕 →そむく 「かえる
 もどる〔戻る〕 mudujun, →?utikeejun,
 もどろく muürucun, →ためらう
 もの〔物・者〕 munu, mun, -şı, →しなもの, しんぴん/ ~にする→せしめる

もの

もの〔助詞〕 -munu, muN
 ものいみ〔物忌み〕 çiçisimi/ ~をする çiçisinun
 ものいり〔物入り〕 ?irimi, munu?iri, munu?irimi, siçcii, →いりめ
 ものおじ〔物怖じ〕 munu?uzi
 ものおしりする〔物借しりする〕 ?ibirijun
 ものおと〔物音〕 munu?utu/ ~をさけること munu?utu
 ものおぼえ〔物覚え〕 munu?ubi, →きおく/ ~が悪いこと busjoo
 ものおもい〔物思い〕 munu?umii, →かんがえごと/ ~に沈む munu?umiigisan
 ものがたり〔物語〕 ?ihwanasi, 'nkasimunugatai, →はなし 「ぶしょうもの
 ものぐさ çibitugajaa, hujuu, →ぶしょう,
 ものさびしい →らさびしい/ ~さま soo-
 ものしり〔物知り〕 munusiri [çootu
 ものしりがお〔物知り顔〕 / ~な口のきき方 kusamunii, kusamunu?ii/ ~にふるまう kusabuçkwijun
 ものずき〔物好き〕 munuzici, munzici
 ものすごい 'joo?usumasjan, ?usumasjan, →たいした
 ものほしそう〔物欲しそう〕 / ~である munuhusjagisan/ ~にすること munuhu-
 ものみ〔物見〕 munumi [sja
 ものもらい〔麦粒腫〕 mii?iNäee
 ものわすれ〔物忘れ〕 munuwaşi, munwaşi, →わすれる
 ものわらい〔物笑い〕 munuwaree
 もはや naaja, njaa, njajaa, →もう
 もふく〔喪服〕 →basjazin
 もみ〔糲〕 mumi
 もみがら〔糲殻〕 ?Nnagee
 もみくちや çikunaamukunaa, muNnaku, muNnakukwannaku, muNnakkwan-
 かもみけす〔揉み消す〕 şiricaasjun, →şiri-

koo, すりけす
 もみじ〔紅葉〕 mumizi
 もむ〔揉む〕 mimizun, munun
 もめごと〔揉め事〕 mumigutu, nanzuu, nanzuehwinzuu, →あらい, もんちゃ
 もめる〔揉める〕 munun しく
 もめん〔木綿〕 mumiN/ ~糸の一種 seejan-
 Ngasi/ ~の布 →mookahuu, seejanpuu
 もも〔桃〕 →kiimumu
 もも〔股〕 mumu/ ~が痛むこと mumu-
 もも〔百〕 mumu- [suçkwaa
 ももいろ〔桃色〕 buki, buki?iru, →さくら
 ももひき〔股引〕 mumunuci [いろ
 もやし maamina, ?ujasi, →kazihuci-
 maamina/ ~のいためたもの maamina-
 canpuruu
 もやす〔燃やす〕 meesjun, →やく
 もよう〔模様〕 mujoo, sima, →がら / ~の
 もよし〔催し〕 mujuusi [形→ziizira
 もよしもの〔催し物〕 mujuusimun
 もよおす〔催す〕 mujuusjun
 もより〔最寄り〕 mujui
 もらいご〔貰い子〕 'iiningwa, 'iiringwa, →やしないご, ようし
 もらいごち〔貰い乳〕 kuuizii, ?uşiizii
 もらいもの〔貰い物〕 'iimun, →いただき
 もらう〔貰う〕 'iijun, →いただく [もの
 もり〔話〕 tuza
 もり〔守り〕 mui, →tacimui, もりやく, こもり / ~をして育てる muitatijun/ ~をして寝かせる muininsijun/ ~をする →mui, もる
 もりあがる〔盛り上がる〕 haçcatijun, mujagajun, ?ukurijun/ 盛りあがったさま →?usumuimui/ 盛り上がったところ mui
 もりか〔植物名〕 mukwa/ ~の花 muikubana
 もりがし〔盛菓子〕 mui?ukwaasi
 もりたてる〔盛り立てる〕 muitatijun
 もりやく〔守役〕 'jakaa, 'jakaagwaa,

mui, muijaku, ?uhujakaa, →こもり
 もる〔漏る〕 mujUN, →もれる
 もる〔盛る〕 mujUN
 もる〔守る〕 mujUN, →もり
 もれる〔漏れる〕 murijUN, →もる
 もろい〔脆い〕 sakusan
 もろこし〔蜀黍〕 toonucin
 もろとも〔諸共〕 murutumumu, →いっしょ
 もろはく〔諸白〕 muruhaku, muruhwaku
 もろはだぬぎ〔双肌脱ぎ〕 kusihazii

もろみ murUN/ ~のかめ murUNgaami
 もん〔門〕 mun, zoo, (敬語) ?uzoo
 もん〔紋〕 mun, (敬語) gumUN
 もんちゃく〔悶着〕 muncaku, →あらしい,
 もんつき〔紋付〕 mun?iki いざこざ
 もんぱ〔紋羽〕 munpa
 もんばん〔門番〕 munban, zoobaaN, (敬
 語) ?uzoobaaN
 もんめ〔勿〕 munmi
 もんもう〔文盲〕 →?akimi?kwa, むがく

や

や〔八〕 'jaa, 'ja-, →はち, やっつ
 や〔矢〕 ?ija
 や〔夜〕〔接尾〕 'juru
 や〔屋〕〔接尾〕 →macija
 やあ ?ija, 'jaa/ ~やあ 'jaajaa
 やあい ?ahaai
 やい 'jai
 やいば〔焼刃〕 'jaiba, →は
 やえなり〔植物名〕 ?oomaamii
 やえやま〔八重山〕 / ~の者 'eemaa
 やえやまこうもり〔八重山蝙蝠〕 'eemakaa-
 bujaa
 やおや〔八百屋〕 'ja?ee?ujaa
 やがすり〔矢舁〕 ?ijabiima, →かすり
 やがて 'jagati, naagati, ?u?ti, →じき
 やかましい 'jagamasjan, 'jungasima-
 sjan, kasimasjan, mimigasimasjan,
 mincasan, →うるさい, さわがしい
 やから〔輩〕 'jakara, 'jakari-
 やがる(…しやがる) kwajUN, →やる
 やかん〔薬罐〕 'jaqkwan
 やぎ〔山羊〕 hwiizaa, →beebee/ ~を呼ぶ
 声 menumenuu
 やきいん〔焼き印〕 'jaci?in
 やきうち〔焼き打ち〕 hwiizimi

やきどうふ〔焼き豆腐〕 'jacidoohu, kan-
 toohu
 やきばり〔焼き鍼〕 'jacibaai
 やきもき ?asigacinoori, →いらいら/ ~
 する →?asigaci
 やきもち →おかやき, しっと
 やきもの〔焼物〕 'jacimUN, すやき, せと
 やきん〔夜勤〕 'juzimi しもの, とうき
 やく〔役〕 'jaku, (敬語) ?ujaku / ~に立つ
 'jakutacuN/ ~に立たないもの daimUN,
 maahan?aa
 やく〔厄〕 'jaku, →やくどし, わざわい/
 ~が晴れること harijaku
 やく〔焼く〕 ?abujUN, 'jacUN, →もやす
 やぐ〔夜具〕 kanzimUN, zasidoogu
 やくがい〔屋久貝〕 'jakugee/ ~の蓋 cicin-
 taa, ciicintaa, ciicintoo
 やくざ hurimUN
 やくざいし〔薬剤師〕 'jaqcuku
 やくしゃ〔役者〕 sibaisii, 'u?uisjaa
 やくしょ〔役所〕 →zaa/ ~の名 →ban?u-
 kuru, banzu, ?igucizeebAN, gusjuin,
 hwirazu, kuramutu, sicagui, sjunoo-
 za, sjuzasjukura / ~仕事 ?weeiaiban-
 si

やく

やくじょう〔約定〕 'jakuzoo, →とりきめ
 やくしょく〔役職〕 →zaa/ ~名 →いかい
 やくそく〔約束〕 'jakusuku, →けいやく,
 とりきめ, やくじょう/ ~する kazikaki-
 やくだつ〔役立つ〕 →やく ljun
 やくとく〔役得〕 ?ukazi
 やくどし〔厄年〕 'jakuđusi
 やくにん〔役人〕 kwannin, ?weedainin,
 ?weekancu, →かんにん, たいかん
 やくば〔役場〕 bandukuru, banzu
 やくめい〔役名〕 →いかい
 やぐら〔櫓〕 /人だまを見るための~ 'jaq-
 やけ〔自棄〕 ?aqpangaree lkwa
 やけい〔夜警〕 'juumaai
 やけど〔火傷〕 /~させる sizirakasjun/
 ~する 'juugeesjun, sizirijun/ ~など
 で皮膚がむけている者 kaasināaa
 やけのこり〔焼け残り〕 /~の木切れ huru-
 hwiiziri
 やける〔焼ける〕 'jakijun, →もえる
 やごう〔家号〕 'jagoo, 'jaanāaa
 やさい〔野菜〕 'jasee
 やさいうり〔野菜売り〕 'jašee?ujaa
 やさしい cimuzurasan, duujaqsan, ?u-
 hujaqsan, ?wendasan, →?uzannasi,
 ?uzimu, (敬語) ?uzimuzurasan, たや
 すい/ ~人 ?wendaa, cimuzurancu, (敬
 語) ?uzimuzurancu/ ~もの duujašii,
 duujašimun/ やさしく 'jahwaqteen,
 'jahwaqteengwaa
 やし〔椰子〕 'jaasi/ ~の実 'jaasigwaa
 やしき〔屋敷〕 'jasici, →おやしき/ ~の祈
 願 'jasicinu?ugwan, →?ugwan/ ~の
 地代 'jasicigane 「だておや
 やしないおや〔養い親〕 'jasinee?uja, →そ
 やしないご〔養い子〕 čikaneengwa, 'ja-
 sineengwa, →よろし
 やしなう〔養う〕 čikanajun, 'jasinajun
 やしゃご〔玄孫〕 hwicimaga, hwicinma-
 ga
 やしろ〔社〕 kami?asjagi, →?ugan, 'uga-

Nzu, →おみや, みや
 やしん〔野心〕 'jasiN
 やすい〔安い〕 'jaqsan/ 安く買うこと 'ja-
 šigooi/ 安くする 'jašimijun/ 安くなる
 やすうり〔安売り〕 'jašiu?ui l'jašimun
 やすまる〔休まる〕 'jašimajun
 やすみ〔休み〕 'jašimi, →きゅうそく
 やすみどころ〔休み所〕 'jukuidukuru
 やすむ〔休む〕 'jukujun, 'jašinun. (敬語)
 ?weesimišeen, →きゅうそく/ 休ませる
 'jukwaasjun/ ~番 'jukuimaaruu
 やすめる〔休める〕 'jašimijun
 やすもの〔安物〕 deejasii, 'jašimun
 やすやすと〔易易と〕 duujašiqteen, 'jaši-
 jašitu, 'jašiqteen
 やすらかに〔安らかに〕 'jaaJaatu, →おだ
 やすり 'jašii l'やか
 やすんずる〔安んずる〕 'jasunzijuN, →あ
 んしん/ ~こと 'jasunzi
 やせい〔野生〕 nanKurumii, →じせい/ ~
 やせち〔痩せ地〕 hagi l'の 'jama-
 やせる gazirijun, 'jašijun, 'joogarijun,
 'jubicun, sazirijun, sugijun/ やせた者
 'eesazii, 'eesugii, gazirimun, 'jasiga-
 ruu/ やせたさま 'joogarihwiigari
 やたて〔矢立て〕 'jatati
 やたらに caqsanKaqsan, musjookusjoo,
 →miqta, むしように
 やちん〔家賃〕 'jaciN
 やつ〔奴〕 hja, 'jakara, →'jakari-
 やっかい〔厄介〕 'jaqkee, →めんどろ/ ~
 である ?anmasjan/ ~な預かりもの tui-
 ?aziqkee/ ~なこと ?anmasimun, ka-
 teemun, zaahweegutu/ ~になる →
 'wandajun
 やっかいもの〔厄介者〕 'jaqkeemun
 やつがしら〔芋の名〕 činNuku
 やっきょく〔薬局〕 'jačuku
 やつす〔養す〕 'jačirijun 「や
 やっつ〔入つ〕 'jaači, (時刻) 'jači, →haci

やつつける banmikasjun, hwirakasjun, siçikijun
 やっと 'jaqtukaqtu, 'joojaku, →とりと
 やつれる〔寝れる〕 'jaçirijun しり
 やど〔宿〕 'jaadu, 'jadu, →やどや
 やとう〔雇う〕 'jatujun
 やどかり〔節足動物の名〕 ?aman, →?an-
 やどちん〔宿賃〕 'jaducin 〔maku
 やどなし〔宿無し〕 'jaamadii
 やどや〔宿屋〕 'jaadu, 'jadu, 'jaduja
 やどる〔宿る〕 'jadujun, →とまる
 やなぎ〔柳〕 'janazi
 やなぎごうり〔柳行李〕 'janaziguui
 やに〔脂〕 'jani
 やぬし〔家主〕 'jaanunuusi
 やね〔屋根〕 'jaanu?wii, →hwaahuu/ ~
 をふく→?irica, 'jaabuci
 やはん〔夜半〕 'jahwan, 'juhwan, →よな
 か/ ~参り 'jahwanmee
 やばん〔野蛮〕 'jaban
 やぶ〔藪〕 'jamagwaa, →しげみ
 やぶか〔藪蚊〕 'jamagazan
 やぶにつけい〔植物名〕 sibaki
 やぶりすてる〔破り捨てる〕 'jaiçitijun
 やぶりちらす〔破り散らす〕 'jaihoojun
 やぶる〔破る〕 'jajun, →さく, ひきやぶる
 やぶれ〔破れ〕 'jari/ ~や裂け 'jarisaki
 やぶれめ〔破れ目〕 'jarimii, →さけめ
 やぶれる〔破れる〕 'jarijun, →さける/ 破
 れたかさ 'jarigasa/ 破れた着物 'jarizin
 / 破れた障子 'jari?akai/ 破れたり切れ
 たりしていること 'jariciri
 やぼ〔野暮〕 busizoo
 やま〔山〕 'jama, mui, san, →takazan,
 taki, takimui/ ~の中 'jamanunaaka
 やまい〔病〕 →びょうき
 やまいも〔山芋〕 'jama?nmu
 やまおく〔山奥〕 'jama?uku, →みやま
 やまかがし〔蛇の名〕 hwiibaa

やまがたな〔山刀〕 'jamanazi
 やまがわ〔山川〕(地名) 'jamagoo
 やまころき〔植物名〕 'jamaguruci
 やましごと〔山仕事〕 / ~の競争 'jamasjuu-
 bu/ ~をする者 'jama?aqcaa
 やまのは〔山の端〕 'jamanuhwa
 やまびこ〔山彦〕 'jamabiku, 'jamahibiku
 やまみち〔山道〕 'jamamici
 やまもも〔山桃〕 'jamamumu, mumu/ ~
 売りの娘 mumu?ui?angwaa
 やみ〔闇〕 'jami, →あかつきやみ, くらや
 み, よいやみ
 やむ〔病む〕 'janun, →びょうき/ 病み衰
 える 'jabirijun
 やむ〔止む〕 'janun, →とまる
 やめる〔止める〕 'jamijun, ?ucun, →と
 める, よす/ やめておく 'joosjoocun
 やもめ〔寡婦〕 'jagusami
 やもり〔動物名〕 'jaadu
 やり〔槍〕 'jai
 やりかけ siikaki, →しはじめ
 やりかける sikakijun
 やりかた siijoo, siinasi, sijoosizama,
 sikata, →しかた, ほうほう
 やりかぬない / ~こと (~者) siiciroo
 やりくり〔遣り繰り〕 kuimaasii/ ~する
 kuimaasjun, →さんだんする/ ~するこ
 と (~するさま) ?icaasikwaasii, 'jara-
 caikwaacai, 'jarasiikwaasii
 やりすごす〔遣り過ぐす〕 haikwaasjun
 やりそこない siijanzi, siijanzigutu, →
 しっぱい, ふせいこう
 やりて siti/ ~ばば ?anmaa, zuri?an-
 やりなおし〔やり直し〕 siinoosi 〔maa
 やりなおす〔やり直す〕 siikeesjun, siinoos-
 sjun
 やりはじめ siikaki, →しはじめ
 やりはじめる〔やり始める〕 sikakajun
 やる〔遣る〕 'jarasjun, kwijun, tura-
 sjun, →さしあげる

やる

やる(する) →する/ やりやすい siijaQsan/
やりそりなこと (やりそりなもの) siici-
roo/ やりつける siinarijuN

やるせない kukutirusaN

やわらかい[柔かい] 'jahwarasan/ ~御飯
ʔaqibii/ 柔かくなる 'jahwaracUN/ 柔か
くする 'jahwarakijUN/ 柔かに 'jahwa-
jahwatu, 'jahwaqteen, 'jahwaqteen-
gwaa, 'joon

やわらぐ[柔ぐ] 'jahwaracUN

やわらげる[柔げる] 'jahwarakijUN

やんばる[山原](地名) 'janbaru/ ~地方
への旅 'janbarutabi, 'janbatabi/ ~方
言 'janbarukutuba/ ~者 'janbaraa

やんばるたけ[山原竹] 'janbaraa, 'jan-
baraadaki, 'janbarudaki

やんばるぶね[山原船] 'janbaraa, 'jan-
baraabuni 「maa

やんま(とんぼの名) naakudaamaa, taa-
やんわり →やわらかい (やわらかに)

ゆ

ゆ[湯] 'juu, (小児語) buu, buubuu, →

ゆあみ[湯浴み] ʔuʂimasi じさゆ

ゆい 'ii, →ろりょくこうかん

ゆいごん[遺言] ʔiguN, ʔnzani

ゆいのう[結納] sakimui

ゆう[結う] 'juujUN, →しぼる, むすぶ

ゆうかく[遊郭] zurinujaa, →hananusi-
ma/ ~の名 çiiizi, nakasima, 'watanzi

ゆうかげ[夕蔭] 'juukaagi, →ゆうぐれ

ゆうがた[夕方] →ゆうぐれ

ゆうぎ[遊戯] / ~の名 ʔakaʂee, caNku-
ruu, cenkuruu, çiburusaee, çicihana-
ʂee, giitaa, giitaamundoo, giqcoo,
hwiizintoo, ʔiijunumii, ʔiqcikutaqci-
ku, ʔiqpaa, ʔiqsiŋguu, ʔiqtagajoo, ʔi-
sinaguu, kaçimiŋsooree, kurubaʂee,
kuugatuuee, kwaqkwĩndooree, nan-
ku, micimaa, miguruNtooru, mi-
qkwaatooru, 'Nmoogaqkui, ʔoosii-
too, paNmikasii, siijaabuu, tooʂee,
ʔusutikwaqkwaʂee

ゆうぐれ[夕暮れ] ʔakookuroo, ʔiricee,
'jusaŋdi, 'juuʔiricee, 'juuʔirigata, →
ゆうかげ, ゆうまぐれ/ ~に 'jugakiti/
~に立つ市 'jusaŋdimac

ゆうじょ[遊女] hana, zuri, zurihana,

→じょろろ

ゆうずう[融通] kuimaasii/ ~する kui-
maasjuN

ゆうだち[夕立] naçiguri, nagasi

ゆうちょう[悠長] →きなが, のんびり/ ~
である ciiniisan

ゆうづきよ[夕月夜] 'jukuneeziçuu

ゆうとうにん[遊蕩人] →あそびにん

ゆうなぎ[夕凧] 'juuduri

ゆうはん[夕飯] 'juuban, 'juuʔubUN/ ~
代わり 'juubanbicee/ ~時 'juubanuu/ ~
の支度 'juubansugai

ゆうひ[夕日] ʔirihwi, sagaitiida, →ʔa-
katiida

ゆうふく[裕福] 'juhuku, 'juuhuku/ ~な

ゆうべ[昨夜] 'juubi じさま huuhuu

ゆうべん[雄弁] / ~な者 binsja

ゆうまぐれ[夕間暮れ] 'jumangwi, →ゆう

ゆうめい[有名] →なだかい じぐれ

ゆうやけ[夕焼け] 'jusaŋdiʔakagai, 'ju-
saŋdiʔakee, 'jusaŋdiʔakeei, 'juuʔa-
keei

ゆうゆうと[悠々と] 'juçijuçiiu, 'juçii-
qteen, 'juujuutu, →ゆっくり

ゆうれい[幽霊] 'juurii/ ~の話 'juurii-
banasi

ゆうれつ〔優劣〕 ?utuci?agaci/ ~の
 ないこと ?uqçikaqçi, →こうおつなし
 ゆうわくする〔誘惑する〕 hwicijanZUN,
 tanukasjUN, 'wakujUN/ 誘惑される
 hwikasarijUN/ ~手段 'wakuidii
 ゆえ〔故〕 'jui, →わけ
 ゆおう〔硫黄〕 'juuwaa/ ~の燃える火
 'juuwaabii
 ゆおうじま〔硫黄島〕 'juoogasima
 ゆか〔床〕 'juka
 ゆかい〔愉快〕 →おもしろい
 ゆかした〔床下〕 'jukasja
 ゆがみ〔歪み〕 'jugami, 'jugaN
 ゆがむ〔歪む〕 'juganUN/ ゆがんだ書体 'joo-
 oogaahwiigaagaci/ ゆがんだもの 'joo-
 gaa, 'joogee 「よくする
 ゆがめる〔歪める〕 'jugamijUN, →わいき
 ゆき〔雪〕 →'juci
 ゆきのした〔雪の下〕 (植物名) minzaigusa
 ゆくえ〔行方〕 'jukui/ ~不明 ?asjura
 ゆげ〔湯気〕 ?açiki, huki
 ゆこぼし〔湯こぼし〕 caajutijaa
 ゆすぐ 'juşizUN, 'uuzUN
 ゆすぶる 'uujUN, →?amazUN/ ゆすぶっ
 てこわす 'uuiwaqkwajUN ゆすぶって
 入れる 'uuiNCUN
 ゆずり〔譲り〕 'južiri
 ゆずる〔譲る〕 'južijUN/ 譲り合うさま
 cuijuziijuzii, ?uuşeekarakee/ 譲り受
 けたもの 'južiri
 ゆたか〔豊か〕 'juciku, 'jutaka, →ゆらふ
 く/ ~なこと zuntaku, →みちたりの
 ゆだん〔油断〕 'judan
 ゆちゃくする〔癒着する〕 micaajUN, mii-
 jaaJUN/ ~させるための膏薬 miijaigoo-
 jaku
 ゆっくり 'jooNnaa, 'juujuutu, ?uqtai-
 mootai, →のろい, のろのろ, ゆったり,
 ゆづけ〔湯漬け〕 'juuzikii [ゆるゆる
 ゆったり niguuniguu/ ~と →ゆらゆらと

/ ~とした性質 ?uhu?Nnari
 ゆでじる〔茹で汁〕 'judiziru
 ゆでだこ〔茹で蛸〕 'judidaku
 ゆでたまご〔茹で玉子〕 'juditamagu/ 皮
 をむいた~ 'Ncitamagu
 ゆでる〔茹でる〕 'judijUN
 ゆとり →よゆう/ ~がある 'jucisan
 ゆば(食品名) ?Nba
 ゆび〔指〕 ?iibi/ ~折り数えて çicijun-
 NhwiijUN/ ~折り数えられる人 ?ikuta-
 iniNzu/ ~折り数えること ?iibiuui/ ~
 のまた ?iibinumata
 ゆびきり〔指切り〕 kaakii
 ゆびさき〔指先〕 ?iibizaci/ ~ではじくこと
 ?iibibançi
 ゆびさす〔指差す〕 →?iibinuci
 ゆびろ〔指輪〕 ?iibiganii
 ゆみ〔弓〕 'jumi/ ~の矢 'juminu?ija
 ゆみず〔湯水〕 'juumizi
 ゆみはりちようちん〔弓張り提燈〕 'jumi-
 hai
 ゆみや〔弓矢〕 'jumija
 ゆめ〔夢〕 ?imi
 ゆらいき〔由来記〕 'jureeci
 ゆらぐ〔揺らぐ〕 ?amazicUN, ?amazUN,
 ゆらめく 'jutamicUN [→ゆれる
 ゆらゆら ?amazicikaa, 'jutajuta, kwe-
 nkwen, mitamita
 ゆり〔百合〕 'jui
 ゆりうごかす〔揺り動かす〕 →ゆすぶる
 ゆりかえし〔揺り返し〕 keesi
 ゆるい 'jurusAN, →ゆるゆる
 ゆるす〔許す〕 'jurusjUN, →naşireejUN,
 kanbin, →かんべん, きょか
 ゆるむ〔緩む〕 ?uçoorijUN
 ゆるめる〔緩める〕 'jurumijUN
 ゆるゆる gooruu, 'jooraakwaaraa, 'jo-
 oruu, 'jooruukwaaruu, →ゆっくり
 ゆるりと 'juruitu, 'jurujuru, 'juruqtu,
 ゆれ〔揺れ〕 →kugee, kugeei [→ゆっくり

ゆれ

ゆれる〔揺れる〕 → kugeejun, ゆらく, ゆらめく / ゆれ動く ?wiicun / 液体がゆれ

動くさま 'juqtaikwaqtai

よ

よ〔夜〕 'juru, 'juu, →よい, よる / ～が白むこと sira?akagai, sira?aki

よ〔世〕 'juu, →じせい, よのなか / ～の移り変わり 'jugawai, 'juugawai

よ〔代〕 'juu

よ〔助詞〕 ii, 'joo, muN, -sa, →-kee, -sami

よ〔四〕 '-ju, '-juu

よあけ〔夜明け〕 ?akaçici, 'ju?aki, →あけがた / ～に起きること ?akaçici?uki / ～を待ちかねること 'juu?akasikantii

よあそび〔夜遊び〕 →moo?ašibii

よい〔宵〕 'jui, 'jukunee / ～の口から眠たがること 'jukuneeinibui / ～の口から眠たがる者 'jukuneeinibujaa / ～の明星 'juubanmanzaa, manzaabusu

よい〔酔い〕 'wii

よい〔良い〕 →いい, 'jukaru, よろしい / よく 'juu / よく仕上げる siinasjun / よくできる dikijun, ?nmarijun, 'jukajun / よくできた稲 'jukai?nmi / よくできたさつまいも 'jukai?nmu / よくできた砂糖 dikizaataa / よくやった sitai, si-

よいいち〔宵市〕 'jusan dimaci [tari

よいごこち〔酔い心地〕 'wiigukuci

よいざまし〔酔い醒まし〕 'wiisamasi

よいしょ 'eekicamee 「ふかし

よっぱり〔宵っ張り〕 miiguhwaa, →よ

よいなき〔酔い泣き〕 'wiinaci

よいやみ〔宵闇〕 'jukunee gurasiN

よう〔用〕 ?umumuci, (敬語) gujuu, →よりじ / ～のなくなった物 juuzucirimun

よう〔癪〕 'joo 「ある

よう〔様〕 gutu, →gukuru, guutu / ～で

gutoon / ～に gutu, -nee, →guutu

よう〔酔う〕 'wiijun / 酔いしれる 'wiihurijun / 酔いつぶれて寝ること 'wiikurubi, 'wiininzi / 酔って暴れまわること 'wingwii

ようい〔用意〕 'juui, sikooi, sitaku, sugai, →こころがけ, じゅんび / ～する sikoojun, sugajun, →'juui, sinjukujun, sinukujun / ～するさま (～すること) sikooimukooi, →sinukuimataku

ようい〔容易〕 'jooi, →たやすい / ～である duujaqsan / ～なこと duujašimun / ～に duujašiqteen, →'jooi

ようか〔8日〕 hacinici

ようがさ〔洋傘〕 kaabujaagasa

ようかん〔羊羹〕 maamigan

ようき〔容器〕 ?irimun

ようぎん〔洋銀〕 'janzin

ようくん〔幼君〕 →わかぎみ 「jaa

ようけいぎょうしゃ〔養鶏業者〕 tuiçikana-

ようさい〔雲葉〕 (植物名) ?uncee

ようし〔養子〕 çikaneengwa, 'joosi, →いりむこ, やしないご

ようじ〔用事〕 'juuzu, 'juuzukaci, →より

ようじ〔楊子〕 'joozi [むき

ようじ〔幼時〕 kuusaini, →よりしょう

ようしき〔様式〕 →hwinagata

ようじゅ〔榕樹〕 gazimaru

ようしょう〔幼少〕 'juusjuu, →よりじ

ようじん〔用心〕 'juusin, kukuri, mu-nu?ati / ～する kukurijun, →tankijun / 心の中では～すること →sicadamasu

ようす[様子] 'jooši, →huuzi, mujoo, si-kata, sitaraku, sizama, zama, ありさま, すがた, なり, ふうさい/ ~を見る miinajun

ようすい[用水] çikeemizi

ようそう[洋装] ?urandasugai 「じょう

ようだい[容態] 'jooši, 'jootee, →びょう

ようとんぎょうしゃ[養豚業者] ?waaka-rajaa

ようはい[遙拜] ?utankaatuusi, ?utuu-si/ ~式 →coonu?unjuhwee

ようばい[楊梅] 'jamamumu, mumu/ 初めての~ haçimumu/ ~を売る娘 mu-mu?ui?angwaa

ようぼう[容貌] çirakaagi, kaagi, (敬語) 'Ncaagi, →かおだち, きりょう

ようむき[用向き] ?umumuci, →より

ようめい[幼名] →わらべな

ようやく[漸く] →とうとう, やっと

よかん[余寒] 'wakaribiisa

よき[斧] 'juuci, →おの, ておの/ ~の小型のもの saahungwaa, saahunjuuci

よく[欲] 'juku, dijuku, rijuku

よくあさ[翌朝] naaca?asa

よくげつ[翌月] naazici

よくじつ[翌日] naaca

よくねん[翌年] 'jukudusi

よくぼり[欲張り] 'jukuu, 'juukuu, →hatijukuu, rijuku, どんよく

よくばる[欲張る] →'juku

よくよく 'jukujuku, 'jukuujukuu 'juukuujuukuu, mişiku, →ねんいり

よくよくじつ[翌翌日] naasati

よくよくねん[翌翌年] naançu, naajaan

よけい[余計] →よぶん/ ~なこと ?waa-bagutu/ ~な出費 ?waaabazikee/ ~な心配 ?waaabasiwa, ?waaaba?umii/ ~なもの ?waaaba, ?waaabamun

よこ[横] 'juku/ ~にそれさせる 'juku-sjun/ ~になる →kakijun/ ~になって

話をすること kakibanasi/ ~に引いた よこいと[横糸] nuci [水 'jukumizi

よこがお[横顔] 'jukugau

よこぎる[横切る] kuncijun

よこじま[横縞] nuci?aja

よごす[汚す] 'jugusjun

よこたえる[横たえる] 'jukuteejun

よこちょう[横丁] sjuuzi

よこっばら[横っ腹] →わきばら

よこどり[横取り] 'jukudui/ ~する 'ju-

よこね[横根] binçuku [kusjun

よこのり[横乗り] subanui

よこぼしり[横走り] 'jukubai

よこぶえ[横笛] hañsjoo

よこみち[横道] 'jukumici, →わきみち

よこむき[横向き] subankee

よこめ[横目] hwicimi, sjoomi, subami

よごれ ?aka, 'juguri/ ~がたまる ?aka-hanun/ ~がひどいこと →minkwaaau

よごれる[汚れる] ?akahanun, 'jugurij-un, 'wincajun, →けがれる/ ところどころよごれたさま ?ajagacikoogaci

よざい[余財] 'juzee

よし →too

よしあし[善し悪し] 'jusifasi, ziihuzi

よしたけ[植物名] deeku

よじのぼる[攀じ登る] ?agujun

よじる[振る] →ねじる

よじれる[振れる] mudijun

よす[止す] →やめる/ よしておく 'joosj-oocun, 'joosjoojun

よすみ[四隅] 'juşimi

よせあつめる[寄せ集める] nucaasjun

よせる[寄せる] 'jusijun [tasima

よそ[余所] 'jusu, →たきょう/ ~の部落 よそう[食べ物] Yirijun, (敬語) ?ukagijun

よそおい[装い] sugai

よそおう[装う] sugajun, →けしょうする

よそみ[余所見] 'jukumi

よそめ〔余所目〕 'jusumi
よそもの〔余所者〕 tabinuqcuu
よだつ →み
よたよた çiruçiru, →よちよち
よだれ〔涎〕 'judai, kucisiru/ ~をたらしてしゃべること 'judaikuuzoo/ ~を流すさま ziizii
よちよち burabura, çiruçiru, →よろよろ/ ~歩き buraburaa?aqci
よっか〔4日〕 'juqka
よつかど〔四つ角〕 'juçi?azimaa, kazimajaa, →?azimaa
よつだけ〔四つ竹〕 'juçidaki
よったり〔4人〕 'juqtai 「→し
よっつ〔四つ〕 'juuçi, 'juu, (時刻) 'juçi,
よっぱらい〔酔っぱらい〕 'wiqcaa, 'wiqcu, 'wiqcuu, →'wiimunhurimun, さげのみ
よづめ〔夜語〕 'juçimi
よつゆ〔夜露〕 'juçiju
よつわり〔四つ割り〕 'juçiwai, 'juuçiwai
よつんばい〔四つんばい〕 'iingwaabooui
よとう〔与党〕 →siruu
よどおし〔夜通し〕 'junagata, 'junagata sanagata, 'juşiga, 'juu?akiduusi, 'juu?akiduusii, 'juzuu
よとぎ〔夜伽〕 'juutuuzi
よとせ〔4年〕 'jutu
よとむ〔淀む〕 'judunun, →ちんでんする/ 淀ます 'judumijun/ ~こと 'juudu
よなか〔夜中〕 'jahwan, 'juhwan 'junaka, →よる/ ~中 'juzuu/ ~に帰ること 'junakamuçui
よなのか〔四七日〕 'junanka
よなべ〔夜業〕 'juunaabi/ ~する場所 'ju-
よにん〔4人〕 'juqtai [unaabii
よねん〔4年〕 'jutu
よのなか〔世の中〕 'jununaka, sikiN, →せ
よは〔余波〕 naguri [けん, よ
よびあつめる〔呼び集める〕 'jubisuraa-
sjun

よびだす〔呼び出す〕 'jubi?nzasjun
よびもどす〔呼び戻す〕 'jubimudusjun
よびよせる〔呼び寄せる〕 'jubijusijun
よぶ〔呼ぶ〕 'jubun, →?eezi
よふかし〔夜更かし〕 'juuki, →よいっぱり
よふけ〔夜更け〕 tucisiri, →まよなか
よぶん〔余分〕 ?amai, 'juçii, ?waaba, ?waahwa, →よけい
よぼう〔予防〕 meekanijoozoo
よほど〔余程〕 'juhuçu, →かなり
よまわり〔夜回り〕 'juumaa
よみかき〔読み書き〕 / ~そろばん →hwi-
qsan/ ~のできる人 şimiNcu
よみち〔夜道〕 'jumici, 'juumici
よむ〔読む・詠む〕 'junun, →えいずる
よめ〔嫁〕 'jumi, (敬語) ?weejumi/ ~い
びりする者 'jumi?ibiraa/ ~入り先 ku-
sjatikata/ ~入り前 tacimee/ ~に行く
tacun/ ~に行くこと diqsin/ ~にやっ
たり婿をもらったりすること 'jumidui-
mukudui, mukuduijumiçu
よも〔四方〕 'jumu, →しほう
よもぎ〔蓬〕 huuçibaa/ ~を入れた餅 hu-
uçimuci
よもすがら →よどおし
よゆう〔余裕〕 'juçiihwa, 'juçimi/ ~があ
る 'juçisan/ ~雑々と 'juçijuçiiitu, 'ju-
çiQteen/ ~を出す 'juçiijun
より〔助詞〕 -jaka, -juka
よりあいしごと〔寄り合い仕事〕 'jureesi-
gutu
よりあつまる〔寄り集まる〕 →あつまる
よりいと〔繕り糸〕 →siranaa
よりかかる〔寄り掛かる〕 ?uqcakajun
よる〔夜〕 'juru, 'juu, →よ, よなか/ ~の
寒さ 'juuhwizui/ ~のしじま 'jusizimi/
~昼 'juruhwiru
よる〔寄る〕 'jujun, tunmigujun/ 寄り道
よる〔繕る〕 hwinijun [→わき
よるべ〔寄辺〕 tajui, →たのみ

よれよれ →しわくちや/ ~の着物 bitata-
 よろい〔鎧〕 'jurui [iziN
 よろける siikujun/ ~こと siikuinoori
 よろこばしい〔喜ばしい〕 hukurasjan, →
 られしい 「うれしき
 よろこび〔喜び〕 cimuhukui, 'jurukubi,
 よろこぶ〔喜ぶ〕 hukujun, 'jurukubun,
 →hukurasjan, 'uqsjan/ 喜び騒ぐ 'i-
 sjakajun, 'isjaakaajun, →きんきじゃ
 くやく/ 人知れず~こと →hucukuru'yo-
 よろしい 'jutasjan, →いい [ozimee
 よろめく →よろける
 よろよろ burabura, siikuimeekui, →よ
 よろん〔世論〕 →suukangee [たよた
 よろんじま〔与論島〕 'juNnu/ ~と沖永良
 部島 'juNnu'irabu
 よわい〔弱い〕 'joosaN, (体が) 'jahwara-
 saN, →びょうじゃく, →よわよわしい/
 ~所 'joomi/ 弱く 'joon, 'joongwaa/
 弱くなる 'joojun/ 弱そうである miija-

hwaragisaN/ 弱そうに見えて強い者 si-
 pitaiganzuumun
 よわね〔弱音〕 / ~をはく 'wabijun
 よわまる〔弱まる〕 'joojun, →たよりない,
 よわる 「jaa
 よわむし〔弱虫〕 biiraa, 'joobaa, sipita-
 よわよわしい〔弱弱しい〕 munujoocigi-
 san, munujoogisaN, →たよりない
 よわりめ〔弱り目〕 'joomi
 よわる〔弱る〕 'jabirijun, 'jahwaracun,
 'joojun, →すいじゃくする, よわまる/
 弱ったもの 'jooimun, 'joorimun
 よん〔4〕 →し
 よんかい〔4回〕 'jukeen
 よんとうぶん〔四等分〕 →しぶんのいち, よ
 よんなん〔四男〕 'junan [つわり
 よんひゃく〔400〕 sihjaaku/ 400文 'juku-
 mui, sipjaaku/ 450文 sipjaakugun-
 zuu
 よんりん〔4厘〕 nihjaaku, takumui

ら

ら〔等〕 (接尾) -caa, -taa
 ラード buta'anda, butaju
 らいげつ〔来月〕 ta'ici
 ライチー〔植物名〕 riici
 らいねん〔来年〕 'jaan
 らいはい〔礼拜〕 →'ju'ci'funjuhwee, 'uni-
 hwee, 'unjuhwee, 'unuhwee
 ラオ〔羅字〕 cisiri'oo, roo
 らく〔楽〕 raku, →あんらく, きらく, ようい,
 らくらくと/ ~である duujaqsan, siija-
 qsan/ ~に暮らせること 'uhumaaru
 らくいん〔落胤〕 'utusidani, →おとしだね
 らくいんきよ〔楽隠居〕 raku'ini'cu
 らくがん〔落雁〕 koogwaasi

らくじつ〔落日〕 →ゆりひ 「→かんせい
 らくせいらい〔落成祝い〕 s'jubi'uiwee,
 らくたん〔落胆〕 cidai, 'cirudai, →がっかり
 らくちやく〔落着〕 dakucaku, rakucaku,
 →おちつく
 らくらくと〔楽楽と〕 rakurakutu
 らしい -gisaN, -raasjan
 らしんばん〔羅針盤〕 karahaai
 らち〔埒〕 daci/ ~があかない →daci
 らっかせい〔落花生〕 ziimaami
 らっきょう da'qcoo
 られる (受身) -rijun, (可能) -juusjun,
 -rijun, (尊敬) -mi'seen, -N'seen, -rijun
 らん〔蘭〕 / ~の一種 naguran
 らんかん〔欄干〕 da'nkan, rankan 「かる
 らんざつ〔乱雑〕 kacihoorii, 'jama, →ちら

らん

らんせい〔乱世〕 midarijuu, →?ikusajuu
ランプ danpu, ranpu
らんぼう〔乱暴〕 ?araci, →booiuisiidui,
boogai, zaahwee/ ~である ?arasan/
~狼籍 zaahweetihwee/ ~を働く ti-
beejuN

らんぼうい〔蘭方医〕 'jamatu?isja
らんぼうもの〔乱暴者〕 ?amaimuN, ?ama-
jaa, ?amasitamun, ?anmaku, maku,
'nzarimuN, ?itimaku, ?itimun, zaa-
hweemun

り

り〔利〕 dii, rii, →えき, とく, りえき, り
り〔里〕 -ri 上とく
りえき〔利益〕 'ici, sjuutuku, →えき, り,
りえんする〔離縁する〕 →nucun 上りとく
りかいする〔理解する〕 numikunun, 'wa-
kajuN, →りょうかい
りく〔陸〕 ?agi
りげん〔俚諺〕 ?ukugu, →?ikutuba
りこう〔利口〕 / ~さ takuma, →こりこ
り / ~である →?uziraasjan, かしこい
りこうもの〔利口者〕 karabasi, sjoo?iraa,
sjoo?irimun, takumaa, takumaciraa,
takumacirimun, →かしこい
りし〔利子〕 →りそく
りせい〔理性〕 →kani 「takarihwi
りそく〔利息〕 dii, rii, →りりつ/ 高い~
りちぎもの〔律義者〕 →meekatakasiraa
りっか〔立夏〕 riqkaa
りっしゅう〔立秋〕 riqsjuu
りっしゅん〔立春〕 riqsjuN
りっしん〔立身〕 diqsin
りっとう〔立冬〕 riqtuu
りっば〔立派〕 diqpa, riqpa, zoobun, →み
ごと / ~な→cura- / ~なことは使い cu-
ra?uuhuu / ~な動き zooçibai
りっぶく〔立腹〕 ?izi, diqpuku, haradaci,
riqpuku, →おこる
りとう〔離島〕 hanarizima, →hanari
りとく〔利得〕 rituku, →とく, り, りえき

りにゅう〔離乳〕 →ちちばなれ
りびょう〔痢病〕 ribjoo
りべつ〔離別〕 ribiçi, →わかれ/ ~する
→nucun
りゆう〔理由〕 →basju, cimuee, 'wacïee,
'waki, わけ
りゅう〔龍〕 duu, ruu
りゅうおうさま〔龍王様〕 duuooganasi,
ruuooganasi
りゅうか〔琉歌〕 ruuka, →?uta/ ~と和歌
の混合体 ?imahuu, nakahuu
りゅうがん〔龍眼〕 (植物名) dingan, ri-
ngan
りゅうぎ〔流儀〕 huuzi/ 常識はずれの~
hweeraNhuuzi
りゅうきゅう〔琉球〕 duucuu, ruucuu / ~
王統治下の時代 ?ucinaajuu
りゅうきゅうおもて〔琉球表〕 'iimusiru/
~の豊 'iidatan
りゅうきゅうがき〔琉球柿〕 kuruboo
りゅうきゅうだけ〔琉球竹〕 'janbaraa,
'janbaraadaki, 'janbarudaki
りゅうきゅうはぜのき〔植物名〕 hazi, ha-
zigi
りゅうこう〔流行〕 hweei/ ~する hwec-
juN
りゅうこうか〔流行歌〕 hweei?uta, →ha-
?uta, hwa?uta / ~の名 →hweei?uta
りゅうこうご〔流行語〕 hweeikutuba

リゅうこうびょう〔流行病〕 huuci/ ～が大
 いにはやる huucigamarasjan/ ～よけ
 huucegeesi 「れること ʔiihumaki
 リゅうしゅつど〔流出土〕 ʔiihu/ ～にかぶ
 リゅうぜつらん〔龍舌蘭〕 dugwai, rugwai
 リゅうれん〔流連〕 ʔurinujaagumai/ ～す
 る hwirikumajuN, →いりびたる
 リょう〔漁〕 →いさり
 リょう〔量〕 sicu, sjaku/ ～が多い sicu-
 ʔuhusan
 リょうぢ〔兩足〕 murubisja
 リょうかい〔了解〕 tuiʔuki/ ～する tuiʔu-
 kijun, →りかいする
 リょうきん〔料金〕 cinsin
 リょうし〔漁師〕 ʔijutujaa, ʔumiʔaqcaa,
 ʔumincu/ ～をする →ʔaqcuN
 リょうし〔獵師〕 ʔjamasisitujaa
 リょうしゅうしょう〔領収証〕 ʔukiiui
 リょうしん〔兩親〕 hutaʔuja, →ʔuja, ふほ
 びょうする〔領する〕 kakijun
 リょうち〔領地〕 kagee, ʔweekazi, (敬語)
 ʔukakizima, →kuni, sima, simakuni/
 ～と扶持米 simacizoo/ ～内 kageeʔuci
 リょうてい〔料亭〕 →りょうりや
 リょうば〔兩刃〕 muruhwa
 リょうほう〔兩方〕 roohoo, sirikuci, siru-
 kuci, →そうほう
 リょうもく〔量目〕 cinmi, munmi
 リょうり〔料理〕 hoocuu/ ～の材料が少い
 こと tiiciriboocuu/ ～の名など ʔaasa-
 ʔirici, ʔasitibici, biragaramaci, buku-
 bukuu, bukubukuzaa, ciricirii, caN-
 puruu, ʔikiʔagi, dingaku, duruwaka-
 sii, gunbookumii, hanaʔika, hwira-
 jaii, ʔinamuduci, kabacideekuni, ka-

baguboo, kabajaci, kaʔitira, koobee-
 tamagu, kuubuʔirici, kuubumaci,
 kuunii, kuuʔNmunii, kuurizisi, maa-
 minacaNpuruu, mimigaasasimi, mi-
 nudaru, musubikuubu, muzinuʔusiru,
 muziʔusee, naqtuu, nitamairukuzuu,
 nunkuu, ʔNbusii, ʔNmookasii, ʔNmu-
 kuzihwirajaii, ʔNmunii, ʔoohanbin,
 poopoo, puqturuu, saNmi, sikamudu-
 ci, simimun, sisiʔirici, sistinʔura,
 taacii, taaʔNmunii, tasijaaʔubun, ti-
 bici, toohunukaʔiriciei, tunhwan, tu-
 nhwanʔzuusii, tunziizuuusii, ʔuigwaa-
 ʔusee, ʔunimun, ʔusanmi, ʔutibici,
 ʔuunii, ʔuusii/ 念入りに～する →tiiʔa-
 nda/ 貧弱な～ sabimun

リょうりにん〔料理人〕 hoocuu

リょうりや〔料理屋〕 sakanajaa/ ～の女給
sakanajaawinagu

リよく〔利欲〕 dijuku, rijuku, →よく

リよくず〔綠豆〕 ʔoomaamii

リよくちく〔植物名〕 maataku

リよくもん〔緑門〕 kiinuhwaaʔuzoo

リょこう〔旅行〕 ʔaqci, tabi, →たび

リょそう〔旅装〕 tabisugai

リリつ〔利率〕 rihwii

りんき〔格気〕 →しつと / ～するもの di-
Ncaa, rincaa

りんぎょう〔林業〕 / ～に従事する者 ʔja-
maʔaqcaa

りんげつ〔臨月〕 nasizici, sanzici

りんじ〔臨時〕 hutu

りんじゅう〔臨終〕 miiʔutui

りんず〔綸子〕 rinnsu, rinzi/ ～の礼服
rinziwatazin

りんびょう〔淋病〕 siibaijandi

る

るい〔類〕 rui

るいれき〔癩癧〕 gurui, →huduʔwiigurui

るざい〔流罪〕 simanagasi/ ～にする →
huni

るす

るす〔留守〕 / ～番 'jaanubaan/ ～を守
る奥様 'Ncuca?ajaamee

ルソンとう〔ルソン島〕 rusun
るりはこべ〔植物名〕 minna

れ

れい〔例〕 rii, tatui

れい〔礼〕 rii, →おれい, おれいまいり, ら
いはい, れいぎ, れいきん

れい〔霊〕 →たましい/ ～の力 saa, sizi/
～の力のある masasjan, saadakasan,
siidakasan, sisidakasan/ ～の力に負け
ること →saamaki/ ～の力をそなえた生
まれ saadaka?nmari

れいう〔冷雨〕 simu

れいき〔冷気〕 hwizui

れいぎ〔礼儀〕 riizi, zanmee, →?usjudee,
さほう / ～作法 riizisahuu/ ～作法を教
えること muNnaraasi/ ～作法を学ぶこ
と muNnaree

れいきん〔礼金〕 riizi

れいけん〔靈験〕 →れい

れいこん〔靈魂〕 →たましい, れい

れいし〔荔枝〕 riici 「い

れいしょう〔冷笑〕 sirawaree, →あざわら

れいぜん〔靈前〕 diizin, riizin 「ci

れいそう〔礼装〕 coo?isjoo, →coohacima-

れいふく〔礼服〕 / ～の名 ciizin, coozin
(coozin の種類 kurucoo, sirucoo),
?irunucin, tanasi (敬語 'ncanasi),
'watazin (敬語 'wataosu) ('watazin
の種類 biNgatawatazin, manwata-
zin, rinziwatazin, simuwatazin, si-
ragawatazin, tanasiwatazin, tizima-
watazin)/ 王の～ ?umantun

れいらく〔零落〕 ?utisizimi/ ～する 'Ndi-
jun, →おちぶれる

れいれいしい〔麗麗しい〕 ririqsan

れきしじだい〔歴史時代〕 →nakagudee,
れる →られる 「nakamukasi

れん〔聯〕 reN/ ～を書く赤い紙 sjugami

れんあい〔恋愛〕 →こい

れんが〔煉瓦〕 ringwa, sicigaara

れんが〔連歌〕 ?iran

れんじゅ〔連珠〕 gumukunarabee, gu-
mukunarabii

れんしゅう〔練習〕 →けいこ

れんにゅう〔練乳〕 booduru

ろ

ろ〔櫓〕 ruu/ ～と舵 ruukazi

ろ〔炉〕 →ziiru/ 反故を燃やす～ hunzi-
ruu, hunzuruu

ろう〔牢〕 ruu, →ろうや / ～に入れること
→ruugumi, ruusja

ろうか〔廊下〕 'iin

ろうがん〔老眼〕 tusjuimii

ろうご〔老後〕 ?wiina?wiina

ろうじん〔老人〕 →としより

ろうすい〔老衰〕 tusjuiooi, →おいぼれ

ろうそく〔蠟燭〕 doo, roo/ ～の燃えかす
dookusu, rookusu

ろうと〔漏斗〕 zoogu
 ろうどう〔労働〕 sikuci, → buuwaza, しごと
 ろうどうしゃ〔労働者〕 ʔagacaa
 ろうどく〔朗読〕 šimihuku
 ろうばい〔狼狽〕 → あわてる, ろろたえる
 ろうひ〔浪費〕 kweehoorii, zindaari, zin-
 šitigutu, → むだづかい/ ~する者 zin-
 ろうもう〔老耄〕 → もろろく [teesjaa
 ろうもん〔楼門〕 turi
 ろうや〔牢屋〕 ruuja, → けいむしょ, ろう
 ろうりょくこうかん〔勞力交換〕 'ii/ ~を順
 に行きこと 'iimaaru 「mu-
 ろく〔6〕 duku, muuci, ruku, muu, →
 ろく〔祿〕 → ほろろく
 ろくがつ〔6月〕 dukugwaçi, rukugwaçi
 ろくじゅう〔60〕 rukuzuu

ろくしょう〔緑青〕 ʔoosabi
 ろくじょうどうふ〔六条豆腐〕 rukuzuu
 ろくにん〔6人〕 muqtai
 ろくねん〔6年〕 mutu
 ろくりん〔6厘〕 sanbeku, sanbjaku, mi-
 kumui
 ろけんする〔露見する〕 ʔarawarijun
 ろじ〔露地〕 sjuuzi, → こみち, みち
 ろっかく〔6角〕 ruqkaku
 ろっぴやく〔600〕 /600文 duqpeku, mu-
 kumui, ruqpeku, ruqpjaku /650文
 duqpekugunzuu, ruqpjakugunzuu
 ろてん〔露店〕 ʔisigee, nisigee
 ろんそう〔論争〕 ʔiimakaşce, → いいあら
 ろんぶん〔論文〕 mungun [そい

わ

わ〔輪〕 goo
 わあ 'waa
 わあわあ 'weewee 「→ゆがめる
 わいきよくする〔歪曲する〕 ʔiimagijun,
 わいせつ〔猥褻〕 / ~である hagoosan, →
 ひわいな
 わいろ〔賄賂〕 sicaçii, ʔusjagimun
 わいわい ʔabijaatijaa, → がやがや
 わが〔我が〕 → 'waa/ ~心 'wazimu
 わかい〔若い〕 'wakasan/ ~男 'wakawiki-
 ga/ ~女 'wakawinagu/ ~衆 'waka-
 mun/ ~時 'wakasaini 「→ なかなかおり
 わかいさせる〔和解させる〕 'jahwarakijun,
 わかおくさま〔若奥様〕 ʔajaameegwaa
 わかえる〔若返る〕 'wakageejun 「kagi
 わかぎ〔若木〕 'wakaki, 'wakamaaçi, 'wa-
 わかぎみ〔若君〕 'wakaazi, 'wakazara (敬
 語) 'wakaazinumee, → ぼっちゃん, わか
 さま

わかくさ〔若草〕 'wakakusa
 わかさま〔若様〕 ʔumeegwaa, → わかぎみ
 わかしゅう〔若衆〕 → 'wakasju, わかもの
 わかしらが〔若白髪〕 'wakasiraga, 'waka-
 siragi
 わかす〔沸かす〕 hukasjun, 'wakasjun
 わかだんな〔若旦那〕 sjuumeegwaa
 わかつ〔分かつ〕 → わける
 わかとのさま〔若殿様〕 ʔumeegwaa
 わかば〔若葉〕 sinbaa, 'wakabaa 「daci
 わかふうふ〔若夫婦〕 / ~の世帯 tankaa-
 わかまつ〔若松〕 'wakaki, 'wakamaaçi
 わがまま〔我儘〕 cimakasi, hundee, 'wa-
 gamama, zimama, → かって, だだをこ
 ねる/ ~者 boociraa, boocirimun
 わがみ〔我が身〕 'wadu, 'wagami
 わかみず〔若水〕 'wakamizi, (敬語) 'waka-
 ʔubii
 わかめ〔若芽〕 sinbaa

わか

わかもの〔若者〕 'wakamun, →せいねん,
 わがや〔我が家〕 →'waqtaa 「わかしゅうり
 わからずや maguraa, magurimun, na-
 muzaa, tuturuu, →がんこもの
 わかる〔分かる〕 'wakajun, →りょうかい,
 りかいする 「kari, りべつ
 わかれ〔分かれ・別れ〕 'wakari, →huja-
 わかれめ〔分かれ目〕 sakeemi
 わかれる〔別れる〕 hujakarijun, nucuN,
 'wakarijun, 「jun
 わかれる〔分かれる〕 'wakajun, 'wakari-
 わかぬかしく〔若若しく〕 'wakaqteen
 わき〔脇〕 hata, katahara, suba/ →へ向
 くこと subankee
 わきあいあい〔和気藹藹〕 'wadan, 'wajaan-
 wagoo, 'wagoowadan
 わきあがる〔湧き上がる〕 'wacagajun
 わきあて〔脇当て〕 'wacišibi
 わきが〔腋臭〕 'wacikusaa
 わきげ〔腋き毛〕 'wacikuugi
 わきざし〔脇差し〕 'wacizasi
 わきでる〔湧き出る〕 'wacagajun
 わきばら 'joora, 'juhvara
 わきみ〔脇見〕 'jukumi
 わきみち〔脇道〕 'jukumici, 'wacimici/ ~
 をすること 'jukubai
 わざり〔輪切り〕 koorumaaziri
 わく〔枠〕 →kani
 わく〔篋〕〔織機名〕 'waku
 わく〔沸く〕 hucun, mugeejun, 'wacun,
 'wazijun, →たぎる, ふっとう
 わく〔湧く〕 'wacun
 わけ〔訳〕 cimuee, 'waciece, 'waki, 'wakiee,
 →いわれ, じじょう, どうり, ゆえ, りゆう
 わけまえ〔分け前〕 buN, tuimee, 'wai-
 kwii, 'wakibun, 'wakimee, →わりあて
 わける〔分ける〕 hazun, 'wakasjun, 'wa-
 kijun/ 分け合って食う 'juraajun, 'ju-
 rajun/ 分け合って食うこと 'juratii
 わごう〔和合〕 'wagoo, →なか

わざ〔業〕 'waza, →おこない, げい
 わざと 'uqtaati, 'wazaqtu, 'wazatu,
 →わざわざ
 わざわい〔禍〕 'jaku, kutusabi, sabi, 'wa-
 zawee, →siira, がい, やく
 わざわざ 'uqtaati, 'wacakoogeezi, 'wa-
 zawaza, →わざと
 わし〔鷺〕 'wasinutui
 わずか →すこし
 わずらい 'wacaree, →びょうき
 わずらう〔煩う〕 'wacarajun/ 煩わされる
 →'wacarajun/ わずらわしいさま 'waca-
 reegandoo
 わすれぐさ〔植物名〕 kwansoo
 わすれる〔忘れる〕 'wasijun, →ぼろきゃ
 く, まるわすれ, ものわすれ
 わた〔綿〕 hana, 'wata 「caagirii
 わたれ〔綿入れ〕 'wata?iri, (敬語) 'N-
 わたうち〔綿打ち〕 hana?uci, 'wata?uci
 わたくし →わたし
 わたくしごと〔私事〕 'watakusi
 わたし〔私〕 'wan, →'wami, 'wanu, わが,
 わがみ/ ~自身で 'wankuru/ ~の 'wa-
 a-/ ~の家 →'waqtaa
 わたしたち〔私たち〕 'waqtaa, →われわ
 れ/ ~の →'waqtaa
 わたしば〔渡し場〕 tuguci, 'watai, 'wata-
 わたしぶね〔渡し舟〕 'watasibuni 「Nzi
 わたす〔渡す〕 'watasjun, →'jukuteejun
 わたりろうか〔渡り廊下〕 kajui
 わたる〔渡る〕 'watajun/ ~所 'watai
 わだん〔植物名〕 'Nzana/ ~の葉をすりつ
 ぶしてとった汁 'Nzanajuu
 わっ / ~と云う 'waqtukasjun 「ん
 わつぶ〔割符〕 'waihu, 'waqpu, →わりい
 わび〔詫び〕 →しゃざい
 わぼく〔和睦〕 'wabuku, →なかなおり
 わまわし〔輪回し〕 koorumaa
 わめく〔喚く〕 ?abijun, →どなる/ ~者
 ?abijaa/ わめき散らす ?abiihoojun/ わ

めき散らすさま ?abijaatijaa
 わら〔藁〕 'wara, →'warasiNbuu/ ~の帯
 'warasiNbuu?uubi/ ~のかご(～の袋)
 maagu, ziibu/ ~の芯で作った草履 'wa-
 rasaba/ ~のたわし 'wara?aara
 わらいがお〔笑い顔〕 'wareegau
 わらいばなし〔笑い話〕 'wareehanasi
 わらいもの〔笑ひ者〕 'wareemunuu, 'wa-
 reemunuu
 わらう〔笑う〕 'warajuN, →'wareekan-
 zuN, 'wareekuzijun/ ~さま ?ihii?aa-
 haa, sicirihweeri/ 笑い転げるさま →
 keerikurubi, toorikurubi/ くすつと～
 こと kuuwaree/ しいて～こと 'waraa-
 ranwaree, 'wareesiizii/ にやにや～こと
 namawaree/ 笑いよう 'wareejoo
 わらじ〔草鞋〕 'waraguçi, 'warazi
 わらしべ sibi, 'warasibi, 'warasiNbuu
 わらづと〔藁苞〕 hwintu, 'wara?için
 わらなわ〔藁縄〕 'waraçina
 わらばい〔藁灰〕 'warabee
 わらび〔藁火〕 'warabii
 わらび〔植物名〕 'warabi 「まえ
 わらべな〔童名〕 doona, 'warabinaa, →な
 わりあて〔割り当て〕 'waikwii, 'waimée,
 waqpu, →はいぶん, わけまえ
 わりあてる〔割り当てる〕 kubai?atijun
 わりいん〔割印〕 'waiban, 'waihu, 'wai-
 ?in, 'waqpu
 わりき〔割り木〕 'waizakaa
 わりこむ〔割り込む〕 'waincuN
 わりふ〔割り符〕 →わっぷ
 わりまえ〔割り前〕 →わりあて
 わる〔割る〕 'wajuN, → ?aakasjuN, 'wa-
 cuN/ 噛んで～ kwiiwajuN
 わるい〔悪い〕 'janasaN, 'waqsaN, 'ja-
 na-/ ~着物 'janazin/ ~教育 'janana-
 raasi/ ~癖 'janagusi/ ~狂い方 'janabu-
 ri/ ~声 'janagwii/ ~心 'janagukuru,
 'janazimu/ ~こと cizi, 'janakutu/ ~こ

とば janaguci, 'janamunii, 'janamunu
 ?ii/ ~子供 'janawarabi/ ~性質 'jana-
 simuci/ ~血 'janaci/ ~天気 'janatin-
 ci, 'jana?waaçici/ ~におい 'janaka-
 za/ ~人 'janaçeu/ ~風儀 'janahuuzi/
 ~道 'janamici/ ~もの 'janaa, 'jana-
 gataa, 'janamun/ ~やりかた 'janasii/
 ~夢 'jana?imi/ ~靈気 'janakazi
 わるがしこい〔悪賢い〕 →わるぢえ
 わるくち〔悪口〕 guci, 'janaguci, 'jana-
 ?ii, susiri, susjuu, →çeuçutu, かげぐ
 ち/ ~を言う者 'janagucaa
 わるだくみ〔悪巧み〕 'jaçi, 'janadakumi,
 'janamundakun, mundakun, →たく
 らむ
 わるぢえ〔悪知恵〕 gaNci, 'janadakuma,
 'janarikuçi, 'jana?ee, ?waa?ee/ ~のあ
 る者 gaNcaa, gancikweemun, ?eetu-
 baa, ?eetubimun, ?waa?eetubaa
 わるふざけ 'janawacaku/ ~をするさま
 miinucihananuci
 わるもの〔悪者〕 'janamun, Nzamun,
 'warumun, →'jaçi, あくにん
 われ〔我〕 'wami, 'wanu, →わたし
 われがね〔割れ鐘〕 'warigani
 われがめ〔割れ甕〕 'warigaami
 われなべ〔割れ鍋〕 'warinaabi
 われめ〔割れ目〕 ?aaki, 'warimi, →きれつ
 われもの〔割れ物〕 narimun, 'warimun
 われる〔割れる〕 ?aakijun, 'warijun/ 割
 れたもの 'wari
 われわれ〔我我〕 'waqtaa, 'wasita, →juu-
 naa/ ~で 'waqtaakuru/ ~の →'waq-
 taa
 わん〔椀〕 makai, 'wan, →siruwan, ?u-
 siruwan, taawan, ?uuhwira
 わん〔灣〕 magari, 'wan
 わんぱく〔腕白〕 ?anmaku, 'janasiqpa,
 maku, ?itimaku, ?itimun, ?uuma-
 ku

わん

わんりょく〔腕力〕 tibusi, ʔuɰizikara, → | わんわん ciicaa, 'wanwan, 'wauwau,
うでっぷし | 'wauwauu

を

を(助詞) →-ju, -kara

付 録

首里方言読みによる

地 名 一 覧

- | | | |
|---|------------------------|-----|
| 1 | 沖縄旧行政区画名・島名一覧 | 819 |
| a | 発音・文字別一覧 | 819 |
| b | 行政区域別一覧 | 843 |
| 2 | 琉球列島主要島名一覧 | 847 |
| 3 | 日本本土および外国の地名 | 848 |
| 4 | 地 図 | 850 |
| a | 旧首里 | |
| b | 沖縄本島とその周辺の山岳・河川・港湾・岬など | |
| c | 沖縄の旧行政区画 | |
| d | 琉球列島 | |

前 置 き

1の「沖繩旧行政区画名・島名一覧」のうち、行政区画名は主として「沖繩旧慣地方制度」(明治26年5月沖繩県内務部第一課)を基として、地名一覧の他の部分は比嘉春潮氏の記憶を基として作成した。地名の発音はすべて首里方言(比嘉氏の発音による)によるもので、それぞれの土地の現地音ではない。

1のa「発音・文字別一覧」は発音(音韻記号)または文字(漢字)によって個々の行政区画名(間切名、村名など)を検索するための一覧であり、これによって、たとえば特定の村名が首里方言によってどう読まれるかということ、およびその村がどの間切に属するかということを知ることができる。1のb「行政区別一覧」は行政組織に基づく一覧で、これによってたとえばなににな方には何という間切があるか、また、なにになに間切に属する村は何と何かということを一覧できる。なお、1のaには漢字と音韻記号の両方があげてあるが、bには漢字しかあげてない。また、島名は1のaにははいているが、1のbにははいていない。島名は別に、2「琉球列島主要島名一覧」によっても通覧できる。3「日本本土および外国の地名」は従来からの首里方言によるそれであるが、その数は至って少ない。

1 沖繩旧行政区画名・島名一覧

a 発音・文字別一覧

使用上の注意

- (1) 地名は、まず語頭音の音韻記号ごとに、すなわち本文編と同じアルファベットごとにまとめ、つぎにその中で一字目の漢字ごとにまとめてかかげた。
- (2) 地名を音韻記号によって探す場合には、その語頭音の音韻記号を手掛かりにして、その音韻記号の項を通覧してほしい。
- (3) 地名を漢字によって探す場合には、まず以下の目次もしくは漢字索引(画引き)によって一字目の漢字がどの音韻記号の項にのっているかを調べ、それに基づい

てその音韻記号の項に当たり、その漢字の箇所を通覧してほしい。

(4) 島尻方, 中頭方, 国頭方は「方」の字を略してそれぞれ島尻, 中頭, 国頭のよりに記した。また, 村名はすべて「村」の字を略した。たとえば, 天久村は単に天久と記した。そこで

天久 ?amiku① 島尻—真和志間切

とあれば, 天久という地名は首里方言では ?amiku① と発音され (①はアクセントの記号), 島尻方の真和志間切に属する村の名であるという意味である。また,

安里 ?asatu①② 島尻—真和志間切, 島尻—具志頭間切, 島尻—真壁間切, 中頭—中城間切

とあれば, 安里 ?asatu①② という村は上記の四つの間切にあるという意味である。

目 次

ʔa	天* 有 安 赤 阿 東* 泡 粟 新* 熱	823
b	辺* 保* 馬 備	824
c,ç	北 仲* 束 金* 岸 知 津 許 喜 壺 慶*	824
d	大* 田* 竹 伝 武	825
'e	八	825
g	我 呉 具 卒 胡 城 越 慶*	825
h	比 平* 古* 辺* 外 羽 百 舟 波 東* 玻 保* 南 浜 振 桴 堀 富* 普 鉢 鳩 福	826
ʔi	石 伊* 池 糸 西* 板 泉 栄 稻*	828
'i	江	829
'j	山 与 世 屋 読	829
k	川 久 小* 古* 米 来 金* 国 東* 幸 垣 神 狩 健 後 兼 桑 掛 黒 賀 勝 湖 漢 嘉 慶*	830
m	水 目 本 町 見 牧 松 前 真 宮* 桃* 盛 満	

	新* 摩 諸*	832
n	今 中 伊* 名 仲* 西* 那 長 並 荷 根 宮* 野	
	登* 饒	833
?N	伊* 稻*	835
'N	美 港 嶺	835
?o	奥*	835
'o	和*	836
s,s	下 白 末 佐 志 首 洲 砂* 島 崎 濟 添 寒	
	惣 塩 新* 数 楚 潮 諸* 瀬 識	836
t	一 手 天* 友 田* 平* 立 玉 汀 多 当 沢 谷	
	泊 炬 桃* 高 鳥 棚 渡 登* 富* 照 豊	837
?u	小* 大* 内 宇* 沖 砂* 浦 恩 運 奥*	839
'u	大* 翁 荻	840
?w	上 宇* 親	841
'w	和* 若 湧	841
z,z	地 宜 坐(座) 源 瑞 勢 儀 謝	841

(*印は二箇所、**印は三箇所に重出しているもの。)

漢字索引 (画引き)

- 1画 一 t
- 2画 八 'e
- 3画 上 ?w 大 d, ?u, 'u 小 k, ?u 川 k 久 k 下 s 山 'j 与 'j
- 4画 天 ?a, t 今 n 内 ?u 手 t 友 t 中 n 比 h 水 m
- 5画 石 ?i 北 c 古 h, k 白 s 末 s 田 d, t 平 h, t 立 t 玉 t 汀 t 辺 b, h 外 h 目 m 本 m 世 'j

6画 安 ?a 有 ?a 伊 ?i, n, ?N 池 ?i 糸 ?i 宇 ?u, ?w 江 ?i
米 k 多 t 竹 d 地 z 仲 c, n 伝 d 当 t 名 n 西 ?i, n
羽 h 百 h 舟 h

7画 赤 ?a 冲 ?u 我 g 来 k 吳 g 坐 z 佐 s 志 s 沢 t
谷 t 束 c 那 n 町 m 見 m

8画 阿 ?a 泡 ?a 板 ?i 金 c, k 宜 z 岸 c 具 g 国 k
幸 k 東 ?a, h, k 武 d 知 c 泊 t 長 n 並 n 波 h 牧 m
松 m 和 'o, 'w 若 'w 琴 g 具 g

9画 泉 ?i 栄 ?i 垣 k 神 k 狩 k 建 k 胡 g 後 k 首 s
城 g 洲 s 砂 s, ?u 炬 t 津 c 玻 h 南 h 保 b, h 前 m
美 'N 屋 'j

10画 浦 ?u 翁 'u 荻 'u 恩 ?u 兼 k 桑 k 座 z 島 s 高 t
桃 m, t 荷 n 根 n 馬 b 浜 h 振 h 真 m 宮 m, n

11画 掛 k 黑 k 健 k 許 c 崎 s 濟 s 添 s 鳥 t 野 n 桴 h
堀 h 盛 m

12画 粟 ?a 運 ?u 輿 ?o, ?u 賀 k 勝 k 喜 c 湖 k 越 g
寒 s 惣 s 棚 t 渡 t 富 h, t 登 n, t 備 b 普 h 満 m
港 'N 湧 'w

13画 新 ?a, m, s 漢 k 源 z 塩 s 数 s 瑞 z 勢 z 壺 c 楚 s
照 t 豊 t 鉢 h 鳩 h 福 h

14画 稻 ?i, ?N 嘉 k 誡 'j

15画 熱 ?a 儀 z 慶 c, g, k 潮 s 摩 m 諸 m, s

16画 親 ?w

17画 謝 z 嶺 'N

19画 識 s 瀨 s, s

21画 饒 n

ㇿa

天

天久 ʔamikuⓄ 島尻—真和志間切
 天底 ʔamisukuⓄ 国頭—今帰仁間切

有

有銘 ʔarumiⓄ 国頭—久志間切

安

安仁屋 ʔannaⓄ 中頭—宜野湾間切
 安田 ʔadaⓄ 国頭—国頭間切
 安次嶺 ʔasinmiⓄ 島尻—小祿間切
 安里 ʔasatuⓄ① 島尻—真和志間切,
 島尻—具志頭間切, 島尻—真壁間切,
 中頭—中城間切

安谷屋 ʔadannaⓄ 中頭—中城間切

安坐間 ʔazamaⓄ 島尻—知念間切

安和 ʔaaⓄ 国頭—名護間切

安波 ʔahwaⓄ 国頭—国頭間切

安波茶 ʔahwacaⓄ 中頭—浦添間切

安室 ʔamuruⓄ 中頭—西原間切

安部 ʔabuⓄ 国頭—久志間切

安富祖 ʔahusuⓄ 国頭—恩納間切

安勢理 ʔasiiⓄ 中頭—与那城間切

安慶田 ʔagidaⓄ 中頭—越來間切

安慶名 ʔaginaⓄ 中頭—具志川間切

安謝 ʔazaⓄ 島尻—真和志間切

赤

赤田 ʔakataⓄ 首里—南風之平等

赤平 ʔakahwiraⓄ 首里—西之平等

赤嶺 ʔakanmiⓄ 島尻—小祿間切

阿

阿佐 ʔasaⓄ 島尻—坐間味間切

阿波根 ʔahwagunⓄ 島尻—兼城間切

阿波連 ʔahwariⓄ 島尻—渡嘉敷間切

阿真 ʔamaⓄ 島尻—坐間味間切

阿嘉 ʔakaⓄ 島尻—坐間味間切, 島尻—
 一仲里間切

阿嘉(島の名) ʔakaⓄ 島尻—坐間味間
 切

東

東江 ʔagariiⓄ 国頭—名護間切

東江上 ʔagariʔwi'iⓄ 国頭—伊江島

東江前 ʔagarime'eⓄ 国頭—伊江島

東仲宗根 ʔagarinakazuniⓄ 宮古—平
 良間切

泡

泡瀨(港の名) ʔaasiⓄ 中頭—美里間切

粟

粟国(島の名) ʔaguniⓄ 島尻

新

新垣 ʔarakaciⓄ① 島尻—真壁間切,
 中頭—中城間切

新城 ʔaragusikuⓄ 島尻—具志頭間切,
 中頭—宜野湾間切, 宮古—砂川間切,
 八重山—石垣間切

新城(島の名) ʔaraguʂikuⓄ 八重山—
石垣間切

熱

熱田 ʔaQtaⓄ 中頭—中城間切

b

辺

辺野喜 binuciⓄ 国頭—国頭間切

保

保栄茂 binⓄ 島尻—豊見城間切

島

馬天(港の名) batiNⓄ 島尻—佐敷間切

備

備瀬 biiʂiⓄ 国頭—本部間切

c, ɕ

北

北谷 catanⓄ 中頭—北谷間切

北谷間切 catanⓄ 中頭

仲

仲順 cunzuNⓄ 中頭—中城間切

束

束辺名 ɕikahwinaⓄ 島尻—喜屋部間切

金

金武 cinⓄ 国頭—金武間切

金武間切 cinⓄ 国頭

岸

岸本 cisimutuⓄ 国頭—今歸仁間切

知

知名 cinaⓄ 島尻—知念間切

知花 cibanaⓄ 中頭—美里間切

知念 ciniNⓄ 島尻—知念間切

知念間切 ciniNⓄ 島尻

津

津花波 ɕihwanahwaⓄ 中頭—西原間切

津波 ɕihwaⓄ 国頭—大宜味間切

津波古 ɕihwanukuⓄ 島尻—佐敷間切

津堅 ɕikinⓄ 中頭—勝連間切

津堅(島の名) ɕikinⓄ 中頭—勝連間切

津嘉山 ɕikazaNⓄ 島尻—南風原間切

津覇 ɕihwaⓄ 中頭—中城間切

許

許田 cudaⓄ 国頭—名護間切

喜

喜友名 cuNnaaⓄ 中頭—宜野湾間切

喜名 cinaaⓄ 中頭—説谷山間切

喜如何 *cizuka*① 国頭一大宜味間切
喜舎場 *cisjaba*① 中頭一中城間切
喜屋武 *caN*① 島尻—南風原間切, 中
頭—具志川間切
喜屋部 *caN*① 島尻—喜屋部間切
喜屋部間切 *caN*① 島尻

喜瀬 *cisi*① 国頭一名護間切
壺
壺屋 *çibuja*① 那覇
慶
慶伊瀬(島の名) *cii*① 那覇港の沖合に
ある。

d

大
大工廻 *dakuzaku*① 中頭—越来間切
(迫=さこを誤って廻と書く習慣と
なっていた)
田
田名 *dana*① 島尻—伊平屋島
竹
竹富 *dakidun*① 八重山—石垣間切

竹富(島の名) *dakidun*① 八重山—石
垣間切
伝
伝道 *dindoo*① 中頭—北谷間切
武
武富 *dakidun*① 島尻—兼城間切

'e

八
八重山 *'eema*① (群島の名)

g

我
我如古 *ganiku*① 中頭—宜野湾間切

我那覇 *ganahwa*① 島尻—豊見城間切
我部 *gabu*① 国頭—羽地間切

我部祖河 gabusuka① 国頭一羽地間切

我喜屋 gaaza① 島尻一伊平屋島

我謝 gaaza① 中頭一西原間切

吳

吳我 guga① 国頭一羽地間切

吳屋 guja① 中頭一西原間切

具

具志 guusi① 島尻一小祿間切

具志川 gusicaa① 島尻一具志川間切,
中頭一具志川間切

具志川(島の名) gusicaa① 島尻一伊
是名島

具志川間切 gusicaa① 島尻, 中頭

具志堅 gusicin① 国頭一本部間切

具志頭 gusican① 島尻一具志頭間切

具志頭間切 gusican① 島尻

卒

卒宮城 gusimjaagusiku① 島尻一小
祿間切

胡

胡屋 guja① 中頭一越来間切

城

城 gusiku① 国頭一名護間切, 国頭一
大宜味間切

城間 gusikumama① 中頭一浦添間切

越

越来 gwiiku① 中頭一越来間切

越来間切 gwiiku① 中頭

慶

慶留間 giruma① 島尻一坐間味間切

慶留間(島の名) giruma① 島尻一坐間
味間切

h

比

比地 hwizi① 国頭一国頭間切

比屋定 hjaazoo① 島尻一仲里間切

比屋根 hjaagun① 中頭一美里間切

比嘉 hwiza① 島尻一中里間切, 中頭一
中城間切, 中頭一勝連間切, 宮古一平
良間切

比謝 hwiza① 中頭一読谷山間切

平

平川 hwirakaa① 島尻一大里間切

平久保 hwirakubu① 八重山一宮良間
切

平田 hwirata① 島尻一佐敷間切

平安山 hjanzan① 中頭一北谷間切

平安名 hjanina① 中頭一勝連間切

平安坐 hjanza① 中頭一与那城間切

平安坐(島の名) hjanza① 中頭一与
那城間切

平良間切 hwirara① 宮古

平得 hwirai① 八重山一大浜間切

平敷 hwisici① 国頭一今帰仁間切

平敷屋 hwisica① 中頭一勝連間切
古
古堅 hurugin① 島尻一大里間切, 中頭一読谷山間切
辺
辺土名 hwin tuna① 国頭一國頭間切
辺戸 hwidu① 国頭一國頭間切
辺名地 hwinazi① 国頭一本部間切
辺野古 hwinuku① 国頭一久志間切
外
外間 hukama① 島尻一東風平間切, 島尻一知念間切, 島尻一佐敷間切
羽
羽地間切 hanizi① 国頭
百
百名 hjakuna① 島尻一玉城間切
舟
舟越(富名腰とも書く) hunakusi① 島尻一玉城間切
波
波平 hanza① 島尻一兼城間切, 島尻一摩文仁間切, 中頭一読谷山間切
波照間 hatiruma① 八重山一大浜間切
波照間(島の名) hatiruma① 八重山一大浜間切
東
東 hwigasi① 那覇, 島尻一粟国島
東恩納 hwiza?unna① 中頭一美里間切
波
波名城 hanaguşiku① 島尻一具志頭間切

保
保良 hura① 宮古一砂川間切
南
南風之平等 hweenuhwira① 首里
南風見 hweemi① 八重山一石垣間切
南風原 hweebaru① 島尻一大里間切, 中頭一勝連間切
南風原間切 hweebaru① 島尻
浜
浜 hama① 島尻一粟国島, 中頭一勝連間切, 国頭一國頭間切
浜川 hamagaa① 中頭一北谷間切
浜元 hamamutu① 国頭一本部間切
浜比嘉(島の名) hamahwiza① 中頭一勝連間切
振
振慶名 huikina① 国頭一羽地間切
桴
桴海 hukai① 八重山一石垣間切
堀
堀川 huqcaa① 島尻一小祿間切
富
富名腰(舟越とも書く) hunakusi① 島尻一玉城間切
富里 husatu① 島尻一玉城間切
富着 huqca① 国頭一恩納間切
普
普天間 hutima① 中頭一宜野湾間切
鉢
鉢嶺 hacinmi① 島尻一知念間切

鳩

鳩間 hatuma④ 八重山一宮良間切
 鳩間(島の名) hatuma④ 八重山一宮良
 間切

福

福地 hukuzi④ 島尻一喜屋部間切
 福里 hukuzatu④ 宮古一砂川間切

ʔi

石

石川 ʔisicaa④① 中頭一美里間切
 石垣 ʔisigaci④ 八重山一石垣間切
 石垣(島の名) ʔisigaci④ 八重山
 石垣間切 ʔisigaci④ 八重山
 石原 ʔisjaara④ 島尻一摩文仁間切
 石嘉波 ʔisikahwa④ 国頭一本部間切
 石嶺 ʔisinmi④ 中頭一西原間切

伊

伊礼 ʔirii④ 島尻一摩文仁間切, 中頭
 一北谷間切
 伊平屋(島の名) ʔihja④ 島尻(後地
 kusizii④ ともしら)
 伊地 ʔici④ 国頭一因頭間切
 伊江島(島の名) ʔiizima④ 国頭
 伊佐 ʔisa④ 中頭一宜野湾間切
 伊豆味 ʔizumi④ 国頭一本部間切
 伊良波 ʔirahwa④ 島尻一豊見城間切
 伊良皆 ʔiranmja④ (ʔiranna④ともし
 いら) 中頭一読谷山間切
 伊良部 ʔirabu④ 宮古一下地間切
 伊良部(島の名) ʔirabu④ 宮古
 伊波 ʔihwa④ 中頭一美里間切

伊舍堂 ʔisjadoo④ 中頭一中城間切
 伊祖 ʔiizu④ 中頭一浦添間切
 伊計 ʔici④ 中頭一与那城間切
 伊計(島の名) ʔici④ 中頭一与那城間
 切
 伊是名 ʔizina④ 島尻一伊是名島
 伊是名(島の名) ʔizina④ 島尻(前地
 meezii④ ともしら)
 伊差川 ʔizasica④ 国頭一羽地間切
 伊原間 ʔibaruma④ 八重山一宮良間切
 伊集 ʔizu④(ʔnzū④ともしら) 中頭一
 中城間切
 伊敷 ʔisici④ 島尻一真壁間切
 伊弼 ʔihwa④ 島尻一東風平間切

池

池原 ʔicibaru④ 中頭一美里間切
 池間 ʔicima④ 宮古一平良間切
 池間(島の名) ʔicima④ 宮古

糸

糸洲 ʔicuzi④ 島尻一真壁間切
 糸満 ʔicumano④ 島尻一兼城間切
 糸数 ʔicukazi④ 島尻一玉城間切

西

西江上 ?iri?wi`iⓄ 国頭一伊江島
 西江前 ?irime`eⓄ 国頭一伊江島
 西仲宗根 ?irinakazuniⓄ 宮古一平良
 間切
 西表 ?iri?umutiⓄ 八重山一大浜間切
 西表(島の名) ?iri?umutiⓄ 八重山
 板
 板良敷 ?icaraziciⓄ 島尻一大里間切

泉

泉崎 ?izunzaciⓄ 那覇
 栄
 栄野比 ?inuhwiⓄ 中頭一具志川間切
 稻
 稻福 ?inahukuⓄ 島尻一大里間切

'i

江

江洲 'iisiⓄ 中頭一具志川間切

'j

山

山入端 'jamanuhwaⓄ 国頭一名護間切
 山川 'jamagaaⓄ 首里一真和志之平等,
 島尻一南風原間切
 山口 'jamaguciⓄ 島尻一知念間切
 山内 'jamaciⓄ 中頭一越来間切
 山田 'jamadaⓄ 国頭一恩納間切
 山里 'jamaçatuⓄ 島尻一具志川間切
 山城 'jamaguşikuⓄ 島尻一喜屋部間
 切, 島尻一仲里間切, 中頭一美里間切
 山原 'janbaruⓄ 国頭方をいう。

与

与那 'junaⓄ 国頭一国頭間切
 与那国(島の名) 'junaguniⓄ 八重山
 与那城 'junaguşikuⓄ 中頭一西原間
 切, 中頭一与那城間切
 与那城間切 'junaguşikuⓄ 中頭
 与那原 'junabaruⓄ 島尻一大里間切
 与那嶺 'junaNmiⓄ 国頭一今帰仁間切
 与那覇 'junahwaⓄ 島尻一南風原間切,
 島尻一佐敷間切, 宮古一下地間切

与那覇堂 'junahwadoo① 首里—真和志之平等

与坐 'juza① 島尻—高嶺間切, 島尻—具志頭間切

与儀 'juuzi① 島尻—真和志間切, 中頭—美里間切

世

世名城 'junaguşiku① 島尻—東風平間切

世富慶 'juqkwi① 国頭—名護間切

屋

屋久前田 'jakumeeča① 国頭—大宜味間切

屋比久 'jabiku① 島尻—佐敷間切

屋良 'jara① 中頭—北谷間切

屋我 'jaga① 国頭—羽地間切

屋我地(島の名) 'jagaci① 国頭—羽地間切

屋那覇(島の名) 'janahwa① 島尻—伊平屋島

屋宜 'jaazi① 中頭—中城間切

屋部 'jabu① 国頭—名護間切

屋富祖 'jahusu① 中頭—浦添間切

屋嘉 'jaka① 国頭—金武間切

屋嘉比 'jakabi① 国頭—大宜味間切

屋嘉部 'jakabu① 島尻—玉城間切

屋慶名 'jakina① 中頭—与那城間切

読

読谷山間切 'juntaŋza① 中頭

k

川

川上 kaakan① 国頭—羽地間切

川内(幸地とも書く) kooci① 中頭—西原間切

川田 kaata① 国頭—久志間切

川平 kabira① 国頭—伊江島, 八重山—石垣間切

川崎 kaasaci① 中頭—具志川間切

川満 kaamiçu① 宮古—下地間切

久

久手堅 kuikiŋ① 島尻—知念間切

久米村 kuninča① 那覇

久米島(島の名) kumizima① 島尻

久貝 kugee① 宮古—下地間切

久志 kusi① 国頭—久志間切

久志間切 kusi① 国頭

久茂地 那覇

久高 kudaka① 島尻—知念間切

久高(島の名) kučaka① 島尻—知念間切

久場 kuda① 中頭—中城間切

久場川 kubagaa① 首里—西之平等

小

小波津 kuhwaçi① 中頭—西原間切

小波蔵 kuhwangwa① 島尻—真壁間切

小城 kuguşiku① 島尻—東風平間切

小浜 kubama① 国頭一本部間切, 八重山一宮良間切

小浜(島の名) kubama① 八重山一宮良間切

小湾 kuwan① 中頭一浦添間切

小橋川 kuhwasica① 中頭一西原間切

小嶺 kunmi① 島尻一渡嘉敷間切

古

古宇利 kui① 国頭一今帰仁間切

古宇利(島の名) kui① 国頭一今帰仁間切

古見 kumi① 八重山一宮良間切

古我知 kugaci① 国頭一羽地間切

古知屋 kuca① 国頭一金武間切

古波蔵 kuhwangwa① 島尻一真和志間切

古謝 kuzaa① 中頭一美里間切

米

米須 kumişi① 島尻一摩文仁間切

来

来間 kurima① 宮古一下地間切

来間(島の名) kurima① 宮古一下地間切

金

金良 karara① 島尻一豊見城間切

金城 kanaguşiku① 首里一真和志之平等, 島尻一小祿間切

国

国仲 kuninaka① 宮古一下地間切

国吉 kunisi① 島尻一高嶺間切

国場 kukuba① 島尻一真和志間切

国頭方 kunzanhoo① (山原ともいう)

国頭間切 kunzan① 国頭

東

東風平 kuciŋda① 島尻一東風平間切

東風平間切 kuciŋda① 島尻

幸

幸地(古くは川内とも書いた) kooci① 中頭一西原間切

幸喜 kooci① 国頭一名護間切

垣

垣花 kacinuhana① 島尻一玉城間切

神

神山 kamijama① 中頭一宜野湾間切

神里 kanzatu① 島尻一南風原間切

神谷 kamja①(kama①ともいう) 中頭一勝連間切

狩

狩俣 karimata① 宮古一平良間切

健

健堅 kinkin① 国頭一本部間切

後

後地 kusizii① 島尻一伊平屋島をいう。

後慶良間 kusigirama① 島尻一坐間味間切をいう。

兼

兼次 kanisi① 国頭一今帰仁間切

兼城 kaniguşiku① 島尻一兼城間切, 島尻一南風原間切, 島尻一具志川間切

兼城間切 kaniguşiku① 島尻

兼箇段 kanikadan① 中頭一具志川間切

桑

桑江 kwee② 中頭一北谷間切

掛

掛保久 kakibuku② 中頭一西原間切

黒

黒島 kurusima② 八重山一石垣間切

黒島(島の名) kurusima② 八重山一石垣間切

賀

賀数 kakazi② 島尻一兼城間切

勝

勝連間切 kaqcin② 中頭

湖

湖城 kuguşiku② 島尻一小祿間切

漢

漢那 kaNnaa② 国頭一金武間切

嘉

嘉手刈 kadikaru② 島尻一具志川間切, 中頭一西原間切, 中頭一美里間切, 宮古一下地間切

嘉手納 kadinaa② 中頭一北谷間切

嘉津宇 kaçuu① 国頭一本部間切

嘉陽 kajoo② 国頭一久志間切

嘉数 kakazi② 島尻一豊見城間切, 中頭一宜野湾間切

慶

慶佐次 kisazi② 国頭一久志間切

慶良間(群島の名) kirama② 島尻

m

水

水納 miNna② 宮古一多良間島

水納(島の名) miNna② 国頭一本部間切

水納(島の名) miNna② 宮古

目

目取真 miduruma② 島尻一大里間切

本

本部 mutubu② 島尻一南風原間切

本部間切 mutubu② 国頭

町

町端 macibata② 首里一真和志之平等

見

見里 misatu② 国頭一大宜味間切

牧

牧志 macisi② 島尻一真和志間切

牧港 macinatu② 中頭一浦添間切

松

松川 maçigaa② 島尻一真和志間切, 島尻一小祿間切

松本 maçimutu② 中頭一美里間切

松原 maçibaru② 宮古一砂川間切

前

前 mee② 島尻一渡嘉敷間切

前川 meegaa② 島尻一玉城間切

前田 meeda② 中頭一浦添間切

前地 meezii② 伊是名島をいう。

前里 meezatu② 宮古一平良間切

前兼久 meeganiku⑩ 国頭一恩納間切
前慶良間 meegirama⑩ 島尻一波嘉敷
間切をいう。

真

真玉橋 madanbasi⑩ 島尻一豊見城間切

真志喜 masici⑩ 中頭一宜野湾間切

真和志 maazi⑩ 首里一真和志之平等

真和志之平等 maazinuhwi'ra⑩ 首
里

真和志間切 maazi⑩ 島尻

真栄田 meeda⑩ 国頭一恩納間切

真栄平 meedeera⑩ 島尻一真壁間切

真栄里 meezatu⑩ 島尻一高嶺間切,
入重山一大浜間切

真喜屋 maza⑩ (maaza⑩ともいう)
国頭一羽地間切

真嘉比 makabi⑩ 島尻一真和志間切

真境名 mazikina⑩ 島尻一大里間切

真壁 makabi⑩ 島尻一真壁間切

真壁間切 makabi⑩ 島尻

真謝 maza⑩ 島尻一仲里間切

宮

宮 (mjaa) はしばしば naaとも発音
される。

宮平 mjaadeera⑩ 島尻一南風原間切

宮古(群島の名, 島の名) mjaaku⑩ 宮
古

宮里 mjaazatu⑩ 中頭一美里間切, 中
頭一具志川間切, 国頭一名護間切

宮良 mjaara⑩ 入重山一宮良間切

宮良間切 mjaara⑩ 入重山

宮国 mjaagun⑩ 宮古一砂川間切

宮城 mjaaguşiku⑩ 島尻一南風原間
切, 中頭一浦添間切, 中頭一与那城間
切, 国頭一久志間切

桃

桃里 mumusatu⑩ 入重山一宮良間切

盛

盛山 murijama⑩ 入重山一宮良間切

満

満名 manna⑩ 国頭一本部間切

新

新川 miigaa⑩ 入重山一石垣間切

摩

摩文仁 mabui⑩ 島尻一摩文仁間切

摩文仁間切 mabui⑩ 島尻

諸

諸見里 murunzatu⑩ 中頭一越来間
切

n

今

今帰仁 nacizin⑩ 国頭一今帰仁間切

今帰仁間切 nacizin⑩ 国頭

中

中城 nakaguşiku⑩ 島尻一仲里間切
の古称

中城間切 nakagusiku① 中頭

中頭方 nakugamihoo①

伊

伊野波 nuhwa① 園頭一本部間切

名

名里 nazatu① 島尻一真壁間切

名蔵 nagura① 八重山一石垣間切

名嘉間 nakama① 園頭一恩納間切

名護間切 nagu① 園頭

仲

仲井間 nakeema① 島尻一真和志間切

仲田 nakada① 島尻一伊是名島

仲地 nakazi① 島尻一豊見城間切, 島
尻一具志川間切, 宮古一下地間切

仲西 nakanisi① 中頭一浦添間切

仲尾 nakoo① 園頭一羽地間切

仲尾次 nakoosi① 園頭一今帰仁間切,
園頭一羽地間切

仲坐 nakaza① 島尻一具志頭間切

仲里 nakazatu① 島尻一知念間切

仲里間切 nakazatu① 島尻(古くは中
城 nakagusiku① といった)

仲村渠 nakandakari① 島尻一玉城間
切, 島尻一具志川間切

仲泊 nakadumai① 園頭一恩納間切

仲宗根 nakazuni① 中頭一越来間切,
園頭一今帰仁間切

仲栄間 nakeema① 島尻一玉城間切

仲程 nakahuu① 島尻一大里間切

仲間 nakama① 中頭一浦添間切, 八重
山一石垣間切

仲筋 nakaşizi① 宮古一多良間切

仲嶺 nakanmi① 中頭一具志川間切

西

西 nisi① 那覇, 島尻一粟国島

西之平等 nisinuhwira① 首里

西里 nisizatu① 宮古一砂川間切

西原 nisibaru① 島尻一大里間切, 中
頭一浦添間切, 中頭一美里間切, 中頭
一与那城間切, 宮古一平良間切

西原間切 nisibaru① 中頭

西銘 nisimi① 島尻一具志川間切

那

那覇 naahwa① (港の名としては na-
hwa① という)

長

長浜 nagahama① 中頭一読谷山間切,
宮古一下地間切

長堂 nagadoo① 島尻一豊見城間切

長間 nagama① 宮古一平良間切

並

並里 nanzatu① 園頭一本部間切

荷

荷川取 nikaduri① 宮古一平良間切

根

根差部 nisasibu① 島尻一豊見城間切

根路銘 nirumi① 園頭一大宜味間切

根謝銘 nizami① 園頭一大宜味間切

宮

(mの項参照)

野

野里 nuzatu① 中頭一北谷間切
野甫 nubu① 島尻一伊平屋島
野甫(島の名) nubu① 島尻一伊平屋島
野圃 nugun① 中頭一北谷間切
野底 nuzuku① 八重山一宮良間切
野原 nubaru① 宮古一砂川間切
野嵩 nudaki① 中頭一宜野湾間切
登

登川 nubunzaa① 中頭一美里間切
饒
饒辺 nuhwi① 中頭一与那城間切
饒平名 nuhwina① ('juhwina①とも
いう。もとは njuhwina①) 国頭一
羽地間切
饒波 nuhwa① (nuuhwa①, nihwa①
ともいう) 島尻一豊見城間切, 国頭
一大宜味間切

ʔN

伊
伊芸 ʔNzi① 国頭一金武間切
伊集 ʔNzu① (ʔizu①ともいう) 中頭
一中城間切

稲
稲嶺 ʔNnanmi① 島尻一大里間切, 国
頭一羽地間切

'N

美
美里間切 'Nzatu① 中頭
港
港小(港の名) 'Nnatugwaa① 島尻一

具志頭間切
嶺
嶺井 'Nmi① 島尻一大里間切

ʔo

奥
奥武 ʔoo① 島尻一玉城間切

奥武(島の名) ʔoo① 島尻一玉城間切

和

和宇慶 'ooki① 中頭一中城間切

S, S,

下

下地間切 simuzi① 宮古
 下里 simuzatu① 宮古一砂川間切
 下志喜屋 simusica① 島尻一知念間切
 下儀保 simuziibu① 首里一西之平等

白

白保 sirahu① 八重山一宮良間切

末

末吉 šiisi① 中頭一西原間切

佐

佐手 sadi① 國頭一國頭間切
 佐和田 saata① 宮古一下地間切
 佐敷 sasici① 島尻一佐敷間切

佐敷間切 sasici① 島尻

志

志多伯 sitahwaku① 島尻一東風平間切

志堅原 sikiinbaru① 島尻一玉城間切

志喜屋 sica① 島尻一知念間切

志慶間 sikima① 國頭一今歸仁間切

首

首里 sjui①

洲

洲鎌 sugama① 宮古一下地間切

砂

砂辺 şinabi① 中頭一北谷間切

島

島尻 simaziri① 島尻一仲里間切, 島尻一伊平屋島, 宮古一平良間切

島尻方 simazirihoo①

島袋 simabuku① 島尻一大里間切, 中頭一中城間切

崎

崎山 sacijama① 首里一南風之平等, 國頭一今歸仁間切, 八重山一大浜間切

崎本部 sacimutubu① 國頭一本部間切

崎枝 saciida① 八重山一石垣間切

濟

濟井出 şimiidi① 國頭一羽地間切

添

添石 *siisi*ⓐ 中頭—中城間切

寒

寒水 *soozi*ⓐ 国頭—今帰仁間切

寒水川 *suNgaa*ⓐ 首里—真和志之平等

惣

惣慶 *suuki*ⓐ 国頭—金武間切

塩

塩川 *sjugaa*ⓐ 宮古—多良間島

塩屋 *sjuja*ⓐ 国頭—大宜味間切

新

新里 *sinzatu*ⓐ 島尻—佐敷間切, 宮古—砂川間切

数

数久田 *siqta*ⓐ 国頭—名護間切

楚

楚辺 *subi*ⓐ 中頭—読谷山間切

一

一名代 *tinnasi*ⓐ 国頭—大宜味間切

手

手登根 *tidikuN*ⓐ 島尻—佐敷間切

天

天仁屋 *tinnja*ⓐ (*tinna*ⓐともいう) 国頭—久志間切

天願 *tingwan*ⓐ 中頭—具志川間切

楚洲 *suſi*ⓐ 国頭—国頭間切

楚南 *sunan*ⓐ 中頭—美里間切

潮

潮平 *sjunza*ⓐ 島尻—兼城間切

諸

諸見 *sjumi*ⓐ 島尻—伊是名島

諸喜田 *sjukita*ⓐ 国頭—今帰仁間切

瀬

瀬名波 *ſinahwa*ⓐ 中頭—読谷山間切

瀬良垣 *sirakaci*ⓐ 国頭—恩納間切

瀬底 *sisuku*ⓐ 国頭—本部間切

瀬底(島の名) *sisuku*ⓐ 国頭—本部間切

瀬長(島の名) *sinaga*ⓐ 島尻

瀬高 *ſidaki*ⓐ 国頭—久志間切

識

識名 *sicina*ⓐ 島尻—真和志間切

友

友利 *tumui*ⓐ 宮古—砂川間切

友寄 *tumusi*ⓐ 島尻—東風平間切

田

田井等 *teera*ⓐ 国頭—羽地間切

田原 *tabaru*ⓐ 島尻—小祿間切

田揚 *taaba*ⓐ 中頭—具志川間切

田港 *tanmjatu*ⓐ (*tan natu, ta nna*ともいう) 国頭—大宜味間切

田頭 tagaNmi① 島尻一豊見城間切

平

平良 teera①① 島尻一豊見城間切, 島
尻一大里間切, 中頭一西原間切, 国頭
一久志間切

平良間切 hwirara① 宮古

立

立岸 tacizisi① 首里一真和志之平等

玉

玉代勢 tameesi① 中頭一北谷間切

玉城 tamaguşiku① 島尻一玉城間切

玉城 tamoosi① 国頭一今帰仁間切

玉城間切 tamaguşiku① 島尻

汀

汀志良次 tişirazi① 首里一西之平等

汀間 tiima① 国頭一久志間切

多

多良間(島の名) tarama① 宮古

多賀良 takara① 島尻一小祿間切

当

当山 toojama① 島尻一玉城間切

当間 tooma① 島尻一小祿間切, 島尻一
大里間切, 中頭一中城間切

当葦 toonukura① 首里一南風之平等

当銘 toomi① 島尻一東風平間切

沢

沢岬 takusi① 中頭一浦添間切

谷

谷茶 taNca① 国頭一恩納間切

泊

泊 tumai① 那覇, 中頭一中城間切

炬

炬港(港の名) teeNnatu① 国頭一今帰
仁間切

桃

桃原 toobaru① 首里一南風之平等, 島
尻一渡名喜島, 中頭一西原間切, 中頭一
美里間切

高

高安 takeesi① 島尻一豊見城間切

高江洲 takeeşi① 中頭一具志川間切

高那 takana① 八重山一宮良間切

高良 takara① 島尻一東風平間切

高志保 takasiqpu① 中頭一読谷山間切

高原 takabaru① 中頭一美里間切

高宮城 takamjaaguşiku① (takanaagu-
şiku①ともいう)島尻一大里間切

高嶺 takaNmi① 島尻一豊見城間切

高嶺間切 takaNmi① 島尻

高陸(島の名) takahanari① 中頭一与那
城間切

島

島小堀 tuNzumui① 首里一南風之平等

鳥島(島の名) tuisima① 沖繩群島の島
の名。

鳥島(島の名) tuisima① 徳之島西方に
ある島の名。

棚

棚原 tanabaru① 中頭一西原間切

渡

渡口 tuguci① 中頭一中城間切

渡久地 tuguci① 国頭一本部間切

渡名喜(島の名) tunaci① 島尻

渡具知 tuguci① 中頭一説谷山間切
渡野喜屋 tunacaa① 因頭一大宜味間切
渡嘉敷 tukasici① 島尻一豊見城間切、
島尻一波嘉敷間切
渡嘉敷(島の名) tukasici① 島尻一波
嘉敷間切
渡嘉敷間切 tukasici① (前慶良間 mee-
girama① ともいう) 島尻
渡慶次 tukisi① 中頭一説谷山間切
渡橋名 tuhwasina① 島尻一豊見城間切
登

登野城 tunuguşiku① 八重山一大浜
間切
富
富盛 tumui① 島尻一東風平間切
照
照屋 tiira① 島尻一兼城間切、島尻一
南風原間切、中頭一越來間切
豊
豊見城 timiguşiku① 島尻一豊見城間
切
豊見城間切 timiguşiku① 島尻

ʔu

小

小谷 ʔukuku① 島尻一佐敷間切
小那覇 ʔunahwa① 中頭一西原間切
小渡 ʔuudu① 島尻一摩文仁間切
小祿 ʔuruku① 島尻一小祿間切
小祿間切 ʔuruku① 島尻

大

大川 ʔuukaa① 八重山一大浜間切
大山 ʔujama① 中頭一宜野湾間切
大中 ʔuhucun① 首里一南風之平等
大田 ʔuhuta① 島尻一具志川間切、中
頭一具志川間切
大辺名地 ʔuhuhwinazi① 因頭一本部
間切
大地 ʔuhuzi① 沖縄本島(ʔucinaa①)
をいう

大里 ʔuhuzatu① 島尻一高嶺間切、中
頭一美里間切
大里間切 ʔuhuzatu① 島尻
大見武 ʔuhuncaki① 島尻一大里間切
大東島(島の名) ʔuhuʔagarizima①
琉球列島はるか東方の島の名。
大城 ʔuhuguşiku① 島尻一大里間切、
中頭一中城間切
大神 ʔugan① 宮古一平良間切
大浦 ʔuhura① 因頭一久志間切、宮
古一平良間切
大浜 ʔuhwama① 八重山一大浜間切
大浜間切 ʔuhwama① 八重山
大兼久 ʔuhuganiku① 因頭一名護間
切、因頭一大宜味間切
大湾 ʔuuwan① 中頭一説谷山間切

大鈍川 ?udungaaⓄ 首里—真和志之平等

大謝名 ?uhuzanaⓄ 中頭—宜野湾間切

大嶺 ?uhunmiⓄ 島尻—小祿間切

内

内金城 ?ucikanaguşikuⓄ 首里—真和志之平等

内間 ?ucimaⓄ① 中頭—西原間切, 中頭—浦添間切, 中頭—勝連間切

宇

宇久田 ?ukudaⓄ 中頭—越来間切

宇地泊 ?ucidumaiⓄ 中頭—宜野湾間切

宇坐 ?uzaⓄ 中頭—読谷山間切

宇良 ?uraⓄ 国頭—国頭間切

宇茂佐 ?unsa① 国頭—名護間切

宇根 ?uniⓄ 島尻—仲里間切

宇堅 ?ucinⓄ 中頭—具志川間切

宇嘉 ?ukaⓄ 国頭—国頭間切

沖

沖繩(島の名) ?ucinaaⓄ 大地(?uhuziⓄ), 地下(ziziⓄ) などともいう。それに対し, 沖繩群島の他の島々を, 離(hanariⓄ) という。

砂

砂川 ?urukaaⓄ 宮古—砂川間切

砂川間切 ?urukaaⓄ 宮古

浦

浦崎 ?urasaciⓄ 国頭—本部間切

浦添間切 ?uraşiiⓄ 中頭

恩

恩納 ?unnaⓄ 国頭—恩納間切

恩納間切 ?unnaⓄ 国頭

運

運天 ?untinⓄ 国頭—今帰仁間切

奥

奥 ?ukuⓄ 国頭—国頭間切

奥間 ?ukumaⓄ 中頭—中城間切, 国頭—国頭間切

'u

大

大宜味 'uzimiⓄ 国頭—大宜味間切

大宜味間切 'uzimiⓄ 国頭

翁

翁長 'unagaⓄ 島尻—豊見城間切, 中

頭—西原間切

荻

荻堂 'unzooⓄ 中頭—中城間切

ʔw

上
 上与那原 ʔwiijunabaru① 島尻一大里
 間切
 上地 ʔwiici①① 中頭一説谷山間切, 中
 頭一越來間切, 宮古一下地間切
 上江洲 ʔwiizi① 島尻一具志川間切,
 中頭一具志川間切
 上里 ʔwiizatu① 島尻一喜屋部間切
 上原 ʔwiibaru① 中頭一与那城間切,
 八重山一大浜間切
 上間 ʔwiima① 島尻一真和志間切

上運天 ʔwiiʔuntin① 国頭一今帰仁間
 切
 上儀保 ʔwiiziibu① 首里一西之平等
 宇
 宇江城 ʔwiiguşiku① 島尻一眞壁間切,
 島尻一仲里間切
 宇栄田 ʔwiida① 島尻一豊見城間切
 宇栄原 ʔwiibaru① 島尻一小祿間切
 親
 親川 ʔweegaa① 国頭一羽地間切
 親田 ʔweeda① 国頭一大宜味間切
 親泊 ʔweeiumai① 国頭一今帰仁間切

'w

和
 和仁屋 'wanja① ('wana①ともいう)
 中頭一中城間切
 若
 若狭町 'wakasamaci① 那覇

湧
 湧川 'wakugaa① 国頭一今帰仁間切
 湧稲国 'wacinagui① 島尻一大里間切

z, ʒ

地
 地下 zizi① 沖縄本島(ʔucinaa①)を
 いう。

宜
 宜寿次 ziqsi① 島尻一東風平間切
 宜保 ziibu① 島尻一豊見城間切

宜野坐 zinuza① 国頭一金武間切

宜野湾 zinoon① 中頭一宜野湾間切

宜野湾間切 zinoon① 中頭

坐(座)

坐安 zaa① 島尻一豊見城間切

坐波 zaahwa① 島尻一兼城間切

坐喜味 zacimi① 中頭一読谷山間切

坐間味 zamami① 島尻一坐間味間切

坐間味(鳥の名) zamami① 島尻一坐
間見間切

坐間味間切 zamami① (後慶良間 ku-
sigirama① ともいう) 島尻

源

源河 zinka① 国頭一羽地間切

瑞

瑞慶覧 zikiran① 中頭一中城間切

勢

勢理客 ziqcaku① 島尻一伊是名島, 中
頭一浦添間切, 国頭一今帰仁間切

儀

儀保 ziibu① 首里一西之平等

儀間 ziima① 島尻一小祿間切, 島尻一
仲里間切, 中頭一読谷山間切

謝

謝名 zana① 国頭一今帰仁間切

謝名堂 zanao① 島尻一仲里間切

謝花 zahwana① 国頭一本部間切

謝敷 zazici① 国頭一困頭間切

b 行政区域別一覽

(1) 首里

(首里三平等)

真和志之平等

真和志, 町端, 山川, 大鈍川, 与那覇堂, 立岸, 寒水川, 金城, 内金城

明治12年に与那覇堂村は山川村に, 立岸村は寒水川村に, 内金城村は金城村にそれぞれ合併された。

南風之平等

桃原, 大中, 当葦, 鳥小堀, 赤田, 崎山

西之平等

上儀保, 下儀保, 赤平, 汀志良次, 久場川

明治12年に上儀保村と下儀保村は合併されて儀保村となった。

(2) 那覇

(那覇四町)

西, 東, 泉崎, 若狭町

久米村(古名, 朱明府)

久米村の久茂地は一村落をなしていたので明治12年独立に役場が置かれた。

泊村

久米村と泊村とはもと那覇から独立していたが, 明治13年合併された。また, 鳥島はもと泊村の管轄であったが, 明治12年泊村の所属を離れ独立となった。

(3) 島尻方

真和志間切

識名, 古波葦, 与儀, 国場, 真嘉比, 天久, 安里, 上間, 松川, 牧志, 仲井間, 安謝

牧志村中の壺屋は所属がなかったもので, 明治13年那覇の泉崎村に編入された。

豊見城間切

豊見城, 宜保, 宇米田, 渡嘉敷, 保栄茂, 翁長, 坐安, 伊良波, 我那覇, 仲地, 平良, 高嶺, 饒波, 高安, 金良, 長堂, 嘉敷, 真玉橋, 根差部, 渡橋名, 田頭

小祿間切

小祿, 田原, 堀川, 当間, 安次嶺, 赤嶺, 宇米原, 琴宮城, 具志, 多賀良, 松川, 金城, 大嶺, 儀間, 湖城

兼城間切

兼城，潮平，糸満，照屋，坐波，賀敷，
阿波根，波平，武富

南風原間切

宮平，兼城，与那覇，宮城，津嘉山，
山川，神里，喜屋武，本部，照屋

大里間切

西原，南風原，嶺井，与那原，上与那
原，古堅，高宮城，湧稻国，稻福，真
境名，目取真，平川，当間，大見武，
大城，稻嶺，仲程，島袋，板良敷，平
良

高嶺間切

与坐，大里，国吉，真栄里

東風平間切

東風平，富盛，世名城，宜寿次，外間，
友寄，高良，志多伯，当銘，小城，伊
覇

具志頭間切

具志頭，新城，玻名城，安里，仲坐，
与坐

玉城間切

玉城，垣花，仲村渠，百名，仲栄間，
奥武，志堅原，当山，富里，屋嘉部，
糸敷，富名腰(舟越)，前川

真壁間切

真壁，宇江城，真栄平，新垣，伊敷，
名里，小波蔵，安里，糸洲

摩文仁間切

摩文仁，小渡，米須，石原，伊礼，波平

喜屋部間切

喜屋部，福地，山城，上里，末辺名

知念間切

知念，久手堅，安坐間，知名，山口，
仲里，鉢嶺，志喜屋，下志喜屋，久高，
外間

佐敷間切

佐敷，平田，手登根，屋比久，外間，
津波古，小谷，新里，与那覇
(慶良間二間切)

渡嘉敷間切(前慶良間ともいう)

渡嘉敷，前，小嶺，阿波連

坐間味間切(後慶良間ともいう)

坐間味，阿嘉，慶留間，阿真，阿佐
(久米二間切)

具志川間切

具志川，仲村渠，仲地，山里，上江洲，
西銘，大田，兼城，嘉手苅

仲里間切(古くは中城といった)

宇江城，比屋定，阿嘉，真謝，宇根，
謝名堂，比嘉，島尻，山城，儀間
(以下四島は島尻方に属する)

伊是名島

伊是名，諸見，勢理客，仲田

伊平屋島

我喜屋，田名，島尻，野甫

粟国島

西，東，浜

渡名喜島

桃原

(4) 中頭方

西原間切

末吉, 平良, 石嶺, 幸地(古くは川内),
棚原, 翁長, 呉屋, 津花波, 小橋川,
内間, 掛保久, 嘉手苺, 小那覇, 与那
城, 我謝, 安室, 桃原, 小波津

浦添間切

仲間, 安波茶, 伊祖, 牧港, 城間, 屋
富祖, 宮城, 仲西, 小湾, 勢理客, 内
間, 沢岬, 前田, 西原

宜野湾間切

宜野湾, 神山, 新城, 野嵩, 普天間,
安仁屋, 喜友名, 伊佐, 大山, 真志喜,
大謝名, 宇地泊, 嘉敷, 我如古

中城間切

伊集, 和字慶, 津覇, 奥間, 安里, 当
間, 新垣, 屋宜, 添石, 伊舍堂, 泊,
久場, 熱田, 和仁屋, 渡口, 島袋, 比
嘉, 仲順, 喜舍場, 瑞慶覧, 安谷屋,
菽堂, 大城

北谷間切

北谷, 玉代勢, 伝道, 桑江, 伊礼, 平
安山, 浜川, 砂辺, 野里, 野国, 屋良,
嘉手納

読谷山間切

坐喜味, 上地, 波平, 高志保, 波慶次,
儀間, 宇坐, 瀬名波, 長浜, 喜名, 伊
良皆, 比謝, 大湾, 古堅, 渡具知, 楚辺

越来間切

越来, 照屋, 安慶田, 仲宗根, 胡屋,
上地, 諸見里, 山内, 宇久田, 大工廻
(迫<さこ>を誤って廻と書く習慣と
なっていた)

美里間切

西原, 宮里, 古謝, 桃原, 大里, 高原,
比屋根, 与儀, 松本, 知花, 登川, 池
原, 東恩納, 石川, 伊波, 嘉手苺, 山
城, 楚南

勝連間切

南風原, 内間, 平安名, 平敷屋, 浜,
比嘉, 津堅, 神谷

与那城間切

与那城, 西原, 安勢理, 饒辺, 屋慶名,
平安坐, 上原, 宮城, 伊計

具志川間切

具志川, 田場, 宇堅, 天願, 安慶名,
川崎, 栄野比, 兼箇段, 江洲, 宮里,
高江洲, 仲嶺, 喜屋武, 上江洲, 大田

(5) 国頭方(山原)

恩納間切

恩納, 谷茶, 富着, 前兼久, 仲泊, 山
田, 真栄田, 瀬良垣, 安富祖, 名嘉間

名護間切

安和, 山入端, 屋部, 宇茂佐, 宮里,
大兼久, 城, 東江, 世富慶, 敷久田,
許田, 幸喜, 喜瀬

金 武 岡 切

金武，屋嘉，伊芸，漢那，惣慶，宜野坐，古知屋

久 志 岡 切

久志，辺野古，大浦，瀬高，汀岡，安部，嘉陽，天仁屋，有銘，慶佐次，平良，川田，宮城

本 部 岡 切

瀬底，石嘉波，崎本部，健堅，辺名地，大辺名地，渡久地，伊野波，並里，満名，伊豆味，浜元，浦崎，謝花，嘉津宇，具志堅，備瀬，小浜

今 歸 仁 岡 切

今歸仁，親泊，兼次，志慶岡，諸喜田，与那嶺，仲尾次，崎山，平敷，謝名，仲宗根，岸本，玉城，寒水，湧川，天底，勢理客，上運天，運天，古宇利

羽 地 岡 切

源河，稻嶺，真喜屋，仲尾次，川上，田井等，親川，仲尾，振慶名，伊差川，我部祖河，古我知，呉我，我部，饒平名，濟井出，屋我

大 宜 味 岡 切

大宜味，津波，渡野喜屋，田港，屋久前田，塩屋，根路銘，大兼久，饒波，喜如何，一名代，根謝銘，城，見里，親田，屋嘉比

国 頭 岡 切

浜，比地，奥岡，辺土名，宇良，伊地，与那，謝敷，佐手，辺野喜，宇嘉，辺

戸，奥，楚洲，安田，安波

(伊江島は国頭方に属した)

伊 江 島

東江上，東江前，西江上，西江前，川平

(6) 宮古

平 良 岡 切

東仲宗根，西原，大浦，島尻，狩俣，大神，池間，前里，西仲宗根，荷川取，比嘉，長岡

砂 川 岡 切

下里，西里，松原，宮国，新里，砂川，友利，福里，保良，新城，野原

下 地 岡 切

嘉手苺，佐和田，長浜，国仲，仲地，伊良部，久貝，川満，洲鎌，上地，与那覇，来岡

(多良間島は宮古に属する)

多 良 岡 島

塩川，仲筋，水納

(7) 八重山

大 浜 岡 切

大川，登野城，真栄里，平得，大浜，上原，西表，崎山，波照岡

石 垣 岡 切

石垣，新川，名蔵，崎枝，川平，桴海，

竹富, 黒島, 新城, 南風見, 仲間
宮 良 岡 切
宮良, 白保, 盛山, 桃里, 伊原岡, 平

久保, 野底, 小浜, 古見, 高那, 鳩岡
(与那国島は八重山に属する)
与 那 国 島

2 琉球列島主要島名一覧

(1) 道の島 (micinusima① 十島と奄美)

硫黄島 'juogasima①

七島 sicitoo①

宝島 takarazima①

奄美大島本島 ŷuusima①

加計呂麻島 kakiruma①

徳之島 tukunusima①

沖永良部島 ŷirabu①

与論島 'juNnu①

(2) 沖 繩 群 島

沖繩本島 ŷucinaa①, 大地(ŷuhuzi①),
地下(zizi①) などともいう。
それに対し, その他の島々を
離(hanari①) という。

伊平屋島 ŷihja①

伊是名島 ŷizina① 前地 (meezii①)
ともいう。

伊平屋島 ŷihja① 後地 (kusizii①)
ともいう。

屋那覇島 'janahwa①

具志川島 gusicaa①

野甫島 nubu①

伊江島 ŷiizima①

水納島 miNna①

瀬底島 sisuku①

古宇利島 kui①

屋我地島 'jagaci①

粟国島 ŷaguni①

波名喜島 tunaci①

鳥島 tuisima①

久米島 kumizima①

慶良間列島 kirama①

坐間味島 ŷamami①

阿嘉島 ŷaka①

慶留間島 giruma①

渡嘉敷島 tukasici①

慶伊瀬島 cii①

瀬長島 sinaga①

奥武島 ?oo①

久高島 kudaka①

津堅島 ?ikin①

浜比嘉島 hamahwiza①

平安坐島 hjanza①

高離島 takahanari①

伊計島 ?ici①

(3) 先 島 (sacisima①)

宮古群島 mjaaku①

宮古島 mjaaku①

池間島 ?icima①

来間島 kurima①

伊良部島 ?irabu①

多良間島 tarama①

水納島 minna①

八重山群島 'eema①

石垣島 ?isigaci①

西表島 ?iri?umuti①

竹富島 dakiduN①

小浜島 kubama①

鳩間島 hatuma①

黒島 kurusima①

新城島 ?aragusiku①

波照間島 hatiruma①

与那国島 'junaguni①

(4) そ の 他

鳥島(徳之島西方) tuisima①

大東島 ?uhu?agarizima①

3 日本本土および外国の地名

(1) 日本本土 (?uhujamatu①, 'jamatu①)

江戸 'idu① (東京 toocoo①)

京都 cootu①

薩摩 'jamatu①

鹿児島 kagusima①

桜島 sakurazima①

指宿 ?ibusuci①

山川 'jamagoo①
国分 kukubu①
谷山 taNjama①

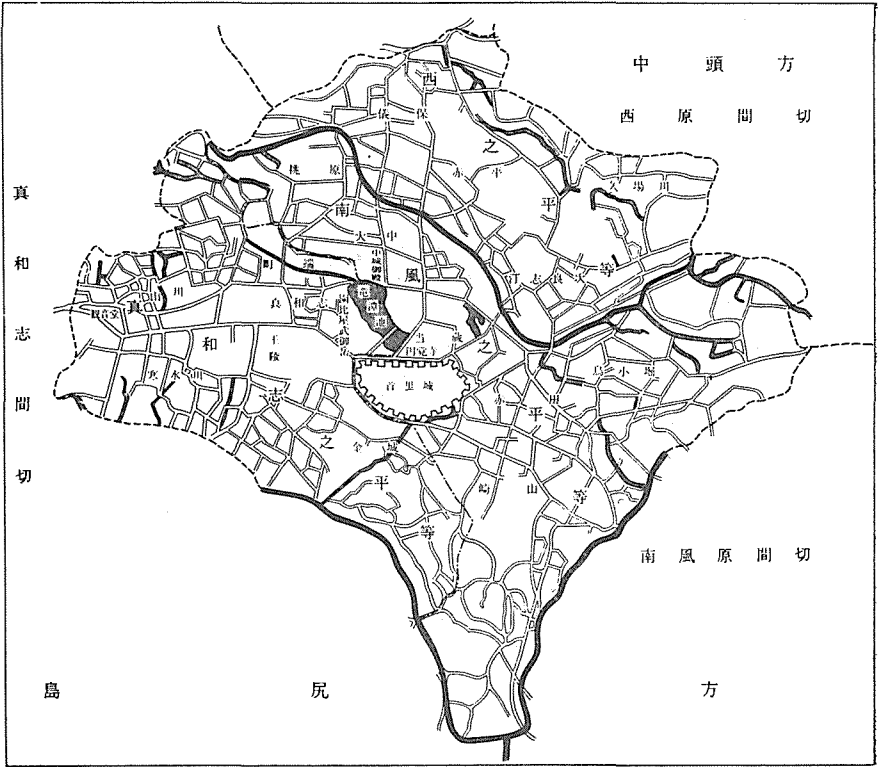
開聞岳 ?ukaimuN①
佐多岬 satanumisaci①

(2) 外 国

朝鮮 kooree①
中国 too①
北京 hwikin① (hwicin① ともし
う)
広東 kwantun①
福建 hucan①

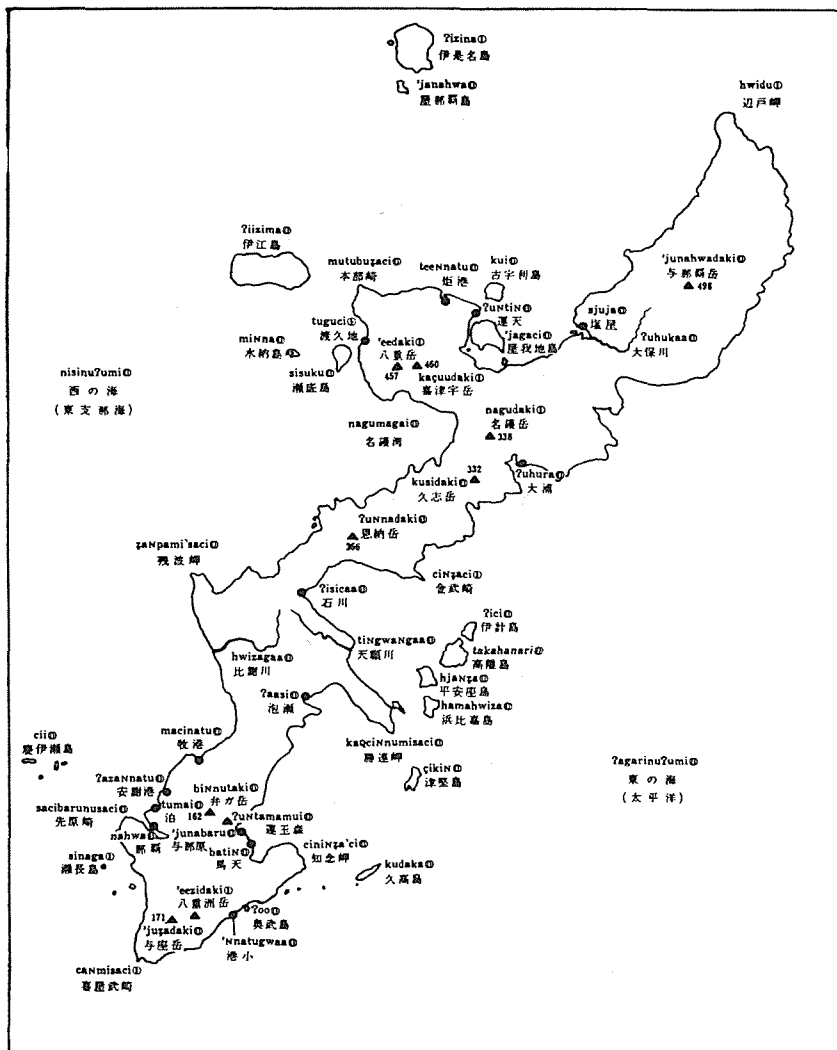
台湾 taiwan①
ルソン島 rusun①
西洋 ?uranda①
フランス huransi①
イギリス ?inzirii①
米因 ?amirika①

a 旧 首 里

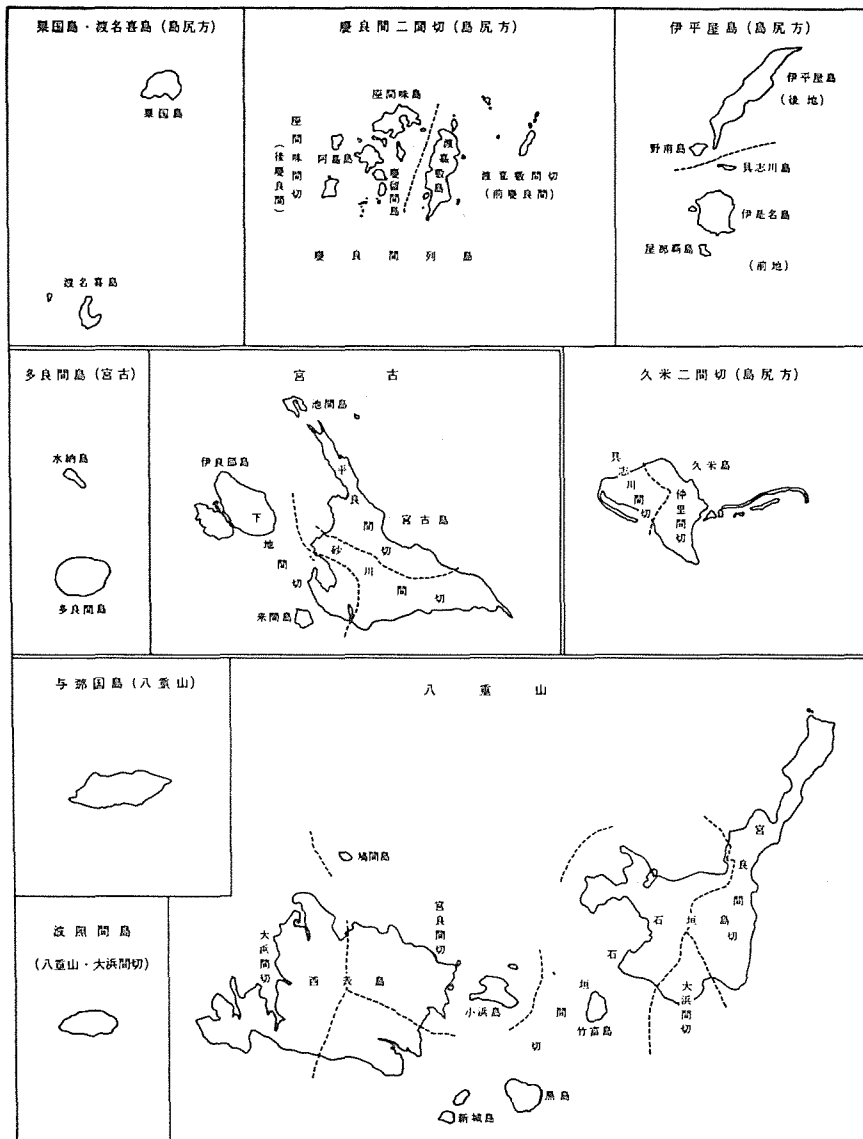


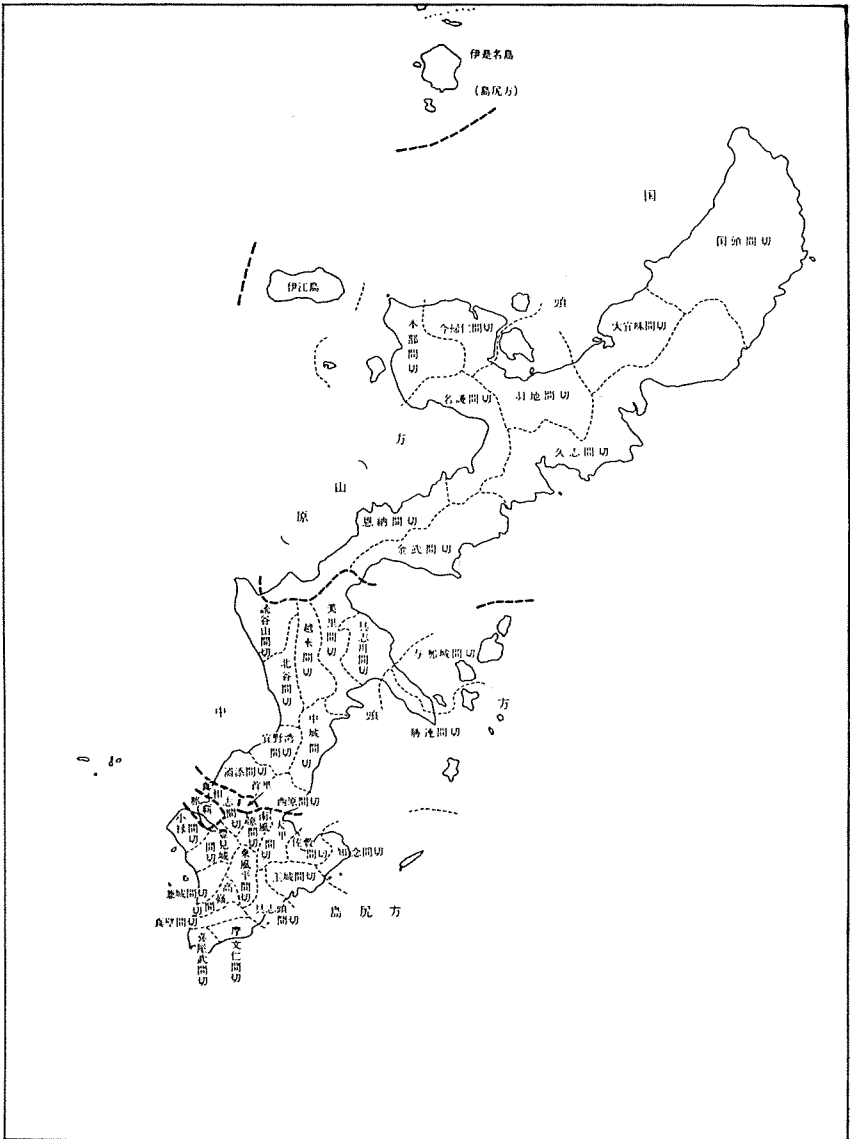
b 沖縄本島とその周辺の山岳・河川・港湾・岬など

(地名の上段は首里方言)

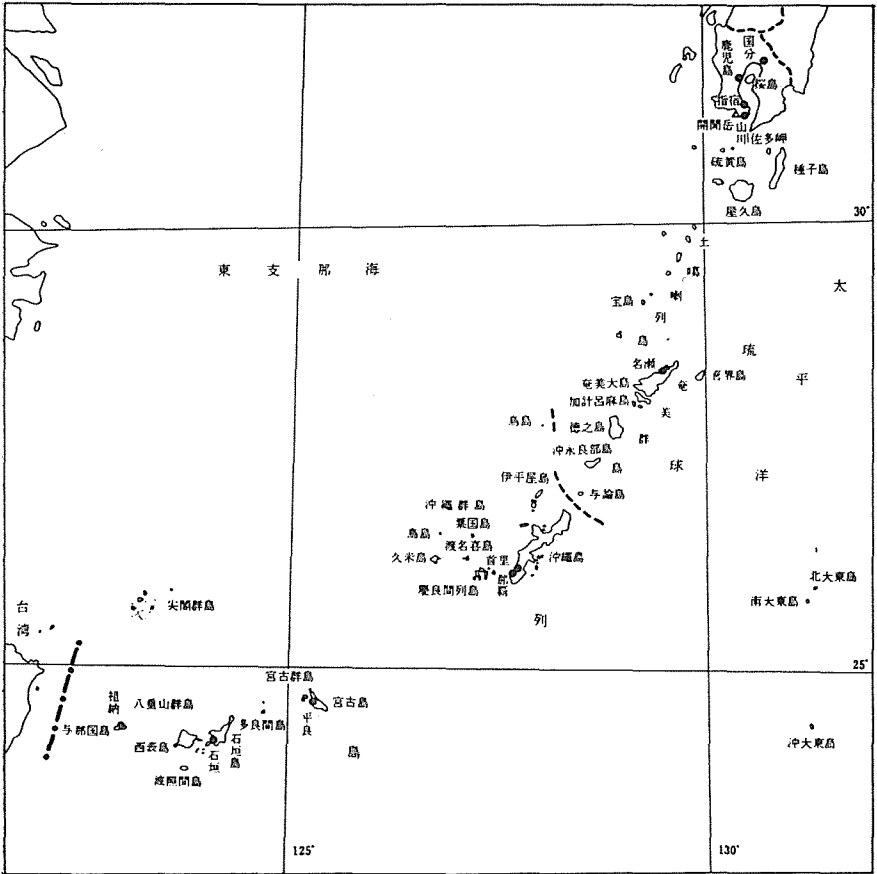


c 沖縄の旧行政区画





d 琉球列島



国立国語研究所資料集 5

沖 縄 語 辞 典

平成13年 3月30日 9刷発行 定価：本体5,200円(税別)

編 集

国立国語研究所
〒115-8620
東京都北区西が丘 3 - 9 - 14
電話 (03) 3900 - 3111

発 行

財務省印刷局
〒105-8445
東京都港区虎ノ門 2 - 2 - 4
電話 (03) 3587 - 4283~9

落丁、乱丁本はお取り替えます。

ISBN4-17-149000-6

本書は再生紙を使用しています。

政府刊行物販売所一覽

政府刊行物のお求めは、下記の政府刊行物サービス・センターまたは、政府刊行物サービス・ステーション《官報販売所》をご利用ください。

◎政府刊行物サービス・センター（大蔵省印刷局直管）

	〈電話番号〉	〈FAX番号〉		〈電話番号〉	〈FAX番号〉
札幌	(011) 709-2401・2402	709-2403	名古屋	(052) 951-9205・9341	951-9207
仙台	(022) 261-8320・8321	261-8321	大阪	(06) 942-1681・1682	942-1683
釧路	(03) 3504-3885	3504-3889	広島	(082) 222-6012・6013	222-6013
大宮	(03) 3211-7786	3211-7788	福岡	(092) 411-6201・6204	411-6509
金沢	(076) 223-7303・7304	223-7304	沖縄	(098) 866-7506・7508	866-7507

◎政府刊行物サービス・ステーション《官報販売所》（大蔵省印刷局指定）

	〈名 称〉	〈電話番号〉		〈名 称〉	〈電話番号〉
札幌	北海道官報販売所 (北海道官書)	(011) 231-0975	名古屋	愛知県第1官報販売所	(052) 264-9155
青森	青森県官報販売所 (今泉書店)	(0177) 76-3611	名古屋駅前	愛知県第2官報販売所	(052) 561-3578
盛岡	岩手県官報販売所	(0196) 22-2984	豊橋	(豊川堂内)	(0532) 54-6688
内丸	宮城県官報販売所	(0196) 53-4163	津	三重県官報販売所	(059) 228-4812
仙台	秋田県官報販売所 (石川書店)	(022) 222-6486	津駅前	滋賀県官報販売所 (澤五車堂書店)	(059) 227-7526
秋田	山形県官報販売所 (八文字屋)	(0188) 62-2129	大津	京都府官報販売所 (京都官書)	(0775) 24-2683
山形	福島県官報販売所 (福島西沢書店)	(0236) 22-2150	京都	大阪府官報販売所 (かんぼう)	(075) 221-4444
福島	茨城県官報販売所 (川又書店)	(0245) 22-0161~3	大阪	兵庫県官報販売所	(06) 443-2171
水戸	栃木県官報販売所 (うちやま集英堂)	(029) 231-0102	神奈川	奈良県官報販売所 (啓林堂書店)	(078) 341-0637
宇都宮	群馬県官報販売所 (煥乎堂)	(028) 633-4094 -3533	和歌山	和歌山県官報販売所 (宮井平安堂)	(0742) 33-8001
前橋	埼玉県官報販売所 (岩淵書店)	(027) 235-8111	鳥取	鳥取県官報販売所 (富士書店)	(0734) 31-1331
浦和	(岩淵書店)	(048) 822-7633	米子	(本の学校今井ブックセンター)	(0857) 23-7271
浦和駅前	千葉県官報販売所	(048) 829-2345	松江	島根県官報販売所 (松江今井書店)	(0859) 31-5000
千葉	神奈川県官報販売所 (横浜日経社)	(043) 222-7635	岡山	(山田書房)	(0852) 24-2230
横浜	東京都官報販売所 (東京官書)	(045) 681-2661~3	山田	岡山県官報販売所	(086) 223-7048
東京	(大盛堂書店内)	(03) 3292-2671	幸町	岡山県官報販売所	(086) 222-2646
谷	(芳林堂書店内)	(03) 3463-7555	瓜島	広島県官報販売所	(082) 297-1300
池袋	(オリエント書房立川ルミネ店)	(03) 3984-1101	山口	山口県官報販売所 (文栄堂)	(0839) 22-5611
立川	新潟県官報販売所 (北越書館)	(0425) 27-2311	徳島	徳島県官報販売所 (小山助学館)	(0886) 54-2135
新潟	富山県官報販売所 (Books なかだ本店)	(025) 244-5297	高松	香川県官報販売所	(087) 851-6055・6
富山	石川県官報販売所 (うつのみや)	(0764) 92-1192	高松	愛媛県官報販売所	(089) 941-7879
金沢	福井県官報販売所 (勝木書店)	(076) 234-8111	高知	高知県官報販売所	(0888) 72-5866
福井	山梨県官報販売所 (柳正堂書店)	(0776) 24-0428	福岡	福岡県官報販売所	(092) 721-4846
甲府	(柳正堂書店)	(0552) 35-2201	福岡県庁内		(092) 641-7838
中央	(柳正堂セントラル)	(0552) 35-2202	福岡市役所内		(092) 722-4861
長野	長野県官報販売所 (長野西沢書店)	(026) 233-3187	北九州	(北九州市役所内)	(093) 582-4124
岐阜	岐阜県官報販売所 (郁文堂書店)	(058) 262-9897	佐賀	佐賀県官報販売所	(0952) 23-3722
静岡	静岡県官報販売所	(054) 253-2661	長崎	長崎県官報販売所	(095) 822-1413
			熊本	熊本県官報販売所 (長崎次郎書店)	(096) 352-5069
			大分	大分県官報販売所	(0975) 32-4308
			宮崎	宮崎県官報販売所 (田中書店)	(0985) 24-0386
			清武	(見聞読タナカ)	(0985) 85-8400
			鹿島	鹿児島県官報販売所	(099) 285-0015
			那覇	沖縄県官報販売所 (文教図書)	(098) 863-5288